吉川弘文館
出版図書目録

2024–2025

目　次

吉川弘文館の沿革…… 表紙 2
東海の中世史…… 2
日本近世史を見通す…… 3
家からみる江戸大名…… 4
対決の東国史…… 5
京都の中世史…… 5
わくわく！探検　れきはく日本の歴史 … 7
現代語訳　小右記…… 8
現代語訳　吾妻鏡……12
日本の時代史……13
戦争の日本史……16
敗者の日本史……19
歴史文化ライブラリー……24
人物叢書……84
日本歴史叢書…… 103
通史・概説・教養…… 105
　日本古代の歴史…… 110
　東北の古代史…… 111
　日本中世の歴史…… 117
　東北の中世史…… 118
　動乱の東国史…… 118
　日本近世の歴史…… 126
　日本近代の歴史…… 130
読みなおす日本史…… 142
歴史文化セレクション…… 155
国史大辞典…… 158
辞典・事典…… 159
年　表…… 168
新訂増補国史大系〔普及版〕…… 169
索　引…… 169
オンデマンド版…… 170
　新訂増補国史大系〔ワイド版〕177
　国書刊行会本…… 218
　日本随筆大成…… 224
古　代…… 229
中　世…… 240
近　世…… 248
近現代…… 256
宗教・仏教史 …… 267
　日本宗教史…… 267
明治天皇紀…… 270
史料・史料集 …… 270
古典複製…… 275
古文書学…… 276
考古学…… 278
民俗学…… 284
　日本の民俗…… 284
美術史…… 290
世界史…… 295
国語・国文学史 …… 296
年表・地図…… 297
雑誌・歴史手帳…… 298
書名索引…… 300
著編者名索引…… 348
特別協力常備書店…… 358
ご注文について…… 表紙 3

この出版図書目録のご利用にあたり

●この目録には2024年（令和6年）11月現在、小社発行の全出版図書を収載しました。
●書目は一カ所掲載を原則とします。検索は巻末の書名索引・著編者名索引をご利用ください。
●表示の「価格」は、すべて消費税10％込の定価です。（ ）内は本体価格です。
●価格欄に〔＊〕印のある書目は目下品切中です。但し、返品などの事情により、若干在庫がある場合がございます。詳しくは小社営業部までお問合せください。また、この目録には残部僅少品も掲載しております。品切れの節はご容赦ください。重版に際して価格の改定を行うことがありますので予めご承知おきください。
●解説文下に表示した数字は、ＩＳＢＮ（国際標準図書番号）の書籍コード（978＝接頭コード－4＝国別コード－642＝出版社コード－商品コード）、および初版発行年（西暦）月を表わします。
　2024年１月発行の場合は（24.1）で表示しました。
●ご注文に当っての詳細は、裏表紙（表紙3）をご覧ください。
●これからの新刊・重版につきましては、小社のホームページ（http://www.yoshikawa-k.co.jp/）または、月刊雑誌『日本歴史』・PR誌『本郷』の広告をご覧ください。

列島の東西をつないだ〈東海〉の あたらしい中世史像を描くシリーズ！

東海の中世史 全5巻

〈企画編集委員〉山田邦明・水野智之・谷口雄太

伊勢湾や太平洋をのぞみ、畿内と東国の中継地点であった東海。その地域的な個性に注目しつつ、信長・秀吉・家康らを輩出するにいたる歴史的な特色を持つ中世を鮮やかに描く。進展著しい研究成果をふまえ、最適な執筆陣がわかりやすく叙述。武家や公家、寺社、宗教、荘園、交通など、多様な角度から、これまでにない新たな東海の中世史像に迫る。

全巻セット＝ 14,850円（13,500）

生駒孝臣編

①中世東海の黎明と鎌倉幕府

四六判　246頁　原色口絵4　**2,970円**（2,700）

白河院政が始動すると、河内源氏ら京武者が進出し、東西の往還路として東海の地位が上昇。内乱を経て鎌倉幕府により東海の秩序が再編されるまでを、御家人の動向、発展する陸海運・寺社・荘園制の実態と併せて描く。

978-4-642-06891-8　(24.7)

谷口雄太編

②足利一門と動乱の東海

四六判　236頁　原色口絵4　**2,970円**（2,700）

蒙古襲来、鎌倉幕府滅亡、南北朝内乱と、動乱の渦に東海も巻き込まれていく。三河を地盤に覇権を握った足利氏のほか、北畠・土岐・今川氏とその支配地域の動向を詳述。東海一帯に影響力を及ぼした寺社勢力にも説き及ぶ。

978-4-642-06892-5　(24.8)

杉山一弥編

③室町幕府と東海の守護

四六判　240頁　原色口絵4　**2,970円**（2,700）

足利将軍は、京都と鎌倉を結ぶ政治経済の動脈として東海諸国を重視した。東海各国の守護・奉公衆・国人の具体的な動向に加え、荘園や山岳信仰、窯業、自然災害など、室町期東海の地域的な特徴を詳しく取り上げる。

978-4-642-06893-2　(24.9)

水野智之編

④戦国争乱と東海の大名

四六判　264頁　原色口絵4　**2,970円**（2,700）

京・関東の争乱が東海に及ぶと、幕府重臣の吉良・斯波・土岐氏の影響力は低下。今川・織田・斎藤氏の覇権争いが続き、松平・水野氏ら地域権力も頭角をあらわす。宗教や武家文芸にも着目して描く〈天下人〉誕生の前史。

978-4-642-06894-9　(24.10)

山田邦明編

⑤信長・家康と激動の東海

四六判　272頁　原色口絵4　**2,970円**（2,700）

群雄割拠の中、「三英傑」信長・秀吉・家康が台頭する戦国末期。都市と村落・交通・宗教に触れながら、桶狭間、長篠、小牧・長久手、関ヶ原などの決戦の舞台となり、列島社会の統合を促した東海「激動の40年」を描く。

978-4-642-06895-6　(24.11)

豊かで多様な〈近世〉のすがた。

最新の研究成果から、その全体像をわかりやすく描く！

日本近世史を見通す 全7巻

近世とはいかなる時代だったのか。多様で豊かな研究成果を、第一線で活躍する研究者が結集してその到達点を平易に描く。通史編・テーマ編に加え、各巻の編者による討論巻からなる充実の編成で、新たな近世史像へ誘う。

牧原成征・村　和明編

①列島の平和と統合 ―近世前期―

A５判　222頁　**3,080円**(2,800)

戦国乱世から太平の世へ、いかにして平和が実現され、列島が統合されたのか。国際交易とキリスト教政策、幕府と藩、武家と朝廷の関係、北方や琉球などを視野に収め、徳川4代家綱期までをグローバルな視点で描き出す。

978-4-642-06884-0　(23.9)

村　和明・吉村雅美編

②伝統と改革の時代 ―近世中期―

A５判　208頁　**3,080円**(2,800)

長く平和が保たれた時代に、列島はどのように変化したのか。将軍と側近による幕政の主導、通貨・物価問題、藩政改革、貿易体制・対外認識の変貌などに着目し、5代綱吉から田沼意次の時代までの政治と社会に迫る。

978-4-642-06885-7　(24.1)

荒木裕行・小野　将編

③体制危機の到来 ―近世後期―

A５判　206頁　**3,080円**(2,800)

200年以上安定していた幕府・社会はなぜ解体したのか。朝廷と幕府、幕藩関係、蝦夷地から九州までの在地社会、民衆運動、世界情勢との連動など、国内外の諸問題への対応を模索するも限界を迎えるまでを通観する。

978-4-642-06886-4　(24.1)

岩淵令治・志村　洋編

④地域からみる近世社会

A５判　216頁　**3,080円**(2,800)

近世の村と町は、いかに形成され、変化したのか。都市の開発、労働力の奪い合い、在方町の行財政、多様な生業に支えられた人びとの生活、江戸の町を舞台とした諸身分の交錯など、地域社会と権力のあり方を解き明かす。

978-4-642-06887-1　(23.12)

多和田雅保・牧原成征編

⑤身分社会の生き方

A５判　216頁　**3,080円**(2,800)

現代とは異なる身分社会で人びとはどう生きたのか。領主と百姓の相克、武士と町人の交流、モノやカネの動き。芸を身につけ、債務に苦しみながら、様々な集団やつながりに依拠して懸命に生きた人びとの姿を描き出す。

978-4-642-06888-8　(23.10)

上野大輔・小林准士編

⑥宗教・思想・文化

A５判　200頁　**3,080円**(2,800)

江戸時代の多彩な文化は、人びとの生活や思想にいかに反映されたのか。寺社・学問・医療・旅・文芸・出版物などをめぐる新たな潮流を生み出し、受けいれた社会に光をあて、身分と地域を超えた人びとの営みを描く。

978-4-642-06889-5　(23.10)

小野　将編

⑦近世史から考える

A５判〈**続　刊**〉

978-4-642-06890-1

大名家はいかに時代の苦難を乗り越えて存続したのか！
「家」をキーワードに地域からの視点で近世日本を描く画期的シリーズ！

家からみる江戸大名 全7冊

〈企画編集委員〉野口朋隆・兼平賢治

太平の世、藩主となった大名は、いかに「家」を築き存続させ、領地を支配したのか。代表的な大名家を取り上げ、歴代藩主の個性と地域独自の文化・産業にも着目。「大名家」から豊かな江戸時代を描き出す新シリーズ。

野口朋隆著

徳川将軍家 ―総論編―

A5判　224頁　**2,420円**(2,200)

家康以来、15代260年にわたり将軍を継いだ徳川家。3代家光・4代家綱期を中心に、家内の政治組織、奥と表、人生儀礼、女性などに着目して、家督相続、家臣団統制、祖先崇拝など「家」的支配の実像を明らかにする。

978-4-642-06877-2　(23.4)

兼平賢治著

南部家 ―盛岡藩―

A5判　216頁　**2,420円**(2,200)

盛岡藩主・南部家は、江戸への傾倒から「国風」の重視、その後、他者の視線への意識から、江戸文化の受容へと価値観を転換していった。社会の変化の中で「家」のあり方を模索し続けた、大名家の江戸時代を描き出す。

978-4-642-06878-9　(23.5)

J・F・モリス著

伊達家 ―仙台藩―

A5判　208頁　**2,420円**(2,200)

御家騒動や飢饉など、度重なる困難に見舞われた仙台伊達家。一方、数々の試練は平和で近代的な社会システムの芽を育んだ。家臣や領民の「不服」の声を聴く統治、家を支えた脇役にも光を当て、仙台伊達家の近世を描く。

978-4-642-06879-6　(23.11)

宮下和幸著

前田家 ―加賀藩―

A5判　214頁　**2,420円**(2,200)

利家を祖に「百万石」を領有した前田家。本分家の創出や、婚姻・殿席・官位などによる「徳川大名化」で「御家」が確立する過程を辿り、相続問題、御家騒動を経て、混迷する幕末維新期での藩是決断のプロセスを描く。

978-4-642-06880-2　(23.8)

野田浩子著

井伊家 ―彦根藩―

A5判　200頁　**2,420円**(2,200)

戦国期にかずかずの武功をあげ、「御家人の長」と謳われた井伊家。譜代大名としての政務の実態、「家」の意識とその継承の危機、幕末の徳川との主従関係の変化などを軸に、譜代筆頭として背負った使命とその変遷を描く。

978-4-642-06881-9　(23.6)

根本みなみ著

毛利家 ―萩藩―

A5判　208頁　**2,420円**(2,200)

幕末に倒幕の中心となった萩藩毛利家。関ヶ原の敗戦で領地を失いながら、いかに家を存続させたのか。一大名としての役割、将軍家との縁組や分家統制、藩祖元就への崇拝など、〝太平の世〟を生き抜いた実像に迫る。

978-4-642-06882-6　(23.6)

佐藤宏之著

島津家 ―薩摩藩―(仮題)

A5判〈続　刊〉

978-4-642-06883-3

対立軸で読みとく〝わかる〟東国史

対決の東国史 全7巻

〈企画編集委員〉高橋秀樹・田中大喜

長村祥知著

①源頼朝と木曾義仲

四六判　190頁　**2,200円**(2,000)

鎌倉に残った頼朝と上洛した義仲。ともに反平家の兵を挙げた両雄は異なる路線を進み、対決に至る。彼らは何を重視していたのか。京都との関係を視野に入れ、彼らをとりまく諸勢力の動向をその父親世代から描き出す。

978-4-642-06867-3　(23.8)

高橋秀樹著

②北条氏と三浦氏

四六判　220頁　**2,200円**(2,000)

有力御家人を次々と排斥した北条氏と、その唯一のライバル三浦氏、という通説は正しいのか。両者の武士団としての存在形態に留意し、『吾妻鏡』の記述を相対化する視点から検証。両氏の役割と関係に新見解を提示する。

978-4-642-06868-0　(21.12)

田中大喜著

③足利氏と新田氏

四六判　240頁　**2,200円**(2,000)

南北朝時代、対等な立場で覇権を争った足利氏と新田氏。しかし鎌倉期の両者には、圧倒的な経済・政治的格差があった。力の差がありながら、なぜ対決に至ったのか。政治・抗争の過程と足利政権成立後の関係を追う。

978-4-642-06869-7　(21.12)

植田真平著

④鎌倉公方と関東管領

四六判　240頁　**2,200円**(2,000)

南北朝・室町時代、鎌倉府の首長「鎌倉公方」足利氏と、それを支えた「関東管領」上杉氏。君臣の間柄だった両者は、東国の動向や京都とのかかわりが絡み〝対決〟の結末をたどる。自立へ向かう100年の東国史を解きほぐす。

978-4-642-06870-3　(22.2)

木下　聡著

⑤山内上杉氏と扇谷上杉氏

四六判　232頁　**2,200円**(2,000)

同族から分流した山内・扇谷両上杉氏は、上杉禅秀の乱から約100年にわたり、時に協力し、時に敵対し並立した。長享の乱で両氏の争いが終結するまでの複雑で入り組んだ経過を丁寧に解き明かし、戦いの意義に迫る。

978-4-642-06871-0　(22.2)

石橋一展著

⑥古河公方と小田原北条氏

四六判　〈続　刊〉

978-4-642-06872-7

簗瀬大輔著

⑦小田原北条氏と越後上杉氏

四六判　240頁　**2,200円**(2,000)

中世最末期、越後と相模の戦国大名が繰り広げた「越相戦争」。これを関東管領をめぐる争い、越山と関越交渉、越河と東西関東、関東東方衆、天下人への従属と抵抗など、5つの対立軸から探り、関東平野の覇権争いを描く。

978-4-642-06873-4　(22.4)

激動する〝都〟の600年！

京都の中世史 全7巻

〈企画編集委員〉元木泰雄(代表)
尾下成敏・野口　実・早島大祐
美川　圭・山田邦和・山田　徹

全巻セット＝20,790円(18,900)

美川　圭・佐古愛己・辻　浩和著

①摂関政治から院政へ

四六判　272頁　原色口絵4　**2,970円**(2,700)

藤原氏が国政を掌握した摂関政治をへて、上皇による院政が始まる。政務のしくみや運営方法・財源などを、政治権力の転変とともに活写。寺院造営や人口増加で都市域が拡大し、平安京が〝京都〟へ変貌する胎動期を描く。

978-4-642-06860-4　(21.12)

元木泰雄・佐伯智広・横内裕人著

②平氏政権と源平争乱

四六判　296頁　原色口絵4　**2,970円**(2,700)

貴族政権の内紛で勃発した保元・平治の乱を鎮めた平清盛は、後白河院を幽閉し平氏政権を樹立する。それが平氏と他勢力との分断を生み、源平争乱を惹き起す。荘園制の成立や仏教の展開にも触れ、空前の混乱期に迫る。
978-4-642-06861-1　(22.2)

野口　実・長村祥知・坂口太郎著

③公武政権の競合と協調

四六判　320頁　原色口絵4　**2,970円**(2,700)

武士の世のイメージが強い鎌倉時代。京都に住む天皇・貴族は日陰の存在だったのか。鎌倉の権力闘争にも影響を及ぼした都の動向をつぶさに追い、承久の乱の前夜から両統迭立を経て南北朝時代にいたる京都の歴史を描く。
978-4-642-06862-8　(22.7)

山田　徹著

④南北朝内乱と京都

四六判　306頁　原色口絵4　**2,970円**(2,700)

鎌倉幕府の滅亡後、建武政権の興亡、南北朝分立、観応の擾乱と、京都は深刻な状況が続く。全国の武士はなぜ都に駆けつけて争い、それは政治過程にどのような影響を与えたのか。義満の権力確立までの60年を通観する。
978-4-642-06863-5　(21.8)

早島大祐・吉田賢司・大田壮一郎・松永和浩著

⑤首都京都と室町幕府

四六判　294頁　原色口絵4　**2,970円**(2,700)

人口１千万人の列島社会で、室町殿を中心に公家・武家・寺社が結集し繁栄する首都京都。人やモノの往来の活性化で社会も大きく変化した。天皇家や御家人制の行方、寺社勢力の変質、幕府の資金源に迫る新しい室町時代史。
978-4-642-06864-2　(22.3)

尾下成敏・馬部隆弘・谷　徹也著

⑥戦国乱世の都

四六判　284頁　原色口絵4　**2,970円**(2,700)

戦国時代、室町幕府や細川京兆家は弱体化し、都の文化人は地方へ下った。一方、洛中洛外では新しい町が形成され、豊臣・徳川のもとで巨大都市化が進む。政治・都市・文化の様相を描き出し、戦国乱世の都の姿を追う。
978-4-642-06865-9　(21.9)

山田邦和著

⑦変貌する中世都市京都

四六判　302頁　原色口絵4　**2,970円**(2,700)

天皇や貴族、大寺社、武士など権門の集積地であり、政治・経済・文化・情報の結節点として中世最大の都市であり続けた首都京都。「巨大都市複合体」の成立・拡大から近世都市への昇華まで、考古学の成果から通観する。
978-4-642-06866-6　(23.1)

３つのコンセプトで読み解く新たな“東京”ヒストリー

池 享・櫻井良樹・陣内秀信
西木浩一・吉田伸之　編

みる・よむ・あるく 東京の歴史 全10巻

全巻セット＝ 30,800円(28,000)

①先史時代～戦国時代 （通史編１）

Ｂ５判　160頁
3,080円(2,800)

多様な地形をもち、豊かな自然に彩られる東京。武蔵国府の設置、武士団の成長、小田原北条氏の支配。その下で営まれる人びとの暮らしや社会の動きに視点を置き、「東京の歴史」の舞台と、先史から戦国時代の歩みを描きます。
978-4-642-06826-0　(17.10)

②江戸時代 （通史編２）

Ｂ５判　160頁
3,080円(2,800)

家康の入府以来、急速に巨大城下町へと変貌する江戸。幕藩権力や物流、そして人びとの生活を支えるインフラや都市行政。災害や病、歌舞伎・浮世絵など民衆文化を見ながら、巨大城下町における人びとの営みを描きます。
978-4-642-06827-7　(17.11)

③明治時代～現代 （通史編３）

Ｂ５判　160頁
3,080円(2,800)

明治維新により江戸は「東京」と名前を変え、首都となりました。いかに東京は形成され、そこで人びとは暮らしたのでしょうか。都市化の進展、震災と戦災、戦後復興から今日の国際化まで、激動の近現代史に迫ります。
978-4-642-06828-4　(17.12)

④千代田区･港区･新宿区･文京区（地帯編１）

東京駅を有す丸の内、官庁の建ち並ぶ霞が関、花街の赤坂・神楽坂、土器名発祥の弥生町。都心に位置し、首都の役割を担いながら、濃密に過去の面影を残しています。何がどう受け継がれ、今を形づくったのでしょうか。

Ｂ５判　160頁　**3,080円**(2,800)　978-4-642-06829-1　(18.10)

⑤中央区･台東区･墨田区･江東区（地帯編２）

江戸東京の中心日本橋から京橋・銀座、市場で賑わう築地、大寺院が織りなす人気観光地浅草・上野、水路が巡り震災･戦災の記憶が漂う本所･深川。江戸の余韻を湛えつつ、新たな歴史を築く隅田川周辺の特徴をさぐります。

Ｂ５判　160頁　**3,080円**(2,800)　978-4-642-06830-7　(18.11)

⑥品川区･大田区･目黒区･世田谷区（地帯編３）

海に臨む品川・大森・羽田。江戸以来の大都市近郊行楽地・目黒。世田谷から大田へと、古墳や遺跡が連なる多摩川中下流域。早くベッドタウンが広がり、空港・リニア新幹線などと、変貌続ける 23 区の南部をみつめます。

Ｂ５判　160頁　**3,080円**(2,800)　978-4-642-06831-4　(19.3)

⑦渋谷区･中野区･杉並区･板橋区･練馬区･豊島区･北区（地帯編４）

いまは繁華街として多くの人で賑わう渋谷や池袋も、江戸時代には郊外でした。近代化にともない鉄道が伸び、人が移り住み、やがてムラからマチへと都市化を遂げていった、23 区西北部エリアの変貌と発展を描きます。

Ｂ５判　160頁　**3,080円**(2,800)　978-4-642-06832-1　(19.11)

⑧足立区･葛飾区･荒川区･江戸川区（地帯編５）

肥沃な大地と豊かな水がもたらした江戸近郊の農業と近代的工場群。宿場町千住や門前町柴又のなつかしい街並みと、再開発されたニュータウンが溶け合う東京低地の 4 区。新たな活気に満ちた東郊のルーツを探ります。

Ｂ５判　160頁　**3,080円**(2,800)　978-4-642-06833-8　(20.3)

⑨多摩Ⅰ（地帯編６）

崖線からの湧き水が人びとの生活を潤した立川段丘、宅地化事業に広大な土地を提供した多摩丘陵、水や森林資源をはじめ国立公園などの観光資源を提供する奥多摩。開発と豊かな自然が織りなす多摩地域の歴史を探ります。

Ｂ５判　160頁
3,080円(2,800)　978-4-642-06834-5　(20.12)

⑩多摩Ⅱ･島嶼（地帯編７）

古代武蔵国の中心として栄え、江戸へつながる街道や鉄道敷設で発展してきた多摩東部。観光地として人気の伊豆諸島、世界自然遺産に指定された小笠原諸島。首都近郊の多摩地域と豊かな自然を残す島嶼の歴史を訪ねます。

Ｂ５判　160頁
3,080円(2,800)　978-4-642-06835-2　(21.8)

博物館（ミュージアム）が本になった！ ここでしか読めない確かな内容を、楽しく！ わかりやすく！

わくわく！探検　れきはく日本の歴史

全巻セット（箱入り）＝ 5,500円(5,000)　978-4-642-09149-7

国立歴史民俗博物館編

①先史・古代

Ｂ５判　86頁　**1,100円**(1,000)

日本列島には、いつ人類が住み始めたのかな？　水田稲作は人びとの生活をどのように変えたのかな？　なぜ巨大な古墳がつくられたのかな？　日本が国家としてまとまるまでの３万年以上にわたる歴史をたどってみよう！

978-4-642-06821-5　(19.4)

国立歴史民俗博物館編

②中世

Ｂ５判　86頁　**1,100円**(1,000)

平安の都で貴族はどのようにくらしていたのだろう？　武士はいつも戦っていたのかな？ 農民や職人･商人はどんな仕事をしていたの？ さまざまな人びとが生活し、世界とのつながりもあった中世日本へ探検に行こう！

978-4-642-06822-2　(18.7)

国立歴史民俗博物館編

③近　　世

B５判　86頁　**1,100円**(1,000)

江戸時代の人はどんなくらしをしていたのかな？　人やものはどのように行き来していたのかな？　外国とのつながりはあったのかな？　子どもたちが通った「寺子屋」ってどんなところ？　さあ、とびらを開けてのぞいてみよう！

978-4-642-06823-9　(17.10)

国立歴史民俗博物館編

④近代・現代

B５判　86頁　**1,100円**(1,000)

文明開化で日本はどう変わったのかな？　産業の発展、社会の近代化は何をもたらしたのだろう？　戦前・戦中・戦後はどんなくらしをしていたのかな？　現在のわたしたちに直接つながる身近な歴史を見にいきましょう。

978-4-642-06824-6　(19.1)

国立歴史民俗博物館編

⑤民　　俗

B５判　86頁　**1,100円**(1,000)

わたしたちは、どのようなくらしをしてきたのかな？　昔のくらしと今のくらしの同じところ、変わったところはどこかな？　みなさんが、なにげなく過ごしている「ふだんのくらし」を見つめなおしてみましょう。

978-4-642-06825-3　(18.3)

ユネスコの世界文化遺産に登録された、平泉の魅力に迫る！　菅野成寛監修

平泉の文化史　全3巻

全巻セット＝ 8,580円(7,500)

及川　司編

①平泉を掘る

―寺院庭園・柳之御所・平泉遺跡群―

B５判　192頁　原色口絵8　**2,860円**(2,600)

遺跡から掘り出された、中世の平泉。奥州藤原氏歴代の居館・柳之御所遺跡、毛越寺に代表される平安時代寺院庭園群、平泉の仏教文化に先行する国見山廃寺跡などの発掘調査成果から、中世平泉の社会を明らかにする。

978-4-642-06845-1　(20.3)

菅野成寛編

②平泉の仏教史　―歴史・仏教・建築―

B５判　198頁　原色口絵8　**2,860円**(2,600)

柳之御所の発掘調査と保存運動は、平泉諸寺院と仏教史究明への大きな契機となった。『中尊寺供養願文』や金銀字一切経などに着目し、平泉前史の国見山廃寺の性格から鎌倉期の中尊寺史まで、平泉仏教文化の実像に迫る。

978-4-642-06846-8　(20.7)

浅井和春・長岡龍作編

③中尊寺の仏教美術

―彫刻・絵画・工芸―

B５判　174頁　原色口絵8　**2,860円**(2,600)

宗教美術の分析は信仰を明らかにする。同時代の京都の動向や造像の比較とともに、中尊寺金色堂諸仏・経蔵文殊五尊像、金字宝塔曼荼羅、金色堂須弥壇の工芸意匠などを科学調査の成果から検討。平泉の仏教世界に迫る。

978-4-642-06847-5　(21.4)

平安時代の政務や宮中儀礼などが、千年の時を超えて鮮やかに甦る！

現代語訳 小右記　全16巻

全巻セット＝ 51,920円(47,200)

倉本一宏編

①三代の蔵人頭（くろうどのとう）

貞元２年(977)３月～永延２年(988)12月

四六判　368頁　**3,080円**(2,800)

円融・花山・一条天皇に蔵人頭として仕える若き日の実資。相次ぐ譲位に際し、関白頼忠・摂政兼家らと連携して政務や儀式に奔走する。その一方で、昇進をめぐるわだかまりや、娘の病気治療の苦心などを日記に綴った。

978-4-642-01816-6　(15.10)

倉本一宏編

②道長政権の成立

永祚元年(989)正月～長徳元年(995)10月

四六判　368頁　**3,080円**(2,800)

一条天皇に対して政治介入する円融上皇と摂政兼家との連絡にあたる実資。やがて参議に任じられ、待望の公卿に上る。兼家・道隆・道兼と続く執政者たちの死。伊周側の策動も空しく、政権の座は道長の手に収まった。

978-4-642-01817-3　(16.5)

価格は 10％税込、(　)内は本体価格

倉本一宏編
③長徳の変
長徳2年(996)正月～寛弘2年(1005)3月
四六判　288頁　**3,080円**(2,800)

勢力失墜に焦る伊周と中関白家。ついに不敬事件を起こし左遷される。検非違使別当の実資はその間の一条天皇と道長の動きを詳細に記録。また、長女彰子を一条天皇の女御とした道長は、続いて中宮に立てようとする。
978-4-642-01818-0　(16.10)

倉本一宏編
④敦成親王誕生
寛弘2年(1005)4月～寛弘8年(1011)12月
四六判　320頁　**3,080円**(2,800)

一条天皇の中宮彰子は待望の皇子を相次いで出産するものの、天皇に残された時間は少なかった。定子所生の敦康親王ではなく敦成親王を東宮に立てて崩御。三条天皇の代となり、実資と道長にも新たな時代が訪れる。
978-4-642-01819-7　(17.4)

倉本一宏編
⑤紫式部との交流
長和元年(1012)正月～長和2年(1013)6月
四六判　310頁　**3,080円**(2,800)

娍子立后をめぐって対立する三条天皇と道長。実資は「天に二日無し」といって立后の儀を主宰する。道長と彰子の確執も表面化し、実資は彰子と頻繁に接触する。その間の取り次ぎ役を担ったのが、かの紫式部であった。
978-4-642-01820-3　(17.10)

倉本一宏編
⑥三条天皇の信任
長和2年(1013)7月～長和3年(1014)12月
四六判　366頁　**3,300円**(3,000)

眼病を発した三条天皇に対し、道長をはじめとする公卿層は退位を要求。天皇は実資を頼みとするが、養子資平の任官も考えなければならない実資にとっては悩みの種であった。日記にも緊迫した情勢が記される。
978-4-642-01821-0　(18.4)

倉本一宏編
⑦後一条天皇即位
長和4年(1015)4月～長和5年(1016)2月
四六判　384頁　**3,300円**(3,000)

敦明親王を東宮に立てることを条件に、三条天皇がついに譲位し、道長外孫の後一条天皇が即位する。外祖父摂政の座に就いた道長に対する実資の眼差しや如何に。国母となった彰子の政治力についても詳細に記録する。
978-4-642-01822-7　(18.10)

倉本一宏編
⑧摂政頼通
長和5年(1016)3月～寛仁元年(1017)12月
四六判　344頁　**3,300円**(3,000)

道長は早くも摂政を長男の頼通に譲り、「大殿」として君臨する。一方、三条院が崩御すると敦明親王は東宮の地位を降り、道長は彰子所生の敦良親王を新東宮に立てる。道長家の栄華に対し、実資の批判的な記述が続く。
978-4-642-01823-4　(19.4)

倉本一宏編
⑨「この世をば」
寛仁2年(1018)正月～寛仁3年(1019)3月
四六判　312頁　**3,080円**(2,800)

道長三女の威子が後一条天皇の中宮に立ち、「一家三后」という形で道長の栄華が頂点を極める。その宴席で和歌を詠むことを求められた実資は、道長の詠んだ「この世をば」を皆で唱和しようと提案。その胸中や如何に。
978-4-642-01824-1　(19.10)

倉本一宏編
⑩大臣闕員騒動
寛仁3年(1019)4月～寛仁4年(1020)閏12月
四六判　336頁　**3,300円**(3,000)

無能な左大臣顕光が辞任するという噂が駆けめぐる。代わって大臣の地位を得るのは、これも無能な道綱ではなく自分であると確信する実資は、情報収集に全力を傾ける。刀伊の入寇をさておいての騒動であった。
978-4-642-01825-8　(20.4)

倉本一宏編
⑪右大臣就任
治安元年(1021)正月～治安2年(1022)12月
四六判　304頁　**3,300円**(3,000)

道長六女の嬉子が東宮敦良親王の許に入侍し、道長が無量寿院(後の法成寺)の造営に専心しているという情勢の中、実資はついに右大臣に上る。「賢人右府」の誕生である。案外に素直に喜ぶ実資の姿が浮かび上がる。
978-4-642-01826-5　(20.10)

倉本一宏編
⑫法成寺の興隆
治安3年(1023)正月～治安3年12月
四六判　310頁　**3,300円**(3,000)

道長の造営する法成寺が完成に向かう一方で、顚倒した際に頬に腫物を生じさせてしまった実資は、その治療に奔走する。さまざまなルートからいろいろな治療法を聞き出し、加持や夢想によってその効果を探ろうとする。
978-4-642-01827-2　(21.4)

倉本一宏編
⑬道長女の不幸
万寿元年(1024)正月～万寿２年(1025)８月
四六判　304頁　**3,300円**(3,000)

道長の望月の栄華は、確実に欠け始めていた。小一条院女御の寛子、敦良親王妃の嬉子が、相次いで死去したのである。各所から情報を仕入れ、その意味を読み解こうとする実資。その先に何を見ていたのであろうか。
978-4-642-01828-9　(21.10)

倉本一宏編
⑭千古の婚儀頓挫
万寿２年(1025)９月～万寿４年(1027)６月
四六判　320頁　**3,300円**(3,000)

実資が鍾愛して「かぐや姫」と通称され、小野宮や荘園・牧を譲った女千古の婚姻をめぐって奔走する実資。道長男長家との婚儀は、さまざまな公卿の思惑もあって頓挫する。なお、千古は後に藤原頼宗男の兼頼と結婚する。
978-4-642-01829-6　(22.4)

倉本一宏編
⑮道長薨去
万寿４年(1027)７月～長元２年(1029)９月
四六判　384頁　**3,520円**(3,200)

三条天皇中宮であった妍子に続き、道長もいよいよ最期の時を迎える。その容態の情報収集に余念のない実資は、道長の死に対してどのような感慨を懐いたのであろうか。そして、関白頼通にとっても新たな時代が始まる。
978-4-642-01830-2　(22.11)

倉本一宏編
⑯部類記作成開始
長元３年(1030)正月～長久元年11月(1040)
四六判　400頁　**3,520円**(3,200)

『小右記』6年分を養子の資平に遣わした実資たち小野宮家は、いよいよ『小右記』を使用した部類記の作成を開始する。『小右記』の目次記をばらばらに切ったものの、実資薨去により計画は頓挫。日記も幕を閉じた。
978-4-642-01831-9　(23.4)

人と地域が織りなす「世に一つの歴史譚」――全ページカラーで読み解く！

人をあるく

遠山美都男著
蘇我氏と飛鳥
A５判　158頁　**2,200円**(2,000)

６～７世紀半ば、大臣として天皇の権力をささえた、稲目・馬子・蝦夷・入鹿ら蘇我氏４代。狭小な飛鳥の地をいかに切り拓き、隋唐に対抗できる都市的空間を築いたか。従来の蘇我氏像を書きかえ、王権の聖地の姿に迫る。
978-4-642-06795-9　(17.3)

井上満郎著
桓武天皇と平安京
A５判　160頁　**2,200円**(2,000)

平安京に遷都して、千年の都京都の礎を築いた桓武天皇。都の名前に込めた帝の決意とは何だったのか。強い意志で旧勢力を抑え、蝦夷政策を遂行した波瀾の生涯を活写。古代京都の文化遺産を訪ね、桓武天皇の実像に迫る。
978-4-642-06774-4　(13.12)

坂井孝一著
源頼朝と鎌倉
A５判　160頁　**2,200円**(2,000)

初の武家政権を鎌倉に創設し、弟の義経を死に追いやった冷徹な政治家とされる頼朝。平治の乱や石橋山合戦など、相次ぐ命の危機で負った心の闇に迫り、伊豆・鎌倉・平泉などゆかりの地を訪ね、波乱の生涯を描き出す。
978-4-642-06790-4　(16.2)

今井雅晴著
親鸞と東国
A５判　144頁　**2,200円**(2,000)

恵信尼らを伴い、常陸を拠点に布教を行った浄土真宗の開祖親鸞。関東で支持を拡大し、日本最大の宗派を築いた活動の実態を、息子善鸞義絶の真相にも触れ描く。東国各地に残る親鸞の足跡を巡って、新しい人物像に迫る。
978-4-642-06771-3　(13.11)

清水克行著
足利尊氏と関東
A５判　178頁　**2,200円**(2,000)

周囲の敵と闘い続け、京都に新たな武家政権を築いた足利尊氏。青春の日々を過ごした関東を中心に生涯を辿り、お調子者でありながらもナイーブなその内面に迫る。尊氏ゆかりの足利や鎌倉を訪ね、等身大の実像を探る。
978-4-642-06772-0　(13.11)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

早島大祐著
足利義満と京都
A５判　160頁　**2,200円**(2,000)
室町幕府の宿願だった南北朝合一を果たした３代将軍義満。中世最大の宗教勢力延暦寺を意のままに操り、出家後もなお権力者として君臨し続けた生涯を描く。遺物新発見で注目の相国寺大塔など、ゆかりの京都を訪ねる。
978-4-642-06793-5　(16.11)

上里隆史著
尚氏と首里城
A５判　152頁　**2,200円**(2,000)
15世紀、戦乱の沖縄島を統一し「琉球王国」を建国した尚巴志と、王朝を継いで王国統治を確固たるものにした尚円。度重なる抗争やアジア諸国との交流を描き、古琉球の史跡を訪ねながら、彼らの覇業と王国の盛衰に迫る。
978-4-642-06789-8　(16.1)

山口　博著
北条氏五代と小田原城
A５判　176頁　**2,200円**(2,000)
関東の戦国覇者、北条氏。初代宗瑞の登場から五代氏直の秀吉との東西決戦まで、民政で独自の手腕を見せ、一族が結束して支配を広げた屈指の戦国大名の実像に迫る。本拠地小田原城を巡り、北条時代の小田原宿も訪ねる。
978-4-642-06796-6　(18.8)

津野倫明著
長宗我部元親と四国
A５判　160頁　**2,200円**(2,000)
四国を制覇した戦国武将長宗我部元親。その強さの秘訣とは何だったのか。武力と調略を使い分けて、敵対勢力を巧みな外交で取り込んだ冷静なセンスに着目し、覇業を追体験。土佐の史跡を辿り、新たな元親像に迫る。
978-4-642-06782-9　(14.6)

中澤克昭著
真田氏三代と信濃・大坂の合戦
A５判　160頁　**2,200円**(2,000)
天下人や大大名と渡り合い、戦国を生き抜いた幸綱・昌幸・信幸・信繁ら真田一族。信濃の弱小氏族から大名へと、いかに成長したのか。本拠地だった上田を訪ねて足跡を辿り、徳川を苦しめた上田合戦と大坂の陣に迫る。
978-4-642-06794-2　(16.12)

谷口眞子著
赤穂浪士と吉良邸討入り
A５判　150頁　**2,200円**(2,000)
『忠臣蔵』として語り継がれてきた赤穂事件。吉良邸に討ち入った四十七士と、思いがけない人生を歩むことになった、親族や関係者のその後をたどる。今も残る討入りの舞台を巡り、日本人を魅了する事件の真実に迫る。
978-4-642-06776-8　(13.12)

佐藤勝明著
松尾芭蕉と奥の細道
A５判　160頁　**2,200円**(2,000)
古い俳諧の世界に新風を吹き込んだ松尾芭蕉。『猿蓑』などの作品集を生み出し、進化と深化を追い続けた生涯を辿る。『細道』創作の意図を探り、日光・奥州・出羽・北陸へと魅力あふれる旅路へ誘う。西村本全文も付す。
978-4-642-06785-0　(14.9)

小関悠一郎著
上杉鷹山と米沢
A５判　160頁　**2,200円**(2,000)
窮乏する米沢藩を、類まれなリーダーシップで改革し、当時から「明君」と称えられた上杉鷹山。なぜその思想と行動は現在まで評価され続けるのか？　藩の立て直しにかけた生涯とゆかりの地をたどり、改革の本質に迫る。
978-4-642-06791-1　(16.3)

佐々木　克著
坂本龍馬と京都
A５判　160頁　**2,200円**(2,000)
誠実に無私の精神で説得にあたり、人と人を結びつけた〝超強力接着剤〟坂本龍馬。土佐浪士ながら「日本の洗濯」を志し、維新の夜明けを導いた。理想を追った33年の生涯を描き、龍馬ゆかりの京都の史跡に素顔を探る。
978-4-642-06773-7　(13.11)

須田　努著
三遊亭円朝と江戸落語
A５判　160頁　**2,200円**(2,000)〈僅少〉
文明開化のさなか、東京の噺家の頂点に立つ三遊亭円朝。彼はいかに立身出世を遂げたのか、その事跡と創作の根源に迫る。『真景累ケ淵』『怪談牡丹燈籠』など、円朝による江戸落語の名作を紹介し、ゆかりの地を訪ねる。
978-4-642-06787-4　(15.3)

鎌倉時代のもっとも基本的な歴史書。その難解な原文を、待望の現代語訳化。

現代語訳 吾妻鏡 全16巻・別巻1冊

第70回毎日出版文化賞受賞

全巻セット＝47,740円(43,400)

五味文彦・本郷和人編
①頼朝の挙兵
治承４年(1180)４月～寿永元年(1182)
四六判　240頁　**2,420円**(2,200)

治承４年(1180)以仁王の平家追討令旨に応じ東国各地に源氏が蜂起する。伊豆の流人頼朝の挙兵、石橋山合戦、鎌倉入り、富士川合戦、関東掌握。黄瀬川宿での頼朝・義経の対面等、鎌倉武家政権の誕生を活写する。
978-4-642-02708-3　(07.11)

五味文彦・本郷和人編
②平氏滅亡
元暦元年(1184)～文治元年(1185)
四六判　272頁　**2,530円**(2,300)

頼朝から解き放たれた東国武士団は瞬く間に京都に殺到し、木曽義仲を撃破。源平合戦は、多くの人々の運命を翻弄しながら壇ノ浦での平氏滅亡を迎える。ヒーローとなった義経は、兄頼朝との対立で没落し、逃亡の身となった。
978-4-642-02709-0　(08.3)

五味文彦・本郷和人編
③幕府と朝廷
文治２年(1186)～文治３年(1187)
四六判　256頁　**2,420円**(2,200)

頼朝は後白河法皇に人事等の申し入れを行う。地頭の権限は謀反人の旧所有地に限定される。頼朝の尽力で閑院内裏が再建され、重源の手で東大寺再建も始まる。源行家は摂津で討たれるが、義経は藤原秀衡を頼って奥州に赴く。
978-4-642-02710-6　(08.6)

五味文彦・本郷和人編
④奥州合戦
文治４年(1188)～文治５年(1189)
四六判　240頁　**2,200円**(2,000)

源義経をめぐり京都・平泉・鎌倉間の駆け引きが行われる。秀衡亡き後、家督を継いだ泰衡は、鎌倉からの圧力に耐えかね、義経を自害に追い込む。それでも頼朝は泰衡を許さず、泰衡追討の宣旨を待たず自ら奥州に進発する。
978-4-642-02711-3　(08.9)

五味文彦・本郷和人編
⑤征夷大将軍
建久元年(1190)～建久３年(1192)
四六判　298頁　**2,860円**(2,600)

奥州藤原氏を鎮圧した頼朝は、ついに上洛し後白河法皇と対面、曲折を経て征夷大将軍となる。幕府と朝廷・有力寺社との交渉も頻繁となる一方、内乱による「数万之怨霊」を供養する永福寺も完成。新時代の到来を告げる。
978-4-642-02712-0　(09.3)

五味文彦・本郷和人編
⑥富士の巻狩（まきがり）
建久４年(1193)～正治２年(1200)
四六判　284頁　**2,640円**(2,400)

富士の巻狩の場で突発した曽我兄弟の仇討ち。そして頼朝の急死で重石を失った幕府は、若き鎌倉殿頼家の失政と有力御家人間の対立の激化により、混迷の時代に突入した。梶原景時が御家人らの糾弾により失脚し、滅び去る。
978-4-642-02713-7　(09.6)

五味文彦・本郷和人編
⑦頼家と実朝
建仁元年(1201)～建保元年(1213)
四六判　384頁　**3,520円**(3,200)

将軍頼家は、病気を契機に実権を奪われる。比企能員が討たれ、頼家は修善寺で没する。実朝が将軍になるが、平賀朝雅将軍擁立計画に関与した時政は伊豆に隠居。息子義時が和田義盛との戦に勝ち、侍所別当を手中にした。
978-4-642-02714-4　(09.11)

五味文彦・本郷和人編
⑧承久の乱
建保２年(1214)～承久３年(1221)
四六判　300頁　**2,860円**(2,600)

承久元年(1219)正月、実朝は鶴岡八幡宮で兄頼家の子公暁に殺される。２年後、幕府の混迷を見た後鳥羽上皇は、義時追討の院宣を発する。政子の大演説で御家人結集に成功した幕府は大軍を派遣、朝廷軍と対決する。
978-4-642-02715-1　(10.4)

五味文彦・本郷和人・西田友広編
⑨執権政治
貞応元年(1222)～寛喜２年(1230)
四六判　272頁　**2,530円**(2,300)

承久の乱に勝利した幕府では義時が没し、息子泰時が執権に就任する。大江広元・北条政子ら、幕府草創以来の大物が相次ぎ没する中、摂関家出身の藤原頼経が将軍に就任。新御所も造営され、幕府政治は新段階へ移行する。
978-4-642-02716-8　(10.11)

価格は10％税込、(　)内は本体価格

五味文彦・本郷和人・西田友広編
⑩御成敗式目
寛喜３年(1231)～嘉禎３年(1237)
四六判　288頁　**2,640円**(2,400)

寛喜の大飢饉。疫病・地震・洪水。『関東御成敗式目』の制定。評定衆による合議制の確立。執権北条泰時の主導のもとに花開く執権政治。そして泰時の孫経時・時頼、甥金沢実時ら、次代をになう若者たちが元服を迎える。
978-4-642-02717-5　(11.5)

五味文彦・本郷和人・西田友広編
⑪将軍と執権
暦仁元年(1238)～寛元２年(1244)
四六判　320頁　**3,080円**(2,800)

将軍頼経は京都で検非違使別当に任命され、内裏や公家の邸宅、寺社等を訪問して帰還した。隠岐で後鳥羽上皇が没し、鎌倉に大仏が造営される。執権北条泰時が没すると、孫経時が後を嗣ぎ、頼経の子頼嗣を新将軍とした。
978-4-642-02718-2　(12.2)

五味文彦・本郷和人・西田友広編
⑫宝治合戦
寛元２年(1244)５月～宝治２年(1248)
四六判　256頁　**3,080円**(2,800)

寛元４年(1246)、北条時頼が執権に就任する。前執権経時が死去するや反時頼派の前将軍藤原頼経と名越氏らが策動。これに対し、時頼は頼経を京都に送還することに成功。翌年、宝治合戦が勃発し、三浦氏は全滅した。
978-4-642-02719-9　(12.12)

五味文彦・本郷和人・西田友広編
⑬親王将軍
建長２年(1250)～建長４年(1252)
四六判　272頁　**3,080円**(2,800)

執権北条時頼に嫡子時宗が誕生する。九条道家の死をきっかけに、摂家将軍藤原頼嗣の追放と後嵯峨上皇皇子宗尊親王の関東下向・将軍就任が断行された。また、幕府による京都閑院内裏造営は、御家人役のあり方を示す。
978-4-642-02720-5　(13.6)

五味文彦・本郷和人・西田友広編
⑭得宗時頼
建長５年(1253)～正嘉元年(1257)
四六判　240頁　**3,080円**(2,800)

連署極楽寺重時の出家に続き、病に倒れた執権北条時頼は出家を決意。重時の子長時に執権職を譲る。回復した時頼は僧形で執政を開始。得宗専制政治への第一歩であった。やがて時宗が元服。幕府は静かに転換点を迎える。
978-4-642-02721-2　(14.3)

五味文彦・本郷和人・西田友広編
⑮飢饉と新制
正嘉２年(1258)～弘長元年(1261)
四六判　256頁　**3,080円**(2,800)

将軍宗尊親王の上洛準備が進められる。隠居した北条時頼だが、依然政治にも関与し、将軍もしばしば最明寺邸を訪れた。諸国で暴風等の被害が大きく、将軍上洛は延期。弘長新制と呼ばれる政治改革の幕府法令も出される。
978-4-642-02722-9　(15.4)

五味文彦・本郷和人・西田友広編
⑯将軍追放
弘長３年(1263)～文永３年(1266)７月
四六判　176頁　**2,640円**(2,400)

弘長３年(1263)、北条時頼が没し、嫡男時宗が連署となる。文永３年(1266)、時宗・北条政村・金沢実時らは将軍宗尊親王側近の陰謀について密議し、親王は京に送られる。親王入洛の記事を以て全巻の筆を止める。
978-4-642-02723-6　(15.12)

五味文彦・本郷和人・西田友広・遠藤珠紀・杉山　巖編
別巻 鎌倉時代を探る
四六判　256頁　**3,080円**(2,800)

本編全16巻に付した解説・注は、必要最低限の事項に限り、簡潔な記述に止めた。それを補完し、原文に触れるための手がかりを提供。さまざまなテーマから鎌倉時代を平易に解説する。『吾妻鏡』の理解が深まる最終巻。
978-4-642-02724-3　(16.3)

21世紀最高水準の本格的な「日本通史」！　全冊書下ろし　**品切＝①～③㉗**

日本の時代史　全30巻

【企画編集委員】石上英一・井上　勲
五味文彦・高埜利彦・渡辺　治

佐藤　信編
④律令国家と天平文化
Ａ５判　352頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)

律令国家とはどのようなものだったのか。東アジアなどとの交流の中で天皇や貴族が取組んだ政治、古代都市〈平城京〉や地方社会に生きた人々、仏教・美術・文学と国家との関わりなど、奈良時代の全体像を明らかにする。
978-4-642-00804-4　(02.9)

吉川真司編

⑤平　安　京

Ａ５判　352頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)

最後の古代都城〈平安京〉の時代。東アジア世界との接触のなか、律令国家の最盛期から終末へ、180年にわたって変容する列島の古代を解明する。また、古代末期の地域社会や平安仏教の特質、国風文化の問題にも迫る。

978-4-642-00805-1　(02.10)

加藤友康編

⑥摂関政治と王朝文化

Ａ５判　352頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)

宮廷を支えた摂関政治とはどのようなものか。藤原氏の全盛から衰退まで、貴族社会を解明する。武士の形成、都市と農村の文化交流、女性の役割、東アジア世界の動向にも説き及び、華麗な王朝文化の背景とその特質に迫る。

978-4-642-00806-8　(02.11)

元木泰雄編

⑦院政の展開と内乱

Ａ５判　336頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)

王権の分裂と地域社会の変動のなか、院政期という新たな時代が幕を上げる。だが、やがて、上皇と摂関家、源氏と平氏などの権力闘争は、巨大な内乱を引き起こしていった。多彩な面から中世への一大転換期を描き出す。

978-4-642-00807-5　(02.12)

五味文彦編

⑧京・鎌倉の王権

Ａ５判　304頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)

源頼朝によって樹立された鎌倉の武家政権は、承久の乱を経て京の公家政権を凌駕するまでに成長する。日本の中世が形作られる、この時代の政治・社会・文化・宗教等の動きを京と鎌倉との二つの王権という視点から描く。

978-4-642-00808-2　(03.1)

近藤成一編

⑨モンゴルの襲来

Ａ５判　320頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)〈僅少〉

モンゴルの襲来に日本はいかに対応したか。また、この時代に日本の社会はどのように変容していったのか。文永・弘安の役を世界史的な視野から見直し、変容しつつある社会の様相に視野を広くとり、新しい時代像を描く。

978-4-642-00809-9　(03.2)

村井章介編

⑩南北朝の動乱

Ａ５判　288頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)〈僅少〉

鎌倉時代末期に分裂した王統の対立は、やがて武家勢力の分裂と結び付き、半世紀をこえる南北朝動乱の時代となる。この長期にわたった内乱の時代の政治・経済・外交・社会・文化を、東アジアという文脈の中で描き出す。

978-4-642-00810-5　(03.3)

榎原雅治編

⑪一 揆 の 時 代

Ａ５判　336頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)〈僅少〉

人々を一揆へと駆り立てたものは何か。「一揆の時代」といわれる室町時代の特徴を、幕府政治、武士や民衆の生活、都市と経済、災害や戦乱から探る。日明貿易や能・狂言などの文化にも説き及び、揺れ動く時代を描く。

978-4-642-00811-2　(03.4)

有光友學編

⑫戦国の地域国家

Ａ５判　352頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)〈僅少〉

国際社会の波の中で、戦国大名が覇権を争った動乱の時代。関東の北条氏、中国の毛利氏といった広域の地域国家の成立、軍事物資の運搬、交差する謀略やうわさ、民衆の知恵など、群雄と民衆の躍動する時代を明らかにする。

978-4-642-00812-9　(03.5)

池　　享編

⑬天下統一と朝鮮侵略

Ａ５判　344頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)〈僅少〉

近世への扉を開いた信長と秀吉の時代。これまでの信長像を見直し、秀吉の朝鮮侵略の真実に迫る。「天下」とは何か。「唐入り」はなぜ行われたのか。天下統一と朝鮮侵略の不可分な関係を明らかにし、天下人の足跡を辿る。

978-4-642-00813-6　(03.6)

荒野泰典編

⑭江戸幕府と東アジア

Ａ５判　448頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)

激動する東アジア情勢の中、日本は徳川政権による新時代を迎えた。「首都」を江戸に構え、社会構造の再編、貿易の統制など、泰平の世を支えた基盤はいかにして築かれたのか。グローバルな新視点から幕藩体制誕生に迫る。

978-4-642-00814-3　(03.8)

高埜利彦編

⑮元禄の社会と文化

A５判　346頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)

4代家綱、5代綱吉の時代、平和の下で豊かな町人文化が花開いた。それは商業・流通の発展による社会・経済の変動とどんな関わりがあるのか。新たな側面から社会の特質と、そこから生み出された元禄文化の背景を探る。

978-4-642-00815-0　(03.8)

大石　学編

⑯享保改革と社会変容

A５判　368頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)〈僅少〉

8代将軍吉宗から田沼時代まで、国家再建へ向けて幕府はいかなる改革を行なったのか。国家システムの整備や地域再編などを中心にその実態を解明。噴火災害や藩政改革、近世の女性像など、成熟する社会を映し出す。

978-4-642-00816-7　(03.9)

藤田　覚編

⑰近代の胎動

A５判　298頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)〈僅少〉

迫り来る欧米列強の影、たび重なる飢饉と一揆・打ちこわし。江戸時代後期、体制的な危機に直面した国家と社会は、いかなる変容を遂げていくのか。庶民の暮らしや化政文化にも注目し、近代へ向かう胎動の時代を照射。

978-4-642-00817-4　(03.10)

豊見山和行編

⑱琉球・沖縄史の世界

A５判　320頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)

大国に翻弄されてきた沖縄、という見方を転換し、自立した地域世界として捉え直す最新の琉球・沖縄史。先史からグスク時代、そして近現代まで、アジアとの密接な結びつきの中で展開した独特な歴史と文化の姿を描く。

978-4-642-00818-1　(03.11)

菊池勇夫編

⑲蝦夷島と北方世界

A５判　336頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)〈僅少〉

列島北部の世界で固有の文化を育んだアイヌは、いかなる歴史を辿ってきたのか。北東アジアからみたエゾや交易の実態を探り、近代のアイヌ民族の「国民」化など、現代日本の課題を提示。新たな日本列島史を描き出す。

978-4-642-00819-8　(03.12)

井上　勲編

⑳開国と幕末の動乱

A５判　352頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)〈僅少〉

近代日本の原型が形成される幕末動乱の時代。西欧の国際社会に組み込まれる過程のなかで、日本はいかなる近代を模索し構築を始めたか。社会・文化・思想・対外関係など、さまざまな視点から描き出す近代日本誕生の諸相。

978-4-642-00820-4　(04.1)

松尾正人編

㉑明治維新と文明開化

A５判　336頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)

明治維新によって、日本は近代国家へと変貌してゆく。新政権の実態や、廃藩置県・徴兵令や西南戦争など、変革期の政治・社会の動きを具体的に探る。また、天皇の役割、岩倉使節団、博覧会から文明開化の時代を描く。

978-4-642-00821-1　(04.2)

新井勝紘編

㉒自由民権と近代社会

A５判　300頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)

幅広い地域や人びとを巻き込み、近代史上最大の国民的運動となった自由民権運動。その実像とともに、伝統的民衆社会と近代世界との葛藤にも注目し、新しい時代へのスタートを切った日本社会の多面的な様相を描く。

978-4-642-00822-8　(04.3)

小風秀雅編

㉓アジアの帝国国家

A５判　336頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)〈僅少〉

近代日本は、憲法制定・国会開設と条約改正により国際的自立を実現し、同時に「アジアの帝国国家」への道をたどる。資本主義経済の成立、職業選択の自由化、都市の形成から、〈近代〉が社会のなかに定着した時代を描く。

978-4-642-00823-5　(04.4)

季武嘉也編

㉔大正社会と改造の潮流

A５判　320頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)〈僅少〉

米騒動、労働争議、都市化と新文化の登場など、新たな理想を模索する「改造」が進められた大正時代。第1次世界大戦後の世界の動向に翻弄されながらも、主体的に自らを改革しようとした〝現代社会の出発点〟を描く。

978-4-642-00824-2　(04.5)

山室建徳編

㉕大日本帝国の崩壊

A５判　288頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)〈僅少〉

なぜ西欧文明の「優等生」が突然「問題児」へ変貌したのか。この謎に迫るために、国民生活の様相やメディアの役割を探り、さらに満洲国統治や技術発展の実情を解明。国民意識の視点から〈戦争の時代〉を考える。

978-4-642-00825-9　(04.6)

吉田　裕編

㉖戦後改革と逆コース

A５判　304頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)〈僅少〉

戦後改革はこれまでの日本をどのように変えたのか。そして、1940年代末から始まった、ナショナリズム復活の現象＝「逆コース」はいかにして生じたのか。戦後社会の黎明期のなかに、現在へと続く課題をさぐる。

978-4-642-00826-6　(04.7)

後藤道夫編

㉘岐路に立つ日本

A５判　368頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)〈僅少〉

1990年代半ば、グローバリズムの進展のなか、「構造改革」の名のもとに、戦後日本の土台を揺り動かす巨大な動きが一斉に生じた。これまでの経済成長型社会から転換する分かれ道に立つ現代日本のゆくえをさぐる。

978-4-642-00828-0　(04.9)

井上　勲編

㉙日本史の環境

A５判　362頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)〈僅少〉

歴史は、自然と文化・生活様式等々の重層する環境のなかに展開している。地理・気象・風土、地域社会と産業、暦と時刻・度量衡・音と光、住居と空間・食材と調理・服飾、さまざまな面から、日本の歴史の基盤を考える。

978-4-642-00829-7　(04.10)

石上英一編

㉚歴史と素材

A５判　432頁　原色口絵8　**3,520円**(3,200)

日本の歴史は何に思い描かれてきたのか。古代から近代までの歴史編纂と歴史資料のさまざまな姿を、史書、木簡、文書、考古資料、美術資料、外国の日本関係史料から探り、史跡や史料の保存活用の歴史も明らかにする。

978-4-642-00830-3　(04.11)

人間にとって戦争とは何か。日本の内乱・戦争の実態に迫る。

戦争の日本史　全23巻

【企画編集委員】
小和田哲男・関　幸彦・森　公章・吉田　裕

全巻セット＝63,250円(57,500)

森　公章著

①東アジアの動乱と倭国

四六判　280頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

2世紀に成立した倭国は、東アジア諸国との交流で発展すると同時に、戦いにも巻き込まれてゆく。倭国大乱、百済・加耶諸国の紛争、白村江の戦への過程を検証。激動の国際情勢のなかで、倭国が経験した戦争と外交を描く。

978-4-642-06311-1　(06.12)

倉本一宏著

②壬申の乱

四六判　312頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

古代史最大の皇位継承戦争＝壬申の乱は、その後の律令国家建設にいかなる意義を持つのか。戦闘を克明に辿り、真の首謀者は持統天皇だったという斬新な視座から皇位継承に迫るなど、あたらしい「壬申の乱」像を描く。

978-4-642-06312-8　(07.2)

鈴木拓也著

③蝦夷と東北戦争

四六判　316頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

古代国家が、蝦夷を武力で制圧した「征夷」。伊治公呰麻呂の乱をはじめ、阿弓流為と坂上田村麻呂の戦いなど、8世紀から9世紀に至る幾多の戦乱を検証。征夷に関わった人々に焦点を当て、蝦夷支配の真実を描き出す。

978-4-642-06313-5　(08.12)

川尻秋生著

④平将門の乱

四六判　256頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

平安貴族社会を揺るがした辺境の反乱＝平将門の乱。全国各地に伝説が残り、今なお人々の絶大な信仰を集める将門の知られざる実像とその時代を、『将門記』や新史料などから描き出し、将門の乱の歴史的影響を検証する。

978-4-642-06314-2　(07.4)

関　幸彦 著
⑤東北の争乱と奥州合戦
―「日本国」の成立―
四六判　280頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

説話や伝説を交えて、前九年・後三年・奥州合戦の実態を探り、鎌倉幕府誕生へと繋がる時代の流れを追求。幕府の首長がなぜ常に征夷大将軍なのかを考え、征夷の対象とされた東北と、源氏との戦争の歴史的背景を問う。
978-4-642-06315-9　(06.11)

上杉和彦 著
⑥源平の争乱
四六判　288頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

武家の棟梁をめざし、熾烈な争いを繰り広げた源氏と平氏。歴史のロマンあふれる源平合戦の全貌とその時代を描く。一ノ谷合戦「坂落とし」の真相に迫り、また戦の中の民衆の姿を描くなど、源平争乱の歴史的意味を問う。
978-4-642-06316-6　(07.3)

新井孝重 著
⑦蒙古襲来
四六判　298頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)〈僅少〉

炸裂する火薬兵器、ふりそそぐ毒矢。巨大軍隊モンゴル軍に打ちのめされた日本の武者たちの恐怖の念は、全土を神仏頼りの祈祷列島へと変えていく。幕府はこの危機にいかに対処したのか。合戦死傷者のその後までを追う。
978-4-642-06317-3　(07.5)

森　茂暁 著
⑧南北朝の動乱
四六判　272頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

日本が経験した未曾有の大転換期＝南北朝時代。二つの朝廷と複雑な勢力抗争が絡んだ動乱はなぜ全国に広がり、半世紀以上に及んだのか。個性豊かな人物像とその時代に迫り、南朝が大きく顕彰された近代史にも言及する。
978-4-642-06318-0　(07.9)

石田晴男 著
⑨応仁・文明の乱
四六判　332頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

京都を焦土と化した応仁・文明の乱は戦国時代の幕開けだったのか？　日野富子を元凶とする『応仁記』がもたらした定説は、近年見直されつつある。幕府内部や関東の政情不安にも光を当て、新たな応仁・文明の乱を描く。
978-4-642-06319-7　(08.7)

市村高男 著
⑩東国の戦国合戦
四六判　336頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

15世紀末の公方家、管領家の抗争の中で幕が上がる戦国の動乱。北条、越後上杉、武田氏が台頭するなか、千葉、小田、佐竹氏ら東国諸氏は、独自の地位を築く。武士団を中心に「東」の戦国時代を大きなスケールで描く。
978-4-642-06320-3　(09.1)

福島克彦 著
⑪畿内・近国の戦国合戦
四六判　344頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

将軍家の継嗣問題、畠山・細川氏の内紛、三好長慶や松永久秀らによる争乱…。応仁・文明の乱後も畿内近国では戦乱が繰り広げられた。「英雄不在」といわれる信長以前の約100年間、「都の戦国時代」を詳細に描く。
978-4-642-06321-0　(09.7)

山本浩樹 著
⑫西国の戦国合戦
四六判　316頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

大内・尼子・毛利・大友・島津・長宗我部ら、海外との交易のもたらす実利と地域の覇権をかけた西国大名たち。その激闘の軌跡を追い、戦乱の世を生き抜くため苦闘する国人・土豪・村人ら、戦国期西国社会の群像に迫る。
978-4-642-06322-7　(07.7)

谷口克広 著
⑬信長の天下布武への道
四六判　304頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

桶狭間の戦いで今川義元に勝利し日本史の表舞台に登場した信長。姉川の戦い、長篠の戦いと怒濤の進撃を続け、天下布武の道を歩む。その戦略とはいかなるものか。知られざる側面にも光をあて、実像を鮮やかに描き出す。
978-4-642-06323-4　(06.12)

神田千里 著
⑭一向一揆と石山合戦
四六判　288頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

戦国時代における民衆の力と信仰心の象徴とされる一向一揆と石山合戦。その真の姿とは。北陸地方での戦国大名との戦いから、織田信長との全面戦争へ繋がる歴史過程を描き、江戸時代に創られた「一向一揆」像の謎に迫る。
978-4-642-06324-1　(07.10)

小和田哲男著

⑮秀吉の天下統一戦争

四六判　288頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

織田信長の後継者として天下統一をめざした豊臣秀吉。調略や講和、抜群の経済力・機動力、さらに専業武士からなる金銀錦に彩られた大軍勢で相手を圧倒。秀吉不敗の戦術に迫り、天下統一戦争が残した功罪を問う。

978-4-642-06325-8　(06.10)

中野　等著

⑯文禄・慶長の役

四六判　336頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

国内統一戦争を進めつつ、豊臣秀吉がもくろんだのは、明帝国のもとに築かれた東アジア世界の秩序刷新だった！　秀吉の思惑に翻弄された日本の武将、朝鮮士民の姿を描き、後世にまで禍根を残した戦争の実像に迫る。

978-4-642-06326-5　(08.1)

笠谷和比古著

⑰関ヶ原合戦と大坂の陣

四六判　336頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

「天下分け目」と謳われてきた関ヶ原合戦と、徳川幕藩体制の確立のために不可避であった大坂の陣。両合戦をめぐるさまざまな定説に新たな見解を示し、豊臣・徳川が覇権をかけて繰り広げた複雑な政治ドラマの真相に迫る。

978-4-642-06327-2　(07.11)

保谷　徹著

⑱戊辰戦争

四六判　320頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

軍事革命を遂げた新政府軍の武力倒幕は戦争をどう変えたのか。鳥羽・伏見の戦いから箱館戦争までを辿り、戦争遂行のために動員されたヒト・モノ・カネの実態に迫る。戊辰戦争を軍事史的な観点から解明した初めての書。

978-4-642-06328-9　(07.12)

原田敬一著

⑲日清戦争

四六判　318頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

近代日本最初の対外戦争！　国民形成に決定的な役割を果たした日清戦争。朝鮮をめぐる日清の確執から台湾征服戦争まで、戦史を中心に全貌に迫り、近代日本の針路をアジア侵略へと導いた日清戦争を歴史的に位置付ける。

978-4-642-06329-6　(08.8)

山田　朗著

⑳世界史の中の日露戦争

四六判　346頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

100年前に極東で勃発した日露戦争。その様子は通信網により翌日には欧米諸国で報道された。この戦争を国際政治の力学と情報・報道戦の側面から見直し、各地での作戦や軍事システムを豊富な図表を駆使して描き出す。

978-4-642-06330-2　(09.4)

小林啓治著

㉑総力戦とデモクラシー

―第一次世界大戦・シベリア干渉戦争―

四六判　328頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

山東半島の利権をめぐり第1次世界大戦に参戦した日本。ドイツとの開戦、英・中国との外交交渉の過程からその国家的意志を追究。シベリア出兵へ続くヨーロッパの政治状況の構造変化を、反戦思想家の足跡から検証する。

978-4-642-06331-9　(08.1)

伊香俊哉著

㉒満州事変から日中全面戦争へ

四六判　300頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

日本の軍部と政府はどのような意図で対中国政策を悪化させ、全面戦争にまで至ったのか。当時の日本の「自衛」論や戦闘行為を国際法の視角から読み解き、兵士の体験記・回想・写真をもとに、戦死者と戦争責任を考える。

978-4-642-06332-6　(07.6)

吉田　裕・森　茂樹著

㉓アジア・太平洋戦争

四六判　336頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

「東亜新秩序」を掲げてアジア諸国に進出した帝国日本。日米交渉の失敗から、中国・イギリスだけではなくアメリカを主敵とする戦争へと突入する。日本の敗因を徹底検証。戦後60年を経た今、アジア・太平洋戦争を問う。

978-4-642-06333-3　(07.8)

なぜ敗れたのか？　〝負〟からこそ見える歴史がある！

敗者の日本史　全20巻

【企画編集委員】関 幸彦・山本博文

全巻セット＝57,200円(52,000)

遠山美都男著

①大化改新と蘇我氏

四六判　276頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

大臣として実権を握りながら「乙巳の変」で滅亡した蘇我氏本家。勝者の歴史書『日本書紀』は「稀代の逆臣」をいかに創出したのか。稲目・馬子・蝦夷・入鹿ら4代の軌跡を辿り、敗者から見えてくる「大化改新」像に迫る。

978-4-642-06447-7　(13.11)

瀧浪貞子著

②奈良朝の政変と道鏡

四六判　272頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

政変の続く奈良朝において、称徳女帝と共治体制を目指し、宇佐神託事件で失脚した道鏡。今日まで長く悪人イメージが払拭されず、敗者として見捨てられてきた〝悪僧〟を、古代史の中に位置付け再評価。その実像に迫る。

978-4-642-06448-4　(13.3)

今　正秀著

③摂関政治と菅原道真

四六判　252頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

藤原氏による摂関政治が確立していく中、道真はそれとどう向き合い、やがて「敗者」として大宰府に流されるのか。道真が残した漢詩を読み解きつつ、「詩臣」としての行跡と、道真を「敗者」とした摂関政治の成立を探る。

978-4-642-06449-1　(13.10)

荒木敏夫著

④古代日本の勝者と敗者

四六判　240頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

藤原氏との政治抗争に負け、歴史の表舞台から去った大伴氏。彼らは本当に姿を消したのか？「大伴」のウジ名を負うことで地域に根付いた三河大伴氏の動向にも目を配り、単純な敗者ではない大伴氏の未知の真実に迫る。

978-4-642-06450-7　(14.10)

元木泰雄著

⑤治承・寿永の内乱と平氏

四六判　224頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

保元・平治の乱で勝利し、「平家にあらずんば人にあらず」と謳われるまでに栄華を極めた平氏は、なぜ劇的な滅亡を遂げたのか。敗北を必然とする『平家物語』等の通説的歴史観を克服し、知られざる源平合戦の真実に迫る。

978-4-642-06451-4　(13.4)

関　幸彦著

⑥承久の乱と後鳥羽院

四六判　296頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

鎌倉と京、公武権力構図の転換点とされる承久の乱。治天の君＝後鳥羽院が歌に込めた「道ある世」への希求とは何だったのか。諸史料を中心に、協調から武闘路線への道をたどり、隠岐に配流された後鳥羽院のその後にも迫る。

978-4-642-06452-1　(12.10)

秋山哲雄著

⑦鎌倉幕府滅亡と北条氏一族

四六判　240頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

中世都市鎌倉を本拠に、執権や得宗の立場で幕府を主導した北条氏一族。評定や引付、六波羅・鎮西探題など、彼らが整備した幕府の機構を政治史とともに辿り、武家政権の礎を残した〝敗者〟の評価に改めて光をあてる。

978-4-642-06453-8　(13.5)

山田邦明著

⑧享徳の乱と太田道灌

四六判　248頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

鎌倉公方足利成氏と関東管領上杉氏が争いあった享徳の乱。上杉氏の重臣太田道灌の活躍で乱は鎮静に向かうが、道灌が謀殺されたのち上杉氏も分裂し、内乱状況が続くことになる。15世紀後半の関東戦乱の歴史を描く。

978-4-642-06454-5　(15.1)

平山　優著

⑨長篠合戦と武田勝頼

四六判　314頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

武田家を滅亡させ、暗愚の将とされてきた勝頼。だが、父信玄より領土を拡大し、織田信長ら同時代人の評価は高かった。新戦術(鉄砲)と旧戦法(騎馬)の対立軸で語られてきた合戦を捉え直し、「敗者」勝頼の実像に迫る。

978-4-642-06455-2　(14.2)

黒田基樹 著

⑩小田原合戦と北条氏

四六判　264頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

総構えの威容を誇った難攻不落の小田原城。全国統一をめざす秀吉政権に、小田原北条氏はなぜ最後まで抵抗し敗れたのか。信長時代から継承された天下人の政策「関東惣無事」の実態に迫り、「小田原合戦」の意味を考える。

978-4-642-06456-9　(13.1)

鍛代敏雄 著

⑪中世日本の勝者と敗者

四六判　288頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

中世の潮流の中で遭遇するいくつもの歴史的分岐点。その勝者と敗者から何を学ぶのか？　源義経・後醍醐天皇らの決断と評価。一揆・琉球王国・倭寇などの意味するものとは？　多様なキーワードから中世社会を読み解く。

978-4-642-06457-6　(13.12)

矢部健太郎 著

⑫関ヶ原合戦と石田三成

四六判　266頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

秀吉の直臣、石田三成はなぜ「敗者」となったのか。徳川幕府によって「書き換えられた」豊臣政権の大名支配を「武家家格」から再考。通説の「五大老・五奉行制」を問い直し、三成が臨んだ〝天下分け目の戦〟の真実に迫る。

978-4-642-06458-3　(14.1)

曽根勇二 著

⑬大坂の陣と豊臣秀頼

四六判　272頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

秀吉政治の「後継者」争いだった大坂の陣。関ヶ原合戦以後も西国を掌握できなかった家康権力の脆弱性を実証しつつ、〝敗者〟秀頼がこだわった大坂の有する重要性を指摘。首都をめぐる豊臣・徳川最後の攻防戦を描く。

978-4-642-06459-0　(13.6)

五野井隆史 著

⑭島原の乱とキリシタン

四六判　296頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

江戸幕府に一大衝撃を与えた百姓の蜂起、キリシタン一揆と喧伝された島原の乱。彼らはなぜ蜂起し敗れたか。島原・天草の宣教の実態や原城跡発掘成果から一揆の背景と経過をたどり、"敗者"キリシタンの実像に迫る。

978-4-642-06460-6　(14.9)

山本博文 著

⑮赤穂事件と四十六士

四六判　240頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

『忠臣蔵』で知られる赤穂事件。切腹(死)を恐れず「義」を重んじ主君の仇を討った浪士らは、果たして勝者だったのか、敗者だったのか。確かな史料に基づき事件の真相を再現。歴史における勝者と敗者について考える。

978-4-642-06461-3　(13.2)

大石　学 著

⑯近世日本の勝者と敗者

四六判　276頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

江戸時代にも、平和と文明化を推進した勝者と、それに異議申し立てを唱えた敗者との戦いの歴史があった。「徳川の平和」が達成した成果と課題、勝者から最後は敗者となった幕府の苦闘を見直し、豊かな近世像を描き出す。

978-4-642-06462-0　(15.5)

樋口雄彦 著

⑰箱館戦争と榎本武揚

四六判　284頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

戊辰戦争最後の激戦となった箱館戦争。新政府軍と戦い敗れた榎本武揚ら旧幕臣たちは、維新後の「明治」をどのように生き抜いたのか。国家の将来に心を砕き、日本の近代化に多大な役割を果たした「敗者」たちの後日譚。

978-4-642-06463-7　(12.11)

落合弘樹 著

⑱西南戦争と西郷隆盛

四六判　286頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

維新三傑と称された「英雄」西郷隆盛は、なぜ西南戦争を引き起こし「敗者」となったのか。詳細な戦史から薩軍の敗因と結果を分析。西郷のカリスマ性がもたらした内戦の責任も追及し、近代史における西南戦争を問い直す。

978-4-642-06464-4　(13.9)

筒井清忠 著

⑲二・二六事件と青年将校

四六判　272頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

雪が舞う帝都を震撼させた二・二六事件。蹶起した青年将校たちの"昭和維新"はなぜ失敗し、彼らは敗者とされたのか。計画から実行・鎮圧、後世の影響までを克明に再現。近代日本史上最大のクーデター事件の真実に迫る。

978-4-642-06465-1　(14.8)

古川隆久著

⑳ポツダム宣言と軍国日本

四六判　240頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)

ポツダム宣言を受諾、再出発した〝敗者〟日本。軍国化への道と太平洋戦争の敗北から何を学ぶことができるのか。最新の研究成果を駆使して敗因を分析し、そこから得た教訓が戦後日本にいかなる影響を与えたのかを探る。
978-4-642-06466-8　(12.12)

人と自然との関わりを捉えなおし、豊かな日本の歴史を語る新視点の通史。

環境の日本史　全5巻

全巻セット＝ 25,850円(23,500)

平川　南編

①日本史と環境　―人と自然―

A5判　272頁　原色口絵4　**4,730円**(4,300)

なぜ、いま「環境の日本史」なのか。日本列島の気候や地形の変動を復原しつつ、植物や動物と人が歩んだ歴史を解明。また、生業、宗教、古地図などから自然観や環境観の変遷をたどり、環境問題の展望を歴史のなかに見出す。
978-4-642-01723-7　(12.11)

三宅和朗編

②古代の暮らしと祈り

A5判　332頁　原色口絵4　**5,280円**(4,800)

古代の人々はどのように自然環境と向き合っていたのか。環境の変化が及ぼす日常生活への影響や、災害・飢饉・疫病・火災への対応を解明。古代伝承や考古資料などを手がかりに、自然への心性や信仰の実像に鋭く迫る。
978-4-642-01724-4　(13.2)

井原今朝男編

③中世の環境と開発・生業

A5判　334頁　原色口絵4　**5,280円**(4,800)

複雑な気候と変化に富んだ地形をもつ日本列島。豊かな自然が生物多様性を生み出すなか、中世ではいかなる開発が行われ生業が発展したのか。資源の枯渇を防ぐための工夫などから、生活基盤を支えた自然環境の特質に迫る。
978-4-642-01725-1　(13.3)

水本邦彦編

④人々の営みと近世の自然

A5判　304頁　原色口絵4　**5,280円**(4,800)

大規模な開発が進んだ江戸時代。鉱山開発と資源枯渇、津波など自然災害の恐怖、出産や医療、里山利用と動植物の生態、各地の名産品、農業と害虫などから、人々がどのように自然と向き合ってきたのかを解明する。
978-4-642-01726-8　(13.1)

鳥越皓之編

⑤自然利用と破壊　―近現代と民俗―

A5判　304頁　原色口絵4　**5,280円**(4,800)

産業の発展に伴う生活環境や価値観の変化、都市化で失われていく自然、災害の発生と復興など、人びとはいかに自然を利用し破壊してきたのか。現代社会が抱える環境問題にアプローチし、未来への可能性を模索する。
978-4-642-01727-5　(13.6)

〝世界〟を知り〝日本〟を知る ― 対外関係史研究の到達点を示すシリーズ！

日本の対外関係　全7巻

品切＝⑦

荒野泰典・石井正敏・村井章介編

①東アジア世界の成立

A5判　346頁　**6,050円**(5,500)

日本列島と海を介した朝鮮半島、中国大陸との交流に光をあて、中国史料にみえる倭人の登場や卑弥呼・倭の五王の国際外交など、大和王権成立にいたる対外関係の実像を描き出す。巻頭に対外関係史研究の総説を収録する。
978-4-642-01701-5　(10.6)

荒野泰典・石井正敏・村井章介編

②律令国家と東アジア

A5判　346頁　**6,600円**(6,000)

隋唐帝国の登場により、新たな国際情勢への対応を余儀なくされる東アジア諸国。朝鮮三国の動乱と倭国・日本への影響、律令国家の成立と華夷思想の形成、遣唐使の活躍、都城制の展開など、激動の東アジア世界を描く。
978-4-642-01702-2　(11.5)

荒野泰典・石井正敏・村井章介編

③通交・通商圏の拡大

A５判　352頁　**6,600円**(6,000)

遣唐使以後も、海商の活動により、さまざまな人や物が往来し、正式な国交こそ開かれないものの、宋や高麗・契丹などとの交流が展開された。拡大を続ける東アジア通商圏の重要な市場として歩み続ける日本の諸相を描く。

978-4-642-01703-9　(10.12)

荒野泰典・石井正敏・村井章介編

④倭寇と「日本国王」

A５判　346頁　**6,600円**(6,000)

蒙古の脅威、倭寇の激化、禅宗界の交流など、複雑かつ多様化する東アジア世界。室町将軍はなぜ、明からの「日本国王」冊封を望んだのか。王権から民衆社会まで、豊かな対外交流を多面的に描き、激動の中世日本に迫る。

978-4-642-01704-6　(10.7)

荒野泰典・石井正敏・村井章介編

⑤地球的世界の成立

A５判　342頁　**6,600円**(6,000)

成長する東アジア、ヨーロッパ勢力の東漸。地球的世界の成立に対応しつつ変貌していく日本。海外との人・モノ・情報の流通を管理・統制して平和を維持し、中華的秩序から自立して、独自の小帝国を形成する日本を描く。

978-4-642-01705-3　(13.9)

荒野泰典・石井正敏・村井章介編

⑥近世的世界の成熟

A５判　332頁　**6,600円**(6,000)

たがいに緩やかにつながりながら、それぞれに固有の社会と文化を成熟させた日本と東アジア諸国。一方、欧米の動向を中心に大きく変動し始める地球的世界！　その対比の中に、「開港」前夜の日本の実情と可能性を描く。

978-4-642-01706-0　(10.11)

原始・古代から近現代の戦争遺跡まで、貴重な歴史遺産〝史跡〟をもとに歴史の流れを叙述

史跡で読む日本の歴史　全10巻

【企画編集】佐藤　信

品切＝②④⑩

玉田芳英編

①列島文化のはじまり

四六判　304頁　原色口絵4　**3,080円**(2,800)

日本列島に生きた原始古代人は、どんな家に住み、何を食べ、どのように神へ祈りを捧げたのか。狩猟採集から定住農耕生活へと変化をとげ、やがて国家の形成へとむかう彼らの時代を、地中に残された史跡から復元する。

978-4-642-06409-5　(09.11)

森　公章編

③古代国家の形成

四六判　288頁　原色口絵4　**3,080円**(2,800)

日本の古代国家はどのように成立したのか。飛鳥の宮と藤原京の遺跡から国家支配の中枢を、大宰府・水城や古代山城から地方支配の様相を明らかにする。高松塚・キトラ古墳、寺院や石碑など文化的側面も併せて描く。

978-4-642-06411-8　(10.2)

増渕　徹編

⑤平安の都市と文化

四六判　288頁　原色口絵4　**3,080円**(2,800)

桓武天皇による新たな王都＝長岡京・平安京より京外の白河・鳥羽へ政権拠点が移行する院政時代へ。初期荘園や平安仏教、摂関家の宇治や平泉などの平安遺跡から、日本の風土に育まれた独特の文化が花開いた時代に迫る。

978-4-642-06413-2　(10.5)

高橋慎一朗編

⑥鎌倉の世界

四六判　286頁　原色口絵4　**3,080円**(2,800)〈僅少〉

東国に成立した武家政権は、人・物・情報の全国的大移動を促し、交通・産業の発展をもたらした。都市鎌倉、荘園と居館、鎌倉仏教、金沢文庫、元寇防塁、南北朝遺跡など、主要な関連史跡から、躍動する人々の姿を再現。

978-4-642-06414-9　(10.1)

小島道裕編

⑦戦国の時代

四六判　264頁　原色口絵4　**3,080円**(2,800)

戦国大名の拠点や決戦の場につくられる城はどのように発達したのか。城下町・寺内町など続々と誕生する都市、窯業や鉱業の発展、庭園に代表される室町文化。日本の転換点となる時代の史跡を多角的な視点で読み解く。

978-4-642-06415-6　(09.12)

服部英雄編

⑧アジアの中の日本

四六判　336頁　原色口絵4　**3,080円**(2,800)

アジアという視点なくして、史跡は語れない。朝鮮半島に築かれた倭城、キリシタンの遺跡、南蛮交易都市＝堺・平戸・豊後府内・長崎、琉球王国とグスク、アイヌとチャシなど、史跡から浮かび上がるアジアとの交流を描く。
978-4-642-06416-3　(10.8)

岩淵令治編

⑨江戸の都市と文化

四六判　312頁　原色口絵4　**3,080円**(2,800)

武士の支配のもと、「平和」な社会では、都市が生まれ、各地で多様な文化が育まれた。江戸・大坂・金沢の城と城下町、宿場町や、瀬戸・美濃の窯跡、大名家墓所、庭園、教育関連の史跡から、江戸時代の一面を読み取る。
978-4-642-06417-0　(10.6)

街道の日本史 全56巻

【企画編集委員】木村茂光・佐々木潤之介・藤田 覚・外園豊基・山口 徹

品切＝①～⑥⑧～⑬⑮～㉙㉛～㊾㊷㊺㊻

大石直正・難波信雄編

⑦平泉と奥州道中

四六判　292頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)〈僅少〉

「夏草や兵どもが夢のあと」と詠まれた平泉、北上川の水運と奥州道中。蝦夷社会の実態、奥州藤原氏の盛衰、葛西・大崎一揆と伊達政宗など多彩な歴史と文化を再発見。高野長英や後藤新平ら郷土の偉人にも光を当てる。
978-4-642-06207-7　(03.8)

吉田俊純編

⑭常陸と水戸街道

四六判　304頁　原色口絵4　**2,530円**(2,300)〈僅少〉

常陸は歴史が変わろうとするとき、常に時代の魁となりながら、敗者の地位に甘んじてきた。平将門の乱、尊攘運動、自由民権運動など、この地方ならではの特質を追求。また、水戸学や光彩を放つ水戸画壇に地域文化を発見。
978-4-642-06214-5　(01.8)

本多隆成・酒井　一編

㉚東海道と伊勢湾

四六判　312頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)〈僅少〉

江戸と京都を結ぶ「海つ道」＝東海道の吉原宿から亀山へ。四日市を起点に伊勢路で神宮へ向かう。今川・織田・徳川氏の動向や、伊勢神宮などの歴史を訪ね、東西文化の伝達路として重要な役割を果たした特質を探る。
978-4-642-06230-5　(04.1)

長野　暹編

㊿佐賀・島原と長崎街道

四六判　286頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

雲仙普賢岳、有明海、佐賀平野など、表情豊かな佐賀・長崎。吉野ヶ里や島原・天草一揆、シーボルト、幕末の佐賀藩、長崎の原爆、諫早湾干拓問題など、独自の歴史を再発見。クリーク農業や伊万里焼、郷土の偉人にも迫る。
978-4-642-06250-3　(03.9)

松本寿三郎・吉村豊雄編

㊶火の国と不知火海

四六判　286頁　原色口絵4　**2,860円**(2,600)〈僅少〉

霊峰阿蘇と不知火海を擁し、独特な風土の中で、「もっこす」気質を生んだ熊本。火の国神話、熊本藩、西南戦争など多彩な歴史を追求。時習館、キリシタン信仰、加藤清正、横井小楠などに豊かな文化と人間を再発見する。
978-4-642-06251-0　(05.6)

安藤　保・大賀郁夫編

㊸高千穂と日向街道

四六判　274頁　原色口絵4　**2,530円**(2,300)〈僅少〉

黒潮と照葉樹林の国、大隅・日向。ここに生きる人びとは、温暖な気候の恵みと自然の猛威を共に受け入れて、独特の生業と文化を育んできた。伝統を重んじながら新しい地域づくりを行なってきた南国の歴史を描く。
978-4-642-06253-4　(01.2)

三木　靖・向山勝貞編

㊹薩摩と出水街道

四六判　286頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)〈僅少〉

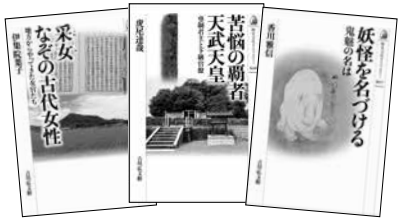
桜島を望むシラス台地、薩摩。西郷隆盛や大久保利通を生んだこの地は、都から離れ、東アジアとの交流により、自立した個性を育んだ。古代隼人の世界、島津氏と外城制、西南戦争など多彩な歴史と独自の文化を再発見。
978-4-642-06254-1　(03.7)

一冊の本から広がる知的冒険の旅へ

歴史文化ライブラリー

毎月刊行中　書名横の数字は刊行番号

▶タイトルの下に（オンデマンド版）とあるものは、書籍の内容をデジタルデータで保存し、ご注文を戴いた時点で製作するシステムの書目です。ご注文をお受けするたびに、1冊ずつ製作いたしますので、お届けできるまで3週間程度かかります。
なお、受注製作となりますのでキャンセル・返品はお受けできません。あらかじめご了承下さい。



埴原和郎著

日本人の誕生 ―人類はるかなる旅― 1

四六判　224頁　口絵1丁　**1,870円**(1,700)

さまざまな特徴をもつ日本民族はどこからきて、どのように形成されてきたか。その謎を、人類進化の壮大なドラマの中で、ごく普通の集団として生まれたことを追求。人種偏見や差別がいかに根拠のないものかを浮彫りにする。

978-4-642-05401-0　(96.11)

宮田　登著

歴史と民俗のあいだ 2

―海と都市の視点から―

(オンデマンド版)　四六判　218頁　**2,530円**(2,300)

海に囲まれた列島の特質と都市化する民俗の多元化から、里のフォークロアに海・山・都市を交えた新しい民俗文化論が叫ばれている。黒潮の民間伝承や女護島伝説、都市の妖怪など、豊富なトピックを挙げ新視点を提示する。

978-4-642-75402-6　(初版 1996.11)

笹本正治著

中世の災害予兆 3

―あの世からのメッセージ―

(オンデマンド版)　四六判　208頁　**2,530円**(2,300)

自然に畏怖を感じていた中世の人びとは、地震・洪水・戦乱などの災害は神の摂理であり、その前兆があの世から送られてくると考えた。天文・動植物などに見られる様々な異変から、中世人が災害をどう予測していたかを考える。

978-4-642-75403-3　(初版 1996.11)

乾　宏巳著

江戸の職人 ―都市民衆史への志向― 4

(オンデマンド版)　四六判　222頁　**2,530円**(2,300)

今日の日本企業は、談合的・独占的体質が指摘され、市場の閉鎖性が批判されている。江戸という世界有数の消費都市における職人を対象に、職人仲間の成立や幕府との関係を追求し、民衆史の視点からその生活実態を解明。

978-4-642-75404-0　(初版 1996.11)

高村直助著

会社の誕生 5

(オンデマンド版)　四六判　236頁　**2,530円**(2,300)

現在、多くの人々が働いている「会社」というものは、日本でいつごろ、どのようにして誕生したのか。西洋から輸入した「会社」というシステムが日本全土を覆っていった原因をさぐり、「日本株式会社」の原風景を描く。

978-4-642-75405-7　(初版 1996.11)

高田良信著

世界文化遺産　法隆寺 6

(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)

法隆寺は、最古の木造建築として「世界遺産条約」に登録された。創建時から1400年を支えてきたものは何か、聖徳太子信仰と昭和資財帳を通して描く。また創建・再建を巡る謎を、藤ノ木古墳や新発見の宝物から解明。

978-4-642-75406-4　(初版 1996.11)

久野　昭著

日本人の他界観 7

(オンデマンド版)　四六判　192頁　**2,530円**(2,300)

古来、日本人は死後の世界＝他界に親しみを抱いてきた。それは外来宗教の受容とさまざまな変遷をへて平安時代に定着する。この他界観を、現世に生きる者の眼で再構成し、そこにこめられていた日本人の思いを追求する。

978-4-642-75407-1　(初版 1997.2)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

神野清一著
卑賤観の系譜 8
(オンデマンド版) 四六判 222頁 **2,530円**(2,300)

21世紀間近の現代社会も、さまざまな差別を内包し生成している。身分と差別を生み出した歴史の原点にかえり、卑しい身分とされた人びとが、何故に差別されることになったのか、天皇制や宗教思想などを通して解明。
978-4-642-75408-8 (初版 1997.2)

深井甚三著
江戸の旅人たち 9
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

江戸時代は旅の時代だった。旅の風俗や習慣、街道や宿場の光景、道中で出会う危険や怪異など、さまざまな旅と旅人の世界を通して、定住社会といわれる江戸時代を見直し、そこに生きた人びとの等身大の歴史を描き出す。
978-4-642-75409-5 (初版 1997.2)

戸田金一著
国民学校 —皇国の道— 10
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

国民学校は、1941年「皇国の道に則り」、学童を銃後の戦士として「錬成」する目的をもって生れた。敗戦後、その実態を知るべき書類の多くは焼却されたが、奇跡的に残された資料から、教育の内容と悲劇を追求する。
978-4-642-75410-1 (初版 1997.2)

坂詰秀一著
太平洋戦争と考古学 11
(オンデマンド版) 四六判 234頁 **2,530円**(2,300)

アジア・太平洋地域の侵略から敗戦にいたる考古学は、「空白の時期」ととらえられてきた。本書は「植民地・肇国の考古学」の実態を追求し、激動の時代に生きた考古学者の群像をダイナミックに描いた考古学の歴史である。
978-4-642-75411-8 (初版 1997.4)

大橋一章著
飛鳥の文明開化 12
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

わが国最古の寺院—飛鳥寺。それは仏教という新文化の伝来により造営され、それまでの文化を一変させた象徴であり、飛鳥における文明開化のさきがけでもあった。美術史の立場から仏教伝来と飛鳥寺の関連を解きほぐす。
978-4-642-75412-5 (初版 1997.4)

柴 桂子著
近世おんな旅日記 13
(オンデマンド版) 四六判 222頁 **2,530円**(2,300)

江戸時代の女性は、封建社会に耐えて生きるイメージが強いが、さまざまな旅に出掛ける女性たちもいた。女性の旅日記から旅の実態や旺盛な活動と、それが彼女たちをいかに変身させ視野を広げさせたかをリアルに描く。
978-4-642-75413-2 (初版 1997.4)

有山輝雄著
甲子園野球と日本人 14
—メディアのつくったイベント—
(オンデマンド版) 四六判 206頁 **2,530円**(2,300)

今や国民的行事と化した高校野球大会。全国を興奮のるつぼに引き込む汗と涙と感動のドラマ、その始まりには新聞社の社運を賭けた拡張競争があった。80年に及ぶその歴史をたどり、日本独特の野球観の形成を考える。
978-4-642-75414-9 (初版 1997.4)

倉石忠彦著
民俗都市の人びと 15
(オンデマンド版) 四六判 220頁 **2,530円**(2,300)

都市は、新しいものをつぎつぎと作り出し消費する、複雑な存在である。この都市の人びとのライフスタイルを追求し、その背後にある時空を超えて流れる基層文化を発見する。その方法として「民俗都市の構想」を提示。
978-4-642-75415-6 (初版 1997.6)

村武精一著
アニミズムの世界 16
(オンデマンド版) 四六判 220頁 **2,530円**(2,300)

自然に対して生命を感じ、崇拝する信仰＝アニミズム。死霊崇拝を中心に、日本列島から東南アジアにかけてのアニミズムの実態を、豊富な事例をもとに明らかにし、人間の心の底に横たわる自然への思いを見つめなおす。
978-4-642-75416-3 (初版 1997.6)

新井孝重著
悪党の世紀 17
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

悪党は武装して歴史に登場した。派手な甲冑、光りきらめく太刀・長刀のいでたちは、綾羅錦繡に通じる反逆の表象でもあった。ゲリラ戦の楠木正成、バサラの佐々木道誉らをまじえ、内乱を生きた人間の意識と行動にせまる。
978-4-642-75417-0 (初版 1997.6)

山田　朗著
軍備拡張の近代史 18
—日本軍の膨張と崩壊—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)
日本はなぜ太平洋戦争に負けたのか。その原因は明治以来の軍備拡張の歴史のなかにあった。近代日本の戦略構想や兵器開発の矛盾、軍組織の特徴などから、軍拡の恐怖と軍備コントロールの重要性を明らかにする。
978-4-642-05418-8　(97.6)

川田　稔著
柳田国男 —その生涯と思想— 19
(オンデマンド版)　四六判　202頁　**2,530円**(2,300)
民俗学の創始者柳田国男は、伝統的な生活文化と氏神信仰を描き出し、日本人とは何かという問題に迫ろうとした。その背景には学問によって世を救うという強烈な意志があった。それは混迷する現代へのメッセージである。
978-4-642-75419-4　(初版 1997.8)

近藤好和著
弓矢と刀剣 —中世合戦の実像— 20
四六判　240頁　口絵4　**1,870円**(1,700)
近代兵器が登場するまで、日本の武器の主流は刀だと誤信している人が多い。しかし中世の戦においては弓矢が主な武器で、鎧や兜はそれへの備えを第一に作られていた。豊富な実物調査を基に源平合戦の具体像を読み解く。
978-4-642-05420-1　(97.8)

金龍　静著
蓮　　如 21
(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)
蓮如は、本尊を中心とする宗派・教団をはじめてつくりあげた。助かる道でなく救われる道を説いた85年の生涯を、資史料を駆使して明らかにし、個人史に終わることなく教団史・仏教史・日本史上での意義を追究する。
978-4-642-75421-7　(初版 1997.8)

南　和男著
江戸の風刺画 22
(オンデマンド版)　四六判　208頁　**2,530円**(2,300)
いつの世もどこの世界でも、権力者に対する批判は存在する。幕政・幕閣を戯評し、人々の喝采を受けた風刺画は、時には厳しく断罪された。作者・板元の意図、民衆の評判などを総合的に捉え、江戸世相史の一面を鋭く描く。
978-4-642-75422-4　(初版 1997.8)

湯川洋司著
山の民俗誌 23
(オンデマンド版)　四六判　212頁　**2,530円**(2,300)
豊かな自然に育まれた山のむらの暮らしは、いま過疎化の波に洗われ、崩れ去る危機に直面している。日本各地の山村を歩く著者が、出会った古老の語る言葉の底に潜むものを探り、生きることの意味を現代に問いかける。
978-4-642-75423-1　(初版 1997.10)

福田アジオ著
番　と　衆 —日本社会の東と西— 25
(オンデマンド版)　四六判　210頁　**2,530円**(2,300)
関東と関西では、言葉や食物などを通して、生活・文化が違うと考えている人は多い。この相違はいかにして生れてきたのか。フィールド調査をもとに、東の「番」と西の「衆」をキーワードに日本社会の特質を解明する。
978-4-642-75425-5　(初版 1997.10)

金原左門著
福沢諭吉と福住正兄 26
—世界と地域の視座—
(オンデマンド版)　四六判　228頁　**2,530円**(2,300)
世界に眼をむけた合理主義者・福沢諭吉、二宮尊徳の高弟で報徳思想の実践者・福住正兄。西欧思想を取り入れながら、伝統の思考でそれを読み替え、世界と地域の視座から近代化を推進しようとした人々の理想と行動を追う。
978-4-642-75426-2　(初版 1997.10)

中村平治
インド史への招待 27
(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)
長い歴史をもち、今も独特の文化を世界に向けて発信しつづけている地・インド。インダス文明の興亡から今日の核問題、海外インド人の活動にいたるまで、様々な側面から、4000年の歴史をつづるインド通史。
978-4-642-75427-9　(初版 1997.12)

納富敏雄著
吉野ケ里遺跡 —保存と活用への道— 28
(オンデマンド版)　四六判　238頁　**2,530円**(2,300)
考古学史上未曾有の遺跡として注目をあびる吉野ケ里は、国・県一体となった歴史公園の整備が進んでいる。最先端の文化財保存活用計画の行政担当者が、古代遺跡の復元と地域活性化の問題から新しい遺跡整備の道を示す。
978-4-642-75428-6　(初版 1997.12)

佐々木　馨著

執権時頼と廻国伝説 29

(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)

鎌倉幕府の北条時頼は、諸国を行脚し困窮した御家人や農民を救済した名執権として伝承されている。この廻国伝説は史実だろうか。政治家としての足跡を追いながら、宿命的な日蓮との対決を通して仏教者の顔を発見する。

978-4-642-75429-3　(初版 1997.12)

有元正雄著

宗教社会史の構想 30

―真宗門徒の信仰と生活―

(オンデマンド版)　四六判　218頁　**2,530円**(2,300)

日本の近代化の中で、なぜ真宗門徒は苦しさに耐える倫理を持ちえたか、その信仰と生活の面から追究。正直・勤勉を旨とする熱心な真宗門徒の実態を歴史学・社会学・民俗学の方法で明らかにし、宗教社会史を提唱する。

978-4-642-75430-9　(初版 1997.12)

中村方子著

ヒトとミミズの生活誌 31

(オンデマンド版)　四六判　192頁　**2,530円**(2,300)

4億年以上地球上に生きつづけてきたミミズとヒトはどんな係わりをもってきたのだろうか。その考察のうえに、今日の環境破壊のありさまに警鐘を打ち鳴らす。ミミズが生態系にいかに重要な生物であるか再認識を迫る。

978-4-642-75431-6　(初版 1998.2)

小沢詠美子著

災害都市江戸と地下室 33

(オンデマンド版)　四六判　218頁　**2,530円**(2,300)

100万の人口を擁する江戸は、火事が頻発する災害都市でもあった。この江戸には無数の地下室＝穴蔵が設けられていた。江戸の特色といえる穴蔵の万般について、都市の構造とそこに暮らす人びとの生活実態を通して迫る。

978-4-642-75433-0　(初版 1998.2)

家近良樹著

浦上キリシタン流配事件 34

―キリスト教解禁への道―

(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)

明治6年、キリシタン禁制の高札が撤去された。しかし、政府にキリスト教弾圧を断念させたのは、通説のような諸外国の圧力だったのか。明治初年の大弾圧―浦上キリシタン流配事件を通して、政治と宗教の問題を考える。

978-4-642-75434-7　(初版 1998.2)

神部四郎次著

語りかける文化遺産 35

―ピラミッドから安土城・桂離宮まで―

(オンデマンド版)　四六判　236頁　**2,530円**(2,300)

現代文明が最も進歩した世界であるとの常識はいまや崩れつつある。人類に残された心と叡智の結晶である世界と日本の文化遺産。その設計者における心の世界の探訪により、物質から心への回帰の道を探る新たな挑戦の書。

978-4-642-75435-4　(初版 1998.4)

古橋信孝著

平安京の都市生活と郊外 36

(オンデマンド版)　四六判　208頁　**2,530円**(2,300)

平安京は、外国・神仏・自然などと接する境界的な空間＝郊外をもっていた。平安京の都市生活者の四季感や信仰、『源氏物語』の桂・宇治を通して、郊外認識を追究し、日本の都市が郊外と一体のものであったことを解明。

978-4-642-75436-1　(初版 1998.4)

平松令三著

親　鸞 37

四六判　240頁　原色口絵2　**1,870円**(1,700)

自己の思想信条には雄弁だった親鸞。だが、彼ほど私生活を語らなかった人もいない。曾孫覚如の「親鸞伝絵」を検証し、法然との出会い、越後流罪・関東教化の足跡と入滅にいたる苦悩の生涯を通して、素顔の親鸞に迫る。

978-4-642-05437-9　(98.4)

原田勝正著

鉄道と近代化 38

(オンデマンド版)　四六判　208頁　**2,530円**(2,300)

異文化として導入された鉄道は、わが国の交通・産業を飛躍的に発展させた。それは「文明の利器」にとどまらず、移動の自由をもたらし、新しい社会・文化の母胎となった。鉄道の受容と発展の過程から近代化を考える。

978-4-642-75438-5　(初版 1998.4)

白崎昭一郎著

森　鷗外 ―もう一つの実像― 39

(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)

文豪・森鷗外には、もう一つの顔がある。日清・日露戦争における数万の兵士の「脚気」による死に対して、上級軍医の彼は何も語らない。医師の眼を通して、森林太郎の生涯を追求し、国家組織に生きた彼の人間像を描く。

978-4-642-75439-2　(初版 1998.6)

片桐一男著
京のオランダ人 40
―阿蘭陀宿海老屋の実態―
(オンデマンド版) 四六判 226頁 **2,530円**(2,300)

鎖国時代に、ヨーロッパ人のなかで唯一日本との貿易を許されていたオランダ商人。彼らが江戸への参府中に京の町で見たものはなにか。新出史料を駆使して活写する、「阿蘭陀宿」に凝縮された異文化との交流とその実態。
978-4-642-75440-8 (初版 1998.6)

井口和起著
日露戦争の時代 41
(オンデマンド版) 四六判 228頁 **2,530円**(2,300)

20世紀初頭、列強の利権争奪戦の焦点となった東アジアのなかで、日本は主動的にロシアとの戦争への道を選択した。この「帝国」の時代を、戦争をめぐるさまざまな側面から描き、民衆が直面した新たな課題を解明する。
978-4-642-75441-5 (初版 1998.6)

伊藤康子著
闘う女性の20世紀 42
―地域社会と生き方の視点から―
(オンデマンド版) 四六判 206頁 **2,530円**(2,300)

経済大国と呼ばれる現代の社会でも、女性はまだまだ生きにくい。自立・平等を願い、女性は20世紀をどのように暮し、何をしてきたのか。地域での生き方と中央の動きを見通して描く、幸せを求め続けた女性の100年。
978-4-642-75442-2 (初版 1998.6)

蜷川壽惠著
学徒出陣 ―戦争と青春― 43
四六判 220頁 口絵1丁 **1,870円**(1,700)

昭和18年10月、泥しぶきをあげながら明治神宮外苑競技場を行進した2万人以上の学徒。彼らはいかに徴兵され、入隊後いかなる道をたどったのか。学徒出陣を経験した著者が、朝鮮人学徒にも目を配り、苦難の実態を解明。
978-4-642-05443-0 (98.8)

瀧浪貞子著
最後の女帝 孝謙天皇 44
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

堕落した女帝と評価されてきた孝謙＝称徳天皇。その復権を目指し、皇位継承問題や道鏡との関わりなど、錯綜する歴史を解きほぐす。新しい観点から宇佐八幡宮神託事件の真相と、皇統にたいする苦悩の決断を究明する。
978-4-642-75444-6 (初版 1998.8)

佐々木 克著
大久保利通と明治維新 45
第28回吉田茂賞受賞
四六判 228頁 **1,870円**(1,700)

使命感と決断力で徳川幕府を倒し、明治新政府を率いた大久保利通。冷徹非常な策謀家というイメージを払拭し、新国家の建設にむかって疾走した誠実な志の政治家の姿をえがきながら、明治維新に新たな光をあてる。
978-4-642-05445-4 (98.8)

中村羊一郎著
番茶と日本人 46
(オンデマンド版) 四六判 216頁 **2,530円**(2,300)

お茶は、日常茶飯事といわれるほど日本人の暮らしに根づいている。かつての庶民の茶＝番茶を求めて国内のみならず海外まで行脚し、産地・製法・利用法を比較分析する。列島文化の成立ちを、番茶を通して描く日本文化論。
978-4-642-75446-0 (初版 1998.8)

高良倉吉著
アジアのなかの琉球王国 47
四六判 180頁 口絵2 **1,870円**(1,700)〈僅少〉

琉球王国――それは中国や日本、朝鮮、東南アジアと活発に交流する海洋王国であった。王国の隆盛を支えた国際関係や波濤の海を越えた船舶の謎、国際港・那覇の舞台裏まで、アジアの架け橋となった歴史の風景を旅する。
978-4-642-05447-8 (98.10)

江守五夫著
婚姻の民俗 ―東アジアの視点から― 48
(オンデマンド版) 四六判 234頁 **2,530円**(2,300)

東アジアにおける諸民族の婚姻習俗を比較検討し、わが国の婚姻の原型を究明しようとするユニークな日本基層文化論。かつて柳田国男の「嫁入婚」中世起源説を批判し、学界に大きな衝撃を与えた著者の最新の成果。
978-4-642-75448-4 (初版 1998.10)

米田雄介著
正倉院と日本文化 49
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)

錦秋に開催される正倉院展は、古都奈良の風物詩として多くの人々を引付けてきた。人々を魅了する宝物を日本文化として正しく認識するために、正倉院と宝物の歴史を辿り、各時代の関心のあり方から歴史的意義を考える。
978-4-642-75449-1 (初版 1998.10)

価格は10%税込、( )内は本体価格

安田次郎著
中世の奈良 —都市民と寺院の支配— 50
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)

中世の奈良では、支配する寺院の衆徒と、支配される民衆は、それぞれ自治組織を形成し、対立しながらも、金を融通する講や雨乞い、祭や芸能を一緒に営んでいた。宗教都市の繁栄と、そこに生きる人々の生活・行動を描く。
978-4-642-75450-7 (初版 1998.10)

速水 侑著
地獄と極楽 —『往生要集』と貴族社会— 51
(オンデマンド版) 四六判 222頁 **2,530円**(2,300)

猛火の中を罪人が逃げ惑う凄惨な地獄と、荘厳甘美な極楽世界。この二つの風景は、今も日本人の意識の根底に生き続けている。その原点である『往生要集』は、どのような社会・時代的背景をもとに生れたのかを追究する。
978-4-642-75451-4 (初版 1998.12)

立川武蔵著
密教の思想 52
(オンデマンド版) 四六判 222頁 **2,530円**(2,300)

インド思想の中で、宇宙の根本原理を新しい方法によって証明する密教は、悟りを得るだけではなく、儀礼やマンダラを通じて、日常を肯定的に評価する。ネパール・中国などをへて日本に至る展開を巡り、その特質を解明。
978-4-642-75452-1 (初版 1998.12)

倉本一宏著
奈良朝の政変劇 —皇親たちの悲劇— 53
(オンデマンド版) 四六判 236頁 **2,530円**(2,300)

天平文化の花開いた奈良の都で、皇位継承権を持った天武天皇の子孫たちは、藤原氏の専権に反感を持つ氏族の策謀に巻き込まれ、次々と滅ぼされていった。数々の政変劇の実態を通して、日本古代国家の権力構造を探る。
978-4-642-75453-8 (初版 1998.12)

服藤早苗著
平安朝 女性のライフサイクル 54
四六判 218頁 原色口絵1丁 **1,870円**(1,700)

平安王朝の女性は、宮廷を飾る花ではなく、家政をとりしきり、時には政治まで動かす存在だった。生い立ちから結婚、子育て、老いにいたる年齢による家での役割分担、長寿を全うして至福の時を迎えるまでの一生を描く。
978-4-642-05454-6 (98.12)

渡邊守順著
比叡山延暦寺 —世界文化遺産— 55
(オンデマンド版) 四六判 230頁 **2,530円**(2,300)

最澄によって開創され、千古の法灯を今に伝える比叡山。その歴史と高僧たちの心を振り返り、法儀・行事に照明を当てる。また、厳しい修行の足跡と、堂塔や仏像などの文化財を巡り、世界文化遺産登録への意味を考える。
978-4-642-75455-2 (初版 1998.12)

金谷匡人著
海賊たちの中世 56
四六判 222頁 **1,870円**(1,700)

海賊とは何か。漁民として生活し、海の交易を担った人びとが、同時に「海賊」と呼ばれる存在でもあった。戦国時代の瀬戸内海を舞台に、どの大名にも属さず、独自のルールで海の世界を自由に生きた海賊たちの姿を描く。
978-4-642-05456-0 (98.12)

山本武利著
特務機関の謀略 57
—諜報とインパール作戦—
(オンデマンド版) 四六判 236頁 **2,530円**(2,300)

第2次大戦中、ビルマなどで暗躍した光機関。近年公開の米国立公文書館の特務機関や日本軍暗号通信解読文書(英・和文)から、連合国との熾烈な諜報・宣伝活動の実態、悲惨な結末となったインパール作戦の敗因を探る。
978-4-642-75457-6 (初版 1998.12)

川村 湊著
文学から見る「満洲」 58
—「五族協和」の夢と現実—
(オンデマンド版) 四六判 198頁 **2,530円**(2,300)

戦後の日本文学は、満洲国崩壊のなかから始まった。戦前・戦中の「満洲」を舞台に、多くの文学者たちによって展開された「満洲文学」とは何だったのか。異郷の地での文学という窓を通して、「理念国家」の現実を描く。
978-4-642-75458-3 (初版 1998.12)

佐々木邦世著
平泉中尊寺 —金色堂と経の世界— 59
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

古代・中世の東北に燦然と輝く奥州藤原氏の文化。平安美術の宝庫、中尊寺の歴史を斬新な視角から描写する。中尊寺に育った著者が、豊富な知識を縦横に駆使して虚と実を洗い出し、藤原氏とその文化の意味を解き明かす。
978-4-642-75459-0 (初版 1999.2)

南　和男著
幕末維新の風刺画 60
（オンデマンド版）　四六判　216頁　2,530円（2,300）
嘉永6年ペリー来航にはじまる幕末維新期は、多くの風刺画が発行され、江戸の庶民に喝采を博した。この動乱期を、庶民はどのように見て、いかなる感情を持ったのであろうか。風刺画を通してリアルに描き出した幕末世相史。
978-4-642-75460-6　（初版 1999.2）

今井雅晴著
捨聖（すてひじり）　一遍 61
（オンデマンド版）　四六判　224頁　2,530円（2,300）
衣食住・家族のすべてを捨て、「捨聖」と呼ばれた時宗の開祖一遍は、ひたすら「南無阿弥陀仏」と唱え、全国を遊行し念仏を勧めた。物質万能主義の現代人に、「捨てる」豊かさの意味を考えさせる、心のメッセージ。
978-4-642-75461-3　（初版 1999.3）

佐伯有清著
悲運の遣唐僧 —円載の数奇な生涯— 63
（オンデマンド版）　四六判　224頁　2,530円（2,300）
最後の遣唐留学僧となった円載は、在唐40年仏法を研鑽したが、帰朝の途次万巻の経典とともに大海の藻屑と消えた。唐において円珍と確執を生じ、破戒悪行僧とされた波瀾に富んだ生涯を追跡して千年の汚名をすすぐ。
978-4-642-75463-7　（初版 1999.4）

小泉和子著
道具と暮らしの江戸時代 64
（オンデマンド版）　四六判　220頁　2,530円（2,300）
江戸時代は、一般庶民まで生活が向上し、様々な日常生活の道具が生れ発達した。箪笥・櫓・厨房具などの家財道具を通して、暮らしや社会を再現。道具の徹底した利用の方法は、現代の物質万能主義の社会に警鐘を鳴らす。
978-4-642-75464-4　（初版 1999.4）

大山誠一著
〈聖徳太子〉の誕生 65
四六判　214頁　1,870円（1,700）
日本史上の偉人＝聖徳太子。しかし、残された史料に厩戸王は実在するが、聖人としての太子は謎のベールに包まれている。太子のイメージはどのように成立したのか、奈良朝の政治地図の中に位置づけた革命的聖徳太子論。
978-4-642-05465-2　（99.5）

岡村秀典著
三角縁神獣鏡の時代 66
（オンデマンド版）　四六判　212頁　2,530円（2,300）
倭人が国際社会に躍り出た前1世紀から邪馬台国の時代まで、倭にもたらされた中国鏡は、1000面にも達する。東アジア世界の国際情勢を踏まえ、『魏志倭人伝』と中国鏡を照合し、倭国誕生と鏡にひそむ象徴性を追求する。
978-4-642-75466-8　（初版 1999.5）

山崎幹夫著
薬と日本人 67
（オンデマンド版）　四六判　240頁　2,530円（2,300）
日本の近代医学は、ドイツ医学の導入とともに誕生し著しい発展を遂げた。しかし導入された薬学が、長い間医療現場への参加を許されなかったのはなぜか。その経緯と経過から、今後の医療と薬学のあるべき姿を探る。
978-4-642-75467-5　（初版 1999.5）

浜林正夫著
人権の思想史 68
四六判　240頁　1,870円（1,700）
人権思想の成立を近代ヨーロッパに求め、アジアでの展開など、「生きる権利」を世界史の中に探る。植民地・女性問題などで、絶えず人権がふみにじられてきたことを通し、人権は「終わりなき旅」であることを宣言する。
978-4-642-05468-3　（99.6）

白川部達夫著
近世の百姓世界 69
（オンデマンド版）　四六判　234頁　2,530円（2,300）
かつて民衆が自らを「御百姓」と誇りをもって主張した時代があった。記憶の彼方に忘れ去られようとしている百姓の土地観念、人との関わりや自由の歴史構造をキーワードに、今も私たちを規制する思考や行動の原点を探る。
978-4-642-75469-9　（初版 1999.6）

圭室文雄著
葬式と檀家 70
四六判　240頁　1,870円（1,700）
日本人の葬祭は、今もほとんど仏教によって行われている。寺と檀家の関係はいつ生まれたのか。江戸幕府の宗教政策、寺請証文と身分保証、檀家制度の確立など、様々な視点から解明し、日本人と仏教のあるべき姿を展望。
978-4-642-05470-6　（99.7）

価格は10%税込、（　）内は本体価格

中野　実著
東京大学物語 —まだ君が若かったころ— 71
(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)

日本を代表するエリート養成機関として名高い東京大学。だが、その「若き日」の姿は意外に知られていない。明治期の東大生気質や教員の姿、卒業式と「恩賜の銀時計」など数々のエピソードからつづる、東京大学の歩み。
978-4-642-75471-2　(初版 1999.7)

朧谷　寿著
源氏物語の風景 72
—王朝時代の都の暮らし—
(オンデマンド版)　四六判　236頁　**2,530円**(2,300)

道長が栄華を誇った摂関時代、香り高い文学が花開き、宮廷の男女は雅を競った。現地を尋ね、絢爛たる王朝の都の変遷と貴族の暮らしや思いを、四季折々の景色や生活の移り変わりと密着させ、いきいきと描く。
978-4-642-75472-9　(初版 1999.8)

菅野則子著
江戸時代の孝行者 73
—「孝義録」の世界—
(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)

いつの世も、人は誉められると嬉しいものである。寛政改革には庶民教化策として善行者を書上げた「孝義録」が刊行された。その表彰者の群像を通して、庶民生活の諸相と為政者からみた期待される人間像を浮彫りにする。
978-4-642-75473-6　(初版 1999.8)

江後迪子著
隠居大名の江戸暮らし 74
—年中行事と食生活—
(オンデマンド版)　四六判　208頁　**2,530円**(2,300)

近世の大名は、時々国元へも帰ったが一生の大半を江戸で過ごした。殿様の仕事と経費、行事と儀礼、食事と献立など、暮らしの実態を克明に描く。隠居後の贅沢な食道楽と遊興は、グルメの現代人をも驚かせるものがある。
978-4-642-75474-3　(初版 1999.9)

清水　勲著
マンガ誕生 75
—大正デモクラシーからの出発—
(オンデマンド版)　四六判　208頁　**2,530円**(2,300)

手塚治虫のストーリー漫画や長谷川町子の４コママンガはどこからきたか。コマを送るストーリー漫画の画期的なスタイルが生み出されたのは、大正デモクラシーの時代だった。現代コミックへとつらなるマンガ出生の物語。
978-4-642-75475-0　(初版 1999.9)

今村啓爾著
縄文の実像を求めて 76
(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)

縄文時代は、三内丸山遺跡などの調査から平和で豊かなイメージがひろまっているが、それは実態といえるだろうか。繁栄の側面だけでなく、その限界、日本の周辺地域、つぎにくる弥生時代を見通して、その個性を探る。
978-4-642-75476-7　(初版 1999.10)

阿部　猛著
太平洋戦争と歴史学 77
(オンデマンド版)　四六判　208頁　**2,530円**(2,300)

軍部や政治家の戦争責任を追及するとき、歴史家みずからの軌跡も総括しなければ迫力を欠く。戦争期の歴史学界の実態を解きほぐし、時局に便乗する者、抗する者など、様々の群像を通して、歴史学の社会的責任を考える。
978-4-642-75477-4　(初版 1999.10)

菊池勇夫著
エトロフ島 —つくられた国境— 78
(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)

ラッコを獲って暮らすアイヌの千島列島は、エトロフを国境として江戸幕府に分断された。開発に駆り出される奥羽民衆、風俗改変を強いられるアイヌ。境界の島に渦巻く思惑と葛藤を見つめ、「国境」創出の意味を問う。
978-4-642-75478-1　(初版 1999.11)

奈倉哲三著
幕末民衆文化異聞 —真宗門徒の四季— 79
(オンデマンド版)　四六判　256頁　**2,530円**(2,300)

１年に何度も寺院に上って聴聞しては泣き笑った節談説教の紹介も交え、幕末における浄土真宗門徒の信仰生活を克明に描写。従来の民衆信仰像に大きな修正を迫り、近代へ向う真宗門徒が抱えていた思想変革の課題を考察。
978-4-642-75479-8　(初版 1999.11)

鈴木　淳著
町火消たちの近代 —東京の消防史— 80
(オンデマンド版)　四六判　220頁　**2,530円**(2,300)

近世の江戸で、最高の消火技術と独特の文化を誇った町火消。その技と気概は維新以後も生き続けた。だが、近代建築の登場と技術発展のなか、次第に消防の主役も変化していく。消防の近代化のなかから伝統と革新を考える。
978-4-642-75480-4　(初版 1999.11)

田辺勝美著
毘沙門天像の誕生 81
—シルクロードの東西文化交流—
(オンデマンド版) 四六判 206頁 **2,530円**(2,300)

七福神の１人として著名な毘沙門天像は、シルクロードの東西文化交流によって生まれたことを初めて解明。従来の定説を超越し、わが国の古代文化の源流の一つがギリシア・ローマ文化までさかのぼることを実証する。
978-4-642-75481-1 (初版 1999.12)

谷端昭夫著
茶の湯の文化史 —近世の茶人たち— 82
(オンデマンド版) 四六判 218頁 **2,530円**(2,300)

茶の湯は、日本を代表する伝統文化である。それはいかに生まれ今日に定着したのであろうか。利休の創造したわび茶を起点に、江戸時代の大名・豪商・公家による茶の展開と到達点を、茶人を通して描いた一大文化絵巻。
978-4-642-75482-8 (初版 1999.12)

外池 昇著
天皇陵の近代史 83
(オンデマンド版) 四六判 218頁 **2,530円**(2,300)

天皇・皇族などの墓地＝陵墓は、風雲急を告げる幕末、尊攘の嵐の中で被葬者が決められていく。文久の修陵、神武天皇陵の創出、揺れ動く天武持統天皇陵、陵墓と村・景りなど民衆との関係を探り、さまざまな問題に迫る。
978-4-642-75483-5 (初版 2000.1)

近藤典彦著
啄木短歌に時代を読む 84
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

社会が根底から再編される時代を生きた啄木。彼の高感度の頭脳から生み出された短歌は、同時代を鮮やかに映し出す。近代人の心の姿を、北海道や東京の近代を、時代閉塞の現状を、社会に進出する女性達を。今、啄木が新しい。
978-4-642-75484-2 (初版 2000.1)

野村純一著
新・桃太郎の誕生 85
—日本の「桃ノ子太郎」たち—
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

日本を代表する昔話「桃太郎」。しかし、私たちの知る話は、鬼退治をするお伽話にすぎない。怠け者・腕白者・便所の桃太郎など、全国に潜在する「変な桃太郎」たちを総動員。従来の「桃太郎常識」に挑戦する新桃太郎論。
978-4-642-75485-9 (初版 2000.2)

伊藤正敏著
日本の中世寺院 —忘れられた自由都市— 86
(オンデマンド版) 四六判 220頁 **2,530円**(2,300)

中世社会には、朝廷・幕府から独立した巨大寺院が存在した。僧侶・商人・職人などの人びとが集合する一大産業センターで、境内都市というべき自由空間を構成していた。境内都市を通して、新しい中世社会像を構築する。
978-4-642-75486-6 (初版 2000.2)

峯岸賢太郎著
皇軍慰安所とおんなたち 87
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)

勇気を持って性奴隷であったことを名乗り出、責任を回避する日本国家を厳しく告発する元皇軍慰安婦。慰安所の設置や慰安婦の徴達など、多くの証言・記録をもとに歴史方法論をもって真実を明かし、戦争・戦後責任を追及。
978-4-642-75487-3 (初版 2000.3)

森谷公俊著
王宮炎上 88
—アレクサンドロス大王とペルセポリス—
(オンデマンド版) 四六判 218頁 **2,530円**(2,300)

紀元前 334 年、アレクサンドロス大王は東方遠征に出発し、ペルシア帝国の首都ペルセポリスを占領、壮麗な王宮を焼き払った。王宮炎上事件の背後に隠された事実から、伝説に彩られた大王の実像を明らかにする。
978-4-642-75488-0 (初版 2000.3)

笠谷和比古著
江戸御留守居役 —近世の外交官— 89
(オンデマンド版) 四六判 214頁 **2,530円**(2,300)

江戸留守居役は幕府・他藩との連絡・折衝、情報の収集に当る外交官である。その変遷をはじめ、情報媒体の種類・性格など、多彩な活動の実態を丹念に描き出し、近世武家社会の情報戦略に果した役割と歴史的意義を探る。
978-4-642-75489-7 (初版 2000.4)

芝 健介著
ヒトラーのニュルンベルク 90
—第三帝国の光と闇—
四六判 232頁 **1,870円**(1,700)

ナチスの戦争犯罪が裁かれた街ニュルンベルク。だがこの街はナチスの全国大会が開かれた光あふれる祝祭空間であると同時に、ユダヤ人強制移送の暗黒の舞台でもあった。大衆運動としてのナチズムを新視点から描く。
978-4-642-05490-4 (00.4)

価格は 10％税込、( )内は本体価格

永田生慈著
葛飾北斎 91
(オンデマンド版) 四六判 234頁 **2,530円**(2,300)
「冨嶽三十六景」や、ヨーロッパ印象派への影響力で知られる北斎。しかし、この評価は、彼の90年にわたる生涯活動の一部にすぎない。多くの作品を通して、作画の変遷と特色を探り、全業績の見直しをはかった北斎入門。
978-4-642-75491-0 (初版 2000.5)

新谷尚紀著
神々の原像 —祭祀の小宇宙— 92
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)
日本における神とは何か。この難問に民俗学の立場から迫る。各地の神社や寺院の儀式と祭り、歴史と伝承などを通して、日本の神観念の淵源を探り、神がケガレの吸引浄化装置として生まれる仕組みを具体的に検証する。
978-4-642-75492-7 (初版 2000.5)

桜井邦朋著
天才たちの宇宙像 93
(オンデマンド版) 四六判 220頁 **2,530円**(2,300)
天文学は、文明の発生とともに長い歴史を持つ。今日のビッグバン宇宙像の形成について、古代からガリレオ、ニュートンをへて現代宇宙論の基礎であるアインシュタイン、ガモフらの業績を紹介し、宇宙像の将来を展望する。
978-4-642-75493-4 (初版 2000.5)

吉野孝雄著
宮武外骨(みやたけがいこつ) —民権へのこだわり— 95
(オンデマンド版) 四六判 212頁 **2,530円**(2,300)
明治22年に発行した『頓知協会雑誌』に帝国憲法のパロディを掲載して不敬罪で入獄。以来大正から昭和にかけて『滑稽新聞』などの雑誌で藩閥政府と対決。晩年は明治期の新聞雑誌の蒐集保存に情熱を傾けた硬骨の生涯。
978-4-642-75495-8 (初版 2000.6)

諏訪春雄著
歌舞伎の源流 96
(オンデマンド版) 四六判 222頁 **2,530円**(2,300)
歌舞伎は日本特有の芸能か。その源にあるものははたして何か。中国の民間芸能と共通する精神性や構造を解き明かし、日本的展開をとげた歌舞伎を問う。芸態はもとより、櫓・舞台・花道、役柄・隈取までを俎上にのせる。
978-4-642-75496-5 (初版 2000.6)

石渡美江著
楽園の図像 —海獣葡萄鏡の誕生— 97
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)
海獣葡萄鏡は、西方の葡萄唐草文に、「海獣」と呼ばれる動物が躍動する図像の鏡である。西から東へと、動物・鳥を含めた葡萄唐草文の分析を行ない、葡萄栽培、ワイン醸造、結実する楽園に至る図像のルーツを探る。
978-4-642-75497-2 (初版 2000.7)

宮家 準著
役行者(えんのぎょうじゃ)と修験道の歴史 98
四六判 222頁 原色口絵4 **1,870円**(1,700)
古来の山岳信仰と外来の仏教・道教や神道の習合によって形成された修験道。この日本独特の宗教は役行者を祖師と仰ぎ、それぞれの時代において理想的祖師象を創造した。役行者伝承の展開を通して、修験道の歴史を辿る。
978-4-642-05498-0 (00.7)

野村育世著
北条政子 —尼将軍の時代— 99
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)
草創期の鎌倉幕府を率い激動の時代を生きた尼将軍・北条政子。その政治手腕はもちろん、心性やライフサイクルも追い、新しい政子像を描く。同時に、彼女と共に躍動する中世女性たちをも照射する社会史としての人物伝。
978-4-642-75499-6 (初版 2000.8)

藤野 豊著
強制された健康 100
—日本ファシズム下の生命と身体—
四六判 236頁 **1,870円**(1,700)
ファシズム—それは人間を資源として戦争に動員する。15年戦争下に推進された、心身の健康を強制する政策と病者・障害者たちへの差別を論じ、「存在に値する命」を選別する国家体制を追及する鮮烈なファシズム論。
978-4-642-05500-0 (00.8)

副島弘道著
運慶 —その人と芸術— 101
四六判 224頁 原色口絵1丁 **1,870円**(1,700)
日本を代表する仏師運慶は、古代から中世への激動期に、清新な表現の仏像を生みだし、檜舞台に登場した。現場からの最新の研究成果にもとづいて、運慶の作品の本質と、日本の仏像と仏師の魅力を明快に説いた仏像論。
978-4-642-05501-7 (00.9)

牟田和男著
魔女裁判 —魔術と民衆のドイツ史— 102
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)

16～17世紀、魔女の烙印を押され、迫害を受けた人びとがいた。その告発は民衆のなかから沸き起こり、大勢の無実の人びとが処刑された。魔女裁判はどのように行なわれたのか。ドイツ史のなかの魔術と民衆をみつめる。
978-4-642-75502-3 (初版 2000.9)

山本武利著
紙芝居 —街角のメディアー— 103
(オンデマンド版) 四六判 186頁 **2,530円**(2,300)

日本独特のメディア・紙芝居は、戦前・戦後の子どもたちに絶大な人気を博した。やがて、テレビの登場で姿を消していくが、その伝統はアニメーションに受け継がれていく。紙芝居の歴史に、メディアの劇的な変遷を見る。
978-4-642-75503-0 (初版 2000.10)

佐伯有清著
魏志倭人伝を読む 上 104
—邪馬台国への道—
(オンデマンド版) 四六判 256頁 **2,530円**(2,300)

2～3世紀の日本の歴史を探る、第一級の史料『魏志倭人伝』。倭人伝を正確に読み理解するために、史記・後漢書・宋書・旧唐書などの史料を博捜し、注解と解釈を加える。上巻は邪馬台国への道と倭人社会を中心に収録。
978-4-642-75504-7 (初版 2000.10)

佐伯有清著
魏志倭人伝を読む 下 105
—卑弥呼と倭国内乱—
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

下巻は倭国の内乱、女王卑弥呼から壹與の誕生まで、倭人伝の後半部を読み解き、卑弥呼の女王像を浮彫にする。巻末に『魏志』倭人伝、『魏略』逸文、『後漢書』倭伝の原文と訓み下し文、および多数の参考文献一覧を収録。
978-4-642-75505-4 (初版 2000.11)

濱田耕策著
渤海国興亡史 106
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

698年に大祚榮が、靺鞨人と高句麗遺民を率いて高句麗の故地に建国、926年契丹に滅ぼされた渤海国。謎の多い230年の変遷を「民族史」に捉われることなく、渤海人を主人公に個性的な歴史を蘇らせた初の興亡史。
978-4-642-75506-1 (初版 2000.11)

坂井孝一著
曽我物語の史実と虚構 107
四六判 224頁 **1,870円**(1,700)〈僅少〉

苦労して宿願を遂げ、若くして散った曽我兄弟の物語は、人々の同情を集め、中世を通じて語り継がれ、歌舞伎にも取り入れられた。日本人の魂を揺さぶってきた敵討ちの歴史的真実と、物語を生み出した背景に迫る。
978-4-642-05507-9 (00.12)

木本雅康著
古代の道路事情 108
(オンデマンド版) 四六判 206頁 **2,530円**(2,300)

自然道の発展した小道と考えられてきた古代道路。しかし、近年の調査成果は、道幅10メートルを超える直線の計画道路であったことを証明する。なぜ大規模道路を建設したのか、その背景にある古代国家の実像に迫る。
978-4-642-75508-5 (初版 2000.12)

松井 健著
遊牧という文化 —移動の生活戦略— 109
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

遊牧は、ヒツジを追って砂漠を放浪する気ままな旅ではない。それは、自給よりも国家権力や市場を志向する政治的な営みである。移動によって人間の生活はいかに組織されるのか。西南アジア遊牧民の知へのあくなき洞察。
978-4-642-75509-2 (初版 2001.1)

中野照男著
仏画の見かた —描かれた仏たち— 110
(オンデマンド版) 四六判 192頁 **2,530円**(2,300)

仏画は〝ほとけ〟の世界観を分かりやすく描いている。如来はもとより菩薩・明王が中心となり、その仏と取巻くものたちが合わせて画面を構成。仏教の世界を求めて、中央アジア・中国・朝鮮・日本の多彩な仏たちを旅する。
978-4-642-75510-8 (初版 2001.1)

三宅和朗著
古代の神社と祭り 111
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)

古代の神社や祭りとはどのようなものか。京都の上賀茂神社の葵祭と御阿礼祭の歴史を通じ、天皇中心の王権の祭りと地方神社の祭りの相違を追及。人間と自然が共生する信仰の世界から、古代の神社や祭りを見直す。
978-4-642-75511-5 (初版 2001.2)

価格は10%税込、( )内は本体価格

林　玲子著
江戸と上方 —人・モノ・カネ・情報— 112
(オンデマンド版)　四六判　208頁　**2,530円**(2,300)
江戸270年間には様々な社会変動があった。江戸と上方の商人・商品・資本・情報の流れを、山城屋、白木屋、越後屋などの活動から生き生きと描く。商品流通を発展させた商人たちの姿は、現代にも多くのヒントを与える。
978-4-642-75512-2　(初版 2001.2)

石野博信著
邪馬台国の考古学 113
(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)
邪馬台国とは何か。女王卑弥呼の鬼道とは何か。最新の考古学成果をもとに2～3世紀の古代日本の実像を描く。各地の居館・祭殿・墳墓の比較や、土器・鏡・織物など出土遺物を通して、邪馬台国の位置と時代を検証する。
978-4-642-75513-9　(初版 2001.3)

木畑洋一著
第二次世界大戦 —現代世界への転換点— 114
(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)
世界史上、初めて地球全体が戦場となった第2次大戦。その原因と経過、ジェノサイド(集団虐殺)、植民地と民族独立運動、女性の戦争動員など、多様な問題を持つ大戦の構造に迫る。世界戦争は人類に何をもたらしたのか。
978-4-642-75514-6　(初版 2001.3)

長沢利明著
江戸東京歳時記 115
(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)
徳川家康の入府以来、世界的大都市に発展した「江戸東京」では、多彩な行事や祭が毎日のように行なわれている。それら一つ一つには、どんな信仰的な意味や目的があるのか。四季を通じて、江戸っ子の季節感覚を再発見。
978-4-642-75515-3　(初版 2001.4)

総合女性史研究会編
女性史と出会う 116
(オンデマンド版)　四六判　208頁　**2,530円**(2,300)
戦後の、女性差別が今より厳しかった時代に女性史を志した研究者が、自らの体験や女性史への思いを熱く語る。個人史の面白さを兼ね、女性解放を目指し創りあげた女性史の原点を探る。世代や男女を問わず読める一冊。
978-4-642-75516-0　(初版 2001.4)

後藤乾一・山﨑　功著
スカルノ 117
—インドネシア「建国の父」と日本—
(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)
「国家のためなら悪魔にも魂を売ることを辞さない」革命家スカルノ。光と影を併せ持つ生涯から母国独立への波乱の道程を描き、戦中・戦後に関わった様々な日本人を浮彫りにする。現代インドネシアの背景理解に最適。
978-4-642-75517-7　(初版 2001.5)

吉川龍子著
日赤の創始者 佐野常民(つねたみ) 118
(オンデマンド版)　四六判　236頁　**2,530円**(2,300)
幕末のパリ万博で、赤十字に感銘を受けた日本人がいた。西南戦争の最中、博愛社を創設し、日本赤十字社に発展させ事業を推進。看護婦の養成に力を注ぐなど、知られざる功績と赤十字の事業や歴史をたどり、実像に迫る。
978-4-642-75518-4　(初版 2001.5)

笠原　潔著
黒船来航と音楽 119
(オンデマンド版)　四六判　192頁　**2,530円**(2,300)
幕末のペリー来航は、日本への洋楽流入の歴史の新たな幕開けとなった。来航に関わる日米の記録から、交渉過程で流れたヘンデルやフォスターらの西洋音楽を鮮やかに再現。音楽が日米交渉に果した役割を描いた幕末秘史。
978-4-642-75519-1　(初版 2001.6)

関　幸彦著
神風の武士像 —蒙古合戦の真実— 120
(オンデマンド版)　四六判　194頁　**2,530円**(2,300)
「神風」伝説はどのように生まれ神国思想は後世の歴史意識にどんな影響を与えたのか。『蒙古襲来絵詞』などから「神国」の履歴をたどり、武士を誕生させた中世を捉え直す。議論の続く神国観念の問題に一石を投じる。
978-4-642-75520-7　(初版 2001.6)

清水眞澄著
読経の世界 —能読の誕生— 121
(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)
今、読経による癒しが注目されている。仏教を学ぶための読経は、日本に伝来すると祈禱や音楽・文学の中にも再構成され大きな影響を与えた。読経僧とそれを聴く人々を中心に音の世界に触れ、そのメカニズムを読み解く。
978-4-642-75521-4　(初版 2001.7)

篠川　賢著
飛鳥の朝廷と王統譜 122
(オンデマンド版)　四六判　220頁　**2,530円**(2,300)

6～7世紀の飛鳥では、王位継承をめぐる争いが絶え間なく続いた。王統の原理や王権のあり方を追求し、山背大兄王一族の滅亡事件や蘇我蝦夷・入鹿父子が討たれた乙巳の変、壬申の乱など、政権抗争の真相に鋭く迫る。
978-4-642-75522-1　(初版 2001.7)

高倉洋彰著
交流する弥生人 123
―金印国家群の時代の生活誌―
(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)

弥生人は、中国を盟主とする漢字文化圏に、初めて参入した国際人だった。彼らは列島内外と交流しながら、新たな知識を獲得し生活や文化を一新した。その活力の源泉は何か。弥生人の衣食住など日常生活を通して描く。
978-4-642-75523-8　(初版 2001.8)

諏訪春雄著
北斎の謎を解く ―生活・芸術・信仰― 124
(オンデマンド版)　四六判　208頁　**2,530円**(2,300)

葛飾北斎は、日蓮宗や妙見菩薩、老荘思想など、複雑な信仰の持ち主だが、数多くの転居や画号の由来から、ある貫徹した信念にたどり着く。生き方と信仰をめぐる六つの謎を解き、北斎芸術の本質をさぐる旅へいざなう。
978-4-642-75524-5　(初版 2001.8)

真野俊和著
日本の祭りを読み解く 125
(オンデマンド版)　四六判　192頁　**2,530円**(2,300)

いまも大勢の人々が参加し繰り広げられる祭りには、どのような時代背景や人々の思いが込められているのか。各地の民俗芸能から昭和天皇崩御の社会現象まで、様々な祭りの演出と歴史を探り、現代の祭りの意味を問う。
978-4-642-75525-2　(初版 2001.9)

岸野　久著
ザビエルの同伴者 アンジロー 126
―戦国時代の国際人―
(オンデマンド版)　四六判　242頁　**2,530円**(2,300)

ザビエルを日本に導き、キリスト教布教を助けた日本人アンジローとは何者か。南欧諸国での調査に基づく最新のザビエル研究から、アンジローの果した歴史的役割を探る。国際化の進む現代日本が学ぶべきその実像を描く。
978-4-642-75526-9　(初版 2001.9)

今西　一著
文明開化と差別 127
(オンデマンド版)　四六判　192頁　**2,530円**(2,300)

近代日本は、「国民」の形成に伴い、対極に「非国民」を作りだし、排外的な差別を行なった。賤民的芸能者の姿や「伝統文化」「国技」とされる歌舞伎・相撲の歴史、断髪令施行などから、国民国家の排他性の原因を暴く。
978-4-642-75527-6　(初版 2001.10)

佐々木利和著
アイヌ文化誌ノート 128
(オンデマンド版)　四六判　236頁　**2,530円**(2,300)

北海道・千島・樺太に暮らすアイヌの人びとは、周辺地域との交流の歴史のなかで多様な文化を創造した。日本・シベリア・北アメリカ・ヨーロッパの文化をも複合したその世界にわけ入り、アイヌ文化とは何かを考える。
978-4-642-75528-3　(初版 2001.10)

鷲津名都江著
マザーグースと日本人 129
(オンデマンド版)　四六判　254頁　**2,530円**(2,300)

イギリスで古くから親しまれ、子供から大人まで楽しめるマザーグース。明治初期に日本に伝来し幾度かブームを巻き起こした歴史から、日本人の外来文化受容の特性と、21世紀の国際社会で生きるための可能性を探る。
978-4-642-75529-0　(初版 2001.11)

中尾　堯著
日　　蓮 130
(オンデマンド版)　四六判　238頁　**2,530円**(2,300)

予言と法難で語られる日蓮の生涯は、奇跡に満ちた神聖な物語として描かれてきた。日蓮の系譜、蒙古襲来の予言、佐渡配流、身延の日々など、日蓮の法華経信仰の営みを歴史的に捉え、等身大の日蓮像を浮き彫りにする。
978-4-642-75530-6　(初版 2001.11)

伊藤喜良著
東国の南北朝動乱 ―北畠親房と国人― 131
(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)

「関東は戎夷なり」といわれた東国へ、果敢に身を投じた上流貴族北畠親房。彼は東国に何をもたらしたか。結城・宇都宮など有力豪族の動向や、鎌倉府などの成立過程を辿り、親房と東国武士にとっての南北朝動乱を探る。
978-4-642-75531-3　(初版 2001.12)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

鶴間和幸著
秦の始皇帝 —伝説と史実のはざま— 132
(オンデマンド版) 四六判 236頁 **2,530円**(2,300)

紀元前３世紀、中国最初の全国統一を成し遂げた秦の始皇帝。司馬遷の『史記』や新発見の出土資料、現地調査を駆使し、伝説の真偽に迫る。万里の長城を築き、今も兵馬俑に守られ眠る、謎に包まれた実像とその時代を描く。
978-4-642-75532-0 （初版 2001.12）

後藤昭雄著
天台仏教と平安朝文人 133
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

平安時代には仮名文字より価値のあるものとされ、仏教との関わりも深かった漢文学。漢詩文の作者でもあった最澄・良源ら天台僧たちと文人との交流を鮮やかに描き出す。興趣あふれる平安朝漢文学の世界へ誘う入門書。
978-4-642-75533-7 （初版 2002.1）

有山輝雄著
海外観光旅行の誕生 134
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

明治末期、新聞社のイベントとして登場した日本初の海外観光旅行は、欧米に追いつき帝国へとのし上がる物語の一環だった。「見る」「見られる」という観光のまなざしに秘められた、近代日本の自意識を浮彫りにする。
978-4-642-75534-4 （初版 2002.1）

藤野　敦著
東京都の誕生 135
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)

東京は江戸が単に変化したのではない。遷都でなく京都と並立する複都として位置付けられた明治維新期から、関東大震災・戦時体制をへて現代まで、東京の諸問題に対する人々や行政の対応と激動の歩みを描く〈東京〉入門。
978-4-642-75535-1 （初版 2002.2）

小澤　弘著
都市図の系譜と江戸 136
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

洛中洛外図・江戸図に描かれた建物や四季の風物、人々の生き生きした姿。これら都市図から何が分かるのか。都市図の変遷、描き方の移り変わりと、江戸をテーマとした作品を中心に、魅力溢れる都市図の世界へ招待する。
978-4-642-75536-8 （初版 2002.2）

保坂　智著
百姓一揆とその作法 137
(オンデマンド版) 四六判 202頁 **2,530円**(2,300)

越訴すれば本当に首を斬られたのか、むしろ旗のもとに竹槍で武装して集まったのか？　百姓一揆の通説的理解を再検討し、近世民衆運動の実態を解明。地域や時代を越えた一揆共通の作法にも迫る、新たな百姓一揆論。
978-4-642-75537-5 （初版 2002.3）

鈴木正崇著
女人禁制 138
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

女人禁制はなぜ生まれたのか。古来より山岳寺院や修験の山々は女性の参拝や修行を拒否してきた。今では女性差別とも見られる女人禁制を支えた思想背景を仏教教義や伝承に探りながら、日本人の穢れの観念を捉え直す。
978-4-642-75538-2 （初版 2002.3）

片山一道著
海のモンゴロイド 139
—ポリネシア人の祖先をもとめて—
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

南太平洋の島々で生きるポリネシア人の祖先は、アジアからのモンゴロイドだった。彼らはアジアのどこから来たのか。不思議な文様土器を持つ幻の民族ラピタ人とは。先史人類学の視点で描く、海の民の壮大な歴史ドラマ。
978-4-642-75539-9 （初版 2002.4）

鈴木公雄著
銭の考古学 140
(オンデマンド版) 四六判 226頁 **2,530円**(2,300)

全国各地で掘り出された銭は何を語るのか。皇朝十二銭や備蓄銭、埋葬に用いられた六道銭などから、貨幣流通史の復元や銭と人々との多様な歴史的関わりを鮮やかに解明。考古学の視点から銭の新たな歴史的価値を説く。
978-4-642-75540-5 （初版 2002.5）

米田雄介著
藤原摂関家の誕生 —平安時代史の扉— 141
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

道長を頂点とする藤原摂関家の栄華はいかに築かれたのか。平安遷都や数々の政変劇、外戚など、摂関政治の重要テーマを追求。執政者の自覚や日記の効用など、知られざる側面にも光を当て、平安時代史の新たな扉を叩く。
978-4-642-75541-2 （初版 2002.6）

小山静子著
子どもたちの近代 143
—学校教育と家庭教育—
(オンデマンド版) 四六判 192頁 **2,530円**(2,300)
教育の場とされる「学校」や「家庭」は、いずれも近代の産物だった。国家や学校、また家庭で、子どもへのまなざしはいかに変化してきたのか。女性や家族の視点を取り込み近代教育の成立を見直す、新しい教育史入門。
978-4-642-75543-6 (初版 2002.8)

加藤謙吉著
大和の豪族と渡来人 144
—葛城・蘇我氏と大伴・物部氏—
四六判 240頁 **1,870円**(1,700)
東アジアの大変動期である5・6世紀、朝鮮半島から大勢の渡来人が日本列島に移住してきた。畿内の有力豪族はなぜ彼らと結び付こうとしたのか。渡来系技術者の掌握をめぐる諸豪族の動向を探り、大和政権の実態に迫る。
978-4-642-05544-4 (02.9)

香月洋一郎著
記憶すること・記録すること 145
—聞き書き論ノート—
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)
戦争体験者や村の古老の語る「事実」の本質とは何か。彼らの心意を私たちはどのように受け止めたらいいのか。長年村々を歩き続けてきた著者が「聞き書き」が内にもつ曖昧さとその可能性を説き、現代民俗学を展望する。
978-4-642-75545-0 (初版 2002.10)

宇田川武久著
鉄砲と戦国合戦 146
四六判 224頁 原色口絵4 **1,870円**(1,700)
戦国合戦に多大な影響を与えた鉄砲。その背景には、新たな武芸「砲術」の誕生と、それを家業とする砲術師たちの命がけの活躍があった。なぜ日本人は火縄式にこだわり続けたのか。いくさのなかで発達した砲術の世界に迫る。
978-4-642-05546-8 (02.11)

飯倉晴武著
地獄を二度も見た天皇 光厳院(こうごんいん) 147
四六判 234頁 **1,870円**(1,700)
敗者は勝者から否定され、歴史から忘れ去られるのか。北朝初代の天皇、上皇となった光厳院は、南朝の後醍醐天皇や足利尊氏に翻弄され、2度も生き地獄を味わった。歴代天皇から外された悲劇の生涯とその時代を描く。
978-4-642-05547-5 (02.12)

林 玲子著
江戸店の明け暮れ 148
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)
「将軍家のお膝元」江戸には、商業の発達と共に、上方などから多くの出店〈江戸店〉が設けられた。呉服問屋白木屋の古文書から浮かび上がる江戸店の実態や奉公人の姿とは。大江戸に活躍した、知られざる商人の世界！
978-4-642-75548-1 (初版 2003.1)

板垣哲夫著
丸山真男の思想史学 149
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)
戦後の進歩的知識人の代表、思想史学のリーダーであった丸山真男。超国家主義、「原型」・「古層」を追究し、山崎闇斎学派、荻生徂徠、福沢諭吉らの思想構造を解明する丸山思想史学を再構成。丸山に対する論評を詳述。
978-4-642-75549-8 (初版 2003.2)

吉田俊純著
水戸学と明治維新 150
四六判 240頁 **1,870円**(1,700)
幕末、尊王攘夷の国体論を打ち立てた水戸学。会沢正志斎・藤田東湖らの思想と行動、その影響下にあった吉田松陰・横井小楠に迫る。明治維新の思想的推進力となり、近代天皇制イデオロギーとなった水戸学を問い直す！
978-4-642-05550-5 (03.3)

沖森卓也著
日本語の誕生 —古代の文字と表記— 151
四六判 224頁 **1,870円**(1,700)
文字を持たなかった日本人は、漢字を借りて自らの言葉を表記すべく試行錯誤・悪戦苦闘した。木簡や鉄剣銘文、『万葉集』等を読み解き、漢字伝来から万葉仮名を経て平仮名・片仮名の成立まで、日本語表記の変遷を再現。
978-4-642-05551-2 (03.4)

櫻井良樹著
宮本武蔵の読まれ方 152
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)
剣豪・宮本武蔵を描いた吉川英治の戦前の小説は、戦後もなお大衆文学として愛読されてきた。人びとはその生きかたに何を求め続けてきたのか？ 小説『宮本武蔵』の魅力に迫り、そこに映し出される日本文化を読み解く。
978-4-642-75552-8 (初版 2003.4)

価格は10%税込、( )内は本体価格

原田禹雄著
琉球と中国 —忘れられた冊封使— 153
(オンデマンド版) 四六判 204頁 **2,530円**(2,300)

琉球国とは何であったか、冊封使とは何か。琉球王国は明・清との朝貢関係のなかで独自の社会を築くが、その歴史は日本の歴史に消し去られた。冊封使関係の厖大な史料から中国と琉球の礼に貫かれた関係と歴史を描く。
978-4-642-75553-5 (初版 2003.5)

古瀬奈津子著
遣唐使の見た中国 154
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

遙か長安の都へ向う遣唐使には、先進文化の導入と外交関係を維持する使命があった。雨乞い儀礼を見聞し朝賀の儀式に参列するなど、彼らにとって儀礼・儀式とは何だったのか。知られざる唐の社会と文化を描く日中外交史。
978-4-642-75554-2 (初版 2003.5)

庄司俊作著
近現代日本の農村 155
—農政の原点をさぐる—
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

日本農業は大きな岐路に立つ。農村では担い手が減少し、戦後の農業保護政策は撤廃されつつある。明治より現代にいたる農村の実態に迫り、農政の原点をさぐる中で、戦後農政の歴史的位置と日本農業の再生を展望する。
978-4-642-75555-9 (初版 2003.6)

橋爪紳也著
モダン都市の誕生 156
—大阪の街・東京の街—
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

カフェー、ダンスホール。店頭のショーウインドーと煌めくネオンサイン。20世紀はじめ、都市には異国のにおいがする空間が現れる。西洋化・高層化・電化をキーワードに、盛り場のモダニズムとその「時代の気分」を描く。
978-4-642-75556-6 (初版 2003.6)

小野良平著
公園の誕生 157
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

明治になって公園はなぜ造られたのか。治安や伝染病予防のための街角の公園や、上野公園・皇居外苑など、パレードや博覧会が行われた国民統合の装置としての公園…。帝都東京の都市計画を探り、近代の公園を考える。
978-4-642-75557-3 (初版 2003.7)

小林英夫著
日中戦争と汪兆銘(おうちょうめい) 158
(オンデマンド版) 四六判 206頁 **2,530円**(2,300)

辛亥革命以後、国民国家形成のうねりの中に生きた汪兆銘。日中戦争「和平」のため日本軍に近づき、傀儡政権を南京に樹立したが…。裏切り者に転落した生涯と、政権下の内政、外交、庶民生活など、知られざる実像に迫る。
978-4-642-75558-0 (初版 2003.7)

奥富敬之著
鎌倉北条氏の興亡 159
四六判 240頁 **1,870円**(1,700)

北条氏は源氏から鎌倉幕府を乗っ取った悪党だったのか。北条政子と源頼朝、源平合戦、承久の乱、蒙古襲来、後醍醐天皇らの挙兵などから、鎌倉幕府と運命を共にした北条氏の興亡を辿り、今までの北条氏像を一新する。
978-4-642-05559-8 (03.8)

秋山 敬著
歴史の旅 武田信玄を歩く 160
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

風林火山を掲げ、戦国乱世を怒濤のごとく駆け抜けた信玄。城・寺社・合戦など、各地の史跡を、多数の写真と地図によりたどる。武田三代の歴史や「川中島の合戦」の真実に迫り、信玄の実像とその時代を訪ねる旅へ誘う。
978-4-642-75560-3 (初版 2003.8)

桜井邦朋著
夏が来なかった時代 161
—歴史を動かした気候変動—
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

冷夏が繰り返し襲った18～19世紀。気候の寒冷化は歴史に何をもたらしたか。火山の噴火、太陽活動、氷河の動きにその要因を探り、当時の世相を博物誌、文学や絵画、風俗から検証。気候変動と歴史の関係を科学する。
978-4-642-75561-0 (初版 2003.9)

松尾章一著
関東大震災と戒厳令 162
(オンデマンド版) 四六判 222頁 **2,530円**(2,300)

大震災直後の戒厳令下、6000名以上の朝鮮人や700名以上の中国人らが殺害された。軍隊と警察は,流言蜚語(デマ)に惑わされた民間人の自警団による虐殺を抑制する側だったのか？ デマの出所等から、隠された真実を暴く。
978-4-642-75562-7 (初版 2003.9)

横山　學著
書物に魅せられた英国人 163
―フランク・ホーレーと日本文化―
(オンデマンド版)　四六判　208頁　**2,530円**(2,300)

書物をこよなく愛した日本研究家フランク・ホーレー。1万冊に及ぶ「宝玲文庫」への愛着から日本滞在にこだわり、戦争で接収された書物の奪還に奮闘した。書物の蒐集に人生を翻弄された英国人の知られざる実像を描く。
978-4-642-75563-4　(初版 2003.10)

佐藤弘夫著
霊場の思想 164
(オンデマンド版)　四六判　208頁　**2,530円**(2,300)

人々は〈霊場〉に何を求めたのか。霊場の持つ不思議な雰囲気に惹かれたひとりの宗教学者が、延暦寺、四天王寺から恐山までを探訪。中尊寺金色堂のミイラや、立石寺の頭部のない人骨など、霊場が今も持つ多くの謎に迫る。
978-4-642-75564-1　(初版 2003.10)

山口　徹著
海の生活誌 ―半島と島の暮らし― 165
(オンデマンド版)　四六判　208頁　**2,530円**(2,300)

豊饒の海に囲まれた日本列島は、海と深く関わり独自の文化を育んできた。瀬戸内海や房総・伊豆に暮らす海民の多様な歴史と個性を追求し、日本人の基層にある〝海の心〟を探る。我々は海に生きる人々の姿に何を学ぶのか。
978-4-642-75565-8　(初版 2003.11)

渡辺尚志著
浅間山大噴火 166
(オンデマンド版)　四六判　214頁　**2,530円**(2,300)

天明3年、大音響とともに始まった浅間山大噴火。当時の人々は噴火をどのように受け止め、災害復興に向けていかなる知恵をしぼり努力を重ねてきたのか。歴史の中の浅間山大噴火を読み解き、現代社会への教訓を学ぶ。
978-4-642-75566-5　(初版 2003.11)

木戸雅寿著
よみがえる安土城 167
(オンデマンド版)　四六判　218頁　**2,530円**(2,300)

織田信長が天下布武の象徴とした壮麗な安土城はいかなる運命をたどったのか。最新の発掘成果等から、幻の城の隠された謎を解明。信長のデザインとセンス、夢の世界を探り、知られざる安土城の真の姿と新しい信長像に迫る。
978-4-642-75567-2　(初版 2003.12)

俵　元昭著
江戸の地図屋さん 168
―販売競争の舞台裏―
(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)

一見不正確な描写に、必要な情報がふんだんに盛り込まれ、大名屋敷や寺社を尋ねる当時必須の手引＝江戸切絵図。多くの需要と熾烈な出板競争の中、知恵と技術を尽し、究極の江戸図が追求され続けた歴史の舞台裏に迫る。
978-4-642-75568-9　(初版 2003.12)

山内　譲著
中世 瀬戸内海の旅人たち 169
(オンデマンド版)　四六判　206頁　**2,530円**(2,300)

古代より人とモノが行き交う瀬戸内海。旅人としての宣教師や戦国武将たちは、そこで何を見、どんな体験をしたのか。寄港先や航路から海賊の出没スポットと遭遇時の対処法まで知られざる中世瀬戸内海の世界を旅する。
978-4-642-75569-6　(初版 2004.1)

田口章子著
歌舞伎と人形浄瑠璃 170
(オンデマンド版)　四六判　208頁　**2,530円**(2,300)

今も多くの人々を魅了する歌舞伎と人形浄瑠璃。誕生以来つねに為政者の弾圧を受けながら、いかにして今日の伝統芸能へ発展したのか。〈女性原理＝肉体〉と〈男性原理＝ことば〉をキーワードに、その歴史と魅力に迫る。
978-4-642-75570-2　(初版 2004.1)

岩崎均史著
落語の博物誌 ―江戸の文化を読む― 171
(オンデマンド版)　四六判　192頁　**2,530円**(2,300)

落語の演出に欠かせない言葉の中から、忘れかけた文化を再発見。16題の噺に耳を傾け、話芸の中に語られる文物たちの素姓や生い立ちを軽快な筆致で紹介する。落語を楽しみ、落語に学ぶ、ユニークな〈江戸文化〉入門書。
978-4-642-75571-9　(初版 2004.2)

萩原秀三郎著
鬼の復権 172
(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)

鬼はどこからやってきたのか。中国や日本の「鬼やらい」や、祭りに登場する「鬼の杖」など、様々な時代や地方の鬼の姿を多くの写真とともに紹介する。現代人が忘れ去った〈他界〉との関係を明らかにする鬼の民俗誌。
978-4-642-75572-6　(初版 2004.2)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

中村俊介著
文化財報道と新聞記者 173
(オンデマンド版) 四六判 238頁 **2,530円**(2,300)

連日新聞を賑わす文化財報道。読者へ最新の発掘成果を伝える役割の一方、スクープ競争や誇大表現など、報道の論理が問われている。旧石器遺跡捏造事件や聖嶽洞穴問題へ鋭くメスを入れ、文化財報道のあり方を考える。
978-4-642-75573-3 (初版 2003.3)

橋谷 弘著
帝国日本と植民地都市 174
(オンデマンド版) 四六判 204頁 **2,530円**(2,300)

忘れてはならない負の記憶、植民地支配。日本人とアジアの人々との認識のギャップは、なぜ生まれたのか。旧植民地都市の姿から日本の植民地支配の特徴を浮彫りにし、今日のアジアと日本の問題を考える手がかりを示す。
978-4-642-75574-0 (初版 2004.3)

斎藤多喜夫著
幕末明治 横浜写真館物語 175
(オンデマンド版) 四六判 236頁 **2,530円**(2,300)

幕末、いち早く世界に開かれた横浜では多くの写真家たちが活躍した。下岡蓮杖に写真術を伝授した謎の外国人など、数々の新事実を写真とともに紹介。「古き日本」を写し撮った多くの写真家たちと横浜写真の魅力に迫る。
978-4-642-75575-7 (初版 2004.4)

内海愛子著
スガモプリズン —戦犯たちの平和運動— 176
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)

第2次大戦後、再軍備へ向かう政府に戦争反対の声をあげたBC級戦犯たち。名作「私は貝になりたい」は、その魂の叫びをもとに生まれた。戦犯たちのスガモプリズンでの思索と行動から、真の戦争責任とは何かを考える。
978-4-642-75576-4 (初版 2004.5)

大橋康二著
海を渡った陶磁器 177
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

日本で唐物として珍重された中国陶磁は、王朝の交替で衰退すると、肥前の国産磁器「伊万里」が注目され、日本の輸出磁器が誕生する。東南アジアからヨーロッパを席巻した陶磁器の知られざる歴史と交易の実態に迫る。
978-4-642-75577-1 (初版 2004.6)

熊谷公男著
古代の蝦夷と城柵 178
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

蝦夷とは何か。古代王権が北方世界との境界に設置した城柵は、蝦夷支配の軍事的拠点でもあり、南北両世界の交流の場でもあった。その多様な機能と蝦夷文化の誕生の歴史を探り、今も謎に包まれる蝦夷の実態に迫る。
978-4-642-75578-8 (初版 2004.7)

井上 俊著
武道の誕生 179
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)

武道はいかに誕生したのか。文明開化の時代、武士階級と結びついていた武術は、存続をかけて新しい道を模索する。講道館柔道をモデルに、格闘技興行や軍国主義の影響、戦後のスポーツ化など、知られざる武道の歴史を探る。
978-4-642-75579-5 (初版 2004.8)

川田 稔著
激動昭和と浜口雄幸 180
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

崇高な理念のもと、激動の昭和初期をリードした政党政治家〝浜口雄幸〟。その政治構想を、山東出兵から満州事変へと続く時代背景とともに、外交・内政の両面から描き出す。我々はこの歴史的経験から何を学ぶのか。
978-4-642-75580-1 (初版 2004.9)

神田千里著
土一揆(つちいっき)の時代 181
(オンデマンド版) 四六判 238頁 **2,530円**(2,300)

民衆が歴史の表舞台に登場した室町・戦国時代。飢饉や世上不安の中、掠奪の限りを尽くし、幕府に徳政を要求した土一揆は果たして村民の抵抗運動だったのか。その実態を検証し、民衆にとって土一揆とは何かを考える。
978-4-642-75581-8 (初版 2004.10)

渡邉 晶著
大工道具の日本史 182
(オンデマンド版) 四六判 220頁 **2,530円**(2,300)

人が石器を手にした時から大工道具の歴史は始まった。斧・鋸などはどのように発展してきたのか。様々な文献や絵画史料からその歴史を分りやすく解説。電動工具が主流の現代に、手道具がもつやさしさと重要性を説く。
978-4-642-75582-5 (初版 2004.11)

宮崎正勝著
グローバル時代の世界史の読み方 183
(オンデマンド版) 四六判 238頁 **2,530円**(2,300)

文明の出現から現在まで、都市とネットワークの成長から世界の歴史を地球規模でダイナミックに描く。イデオロギーやヨーロッパ中心史観を超え、グローバリゼーションが進む現代と変りゆく人類社会を鮮やかに読み解く。
978-4-642-75583-2 (初版 2004.12)

近藤好和著
騎兵と歩兵の中世史 184
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

武具の下剋上―。古代より続いた弓射騎兵から、南北朝期の打物(刀剣類)騎兵の登場を経て、戦国期の歩兵主体のいくさへ。合戦の大転換はなぜ起こったか。『平家物語』『太平記』や絵画史料から、中世合戦の真実に迫る。
978-4-642-75584-9 (初版 2005.1)

山口輝臣著
明治神宮の出現 185
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

日本最大の初詣スポット、明治神宮。なぜ20世紀の東京に、絵画館・競技場・記念館のある新しい神社が造られたのか。忘れられた「大正の大事業」の真相を掘り起こし、国民にとって明治神宮とは何だったかを考える。
978-4-642-75585-6 (初版 2005.2)

原田多加司著
古建築修復に生きる 186
―屋根職人の世界―
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

現代の我々が1000年以上も前から変わらない造りの建築を見られるのはなぜか。文化財修復に携わる屋根葺職人が匠の経験に裏打ちされた日本古来の技の世界を語る。コンピュータ化の時代に、技の熟練の大切さを考える。
978-4-642-75586-3 (初版 2005.3)

林 玲子・天野雅敏編
日本の味 醤油の歴史 187
四六判 222頁 **1,870円**(1,700)

キッコーマン・ヤマサ・ヒゲタなどに代表され、日本の食卓に欠かせない調味料＝醤油。関西や関東、北部九州を中心に、大手や地方中小メーカーの工夫を凝らした開発・販売の軌跡を辿り、〈日本の味〉誕生の舞台裏を描く。
978-4-642-05587-1 (05.4)

鈴木善次著
バイオロジー事始 188
―異文化と出会った明治人たち―
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)

進化論などの生物学＝バイオロジーは、明治の日本にどう受け入れられたのか。「神経」などの訳語の作成、教育や医学の西洋化、禁じられていた肉食の普及に奮闘した人びとの姿から、バイオロジーと近代化の関係を考える。
978-4-642-75588-7 (初版 2005.4)

中尾良信著
日本禅宗の伝説と歴史 189
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

鎌倉時代に栄西がもたらしたと思われがちな禅宗だが、実は奈良時代に伝来していた。中国禅宗が日本化された歴史と、初祖＝達磨が聖徳太子を助けて禅宗を伝えたという伝説から、日本禅宗のなりたちと特質に鋭く迫る。
978-4-642-75589-4 (初版 2005.5)

川口 良・角田史幸著
日本語はだれのものか 190
(オンデマンド版) 四六判 236頁 **2,530円**(2,300)

若者ことば、ら抜きことばなど、いま「乱れ」が嘆かれる日本語。だが「正統で純粋な日本語」は本当に存在するのか。敬語の変遷や人為的な「標準語」を探り、変わりゆく日本語の〝豊かさ〟〝美しさ〟を説く、新しい〈日本語〉論。
978-4-642-75590-0 (初版 2005.5)

岩田みゆき著
黒船がやってきた 191
―幕末の情報ネットワーク―
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)

鎖国から開国へと向かう大きな時代の流れを、人びとはどう感じていたのか。情報操作により民衆心理のコントロールをはかった幕府、独自に情報を入手した村人たちを通して、異国情報を求め奔走した幕末日本の姿を描く。
978-4-642-75591-7 (初版 2005.6)

寺島孝一著
アスファルトの下の江戸 192
―住まいと暮らし―
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

貧しさのなかに喜びを見出し、たくましく日々を送った江戸の人々。地下に眠る豊富な痕跡を絵画や文献と照らし合わせ、江戸庶民の姿を鮮やかに再現。飽食の現代を生きるわれわれに、真の豊かな生活とは何かを訴える。
978-4-642-75592-4 (初版 2005.6)

価格は10%税込、( )内は本体価格

南　和男著
江戸の町奉行 193
四六判　238頁　**1,870円**(1,700)
今で言う都知事や裁判所長官などを兼任し、激務のため過労死することも多かった江戸の町奉行。その職務と、配下の与力・同心の生活、贈収賄事件などの裁判記録を探り、時代劇のイメージとは異なる江戸の町奉行の姿を描く。
978-4-642-05593-2　(05.7)

二木謙一著
時代劇と風俗考証 194
—やさしい有職故実入門—
(オンデマンド版)　四六判　208頁　**2,530円**(2,300)
時代劇に見える宮廷を彩る女性や武士の装い、住居と乗り物、合戦シーンを、永年ドラマの風俗考証に携わってきた著者が、豊富な図版を用いて平易に解説。舞台裏エピソードもちりばめ、読むほどに時代劇が楽しくなる一冊。
978-4-642-75594-8　(初版 2005.7)

田端泰子著
乳母の力 —歴史を支えた女たち— 195
(オンデマンド版)　四六判　234頁　**2,530円**(2,300)
春日局、比企尼、今参局、藤原兼子ら歴史に名を残す乳母たち。天皇や将軍、戦国大名に仕え、多大な影響力を持った〈乳母の力〉とは何だったのか。乳母の役割と権勢の変遷を辿り、中世社会を陰で支えた実像に迫る。
978-4-642-75595-5　(初版 2005.8)

松井　健著
柳宗悦と民藝の現在 196
(オンデマンド版)　四六判　242頁　**2,530円**(2,300)
ダンディで美食家、旅先での人やものとの出会いをこよなく愛した柳宗悦。その等身大の生活と思考の現場から、生とテキストの緊張関係を解明。美と宗教哲学の思索のユニークな統一である「民藝」の意味を、大胆に論じる。
978-4-642-75596-2　(初版 2005.8)

宇佐美ミサ子著
宿場の日本史 —街道に生きる— 198
(オンデマンド版)　四六判　234頁　**2,530円**(2,300)
江戸時代、旅人が行き交う街道で栄えた宿場町。宿場の財政、旅籠屋で春をひさいだ飯盛女、人馬を提供した周辺の村、朝鮮通信使への豪華接待など、知られざる宿場運営のシステムとは。宿場を支えた人びとの姿が、いま蘇る。
978-4-642-75598-6　(初版 2005.9)

田中史生著
倭国と渡来人 —交錯する「内」と「外」— 199
四六判　234頁　**1,870円**(1,700)
古代日本の「内」と「外」を旅した渡来人。倭国と国際社会の関係を人・モノの移動から眺めれば、「古代のわが国」というイメージとは全く別の、社会や境界が浮かび上がる。従来の「日本史」像を強く揺さぶる、東アジア交流史。
978-4-642-05599-4　(05.10)

樋口雄彦著
旧幕臣の明治維新 201
—沼津兵学校とその群像—
(オンデマンド版)　四六判　222頁　**2,530円**(2,300)
江戸幕府の幕臣は、明治維新後、近代的な学制と高い教育内容の沼津兵学校を創設し、人材育成に努めた。やがて、各界で活躍の場を見出していった旧幕臣を通して、明治維新の敗者が近代社会でどう生きたのかを明らかにする。
978-4-642-75601-3　(初版 2005.11)

松尾剛次著
鎌倉 古寺を歩く —宗教都市の風景— 202
(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)
武家の都として知られる鎌倉の、宗教都市としての側面に光を当てる。僧侶や暗躍する陰陽師の実像を描き、多くの怨霊鎮魂の寺がある、知られざる宗教世界を解明。寺社を宗派別に収録・網羅した、格好の散歩の手引き。
978-4-642-75602-0　(初版 2005.11)

一ノ瀬俊也著
銃後の社会史 —戦死者と遺族— 203
(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)
戦死した兵士の家族は、一家の働き手を奪われる理不尽さをどう受け入れたのか。遺族への扶助料や未亡人への仕事斡旋など、国家が目指したシステムとしての「遺族」の形を検証。社会は戦争をどう支えたのかに鋭く迫る。
978-4-642-75603-7　(初版 2005.12)

篠原　徹著
自然を生きる技術 204
—暮らしの民俗自然誌—
(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)
亜熱帯のアジア、不毛のサバンナ、海や山などさまざまな場所で、人は生きるための技術を編み出し、日々を暮らす。世界各地で今も受け継がれている独自文化を探り、自然と共存する暮らしの技術とその大切さを説く。
978-4-642-75604-4　(初版 2005.12)

藤本正行著
武田信玄像の謎 206
(オンデマンド版) 四六判 234頁 **2,530円**(2,300)

堂々たる体躯と大入道のような頭、鋭い眼差し、髭をたくわえ威厳に満ちた容貌の「伝・武田信玄像」は、本当に信玄なのだろうか。像主の髻・家紋、絵師の印を手がかりに謎を解き真実に迫る。絵画鑑賞ポイントも満載。
978-4-642-75606-8 (初版 2006.1)

岩下哲典著
江戸の海外情報ネットワーク 207
四六判 190頁 **1,870円**(1,700)

鎖国下の江戸で、人びとはどのようにナポレオンやベトナム象などの海外情報を入手したのか。ペリーの砲艦外交やロシア軍艦の対馬占拠事件を分析。海外情報ネットワークが、ついには幕府の崩壊をもたらした姿を描く。
978-4-642-05607-6 (06.2)

細川博昭著
大江戸飼い鳥草紙 208
—江戸のペットブーム—
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

江戸時代、空前の小鳥ブームが起こった。癒しを求めて鳥を飼う人、それを商う人、生態を研究した人や図譜を残した人…。滝沢馬琴の日記に今と変わらぬ愛鳥家の姿を探り、飼い鳥文化と当時のペットブームの実態を描く。
978-4-642-75608-2 (初版 2006.2)

飛田範夫著
庭園の中世史 —足利義政と東山山荘— 209
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

中世びとが追い求めた理想郷＝庭園。足利義政が現実の政治から逃れて造った東山山荘(銀閣寺)、そのモデル西芳寺(苔寺)をはじめ代表的な庭園をわかり易く解説。河原者の活躍、名園の木石略奪などのエピソード満載。
978-4-642-75609-9 (初版 2006.3)

三保忠夫著
数え方の日本史 210
(オンデマンド版) 四六判 236頁 **2,530円**(2,300)

一匹、一双、一振…。日本人は物をどう数えてきたのか。中国の史書や正倉院文書に源流を探り、数え方の作法、方言など、日本独特の表現法を育んだ歴史を現代までたどる。数の世界を分かりやすく説いた〝数え方事典〟。
978-4-642-75610-5 (初版 2006.3)

坂田 聡著
苗字と名前の歴史 211
四六判 208頁 **1,870円**(1,700)

日本人の多種多様な苗字と名前は、何に起因するのか。その起源を探り、日本独特の苗字の歴史をたどる。家名と家制度、男性と女性の違い、現代の夫婦別姓問題など、様々な視点から分かりやすく説いた蓄あふれる書。
978-4-642-05611-3 (06.4)

佐道明広著
戦後政治と自衛隊 212
(オンデマンド版) 四六判 304頁 **2,750円**(2,500)

軍事をタブー視した戦後政治のなかで、自衛隊はどのように成長したのか。官僚による統制と財政的制約を受けてきた歴史を探り、日米関係や防衛政策の内実を解明。新たな脅威のもと、転換点に立つ自衛隊の実態に迫る。
978-4-642-75612-9 (初版 2006.5)

谷口眞子著
赤穂浪士の実像 214
(オンデマンド版) 四六判 218頁 **2,530円**(2,300)

日本人の心を魅了する『忠臣蔵』。討ち入り成功を前提に描かれた「勧善懲悪」の物語から赤穂事件を解き放つ。大石内蔵助、堀部安兵衛らの行動・思想をリアルタイムの感覚で捉え、等身大の赤穂浪士と事件の真相に迫る。
978-4-642-75614-3 (初版 2006.7)

繁田信一著
安倍晴明 —陰陽師たちの平安時代— 215
(オンデマンド版) 四六判 212頁 **2,530円**(2,300)

平安時代を代表する陰陽師として、注目を浴びる安倍晴明。彼はなぜ陰陽師となったのか。昨今の「超人」イメージではなく、出世・栄達に腐心する中級貴族としての、等身大の実像に迫り、安倍晴明の最大の謎に挑む。
978-4-642-75615-0 (初版 2006.8)

渡辺節夫著
フランスの中世社会 216
—王と貴族たちの軌跡—
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

ヨーロッパの原点、フランス中世。貴族＝領主と対抗しつつ、王権が拡大し、封建王制が確立する過程を、その権力の基盤、儀礼、権威の表象形式、教会との相互関係から解明。現代社会の矛盾を解決する手がかりを探る。
978-4-642-75616-7 (初版 2006.9)

藤井正雄著
戒名のはなし 217
四六判　192頁　**1,870円**(1,700)

人はなぜ、死後、戒名を付けるのか。戒名料などに対する批判が高まる今、その原点を「改名」との関係、「居士」や「院」の意味、差別戒名などから歴史を遡りつつ考える。変わりゆく死生観と戒名のゆくえに迫る日本文化史。
978-4-642-05617-5　(06.10)

齋藤慎一著
中世武士の城 218
2006年度駿台史学会選奨受賞
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

「城」とは何か。土塁と堀に囲まれ、もっぱら〝戦争〟の場と捉えられてきた中世の城や館は、じつは〝政治的〟〝日常的〟な場でもあった。武勇ではなく安穏を求めた社会の現実を踏まえ、中世の城の新たな実像に迫る。
978-4-642-05618-2　(06.10)

前田晴人著
古代出雲 219
四六判　300頁　**2,090円**(1,900)〈僅少〉

神々の原郷といわれる八雲立つ出雲国を神話世界から解き放ち、日本古代史のなかに位置付ける。ヤマト王権との関わりや出雲国造の実態、出雲大社の誕生など、多くの謎に包まれた史実を解明。古代出雲人の暮らしに迫る。
978-4-642-05619-9　(06.11)

深谷克己著
江戸時代の身分願望 220
—身上りと上下無し—
(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)

士農工商の江戸時代、少しでも上の身分への〈身上り〉を望んだ人びとがいた。同時に、他人に出し抜かれたくないという〈上下無し〉願望も存在した。これまでの身分制の見方を超えた社会を描き、自由と平等の関係を考える。
978-4-642-75620-4　(初版 2006.11)

平山　優著
武田信玄 221
(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)

戦国乱世を駆け抜けた甲斐の虎＝武田信玄。信濃侵攻から川中島の戦い、西上作戦に至る軍事、その基盤である領国経営としての棟別役、甲州法度などの内政、さらに家臣団編成に及び、信玄のすべてを詳細かつ巧みに描く。
978-4-642-75621-1　(初版 2006.12)

青木栄一著
鉄道忌避伝説の謎 222
—汽車が来た町、来なかった町—
(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)

明治の人々は鉄道建設による悪影響に不安をもち、鉄道や駅を町から遠ざけた…これが鉄道忌避伝説である。果たしてこの伝説は事実か。全国各地の実例を検証し、鉄道のルートや地形など様々な視点から伝説の謎に迫る。
978-4-642-75622-8　(初版 2006.12)

元木泰雄著
源　義経 223
(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)

平家を滅ぼした英雄、源義経。帝王学なき帝王・後白河院、鎌倉幕府の兄・頼朝、彼らを取巻く京や在地の武士たち。すべては政治という名の巨大な歯車を形成し、希代の英雄を搦めとっていく。その生涯と失脚の真相に迫る。
978-4-642-75623-5　(初版 2007.2)

大豆生田　稔著
お米と食の近代史 225
(オンデマンド版)　四六判　242頁　**2,530円**(2,300)

明治時代の半ばから、日本人の主食＝米は不足し始めた。凶作による米価暴騰、輸入米の増加、残飯屋の繁盛、流通の変化、産米改良の動向、節米生活下の家計を辿る。米不足との闘いが、「米過剰」の現代に伝えるものを考える。
978-4-642-75625-9　(初版 2007.2)

宮崎正勝著
黄金の島 ジパング伝説 226
(オンデマンド版)　四六判　238頁　**2,530円**(2,300)

ヨーロッパ人が夢見た、黄金にあふれる国ジパング。なぜ、日本が黄金の国だと思われたのか。金銀の産出量と輸出入量、金銀政策、各国による金銀島探索の思惑など、日本・アジア・ヨーロッパの視点から伝説の謎に迫る。
978-4-642-75626-6　(初版 2007.2)

梅村恵子著
家族の古代史 —恋愛・結婚・子育て— 227
(オンデマンド版)　四六判　218頁　**2,530円**(2,300)

男系でつながる大家族も、男が女の家に通い住み着く一夫多妻婚も古代の家族の姿ではない。中国の影響を受けつつ日本的なゆるやかな結婚慣習をもち続けた家族の姿を、結婚・妻の立場・子どもの教育から具体的に探る。
978-4-642-75627-3　(初版 2007.3)

曾根正人著
聖徳太子と飛鳥仏教 228
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

大きく変貌して倭国に伝来した仏教は、どのような姿だったのか。時の東アジア世界、倭人社会、「聖徳太子」において仏教とは何だったのか。日本仏教の夜明けと「太子」の仏教を、世界仏教のなかに甦らせた古代仏教史入門。
978-4-642-75628-0 (初版 2007.3)

三浦佑之著
古事記のひみつ —歴史書の成立— 229
(オンデマンド版) 四六判 238頁 **2,530円**(2,300)

ヤマトタケルは、なぜ古事記と日本書紀で全く別人のように描かれているのか。「日本書」をキーワードに、古代の歴史書＝古事記・日本書紀・風土記の成立に隠された秘密に迫り、独自の視点から古代神話をわかり易く読み解く。
978-4-642-75629-7 (初版 2007.4)

北島万次著
加藤清正 —朝鮮侵略の実像— 230
四六判 240頁 **1,870円**(1,700)

豊臣秀吉子飼いの武将であり、虎退治伝説で有名な加藤清正。はたして彼は忠君・武勇の英雄なのか、無慈悲・兇暴な侵略の尖兵だったのか。秀吉の朝鮮侵略における清正に焦点をあて、新たな人物像と侵略の実態を描く。
978-4-642-05630-4 (07.4)

蔵持重裕著
声と顔の中世史 231
—戦さと訴訟の場景より—
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

歴史の中で言葉はいかに発せられ、それはどのような働きをしたのか。訴訟や合戦での名のり、神仏への叫びなどを事例に再現。顔を隠す意味、詞の持つ力などを検証して、文字史料には残らなかった口頭伝達の世界に迫る。
978-4-642-75631-0 (初版 2007.5)

谷口克広著
検証 本能寺の変 232
四六判 282頁 **1,980円**(1,800)

天正10年(1582)、天下統一を目前に織田信長が襲われた。明智光秀は単独犯なのか、果たして黒幕が存在したのか。本能寺の変にいたる過程を、史料を吟味して再現。様々な仮説を検証し独自の考察を加え、真相に迫る。
978-4-642-05632-8 (07.5)

増田昭子著
雑穀を旅する —スローフードの原点— 233
(オンデマンド版) 四六判 236頁 **2,530円**(2,300)

粟・稗・黍・豆・麦・モロコシ…。いま「健康食」として親しまれる雑穀は、どのように栽培され、食され、大切にされてきたのか。青森から沖縄まで全国各地を訪ね歩き、日本人の豊かな食文化を育んだ雑穀の魅力を探る。
978-4-642-75633-4 (初版 2007.6)

野口 実著
源氏と坂東武士 234
四六判 208頁 **1,870円**(1,700)

なぜ源頼朝は坂東武士団を糾合し、鎌倉幕府を開くことができたのか。紛争調停者としての河内源氏の東国進出と、土着した軍事貴族や受領・郎等の末裔たちとのかかわりを、ダイナミックに描き、幕府成立の基盤を探る。
978-4-642-05634-2 (07.7)

季武嘉也著
選挙違反の歴史 235
—ウラからみた日本の100年—
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **1,870円**(1,700)

買収や酒宴接待など、現在も絶えることのない選挙違反。候補者はいかに法律の網をかいくぐろうとし、国民はそれをどう受け止めてきたのか。様々な時代や地域の選挙違反の実態に映し出された、近代社会の歪みを探る。
978-4-642-75635-8 (初版 2007.7)

佐藤 稔著
読みにくい名前はなぜ増えたか 236
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)

漢字の音訓や外国語のイメージを無理に組み合わせた〈読めない〉名前が増えたのはなぜか。変則的な読みの名前で日本語が変化していく可能性や、漢字と人名の歴史を探り、名づけと漢字の用い方を文化の問題として考える。
978-4-642-75636-5 (初版 2007.8)

山田雄司著
跋扈(ばっこ)する怨霊 —祟りと鎮魂の日本史— 237
四六判 208頁 **1,870円**(1,700)

長屋王、菅原道真、崇徳院…。非業の死を遂げ、祟りや災いを起こした怨霊は、為政者により丁寧に祀られた。虚実とりまぜて論じられがちな怨霊の創出と鎮魂の実態を実際の史料に基づいて辿り、怨霊を時代の中に位置づける。
978-4-642-05637-3 (07.8)

価格は10%税込、( )内は本体価格

天沼　香著
団塊世代の同時代史 238
（オンデマンド版）　四六判　224頁　**2,530円**（2,300）
団塊世代の大量定年時代をむかえて様々な論議が広がっている。数の多さゆえに、注目され続けてきた団塊世代とは何だったのか。同世代の著者が、聞き書きをもとに、異世代の視線を探り、その時代とこれからを語る。
978-4-642-75638-9　（初版 2007.9）

千葉正樹著
江戸城が消えていく 239
―『江戸名所図会』の到達点―
（オンデマンド版）　四六判　272頁　**2,640円**（2,400）
江戸のガイドブック『江戸名所図会』などの木版印刷物には、現実にはない虚構の江戸が描かれていた。消える江戸城と成長する場末。近世的「平和」の表現。江戸の人びとは自らをどう知らしめようとしていたのか。
978-4-642-75639-6　（初版 2007.9）

江後迪子著
信長のおもてなし 240
―中世食べもの百科―
（オンデマンド版）　四六判　208頁　**2,530円**（2,300）
織田信長が、安土城で徳川家康をもてなしたメニュー、権力者が贈りあった高級食品…。日本料理の基礎は、中世に生まれた。失われた幻の食材から、身近な食べ物まで、現代人もおどろく中世の豊かな食文化をほりおこす。
978-4-642-75640-2　（初版 2007.10）

円満字二郎著
昭和を騒がせた漢字たち 241
―当用漢字の事件簿―
（オンデマンド版）　四六判　218頁　**2,530円**（2,300）
1946年、「当用漢字」が制定された。漢字の使用が制限されたとき、国民の生活には何が起こったのか。「福井県」が「福井県」だと怒鳴り込む人、彫刻掘りなおし裁判などの事件をたどりつつ、戦後日本の世相を読み直す。
978-4-642-75641-9　（初版 2007.10）

遠山美都男著
古代の皇位継承 242
―天武系皇統は実在したか―
四六判　240頁　**1,870円**（1,700）
奈良時代、本当に天智天皇と天武天皇の子孫が対立し、天武系の皇統が皇位を独占していたのか。天智以前の王位継承から、壬申の乱、草壁皇統意識の誕生、桓武天皇の皇統継承方式までをたどり、奈良朝の政治史を読み直す。
978-4-642-05642-7　（07.11）

浦井正明著
上野寛永寺 将軍家の葬儀 243
四六判　240頁　**1,870円**（1,700）
江戸幕府の「聖地」上野。徳川将軍家の菩提寺・東叡山寛永寺とはどのような寺なのか。比叡山延暦寺を手本とした意図とは何か。将軍と東叡山山主の死や葬儀の実態などから、寛永寺と将軍家のしきたりを解き明かす。
978-4-642-05643-4　（07.11）

今泉淑夫著
一休とは何か 244
（オンデマンド版）　四六判　240頁　**2,530円**（2,300）
室町時代の破戒・風狂の人、一休宗純。その生涯に深く影響を与えた「維摩居士」の教えに注目。その思想と手法を修道者として実践した姿こそ破戒・風狂の行動であったという新解釈を示し、知られざる一休の実像に迫る。
978-4-642-75644-0　（初版 2007.12）

熊倉功夫著
日本料理の歴史 245
四六判　224頁　**1,870円**（1,700）
日本料理とは何か。平安貴族の宴会から庶民の食卓、精進料理、本膳料理、懐石、京料理、菓子と茶の湯まで、日本の料理文化をわかりやすく描く。2人の天才＝北大路魯山人・湯木貞一にもふれ、日本食文化の原点を探る。
978-4-642-05645-8　（07.12）

松田敬之著
次男坊たちの江戸時代 246
―公家社会の〈厄介者〉―
（オンデマンド版）　四六判　272頁　**2,640円**（2,400）
跡継ぎが優遇された江戸時代。親や兄に扶養される「厄介」だった次男、三男たちは不遇だったのか。幸運にも養子先のあった者、養子先を廃嫡された者、ご落胤や女性の厄介の人生から、公家社会の家の継承問題に迫る。
978-4-642-75646-4　（初版 2008.1）

板垣邦子著
日米決戦下の格差と平等 247
―銃後信州の食糧・疎開―
（オンデマンド版）　四六判　240頁　**2,530円**（2,300）
太平洋戦争下、地方の人びとはどのような生活をしていたのか。疎開者の受け入れ、東京中心の食糧行政、闇取引や横流しをする商人などにより浮かび上がる「格差」。そこで高まった平等志向を探り、地方の銃後を描き出す。
978-4-642-75647-1　（初版 2008.1）

林部　均著
飛鳥の宮と藤原京 249
—よみがえる古代王宮—
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)
大化改新や壬申の乱などの舞台、飛鳥にはどのような王宮や施設が造られていたのか。斉明天皇による荘厳な空間整備、天武天皇の大極殿など、新しい国づくりの過程で飛鳥がどう都市化され、藤原京に展開するのかを描く。
978-4-642-05649-6　(08.2)

根井　浄著
観音浄土に船出した人びと 250
—熊野と補陀落渡海—
(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)
補陀落渡海とは何か。観音菩薩が住む南方の浄土＝補陀落世界を目指し、現身を船形の棺に納めて大海原に船出した人びとがいた。宣教師の記録や絵画史料、渡海船の構造から、「南方往生」と補陀落渡海の世界観を解き明かす。
978-4-642-75650-1　(初版 2008.3)

堀　晄著
古代インド文明の謎 251
(オンデマンド版)　四六判　190頁　**2,530円**(2,300)
白人系遊牧民アーリヤ人が侵入して誕生したとされるインド文明。神話『リグ・ヴェーダ』に基づいた歴史記述の矛盾を、カースト制、インダス文字、スタンプ印章など考古学や人類学の成果から解明。古代インドの謎に迫る。
978-4-642-75651-8　(初版 2008.3)

田中良之著
骨が語る古代の家族 —親族と社会— 252
(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)
古代の家族・親族関係の変化は、国家の誕生と深い関わりがあった。縄文から古墳時代まで、人骨とその墓を人類学・考古学の最新の成果から分析。現代とは異なる古代の家族や親族の実像に迫り、その歴史的意味を問う。
978-4-642-75652-5　(初版 2008.4)

猪飼隆明著
西南戦争 —戦争の大義と動員される民衆— 253
(オンデマンド版)　四六判　218頁　**2,530円**(2,300)
維新の功臣である西郷隆盛はなぜ蜂起したのか。7ヶ月余の内戦はその地域に住む人びとにとってどのような意味があったのか。熊本城での攻防を中心に、戦争に巻き込まれた民衆の実態を探り、西南戦争の大義を問い直す。
978-4-642-75653-2　(初版 2008.4)

盛本昌広著
贈答と宴会の中世 254
(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)
贈り物に熨斗を添え、職場の新人に歓迎会をするのはなぜか。源義家への豪華接待、将軍が与えた亥子餅、八朔や歳暮に贈られた名産品・鯨などの水産品・果実などから、参加者の縁を結ぶ贈り物・宴会の意味と役割を解明。
978-4-642-75654-9　(初版 2008.5)

沢山美果子著
江戸の捨て子たち —その肖像— 255
四六判　208頁　**1,870円**(1,700)
江戸時代の〝捨て子〟は、どこに、どのように捨てられ、拾われたのか。ともに添えられたモノや手紙に託した親の思い、捨て子を貰う人々、江戸にもあった赤ちゃんポスト構想。そこから見えてくる捨て子たちの実像を描く。
978-4-642-05655-7　(08.5)

曽根原　理著
神君家康の誕生 —東照宮と権現様— 256
(オンデマンド版)　四六判　202頁　**2,530円**(2,300)
神として東照宮に祀られた徳川家康。秀吉に続いて「実在の人物の神格化」が行われた経緯を、天道思想や天海との関係から追う。また宗教理念を支配の正当性とし神話が確立する様子に、日本人の神観念を明らかにする。
978-4-642-75656-3　(初版 2008.6)

藤實久美子著
江戸の武家名鑑 —武鑑と出版競争— 257
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)
江戸時代の大名・旗本や幕府の役人が一覧できる名鑑＝武鑑。紋所や大名行列の道具が絵入りで描かれ、200年以上もの間、ロングセラーとなったその魅力に迫り、出版をめぐる須原屋と出雲寺の100年にわたる攻防を追う。
978-4-642-05657-1　(08.6)

清水克行著
大飢饉、室町社会を襲う！ 258
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)
慢性的な飢餓に直面し生と死の狭間で生きていた室町人。そこに巨大飢饉が襲いかかったとき、人びとはどうしたのか。現代にも通じる飢餓と飽食の残酷な構造をえぐりだし、室町時代の実相を描く。中世社会の雑学も満載。
978-4-642-05658-8　(08.7)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

大橋幸泰著
検証 島原天草一揆 259
(オンデマンド版) 四六判 208頁 2,530円(2,300)
978-4-642-75659-4 (初版 2008.7)
幕府を震撼させたキリシタンの武力蜂起「島原天草一揆」。原城の発掘成果や豊富な文献から戦いを検証。経済闘争か、宗教戦争か、あるいはその問いに問題はないか？ 近世社会に大きな影響を与えた一揆の歴史的意義を探る。

矢嶋 泉著
古事記の歴史意識 260
(オンデマンド版) 四六判 266頁 2,640円(2,400)
978-4-642-75660-0 (初版 2008.9)
天武・元明両朝に成立の契機をもつ『古事記』の編纂意図は何か。『古事記』は上巻の神話世界のみがクローズアップされがちだが、全巻を貫く皇統譜と物語の分析を通じて歴史の構想を読み解き、その編纂動機に迫る。

百瀬 響著
文明開化 失われた風俗 261
(オンデマンド版) 四六判 224頁 2,530円(2,300)
978-4-642-75661-7 (初版 2008.9)
明治政府が推し進めた文明開化政策。華やかさの一方、入墨・混浴などを禁止した違式詿違条例が施行された。風俗統制は、日本社会に何をもたらしたのか。実態を探り、日本人の文明観に影響を与えた文明開化を問い直す。

片桐一男著
それでも江戸は鎖国だったのか 262
—オランダ宿 日本橋長崎屋—
(オンデマンド版) 四六判 208頁 2,530円(2,300)
978-4-642-75662-4 (初版 2008.11)
鎖国と呼ばれた時代、江戸にオランダ人の定宿、長崎屋があった。将軍謁見に出府したカピタンの宿を、杉田玄白、平賀源内らが訪れ、そこは異文化交流のサロンであった。江戸は本当に鎖国だったのか。長崎屋の全貌を描く。

小沢朝江著
明治の皇室建築 263
—国家が求めた〈和風〉像—
(オンデマンド版) 四六判 240頁 2,530円(2,300)
978-4-642-75663-1 (初版 2008.11)
維新後、皇族は〈洋風〉化の手本とされた。しかし明治天皇は〈和風〉建築だが内部は〈洋風〉の宮殿に住み、東宮には〈和風〉装飾が隠された御所が造営された。皇室建築に表現されたものは何か。国家が求めた〈和風〉空間を探る。

矢田俊文著
中世の巨大地震 264
四六判 222頁 1,870円(1,700)
978-4-642-05664-9 (09.1)
100年から150年のサイクルで日本を襲う、阪神淡路大震災をはるかにこえる巨大地震。中世社会は、巨大地震にどう立ち向かったか。難波浦の津波による被害など未曾有の被害の実態に迫り、現代社会に警鐘を鳴らす。

井原今朝男著
中世の借金事情 265
(オンデマンド版) 四六判 240頁 2,530円(2,300)
978-4-642-75665-5 (初版 2009.1)
「借りたものは返す」「利子はひたすら増殖する」という現代の常識。それと異なる独自の論理が中世にはあった。社会を円滑に循環させるため、借金システムが機能していた事実を明らかにする。はじめての中世債務史入門。

倉本一宏著
持統女帝と皇位継承 266
(オンデマンド版) 四六判 192頁 2,530円(2,300)
978-4-642-75666-2 (初版 2009.3)
律令国家が成立するまでの200年間、倭国の最高権力はどのように継承されていったのか。乙巳の変や壬申の乱などの分析や、姻戚関係から、皇位継承の実態を探る。持統「王朝」の成立過程を中心に古代史の謎に挑む。

小宮まゆみ著
敵国人抑留 —戦時下の外国民間人— 267
(オンデマンド版) 四六判 288頁 2,640円(2,400)
978-4-642-75667-9 (初版 2009.3)
アジア・太平洋戦争の勃発とともに、日本国内にいた外国籍の民間人は、次々と全国各地の抑留所に収容された。抑留所で彼らはどのように暮らしたのか。不足していく食料、迫りくる空襲の危機。抑留所での実態に迫る。

丸山雍成著
邪馬台国 魏使が歩いた道 268
(オンデマンド版) 四六判 272頁 2,640円(2,400)
978-4-642-75668-6 (初版 2009.4)
邪馬台国はどこにあったのか？ この日本史最大の謎に、近世交通史の大家が挑んだ異色の一冊。交通史学と考古学の両面から、ついに邪馬台国の所在地が浮かび上がる。いまだ諸説飛び交う邪馬台国論争に一石を投じる。

後藤みち子著
戦国を生きた公家の妻たち 269
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

戦国時代、公家の妻たちは夫の名字を名乗り、同じ墓地に葬られるようになった。平安時代以来の夫婦別姓・夫婦別墓の伝統が崩れたのはなぜか。婚家の一員として家を盛りたて、戦国の世を懸命に生き抜いた妻たちに迫る。
978-4-642-75669-3 (初版 2009.4)

宮内貴久著
風水と家相の歴史 270
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

古代中国で生まれた風水は、大地の気の流れと土地の相を判断し、災禍を防ぎ幸福を招くことを目的としている。だが日本では、家屋の間取りの吉凶を占う家相として独自の発展を遂げる。家相判断のルーツと歴史を探る。
978-4-642-75670-9 (初版 2009.5)

岩田重則著
〈いのち〉をめぐる近代史 271
—堕胎から人工妊娠中絶へ—
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

近代社会でも深く根付いていた堕胎。しかし帝国主義段階において徐々に消滅し、人間の存在する権利が保証されていく。背景には何があったのか。生と性に光をあて、消えていった〈いのち〉を描き、近代日本の現実を抉る。
978-4-642-75671-6 (初版 2009.5)

峰岸純夫著
足利尊氏と直義 —京の夢、鎌倉の夢— 272
四六判 208頁 **1,870円**(1,700)

室町幕府成立後の尊氏・直義兄弟の確執は、義詮・直冬の争闘を経て、幕府と鎌倉府という二つの支配体制成立の要因となる。対立の実態を『太平記』などから当時の政治過程に位置づけて再現。神護寺三画像の比定も試みる。
978-4-642-05672-4 (09.6)

児島恭子著
エミシ・エゾからアイヌへ 273
(オンデマンド版) 四六判 194頁 **2,530円**(2,300)

エミシはアイヌか。エミシ、エビス、エゾ、アイヌ…、その呼称の意味するものは何か。古今の記録・文書にアイヌ観の変遷をたどり、「自然との共生」というエコロジカルな生活を営むとされる〝アイヌ〟について考える。
978-4-642-75673-0 (初版 2009.6)

小和田哲男著
北政所と淀殿 274
—豊臣家を守ろうとした妻たち—
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

太閤秀吉の妻＝北政所と淀殿の確執が、豊臣家を滅亡させたのは真実か。北政所の役割や諸大名との関わり、秀頼の母としての淀殿に注目。大坂の陣までの２人の動向から、近年見直されつつある〝女の戦争〟の真相に迫る。
978-4-642-75674-7 (初版 2009.6)

林　博史著
沖縄戦 強制された「集団自決」 275
(オンデマンド版) 四六判 264頁 **2,640円**(2,400)

2007年の教科書検定で大きな波紋を呼んだ「集団自決」問題。生存者の証言・新資料などによる沖縄戦の検証から、その実態と全体像に迫る。「集団自決」の原因を〈天皇制国家の支配構造〉から解き明かした問題作。
978-4-642-75675-4 (初版 2009.6)

宮本一夫著
農耕の起源を探る —イネの来た道— 276
(オンデマンド版) 四六判 270頁 **2,640円**(2,400)

日本の農耕文化はどのように始まったのか。1万年前頃中国大陸に誕生した農耕は、気候の変動を契機に技術と人の移動を伴いながら、朝鮮半島を経て日本に到達する。最新の考古学が初めて明らかにするイネの来た道。
978-4-642-75676-1 (初版 2009.8)

奥富敬之著
吾妻鏡の謎 277
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』は多くの謎に満ちている。いつ誰により、何のために書かれたのか。頼朝挙兵や実朝暗殺の真実、時頼の廻国伝説、源氏に厳しく北条に甘い人物評価など、史書のねらいと見え隠れする嘘を暴く。
978-4-642-75677-8 (初版 2009.8)

揖斐　高著
江戸の文人サロン 278
—知識人と芸術家たち—
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

江戸時代後期、文人と呼ばれる知識人たちの寄り合いの場があった。そこでは学問や詩・書・画・狂歌などを楽しみながら、身分を超越した自由な個人を生み出した。サロンに集う文人たちの交遊と風雅の世界を描き出す。
978-4-642-75678-5 (初版 2009.9)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

片倉比佐子著
大江戸八百八町と町名主 279
(オンデマンド版) 四六判 272頁 **2,640円**(2,400)

徳川家康の入府以来、名主制度が廃止される明治まで、大江戸八百八町を支えつづけた町名主たち。町役人の末端として、住民の一人として奮闘した知られざる町名主の姿を、江戸の町の発展の歴史とからめ明らかにする。
978-4-642-75679-2 (初版 2009.9)

犬塚孝明著
明治外交官物語 —鹿鳴館の時代— 280
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

明治新政府は、西欧列国と肩を並べるべく外務省を創設する。不平等条約改正に奔走する鮫島尚信・森有礼ら若き外交官たち。外国賓客を饗応する鹿鳴館を造る井上馨。黎明期の日本外交を切り拓いた人々の奮闘を活写する。
978-4-642-75680-8 (初版 2009.10)

稲田雅洋著
自由民権運動の系譜 281
—近代日本の言論の力—
(オンデマンド版) 四六判 206頁 **2,530円**(2,300)

自由民権運動とは何か。「一枚の新聞の数行の文章は百万の兵卒にもまさる」「雄弁家の三寸の舌先は百万の兵に当たる」とされた言論の力に注目。幕末から大正デモクラシーまで、立憲国家の実現をめざした民権家の活動を描く。
978-4-642-75681-5 (初版 2009.10)

根岸茂夫著
大名行列を解剖する 282
—江戸の人材派遣—
四六判 224頁 **1,870円**(1,700)

大名行列を支えたのは「渡り者」と呼ばれる派遣・アルバイトだった。やがて彼らは「がさつ」な振る舞いで格差社会に立ち向かう…。泰平の世に武威を示すはずだった大名行列の実態にメスを入れ、近世武家政権の矛盾を暴く。
978-4-642-05682-3 (09.11)

保田晴男著
ある文人代官の幕末日記 283
—林鶴梁の日常—
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

夏目漱石など明治・大正期の若者を魅了した幕末の文人官僚・林鶴梁。19年に及ぶ日記からその暮らしぶりを描く。家族を慈しみ、誠実に職務を果たす日々。幕府への忠節と新時代への思い。激動の時代と人間像が浮かぶ。
978-4-642-75683-9 (初版 2009.11)

早川万年著
壬申の乱を読み解く 284
四六判 208頁 **1,870円**(1,700)〈僅少〉

古代日本を大きく揺るがした壬申の乱。大海人と大友の2人の皇子による皇位継承争いの実態を検証する。戦いの勝者と『日本書紀』の関係、敗者の言い分…。地方豪族の動きにも目を向け、劇的な戦乱を読み解く。
978-4-642-05684-7 (09.12)

三舟隆之著
浦島太郎の日本史 285
四六判 238頁 **1,870円**(1,700)

昔話として全国で語りつがれてきた〝浦島太郎〟。時代とともに変化し愛されてきた物語を『日本書紀』や太宰治の作品など、各時代の文献から再検証。浦島説話の時代的背景に触れた、一味違った「日本の歴史」を語る。
978-4-642-05685-4 (09.12)

藤野 豊著
戦争とハンセン病 287
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)

弱い発症力にもかかわらず生涯隔離されたハンセン病患者たち。戦地で発症した兵士の処遇、植民地療養所など、隔離政策と戦争の関係を解明。日本の戦争責任とハンセン病患者への人権侵害にひそむ、差別の構造を追及する。
978-4-642-75687-7 (初版 2010.1)

馬場 基著
平城京に暮らす —天平びとの泣き笑い— 288
四六判 256頁 **1,980円**(1,800)

8世紀に栄えた寧楽の都平城京で、人々はどのような暮らしを送っていたのか。飲食や宴会のたのしみ、労働や病気の苦しみ…。下級官人が生活の様々な場面で記した木簡を読み解き、そこから浮ぶ彼らのリアルな姿に迫る。
978-4-642-05688-5 (10.2)

保谷 徹著
幕末日本と対外戦争の危機 289
—下関戦争の舞台裏—
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

攘夷運動の激化に横浜鎖港をめざした江戸幕府だったが、戦争挑発とみた欧米列強は、対日戦争の準備を開始。長州藩に始まった下関戦争は、国家間戦争に発展する危機に直面していた。欧米諸国側の史料から真相を描く。
978-4-642-75689-1 (初版 2010.2)

川口　良・角田史幸著
「国語」という呪縛 290
—国語から日本語へ、そして○○語へ—
(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)

「国語」とは何か。それは明治期に人為的に作り出されたものだった。幻想の「純粋な和語」、内向きの国語教育、侵略戦争と日本語教育、「日本語＝日本文化」という図式…。言語の境界を越えた「○○語」への道を探る。
978-4-642-75690-7　(初版 2010.2)

屋嘉比　収著
〈近代沖縄〉の知識人 292
—島袋全発の軌跡—
(オンデマンド版)　四六判　238頁　**2,530円**(2,300)

琉球処分以降、沖縄戦、米軍占領期まで過酷な時代を生きた郷土史家・島袋全発。伊波普猷・東恩納寬惇らとの交流や帝国主義・ナショナリズムとの戦いから、今に生きる沖縄の近代思想を浮かび上がらせた「思想史」入門。
978-4-642-75692-1　(初版 2010.3)

谷畑美帆著
O脚だったかもしれない縄文人 293
—人骨は語る—
(オンデマンド版)　四六判　192頁　**2,530円**(2,300)

土器や漆製品の美しさで世界的に注目されている縄文時代とはどんな時代だったのか。貝塚や住居跡から出土したヒトの骨や魚介類より、縄文人の健康・食生活を検証。骨から見た研究成果を駆使し、縄文社会の実像に迫る。
978-4-642-75693-8　(初版 2010.4)

若井敏明著
邪馬台国の滅亡 —大和王権の征服戦争— 294
四六判　208頁　**1,870円**(1,700)

邪馬台国論争を解決する鍵は何か。『記紀』を丹念に読み解き、邪馬台国の位置が九州北部であったことを論証。大和政権が邪馬台国を滅ぼし、どのように全国を統一したのか、その真実に迫り、新たな古代史像を描きだす。
978-4-642-05694-6　(10.4)

塩澤寬樹著
鎌倉大仏の謎 295
(オンデマンド版)　四六判　288頁　**2,640円**(2,400)

「古都のシンボル」鎌倉の大仏は、いつ、誰が、何のために、どのように造ったのか明らかになっていない。政治と宗教の関係、銅造以前に存在した木造大仏、倒壊を繰返した大仏殿など、文献と彫刻史の両面から謎に挑む。
978-4-642-75695-2　(初版 2010.5)

茶谷誠一著
昭和天皇側近たちの戦争 296
(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)

戦前日本、天皇を支えた宮内大臣・内大臣・侍従長ら側近たち。彼らは戦争への道を突き進む激動の昭和にいかなる政治的影響力を持っていたのか。牧野伸顕・木戸幸一ら昭和天皇の側近たちの視点から近代日本の軌跡を描く。
978-4-642-75696-9　(初版 2010.5)

國　雄行著
博覧会と明治の日本 298
(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)

幕末のパリ万博への参加に始まる日本の博覧会。明治新政府は、欧米の文明国に列するため、国内外での博覧会への参加・開催を奨励する。その後変貌していく〈博覧会〉は、日本の近代化にいったい何をもたらしたのか。
978-4-642-75698-3　(初版 2010.6)

永井　晋著
鎌倉源氏三代記 299
—一門・重臣と源家将軍—
(オンデマンド版)　四六判　256頁　**2,640円**(2,400)

頼朝・頼家・実朝と続いた源家将軍三代。平氏を滅亡させた治承・寿永の乱から源家将軍の時代を清算する戦いとなった承久の乱まで、源氏一門や北条氏ら鎌倉御家人の動向を交え描く。『吾妻鏡』の世界が鮮やかによみがえる。
978-4-642-75699-0　(初版 2010.7)

末木文美士著
近世の仏教 —華ひらく思想と文化— 300
四六判　238頁　**1,870円**(1,700)

これまで「仏教は近世には堕落し、儒教に取って代わられた」とされてきた。しかし、中国からの黄檗宗の影響や出版文化の隆盛により、仏教は民衆世界にまで大きく華ひらいていた。いま新しい近世仏教のすがたを描く。
978-4-642-05700-4　(10.7)

秋山哲雄著
都市鎌倉の中世史 301
—吾妻鏡の舞台と主役たち—
(オンデマンド版)　四六判　232頁　**2,530円**(2,300)

「都市計画に基づく難攻不落の武士の都」。このような鎌倉のイメージは正しいのだろうか。御家人の暮らし、北条氏邸宅のありか、寺院が多い理由等、中世の鎌倉の実像に迫る。従来のイメージを覆す、新しい鎌倉都市論。
978-4-642-75701-0　(初版 2010.8)

戸ノ下達也著
「国民歌」を唱和した時代 302
—昭和の大衆歌謡—
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

満洲事変に始まり、しだいに緊迫する戦時体制下、「上から」の流行歌が戦意昂揚のため作られた。政府・軍からメディアと大衆までを巻き込み、次々と登場し唄われる「国民歌」。「うた」を通して戦争の時代を鋭くえぐる。
978-4-642-75702-7 (初版 2010.8)

小林敏男著
日本国号の歴史 303
四六判 240頁 **1,870円**(1,700)

7世紀後半から現在まで続く「日本」という国号は、いつ、誰が、どう定めたのか。それまで使っていた「ヤマト」「倭」から変更した理由は何か。「日本」の成立を中国や朝鮮との関係を辿りつつ探り、その意味や由来を解明する。
978-4-642-05703-5 (10.9)

永嶺重敏著
流行歌の誕生 304
—「カチューシャの唄」とその時代—
(オンデマンド版) 四六判 202頁 **2,530円**(2,300)

大正初期に空前の大ヒットとなった「カチューシャの唄」。歌ったのはスター女優松井須磨子、恋人・島村抱月の芸術座の舞台だった。地方巡業やレコード・映画によって歌が流行してゆく過程と、熱狂する人々の姿を描く。
978-4-642-75704-1 (初版 2010.9)

三宅和朗著
時間の古代史 —霊鬼の夜、秩序の昼— 305
四六判 206頁 **1,870円**(1,700)

霊鬼や神仏が姿を現す夜、人間による秩序の昼。人と異界が交錯する境界の朝・夕。古代の人々の時間感覚を探る。また、時刻制導入による国家の時間管理の実像を明らかにする。古代人の感性と想像力に迫る新しい古代史。
978-4-642-05705-9 (10.10)

山本忠尚著
高松塚・キトラ古墳の謎 306
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

壁画に彩られた高松塚・キトラ古墳。四神の姿勢や指の本数、石槨の形などを中国考古学の視点から分析する。両古墳が造られた時代の背景を、持統天皇と唐の武則天を通して考察。新旧の時代の要素が混在する古墳の謎に迫る。
978-4-642-75706-5 (初版 2010.10)

須田 努著
幕末の世直し 万人の戦争状態 307
(オンデマンド版) 四六判 206頁 **2,530円**(2,300)

暴力を封印し、作法のもとに行われた百姓一揆は、領主への不信や貧富の拡大で変質していく。異形の「悪党」と化し暴力に訴える騒動勢、鎮圧に走る幕府、武装する村々。激動の幕末を襲った暴力の有様を鋭く抉り出す。
978-4-642-75707-2 (初版 2010.11)

桜井俊彰著
イングランド王国前史 308
—アングロサクソン七王国物語—
四六判 238頁 **1,870円**(1,700)

5世紀半ば、ブリテン島を支配していたローマ人が去った後にやってきたアングロサクソン人。彼らはいかにして「七王国」時代を築いたのか。イングランド王国として統一されるまでの、知られざる英雄たちの活躍を描く。
978-4-642-05708-0 (10.11)

川嶋將生著
祇 園 祭 —祝祭の京都— 309
四六判 220頁 **1,870円**(1,700)

古都京都の夏を飾り、毎年何十万人もの人々を魅了する祇園祭。この祭はいかにして一大イベントになったのか。江戸時代を中心に、鬮取、山鉾の巡幸ルート、宵山の盛大化などの変遷を辿り、祭りと町の歴史の真実に迫る。
978-4-642-05709-7 (10.12)

末廣幸代著
吉兆 湯木貞一 —料理の道— 310
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

花鳥風月や文化・芸術を取り入れ、あらたな料理をつくりあげた「吉兆」の創業者、湯木貞一。文化人との交流や、茶の湯や美術品への造詣、美術館開設などから、ひたすらに料理に打ち込んだ生き方と人となりに迫る。
978-4-642-75710-2 (初版 2010.12)

野村剛史著
話し言葉の日本史 311
四六判 240頁 **1,870円**(1,700)

昔の日本人はどのように話していたのか。『万葉集』の漢字の使い分けやキリシタン資料などから話し言葉を再現し、古代から近代まで言葉が次第に変化する様子を解明。形に残ることのない「話し言葉」の歴史を考える。
978-4-642-05711-0 (11.1)

上白石　実著
幕末の海防戦略 —異国船を隔離せよ— 312
(オンデマンド版)　四六判　220頁　**2,530円**(2,300)

突然のペリー来航は、幕府に衝撃を与えたが、外交交渉には周到な準備をして対応した。なぜそのような戦略をもちえたか。様々な異国船への対応を検証し、海禁を維持するために奔走する幕府の姿から海防政策の本質に迫る。
978-4-642-75712-6　(初版 2011.1)

吉田　歓著
古代の都はどうつくられたか 313
—中国・日本・朝鮮・渤海—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

碁盤目状の町割りの平城京や平安京は、中国の長安城をモデルに作られた。また高句麗や渤海の都も同様に影響を受け、どの国でも個性あふれる改変を加えた。都の姿から中国の統治思想の受容を探る、東アジア文化論。
978-4-642-05713-4　(11.2)

黒田　智著
藤原鎌足、時空をかける 314
—変身と再生の日本史—
(オンデマンド版)　四六判　268頁　**2,640円**(2,400)

藤原鎌足とは何か。藤原氏の始祖、聖徳太子と並ぶ王権の輔佐役。仏教者の理想にして入鹿を誅殺した武威の象徴。肖像画・彫刻から紙幣、現代アートまで。無限に増幅する鎌足の歴史的イメージに迫るあたらしい人物史。
978-4-642-75714-0　(初版 2011.2)

樋口大祐著
変貌する清盛 315
—『平家物語』を書きかえる—
(オンデマンド版)　四六判　232頁　**2,530円**(2,300)

おごる平家は久しからず—犯した悪行の因果で滅んだとされる平清盛。悪人としてのイメージはどのように創られてきたのか。『平家物語』や同時代の物語・日記から国定教科書、現代小説まで、変貌する清盛像を読み解く。
978-4-642-75715-7　(初版 2011.3)

細川重男著
鎌倉幕府の滅亡 316
四六判　208頁　**1,870円**(1,700)

源頼朝の鎌倉入りから 153 年、不敗の歴史を誇った鎌倉幕府はなぜ呆気なく敗れたのか？　政変や戦乱の経過のみならず、幕府政治の根幹を成す御家人制の質的変化に注目。定説にメスを入れ、幕府滅亡の真実に迫る。
978-4-642-05716-5　(11.3)

星野英紀・浅川泰宏著
四国遍路 —さまざまな祈りの世界— 318
(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)

四国八十八ヵ所の寺院を巡る四国遍路は、なぜ今なお多くの人を魅きつけるのか。平安時代の起源から平成遍路ブームまでの歴史と、遍路する人びとの変遷、接待文化と「へんど」などを解説。四国遍路の多様な側面に迫る。
978-4-642-75718-8　(初版 2011.4)

土生田純之著
古　墳 319
四六判　234頁　**1,870円**(1,700)

古代人はなぜ全長 200㍍を超える巨大な墳墓を構築したのか。その構造や葬送儀礼から古墳をつくった集団を探り、在地社会の政治構造を検討。渡来人との関わりや国家形成など、古墳築造の背景を社会的観点から考える。
978-4-642-05719-6　(11.5)

原　淳一郎著
江戸の寺社めぐり 320
—鎌倉・江ノ島・お伊勢さん—
(オンデマンド版)　四六判　200頁　**2,530円**(2,300)

泰平の世、全国の善男善女はこぞって名所めぐりの旅に出かけた。寺社参拝のために故郷を後にした庶民の覚悟や、文人層の修養と名所めぐりをかねた旅など、行動文化の視点から、旅の大衆化が進む江戸時代を探訪する。
978-4-642-75720-1　(初版 2011.5)

市　大樹著
すべての道は平城京へ 321
—古代国家の〈支配の道〉—
四六判　260頁　**1,980円**(1,800)

列島各地から平城京へと集束していた幹線道路「七道」。律令国家の地方支配に道路網は、いかなる役割を果たしたか。駅・伝馬制の成立過程や、行き来した人・モノ・情報の動きを文献史料から解明。古代交通の実像に迫る。
978-4-642-05721-9　(11.6)

長谷川亮一著
地図から消えた島々 322
—幻の日本領と南洋探検家たち—
四六判　270頁　**1,980円**(1,800)

明治末期に〝発見〟され日本領に編入された中ノ鳥島、一攫千金を夢見る冒険商人たちが探検を重ねたグランパス島…。実在はしないこれら日本列島南方海域の島々の、〝誕生〟から〝消滅〟までのミステリーを解きほぐす。
978-4-642-05722-6　(11.6)

価格は 10%税込、(　)内は本体価格

山田康弘著
戦国時代の足利将軍 323
四六判　222頁　**1,870円**(1,700)

戦国時代100年もの間、なぜ将軍は滅亡しなかったのか。戦国期の室町幕府とはいかなる存在であり、各地の大名たちは将軍をどのように見ていたのか。知られざる将軍・幕府の実態を明らかにし、戦国期日本の全体像に迫る。
978-4-642-05723-3　(11.7)

浜野　潔著
歴史人口学で読む江戸日本 324
(オンデマンド版)　四六判　224頁　**2,530円**(2,300)

結婚・出産・死亡の記録から、個人のライフコースを明らかにする歴史人口学。宗門改帳を分析し、江戸時代の「少子化」社会や子ども手当「赤子養育仕法」を解明。現代の少子高齢化などの問題解決への手がかりを提示する。
978-4-642-75724-9　(初版 2011.7)

中村修也著
日本神話を語ろう 325
—イザナキ・イザナミの物語—
四六判　220頁　**1,870円**(1,700)

大地と生き物を創造し、自然を支配する神。古代人は各地で多様な神話を創り出した。イザナキ・イザナミの国生み・神生み物語を中心に『古事記』神話をわかりやすく読み解き、魅力あふれる日本神話の世界へと読者を誘う。
978-4-642-05725-7　(11.8)

高木俊輔著
明治維新と豪農 —古橋暉皃の生涯— 326
(オンデマンド版)　四六判　208頁　**2,530円**(2,300)

地主として村役人を兼ねた上層農民「豪農」。彼らは幕末明治期に「草莽の志士」として倒幕運動に奔走する者もいれば、地域問題に取組み、村の復興・殖産に努めた者もいた。明治維新における豪農の役割とその意味を考える。
978-4-642-75726-3　(初版 2011.8)

関　幸彦著
その後の東国武士団 327
—源平合戦以後—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

坂東八ヵ国と伊豆・甲斐の国々に蟠踞した東国武士団。彼らは、源平争乱後の時代をどのようにして生き抜いていったのか。佐竹・小山・宇都宮・新田・足利・武田・伊東・千葉氏など、室町・戦国期における消長を辿る。
978-4-642-05727-1　(11.9)

加瀬和俊著
失業と救済の近代史 328
四六判　236頁　**1,870円**(1,700)

働く人の大多数にとって「明日は我が身」の失業。戦前期までの失業者たちの生活を、政府による失業救済事業とともに探る。軍人の独断専行など、政治的・社会的影響にも触れつつ、今日の失業問題を解決する糸口を探る。
978-4-642-05728-8　(11.9)

藤尾慎一郎著
〈新〉弥生時代 329
—500年早かった水田稲作—
四六判　288頁　**1,980円**(1,800)

「炭素14年代測定法」の衝撃が、これまでの弥生文化像を覆しつつある。東アジアの国際情勢、鉄器がない当初の数百年、広まりの遅い水田稲作、村や墳墓の景観…。500年遡る〈新〉弥生時代における日本列島像を描く。
978-4-642-05729-5　(11.10)

西澤泰彦著
植民地建築紀行 330
—満洲・朝鮮・台湾を歩く—
(オンデマンド版)　四六判　304頁　**2,750円**(2,500)

旧満洲・韓国・台湾に建てられた、数多くの日本の植民地建築。戦争の記憶を今日に伝えるそれら植民地建築を見ながら、日本の東アジア支配に果たした役割を探る。建築様式と建築技術も踏まえ、歴史的意味を考える。
978-4-642-75730-0　(初版 2011.10)

野口朋隆著
江戸大名の本家と分家 331
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

かつて日本人の意識に密着していた本家と分家の関係。江戸の武家社会では「家」の存続のため、より重要な意味があった。佐賀藩鍋島家など全国の諸大名の事例から、上下関係だけではわりきれない複雑なお家事情を描く。
978-4-642-05731-8　(11.11)

根間弘海著
大相撲行司の世界 332
(オンデマンド版)　四六判　204頁　**2,530円**(2,300)

国技大相撲を司り、神事と結びつける役割を果たす行司。その起源・歴史、土俵上の所作、装束、位階や名前、土俵外の裏方の仕事等々、一般にはあまり知られていない興味ある話題を満載する。大相撲観戦の楽しみが倍増。
978-4-642-75732-4　(初版 2011.11)

仁藤敦史著
都はなぜ移るのか —遷都の古代史— 333
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

古代の都はいかに移り変わってきたのか。頻繁に遷都が行われた飛鳥・難波の宮から千年の都平安京まで、都城の役割と遷都の意味を検討。「動く都」から「動かない都」へと転換した理由を解明し、古代都市の成立に迫る。
978-4-642-05733-2　(11.12)

千葉　慶著
アマテラスと天皇 334
—〈政治シンボル〉の近代史—
(オンデマンド版)　四六判　256頁　**2,640円**(2,400)

明治政府は、統治を正当化するためにアマテラスを政治シンボルとした。その経緯や後の変貌と暴走、戦後の解体を分析。近代天皇制の政治神話を解明し、現代の「象徴」天皇制を「安全・無害」と考える日本人に警鐘を鳴らす。
978-4-642-75734-8　(初版 2011.12)

林　博史著
米軍基地の歴史 336
—世界ネットワークの形成と展開—
四六判　218頁　**1,870円**(1,700)

米軍基地ネットワークはいかに形成されたか。第２次世界大戦を経て核兵器の時代を迎える中、米国本土への直接攻撃を回避するため巨大な基地群が築かれる。普天間の形成過程も明らかにした、基地を考えるための一冊。
978-4-642-05736-3　(12.1)

渡辺賢二著
陸軍登戸研究所と謀略戦 337
—科学者たちの戦争—
(オンデマンド版)　四六判　216頁　**2,530円**(2,300)

陸軍登戸研究所関係者が明らかにする謀略戦・秘密戦の実態とは。最新の科学技術を駆使して研究・開発された風船爆弾・スパイ用兵器・偽造紙幣などの兵器。戦争に動員された科学者たちの姿から、戦争と科学の関係を描く。
978-4-642-75737-9　(初版 2012.2)

圭室文雄著
江戸時代の遊行聖 338
(オンデマンド版)　四六判　240頁　**2,530円**(2,300)

全国津々浦々を廻国し、布教活動をした時宗の遊行上人たち。その選出や熊野参詣、廻国コースなどを探り、将軍と天皇の権威を得て、民衆の現世利益と来世での極楽往生を保証するカリスマとして崇められた姿を描き出す。
978-4-642-75738-6　(初版 2012.2)

小笠原好彦著
聖武天皇が造った都 339
—難波宮・恭仁宮・紫香楽宮—
四六判　288頁　**1,980円**(1,800)〈僅少〉

奈良時代、聖武天皇は難波宮・京を再興し、ついで突然に平城京を出ると、恭仁宮・京、紫香楽宮を造営し、５年にわたり、これらの都城を転々とした。今なお謎の多いこの行動を、最新の発掘成果と唐の三都制をもとに読み解く。
978-4-642-05739-4　(12.3)

岩本　馨著
江戸の政権交代と武家屋敷 340
(オンデマンド版)　四六判　238頁　**2,530円**(2,300)

江戸城下町の武家屋敷は、政権交代と幕臣たちの出世や没落で千変万化する動的な空間だった。将軍の代替わりと、江戸・駿府・甲府などの武家地の変転のドラマを描き、江戸の政権交代を都市空間のあり方から捉え直す。
978-4-642-75740-9　(初版 2012.3)

下重　清著
〈身売り〉の日本史 341
—人身売買から年季奉公へ—
(オンデマンド版)　四六判　254頁　**2,640円**(2,400)

借金のカタに娘が泣く泣く遊女に売られる「身売り」。中世の人買い船、戦国の「人取り」、江戸時代の人身売買禁止令を分析し、「遊女に売る」から「奉公へ出す」へ変わる人びとの認識とそのカラクリをあぶり出す。
978-4-642-75741-6　(初版 2012.4)

鈴木則子著
江戸の流行り病 342
—麻疹騒動はなぜ起こったのか—
(オンデマンド版)　四六判　222頁　**2,530円**(2,300)

疱瘡は見目定め、麻疹は命定め—江戸時代麻疹は大人も発病し命に関わると恐れられていた。将軍から町人まで人々はいかに麻疹と付き合ってきたのか。医学書や御触書、浮世絵などから論じ、麻疹を通して江戸社会を描く。
978-4-642-75742-3　(初版 2012.4)

山里純一著
古代の琉球弧と東アジア 343
(オンデマンド版)　四六判　202頁　**2,530円**(2,300)

古来、独自の文化を紡ぎ、その地勢から日本史の埒外とされてきた琉球弧(琉球列島)の歴史が今、問い直されている。『続日本紀』などの文献史料と考古資料を駆使し、赤木・ヤコウガイなどの交易物から、古代琉球弧が甦る。
978-4-642-75743-0　(初版 2012.5)

西村慎太郎著
宮中のシェフ、鶴をさばく 344
―江戸時代の朝廷と庖丁道―
(オンデマンド版) 四六判 236頁 **2,530円**(2,300)

江戸時代、朝廷における食事の調理・献立・配膳には「庖丁道」と呼ばれる厳密な作法があった。天皇に献上する鶴をさばくために庖丁を握った人々に光を当て、なぜ庖丁道が四条家の家職となったのか、その謎を解く。
978-4-642-75744-7 (初版 2012.5)

森下 徹著
武士という身分 347
―城下町萩の大名家臣団―
四六判 224頁 **1,870円**(1,700)〈僅少〉

経済が発展し、町人の成長も著しかった江戸社会に、戦士でありつづけたのか官僚化していたのか。城下町での存在形態を通して、実像に即した大名家臣団の姿にアプローチ。勤番の仕組みや役所の勤務実態が明かされる。
978-4-642-05747-9 (12.7)

井上祐子著
日清・日露戦争と写真報道 348
―戦場を駆ける写真師たち―
(オンデマンド版) 四六判 260頁 **2,640円**(2,400)

写真報道の開化期だった明治時代、日清・日露などの対外戦争に多くの写真師が従軍した。戦争の一瞬を切り取った「報道写真」は、何を記録し何を伝えたのか。写真の持つ記録性に着目し、写真ジャーナリズムの役割を探る。
978-4-642-75748-5 (初版 2012.7)

遠藤慶太著
東アジアの日本書紀 349
―歴史書の誕生―
四六判 208頁 **1,870円**(1,700)

日本古代史を知る第一の古典『日本書紀』を〝史料〟としてではなく〝書物〟として読み解く新たな試み。『日本書紀』が朝鮮古代史の宝庫でもある理由を探り、古代国家日本の成立を記した、ひとつの「歴史書」誕生の物語。
978-4-642-05749-3 (12.8)

桜井俊彰著
イングランド王国と闘った男 350
―ジェラルド・オブ・ウェールズの時代―
(オンデマンド版) 四六判 208頁 **2,530円**(2,300)

12世紀、ノルマン人征服下のイングランド王国。ウェールズ人との混血の聖職者ジェラルド・オブ・ウェールズは、ウェールズの教会的独立を目指し国王に立ち向かう。その数奇な人生から、「イギリス人」形成の道のりを探る。
978-4-642-75750-8 (初版 2012.8)

橋本 雄著
偽りの外交使節 ―室町時代の日朝関係― 351
(オンデマンド版) 四六判 216頁 **2,530円**(2,300)

15世紀半ば、突如として日朝通交の舞台に登場した偽の外交使節たち。果たして彼らは何者か、そしてその目的とは？ 多種多様な「偽使」の実態に迫り、国境海域のたくましい倭人たちを描く、新しい中世日朝関係史。
978-4-642-75751-5 (初版 2012.9)

藤原辰史著
稲の大東亜共栄圏 352
―帝国日本の〈緑の革命〉―
四六判 208頁 **1,870円**(1,700)

稲の品種改良を行ない、植民地での増産を推進した「帝国」日本。台湾・朝鮮などでの農学者の軌跡から、コメの新品種による植民地支配の実態を解明。現代の多国籍バイオ企業にも根づく生態学的帝国主義の歴史を、いま繙く。
978-4-642-05752-3 (12.9)

大藤 修著
日本人の姓・苗字・名前 353
―人名に刻まれた歴史―
四六判 266頁 **1,980円**(1,800)

日本人の「姓」と「苗字」のルーツはどこにあるのか？明治以前の日本男性は、なぜ人生の節目ごとに改名したのか？ 人名が持つ意味や役割を古代から現代までたどり、「日本」「日本人」とは何かを考える。
978-4-642-05753-0 (12.10)

川平成雄著
沖縄 占領下を生き抜く 354
―軍用地・通貨・毒ガス―
(オンデマンド版) 四六判 238頁 **2,530円**(2,300)

米国に27年間も占領統治され、今も苦しむ沖縄。強制的土地接収による基地建設、5度の通貨交換、毒ガス貯蔵発覚と住民の「見えぬ恐怖」との闘い、という3つの現実に焦点を絞り、占領下を必死に生き抜く人々を描く。
978-4-642-75754-6 (初版 2012.10)

齋藤 努著
金属が語る日本史 355
―銭貨・日本刀・鉄炮―
四六判 224頁 **1,870円**(1,700)〈僅少〉

古代よりお金・鉄炮・刀剣などの「ものづくり」をしてきた日本人。和同開珎の銅含有量や偽金との関係、鉄炮や刀剣の失われた製法など、金属の成分分析から様々な史実を解明。日本の歴史を、金属という新たな視点から見直す。
978-4-642-05755-4 (12.11)

江原絢子著
家庭料理の近代 356
(オンデマンド版) 四六判 224頁 **2,530円**(2,300)

幕末以降本格的に伝わった西洋料理により、人々の日常食は大きく変化した。移り変わる「食」をひも解きつつ、肉類などの食材を和風に応用した独自の料理と技術が広まる様子を描き、日本の家庭料理の豊かさを再発見する。
978-4-642-75756-0 (初版 2012.11)

川岡 勉著
山城国一揆と戦国社会 357
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

応仁の乱より続く畠山氏の抗争に、山城の国人らが両軍の撤退を求め自治支配を実現した山城国一揆。いかにして一揆は起き、どのように収束したのか。諸階層の動きと政治・社会状況、地域の特質を考察し、実態に迫る。
978-4-642-75757-7 (初版 2012.12)

鈴木芳行著
首都防空網と〈空都〉多摩 358
四六判 256頁 **1,980円**(1,800)

昭和戦前・戦中期、武蔵野の一大織物産地から首都防空網の要となった〈空都〉多摩は、米軍の本格的な戦略爆撃における最初の標的となった。その誕生から消滅、復興まで「産業と都市」を鍵に多摩の近代史をひも解く。
978-4-642-05758-5 (12.12)

荒木敏夫著
古代天皇家の婚姻戦略 359
(オンデマンド版) 四六判 232頁 **2,530円**(2,300)

古代の大王や天皇・王族の婚姻の特質に、近親婚の盛行が挙げられる。ミコ・ヒメミコやキサキらの婚姻環境、東アジア諸王権や倭王権の国際婚姻にも説き及び、近代以前の日本の歴史を貫く古代王権の婚姻の実態に迫る。
978-4-642-75759-1 (初版 2013.1)

森 公章著
古代豪族と武士の誕生 360
四六判 240頁 **1,870円**(1,700)

『正倉院文書』に登場する下総国海上郡の他田神護。彼ら古代の地方豪族は、激動する時代のなか、いかにその家系を存続させてきたのか。古代豪族のあり方や地方支配のしくみを探り、古代史を貫く地方豪族の実態を描く。
978-4-642-05760-8 (13.1)

安田政彦著
災害復興の日本史 361
四六判 240頁 **1,870円**(1,700)

富士山噴火・養和の大飢饉・明暦の大火・関東大震災など、人びとは災害をどう乗り越えてきたのか。古記録などにみえる被災の実態について、復興に焦点をあてて描く。過去の経験が指し示す、防災・減災への手掛かりとは。
978-4-642-05761-5 (13.2)

三浦正幸著
神社の本殿 —建築にみる神の空間— 362
四六判 256頁 **1,980円**(1,800)

神社本殿の内部はどうなっているのか、寺院本堂とはどう違うのか。知られざる神社建築の実態を、豊富な意匠の事例から、見取り図を駆使して読み解く。時代による変遷を辿りつつ、神社の見方がくまなく分かる、初めての書。
978-4-642-05762-2 (13.2)

小川原正道著
明治の政治家と信仰 363
—クリスチャン民権家の肖像—
(オンデマンド版) 四六判 204頁 **2,530円**(2,300)

政治家にとって信仰とは何か。片岡健吉・島田三郎ら5人のクリスチャン政治家は、内政・外交の現実に対してどう行動したのか。葛藤し、迷い、生きる道を模索した姿から、キリスト教と政治思想との関わりを考える。
978-4-642-75763-8 (初版 2013.3)

宜野座菜央見著
モダン・ライフと戦争 364
—スクリーンのなかの女性たち—
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

日本がファシズム化したと言われる1930年代、映画は戦争どころか平和で活気ある社会を描き続けた。田中絹代、原節子らがモダン・ガールとして登場した映画と戦争の意外な共犯性を論じ、資本主義と戦争の関係に迫る。
978-4-642-75764-5 (初版 2013.3)

平瀬礼太著
彫刻と戦争の近代 365
(オンデマンド版) 四六判 206頁 **2,530円**(2,300)

戦時体制下、材料不足や表現活動の制限に不自由さを感じつつ、戦争関連作品の創作を続けた彫刻家の苦難の歴史を辿る。戦後、戦争イメージが姿を変え、現代に残存している動向にも言及し、近代日本彫刻の変容を描く。
978-4-642-75765-2 (初版 2013.7)

価格は10%税込、( )内は本体価格

根立研介著
ほとけを造った人びと 366
―止利仏師から運慶・快慶まで―
第4回古代歴史文化賞優秀作品賞受賞 四六判 272頁 **1,980円**(1,800)

「ほとけ」、すなわち仏像はいかなる人々によってなぜ造られたのか。止利仏師や定朝、運慶、快慶ら、飛鳥時代より鎌倉前期に活躍した仏師の姿や、彼らが率いた工房の活動を描き出す。仏像をより深く理解できる一冊。
978-4-642-05766-0 (13.8)

関　周一著
朝鮮人のみた中世日本 367
(オンデマンド版) 四六判 240頁 **2,530円**(2,300)

室町時代、使節や漂流者として日本を訪れた朝鮮の人びと。当時の衣服・髪型から倭寇、食事と酒、稲作の方法まで、彼らが観察した日本の姿を、日本史料で検証して紹介。中世日本の社会・文化を異なる視点から見つめ直す。
978-4-642-75767-6 (初版 2013.9)

鳥越皓之著
琉球国の滅亡とハワイ移民 369
四六判 204頁 **1,870円**(1,700)

1879年の琉球国滅亡後、多くの人々がハワイへ移住したことはあまり知られていない。沖縄ハワイ移民1世が語った差別・労働・戦争など、等身大の歴史から、「国」のあり方は「人」の生き方にどう関わるのかを考える。
978-4-642-05769-1 (13.11)

松下孝昭著
軍隊を誘致せよ ―陸海軍と都市形成― 370
四六判 288頁 **1,980円**(1,800)

日清・日露戦争後、全国で軍隊誘致運動が起こり、敷地の献納合戦にまで過熱した。地元への経済効果、水道・鉄道などのインフラ整備、遊廓設置問題などから、住民が軍隊と共存しつつ都市形成と振興をめざした姿に迫る。
978-4-642-05770-7 (13.12)

深谷克己著
死者のはたらきと江戸時代 371
―遺訓・家訓・辞世―
(オンデマンド版) 四六判 222頁 **2,530円**(2,300)

身分制社会の江戸時代では、死者も生前の身分を引き継ぎ序列化された。君主の神格化、大名の遺訓、農家・商家の家訓や看取りの記録、辞世や自死など、死者が生者と協同して歴史をつくりあげていく様相を浮き彫りにする。
978-4-642-75771-3 (初版 2014.1)

酒井紀美著
戦乱の中の情報伝達 372
―使者がつなぐ中世京都と在地―
(オンデマンド版) 四六判 244頁 **2,640円**(2,400)

応仁の乱前夜、備中国新見庄と東寺の間では頻繁に文書が行き交い、情報交換が行われた。その担い手である使者たちの活動を追いつつ、在地の人びとの思想と行動を分析。鄙と京をつなぐコミュニケーションの実態に迫る。
978-4-642-75772-0 (初版 2014.2)

田中宣一著
名づけの民俗学 373
―地名・人名はどう命名されてきたか―
(オンデマンド版) 四六判 234頁 **2,530円**(2,300)

私たちを取り巻くすべてのモノが持つ「名前」は、どのように命名されてきたか。観察・解釈して表現した「名づけ」的命名と、未来への期待や決意を示した「名のり」的命名に分類してその実態を分析。今後の命名を考える。
978-4-642-75773-7 (初版 2014.3)

渡邉　晶著
大工道具の文明史 374
―日本・中国・ヨーロッパの建築技術―
四六判 222頁 **1,870円**(1,700)

ノコギリなどの手道具だけで巨大な木の建築物をつくり上げてきた工人たち。その技術と道具がユーラシア東西の文明圏でどう発達してきたかを比較し、土地の植生との関係にも注目。手道具と建築技術との関連を解明する。
978-4-642-05774-5 (14.4)

三上喜孝著
落書きに歴史をよむ 375
(オンデマンド版) 四六判 242頁 **2,530円**(2,300)

今も各地の古寺に残る、参詣者や武士らの「落書き」。彼らはその文字にいかなる思いを込め、なぜそこに書き記したのか。山形県の若松寺観音堂などの「落書き」から、社会と向き合う人々の心のありようを、歴史的に考える。
978-4-642-75775-1 (初版 2014.4)

大喜直彦著
神や仏に出会う時 376
―中世びとの信仰と絆―
四六判 222頁 **1,870円**(1,700)

中世びとは自然現象・動植物など身近に神仏を感じ共生し「信仰」の絆で結ばれていた。この「信仰」とは何か。古文書・文学作品・絵巻などを駆使し問題の核心に迫る。独自な切り口から新たな中世社会像を構築する。
978-4-642-05776-9 (14.5)

浜井和史著
海外戦没者の戦後史 377
—遺骨帰還と慰霊—
(オンデマンド版) 四六判 242頁 **2,640円**(2,400)

アジア太平洋戦争の海外戦没者約240万人のうち、日本に戻った遺骨は約半数しかない。「空の遺骨箱」が届き戸惑う遺族に政府はどう向き合い、遺骨収容や現地慰霊を行ってきたのか。「終わらぬ戦後」の原点を見つめ直す。
978-4-642-75777-5 (初版 2014.5)

亀田俊和著
南朝の真実 —忠臣という幻想— 378
四六判 234頁 **1,870円**(1,700)

「不忠の足利氏、忠臣ぞろいの南朝」—こうした歴史観は正しいのか。皇統が二つにわかれた南北朝時代の、皇位や政策をめぐって頻発した内乱と、複雑に絡みあう人物相関を詳述。本当の忠臣は誰か、新たな視点で描く。
978-4-642-05778-3 (14.6)

冨永 望著
昭和天皇退位論のゆくえ 379
(オンデマンド版) 四六判 226頁 **2,530円**(2,300)

昭和天皇が譲位し、昭和が早く終わる可能性は4回あった。天皇の戦争責任に端を発した退位問題はいかに巻き起こり、論議されたのか。日本社会における天皇の位置づけを考え、戦後日本人が選択しなかった道を探る。
978-4-642-75779-9 (初版 2014.6)

山田康弘著
老人と子供の考古学 380
(オンデマンド版) 四六判 274頁 **2,640円**(2,400)

縄文時代に、尊敬すべき「老人」はいたのか。子供たちはどのような社会的位置にあったのか。豊富な人骨出土事例から、縄文社会の実態に迫る。墓制から古くより現代にまでつながる思想である縄文的死生観を考える。
978-4-642-75780-5 (初版 2014.7)

水野剛也著
「自由の国」の報道統制 381
—大戦下の日系ジャーナリズム—
四六判 208頁 **1,870円**(1,700)

日米開戦後、アメリカの日本語新聞は激減した。言論・報道の「自由の国」で何が起こったのか。日系人収容施設で発行された新聞の実態に迫り、日系人ジャーナリズムへの報道統制から、戦時民主主義下の「自由」を考える。
978-4-642-05781-3 (14.7)

平山 優著
検証 長篠合戦 382
四六判 256頁 **1,980円**(1,800)

武田騎馬軍団を、織田・徳川の三千挺の鉄炮隊が三段撃ちで撃破。近年、その通説が揺らいでいる。両軍の鉄炮装備、武田騎馬衆の運用、兵農分離軍隊の実態など、合戦の諸問題を徹底検証。長篠合戦の真相に迫る話題作。
978-4-642-05782-0 (14.8)

手嶋泰伸著
海軍将校たちの太平洋戦争 383
(オンデマンド版) 四六判 202頁 **2,530円**(2,300)

悲惨な結末に至ったアジア・太平洋戦争。国家のエリートだった海軍将校たちはなぜ無謀な戦争を実行したのか。「合理的」な決定を目指すも、結果的に犠牲を生んだ彼らの思考に迫り、現代にも通じる組織のあり方を考える。
978-4-642-75783-6 (初版 2014.8)

刑部芳則著
京都に残った公家たち 385
—華族の近代—
四六判 284頁 **1,980円**(1,800)

明治2年に誕生した華族の中でも、天皇に近い存在だった「公家華族」。その多くは天皇とともに東京へ移ったが、京都に残った公家たちもいた。困窮しつつも公家文化の伝統を残そうと奔走した姿を描き、華族の役割を考える。
978-4-642-05785-1 (14.9)

中村順昭著
地方官人たちの古代史 386
—律令国家を支えた人びと—
四六判 208頁 **1,870円**(1,700)

古代国家の繁栄を支えたのは、戸籍を作成し租税を徴収した郡司や国司ら地方官人だった。村の生活を指示した木簡や、墾田開発・庄園経営などを伝える古文書から、古代の〝お役人〟の仕事を紹介し、その活躍を描き出す。
978-4-642-05786-8 (14.10)

福田千鶴著
豊臣秀頼 387
四六判 224頁 **1,870円**(1,700)

天下人の血筋を誇りながら、凡庸な性格が豊臣家を自滅させたとされてきた秀頼。この徳川中心史観を払拭し、波瀾の生涯から浮かぶ実像を再発見。彼が着々と歩んだ、秀吉の後継者としての政治家・天下人への道筋を探る。
978-4-642-05787-5 (14.10)

価格は10%税込、( )内は本体価格

水野智之著
名前と権力の中世史 388
―室町将軍の朝廷戦略―
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

名前に権力者と同じ文字を使うことができなかった中世社会。将軍は、公家衆に名前の一部を授けたり擬制の親子関係を結ぶことで、朝廷との関係をいかに強化しようとしたのか。名前をめぐる権力と政治状況を解き明かす。
978-4-642-05788-2　(14.11)

海原　亮著
江戸時代の医師修業 389
―学問・学統・遊学―
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

医師免許がなかった江戸時代。医師として必要な「学問」をいかに習得したのか。当時の医界を支えた「学統」や、医学の先進地への「遊学」など、就学プロセスを素材に実態を描く。医療の近代化を促した原動力にも迫る。
978-4-642-05789-9　(14.11)

伊集院葉子著
古代の女性官僚 390
―女官の出世・結婚・引退― 第30回女性史青山なを賞受賞
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

日本古代の宮廷で活躍した女官＝女性官僚とは、いかなる人びとだったのか。出仕のルートや日常業務、出世や俸給、結婚や引退、死に至るまでのライフコースを辿り、天皇の政務と日常生活を支えた女性の生き方を描く。
978-4-642-05790-5　(14.12)

森　謙二著
墓と葬送のゆくえ 391
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

近年、「埋葬」されない死者が増えている。祖先祭祀などの伝統的思想が変質しようとしている。このような変化はいかに生じてきたのか。人々の意識や家族関係の変化などから読み解き、「埋葬」されることの意味を問う。
978-4-642-05791-2　(14.12)

今井雅晴著
親鸞と歎異抄 392
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

浄土真宗の開祖親鸞のことばを門弟の唯円がまとめたとされる歎異抄。原文に平易な現代語訳を付し、丹念に読み解きながら親鸞の思想を探り、生き様も描く。今なお心に響くことばから、現代人の生きる指針をみつめる。
978-4-642-05792-9　(15.1)

高野信治著
武士の奉公 本音と建前 393
―江戸時代の出世と処世術―
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

平和の続く江戸時代、戦功をあげる機会がなくなり「役人」として生きることになった武士たち。上司に取り入り出世を勝ち取る者、保身や人間関係に配慮する者など、したたかに生きようとした彼らの「働く思い」を読み解く。
978-4-642-05793-6　(15.1)

若狭　徹著
東国から読み解く古墳時代 394
第3回古代歴史文化賞優秀作品賞受賞
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

列島全体が巨大な前方後円墳造りに熱中した時代、人々はいかに暮らしたか。東国の中心だった上毛野地域を軸に、王権の動向と併せて描く。集落・耕地・手工業などの視点で社会システムに迫り、地方から古墳時代を展望。
978-4-642-05794-3　(15.2)

柿沼陽平著
中国古代の貨幣 395
―お金をめぐる人びとと暮らし―
四六判　234頁　**1,870円**(1,700)

人間の貨幣への欲望はいつ生じたのか。中国古代の出土資料から貨幣の起源を探り、秦漢帝国が「貨幣統一」をめざした真相に迫る。人びとの日常生活から、貨幣の社会的意味を解き明かし、現代貨幣の意義をも照射する。
978-4-642-05795-0　(15.2)

近江俊秀著
平城京の住宅事情 396
―貴族はどこに住んだのか―
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

平城京にはどんな人がどこに住んでいたのか。長屋王邸などの発掘成果を駆使し、宅地の規模や構造から相続問題まで住宅事情に迫る。身分が高いほど一等地を与えられたとされる通説を見直し、当時の社会構造にまで言及。
978-4-642-05796-7　(15.3)

兼平賢治著
馬と人の江戸時代 398
(オンデマンド版)　四六判　222頁　**2,530円**(2,300)

江戸時代、馬は将軍から百姓まで多様な身分の人々と寄り添い生きていた。名馬の産地、盛岡藩領の南部馬に注目。武具・農具としての役割や、人馬をとりまく自然環境を読み解き、馬と人の営みから見える江戸社会を描く。
978-4-642-75798-0　(初版 2015.4)

沢井　実著
帝国日本の技術者たち 399
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

総力戦遂行のため、大量に必要とされた航空機・電波兵器・鉄道などの技術者たち。国内や植民地で彼らは活躍するが、敗戦後は民間企業などに転身し高度成長を牽引する。帝国日本の拡大を支えた技術者たちの実態に迫る。
978-4-642-05799-8　(15.4)

高橋秀樹著
三浦一族の中世 400
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

桓武平氏とされる、相模国随一の大豪族三浦氏の実像が今、見直されている。代々幕府の重鎮を輩出し宝治合戦でいったんは滅ぶも、佐原系三浦氏や三浦和田氏らは中世末まで存続した。一族の興亡から中世史を見つめ直す。
978-4-642-05800-1　(15.5)

鈴木芳行著
日本酒の近現代史 —酒造地の誕生— 401
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

近代、科学の進歩や機械化により「腐敗」の問題を断ち切った日本の酒づくり。全国の老舗酒造家たちは、酒税の改変や災害、不況、戦争など、激動の時代をいかに乗り越えてきたのか。酒造500年の歴史を鮮やかに描く。
978-4-642-05801-8　(15.5)

中橋孝博著
倭人への道 —人骨の謎を追って— 402
四六判　288頁　**1,980円**(1,800)

およそ2000年前、当時の中国から「倭人」と呼ばれた人々。彼らはいつどこから日本列島に渡り、新たな文化を広めたのか。人類のアジアへの拡散、縄文人のルーツと弥生人への移行など、「倭人」登場への道のりを追う。
978-4-642-05802-5　(15.6)

岡野友彦著
戦国貴族の生き残り戦略 403
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)〈僅少〉

戦国時代を、戦わずに生き抜いた公家・貴族たち。摂関家に次ぐ家格である清華家の一つ、久我家に伝わった『久我家文書』に光を当て、荘園経営など経済的側面から生き残りをかけた彼らの苦悩としたたかさを描く注目の一冊。
978-4-642-05803-2　(15.6)

本多博之著
天下統一とシルバーラッシュ 404
—銀と戦国の流通革命—
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

16世紀前半の石見銀山の開発を契機に日本経済や東アジア貿易、国際関係は激変した。銀の支配と流通から、西国大名の貿易や織豊政権の物流などを活写。戦国から天下統一へ激動する日本を、東アジア世界に位置づける。
978-4-642-05804-9　(15.7)

ジョン・ブリーン著
神都物語 —伊勢神宮の近現代史— 405
(オンデマンド版)　四六判　192頁　**2,530円**(2,300)

天照大神を天皇家の祖先神として祀る伊勢神宮。近代国家により天皇を権威づける存在として変貌するなか、伊勢参りとして栄えた庶民の聖地も「神都」として生まれ変わっていく。時代状況に合わせ変容する伊勢の近現代史。
978-4-642-75805-5　(初版 2015.7)

亀田俊和著
高師直 —室町新秩序の創造者— 406
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

足利尊氏を支えた執事高師直。戦前は南朝忠臣の好敵手、戦後は尊氏の弟直義の政敵として評され、悪人イメージが根強い。はたしてそれは本当なのか。卓越した改革派政治家として再評価し、栄光と没落の生涯を描く。
978-4-642-05806-3　(15.8)

樋口州男著
将門伝説の歴史 407
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

平安中期、新皇と称し坂東に王城建設を試みた平将門。敗死後の評価は叛逆者と英雄との狭間で揺れ、荒ぶる魂を鎮めるべく大手町の首塚や神田神社が築かれた。時代と地域によりさまざまに育まれた将門伝説の世界へ誘う。
978-4-642-05807-0　(15.8)

田中大喜著
新田一族の中世 408
—「武家の棟梁」への道—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

上野国を本拠とした義国流清和源氏の新田氏。同族の足利氏とは家格が違いながら、『太平記』ではなぜ「源家嫡流の名家」と描かれているのか。新田氏の足跡から実像に迫り、『太平記』に秘められた足利氏の思惑にも言及。
978-4-642-05808-7　(15.9)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

山本英貴著
旗本・御家人の就職事情 410
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

徳川将軍直属の家臣である旗本・御家人。彼らの就職口は少なく、自身の家柄や人脈などを駆使してポストを争った。幕府はいかにして彼らを職に就けようとしたのか。出世を図る武士の姿と幕府の人事システムに迫る。
978-4-642-05810-0　(15.10)

菊池勇夫著
五稜郭の戦い —蝦夷地の終焉— 411
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

戊辰戦争最後の「五稜郭の戦い」。箱館開港から榎本旧幕府軍の五稜郭占領にいたる経過を辿り、両軍の戦闘を詳述。「蝦夷島政府」の行政や松前藩など地域社会との関係などを描き、近世北方世界の終焉を歴史の中に位置づける。
978-4-642-05811-7　(15.10)

河西秀哉著
皇居の近現代史 413
—開かれた皇室像の誕生—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)〈僅少〉

天皇が居住し、宮中の公務が行われる皇居に、国民が入れるようになったのはいつからか。明治の宮城拝観から戦後の宮殿再建へ。皇居の歴史を辿り、「国民との近さ・親しみ」と「伝統・権威」の間で揺れ動く皇室像を考える。
978-4-642-05813-1　(15.11)

苅米一志著
殺生と往生のあいだ 414
—中世仏教と民衆生活—
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

地獄の観念が広まった中世は、動物の生命をうばう殺生(せっしょう)が罪とされ、狩猟や漁業にたずさわる人々が弾圧された。殺戮(さつりく)をなりわいとする武士の苦悩にも触れ、中世の文化や宗教の特質を「殺生」というキーワードから考える。
978-4-642-05814-8　(15.12)

久保健一郎著
戦国大名の兵粮事情 415
四六判　218頁　**1,870円**(1,700)

戦時の食糧であり、勝敗を左右する重要物資でもあった兵粮。戦国大名は、これをいかに取り扱い、戦に臨んだのか。調達法や備蓄、食糧以外の用途など、兵粮のさまざまな側面から戦国大名と社会のあり方を捉え直す。
978-4-642-05815-5　(15.12)

小畑弘己著
タネをまく縄文人 416
—最新科学が覆す農耕の起源— 第5回古代歴史文化賞大賞受賞
四六判　234頁　**1,870円**(1,700)

土器を成形する際に粘土中に紛れ込んだコクゾウムシやダイズの痕跡が、縄文人は狩猟採集民という常識を打ち破った。土器の中に眠っていた新たな考古資料「タネ」「ムシ」の発見が、多様で豊かな縄文時代像を明らかにする。
978-4-642-05816-2　(16.1)

笹生　衛著
神と死者の考古学 417
—古代のまつりと信仰— 第4回古代歴史文化賞優秀作品賞受賞
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

5世紀、日本列島の自然環境と関係する神祭りの原形が古墳祭祀と関連しつつ形成された。この時代の祭りや古墳との関係、祀った神や古墳の被葬者の歴史的な意味、現代の文化・信仰への影響など、新視点から実態に迫る。
978-4-642-05817-9　(16.1)

河内将芳著
落日の豊臣政権 418
—秀吉の憂鬱、不穏な京都—
四六判　208頁　**1,870円**(1,700)

戦国乱世を終結させ、豊臣政権が誕生するも、京都では政情不安による不穏な事件が噴出した。人びとの期待を背負った秀吉の治世とはいかなるものだったのか。政権全盛期の文禄年間の京都に光をあて、社会の実相を描く。
978-4-642-05818-6　(16.2)

勝田政治著
大久保利通と東アジア 419
—国家構想と外交戦略—
四六判　208頁　**1,870円**(1,700)〈僅少〉

征韓論政変後、大久保利通が華夷秩序の打破に向けた東アジア政策を展開するなかで、めざしたものとは何だったのか。異なる秩序の「対立・相克」の具体像と、戦争を回避した「妥協」の要因を、国家構想との関連で描く。
978-4-642-05819-3　(16.2)

沖本幸子著
乱舞の中世 —白拍子・乱拍子・猿楽— 420
第38回サントリー学芸賞(芸術・文学部門)受賞／2016年度青山学院学術賞
四六判　206頁　**1,870円**(1,700)

庶民のみならず貴族や寺院社会を席巻した、白拍子(しらびょうし)・乱拍子(らんびょうし)というリズム。滅びてしまった芸態を復元し、いまに伝わる能楽にどのように包含されているのかを考察。人々が身体表現の楽しさを知り、舞い始めた時代を描く。
978-4-642-05820-9　(16.3)

黒嶋　敏著
琉球王国と戦国大名 421
―島津侵入までの半世紀―
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

1609年の島津侵入事件は、強者による単純な軍事侵攻だったのだろうか。琉球と島津氏ら戦国大名の半世紀におよぶ政治的な駆け引きを追う。緊迫感ある外交展開を描き出し、琉球と薩摩の関係の本質を浮き彫りにする。
978-4-642-05821-6　(16.3)

小島道裕著
洛中洛外図屏風 422
―つくられた〈京都〉を読み解く―
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

京都の名所と市街、人々の姿を描いた洛中洛外図屏風。室町から江戸にかけての長い間、多くの作品が描かれ続けたのはなぜか。屏風絵に込められた膨大な情報から描かせた人々の思いを読み解き、洛中洛外図の魅力に迫る。
978-4-642-05822-3　(16.4)

根崎光男著
犬と鷹の江戸時代 423
―〈犬公方〉綱吉と〈鷹将軍〉吉宗―
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

江戸時代、犬・鷹・人間との関係には将軍権力が密接に絡み合っていた。「犬公方」綱吉や「鷹将軍」吉宗の積極的な鳥獣政策に翻弄される庶民生活。両者の諸政策を対比し、元禄～享保年間に揺れ動いた政治や文化を描く。
978-4-642-05823-0　(16.4)

坂上康博著
昭和天皇とスポーツ 425
―〈玉体〉の近代史―
四六判　284頁　**1,980円**(1,800)

皇居にはかつてゴルフ場やプールが存在し、スポーツに親しむ昭和天皇の姿が報じられた。幼少時代の遊び、多彩なスポーツ経験、戦時下の健康維持などを、豊富なエピソードを交えて辿り、天皇の身体＝玉体の形成に迫る。
978-4-642-05825-4　(16.5)

山村博美著
化粧の日本史 ―美意識の移りかわり― 427
四六判　238頁　**1,870円**(1,700)

化粧にはおしゃれ、みだしなみのほか、身分や年齢、未既婚などを示す機能もあった。メイクアップの変遷をたどり、流行の背景を社会現象とともに探る。美意識の変化やメディア戦略にも触れつつ、化粧の歴史を描きだす。
978-4-642-05827-8　(16.6)

町田祐一著
近代日本の就職難物語 428
―「高等遊民」になるけれど―
四六判　238頁　**1,870円**(1,700)〈僅少〉

高学歴ながら定職に就いていない「高等遊民」。彼らはいかに生み出され、社会はどう向き合ってきたのか。日本特有の「縁故」採用の実態をはじめ、当時の就活戦線を描く。今日も続く過酷で理不尽な就職事情の歴史に迫る。
978-4-642-05828-5　(16.7)

須田　勉著
国分寺の誕生 430
―古代日本の国家プロジェクト―
四六判　282頁　**1,980円**(1,800)

仏教を中心とする古代国家構想の核心だった国分寺。近年の考古学による成果から、堂塔の配置が統一的なものではなく地域情勢との関係の中で建設されたことを解明。建立にいたる政治状況を辿り、諸国国分寺を解説する。
978-4-642-05830-8　(16.8)

頴原澄子著
原爆ドーム 431
―物産陳列館から広島平和記念碑へ―
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)〈僅少〉

近代化の歩みの中で建設された広島県物産陳列館。原爆投下で廃墟となり、凄絶な悲劇を伝えながら、核廃絶希求の象徴として世界遺産に登録されるまでの歴史を追う。原爆ドームとは何かをその前史とともに捉え直す。
978-4-642-05831-5　(16.8)

柴田　純著
江戸のパスポート 432
―旅の不安はどう解消されたか―
四六判　280頁　**1,980円**(1,800)

庶民の旅が盛行した江戸時代。旅人は、身許証明と同時に、病気や不慮の事故の際に保護を求める文言が記された「往来手形」を携えた。この旅行難民救済のシステム＝パスポート体制からみえる江戸時代の光と影に迫る。
978-4-642-05832-2　(16.9)

髙岡弘幸著
幽霊 近世都市が生み出した化物 433
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

幽霊はいつ、いかにして生まれ、なぜ目に見えるのか。文学・芸能、民俗学的資料に描き込まれた幽霊が誘うままに近世社会を旅し、三都や城下町という「都市」の生活文化こそが幽霊の〝怖さ〟を生み出したことを考える。
978-4-642-05833-9　(16.9)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

樋上　昇著
樹木と暮らす古代人 434
―木製品が語る弥生・古墳時代―
四六判　286頁　**1,980円**(1,800)

持続可能な社会を目指し、いま注目されている里山。それを創り出した古代人は、森林資源とどのように関わり、木材から道具を作り出し生活していたのか。〝木の国〟日本の古代史像を、木材の利用を通して描き出す。
978-4-642-05834-6　(16.10)

木村茂光著
頼朝と街道 ―鎌倉政権の東国支配― 435
四六判　238頁　**1,870円**(1,700)

鎌倉に本拠を構えた源頼朝は、数度の長期遠征を経て物流の動脈たる街道をおさえ、その支配領域を拡大していく。幕府成立期において街道が果たした政治的役割を明らかにし、鎌倉に富が集積されるにいたる過程を描く。
978-4-642-05835-3　(16.10)

大橋泰夫著
出雲国誕生 436
四六判　284頁　**1,980円**(1,800)

古代出雲は、奈良時代に入る頃、大きな変革を迎えた。当時の様子を記す地誌『出雲国風土記』を考古学の成果から再検証し、役所の姿、整備された道路、数々の寺院を復元。古代都市としての出雲国の成立を明らかにする。
978-4-642-05836-0　(16.11)

桐原健真著
松陰の本棚 437
―幕末志士たちの読書ネットワーク―
四六判　202頁　**1,870円**(1,700)

古今東西の書物から情報収集した吉田松陰。『新論』を求め続けた彼の知的遍路や、獄中に記した『野山獄読書記』から松陰の思想形成の変化を追う。各地の志士との書籍貸借が育んだ同志的ネットワークの展開にも迫る。
978-4-642-05837-7　(16.11)

桃崎有一郎著
平安京はいらなかった 438
―古代の夢を喰らう中世―
四六判　288頁　**1,980円**(1,800)

平安京は必要だったのか―。理念優先で造られ住むには不便だった都市が、その「使いにくさ」を克服し、中世京都へと脱皮していく姿を鮮やかに描く。新視点で平安京を捉え直し、〝千年の都〟の本質に迫る刺激的な書。
978-4-642-05838-4　(16.12)

向井一雄著
よみがえる古代山城 440
―国際戦争と防衛ライン―
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

朝鮮半島にルーツを持つ日本の古代山城。その分布から、一見大陸からの防衛ラインをなしているが、機能したのだろうか。史書など記録にない謎の遺跡「神籠石系山城」を中心に実態を探り、新たな古代山城を描き出す。
978-4-642-05840-7　(17.1)

豊永聡美著
天皇の音楽史 ―古代・中世の帝王学― 442
四六判　220頁　**1,870円**(1,700)〈僅少〉

前近代の天皇は帝王学の一つとして管絃の習得を積み、どの楽器を演奏するかは、時には皇統の在り方をも左右した。音楽と天皇の権威との関わりや帝器の変遷を、古代・中世の天皇の音楽事績を紹介しつつ明らかにする。
978-4-642-05842-1　(17.2)

水沢　光著
軍用機の誕生 443
―日本軍の航空戦略と技術開発―
四六判　208頁　**1,870円**(1,700)

第１次世界大戦を経て、兵器としての飛行機が重視され始めるなか、日本も独自の開発を進めていく。陸海軍の航空戦略や研究機関の整備などを明らかにし、世界的レベルの名機を生み出した科学技術体制の実態を描き出す。
978-4-642-05843-8　(17.2)

海野　聡著
古建築を復元する 444
―過去と現在の架け橋― 第５回古代歴史文化賞優秀作品賞受賞
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

当時の姿を思い描くことができる、各地の遺跡の復元建物。その設計はどのように行われているのか。発掘遺構や遺物、現存する古代建築、絵画資料など、あらゆるピースを組み合わせて完成する復元の世界の魅力に迫る。
978-4-642-05844-5　(17.3)

赤嶺　淳著
鯨を生きる 445
―鯨人の個人史・鯨食の同時代史―
四六判　304頁　**2,090円**(1,900)

鯨とともに生きてきた〝鯨人〟6人が個人史を語る。江戸時代の鯨食文化から戦後の「国民総鯨食時代」、鯨肉が「稀少資源化」した今日まで、日本社会における捕鯨・鯨食の多様性を生活様式の移りかわりに位置づける。
978-4-642-05845-2　(17.3)

野口　実著
列島を翔ける平安武士 446
—九州・京都・東国—
四六判　208頁　**1,870円**(1,700)

中世前期の武士は所領に根を下ろして土着するイメージが強いが、実際は列島を広く移動した。京都に出仕することで傍輩とのネットワークを築き、様々な情報を得て列島各地に活動の場を広げていった彼らの実態に迫る。
978-4-642-05846-9　(17.4)

石井公成著
〈ものまね〉の歴史 448
—仏教・笑い・芸能—
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

古来、日本ではものまねが好まれ、さまざまな芸能や文学の底流となってきた。人間・神仏・動物その他を巧みにまね、花開いた芸態を、仏教芸能との関係を軸に読み解く。今日に至るものまねの歴史を描く初めての試み。
978-4-642-05848-3　(17.6)

寺前直人著
文明に抗した弥生の人びと 449
第6回古代歴史文化賞優秀作品賞受賞
四六判　320頁　**1,980円**(1,800)

水田農耕や金属器などの新文化を、列島の在来社会はどう受け止めたのか。縄文の伝統をひく土偶や石棒など儀礼品や、打製石器に着目し、文明に抗う人びとを描く。大陸文明の受容だけでは説明できない弥生の実像に迫る。
978-4-642-05849-0　(17.7)

川口暁弘著
ふたつの憲法と日本人 450
—戦前・戦後の憲法観—
四六判　336頁　**2,200円**(2,000)

明治以降の日本に存在するふたつの憲法が、これまで一度も一文字も改正されなかったのはなぜか。戦前の「不磨ノ大典」と改憲論、戦後の革新護憲・保守改憲・解釈改憲の歴史から、日本人の憲法観に迫る、いま必読の書。
978-4-642-05850-6　(17.8)

土田宏成著
帝都防衛 —戦争・災害・テロ— 452
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

近代東京の安全を脅かしたものは何だったのか。明治から昭和の敗戦までを分析し、対外戦争、関東大震災、二・二六事件など時代に要請された防衛課題を探る。帝都がいかに守られてきたかを検討しその社会的影響に迫る。
978-4-642-05852-0　(17.9)

青木　敬著
土木技術の古代史 453
四六判　288頁　**1,980円**(1,800)

古代から、土木技術は社会発展の礎となってきた。日本各地の古墳や名だたる仏教寺院・宮殿建築を生み出してきた伝統的工法を、豊富な発掘成果とともに紹介。古代の先端技術から、当時の人々が目指した社会を照射する。
978-4-642-05853-7　(17.10)

八鍬友広著
闘いを記憶する百姓たち 454
—江戸時代の裁判学習帳—
四六判　208頁　**1,870円**(1,700)〈僅少〉

江戸時代、百姓一揆の訴状が民衆の読み書き教材として流布した。実力行使から訴訟へという紛争解決法の転換期に、彼らはいかに先人の記憶を受け継ぎ、学び、権力と闘う力を得たのか。民衆自身が主人公となる歴史。
978-4-642-05854-4　(17.10)

石村　智著
よみがえる古代の港 455
—古地形を復元する—
四六判　266頁　**1,980円**(1,800)

古代の船は喫水が浅かったので、港はラグーン(内海)に作られた。ＧＩＳ(地理情報システム)を駆使して全国を探索し、土砂が堆積して陸化する前の景観を復元する。また港を繋ぐネットワークから、海の往来の実態を描く。
978-4-642-05855-1　(17.11)

佐藤至子著
江戸の出版統制 456
—弾圧に翻弄された戯作者たち—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

江戸時代後期、多くの読者を魅了した娯楽小説の戯作は、たびたび取り締まりの対象となった。権力側は何を問題視し、作者や版元はいかに受け止め対処したのか。形を変え現代に続く出版統制をめぐる攻防の歴史を描く。
978-4-642-05856-8　(17.11)

古畑　徹著
渤海国とは何か 458
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

古代の中国東北部～朝鮮半島北部に栄えた渤海国。この国の歴史を、現在各国が自国とのかかわりを強調して描きだしがちである。その対立を乗り越えるため、国際交流を軸に、地域の大きな枠組みに焦点を合わせ捉え直す。
978-4-642-05858-2　(18.1)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

神谷大介著
幕末の海軍 —明治維新への航跡— 459
四六判　288頁　**1,980円**(1,800)

ペリー来航から10年、洋式海軍が組織され、将軍家茂は蒸気船で上洛した。西洋の新技術はいかに導入されたのか。蒸気船の普及、海軍教育、軍港の成立から戊辰戦争の展開までをたどり、明治維新のメカニズムに迫る。
978-4-642-05859-9　(18.1)

生駒哲郎著
畜生・餓鬼・地獄の中世仏教史 460
—因果応報と悪道—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

中世人は、すべての人間が宿業を背負っていると考えていた。仏教の世界観である六道は三善道と三悪道とに別れ、殺生にも善悪の違いがあった。因果応報の歴史から中世人の思考を紐解き、知られざる中世仏教史を描く。
978-4-642-05860-5　(18.2)

橋本素子著
中世の喫茶文化 461
—儀礼の茶から「茶の湯」へ—
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

日本人にとってのお茶は、生活文化へも大きな影響を持つ。平安・鎌倉期に渡来した茶が、寺院や武家から一般の人びとに広がる過程を、生産・流通・消費を軸に茶屋の役割などの面から解明。茶の歴史から日本文化を見直す。
978-4-642-05861-2　(18.2)

桐野作人著
龍馬暗殺 462
第29回高知出版学術賞受賞
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

龍馬はなぜ殺されたのか。襲撃者の供述を再検討し、薩長土や会桑勢力の動向から、京都政局の対立軸を明らかにし、事件の真因を究明。事件後の政情や、衰えない〈薩摩〉説の起源と誤謬も解き明かし、暗殺の深層に迫る。
978-4-642-05862-9　(18.3)

矢田俊文著
近世の巨大地震 463
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)〈僅少〉

近世社会を何度も襲った巨大地震。幕府への被害報告や人々の日記から、津波や家屋倒壊の被害状況、死亡者数などを復元。俳句や紀行文などにまで「地震史料」の枠を広げ、歴史災害から未来への備えを拓くことに挑む。
978-4-642-05863-6　(18.4)

関根達人著
墓石が語る江戸時代 464
—大名・庶民の墓事情—　第31回濱田青陵賞受賞
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

自らの想いや願いを石に刻むことが流行した江戸時代。当時の墓石からは、いかなる社会が見えてくるのか。歴史災害、大名家の見栄と建前、海運によるヒト・モノ・情報の交流に迫り、墓石文化の重要性を改めて考える。
978-4-642-05864-3　(18.4)

清家　章著
埋葬からみた古墳時代 465
—女性・親族・王権—
四六判　284頁　**1,980円**(1,800)

数多くの古墳群の発掘成果(埋葬施設・副葬品・人骨の性別)から埋葬のルール(埋葬原理)を抽出。古墳時代の親族・女性首長たちの活躍や王位継承のあり方を分析する。「王朝交替論」についても一石を投じる注目の書。
978-4-642-05865-0　(18.5)

川満　彰著
陸軍中野学校と沖縄戦 466
—知られざる少年兵「護郷隊」—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

激戦地沖縄に潜伏した42名の陸軍中野学校出身者。そのもとに集められた「護郷隊」の少年兵や住民は、どのように戦争に巻き込まれたのか。元兵士の聞き取りなどから、陸軍中野学校がいかに沖縄戦に関与したかを描く。
978-4-642-05866-7　(18.5)

加瀬直弥著
古代の神社と神職 467
—神をまつる人びと—
四六判　236頁　**1,870円**(1,700)

古来、人々が神を慮りまつる神社や、まつりを司る神職とはいかなるものだったか。立地や社殿に注目し、神社の重要性を解明。神職の務めや平安朝廷の神職制度で生まれた神社の共通性から、神社と神職のあり方を考える。
978-4-642-05867-4　(18.6)

林　博史著
沖縄からの本土爆撃 468
—米軍出撃基地の誕生—
四六判　270頁　**1,980円**(1,800)〈僅少〉

太平洋戦争末期、米軍は占領した沖縄から本土爆撃を開始し九州などで民間人への無差別攻撃をおこなった。米軍史料から知られざる実態に迫り、戦争の加害と被害の関係を問う。今日の沖縄基地問題を考える上でも必読の書。
978-4-642-05868-1　(18.6)

安高啓明著
踏絵を踏んだキリシタン 469
四六判　288頁　**1,980円**(1,800)

キリスト教信者摘発のための絵踏は、なぜ形骸化したのか。九州諸藩が抱える事情や作法、踏絵素材の変更などを解明。信者でないことを証明する手段への変容過程を探り、悲劇的文脈で語られてきた絵踏観に一石を投じる。
978-4-642-05869-8　(18.7)

岩下哲典著
江戸無血開城 —本当の功労者は誰か？— 470
四六判　208頁　**1,870円**(1,700)

戊辰戦争で江戸を戦火から救った功労者は勝海舟ではなかった。駿府の敵中に乗り込んだ山岡鉄舟と、将軍慶喜の信頼をもとに、鉄舟を推薦した高橋泥舟。2人の動向を当時の情勢とともに追い、江戸無血開城の真実に迫る。
978-4-642-05870-4　(18.7)

稲葉継陽著
細川忠利 —ポスト戦国世代の国づくり— 471
第40回熊日出版文化賞受賞
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

細川家熊本藩主の初代、細川忠利。戦国動乱から「天下泰平」へ転換する変革期にいかに育ち、統治者として自己形成していったのか。忠利による国づくりを通して、「ポスト戦国世代」の歴史的使命を探り、時代を読み解く。
978-4-642-05871-1　(18.8)

尾脇秀和著
刀の明治維新 472
—「帯刀」は武士の特権か？—
四六判　288頁　**1,980円**(1,800)

「帯刀」＝武士の特権という今日の〝常識〟は、はたして正しいのか。江戸～明治初年まで、武器からファッション・身分標識・旧弊のシンボルへと移り変わる姿と維新で消えゆくまでを追い、「帯刀」の本当の意味に迫る。
978-4-642-05872-8　(18.8)

前田雅之著
書物と権力 —中世文化の政治学— 473
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

印刷技術が未発達な中世において、人は書物をどう入手していたのか。連歌師の流通への関与、伏見宮家から足利将軍への『風雅集』贈与など、書物の伝播・普及と権力との結びつきを解明。古典的書物を持つことの意味に迫る。
978-4-642-05873-5　(18.9)

田端泰子著
室町将軍の御台所 474
—日野康子・重子・富子—
四六判　238頁　**1,870円**(1,700)

室町将軍歴代の妻となった公家の日野家出身の女性たちは、飢饉や土一揆の頻発した難しい時代をどのように生きたのか。足利義満・義教・義政の妻を取り上げ、その政治的な役割と人生を時代情勢の推移とともに描き出す。
978-4-642-05874-2　(18.9)

竹井英文著
戦国の城の一生 —つくる・壊す・蘇る— 475
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

戦国期の城は、いつ誰の手で築かれ、いかに使われて廃城となったのか。築城技術やメンテナンス、廃城後の「古城」の再利用など、史料を博捜し読み解く。「城の使われ方」から戦争や城郭の実態を考えるヒントを与える。
978-4-642-05875-9　(18.10)

宇田川幸大著
考証 東京裁判 476
—戦争と戦後を読み解く—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

「東京裁判」は日本をいかに裁いたのか。帝国主義・植民地主義・レイシズム（人種差別）の発想と、今日の歴史認識問題にもつながる戦争観を重視し、膨大な史料を用いて裁判を再検証。不可視化された戦争被害の諸相に迫る。
978-4-642-05876-6　(18.10)

清水　亮著
中世武士 畠山重忠 477
—秩父平氏の嫡流—
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

武蔵国男衾郡畠山を本拠とした畠山重忠。「分け隔てない廉直な人物」と伝わるイメージの背景には、いかなるスタンスが秘められているのか。在地領主としての畠山氏のあり方に迫り、重忠という武士の生き方を描く。
978-4-642-05877-3　(18.11)

池田榮史著
海底に眠る蒙古襲来 478
—水中考古学の挑戦—
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

元寇船が発見された長崎県の鷹島海底遺跡。水中という環境の中で遺物探査や実測作業、船体保存などはいかに行われたか。試行錯誤をくり返しながら進められた調査過程を紹介し、水中考古学の手法と今後の可能性を探る。
978-4-642-05878-0　(18.12)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

大澤博明著
陸軍参謀 川上操六 480
—日清戦争の作戦指導者—
四六判　304頁　**2,090円**(1,900)〈僅少〉

薩摩出身の陸軍軍人で、大本営参謀として日清戦争を勝利へ導いた川上操六。長州閥との対立に苦悩しながらの作戦指導や戦後の軍拡計画に尽力した姿から、知られざる実像に迫り、日本の軍事的近代化の過程も振り返る。
978-4-642-05880-3　(19.2)

岡　陽一郎著
大道 鎌倉時代の幹線道路 481
四六判　304頁　**2,090円**(1,900)

鎌倉時代も今と変わらず、道路は社会を支える存在だった。しかし、道そのものの実態は資料が乏しくつかみにくい。中世の幹線道路＝〈大道〉の実像に迫り、「かまくらかいどう」に代表される従来の古道観の克服を試みる。
978-4-642-05881-0　(19.3)

本多隆成著
徳川家康と武田氏 482
—信玄・勝頼との十四年戦争—
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

信玄・勝頼二代にわたる武田氏との抗争は、家康最大の試練だった。今川領国への侵攻から武田氏滅亡まで、新説をふまえて描く。信長、将軍義昭との関係、松平信康事件にも注目。苦難の時代を乗り越えた家康の前半生。
978-4-642-05882-7　(19.4)

佐伯智広著
皇位継承の中世史 483
—血統をめぐる政治と内乱—
四六判　216頁　**1,870円**(1,700)

現在では常識の皇位の父子継承は、いつからどのように行われたのか。天皇親政から院政、鎌倉幕府滅亡、南北朝内乱まで、目まぐるしく展開した中世政治史を、天皇と権力・親族との関係を軸にとらえ、明快に描き出す。
978-4-642-05883-4　(19.4)

角田徳幸著
たたら製鉄の歴史 484
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

日本独自の製鉄法、たたら。生産地の移動や製鉄技術の革新からその発展を探り、「海のたたら、山のたたら」の視点で多様性を明らかにする。近代化のなかで果たした役割を考え、産業や暮らしを支えた、たたらの実像に迫る。
978-4-642-05884-1　(19.6)

伊藤純郎著
特攻隊の〈故郷〉 485
—霞ヶ浦・筑波山・北浦・鹿島灘—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

空への憧れから飛行兵の道を選んだ若者たちは、なぜ、どのように、誰の命令で特攻隊員となったのか。茨城県の霞ヶ浦や鹿島灘での厳しい訓練と、食事や外出などの生活から特攻隊の原風景を探り、その歴史を問い直す。
978-4-642-05885-8　(19.7)

水本邦彦著
海辺を行き交うお触れ書き 486
—浦触の語る徳川情報網—
四六判　288頁　**1,980円**(1,800)

江戸時代、海運や海難に関するお触れ書き「浦触」が、海辺の村や町に回ってきた。行方不明船の捜索、島抜け流人の追跡など、国や藩の境を越えて届く「浦触」を読み解き、幕府の情報ネットワークと全国支配の実態に迫る。
978-4-642-05886-5　(19.8)

春名宏昭著
〈謀反〉の古代史 487
—平安朝の政治改革—
四六判　208頁　**1,870円**(1,700)

平安前期、充実した国政運営が進展する一方、承和の変をはじめとする政変が頻発したのはなぜか。有能な官僚による「良吏政治」の下で変質する天皇のあり方などを読み解き、政治を動かす巨大なエネルギーの実態に迫る。
978-4-642-05887-2　(19.9)

今津勝紀著
戸籍が語る古代の家族 488
第８回古代歴史文化賞優秀作品賞受賞
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

国民の身分台帳たる戸籍。古代にも戸籍に人々が登録され、租税負担の基本となっていた。どの範囲の親族が記載されたのか、人口総数や平均余命、歳の差婚が多かった理由等々、古代の人々の暮らしを明らかにする。
978-4-642-05888-9　(19.10)

木村茂光著
平将門の乱を読み解く 489
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

「新皇」即位—。皇統を揺るがせ、朝廷に衝撃を与えた平将門の乱。乱の原因を探りつつ、その過程に八幡神や天神など新しい神々が登場する意味や王土王民思想が発現される要因を分析し、反乱の国家史的意義を読み解く。
978-4-642-05889-6　(19.11)

諏訪勝則著
明智光秀の生涯 490
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

本能寺の変の首謀者。前半生は不明だが、足利義昭や織田信長に臣従して頭角をあらわす。連歌や茶道にも長け、織田家中随一の重臣に上り詰めながら、なぜ主君を襲撃したのか。謀反の真相に新見解を示し、人間像に迫る。
978-4-642-05890-2　(19.12)

衣川　仁著
神仏と中世人 491
―宗教をめぐるホンネとタテマエ―
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

中世人は富や健康、呪詛などの願望成就を求め、寺社は期待に応えて祈りを提供した。人々は神仏にいかに依存し、どう利用したか。期待と実際とのズレから民衆の内面に迫り、現代の「無宗教」を考える手掛りを提示する。
978-4-642-05891-9　(19.12)

五條小枝子著
戦国大名毛利家の英才教育 492
―元就・隆元・輝元と妻たち―
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

戦国大名毛利家に関する膨大な文書から、元就・隆元・輝元の妻たちに光を当てる。夫婦関係や子どもへの細やかな愛情表現を明らかにし、家臣への心配りや婚家との架け橋など、書状から見えてくる毛利家の家族観に迫る。
978-4-642-05892-6　(20.1)

三谷芳幸著
大地の古代史 493
―土地の生命力を信じた人びと―
四六判　220頁　**1,870円**(1,700)

古代の人びとは、大地とどのように関わっていたのか。地方と都の人たちの大地をめぐる豊かな営みや、土地へのユニークな信仰を追究。「未開」と「文明」の葛藤をたどり、日本人の宗教的心性のひとつの根源を探り出す。
978-4-642-05893-3　(20.2)

中井真孝著
鎌倉浄土教の先駆者　法然 494
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

ひたすら念仏を唱えれば往生できると、庶民救済の道を開いた法然。近年発見された法語集や著作『選択本願念仏集』から生涯を辿り、思想と教えの特徴を読み解く。鎌倉時代の仏教に多大な影響を与えた等身大の姿に迫る。
978-4-642-05894-0　(20.2)

関　幸彦著
敗者たちの中世争乱 495
―年号から読み解く―
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

武士が台頭しその力が確立するなか、多くの政変や合戦が起きた。鎌倉幕府成立時の「治承・寿永の内乱」から戦国時代の幕開け「享徳の乱」まで、年号を介した15の事件を年代記風に辿り、敗れた者への視点から描く。
978-4-642-05895-7　(20.3)

服部　聡著
松岡洋右と日米開戦 496
―大衆政治家の功と罪―
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

日米開戦の原因をつくった外交官として、厳しく評価されている松岡洋右。しかし、現実の彼は日米戦争回避を図って行動していた。その狙いはなぜ破綻してしまったのか。複雑な内外の政治状況を繙き、人物像を再評価。
978-4-642-05896-4　(20.3)

湯浅治久著
中世の富と権力 ―寄進する人びと― 497
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

他者にものを譲渡する「寄進」は、中世においていかなる役割を果たしていたのか。在地領主や有徳人、宗教団体などを対象に、その実態に迫る。寄進によって生み出される新たな富、そして組織や権力のあり方をさぐる。
978-4-642-05897-1　(20.4)

関根達人著
石に刻まれた江戸時代 498
―無縁・遊女・北前船―
四六判　286頁　**1,980円**(1,800)

江戸時代に作られた多種多様な石造物には、いかなるメッセージが込められたのか。供養塔や災害碑に光を当て解読。人々の祈りや願い、神社への奉納石から海運史、石工の姿を描き、近世の自然や社会環境の実態に迫る。
978-4-642-05898-8　(20.4)

本間洋子著
香道の文化史 499
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

香道は中世日本で花開いた。香木の香りを鑑賞し、違いを聞き分けて楽しむ芸道の源流を探り、香文化の発展に深く関わった人々の姿を浮き彫りにする。また、香木は贈答品として使用され、政治的役割を担った側面も描く。
978-4-642-05899-5　(20.5)

源川真希著
首都改造 —東京の再開発と都市政治— 500
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

1964年東京オリンピック後の都市再開発から、副都心開発、バブルとその崩壊、2020年オリンピックに向けた再開発まで—。政府・都知事の都市構想やディベロッパーとの連携から東京の変貌を浮き彫りにする。
978-4-642-05900-8　(20.5)

野添文彬著
沖縄米軍基地全史 501
四六判　238頁　**1,870円**(1,700)

沖縄に米軍基地が集中し、維持されてきたのはなぜか。沖縄戦から現在に至るまでの通史から、米国・日本・沖縄社会が基地をいかに位置付けてきたかを検討。普天間基地移設など、いまだ課題を多く残す問題の淵源に迫る。
978-4-642-05901-5　(20.6)

関根　淳著
六国史以前 —日本書紀への道のり— 502
四六判　284頁　**1,980円**(1,800)

日本古代史の基本史料として絶対的な古事記と日本書紀。だが、古代には〝記紀〟以外にも帝紀・旧辞、天皇記・国記、上宮記など多くの史書が存在した。これらの実態に迫り、古事記を一つの史書として位置づけなおす。
978-4-642-05902-2　(20.7)

藤田　覚著
日本の開国と多摩 503
—生糸・農兵・武州一揆—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

ペリー来航や開港・自由貿易の開始は多摩に何をもたらしたのか。際限ないカネ・ヒトの負担、生糸生産発展の一方で生じた経済格差、武州一揆の発生など、その要因・実態を探り、未曽有の大変革に生きた多摩の営みを描く。
978-4-642-05903-9　(20.7)

鷺森浩幸著
藤原仲麻呂と道鏡 504
—ゆらぐ奈良朝の政治体制—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

奈良時代、政治の実権を持った藤原仲麻呂と道鏡。彼らはいかに絶大な権力を握ったのか。乱を起こし一族滅亡した仲麻呂、皇位に手が届いたかにみえたが失脚した道鏡。2人の人物像と政治背景を軸に政変の実像を探る。
978-4-642-05904-6　(20.8)

小菅信子著
日本赤十字社と皇室 505
—博愛か報国か—
四六判　192頁　**1,870円**(1,700)

日本における赤十字による救護活動は、皇室の全面的な保護のもと普及した。日露戦争から第2次世界大戦にいたる過程で、国際主義と国家主義のはざまに立ち、国民統合装置としてゆるやかに近代日本を支えた側面を描く。
978-4-642-05905-3　(21.2)

森　公章著
天神様の正体 —菅原道真の生涯— 506
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

儒者の家に生まれた菅原道真は、なぜ政治の世界で異例の出世を遂げたのか。また、なぜある日突然、大宰府に左遷されたのか。三善清行との確執や遣唐使廃止に至る真相など、さまざまな側面から〝天神様〟の姿に迫る。
978-4-642-05906-0　(20.9)

吉野秋二著
古代の食生活 —食べる・働く・暮らす— 507
四六判　192頁　**1,870円**(1,700)

食べれば残らないから、はるか古の食生活は再現が難しい。誰が何をどう食べたのか。米の支給方法や調理、酒の醸造と流通、東西の市場、酒宴の様子などからアプローチ。食事を成り立たせた社会の仕組みを明らかにする。
978-4-642-05907-7　(20.9)

松本和也著
イエズス会がみた「日本国王」 508
—天皇・将軍・信長・秀吉—
四六判　234頁　**1,870円**(1,700)

戦国末期に来日し、キリスト教を布教したイエズス会の宣教師たち。彼ら西洋人は、日本の権力者をどのように見ていたのか。書き残された膨大な書翰や報告書を分析し、実体験に基づく日本国家観、権力者観を読み解く。
978-4-642-05908-4　(20.10)

芳井研一著
難民たちの日中戦争 509
—戦火に奪われた日常—
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

日中戦争の全面化は、中国大陸で戦禍を逃れて流浪する厖大な戦争難民を生んだ。都市爆撃が戦争の展開にもたらした影響や、国民政府と中国共産党の難民救済対策などに光を当て追跡。従来の〈日中戦争史〉に一石を投じる。
978-4-642-05909-1　(20.10)

今井雅晴著
仏都鎌倉の一五〇年 510
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

武士政権が成立した鎌倉は、新たな宗派を唱える意欲的な僧侶が集まり繁栄した。幕府の指導者たちは新しい仏教の助けを借りて政治課題にどう取り組んだのか。僧侶たちの足跡や宗派の特色、仏教思想や文化に触れ描く。
978-4-642-05910-7　(20.11)

伊藤正直著
戦後文学のみた〈高度成長〉 511
四六判　232頁　**1,870円**(1,700)

高度成長期の小説は、同時代をどう捉えていたのか。産業構造と労働、近代家族、統治システムの３つに焦点を絞り、伊藤整、庄野潤三、石川達三らの作品を経済という観点から読み解き、現代の鏡としての高度成長に迫る。
978-4-642-05911-4　(20.11)

石井龍太著
ものがたる近世琉球 512
―喫煙・園芸・豚飼育の考古学―
四六判　206頁　**1,870円**(1,700)

周辺地域の影響を受けつつ独自の発展をとげた琉球。江戸時代の頃にはどのような文化が花開いたのだろうか。喫煙・園芸・豚飼育を歴史考古学の手法で掘り下げ、思想・風習・制度・行動・価値など人々の日常に迫る。
978-4-642-05912-1　(20.12)

髙杉洋平著
昭和陸軍と政治 513
―「統帥権」というジレンマ―
四六判　282頁　**1,980円**(1,800)

軍部の暴走を招いた要因とされる統帥権独立制には、政治からの軍事の独立とともに、軍部の政治介入禁止という二面性があった。軍人たちは、これらをどう認識してきたのか。政治との関わり方に苦悩する昭和陸軍に迫る。
978-4-642-05913-8　(20.12)

設楽博己著
顔の考古学 ―異形の精神史― 514
第８回古代歴史文化賞大賞受賞
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

土偶・仮面・埴輪・土器など、〈顔〉を意匠とする造形品には、古代人のいかなるメッセージが込められていたのか。抜歯やイレズミ、笑いの誇張表現、装身具などを分析。顔への意識の変化と社会的背景を明らかにする。
978-4-642-05914-5　(21.1)

伊藤喜良著
伊達一族の中世 ―「独眼龍」以前― 515
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

「独眼龍」以前の伊達一族は、福島盆地を拠点に活動していた。鎌倉期から戦国初期までの360年に及ぶ歴史を、地理的条件や諸系図、発掘調査の成果などを検討しつつ描き、戦国奥羽の覇者となる礎を築いた時代に迫る。
978-4-642-05915-2　(21.1)

倉地克直著
江戸時代の瀬戸内海交通 516
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

江戸前期、瀬戸内海交通の重要性が高まった。大坂・江戸へさまざまな物が運ばれ、人びとが行き交い、海難事故に対する救助や補償の方法が定まっていく。岡山藩「御留帳」「御船手」から幕藩体制を支えた海上交通事情を探る。
978-4-642-05916-9　(21.2)

大城道則著
神々と人間のエジプト神話 517
―魔法・冒険・復讐の物語―
四六判　238頁　**1,870円**(1,700)

旧約聖書やイソップ寓話、ハリー・ポッターなど、物語の題材の起源となったエジプト神話。神々と王・役人・庶民らが織りなす６つの神話を日本語に訳し、事物・風習・文化を解説。人々を魅了する古代エジプトへと誘う。
978-4-642-05917-6　(21.2)

鶴見泰寿著
東大寺の考古学 518
―よみがえる天平の大伽藍―
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

聖武天皇が造営した国家的大寺院・東大寺の創建当初の面影は、今日までどれほど残り、当時はどのような伽藍だったのか。文献・絵画資料の検証と最新の発掘調査の成果を手がかりに、奈良時代の東大寺の実像に迫る。
978-4-642-05918-3　(21.3)

林　千寿著
家老の忠義 ―大名細川家存続の秘訣― 519
第43回熊日出版文化賞受賞
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

戦国の荒波を乗り越え、肥後熊本藩主となった細川家。主君への忠義が絶対ではなかった時代、筆頭家老松井康之と息子興長は細川家存続にいかなる影響を与えたのか。主家と藩政の維持・発展に尽くした家老の姿を描く。
978-4-642-05919-0　(21.3)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

藤田勝也著
平安貴族の住まい 520
―寝殿造から読み直す日本住宅史―
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

平安貴族の住宅としてよく知られる寝殿造。だが、建物は現存せず実像は謎につつまれている。遺構や絵巻、史料から、左右対称と言われてきたこれまでの通説を徹底検証。寝殿造の本質に迫り、日本住宅史に一石を投じる。
978-4-642-05920-6　(21.4)

樋口健太郎著
摂関家の中世 521
―藤原道長から豊臣秀吉まで―
四六判　288頁　**1,980円**(1,800)

天皇を支えた摂政・関白。それはいかなる地位でどのような政務に携わったのか。平安後期から秀吉の関白就任まで、摂関職の継承と権力の変転を描く。幾度の危機を乗り越え、その都度新たな価値を創出した摂関家の歴史。
978-4-642-05921-3　(21.4)

高田貫太著
アクセサリーの考古学 522
―倭と古代朝鮮の交渉史―
四六判　288頁　**1,980円**(1,800)

古墳時代、日本列島では冠・耳飾りなど貴金属のアクセサリーが流行した。朝鮮半島から贈られた品々には、いかなる意図が込められていたのか。発掘されたアクセサリーを紹介しつつ、身に着けた人びとの群像を活写する。
978-4-642-05922-0　(21.5)

山口博之著
山寺立石寺 ―霊場の歴史と信仰― 523
四六判　304頁　**1,980円**(1,800)

慈覚大師円仁の開創と伝わる山寺立石寺。その全貌を、絵図や古文書、石造物などのモノ資料から分析。比叡山延暦寺や最上氏との関係にもふれ、信仰の形と背景を解明。霊場を切り口に、地域の中世史の再構築を試みる。
978-4-642-05923-7　(21.5)

西谷正浩著
中世は核家族だったのか 524
―民衆の暮らしと生き方―
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

日本的な家制度が出現した中世。親子・兄弟が別居する家族システムで、人々はいかに暮らし生き抜いたか。農業変革など様々な角度から大変動の背景を探る。名主の家族戦略や財産相続にも言及し、民衆生活の変化に迫る。
978-4-642-05924-4　(21.6)

谷口雄太著
〈武家の王〉足利氏 525
―戦国大名と足利的秩序―
四六判　192頁　**1,870円**(1,700)

群雄割拠する戦国時代も、足利氏は実力を失うが将軍であり続けた。なぜ武士たちは足利氏を認めたのか。武家の王＝足利氏とする序列意識「足利的秩序」に焦点をあて、その存続と滅亡の謎に迫り、「足利時代」を再考する。
978-4-642-05925-1　(21.6)

川満　彰著
沖縄戦の子どもたち 526
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

太平洋戦争末期の沖縄。少年兵・学徒隊への動員、学童疎開、「集団自決」、戦争孤児など激しい戦禍に遭った少年少女たちがいた。彼らの体験や視点を通して、二度と戦争を起こさないために何ができるのかを考える。
978-4-642-05926-8　(21.6)

小池　進著
徳川忠長 ―兄家光の苦悩、将軍家の悲劇― 527
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

3代将軍家光の弟で駿河大納言と呼ばれた徳川忠長。将軍家連枝でありながら、なぜ自害に至ったのか。父母より寵愛を受けた幼少期、駿府藩主時代、改易から自害に至るその全生涯を描き、幕藩政治史のなかに位置づける。
978-4-642-05927-5　(21.7)

福田千鶴著
女と男の大奥 ―大奥法度を読み解く― 528
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

江戸城本丸奥にあり、将軍の家族が暮らした後宮＝大奥。その実態を知る上で不可欠な大奥法度から歴史・職制・機能を分析。多くの男たちが出入りしていた事実を明らかにし、「女たちの大奥」という固定観念を問い直す。
978-4-642-05928-2　(21.7)

佐野静代著
外来植物が変えた江戸時代 529
―里湖・里海の資源と都市消費―
2022年度日本地理学会賞(著作発信部門)受賞　四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

人間活動を含んだ水辺の生態系を里湖・里海と呼ぶ。そこで採られた水産肥料の主な対象は、木綿やサトウキビなど近世の外来植物だった。山地の環境変化や都市の消費需要も視野に入れ、人為的な「自然」の実像に迫る。
978-4-642-05929-9　(21.8)

高村聰史著
〈軍港都市〉横須賀 530
—軍隊と共生する街—
四六判　352頁　**2,310円**(2,100)

幕末以降、海陸軍に依存しながら発展した〈軍港都市〉横須賀。在日米海軍の基地となった今日まで、地域に存在する軍隊とそこに生きる人びとの暮らしとの関わりを解明。東洋一と謳われた軍港の歴史と〈軍都〉のゆくえを追う。
978-4-642-05930-5　(21.8)

佐々木　徹著
慶長遣欧使節 531
—伊達政宗が夢見た国際外交—
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

江戸時代初期、スペイン国王やローマ教皇と謁見した慶長遣欧使節。伊達政宗はなぜ一行を派遣したのか。国内外に散らばる史料から、政宗・幕府・スペイン・使節などの思惑が錯綜した政治的駆け引きと政宗の狙いに迫る。
978-4-642-05931-2　(21.9)

岩本　馨著
明暦の大火 —「都市改造」という神話— 532
2024年日本建築学会著作賞受賞
四六判　296頁　**2,090円**(1,900)

世界史上最大級の惨事といわれる明暦の大火。その後の「都市改造」が新たな江戸を創り上げたというのは正しいのか。信頼できる記録から事実関係を確認。江戸図の情報から都市の変遷を読み解き、大火と復興の実像に迫る。
978-4-642-05932-9　(21.9)

木越隆三著
隠れた名君　前田利常 533
—加賀百万石の運営手腕—
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

父利家、兄利長の後を継ぎ、前田家三代当主となった利常。彼はいかにして加賀藩の基礎を揺るぎないものとしたのか。最晩年の藩政改革「改作法」に至る政治過程を解明。「一揆の国」の近世化を達成した生涯と業績を描く。
978-4-642-05933-6　(21.10)

上杉和央著
軍港都市の一五〇年 534
—横須賀・呉・佐世保・舞鶴—
四六判　304頁　**2,090円**(1,900)

近代海軍が拠点を置いたことで誕生した軍港都市。鎮守府・海軍工廠があった旧軍港四市の人口・戸数の変遷や人びとの営み、交通や観光、戦後のまちづくりなどを描き、平和産業都市への生まれ変わりを見通した軍港都市史。
978-4-642-05934-3　(21.10)

森　幸夫著
六波羅探題 —京を治めた北条一門— 535
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

承久の乱後に京都に置かれ、西国統治に重要な役割を果たした六波羅探題。執権・連署に次ぐ重職とされた実態やいかに。朝廷や大寺社とも折衝しつつ機能を整えた変遷と、政治家の力量が問われた探題北条氏の苦闘を描く。
978-4-642-05935-0　(21.11)

櫻井　彦著
信濃国の南北朝内乱 536
—悪党と八〇年のカオス—
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

約60年続いたとされる南北朝内乱。信濃国はさらに20年も長引いた。地域のなかで衝突を繰り返す悪党が全国展開した時代だが、信濃国では様相を異にしていた。当地の地域集団に光をあて、内乱長期化の要因に迫る。
978-4-642-05936-7　(21.11)

小宮　孟著
イヌと縄文人 537
—狩猟の相棒、神へのイケニエ—
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

イヌと縄文人のつきあいは約8500年前までさかのぼる。日本列島に渡来した縄文犬のルーツをたどり、埋葬されたイヌの出土状態から生活を復元。猟犬や神へのイケニエとしての役割を探り、イヌと縄文人の関係を解明。
978-4-642-05937-4　(21.12)

宇佐美英機著
近江商人と出世払い 538
—出世証文を読み解く—
四六判　288頁　**1,980円**(1,800)

出世払い慣行はいかに成立し定着したのか。全国的に活動した近江商人を取り上げ、残された出世証文から歴史や仕組みをひもとく。いまも事業継続する企業も多く、高い道徳観に裏打ちされた立身・出世観を解き明かす。
978-4-642-05938-1　(21.12)

岡寺　良著
九州戦国城郭史 539
—大名・国衆たちの築城記—
四六判　298頁　**2,090円**(1,900)

毛利・秋月・大友・島津らの覇権をめぐる合戦や領国争い、秀吉による九州平定を、城館に焦点をしぼって描く。平地の館や「陣城」にも着目。築城をめぐる彼らの目論見を読み解き、新たな九州戦国史像を明らかにする。
978-4-642-05939-8　(22.1)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

中井淳史著
中世かわらけ物語 540
—もっとも身近な日用品の考古学—
四六判　304頁　**2,090円**(1,900)

中世に誰もが使用した器・かわらけ。大量に出土する遺物でも、それぞれに個性があり中世社会を雄弁に語る。製法、用途、デザインの流行などを読み解き、地域や身分を超え人びとの暮らしに寄り添ってきた姿を描きだす。
978-4-642-05940-4　(22.1)

鈴木正信著
古代氏族の系図を読み解く 541
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

古代氏族と天皇家とのつながりを伝える系譜と、その内容を系線によって視覚的に表現した系図。海部氏・因支氏・紀氏の系図を手がかりに、古代氏族の成立・展開の過程を読み解く。各系図の写真・翻刻を掲載する。
978-4-642-05941-1　(22.2)

佐々木雄一著
リーダーたちの日清戦争 542
四六判　266頁　**1,980円**(1,800)

近代国家として初の本格的な対外戦争＝日清戦争を、日本の指導者はどのように遂行したのか。開戦過程、諸外国との折衝、講和までの動向、三国干渉と日本の対応などを解明。東アジアの秩序を変えた戦争の全貌に迫る。
978-4-642-05942-8　(22.2)

永井　晋著
鎌倉幕府はなぜ滅びたのか 543
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

窮乏する御家人、旧式化した騎馬武者の合戦、悪党の活動、分裂した王家…。さまざまな矛盾によって幕府政権がゆらぐなか、後醍醐天皇による討幕運動が起きた。鎌倉末期10年の政治と合戦を詳述し、幕府滅亡の理由を問う。
978-4-642-05943-5　(22.3)

中塚　武著
気候適応の日本史 544
—人新世をのりこえる視点—
第8回古代歴史文化賞優秀作品賞受賞　四六判 256 頁 **1,980 円**(1,800)

古来、人びとは気候変動にいかに適応してきたのか。古気候復元の最新データと史資料を照合し、気候変化のスピードが社会に与えた影響という視点で描く初の通史。昨今の地球環境問題に気候適応史研究の重要性を説く。
978-4-642-05944-2　(22.3)

篠川　賢著
物　部　氏 —古代氏族の起源と盛衰— 545
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

倭政権下、仏教の受容をめぐり蘇我氏と対立し、敗北したとされる物部氏。その祖先伝承や職掌の実態、「崇仏論争」記事の信憑性など、成立から衰退までをわかりやすく解説。謎に包まれた物部氏の実像を解き明かす。
978-4-642-05945-9　(22.4)

高野信治著
神になった武士 546
—平将門から西郷隆盛まで—
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

死後、あるいは生きているうちから〈神〉となった武士がいる。彼らはなぜ祀られるようになったのか。祭祀・神格化の過程を読み解き、地域守護、治病利益、国家の忠臣など、さまざまな役割を担った〈神〉の全体像に迫る。
978-4-642-05946-6　(22.4)

下垣仁志著
鏡の古墳時代 547
四六判　304頁　**2,090円**(1,900)

古墳時代の鏡は古代国家形成の立役者だった。鏡図像のイデオロギー的意味、配布をつうじた政治関係、保有と副葬の実態などから、鏡をめぐる政治力学を詳細に解説。倭人にとって鏡とは何だったのかを解き明かす。
978-4-642-05947-3　(22.5)

中村琢巳著
生きつづける民家 548
—保存と再生の建築史—
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

庶民の住宅＝民家は、いかにして今日まで受け継がれてきたのか。メンテナンスを繰り返し、部材がリサイクルされる民家の特性を解明。間取りや構造、自然素材、伝統技術などからも、秘められた価値を見つめなおす。
978-4-642-05948-0　(22.5)

福田千鶴著
大奥を創った女たち 549
四六判　288頁　**2,090円**(1,900)

江戸城本丸の大奥で、歴代将軍を支えた女性たち。家康から綱吉に至る妻妾や女親族、女中たちの日々の暮らし、その役目を探り全貌を解明する。キャリアの様相から、江戸時代の女性の生きざまを歴史のなかに位置づける。
978-4-642-05949-7　(22.6)

水本邦彦著
土砂留め奉行 —河川災害から地域を守る— 550
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

淀川・大和川水系の土砂流出現場を巡回した土砂留め奉行。彼らの残した日誌や御触書、絵図資料から、山地荒廃の実態や土木工事の様子、奉行の所属藩や権限について解明。災害と人間社会の関係を歴史のなかで考える。
978-4-642-05950-3　(22.6)

松崎元樹著
東京の古墳を探る 551
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

都心から多摩地域を含む古代武蔵野には、多様な古墳墓が存在した。都心や多摩川流域に築かれた墳墓の変遷を探る。石室墳や横穴墓の構造・副葬品・埋葬の実態から、造墓集団の性格や地域社会の変容・文化の交流に迫る。
978-4-642-05951-0　(22.7)

三宅和朗著
古代の人・ひと・ヒト 552
—名前と身体から歴史を探る—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

古代国家が作成した戸籍・計帳からは窺えない有名無名の人々の世界。『日本霊異記』などを手がかりに、人名、障害や病気、身長、顔まで、個性ある一人一人と向き合いつつ人々の心のうちを解明する、環境への心性史。
978-4-642-05952-7　(22.7)

神谷正昌著
皇位継承と藤原氏 553
—摂政・関白はなぜ必要だったのか—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

摂関政治は、天皇制の危機を回避するものだったと見直されている。幼帝の即位など皇位継承がゆらぐなか、藤原氏はいかなる役割を果たしたのか。摂政・関白が創出された経緯や、外戚政治の真相を探り、明らかにする。
978-4-642-05953-4　(22.8)

羽柴直人著
もう一つの平泉 554
—奥州藤原氏第二の都市・比爪—
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

奥州藤原氏の拠点平泉の北方に存在した中核都市「比爪」。近年の発掘調査で平泉に匹敵する姿がみえてきた。文献も駆使し、都市構造や統治のあり方、平泉との関係などを考察。知られざる比爪系奥州藤原氏の歴史に迫る。
978-4-642-05954-1　(22.8)

仁藤敦史著
東アジアからみた「大化改新」 555
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

「大化改新」は東アジア世界のなかでどのように位置づけられるのか。膨張する隋唐帝国への対応を迫られる高句麗・百済・新羅。三国の動向と外交政策の対立をもとに、古代日本の一大画期を新たな視点から再検討する。
978-4-642-05955-8　(22.9)

新谷尚紀著
遠野物語と柳田國男 556
—日本人のルーツをさぐる—
四六判　238頁　**1,870円**(1,700)

日本民俗学の出発点『遠野物語』は、山姥や河童・ザシキワラシ、犬・猿・馬などが登場し、臨死体験、神隠しなどの不思議な経験を伝える。伝承にひそむ古来の生活様式やものの見方を知り、日本人の歴史的変遷を探る。
978-4-642-05956-5　(22.9)

磐下　徹著
郡司と天皇 —地方豪族と古代国家— 557
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

地域に根ざした勢力をもつ豪族は、天皇から郡司に任命されて地方支配を担う一方、行基ら僧侶とともに民衆を集め治水・架橋事業を展開した。郡司を輩出する氏族の構成や影響力、僧侶との関係から、古代社会の姿を描く。
978-4-642-05957-2　(22.10)

大日方純夫著
唱歌「蛍の光」と帝国日本 558
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

「蛍の光」には現存しない3番・4番があった。「帝国」版図の拡大と幻の歌詞を読み解き、その成立と変遷過程を「国民国家」日本の歴史の中に位置づけ、日本と東アジアの植民地支配に与えた影響を解き明かす。
978-4-642-05958-9　(22.10)

谷口雄太著
足利将軍と御三家 559
—吉良・石橋・渋川氏—
四六判　220頁　**1,870円**(1,700)

従来の研究で「負け組」とされた足利御三家の吉良・石橋・渋川家(氏)は、儀礼権威体系からみると別格の存在だった。斯波氏にもふれつつ、知られざる足利御三家の存在に光を当てる。室町時代を「権威」から読む注目の一冊。
978-4-642-05959-6　(22.11)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

平川　新著
〈伊達騒動〉の真相 560
四六判　302頁　**2,200円**(2,000)

仙台藩の存亡を２度も揺るがした伊達騒動。３代藩主綱宗の強制隠居や原田宗輔の刃傷沙汰など、新出史料を交え事件の真相に迫る。演劇や文学で語られる老中陰謀説や原田忠臣説にも言及、伊達騒動全史の解明に挑む。
978-4-642-05960-2　(22.11)

小池伸彦著
古代の刀剣 —日本刀の源流— 561
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

日本刀の美しい反りや刃文はいつ、どのように生まれたのか。古代鉄刀に代表される直刀から湾刀への変遷を、古代の鉄生産の実態や、正倉院刀の調査を視野に入れ解明。現代刀匠の技術にも着目し、日本刀の源流に迫る。
978-4-642-05961-9　(22.12)

笠井雅直著
国産航空機の歴史 562
—零戦・隼からＹＳ-一一まで—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

明治末の外国機輸入に始まる日本の航空機の歴史。戦争で三菱・中島・川崎を中心に軍用機の開発・製造が本格化し、大量生産・流れ作業の工程を構築。敗戦を経て、戦後の国産化へと受け継がれる航空機産業の盛衰を描く。
978-4-642-05962-6　(22.12)

小寺智津子著
ガラスの来た道 563
—古代ユーラシアをつなぐ輝き—
四六判　288頁　**2,090円**(1,900)

古代西アジアで発明され、東方にもたらされたガラス製品。どのような人物が入手し、そこにはいかなる意味があるのか。シルクロードの東西交渉や日本と大陸の交流などをガラスから読み解き、古代の人々の活動を映し出す。
978-4-642-05963-3　(23.1)

千葉芳広著
帝国主義とパンデミック 564
—医療と経済の東南アジア史—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

19世紀、拡大する帝国主義は感染症の流行にどう対応したのか。帝国の東南アジア支配に医療が果たした役割、西洋医療と現地社会との摩擦、医療と経済の関係から、病と健康の歴史をグローバルな視点で明らかにする。
978-4-642-05964-0　(23.1)

太田博樹著
古代ゲノムから見たサピエンス史 565
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

発掘された人骨のＤＮＡを分析する古代ゲノム学。ネアンデルタール人のゲノム解析で明らかになった人類の進化を解説。縄文人ゲノム解読で分かったその系統など、日本における最新の研究成果も紹介し今後を展望する。
978-4-642-05965-7　(23.2)

北野信彦著
天下人たちの文化戦略 566
—科学の眼でみる桃山文化—
四六判　252頁　**1,980円**(1,800)

信長・秀吉・家康ら天下人は、なぜ豪華絢爛な建築や美術品を作らせたのか。文化財にわずかに残った材料や技術を科学的に分析。海外交易を背景に技術力と財力を駆使した、権力者たちのしたたかな「文化戦略」に迫る。
978-4-642-05966-4　(23.2)

渡邊　誠著
王朝貴族と外交 567
—国際社会のなかの平安日本—
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

諸国の勃興と衰退がめまぐるしい東アジア情勢において、消極的政治外交をとった日本。対外的な軍備を欠くなか、公卿たちはいかなる審議を重ね、外国への対応を協議したか。彼らが従った法と規範、国際感覚を読み解く。
978-4-642-05967-1　(23.3)

柳谷慶子著
江戸のキャリアウーマン 568
—奥女中の仕事・出世・老後—
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

生家を離れ武家へ奉公に出た奥女中。その働きやキャリア形成、老後の待遇に迫る。儀礼の差配、親族大名との交際、将軍家への使者など、奥向から大名家を支えた仕事に注目。職務に生涯をかけた姿に働くことの意味を問う。
978-4-642-05968-8　(23.3)

重見　泰著
大極殿の誕生 —古代天皇の象徴に迫る— 569
四六判　216頁　**1,870円**(1,700)

古代都城の中心であり、律令国家を象徴する大極殿。天武は天皇中心の統治体制の重要な舞台として大極殿を創出しながら、王宮造営は未完に終わった。新王宮より前に大極殿を必要とした背景を探り、政治構想に迫る。
978-4-642-05969-5　(23.5)

井上幸治著
平安貴族の仕事と昇進 570
—どこまで出世できるのか—
四六判　208頁　**1,870円**(1,700)

みやびな印象の平安貴族だが、古記録からは任官や昇進に奔走し、連日政務に疲弊する過酷な日々が見えてくる。公卿と下級官人の人生サイクルの違いにも着目し、王朝文学には描かれない貴族社会のシビアな一面に迫る。
978-4-642-05970-1　(23.5)

藤本頼人著
源頼家とその時代 571
—二代目鎌倉殿と宿老たち—
四六判　288頁　**2,090円**(1,900)

源頼朝の後を継いだ2代目鎌倉殿頼家。北条氏に実権を握られ、遊興に耽る「暗君」像が見直されつつある。近習と宿老、13人の合議制、訴訟対応、蹴鞠など、「失政」「愚行」の挿話にも触れつつ、頼家とその時代に迫る。
978-4-642-05971-8　(23.6)

飯倉　章著
第一次世界大戦と日本参戦 572
—揺らぐ日英同盟と日独の攻防—
四六判　320頁　**2,200円**(2,000)

第一次世界大戦に日本はなぜ参戦したのか。同床異夢の日英同盟や日中の角逐、対独青島攻囲戦の実相、南洋群島占領を詳述する。その後の日本の進路に影響を与えながらも、注目されてこなかった参戦の歴史を読み解く。
978-4-642-05972-5　(23.6)

本庄総子著
疫病の古代史 —天災、人災、そして— 573
四六判　216頁　**1,870円**(1,700)

古代の疫病は、単なる自然災害だったのか。天平の大流行をはじめ数々の事例を読み解くと、当時の社会が抱える問題がみえてくる。疫病対策や死者数の実態に触れつつ、ヒト社会の「隣人」ともいうべき疫病の姿に迫る。
978-4-642-05973-2　(23.8)

西川広平著
武田一族の中世 574
四六判　336頁　**2,200円**(2,000)

甲斐を拠点に全国へ展開し、信義や信玄を生んだ武田氏は、中世を通じていかに家督を継承し、清和源氏一門としての地位を確立したのか。系譜資料や楯無鎧の伝承から家系への意識を解き明かし、500年の軌跡をたどる。
978-4-642-05974-9　(23.8)

高島正憲著
賃金の日本史 575
—仕事と暮らしの一五〇〇年—
四六判　320頁　**2,200円**(2,000)

奈良時代の日本最古の賃金記録から、明治時代の職人の収入まで—。史料を博捜し、昔の人びとの賃金の高さや生活水準に迫る分析手法を丹念に解説する。1500年にわたる日本の賃金史を、数字とデータで読み解く。
978-4-642-05975-6　(23.9)

田中暁龍著
江戸に向かう公家たち 576
—みやこと幕府の仲介者—
四六判　270頁　**1,980円**(1,800)

江戸時代の公家は、様々な事情で江戸に下り、武家や町人と多様な交流をもった。朝廷の意志を伝える者や、幕府の儀式を荘厳する「役者」、家元として技芸を指導する人々など、多彩な生き様を取り上げ、社会の諸相に迫る。
978-4-642-05976-3　(23.9)

一瀬和夫著
古墳を築く 577
四六判　268頁　**1,980円**(1,800)

弥生時代にはじまる墳丘をもつ墓は、前方後円墳など巨大古墳を経て群集墓や横穴式石室の出現にいたる。墳丘形態の変化から、文化の浸透や集団のネットワークなどを解明し、巨大な古墳がいかに築造されたのかを問う。
978-4-642-05977-0　(23.10)

繁田信一著
源氏物語を楽しむための王朝貴族入門 578
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

『源氏物語』で光源氏や頭中将らが活躍する宮廷は、史実と異なる設定で描かれているが、実際の王朝社会とはどう違ったのか。貴族たちの日常生活や仕事をわかりやすく解説。『源氏物語』がよりいっそう楽しめる一冊。
978-4-642-05978-7　(23.10)

田辺　旬著
戦死者たちの源平合戦 579
—生への執着、死者への祈り—
四六判　192頁　**1,870円**(1,700)

多くの犠牲者が出た源平合戦。武士は戦死とどう向き合い、いかに語り継いだのか。戦功の認定基準や、討たれた首の取り扱い、大路渡をめぐる葛藤、鎌倉幕府による顕彰や鎮魂に着目し、敵も弔った心性を読み解く。
978-4-642-05979-4　(23.11)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

谷釜尋徳著
スポーツの日本史 580
―遊戯・芸能・武術―
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

日本スポーツのルーツ、相撲・蹴鞠・打毬。海外渡来の文化に改良を加え、日本独特の文化を生み出してきた歴史を、社会情勢や産業の発達とも絡めて考察。羽つき・踊り念仏も取り上げ、近代スポーツの到来までを見通す。
978-4-642-05980-0　(23.11)

乾　淑子著
着物になった〈戦争〉 581
―時代が求めた戦争柄―
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

日清戦争から太平洋戦争開戦まで盛んに作られた戦争柄着物。吉祥とされた意匠から当時の社会的背景や時代性を読み解く。戦争の断片を伝えることで真実を覆い隠した姿を解明し、近代史・美術史の中に位置付ける。
978-4-642-05981-7　(23.12)

高柳友彦著
温泉旅行の近現代 582
2024年度観光学術学会賞 教育・啓蒙著作賞受賞
四六判　236頁　**1,870円**(1,700)

温泉旅行は、どのように今日のような身近なレジャーとして定着してきたか。旅行形態や費用感、交通・情報インフラなどの変遷を追い、そのなかでの温泉地の対応にも言及。江戸から現代までの温泉旅行を通史的に描く。
978-4-642-05982-4　(23.12)

平野多恵著
おみくじの歴史 583
―神仏のお告げはなぜ詩歌なのか―
四六判　288頁　**2,090円**(1,900)

おみくじはいつから存在し、誰がつくり、なぜ和歌や漢詩が書いてあるのか。謎の多いルーツを辿り、日本の社寺の風俗として定着した魅力に迫る。歴史を知り神仏のお告げと向き合い解釈すれば、おみくじはもっと面白い。
978-4-642-05983-1　(24.1)

佐々木健策著
戦国期小田原城の正体 584
―「難攻不落」と呼ばれる理由―
四六判　248頁　**1,980円**(1,800)

天下人豊臣秀吉に抗った戦国大名北条氏の本城小田原城。発掘調査成果と文献史料・絵画史料を駆使し、小田原の城と城下の景観にアプローチ。敗れながらも小田原城が「難攻不落」と称されるのは何故か、その真相に迫る。
978-4-642-05984-8　(24.1)

相澤　央著
雪と暮らす古代の人々 585
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

古代の人々は雪といかに向き合ったのか。雪山作りや雪見を楽しむ都の貴族たち。一方、北国では大雪で交通が滞り、建物は倒壊。吹雪のなか戦闘が行われることもあった。雪を通して古代の暮らしを描く初めての試み。
978-4-642-05985-5　(24.2)

米原　謙著
吉田松陰の生涯 ―猪突猛進の三〇年― 586
四六判　320頁　**2,200円**(2,000)

幕末長州で松下村塾を開き、明治の指導者を多数輩出した吉田松陰。偉人として顕彰される陰で、その負の側面は看過されてきた。思想形成や言動を冷静に捉えて歴史のなかに位置づけ、安政の大獄で刑死するまでを描く。
978-4-642-05986-2　(24.2)

藤尾慎一郎著
弥生人はどこから来たのか 587
―最新科学が解明する先史日本―
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

最先端科学が弥生時代のはじまりの状況を解明しつつある。炭素や酸素の同位体を用いた年代測定や核ゲノム解析、レプリカ法などの最新科学と考古学の学際研究により実像に迫り、新知見による弥生時代像を提案する。
978-4-642-05987-9　(24.3)

村石正行著
検証 川中島の戦い 588
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

信玄・謙信が幾度も対戦し、数々の伝説を生んだ川中島の戦い。10年以上におよぶ北信濃をめぐる相剋は、在地武士や東国大名、幕府・朝廷をも巻き込み複雑に展開する。諸勢力の動向を複眼で追い、戦いの全貌に迫る。
978-4-642-05988-6　(24.3)

小野　昭著
ドナウの考古学 589
―ネアンデルタール・ケルト・ローマ―
四六判　250頁　**1,980円**(1,800)

ドイツ南部を流れるドナウ川流域をたどり、ネアンデルタール人の時代からローマによる支配までの遺跡を探訪。音楽や彫像など創造的文化の達成に至る人類史を探るとともに、考古学史や遺跡保護のあり方を考察する。
978-4-642-05989-3　(24.3)

塚本　明著
伊勢参宮文化と街道の人びと 590
―ケガレ意識と不埒者の江戸時代―
四六判　288頁　**2,090円**(1,900)
多くの参宮客で賑わう伊勢。神聖たる地の実態はいかなるものだったのか。ケガレを避ける方策、神主の勤務実態、街道での商売、女性たちの人生…。参宮文化に潜む卑俗さと人びとの営みを通して描く、個性豊かな社会。
978-4-642-05990-9　(24.4)

村瀬信一著
名言・失言の近現代史　上 591
―1868―1945―
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)
答弁中にキレる大臣、開戦を躊躇う天皇、悪ふざけで内閣をゆさぶった日陰者。近代史を彩る政治家たちの個性ゆたかな「ことば」を繙けば、政治の面白さが見えてくる。名言・失言を軸に見通す、新たな近代通史の試み。
978-4-642-05991-6　(24.4)

成田千尋著
世界史のなかの沖縄返還 592
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)
沖縄の日本「復帰／返還」の過程はいかなるものだったか。基地と安全保障をめぐる東アジア諸国の動向、「琉球処分」への認識の差、復帰運動への戦争体験の影響など、日米関係を超えた多角的な視点で実像を追究する。
978-4-642-05992-3　(24.4)

五島邦治著
平安京の生と死 ―祓い、告げ、祭り― 593
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)
死者と生者が近しく交流した平安時代の死生観とはいかなるものだったのか。遺体への意識、御霊と疫病、浄土へのあこがれ、異界との境界から究明。都市の生活と、「生と死の交流」から生まれた豊かな精神文化に迫る。
978-4-642-05993-0　(24.5)

後藤宏樹著
江戸城の土木工事 ―石垣・堀・曲輪― 594
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)
近世最大の城郭江戸城。家康から家光までの築城に、土地造成、石垣、土塁、水堀や惣構など、土木工事(天下普請)の側面から迫る。技術的推移や工事体制の変化、城下町の整備、災害を通して再建される姿も描き出す。
978-4-642-05994-7　(24.5)

村瀬信一著
名言・失言の近現代史　下 595
―1946――
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)
与野党とも内紛に明け暮れ、「怨みつらみ」が渦巻く戦後政界。なぜ西尾末広は首相の座を蹴り、何が田中角栄を天才たらしめたのか。宮沢喜一の首を絞めた「らしくない」発言とは。「ことば」が語る、現代政治の内幕。
978-4-642-05995-4　(24.5)

栗本賀世子著
源氏物語の舞台装置 596
―平安朝文学と後宮―
四六判　208頁　**1,870円**(1,700)
弘徽殿・藤壺・梅壺など『源氏物語』で后妃たちが暮らす場所には、それぞれ意味があった。平安京内裏の「後宮殿舎」に着目し、多様な平安朝物語の記述と比較しながら、素材となった史実や物語に込めた作者の意図を探る。
978-4-642-05996-1　(24.6)

酒井元樹著
名物刀剣 ―武器・美・権威― 597
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)
その来歴から「名物刀剣」と呼ばれる平安～南北朝ごろの日本刀。武器、美、権威の関係性に着目し、歴史的遺産としての独自性を考える。『享保名物帳』を読み込み、学際的な視点から名物刀剣の特徴を分析、魅力に迫る。
978-4-642-05997-8　(24.6)

二階堂善弘著
中国の信仰世界と道教 598
―神・仏・仙人―
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)
道教・仏教・民間信仰が混在する中華圏の宗教。関帝・媽祖・八仙など信仰される神々の特徴と、『西遊記』『封神演義』にも影響を受け変容する姿を解明。中国や日本の文化に影響を与えてきた実態を簡潔に解説する。
978-4-642-05998-5　(24.6)

山本孝文著
文房具の考古学 599
―東アジアの文字文化史―
四六判　280頁　**2,090円**(1,900)
道具を使って文字を書く―。文字文化はいかに生まれ発展してきたのか。文字が持つ権威・芸術性などに触れ、記号・絵文字に始まる歴史を紹介。文字と同時に日本へ伝播した筆記具と併せて描く、古代東アジアの文化史。
978-4-642-05999-2　(24.7)

価格は 10％税込、(　)内は本体価格

藤田　覚著
武人儒学者 新井白石 600
—正徳の治の実態—
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

家宣・家継二代の将軍に仕えた新井白石。礼楽や勲階制度、将軍の対外的呼称の変更、貨幣復古政策など、儒学者として政治改革を進めつつ武士としての誇りを持ち続けた。江戸幕府と徳川氏の永続実現に奮闘した生涯に迫る。
978-4-642-06000-4　(24.7)

中島和歌子著
陰陽師の平安時代 601
—貴族たちの不安解消と招福—
四六判　300頁　**2,090円**(1,900)

日時や方角の吉凶を熟知し、占いやまじないで国家や貴族らの不安を解消した陰陽師。暦の計算や天体観測により凶事の予見もできるなど、頼もしい存在だった。彼らがになった陰陽道の基礎知識や時代背景を丁寧に解説。
978-4-642-30601-0　(24.7)

中村大介著
青銅器が変えた弥生社会 602
—東北アジアの交易ネットワーク—
四六判　272頁　**1,980円**(1,800)

弥生時代中期、大陸文化とともに導入された青銅器は、その後の列島社会をどう変えたのか。青銅器をめぐる交易網の形成や弥生人の行動を考古学の視点から読み解き、東北アジア社会の変動の中に弥生文化を位置づける。
978-4-642-30602-7　(24.8)

西山　伸著
検証 学徒出陣 603
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

アジア・太平洋戦争終盤、多くの学生・生徒が戦場へ送られた。近年の実態調査を生かし、「特権」縮小や1943年夏の大量動員、徴集延期停止、特攻など「学徒出陣」の真実に迫り、遺稿集が語り継ぐ戦後にも説き及ぶ。
978-4-642-30603-4　(24.8)

児島恭子著
アイヌ語地名の歴史 604
四六判　256頁　**1,980円**(1,800)

独特な響きをもち、アイヌ語を起源とする北海道の地名。地形や自然環境を語る地名がほとんどだが、人々が生活をしていく上での行動や世界観が示されたものでもある。アイヌの文化・歴史としての地名を解き明かす。
978-4-642-30604-1　(24.8)

伊集院葉子著
采女(うねめ) なぞの古代女性 605
—地方からやってきた女官たち—
四六判　240頁　**1,870円**(1,700)

律令で定められた古代の女官、采女。地方エリート層出身の女性が「天皇に献上された美女」へとイメージ形成されていったのはなぜか。律令前史の宮廷女性の実像に迫り、ゆがめられた〈采女幻想〉から解き放つ。
978-4-642-30605-8　(24.9)

虎尾達哉著
苦悩の覇者 天武天皇 606
—専制君主と下級官僚—
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

壬申の乱に勝利、皇位を簒奪し、クーデタ政権をうちたてた天武天皇。勝利に貢献した功臣たちを厚遇しつつ忠良な下級官人群を創出しようとする中、官僚統制に苦悩する専制君主の側面を再発見。人間天武の実像に迫る。
978-4-642-30606-5　(24.9)

香川雅信著
妖怪を名づける —鬼魅の名は— 607
四六判　270頁　**1,980円**(1,800)

様々な怪異を引き起こす妖怪。中世までは種類の限られた妖怪が、江戸時代に激増するのはなぜか。俳諧と妖怪の意外な接点に着目。奇談を集め、妖怪を創造した俳人たちの情報ネットワークから、〝妖怪爆発〟の謎に迫る。
978-4-642-30607-2　(24.9)

岡田清一著
相馬一族の中世 608
四六判　304頁　**2,090円**(1,900)

奥州の名族、相馬氏。下総国相馬御厨を本領とする千葉氏の一族で、奥羽合戦で陸奥国行方郡を得て移住。南北朝期以降、白河結城氏や伊達氏との抗争を経て中村藩藩主となるまで、激動の中世を生き抜いた一族の歴史。
978-4-642-30608-9　(24.10)

池　享著
上杉謙信の本音 609
—関東支配の理想と現実—
四六判　224頁　**1,870円**(1,700)

〝義と筋目の武将〟と評される上杉謙信。関東諸将の要請に応じて繰り返し出兵した「越山」にはいかなる歴史的意味があったのか。謙信の書状に浮かぶ心の内を探りつつ関東の戦国争乱を辿り、新たな実像に迫る。
978-4-642-30609-6　(24.10)

松井和幸・新郷英弘著
鋳物と職人の文化史 610
―小倉鋳物師と琉球の鐘―
四六判　224頁　**1,870円**（1,700）

15世紀半ば、琉球国に突如大量に現れた青銅製の梵鐘に、渡航した小倉の鋳物師が関わっていたという。彼らはなぜ東シナ海をまたぎ活動できたのか。北部九州の鋳物師の動向や鐘の特徴から、琉球鐘発生の謎と展開に迫る。
978-4-642-30610-2　（24.10）

平芳裕子著
日本ファッションの一五〇年 611
―明治から現代まで―
四六判　288頁　**2,090円**（1,900）

明治時代の大礼服、大正時代のモボ・モガ、昭和戦時期の国民服・モンペを経て、戦後、みゆき族や竹の子族、ボディコン、コギャルなどさまざまな流行が生まれた。日本のファッションが独自の文化に発展した軌跡をたどる。
978-4-642-30611-9　（24.11）

〔続刊書目〕順不同　タイトルは仮題

考古学

鏡と古代王権 …… 上野祥史著
古墳の力学 …… 和田晴吾著
前方後円墳 …… 下垣仁志著
渡来人と古墳時代 …… 中久保辰夫著
馬駆ける古代日本 …… 諫早直人著
縄文の暮らしを支えた植物たち 佐々木由香著
弥生の稲作を再現する …… 篠原和夫著
古墳時代の海民 …… 清家　章著

古代史

倭の五王と東アジア世界 …… 田中俊明著
蘇我氏の興隆と聖徳太子 …… 古市　晃著
風土記の世界観 …… 兼岡理恵著
平城京 …… 舘野和己著
船の古代史 …… 石村　智著
国風文化の誕生 …… 榎本淳一著
旅と交易の古代史 …… 荒井秀規著
倭国と朝鮮 …… 木村　誠著
前九年・後三年合戦と奥州藤原氏 樋口知志著
蝦夷とは誰のことか …… 藤沢　敦著
書と古代日本 …… 杉本一樹著
人のつながりと平安京 …… 京樂真帆子著

中世史

奥州藤原氏 …… 七海雅人著
武士と山伏 …… 近藤祐介著
中世京都の軍事指揮権 …… 長村祥知著
禅宗と室町文化 …… 原田正俊著
倭城 朝鮮出兵の拠点 …… 太田秀春著
戦国大名佐竹氏 …… 佐々木倫朗著
戦国の金山 …… 遠藤ゆり子著
天狗と魔道 …… 伊藤　聡著
足利義昭と織田信長 …… 水野　嶺著
戦国大名の教養 …… 真鍋淳哉著
豊臣大名 小早川隆景 …… 本多博之著
戦国大名 朝倉氏 …… 長谷川裕子著
墓と石塔の中世 …… 狭川真一著
赤松一族の中世 …… 前田　徹著
美濃斎藤氏四代 …… 石川美咲著
足利将軍の軍隊 …… 西島太郎著

近世史

近世大名の家存続の願い …… 佐藤宏之著
江戸たべもの繁昌記 …… 伊藤信博著
武士団としての江戸大名 …… 野口朋隆著
列島を駆けめぐる名産品 … 荒武賢一朗著
徳川の四天王 …… 小宮山敏和著
幕末・明治の写真術 …… 白根孝胤著
仙台藩の名産品 …… 籠橋俊光著
近世皇室の結婚事情 …… 久保貴子著
近世のアイヌと和人 …… 谷本晃久著
雪を駆ける戦国武将 …… 簗瀬大輔著
江戸の怪談事情 …… 堤　邦彦著
江戸の穀倉地帯 …… 多田文夫著

近・現代史

子供たちの明治 …… 森田貴子著
演説のすすめ …… 福井純子著
山本五十六 …… 森山　優著
日米秘密交渉 …… 我部政明著
検証 太平洋戦争開戦の謎 …… 三輪宗弘著
アヘンと日本軍 …… 小林元裕著
昭和天皇の帝王学 …… 黒沢文貴著
吉田茂と戦後政治 …… 小宮　京著
アイヌとことば …… 坂田美奈子著
東条英機 …… 吉田　裕著
機密費の近代史 …… 小山俊樹著
日本海軍に志願せよ …… 木村美幸著
エリート軍人たちの戦後史 … 山縣大樹著
岸信介と六〇年安保 …… 濵砂孝弘著
沖縄基地経済史 …… 秋山道宏著
〈染織の都〉京都の挑戦 …… 北野裕子著

文化史

歴史地震 …… 松浦律子著
和菓子と江戸文化 …… 青木直己著
光悦と乾山 …… 荒川正明著
将棋の日本史 …… 後藤　新著
熊野信仰 …… 大河内智之著
年輪が語る歴史 …… 星野安治著
錦絵の世相史 …… 大久保純一著
仏塔伝来 …… 向井佑介著

民俗学・人類学・世界史

現代の流行神 …… 鈴木岩弓著
樺太アイヌ …… 田村将人著
琉球王国の南海交易 …… 中島楽章著

日本歴史学会編集

人物叢書〈新装版〉

四六判　　第11回菊池寛賞〈受賞〉

▶タイトルの下に（オンデマンド版）とあるものは、書籍の内容をデジタルデータで保存し、ご注文を戴いた時点で製作するシステムの書目です。ご注文をお受けするたびに1冊ずつ製作いたしますので、お届けできるまで3週間程度かかります。
　なお、受注製作となりますのでキャンセル・返品はお受けできません。あらかじめご了承下さい。

古代

〈没年順〉

日本武尊
やまとたけるのみこと

（オンデマンド版）
上田正昭著**2,860円**(2,600)

熊襲・蝦夷の征討に東奔西走する悲劇の皇子―武勇と恋愛織りなす古代英雄のロマンを鮮かに解明。
978-4-642-75024-0 (初版 60.7)

継体天皇
けいたいてんのう

篠川　賢著**2,310円**(2,100)

異例の即位事情をもつ6世紀初めの大王。かずかずの政策を実施し、国家形成の画期となった生涯。
978-4-642-05276-4 (16.2)

聖徳太子
しょうとくたいし

坂本太郎著**2,090円**(1,900)

日本史上不世出の偉人。史実と伝説を峻別し、推理や憶測を排し透徹の史眼で描く太子伝の決定版。
978-4-642-05001-2 (79.12)

秦　河勝
はだのかわかつ

井上満郎著**2,200円**(2,000)

飛鳥時代の渡来人。聖徳太子の側近として、軍事・外交に貢献。伝承も多く、謎に包まれた生涯を活写。
978-4-642-05260-3 (11.12)

蘇我蝦夷・入鹿
そがのえみし・いるか

門脇禎二著**1,870円**(1,700)

悪逆非道の元兇とされてきた人間像を、7世紀前半～中葉の国政外交等政治状勢の動向の中に活写。
978-4-642-05006-7 (77.11)

天智天皇
てんじてんのう

森　公章著**2,530円**(2,300)

中大兄皇子の名で知られる古代の天皇。乙巳の変後、称制を経て中央集権体制確立を推進した生涯。
978-4-642-05280-1 (16.9)

額田王
ぬかたのおおきみ

直木孝次郎著**2,420円**(2,200)

大海人と中大兄、2人の皇子に愛された『万葉集』女流歌人の生涯。歌の解釈をめぐる諸説を検証。
978-4-642-05242-9 (07.12)

持統天皇
じとうてんのう

直木孝次郎著**2,310円**(2,100)

父天智・夫天武に次いで即位した白鳳期の女帝。波瀾・苦悩に富む生涯を華やかな時代の上に描く。
978-4-642-05009-8 (60.3)

藤原不比等
ふじわらのふひと

高島正人著**2,200円**(2,000)

大宝・養老律令を編纂、律令国家の基礎を固める。藤原氏繁栄の礎を築いた稀代の大政治家を描く。
978-4-642-05205-4 (97.6)

柿本人麻呂
かきのもとのひとまろ

多田一臣著**2,310円**(2,100)

「歌聖」と称される持統朝の歌人。唯一の手がかりである『万葉集』から、謎多きその生涯に迫る。
978-4-642-05281-8 (17.6)

長屋王
ながやおう

寺崎保広著**2,200円**(2,000)

奈良時代、権勢を振るうが政変で自尽した悲劇の皇族政治家。邸宅跡発掘と史料駆使し生涯描く。
978-4-642-05214-6 (99.2)

大伴旅人
おおとものたびと

鉄野昌弘著**2,420円**(2,200)

万葉歌人・政治家。家持の父として知られ、個人の心情を表現した歌の世界を切り開いたその生涯。
978-4-642-05302-0 (21.3)

山上憶良
やまのうえのおくら

（オンデマンド版）
稲岡耕二著**3,300円**(3,000)

奈良時代の歌人。大伴旅人との交流から生まれた作品を読み解き、独自の作風と貴き生涯を追う。
978-4-642-75259-6 (初版 10.12)

県犬養橘三千代
あがたのいぬかいのたちばなのみちよ

義江明子著**1,870円**(1,700)

奈良朝に活躍した女官。権力の中枢を生き、夫藤原不比等や子橘諸兄らの地位を確立させた生涯。
978-4-642-05255-9 (09.12)

藤原広嗣
ふじわらのひろつぐ

北　啓太著**2,420円**(2,200)

藤原式家の嫡男。突如大宰府に左遷され、聖武天皇を批判し大軍で蜂起するも敗死した生涯に迫る。
978-4-642-05315-0 (23.12)

道　慈
どうじ

曾根正人著**2,090円**(1,900)

『日本書紀』編纂や大安寺移建に携わり、黎明期の国家仏教を主導した奈良時代前期の遣唐留学僧。
978-4-642-05305-1 (22.5)

行　基
ぎょうき

井上　薫著**2,090円**(1,900)

諸国行脚の傍ら、橋を架け道を造り布施屋を設け池を掘る等、社会事業史に輝く奈良時代高僧の伝。
978-4-642-05091-3 (59.7)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

橘　諸兄
たちばなのもろえ

奈良時代の政治家。五世王から政権の頂点に登り、聖武天皇のもとで諸政策を主導したその全生涯。

中村順昭著 **2,310円**(2,100)
978-4-642-05288-7 (19.7)

光明皇后
こうみょうこうごう

聖武の皇后、天平のヒロイン。篤信と愛情兼ねた高貴な女性。その生涯を時代と共に巧みに浮彫す。

林　陸朗著 **2,200円**(2,000)
978-4-642-05036-4 (61.11)

鑑　真
がんじん

5度の渡海失敗にめげず失明の身で来朝、奈良仏教と日本文化に大感化与えた唐僧､唐招提寺開祖。

安藤更生著 **2,090円**(1,900)
978-4-642-05144-6 (67.10)

藤原仲麻呂
ふじわらのなかまろ

太政大臣からたちまち逆賊に一転、誅に伏した悲劇の宰相！波瀾の生涯描き奈良朝史の秘鍵を解く。

岸　俊男著 **2,530円**(2,300)
978-4-642-05069-2 (69.3)

阿倍仲麻呂
あべのなかまろ

奈良時代の遣唐留学生。玄宗皇帝の側近として出世し、唐で客死する。特異な生涯の真相に迫る。

森　公章著 **2,310円**(2,100)
978-4-642-05291-7 (19.12)

道　鏡
どうきょう

女帝の寵を一身に集め、法王に上り皇位をも窺った稀代の怪僧。その背景を究めて歴史の謎を解く。

横田健一著 **2,310円**(2,100)
978-4-642-05138-5 (59.3)

吉備真備
きびのまきび

入唐留学19年、広範な知識を得て帰朝、累進して右大臣に昇る。異数な生涯を時代と共に描く。

宮田俊彦著 **2,200円**(2,000)
978-4-642-05129-3 (61.11)

早良親王
さわらしんのう

桓武天皇の皇太子。仏教面の業績、藤原種継暗殺事件から迫る「怨霊」のイメージに隠れた人物像。

西本昌弘著 **2,420円**(2,200)
978-4-642-05289-4 (19.9)

佐伯今毛人
さえきのいまえみし

(オンデマンド版)

東大寺造営の主宰者。数々の業績あげた有能な奈良朝一官人の生涯を、渦巻く政局の波瀾上に描く。

角田文衛著 **2,970円**(2,700)
978-4-642-75123-0 (初版 63.7)

和気清麻呂
わけのきよまろ

護国の神と祀り上げられ正当な評価与えられなかった、勝れた古代革新政治家の真面目新たに成る。

平野邦雄著 **2,200円**(2,000)
978-4-642-05030-2 (64.12)

桓武天皇
かんむてんのう

奈良時代を克服して平安時代を開く。門閥を抑え人材を登用し、清新な政治行った延暦聖主の伝。

村尾次郎著 **2,200円**(2,000)
978-4-642-05085-2 (63.10)

坂上田村麻呂 (新稿版)
さかのうえのたむらまろ

〈僅少〉

渡来系氏族の裔より征夷大将軍、大納言に昇進。蝦夷征討を中心に武勇、全生涯を新知見により描く。

高橋　崇著 **2,090円**(1,900)
978-4-642-05045-6 (59.6)

最　澄
さいちょう

天台宗の開祖、平安仏教の巨峰。その思想と行動を克明に辿り、波瀾の全生涯を描く伝教大師伝。

田村晃祐著 **2,310円**(2,100)
978-4-642-05119-4 (88.2)

平城天皇
へいぜいてんのう

桓武天皇を継ぎ、官制改革などの新政策を展開。在位3年、薬子の変で隠棲を強いられた悲劇の天皇。

春名宏昭著 **2,200円**(2,000)
978-4-642-05249-8 (09.1)

藤原冬嗣
ふじわらのふゆつぐ

嵯峨天皇の側近として政界に君臨し、摂関家興隆の基礎を築く。波乱の時代を生きた非凡な政治家。

虎尾達哉著 **2,420円**(2,200)
978-4-642-05299-3 (20.8)

橘嘉智子
たちばなのかちこ

嵯峨天皇の寵愛を受けて皇后にまで上り詰め、檀林寺や学館院を創設。「檀林皇后」の実像に迫る。

勝浦令子著 **2,420円**(2,200)
978-4-642-05309-9 (22.10)

仁明天皇
にんみょうてんのう

平安前期の天皇。華美を好む反面、幼少より病弱で医薬に傾倒。のちに聖主と仰がれた天皇の生涯。

遠藤慶太著 **2,310円**(2,100)
978-4-642-05310-5 (22.11)

円　仁
えんにん

在唐10年、苦難未曾有な体験持つ名僧。最澄の高弟で三世座主となり天台密教を弘めた慈覚大師伝。

佐伯有清著 **2,420円**(2,200)
978-4-642-05158-3 (89.3)

伴　善男
とものよしお

千古の謎秘める応天門の怪火！政争の犠牲となった俊敏な宰相の数奇な生涯描いた興味ある伝記。

佐伯有清著 **2,420円**(2,200)
978-4-642-05051-7 (70.6)

清和天皇
せいわてんのう

9歳で即位した平安前期の天皇。外祖父の藤原良房により摂関政治が始まる。清和源氏の祖先の生涯。

神谷正昌著 **2,200円**(2,000)
978-4-642-05297-9 (20.4)

〔＊〕は品切

円珍
えんちん

(オンデマンド版)
佐伯有清著**3,190円**(2,900)

諸宗や僧侶を批判し経典の蒐集校勘と園城寺復興に努めた、五世天台座主寺門派の祖、智証大師伝。
978-4-642-75192-6 (初版 90.7)

菅原道真
すがわらのみちざね

坂本太郎著**1,870円**(1,700)

学者から右大臣に昇り、讒にあって流謫、大宰府に死す。時代と併せ描く学問の神「天神様」の実伝。
978-4-642-05181-1 (62.11)

聖宝
しょうぼう

(オンデマンド版)
佐伯有清著**2,970円**(2,700)

聖徳太子の後身として崇められた傑僧。諸宗派を摂取し、山林修行に精魂をこめた気高い生涯を描く。
978-4-642-75194-0 (初版 91.6)

三善清行
みよしきよゆき

(オンデマンド版)
所　功著**2,860円**(2,600)

『意見封事』で有名な論策家。激しい学閥争いのなかで巧みに身を処した逞しい文人官吏の生涯描く。
978-4-642-75169-8 (初版 70.10)

藤原純友
ふじわらのすみとも

松原弘宣著**2,090円**(1,900)

平安中期の官僚。なぜ海賊集団を組織し反逆者となったのか。古代海賊の分析を交えて生涯を描く。
978-4-642-05213-9 (99.2)

紀貫之
きのつらゆき

(オンデマンド版)
目崎徳衛著**2,750円**(2,500)

万葉復古の風潮で急顚落した王朝歌壇の偶像の生涯と業績を検討し、再評価の先駆けをなした伝記。
978-4-642-75018-9 (初版 61.8)

小野道風
おののみちかぜ

(オンデマンド版)
山本信吉著**2,420円**(2,200)

平安中期の名筆。唐の書風から苦心して和様書法を創造した、能書の誉れ輝く三跡の代表の全生涯。
978-4-642-75266-4 (初版 13.3)

良源
りょうげん

(オンデマンド版)
平林盛得著**2,860円**(2,600)

叡山中興の祖。平安中期、第18代天台座主の光と影の生涯と、現代におよぶ元三大師信仰描く。
978-4-642-75097-4 (初版 76.12)

藤原佐理
ふじわらのすけまさ

(オンデマンド版)
春名好重著**2,750円**(2,500)

三跡の一、屈指の能書家。放縦のため屢々失錯演じ不遇の後半生送る。遺品織り成してその生涯描く。
978-4-642-75163-6 (初版 60.2)

慶滋保胤
よししげのやすたね

小原　仁著**2,310円**(2,100)

平安中期の儒学・漢学者。「池亭記」や『日本往生極楽記』を著わした、浄土信仰の先駆者の伝記。
978-4-642-05279-5 (16.4)

紫式部
むらさきしきぶ

今井源衛著**2,310円**(2,100)

王朝ロマンの最高峰『源氏物語』作者の全生涯を、その社会的・政治的背景の上に鮮明に浮彫す。
978-4-642-05012-8 (66.3)

一条天皇
いちじょうてんのう

倉本一宏著**2,200円**(2,000)

平安中期の天皇。藤原摂関家と協調し王権の安定を築く。王朝文化を開花させた英主の実像に迫る。
978-4-642-05229-0 (03.12)

大江匡衡
おおえのまさひら

後藤昭雄著**1,980円**(1,800)

平安中期の文人官僚。妻は赤染衛門、一条天皇の侍読。漢詩文に優れた足跡を残した名儒の伝。
978-4-642-05235-1 (06.3)

源信
げんしん

(オンデマンド版)
速水　侑著**2,970円**(2,700)

日本浄土教の祖と仰がれる『往生要集』の著者源信の偉大な生涯を、転換期の時代相を背景に活写する。
978-4-642-75157-5 (初版 88.12)

源頼光
みなもとのよりみつ

(オンデマンド版)
龍谷　寿著**2,860円**(2,600)

酒呑童子退治で有名な頼光の、武勇に秀で処世の術にもたけた生涯を、巧みに描いたユニークな伝。
978-4-642-75160-5 (初版 68.6)

清少納言
せいしょうなごん

〈僅少〉
岸上慎二著**2,090円**(1,900)

枕草子の著者。学識と機智に富む稀代の才女。その家系・結婚・宮仕え・晩年に亙る全生涯を浮彫す。
978-4-642-05066-1 (62.4)

藤原行成
ふじわらのゆきなり

黒板伸夫著**2,310円**(2,100)

一代の名筆と謳われ、抜群の政治感覚で道長政権下に活躍。「権記」手掛りに貴族官僚の実像に迫る。
978-4-642-05199-6 (94.3)

藤原道長
ふじわらのみちなが

山中　裕著**2,090円**(1,900)

平安中期、摂関政治全盛を築いた公卿。外戚の地位を確固として栄華の世を極めた、傑出した生涯。
978-4-642-05243-6 (08.1)

和泉式部
いずみしきぶ

(オンデマンド版)
山中　裕著**2,860円**(2,600)

摂関全盛期の代表的女流歌人。博捜した史料をもとに、その苦難に満ちた波瀾の全生涯を解明する。
978-4-642-75082-0 (初版 84.5)

藤原彰子
ふじわらのしょうし

服藤早苗著**2,420円**(2,200)

藤原道長の長女、一条天皇の中宮。天皇家家長・摂関家尊長として政治力を発揮した87年の生涯。
978-4-642-05287-0 (19.6)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

源　頼義
みなもとのよりよし

前九年合戦で安倍氏を滅ぼした平安中期の武将。『吾妻鏡』『陸奥話記』から伝わる人物像を見直す。

元木泰雄著**2,310円**(2,100)
978-4-642-05282-5 (17.9)

成　尋
じょうじん

平安中期の天台僧。60歳で決意の渡宋、聖地巡礼を果たす。『参天台五臺山記』から浮かぶ生涯。

水口幹記著**2,420円**(2,200)
978-4-642-05313-6 (23.10)

源　義家
みなもとのよしいえ

武門の棟梁として威名天下に轟き、武勇の神と仰がる。史実に基づいて究明した〝八幡太郎〟の伝。

安田元久著**1,980円**(1,800)
978-4-642-05166-8 (66.3)

大江匡房
おおえのまさふさ

(オンデマンド版)

平安末期最高の知識人。最も漢詩に長じ和歌・朝儀にも通じた学者兼政治家の人間像を精細に描く。

川口久雄著**3,300円**(3,000)
978-4-642-75147-6 (初版 68.5)

奥州 藤原氏四代
おうしゅうふじわらしよんだい

僻遠の奥州に燦然たる文化と富裕な平泉王国を建設。清衡以下四代の事蹟とその興亡の跡を解明。

高橋富雄著**2,090円**(1,900)
978-4-642-05094-4 (58.12)

藤原頼長
ふじわらのよりなが

悪左府―保元乱の元凶？院政下の複雑な政情分析し、数奇な運命を巧みに浮彫した人間頼長の初伝。

橋本義彦著**2,090円**(1,900)
978-4-642-05109-5 (64.9)

藤原忠実
ふじわらのただざね

平安後期の摂政・関白。落日の摂関家を担って院勢力と苦闘、保元の乱に至る波乱の生涯を描く。

元木泰雄著**2,090円**(1,900)
978-4-642-05217-7 (00.4)

源　頼政
みなもとのよりまさ

(オンデマンド版)

老残の身を挺し平氏打倒の烽火を上げ、中世開幕の口火を切る。和歌をも活用して実像を描く。

多賀宗隼著**2,860円**(2,600)
978-4-642-75184-1 (初版 73.2)

平　清盛
たいらのきよもり

『平家物語』の語る虚像を剥ぎ、朝廷の政治世界に初めて武家政権を開いた武人の一生を描く決定版。

五味文彦著**2,420円**(2,200)
978-4-642-05212-2 (99.1)

源　義経
みなもとのよしつね

赫々たる武勲と数奇な運命！　いっさいの粉飾をぬぐい、正確な史料により描いた〝悲劇の英雄〟の伝。

渡辺　保著**2,090円**(1,900)
978-4-642-05042-5 (66.5)

中　世

西　行
さいぎょう

知られなかった多くの史実を明らかにし〝数奇の遁世者〟西行の特異な生き方の全貌を平易に描く。

目崎徳衛著**1,980円**(1,800)
978-4-642-05178-1 (80.3)

後白河上皇
ごしらかわじょうこう

平氏盛衰から鎌倉幕府確立の激動期に権謀めぐらし、朝廷の権威存続はかる。独裁的政治家の生涯。

安田元久著**1,980円**(1,800)
978-4-642-05079-1 (86.11)

千葉常胤
ちばつねたね

関東の名族、東国御家人の重鎮。頼朝の信頼厚く、幕府創設に貢献。常胤を通して頼朝政権の基盤を解明。

福田豊彦著**2,200円**(2,000)
978-4-642-05063-0 (73.6)

源　通親
みなもとのみちちか

平安末から鎌倉初期、乱世を積極的に生きぬいた公家政治家。通説を排し足跡辿り全体像を描く。

橋本義彦著**2,090円**(1,900)
978-4-642-05196-5 (92.10)

文　覚
もんがく

(オンデマンド版)

平家打倒に奔走した真言の行者。鎌倉期の仏教文化と政治に大きな足跡を残した〝荒法師〟の生涯。

山田昭全著**2,860円**(2,600)
978-4-642-75256-5 (初版 10.3)

藤原俊成
ふじわらのしゅんぜい

平安末から鎌倉初期の宮廷歌人。『千載和歌集』を撰し、息子の定家ら新古今歌人を指導した生涯。

久保田　淳著**2,530円**(2,300)
978-4-642-05311-2 (23.2)

畠山重忠
はたけやましげただ

鎌倉武士の典型、美談に富む誠実礼節の勇士。遂に北条氏に滅ぼされる、数奇な生涯を鮮かに綴る。

貫　達人著**1,980円**(1,800)
978-4-642-05072-2 (62.8)

法　然
ほうねん

南都北嶺の反対にめげず専修念仏をもって初めて浄土宗を開く。弾圧下信念に生き抜いた高僧の伝。

田村圓澄著**2,200円**(2,000)
978-4-642-05120-0 (59.12)

栄　西
えいさい

鎌倉期臨済宗の開祖。茶祖。日本の思想と文化に偉大な感化与えた名僧の人と事蹟を鮮やかに描く。

多賀宗隼著**2,420円**(2,200)
978-4-642-05054-8 (65.6)

〔＊〕は品切

北条義時
ほうじょうよしとき

安田元久著**2,200円**(2,000)

源家断絶を図り実朝暗殺を演出、承久乱に三上皇流し執権政治を確立。典型的な現実政治家の伝。
978-4-642-05033-3 (61.12)

大江広元
おおえのひろもと

上杉和彦著**2,090円**(1,900)

鎌倉前期の文人政治家。卓越した政治手腕をふるい幕府の核として武家政権の確立に貢献した生涯。
978-4-642-05231-3 (05.5)

北条政子
ほうじょうまさこ

(オンデマンド版)
渡辺　保著**2,750円**(2,500)

恋愛・嫉妬、そして勝気。頼朝没後尼将軍と謳われた女傑。肉親相剋の悲劇とその苦悩併せ浮彫す。
978-4-642-75002-8 (初版 61.2)

慈　円
じえん

(オンデマンド版)
多賀宗隼著**2,860円**(2,600)

平安末―鎌倉初頭の転換期に仏教界に君臨。すぐれた和歌と史論により不朽の名残す大思想家の伝。
978-4-642-75153-7 (初版 59.2)

明　恵
みょうえ

(オンデマンド版)
田中久夫著**2,970円**(2,700)

栂尾高山寺の開山。戒律を重んじ行法に励み徳望一世に聞ゆ。鎌倉初頭華厳名僧の高潔な生涯描く。
978-4-642-75126-1 (初版 61.2)

三浦義村
みうらよしむら

高橋秀樹著**2,420円**(2,200)

鎌倉前期の有力御家人。波乱の幕府草創期を北条氏と協調して乗り切り、宿老として支えた実像。
978-4-642-05314-3 (23.10)

藤原定家
ふじわらのていか

村山修一著**2,420円**(2,200)

中世歌壇の大御所、二条派歌学の祖、優れた歌論家。古典研究にも功績多い著名な堂上歌学者の伝。
978-4-642-05172-9 (62.9)

北条泰時
ほうじょうやすとき

上横手雅敬著**2,090円**(1,900)

御成敗式目の制定者、稀代の名執権と謳わる。その誠実と苦悩の人間像を激動する時代の上に描く。
978-4-642-05135-4 (58.11)

道　元　(新稿版)
どうげん

竹内道雄著**2,420円**(2,200)

曹洞宗の開祖。入宋し古風禅を伝え、帰朝後永平寺を創建。正法眼蔵で著名な高僧の行実思想描く。
978-4-642-05195-8 (92.2)

北条重時
ほうじょうしげとき

(オンデマンド版)
森　幸夫著**2,750円**(2,500)

鎌倉中期の政治家。泰時・時頼らの執権政治を支え、現存最古の武家家訓を遺したその生涯を辿る。
978-4-642-75253-4 (初版 09.10)

親　鸞
しんらん

赤松俊秀著**2,420円**(2,200)

肉食妻帯を自ら実践し、真の民衆宗教を樹立した傑れた宗教家。異説多い親鸞伝の諸問題を解明す。
978-4-642-05003-6 (61.4)

北条時頼
ほうじょうときより

高橋慎一朗著**2,420円**(2,200)

鎌倉中期の執権。得宗家を中心とする幕府体制を完成させ、建長寺を創建した政治家・仏教者の伝。
978-4-642-05267-2 (13.8)

日　蓮
にちれん

(オンデマンド版)
大野達之助著**2,860円**(2,600)

余宗排撃と国難来の予言―憎悪・迫害裡に敢然獅々吼折伏続ける情熱の宗祖！大日蓮の真面目描く。
978-4-642-75015-8 (初版 58.9)

阿仏尼
あぶつに

(オンデマンド版)
田渕句美子著**3,190円**(2,900)

鎌倉時代の女流歌人。歌道家に嫁いで家業を支え、和歌の世界で活躍した人物像と事績に迫る。
978-4-642-75254-1 (初版 09.11)

北条時宗
ほうじょうときむね

川添昭二著**2,310円**(2,100)

蒙古襲来の時代を生きた第８代鎌倉幕府執権。異母兄時輔の誅殺等を描き、真相を浮彫にする。
978-4-642-05223-8 (01.9)

一　遍
いっぺん

(オンデマンド版)
大橋俊雄著**2,860円**(2,600)

鎌倉期時宗の開祖。踊念仏、札くばりなど独自の布教で全国を行化。初めて成る遊行上人の実伝。
978-4-642-75132-2 (初版 83.1)

叡尊・忍性
えいそん・にんしょう

(オンデマンド版)
和島芳男著**2,750円**(2,500)

戒律再興と社会事業に献身する師弟２人の高僧。わが国慈善救済史上に不滅の光彩放つ香り高い伝。
978-4-642-75106-3 (初版 59.8)

京極為兼
きょうごくためかね

(オンデマンド版)
井上宗雄著**2,970円**(2,700)

鎌倉後期の歌人。革新的な歌風「京極派」を確立する。二度の配流に遭った波瀾の生涯を描く実伝。
978-4-642-75236-7 (初版 06.5)

金沢貞顕
かねざわさだあき

(オンデマンド版)
永井　晋著**2,860円**(2,600)

鎌倉末期の執権。病弱な執権北条高時を支えた調整型政治家の悲劇の生涯をたどり、実像に迫る。
978-4-642-75228-2 (初版 03.7)

菊池氏三代
きくちしさんだい

杉本尚雄著**2,310円**(2,100)

肥後の名族菊池氏―その同族結合と南北朝期の活動を、武時・武重・武光の３代中心に精彩に描く。
978-4-642-05112-5 (66.4)

価格は 10％税込、(　)内は本体価格

新田義貞
にったよしさだ

峰岸純夫著**1,980円**(1,800)

鎌倉幕府を滅ぼした武将。尊氏と勢威を競い戦闘に明け暮れた生涯をたどり、旧来の人物像を覆す。
978-4-642-05232-0 (05.4)

花園天皇
はなぞのてんのう

岩橋小弥太著**1,870円**(1,700)

両統迭立期、対立する後醍醐君臣の施政にも理解と好意示し、公正な態度持した文徳高い天皇の伝。
978-4-642-05187-3 (62.11)

赤松円心・満祐
あかまつえんしん・みつすけ

高坂　好著**2,420円**(2,200)

円心の挙兵、満祐の将軍弑逆、政則の家運再興等―赤松一族興亡の歴史を代々の事蹟を追って描く。
978-4-642-05130-9 (70.4)

卜部兼好
うらべけんこう

(オンデマンド版)
冨倉徳次郎著**2,420円**(2,200)

徒然草で有名な中世の隠者・歌人・評論家。変革期の世相を巧みに批判す！新史料で其人間像を描く。
978-4-642-75100-1 (初版 64.2)

覚　如
かくにょ

(オンデマンド版)
重松明久著**2,860円**(2,600)

本願寺を創建して門徒王国の基礎を築く。草創期真宗教団の諸問題織り成し、波瀾に富む生涯を描く。
978-4-642-75075-2 (初版 64.12)

佐々木導誉
ささきどうよ

森　茂暁著**2,090円**(1,900)

南北朝動乱期「ばさら大名」の典型。芸能・文芸に堪能な文武両道に秀でた風雲児の生涯を描く。
978-4-642-05201-6 (94.9)

足利直冬
あしかがただふゆ

瀬野精一郎著**1,980円**(1,800)

なぜ父尊氏は認知しなかったのか。南北朝時代に彗星のごとく現われ消え去った波瀾の生涯を描く。
978-4-642-05233-7 (05.6)

二条良基
にじょうよしもと

小川剛生著**2,640円**(2,400)

北朝の関白。将軍と提携し公武関係に新局面を拓く。連歌を大成させ中世文化の基盤を作った生涯。
978-4-642-05295-5 (20.2)

細川頼之
ほそかわよりゆき

小川　信著**2,420円**(2,200)

幼将軍義満を輔佐し、一旦政争に敗れ失脚したが後再び復帰、室町幕府の基礎を固めた名宰相の伝。
978-4-642-05175-0 (72.9)

足利義満
あしかがよしみつ

臼井信義著**2,200円**(2,000)

南北朝を合体し有力諸大名を制圧、幕府の基礎を固む。王者の如き権勢者の面目を時代と共に描く。
978-4-642-05150-7 (60.1)

今川了俊
いまがわりょうしゅん

川添昭二著**2,310円**(2,100)

名探題として九州制覇の功遂げ、傍ら最も和歌連歌に秀で、文学史上に不朽の名遺す風流文人の伝。
978-4-642-05124-8 (64.6)

足利義持
あしかがよしもち

伊藤喜良著**2,200円**(2,000)

室町幕府第４代将軍。諸大名や天皇家と協調した執政により、最も平穏な時代を築いた将軍の初伝。
978-4-642-05246-7 (08.6)

世 阿 弥
ぜあみ

今泉淑夫著**2,310円**(2,100)

室町時代の能作者。晩年の佐渡配流の理由や禅宗信仰の内実を問い、波瀾に富む世阿弥像を描く。
978-4-642-05250-4 (09.3)

上杉憲実
うえすぎのりざね

田辺久子著**1,760円**(1,600)

室町前期の関東管領。永享の乱で主持氏を自害させ、出家して諸国を行脚。足利学校再興者の初伝。
978-4-642-05215-3 (99.3)

山名宗全
やまなそうぜん

川岡　勉著**1,980円**(1,800)

応仁の乱の西軍大将。大乱の本質を明らかにし、巧みな分国経営にも光をあて、豪毅な生涯に迫る。
978-4-642-05252-8 (09.8)

経　覚
きょうがく

酒井紀美著**2,530円**(2,300)

興福寺大乗院門跡(門主)として大和国支配に奮闘。応仁の乱を記録した『経覚私要鈔』から生涯を追う。
978-4-642-05292-4 (20.1)

一条兼良
いちじょうかねら

(オンデマンド版)
永島福太郎著**2,750円**(2,500)

博学宏才、中世随一の学者。応仁乱下深く古典究め東山文化の基礎培う。政治観併せ描く碩学の伝。
978-4-642-75141-4 (初版 59.8)

亀泉集証
きせんしゅうしょう

(オンデマンド版)
今泉淑夫著**2,970円**(2,700)

室町中期の禅僧。『蔭涼軒日録』を書き継ぎ、政情や文化を記す。室町禅林のキーパースンの生涯。
978-4-642-75264-0 (初版 12.11)

蓮　如
れんにょ

笠原一男著**2,420円**(2,200)

真宗中興の祖。御文の作成と名号の頒布―盛んな布教活動で真宗王国の基礎築いた傑僧の面目描く。
978-4-642-05048-7 (63.7)

宗　祇
そうぎ

(オンデマンド版)
奥田　勲著**3,300円**(3,000)

室町後期の連歌師。『新撰菟玖波集』はじめ数々の作品を著し、全国に連歌を広めた旅の詩人の生涯。
978-4-642-75211-4 (初版 99.1)

〔＊〕は品切

尋　尊
じんそん

室町中期の興福寺の僧。『大乗院寺社雑事記』など多くの記録を残し、門跡の再興に尽力した生涯。

安田次郎著 **2,530円**(2,300)
978-4-642-05304-4 (21.10)

万里集九
ばんりしゅうきゅう

(オンデマンド版)

室町末期の禅僧。五山文芸後期『梅花無尽蔵』を残す悲運の詩人。波瀾の生涯を禅林文芸を交え描く。

中川徳之助著 **2,860円**(2,600)
978-4-642-75208-4 (初版 97.11)

三条西実隆
さんじょうにしさねたか

戦国擾乱の世に公家文化の育成と普及に務めた功績著大。学芸史に輝く教養高い文化人の生涯描く。

芳賀幸四郎著 **2,200円**(2,000)
978-4-642-05088-3 (60.3)

大内義隆
おおうちよしたか

文化の愛好と貿易の富力で「山口王国」を築き、逆臣のため非業な末路遂げた風雅な武将悲劇の伝。

福尾猛市郎著 **1,980円**(1,800)
978-4-642-05173-6 (89.10)

ザヴィエル

東洋伝道の使徒、わが国最初の布教者。その聖なる生涯を、苦難の伝道と偉大なる感化併せて描く。

吉田小五郎著 **1,760円**(1,600)
978-4-642-05115-6 (59.4)

今川義元
いまがわよしもと

桶狭間に落命した悲運の戦国大名。通説を見直し、巧みな領国経営と今川文化を開花させた義元伝。

有光友學著 **2,310円**(2,100)
978-4-642-05247-4 (08.8)

三好長慶
みよしながよし

細川氏の被官から実力ナンバーワンへ。下剋上の代表者と誤解される戦国教養人の多彩な生涯描く。

長江正一著 **2,310円**(2,100)
978-4-642-05154-5 (68.6)

武田信玄
たけだしんげん

屢々謙信と角逐し、信長を畏怖せしめた戦国無双の名将。中原の鹿射損じた長恨の生涯と面目描く。

奥野高広著 **2,310円**(2,100)
978-4-642-05021-0 (59.3)

朝倉義景
あさくらよしかげ

北陸越前に京風文化を移す。浅井氏と結び信長に反抗して大敗、一乗谷に滅ぶ波瀾の生涯を描く。

水藤　真著 **2,090円**(1,900)
978-4-642-05060-9 (81.9)

浅井氏三代
あさいしさんだい

北近江の地域社会が生んだ戦国大名。三代の興亡から浮かぶ、新たな戦国大名像とその時代に迫る。

宮島敬一著 **2,310円**(2,100)
978-4-642-05244-3 (08.2)

里見義堯
さとみよしたか

家督争いを制して当主となり、関東の水運をめぐり北条氏と対立。房総に一勢力を築いた戦国大名。

滝川恒昭著 **2,530円**(2,300)
978-4-642-05307-5 (22.8)

上杉謙信
うえすぎけんしん

越後国の戦国大名。関東管領を務め信玄と対決。発給文書を中心に生涯を辿り、信仰や人柄に迫る。

山田邦明著 **2,640円**(2,400)
978-4-642-05300-6 (20.9)

織田信長
おだのぶなが

桶狭間から本能寺まで、生涯戦争に明け暮れる。英雄視する後世の評価を再考し等身大の姿を描く。

池上裕子著 **2,530円**(2,300)
978-4-642-05265-8 (12.12)

明智光秀
あけちみつひで

三日天下で有名な典型的反逆児。主君弑逆の原因如何。其人間像描き心裡を分析し歴史の謎を解く。

高柳光寿著 **2,310円**(2,100)
978-4-642-05027-2 (58.9)

大友宗麟
おおともそうりん

(オンデマンド版)

キリシタン大名として有名な戦国武将。その領国支配体制を解明し、波瀾に富む生涯を巧みに描く。

外山幹夫著 **3,080円**(2,800)
978-4-642-75139-1 (初版 75.1)

千　利休
せんのりきゅう

茶聖利休！偉大な芸術的大天才。其人と芸を転換期の世相上に浮彫し、自刃し果る数奇な生涯描く。

芳賀幸四郎著 **2,420円**(2,200)
978-4-642-05057-9 (63.5)

松井友閑
まついゆうかん

織田信長の側近。「大名茶湯」を開花させ、堺代官、外交交渉役としても活躍し、政権を支えた生涯。

竹本千鶴著 **2,530円**(2,300)
978-4-642-05284-9 (18.9)

豊臣秀次
とよとみひでつぐ

織豊時代の武将・関白。叔父秀吉に翻弄された生涯を描き、「秀次事件」の死の真相と影響を探る。

藤田恒春著 **2,420円**(2,200)
978-4-642-05273-3 (15.3)

足利義昭
あしかがよしあき

室町幕府最後の将軍。失脚後も見果ぬ夢抱いて転々諸国を流浪。運命に翻弄された数奇な生涯描く。

奥野高広著 **2,420円**(2,200)
978-4-642-05182-8 (60.11)

ルイス・フロイス

戦国時代のイエズス会宣教師。畿内・九州で宣教し、当時の社会を伝える『日本史』を著した生涯。

五野井隆史著 **2,530円**(2,300)
978-4-642-05294-8 (20.2)

価格は 10％税込、(　)内は本体価格

前田利家
まえだとしいえ

信長・秀吉から家康へ、変転する動乱の世を生き抜いた勇気と誠実の人。加賀藩祖の真面目浮彫す。

岩沢愿彦著 2,420円(2,200)
978-4-642-05133-0 (66.12)

長宗我部元親
ちょうそがべもとちか

戦国土佐の大名。四国制覇後秀吉に降り領国経営に腐心、南国文化築く遺風今に伝わる名将の伝。

山本　大著 2,310円(2,100)
978-4-642-05103-3 (60.12)

石田三成
いしだみつなり

吏務に長じて秀吉に抜擢され、その遺命守って敢然孤忠を尽す。波瀾の生涯と悲愴な末路を浮彫す。

今井林太郎著 2,200円(2,000)
978-4-642-05142-2 (61.8)

安国寺恵瓊
あんこくじえけい

東福寺住持―毛利家重臣―秀吉の腹臣―関ヶ原役西軍主謀者―斬首。最も波瀾に富む劇的生涯描く。

河合正治著 1,760円(1,600)
978-4-642-05164-4 (59.8)

近　世

黒田孝高
くろだよしたか

信長・秀吉・家康に仕え、官兵衛・如水として知られる武将。「軍師」として虚実交々に語られた実像。

中野　等著 2,640円(2,400)
978-4-642-05308-2 (22.9)

真田昌幸
さなだまさゆき

安土桃山時代の智将。転変後秀吉に仕え、「表裏比興の者」と評された事跡を検証し実像に迫る初伝。

柴辻俊六著 2,090円(1,900)
978-4-642-05202-3 (96.8)

前田利長
まえだとしなが

加賀前田家の二代当主。信長・秀吉・家康に従い、大名家最大の所領と家とを守り発展させた生涯。

見瀬和雄著 2,530円(2,300)
978-4-642-05285-6 (18.11)

最上義光
もがみよしあき

出羽57万石の礎を築いた戦国武将。領国拡大と支配、近世大名への道、領内の城郭・交通も活写。

伊藤清郎著 2,530円(2,300)
978-4-642-05278-8 (16.3)

高山右近
たかやまうこん

貧しい人々の棺を自ら担いだキリシタン大名。改宗を肯んぜず、国外に追放された聖なる生涯描く。

海老沢有道著 2,090円(1,900)
978-4-642-05170-5 (58.12)

淀　君
よどぎみ

(オンデマンド版)

父母の仇敵秀吉の愛妾となり、のち落日の大坂城に君臨、家康に屈せず自滅し果てた悲劇女傑の伝。

桑田忠親著 2,420円(2,200)
978-4-642-75004-2 (初版 58.10)

片桐且元
かたぎりかつもと

(オンデマンド版)

秀吉に仕えた賤ヶ岳七本槍の１人。大坂の陣を前に苦悩奔走した真相と、その実像を浮彫にする。

曽根勇二著 2,970円(2,700)
978-4-642-75221-3 (初版 01.2)

島井宗室
しまいそうしつ

(オンデマンド版)

著名な博多商人、海外貿易家、茶人。織豊政権の蔭に暗躍した典型的新興町人の興味ある生涯描く。

田中健夫著 2,860円(2,600)
978-4-642-75049-3 (初版 61.4)

徳川家康
とくがわいえやす

江戸幕府を開いた初代将軍。後世の顕彰や逸話によるイメージから脱却し、一次史料から等身大の姿に迫る。

藤井譲治著 2,640円(2,400)
978-4-642-05293-1 (20.2)

藤原惺窩
ふじわらせいか

(オンデマンド版)

近世朱子学の開祖。門下に林羅山・松永尺五らを輩出。文芸復興に画期的役割果した業績と人間像。

太田青丘著 2,530円(2,300)
978-4-642-75041-7 (初版 85.10)

支倉常長
はせくらつねなが

伊達政宗に見出され、慶長遣欧使節としてローマ教皇に謁見した仙台藩士の実像と、時代に迫る。

五野井隆史著 2,090円(1,900)
978-4-642-05227-6 (03.3)

高台院
こうだいいん

関白秀吉の妻として「北政所」の名に恥じない役割を果たし、茶々と豊臣家の存続に尽力した生涯。

福田千鶴著 2,530円(2,300)
978-4-642-05316-7 (24.2)

徳川秀忠
とくがわひでただ

江戸幕府の第２代将軍。幕府の支配を磐石にした独自の政策を分析。その生涯を辿り人物像に迫る。

山本博文著 2,420円(2,200)
978-4-642-05296-2 (20.3)

伊達政宗
だてまさむね

秀吉・家康の政権下、独眼よく奥羽を制覇し屈指の大藩築く。使臣のローマ派遣等多彩の生涯描く。

小林清治著 2,090円(1,900)
978-4-642-05013-5 (59.7)

天草時貞
あまくさときさだ

一世を震撼させた島原乱の指導者、美貌の少年天使。豊富な史料により其生立ちと一揆の顛末描く。

岡田章雄著 2,420円(2,200)
978-4-642-05076-0 (60.8)

〔＊〕は品切

立花宗茂
たちばなむねしげ

中野　等著**2,310円**(2,100)

九州柳川藩の祖。大友宗麟配下の一武将から大名となり、晩年徳川将軍家に重用された波乱の生涯。
978-4-642-05220-7 (01.1)

宮本武蔵
みやもとむさし

大倉隆二著**2,200円**(2,000)

江戸初期の兵法家。二天一流を開き、兵法書『五輪書』を執筆。信頼できる史資料から生涯を描く。
978-4-642-05272-6 (15.2)

小堀遠州
こぼりえんしゅう

森　蘊著　〔*〕

遠州流茶道の祖、建築・造庭の巨匠。遺稿と文献を調査して、天才的大芸術家の生涯と事蹟を描く。
978-4-642-05107-1 (67.6)

徳川家光
とくがわいえみつ

藤井譲治著**2,090円**(1,900)

江戸幕府３代将軍。機構の整備、大名統制、鎖国等により幕制を確立。「生まれながらの将軍」を描く。
978-4-642-05206-1 (97.7)

由比正雪
ゆいしょうせつ

進士慶幹著**2,090円**(1,900)

楠流軍学者。浪人充満の不穏な世相バックに丸橋忠弥らと結託、幕府転覆を企て計破れた快雄の伝。
978-4-642-05037-1 (61.5)

佐倉惣五郎
さくらそうごろう

(オンデマンド版)
児玉幸多著**2,750円**(2,500)

義民惣五郎は果して架空の人物か。新史料を発見して実在を証し、事件の背景影響等を併せ解明。
978-4-642-75010-3 (初版 58.11)

林　羅山
はやしらざん

堀　勇雄著**2,530円**(2,300)

博識を以て家康以下３代に仕え、子孫相承けて幕府文教の権を握る。典型的な御用学者の生涯描く。
978-4-642-05185-9 (64.6)

松平信綱
まつだいらのぶつな

大野瑞男著**2,310円**(2,100)

江戸前期の老中。島原の乱を鎮圧、幾多の危機を救い、幕府確立に尽力した「知恵伊豆」の生涯。
978-4-642-05258-0 (10.9)

国姓爺
こくせんや

(オンデマンド版)
石原道博著**2,090円**(1,900)

本名鄭成功、母は平戸の日本女性。国姓朱氏を賜わり、抗清復明の義挙に生涯捧げた混血快漢の伝。
978-4-642-75034-9 (初版 59.4)

野中兼山
のなかけんざん

(オンデマンド版)
横川末吉著**3,080円**(2,800)

近世土佐の大政治家。無比の経世家か領民収奪の鬼か。過度の善政苛政と化して失脚した数奇な伝。
978-4-642-75188-9 (初版 62.7)

保科正之
ほしなまさゆき

小池　進著**2,530円**(2,300)

江戸前期の会津藩主。父は徳川秀忠。家綱を後見して幕政に関与。家訓十五条を遺した生涯を描く。
978-4-642-05283-2 (17.11)

隠　元
いんげん

(オンデマンド版)
平久保　章著**3,080円**(2,800)

黄檗宗万福寺の開祖。招きに応じ渡来、朝野の尊崇博し 300 年来失墜の禅風を振起した明名僧の伝。
978-4-642-75148-3 (初版 62.9)

徳川和子
とくがわまさこ

久保貴子著**1,980円**(1,800)

江戸初期、徳川将軍の娘ながら後水尾天皇の皇后となり、公武の和に尽力した「東福門院」の生涯。
978-4-642-05245-0 (08.2)

酒井忠清
さかいただきよ

(オンデマンド版)
福田千鶴著**2,970円**(2,700)

徳川４代将軍家綱期の老中・大老。下馬将軍と称され専制政治家と評された虚像を剥ぎ、実像を描く。
978-4-642-75218-3 (初版 00.9)

朱舜水
しゅしゅんすい

(オンデマンド版)
石原道博著**3,080円**(2,800)

明末の大儒。亡国後日本に投化し徳川光圀に厚遇さる。水戸学に大なる感化与えた高節帰化人の伝。
978-4-642-75179-7 (初版 61.12)

池田光政
いけだみつまさ

(オンデマンド版)
谷口澄夫著**2,860円**(2,600)

民政に文教に治績をあげた誉れ高い名君。備前岡山藩祖の生涯を、時代的背景の上に巧みに浮彫す。
978-4-642-75083-7 (初版 61.11)

山鹿素行
やまがそこう

(オンデマンド版)
堀　勇雄著**3,300円**(3,000)

日本中朝主義を唱え、武士道学を大成。幕府仕官の念願叶わず、不遇裡に終るその生涯を見事描写。
978-4-642-75073-8 (初版 59.10)

井原西鶴
いはらさいかく

森　銑三著　〔*〕

不朽の名作一代男の作者―文学史上に輝く大浮世草子作家の生涯を、厳密な作品研究の上に浮彫す。
978-4-642-05019-7 (58.11)

三井高利
みついたかとし

中田易直著**2,310円**(2,100)

近世日本最大の財閥三井家始祖。元禄期の優れた大商人。商業史上特筆されるその生涯と事業描く。
978-4-642-05127-9 (59.2)

松尾芭蕉
まつおばしょう

阿部喜三男著**1,980円**(1,800)

旅を愛し旅を歌い旅に死んだ天成の大詩人。最近の研究成果踏まえ、巧みに作品織り成す俳聖の伝。
978-4-642-05031-9 (61.7)

河村瑞賢
かわむらずいけん

古田良一著**1,540円**(1,400)

英知と創意工夫により、日本海海運の開拓と淀川治水事業に不滅の功遂げた江戸初期大事業家の伝。
978-4-642-05104-0 (64.9)

徳川光圀
とくがわみつくに

鈴木暎一著**2,310円**(2,100)

「水戸黄門」と『大日本史』編纂で知られる水戸藩主。起伏に富む生涯を活写し、その実像に迫る。
978-4-642-05237-5 (06.11)

契　沖
けいちゅう

(オンデマンド版)
久松潜一著**2,530円**(2,300)

僧侶の身で深く古典を究め、文献学的方法を確立して国学の先駆となる。其生涯と不朽の学績描く。
978-4-642-75167-4 (初版 63.8)

市川団十郎
いちかわだんじゅうろう

西山松之助著**2,310円**(2,100)

元禄前期江戸劇壇の花形初代団十郎から現十二代まで、成田屋歴代の人と芸道・精神を描く列伝。
978-4-642-05064-7 (60.8)

伊藤仁斎
いとうじんさい

(オンデマンド版)
石田一良著**2,750円**(2,500)

京都市井の大儒、堀川学派の祖。古学を唱え徳行高く門下三千と称さる。其生涯と学問を併せ解明。
978-4-642-75176-6 (初版 60.1)

徳川綱吉
とくがわつなよし

塚本　学著**2,310円**(2,100)

生類憐みの令により犬公方の異名で知られ、毀誉褒貶の雑説にまみれた徳川５代将軍の実像描く。
978-4-642-05210-8 (98.2)

貝原益軒
かいばらえきけん

(オンデマンド版)
井上　忠著**3,300円**(3,000)

江戸中期の福岡藩儒者。経学・医学・教育学など、多数の著述で一世に偉大な感化与えた大儒の伝。
978-4-642-75145-2 (初版 63.4)

前田綱紀
まえだつなのり

(オンデマンド版)
若林喜三郎著**2,860円**(2,600)

加賀藩中興の英主。民政特に改作法の実施と典籍収集の功著大。名君の事蹟を新たに再検討した伝。
978-4-642-75058-5 (初版 61.5)

近松門左衛門
ちかまつもんざえもん

河竹繁俊著**2,090円**(1,900)

劇作家の氏神と称せられる大近松の不明とされたその素性と生涯を作品織りなして巧みに浮彫す。
978-4-642-05121-7 (58.9)

新井白石
あらいはくせき

宮崎道生著　〔*〕

近世詩壇の王者、和漢洋に亙る博学者。「正徳の治」を企画し、国際人の先駆をなした天才の全伝。
978-4-642-05190-3 (89.10)

鴻池善右衛門
こうのいけぜんうえもん

(オンデマンド版)
宮本又次著**2,970円**(2,700)

大阪随一の富豪鴻池歴代の事歴とその財閥成長の過程を、豊富な未公開資料を駆使して鮮かに解明。
978-4-642-75046-2 (初版 58.9)

石田梅岩
いしだばいがん

(オンデマンド版)
柴田　実著**2,310円**(2,100)

江戸時代の社会教化・成人教育に偉大な役割を演じた「心学」開祖。その生涯と行実巧みに描く。
978-4-642-75136-0 (初版 62.8)

太宰春台
だざいしゅんだい

(オンデマンド版)
武部善人著**2,860円**(2,600)

経済学を「経世済民」と捉え、世界に通用する理論を展開した江戸中期の大儒。学問と生涯を描く。
978-4-642-75204-6 (初版 97.3)

徳川吉宗
とくがわよしむね

辻　達也著**2,090円**(1,900)

江戸幕府中興の英主、幕藩体制転換期の象徴的８代将軍。生涯と施政描き享保改革の実体を究明。
978-4-642-05007-4 (58.12)

大岡忠相
おおおかただすけ

大石　学著**2,310円**(2,100)

「大岡越前」で知られる江戸中期の幕臣。江戸南町奉行として将軍吉宗の享保改革を支えた実像。
978-4-642-05238-2 (06.12)

賀茂真淵
かものまぶち

(オンデマンド版)
三枝康高著**3,190円**(2,900)

国学の巨匠、天成の万葉歌人、熱烈な復古思想家。その生涯と業績を時代的背景の上に巧みに描く。
978-4-642-75086-8 (初版 62.8)

平賀源内
ひらがげんない

(オンデマンド版)
城福　勇著**2,860円**(2,600)

江戸中期の博物学者・戯作者。エレキテルの発明者。奇才抱いて獄中に憤死した異常の生涯描く。
978-4-642-75025-7 (初版 71.8)

与謝蕪村
よさぶそん

(オンデマンド版)
田中善信著**2,970円**(2,700)

俳画渾然の新境地を開いた江戸時代の代表的文人画家。名利に括淡として生きた生涯と人間性描く。
978-4-642-75203-9 (初版 96.11)

三浦梅園
みうらばいえん

(オンデマンド版)
田口正治著**3,300円**(3,000)

豊後の僻村に在って思索重ね、『玄語』以下の驚異的哲理書著わす。近世日本の独創的大思想家の伝。
978-4-642-75161-2 (初版 67.3)

毛利重就
もうりしげなり

(オンデマンド版)
小川國治著**2,860円**(2,600)

江戸中期の萩藩主。藩政改革を断行し、維新動乱期の軍資金を蓄える基礎を築いた名君の初伝。
978-4-642-75226-8 (初版 03.2)

〔*〕は品切

本居宣長
もとおりのりなが

城福　勇著**2,310円**(2,100)

国学の大成者。「古事記伝」を著わし、復古神道の基礎を築く。その学問・思想と生涯を精緻に描く。
978-4-642-05110-1 (80.2)

山村才助
やまむらさいすけ

(オンデマンド版)
鮎沢信太郎著**3,080円**(2,800)

大槻玄沢門下の異才、わが国世界地理学の恩人。史上に埋もれた一篤学者の先駆的業績と生涯描く。
978-4-642-75151-3 (初版 59.10)

木内石亭
きのうちせきてい

(オンデマンド版)
斎藤　忠著**2,970円**(2,700)

生涯を奇石の収集と愛玩に賭け、趣味より進んで日本先史学の開拓者となる。江戸中期一異才の伝。
978-4-642-75168-1 (初版 62.10)

小石元俊
こいしげんしゅん

(オンデマンド版)
山本四郎著**2,860円**(2,600)

蘭学草創期に京都に蘭方医学を唱道し、解体十余度、その技匹敵する者なしと謳われた先覚者の伝。
978-4-642-75165-0 (初版 67.7)

山東京伝
さんとうきょうでん

(オンデマンド版)
小池藤五郎著**3,080円**(2,800)

戯作と浮世絵の大家、典型的〝通人〟—江戸文学の理解に最適の作家—の文芸と生涯を巧みに描く。
978-4-642-75171-1 (初版 61.7)

杉田玄白
すぎたげんぱく

(オンデマンド版)
片桐一男著**3,410円**(3,100)

蘭学の確立と発展に熱情を傾け通し、不朽の名著『蘭学事始』を遺した先覚者の生涯を鮮明に描く。
978-4-642-75043-1 (初版 71.3)

塙　保己一
はなわほきいち

太田善麿著**2,090円**(1,900)

幼時失明の身で群書類従始め莫大な古典編集校刊の偉業遂ぐ。驚嘆すべき盲人学者稀有の生涯描く。
978-4-642-05116-3 (66.12)

上杉鷹山
うえすぎようざん

横山昭男著**2,420円**(2,200)

藩政改革にすぐれた治績あげた米沢藩主。その人と生涯に新照明あてる斬新な〝封建名君〟の伝。
978-4-642-05098-2 (68.12)

大田南畝
おおたなんぽ

浜田義一郎著**2,200円**(2,000)

蜀山人・四方赤良。天明狂歌壇の王者、洒落本滑稽本作者。その生涯を軽妙無類な作品と併せ描く。
978-4-642-05052-4 (63.2)

只野真葛
ただのまくず

関　民子著**2,200円**(2,000)

社会批判の書『独考』とそれに対する曲亭馬琴の論駁を通して、江戸時代の女性像に変革を迫る。
978-4-642-05248-1 (08.12)

小林一茶
こばやしいっさ

(オンデマンド版)
小林計一郎著**2,970円**(2,700)

庶民の哀歓と童謡の世界を率直に歌いあげた異色の俳人。その生活面をも浮彫りするユニークな伝。
978-4-642-75028-8 (初版 61.10)

大黒屋光太夫
だいこくやこうだゆう

(オンデマンド版)
亀井高孝著**3,300円**(3,000)

極北の小島に漂着つぶさに辛酸をなめ、11年後露都より送還された数奇な運命児の歴史的大記録。
978-4-642-75067-7 (初版 64.7)

松平定信
まつだいらさだのぶ

高澤憲治著**2,310円**(2,100)

寛政の改革を推進した江戸後期の老中。改革の行方と、文化人として評価された稀代の生涯を辿る。
978-4-642-05263-4 (12.10)

菅江真澄
すがえますみ

菊池勇夫著**2,310円**(2,100)

江戸後期、東北・北海道を巡り、民俗学の先駆となる貴重な記録を残した「遊歴文人」の生涯。
978-4-642-05241-2 (07.9)

鶴屋南北
つるやなんぼく

古井戸秀夫著**2,420円**(2,200)

江戸後期の狂言作者。おかしみの狂言や奇想な場面展開で好評。人を笑わせることを好んだ生涯。
978-4-642-05298-6 (20.4)

島津重豪
しまづしげひで

(オンデマンド版)
芳　即正著**2,970円**(2,700)

江戸後期の薩摩藩主。積極的な開化政策を推進、幕末薩摩活躍の礎を築いた異色大名の生涯を描く。
978-4-642-75137-7 (初版 80.11)

狩谷棭斎
かりやえきさい

梅谷文夫著　〔*〕

書誌学・金石学の基礎築き、考証学を大成。実証を信条とした江戸後期、博学町人学者の初の伝記。
978-4-642-05198-9 (94.1)

最上徳内
もがみとくない

島谷良吉著　〔*〕

わが国における「北方問題」の先駆として活躍し、晩年はシーボルトより最も学的尊敬を得た人物伝。
978-4-642-05177-4 (77.7)

遠山景晋
とおやまかげみち

藤田　覚著**2,530円**(2,300)

江戸後期、蝦夷地・長崎・対馬と東奔西走し、対外政策の転換を担った有能だが遅咲きの幕臣の生涯。
978-4-642-05306-8 (22.7)

渡辺崋山
わたなべかざん

佐藤昌介著**2,310円**(2,100)

幕末の優れた文人画家、田原藩家老。戦後発掘の新史料を基に〝蛮社の獄〟の真相と悲劇の生涯描く。
978-4-642-05039-5 (86.2)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

柳亭種彦
りゅうていたねひこ

（オンデマンド版）
伊狩　章著**3,300円**(3,000)

『田舎源氏』で空前のブームを起し、天保改革に筆を奪われた旗本戯作者。その作品と併せ生涯描く。
978-4-642-75174-2 (初版 65.7)

香川景樹
かがわかげき

（オンデマンド版）
兼清正徳著**2,970円**(2,700)

中世歌学と国学者の復古的歌論斥け歌壇の革新はかる。桂園派の歴史的意義を解明した興味ある伝。
978-4-642-75131-5 (初版 73.7)

平田篤胤
ひらたあつたね

（オンデマンド版）
田原嗣郎著**3,190円**(2,900)

宣長に触発されたが別な方向に思想を形成、神道を宗教的に深化せしめた江戸後期国学の代表的人物伝。
978-4-642-75055-4 (初版 63.8)

間宮林蔵
まみやりんぞう

（オンデマンド版）
洞　富雄著**3,300円**(3,000)

輝かしい大探検家―シーボルト事件の密告者―幕府の隠密。前半生と後半生の明暗二面併せ浮彫す。
978-4-642-75061-5 (初版 60.3)

滝沢馬琴
たきざわばきん

（オンデマンド版）
麻生磯次著**2,750円**(2,500)

原稿料で生計を立てた最初の作家。晩年失明後も大作〝八犬伝〟を完成させた、悲壮な生涯を描く。
978-4-642-75095-0 (初版 59.12)

調所広郷
ずしょひろさと

（オンデマンド版）
芳　即正著**3,080円**(2,800)

薩摩藩、財政改革の立役者。新見解を示し、その全容を解明。幕末維新史上の薩摩活躍の謎を探る。
978-4-642-75081-3 (初版 87.5)

橘　守部
たちばなもりべ

（オンデマンド版）
鈴木暎一著**3,080円**(2,800)

〝宣長学〟を大胆に批判し創見に富む古典研究に新境地を開く。国学史上異彩放つその生涯を解明。
978-4-642-75134-6 (初版 72.1)

黒住宗忠
くろずみむねただ

原　敬吾著**2,090円**(1,900)

天照大神の信仰とまじないによる病気治療とで新宗教を開く。特異な宗派神道―黒住教教祖の実伝。
978-4-642-05089-0 (60.3)

水野忠邦
みずのただくに

（オンデマンド版）
北島正元著**3,850円**(3,500)

天保改革を断行し幕政の危機打開計ったが士民の怨嗟買って失脚！悲劇の宰相苦闘の生涯を活写す。
978-4-642-75101-8 (初版 69.10)

帆足万里
ほあしばんり

（オンデマンド版）
帆足図南次著**2,970円**(2,700)

画期的な科学書『窮理通』非凡な経世書『東潜夫論』日本科学史に異彩放つ先駆者の生涯と業績を描く。
978-4-642-75183-4 (初版 66.5)

江川坦庵
えがわたんあん

仲田正之著**2,200円**(2,000)

伊豆韮山代官。兵学者。品川台場、反射炉を構築。太平に眠る幕閣に警鐘をならした幕末先覚者の伝。
978-4-642-05040-1 (85.10)

藤田東湖
ふじたとうこ

鈴木暎一著**2,200円**(2,000)

代表的な水戸学者。藩主斉昭の腹心。藩政改革と国家の独立維持に尽瘁した熱血漢波瀾の生涯描く。
978-4-642-05209-2 (98.1)

広瀬淡窓
ひろせたんそう

（オンデマンド版）
井上義巳著**2,970円**(2,700)

江戸後期の大教育者。私塾咸宜園を開設、大村益次郎・高野長英らを輩出。その教育と人間像を描く。
978-4-642-75080-6 (初版 87.4)

二宮尊徳
にのみやそんとく

大藤　修著**2,640円**(2,400)

江戸時代末期の農政家。報徳仕法を編み出し、荒廃農村の復興に捧げた「金次郎」の全生涯と思想。
978-4-642-05274-0 (15.5)

大原幽学
おおはらゆうがく

（オンデマンド版）
中井信彦著**3,190円**(2,900)

勝れた下総の農民指導者協同組合の創始者。均等自作農のモデル村落建設し弾圧に斃れた生涯描く。
978-4-642-75162-9 (初版 63.4)

島津斉彬
しまづなりあきら

芳　即正著**2,090円**(1,900)

人格・識見に優れ、内治・外交に卓抜な英知示す。殖産興業・富国強兵に努めた開明派薩摩藩主の伝。
978-4-642-05197-2 (93.11)

月　照
げっしょう

〈僅少〉
友松圓諦著**1,870円**(1,700)

幕吏に追われて西走、西郷と相抱いて薩摩潟に投身した悲劇の勤王僧。その人間像を初めて浮彫す。
978-4-642-05125-5 (61.4)

橋本左内
はしもとさない

（オンデマンド版）
山口宗之著**3,190円**(2,900)

安政大獄に散った幕末の偉大な青年。その識見と短生涯の事績描き、誤られた戦前の左内観を正す。
978-4-642-75022-6 (初版 62.2)

井伊直弼
いいなおすけ

（オンデマンド版）
吉田常吉著**3,520円**(3,200)

安政の獄を断行し志士を弾圧！開国の先覚か違勅の元凶か？新史料を駆使して時代と人物を浮彫す。
978-4-642-75016-5 (初版 63.10)

吉田東洋
よしだとうよう

（オンデマンド版）
平尾道雄著**2,750円**(2,500)

幕末土佐藩政改革の主役者。藩営専売仕法の実施等により西南雄藩の一たらしむ。隠れた偉材の伝。
978-4-642-75152-0 (初版 59.6)

〔＊〕は品切

緒方洪庵
おがたこうあん
（オンデマンド版）
梅溪　昇著3,190円(2,900)
江戸後期の蘭医学・教育者。種痘の普及などに努め、適塾を主宰。日本近代化への先駆者の生涯。
978-4-642-75277-0 (初版16.2)

佐久間象山
さくましょうざん
大平喜間多著1,980円(1,800)
識見高邁なる幕末開国論者。上洛して国事に奔走中刺客の凶刃に斃る。偉丈夫の面目巧みに浮彫す。
978-4-642-05092-0 (59.5)

真木和泉
まきいずみ
（オンデマンド版）
山口宗之著3,080円(2,800)
尊攘激派の理論的指導者として重きをなし禁門の変に敗れて自刃。その生涯と歴史的意義を解明す。
978-4-642-75149-0 (初版73.10)

高島秋帆
たかしましゅうはん
（オンデマンド版）
有馬成甫著2,750円(2,500)
初めて西洋砲術を修め、攘夷論渦巻くさ中、率先洋式兵制の採用と開国の要を唱道した先覚者の伝。
978-4-642-75155-1 (初版58.10)

シーボルト
（オンデマンド版）
板沢武雄著2,970円(2,700)
鎖国下に西欧科学を伝え幾多の俊英を輩出、広く日本を世界に紹介す。その功業の史的意義を解明。
978-4-642-75113-1 (初版60.5)

高杉晋作
たかすぎしんさく
梅溪　昇著2,420円(2,200)
幕末の長州藩士。尊攘・討幕運動を指導し、奇兵隊を創設。維新の夜明け前に病没した波乱の生涯。
978-4-642-05225-2 (02.8)

近　代

川路聖謨
かわじとしあきら
（オンデマンド版）
川田貞夫著3,300円(3,000)
日露和親条約締結の立役者。軽輩から立身して能吏として名を挙げ、ついに幕府に殉じた生涯を描く。
978-4-642-75207-7 (初版97.10)

横井小楠
よこいしょうなん
（オンデマンド版）
圭室諦成著3,300円(3,000)
肥後から迎えられて越前松平春嶽の顧問となり、雄藩連合による開明的施策に身命捧げた先覚の伝。
978-4-642-75140-7 (初版67.6)

小松帯刀
こまつたてわき
高村直助著2,310円(2,100)
幕末の薩摩藩家老。幕末維新史を見直し、大政奉還から王政復古を導き出した男を描く本格的評伝。
978-4-642-05262-7 (12.6)

山内容堂
やまうちようどう
平尾道雄著2,200円(2,000)
幕末土佐の名君、大政奉還の偉功者、詩酒奔放の粋人。伝統のきずなと先覚者の苦悩を併せ浮彫す。
978-4-642-05070-8 (61.9)

江藤新平
えとうしんぺい
（オンデマンド版）
杉谷　昭著2,970円(2,700)
明治初期立法の偉功者。征韓論で下野、佐賀乱を起して梟首さる。激動の時代と共に描く悲劇の伝。
978-4-642-75032-5 (初版61.7)

和　宮
かずのみや
（オンデマンド版）
武部敏夫著2,860円(2,600)
公武合体の犠牲となって家茂に嫁し、幕府滅亡の際苦悶を極む。幕末史彩る数奇な皇女の運命描く。
978-4-642-75071-4 (初版65.2)

西郷隆盛
さいごうたかもり
田中惣五郎著2,420円(2,200)
太っ腹で誠実、維新三傑の一。征韓論に破れ衆に擁せられて挙兵、従容薩南に散華する大生涯描く。
978-4-642-05011-1 (58.9)

ハ　リ　ス
（オンデマンド版）
坂田精一著3,080円(2,800)
安政条約の調印に成功し日本開国の主役を演ず。唐人お吉の伝説で有名な辣腕外交家の面目を描く。
978-4-642-75084-4 (初版61.5)

森　有礼
もりありのり
（オンデマンド版）
犬塚孝明著3,190円(2,900)
近代教育制度の創始者。初代文相。優れた孤高な文政家の多様な思想と行動を探り、実像に迫る。
978-4-642-75078-3 (初版86.7)

松平春嶽
まつだいらしゅんがく
（オンデマンド版）
川端太平著3,520円(3,200)
幕末越前の名君。開国進取の達見抱き、朝幕の板挟みに苦悩するその生涯を激動の時代と併せ描く。
978-4-642-75189-6 (初版67.2)

中村敬宇
なかむらけいう
（オンデマンド版）
高橋昌郎著3,190円(2,900)
西国立志編・自由之理等の訳述と盛んな啓蒙活動女子教育・幼児教育・盲唖教育を開拓した先覚者。
978-4-642-75108-7 (初版66.10)

河竹黙阿弥
かわたけもくあみ
（オンデマンド版）
河竹繁俊著2,970円(2,700)
脚本およそ360空前の大作者、近世演劇の集大成者。伝記と作品解説兼ねる歌舞伎理解の好指針。
978-4-642-75065-3 (初版61.10)

寺島宗則
てらしまむねのり
（オンデマンド版）
犬塚孝明著3,080円(2,800)
蘭学者、外交官、政治家として、幕末明治の激動期を生きた政論家の実像を鮮かに描く本格的評伝。
978-4-642-75193-3 (初版90.10)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

樋口一葉
ひぐちいちよう
（オンデマンド版）
塩田良平著 **2,970円**(2,700)

娘手一つに一家を支え、貧窮裡に天稟を磨き、不朽の名作残し忽然世を去った薄命閨秀作家の生涯。
978-4-642-75017-2 (初版 60.7)

ジョセフ＝ヒコ
（オンデマンド版）
近盛晴嘉著 **3,080円**(2,800)

わが国最初の新聞発刊者。13歳で漂流渡米し受洗帰化。帰国後開国日本に寄与した浜田彦蔵異色伝。
978-4-642-75038-7 (初版 63.12)

勝　海舟
かつかいしゅう
石井　孝著 **2,200円**(2,000)

機略縦横、幕・藩の障壁を撤した改革勢力の全国的連合にその全精力を燃やした海舟の生涯を描く。
978-4-642-05062-3 (74.7)

臥雲辰致
がうんたつち
（オンデマンド版）
村瀬正章著 **2,530円**(2,300)

ガラ紡織機を発明し日本産業発展史上に不滅の名残す。窮乏裡に不撓の努力続ける苦悩奮闘の生涯。
978-4-642-75180-3 (初版 65.2)

黒田清隆
くろだきよたか
井黒弥太郎著 **2,310円**(2,100)

埋もれた明治の礎石、伊藤博文のライバル。北海道開拓を始め、其の多彩にして悲劇的生涯を活写。
978-4-642-05099-9 (87.12)

伊藤圭介
いとうけいすけ
（オンデマンド版）
杉本　勲著 **3,300円**(3,000)

日本植物学の鼻祖、近代科学史上の一先駆。明治12傑の1人に数えられた異数な学者の生涯描く。
978-4-642-75143-8 (初版 60.5)

星　亨
ほしとおる
（オンデマンド版）
中村菊男著 **2,860円**(2,600)

苦学力行、独学渡英。後政界に入り政友会領袖として活躍中凶刃に斃る。剛腹な明治政界偉材の伝。
978-4-642-75105-6 (初版 63.2)

福沢諭吉
ふくざわゆきち
会田倉吉著 **2,090円**(1,900)

卓抜な識見による西洋文明の紹介と独立市民の育成、広範な史料に基づく近代日本の大先覚の伝。
978-4-642-05005-0 (73.4)

中江兆民
なかえちょうみん
高知出版学術賞受賞
飛鳥井雅道著　〔＊〕

明治の自由民権思想家。フランス学派の代表と目された〝東洋のルソー〟奇人の苦悩と生涯描く。
978-4-642-05216-0 (99.8)

西村茂樹
にしむらしげき
（オンデマンド版）
高橋昌郎著 **2,970円**(2,700)

明治の思想家・教育者。独立国家形成のため、欧米文化の吸収を唱え生涯教育を実践した大学者の伝。
978-4-642-75118-6 (初版 87.11)

正岡子規
まさおかしき
久保田正文著 **2,310円**(2,100)

闘病の床に驚異の文学活動続け、俳句・和歌の革新に不滅の偉業遂ぐ。明治詩壇巨匠を新視角で描く。
978-4-642-05047-0 (67.7)

清沢満之
きよさわまんし
吉田久一著 **2,200円**(2,000)

明治仏教界の明星、今親鸞。近代日本の哲学思想に偉大な感化与えた宗教的天才の思想と生涯描く。
978-4-642-05035-7 (61.5)

滝　廉太郎
たきれんたろう
（オンデマンド版）
小長久子著 **3,080円**(2,800)

わが国近代音楽史上、最初の作曲家。「荒城の月」「箱根八里」などに不朽の名残す天才の短命な生涯。
978-4-642-75093-6 (初版 68.9)

副島種臣
そえじまたねおみ
安岡昭男著 **2,090円**(1,900)

明治初期の外務卿。高い外交力により日本の威信を世界に知らしめ、明治国家の建設に賭した生涯。
978-4-642-05261-0 (12.3)

田口卯吉
たぐちうきち
（オンデマンド版）
田口　親著 **3,190円**(2,900)

明治のエコノミスト・政治家・起業家・歴史家。日本開化小史等著し、前人未到の功績を残す快男児。
978-4-642-75219-0 (初版 00.11)

福地桜痴
ふくちおうち
（オンデマンド版）
柳田　泉著 **3,300円**(3,000)

明治前半期の天才的ジャーナリスト。非凡の才能を抱きながら世に容れられぬ生涯を如実に描く。
978-4-642-75146-9 (初版 65.12)

陸　羯南
くがかつなん
有山輝雄著 **2,310円**(2,100)

明治時代のジャーナリスト。徳富蘇峰らとならび異彩を放つ論説を展開した、孤高の人生に迫る。
978-4-642-05239-9 (07.5)

児島惟謙
こじまいけん
（オンデマンド版）
田畑　忍著 **2,750円**(2,500)

大津事件勃発に朝野愕然たる際、敢然政治的干渉排し司法権の独立を護持した明治法曹界巨人の伝。
978-4-642-75096-7 (初版 63.6)

荒井郁之助
あらいいくのすけ
（オンデマンド版）
原田　朗著 **2,970円**(2,700)

幕臣として活躍後、近代黎明期の自然科学の基礎を築いた科学者。初代中央気象台長の異色の伝記。
978-4-642-75200-8 (初版 94.7)

幸徳秋水
こうとくしゅうすい
西尾陽太郎著　〔＊〕

社会主義から無政府主義へ、非戦論から直接行動へ。大逆事件の主謀者として刑死した革命家の伝。
978-4-642-05077-7 (59.9)

〔＊〕は品切

ヘ ボ ン

高谷道男著 〔*〕

物情騒然たる幕末日本に渡来、伝道と施療と和英辞書の編集に生涯を捧ぐ銘記すべき一恩人の伝。
978-4-642-05053-1 (61.3)

石川啄木
いしかわたくぼく

岩城之徳著 〔*〕

薄命の大天才詩人。波瀾の裏面生活と若き妻の非命織り成し、苦悩に満ちた短生涯を鮮かに浮彫す。
978-4-642-05008-1 (61.3)

乃木希典
のぎまれすけ

松下芳男著**2,090円**(1,900)

軍神と崇められる明治の象徴的将軍。その古武士的風格と冷厳な家庭生活併せ描く人間乃木の実伝。
978-4-642-05023-4 (60.10)

岡倉天心
おかくらてんしん

(オンデマンド版)
斎藤隆三著**2,970円**(2,700)

東洋特に日本美術の優秀性を喝破、全世界に唱道した大先覚者。近代日本美術生みの親の生涯描く。
978-4-642-75044-8 (初版 60.1)

桂 太郎
かつらたろう

(オンデマンド版)
宇野俊一著**3,190円**(2,900)

明治期の軍人政治家。長州藩閥のエリートとして立身し、三たび組閣し桂園時代を担った全生涯。
978-4-642-75234-3 (初版 06.3)

徳川慶喜
とくがわよしのぶ

家近良樹著**2,530円**(2,300)

江戸幕府最後の将軍。大政奉還を行い、鳥羽伏見後に長い隠居生活を送った 77 年間の生涯。
978-4-642-05270-2 (14.1)

加藤弘之
かとうひろゆき

(オンデマンド版)
田畑 忍著**2,750円**(2,500)

初代東大総長、学士院院長。明治の思想界・法曹界に君臨し一世に感化与えた碩学・大論争家の伝。
978-4-642-75056-1 (初版 59.7)

山路愛山
やまじあいざん

(オンデマンド版)
坂本多加雄著**3,190円**(2,900)

卓抜のジャーナリスト。キリスト教信仰、透谷との論争、平民史観の展開等、思想活動の事績を描く。
978-4-642-75156-8 (初版 88.9)

伊沢修二
いさわしゅうじ

〈僅少〉
上沼八郎著**2,310円**(2,100)

明治教育界の大開拓者。師範教育・音楽教育・体操教育・植民地教育・吃音矯正事業等に輝く異色の伝。
978-4-642-05128-6 (62.10)

秋山真之
あきやまさねゆき

田中宏巳著**2,200円**(2,000)

明治海軍の戦術家。独自の「秋山兵学」で日本海海戦に勝利。日本海軍の明暗を分けた栄光と苦悩。
978-4-642-05230-6 (04.9)

成瀬仁蔵
なるせじんぞう

(オンデマンド版)
中嶌 邦著**2,860円**(2,600)

近代女子教育発展に尽力した日本女子大学の創立者。あるべき社会を問い平和を願った生涯を探る。
978-4-642-75224-4 (初版 02.3)

前島 密
まえじまひそか

(オンデマンド版)
山口 修著**2,860円**(2,600)

郵便の父。海運・鉄道・新聞・教育等々、近代日本確立期に多彩な活躍をした真摯な人物像活写。
978-4-642-75191-9 (初版 90.5)

前田正名
まえだまさな

(オンデマンド版)
祖田 修著**3,300円**(3,000)

明治の殖産興業政策の推進者。全国行脚により地方産業の育成・振興に捧げた生涯を克明に描く。
978-4-642-75074-5 (初版 73.1)

大隈重信
おおくましげのぶ

(オンデマンド版)
中村尚美著**3,190円**(2,900)

「政治はわが生命」を信条に生涯を政治に捧げ、のち早大を創立。偉大な政党政治家の面目描く。
978-4-642-75026-4 (初版 61.9)

山県有朋
やまがたありとも

(オンデマンド版)
藤村道生著**2,970円**(2,700)

国軍建設の父、明治の元勲、政党政治の抑圧者、絶対主義の権化。その生涯と功罪を巧みに浮彫す。
978-4-642-75059-2 (初版 61.5)

大井憲太郎
おおいけんたろう

平野義太郎著 〔*〕

自由民権運動の急先鋒、大阪事件の首領。のち普選運動と労働者農民運動に尽した熱血の生涯描く。
978-4-642-05117-0 (65.10)

河野広中
こうのひろなか

(オンデマンド版)
長井純市著**2,970円**(2,700)

明治・大正期の民衆政治家。自由民権運動の英雄イメージを脱し、政治家としての実像に迫る。
978-4-642-75251-0 (初版 09.5)

加藤友三郎
かとうともさぶろう

西尾林太郎著**2,640円**(2,400)

海軍大臣として軍縮を断行、首相として国際協外交や普通選挙制導入など国内改革を目指した軍人
978-4-642-05317-4 (24.9)

富岡鉄斎
とみおかてっさい

(オンデマンド版)
小高根太郎著**2,970円**(2,700)

セザンヌ・ゴッホにも比すべき大芸術家と喧伝される非凡な文人画家。その生涯を作品と併せ描く。
978-4-642-75020-2 (初版 60.11)

大正天皇
たいしょうてんのう

古川隆久著**2,200円**(2,000)

虚弱体質の宿命を背負いつつ、激動の明治・昭和の狭間で大正時代を治めた「守成」の君主の実伝。
978-4-642-05240-5 (07.8)

津田梅子
つだうめこ

山崎孝子著**2,310円**(2,100)

明治４年わずかに７歳で米国へ留学。女子教育の母として、津田塾と共に永遠に名残す女流先覚者。
978-4-642-05122-4 (62.6)

豊田佐吉
とよださきち

楫西光速著**2,090円**(1,900)

大工の子に生れ織機の改良に専念、遂に世界的鉄製自動織機を完成す。発明王・紡績王の生涯描く。
978-4-642-05090-6 (62.6)

渋沢栄一
しぶさわえいいち

土屋喬雄著**2,310円**(2,100)

近代日本の発展に多大な役割演じた大実業家。驚嘆すべき広範活動を時代の息吹と共に鮮明に描く。
978-4-642-05159-0 (89.5)

有馬四郎助
ありましろすけ

(オンデマンド版)
三吉　明著**2,970円**(2,700)

クリスチャン典獄、愛の刑務官として、わが国行刑史上に不滅の名残す、勝れた天職者の生涯描く。
978-4-642-75186-5 (初版 67.10)

武藤山治
むとうさんじ

(オンデマンド版)
入交好脩著**2,970円**(2,700)

鐘紡王国の建設、実業同志会の結成、時事新報社長―政財界の悪と戦い凶弾に仆れた巨人の生涯。
978-4-642-75068-4 (初版 64.2)

坪内逍遙
つぼうちしょうよう

(オンデマンド版)
大村弘毅著**3,080円**(2,800)

明治大正期の文壇に君臨した文豪。演劇に小説に翻訳に教育に輝く不滅の業績を私生活と併せ解明。
978-4-642-75102-5 (初版 58.9)

山室軍平
やまむろぐんぺい

(オンデマンド版)
三吉　明著**3,190円**(2,900)

救世軍最初の日本司令官として、伝道と公娼廃止・貧民救済・免囚保護等々に献身した聖き生涯描く。
978-4-642-75050-9 (初版 71.10)

阪谷芳郎
さかたによしろう

西尾林太郎著**2,640円**(2,400)

官僚政治家。日清・日露戦争で財政の中核を担い、大蔵大臣、東京市長、貴族院議員を務めた生涯。
978-4-642-05286-3 (19.3)

南方熊楠
みなかたくまぐす

(オンデマンド版)
笠井　清著**3,300円**(3,000)

奇行に富む型破りの非凡な学者！海外及び帰国後の全生涯を生物学・民俗学の業績とあわせ描く。
978-4-642-75014-1 (初版 67.9)

山本五十六
やまもといそろく

田中宏巳著**2,310円**(2,100)

日本海軍の軍人。連合艦隊司令長官として真珠湾奇襲作戦を実行。歴史の中の名提督の実像に迫る。
978-4-642-05257-3 (10.6)

中野正剛
なかのせいごう

(オンデマンド版)
猪俣敬太郎著**2,860円**(2,600)

偉大なリベラリストから全体主義へ。のち東条に抗しその弾圧下に割腹。激動の世相と波瀾の詳伝。
978-4-642-75111-7 (初版 60.6)

現　代

三宅雪嶺
みやけせつれい

中野目　徹著**2,530円**(2,300)

明治～昭和期のジャーナリスト。雑誌中心に社会を論じ、近代日本を生き抜いた稀有の言論人の姿。
978-4-642-05290-0 (19.10)

近衛文麿
このえふみまろ

古川隆久著**2,420円**(2,200)

昭和前期の政治家。首相を三度務め、太平洋戦争開戦直前まで政治の中枢にあった人物の全生涯。
978-4-642-05275-7 (15.9)

河上　肇
かわかみはじめ

(オンデマンド版)
住谷悦治著**3,190円**(2,900)

マルクス主義経済学者、共産主義者。弾圧下に飽くまで学問的良心を守り抜くひたむきな生涯描く。
978-4-642-75029-5 (初版 62.1)

牧野伸顕
まきののぶあき

茶谷誠一著**2,310円**(2,100)

昭和天皇の側近。国際協調・穏健政治擁護の立場を貫いた生涯と、近代日本の繁栄と挫折を描く。
978-4-642-05269-6 (13.11)

幣原喜重郎
しではらきじゅうろう

種稲秀司著**2,640円**(2,400)

近代日本の外交官・政治家。幣原外交を展開し、敗戦後首相となり日本国憲法草案を発表した生涯。
978-4-642-05301-3 (21.3)

御木本幸吉
みきもとこうきち

(オンデマンド版)
大林日出雄著**2,970円**(2,700)

近代日本の世界的な大商人！伝説化された既往の真珠王伝を、新資料により大きく書改めた力篇。
978-4-642-75114-8 (初版 71.5)

尾崎行雄
おざきゆきお

(オンデマンド版)
伊佐秀雄著**2,970円**(2,700)

藩閥に抗し軍国主義と戦い、終生を政党政治擁護に捧ぐ。憲政の神と仰がれる節操高い政治家の伝。
978-4-642-75087-5 (初版 60.6)

緒方竹虎
おがたたけとら

(オンデマンド版)
栗田直樹著**2,860円**(2,600)

戦後55年体制の礎を築き、首相の座を目前にして急逝。情報組織の主宰者としての足跡を辿る。
978-4-642-75222-0 (初版 01.2)

〔＊〕は品切

中田　薫
なかだかおる

北　康宏著**2,640円**(2,400)

日本の法制史学の創始者。熱烈な学問愛から「大学の自治」「学問の自由」のために戦った生涯。

978-4-642-05312-9 (23.8)

石橋湛山
いしばしたんざん

姜　克實著**2,420円**(2,200)

明治から昭和に活躍した言論人・政治家・思想家。「ナショナリズムの超克」を終生追い続けた生涯。

978-4-642-05271-9 (14.2)

八木秀次
やぎひでつぐ

(オンデマンド版)

沢井　実著**2,970円**(2,700)

「八木・宇田アンテナ」の発明者。「後発工業国日本の近代化」に挑んだ一科学技術者の生涯を描く。

978-4-642-75268-8 (初版 13.10)

森戸辰男
もりとたつお

小池聖一著**2,640円**(2,400)

戦前の思想弾圧「森戸事件」で知られる学者・政治家。一貫して社会科学者であり続けたその生涯。

978-4-642-05303-7 (21.7)

別　冊

【通巻300冊記念出版】

人とことば

日本歴史学会編**2,310円**(2,100)

日本史を彩る 117 名が残した珠玉の「ことば」。人物像の見直しを迫る意外な一言も収録。

978-4-642-05399-0 (20.3)

価格は 10％税込、(　)内は本体価格

〈続刊予定書目〉 ※没年時代別50音順

〔古代〕

安都雄足 小口雅史著
安倍晴明 細井浩志著
宇多天皇 古尾谷知浩著
大友皇子 山本 崇著
小野篁 仁藤智子著
花山天皇 有富純也著
空海 武内孝善著
玄昉 本郷真紹著
元明・元正天皇 荒木敏夫著
孝謙天皇 仁藤敦史著
孝徳天皇 鐘江宏之著
光仁天皇 舘野和己著
高麗福信 荒井秀規著
斉明天皇 市大樹著
嵯峨天皇 佐藤全敏著
聖武天皇 東野治之著
推古天皇 吉村武彦著
蘇我馬子 北康宏著
醍醐天皇 小倉慈司著
平貞盛 川尻秋生著
平将門 宮瀧交二著
橘奈良麻呂 渡辺晃宏著
斎然 榎本淳一著
天武天皇 吉川真司著
藤原兼家 稲田奈津子著
藤原鎌足 佐藤信著
藤原実資 佐々木恵介著
藤原忠平 古瀬奈津子著
藤原種継 清水みき著
藤原定子 池田尚隆著
藤原時平 今正秀著
藤原麻呂 馬場基著
藤原基経 山口英男著
藤原保則 熊田亮介著
文室宮田麻呂 渡邊誠著
文室綿麻呂 鈴木拓也著
源順 石上英一著
源高明 前田禎彦著
村上天皇 大津透著
文武天皇 大隅清陽著
雄略天皇 古市晃著

〔中世〕

足利尊氏 高橋典幸著
足利直義 清水克行著
足利持氏 江田郁夫著
足利義輝 瀬戸薫著
足利義教 山家浩樹著
足利義政 家永遵嗣著
安達泰盛 村井章介著
安倍貞任・宗任 樋口知志著
尼子経久 長谷川博史著
一休宗純 船岡誠著
一山一寧 榎本渉著
正親町天皇 金子拓著
太田道灌 山田邦明著
季瓊真蘂 芳澤元著
義堂周信 川本慎自著
清原宣賢 佐藤道生著
九条政基 廣田浩治著
九条道家 本郷和人著
建春門院 伴瀬明美著
後三条天皇 詫間直樹著
金春禅竹 松岡心平著
貞成親王 櫻井彦著
三条西実枝 小川剛生著
斯波義将 吉田賢司著
白河天皇 村井康彦著
雪舟 島尾新著
平重盛 曽我良成著
武田勝頼 堀内亨著
重源 永村眞著
土佐光信 髙岸輝著
鳥羽天皇 佐伯智広著
中原康富 榎原雅治著
八条院 野口華世著
日野富子 本郷恵子著
美福門院 栗山圭子著
藤原忠通 樋口健太郎著
藤原宗忠 吉田早苗著
藤原頼経 青山幹哉著
藤原頼通 下向井龍彦著
北条高時 細川重男著
北条貞時 西田友広著
北条時政 近藤成一著
細川政元 末柄豊著
堀河天皇 中込律子著
満済 藤井雅子著
源義朝 古澤直人著
源頼朝 高橋典幸著
源頼信 寺内浩著
宗尊親王 菊地大樹著
山科言継 菅原正子著
龍造寺隆信 堀本一繁著

〔近世〕

青木昆陽 吉田厚子著
浅野長矩 大森映子著
浅野長政 堀越祐一著
雨森芳洲 荒野泰典著
安藤昌益 若尾政希著

〔＊〕は品切

生田万 桂島宣弘著
以心崇伝 林晃弘著
上杉景勝 尾下成敏著
上田秋成 長島弘明著
上井覚兼 新名一仁著
大蔵永常 平井義人著
大塩平八郎 藪田貫著
大槻玄沢 松本英治著
荻生徂徠 平石直昭著
荷田春満 松本久史著
加藤清正 稲葉継陽著
狩野探幽 門脇むつみ著
吉良上野介 平井誠二著
久坂玄瑞 池田勇太著
光格天皇 佐藤雄介著
孝明天皇 母利美和著
小西行長 佐島顕子著
近衛家熙 緑川明憲著
近衛前久 橋本政宣著
後水尾天皇 松澤克行著
志筑忠雄 大島明秀著
証如・顕如 木越祐馨著
千宗旦 筒井紘一著
宗義智 荒木和憲著
天英院 松尾美惠子著
天海 曽根原理著
徳川家綱 木村直樹著
徳川家斉 荒木裕行著
豊臣秀長 播磨良紀著
豊臣秀吉 跡部信著
福島正則 内田九州男著
細川幽斎 稲葉継陽著
間部詮房 福留真紀著
村田清風 梶原良則著
毛利輝元 本多博之著
柳沢吉保 深井雅海著
山崎闇斎 前田勉著
吉田兼見 遠藤珠紀著
霊元天皇 高埜利彦著

〔近・現代〕

愛新覚羅溥儀 樋口秀実著
朝河貫一 甚野尚志著
安部磯雄 山泉進著
有栖川宮熾仁親王 箱石大著
板垣退助 村瀬信一著
伊東巳代治 佐々木隆著
犬養毅 時任英人著
井上馨 真辺将之著
井上毅 木野主計著
井上準之助 森田貴子著
岩倉具視 松田敬之著
岩崎弥太郎 小風秀雅著
宇垣一成 戸部良一著
汪兆銘 劉傑著
大川周明 滝沢誠著
岡田啓介 小池聖一著
小野梓 佐藤能丸著
加藤高明 熊本史雄著
木戸孝允 西川誠著
黒板勝美 渡邉剛著
五代友厚 小林延人著
後藤象二郎 村瀬信一著
後藤新平 松田忍著
小林一三 出口雄大著
西園寺公望 佐藤元英著
斎藤隆夫 小山俊樹著
斎藤実 小林和幸著
堺利彦 成田龍一著
佐々友房 佐々博雄著
アーネスト・サトウ 内海孝著
三条実美 川越美穂著
重光葵 田浦雅徳著
品川弥二郎 成田賢太郎著
柴五郎 大江洋代著
島地黙雷 新田均著
島津久光 寺尾美保著
下田歌子 上沼八郎著
鈴木貫太郎 鈴木多聞著
高山樗牛 長尾宗典著
田中正造 三浦顕一郎著
谷干城 福地惇著
貞明皇后 梶田明宏著
寺内正毅 斎藤聖二著
徳富蘇峰 梶田明宏著
長岡半太郎 岡本拓司著
西周 菅原光著
西尾末広 有馬学著
浜口雄幸 黒沢文貴著
原敬 伏見岳人著
広田弘毅 波多野澄雄著
真崎甚三郎 照沼康孝著
松岡洋右 森山優著
松方正義 神山恒雄著
三島通庸 鈴木淳著
村井吉兵衛 内海愛子著
元田永孚 山口輝臣著
安川敬一郎 中村尚史著
山本権兵衛 小宮一夫著
吉岡弥生 渡邊洋子著
吉田茂 柴田紳一著
若槻礼次郎 井上敬介著

価格は10%税込、( )内は本体価格

日本歴史叢書〈新装版〉

日本歴史学会編集
書名横の数字は通巻番号

坂本太郎著
六国史 27
四六判　408頁　口絵4　**3,410円**(3,100)
日本書紀から三代実録に至る六国史は、古代律令国家の貴重な遺産である。本書は各書の成立事情や特質を詳述し、さらに中国正史との比較により、日本の歴史思想の特色を見事に浮彫りにしている。重宝無比の入門書。
978-4-642-06602-0　(70.11)

虎尾俊哉著
延喜式 08
四六判　276頁　口絵2　地図1丁　**3,190円**(2,900)
平安初期の諸制度を集大成した厖大なる法典で、永く貴族生活の規範となる。古代政治社会研究の基本史料、日本古代文化理解の一大宝庫。初めてその鍵を開き、興味深い条文の紹介兼ねて平易に解説した古代史研究に必備の書。
978-4-642-06608-2　(95.3)

元木泰雄著
武士の成立 49
四六判　240頁　口絵1丁　**3,080円**(2,800)
平安中～後期にかけて、東国や京に現れた兵の家が、諸国に進出して地方支配の中心になるとともに、中央において政治的地位を向上させて武士政権が成立する。その過程を、職能論と在地領主の両面から解明する。
978-4-642-06600-6　(94.8)

永原慶二著
荘園 57
四六判　360頁　口絵1　**3,300円**(3,000)
中世社会を知る基本は荘園制にある。にもかかわらず研究の細分化のため、個人で荘園史像を描くことは不可能とされてきた。本書はそれを乗り越えて中世史研究の泰斗がその全史を大胆かつ平易に描いた荘園史の決定版。
978-4-642-06656-3　(98.8)

二木謙一著
中世武家の作法 58
四六判　286頁　口絵1　**3,300円**(3,000)
人はいつから畳の縁を踏めなくなったのか。弓馬や軍陣のしきたりを始め、立居振舞い、手紙の書式などの作法を故実というが、室町期の武家故実を通して中世武士の姿や動作、人生儀礼を生き生きと甦らせる類のない一冊。
978-4-642-06657-0　(99.12)

深谷克己著
津藩 61
四六判　316頁　口絵2　**3,190円**(2,900)
藤堂高虎を藩祖に伊賀の上野藩と伊勢の安濃津藩を合わせて誕生した30万石の大藩。従来の藩体制研究をふまえつつ「藩世界」の概念を用いて、社会に内在する歴史の汲み上げを図る。津藩を舞台とする最新の近世史入門。
978-4-642-06660-0　(02.3)

土井作治著
広島藩 71
四六判　360頁　口絵2　**3,520円**(3,200)
安芸・備後両国を領域とした外様の大藩。浅野藩政の確立と藩政改革の時代を経て、朝幕の狭間にゆれた幕末までを描く。中央市場大坂と結びついた経済構造、浅野吉長による藩の歴史認識の昂揚など、藩社会の特徴を解明。
978-4-642-06670-9　(15.7)

三谷　博著
ペリー来航 62
四六判　320頁　口絵2　**3,410円**(3,100)
ペリーの来航により、開国を迫られた幕末日本。緊迫した東アジア情勢の中で、一旦は鎖国に迷い込みながら、それからの脱却を果たした徳川公儀の政権運営を詳述する。外交政策の新しい解釈を試みた日本開国史の決定版。
978-4-642-06661-7　(03.10)

三宅紹宣著
幕長戦争 69
四六判　320頁　口絵2　**3,410円**(3,100)
江戸幕府崩壊の端緒となった幕長戦争。兵力数・西洋式兵器の装備ともに上回る幕府軍に対し、長州藩の勝因はどこにあったのか。戦闘状況のみならず、民衆の動向も分析。西欧列強との国際関係をふまえ総合的に解明する。
978-4-642-06668-6　(13.3)

村瀬信一著

帝国議会改革論 54

四六判　274頁　口絵2　**2,860円**(2,600)〈僅少〉

帝国議会の議会制度改革を、従来、政治史において軽視されがちであった「見せる政治」「見られる政治」の視点より、議院法に焦点をあて追求する。また改革の実態を、昭和期の論議を中心に解明し、運営上の特質を探る。

978-4-642-06653-2　(97.7)

森山茂徳著

日韓併合 47

四六判　244頁　口絵2　**2,970円**(2,700)

現代の韓国・朝鮮問題の出発点「日韓併合」を、日韓両国の歴史事実の検討の中から浮び上らせる。原因を日本の侵略過程からだけでなく、「併合」当時の両国を取り巻く国際環境からも検討し、広い視野から事実を究明。

978-4-642-06604-4　(95.1)

八幡一郎著

日本文化のあけぼの 20

四六判　366頁　口絵4　**3,300円**(3,000)〈僅少〉

日本文化のあけぼのを弥生文化の時代に求め、その文化を特に考古学的知見に基づく多くの例証と、日本古典に盛られた諸事象とを対応させて、著者独自の手法で分析・解明した。日本文化の歴史的理解に資する好著。

978-4-642-06630-3　(96.2)

滝沢武雄著

日本の貨幣の歴史 53

四六判　292頁　口絵1丁　**3,300円**(3,000)

和銅元年の銀銭・銅銭の鋳造、発行に始まる日本の貨幣について、その歴史を叙述。皇朝十二銭、撰銭令、貨幣改鋳など、重要問題を的確に解明する。日本の貨幣の歴史を、先行研究を基礎に分かり易く詳述した貨幣通史。

978-4-642-06652-5　(96.3)

五野井隆史著

キリシタンの文化 67

四六判　326頁　口絵2　**3,300円**(3,000)

キリスト教の招来した思想と技術は、日常生活はもとより医療・教育・芸術などあらゆる分野に及び、日本人の生活規範に影響を与え生き続けている。ザビエルの宣教に始まる進展と迫害の歴史を、人の一生に見立てて叙述。

978-4-642-06666-2　(12.7)

宗教・仏教史

吉田一彦著
古代仏教をよみなおす
四六判　264頁　**3,740円**（3,400）
仏教の伝来は、日本の国家形成や文化にいかなる影響を与えたのか。天皇号と日本国の誕生、聖徳太子の実像、行基の活動、女性の仏教信仰の実態などの重要テーマを軸として古代仏教史像の再構築を試みる格好の入門書。
978-4-642-07961-7　（06.9）

笹生　衛著
まつりと神々の古代
四六判　286頁　**2,750円**（2,500）
古来、人間はなぜ神や霊魂を信じて「まつり」を行うのか。文献史学や考古学、認知宗教学や気候変動の復元などから古墳祭祀や践祚大嘗祭、御霊会や地域の祭礼などを再検討。神観・祭祀の変遷や現代の「まつり」を解明。
978-4-642-08423-9　（23.2）

岡田荘司著
大嘗祭と古代の祭祀
四六判　372頁　原色口絵4　**3,080円**（2,800）
天皇一代一度の皇位継承儀礼「大嘗祭」とはいかなるものか。「平成大嘗祭論争」の中心学説『大嘗の祭り』を再録、その後の研究成果を集成。天皇祭祀等と同様、自然災害への対応を組み込むという新たな大嘗祭論を提示する。
978-4-642-08350-8　（19.3）

上川通夫著
平安京と中世仏教
―王朝権力と都市民衆―
四六判　244頁　**3,080円**（2,800）
平安時代後期からの200年間、平安京は多様な災害によって危機に瀕する一方、度重なる寺院建設で仏教都市と化す。仏教の拡大は過酷な時代の救済に結びついたのか。仏教史の観点から平安京が辿った歴史を捉え直す。
978-4-642-08283-9　（15.10）

大隅和雄著
西行・慈円と日本の仏教
―遁世思想と中世文化―
四六判　220頁　**2,530円**（2,300）〈僅少〉
『新古今集』を代表する歌人、西行と慈円。西行の遁世に憧れつつも天台座主にまで登りつめた慈円。仏教の諸宗を学びながら遁世者として生きた無住。これらの僧侶と仏像の歴史を通して、日本独特の仏教史を模索する。
978-4-642-08300-3　（16.9）

西海賢二著
江戸の漂泊聖たち
四六判　192頁　**2,750円**（2,500）〈僅少〉
江戸時代、民衆とともに生きる修行僧がいた。米穀を断つ木食僧、仏像を刻む聖、加持祈祷をする修験者。彼らはなぜ諸国を漂泊し、苦行に身を投じたのか。民衆に支持された民間宗教者の足跡から、日本宗教史の深層に迫る。
978-4-642-07976-1　（07.6）

竹内道雄著・尾崎正善編
總持寺の歴史　〈増補新版〉
四六判　192頁　原色口絵4　**2,200円**（2,000）
曹洞宗の大本山總持寺は広く世界に開かれた禅苑である。新たに口絵、本文図版、用語解説、補注や振り仮名、近年までの記述、年譜の補訂を加えた増補新版。二祖峨山禅師650回大遠忌を迎える總持寺の歴史を知るための必読書。
978-4-642-08280-8　（15.8）

勝山市編
白山平泉寺　―よみがえる宗教都市―
A５判　272頁　原色口絵４　**1,650円**（1,500）
霊峰をはるかに望み、苔むす境内が広がる白山平泉寺。1300年前に開かれ、戦国時代に巨大都市に発展、一向一揆と対峙した。白山信仰や経済活動に迫り、世界の都市・城郭に匹敵する宗教都市の栄華を明らかにする。
978-4-642-08316-4　（17.3）

新谷尚紀著
お　葬　式　―死と慰霊の日本史―
四六判　272頁　**1,650円**（1,500）
誰にでもやがて訪れる死。日本人はいかに死者を葬ってきたのか。葬式・墓・慰霊をキーワードに、各地の多様な習俗、弔い方や、死生観をたどる。死の歴史を見つめ直し、死への向きあい方をやさしく語る、葬式の日本史。
978-4-642-07999-0　（09.2）

五野井隆史著
日本キリスト教史
四六判　338頁　原色口絵2　**3,520円**（3,200）

1549年に伝来したキリスト教は、苦難と忍従の歴史として展開した。本書は、イエズス会の創設から戦後の信教の自由が保証されるまでの過程を、最新の研究と原史料を駆使してやさしく描き出したキリスト教史の入門書。
978-4-642-07287-8　（90.9）

宮崎賢太郎著
カクレキリシタンの実像
―日本人のキリスト教理解と受容―
四六判　246頁　**2,530円**（2,300）

弾圧に耐え信仰を守ってきたとされる〈隠れキリシタン〉が、大切に伝えてきたものはキリスト教ではなかった。オラショ（祈り）や諸行事に接し、彼らが本当に祈り続けてきたものを探り、日本民衆のキリスト教受容に迫る。
978-4-642-08100-9　（14.2）

通史・概説

佐々木潤之介・佐藤　信・中島三千男・藤田　覚・外園豊基・渡辺隆喜編
概論 日本歴史
A５判　364頁　**2,090円**（1,900）

日本史の全体像を、わかりやすく記述した本格的な通史。最新の研究成果を盛り込み、必要不可欠な史実を厳選。古代から現代まで歴史の流れを把握できるように編集した、日本史を学ぼうとする人びとに送る最良の入門書。
978-4-642-07710-1　（00.5）

高橋秀樹・三谷芳幸・村瀬信一著
ここまで変わった日本史教科書
A５判　240頁　**1,980円**（1,800）

中学生・高校生が学ぶ日本史は不変のものではない。教科書の現在（いま）を知るために、旧石器から平成まで46のテーマを設定し、記述の変化とその根拠となる研究の進展を教科書の専門家が解説する。Q＆Aなどの付録も充実。
978-4-642-08299-0　（16.9）

木村茂光・小山俊樹・戸部良一・深谷幸治編
大学でまなぶ日本の歴史
A５判　272頁　**2,090円**（1,900）

大学で日本史を学ぶうえで不可欠なテーマを選び、最新の研究成果をふまえ平易に叙述した格好の通史テキスト。各テーマをコンパクトにまとめ、時代の「移行期」と近現代史を重視。日本史を学びなおしたい人にも最適。
978-4-642-00831-0　（16.4）

東北学院大学文学部歴史学科編
大学で学ぶ東北の歴史
A５判　268頁　**2,090円**（1,900）

日本史の中に東北の歴史を位置付けるため最適なテーマを選び、遺跡・争乱・人物や自然災害など東北独自のトピックスを盛り込んだ通史テキスト。歴史愛好家や社会人など、歴史を学びなおしたい人にも最適な入門書。
978-4-642-00834-1　（20.10）

宮城弘樹・秋山道宏・野添文彬・深澤秋人編
大学で学ぶ沖縄の歴史
A５判　256頁　**2,090円**（1,900）

琉球沖縄は、どのような歴史をたどってきたのか。豊富かつ最新の研究成果と、多様な専門領域の視点を盛り込んで平易に描く通史。各章を補完するコラムや、米軍ヘリ墜落事故に触れた特論を収録。学び直しにも最適。
978-4-642-00835-8　（23.4）

『日本歴史』編集委員会編
恋する日本史
A５判　256頁　**2,200円**（2,000）

天皇・貴族から庶民まで、昔の人々の知られざる恋愛を歴史学・国文学などのエキスパートが紹介。無名の人物が貫いた純愛、異性間に限らない恋心、道ならぬ恋が生んだ悲劇…。恋愛を通してみると歴史はこんなに面白い！
978-4-642-08394-2　（21.3）

『日本歴史』編集委員会編
きょうだいの日本史
A５判　280頁　**2,200円**（2,000）

かたや固い絆で結ばれた家族、かたや他人同然のライバル。時に複雑な感情をも孕む、「きょうだい」の関係性。古代の天皇から昭和のスターまで、歴史上の兄弟姉妹たちの多様なあり方から、彼らの生きた時代を見通す。
978-4-642-08455-0　（24.9）

増田美子編

日本衣服史

四六判　444頁　原色口絵4　**4,400円**（4,000）

人はなぜ衣服を着るのか？　縄文時代から現代まで、あらゆる人々の服装や流行などの変遷を最新の研究成果でたどる。歴史に果たした衣服の役割と、その中で生きた人たちの心の表現にもふれた、魅力的で新しい衣服史。

978-4-642-08031-6　(10.2)

江原絢子・石川尚子・東四柳祥子著

日本食物史

四六判　448頁　原色口絵4　**4,400円**（4,000）

日本人は何を食べてきたのか。採集狩猟の原始時代から現代のスローフードまで、豊富な図版で解説。調理法の変化や調味料・食材の渡来。日本風になっていく外国料理など、多彩な食文化の全てを網羅した日本〈食〉百科。

978-4-642-08023-1　(09.7)

小沢朝江・水沼淑子著

日本住居史

四六判　414頁　原色口絵4　**4,180円**（3,800）

生活の器であり、時代と文化を映す鏡ともいえる住宅の歴史を探る。弥生人の集落から、寝殿造、和室の原型＝書院造の誕生、江戸城、「２ＤＫ」の現代まで。住まいの行方と、変わりゆく家族・個人の生活のあり方を問う。

978-4-642-07947-1　(06.3)

季武嘉也・武田知己編

日本政党史

四六判　384頁　原色口絵4　**3,850円**（3,500）

明治の政治結社から護憲政党の活躍、戦時下の政党消滅、自民党・社会党を柱とした55年体制と派閥政治、2009年の政権交代までの政党史を平易に解説。民主政の柱、権力装置としての〈政党〉の実態と本質を問い直す。

978-4-642-08049-1　(11.2)

岡田荘司・小林宣彦編

日本神道史　（増補新版）

四六判　416頁　原色口絵4　**3,850円**（3,500）

古来、神は日本人の精神的より所として存在し、国家成立に大きな位置を占めていた。初版刊行から10年、沖ノ島や律令国家祭祀に新知見を加えるなど、記述を見直しよりわかりやすく編集。今も息づく神道の世界へ誘う。

978-4-642-08395-9　(21.5)

勝田　至編

日本葬制史

四六判　352頁　原色口絵4　**3,850円**（3,500）

古来、人々は死者をどのように弔ってきたのか。死体が放置された平安京、棺桶が山積みされた江戸の寺院墓地など、各時代の様相は現代の常識と異なっていた。日本人の他界観と、「死」と向き合ってきた葬制の歴史を探る。

978-4-642-08073-6　(12.5)

児玉幸多編

日本交通史　（新装版）

四六判　416頁　口絵4　**3,850円**（3,500）

交通は人間社会の発達に重要な役割をもち、各時代の政策・制度の下、そこに生きた人々に多大の影響を与えた。古代から近世までの水陸交通の実相を、豊富な図版とともに平易に解説。日本交通史の画期的名著を新装復刊。

978-4-642-08347-8　(19.1)

木村茂光編

日本農業史

四六判　430頁　原色口絵4　**4,180円**（3,800）

農耕の始まりから現代まで、多様で豊かに発展した日本農業の歴史を、開発や経営、技術・農具、稲の品種、畠作の種類、減反など、分り易く解説。旧来の農業史観に新視覚を提供し、自給率40%時代の農業に一石を投じる。

978-4-642-08046-0　(10.11)

新村　拓編

日本医療史

四六判　382頁　原色口絵4　**3,850円**（3,500）

古代から現代まで、医療はどのような道をたどってきたのか。平安人を襲った病、戦国の医療政策、越中富山の薬売り、国民皆保険制度の成立などを、豊富な表・図版を用いて詳説。命を守る闘い＝医療の歴史を振り返る。

978-4-642-07960-0　(06.8)

高橋典幸・山田邦明・保谷　徹・一ノ瀬俊也著

日本軍事史

四六判　462頁　原色口絵4　**4,400円**（4,000）

古代から現代まで、戦争のあり方や戦争をささえたシステムを明らかにする通史。戦争遂行のための〈人と物〉の調達をキーワードに、軍事に関する制度と、軍隊と社会の関係を多くの写真や絵画とともにビジュアルに描く。

978-4-642-07953-2　(06.2)

北原糸子編
日本災害史
四六判　480頁　原色口絵4　**4,620円**（4,200）
古代から現代まで、人々はいかに災害を乗り越えてきたのか。復興に努力した歴史を探り、時代ごとに異なる社会の対応を解明。歴史学・考古学・土木学・ジャーナリズムなどの研究をもとに、災害から日本社会の様相を読み解く。
978-4-642-07968-6　（06.10）

小峯和明編
日本文学史
四六判　436頁　原色口絵4　**4,180円**（3,800）
文学史は文学観と歴史観がなければ確立しえない。従来の時代割り・ジャンル割りではなく、東アジア・メディア・戦争・宗教・ジェンダー・環境などのテーマを切り口に多くの図版を交え平易に描いた、新しい日本文学史。
978-4-642-08262-4　（14.11）

脇田晴子・林　玲子・永原和子編
日本女性史
四六判　316頁　**2,420円**（2,200）
女性だけの共同執筆による初の日本女性史。原始から現代にいたるそれぞれの時代に生きた女性の姿をリアルに描き出し、女性の労働への役割分担や地位の変化、意識の変遷や女性観を跡付け、今後の新たな課題を問いかける。
978-4-642-07267-0　（87.8）

齋藤慎一・向井一雄著
日本城郭史
四六判　504頁　原色口絵４　**4,620円**（4,200）
環濠集落から近世城郭へと、時代と共にいかなる変遷を遂げたのか。「軍事」と「日常」の二つの視点から実態を探り、都市空間論まで踏み込んで解明。北日本や琉球、アジアの視野も踏まえて検証した新たな“城”の通史。
978-4-642-08303-4　（16.12）

金田章裕・上杉和央著
日本地図史
四六判　408頁　口絵4　**4,180円**（3,800）
班田図・荘園図・国絵図・鳥瞰図・伊能図・世界図…。日本に数多く残されている地図はいかなる目的で作製・利用されてきたのか。古代・中世の地図からデジタル・マップまで、日本地図の歴史を豊富な図版とともに解説。
978-4-642-08070-5　（12.3）

新谷尚紀著
神社の起源と歴史
四六判　256頁　**2,200円**（2,000）
伊勢神宮・出雲大社・沖ノ島・隅田八幡宮・ニソの杜。大小さまざまな神社がなぜ全国に存在するのか。民俗伝承学に考古学・文献史学を織り成し、新視点から神社祭祀を比較検討。神社の歴史とその重層性の解明に挑む。
978-4-642-08400-0　（21.7）

総合女性史研究会編
史料にみる日本女性のあゆみ
Ａ５判　244頁　**2,530円**（2,300）
女性は生きたあかしをどのように歴史に刻んできたのか。基本となる史料や見落とされてきた史料の読み方、新しい解釈、時代背景などをわかりやすく解説する。歴史上の未知の女性たちと出会うための初の女性史史料集。
978-4-642-07772-9　（00.12）

黒田弘子・長野ひろ子編
エスニシティ・ジェンダーからみる日本の歴史
四六判　**3,520円**（3,200）〈僅少〉
民族紛争を背景に登場したエスニシティ、女性が主体性を確立する歩みであるジェンダー。歴史学の周縁におかれてきたこれらの概念から、日本史を捉えなおす。アイヌ民族や喋々夫人等を取り上げ、新たな歴史像を創造する。
978-4-642-07786-6　（02.6）

総合女性史学会編
女性官僚の歴史
―古代女官から現代キャリアまで―
Ａ５判　200頁　**2,970円**（2,700）〈僅少〉
女官・奥女中・キャリアなど、女性官僚が形を変え活動してきた歴史を解明する。政治や行政の場に男女が等しく参加できていない今日的課題に対し、官僚制と女性の歴史から解決を探る。女性史研究にとって初めての試み。
978-4-642-08097-2　（13.11）

塚本　明著
鳥羽・志摩の海女
―素潜り漁の歴史と現在―
A５判　232頁　**2,420円**（2,200）

国の重要無形民俗文化財「鳥羽・志摩の海女漁の技術」。原始から現代へと至る、苦難と興隆の歴史を辿り、その豊かで力強い文化を紹介する。働くことの意味、伝統・文化のありかたを現代社会に問いかける注目の一冊。
978-4-642-08354-6　（19.7）

関　周一編
日朝関係史
四六判　416頁　**3,850円**（3,500）

活発な通交、貿易、戦争、断絶…。古来、日本列島と朝鮮半島は、国境を史的境界としない多様・多元的な移動や交流があった。双方の関係を、東アジア内の広範な交流にも触れながら解明。広域史の視点から見つめ直す。
978-4-642-08308-9　（17.2）

児玉幸多・大野達之助・安田元久編
史料による日本の歩み　中世編
A５判　432頁　図版16　**3,960円**（3,600）〈僅少〉

広範多岐にわたり、かつ難読・難解なものが多い歴史の史料を、誰でも利用できるように編さんした史料集。武士の勃興から平氏政権の興廃を経て、鎌倉・室町時代までの史料700余点。各事項に解説を施し、通史的にも便利。
978-4-642-01007-8　（58.3）

児玉幸多・佐々木潤之介編
新版 史料による日本の歩み　近世編
A５判　432頁　原色口絵8　**4,180円**（3,800）〈僅少〉

16世紀の後半から幕末にいたる約300年間の重要史料260余点を体系的に編成。時代の概観を述べ、各史料には註や解説を施し、政治・経済・文化・宗教・生活・風習などを興味深く把えることができる最新の史料集。
978-4-642-01116-7　（96.1）

田島　公編
陽明文庫　近衛家伝来の至宝
―設立80周年記念特別研究集会 記念図録―
A４判　40頁　**1,650円**（1,500）

平安時代以来の古典籍・古文書を所蔵し、藤原道長『御堂関白記』など70点近くの国宝・重要文化財を誇る陽明文庫。千年を超える近衛家の歴史と名品を最新研究に基づいて紹介した設立80周年特別研究集会の記念図録。
978-4-642-08358-4　（19.4）

大隅和雄著
日本文化史講義
四六判　240頁　**2,860円**（2,600）

独特の自然環境によって形成された基層文化の上に、外来文化を受容することで重層的な構造を持った日本文化。思想・宗教・文学・芸能など、幅広い事象を講義形式で解説。その複雑な性格と、豊かな内容を明らかにする。
978-4-642-08326-3　（17.11）

菅原正子著
日本人の生活文化
―くらし・儀式・行事―
四六判　186頁　**2,090円**（1,900）

私たちが「日本の伝統文化」とする風習は、本当に古来から続くものなのか。イエズス会士が驚いた男色・夫婦別財などの慣習、ひな祭りや七五三、結婚式などの本来の姿を明らかにし、日本固有の文化とは何かを探り出す。
978-4-642-07985-3　（08.2）

佐々木　馨著
北方伝説の誕生　―歴史と民俗の接点―
四六判　238頁　**3,080円**（2,800）〈僅少〉

坂上田村麻呂に置去りにされた蝦夷の娘の悲恋、みちのくを旅した中世の「黄門様」北条時頼…。伝説はどのように生まれ、どう受け継がれてきたか。民衆が生き抜くエネルギーとなった伝説が地域に発揮した力を解明する。
978-4-642-07982-2　（07.10）

田村すゞ子著
アイヌ語の世界　（新装普及版）
A５判　288頁　**3,850円**（3,500）

日本の言語の一つとして広く知られながら、具体的な内容はよく知られていないアイヌ語。その文法・系統・口承文学をわかりやすく解説。金田一京助らアイヌ語研究者の思い出も収める。不朽の名著を装い新たに復刊。
978-4-642-08530-4　（20.3）

関根達人著
モノから見たアイヌ文化史
第31回濱田青陵賞受賞
A５判　202頁　**2,090円**（1,900）

アイヌの刀はなぜ切れなくてもよいのか。彼らはどうして交易に貨幣を使わなかったのか―。平安時代の和鏡から軍服用の米国製金ボタンにいたる「モノ資料」を取り上げ、文字を持たなかったアイヌ文化の歴史に迫る。
978-4-642-08295-2　（16.6）

早川紀代編
植民地と戦争責任
（戦争・暴力と女性）
四六判　244頁　原色口絵2　**2,860円**（2,600）〈僅少〉

15年戦争期、植民地に暮らす女性たちの意識を、「慰安婦」問題と併せて明かす。原爆乙女や沖縄女性の戦後の生きざま、イラクに派遣された女性自衛官にもふれ、戦火が続く世界で女性は平和のため何ができるのか考える。
978-4-642-06273-2　（05.2）

直木孝次郎著
古代の日本
（直木孝次郎古代を語る）
四六判　280頁　口絵1丁　**2,860円**（2,600）〈僅少〉

日本の古代国家は、いつどのように誕生したか。激動する東アジア世界と倭国、飛鳥の都から平安京に至る都城の変遷などを通して、その形成過程を探る。歴史研究に携わり70年、著者が描いてきた古代史の全貌を示す。
978-4-642-07882-5　（08.10）

古代史

政治の動きを軸に、最新の研究成果とあらたな史料を盛り込み、歴史の流れを描く本格的通史

日本古代の歴史　全6巻

全巻セット＝18,480円（16,800）

木下正史著
①倭国のなりたち
四六判　304頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

倭国はどのように成立したのか。旧石器時代より飛鳥・藤原京にいたる列島の歴史と文化を、考古学・文献史学・人類学の最新成果で読み解く。東アジアとの交流を通じ、個性豊かな文化が育まれた日本のはじまりを描く。
978-4-642-06467-5　（13.7）

篠川　賢著
②飛鳥と古代国家
四六判　286頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

飛鳥に都がおかれた6、7世紀の日本はいかなる時代だったのか。継体・欽明朝から蘇我氏の台頭、乙巳の変、壬申の乱をへて藤原京の時代まで、激動する東アジア情勢の中で古代国家と飛鳥・白鳳文化が形成された実像に迫る。
978-4-642-06468-2　（13.9）

西宮秀紀著
③奈良の都と天平文化
四六判　312頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

律令制により国家体制を整備・強化した古代「日本」。正倉院宝物に代表される国際色豊かな文化が花開く寧楽の都。天変地異や疫病、政情不安と内乱、唐・新羅・渤海との外交課題や行財政改革と直面する8世紀を描く。
978-4-642-06469-9　（13.11）

佐々木恵介著
④平安京の時代
四六判　288頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

桓武王権の成立に始まる平安時代。蝦夷との戦いと国土の策定、律令制の再編、摂政・関白の登場など、社会秩序は大きく変動した。都と鄙の生活、遣唐使停止、国風文化の発生にも迫り、成熟・変質した9世紀日本を描く。
978-4-642-06470-5　（14.1）

坂上康俊著
⑤摂関政治と地方社会
四六判　254頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

応天門の変や菅原道真左遷で、藤原氏は他氏を排斥し権力を掌握する。摂政・関白による政策決定、受領による地方支配、浄土教信仰の浸透…。この時代の政治・経済・社会を、東アジアとの交流など、新視点を交えて描く。
978-4-642-06471-2　（15.12）

佐藤　信著
⑥列島の古代
四六判　272頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

日本列島の古代史像は、大きく変わりつつある。遺跡の発掘調査、出土文字資料の研究成果などから明らかになった地方・庶民の姿や各地域間の交流に注目し、中国・朝鮮半島との関係もふまえて、多元的な歴史像を描く。
978-4-642-06472-9　（19.3）

東北のルーツを見つめ直し、新たな“北”の歴史像を描く二大シリーズ古代編！

東北の古代史　全5巻

全巻セット＝13,200円（12,000）

阿子島　香編
①北の原始時代
四六判　266頁　原色口絵4
2,640円（2,400）

原始時代の「東北」で、人びとはいかに生活を営んだのか。多くの出土品から、旧石器の利器と技法、細石刃文化、縄文の土器と集落、亀ヶ岡文化などに迫る。東アジアの中で独自の発展を遂げた、東北文化の夜明けを描く。
978-4-642-06487-3　(15.8)

藤沢　敦編
②倭国の形成と東北
四六判　244頁　原色口絵4
2,640円（2,400）

列島に稲作農耕が波及し、やがて「倭」としてまとまりつつあった時代、東北では古墳文化と続縄文文化という異なる文化が対峙した。全国の動きと関連しながら特徴的な歩みをみせた東北を描き、日本史のなかに位置づける。
978-4-642-06488-0　(15.10)

熊谷公男編
③蝦夷と城柵の時代
四六判　284頁　原色口絵4
2,640円（2,400）

古代国家は蝦夷の地へ進出し、淳足柵や多賀城などの城柵を築く。そこにうまれた交流と軋轢は、東北にいかなる歴史的変化をもたらしたのか。古代国家の蝦夷支配の変遷や蝦夷の生活文化に迫り、古代東北の転換点を描く。
978-4-642-06489-7　(15.12)

鈴木拓也編
④三十八年戦争と蝦夷政策の転換
四六判　296頁　原色口絵4
2,640円（2,400）

奈良時代の末、東北は本格的な征夷の時代に突入する。38年におよぶ戦争は、北上盆地を制圧して終結し、蝦夷と国家との関係は新たな段階を迎える。交流・災害・信仰にも注目し、アテルイとその後の東北を描く。
978-4-642-06490-3　(16.6)

樋口知志編
⑤前九年・後三年合戦と兵の時代
四六判　294頁　原色口絵4
2,640円（2,400）

10世紀以降、中央政府による城柵を拠点とした支配が崩れ、安倍・清原氏ら在地豪族が台頭する。現地の紛争に端を発した前九年・後三年合戦は、清和源氏を交えた全面戦争へ発展。平泉政権の誕生前夜、激動の東北を描く。
978-4-642-06491-0　(16.4)

生産力・経済力・軍事力…。東国の繁栄と独自性の源はここにあった！

古代の東国　全3巻

全巻セット＝9,240円（8,400）

若狭　徹著
①前方後円墳と東国社会　―古墳時代―
四六判　300頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

なぜ関東各地に多くの前方後円墳が造られ、独自の文化が生まれたのか。古墳の立地・形態・規模・出土品などから、当時の社会のあり方や変化、朝鮮半島との交流、豪族たちの実像を読み解き、東国古墳社会の実態に迫る。
978-4-642-06818-5　(17.1)

川尻秋生著
②坂東の成立　―飛鳥・奈良時代―
四六判　304頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

卓越した軍事力を誇った坂東は、ヤマト王権から特殊な位置づけを与えられ、征夷や防人の拠点となった。飛鳥・奈良時代の東国を、古代人の信仰や交通・交流、東北との関係から多面的に蘇らせ、新しい地域像を提示する。
978-4-642-06819-2　(17.2)

荒井秀規著
③覚醒する〈関東〉　―平安時代―
四六判　332頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

平安時代、東国の律令社会はどのように変化したのか。「兵」誕生と勢力拡大の背景を、事件・災害・土地開発・信仰・他地域との交流などから探る。〈関東〉としての自立に目覚め、古代社会の終焉に向かうさまを描く。
978-4-642-06820-8　(17.6)

文字は何を語るのか？ 今に生きつづける列島の古代文化

新しい古代史へ 全3巻

全巻セット＝8,250円(7,500)

平川 南 著

①地域に生きる人びと —甲斐国と古代国家—

A５判 248頁
2,750円(2,500)

地域社会の支配拠点であった国府、税の徴収などの地方行政、氏族と渡来人の活動の実態—。古代の国家と地域の社会はいかなる関係にあったのか。甲斐国を舞台に全国各地の事例も含め、地域から古代を考える新しい試み。
978-4-642-06842-0 (19.5)

平川 南 著

②文字文化のひろがり —東国・甲斐からよむ—

A５判 264頁
2,750円(2,500)

木簡、漆紙文書、墨書・刻書土器や碑文のさまざまな文字。戸籍などの公文書にみる文字の権威や、現代にも残る祈り・まじないの原像、仮名成立を解く新たな発見など、地中から甦った文字資料が豊かな古代社会を語る。
978-4-642-06843-7 (19.10)

平川 南 著

③交通・情報となりわい —甲斐がつないだ道と馬—

A５判 222頁
2,750円(2,500)

列島各地に網羅された水陸の道。要所に置かれた駅や津は、人びとや物資が行き交う交通の拠点であった。物資運搬や軍事に重要な役割を果たした馬や自然環境と生業を通して、多民族・多文化共生の豊かな古代社会を描く。
978-4-642-06844-4 (20.2)

平野邦雄・鈴木靖民編

木簡が語る古代史 全2冊

小さな木片に墨書きされた木簡は、1961年平城宮跡で発見されて以来、各地から続々と発掘され、日本の古代史を書き替えている。

全2冊セット＝8,360円(7,600)

(上)都の変遷と暮らし

A５判 256頁 原色口絵4
4,070円(3,700)〈僅少〉

木簡の歴史的意味を問い、飛鳥京から長岡京に至る宮都の出土木簡を中心に、その構造や変遷を解明する。また、長屋王家木簡などから貴族や官人の生活の具体相を通して、新しい古代史像を提示する。
978-4-642-07492-6 (96.9)

(下)国家の支配としくみ

A５判 260頁 原色口絵4
4,290円(3,900)〈僅少〉

地中から掘り出された木片に記された文字が示す古代国家の成り立ちとしくみ。全国から税として集められるさまざまな特産品。民衆に課せられた過酷な税や労役の実態。木簡から古代国家の地域支配のありかたを読み解く。
978-4-642-07493-3 (01.2)

藤尾慎一郎・松木武彦編

ここが変わる！ 日本の考古学

—先史・古代史研究の最前線—

A５判 206頁 原色口絵4 **2,200円**(2,000)

近年の考古学の研究成果を受けて、日本の古代史像が大きく変化してきている。旧石器・縄文・弥生・古墳・古代、各時代の最新のイメージと分析手法の進展を、第一線で活躍する考古学・古代史研究者が平易に解説する。
978-4-642-08342-3 (19.3)

国立歴史民俗博物館・藤尾慎一郎編

再考！ 縄文と弥生

—日本先史文化の再構築—

A５判 224頁 **2,640円**(2,400)

炭素14年代測定法により、日本列島の先史文化の見方が大きく変わった。沖縄や朝鮮半島との関係、英国のベイズ編年モデル、旧石器文化と古墳文化などを取り上げ、縄文・弥生文化を再考。新たな学問の地平を切り開く。
978-4-642-08349-2 (19.3)

山田康弘・設楽博己編

Q＆Aで読む縄文時代入門

A５判 264頁 **2,750円**(2,500)

土器を使用し、定住生活を行い、狩猟・採集・漁労・栽培を営みながら、約13000年続いた縄文時代。最新の研究成果から見えてきた時代像を、54の問いにわかりやすく答えて明らかにする。図表豊富でコラムも充実。
978-4-642-08449-9 (24.5)

価格は10％税込、(　)内は本体価格

寺前直人・設楽博己編
Q＆Aで読む弥生時代入門
A５判　288頁　**2,750円**（2,500）

水田稲作の開始、金属器の普及、身分と序列の成立など、様々な変化を経て約1000年続いた弥生時代。考古学のみならず自然科学や人類学の成果が反映された最新の時代像を、55の問いに答えて解明。図表やコラムも充実。
978-4-642-08452-9　（24.7）

清家　章著
卑弥呼と女性首長 （新装版）
四六判　256頁　**2,420円**（2,200）

邪馬台国の女王卑弥呼と後継の台与。なぜこの時期に女王が集中したのか。考古学・女性史・文献史・人類学を駆使し、弥生～古墳時代の女性の役割と地位を解明。卑弥呼が擁立された背景と要因に迫った名著を新装復刊。
978-4-642-08382-9　（20.3）

細井浩志著
日本史を学ぶための〈古代の暦〉入門
A５判　264頁　**3,190円**（2,900）

日本史を理解する上で、暦の知識は欠かせない。その誕生や太陽暦・太陰暦などの基本事項、中国から導入・運用された暦の歴史を詳述。また、日食などの天体現象や二十四節気など、図版やコラムを交え解説した入門書。
978-4-642-08255-6　（14.7）

平林章仁著
神々と肉食の古代史
四六判　260頁　**3,080円**（2,800）〈僅少〉

古来、日本人は肉食を忌み避けたとされている。だが、神話の神々は生贄を食べ、墓にも肉が供えられていた。信仰を中心に肉食の実態を解明し、のちに禁忌となる過程を考察。祭儀と肉の関係から、古代文化の実像に迫る。
978-4-642-07977-8　（07.6）

笹山晴生著
古代をあゆむ
四六判　208頁　**2,750円**（2,500）

古代史を見る目はいかに培われるのか。飛鳥の歴史と文化、畿内王権の意義、鞠智城と西海道、景行天皇の九州巡幸説話などを平易に叙述。古代史を学ぶための基礎知識や史料読解の修練方法、先学の生涯にも触れる。
978-4-642-08276-1　（15.7）

和田　萃著
古代天皇への旅 ―雄略から推古まで―
四六判　304頁　原色口絵4　**3,080円**（2,800）

ワカタケル＝雄略から推古まで、古代天皇の姿を追いながら描く大和飛鳥。『万葉集』や記紀を読み解き、現在に伝わる景観や地名に古代の名残を訪ねる。発掘成果や歴史エピソードも織り混ぜ、日本の源流に想いを馳せる。
978-4-642-08099-6　（14.1）

大橋信弥著
継体天皇と即位の謎 （新装版）
四六判　232頁　**2,640円**（2,400）

継体天皇は応神天皇五世孫なのか、王統とはつながらない地方豪族だったのか。出自をめぐる問題、擁立勢力と即位の事情などを、今城塚古墳の発掘成果や息長氏との関わりを交え解明。謎に包まれた実像を探った名著を復刊。
978-4-642-08379-9　（20.3）

平野邦雄著
帰化人と古代国家 （新装版）
四六判　328頁　原色口絵4　**2,530円**（2,300）

日本の古代国家・文化の形成に多大な役割を果たした帰化人。彼らは数世紀にわたり新しい大陸文化を伝え、国家組織を革新していった。アジアの中の日本の古代を視点に、4世紀末の渡来から我々の祖先となるまでを描く。
978-4-642-08335-5　（18.5）

小笠原好彦著
古代豪族葛城氏と大古墳
四六判　208頁　**2,420円**（2,200）〈僅少〉

奈良盆地南西部に葛城氏の大型古墳が集中して造られたのはなぜか。考古学による研究成果と『古事記』『日本書紀』の首長系譜を対比し、葛城氏の被葬者をすべて想定。畿内の最有力豪族の政治力、経済力、軍事力を解明する。
978-4-642-08323-2　（17.9）

小笠原好彦著
検証 奈良の古代遺跡
―古墳・王宮の謎をさぐる―
A５判　222頁　**2,420円**（2,200）

古代には大和と呼ばれ、政治や文化の中心地だった奈良。葛城や飛鳥の古墳、王宮跡など30遺跡を新説とともに紹介。考古学の研究成果に「記紀」『万葉集』などの記述をふまえ、背後に展開した新たな古代世界を描く。
978-4-642-08356-0　（19.8）

小笠原好彦著
検証 奈良の古代仏教遺跡
—飛鳥・白鳳寺院の造営と氏族—
A５判　216頁　**2,420円**（2,200）

古代に都が営まれ、東アジアの文化や情報の受容拠点であった奈良。飛鳥・白鳳期の25寺院跡などを、考古学の発掘成果と『日本書紀』などをふまえて紹介。寺院跡の所在地と瓦類から、有力氏族相互の実態に言及する。
978-4-642-08390-4　（20.11）

小笠原好彦著
平城京の役人たちと暮らし
四六判　232頁　**2,530円**（2,300）

一〇数万に及ぶ人びとが暮らした平城京。役人を養成する大学や後宮に勤める女性官人、勤務評価や休暇の実態はいかなるものだったのか。税金や流通、治安、祭祀、疫病流行などから、都の日常をいきいきと再現する。
978-4-642-08442-0　（23.12）

黒崎　直著
水洗トイレは古代にもあった（新装版）
—トイレ考古学入門—
A５判　264頁　原色口絵4　**2,090円**（1,900）

古来、人々はどうウンチを処理していたのか。発掘成果と文献・絵画をもとに、縄文から戦国まで各時代のトイレ事情を解明。なおざりにされてきた日本の排泄の歴史を科学する「トイレの考古学」。注目作を新装復刊！
978-4-642-08380-5　（20.3）

八木　充著
研究史 飛鳥藤原京
四六判　306頁　**3,190円**（2,900）〈僅少〉

古代史の主舞台・飛鳥藤原京は、どのような宮都だったのであろうか。近年考古学の発掘調査による知見は従来の宮都像を一新しつつある。本書は、古代から近現代の宮都研究の軌跡をたどり、克明に論点を整理した力編。
978-4-642-07128-4　（96.11）

豊島直博・木下正史編
ここまでわかった飛鳥・藤原京
—倭国から日本へ—
四六判　256頁　**2,640円**（2,400）

古代史の舞台を解明する発掘が続けられている飛鳥・藤原の地。王宮・王都、都市陵墓、寺院、木簡、古代朝鮮の都城など、さまざまなテーマを論じた日本考古学協会シンポジウムの記録。これからの課題を整理・展望する。
978-4-642-08298-3　（16.8）

相原嘉之著
飛鳥・藤原の宮都を語る
—「日本国」誕生の軌跡—
A５判　206頁　原色口絵4　**2,090円**（1,900）

飛鳥・藤原の地は、6世紀末から8世紀初めにかけてわが国の中心として栄えた。推古朝の豊浦宮などの発掘、高松塚古墳壁画の救出、新発見を語るコラムなどを掲載。長年にわたる発掘成果から「日本国」誕生の過程を探る。
978-4-642-08338-6　（18.9）

佐藤　信・溝口孝司編
世界遺産 宗像・沖ノ島
—みえてきた「神宿る島」の実像—
四六判　272頁　原色口絵4　**2,640円**（2,400）

航海安全を願い、東アジアの交流を物語る品々が奉献された宗像・沖ノ島。その古代祭祀遺跡は他に例をみない。航海・交流を切り口に、多様な地域間交流が生み出した祭祀・信仰を読み解き、「神宿る島」の魅力に迫る。
978-4-642-08444-4　（24.2）

山本忠尚著
正倉院宝物を10倍楽しむ
A５判　320頁　**2,970円**（2,700）

1300年の時を超えて守られてきた正倉院宝物。メッキや代用の技法、天馬や麒麟（麒麟）といった架空動物の意匠、象牙や翡翠（翡翠）などの素材から、多彩な美術工芸を解説。天平文化の造形の粋をあつめた豊穣な世界へといざなう。
978-4-642-08418-5　（22.11）

元興寺・元興寺文化財研究所編
日本仏教はじまりの寺 元興寺
—一三〇〇年の歴史を語る—
A５判　246頁　**2,420円**（2,200）

蘇我馬子が創建した法興寺（飛鳥寺）が、平城遷都にともない奈良に移転し、元興寺と称してから1300年。古代官寺から中世的都市寺院を経て今日にいたるその歴史と文化財をわかりやすく解説。コラムも多数収録する。
978-4-642-08388-1　（20.11）

元興寺・元興寺文化財研究所編
図説 元興寺の歴史と文化財
—一三〇〇年の法灯と信仰—
B５判　208頁　**2,860円**（2,600）

法興寺（飛鳥寺）を前身として平城京に移建されて以来、1300年の法灯を伝える元興寺。ゆかりの文化財を豊富な写真で収載。国家的大寺院から中世以来の都市寺院へと、「二つの顔」をもつ歴史をビジュアルに紹介する。
978-4-642-08389-8　（20.11）

価格は10％税込、（　）内は本体価格

寺崎保広 著
若い人に語る奈良時代の歴史
第２回古代歴史文化賞準大賞受賞
四六判　266頁　原色口絵4　**3,080円**（2,800）

歴史の楽しさを若い人たちに味わってもらうべく、奈良時代史を９つのエピソードに分けて語ったユニークな歴史講義。歴史教科書とは一味違う古代史を再現する。時代の雰囲気が体感でき、新しい奈良時代が見えてくる。
978-4-642-08096-5　（13.10）

条里制・古代都市研究会編
古代の都市と条里
Ａ５判　352頁　**3,080円**（2,800）〈僅少〉

全国で国庁・郡家と呼ばれる古代の役所跡や水田遺構が発掘され、律令制下の都市づくりや土地政策の実態が明らかにされつつある。古代都城や地方都市、五畿七道の各地に光を当て、最新の研究成果をわかりやすく解説。
978-4-642-08268-6　（15.4）

金田章裕 著
古代国家の土地計画
―条里プランを読み解く―
四六判　264頁　**3,080円**（2,800）〈僅少〉

方格状の都市計画と「条里」と呼ばれる農地管理を特徴とする古代の土地制度。一町四方の地割と位置を示す条里呼称を合わせた「条里プラン」の成立と展開・改変過程を探り、壮大な古代の土地プランの実態に迫る。
978-4-642-08328-7　（18.1）

木下　良監・武部健一著
完全踏査 古代の道〈新装版〉
―畿内・東海道・東山道・北陸道―
四六判　268頁　**2,640円**（2,400）

都から本州と四国・九州に達する壮大なネットワークであった古代の道。道路技術者の著者が、高速道路ルートとの類似性に注目し、全駅路を走破。その変遷や駅家（うまや）の位置など、古代道路の全貌を解明した名著を新装復刊。
978-4-642-08440-6　（23.11）

木下　良監・武部健一著
完全踏査 続 古代の道〈新装版〉
―山陰道・山陽道・南海道・西海道―
四六判　304頁　**2,640円**（2,400）

道幅 12 メートル、全長 6300 キロに及ぶ古代官道〈七道駅路〉。全国約 400 の駅家（うまや）は、迅速に都との交通や通信の連絡に当たった。前著に続き、西国四道を走破。古代道路全線の駅路と駅家を網羅した完結編を新装復刊。
978-4-642-08441-3　（23.11）

土生田純之・高崎市編
多胡碑が語る 古代日本と渡来人
四六判　304頁　原色口絵4　**3,080円**（2,800）〈僅少〉

「昔を語る多胡の古碑」と上毛かるたに詠われる多胡碑。その歴史的背景を探り、律令時代前史の渡来人や東国古墳の実態を追究。最新の考古学成果を取り上げ、古代上毛野地域特有の文化に迫る。便利な現地遺跡ガイド付。
978-4-642-08071-2　（12.2）

虎尾俊哉 著
古代東北と律令法
四六判　262頁　**2,750円**（2,500）〈僅少〉

古代東北地方は辺境の地とされたが、そこには都人とは別の論理に生きるエミシの国があった。律令国家の成立によって、都の論理、律令法に呑み込まれていった奥羽の人々の姿を、古代法制史研究の第一人者が平易に描く。
978-4-642-07464-3　（95.6）

梶川敏夫 著
ビジュアル再現 平安京
―地中に息づく都の栄華―
Ａ５判　344頁　**3,300円**（3,000）

京都市内の地下には平安京の遺跡が数多く眠っている。発掘調査の成果をもとに、都の全体像や内裏、貴族の邸宅、寺院などを豊富なカラー図版を交えて復元。著者自ら描く臨場感あふれるイラストが平安の都へと誘う。
978-4-642-08457-4　（24.9）

宇治市源氏物語ミュージアム編
光源氏に迫る　―源氏物語の歴史と文化―
Ａ５判　208頁　**2,420円**（2,200）

時を越え、世界中で読まれ続ける『源氏物語』。主人公・光源氏をキーワードに、歴史・文学・美術など多様な切り口からアプローチ。その生涯や恋愛模様のほか、紫式部の生きた時代に迫り、物語の舞台になった平安王朝へ誘う。
978-4-642-08399-7　（21.7）

繁田信一 著
平安貴族と陰陽師
―安倍晴明の歴史民俗学―
四六判　218頁　**2,530円**（2,300）

目に見えない霊物が、貴族の日常を脅かす。彼らは陰陽師に何を求めたか。生活文化の中の陰陽師という視点で平安時代を再考。陰陽道と生活の関係が浮き彫りにする、日本独自の文化＝国風文化のもう一つの姿。
978-4-642-07942-6　（05.6）

繁田信一 著
孫の孫が語る藤原道長
—百年後から見た王朝時代—
四六判　288頁　**2,750円**（2,500）

必ず北向きで手を洗い、鼻は真っ赤—。平安朝で栄華を極めた藤原道長の知られざる姿は、孫の孫にあたる藤原忠実の談話集により今に伝わった。道長の家族や周囲の人々のふるまいにも触れ、百年後から見た王朝時代に迫る。
978-4-642-08424-6　（23.1）

京樂真帆子 著
牛車で行こう！
—平安貴族と乗り物文化—
A５判　176頁　**2,090円**（1,900）

平安貴族が用いた牛車とは、どんな乗り物だったのか。乗り降りの作法、車種の違い、動力＝牛の性能、乗車マナーなど、失われた日常生活を豊富な図版とともに生き生きと再現。牛車を余すところなく語った注目の書。
978-4-642-08318-8　（17.7）

倉本一宏・加藤友康・小倉慈司編
『小右記』と王朝時代
A５判　240頁　**4,180円**（3,800）

摂関期の右大臣藤原実資の日記で、政務・儀式を子細に記した『小右記』。その成立と後世の来歴、実資の事績と人間関係を探り、政務運営や貴族の交際など社会の諸側面を考察。『小右記』と実資の新たな評価を見いだす。
978-4-642-04674-9　（23.5）

服部敏良 著
王朝貴族の病状診断　（新装版）
四六判　272頁　**2,090円**（1,900）

平安時代の文学・日記に記されている病気を詳細に解説。さらに、冷泉・花山・三条などの天皇、藤原道長・実資など多くの公卿の病状を現代医学にあてはめて的確に診断する。王朝貴族の実生活を解明した比類なき名著。
978-4-642-08373-7　（20.1）

樋口知志監修・浅利英克・島田祐悦著
安倍・清原氏の巨大城柵
—鳥海柵跡・大鳥井山遺跡—
A５判　302頁　**2,640円**（2,400）

奥州藤原氏登場以前、奥羽北部の支配を担った安倍・清原両氏。その居館である鳥海柵跡・大鳥井山遺跡など、巨大城柵の全体像を考古学的成果から解明。在地豪族である両氏の台頭を描き、東北の古代から中世への転換期に迫る。
978-4-642-08420-8　（22.10）

野口　実 著
伝説の将軍 藤原秀郷　（新装版）
四六判　200頁　原色口絵2　**2,530円**（2,300）

「俵藤太のむかで退治」で有名な藤原秀郷。後世の英雄伝説はなぜ生まれたのか。将門の乱を中心に足跡を辿り、秀郷流藤原氏や武芸故実から説話の背景を探る。今なお人々の心を捉える秀郷の実像に迫る好著を新装復刊。
978-4-642-08346-1　（19.1）

栃木孝惟 著
源頼政と『平家物語』
—埋もれ木の花咲かず—
A５判　264頁　**3,850円**（3,500）

我が身を「埋もれ木」と嘆じた武将は、老いの身に発した一念によって、武士政権の誕生に重要な役割を果たした。歴史と文学の世界における頼政を焦点に、歴史の中で物語を考え、物語を通して歴史を考える新たな試み。
978-4-642-08637-0　（23.2）

佐藤　信監修・新古代史の会編
テーマで学ぶ日本古代史　政治・外交編
A５判　232頁　**2,090円**（1,900）

日本古代史を学ぼうとする人に研究の魅力を伝える概説書。古代王権、律令、天皇制や貴族、遣唐使など政治や外交に関わる主要テーマを研究の蓄積や最新の成果にふれつつ平易に解説。項目別で授業のテキストにも最適。
978-4-642-08384-3　（20.6）

佐藤　信監修・新古代史の会編
テーマで学ぶ日本古代史　社会・史料編
A５判　270頁　**2,090円**（1,900）

日本古代史を学ぼうとする人に研究の魅力を伝える概説書。戸籍や土地制度、宗教や文化、「記紀」などの史料のほか、交通史や災害史、女性史について、現時点の研究の蓄積や到達点を平易に解説。授業のテキストにも最適。
978-4-642-08385-0　（20.6）

新古代史の会編
人物で学ぶ日本古代史　1
—古墳・飛鳥時代編—
A５判　276頁　**2,090円**（1,900）

人物を通して古代史を読みとくシリーズ第１弾。卑弥呼、ヤマトタケル、聖徳太子らおなじみの人物から、教科書にも出てこないようなマイナーな人物まで、気鋭の研究者がわかりやすく解説。謎めいた古代人の魅力に迫る！
978-4-642-06874-1　（22.8）

価格は 10％税込、（　）内は本体価格

新古代史の会編
人物で学ぶ日本古代史　2
―奈良時代編―
A５判　288頁　**2,090円**（1,900）

天平文化が華開きながらも政争が続いた奈良時代、人びとはどう生きたのか。聖武天皇、藤原仲麻呂などの有名人物や、地方豪族、女官、下級官人などのマイナーな人物の魅力を解説。当時の社会を生き生きと描き出す。
978-4-642-06875-8　（22.10）

新古代史の会編
人物で学ぶ日本古代史　3
―平安時代編―
A５判　280頁　**2,090円**（1,900）

華やかな宮廷文化が生まれた一方、飢饉や地方の争乱が相次いだ平安時代。桓武天皇、藤原道長、平将門をはじめ、悪徳受領藤原元命、蝦夷阿弖流為など、有名・無名の人物を再評価。平安時代の新たな魅力に気づける一冊。
978-4-642-06876-5　（22.12）

中世史

【企画編集委員】木村茂光・池　　享

日本中世の歴史　全７巻

全巻セット＝ 20,020円（18,200）

木村茂光著
①中世社会の成り立ち
四六判　288頁　原色口絵4
2,860円（2,600）

日本の中世とはいかなる広がりを持っていたのか。武士・百姓・女性・宗教・都市などのテーマから中世の時代像をとらえる。列島南北・東アジア世界をも視野に入れ、わかりやすく中世社会全体を見通すシリーズ総論巻。
978-4-642-06401-9　（09.5）

福島正樹著
②院政と武士の登場
四六判　280頁　原色口絵4
2,860円（2,600）

院政という新しい政治形態と、武士の登場は歴史に何をもたらしたのか。白河上皇の院政開始から武士が台頭する保元・平治の乱までの政治の流れを描き出し、古代から中世へと転換していく社会の姿を浮き彫りにする。
978-4-642-06402-6　（09.7）

川合　康著
③源平の内乱と公武政権
四六判　336頁　原色口絵4
2,860円（2,600）

平氏権力や鎌倉幕府は朝廷に代わる政権を樹立したのか。後白河院政期から執権政治の展開まで、朝廷・武門の両者の視点で協調と対立を描き出す。武家の自立を変革の時代のなかに位置づけ、新しい歴史像を提示する。
978-4-642-06403-3　（09.11）

小林一岳著
④元寇と南北朝の動乱
四六判　280頁　原色口絵4
2,860円（2,600）

日本を世界史の渦へと巻き込んだモンゴルの襲来。飢饉・疫病と跋扈する悪党、滅びゆく鎌倉幕府。後醍醐天皇による新政と崩壊、南北朝の王統対立を経て室町幕府の成立へ、〈移りゆく王権〉を動乱の時代のなかに描き出す。
978-4-642-06404-0　（09.9）

山田邦明著
⑤室町の平和
四六判　312頁　原色口絵4
2,860円（2,600）

室町幕府の政治とはどのようなものだったか。足利義詮から義満、義教へ至る権力をめぐる駆け引きを明らかにする。大きな戦乱に見舞われることのなかった時代を、東アジアの動向を背景に、地域社会と民衆の活気を交えて描く。
978-4-642-06405-7　（09.10）

池　　享著
⑥戦国大名と一揆
四六判　266頁　原色口絵4
2,860円（2,600）

応仁の乱を契機に幕府の支配は崩壊する。一方、地域では独自の秩序がつくられ〝一揆〟は戦国大名へと結実していく。中央の政治動向から地方大名の興亡まで、列島全体を巻き込んだ戦国争乱の意味を、幅広い視点で問う。
978-4-642-06406-4　（09.8）

堀　　新 著
⑦天下統一から鎖国へ
四六判　240頁　原色口絵4
2,860円（2,600）

「天下布武」を掲げ、新時代を開いた信長と天下人秀吉。江戸幕府を築いた家康。その権力の仕組みを、天皇や朝廷との関係、検地や刀狩、朝鮮侵略、宗教・都市政策から解き明かす。中世の終焉を鎖国完成期とする新たな試み。
978-4-642-06407-1　（10.1）

東北のルーツを見つめ直し、新たな“北”の歴史像を描く二大シリーズ中世編！

東北の中世史　全5巻

全巻セット＝ 13,200円（12,000）

柳原敏昭 編
①平泉の光芒
四六判　282頁　原色口絵4
2,640円（2,400）

世界遺産平泉。みちのくに一大都市はなぜ生まれたのか。中尊寺、毛越寺に代表される仏教文化が栄えた原動力は。清衡の草創、基衡の苦悩、秀衡の革新、そして滅亡へ、中世東北の扉を開けた平泉藤原氏の実像に迫る。
978-4-642-06492-7　（15.7）

七海雅人 編
②鎌倉幕府と東北
四六判　256頁　原色口絵4
2,640円（2,400）

奥州合戦をへて東北は鎌倉幕府の支配に帰す。ただし在来の勢力もまた幕府権力の中へ根を張っていく。政権内の政争を反映した所領の展開、交通や人々の生活の様相など、幕府の盛衰と軌を一にした鎌倉時代の東北を描く。
978-4-642-06493-4　（15.9）

白根靖大 編
③室町幕府と東北の国人
四六判　270頁　原色口絵4
2,640円（2,400）

南北朝の争いから室町幕府と鎌倉府の対立へと至る政情不安。東北でも、北畠顕家や奥州管領、篠川公方などの諸勢力が相争った。そうした不安定な時代を生き抜いた地元の国人たちと、東北社会の実態を多面的に描き出す。
978-4-642-06494-1　（15.11）

遠藤ゆり子 編
④伊達氏と戦国争乱
四六判　312頁　原色口絵4
2,640円（2,400）

戦国期の東北は一時の停戦・和睦を除き、常に戦争が繰り広げられていた。伊達氏の登場から奥羽仕置まで、陸奥・出羽の大名・領主らの動向と各地の争乱を描き、その居城や領地、民衆の生活まで東北の戦国社会が甦る。
978-4-642-06495-8　（16.1）

高橋　充 編
⑤東北近世の胎動
四六判　260頁　原色口絵4
2,640円（2,400）

豊臣政権による東北大名処分である「奥羽仕置」以降、近世へと至る時代の潮流に、東北の地域社会はいかに向き合ったのか。伊達政宗と蒲生氏郷の拮抗、“北の関ヶ原”長谷堂合戦など、激動する東北の転換期を描き出す。
978-4-642-06496-5　（16.3）

東国を舞台に活躍した中世武士団とその時代を描く

動乱の東国史　全7巻

全巻セット＝ 21,560円（19,600）

鈴木哲雄 著
①平将門と東国武士団
四六判　336頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

東国国家樹立を目指した平将門の乱は何をもたらしたのか。将門追討で功をなした人々の系譜を辿り、保元・平治の乱にいたる東国武士団の動勢に迫る。坂東の水上交通や自然環境にも注目し、中世成立期の東国を描く。
978-4-642-06440-8　（12.9）

高橋一樹 著
②東国武士団と鎌倉幕府
四六判　304頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

頼朝挙兵によって風雲急を告げる12世紀後半の東国。京都の政治権力と結びつく東国武士たちのネットワークは、鎌倉幕府成立後にいかに変容したのか。都市鎌倉をめぐる交通体系の展開を、内乱を通じて浮き彫りにする。
978-4-642-06441-5　（13.3）

価格は10％税込、（　）内は本体価格

湯浅治久著
③蒙古合戦と鎌倉幕府の滅亡
四六判　288頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

蒙古襲来をしのぎ、武士団の抗争を制して幕府権力を掌中におさめた北条氏は、なぜ滅亡への道を歩んだのか。流通の拡大、新仏教の展開、悪党の跳梁など、発展と荒廃の狭間にあった、変わりゆく東国社会から読み解く。
978-4-642-06442-2　（12.11）

櫻井　彦著
④南北朝内乱と東国
四六判　304頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

鎌倉幕府を打倒し新政推進をもくろむ後醍醐天皇。異なる立場から持明院統を擁立した足利尊氏。朝廷を二分した南北朝内乱を、人々はなぜ闘い、東国社会に何をもたらしたのか。地域の紛争を描き、『太平記』の時代に迫る。
978-4-642-06443-9　（12.12）

小国浩寿著
⑤鎌倉府と室町幕府
四六判　292頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

南北朝～室町期にかけて、関東を統轄した鎌倉府とは何だったのか。勢力範囲拡大の様相、鎌倉公方の幕府政治への対応と両者の対立、関東管領の動向などを描き出し、権力闘争の舞台、鎌倉府から室町期東国の実態に迫る。
978-4-642-06444-6　（13.12）

則竹雄一著
⑥古河公方と伊勢宗瑞（そうずい）
四六判　312頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

室町幕府の東国統治体制は、鎌倉公方の分裂で弱体化し、やがて伊勢宗瑞（北条早雲）の登場にいたる。享徳の乱以降、関東全域を巻き込んだ争乱の時代を、連歌師ら文化人の関東下向や東国村落にも触れつつ新視点で描く。
978-4-642-06445-3　（13.1）

池　享著
⑦東国の戦国争乱と織豊権力
四六判　318頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

小田原を拠点に勢力を伸ばした北条氏は、足利・上杉ら伝統勢力をいかに打ち破り、関東に「地域国家」を築いたのか。領国形成、対立を超越した平和秩序への動きから小田原落城まで、東国にとっての「天下統一」を問う。
978-4-642-06446-0　（12.10）

河内祥輔著
保元の乱・平治の乱
四六判　236頁　**2,750円**（2,500）

世を震撼させた保元・平治の２つの事件には、不可解な疑問がいくつも残されている。『兵範記』『愚管抄』などをもとに、乱の経過を克明にたどり、複雑に絡み合う人間模様を活写。事件の真相に迫り、時代情勢を解き明かす。
978-4-642-07787-3　（02.6）

目崎徳衛著
史伝 後鳥羽院 （新装版）
四六判　272頁　**2,860円**（2,600）

異例の幸運によって帝位につき、天衣無縫の活動をしながら、一転して絶海の孤島に生を閉じた後鳥羽院の生涯を描き出す。和歌の才能など多芸多能な側面にもふれ、その生き生きとした人間像に迫った名著を新装復刊。
978-4-642-08376-8　（20.1）

福田以久生著
武者の世 ―東と西―
四六判　246頁　**2,750円**（2,500）〈僅少〉

歴史上に現れた「武者の世」とは何か。本書は創立期の頼朝の時代から承久の乱の前後、鎌倉幕府の滅亡にいたる過程を、それぞれ関連する事件の内容、人物、挿話などを交え、史料を中心に解いた魅力あふれる好著。
978-4-642-07457-5　（95.2）

森　公章著
武者から武士へ
―兵乱が生んだ新社会集団―
四六判　328頁　**2,200円**（2,000）

武士はどのようにして誕生したのか。平将門の乱から源平合戦までの争乱を通じて、古代社会に登場した武者が、武士という新社会集団を形成し武家政権に発展させるまでを描く。武士誕生の歴史に一石を投じる注目の一冊。
978-4-642-08416-1　（22.8）

日本史史料研究会監修・細川重男編
鎌倉将軍・執権・連署列伝
A５判　272頁　**2,750円**（2,500）

鎌倉幕府政治の中心にあった将軍、そしてその補佐・後見役であった執権・連署、35人の人物そのものに焦点を絞り、それぞれの立場での行動や事績を解説する。巻末には詳細な経歴表を付し、履歴を具体的に示す。
978-4-642-08286-0　（15.11）

日本史史料研究会編
将軍・執権・連署
―鎌倉幕府権力を考える―
四六判　192頁　**2,200円**（2,000）

源頼朝が創始した鎌倉幕府のしくみは、どう理解すべきか。将軍が唯一の首長であるにもかかわらず、執権・連署を掌る北条氏が権力を握っていく。さまざまな切り口を示し、鎌倉将軍権力の実像を明らかにする道標となる書。
978-4-642-08331-7　（18.3）

日本史史料研究会監修・神野　潔・佐藤雄基編
御成敗式目ハンドブック
四六判　316頁　**2,420円**（2,200）

執権北条泰時らが編纂した鎌倉幕府の基本法典「御成敗式目」を分かりやすく解説した。制定過程や目的、研究史などから全体像をとらえ、51箇条より主要条文を読み解き、その全貌に迫る。巻末に現代語訳を付す。
978-4-642-08447-5　（24.3）

高橋慎一朗著
中世鎌倉のまちづくり
―災害・交通・境界―
四六判　228頁　**3,080円**（2,800）

山と谷が取り囲み、南に海が広がる鎌倉。寺社や遺跡、都市の「かたち」が中世の雰囲気を現在に伝える。多様な機能を持つ橋や禅宗寺院、武家屋敷から武士たちの暮らしを分析。人や物が絶え間なく行き交う都市鎌倉を探る。
978-4-642-08361-4　（19.11）

松尾剛次著
中世都市鎌倉の風景
四六判　232頁　原色口絵4　単色口絵4　**2,750円**（2,500）〈僅少〉

近年の発掘成果と絵図などから武家の首都・鎌倉の実像に迫る。将軍御所の移転と都市機能との関係、中世鶴岡八幡宮や四境を探り、鎌倉と新仏教の関わりや祇園会における町衆の姿なども考え、中世都市鎌倉を再現する。
978-4-642-07415-5　（93.12）

五味文彦著
増補 吾妻鏡の方法　（新装版）
―事実と神話にみる中世―
四六判　400頁　口絵2　**2,640円**（2,400）

東国に生まれた初の武士政権誕生と再生の歴史。鎌倉政権像が鮮やかに再現され、その時代がよみがえる。『吾妻鏡』編纂方法やその特徴、武家地鎌倉の形成を解き明かす論考2本を新たに収録。名著がさらに充実した決定版。
978-4-642-08339-3　（18.9）

菊地大樹著
吾妻鏡と鎌倉の仏教
四六判　248頁　**2,750円**（2,500）

幕府の本拠地鎌倉で、宗教はいかなる役割を担ったのか。『吾妻鏡』の仏教関係記事を読みなおし、源頼朝の信仰、栄西・日蓮ら僧の動向、永福寺はじめ大寺院の役割などを平易に解説。仏教からみた鎌倉時代像の扉を開く。
978-4-642-08428-4　（23.3）

五味文彦著
鎌倉時代論
四六判　448頁　**3,520円**（3,200）

鎌倉時代とは何だったのか。中世史研究を牽引してきた著者が、京と鎌倉、二つの王権から見た鎌倉時代の通史を平易に叙述。さらに、著者の貴重な初期の論文など6編も収める。『吾妻鏡の方法』に続く、待望の姉妹編。
978-4-642-08372-0　（20.3）

峰岸純夫・江田郁夫編
足利尊氏再発見
―一族をめぐる肖像・仏像・古文書―
四六判　232頁　原色口絵4　**2,420円**（2,200）〈僅少〉

室町幕府を開いた尊氏とその一族に、最新の研究成果で迫った決定版。肖像画の像主究明や運慶ら仏師との関係など、歴史と美術の双方からアプローチ。兄弟間の確執の真相や尊氏を支えた人々を探り、新たな尊氏像を描く。
978-4-642-08065-1　（11.10）

市村高男著
足利成氏の生涯　―鎌倉府から古河府へ―
四六判　320頁　**2,970円**（2,700）

初代古河公方となった足利成氏（しげうじ）。享徳の乱など戦ばかりの生涯というイメージを再考する。崩壊した公方家と鎌倉府の再建、下総古河に建てた新体制の実態を解明。自然環境や宗教・文化との関わりにも触れ新たな実像に迫る。
978-4-642-08419-2　（22.10）

価格は10％税込、（　）内は本体価格

磯貝富士男著

武家政権成立史 —気候変動と歴史学—

A５判　186頁　**3,520円**（3,200）〈僅少〉

日本国成立以来最大級の歴史的画期だった武家政権の成立はなぜ起きたのか。12世紀の気候の冷涼化による社会状況の変化を概観し、保元・平治の乱という政治史上の大事件を中心に追究。気候変動論から時代像を捉え直す。

978-4-642-02916-2　（13.10）

岡野友彦著

源氏長者 —武家政権の系譜—

四六判　220頁　**2,640円**（2,400）

武家政権の正当性には、「征夷大将軍」だけではなく「源氏長者」という地位が必要だった。源氏の誕生から、公家源氏と武家源氏の系譜、「源氏願望」の正体などを描き、源氏長者であることがいかに重要なのかを解き明かす。

978-4-642-08340-9　（18.10）

小林清治・大石直正編

中世奥羽の世界 （新装版）

四六判　298頁　**3,300円**（3,000）

郷土史の枠を越えて、地方から中央をみる視点から、奥羽の中世史像を描いた名著を復刊。中世奥羽を６テーマに分け、蝦夷の存在にも触れつつ論述する。陸奥・出羽両国の庄園・国守・地頭一覧や略年表などを附載する。

978-4-642-08408-6　（22.2）

関　幸彦著

奥羽武士団

A５判　224頁　**2,420円**（2,200）

陸奥・出羽の地で覇を競った武士たちの出自や活動、系譜などを解説した初の本格的通論。中世を画する治承・寿永の乱と南北朝の動乱による影響、地域領主としての役割や経営基盤となった所領にも触れ、その盛衰を描く。

978-4-642-08417-8　（22.9）

高橋秀樹著

三浦一族の研究

A５判　334頁　**4,180円**（3,800）

相模国随一の大豪族、三浦一族。桓武平氏出自説をはじめ、「三浦介」の成立事情、三浦義村や宝治合戦の実像などの諸問題を、「常識」にとらわれず追究。これまでとはまったく異なる新しい三浦一族のイメージを提示する。

978-4-642-02931-5　（16.6）

関　幸彦編

武蔵武士団

A５判　304頁　**2,750円**（2,500）

中世武士団の典型とされる武蔵武士を、『平家物語』『太平記』を素材に描く。東北や西国へ移住し足跡を残した彼らのその後にも迫り、古戦場や館・街道など、活躍した舞台を訪ねる。コラムでは注目の武蔵武士らを紹介する。

978-4-642-08103-0　（14.3）

関　幸彦編

相模武士団

A５判　328頁　**2,750円**（2,500）

武士の都「鎌倉」を有し、中世における権力の中枢だった相模国。その地域に根ざした武士団の興亡を、源平の争乱や南北朝の動乱に射程を据え描く。古戦場・街道など、武士団の活躍した舞台を訪ねて、その実像に迫る。

978-4-642-08322-5　（17.9）

東京大学史料編纂所編

描かれた倭寇 —「倭寇図巻」と「抗倭図巻」—

B５判　112頁　**2,750円**（2,500）

16世紀、主に中国沿岸部で略奪狼藉を行なった倭寇。有名な「倭寇図巻」に加え、中国で新発見された「抗倭図巻」を全ページカラーで本邦初公開。両図巻の関係性を探り、日中共同による倭寇図像研究の最先端へと誘う。

978-4-642-08253-2　（14.10）

伊川健二著

世界史のなかの天正遣欧使節

四六判　234頁　**3,080円**（2,800）

ヨーロッパで文化交流の記録を残して帰国した最初の日本人、天正遣欧使節。イエズス会による日本開教以来の遣欧計画や使節の旅程、彼らが残した知的遺産を読み解き、日欧双方に衝撃を与えた天正遣欧使節の全貌に迫る。

978-4-642-08325-6　（17.10）

荘園史研究会編

荘園史研究ハンドブック（増補新版）

A５判　314頁　**2,860円**（2,600）

古代から戦国期まで、多様な形態をもつ荘園。国の土地制度のなかに荘園を位置づけ、時代ごとの変遷と特徴に多様な側面から迫る。コラム、用語解説、荘園史の名著の紹介、デジタル資料の活用方法などを増補した入門書。

978-4-642-08453-6　（24.6）

永原慶二著
苧麻（ちょま）・絹・木綿の社会史
四六判　384頁　**3,520円**（3,200）

前近代の日本人の３大衣料原料であった苧麻・絹・木綿。その生産はどのように行われ、民衆の暮らしとどう関わったのか。３本の糸を手繰りながら、これまで見えなかった民衆の生活史・社会史像を織り出した畢生の書。
978-4-642-07934-1　（04.12）

永原慶二追悼文集刊行会編
永原慶二の歴史学
Ａ５判　400頁　口絵2　**6,600円**（6,000）〈僅少〉

戦後の歴史研究をリードした永原慶二。その教え子や同僚が、封建制・荘園制・戦国史などの研究と、人柄や知られざるエピソードを語る。年譜・著作目録も収録し、平和と人権の確立を求めた「永原史学」の足跡を振り返る。
978-4-642-07959-4　（06.7）

田辺久子著
関東公方足利氏四代
―基氏・氏満・満兼・持氏―
四六判　200頁　**2,310円**（2,100）

室町時代、２代将軍の弟に始まり、鎌倉府の主として東国を治めた関東公方足利氏。将軍の身辺でささやかれた関東謀反のうわさは、いつから真実となっていったのか。幕府に抵抗し続けた誇り高き一族の100年を見つめる。
978-4-642-07789-7　（02.9）

大隅和雄著
方丈記に人と栖（すみか）の無常を読む
四六判　304頁　原色口絵2　**3,300円**（3,000）

世を捨て山里に隠遁した鴨長明は、激動の時代にあって人生や社会の地獄を見た経験と、方丈という小さな建物に託した心の揺れ動きを『方丈記』に記した。諦めや慰めの中で日々を暮らす現代日本人の処世観の源流にせまる。
978-4-642-07925-9　（04.2）

新井孝重著
中世日本を生きる
―遍歴漂浪の人びと―
四六判　228頁　**2,640円**（2,400）

中世前期、耕地は不安定で農民も武士も土地に根を張れなかった。底辺に生きる非人や遍歴する芸能民。襲いかかる災害・飢饉・病など、厳しい環境のなかで人びとはどのように生き抜いたのか。中世の社会史を読み解く。
978-4-642-08351-5　（19.6）

海野　聡著
再生する延暦寺の建築
―信長焼き討ち後の伽藍復興―
Ａ５判　316頁　**3,850円**（3,500）

織田信長の焼き討ちで伽藍の大部分を失った比叡山延暦寺に関する研究は、焼失前に偏り、復興後は看過されてきた。全山の建造物を調査し、建築の継承や現在に至る伽藍形成を追究。天台宗寺院の建築的特質を解き明かす。
978-4-642-01668-1　（23.1）

水野章二著
災害と生きる中世
―旱魃・洪水・大風・害虫―
四六判　240頁　**2,750円**（2,500）

中世の人びとは、日常的に起こる災害にどのように立ち向かったのか。最新の科学的分析と古文書・古記録や文学作品から、自然の猛威が社会生活に与えた影響や人びとの対応を解明。災害への関心が高まる今、必読の書。
978-4-642-08392-8　（21.1）

日本史史料研究会監修・赤坂恒明著
「王」と呼ばれた皇族
―古代・中世皇統の末流―
四六判　286頁　**3,080円**（2,800）

日本の皇族の一員でありながら、これまで十分に知られることのなかった「王」。興世（おきよ）王、以仁（もちひと）王、忠成王など有名・無名のさまざまな「王」たちを、逸話も交えて紹介。皇族の周縁部から皇室制度史の全体像に初めて迫る。
978-4-642-08369-0　（20.1）

佐多芳彦著
武士の衣服から歴史を読む
―古代・中世の武家服制―
Ａ５判　192頁　**2,420円**（2,200）

平安末期に登場した武士が身につけた「褂細（かけさい）」は、武家の世になると彼らのトレードマーク「直垂（ひたたれ）」へと進化する。武士たちは直垂をどのように着こなし、服装の制度を定めたのか。有識故実と絵画史料を駆使して実態に迫る。
978-4-642-08437-6　（23.10）

脇田晴子著
天皇と中世文化
四六判　240頁　**2,640円**（2,400）〈僅少〉

戦国期、無力化した天皇はなぜ全国統一のシンボルとなり得たのか。その権威の源を、政治と文化の両面から探る。官位と元号、能狂言や連歌、修験道や神道、都と地方、貴族と被差別民など多彩な視点で、天皇制存続の謎に迫る。
978-4-642-07918-1　（03.7）

価格は10％税込、（　）内は本体価格

酒井紀美著
中世のうわさ （新装版）
―情報伝達のしくみ―
四六判　248頁　**2,860円**（2,600）
新聞やテレビ、インターネットなどなかった中世社会、「うわさ」は重要な情報伝達手段だった。殺人事件や悪党蜂起、事実無根の流言…。広く飛び交った「うわさ」を丁寧に分析。新たな中世情報論に挑んだ意欲作を復刊。
978-4-642-08378-2　（20.3）

勝田　至著
死者たちの中世
四六判　288頁　**3,080円**（2,800）
死体が路傍・河原・野にあることが日常茶飯事だった中世。死者はなぜ放置されたか。「死骸都市」平安京で、ある時期にそれが急減することを探り出し、死体遺棄や風葬など謎に包まれた中世の死者のあつかいを解き明かす。
978-4-642-07920-4　（03.7）

日本史史料研究会監修・松園潤一朗編
室町・戦国時代の法の世界
四六判　304頁　**2,420円**（2,200）
室町・戦国時代における法の多様な内容や史料のあり方、研究史、争点などをわかりやすく紹介。さまざまな階層の権力に制定・運用された法の形式や内容を解説。法と密接な諸領域から法と社会の特質を考える注目の一書。
978-4-642-08397-3　（21.7）

荒木和憲著
対馬宗氏の中世史
四六判　300頁　**3,520円**（3,200）
古来、国際的事件の舞台になった対馬。一方で朝鮮との交流は必要不可欠だった。こうした〈国境の島〉で、中世日朝通交を主導した宗氏の領国支配や朝鮮との関係はいかなるものだったか。歴代当主の治世から実態に迫る。
978-4-642-08314-0　（17.3）

日本史史料研究会監修・渡邊大門編
信長軍の合戦史 ―1560―1582―
四六判　216頁　**1,980円**（1,800）〈僅少〉
桶狭間の戦いから本能寺の変まで、天下布武をかかげ戦争を繰り広げた織田信長。信頼性の高い１次史料を用いて信長軍の合戦を解説。戦いの経過だけでなく、戦前・戦後の戦略的評価にも目を配り、信長の戦争の本質に迫る。
978-4-642-08297-6　（16.7）

山内　譲著
豊臣水軍興亡史
四六判　280頁　**2,530円**（2,300）
天下統一をめざす秀吉は、瀬戸内の海賊衆(来島)村上氏や伊勢海の九鬼氏らを味方につけ、水軍（船手衆）として重用した。九州・小田原攻めや朝鮮出兵で活躍した「海上軍事力」としての彼らを通じ、豊臣政権を見直した好著。
978-4-642-08296-9　（16.7）

戦国の忍びを考える実行委員会編・埼玉県立嵐山史跡の博物館編
戦国の城攻めと忍び
―北条・上杉・豊臣の攻防―
Ａ５判　256頁　**2,200円**（2,000）
忍びの学術的検討は近世中心だったが、戦国期も深まりつつある。八王子城・岩付城・葛西城・羽生城などの攻防戦で行われた忍びの戦術を探り、独自の「忍器」を復元。新視点から戦の実像に迫り、謎多き忍びの世界へ誘う。
978-4-642-08434-5　（23.6）

中野　等著
関白秀吉の九州一統
四六判　328頁　**2,750円**（2,500）
秀吉は国内「静謐」の実現を目指し、九州の島津攻めを決める。一連の政治・軍事過程の具体相と、戦後処理＝九州仕置きの実態を詳述。「九州一統」による領主権力の再編・統合の歴史的意義を、大転換期に位置づける。
978-4-642-02985-8　（24.3）

中野　等著
石田三成伝
四六判　578頁　**4,180円**（3,800）
豊臣政権を支えた五奉行の１人、石田三成。多くの挿話で語られてきた「実務に優れた青白きインテリ」像を超えて、１次史料からその生涯を解明。逆賊として人物像が形成された過程にも触れ実像に迫る、三成伝の決定版。
978-4-642-02934-6　（17.1）

神田裕理著
朝廷の戦国時代
―武家と公家の駆け引き―
四六判　288頁　**2,640円**（2,400）
戦国時代、天皇や公家たちはいかなる存在であったのか。足利将軍や天下人が、天皇・公家たちと交渉を繰り広げ、互いに利用し合った実態を解明。朝廷の「武家の傀儡」イメージを覆し、天皇・公家の主体性を再評価する。
978-4-642-08360-7　（19.10）

山田邦明 著
戦国のコミュニケーション （新装版）
—情報と通信—
四六判　296頁　**2,530円**（2,300）

「一刻も早く援軍を…」。戦国大名たちはいかにして遠隔地まで自らの意思や情報を伝えたのか。口上を託された使者、密書をしのばせた飛脚たちが、命をかけて戦乱の世を駆け抜ける。中世情報論を構築した名著を新装復刊。
978-4-642-08374-4　（20.1）

小田原城総合管理事務所編・小和田哲男監修
戦国大名北条氏の歴史
—小田原開府五百年のあゆみ—
A５判　248頁　原色口絵4　**2,090円**（1,900）

15世紀末、伊勢宗瑞（早雲）が小田原に進出。氏綱が北条を名乗ると、小田原を本拠に屈指の戦国大名に成長した。氏康～氏直期の周辺国との抗争・同盟、近世小田原藩の発展にいたる歴史を、図版やコラムを交え描く。
978-4-642-08367-6　（19.12）

下坂　守 著
京（みやこ）を支配する山法師たち
—中世延暦寺の富と力—
四六判　256頁　**2,970円**（2,700）

白河上皇に「三不如意」の一つといわしめた「山法師」の嗷訴。延暦寺が、中世的権力として力と富を持ち得たのはなぜか。室町幕府に政治改革を迫り、戦乱を生き抜いた寺僧たちの姿から世俗権力延暦寺の実態を解明する。
978-4-642-08055-2　（11.5）

高山寺監修・土屋貴裕編
高山寺の美術
—明恵上人と鳥獣戯画ゆかりの寺—
A５判　208頁　原色口絵8　**2,750円**（2,500）

稀代の僧・明恵（みょうえ）によって再興された世界文化遺産・高山寺。膨大かつ貴重な文化財を今に伝える寺宝の中でも、選りすぐりの美術作品に着目し、その魅力を平易に紹介。個性豊かな作品から、多面的で斬新な信仰世界に迫る。
978-4-642-08383-6　（20.3）

五味文彦 著
『一遍聖絵』の世界
A５判　136頁　**2,200円**（2,000）

踊念仏で知られる一遍の生涯を描いた国宝『一遍聖絵』。全篇にわたって詞書に沿って構図に注目。豊富なカラー図版で一遍の足取りを辿り、これまでの研究でいまだ明らかにされていなかった絵巻の全体像と魅力に迫る。
978-4-642-08396-6　（21.7）

黒田　智 著
たたかう神仏の図像学
—勝軍地蔵と中世社会—
A５判　328頁　原色口絵4　**4,180円**（3,800）

戦乱に明け暮れる中世社会。軍神（いくさがみ）たる勝軍地蔵（しょうぐんじぞう）は、いかにして誕生し、戦争と平和のあわいで変貌をとげながら、今日まで生きつづけたのか。勝軍地蔵信仰の誕生と中世的世界観を読み解き、800年の歴史的道程を辿る。
978-4-642-01666-7　（21.12）

山川　均 著
歴史のなかの石造物
—人間・死者・神仏をつなぐ—
A５判　208頁　原色口絵4　**2,750円**（2,500）〈僅少〉

中世に造られ今も各地に残る、層塔・石仏・五輪塔…。当時の人々は〝石〟にどんな思いを込めたのか。文献資料を駆使し、石造物造立の背景にあった人間と異界・死者・神仏が複雑に織り成す濃厚で複雑なストーリーを描く。
978-4-642-08281-5　（15.8）

竹井英文・中澤克昭・新谷和之編
描かれた中世城郭
—城絵図・屏風・絵巻物—
B５判　144頁　**3,080円**（2,800）

城郭の姿を、今に伝える絵画の数々。寺社縁起や物語などの絵巻物、洛中洛外図屏風、陣取図など、城郭が描かれた絵画史料を可能な限り集成。迫力あるカラー図版に平易な解説を加えながら、中世城郭の世界へいざなう。
978-4-642-08439-0　（23.12）

松岡　進 著
中世城郭の縄張と空間
—土の城が語るもの—（城を極める）
A５判　240頁　原色口絵4　**2,420円**（2,200）

日本全国に広く分布する、建物はおろか石垣も水堀もない中世の“土の城”。永年の縄張研究の成果を原点から見つめなおし、それらが形成する地域の特徴をとらえ、軍事的・社会的段階の変化、近世への道のりをたどる。
978-4-642-06482-8　（15.3）

臼杵　勲 著
東アジアの中世城郭
—女真の山城と平城—（城を極める）
A５判　184頁　原色口絵4　**2,420円**（2,200）〈僅少〉

日本海をはさんだ大陸には、金や清を建国した女真族の城郭が多数存在した。日本・朝鮮の城郭と比較検討し、山城が発展した共通性や機能の相違点を探る。女真城郭の実例から、日本城郭を東アジアの中に位置づける。
978-4-642-06483-5　（15.5）

価格は10％税込、（　）内は本体価格

山崎信二著
瓦が語る日本史
―中世寺院から近世城郭まで―
四六判　268頁　**3,520円**（3,200）

かつては重要な建物にだけ葺かれた瓦。大陸より伝わり、日本独自のスタイルを確立した造瓦の変遷を、瓦工集団の発展を辿りつつ豊富な図版を交えて描く。寺院・城郭の瓦を分析し、組織で異なる鬼瓦の形態にも迫った労作。
978-4-642-08078-1　（12.7）

天下は戦国！　160年間の日本列島を見渡し、激動する戦国社会の全貌を克明に描く！

列島の戦国史　全9巻

全巻セット＝24,750円（22,500）

久保健一郎著
①享徳の乱と戦国時代
四六判　278頁　**2,750円**（2,500）

15世紀後半、上杉方と古河公方（こがくぼう）方が抗争した享徳（きょうとく）の乱に始まり、東日本の地域社会は戦国の世へ突入する。室町幕府の東国対策、伊勢宗瑞の伊豆侵入、都市と村落の様相、文人の旅などを描き、戦国時代の開幕を見とおす。
978-4-642-06848-2　（20.5）

大藪　海著
②応仁・文明の乱と明応の政変
四六判　286頁　**2,750円**（2,500）

15世紀後半、二つの争乱を契機に室町幕府は崩壊の道へ―。京都での東西両軍の対立に至る政治過程や、大乱の様子と乱後の情勢を西国にも目を向けて叙述。将軍家を二分した政変を経て、乱世へと向かう時代を通観する。
978-4-642-06849-9　（21.3）

長谷川博史著
③大内氏の興亡と西日本社会
四六判　246頁　**2,750円**（2,500）

16世紀前半、東アジア海域と京都を結ぶ山口を基盤に富を築き、列島に多大な影響を与えた大内氏。大友・尼子氏らとの戦い、毛利氏の台頭などを描き出し、分裂から統合へ向かう西日本を周辺海域の中に位置づける。
978-4-642-06850-5　（20.7）

天野忠幸著
④室町幕府分裂と畿内近国の胎動
四六判　296頁　**2,750円**（2,500）

16世紀前半、明応の政変などを経て室町幕府は分裂。分権化が進み、新たな社会秩序の形成へと向かう。三好政権の成立、山城の発展、京都や大阪湾を取り巻く流通などを描き、畿内近国における争乱の歴史的意味を考える。
978-4-642-06851-2　（20.8）

丸島和洋著
⑤東日本の動乱と戦国大名の発展
四六判　344頁　**2,750円**（2,500）

16世紀前半、東日本では古河公方の内紛と連動した戦乱から、戦国大名の衝突へ変化する。伊達・上杉・北条・武田・今川・織田―大名間「外交」と国衆の動静を軸に、各地の情勢を詳述。戦国大名確立の背景に迫る。
978-4-642-06852-9　（21.2）

池　享著
⑥毛利領国の拡大と尼子・大友氏
四六判　232頁　**2,750円**（2,500）

16世紀後半、西日本では大内氏を倒し台頭した毛利氏をはじめ、尼子や大友、島津などの地域勢力が熾烈な領土争いを繰り広げた。海外交易の実態、流通・経済の発展など社会状況も概観し、西国大名の覇権争いを描く。
978-4-642-06853-6　（20.9）

竹井英文著
⑦東日本の統合と織豊政権
四六判　280頁　**2,750円**（2,500）

16世紀後半、関東では武田・上杉・北条らの領土紛争が激化、奥羽では伊達の勢力が急拡大する。戦乱の中で進化する築城技術や経済活動、領国支配の構造などを描き、織豊政権の介入で統合へ向かう東日本の姿を追う。
978-4-642-06854-3　（20.10）

平井上総著
⑧織田政権の登場と戦国社会
四六判　226頁　**2,750円**（2,500）

16世紀後半、織田信長は室町幕府に代わる政権を打ち立て、全国を統合へ向かわせた。将軍義昭の追放、朝廷への対応、大名との衝突と和睦などの政局に加え、都市や流通、宗教など社会の諸相から織田政権の実像に迫る。
978-4-642-06855-0　（20.11）

光成準治著
⑨天下人の誕生と戦国の終焉
四六判　276頁　**2,750円**(2,500)
17世紀初頭、豊臣氏を滅亡させた徳川氏が権力の頂点に立つ。秀吉の天下一統から大坂の陣、徳川政権確立までの政局をたどり、兵農分離の実像や芸能・美術など、社会と文化にもふれながら「天下人」の時代を見渡す。
978-4-642-06856-7　(20.12)

近世史

惣無事令の否定・徳川家の代替わり・近世の天皇・幕政改革・開国・明治維新…。新しい通史！

日本近世の歴史　全6巻

全巻セット＝ 18,480円(16,800)

藤井譲治著
①天下人の時代
四六判　280頁　原色口絵4
3,080円(2,800)
戦国乱世を平らげ、近世への扉を開いた信長・秀吉・家康ら「天下人」の時代を、政治の動きを中心に描く。惣無事令の否定、徳川家の代替わりなど、発見された新事実を交え、東アジア情勢も絡めつつ活写。近世の始まりに迫る。
978-4-642-06429-3　(11.11)

杣田善雄著
②将軍権力の確立
四六判　304頁　原色口絵4
3,080円(2,800)
強権を発動し幕府の政治・軍事組織、鎖国体制を完成する3代将軍家光。島原の乱と寛永飢饉。牢人とかぶき者。幼少の4代将軍家綱。「神国」の威光と虚構のもとに内外の秩序が確定し、将軍権力が確立していく過程を描く。
978-4-642-06430-9　(12.1)

深井雅海著
③綱吉と吉宗
四六判　324頁　原色口絵4
3,080円(2,800)
5代綱吉から8代吉宗までの養子将軍の時代。老中を信用できなかった将軍たちは、地方大名時代の家臣を登用しどんな政治を行ったのか。生類憐みの令、正徳の治、享保期の改革、殿中儀礼などに触れつつ、時代の流れを描く。
978-4-642-06431-6　(12.3)

藤田　覚著
④田沼時代
四六判　252頁　原色口絵4
3,080円(2,800)
賄賂政治家として悪名高い田沼意次。彼は斬新な発想をもった「山師」たちを登用し、革新的政策を次々と打ち出した。賄賂や不正が横行する一方で、「泰平の世」を背景に新たな文化が開花した田沼時代の光と影を描き出す。
978-4-642-06432-3　(12.6)

横山伊徳著
⑤開国前夜の世界
四六判　398頁　原色口絵4
3,080円(2,800)
18世紀末、小倉に現れた一艘の英国船。これを機に形づくられた日本の対外政策は、その後の寛政改革や天保改革でどのように展開したのか。世界の動向と国内の反応、内外双方の観点から「開国」目前の日本の姿に迫る。
978-4-642-06433-0　(13.3)

青山忠正著
⑥明治維新
四六判　304頁　原色口絵4
3,080円(2,800)
ペリー来航から西南戦争まで―。明治政府による全国統治の体制が成立する時代。通商条約の解釈と運用をめぐる対立など、さまざまな立場に立つ勢力が、近代国家の樹立をめざして争った様相を新たな視点で描き出す。
978-4-642-06434-7　(12.11)

大石　学著
新しい江戸時代が見えてくる
—「平和」と「文明化」の265年—
A５判　200頁　**1,980円**（1,800）
戦国の争乱を克服し、列島規模で平和を実現した江戸時代。この時代に形づくられた制度・文化・習慣は現代日本の重要な土台となっている。「平和」と「文明化」をキーワードに、265年の歴史を今日的視点から見直す。
978-4-642-08104-7　（14.3）

大石　学著
今に息づく江戸時代
—首都・官僚・教育—
A５判　218頁　**2,420円**（2,200）
貧困で抑圧的、勧善懲悪の時代劇イメージで語られてきた江戸時代だが、実際は平和で成熟した文明国であった。現代の生活を基礎づけるシステム・意識を作り出した〝リアル江戸〟の魅力を平易に解説。江戸時代を見直す。
978-4-642-08401-7　（21.7）

本多隆成著
定本 徳川家康
四六判　320頁　**3,080円**（2,800）
家康の生涯を「本拠」東海地域を中心に描く。三河の統一から武田氏との攻防、小牧・長久手、関ヶ原、大坂の陣に至る道程、家臣団と諸大名の動向、政治戦略を詳細に叙述。相次ぐ新説も丁寧に検証した、家康論の決定版。
978-4-642-08047-7　（10.12）

倉地克直著
池田綱政 —元禄時代を生きた岡山藩主—
四六判　240頁　**2,860円**（2,600）
明君と知られた父光政と比較され、きびしい評価を受けてきた岡山藩池田家の２代目当主。だが実際は、大規模新田の開発や、閑谷学校の整備、後楽園の造営などの事蹟もある。時代に呼応した統治をすすめた人物像に迫る。
978-4-642-08359-1　（19.9）

深井雅海著
刀剣と格付け —徳川将軍家と名工たち—
A５判　216頁　**1,980円**（1,800）
武家社会における贈答品として中世以来重用されてきた刀剣。８代将軍吉宗は、古刀重視の風潮を改め新刀を奨励し、贈答の簡素化を目指す。刀剣の鑑定、「享保名物帳」の成立、刀工と格付けなど、奥深い刀剣の世界へ誘う。
978-4-642-08334-8　（18.6）

福田千鶴著
城割の作法 —一国一城への道程—
四六判　288頁　**3,300円**（3,000）
戦国時代、降参の作法だった城割（しろわり）は、天下統一の過程で大きく変容する。信長から家康に至る破城政策、福島正則の改易や島原・天草一揆を経て、「一国一城令」となるまでの城割の実態に迫り、城郭研究に一石を投じる。
978-4-642-03497-5　（20.1）

武井弘一編
イワシとニシンの江戸時代
—人と自然の関係史—
四六判　212頁　**2,640円**（2,400）
江戸時代を支える重要な自然の恵み、イワシとニシン。新田開発が進み、人糞や草肥が不足すると、魚肥としても大量に使われた。気候変動と漁の関係、経済、魚肥の流通などから、自然と近世社会との関わりを解き明かす。
978-4-642-08405-5　（22.2）

青木歳幸著
江戸時代の医学 —名医たちの三〇〇年—
四六判　304頁　**3,520円**（3,200）
日本医学の制度や思想の源流は江戸時代にあった。曲直瀬道三・杉田玄白・華岡青洲・シーボルト・緒方洪庵ら名医から、無名の在村蘭方医まで。新視点を交えつつ江戸時代医学史を通観。日本医学の特質と課題を解明する。
978-4-642-08077-4　（12.6）

曽根ひろみ著
娼婦と近世社会 〈新装版〉
四六判　244頁　**2,420円**（2,200）
遊女・芸者・熊野比丘尼（くまのびくに）、飯盛女（めしもりおんな）・夜鷹（よたか）など、「性」を商品化された女性たちの実態を、梅毒や性愛問題も視野に入れて描く。売買春の多様な歴史的背景を女性史の立場から探り、現代の「売春」論議にも一石を投じた名著。
978-4-642-08425-3　（23.3）

柴田　純著
考える江戸の人々
—自立する生き方をさぐる—
四六判　256頁　**2,750円**（2,500）
戦や災害などの苦難に対し神仏の加護頼みであった中世から、人の力で問題を解決すべきとした江戸時代へ。大名の責任意識から庶民の寺子屋教育まで、考え、工夫して行動することが積極的に肯定されていく過程を描く。
978-4-642-08332-4　（18.4）

佐藤孝之監修・佐藤孝之・宮原一郎・天野清文著
近世史を学ぶための古文書「候文」入門
天野出版工房発行
四六判　246頁　**2,200円**（2,000）

近世史を学ぶうえで、「候」という文字を頻繁に用いた「候文」の理解は必須となる。主な用字・用語を文法によって分類。豊富な文例に読み方と現代語訳を加える。近世古文書を読み解くためのはじめてのガイドブック。
978-4-642-08433-8　（23.3）

荒武賢一朗・野本禎司・藤方博之編
みちのく歴史講座 古文書が語る東北の江戸時代
Ａ５判　264頁　**2,420円**（2,200）

武士と村落をテーマに、江戸時代と東北の地域史を読み解く古文書講座。充実の講師陣が、政宗や諸階層の侍の姿を平易に解説。自然災害など環境との関係を軸に、村落社会に生きる人々の実態も探り、古文書の魅力を語る。
978-4-642-08387-4　（20.11）

公益財団法人永青文庫・熊本大学永青文庫研究センター編
永青文庫の古文書
―光秀・葡萄酒・熊本城―
四六判　244頁　**1,980円**（1,800）

熊本藩細川家に伝わる６万点近くの歴史資料。幽斎・明智光秀・ガラシャをめぐる人間模様、忠利の所望した国産葡萄酒、江戸初期の震災と熊本城の修復、歴代当主の甲冑のゆくえなどを取り上げ、細川家の歴史の深奥に迫る。
978-4-642-08386-7　（20.5）

五味文彦著
島津氏と薩摩藩の歴史
四六判　212頁　**2,420円**（2,200）

日本列島の西南端を拠点に、院政期から幕末まで権力を保ってきた島津氏。いかにして権力を形成し、「薩摩藩国家」が幕末に倒幕の一大勢力となったのか。島津氏と薩摩藩の政治・文化・社会の動きを通史的分析で明らかにする。
978-4-642-08454-3　（24.9）

木村　涼著
八代目市川團十郎
―気高く咲いた江戸の花―
四六判　248頁　**3,080円**（2,800）〈僅少〉

江戸後期の花形役者として一世風靡するも、32歳で突然の死を遂げた八代目市川團十郎。家の芸を継承しながら独自の個性を積み重ねた舞台姿、成田山との交流を活写。新発見の團十郎一家の手紙を紹介しつつ生涯を描く。
978-4-642-08304-1　（17.1）

三浦正幸著
天　守 ―芸術建築の本質と歴史―
Ａ５判　312頁　**2,640円**（2,400）

近世大名の権威の象徴であり、壮麗な造形で多くの人を魅了し続ける天守。姫路城をはじめ現存天守の構造と意匠を分析し、籠城戦での機能や建築的工夫の豊かさを詳説。失われた天守にも触れながらその歴史と魅力に迫る。
978-4-642-08422-2　（22.11）

田中弘之著
「蛮社の獄」のすべて
第44回住田正一海事史奨励賞受賞
四六判　336頁　**4,180円**（3,800）

幕末前夜、高野長英や渡辺崋山らが弾圧された「蛮社の獄」。しかし、幕府の目付鳥居耀蔵は、崋山とは無関係な無人島渡海事件を重視するなど、多くの謎が存在する。奉行所での取り調べにも注目し、事件の真相に迫る。
978-4-642-08059-0　（11.7）

「身分制」という格差社会のなかで、江戸時代の人びとはいかに生きたのか！

〈江戸〉の人と身分　全６巻

品切＝③④⑥

宇佐美英機・藪田　貫編
①都市の身分願望
四六判　238頁
3,300円（3,000）

さまざまな身分の人が集まる近世都市。貨幣経済のなか、人々は身分をどう捉え、行動したのか。商家や武家の奉公人、町奉行所の役人、代官所の御用請負人、そして長吏たち…。人・モノ・情報と身分の関係を描く。
978-4-642-06566-5　（10.9）

白川部達夫・山本英二編
②村の身分と由緒
四六判　236頁
3,300円（3,000）

現代の生活習慣を育んだ江戸時代の「村」。苗字・土地の所持や家格と由緒に基づき、多様で柔軟に変動する「百姓」。身分制度下の村社会を、百姓・大庄屋・郷士・被差別民らの上昇願望と差別意識などから明らかにする。
978-4-642-06567-2　（10.7）

価格は10％税込、（　）内は本体価格

若尾政希・菊池勇夫編
⑤覚醒する地域意識
四六判　254頁
3,300円（3,000）
「県民気質」として今なお意識される地域性。郷土意識や他の地域への優越・劣等感はどのように生まれたのか。村・町から藩、さらに「日本」という領域へ。地域意識の目覚めから、新しい近世日本の姿が浮かび上がる。
978-4-642-06570-2　（10.10）

人々の姿から身分社会のあり方を見直し、豊かな近世社会像を切り拓く

身分的周縁と近世社会　全9巻

品切＝②、⑤～⑨

後藤雅知編
①大地を拓く人びと
四六判　246頁
3,300円（3,000）〈僅少〉
土地所持にもとづいて年貢や諸役が賦課された近世。大地の上で人びとはいかに生きたのか。田畑を耕した農民だけではなく、塩田の労働者、「場」という営業上の領域を所有した職人など幅広く取り上げ、その具体像を解明。
978-4-642-06557-3　（06.12）

原　直史編
③商いがむすぶ人びと
四六判　264頁
3,300円（3,000）
商人はどのようにして身分制を揺るがしたのか。商人を率いる商人司、農村地域で活躍する穀屋、流通を担う青物商人、古手屋、石灰商人、口入など、多様な相互関係のなかで商人の実像を解明し、近世社会の特質を探る。
978-4-642-06559-7　（07.6）

塚田　孝編
④都市の周縁に生きる
四六判　252頁
3,300円（3,000）〈僅少〉
江戸時代、都市の周縁や下層社会に生きた人びとの実態を解明。勧進宗教者のあり方、遊廓社会の内実、屠場、非人集団や、役者…。社会的賤視や差別を受けてきた存在を都市史の視点から幅広く取り上げ、その具体像に迫る。
978-4-642-06560-3　（06.12）

変革の時代―。彼らはいかに生きたのか。われわれは彼らに何を学ぶのか

幕末維新の個性　全8巻

品切＝①②⑤⑧

笠原英彦著
③大久保利通
四六判　250頁
2,860円（2,600）
薩摩藩下級武士の家に生まれながら、のちに藩の重役となって討幕に邁進し、維新後は参議・内務卿として明治政府を率いた大久保利通。柔軟なリアリズムで政治を指導し、近代日本を創出しようとした激動の生涯を描く。
978-4-642-06283-1　（05.5）

落合弘樹著
④西郷隆盛と士族
四六判　246頁
2,860円（2,600）
幕末維新の英雄＝西郷隆盛。薩長盟約、江戸無血開城、廃藩置県など近代化の基礎を築きながら、なぜ西南戦争を起こし悲劇の最期を遂げたのか。多くの日本人を引き付けた西郷の魅力に迫り、波瀾の生涯と激動の時代を描く。
978-4-642-06284-8　（05.10）

母利美和著
⑥井伊直弼
四六判　256頁
2,860円（2,600）
独断の違勅調印、安政の大獄など、〝独裁者〟と評された大老井伊直弼。だが、実像はまったく違った。埋木舎から彦根藩主、そして桜田門外に斃れるまで、茶道から会得した、凛とした信条に生きた政治家の新たな個性に迫る。
978-4-642-06286-2　（06.5）

青山忠正著
⑦高杉晋作と奇兵隊
四六判　228頁
2,750円（2,500）
「動けば雷電のごとく、発すれば風雨のごとし」。奇兵隊を創設した長州藩士高杉晋作は、行動力に富む理想の青年像として今に伝わるが、その実像は謎に包まれている。伝説のベールを破り、短き生涯と新たな個性に迫る。
978-4-642-06287-9　（07.1）

近・現代史

開国、華夷秩序の解体、民衆の動きや社会運動、政党政治の展開と崩壊、アジア・太平洋戦争…

日本近代の歴史 全6巻

全巻セット＝18,480円（16,800）

奥田晴樹 著

①維新と開化

四六判　288頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

王政復古の大号令により誕生した新政府は、戊辰戦争を経ていかに近代国家を目指したのか。東京奠都、版籍奉還から廃藩置県にいたる日本史上有数の国制改革の実態を描く。立憲政体の導入へ続く明治維新の核心に迫る。
978-4-642-06812-3　（16.10）

大日方純夫 著

②「主権国家」成立の内と外

四六判　288頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

欧米列強により東アジアの秩序が再編される中、明治政府は早期の近代化を目指した。自由民権運動・憲法制定・国会開設・初期議会から条約改正までの過程を解読。「主権国家」の成立と民衆の動向、国際情勢に鋭く迫る。
978-4-642-06813-0　（16.11）

飯塚一幸 著

③日清・日露戦争と帝国日本

四六判　256頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

日清戦争を経て植民地支配がはじまった19世紀末。軍拡優先の財政運営のもと、帝国化はどのように進められたのか。藩閥と政党の対立と協調、地方が牽引した企業勃興、日清戦争から日露戦争へ。帝国化の起点に迫る。
978-4-642-06814-7　（16.12）

櫻井良樹 著

④国際化時代「大正日本」

四六判　248頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

植民地帝国へ変貌した日本は、中国の革命や第1次世界大戦への対処、流入してくる欧米の文化・思想の受容など、様々な国際化に曝された。対華二十一ヵ条要求、ワシントン会議から二大政党制とつづく変革の時代を描く。
978-4-642-06815-4　（17.1）

河島　真 著

⑤戦争とファシズムの時代へ

四六判　272頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

政党内閣制は五・一五事件で崩壊し、軍部の政治介入が強まる。満洲事変後の欧米との対立、昭和恐慌から戦時経済への転換、そして二・二六事件。デモクラシーはいかにして潰えたか。戦争に向かう時代を克明に辿る。
978-4-642-06816-1　（17.2）

源川真希 著

⑥総力戦のなかの日本政治

四六判　268頁　原色口絵4
3,080円（2,800）

日中戦争、日米開戦、そして敗戦に至る戦争の時代。翼賛体制・統制経済・大東亜共栄圏は、いかに構築されたのか。さまざまな政治勢力や錯綜する国家構想を整理し、社会構造の変容をふまえて総力戦体制をとらえる。
978-4-642-06817-8　（17.3）

奈倉哲三・保谷　徹・箱石　大 編

戊辰戦争の新視点　上　―世界・政治―

A5判　208頁　原色口絵4　**2,420円**（2,200）〈僅少〉

権力抗争の坩堝と化した日本。条約諸国は内戦の行方と権力の変遷をどのように注視し関わったのか。国際法に従った戦争遂行や政治秩序の再編、大奥の対応、キリスト教政策など、国際的状況下の内戦の姿を照射する。
978-4-642-08329-4　（18.2）

奈倉哲三・保谷　徹・箱石　大 編

戊辰戦争の新視点　下　―軍事・民衆―

A5判　218頁　原色口絵4　**2,420円**（2,200）

内戦遂行のなかで、幕末に導入した西洋式兵学がついに実地に移された。戦争の現場ではいったいなにがおこっていたのか。陸戦の軍備や編制、海軍力、戦費調達、民衆の支援や反発、宗教政策など、新視点で実態に迫る。
978-4-642-08330-0　（18.3）

価格は10％税込、（　）内は本体価格

髙木俊輔著
戊辰戦争と草莽の志士
—切り捨てられた者たちの軌跡—
A５判　184頁　**2,420円**（2,200）
明治維新の変革を目指して、地方・地域を背景に活動した草莽の志士たち。彼らは何を考え、何を契機に決起したのか。新政権樹立をなしとげた一握りの勝者からだけでは描ききれない、戊辰戦争のもう一つの側面に迫る。
978-4-642-08409-3　（22.2）

友田昌宏著
東北の幕末維新
—米沢藩士の情報・交流・思想—
四六判　270頁　**3,080円**（2,800）
激動の幕末、奥羽列藩同盟を主導した米沢藩にあって情報の重要性を訴えた甘糟継成と、探索周旋活動に努めた宮島誠一郎、雲井龍雄。動乱の中で紡いだ思想と維新後の異なる歩みを追い、敗者の視点から幕末維新を描く。
978-4-642-08341-6　（18.11）

上田純子・公益財団法人僧月性顕彰会編
幕末維新のリアル
—変革の時代を読み解く７章—
四六判　296頁　**2,420円**（2,200）
欧米列強の動き、対外戦略と国内政争、世界観の相克や思想の対立、海防僧・漢詩人の月性が体現した知識人交友圏の成立と政治参加—。幕末維新の諸相を、第一線の研究者7名が読み解き、歴史のリアルをよみがえらせる。
978-4-642-08337-9　（18.8）

佐道明広・小宮一夫・服部龍二編
人物で読む現代日本外交史
—近衛文麿から小泉純一郎まで—
四六判　352頁　**3,080円**（2,800）
日中戦争から現代まで激動の中、日本外交を動かした近衛文麿、昭和天皇、吉田茂、小泉純一郎など20名の人物を通じ、日本の軌跡を辿る。戦争の負の遺産を抱え、貿易摩擦など多くの困難を乗越えた現代日本外交の歴史。
978-4-642-07998-3　（08.12）

木村直樹著
〈通訳〉たちの幕末維新
四六判　224頁　**3,080円**（2,800）**〈僅少〉**
もはやオランダ語だけでは通用しない。幕末のオランダ通詞たちは苦悩しながら日本中へ散って行った。欧米諸国との外交交渉、英語など新しい言語への対応や維新後のありよう、激動の時代を語学力で生き抜いた姿を追う。
978-4-642-08072-9　（12.2）

刑部芳則著
三条実美 —孤独の宰相とその一族—
A５判　272頁　**2,750円**（2,500）
明治政府の最高責任者として要職を歴任した三条実美の評価が低いのはなぜか。政局内での言説や行動、宗族・親族との密接な関係などを探り、続発する諸問題に苦悩しつつ誠実に対応した、新たな実像に迫る戦後初の伝記。
978-4-642-08294-5　（16.6）

有山輝雄著
情報覇権と帝国日本　全３巻
全巻セット＝ 15,290円（13,900）

Ⅰ 海底ケーブルと通信社の誕生
四六判　512頁
5,170円（4,700）
西欧列強は植民地拡大とともに情報網覇権を競い、その拡張の矛先は開国日本にも向かった。国家間の力関係を左右する国際ニュース配信と、通信社発足に格闘した帝国日本の挑戦を、技術革新とメディア組織両面から描く。
978-4-642-03823-2　（13.6）

Ⅱ 通信技術の拡大と宣伝戦
四六判　656頁
5,170円（4,700）
第１次世界大戦後、無線通信が発達し、通信自主権をめぐる争奪戦は複雑化した。東アジアの利権獲得に向けた、帝国日本の挑戦と軍事的敗北による挫折までを描き、情報の国際的不均衡という問題の根幹を浮き彫りにする。
978-4-642-03824-9　（13.8）

Ⅲ 東アジア電信網と朝鮮通信支配
四六判　480頁
4,950円（4,500）
朝鮮半島侵出をはかる日本は、情報通信の掌握を構想したが、自力で電信線を敷設する力をもたなかった。西欧依存から脱却し、自立的な東北アジア通信覇権形成に至るまでの外交の過程をたどる、日朝関係の情報通信史。
978-4-642-03860-7　（16.12）

鈴木芳行著
蚕（かいこ）にみる明治維新
—渋沢栄一と養蚕教師—
A５判　220頁　**1,980円**（1,800）
殖産興業として日本の経済をささえた養蚕業。近代化を推進したのは大蔵官僚時代の渋沢栄一であった。渋沢の出身地に近く、優れた養蚕方式と高く評価された群馬県の島村式蚕室の工夫、全国に伝えた養蚕教師の活躍を描く。
978-4-642-08063-7　（11.9）

武田尚子著
荷車と立ちん坊
—近代都市東京の物流と労働—
第43回交通図書賞（歴史部門）受賞
四六判　222頁　**2,640円**（2,400）
明治のはじめ、荷車の技術的変革は東京の経済発展に大きく貢献した。人力輸送の補助力として不可欠な「立ちん坊」とはどのような人たちだったのか。運輸や労働の視点から明治社会を掘り起こし、物流問題の実態に迫る。
978-4-642-08324-9　（17.9）

武田尚子著
近代東京の地政学
—青山・渋谷・表参道の開発と軍用地—
A５判　208頁　**2,090円**（1,900）
新国立競技場の場所にはもともと幕府の火薬庫があり、渋谷には水車が点在し、表参道を兵隊が行進した。地形と軍事が地域社会に与えた影響を読み解き、東京西郊が近代都市空間に変容するプロセスを地政学の視点から辿る。
978-4-642-08343-0　（19.2）

武田尚子著
箱根の開発と渋沢栄一
A５判　358頁　**4,180円**（3,800）
日本有数の温泉地箱根「仙石原」の開発には、渋沢栄一のほか、中央政財界や皇室など多くのアクターが関与していた。明治の牧場経営と昭和の温泉・別荘地経営に着目し、財閥資本と箱根開発の連関の様相を解き明かす。
978-4-642-03925-3　（23.3）

関口哲矢著
強い内閣と近代日本
—国策決定の主導権確保へ—
四六判　264頁　**2,750円**（2,500）
明治憲法下の内閣や首相は自身の機能を強化し、戦争の主導権を得ようとしていく。近代はこの試みと挫折の繰り返しであった。近代内閣の行った強化策を制度や組織運営から総括し、現代政治の課題解決の糸口を探る。
978-4-642-08393-5　（21.1）

加藤陽子著
徴兵制と近代日本
—１８６８—１９４５—
四六判　304頁　**3,190円**（2,900）
国家が国民に強制する兵役義務＝徴兵制は、わが国の国民と社会にどのような影響を与えたのか。徴兵令制定から、兵役法廃止まで70余年の度重なる改変過程と軍部・政府間の攻防をたどり、日本近代国家の特質を抉出する。
978-4-642-07496-4　（96.10）

須崎愼一著
二・二六事件 —青年将校の意識と心理—
四六判　368頁　**3,080円**（2,800）
秘められてきた手記や証言が明らかにする、青年将校たちの人間像。青年将校たちの生の声が通説を覆す。彼らは、北一輝の思想に影響されて決起した訳ではなかった。青年将校たち一人一人の思いから、事件の真相に迫る。
978-4-642-07921-1　（03.10）

片山慶隆・山口　航編
Ｑ＆Ａで読む日本外交入門
Ａ５判　248頁　**2,530円**（2,300）
ペリー来航から米中対立の現在まで、戦前・戦後・現代の3部構成で、日本外交の60の問いにわかりやすく答える。外交官・外務省の役割から国際関係まで、歴史・政治・経済・安全保障の諸問題を解説する入門書。
978-4-642-08446-8　（24.3）

田嶋信雄著
日本陸軍の対ソ謀略
—日独防共協定とユーラシア政策—
四六判　216頁　**3,080円**（2,800）
日独関係深化の契機となった日独防共協定はいかに締結されたか。諜報・謀略活動、航空路整備、対イスラーム政策など陸軍の対ソ工作から再考。内実に不明な点が多い防共協定の全体像を解明し、両国の戦略的関係に迫る。
978-4-642-08315-7　（17.3）

戸部良一著
日中和平工作 —1937-1941—
四六判　312頁　**2,970円**（2,700）
盧溝橋事件後、軍事作戦と並行して和平の試みが繰り返された。外交官だけでなく軍人や民間人ら日中和平の実現をめざした人びとの考えや行動を数々の記録から追跡し、泥沼化する軍事紛争の知られざる側面を解明する。
978-4-642-08443-7　（24.2）

価格は10％税込、（　）内は本体価格

吉原康和著
靖国神社と幕末維新の祭神たち
—明治国家の「英霊」創出—
四六判　228頁　**2,530円**（2,300）
終戦記念日になると内外から注目される靖国神社だが、もともと対外戦争の戦没者を祀る施設ではなかった。創建当初から国家目標だった志士たちの合祀過程を、維新の勝者と敗者の視点から探り、靖国祭神の実像に迫る。
978-4-642-08258-7　（14.8）

赤澤史朗著
戦没者合祀と靖国神社
四六判　232頁　**2,750円**（2,500）
近代日本における対外戦争の戦没者を主な祭神とする靖国神社だが、その全員は祀られていない。誰を祭神として祀り、誰を祀らないのかは時代により揺れ動く。国家補償とのズレにも触れつつ、合祀基準の変遷を追う。
978-4-642-08282-2　（15.8）

古川隆久著
戦時下の日本映画　〈新装版〉
—人々は国策映画を観たか—
四六判　264頁　**2,420円**（2,200）
国益優先か、娯楽性の追求か—日本初のすれ違い恋愛劇『愛染かつら』の公開に、映画の役割をめぐり一大論争が巻き起こった。〝国策映画〟が推奨された時代、人々が求めていた映画と日本社会を探った名著を新装復刊。
978-4-642-08426-0　（23.3）

塚瀬　進著
満　洲　国　—「民族協和」の実像—
四六判　264頁　**2,530円**（2,300）
国家消滅から50年を経てその地に立った著者が、満洲という地域の特徴を明らかにし、満洲国統治の実態とその矛盾を暴く。民族共生の道とは何か、国際化社会における現代日本人のあり方に、新たな問いを投げかける。
978-4-642-07752-1　（98.12）

塚瀬　進著
満洲の日本人　〈新装版〉
四六判　256頁　**2,420円**（2,200）
満洲事変まで約20万の日本人が暮らした満洲。小売商や満鉄社員らの生活を、「満洲史のなかの日本人」という観点から復元。名著『満洲国』に続き、一貫して満洲の地域性にこだわり日本人の事跡を描いた注目作を新装復刊。
978-4-642-08427-7　（23.3）

貴志俊彦著
満洲国のビジュアル・メディア
—ポスター・絵はがき・切手—
A５判　256頁　原色口絵8　**3,080円**（2,800）
幻想の王道楽土「満洲国」は、いかに自らの存在を国の内外へ認知させようとしたのか。そのメディア戦略の全貌を、記念行事や祝祭用のポスター、絵はがき、切手など豊富な図版で検証。新たな満洲国のイメージを描く。
978-4-642-08036-1　（10.6）

木村玲欧著
戦争に隠された「震度７」（新装版）
—1944 東南海地震・1945 三河地震—
A５判　216頁　**2,200円**（2,000）
太平洋戦争末期、東海地方を襲った二つの巨大地震。戦時報道管制下、地元紙＝中部日本新聞は何をいかに伝え、役割を果たしたのか。被災者の体験談を紹介し、防災教育の促進と意識向上を呼びかける。注目作を新装復刊。
978-4-642-08375-1　（20.2）

白山眞理著
〈報道写真〉と戦争
—１９３０—１９６０—
平成27年日本写真協会賞学芸賞受賞
四六判　518頁　**5,280円**（4,800）
日本の報道写真〈ルポルタージュ・フォト〉はどのように生まれ、戦争と関わったのか。名取洋之助・木村伊兵衛・土門拳や知られざる報道写真家たちの実像を、プロパガンダ工作、原爆をめぐる戦後の活動から読み解く。
978-4-642-03834-8　（14.10）

太田尚樹著
尾崎秀実とゾルゲ事件
—近衛文麿の影で暗躍した男—
四六判　212頁　**2,640円**（2,400）
日米開戦直前に発覚したゾルゲ事件で検挙され、刑死したジャーナリスト尾崎秀実。近衛文麿のブレーンとして、激動の時代に何を考え行動したのか。新資料によって人間関係をたどり、評価が多様化する尾崎の実像に迫る。
978-4-642-08291-4　（16.3）

中野目　徹編
近代日本の思想をさぐる
—研究のための１５の視角—
A５判　332頁　**2,640円**（2,400）
時の経過とともにある人々の意識や心理は、何によって形作られるのか。近代日本を思想史として研究する方法を、空間・媒体・手法の三つの視座から模索。素材史料を吟味し、思想史の方法をめぐる議論に一石を投じる。
978-4-642-00832-7　（18.12）

中野目　徹編
官僚制の思想史
—近現代日本社会の断面—
A５判　334頁　**4,950円**（4,500）

日本社会を形作った一つの編成原理、官僚制。その職務に従事する官吏の意識や専門知、官界内外で議論された彼らの行動規範を追究し、官僚制の思想的側面に迫る。官僚をめぐる問題が連日取り上げられる今こそ注目の一書。
978-4-642-03893-5　（20.6）

佐藤和賀子著
戊辰戦後の仙台藩〈家老〉一族
—坂家のファミリーヒストリー—
A５判　248頁　**2,640円**（2,400）

戊辰戦争時の仙台藩重臣、坂英力（さかえいりき）は明治新政府に抵抗した藩の責を負い斬首された。母と妻子の人生を日本の近代史とともに描く。子どもは教師や医師になり、社会事業に尽力した。幕末から昭和戦後まで家族３代の歴史。
978-4-642-08445-1　（24.3）

一関市博物館編
学問の家 大槻家の人びと
—玄沢から文彦まで—
A５判　192頁　**2,420円**（2,200）

『蘭学階梯（らんがくかいてい）』を著した玄沢（げんたく）、博学多才の如電（じょでん）、国語辞典『言海』を編纂した文彦らを輩出した大槻家。重要文化財の大槻家関係資料から多彩な分野の学問に生きた各生涯を明らかにし、一関が生んだ学者達の群像を描き出す。
978-4-642-08458-1　（24.10）

碧海寿広著
高楠順次郎 —世界に挑んだ仏教学者—
四六判　208頁　**1,980円**（1,800）

南アジアでの仏典調査の先駆者で、武蔵野女子学院の創始者。国際舞台で活躍した彼は、仏教をどう受け止め直し、独自に表現したか。『大正新脩大蔵経（たいしょうしんしゅうだいぞうきょう）』の編纂や、教育者としての一面にも光をあてて描く人格者の生涯。
978-4-642-08450-5　（24.4）

真辺将之著
猫が歩いた近現代
—化け猫が家族になるまで—
A５判　232頁　**2,090円**（1,900）

化ける・祟（たた）ると恐れられた猫は、どのように今日の地位を獲得したのか。文豪に愛されネズミ駆除で重宝される一方、三味線や毛皮用にも使われた猫たちへのまなざしの変化を描き、人間社会に猫の歴史を位置づける。
978-4-642-08398-0　（21.6）

浜田幸絵著
〈東京オリンピック〉の誕生
—一九四〇年から二〇二〇年へ—
A５判　298頁　**4,180円**（3,800）**〈僅少〉**

1940年開催予定であった幻の東京オリンピックから、1964年をへて2020年へ。戦時に返上した挫折から、戦後の開催へ招致活動した在米日系人やＩＯＣの動向など、その連続性に着目しメディア史から描く決定版。
978-4-642-03881-2　（18.11）

古田島洋介著
日本近代史を学ぶための 文語文入門
—漢文訓読体の地平—
A５判　238頁　**3,080円**（2,800）

近代の文語文史料を読むには、漢文訓読の知識が欠かせない。容易に解読できる気がするが、漢語と和語が入り乱れるがゆえに数々の罠が潜む。語義、語彙、文法など、基礎から丁寧に、漢文訓読体を読み解く術を解説する。
978-4-642-08093-4　（13.9）

大門正克・安田常雄・天野正子編
戦後経験を生きる
（近現代日本社会の歴史）
四六判　352頁　**3,080円**（2,800）**〈僅少〉**

1930年代に始まる日本社会の現代化は、生活を激変させた。戦争の体験と平和への願い、経済大国の光と影、バブル崩壊。時代の影響を受け共通性を帯びた人びとの経験の意味を問い、現在までの日本社会の歴史を描く。
978-4-642-07924-2　（03.12）

華族史料研究会編
華族令嬢たちの大正・昭和
四六判　238頁　**3,080円**（2,800）

女子学習院での教育、人力車の送り迎え、別荘での避暑、お国入り、華麗な縁戚、家存続のための婚姻、関東大震災、二・二六事件、戦争…。４人の女性が在りし日の華族の生活を語る。追憶の中から激動の時代が浮かび上がる。
978-4-642-08054-5　（11.5）

沢山美果子著
近代家族と子育て
A５判　288頁　**4,950円**（4,500）

家族や母親に子育ての責任が負わされる状況は、歴史のなかでどのようにして形成されてきたのか。近代の家族規範のもとで、女・男・子どもはいかに生きてきたのか。現代の家族や子育ての規範を改めて問い直す注目の一冊。
978-4-642-03819-5　（13.3）

価格は10％税込、（　）内は本体価格

木村涼子著
〈主婦〉の誕生
—婦人雑誌と女性たちの近代—
第32回日本出版学会賞／第3回昭和女子大学女性文化研究賞受賞
A5判　328頁　**5,280円**（4,800）

「女は家庭、男は仕事」という性分業が成立した近代に、「主婦」は誕生した。『主婦之友』『婦人公論』といった婦人雑誌は、いかに「主婦」像をつくりだしたのか。マスメディアというイデオロギー装置の機能を読み解く。
978-4-642-03796-9　（10.9）

山下麻衣著
看護婦の歴史 —寄り添う専門職の誕生—
A5判　206頁　**3,850円**（3,500）

しかるべき養成を受けた看護婦は明治に誕生した。看護婦を「女性が多く就く労働者」と見なし、「どこで」「誰を」看護していたかという基準で、養成方法や職務内容などの歴史を描く。今日の看護の労働実態の根源に迫る。
978-4-642-03863-8　（17.1）

中野香織著
ロイヤルスタイル 英国王室ファッション史
四六判　236頁　**2,420円**（2,200）

個性ある生き方とファッションで世界の関心を惹きつける英国王室。装いや言動、恋愛や結婚は何を示し、人々はいかに受け止めたのか。威光と親しみやすさを共存させてきた英王室の歴史、そして気高い生き方を考える。
978-4-642-08355-3　（19.7）

永原慶二著
20世紀日本の歴史学
四六判　400頁　**3,520円**（3,200）

日本の歴史学は時代の現実にどう向きあってきたか！60余年の学問体験をふまえた著者からの、歴史学を志す若者たち、歴史学・歴史教育に携わる人びと、歴史愛好者へのメッセージ。
978-4-642-07797-2　（03.3）

地域社会にとって、軍隊とはいかなる存在だったのか？

地域のなかの軍隊　全9巻

全巻セット＝27,720円（25,200）

山本和重編
①北の軍隊と軍都 —北海道・東北—
四六判　250頁
3,080円（2,800）

ロシアに近い北海道・東北地方は軍事戦略上重要視され、仙台・旭川・弘前に師団が設置された。それら三都市を中心に、市民生活と軍隊の関わりを描く。徴兵忌避、アイヌの徴兵・召集、災害時の軍隊の役割にも言及する。
978-4-642-06473-6　（15.3）

荒川章二編
②軍都としての帝都 —関東—
四六判　222頁
3,080円（2,800）

「帝国日本」最大の軍都東京を中心に、帝都の護りを担い張り巡らされた関東の軍隊。横須賀海軍や千葉の砲兵・鉄道部隊、所沢や霞ヶ浦の飛行部隊など、時代の要請に対応し絶えず軍事化の影響を受けた歴史的変遷を追う。
978-4-642-06474-3　（15.2）

河西英通編
③列島中央の軍事拠点 —中部—
四六判　240頁
3,080円（2,800）

太平洋に面した温暖な東海、日本海からの風雪が避けられない北陸、険しい山岳地帯の内陸。自然環境が大きく異なることで、多様な軍事施設の配置が特徴である中部地方の実態に迫り、各都市と軍隊との関わりを描き出す。
978-4-642-06475-0　（14.12）

原田敬一編
④古都・商都の軍隊 —近畿—
四六判　248頁
3,080円（2,800）

「都会の軍隊は弱い」というイメージは本当だったのか。古さと新しさが併存する近畿地方の各地域で、軍隊がいかに存在したのかを探る。戦没者慰霊のあり方や在郷軍人会の成立など、民衆の視点からも軍隊を問い直す。
978-4-642-06476-7　（15.4）

坂根嘉弘編
⑤西の軍隊と軍港都市 —中国・四国—
四六判　232頁
3,080円（2,800）

日清戦争時に大本営が広島に設置され、一大軍港都市の呉が置かれるなど、「西」は近代における軍事の要であった。中国・四国各地の軍隊誘致運動や、それに伴う都市形成と諸産業の発達、市民生活との密な関係に迫る。
978-4-642-06477-4　（14.11）

林　博史編
⑥大陸・南方膨張の拠点 —九州・沖縄—
四六判　254頁
3,080円（2,800）〈僅少〉

近代日本が行なった一連の戦争・海外派兵に、朝鮮・中国や東南アジア・太平洋各地とを結ぶ重要地域であった九州・沖縄・奄美地方。軍隊を配備された都市の変容や地域との関係を分析。戦後沖縄と米軍基地にも言及する。
978-4-642-06478-1　（15.1）

坂本悠一編
⑦帝国支配の最前線 —植民地—
四六判　320頁
3,080円（2,800）

明治初年以降、絶え間ない対外戦争で植民地を獲得してきた帝国日本。台湾・南樺太・満洲・朝鮮・南洋群島の旧植民地に、軍隊はいかに関わったのか？　植民地支配の前衛を担った現地軍隊の動向を、地域ごとに追究する。
978-4-642-06479-8　（15.5）

荒川章二・河西英通・坂根嘉弘・坂本悠一・原田敬一編
⑧日本の軍隊を知る —基礎知識編—
四六判　260頁
3,080円（2,800）

戦前の社会において、人びとは身近に存在した軍隊といかに向き合っていたのか。徴兵制や師団編制、軍人のありかたとその生活など、制度と実態の多様な項目を解説。現代のわれわれが軍隊を考えるための知識を集成する。
978-4-642-06480-4　（15.6）

林　博史・原田敬一・山本和重編
⑨軍隊と地域社会を問う —地域社会編—
四六判　250頁
3,080円（2,800）

軍隊の設置によって鉄道網などのインフラ整備が進み、地域の風景は一変した。軍事援護・慰霊などを通して人々の生活に軍事が浸透した実態や、空襲で壊滅する軍都の姿を描き出す。日常のなかに軍隊が存在した意味を問う。
978-4-642-06481-1　（15.9）

牧原憲夫著
客分と国民のあいだ
—近代民衆の政治意識—（ニューヒストリー近代日本）
四六判　282頁　**2,860円**（2,600）

明治初年、民衆の心には、近代社会への反発と、政治から切り離されたことによる客分意識が横たわっていた。だが、その人々が、やがて対外戦争に同調していったのはなぜか。国民意識創出の見取り図から近代を問い直す。
978-4-642-03700-6　（98.7）

成田龍一著
「故郷」という物語
—都市空間の歴史学—（ニューヒストリー近代日本）
四六判　284頁　**2,860円**（2,600）

故郷の記憶。それは、都市空間のなかで営まれるドラマ。ひとは故郷を想い、懐かしみ、そして故郷によって傷つけられる。19世紀後半、故郷をあとにした青年たちの都市体験からつむぎ出される、記憶と空間の文化史。
978-4-642-03701-3　（98.7）

島薗　進著
〈癒す知〉の系譜
—科学と宗教のはざま—（ニューヒストリー近代日本）
四六判　298頁　**2,860円**（2,600）

近代的な医療や科学に限界を感じた人々は、〈癒す知〉＝自然食や心理療法を求めた。正食運動や森田療法は、宗教や霊性と科学の知をいかに融合させようとしたのか。生きがいある生を探ろうとした、もう一つの精神史。
978-4-642-03704-4　（03.3）

若月秀和著
大国日本の政治指導
—1972—1989—（現代日本政治史）
四六判　314頁　**2,310円**（2,100）〈僅少〉

世界屈指の「経済大国」となった日本。列島改造を訴えた田中角栄から、消費税導入を果たした竹下登政権までを分析。個性豊かな7名の宰相たちは、高度成長を遂げ国力の頂点を極めた日本をどのように指導していったのか。
978-4-642-06438-5　（12.3）

古川隆久・森　暢平・茶谷誠一編
「昭和天皇実録」講義
—生涯と時代を読み解く—
A5判　236頁　**1,980円**（1,800）〈僅少〉

昭和天皇のまさに激動の生涯を描いた『昭和天皇実録』。気鋭の研究者10名が、戦前から戦後まで政治、巡幸、日々の生活など多方面からわかりやすく描く。史料的価値と問題点を歴史学の立場から提示した格好の解説書。
978-4-642-08285-3　（15.11）

価格は10％税込、（　）内は本体価格

川平成雄著
沖縄 空白の一年 －1945－1946－
Ａ５判　310頁　**3,080円**（2,800）

鉄と血の嵐が吹き荒れた沖縄戦。米軍は戦争終結後を見据えた戦略があった。必死に生きる住民の姿、焦土の中での経済復興の経過を詳細に描き、謎につつまれた〝空白の一年間〟を解明。「戦後」なき沖縄の原点に迫る。
978-4-642-03801-0　（11.2）

浅井春夫著
沖縄戦と孤児院 ―戦場の子どもたち―
Ａ５判　192頁　**2,420円**（2,200）

沖縄戦で多くの子どもが家族を失い、米軍統治下の孤児院に収容された。苦しい食料事情や衰弱死など、施設の暮らしの実態を解明。占領・統治政策の本質と孤児院運営との関係に触れ、沖縄戦研究の空白テーマに鋭く迫る。
978-4-642-08292-1　（16.3）

野添文彬著
沖縄返還後の日米安保
―米軍基地をめぐる相克―
第38回沖縄研究奨励賞／第2回日本防衛学会猪木正道賞受賞
Ａ５判　256頁　**6,380円**（5,800）

沖縄返還後、なぜ米軍基地の集中化が方向づけられたのか。日米両国の史料や聞き取り調査をもとに、返還前後から80年代の動きを分析。多様に絡み合う要因を追及し、今日まで続く沖縄基地問題の起源に迫る注目の書。
978-4-642-03855-3　（16.8）

山内健治著
基地と聖地の沖縄史
―フェンスの内で祈る人びと―
四六判　238頁　**2,750円**（2,500）

沖縄の米軍基地として接収された地域に含まれる、墓や信仰の対象となる聖地。人びとは現在も米軍の許可を得て、聖地で伝統行事を守り続ける。基地の内と外に存在する多くの神が、戦後いかに祀られてきたのかを描く。
978-4-642-08345-4　（19.3）

田中宏巳著
消されたマッカーサーの戦い
―日本人に刷り込まれた〈太平洋戦争史〉―
四六判　252頁　**3,080円**（2,800）

敗戦直後、アメリカが創り出した〈太平洋戦争史〉は、マッカーサーの島嶼戦が除外されたため、ＧＨＱ内部に対立を招いた。この確執から生じた「マッカーサーレポート」を検証し、今も残る太平洋戦争史の呪縛を解く。
978-4-642-08257-0　（14.8）

貴志俊彦著
日中間海底ケーブルの戦後史
―国交正常化と通信の再生―
四六判　254頁　**2,970円**（2,700）

1976年、戦後初の共同プロジェクトとして、日中間に開通した海底ケーブル。経済体制の違い、先の戦争における傷を抱えながらも、事業の実現に向け尽力した姿を追う。忘れ去られようとしている秘められた海の戦後史。
978-4-642-08267-9　（15.2）

枝村純郎著・中島琢磨・昇　亜美子編
外交交渉回想
―沖縄返還・福田ドクトリン・北方領土―
Ａ５判　316頁　**4,180円**（3,800）〈僅少〉

激動の時代にモスクワに駐在した元大使の回想。沖縄返還、対ＡＳＥＡＮ外交、フォークランド紛争、ソ連崩壊など、自らが関わった戦後外交交渉を振り返り、北方領土や尖閣諸島など、現下の外交問題についても提言する。
978-4-642-03858-4　（16.11）

瀬川高央著
核軍縮の現代史
―北朝鮮・ウクライナ・イラン―
四六判　260頁　**2,090円**（1,900）

東西冷戦後、米ソの中距離核戦力削減、ウクライナや朝鮮半島の非核化交渉、イラン核交渉などによる核軍縮が進んだ。安全保障上の利害の異なる関係諸国が、いかに核拡散の脅威を低減する合意を成立させてきたかを解明。
978-4-642-08362-1　（19.11）

前田哲男・飯島滋明編
Ｑ＆Ａで読む 日本軍事入門
Ａ５判　252頁　**2,420円**（2,200）

これからの日本の平和と安全はどうなるのか。太平洋戦争から今日まで、日本の軍事に関わるさまざまな疑問を、気鋭の執筆者たちが平易に解答。教科書にはない歴史が語られ、〝新たな戦前〟への警鐘を鳴らす格好の手引書。
978-4-642-08254-9　（14.7）

岩本憲児著
「時代映画」の誕生
―講談・小説・剣劇から時代劇へ―
Ａ５判　408頁　**4,950円**（4,500）〈僅少〉

大正末期～昭和初期、時代映画は世相を反映し魅力を開花させていく。時代背景も登場人物も現実からほど遠い時代映画が、なぜ観客を魅了したのか。代表的作品の脚本や映像を分析し、講談・小説・剣劇との関係を探る。
978-4-642-01654-4　（16.7）

坂野　徹著
フィールドワークの戦後史
―宮本常一と九学会連合―
四六判　196頁　**3,080円**（2,800）

戦後、人類学・民俗学・考古学などの学会が結成した〈九学会連合〉。宮本常一らの共同調査から、対馬をめぐる日韓の軋轢や、「日本人」の証明を求めた奄美の人びとの姿を辿り、フィールドワークを戦後史に位置づける。
978-4-642-08082-8　（12.12）

石谷二郎・天野正子著
モノと男の戦後史
四六判　320頁　**3,080円**（2,800）

戦後、日本の社会は大きく変貌し、男をとりまく環境も変った。居場所（喫茶店・書斎）、身体（カツラ・バイアグラ）、表象（スーツ・社章）など、「男であること」を生み出してきたモノを通して描くもうひとつの戦後史。
978-4-642-07990-7　（08.7）

本庄　豊著
児童福祉の戦後史
―孤児院から児童養護施設へ―
A５判　248頁　**3,850円**（3,500）

敗戦後の街にあふれた「浮浪児」たち。彼らを収容した孤児院は、児童養護施設や障がい児施設に変貌していく。近江学園や東光学園などの施設史料を軸に、未解明だった児童福祉の戦後を描き、「家庭」の歴史にも言及する。
978-4-642-03923-9　（23.1）

戦争の本質を学び平和学習・人権教育にいかす
戦争孤児たちの戦後史　全３巻
全巻セット＝ 7,260円（6,600）

浅井春夫・川満　彰編
①総　論　編
A５判　264頁
2,420円（2,200）

戦争孤児の実態を数値や制度上で把握するだけではなく、一人の生の記録として着目。孤児になる経緯・ジェンダーなどの視角を重視し、現代的観点から孤児問題を考える姿勢を提示する。聴き取り調査の手法や年表も掲載。
978-4-642-06857-4　（20.8）

平井美津子・本庄　豊編
②西日本編
A５判　232頁
2,420円（2,200）

戦後、西日本に暮らしていた孤児に着目。孤児救済に尽力した施設や原爆孤児たちのための精神養子運動などの取り組み、大阪大空襲や引揚、沖縄戦における実態を詳述。孤児出身者の原爆体験や路上生活などの証言も紹介。
978-4-642-06858-1　（20.9）

浅井春夫・水野喜代志編
③東日本・満洲編
A５判　268頁
2,420円（2,200）

東京周辺と満洲に暮らした戦争孤児に着目。養育院・上野地下道・残留孤児をキーワードに、児童福祉施設の運営、東京大空襲の被害や引揚の実相などを詳述。文献案内や当事者の証言も収録し、今後の研究課題を展望する。
978-4-642-06859-8　（21.3）

歴史散歩

和田　萃著
歴史の旅 古代大和を歩く
A５判　248頁　原色口絵4　**3,080円**（2,800）

古代より歌に詠まれてきた〝国のまほろば〟大和の魅力を紹介。豊富な写真と味わい深い文章で、ヤマトタケル、三輪山の神など、記・紀の伝承や土地の歴史を描き出す。美しい景色への愛着が注がれた、奈良の歩き方ガイド。
978-4-642-08095-8　（13.11）

峰岸純夫著
歴史の旅太平記の里 新田・足利を歩く
A５判　174頁　**2,090円**（1,900）

鎌倉幕府を倒した、新田義貞と足利尊氏。源氏嫡流の系譜を辿り、武士たちを生み出した風土を探る。多くの石塔、館跡・氏寺などを訪ね歴史のロマンを味わう。詳細な地図と豊富な写真を収めた、歴史散歩のガイドブック。
978-4-642-08052-1　（11.4）

価格は 10％税込、（　）内は本体価格

河内将芳著

歴史の旅 戦国時代の京都を歩く

Ａ５判　168頁　原色口絵4　**2,200円**(2,000)

織田信長が上杉謙信に贈ったという『洛中洛外図屏風』。そこには上京・下京から鴨川を渡り北野まで、約450年前の京都が描きこまれている。上御霊社、祇園祭、五条橋、北野社など、時空を超えた京都への旅が楽しめる。
978-4-642-08101-6　(14.3)

本多隆成著

歴史の旅 東海道を歩く

Ａ５判　240頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

十返舎一九や歌川広重らによって、活き活きと描かれた東海道。その原風景を訪ねて、日本橋から京都まですべての宿場町を完全踏破。宿場の地図と写真を多数収め、東海道の史跡と歴史を学ぶ。街道を旅する手引書に最適。
978-4-642-07972-3　(07.4)

山口　徹著

歴史の旅 甲州街道を歩く

Ａ５判　172頁　**2,090円**(1,900)

日本橋から下諏訪宿に至る甲州街道。新撰組と日野宿、重畳たる山中の甲斐路、風林火山の甲府盆地、信濃路の中山道合流点まで、ロマン溢れる街道を完全踏査。宿場地図・写真を豊富に収めた、街道ハイキングの手引書。
978-4-642-08022-4　(09.6)

飯村　均・室野秀文編

東北の名城を歩く　全2冊

Ａ５判　本文平均298頁　原色口絵各4

弘前城・柳之御所・岩出山城・阿津賀志山防塁…。往時を偲ばせる石垣や土塁、郭の痕跡などが訪れる者を魅了する。東北6県から精選した名城125を、豊富な図版を交えて紹介。最新の発掘成果に文献による裏付けを加える。

北東北編―青森・岩手・秋田―　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08319-5　(17.11)
南東北編―宮城・福島・山形―　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08320-1　(17.9)

飯村　均・室野秀文編

続・東北の名城を歩く　全2冊

Ａ５判　本文平均280頁　原色口絵各4

中里城・八戸城・津谷館・船岡城…。群雄が割拠した往時を偲ばせる空堀や土塁、曲輪が訪れる者を魅了する。東北6県から精選した名城126を、豊富な図版を交えてわかりやすく紹介する、待望の続編。

北東北編―青森・岩手・秋田―　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08402-4　(21.11)
南東北編―宮城・福島・山形―　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08403-1　(21.9)

峰岸純夫・齋藤慎一編

関東の名城を歩く　全2冊

Ａ５判　本文平均310頁　原色口絵各4

関東に今も遺る多くの中世城館跡。天守や櫓こそ無くとも、往時を偲ばせる石垣や土塁、郭の痕跡は訪れる者を魅了する。名城各64を、豊富な図版を交えて紹介。詳細・正確な解説とデータは城探訪の水先案内人として最適。

北関東編―茨城・栃木・群馬―　**2,420円**(2,200)　978-4-642-08056-9　(11.6)
南関東編―埼玉・千葉・東京・神奈川―　**2,530円**(2,300)　978-4-642-08057-6　(11.8)

甲信越の名城を歩く　全3冊

Ａ５判　本文平均284頁　原色口絵各4

新府城・上田城・村上城…。群雄が割拠した往時を偲ばせる土塁や郭などが訪れる者を魅了する中世城館跡。山梨・長野・新潟の3県から精選した名城179を、発掘成果もふまえ、豊富な図版を交えて紹介する。

山梨編…山下孝司・平山　優編　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08288-4　(16.10)
長野編…中澤克昭・河西克造編　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08289-1　(18.1)
新潟編…福原圭一・水澤幸一編　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08287-7　(16.3)

北陸の名城を歩く　全3冊

Ａ５判　本文平均264頁　原色口絵各4

一乗谷城・小浜城・高岡城・富山城…。群雄が割拠した往時を偲ばせる空堀や土塁、曲輪が訪れる者を魅了する。福井・富山・石川の3県から精選した名城174を豊富な図版を交えてわかりやすく紹介。シリーズ待望の北陸編。

福井編…山口　充・佐伯哲也編　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08413-0　(22.7)
富山編…佐伯哲也編　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08411-6　(22.9)
石川編…向井裕知編　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08412-3　(22.12)

東海の名城を歩く　全3冊

Ａ５判　本文平均298頁　原色口絵各4

大垣城・浜松城・犬山城…。群雄が割拠した往時を偲ばせる石垣や曲輪が訪れる者を魅了する。岐阜・静岡・愛知・三重県から精選した名城191を、発掘成果をふまえ、豊富な図版を交えて紹介。

岐阜編…中井　均・内堀信雄編　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08364-5　(19.12)
静岡編…中井　均・加藤理文編　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08365-2　(20.8)
愛知・三重編…中井　均・鈴木正貴・竹田憲治編　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08366-9　(20.3)

仁木　宏・福島克彦編

近畿の名城を歩く　全2冊

Ａ５判　本文平均310頁　原色口絵各4

飯盛山城・三木城・佐和山城・安土城…。往時を偲ばせる石垣や土塁、曲輪の痕跡などが訪れる者を魅了する中世城館跡。6府県から精選した名城159を、最新の発掘成果に文献による裏付けを加えて紹介する。

大阪・兵庫・和歌山編　**2,640円**(2,400)　978-4-642-08264-8　(15.3)
滋賀・京都・奈良編　**2,640円**(2,400)　978-4-642-08265-5　(15.6)

四国の名城を歩く　全2冊

Ａ５判　本文平均280頁　原色口絵各4

能島城・高知城・勝瑞城館・高松城…。群雄が割拠した往時を偲ばせる空堀や土塁、曲輪が訪れる者を魅了する。四国の各県から精選した名城126を、豊富な図版を交えてわかりやすく紹介。シリーズ待望の四国編。

愛媛・高知編…松田直則・日和佐宣正編　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08460-4(24.10)
徳島・香川編…松田直則・石井伸夫・西岡達哉編　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08459-8(24.11)

九州の名城を歩く　全4冊

Ａ５判　本文平均284頁　原色口絵各4

小倉城・佐賀城・熊本城・鉄肥城…。国衆が割拠した往時を偲ばせる空堀や土塁、曲輪が訪れる者を魅了する。福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島県内から精選した名城260を、豊富な図版を交えて平易に紹介。

福岡編…岡寺　良編　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08429-1　(23.3)
佐賀・長崎編…岡寺　良・渕ノ上隆介・林　隆広編　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08430-7　(23.11)
熊本・大分編…岡寺　良・中山　圭・浦井直幸編　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08431-4　(23.6)
宮崎・鹿児島編…岡寺　良・竹中克繁・吉本明弘編　**2,750円**(2,500)　978-4-642-08432-1　(23.9)

上里隆史・山本正昭編

沖縄の名城を歩く

Ａ５判　192頁　原色口絵4　**2,090円**(1,900)

沖縄諸島に遺るグスクは、曲線多用の城壁やアーチ式城門など独特の形態を持つ。沖縄本島だけでなく島嶼部からも精選したグスク46を、図版を交えて紹介。最新の発掘成果に文献による裏付けを加えた、シリーズ沖縄編。
978-4-642-08344-7　(19.3)

吉浜　忍著

沖縄の戦争遺跡

―〈記憶〉を未来につなげる―

Ａ５判　296頁　原色口絵4　**2,640円**(2,400)

米軍との激しい地上戦が行われた沖縄。今も残る数千件の戦争遺跡から厳選し、豊富な写真と現地調査に基づく平易な解説で、沖縄戦の実態に迫る。モノが語りかける戦争の〈記憶〉を辿った、戦跡めぐりに最適な一冊。
978-4-642-08317-1　(17.7)

その他

坂本　稔・中尾七重・国立歴史民俗博物館編

築何年？　―炭素で調べる古建築の年代研究―

（歴博フォーラム）

四六判　208頁　原色口絵4　**2,970円**(2,700)

歴史的建造物の年代調査に、炭素14年代法が大きな成果をあげるようになった。最新の測定法の原理から、宮島や鞆の浦の町家、鑁阿寺本堂など実際の事例、年輪年代法などとの相互検証まで、年代研究の最前線へと誘う。
978-4-642-08270-9　(15.3)

松木武彦・関沢まゆみ編
水と人の列島史 —農耕・都市・信仰—
四六判　270頁　**2,530円**（2,300）

水資源に恵まれた日本列島。水と不可分の関係をもち発展してきた社会と文化の様相を、権力・異界・記憶をキーワードに追究する。古代からの水の利用や治水、各地の信仰や儀礼を分析。水をめぐる多彩な姿を描き出す。
978-4-642-08456-7　（24.9）

国立歴史民俗博物館・花王株式会社編
〈洗う〉文化史 —「きれい」とは何か—
四六判　224頁　**2,420円**（2,200）

私たちはなぜ「洗う」のか。古代から現代にいたるまでさまざまな事例を取り上げ、文献・絵画・民俗資料から分析。精神的な視野も交えて、日本人にとって「きれい」とは何かを考え、現代社会の清潔志向の根源を探る。
978-4-642-08406-2　（22.2）

国立歴史民俗博物館編
生業から見る日本史
—新しい歴史学の射程—（歴博フォーラム）
四六判　304頁　**3,300円**（3,000）

民衆が生き抜くため営んできた生業の実態解明のため、民俗・考古・日本史学による学際的研究が結集。生業の豊かさとたくましさを探る方法論を探りつつ、21世紀の新しい歴史学に求められる〝生業〟を論じ、語り合う。
978-4-642-07987-7　（08.3）

関沢まゆみ・国立歴史民俗博物館編
盆行事と葬送墓制
（歴博フォーラム）
四六判　264頁　原色口絵4　**2,750円**（2,500）

盆行事には、墓地で飲食する地域や死穢の場所として墓参しない地域など、各地で違いがある。また近年、土葬は姿を消した。こうした差異や変化を柳田國男が提唱した比較研究法により分析。伝統の変容の意味を問い直す。
978-4-642-08278-5　（15.7）

国立歴史民俗博物館監修・内田順子編
映し出されたアイヌ文化
—英国人医師マンローの伝えた映像—
A５判　160頁　**2,090円**（1,900）

明治期に来日した英国人医師マンローは、医療の傍ら北海道でアイヌ文化を研究し、記録した。伝統的な儀式「イヨマンテ」、道具や衣服、祈りなどの習俗を映画・写真資料で紹介。アイヌの精神を伝える貴重なコレクション。
978-4-642-08363-8　（20.3）

国立歴史民俗博物館編
被災地の博物館に聞く
—東日本大震災と歴史・文化資料—
A５判　250頁　**2,750円**（2,500）

東日本大震災で大きな被害を受けた地域の歴史・文化資料。それらをいかにレスキューし保全するのか。現場の博物館職員たちが多数の図版を交え現状をレポート。資料の保護に備えるネットワーク構築を呼びかける。
978-4-642-08076-7　（12.3）

伊藤寿朗著
市民のなかの博物館
四六判　208頁　**2,200円**（2,000）

「博物館は市民のものである」著者は市民が創るひらかれた博物館を提唱し、その理論化をめざした。鋭い分析と問題意識につらぬかれた本書は、市民が市民自身の博物館を考えようとするとき、明確な指針となるだろう。
978-4-642-07396-7　（93.4）

新井浩文著
文書館のしごと
—アーキビストと史料保存—
四六判　284頁　**2,200円**（2,000）

文書館で地域の歴史資料を守るアーキビスト（文書館専門職員）。文書館勤務の著者が地域史料の保存・公開などの仕事を解説。現場の視点から今後への展望を提示する。資格取得のテキストにも使える図書館・文書館必備。
978-4-642-08448-2　（24.4）

海野　聡著
建物が語る日本の歴史
A５判　304頁　原色口絵32　**2,640円**（2,400）〈僅少〉

建築物は歴史を語る証人である。国家の威信をかけて建てられた寺院や城郭、人びとが生活した住居など、原始から近代まで各時代の建物で読み解く日本の歴史。社会と建物の関わりに光を当てた、新しい日本建築史入門！
978-4-642-08336-2　（18.8）

海野　聡編
文化遺産と〈復元学〉
—遺跡・建築・庭園復元の理論と実践—
A５判　344頁　**5,280円**（4,800）

失われた歴史遺産を再生する復元はいかに行われるのか。古代から現代における国内外の遺跡や建物、庭園、美術品の復元を検討。文化財・文化遺産の保存・活用が求められるなか、復元の目的や実情、課題に迫る意欲作。
978-4-642-01662-9　（19.12）

浜島一成著
日本建築を作った職人たち
―寺社・内裏の技術伝承―
四六判　210頁　**2,640円**（2,400）
古建築を手がけた職人「木工（もく）」は、伝統技術をいかに保持し今日まで発展させてきたのか。古代から近世に至る造営組織の変遷を追究。東寺・伊勢神宮などで活動した木工の実態に迫り、内裏の大工・木子（こ）氏にも説き及ぶ。
978-4-642-08410-9　（22.5）

小野健吉著
日本庭園の歴史と文化
A５判　200頁　**3,850円**（3,500）
古代の庭園遺構から寺院・貴族・大名らの庭園、そして近代庭園まで。庭園研究の多彩な成果をカラー図版とともに紹介。様々な時代背景や造園意図のもと、豊かな風土の中で育まれた日本庭園の歴史と文化を解き明かす。
978-4-642-01651-3　（15.10）

金指正三著
星占い星祭り　（新装版）
解説＝湯浅吉美
A５判　320頁　**4,180円**（3,800）
古代中国から伝来し、日本独自に展開した星占い・星祭り。災いを除き福を招くべく行われたその実態とは。成立から北極星・北斗七星の崇拝と祭り、天変、妙見信仰、今日の九曜・九星まで、平易に説いた名著を新装復刊。
978-4-642-01674-2　（24.6）

長澤孝三著
幕府のふみくら　―内閣文庫のはなし―
四六判　292頁　**3,630円**（3,300）〈僅少〉
家康の文庫＝紅葉山文庫の流れをくみ、貴重な典籍や古文書が受け継がれてきた内閣文庫。歴史、所蔵資料の特色、収書、保管、補修・防虫、展示会などその姿が明らかになる。図書館・文書館関係者、古書ファン必読の一冊。
978-4-642-08080-4　（12.9）

浜田久美子著
日本史を学ぶための図書館活用術
―辞典・史料・データベース―
四六判　198頁　**1,980円**（1,800）
日本史を初めて学ぶ人に向けて、図書館にある辞典や年表、古代・中世史料の注釈書などの特徴と便利な活用方法をわかりやすく解説。データベース活用法も交えた、学生のレポート作成をはじめ幅広く役立つガイドブック。
978-4-642-08370-6　（20.3）

日本の歴史学界共通の財産。今こそ〈読みなおす〉不朽の名著！

読みなおす日本史　刊行中

奥田　尚著
石の考古学
四六判　254頁　**2,420円**（2,200）
日本各地で採石され古墳の石室や石棺などに使われた石材を比較し、地域性や社会状況を究明。中世寺院の石塔や石燈籠、五輪塔を製作した石工集団や石材の流通も分析。瑪瑙（めのう）や翡翠などの玉（ぎょく）にもふれ、古代日本の謎に迫る。
978-4-642-07523-7　（23.5）

吉田　晶著
卑弥呼の時代
解説＝小笠原好彦
四六判　238頁　**2,420円**（2,200）
邪馬台国が誕生した３世紀。「倭人伝」はじめわずかな文献や考古学の成果により、政治・習俗や社会・組織・生産を詳細に解き明かす。日本最初の国家の成立と全体像を、東アジアの躍動に位置づけてダイナミックに描く。
978-4-642-07115-4　（20.4）

大塚初重著
邪馬台国をとらえなおす
解説＝石川日出志
四六判　224頁　**2,420円**（2,200）
「魏志倭人伝」の記述を踏まえ、鉄器や土器、鏡など各地の発掘成果を集成し、日本列島の社会状況と纒向遺跡・箸墓古墳の位置づけを考察。モノと人の移動の痕跡から、多くの謎を秘めた邪馬台国の手がかりを掘り起こす。
978-4-642-07165-9　（21.8）

松前　健著
神々の系譜　―日本神話の謎―
解説＝平藤喜久子
四六判　262頁　**2,640円**（2,400）
日本神話はいくつもの伝承から成っている。それらはいつ、どこに生まれ、どのように組み込まれたのか。比較神話学・民俗学・歴史学の成果を踏まえ、「国生み」「黄泉国」「出雲」などのテーマを多面的に分析し真相に迫る。
978-4-642-06597-9　（16.2）

上田正昭著
日本の神話を考える
解説＝千田　稔
四六判　192頁　**2,420円**(2,200)

『古事記』『日本書紀』だけが日本の神話ではない。『風土記』や『万葉集』『先代旧事本紀』なども、神話の貴重な断片を伝えている。その全体を東アジアとの関わりも視野に入れて見通し、日本神話の成立と構造を解き明かす。
978-4-642-07110-9　(19.11)

坂本太郎著
史書を読む
解説＝大津　透
四六判　246頁　**2,310円**(2,100)

史書を読むことは歴史の楽しみを知ることである。古代から近代にいたるさまざまな歴史書29編をとりあげ、エピソードを盛り込みながら成立事情やその性格、面白さをわかりやすく紹介。読者を史書の魅力へと誘う名著。
978-4-642-06398-2　(13.10)

水野正好著
島国の原像
補論＝狭川真一
四六判　288頁　**2,640円**(2,400)〈僅少〉

八千年停滞した縄文時代、国家が分立した弥生時代、王権が成立した古墳時代。島国日本の文明の進展を「広場」「溝」「前方後円墳」をキーワードに読み解く。列島文化のなりたちと考古学の魅力を独自の視点で語りかける。
978-4-642-06713-3　(16.5)

門田誠一著
海からみた日本の古代
補論＝門田誠一
四六判　192頁　**2,420円**(2,200)

古墳時代の日本は文字資料が乏しいが、東アジア海域には考古遺物を中心に様々な資料が残されている。渡来人がもたらした装身具や武器・武具、藤ノ木古墳と高句麗の王墓などから、日本の古代の国家、文化を再構築する。
978-4-642-07129-1　(20.10)

白石太一郎著
東国の古墳と古代史
補論＝白石太一郎
四六判　286頁　**2,640円**(2,400)

近畿のヤマト勢力にとって、東国はどのような存在だったのか。西日本と共通する要素を持ちながら、強い独自色を示す東海・関東の古墳からアプローチ。東日本の政治連合の形成、牧と馬の文化など、古代史の謎に迫る。
978-4-642-07515-2　(22.10)

白石太一郎著
近畿の古墳と古代史
補論＝白石太一郎
四六判　270頁　**2,640円**(2,400)

日本列島の古代国家はいかに形成され展開したのか。当時の政治勢力と密接な関係を持って造られ、貴重な情報を秘めた近畿の古墳からアプローチ。倭国の誕生から交通ルート、神まつりなど、日本古代史の謎を解く。
978-4-642-07514-5　(22.9)

千田　稔著
女帝・皇后と平城京の時代
補論＝千田　稔
四六判　248頁　**2,420円**(2,200)

磐余から飛鳥、平城京へと遷都を重ね、6人の女帝と光明皇后が育んだ「ヤマトの時代」。仏教が公伝した欽明朝から称徳天皇まで、海外文化の吸収や律令体制の強化、計画都市など、国家の礎を築いた歴史を描く。
978-4-642-07537-4　(24.6)

古橋信孝著
古代の恋愛生活　―万葉集の恋歌を読む―
補論＝古橋信孝
四六判　286頁　**2,640円**(2,400)

日本古代の婚姻形態を今の価値基準で判断しては、本質を見誤る。『万葉集』を当時の人々の世界観に基づいて読めば、古代の恋愛・結婚は違って見えてくる。何時、どこで、どのように―逢引を具体的に明らかにした名著。
978-4-642-06718-8　(16.10)

金田章裕著
古地図からみた古代日本
―土地制度と景観―
補論＝金田章裕
四六判　246頁　**2,420円**(2,200)

日本は世界でも希有な古代の地図が多く伝存する。それらを現在の地形と照合し、山川・地形・耕地・建物の形態と彩色を分析。文献史料を合わせていかなる意図で描かれているのかを探り、景観と土地計画の実態に迫る。
978-4-642-06725-6　(17.5)

菊池勇夫著
アイヌ民族と日本人
―東アジアのなかの蝦夷地―
補論＝菊池勇夫
四六判　288頁　**2,640円**(2,400)

江戸時代後期、商人資本の蝦夷地開発により変容・解体を迫られるアイヌ社会。古代～近代に至る蝦夷地(アイヌモシリ)の姿を東アジアの視野から見つめ、国家と民族、市場経済と地域、文明と未開の文化意識を考える。
978-4-642-07522-0　(23.3)

工藤雅樹著
蝦夷の古代史
解説＝八木光則
四六判　232頁　**2,420円**(2,200)
古代東北に居住し、独自の生業を営んだ蝦夷。朝廷は軍事や懐柔策を使って支配を試みるも、彼らは族長に率いられ抵抗した。服属に至る過程を追い、蝦夷の起源とアイヌ語地名・マタギ言葉にも独自の見解を提示する名著。
978-4-642-07105-5　(19.6)

新野直吉著
古代日本と北の海みち
補論＝新野直吉
四六判　248頁　**2,420円**(2,200)
日本とアジア大陸との往来には、朝鮮半島の西の海みち、トカラ列島を介した南の海みちの他に、日本海を渡る北の海みちも重要な役割を果した。阿倍比羅夫の遠征、渤海国の使節、交易等から、古代日本の対外関係を考える。
978-4-642-06598-6　(16.3)

木下　良著
道　と　駅
解説＝中村太一
四六判　176頁　**2,420円**(2,200)
古代日本で中央と地方を結ぶために整備された道と、早馬の中継地として設置された駅。交通制度の変化や道路網の発達により、その役割はどのように変化してきたのか。現代まで続く道と駅の歴史をわかりやすく描く通史。
978-4-642-07530-5　(23.10)

中村明蔵著
隼人の古代史
補論＝中村明蔵
四六判　248頁　**2,420円**(2,200)
古代南九州で独自の生業・文化を持って暮らしていた隼人。律令国家の支配にしばしば抵抗し蛮族とされた彼らを、朝廷は懐柔し能力を生かして奉仕させた。都から遠く離れ、南島との交易にも従事した実像を解き明かす。
978-4-642-07103-1　(19.4)

千田　稔著
伊勢神宮 ―東アジアのアマテラス―
補論＝千田　稔
四六判　200頁　**2,420円**(2,200)
1300年以上の歴史をもつ伊勢神宮。祭神アマテラス大神の謎めいた誕生から、道教と神宮、蒙古襲来の「神風」、伊勢参り、植民地の神宮建設、戦後の混乱期における変革までを概観。東アジアへ視野を広げ、その変遷に迫る。
978-4-642-07520-6　(23.1)

木村茂光著
「国風文化」の時代
補論＝木村茂光
四六判　320頁　**2,750円**(2,500)
古代から中世への移行期に栄えた「国風文化」。その担い手である貴族の社会は、この時代にいかなる変化を遂げたのか。都や地方の実態、対外関係などから深層に迫り、「国風文化」を育んだ時代と文化の特質を捉え直す。
978-4-642-07533-6　(24.2)

繁田信一著
呪いの都　平安京
―呪詛・呪術・陰陽師―
補論＝繁田信一
四六判　248頁　**2,420円**(2,200)
貴族の陰湿な望みをかなえるために暗躍する法師陰陽師。呪詛と呪術に生きた彼らとはどのような人々だったのか。呪いあう貴族の怨念を読み解き、平安京の裏の姿を明らかにする。新たに「呪禁師」に関する補論を収載。
978-4-642-07170-3　(22.1)

渡辺守順著
僧兵盛衰記
補論＝渡辺守順
四六判　240頁　**2,420円**(2,200)
白河法皇が、賀茂川の水、双六の賽とならべて意のままにならぬと嘆いた僧兵。彼らは行動を衆議で決め、仏法と本山を守って行動した。民衆としての僧兵集団を再評価し、仏教の護持と発展につくした実態を明らかにする。
978-4-642-06721-8　(17.1)

関　幸彦著
武士の原像 ―都大路の暗殺者たち―
補論＝関　幸彦
四六判　240頁　**2,420円**(2,200)
地方で闘争を繰り返し、あるいは都の治安維持のため活躍した平安時代の武者たち。武士成立以前の「兵(つわもの)」とよばれた彼らの成長と実像を、お伽草子をはじめ虚実が混入する説話や軍記を駆使しながら生き生きと描き出す。
978-4-642-07120-8　(20.9)

上杉和彦著
源頼朝と鎌倉幕府
解説＝西田友広
四六判　254頁　**2,420円**(2,200)
伊豆の流人源頼朝は、いかにして武家の棟梁となり鎌倉幕府を開いたのか。将門の乱から承久の乱までを叙述対象に、東国と源氏の結びつきや在地武士団の自己権益をめぐる闘争を重点に描く。後世の幕府観も論じた名著。
978-4-642-07517-6　(22.8)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

下出積與著
木曽義仲
解説＝長村祥知
四六判　224頁　**2,420円**(2,200)

以仁王の令旨を得て木曽で挙兵した義仲。北陸を席巻し平氏を都から追い払うが、後白河法皇に厭まれ頼朝の派遣軍に敗れた。時代に翻弄された悲劇の生涯を、『平家物語』諸本に光を当てつつ北陸の武士や地理と併せ描く。
978-4-642-06719-5　(16.11)

永積安明著
平家物語を読む　―古典文学の世界―
解説＝小峯和明
四六判　176頁　**2,420円**(2,200)

琵琶法師たちに語られ流布した軍記物『平家物語』には、危機にみちた日常を生き抜いていった人びとが数多く登場する。そのなかから10人を選び出し、彼らを中心とする人間模様を通して作品を読み解き、その魅力に迫る。
978-4-642-07317-2　(22.2)

細川涼一著
平家物語の女たち　―大力・尼・白拍子―
補論＝細川涼一
四六判　200頁　**2,420円**(2,200)

男の合戦を描く『平家物語』には、魅力的な女性も多く登場する。男勝りの武者巴、白拍子祇王、義経の愛妾静、悲劇の女房小督、平家を弔う建礼門院など、彼女らの背後にある歴史事象から、描かれたイメージを読み解く。
978-4-642-06756-0　(17.12)

田端泰子著
女人政治の中世　―北条政子と日野富子―
補論＝田端泰子
四六判　208頁　**2,420円**(2,200)

鎌倉・室町・戦国の武士階級の女性たちは、政治にどれほどの権限を持ち、いかに関わっていたのか。北条政子、日野富子、北政所おねなどの「女人政治」から社会における地位と役割をとらえなおし、中世女性の実像に迫る。
978-4-642-07512-1　(22.5)

酒井紀美著
夢語り・夢解きの中世
補論＝酒井紀美
四六判　192頁　**2,420円**(2,200)

中世において、夢は現実であり未来だった。人びとは夢の告げを信頼して行動の指針、生きる目標とした。夢を見ることに努め、夢を語りあった。日記や物語などに登場する夢の話を読み解き、中世の心象風景を描き出す。
978-4-642-07160-4　(21.3)

安田元久著
武蔵の武士団　―その成立と故地を探る―
解説＝伊藤一美
四六判　192頁　**2,420円**(2,200)

源頼朝による武家政権創設の鍵となったのが、武蔵武士の動向だった。彼らの支持を得て幕府の拠点を鎌倉に据え、その主力が平家を滅亡させた。畠山重忠、熊谷直実ら代表的な武士の実像を解明し、鎌倉幕府の原風景を探る。
978-4-642-07113-0　(20.2)

永井　晋著
鎌倉幕府の転換点
―『吾妻鏡』を読みなおす―
補論＝永井　晋
四六判　220頁　**2,420円**(2,200)

鎌倉幕府の歴史は、正史『吾妻鏡』にいかに叙述されているのか。源平合戦、御家人の抗争、北条氏の権力確立などを年代順に辿り、『吾妻鏡』の記述と京都の公家・寺院の記録を比較検証。何が事実であったかを読み解く。
978-4-642-07108-6　(19.9)

小泉宜右著
悪　党
解説＝新井孝重
四六判　224頁　**2,420円**(2,200)〈僅少〉

鎌倉時代後期、荘園や流通拠点に現れた体制に逆らう集団であった悪党。年貢や関銭を横領し、武装して幕府や荘園領主、朝廷や寺社本所と抗争を続けた彼らの発生場所、出自、活動の実態を描き、歴史的役割を考える名著。
978-4-642-06577-1　(14.6)

黒嶋　敏著
海の武士団　―水軍と海賊のあいだ―
補論＝黒嶋　敏
四六判　240頁　**2,420円**(2,200)

中世日本の浦々には、海賊・水軍などと呼ばれナワバリを生活基盤とする〈海の勢力〉が存在した。彼らは武士の世でいかなる存在だったのか。武家政権に重用されるも、戦国乱世に巻き込まれ、やがて姿を消すまでを描く。
978-4-642-07169-7　(21.12)

笹本正治著
鳴動する中世　―怪音と地鳴りの日本史―
補論＝笹本正治
四六判　256頁　**2,420円**(2,200)

山の音、石の鳴き声、城跡の鶏鳴、寺社や墓の鳴動…。中世人はこうした不思議なできごとを神仏や祖先からの啓示と考えた。古文書・記録や伝承から、彼らが体感した“音”を再現し、失われた日本人の心性を考える。
978-4-642-07130-7　(20.11)

奥富敬之著
天皇家と源氏 ―臣籍降下の皇族たち―
解説＝新井孝重
四六判　224頁　**2,420円**(2,200)

日本を代表する四姓(源平藤橘)のうち、天皇家を出自とする源氏。武家政権を創始した清和源氏をはじめ、21流の系譜と発展の跡を詳細に解説。同じ天皇家から出た平氏4流についても触れる。氏族や系図研究に必読。
978-4-642-07114-7　(20.3)

網野善彦・笠松宏至著
中世の裁判を読み解く
補論＝笠松宏至
四六判　300頁　**2,750円**(2,500)

中世の訴訟の判決を記した「裁許状」からは、当時の法や制度はもとより、多様な人間関係や社会・生活・生業などが読み取れる。鎌倉時代の二つの裁許状を取り上げ、条文を一条ずつ読み解きながら中世世界へと誘う対談集。
978-4-642-07521-3　(23.2)

榎原雅治著
中世の東海道をゆく
―京から鎌倉へ、旅路の風景―
補論＝榎原雅治
四六判　240頁　**2,420円**(2,200)

街道が整備された近世と違い、山や河原、海際をたどる中世の旅は過酷だった。貴族の旅日記を主軸に、地理学・地震学・地質学や潮の干満の研究成果も活かし、当時の景観を復元。地形改変に挑む人々の営みにも触れる。
978-4-642-07101-7　(19.2)

伊藤喜良著
後醍醐天皇と建武政権
補論＝伊藤喜良
四六判　192頁　**2,420円**(2,200)

不徳の天皇・聖王・異形の王権―。後醍醐天皇ほど歴史的評価の揺れ動いた人物はいない。その実体はどうであったのか。行動と政策を検討し、目指した公武政権が3年で潰えた原因を、東アジア世界も視野に入れて考える。
978-4-642-07162-8　(21.5)

佐藤和彦著
太平記の世界 ―列島の内乱史―
解説＝樋口州男
四六判　256頁　**2,420円**(2,200)

天皇・貴族・武士から庶民まで、すべての人々が動乱に巻き込まれた南北朝時代。後醍醐天皇・足利尊氏・楠木正成・夢窓疎石・佐々木道誉・足利義満ら、主役を演じた人物の行動と生き様から、新しい歴史の動きを描き出す。
978-4-642-06584-9　(15.1)

国文学研究資料館編・小川剛生著
南北朝の宮廷誌 ―二条良基の仮名日記―
補論＝小川剛生
四六判　240頁　**2,420円**(2,200)

南北朝時代の北朝の関白で、連歌の名手二条良基。その仮名日記は荒廃した朝廷を復興し、新たな公武関係を構築しようと苦闘する姿を映し出す。3つの作品を文学と政治両面から読み解き、もう一つの南北朝動乱期を描く。
978-4-642-07163-5　(21.6)

河合正治著
足利義政と東山文化
解説＝木下　聡
四六判　192頁　**2,420円**(2,200)

政治に意欲を示すものの、近親や有力守護を抑えられず応仁の乱を招いた足利義政。一方で銀閣に見られる書院造や作庭、室礼など、現代につながる芸能・文化の支援者でもあった。時代の転換点に翻弄された生涯を描く。
978-4-642-06720-1　(16.12)

小川　信著
山名宗全と細川勝元
解説＝岡野友彦
四六判　232頁　**2,420円**(2,200)

中盤戦の打込みで一挙に勢力を張る山名宗全と確実な布石で大模様をねらう細川勝元。対照的な両雄が対決した日本史上最大の内戦＝応仁の乱を、将軍足利義政とその近臣、東西両軍の武将たちの人物像を交えて描いた名著。
978-4-642-06399-9　(13.11)

井上鋭夫著
謙信と信玄
解説＝池　享
四六判　278頁　**2,530円**(2,300)

越後の上杉謙信と甲斐の武田信玄。戦国時代の英雄として、後世の軍記物に描かれた以外、その実像は知られていない。川中島合戦の真実や、伝説の参謀の実在性、天下人になれなかった理由などを、実証的に追究した名著。
978-4-642-06385-2　(12.9)

小島道裕著
城と城下 近江戦国誌
補論＝小島道裕
四六判　278頁　**2,640円**(2,400)

滅び去った城館趾に人は魅せられる。環濠集落や土塁囲みの館城から、戦国大名の城下町や信長の安土まで。近江に残るさまざまな城館遺構を訪ね、地形・史料・伝承をもとに、人々の営みと失われた戦国社会の姿に迫る。
978-4-642-06768-3　(18.11)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

高橋慎一朗著
武士の掟 ―中世の都市と道―
補論＝高橋慎一朗
四六判　160頁　**2,200円**(2,000)
中世武士たちは、自ら支配する都市にさまざまな掟(おきて)を作って出した。なかでも「道」にまつわるものが多かったのはなぜなのか。道路掃除の掟からは、支配者たちの道路へのこだわりと、目指した都市のすがたが見えてくる。
978-4-642-07644-9　(24.6)

永原慶二著
中世動乱期に生きる
―一揆・商人・侍・大名―
解説＝池　享
四六判　222頁　**2,420円**(2,200)
南北朝内乱や戦国争乱など、動乱に明け暮れするも、民衆と地域が歴史上新しい意味をもって登場する時代。農民や商人、女性など、さまざまな人々が自律性を強め、地域経済が発達した中世後期の社会の諸相を明快に語る。
978-4-642-07527-5　(23.8)

藤木久志著
飢餓と戦争の戦国を行く
解説＝清水克行
四六判　264頁　**2,420円**(2,200)
中世社会を頻繁に襲う旱魃(かんばつ)・長雨・飢饉・疫病などの災害。さらに物資・人員の略奪や殺害などの戦争被害。過酷な環境で人々はいかに生き抜いたのか。実態を克明に探り、民衆に焦点をあてた豊かな歴史像を提示する。
978-4-642-06763-8　(18.6)

盛本昌広著
境界争いと戦国諜報戦
補論＝盛本昌広
四六判　256頁　**2,420円**(2,200)
戦国大名・国衆の戦いは、支配領域の「境目」をめぐって繰り広げられた。地形・地質の特徴を踏まえ、境目の防衛戦略と築城、境目を脅かす忍び(草)の軍勢のゲリラ戦・諜報活動から、合戦の知られざる特質を見抜く。
978-4-642-07164-2　(21.7)

盛本昌広著
軍需物資から見た戦国合戦
補論＝盛本昌広
四六判　216頁　**2,420円**(2,200)
合戦は兵士や人夫など人的資源の他に、城や柵を作る木材、矢や槍の材料の竹など、物的資源も必要となる。戦国大名はそれらをいかに調達し、かつ森林資源の再生を試みたのか。エコにも通じる行動から合戦の一側面を探る。
978-4-642-07112-3　(20.1)

三鬼清一郎著
鉄砲とその時代
補論＝三鬼清一郎
四六判　238頁　**2,310円**(2,100)
南蛮より伝来した鉄砲とキリスト教は、戦国の社会に大きな影響を与えた。信長・秀吉と天皇の関係、織豊政権下の武将、民衆や文化に光を当て、〝近世のあけぼの〟を描き出した名著。書き下ろしの「終章」を増補する。
978-4-642-06383-8　(12.7)

谷口克広著
信長と家康の軍事同盟
―利害と戦略の二十一年―
補論＝谷口克広
四六判　256頁　**2,420円**(2,200)
戦国群雄にとって、裏切りや謀反は当たり前で、信義関係など成り立たない時代。織田信長と徳川家康の同盟は、本能寺の変まで21年続いた。同盟が維持された理由と実体を解き明かし、天下統一につながる動きに迫る。
978-4-642-07111-6　(19.12)

桐野作人著
本能寺の変の首謀者はだれか
―信長と光秀、そして斎藤利三―
補論＝桐野作人
四六判　288頁　**2,420円**(2,200)
「ときは今…」を詠んだ謀叛の3日前、まだ信長襲撃を決断していなかった光秀が、なぜ本能寺の変を起こしたのか。近年重要視される四国説や明智家家老の斎藤利三の実像を探り、謀叛決行の真相に迫った話題の書。
978-4-642-07131-4　(20.12)

齋藤慎一著
戦国時代の終焉
―「北条の夢」と秀吉の天下統一―
補論＝齋藤慎一
四六判　240頁　**2,420円**(2,200)
天正12(1584)年、北関東の領主連合軍と北条氏が下野国南部沼尻で激突。北条氏の関東覇権が成就するかに見えたが、時代は戦乱でなく天下統一に遷(うつ)っていた。合戦の詳細と、秀吉・家康の行動から時代を読み解く。
978-4-642-06770-6　(19.1)

足利健亮著
地理から見た信長・秀吉・家康の戦略
解説＝金田章裕
四六判　230頁　**2,420円**(2,200)
琵琶湖畔安土に壮大な天主を建てた信長。京都に聚楽第・お土居を築き、伏見城を構えた秀吉。関東に入部すると迷わず江戸に本拠を移した家康。彼らはなぜその地を選んだのか。地図や地形から検討し、戦略を読み解く。
978-4-642-06596-2　(16.1)

染谷光廣著
秀吉の手紙を読む
解説＝鴨川達夫
四六判　248頁　**2,310円**(2,100)
天下人秀吉の手紙24通を、写真入りで平易に紹介。自身の筆跡や家族への手紙などから秀吉の人柄を知り、本能寺の変・清洲会議・小田原陣中などの書状から時代を読み解く。史料を読み歴史を知る楽しみへと誘う好著。
978-4-642-06395-1　(13.7)

二木謙一著
秀吉の接待
―毛利輝元上洛日記を読み解く―
補論＝二木謙一
四六判　288頁　**2,640円**(2,400)
天正16年、"西国の雄"毛利輝元は関白秀吉に臣従の礼をとるべく上洛した。随行した家臣の旅日記を読み解き、上洛大名の生活や風俗、京都・大坂の状況などから、記録が少ない天正期の豊臣政権と秀吉の実像に迫る。
978-4-642-07526-8　(23.7)

松原信之著
朝倉氏と戦国村一乗谷
四六判　232頁　**2,420円**(2,200)
応仁の乱で活躍して主家から自立し、有力な戦国大名となった越前朝倉氏。一乗谷を拠点に合理的な分国法を制定して国内を支配し、和歌・連歌・古典にも精通したが信長に滅ぼされる。残された史料を博捜して実像に迫る。
978-4-642-06722-5　(17.2)

佐藤憲一著
伊達政宗の素顔
―筆まめ戦国大名の生涯―
補論＝佐藤憲一
四六判　224頁　**2,420円**(2,200)
戦国末期、自らの考え・意思で道を切り開き仙台藩62万石を築いた伊達政宗。武将・文化人としての事跡を、「筆武将」とさえいわれる数多くの自筆書状をもとに詳述する。人情あふれる書状から政宗の素顔がよみがえる。
978-4-642-07119-2　(20.9)

高橋富雄著
陸奥伊達一族
解説＝高橋　充
四六判　214頁　**2,420円**(2,200)
「独眼竜」政宗の時に奥羽の大半を従え、半ば独立王国を築いた伊達氏。鎌倉時代から南北朝・戦国を勝ち抜き、天下人とわたりあい大藩を維持。伊達騒動を経て戊辰戦争で敗れるまで、東北史に欠かせない一族の盛衰史。
978-4-642-06764-5　(18.7)

米原正義著
出雲尼子一族
解説＝諏訪勝則
四六判　286頁　**2,420円**(2,200)
出雲守護代から力を蓄え、一代の英傑経久の時に下剋上して11ヵ国を制した尼子氏。その発展の過程と、大内・毛利氏との全面戦争、山中鹿介らの奮戦むなしく滅亡するまでの歴史を、軍記物の虚像を排して描いた名著。
978-4-642-06591-7　(15.8)

河合正治著
安芸毛利一族
解説＝岸田裕之
四六判　284頁　**2,640円**(2,400)
尼子・大内を滅ぼし、戦国の中国地方に覇を唱えた毛利氏。その姓を初めて名乗った鎌倉期から、関ヶ原合戦にいたる一族の歴史を辿る。一代の英雄元就が厳島合戦で見せた作戦や、一族結束を命じる三子教訓状にも触れる。
978-4-642-06582-5　(14.11)

今村義孝著
蒲生氏郷
解説＝矢部健太郎
四六判　244頁　**2,420円**(2,200)
近江の土豪から頭角をあらわし、信長・秀吉のもとで才能を発揮。徳川・毛利に次ぐ広大な領地を有する大大名にいたるも急逝した氏郷の生涯を辿る。キリシタン大名、利休七哲としての交友や、伊達政宗との関係も検証。
978-4-642-06586-3　(15.3)

外山幹夫著
大村純忠
解説＝本馬貞夫
四六判　256頁　**2,420円**(2,200)
肥前国の戦国大名。有馬氏から養子に入り家督を継ぐ。領国支配に苦悩しつつ宣教師より洗礼を受け、日本最初のキリシタン大名となる。天正遣欧使節を派遣し、長崎を開港してその発展の礎を築いた波乱万丈の生涯を描く。
978-4-642-07513-8　(22.6)

岡田章雄著
キリシタン大名
解説＝五野井隆史
四六判　218頁　**2,420円**(2,200)
戦国時代末期、西洋文物とともに伝来したキリスト教。多くの武将が入信した動機とは何か。また厳しい戦国の世を生きぬく上でいかなる意味を持ったのか。統一権力に抑圧され、追放される過程から彼らの思いを読み解く。
978-4-642-06589-4　(15.5)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

脇田晴子著
中世京都と祇園祭
―疫神と都市の生活―
解説＝京樂真帆子
四六判　248頁　**2,420円**(2,200)

華麗な神輿渡御と豪壮な山鉾巡行で京都に夏の訪れを告げる祇園祭。都市から疫病を退散させ人々の生活を守る目的で始まり、祭りの形式は全国の先駆けとなった。中世戦乱を乗り越え今日まで、千年続く歴史を描き出す。
978-4-642-06715-7　(16.7)

村井益男著
江戸城 ―将軍家の生活―
解説＝松尾政司
四六判　238頁　**2,420円**(2,200)

太田道灌が築城し、徳川家康の天下普請により完成した江戸城。中世以来6度も主を変えつつ豪族館から近世城郭へ発展を遂げ、今も皇居として維持し続ける名城の800年を平易に解説。城内の諸役所や生活も描いた名著。
978-4-642-07167-3　(21.10)

藤野　保著
徳川幕閣 ―武功派と官僚派の抗争―
解説＝高野信治
四六判　256頁　**2,420円**(2,200)

約260年におよぶ強力かつ長期にわたった徳川幕府権力の基礎は、いかに確立していったのか。家康から家綱まで、各将軍をめぐる側近政治家の群像に光をあて、多彩な行動や権力・派閥抗争を分析し、初期幕政史を解明。
978-4-642-07534-3　(24.2)

小和田哲男著
春日局 ―知られざる実像―
補論＝小和田哲男
四六判　256頁　**2,420円**(2,200)

徳川三代将軍家光の乳母から傅役となり、大奥を統率して権勢をふるった春日局。運命を変えた本能寺の変と流浪からの乳母抜擢、家光・忠長兄弟の確執やその妹和子の入内、上洛で果たした役割まで、謎多き生涯に迫る。
978-4-642-07518-3　(22.11)

深井雅海著
江戸城御庭番 ―徳川将軍の耳と目―
補論＝深井雅海
四六判　220頁　**2,420円**(2,200)〈僅少〉

徳川吉宗が創設し、幕府の隠密として知られる御庭番。将軍直属の情報収集機関で、老中以下の行政機構に対抗し、幕政の主導権を握る際の重要な手段として機能した。俗説を廃し確実な史料から活動の実態を解き明かす。
978-4-642-06769-0　(18.12)

国文学研究資料館編・大友一雄著
江戸幕府と情報管理
補論＝大友一雄
四六判　192頁　**2,420円**(2,200)

「文書による支配」が確立した江戸時代、巨大組織の幕府は情報をどう管理していたのか。幕臣大岡忠相の日記などから、寺社奉行・奏者番の情報管理における組織的・個人的取り組みを解明。アーカイブズ学研究の必読書。
978-4-642-07678-4　(24.10)

岡崎寛徳著
鷹と将軍 ―徳川社会の贈答システム―
補論＝岡崎寛徳
四六判　240頁　**2,420円**(2,200)

徳川将軍が限られた大名へ下賜した「御鷹」は、権威と忠誠の表象として珍重された。家康・綱吉・吉宗ら歴代将軍の鷹狩や鷹贈答の実態、伝統技芸を支えた鷹匠・若年寄の動向などから、鷹による徳川支配の様相を描く。
978-4-642-07535-0　(24.4)

鬼頭　宏著
環境先進国・江戸
補論＝鬼頭　宏
四六判　218頁　**2,310円**(2,100)

人口を抑制しながら、生活水準を向上させていった江戸時代の日本。限られた資源を有効活用し、森林を育成、環境にやさしい成熟した社会を実現させた。リサイクルなど、現在にも通じる地球との共存を探った先見的名著。
978-4-642-06386-9　(12.10)

林屋辰三郎著
角倉素庵
解説＝佐野方郁
四六判　242頁　**2,420円**(2,200)

父了以の高名に隠れているが、近世の経済や文化の発展に多大な役割を果たした素庵。朱印船による交易や大堰川・高瀬川開鑿、藤原惺窩・林羅山との朱子学研究、華麗な嵯峨本刊行など、卓越した業績と清楚な生涯を辿る。
978-4-642-06727-0　(17.7)

柴田　純著
江戸武士の日常生活
―素顔・行動・精神―
補論＝柴田　純
四六判　288頁　**2,640円**(2,400)

家格や身分にしばられ、滅私奉公が貫徹されていたとする通俗化された近世の武士社会のイメージを再考。彼らの思想と行動の原点といえる日々の生活を日記から具体的に描き出し、個性あふれる新たな武士像に迫る。
978-4-642-07525-1　(23.6)

大森映子著
お家相続 ―大名家の苦闘―
補論＝大森映子
四六判　220頁　**2,420円**(2,200)

江戸時代、大名家は世襲で受け継がれるが、後継者がいないとその家は取りつぶされる。突然の事態に関係者はどのように対処したのか。幕府の公的な記録に表れない不自然な事例から、存続をかけた大名家の苦労を探る。
978-4-642-06766-9　(18.9)

小林清治著
伊達騒動と原田甲斐
解説＝難波信雄
四六判　198頁　**2,420円**(2,200)

江戸の3大お家騒動「伊達騒動」。事件を脚色した歌舞伎「伽羅先代萩」では悪役の仙台藩重臣原田甲斐だが、山本周五郎の小説『樅ノ木は残った』では忠臣とされた。真相はどうだったか。史料を丹念に読み解き史実に迫る。
978-4-642-06595-5　(15.12)

竹内　誠著
元禄人間模様 ―変動の時代を生きる―
解説＝深井雅海
四六判　184頁　**2,420円**(2,200)

元禄文化という大輪の花を咲かせた太平謳歌の時代。経済が伸長し、弓馬より忠孝を重んじるなど、大きな転換期を迎えた武士や町人たちの社会に光を当て、その浮き沈みが映し出す多彩な人間像をあざやかに描いた名著。
978-4-642-07645-6　(24.7)

永原慶二著
富士山宝永大爆発
解説＝北原糸子
四六判　246頁　**2,420円**(2,200)

宝永4年(1707)、富士山は620年ぶりに大噴火を起こした。山麓の村はテフラに埋もれ、酒匂川が洪水を起こして足柄平野の村を押し流した。生産・住居など生きる手段を失った住民たちの生活復興への戦いを描く。
978-4-642-06592-4　(15.9)

西山松之助著
江戸庶民の四季
解説＝熊倉功夫
四六判　208頁　**2,420円**(2,200)

平和が長く続いた江戸時代、庶民はどのように暮らしていたのか。絵画資料を交えながら当時の生活文化を追体験。年中行事や信仰生活、花見や祭りを楽しむ姿を、文人歴史家が分かりやすい語り口で生き生きと描き出す。
978-4-642-07532-9　(24.1)

源　了圓著
佐久間象山
解説＝坂本保富
四六判　248頁　**2,420円**(2,200)

幕末、開国と海防を訴え、西欧近代科学の積極的な受容を主張した時代の先覚者。その生涯を50のエピソードで辿り、思想と行動をわかりやすく描く。人間性や生き方の視座から、個性豊かな実像を浮き彫りにした名著。
978-4-642-07516-9　(22.7)

佐々木　克著
坂本龍馬とその時代
解説＝落合弘樹
四六判　224頁　**2,420円**(2,200)

最も有名な幕末の志士・坂本龍馬。薩長同盟・船中八策・大政奉還など、さまざまな功績を遺したとされているが、実際には何を成し遂げたのか。日本近現代史の大家が史料に基づきその実像に迫った決定版、待望の復刊！
978-4-642-07349-3　(22.3)

佐々木　克著
江戸が東京になった日
―明治二年の東京遷都―
解説＝勝田政治
四六判　192頁　**2,420円**(2,200)

明治維新で江戸は「東京」と定められ、新たな首都となった。新政府はどのように遷都を構想し、実行したのか。大坂遷都論、東西両都論、天皇の行幸と新時代の演出…。日本特有の首都成立の事情を分かりやすく描く。
978-4-642-07536-7　(24.5)

角山　榮著
「通商国家」日本の情報戦略
―領事報告をよむ―
四六判　240頁　**2,420円**(2,200)〈僅少〉

開国後、日本は先進国の工業製品に対抗し、輸出拡大の必要に迫られた。市場開拓のため、各国駐在領事は情報を積極的に収集し政府へ報告した。市場調査を怠った大国を尻目に、貿易拡大に成功した先人の努力と戦略を描く。
978-4-642-06758-4　(18.2)

安田　浩著
天皇の政治史 ―睦仁・嘉仁・裕仁の時代―
解説＝茶谷誠一
四六判　304頁　**2,750円**(2,500)

大日本国帝国憲法下の天皇制は、立憲君主として臣下の補弼により統治を総覧するとされた。だが実際は天皇自身も政策に介入することがあり、内閣・軍部も天皇を利用した。史料を深く読み込み、天皇三代の実態に迫る。
978-4-642-07106-2　(19.7)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

田中宏巳著
東郷平八郎
補論＝田中宏巳
四六判　262頁　**2,640円**(2,400)
日本海海戦でロシアのバルチック艦隊を撃破し、世界的名声を得た東郷平八郎。その後29年間も、海軍だけでなく陸軍も含めた軍部の重鎮として活躍し、近代日本に影響を与え続けた東郷の実像と史実に鋭く迫った名著。
978-4-642-06400-2　(13.12)

外山三郎著
日本海軍史
解説＝手嶋泰伸
四六判　246頁　**2,310円**(2,100)
明治維新後、富国強兵を目指し創設された日本海軍。日本海海戦の勝利で世界的名声を得て3大海軍国と呼ばれるが、太平洋戦争で壊滅した。かずかずの海戦の戦術・戦略から勝因や敗因を分析し、80年の歴史を描く名著。
978-4-642-06397-5　(13.9)

野村　實著
日本海海戦の真実
解説＝影山好一郎
四六判　208頁　**2,420円**(2,200)
日露戦争の帰趨を決定した日本海海戦。その勝因はバルチック艦隊の進路を予測し、丁字戦法によって迎撃できたからというのが定説であった。その後発見された海軍極秘資料から再検討を加え、海戦の舞台裏を解明する。
978-4-642-06717-1　(16.9)

森松俊夫著
大本営
解説＝戸部良一
四六判　238頁　**2,420円**(2,200)
戦争に際して、政府と軍部、陸軍と海軍、中央と出先の利害を調整し、国家が一丸となって対処するべく設置された大本営。日清・日露戦争、日中戦争においていかに機能したのか、組織と運営の変容の歴史を分析した名著。
978-4-642-06396-8　(13.8)

竹山昭子著
戦争と放送
補論＝竹山昭子
四六判　288頁　**2,640円**(2,400)〈僅少〉
ラジオ放送は1925年、開始と同時に政府の統制下に置かれ、国策通信社が配信する情報をそのまま放送した。原爆などの不都合な情報を秘され、政府の指導に従う国民。戦時期の情報操作に果たした放送の役割を解明。
978-4-642-06757-7　(18.1)

古川隆久著
皇紀・万博・オリンピック
―皇室ブランドと経済発展―
補論＝古川隆久
四六判　256頁　**2,420円**(2,200)
西暦1940年、天皇即位から2600年たったとして、政府は橿原神宮の整備、万国博覧会開催、オリンピック招致などを計画した。国威発揚と経済発展を目指した計画の実行過程を検証し、戦後に残る遺産や影響も考える。
978-4-642-07116-1　(20.5)

楠　精一郎著
昭和の代議士
解説＝古川隆久
四六判　208頁　**2,420円**(2,200)
戦前から活躍し、敗戦をくぐり抜け戦後も存続した代議士と呼ばれる政党政治家たち。要職登用をめぐる親分子分関係、盟友や政敵など、人間臭い権力闘争に政治家の本質を探り、昭和戦前期から講和後にいたる政治史を描く。
978-4-642-07519-0　(22.10)

豊田　武著
苗字の歴史
解説＝田代　脩
四六判　204頁　**2,310円**(2,100)
自分の苗字(名字)にはどのような意味や由来があり、どこにいかに分布しているのかを知りたいと思う人は多い。苗字の起こりから近代の苗字公称まで、中世史の泰斗がやさしく解説した「苗字の歴史」入門、待望の復刊。
978-4-642-06384-5　(12.8)

奥富敬之著
日本人の名前の歴史
解説＝新井孝重
四六判　280頁　**2,640円**(2,400)
日本人の姓は天皇から与えられた。同姓集団が拡大するなかで、地名や官職名などから名字が生まれた。実名(諱)は憚られ、役職・兄弟順などで呼ばれた。苗字・名前のルーツと多様な展開をわかりやすく軽妙に叙述する。
978-4-642-06765-2　(18.8)

荻野三七彦著
姓氏・家紋・花押
解説＝小和田哲男
四六判　280頁　**2,640円**(2,400)
自筆を証明する花押(書き判)。敵味方を区別する武士の旗印や家を誇る家紋。言い伝えでなく史実から探る姓氏・系図。これらを踏まえ、文書の真偽を検討する方法など、古文書を読み説くための要点を平易にまとめた名著。
978-4-642-06581-8　(14.10)

内田正男著
暦の語る日本の歴史
解説＝湯浅吉美
四六判　198頁　**2,310円**(2,100)

国家支配の基本となる暦。6世紀に中国から伝来するが、天体運動との差が生じやすく、太陰暦は改暦を必要とした。やがて日本独自の暦が作られるなど、〝暦〟に携わった天文研究者たちの活躍を辿り、歴史の真実に迫る。
978-4-642-06390-6　(12.12)

阿辻哲次著
漢字の社会史
―東洋文明を支えた文字の三千年―
補論＝阿辻哲次
四六判　240頁　**2,310円**(2,100)

漢字は中国語を表記する文字でありながら、今日まで日本人の言語生活・文字文化に絶大な影響を与え続ける。漢字への人間の関わりを軸に、成立から現在までの漢字の歴史を、豊富なエピソードを交えながら述べた名著。
978-4-642-06389-0　(13.1)

築島　裕著
古代日本語発掘
解説＝沖森卓也
四六判　200頁　**2,420円**(2,200)

古代の日本語は、中国より伝わった漢字で表記されたが、実際はどのように読まれてきたのか。漢文を読解する際に付された訓点(返り点、読み仮名)を集成して検討し、ヲコト点や仮名なども含めて歴史的実態に迫る名著。
978-4-642-07149-9　(21.2)

築島　裕著
歴史的仮名遣い ―その成立と特徴―
解説＝月本雅幸
四六判　218頁　**2,420円**(2,200)

昭和21年、「現代かなづかい」が公布されるまで使われていた「歴史的仮名遣い」。それはどのように成立したのか。いろは歌から定家仮名遣い、近世の研究、明治政府の統一基準の作成まで、日本語表記の歴史をたどる。
978-4-642-06573-3　(14.2)

村上重良著
日本の宗教 ―日本史・倫理社会の理解に―
解説＝島薗　進
四六判　198頁　**2,420円**(2,200)

古来、日本では400を越える多彩な宗教が展開し豊かな文化を形成してきた。原始信仰から仏教、神社神道、儒教、キリスト教、近代の新宗教まで、個々の宗教の成り立ちと教えを解説。歴史の歩みと現在の状況を考える。
978-4-642-07117-8　(20.6)

頼富本宏著
空海と密教
―「情報」と「癒し」の扉をひらく―
四六判　232頁　**2,420円**(2,200)

平安時代に真言密教を大成した弘法大師空海。誕生から出家、唐での密教伝授、帰朝後の真言宗確立、入定に至るまで、波乱と情熱の生涯をいかに送ったのか。「情報」と「癒し」の視点から思想と行動を探り、その姿に迫る。
978-4-642-07524-4　(23.4)

速水　侑著
弥勒信仰 ―もう一つの浄土信仰―
解説＝小原　仁
四六判　224頁　**2,420円**(2,200)

かつて阿弥陀信仰とならび浄土信仰の一翼を形成していた弥勒信仰。インドで成立し中国・朝鮮を経て伝来した日本でいかに展開したのかを、法然・親鸞の浄土教確立までを中心に描き、民衆の心をとらえ続けた歴史に迫る。
978-4-642-07528-2　(23.9)

景山春樹著
比叡山と高野山
解説＝嵯峨井　建
四六判　254頁　**2,420円**(2,200)

日本の仏教を塗り替えた最澄と空海。同時期に唐に渡り、帰国後は人里離れた深山に本拠を構えるなど相似点は多い。しかし、両者の性格や教壇の有様は異なる。延暦寺と金剛峯寺の成立・発展の歴史を追い、特質を考える。
978-4-642-06593-1　(15.10)

笠原一男著
親鸞 ―煩悩具足のほとけ―
解説＝菅原昭英
四六判　256頁　**2,420円**(2,200)

鎌倉時代、阿弥陀仏への信心のもと、念仏一つで個人も社会もすべてが救われると説いた親鸞。激動の世でいかに行動し、どう思索して生きたのか。当時の社会を背景に、煩悩に苦しむ人びとへ全生涯をささげた姿を描く。
978-4-642-07529-9　(23.10)

今枝愛真著
道元 ―坐禅ひとすじの沙門―
解説＝中尾良信
四六判　224頁　**2,420円**(2,200)

ひたすら坐禅に徹することで煩悩や欲望を取り除き、悟りを得ることができると説いた道元。社会も宗教も混沌とした鎌倉時代において、いかに自らの道を切り開いたのか。『正法眼蔵』から思索と人間像を浮き彫りにする。
978-4-642-07531-2　(23.11)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

田村芳朗著
日　蓮 ―殉教の如来使―
解説＝末木文美士
四六判　234頁　**2,420円**(2,200)

他宗論難や折伏で、過激・強硬と思われている日蓮だが、弟子・信徒に同情・憐憫の言葉をかけ、共に悩み苦しむ優しい人柄であった。残された手紙や著作から生涯や思想を読み解き、多くの人々を引きつける魅力に迫る。
978-4-642-06594-8　(15.11)

太田博太郎著
奈良の寺々 ―古建築の見かた―
解説＝藤井恵介
四六判　192頁　**2,420円**(2,200)

絵画や彫刻と異なり実用性も要求される建築は、基本的な知識がないと美や良さを理解するのが難しい。奈良の古寺を題材に、基礎用語と建物の構造をやさしく解説した、鑑賞のための入門書。便利な建築用語索引を付す。
978-4-642-07109-3　(19.10)

森　郁夫著
東大寺の瓦工
解説＝清水昭博
四六判　184頁　**2,420円**(2,200)

世界最大の木造建築である東大寺大仏殿をはじめ、大伽藍の屋根を覆う膨大な瓦。奈良時代より1200年もの間、風雨から堂塔を守ってきた瓦に光を当て、浮かび上がる職人たちの奮闘を活写。瓦作りから東大寺造営に迫る。
978-4-642-07676-0　(24.8)

今枝愛真著
禅宗の歴史
解説＝今泉淑夫
四六判　286頁　**2,860円**(2,600)

鎌倉・室町時代の政治や外交の舞台では、禅僧たちが活躍し、その流れは江戸時代までも続く。漢詩や食生活など今に残る文化の創造にも貢献し、京・鎌倉だけでなく地方にまで花開いた、強固な禅宗文化を読み解いた労作。
978-4-642-06388-3　(13.2)

湯浅治久著
戦国仏教 ―中世社会と日蓮宗―
補論＝湯浅治久
四六判　240頁　**2,420円**(2,200)

民衆を対象にした仏教が地域社会に浸透した戦国時代。戦乱や災害、飢饉などに対して寺院・僧侶はどのような役割を担ったのか。民衆や領主がいかに仏教を受け入れたのかを、在地に残る具体的な事例から明らかにする。
978-4-642-07118-5　(20.7)

今井雅晴著
日本の奇僧・快僧
補論＝今井雅晴
四六判　204頁　**2,420円**(2,200)

卓越した能力で政治・社会に大きな影響を与えた、奇僧・快僧たち。超能力や新たな倫理、横紙破りな生き方、新しい信仰のかたちで人々の心をとらえ、時代を変えていった。彼らの行動と魅力に満ちた実像を検証する。
978-4-642-06755-3　(17.11)

速水　侑著
観音・地蔵・不動
解説＝小原　仁
四六判　204頁　**2,420円**(2,200)

日本人が親しみを感じ守り本尊などにしているのは、如来でなく観音・地蔵・不動である。なぜこの三尊は願いにもっとも応えることができたのか。いかなる動機で信仰が始まり、救いや現世利益を求めて広まったのかを探る。
978-4-642-06762-1　(18.5)

渡辺照宏著
不動明王
解説＝末木文美士
四六判　248頁　**2,420円**(2,200)

「お不動さま」と親しまれ、古くから人々の信仰が篤かった不動明王。インド仏教に遡るその由来、文学作品や歌舞伎にみられる日本での受容の歴史を平易に解説。密教の教義に基づいて不動尊を位置付けた古典的名著。
978-4-642-07350-9　(22.4)

森　謙二著
墓と葬送の社会史
補論＝森　謙二
四六判　264頁　**2,640円**(2,400)

死穢を忌避してきた人々が、なぜ「死者」を埋葬し供養するようになったのか。ムラや都市の墓地空間、さまざまな墓制、祖先祭祀など、墓と葬送の歴史的展開を探り、現代の家族のあり方の変化に伴う今後の課題を問う。
978-4-642-06576-4　(14.5)

津金澤聰廣著
宝塚戦略 ―小林一三の生活文化論―
補論＝津金澤聰廣
四六判　198頁　**2,420円**(2,200)

阪急・東宝グループの創立者小林一三は、沿線の住宅地開発やターミナル・デパートの創設など、鉄道以外の分野にも進出。最大の功績は宝塚少女歌劇に代表される文化活動にある。時代を先取りした理想と戦略に迫る。
978-4-642-06760-7　(18.4)

宇佐美龍夫著
大　地　震 ―古記録に学ぶ―
解説＝松浦律子
四六判　226頁　**2,420円**(2,200)

大地震が同じ震源域で起きる間隔は、人の一生より長い。そのため、過去の状況を知るには歴史資料の活用が不可欠となる。最新の研究成果から、歴史地震の被害や震源・震度分布・防災対応を検証。将来の地震に備える。
978-4-642-06580-1　(14.9)

谷口研語著
犬の日本史
―人間とともに歩んだ一万年の物語―
補論＝谷口研語
四六判　240頁　**2,310円**(2,100)

人間に歴史があるなら犬にも歴史がある。縄文犬の登場、記紀神話と白い犬、平安京の犬、中世の犬追物ブーム、南蛮犬の渡来、犬の超能力、狂犬病など、様々なエピソードで綴った、犬と人との１万年に及ぶ交流史を復刊。
978-4-642-06382-1　(12.7)

中尾佐助著
料理の起源
解説＝平木康平
四六判　232頁　**2,310円**(2,100)

全世界の家庭で日常行なわれている食糧の加工・料理に、初めて学問的なメスを入れた労作。民族によって異なる炊飯、世界共通の大豆発酵食品、好まれる獣肉など、エスニック料理に光を当て、驚きの事実を解き明かす。
978-4-642-06387-6　(12.11)

大塚　滋著
食の文化史
解説＝江原絢子
四六判　200頁　**2,420円**(2,200)

人類はさまざまな食物を発見・開拓し、豊かな食生活を創造してきた。パンや肉、乳製品の西洋に対し、肉食が禁じられた日本では魚や菜食、うまみと醤油が主流となった。エピソードを交え、食から東西の文化を読み解く。
978-4-642-07161-1　(21.4)

菊池勇夫著
飢えと食の日本史
補論＝菊池勇夫
四六判　192頁　**2,420円**(2,200)

日本列島をしばしば襲った飢饉。その度になぜ多くの人々が死なねばならなかったのか。発生の経緯やメカニズムを探り、民衆の生き残りをかけた行動を描き出す。食料を輸入に依存する現代日本に歴史から警鐘を鳴らす。
978-4-642-07104-8　(19.4)

神崎宣武著
「うつわ」を食らう
―日本人と食事の文化―
補論＝神崎宣武
四六判　240頁　**2,420円**(2,200)

日本人が使う食器は、中国・朝鮮や東南アジア諸国とは異なっている。同じ米飯を主食としながら、それはなぜか。碗や皿、箸の形態・材質の歴史を追い、他地域との調理法の比較から、日本の食文化の形成を現代までたどる。
978-4-642-06726-3　(17.6)

安室　知著
餅と日本人
―「餅正月」と「餅なし正月」の民俗文化論―
補論＝安室　知
四六判　280頁　**2,640円**(2,400)

正月の雑煮など、日本人にとって特別なハレの日の食とされる餅。だが、中には正月に餅を食べない地方も存在する。餅は私たちの生活にどのように関わっているのか。全国の事例を調査し、そこから見える民俗・文化に迫る。
978-4-642-07132-1　(21.1)

酒井伸雄著
日本人のひるめし
補論＝酒井伸雄
四六判　208頁　**2,420円**(2,200)

今では１日３食があたり前だが、「ひるめし」はいかにして始まったのか。関係の深い弁当や外食店の発達、すし・てんぷらの発明、給食の起源など、食の文化という視点で論じる。麺類・カレーの誕生と人気の理由にも触れる。
978-4-642-07102-4　(19.3)

吉野正敏著
気候地名をさぐる
解説＝菊池勇夫
四六判　240頁　**2,420円**(2,200)

日向（ひゅうが）・雨坪（あまつぼ）・雲井（くもい）・東風平（こちんだ）など、気候に関する文字が入った地名はどんな意味を持つのか。日本全国の気候地名の分布と特徴を詳細に調査し、外国の事例も収集したユニークな書。地名から人々の気候への思いを感じとる。
978-4-642-07677-7　(24.9)

比嘉政夫著
沖縄からアジアが見える
解説＝渡邊欣雄
四六判　200頁　**2,420円**(2,200)

南島の文化や民俗は、多くの人々を魅了してやまない。沖縄に生まれ育った著者が故郷に残るシーサーや爬龍船（ハーリー）競争、ミルク神などの民俗慣習を綿密に調査。沖縄文化の独自性を探り、アジア諸文化との関連を平易に解説する。
978-4-642-07168-0　(21.11)

価格は10％税込、(　)内は本体価格

川瀬一馬著
日本における書籍蒐蔵の歴史
解説＝岡崎久司
四六判　282頁　**2,640円**(2,400)

中世の金沢文庫に始まり、豊臣秀次・徳川家康・近世大名や文人の収書、近代の安田文庫や好事家の収集と現代に到るその蔵書の歴史をたどる。多くのコレクションにかかわった、書誌学の第一人者による日本文化史の試み。
978-4-642-07107-9　(19.8)

角山　榮著
時計の社会史
補論＝角山　榮
四六判　250頁　**2,420円**(2,200)

機械式時計の発明は世界を変えた。鉄道ダイヤが決められ利用者が増える。労働時間が固定され余暇を生み出す。時計がもたらした生活・社会の変化と、不定時法の和時計やゼンマイから電子装置に至る時計の歴史をたどる。
978-4-642-06574-0　(14.3)

関　幸彦著
百人一首の歴史学
補論＝関　幸彦
四六判　238頁　**2,420円**(2,200)

鎌倉時代に藤原定家が選定し、今ではカルタで親しまれる「百人一首」。そこに登場する7～13世紀の歌人たちの足跡を辿りながら、古代から中世へと移りゆく時代の諸相を、王朝の記憶と文化を伝える歌の中から読み解く。
978-4-642-07166-6　(21.9)

門田誠一著
はんこと日本人
補論＝門田誠一
四六判　150頁　**2,420円**(2,200)〈僅少〉

宅配便の受け取り、回覧板、役所の申請書類から売買契約まで、毎日の生活にはんこは欠かせない。日本人はなぜ、いつごろからはんこを押し続けてきたのか。その歴史を辿り、はんこをめぐる日本独特の文化・社会を探る。
978-4-642-06767-6　(18.10)

新関欽哉著
ハンコの文化史
―古代ギリシャから現代日本まで―
解説＝中根千枝
四六判　192頁　**2,420円**(2,200)

私たちの生活に欠かせないハンコ(印章)。メソポタミアを発祥の地とし、西はギリシャ、東はインダス・中国、そして日本へと伝わった。各地域・時代における形態や使われ方から、ハンコと人間の関わりを探る。
978-4-642-06588-7　(15.6)

いま甦る知の宝庫―。名著を精選し、復刊する好評シリーズ！

歴史文化セレクション

石野博信著
古代住居のはなし
解説＝石野博信(初版95.5)
四六判　272頁　口絵4　**2,420円**(2,200)

古代の人びとは、どのような家に住み、どのような生活をしていたのであろうか。全国各地の遺跡の発掘成果をもとに、住居の構造や村のしくみを解き明かす。対外交流にも注目して、日本人の住まいと暮らしの原点を探る。
978-4-642-06302-9　(06.10)

黛　弘道著
物部・蘇我氏と古代王権
解説＝加藤謙吉(初版95.8)
四六判　264頁　口絵2　**2,090円**(1,900)

日本古代王権成立期の雄族物部氏・蘇我氏の実像はどのようなものであったか。大王の権力は、いつ成立したのか。発見された金石資料や既知の文献資料により解き明かし、古代史の諸問題を分かりやすく描いた魅力的な書。
978-4-642-06349-4　(09.4)

黛　弘道編
古代を考える
蘇我氏と古代国家
解説＝遠山美都男(初版91.3)
四六判　296頁　口絵4　折込1丁　**2,640円**(2,400)

飛鳥の朝廷で専権をふるった蘇我氏は、古代国家建設に大きな役割を果たした。推古朝・大化改新など、画期における動向を多角的に追究。かつて逆臣とされた蘇我氏を視点に、「古代国家」の実像を浮き彫りにした名著。
978-4-642-06380-7　(12.2)

神野志隆光著
古事記の世界観
解説＝神野志隆光(初版86.6)
四六判　232頁　**1,870円**(1,700)

『古事記』はひとつの完結した作品として把握されねばならない。「高天原」「葦原中国」「黄泉国」「根之堅州国」の位置付けに新たな見解を示し、『古事記』が上中下巻を通して構築する独自の世界観・主張を解明する。
978-4-642-06344-9　(08.2)

田村圓澄著
伊勢神宮の成立
解説＝田村圓澄（初版 96.2）
四六判　336頁　**2,970円**（2,700）

五十鈴川のほとりに鎮座する伊勢神宮。天照大神が皇祖神としてこの地に祭られた背景には、古代天皇を中心とした律令国家の構築という政治的意図があった。伊勢神宮の創立の歴史を解明し、その本質を問い直す。
978-4-642-06351-7　（09.6）

新野直吉著
田村麻呂と阿弖流為（あてるい）
―古代国家と東北―
解説＝新野直吉（初版 94.8）
四六判　240頁　口絵4　**1,980円**（1,800）

古代東北史に大きな足跡を残す二つの巨星。誉れ高き「征夷」の名将・坂上田村麻呂。悲劇と伝説につつまれた「蝦夷」の領袖・阿弖流為。征服と抵抗の歴史をたどり、謎多い２人の英雄とその時代に新たな光をあてる。
978-4-642-06340-1　（07.10）

工藤雅樹著
古代蝦夷
解説＝熊谷公男（初版 00.9）
四六判　352頁　**2,640円**（2,400）〈僅少〉

蝦夷の文化や社会はどのようなものだったのか。蝦夷とアイヌの関係はどうなのか。東北・北海道考古学研究の成果、文献史料、アイヌ資料、アイヌ語地名などを駆使して古代蝦夷の実像に迫り、北日本古代史論を提示する。
978-4-642-06377-7　（11.11）

新野直吉著
古代東北史の人々
解説＝新野直吉（初版 78.6）
四六判　252頁　**2,090円**（1,900）〈僅少〉

古代日本の北辺の天地には、蝦夷と呼ばれた人々も含め、平泉に至るまで多彩な人間の営みが展開されていた。その地に活躍し、歴史を創り出した人間の姿を、史実のなかで明らかにし、新たな古代東北史像を描き出す。
978-4-642-06354-8　（09.9）

神田千里著
信長と石山合戦 ―中世の信仰と一揆―
解説＝神田千里（初版 95.10）
四六判　264頁　原色口絵2　**2,200円**（2,000）

一向一揆の最大の戦いとなった石山合戦。信長に惨憺たる敗北を喫した本願寺教団が、この合戦によりさらに発展する理由は何か。中世民衆の心をとらえた一向宗の謎と今まで解明されなかった石山合戦の本質に迫る。
978-4-642-06347-0　（08.5）

峰岸純夫著
中世 災害・戦乱の社会史
解説＝峰岸純夫（初版 01.6）
四六判　280頁　**2,530円**（2,300）

地震・火山・台風などの自然災害と各地の紛争・戦乱とは密接な関係があった。中世の災害・戦乱に対する危機管理を通し、民衆史の視点からその実態に迫る。中世社会史の新たな側面を探り、現代の危機管理に課題を示す。
978-4-642-06372-2　（11.6）

佐藤弘夫著
日本中世の国家と仏教
解説＝佐藤弘夫（初版 87.3）
四六判　316頁　**2,640円**（2,400）〈僅少〉

「国家と仏教」という視座に立ち、10 世紀から 16 世紀までの広い期間を展望。その中世的特質を浮き彫りにし、新旧仏教を含めた中世仏教の全体像を再構築する。仏教を抽象的な思想レベルで把える傾向に一石を投じた書。
978-4-642-06366-1　（10.9）

水藤　真著
中世の葬送・墓制
―石塔を造立すること―
解説＝古川元也（初版 91.10）
四六判　256頁　**2,090円**（1,900）

中世の葬送・墓制を正面から取り上げた初の書。公家・武家・庶民、さらに男と女の場合など豊富な事例を紹介し、その実態と歴史的変遷を解明。死体遺棄・両墓制など未解明の分野にも光をあて、葬送儀礼の淵源に迫る。
978-4-642-06356-2　（09.11）

宮島新一著
肖像画の視線 ―源頼朝像から浮世絵まで―
解説＝宮島新一（初版 96.6）
Ａ５判　240頁　原色口絵2丁　**3,080円**（2,800）

肖像画は何を語りかけるか。歴史資料として注目される日本の肖像画。鎌倉時代から江戸時代までの多くの作品の緻密な検討から、その変遷・特質と、日本人の精神世界を探る。過熱する像主論争にも一石を投じる。
978-4-642-06360-9　（10.3）

西山松之助著
江戸ッ子
解説＝竹内　誠（初版 80.8）
四六判　224頁　**1,870円**（1,700）〈僅少〉

江戸ッ子こそ江戸文化創出の主体であった。50 種に及ぶ原典から、「江戸ッ子」という言葉を抽出し、その実体と成立が、江戸独特の都市条件によることを実証。また江戸ッ子にかかわる「いき」「通」を探る。
978-4-642-06297-8　（06.5）

価格は 10％税込、（　）内は本体価格

北原　進著
江戸の高利貸 —旗本・御家人と札差—
解説＝北原　進　（初版 85.8：原題『江戸の札差』）
四六判　224頁　**1,870円**（1,700）〈僅少〉

最も江戸的な高利貸ともいえる札差。享保９年株仲間を結ぶ以前の状況から、幕府権力と癒着した 18 世紀中期の発展、寛政・天保改革の債権帳消し令、維新前後の営業分析、十八大通論等、金貸し商人の実態を探る。
978-4-642-06345-6　(08.3)

今田洋三著
江戸の禁書
解説＝藤實久美子（初版 81.12）
四六判　224頁　**1,870円**（1,700）

近松門左衛門＝心中物禁止、英一蝶＝三宅島流罪など、江戸時代は、筆禍事件の続発ときびしい言論統制、弾圧の時代であった。市民的な文化活動の盛行と幕府による統制・弾圧の実態を当時の世相を交え、わかりやすく描く。
978-4-642-06338-8　(07.8)

石井　孝著
戊辰戦争論
解説＝家近良樹（初版 84.8）
四六判　378頁　**3,190円**（2,900）

戊辰戦争の本質を「絶対主義形成の二つの途の戦争」と規定し、天皇制と大君制（徳川）の対立を幕末段階から説き起こすことによって鮮明にした。戦争を三つの段階に分けて詳述し、戊辰戦争論の克服をめざした名著。
978-4-642-06343-2　(08.1)

安良城盛昭著
天皇・天皇制・百姓・沖縄
—社会構成史研究よりみた社会史研究批判—
解説＝塚田　孝（初版 89.4）
四六判　524頁　**4,180円**（3,800）

社会構成史の立場から「社会史」を批判し、天皇制、中世百姓の「移動の自由」、近現代の沖縄、被差別部落、の各本質についての客観的な解釈を示す。また「奴隷と犬」など平易な論説も収め、歴史学を志す人にも好適な入門書。
978-4-642-06336-4　(07.6)

西村公朝著
仏像の再発見 —鑑定への道—
解説＝真鍋俊照（初版 76.2）
四六判　456頁　原色口絵2丁　単色口絵4　**4,180円**（3,800）

信仰の対象である仏像にも、その制作年代の特徴が形となって現れている。約 1200 体の国宝・重要文化財の仏像を修理した技術者が、その蘊蓄を傾けて、仏像鑑定の秘法を初公開。あわせて仏像美の再発見を説く。
978-4-642-06346-3　(08.4)

渡辺　実著
日本食生活史
解説＝江原絢子（初版 64.6）
四六判　352頁　**2,970円**（2,700）

日本人は、何を食べてきたのか。各時代の食の移り変わりや、伝統をつくりあげ、支えてきた人々にも視点をあて、食材の種類や生産法、調理法・調味料・食器など食全般にわたり、古代から現代までの食生活の歴史を詳説した。
978-4-642-06341-8　(07.11)

増田昭子著
雑穀の社会史
解説＝増田昭子（初版 01.12）
Ａ５判　356頁　**4,180円**（3,800）

日本人の生活や信仰は、稗・粟などの雑穀を含めた多様な価値意識のもとに発展してきた。稲と差別された一方で、聖なる供物でもあった事例を広い地域にわたり考察。さまざまな視点から雑穀文化を位置づけ、その意味を問う。
978-4-642-06378-4　(11.12)

国史大辞典編集委員会編　　第45回菊池寛賞受賞

国史大辞典

全15巻(17冊)

四六倍判・上製・函入
本文編＝平均1000頁・別刷原色図版等平均150頁
補遺・索引編＝平均766頁 附録＝「史窓余話」・B５判変型16頁

全17冊セット本体＝326,700円(297,000)(分売可)

▷毎月１冊ずつの配本(お支払いはその都度)もいたします　▷分割払いも承ります。お問い合わせください

総項目数54000余、日本歴史の全領域をおさめ、考古・民俗・宗教・美術・国語学・国文学・地理など、隣接分野からも必要項目をことごとく網羅した画期的大編集。執筆には、各学界のベストメンバー3000余名を動員し、最新の研究成果を盛り込み、一般用語から専門用語までを分りやすく解説。さらに本文理解を助ける挿入写真や図版・図表等にも新機軸の工夫をこらし、補完機能を高め、新時代の歴史理解につとめた。また索引は、16000頁の本文解説・付表・付図・別刷図版から採取した歴史を彩る言葉のすべて、延べ50万語を史料・地名・人名・事項に分類し、各冊には難読語検索のための頭字索引を付した。

第１巻 あ－い　19,800円(18,000)　978-4-642-00501-2(79.3)

第２巻 う－お　19,800円(18,000)　978-4-642-00502-9(80.7)

第３巻 か　19,800円(18,000)　978-4-642-00503-6(83.2)

第４巻 き－く　19,800円(18,000)　978-4-642-00504-3(84.2)

第５巻 け－こほ　19,800円(18,000)　978-4-642-00505-0(85.2)

第６巻 こま－しと　19,800円(18,000)　978-4-642-00506-7(85.11)

第７巻 しな－しん　19,800円(18,000)　978-4-642-00507-4(86.11)

第８巻 す－たお　19,800円(18,000)　978-4-642-00508-1(87.10)

第９巻 たか－て　19,800円(18,000)　978-4-642-00509-8(88.9)

第10巻 と－にそ　19,800円(18,000)　978-4-642-00510-4(89.9)

第11巻 にた－ひ　19,800円(18,000)　978-4-642-00511-1(90.9)

第12巻 ふ－ほ　19,800円(18,000)　978-4-642-00512-8(91.6)

第13巻 ま－も　19,800円(18,000)　978-4-642-00513-5(92.4)

第14巻 や－わ　19,800円(18,000)　978-4-642-00514-2(93.4)

第15巻(全３冊)

上(補遺、史料・地名索引)
978-4-642-00515-9(96.6)

中(人名索引)
978-4-642-00516-6(96.11)

下(事項索引)
978-4-642-00517-3(97.4)

各16,500円(15,000)

価格は10％税込、(　)内は本体価格

小野正敏・佐藤　信・舘野和己・田辺征夫編
歴史考古学大辞典

幅広い分野の共同研究の成果を
結集した３２７０項目！

「歴史考古学」は今日の歴史研究の主流となり、新しい歴史像を提供する。歴史学・考古学をはじめ、民俗学・美術史・建築史など幅広い分野の共同研究の成果を盛り込んだ、新たなコンセプトの画期的〈歴史辞典〉。最新・重要な 3270 項目をすべて詳細・平易に書下ろし、図版や表を多数掲載。8 テーマからなるカラー別刷図版と便利な索引を収録する。

四六倍判　1360頁　原色別刷32　**35,200円**(32,000)
978-4-642-01437-3　(07.3)

米田雄介編
令和新修 歴代天皇・年号事典

最も精確で信頼できる「天皇事典」
令和改元に伴い、新項目を増補した決定版！

令和改元に伴い、待望の増補新修。神武天皇から今上天皇までを網羅し、略歴・事跡などを平易に解説する。没後に天皇号を贈られた追尊天皇、皇位につかず太上天皇号を贈られた不即位太上天皇まで収め、各天皇の在位中に制定された年号や埋葬された陵も記載。皇室典範特例法による退位と即位を巻頭総論に加え、天皇・皇室の関連法令など付録も充実。

四六判　464頁　**2,090円**(1,900)
978-4-642-08357-7　(19.8)

小倉慈司著
事典 日本の年号

「大化」から「令和」まで！
いつ、誰が、なぜ、どのように決めたのか？

古来、さまざまな理由で改元を繰り返し、今日まで続く日本の年号。大化から令和まで、248 すべての年号を網羅し、確かな史料に基づき分かりやすく紹介する。年号ごとに在位した天皇、改元日、改元理由、年号字決定までの過程を明記し、その典拠や訓みを丁寧に解説。古記録を精査し、地震史・環境史などの成果も取り込んだ〈年号〉事典の決定版。

四六判　454頁　**2,860円**(2,600)
978-4-642-08353-9　(19.7)

吉川弘文館編集部編
日本史「今日は何の日」事典
―367 日＋ 360 日・西暦換算併記―

100 年前の今日、戦国や奈良時代の今日、
何が起きていた？　「日付」からみる日本史

正確な日付に西暦換算年月日を併記し、「その日」におきた日本史上の出来事が分かる日めくり事典。出典の明らかな記事を、旧暦 2 月 30 日を含む 367 日に閏月 360 日を加えた日付ごとに掲載する。暦に関するコラムや月の異名・年号一覧・西暦・和暦対照表など付録も充実し、イベントや教育現場でも使いやすい、ユニークな歴史カレンダー。

Ａ５判　408頁　**3,850円**(3,500)
978-4-642-08391-1　(21.1)

吉川弘文館編集部編
日本史人物〈あの時、何歳？〉事典
―０歳から８５歳まで、１，２００人の事跡―

教科書の「あの人物」は「あの時」
こんな年齢だったのか！

飛鳥時代から昭和まで、日本史上の人物約 1200 人が、何歳の時に何をしていたのかが分かるユニークな事典。0 歳から 85 歳まで、年齢を見出しに人物の政治・経済・社会・文化に関わる事跡を年代順に解説。生没年を併記し在世も把握できる。巻末には物故一覧と人名索引を付す。異なる時代を生きた人々の"年齢"から歴史を読み解く好事的データ集。

Ａ５判　296頁　**2,200円**(2,000)
978-4-642-08407-9　(22.1)

金子幸子・黒田弘子・菅野則子・義江明子編

日本女性史大辞典

〈女性史〉が切り拓く新しい歴史像。
最新・最大の女性史辞典の決定版！

近年の進展著しい女性史研究は、歴史に埋もれた多くの女性たちの姿を明らかにしてきた。古代から近現代まで、政治・経済・社会・文化・宗教・思想・運動・性・民俗など様々な分野の事項や人物について、アイヌや沖縄も含め、最新の研究成果を3100余項目に集大成。女性学やジェンダーの視点も組み込み、新たな歴史像を切り拓く、初の本格的女性史辞典。

四六倍判　944頁　原色口絵16　口絵8　**30,800円**(28,000)
978-4-642-01440-3　(08.1)

加藤友康・高埜利彦・長沢利明・山田邦明編

年中行事大辞典

日本人の暮らしに生きる年中行事の
すべて。最大の本格的大百科誕生！

古代から現代まで日本列島各地でくり返されてきた年中行事。宮中・公家・武家・寺社や民衆の中から生まれ、時代とともに姿を消しあるいは姿を変え引き継がれてきた。歴史と生活のなかに息づく多彩な3100の行事を、歴史・美術・民俗学などの最新成果を取り入れ、豊富な図版を駆使して平易に解説。日本文化を読み解く〈年中行事〉百科の決定版。

四六倍判　840頁　原色別刷32　**30,800円**(28,000)
978-4-642-01443-4　(09.3)

吉川弘文館編集部編

日本史必携

詳細・正確な情報満載！
便利・重宝な歴史百科

日本史を読み解く上で必須の基本資料を精選・網羅し、一覧形式でデータ表示した日本史便覧の決定版。基本資料・古代・中世・近世・宗教の五編に、詳細かつ正確な年表・図表類200余項目を収録し、現代まで関連する事項は明治時代以降まで補完した。日本の歴史を知るために役立つ厖大な情報を満載した、便利な歴史百科として、座右必備の一冊。

菊判　720頁　**6,600円**(6,000)
978-4-642-01349-9　(06.1)

坂本太郎・平野邦雄監修

日本古代氏族人名辞典　普及版

大化前代から律令時代まで、
2800項目。古代史を知るために必備

大化前代から律令時代までに登場した氏族・人物から重要な2800項目を収録。全項目に訓みを付け、わかりやすく解説する。氏族名は、姓・発祥の由来・職掌・改氏姓の経緯・同族関係など、人名は、生没年・父母・履歴・活動内容まで記述し、適宜参考文献を掲げた。氏族名・人名の索引および主要・難読一覧を付載。古代史を知るために必備の辞典。

菊判　760頁　**5,280円**(4,800)
978-4-642-01458-8　(10.11)

平野邦雄・瀬野精一郎編

日本古代中世人名辞典

卑弥呼から織田信長まで、
個性あふれる多彩な人物3372人を網羅！

国家の誕生を示す古代から、武士が政権を掌握する中世の末まで、約1500年にわたる時代に活躍した3372人を収録。歴代天皇、女院、皇子、摂関、豪族、武士、僧侶、社家、芸能者、外国人、伝承や物語上の人物など多彩な人物を網羅した決定版。事実検証に基づく正確な記述、主要参考文献、肖像なども掲載する。巻末に索引と「没年月日順項目一覧」を付載。

四六倍判　1222頁　**22,000円**(20,000)
978-4-642-01434-2　(06.10)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

下垣仁志著

三角縁神獣鏡研究事典

菊判　560頁　原色口絵4　**10,450円**(9,500)

最新の発掘・研究成果を網羅。
「卑弥呼の鏡」の最有力候補の実像に迫る。

「卑弥呼の鏡」の最有力候補である三角縁神獣鏡とは何か。江戸時代からの膨大な研究史を初めて整理し、研究に便利な資料集成を付す。誕生の経緯と製作年代、製作技術と原料産地、流通方式と政治史的意義、銘文と信仰など、最新の発掘成果と豊富な図版を駆使して、その全貌を明らかにする。重要な考古資料として、様々な可能性を秘めたその実像に迫る。

978-4-642-01454-0　(10.7)

瀬野精一郎編

日本荘園史大辞典

四六倍判　992頁　別刷原色16　**26,400円**(24,000)

日本の歴史、地域の歴史を知る必備の辞典。荘園のすべてを一冊に集大成

日本の荘園は、8世紀の発生から900年の長期間、政治・社会の変動と密接に連動し、古代・中世社会を規定してきた基本的制度である。難解な荘園関係用語をはじめ、個別荘園名・荘園領主・荘園史関連書籍・荘園史研究者など、荘園史を理解するために不可欠な2600項目を平易に解説。便利な荘園一覧・領家別荘園一覧・本文索引を付載。

978-4-642-01338-3　(03.3)

峰岸　明著

平安時代記録語集成　上・下

四六倍判　平均1594頁

平安時代の日記から蒐集した〈記録語〉を集成
平安語の宝庫、ついに成る！

記録語辞典の編纂を志した国語学の権威が蒐集した、平安時代の記録語約3万語の資料を集成。小右記など11点から採録し、所出箇所(年月日・刊本頁行)・用例を示す。記録語辞典原稿の一部を「記録語解義」として附載。

上　**37,400円**(34,000)　978-4-642-01474-8　(16.8)
下(附 記録語解義)　**37,400円**(34,000)　978-4-642-01475-5　(16.8)

福田豊彦・関　幸彦編

源平合戦事典

菊判　358頁　原色口絵4　**7,700円**(7,000)〈僅少〉

保元・平治の乱から奥州合戦まで、
ロマンあふれる歴史の宝庫

さまざまな伝説に彩られ、今なお人々を魅了する源平合戦。保元の乱より奥州合戦に至る武者の世を拓いた数々の戦や、清盛・義経から無名の武士まで、動乱の時代を生きた人物、さらに歴史用語や基本文献など、約500項目を詳細・正確に解説する。文学や伝承なども採り上げ、源平時代の全貌に迫る画期的事典。『平家物語』など、文学研究にも最適。

978-4-642-01435-9　(06.12)

関　幸彦・野口　実編

吾妻鏡必携

四六判　344頁　**3,960円**(3,600)

広範な知識と読解力を必要とする鎌倉時代の基本史料『吾妻鏡』。訓読法をはじめ、用字や歴史用語、主要人物の解説、系図、関係地図、合戦一覧、略年表など、読み解く上で不可欠な基礎知識を満載。必備の『吾妻鏡』百科。

978-4-642-07991-4　(08.9)

瀬野精一郎監修・吉川弘文館編集部編

花押・印章図典

B5横判　270頁　**3,630円**(3,300)

日本史上の人物が使用した花押(かおう)約2000と印章約400を収録し、各人物の基本情報(武家・公家等の別、生没年、別名、主な官職名、法名)も掲載。用語解説や参考図書、没年順索引を収め、古文書を学ぶ上で座右必備の書。

978-4-642-08327-0　(18.1)

戦国人名辞典編集委員会編
戦国人名辞典

菊判　1184頁　**19,800円**(18,000)〈僅少〉

最大最新の〈戦国辞典〉誕生！
東国を中心に 4200 人を収載

動乱の戦国時代を生きた北条・武田・上杉・今川・徳川などの大名とその家臣を多数収載。さらに、女性・僧侶・商人・絵師・医師・大工にいたるまで、東国の様々な分野で活躍した人物を中心に 4200 人を網羅。最新の研究成果と数多の史料に基づき精緻に解説した大人名辞典。豊富な参考文献を掲げ、巻末には、詳細で検索に便利な「人名索引」を付載する。

978-4-642-01348-2　(06.1)

谷口克広著
織田信長家臣人名辞典　第2版

菊判　566頁　**8,250円**(7,500)〈僅少〉

信長政権を支えた家臣 1458 人。
最新研究成果で全面改訂した第 2 版！

初版刊行から 15 年、最新の研究成果を盛り込み、全面改訂した待望の第 2 版。信長に仕えた家臣 1458 人を網羅し、新収録の人名はもちろん、再録や重複などを修正した人物まで、典拠史料を徹底的に吟味し詳細に解説。豊富な史料や信長研究に役立つ膨大な参考文献を付載する。家臣の多彩な顔ぶれと、信長の人脈の全貌を知ることができる画期的辞典。

978-4-642-01457-1　(10.11)

竹内　誠・深井雅海編
日本近世人名辞典

四六倍判　1328頁　**22,000円**(20,000)

豊臣秀吉から幕末維新まで、
個性あふれる有名人物を網羅！

徳川家康の江戸入府から幕末維新期まで、泰平と動乱の約 290 年間に活躍した 3657 人を収録。歴代天皇・皇室・公家・将軍・幕臣・大名をはじめ商人・文人・学者・外国人・博徒・侠客・盗賊に至る個性溢れる有名人物を網羅した決定版。詳細な解説と墓所、著書、参考文献、肖像などを多数収め、巻末に便利な索引と「没年月日順項目一覧」を付載。

978-4-642-01347-5　(05.12)

大石　学編
江戸幕府大事典

菊判　1168頁　**19,800円**(18,000)

江戸幕府のすべてがわかる！
幕府の基礎情報 1800 項目を集成

家康から慶喜まで、265 年にわたり日本を治めた江戸幕府。最新の研究成果で描く概論と、将軍から牢屋下男にいたる多様な職制や江戸城の諸施設、陣屋、制度・儀式などの用語解説により、幕府の基礎情報を集成する画期的な大事典。役職存在期間一覧・幕府年中行事一覧・江戸城間取り図などの便利な付録・索引も充実した〈江戸幕府〉百科の決定版。

978-4-642-01452-6　(09.12)

大石　学編
徳川歴代将軍事典

菊判　882頁　**14,300円**(13,000)

家康から慶喜まで、
15 代の治世で読み解く江戸時代！

近世国家権力の中枢に位置する徳川 15 代将軍について、その治世ごとに、政治・経済・社会・文化など約 1000 項目を収録。将軍の正室・側室・子どもなどの家族や、大名・旗本・学者、政策・事件など、最新の研究成果をもとに解説し、新たな江戸時代像の構築をめざす。主要役職就任者一覧を将軍ごとに掲載し、巻末には検索に便利な索引を付す。

978-4-642-01471-7　(13.9)

大石　学編

近世藩制・藩校大事典

菊判　1168頁　**11,000円**(10,000)

全国約540藩を都道府県別に網羅した、詳細・正確な大事典！

織豊政権から明治の廃藩置県まで、近世日本を支えた全国約540藩とその藩校を網羅した詳細・正確な大事典。幕藩制の理解に不可欠な基礎用語も平易に解説。各藩ごとに歴代藩主・藩校・藩札・幕末諸隊・藩政史料などを総覧し、その全貌に迫る。豊富な図版と参考文献を掲げ、巻末に江戸藩邸所在地一覧や藩校一覧など、充実した付録と索引を付す。

978-4-642-01431-1　(06.3)

臼井勝美・高村直助・鳥海　靖・由井正臣編

日本近現代人名辞典

四六倍判　1392頁　**22,000円**(20,000)

幕末より現代の重要人物を網羅
初の本格的〈近現代〉人名辞典！

近代の幕開け―黒船来航時より現代にいたる150年間に活躍した4500人を収録。皇室・公家・政治家・軍人・実業家・思想家・社会運動家・学者・宗教家・文学者・演劇人など広範な分野から重要人物を網羅した大人名辞典。詳細な伝記とともに参考文献を掲げ、巻末には項目以外の人名等からも検索できる「索引」と便利な「没年月日順人名一覧」を付載。

978-4-642-01337-6　(01.7)

宮地正人・佐藤能丸・櫻井良樹編

明治時代史大辞典　全4巻

四六倍判　平均1010頁

〝明治〟を知れば〝いま〟が見える！
最大・最新の〈明治時代〉総合歴史辞典

混迷する日本の進路を考える上で、日本人が自ら創りあげた〝明治時代〟を知ることは不可欠である。あらゆる分野の事項・人物約9500項目を詳細・正確に解説。近代日本の出発点〝明治時代〟がわかる総合歴史大辞典。

第1巻(あ～こ)30,800円(28,000) 978-4-642-01461-8(11.12)
第2巻(さ～な)30,800円(28,000) 978-4-642-01462-5(12.7)
第3巻(に～わ)　30,800円(28,000) 978-4-642-01463-2(13.2)
第4巻(補遺・付録・索引)22,000円(20,000) 978-4-642-01464-9(13.10)

松田敬之著

〈華族爵位〉請願人名辞典

菊判　928頁　**16,500円**(15,000)

明治2年の華族誕生から戦後の廃止に至る約80年間、士族・平民から華族への昇格を望み請願した約900人を収録。『授爵録』や諸史料から、経歴・請願年・受理・不受理理由を解説。授爵・陞爵・復爵者一覧などを付す。

978-4-642-01472-4　(15.12)

日本歴史学会編

日本史研究者辞典

菊判　368頁　**6,600円**(6,000)〈僅少〉

明治から現代までの日本史および関連分野・郷土史家を含めて、学界に業績を残した物故研究者1235名を収め足跡を辿る。生没年月日・学歴・経歴・主要業績のほか、著書・論文目録などを収めた書籍名・雑誌名を付記。

978-4-642-03686-3　(99.6)

伊藤　隆・季武嘉也編

近現代日本人物史料情報辞典
全4巻

菊判　平均406頁

画期的な〈個人史料〉データファイル！
貴重な人物史料情報を一挙公開！

明治から現代まで、日本史の主要な人物1250人以上に関する基本史料(書類・日記・書簡など)の所在、来歴、利用状況などを詳細に解説した、初のデータファイル。近現代史研究に役立つ情報が満載。研究者・作家・図書館必備。

(1) **8,800円**(8,000)　978-4-642-01341-3　(04.7)
(2) **7,150円**(6,500)　978-4-642-01346-8　(05.12)
(3) **8,250円**(7,500)　978-4-642-01447-2　(07.12)
(4) **9,350円**(8,500)　978-4-642-01460-1　(11.3)

鳥海　靖・季武嘉也編

歴代内閣・首相事典　増補版

菊判　928頁　**11,000円**(10,000)

伊藤博文内閣から岸田文雄内閣まで、101代の内閣と64名の首相を網羅

明治18年の内閣制度開始以来、政治の中枢を担ってきた総理大臣とそれを支える内閣。伊藤博文内閣から岸田文雄内閣まで、101代の内閣と64名の首相を網羅し平易に解説した増補版。各内閣に関連する政党、政治・経済・社会上の政策・事件など、初版刊行以降の時事項目を新たに加えた約310項目を収録。激動の日本近現代史がみえてくる決定版。

978-4-642-01481-6　(22.8)

貴志俊彦・松重充浩・松村史紀編

二〇世紀満洲歴史事典

菊判　832頁　原色口絵8　**15,400円**(14,000)

〝満洲〟とはどのような存在であったのか。19世紀末から東北地方政権・満洲国・中華人民共和国による統治まで、800項目余を厳選し、平易に解説。東北アジアの歴史もふまえ、20世紀満洲の全体像に迫る決定版。

978-4-642-01469-4　(12.12)

伊藤　隆監修・百瀬　孝著

事典 昭和戦前期の日本
―制度と実態―

菊判　464頁　**6,820円**(6,200)

昭和戦前期日本の統治組織・議会制度・法制・軍事・行政機構などの実態を分かりやすく体系的に記述し、当時の政治・社会を理解する上での基礎知識を提供する。一般読書人にも必備の便利な事典である。

978-4-642-03619-1　(90.2)

吉田　裕・森　武麿・伊香俊哉・高岡裕之編

アジア・太平洋戦争辞典

四六倍判　842頁　原色口絵16　**29,700円**(27,000)

〝あの戦争〟とは何だったのか？
今を生きる私たちがあらためて問い直す！

戦争体験の継承や歴史認識をめぐる摩擦が問題となる今日、アジア・太平洋戦争をあらためてとらえ直す本格的辞典。満洲事変から東京裁判、サンフランシスコ平和条約などの戦後史まで、政治・軍事・外交・経済・文化・思想など約2500項目を、図版を交え平易に解説する。軍事専門用語や兵器、諸外国の事項や人名も多数収めた。付録と索引を付す。

978-4-642-01473-1　(15.11)

鈴木敬三編

有識故実大辞典

四六倍判　856頁　別刷原色60　**19,800円**(18,000)

歴史・古典文学を理解するために
必要不可欠の宝典

歴史や文学などを研究・理解する上で、必要不可欠な公家や武家の官職・年中行事・儀式作法・服飾・調度・建築・乗物・武器・武具等の中から、3200項目を厳選して詳しく解説。各事項には豊富に図版を用いて叙述を補完し、主要なものは原色別刷図版とした。巻末には、難解な有職故実語彙が容易に検索できる索引を付載し、利用者の便を図った。

978-4-642-01330-7　(96.1)

鈴木敬三著

有識故実図典　―服装と故実―

A5判　230頁　別刷24　原色口絵4　**3,080円**(2,800)

歴史や国文学等を学ぶには、有識故実の知識は欠かせない。各種の絵巻物を駆使して、時代と共に変化を遂げてきた服飾関係を中心に解説。装束の種類や数多い色名・文様等を別刷に収めた、古典の理解と解説に必携の事典。

978-4-642-07467-4　(95.6)

丸山伸彦編

日本史色彩事典

菊判　464頁　原色口絵16　**8,250円**(7,500)〈僅少〉

日本のなかで培われてきた豊かな色彩。約550の色名や、織物・絵画・工芸に関する用語を多数収録。名称・色味の変化や発色技法、琉球独特の色などを解説する。古代の色を復元するコラムや、系統別の色見本なども充実。

978-4-642-01467-0　(12.5)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

蘭田　稔・橋本政宣編
神道史大辞典

日本人の心の原点〝神道〟の姿とは
その歴史と思想を読み解く

日本古来の神道文化は、歴史の中でどのように人々にとらえられてきたのか。神話の世界から現代まで、神道を理解するための4100項目を、最新の成果をもとに詳細・平易に解説。仏教や儒教、天皇、貴族、国家との関わりの中で発展してきた神道の歴史を読み解く。巻末に便利な官国幣社一覧、府県社一覧、海外神社一覧、年度別神社数一覧等を付載。

四六倍判　1336頁　別刷原色28　別刷単色12　**30,800円**(28,000)
978-4-642-01340-6　(04.7)

岡田荘司・笹生　衛編
事典 神社の歴史と祭り

古(いにしえ)より続く神社と神道が、日本人に深く関わっているのはなぜか。古代より近世にいたる重要な50社と、近代に創祀された10社を厳選し、歴史上に名を残した事蹟を詳述。祭りと年中行事一覧を付すなど、付録も充実。

Ａ５判　412頁　原色口絵4　**4,180円**(3,800)
978-4-642-08085-9　(13.4)

岡田荘司編
事典 古代の祭祀と年中行事

古来、国家鎮護・安泰のための神祇祭祀と仏教法会が、天皇自身や社寺によって行われてきた。恒例祭祀・臨時祭祀・法会などを厳選して計60件を収載し、最新研究にもとづき平易に解説。豊富な図版、年表・索引も充実。

Ａ５判　446頁　原色口絵4　**4,180円**(3,800)
978-4-642-01478-6　(19.2)

今泉淑夫編
日本仏教史辞典

仏教の歴史と思想の〈精髄〉を読み解く
仏教史辞典の決定版

仏教伝来から千数百年、その思想は日本人の自然観・世界観に大きく寄与し、日本文化の形成にもはかり知れない影響を与えてきた。本辞典は、日本の仏教を理解するための4700項目余を厳選し、確かな研究成果を盛り込み懇切平易に解説。連綿と受け継がれてきた日本仏教の歴史とその思想の精髄を提示した仏教史辞典の決定版。巻末に詳細な索引付。

四六倍判　1238頁　別刷原色8　別刷単色60　**22,000円**(20,000)
978-4-642-01334-5　(99.11)

木下正史編
飛鳥史跡事典

「日本国」誕生と古代〝文明開化〟の舞台、飛鳥・藤原の地。宮殿・寺院・陵墓の史跡など約170項目を、歴史的事件や関連人物とともに解説。史跡巡りのコースや展示施設も紹介するなど、歴史探訪に必携のハンドブック。

四六判　336頁　**2,970円**(2,700)
978-4-642-08290-7　(16.2)

吉川弘文館編集部編
奈良古社寺辞典

奈良・大和路の多くの寺院や様々な神の鎮座する神社から、115ヵ所を厳選。由緒や歴史、建物、仏像、宝物、年中行事などを正確に分かりやすく解説。多彩な図版と付録も充実した歴史探訪を楽しむ必携のハンドブック。

四六判　360頁　原色口絵8　**3,080円**(2,800)
978-4-642-08026-2　(09.10)

吉川弘文館編集部編
京都古社寺辞典

古都・京都の多くの神社・寺院から240ヵ所を厳選。由緒や歴史、建物・庭園などの文化財を、図版も交えて分かりやすく解説。年中行事一覧、庭園図などの付録も充実した、歴史探訪の旅を楽しむ必携のハンドブック。

四六判　456頁　原色口絵8　**3,300円**(3,000)
978-4-642-08034-7　(10.5)

吉川弘文館編集部編
鎌倉古社寺辞典

歴史的風土が色濃い鎌倉の寺社、約150ヵ所を収録。エリア別に由緒や歴史、文化財を図版も交え平易に解説。略地図、関係人物略伝、年中行事一覧、索引など付録も充実した、歴史探訪を楽しむ必携のハンドブック。

四六判　296頁　原色口絵8　**2,970円**(2,700)
978-4-642-08060-6　(11.7)

土生田純之編
事典 墓の考古学
菊判　512頁　原色口絵8　**10,450円**(9,500)

墓は単なる死者の埋葬施設ではなく、古来日本人の死生観や政治・社会を映し出してきた。日本の墓制・葬制の理解に不可欠なテーマと著名人物の墓を多数収め、隣接分野の成果を交え平易に解説。総合的に墓を捉える事典。
978-4-642-01470-0　(13.6)

西本豊弘・新美倫子編
事典 人と動物の考古学
四六判　308頁　**3,520円**(3,200)

原始時代より、人は動物とともに生活してきた。発掘された骨や遺物などから、明治初頭までの人と動物との多様な関わりを描く。これまで知られることのなかった日本人と動物の歴史をわかりやすく解説する読む事典。
978-4-642-08042-2　(10.12)

日本石造物辞典編集委員会編
日本石造物辞典
菊判　1408頁　原色口絵12　**22,000円**(20,000)

板碑や石仏などの石造物には、地域の歴史が刻印されている。古代から南北朝時代につくられた約1500の石造物の形状・銘文・伝承・現地アクセスなどを都道府県別に収載。関連用語も解説した、待望の石造物総合辞典。
978-4-642-01466-3　(12.12)

木下　良著
事典 日本古代の道と駅
第10回人文地理学会賞(学術図書部門)受賞
菊判　432頁　原色口絵1丁　**8,800円**(8,000)〈僅少〉

古代道路は、都と国府をほぼ直線で結ぶ大道であったなど、近年その全貌が明らかにされつつある。古代道路研究の第一人者が最新の成果から、七道ごとに全国の古代の駅と道路を復原。交通史・郷土史研究にも必備の事典。
978-4-642-01450-2　(09.3)

木村茂光・安田常雄・白川部達夫・宮瀧交二編
日本生活史辞典
四六倍判　830頁　原色口絵32　**29,700円**(27,000)

当たり前の〝日常生活〟、その歴史を紐解く！

脈々と営まれ続ける人びとの暮らし。民衆・市民を主役とし、生活の基礎となる衣食住から労働・遊び・家族・大衆文化・経済・近年の社会問題まで約2700項目を収録。当たり前に過ごす日常や、さまざまな日用品、生活に関わる制度の成り立ちと変化を解説し、生活文化の移り変わりが掴める。本文理解を深める豊富な図版や便利な索引を付載する。
978-4-642-01476-2　(16.11)

北原糸子・松浦律子・木村玲欧編
日本歴史災害事典
菊判　876頁　原色口絵16　**16,500円**(15,000)

貞観年間から東日本大震災まで。これからの防災・復興を考える事典

貞観年間から2011年まで、日本列島を襲った地震・津波・噴火・台風・火災などの災害を収録。人文・社会科学、理・工学など関連分野の第一人者を結集し、災害のメカニズム・被害・復興・防災などの総合的な視点から書き下ろす。個別の災害項目に加え、専門用語解説・コラムも充実。これからの防災・復興を考えるための画期的〈災害総合事典〉。
978-4-642-01468-7　(12.6)

吉浜　忍・林　博史・吉川由紀編
沖縄戦を知る事典
―非体験世代が語り継ぐ―
A5判　222頁　**2,640円**(2,400)

「鉄の暴風」が吹き荒れた沖縄戦。その戦闘経過、住民被害の様相、「集団自決」の実態など、67項目を収録。豊富な写真が体験者の証言や戦争遺跡・慰霊碑などの理解を高め、〝なぜ今沖縄戦か〟を問いかける読む事典。
978-4-642-08352-2　(19.6)

古賀徳子・吉川由紀・川満　彰編
続・沖縄戦を知る事典
―戦場になった町や村―
A5判　224頁　**2,640円**(2,400)

沖縄戦の戦場は中南部だけではなかった。地上戦がなかった地域でも、住民たちは日米軍の動向に翻弄され、命を脅かされた。沖縄戦で町や村はどうなったのか。市町村史の『戦争編』を基に、沖縄戦を立体的に描き出す。
978-4-642-08451-2　(24.6)

川平成雄・松田賀孝・新木順子編
戦後沖縄生活史事典 —1945-1972—
第38回八重山毎日文化賞受賞
菊判　500頁　**8,800円**(8,000)

米軍統治下の戦後沖縄で、激動の波に翻弄されながらもたくましく生きた人びとの暮らしを知る事典。生活に深く関わった出来事111項目を多彩なテーマで紹介。随所にコラムをちりばめ、参考文献や索引を付載する。
978-4-642-01482-3　(22.9)

前田哲男・林　博史・我部政明編
〈沖縄〉基地問題を知る事典
A５判　218頁　**2,640円**(2,400)

沖縄の基地はなぜ減らないのか。安全保障から土地収用、経済まで基地に関する40のテーマを設定。世界史的視点も交えわかりやすく解説する。基本データや読書ガイドを収載した、基地問題を知る教科書として必携の書。
978-4-642-08084-2　(13.2)

浅井春夫・川満 彰・平井美津子・本庄 豊・水野喜代志編
事典 太平洋戦争と子どもたち
A５判　190頁　**2,420円**(2,200)

戦争は子どもたちに何をもたらすのか。戦禍だけでなく、暮らしや教育、戦後も含めて振り返る。疎開、沖縄戦、孤児生活など、47の問いに答えて戦災の惨劇を記憶し平和へ願いを託す。読書ガイドも収め平和学習に最適。
978-4-642-08414-7　(22.8)

関根達人・菊池勇夫・手塚　薫・北原モコットゥナシ編
アイヌ文化史辞典
菊判　704頁　原色口絵4　**15,400円**(14,000)

ひと・もの・こころから読み解く
初めての総合辞典！

北方世界で狩猟採集・交易民として独自の文化を営み、長年暮らしてきたアイヌ民族の歴史・文化・社会がわかる、初めての総合辞典。ひと・もの・こころの３部構成から成り、歴史をはじめ、考古資料や民具に基づく物質文化や言語・口承文芸・儀礼の精神文化など、約1000項目を図版も交えてわかりやすく解説する。地図・年表・索引など付録も充実。
978-4-642-01480-9　(22.7)

新谷尚紀・関沢まゆみ編
民俗小事典 死と葬送
四六判　438頁　**3,520円**(3,200)

伝統的な葬送儀礼が大きく揺らぐ現在、死に対する日本人の考えはどう変化してきたのか。死・葬送・墓・供養・霊魂をキーワードに解説する。尊厳死や無宗教葬などの現代的関心にも触れた、死について考えるための読む事典。
978-4-642-07949-5　(05.12)

木村茂光・安田常雄・白川部達夫・宮瀧交二著
モノのはじまりを知る事典
—生活用品と暮らしの歴史—
四六判　272頁　**2,860円**(2,600)

私たちの生活に身近なモノの誕生と変化、名前の由来、発明者などを通史的に解説。人がモノをつくり、モノもまた人の生活と社会を変えてきた歴史がわかる。理解を助ける豊富な図版や索引を収め、調べ学習にも最適。
978-4-642-08368-3　(19.12)

福田アジオ・神田より子・新谷尚紀・
中込睦子・湯川洋司・渡邊欣雄編
日本民俗大辞典　上・下(全２冊)
四六倍判　平均1144頁

日本文化の「いま」を読み解く
質量ともに最大・最高水準の民俗百科

総項目6300、沖縄・アイヌなども視野に入れた、従来の日本民俗学の枠組みを超える質量ともに最大・最高水準の民俗大百科。柳田國男以来の民俗学の蓄積を生かしつつ人文社会科学の成果も取り入れ、民俗文化の全容を解明。

上(あ～そ)　**22,000円**(20,000)　978-4-642-01332-1　(99.9)
下(た～わ・索引)　**22,000円**(20,000)　978-4-642-01333-8　(00.4)

福田アジオ・神田より子・新谷尚紀・中込睦子・湯川洋司・渡邊欣雄編
精選 日本民俗辞典
菊判　704頁　**6,600円**(6,000)

民俗学の基本用語700余を精選し、最新の成果をふまえてわかりやすく解説する。社会のあり方から日常生活まで幅広い項目を収め、日本の「いま」を読み解く学問としての民俗学を一冊にまとめた、初学者にも最適な辞典。
978-4-642-01432-8　(06.3)

佐藤孝之・天野清文編

近世古文書用語辞典

四六判　708頁　**4,950円**(4,500)

数1000点におよぶ古文書を渉猟し、約11500の用語・用字を精選。豊富な文例にわかりやすい現代語訳を付す。類書屈指の収録語数でありつつコンパクトなサイズを実現。古文書をより深く学ぶための必備必携の辞典。

978-4-642-01484-7　(24.7)

大隅和雄・神田千里・季武嘉也・山本博文・義江彰夫著

知っておきたい 日本の名言・格言事典

A５判　272頁　**2,860円**(2,600)

聖徳太子から松下幸之助まで、歴史上に輝かしい足跡を残した日本人114名の珠玉のことば。生年順に配列し、人物紹介・文意・要旨・出典・参考文献も収めた、どこから読んでも役に立つ、座右必備の名言・格言事典。

978-4-642-07944-0　(05.8)

大隅和雄・神田千里・季武嘉也・森　公章・山本博文・義江彰夫著

知っておきたい 日本史の名場面事典

A５判　286頁　**2,970円**(2,700)〈僅少〉

大化の改新、壇浦の戦い、川中島合戦、赤穂浪士の討ち入り、玉音放送、東京オリンピック…。日本史の転機となった名場面が、詳細・平易な解説と臨場感あふれる豊富な図版で鮮やかによみがえる。出典と参考文献を付す。

978-4-642-07984-6　(08.3)

中尾　堯・今井雅晴編

知っておきたい 名僧のことば事典

A５判　304頁　**3,190円**(2,900)

日本史上に大きな足跡を残した名僧34名の珠玉のことばを集成。心にしみる言葉の理解のために、名僧の生涯を辿り、現代語訳と平易な解説を付す。混迷の時代を生きる現代人に、多くの指針を与えてくれる座右必備の書。

978-4-642-08041-5　(10.9)

田中健夫・石井正敏編

対外関係史辞典

四六倍判　912頁　原色口絵16　**27,500円**(25,000)

邪馬台国から幕末まで、1800年に及ぶ対外関係に関わる2000余項目を、詳細・平易に解説。グローバル化が進むなか、日本文化の成り立ちや諸地域との関係を歴史的に考えるために必備の辞典。参考文献・索引付。

978-4-642-01449-6　(09.2)

世界の文字研究会編

世界の文字の図典 〔普及版〕

菊判　640頁　図版1200点　**5,280円**(4,800)

古今東西の文字を網羅。
1200点の図版でよむ「文字の大図鑑」

世界の文字はどのように生まれ、発達してきたのか。古代文字から現代の文字まで歴史上に現れた全ての文字を網羅し、わかりやすく解説。発生の由来と変遷、読み方・運用・文例、伝播と影響などを詳述し、数字や記号、便利な付録も充実。1200点の鮮明な図版でわかる、読んで、見て楽しい文字の大図鑑。不朽のロングセラーに待望の普及版誕生。

978-4-642-01451-9　(09.5)

加藤友康・瀬野精一郎・鳥海　靖・丸山雍成編

日本史総合年表 第三版

四六倍判　1292頁　**19,800円**(18,000)

「令和」を迎え、「平成」を網羅した
14年ぶりの増補新版！

旧石器時代から令和改元2019年5月1日に至るまで、政治・経済・社会・文化にわたる41000項目を収録。西暦を柱に和年号・干支・閏月・改元月日・大の月、朝鮮・中国年号及び天皇・将軍・内閣他の重職欄を設け、近世までの項目には典拠を示し、便利な日本史備要と索引を付した画期的編集。「国史大辞典別巻」、14年ぶり待望の増補新版。

978-4-642-01479-3　(19.10)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

対外関係史総合年表編集委員会編

対外関係史総合年表

四六倍判　1104頁　**38,500円**(35,000)

『国史大辞典』の補完を成す
詳細無比な唯一の画期的大年表誕生

日本は世界とどう関わってきたのか。紀元前より琉球処分が行われた1879年(明治12)までの、政治・経済・社会・文化全般にわたる対外関係項目36000余を収録。地域は、蝦夷・琉球・朝鮮・中国や東南アジア・欧米諸国に及ぶ。各項目には典拠を示し、原典に遡って史料を容易に確認できるようにした。広範詳密な内容は、読む年表としても楽しめる。
978-4-642-01331-4　(99.9)

吉川弘文館編集部編

誰でも読める 日本史年表　全5冊
—ふりがな付き—

菊判　第11回学校図書館出版賞受賞　平均520頁

屯倉・国造・以仁王・移徙・兌換・幣原内閣…
あなたはいくつ読めますか？

日本史の人名や用語には、どう読めば良いのかわからないものが数多い。その悩みを解消すべく、記事本文の漢字すべてにふりがなを付けた便利な年表。典拠一覧、暦日表、七曜表、国史大辞典と連動した索引を付載する。

古代史年表　**6,270円**(5,700)　978-4-642-01436-6 (06.12)
中世史年表　**5,280円**(4,800)　978-4-642-01439-7 (07.10)
近世史年表　**5,060円**(4,600)　978-4-642-01441-0 (07.12)
近代史年表　**4,620円**(4,200)　978-4-642-01445-8 (08.8)
現代史年表　**4,620円**(4,200)　978-4-642-01446-5 (08.11)

江原絢子・東四柳祥子編

日本の食文化史年表

菊判　414頁　原色口絵4　**5,500円**(5,000)

今日までの3万年以上、日本人は何を食べてきたのか。生産・飢饉・事件・新製品など〝食〟に関するあらゆる事項を網羅。どこから読んでも興味の尽きない構成で、楽しみながら日本の〝食〟を理解する。便利・詳細な索引付。
978-4-642-01459-5　(11.7)

吉川弘文館編集部編

日本軍事史年表　—昭和・平成—

菊判　518頁　**6,600円**(6,000)

近代日本の歴史は、軍事を除いて語れない。満洲事変、太平洋戦争、日米安保条約、自衛隊発足、ＰＫＯ協力法など、昭和初期より現代にいたる軍事関連事項約5000を収録。激動の時代をたどり、戦争と平和を学ぶ年表。
978-4-642-01465-6　(12.3)

黒板勝美編輯

新訂増補 国史大系〔普及版〕

菊判

この「普及版」は、携帯用の廉価版「国史大系」として、広く各方面にご採用とご購入をいただいております。印刷・製本などの諸般の事情により在庫が切れ次第、販売を停止する書目もありますので、予めご諒承下さい。

日本書紀 前篇　**5,170円**(4,700)　978-4-642-00001-7(71.4)
日本書紀 後篇　**3,960円**(3,600)　978-4-642-00002-4(71.4)
続日本紀 前篇　**3,190円**(2,900)　978-4-642-00003-1(68.5)
続日本紀 後篇　**3,520円**(3,200)　978-4-642-00004-8(68.5)
令義解　**4,400円**(4,000)　978-4-642-00011-6(68.5)
吾妻鏡 第一　**4,400円**(4,000)　978-4-642-00024-6(68.5)
吾妻鏡 第二　**5,170円**(4,700)　978-4-642-00025-3(68.5)
吾妻鏡 第三　**5,170円**(4,700)　978-4-642-00026-0(68.5)
吾妻鏡 第四　**5,610円**(5,100)　978-4-642-00027-7(68.5)

倉本一宏編

古事類苑新仮名索引

Ａ5判　726頁　**14,300円**(13,000)

7万5千頁におよぶ百科史料事典、古事類苑。旧仮名遣いで不便だった索引の項目を新仮名の五十音順に並べ替える。さらに旧版に多く存在した部門・冊数・頁数の誤りも訂正。長年の「使いにくい」という声に応えた待望の新版。
978-4-642-01456-4　(10.5)

オンデマンド版 新規刊行書目（2024年10月発売）

▶オンデマンド版について

「オンデマンド版」とは書籍の印刷面をスキャナーで取り込み、内容を電子化してコンピュータに保存することにより、注文に応じて１冊ずつ製作する、新しい印刷方法による出版です。従来のインクを用いた印刷とは異なり、高精細プリンターによる工程を経た製本になります。この方法によって、これまで小部数のために重版が困難であった貴重な書籍も提供できることになりました。

▶ご注文方法

ご注文をお受けするたびに１冊ずつ製作いたしますので、お届けできるまで３週間程度かかります。なお、受注製作となりますのでキャンセル・返品はお受けできません。あらかじめご了承ください。

虎尾俊哉著
班田収授法の研究
（日本史学研究叢書）
Ａ５判　530頁　**15,950円**（14,500）
実証主義の立場から班田法の研究に新生面を開き、あいついで問題作を発表してきた著者が、班田法に関する主要論点の殆どすべてに亘ってその見解をまとめ、しかも、学界の新しい動向を十分に反映した総合的な研究書。
978-4-642-72018-2　（初版 1961.3）

倉本一宏著
日本古代国家成立期の政権構造
Ａ５判　514頁　**15,950円**（14,500）
日本の古代国家がどのような過程をへて成立したのか、創成期の政治権力の構造に焦点をしぼり、大化前代の氏族合議制、律令制成立期の「皇親政治」、律令国家における政権構造という３つの視座から解明し問題点を提示。
978-4-642-72309-1　（初版 1997.1）

倉本一宏著
摂関政治と王朝貴族
Ａ５判　398頁　**13,750円**（12,500）
政権構造の変遷と政策決定の経緯という２つのテーマを切り口にして、摂関期の権力と政治の実体に迫る。古記録を解説し、文学作品から史実を探り出すという手法を駆使して、新たな摂関政治像を再構築することを目指す。
978-4-642-72349-7　（初版 2000.7）

中村順昭著
律令官人制と地域社会
Ａ５判　378頁　**13,200円**（12,000）
律令支配体制の支柱であった官人制。その基礎となる中央の諸官司と地方の下級官人や官人身分をもたない人々が、平城京や地域社会において、いかに機能したかを論究。官人制を通して古代社会の実像を明らかにする。
978-4-642-72468-5　（初版 2008.7）

蓑島栄紀著
古代国家と北方社会
Ａ５判　368頁　**13,200円**（12,000）
古代「蝦夷」と呼ばれた地域は、オホーツク海域などと交流し、独自の歴史を展開していた。国家の支配の枠組を超えた多様な交流の様相を分析。東アジア諸民族との境界的な側面にも注目し、古代北方社会の特質を解明。
978-4-642-72371-8　（初版 2001.12）

溝口優樹著
日本古代の地域と社会統合
Ａ５判　290頁　**12,100円**（11,000）
日本の古代社会はいかに統合していたのか。古代国家形成史を、和泉北部を中心に、地域と社会統合という視点を通して考察。陶邑古窯跡群や大野寺土塔出土の文字瓦、行基集団などから、律令制導入前後の実態に迫る。
978-4-642-74618-2　（初版 2015.2）

山本信吉著
貴重典籍・聖教の研究
Ａ５判　384頁　**14,300円**（13,000）
わが国の貴重な典籍・聖教はどのように伝来し、発見・調査されてきたのか。半井家本『医心方』、来迎院本『日本霊異記』などの古典籍や、高野山正智院などの聖教に関する解題・解説を、余人が知り得ない逸話とともに集成。
978-4-642-71407-5　（初版 2013.8）

価格は 10％税込、（　）内は本体価格

磐下　徹 著

日本古代の郡司と天皇

Ａ５判　312頁　**12,100円**（11,000）

日本の古代国家は、地方豪族を郡司に編成することで中央集権的な地方支配を目指した。孝徳朝に確立された郡司と天皇の関係や郡司層を分析視角に、その成立過程や内実を考察。郡司・郡司制度から古代国家像を検証する。

978-4-642-74633-5　（初版 2016.12）

鈴木靖民 著

日本の古代国家形成と東アジア

Ａ５判　406頁　**13,750円**（12,500）

東アジア世界のなかで、日本の国家形成はどのようになされていったのか。７世紀の国際関係に焦点をあて、中国・朝鮮半島諸国と日本との交流史を詳細に読み解き、日本の動向、日本の政治・文化への影響にも言及する。

978-4-642-72484-5　（初版 2011.9）

皆川雅樹 著

日本古代王権と唐物交易

Ａ５判　278頁　**10,450円**（9,500）

古代以来の海外からの輸入品「唐物」とは何か。「交易」「贈与」をキーワードに香料・動物などの事例を分析。日本古代王権の支配秩序の中で唐物交易が持つ政治性・イデオロギー性を明示し、東アジアの交流史を描く。

978-4-642-74612-0　（初版 2014.3）

笹山晴生 著

平安初期の王権と文化

Ａ５判　282頁　**9,900円**（9,000）

律令制が揺らぐ８～９世紀、再編された警察機構と王権の不可分な関係を追究する。文化的活動の持つ政治性にも着目し、国史編纂や、宇多天皇・藤原良房の独自性を照射。摂関・院政期をも視野に古代天皇制の特質に迫る。

978-4-642-74632-8　（初版 2016.11）

金田章裕 著

古代景観史の探究

―宮都・国府・地割―

Ａ５判　394頁　**13,750円**（12,500）

古代の景観研究の進展により、多様な変化と動態が明かになりつつある。景観史の視角と方法の確立をめざし、宮都の立地と形態、国府の形態と構造、農地の地割形態など、学際的研究により景観の歴史的生態を究明。

978-4-642-72376-3　（初版 2002.6）

金田章裕 著

古代・中世遺跡と歴史地理学

Ａ５判　258頁　**10,450円**（9,500）

近年発掘が進み、かずかずの新しい発見がされている古代・中世遺跡。古代の駅路や宮都、条里遺跡や用水路遺構を事例としつつ、古代・中世の景観を解明。多数の図表を駆使して、歴史地理学の立場からアプローチする。

978-4-642-72483-8　（初版 2011.7）

泉谷康夫 著

記紀神話伝承の研究

Ａ５判　322頁　**12,650円**（11,500）

記紀は編纂に至る過程の宗教思想によって多くの影響をうけている。穀霊信仰・出雲神話・祟神紀伝承などを検証し、伊勢神宮・宇佐八幡宮の成立や古代豪族の宗教的役割にも言及。古来信仰の変遷と政治との関わりを論ずる。

978-4-642-72396-1　（初版 2003.8）

三舟隆之 著

日本古代地方寺院の成立

Ａ５判　434頁　**16,500円**（15,000）

７世紀後半の律令国家の成立に伴い、地方ではなぜ寺院の建立が急増したのか。文献史学・考古学を駆使し、寺院建立の宗教的・政治的背景と意義を解明。仏教受容が地域社会に与えた影響を探り、古代地方寺院の実態に迫る。

978-4-642-72387-9　（初版 2003.2）

田中禎昭 著

日本古代の年齢集団と地域社会

Ａ５判　390頁　**13,750円**（12,500）

日本史上、地域社会の秩序を維持してきた年齢集団・年齢組織。下総国葛飾郡大嶋郷の戸籍の分析などを通じて古代社会の中にその存在を位置づけ、国家的編制形態を解明。律令国家期における新たな古代社会像を提示する。

978-4-642-74627-4　（初版 2015.12）

オンデマンド版 新規刊行書目（2024年10月発売）

山村亜希著
中世都市の空間構造
A５判　336頁　**12,650円**（11,500）

中世都市史研究において、「空間」とは何か。中世都市の空間構造の実態と領主権力の空間認識との相違を考察。都市空間の変遷過程と都市をめぐる政治・社会構造との関連を問い、歴史地理学から新しい研究視角を提供する。
978-4-642-72882-9　（初版 2009.2）

佐々木　馨著
中世仏教と鎌倉幕府
A５判　450頁　**14,850円**（13,500）

外来宗教の仏教は、鎌倉新仏教の誕生と旧仏教の対応である思想運動を通して定着した。鎌倉幕府と仏教界との相関関係の変遷を縦軸に、新仏教と旧仏教における「神祇信仰」の受容状況を横軸に、中世仏教を構造的に究明。
978-4-642-72756-3　（初版 1997.6）

鹿毛敏夫著
アジアン戦国大名大友氏の研究
A５判　256頁　**9,900円**（9,000）

九州豊後の大友氏は、大陸に近い地の利を活かして、中国や東南アジアを意識した諸政策を実行した。「アジアン大名」としてのグローバルな営みを、日本・中国・インド・ポルトガルに残る史料・絵画・遺物などから解明。
978-4-642-72903-1　（初版 2011.11）

井原今朝男著
中世日本の信用経済と徳政令
A５判　536頁　**15,950円**（14,500）

中世におけるさまざまな経済現象を信用・債務・投機の視点から検証。貸付取引の広がりを実証的に解明し、徳政令の意義を位置づけ直す。社会経済現象を、売買・貸付取引の二大原理に再構築し、新しい社会経済史を提示。
978-4-642-72927-7　（初版 2015.11）

入間田宣夫著
北日本中世社会史論
A５判　366頁　**13,200円**（12,000）

中世北日本の社会はどのように中央国家に関わっていたのか。「北方世界に向き合う境界領域にて」「荘園・公領制と鎌倉武士団」「天下一の馬産地」という切り口から解明。東アジアをも視野に入れ、中世日本の歴史を捉え直す。
978-4-642-72843-0　（初版 2005.8）

西尾知己著
室町期顕密寺院の研究
A５判　358頁　**13,200円**（12,000）

在地に強い基盤をもたなかった東寺と東大寺は室町期の政治・社会状況にいかに対応したのか。室町幕府の権力を背景に寺内で影響力を発揮した貴種僧や、自立的な経営をめざした学侶衆中の活動から寺家運営の実態を解明。
978-4-642-72943-7　（初版 2017.12）

平泉隆房著
中世伊勢神宮史の研究
A５判　358頁　**13,200円**（12,000）

中世の伊勢神宮はどのような歴史を歩んだのか。鎌倉時代を中心に、遷宮、公卿勅使、神宮作所、財源など、神宮の諸問題を明らかにし、伊勢神道の成立・展開過程を追究。史実と神道教義の両面から、総合的に考察する。
978-4-642-72853-9　（初版 2006.5）

佐野静代著
中近世の村落と水辺の環境史
―景観・生業・資源管理―2010年度日本地理学会賞（優秀著作部門）受賞
A５判　366頁　**14,300円**（13,000）

日本の水辺は干拓や埋立ての危機にさらされている。中世以来の水辺の環境に焦点をあて、村の生業史と資源管理、水辺のコモンズについて検証。「里湖」の地域システムから今後の水辺再生を考える、新たな環境史の試み。
978-4-642-72879-9　（初版 2008.12）

水野章二著
中世の人と自然の関係史
A５判　360頁　**13,200円**（12,000）

中世の人々は、自然とどう関わってきたのか。荘園・村落の景観や環境、開発の進展と災害、都市災害の実態などを具体的に考察。多様な史料を駆使し、中世民衆の生活環境を復原。地域史研究に新たな可能性を拓く。
978-4-642-72884-3　（初版 2009.3）

佐々木　馨著
日本中世思想の基調
A５判　376頁　**13,200円**（12,000）

日本中世の思想には、主に神道・仏教・儒教・陰陽道がある。それらは国家・社会・生活の中でいかなる機能をもつのか。王権の正当化と超越化、女人往生の論理などを探り、基調を考察。思想を構造的・総体的に解明する。
978-4-642-72845-4　（初版 2006.1）

価格は10％税込、（　）内は本体価格

坂井孝一著
曽我物語の史的研究
A５判　364頁　**13,200円**（12,000）

曽我兄弟の敵討ち事件を描き、長く日本人を魅了しながら、戦後ＧＨＱによりタブー視された『曽我物語』を歴史学的に再評価。その文学的意図・虚構の意義を解明し、兄弟を取り巻く人物像、敵討ち事件の史実に迫る。
978-4-642-72921-5　（初版 2014.12）

飯島千秋著
江戸幕府財政の研究
第３回徳川賞受賞
A５判　568頁　**18,700円**（17,000）

幕府の財政構造を解明した画期的大著。『徳川宗家文書』などから、新たに近世中・後期の幕府の収支決算書を発掘して徹底分析。全国の米蔵と江戸御金蔵の管理・運営や役割・機能を追究する。巻末に「収支決算書」等を付載。
978-4-642-73388-5　（初版 2004.6）

佐藤宏之著
近世大名の権力編成と家意識
A５判　274頁　**11,000円**（10,000）

大名改易、養子問題、主君「押込」、家中騒動…。近世大名家は、これら御家断絶の危機にどのように対応し、「御家」を存続させたのか。家臣団編成や戦略的に醸成された御家意識を追究し、近世大名の「家」戦略の実態に迫る。
978-4-642-73442-4　（初版 2010.1）

熊倉功夫著
寛永文化の研究
A５判　354頁　**13,200円**（12,000）

江戸時代の初頭を彩る寛永文化は、かぶきの誕生、本阿弥光悦の芸術、桂離宮など、日本文化史上に輝かしい一時代を画した。本書ははじめて寛永文化に正面から取り組み、その性格と歴史的背景を明らかにした。
978-4-642-73290-1　（初版 1988.10）

中村　質著
近世対外交渉史論
A５判　268頁　**9,900円**（9,000）

豊臣政権から徳川政権末期にいたる対外交渉の実態を、多角的に追究する。壬辰丁酉倭乱（文禄・慶長の役）の被虜人、鎖国初期の海外情報管理、唐船貿易などを取り上げ解明。近世対外政策の特質とその歴史的意義を探る。
978-4-642-73359-5　（初版 2000.8）

高橋美貴著
近世・近代の水産資源と生業
―保全と繁殖の時代―
A５判　320頁　**12,650円**（11,500）

世界史的拡がりの中で、日本の漁業史・漁政史はいかに位置づけられるのか。「資源繁殖」をキーワードに、水産資源問題に対する国際的な取り組みの起点を捉え、近世・近代日本漁政の展開を検討。その歴史的意義を解明する。
978-4-642-73459-2　（初版 2013.12）

木村直樹著
幕藩制国家と東アジア世界
A５判　336頁　**12,650円**（11,500）

明から清への王朝交替や西欧諸国のアジア海域での競合など不安定な情勢下、江戸幕府はどのような外交政策をとったのか。対外関係の窓口長崎にも注目し、幕府から派遣された奉行や地役人による複合的都市社会を考える。
978-4-642-73441-7　（初版 2009.10）

浪川健治著
近世北奥社会と民衆
A５判　320頁　**12,650円**（11,500）

蝦夷地の幕領化が図られた近世後期、民衆は、北海道へ出稼ぎ・定住するようになった。藩領を超える民衆の移動の実態とその特質を、蝦夷地政策と村落状況の変容を基軸に解明。移動が恒常化する近世北奥社会の実像を描く。
978-4-642-73396-0　（初版 2005.1）

東　昇著
近世の村と地域情報
A５判　274頁　**12,100円**（11,000）

近世の村の研究において、村役人が担った行政・運営の解明は重要な課題である。幕府領、肥後国天草郡高浜村の庄屋上田家伝来の庄屋日記や古文書などを分析し、地域情報という新しい視点から村社会の実態を追究する。
978-4-642-73473-8　（初版 2016.3）

岩本　馨 著
近世都市空間の関係構造
A５判　336頁　**12,650円**（11,500）

都市空間とは何か。吉宗の紀州家臣の江戸屋敷獲得などの政治的関係や、秩父三十四カ所霊場をめぐる文化的関係など、さまざまな角度から検討。近世の都市空間を、社会的諸集団の関係構造のなかで動態的に描き出す。
978-4-642-73432-5　（初版 2008.8）

吉田俊純 著
寛政期水戸学の研究
―翠軒から幽谷へ―
A５判　338頁　**12,650円**（11,500）

歴史の学問的研究を目的としていた水戸学が、尊王論と攘夷論の思想に大きく梶を切る起点で何が起こったのか。水戸学の展開の実体を詳細に検討。師・立原翠軒と弟子・藤田幽谷の交流と別れから、思想の背景を解明する。
978-4-642-73444-8　（初版 2011.1）

藤實久美子 著
近世書籍文化論 ―史料論的アプローチ―
A５判　348頁　**12,650円**（11,500）

17 世紀中頃の京都の書肆出雲寺家の活動を検討し、「知」がどのように伝播し、蓄積されていったのかを解き明かす。また、『徳川実紀』の諸本研究から史料学的検討の重要性を説き、近世社会における書籍文化の展開を考える。
978-4-642-73409-7　（初版 2006.1）

上白石　実 著
幕末期対外関係の研究
A５判　304頁　**12,100円**（11,000）

幕末の対外政策はペリー来航を画期とし、来航以前の「海防」、来航以後の「開港」に分けられる。ペリー来航と向き合った阿部正弘政権を中心に、寛政期から明治前期まで、19 世紀における対外政策の連続性を解明する。
978-4-642-73808-8　（初版 2011.12）

西澤美穂子 著
和親条約と日蘭関係
A５判　298頁　**14,300円**（13,000）

日本の近代外交の端緒となる、和親条約成立の過程を、江戸時代に唯一交流のあった西洋国オランダとの関係に着目し追究。ペリー来航に始まる欧米列強との接触と、対処に苦慮する日本の姿を探り、幕末の対外政策を解明。
978-4-642-73822-4　（初版 2013.5）

森田朋子 著
開国と治外法権
―領事裁判制度の運用とマリア・ルス号事件―
A５判　346頁　**13,200円**（12,000）

開国日本は欧米諸国と締結した不平等条約といかに対峙したのか。この条約で生じた紛争解決システム＝領事裁判制度が、異文化を尊重する制度として効率的に機能したことを検証。負のイメージ＝治外法権の一側面に迫る。
978-4-642-73767-8　（初版 2005.1）

刑部芳則 著
明治国家の服制と華族
第 27 回江馬賞受賞
A５判　414頁　**14,300円**（13,000）

和装から洋装へという明治国家の新しい服制は、どのように創設されたのか。服制改革や麝香間祗候などに光を当て、服制の変化と近代天皇制を支えた華族階層の役割意識の違いを検討。明治国家の本質を探る注目の一冊。
978-4-642-73816-3　（初版 2012.12）

中島耕二 著
近代日本の外交と宣教師
A５判　290頁　**10,450円**（9,500）

明治８年、文明開化の日本に米国長老教会の宣教師として来日したW・インブリー。様々な分野に足跡を残した彼の活動を通じ、「日本の近代化と宣教師」の関係を、今までほとんど検討されずにきた政治外交面から解明する。
978-4-642-73809-5　（初版 2012.1）

雨宮昭一 著
近代日本の戦争指導
A５判　320頁　**12,650円**（11,500）

総力戦体制はいかにしてつくられたのか。統帥権独立制度創出から翼賛体制の形成まで、様々な政治勢力の対抗と協調から、戦争指導の構造を考察する。戦前・戦後の連続と断絶の問題に一石を投じる新たな近代史研究。
978-4-642-73666-4　（初版 1997.2）

価格は 10％税込、（　）内は本体価格

オンデマンド版 新規刊行書目（2024年10月発売）

臼井勝美著
日中外交史研究 ―昭和前期―
A５判　482頁　**15,400円**（14,000）
昭和初期から敗戦にいたるまでの日中外交を、歴史の隅々まで光を当てて検証した大著。膨大な史料を基に、日中戦争などの背景を描き出し、日中両国とその周辺の動向を解明する。同時代に生きる著者の30年に亙る研究業績。
978-4-642-73684-8　（初版 1998.12）

関口哲矢著
昭和期の内閣と戦争指導体制
A５判　318頁　**12,100円**（11,000）
昭和戦時期、各内閣が強力な戦争指導体制の構築を目指して行った取り組みと問題点を検討。内閣側による国家意思決定の改善策の不備が戦争の長期化を招いたとする新たな見解を提唱し、戦争の複雑性を深く追究する。
978-4-642-73856-9　（初版 2016.10）

松田京子著
帝国の視線 ―博覧会と異文化表象―
A５判　240頁　**9,350円**（8,500）
1903年に開催された第５回内国勧業博覧会。「文化」と政治が絡み合った国民国家形成期、植民地パビリオン台湾館などの「異文化」展示が果たした役割とは。帝国意識とナショナル・アイデンティティの問題を考察する。
978-4-642-73757-9　（初版 2003.11）

安達宏昭著
「大東亜共栄圏」の経済構想
―圏内産業と大東亜建設審議会―
A５判　266頁　**9,900円**（9,000）
アジア太平洋戦争開始後、新たな経済圏設定を検討すべく開催された大東亜建設審議会。企画院・商工省・陸海軍などの思惑が絡みあう、審議会の答申とその作成過程を分析し、「大東亜共栄圏」構想の経済的側面を解明。
978-4-642-73820-0　（初版 2013.3）

伊藤康子著
草の根の女性解放運動史
A５判　342頁　**12,650円**（11,500）
近現代の女性は、自分を解放するために何をしてきたのか。婦人雑誌に自由と自立への模索を投稿した戦前から、「主権」を手に入れながらも生きにくさを感じている現在まで。草の根の女性たちの姿を解放運動史に探る。
978-4-642-73770-8　（初版 2005.5）

伊藤康子著
草の根の婦人参政権運動史
A５判　320頁　**12,650円**（11,500）
祖父に父に夫に、進学も仕事も結婚も決められた戦前の日本女性は、全国で婦人参政権運動を展開した。戦後も日本国憲法の下、組織や新聞を創造する。平和・労働・家族を自分のものとする活動を、参政権運動として解明。
978-4-642-73782-1　（初版 2008.1）

我部政明著
戦後日米関係と安全保障
第35回伊波普猷賞受賞
A５判　354頁　**13,200円**（12,000）
安保条約の成立から沖縄返還をへてテロとの戦いへと繋がる政治過程の中で、現在３度目の米軍再編が行なわれている。米国資料を基に、日米地位協定、「思いやり予算」など、戦後アメリカの対日軍事政策を実証的に解明。
978-4-642-73779-1　（初版 2007.8）

小山聡子著
親鸞の信仰と呪術
―病気治療と臨終行儀―
A５判　300頁　**12,100円**（11,000）
他力信心の重要性を説いた親鸞の信仰と、当時盛んであった呪術との関係を、病気治療や来迎観などから考察する。師法然やその門弟、親鸞の家族、子孫らの病気治療や臨終行儀への姿勢から、信仰の実態に迫る、注目の書。
978-4-642-72913-0　（初版 2013.8）

菊地大樹著
中世仏教の原形と展開
A５判　350頁　**13,200円**（12,000）
日本中世仏教研究の現状と課題を踏まえ、古代・中世仏教の原形と展開を解明。また、持経者の実像と、中世における彼らの活動を、王権・専修念仏・寺院社会など、近年の中世仏教研究の課題との関わりの中で探り出す。
978-4-642-72864-5　（初版 2007.6）

小原　仁著
中世貴族社会と仏教
A５判　296頁　**10,450円**（9,500）

摂関期後期より、貴族社会で浄土教信仰が盛んになった。仏典の女性蔑視文言と女性の信仰生活、家の繁栄を希求する来世信仰、大仏開眼会に働く政治力学、文人貴族の本朝意識を解明。貴族の信仰生活と思想動向を考察する。
978-4-642-72460-9　（初版 2007.6）

朴澤直秀著
近世仏教の制度と情報
A５判　410頁　**13,750円**（12,500）

「江戸幕府の宗教統制は初期に基本線が完成し、近世を通じて固定化した」という通説を再検討すべく、仏教教団の構造や制度を追究。寺檀制度をめぐる虚実入り交じった「法令」を取り上げ、情報流通、通念形成を解明する。
978-4-642-73470-7　（初版 2015.6）

相原嘉之著
古代飛鳥の都市構造
A５判　398頁　**13,750円**（12,500）

律令制度が完成して誕生した「日本国」。時の為政者「天皇」はいかなる政治判断をし、国家形成を行なったのか。最新の発掘成果から王都の成立過程を追究。王宮の変遷や構造、官衙の成立、飛鳥の都市構造を解明する。
978-4-642-74635-9　（初版 2017.3）

津野　仁著
日本古代の武器・武具と軍事
B５判　304頁　**18,150円**（16,500）

未開拓な奈良・平安時代の武器研究に、考古学の立場から迫る。甲冑・鎧兜、鉄鏃・刀剣について編年を提示し、その変遷を追う。武器の所有政策、生産の実態、儀仗としての側面から、律令国家の武装整備の実像を論じる。
978-4-642-72486-9　（初版 2011.10）

津野　仁著
日本古代の軍事武装と系譜
B５判　330頁　**18,150円**（16,500）

奈良・平安時代の武器・武具・馬具について、資料を集成し編年を提示する。弓・鏃・轡・甲冑など武装に関わる考古遺物の変遷と画期を解明。武装の地域性にも注目し、その系譜を辿りつつ、古代軍事武装の実態に迫る。
978-4-642-74620-5　（初版 2015.3）

福田アジオ著
歴史と日本民俗学 ―課題と方法―
A５判　274頁　**9,350円**（8,500）

民俗学は、歴史を明らかにする学問として発展してきた。近年、歴史とは無関係とする主張が見られる。しかし民俗学は歴史を認識することが基本である。常に学界の先頭に立ってきた著者が、21 世紀の方向性を提示する。
978-4-642-78200-5　（初版 2016.2）

菅　豊著
修験がつくる民俗史
―鮭をめぐる儀礼と信仰―（日本歴史民俗叢書）
A５判　300頁　**12,100円**（11,000）

日本各地の様々な民俗事象が、庶民生活の中で特別な意味と意図をもって形造られ、今日まで伝えられてきた。サケをめぐる儀礼と伝承を通して、里修験と民俗との関わりを探り、宗教が民俗の形成と再編に果たした役割を解明。
978-4-642-77360-7　（初版 2000.9）

八木　透著
婚姻と家族の民俗的構造
（日本歴史民俗叢書）
A５判　270頁　**9,350円**（8,500）

民俗学における重要な研究領域の一つに婚姻がある。本書では、婚姻を村落や家族の構造との関連においてとらえ、個々の婚姻慣行や習俗自体の意味と、それらを支える社会構造の解明と分析に重点をおいて明らかにする。
978-4-642-77361-4　（初版 2001.2）

福田アジオ著
近世村落と現代民俗
（日本歴史民俗叢書）
A５判　330頁　**12,650円**（11,500）

民俗学は、時代や年代を文献史学と共有することで、より豊かな歴史的世界を構築できる。近世から現代まで続く家連合や年中行事、祭礼などの民俗事象から、歴史学では解明できなかった近世成立期の生活の実態を描き出す。
978-4-642-77363-8　（初版 2002.11）

黒板勝美編輯―体系的に網羅した日本史研究の根本史料〈朝日賞受賞〉

新訂増補 国史大系 全60巻（66冊）ワイド版

B5判のオンデマンド版で全巻を提供！

これまでの菊判をＢ５判にして
活字も大きく読みやすくなりました

本大系は、昭和４年(1929)から35年の歳月を費やして完結した、58書目、４万６千ページに及ぶ膨大な叢書であり、完成記念版の刊行以来、何回かの全巻復刊を行ってまいりましたが、好評につきほとんどの書目が品切れとなり、ご迷惑をおかけいたしておりました。日本史研究の根本史料としての『国史大系』を手元に置き、研究を進めたいという読者の皆様のご要望も多く、2007年６月より全巻をオンデマンド版でご提供することといたしました。
オンデマンド版ですので、いつでも、どの書目でも、ご購入いただけることになりました。また、この機会に全巻の判型をＢ５判に統一し、より一層利用しやすくいたしました。
■書目により第２次復刊時の端本が若干ございます。ご入用の方は小社営業部までご照会ください。
■Ｂ５判・上製・カバー装　■**全66冊セット本体＝1,028,500円**(935,000)　■分売自由

第１巻上	日本書紀 前篇	**12,650円**(11,500)	978-4-642-04000-6
第１巻下	日本書紀 後篇	**12,650円**(11,500)	978-4-642-04001-3
第２巻	続日本紀	**14,300円**(13,000)	978-4-642-04002-0
第３巻	日本後紀・続日本後紀・日本文徳天皇実録	**13,750円**(12,500)	978-4-642-04003-7
第４巻	日本三代実録	**15,400円**(14,000)	978-4-642-04004-4
第５巻	類聚国史 前篇	**13,750円**(12,500)	978-4-642-04005-1
第６巻	類聚国史 後篇	**13,750円**(12,500)	978-4-642-04006-8
第７巻	古事記・先代旧事本紀・神道五部書	**12,100円**(11,000)	978-4-642-04007-5
第８巻	日本書紀私記・釈日本紀・日本逸史	**19,250円**(17,500)	978-4-642-04008-2
第９巻	本朝世紀	**18,150円**(16,500)	978-4-642-04009-9
第10巻	日本紀略 前篇	**13,750円**(12,500)	978-4-642-04010-5
第11巻	日本紀略 後篇・百錬抄	**14,300円**(13,000)	978-4-642-04011-2
第12巻	扶桑略記・帝王編年記	**17,600円**(16,000)	978-4-642-04012-9
第13巻	続史愚抄 前篇	**14,850円**(13,500)	978-4-642-04013-6
第14巻	続史愚抄 中篇	**17,050円**(15,500)	978-4-642-04014-3
第15巻	続史愚抄 後篇	**17,600円**(16,000)	978-4-642-04015-0
第16巻	今昔物語集 天竺・震旦	**13,200円**(12,000)	978-4-642-04016-7
第17巻	今昔物語集 本朝	**21,450円**(19,500)	978-4-642-04017-4
第18巻	宇治拾遺物語・古事談・十訓抄	**16,500円**(15,000)	978-4-642-04018-1
第19巻	古今著聞集・愚管抄	**15,400円**(14,000)	978-4-642-04019-8
第20巻	栄花物語	**17,050円**(15,500)	978-4-642-04020-4
第21巻上	水鏡・大鏡	**12,100円**(11,000)	978-4-642-04021-1
第21巻下	今鏡・増鏡	**13,200円**(12,000)	978-4-642-04022-8
第22巻	律・令義解	**13,750円**(12,500)	978-4-642-04023-5
第23巻	令集解 前篇	**13,750円**(12,500)	978-4-642-04024-2
第24巻	令集解 後篇	**13,200円**(12,000)	978-4-642-04025-9

第25巻	類聚三代格・弘仁格抄	17,050円(15,500) 978-4-642-04026-6
第26巻	延暦交替式・貞観交替式・延喜交替式・弘仁式・延喜式	21,450円(19,500) 978-4-642-04027-3
第27巻	新抄格勅符抄・法曹類林・類聚符宣抄・続左丞抄・別聚符宣抄	17,050円(15,500) 978-4-642-04028-0
第28巻	政事要略	17,050円(15,500) 978-4-642-04029-7
第29巻上	朝野群載	14,850円(13,500) 978-4-642-04030-3
第29巻下	本朝文粋・本朝続文粋	15,400円(14,000) 978-4-642-04031-0
第30巻	本朝文集	16,500円(15,000) 978-4-642-04032-7
第31巻	日本高僧伝要文抄・元亨釈書	14,300円(13,000) 978-4-642-04033-4
第32巻	吾妻鏡 前篇	17,050円(15,500) 978-4-642-04034-1
第33巻	吾妻鏡 後篇	18,700円(17,000) 978-4-642-04035-8
第34巻	後鑑 第一篇	16,500円(15,000) 978-4-642-04036-5
第35巻	後鑑 第二篇	21,450円(19,500) 978-4-642-04037-2
第36巻	後鑑 第三篇	19,800円(18,000) 978-4-642-04038-9
第37巻	後鑑 第四篇	21,450円(19,500) 978-4-642-04039-6
第38巻	徳川実紀 第一篇	16,500円(15,000) 978-4-642-04040-2
第39巻	徳川実紀 第二篇	15,950円(14,500) 978-4-642-04041-9
第40巻	徳川実紀 第三篇	16,500円(15,000) 978-4-642-04042-6
第41巻	徳川実紀 第四篇	14,850円(13,500) 978-4-642-04043-3
第42巻	徳川実紀 第五篇	14,850円(13,500) 978-4-642-04044-0
第43巻	徳川実紀 第六篇	16,500円(15,000) 978-4-642-04045-7
第44巻	徳川実紀 第七篇	13,200円(12,000) 978-4-642-04046-4
第45巻	徳川実紀 第八篇	18,150円(16,500) 978-4-642-04047-1
第46巻	徳川実紀 第九篇	17,050円(15,500) 978-4-642-04048-8
第47巻	徳川実紀 第十篇	17,600円(16,000) 978-4-642-04049-5
第48巻	続徳川実紀 第一篇	17,050円(15,500) 978-4-642-04050-1
第49巻	続徳川実紀 第二篇	15,950円(14,500) 978-4-642-04051-8
第50巻	続徳川実紀 第三篇	17,600円(16,000) 978-4-642-04052-5
第51巻	続徳川実紀 第四篇	19,800円(18,000) 978-4-642-04053-2
第52巻	続徳川実紀 第五篇	12,650円(11,500) 978-4-642-04054-9
第53巻	公卿補任 第一篇	14,300円(13,000) 978-4-642-04055-6
第54巻	公卿補任 第二篇	16,500円(15,000) 978-4-642-04056-3
第55巻	公卿補任 第三篇	15,400円(14,000) 978-4-642-04057-0
第56巻	公卿補任 第四篇	14,300円(13,000) 978-4-642-04058-7
第57巻	公卿補任 第五篇	14,300円(13,000) 978-4-642-04059-4
別巻1	公卿補任索引	10,450円(9,500) 978-4-642-04060-0
第58巻	尊卑分脈 第一篇	12,100円(11,000) 978-4-642-04061-7
第59巻	尊卑分脈 第二篇	13,750円(12,500) 978-4-642-04062-4
第60巻上	尊卑分脈 第三篇	14,300円(13,000) 978-4-642-04063-1
第60巻下	尊卑分脈 第四篇	8,250円(7,500) 978-4-642-04064-8
別巻2	尊卑分脈索引	11,550円(10,500) 978-4-642-04065-5

価格は10%税込、( )内は本体価格

オンデマンド版(古代)

鎌田純一著

先代旧事本紀の研究　校本の部

A５判　348頁　**13,200円**(12,000)

平安初期の史書『先代旧事本紀』は偽書とされてきたが、記紀の記述を補う部分があり、古代祭祀をみる上でも再評価されている。25部の諸本、20種の古書の引用文を綿密に校訂した決定版。古代史研究の必備史料。

978-4-642-04222-2　(初版 1960.4)

鎌田純一著

先代旧事本紀の研究　研究の部

A５判　326頁　**13,200円**(12,000)

『先代旧事本紀』に関する総合研究。諸本、成立期について考察するとともに、平安、鎌倉、室町時代での取扱いから江戸時代まで研究史を整理。瑞宝信仰、古代物部氏とその職掌、『国造本紀』についての考察も収める。

978-4-642-04223-9　(初版 1962.3)

林　幹彌著

太子信仰の研究

A５判　522頁　**16,500円**(15,000)

未刊の史料を駆使し、聖徳太子を礼拝供養する太子信仰の発生から完成期までを総合的に論究。法隆寺・四天王寺から律僧・禅僧の太子信仰、また思想史としての視点のみでなく、寺院制度史の面からもその実態に迫る。

978-4-642-04224-6　(初版 1980.2)

新川登亀男著

上宮聖徳太子伝補闕記の研究

(戊午叢書)

A５判　346頁　**13,200円**(12,000)

太子伝のうちでも補闕記は、旧来さして注目されるところがなかった。本書は、補闕記の忘却された発生状態を再現しながら、古代の国家・文化・宗教の一端を明らかにしようと試みたものである。

978-4-642-72094-6　(初版 1980.8)

春名宏昭著

律令国家官制の研究

A５判　352頁　**13,200円**(12,000)

律令国家の運営は、天皇と様々な官による組織体＝官僚機構により成り立っている。本書は、太政官・神祇官・知太政官事・内覧などの各官僚機構について、新視角から問題を抉り、鋭く切り込んで律令官制の具体像を示す。

978-4-642-72313-8　(初版 1997.7)

平野邦雄著

大化前代政治過程の研究

(日本史学研究叢書)

A５判　544頁　**16,500円**(15,000)

倭国の政治情況、大王権力の展開、推古朝より大化改新前後におよぶ古代国家の政治的プログラムを一貫して追究する。確実な史料の選択、その正しい解釈による史実の再構成を全篇にわたり行う。

978-4-642-72044-1　(初版 1985.6)

平野邦雄著

大化前代社会組織の研究

(日本史学研究叢書)

A５判　486頁　**15,400円**(14,000)

大化前代を構成する氏族・各種の部民と農民・異民族・奴婢等の各階層にわたる具体的な研究を通じて、社会組織の変化と発展のあとを解明し、組織全般の一貫した把握をめざした。

978-4-642-72038-0　(初版 1969.5)

加藤謙吉著

大和政権とフミヒト制

A５判　438頁　**14,850円**(13,500)

大和政権のもとで文筆・記録を担当した渡来系の組織、フミヒト。その歴史的展開と構造、職務奉仕や活動のあり方を考察し、全体像を浮彫にする。フミヒト制が大和政権の行政機構の発展・整備の過程で果たした役割を解明。

978-4-642-72385-5　(初版 2002.12)

加藤謙吉著

大和政権と古代氏族

A５判　314頁　**12,100円**(11,000)

律令前代の政治体制を解明するためには、古代氏族の研究は欠かせない。本書は古代氏族の実像を明らかにするとともに、個々の氏族が内政・外交に果たした役割や、制度・組織との関わりを分析し、大和政権の実態に迫る。

978-4-642-72253-7　(初版 1991.11)

土田直鎮著

奈良平安時代史研究

(日本史学研究叢書)

A５判　640頁　**18,150円**(16,500)

律令とその制度、平安時代の政治と文化、正倉院文書や記録類、公卿補任の成立の問題など、奈良平安時代に関する諸論文を収録。未発表論文を初めとして、史料を縦横に駆使した精緻な考証と鋭い史論を展開する。

978-4-642-72257-5　(初版 1992.11)

オンデマンド版(古代)

佐藤長門著

日本古代王権の構造と展開

A５判　402頁　**14,300円**(13,000)

日本古代王権研究の諸課題を解明すべく挑んだ意欲作。王権段階の権力構造を、合議制中心に検討。専制君主たる大王・天皇を核に再考し、新たな古代史像を描く。古代女帝論に批判を加え、女帝＝中継ぎ説を再提起する。
978-4-642-72471-5　(初版 2009.2)

篠川　賢著

日本古代国造制の研究

A５判　498頁　**15,950円**(14,500)

5世紀後半から7世紀後半にいたる地方豪族の権力とヤマト王権の関係を、国造の実態と国造制の問題に焦点をあてて克明に追究した。また国造制の展開を論ずるにあたっては、大化改新の詔の信憑性をも検討した力編。
978-4-642-72293-3　(初版 1996.5)

磯貝正義著

郡司及び采女(うねめ)制度の研究

A５判　436頁　**14,850円**(13,500)

律令地方制度の成立・発展過程を、国司ではなく、在地土豪を任用した郡司制度、並びに郡司の姉妹子女が貢進された采女制度を中心に考察し、中央に偏らない新しい構想のもとに、古代地方制度の体系化を試みた。
978-4-642-04225-3　(初版 1978.3)

野村忠夫著

律令官人制の研究　増訂版

(日本史学研究叢書)

A５判　622頁　**18,150円**(16,500)

古代律令政府の官人の勤務評定・昇進序列の法体系構造を総合的に分析し、さらに官人諸階層の構成とその再生産構造とを法制的、実態的に追求復元した労作。古代史解明の鍵を握る著者積年の研究成果を集成した増訂版。
978-4-642-04226-0　(初版 1970.12)

野村忠夫著

律令政治と官人制

A５判　338頁　**12,650円**(11,500)

日本の律令制は、浄御原令によって形づくられ、大宝律令で完成される。本書は、律令体制成立の中心にある官人制とその歩みの実態を解明。太政官の事務を総括した弁官局を分析し、律令制に立つ奈良朝の政治過程を追究。
978-4-642-72265-0　(初版 1993.12)

明石一紀著

日本古代の親族構造

(戊午叢書)

A５判　336頁　**13,200円**(12,000)

社会人類学の方法・成果も駆使し、大宝・養老律令の親族法、首長層の系譜観念、家父長権の概念などの検討を通じて、日本の親族構造は母系から父系への移行ではなく「双系」であることを論証、原始～近世の家族史を見通す。
978-4-642-72241-4　(初版 1990.1)

小林敏男著

古代王権と県・県主制の研究

A５判　322頁　**12,650円**(11,500)

大化前代の政治制度である県・県主制について、県と県主とを区別することによって再検討を加え、記・紀の造作・作為を一面的に強調せずに、大化前代における伝承を重視する立場から、ヤマト王権の特質を究明する。
978-4-642-72274-2　(初版 1994.6)

大石直正著

奥州藤原氏の時代

A５判　298頁　**9,900円**(9,000)

蝦夷の伝統を承け、中央貴族の系譜に連なる存在でもあった奥州藤原氏はいかにして栄華を極めるにいたったのか。摂関家領荘園の特質、次子相続の慣行、柳之御所跡出土遺物の独自性などを考察し、その歴史的位置を探る。
978-4-642-72360-2　(初版 2001.2)

工藤雅樹著

古代蝦夷の考古学

A５判　448頁　**15,400円**(14,000)

遺跡・遺物などの考古学の成果と文献史料を総合的に駆使して、蝦夷に代表される古代北日本の文化や社会の変遷や特質を考える。また、近代以降の豊富な研究史をふまえ、古代北日本の実像解明のための方法論を提示する。
978-4-642-04213-0　(初版 1998.1)

関口　明著

古代東北の蝦夷と北海道

A５判　290頁　**9,900円**(9,000)

古代国家にとって蝦夷はいかなる存在だったか。蝦夷の反乱とその歴史的意義から、古代東北の城柵、郡編成など国家の蝦夷政策を追究。蝦夷の北東アジアとの交易にも及び、蝦夷論の枠を超え広い視野から実像を解明する。
978-4-642-72386-2　(初版 2003.1)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

オンデマンド版(古代)

工藤雅樹著

蝦夷と東北古代史

A５判　498頁　**15,950円**(14,500)

開拓・拓殖の歴史と見られてきた東北古代史を再検討し、考古学と文献史学の成果を総合して新たな東北古代史の構築をめざす。また蝦夷アイヌ説と蝦夷非アイヌ説の対立をのりこえる新しい民族論、蝦夷社会論を提示する。

978-4-642-04214-7　(初版 1998.6)

工藤雅樹著

東北考古学・古代史学史

A５判　504頁　**15,950円**(14,500)

これまでの蝦夷研究の視点のなかの批判すべき部分、継承すべき部分はどのような点なのか。考古学と古代史学史を史学思想史的な部分にもふみこんで検討し、研究のあるべき方法をさぐり、著者の蝦夷論の立脚点を示す。

978-4-642-04215-4　(初版 1998.12)

熊田亮介著

古代国家と東北

A５判　346頁　**12,650円**(11,500)

古代の東北地方は、一国史の枠には収まらない歴史的環境にあった。古代国家は東北支配にいかなる手段を用いたか。国家の辺境政策から説き起こし、元慶の乱などをはじめ、古代国家と東北の関わりに知見を提示する。

978-4-642-72391-6　(初版 2003.6)

高橋　崇著

律令国家東北史の研究

A５判　506頁　**15,950円**(14,500)

律令国家の東北支配を律令制実施という視点で体系的に説く。全国共通の律令の中から東北地方にのみ適用された律令を詳細に検討。城柵の構造と意義、律令制下の戦争、住民の実態分析などを通し、東北古代史を解明した。

978-4-642-04216-1　(初版 1991.2)

高橋　崇著

古代東北と柵戸

A５判　220頁　**8,800円**(8,000)

律令国家は支配地域拡大と未服の蝦夷対策として辺境に城柵を構え、生産・防衛のため他国農民を多数移住させ柵戸とした。この柵戸を中心に据え奥羽二国人口の動態を追究し、律令国家の東北支配の実態を考える。

978-4-642-04217-8　(初版 1996.7)

鈴木拓也著

古代東北の支配構造

A５判　338頁　**13,200円**(12,000)

8・9世紀を中心とする陸奥出羽両国の官制・軍制・財政・公民支配と、それらを通じて遂行される蝦夷支配を、城柵と征夷の終焉という二つの視点から解明。律令国家による東北辺境支配の実態に制度史的研究から迫る。

978-4-642-04218-5　(初版 1998.3)

関口　明著

蝦夷と古代国家

(古代史研究選書)

四六判　326頁　**9,350円**(8,500)

日本古代史の重要問題の一つである蝦夷について、基礎史料の一つ一つに厳密な史料批判を加え、またこれまでの研究成果も詳細に検討、更に戦後の考古学の数々の成果をふまえて、新たな蝦夷論を提起する。

978-4-642-04219-2　(初版 1992.9)

南部　昇著

日本古代戸籍の研究

A５判　506頁　**15,950円**(14,500)

厖大な研究史をふまえて戸とは何かを究明。岸俊男氏の名著『日本古代籍帳の研究』を批判的に継承し、多くの新事実を発掘して、古代の親族呼称、婚姻形態、相続形態、戸の構造、寄口、姓、郷里制、郡の役割などを論証。

978-4-642-72254-4　(初版 1992.2)

佐伯有清著

新撰姓氏録の研究　全10冊

新撰姓氏録は平安時代のはじめに集成された諸氏の系譜書で、日本古代氏族の実態や、姓氏家系をしらべる上に、欠くことのできない文献である。　日本学士院賞受賞

A５判　平均480頁

本文篇	**13,200円**(12,000)	978-4-642-00915-7	(初版1962.7)
研究篇	**16,500円**(15,000)	978-4-642-00916-4	(初版1993.4)
考證篇第１	**14,300円**(13,000)	978-4-642-00917-1	(初版1981.12)
考證篇第２	**14,300円**(13,000)	978-4-642-00918-8	(初版1982.3)
考證篇第３	**14,300円**(13,000)	978-4-642-00919-5	(初版1982.7)
考證篇第４	**14,300円**(13,000)	978-4-642-00920-1	(初版1982.11)
考證篇第５	**14,300円**(13,000)	978-4-642-00921-8	(初版1983.5)
考證篇第６	**14,300円**(13,000)	978-4-642-00922-5	(初版1983.8)
索引・論考篇	**14,300円**(13,000)	978-4-642-00923-2	(初版1984.1)
拾遺篇	**14,300円**(13,000)	978-4-642-72368-8	(初版2001.8)

オンデマンド版(古代)

義江明子著
日本古代系譜様式論
A５判　288頁　**9,900円**(9,000)

系譜は形式に意味がある。系譜形態や系線・続柄表記を記号として読み、その変遷の時代背景、氏族意識・祖先観、性差を探る。系譜類型論を提起し、基層の親族原理として双系性・非血縁性を論じ、また王統譜にも説き及ぶ。
978-4-642-72355-8　(初版 2000.11)

亀田隆之著
奈良時代の政治と制度
A５判　336頁　**12,650円**(11,500)

幅広い関心と旺盛な研究意欲をもって、古代史の様々な分野に取り組んだ著者の遺稿集。重要テーマである土地制度と税制、度量衡制や、事件、相続、貴族の改名など興味深い論考を収め、奈良時代の社会を浮き彫りにする。
978-4-642-72361-9　(初版 2001.2)

野村忠夫著
奈良朝の政治と藤原氏
A５判　282頁　**9,900円**(9,000)

奈良時代の政治史において、藤原不比等以下の藤原氏の存在は重要である。律令官人制研究の第一人者である著者が、奈良時代の政治過程を詳細にあとづけ、藤原氏四家の人びとの果たした役割を克明に論じた力篇。
978-4-642-72278-0　(初版 1995.1)

亀田隆之著
日本古代制度史論
A５判　388頁　**13,750円**(12,500)

著者が古代史研究に志して以来発表した研究の中から、8・9世紀の諸事象を扱った約20篇の論文を選び、(1)官司と官人と法、(2)制度と社会、(3)人物と伝記の3部にまとめあげたものである。
978-4-642-72090-8　(初版 1980.4)

亀田隆之著
日本古代用水史の研究
(日本史学研究叢書)
A５判　450頁　**14,850円**(13,500)

律令国家権力による用水支配の成立・内容・変遷の考察を中心に、大化前代から平安期までの用水制度を論じ、用水工事に徴発される労働力の性格・初期荘園に於ける用水問題・律令権力衰退後の状態などにも論究した労作。
978-4-642-72046-5　(初版 1973.5)

亀田隆之著
日本古代治水史の研究
(日本史学研究叢書)
A５判　382頁　**13,750円**(12,500)

律令国家による地方政治が転換を要求される時期に焦点を当てて治水問題を考察。河川の堤防修理工事等を通し、中央派遣諸使の特徴や地方国司の治水事業の実態を解明。治水史にみられる中央と地方の政治的姿勢を描く。
978-4-642-72348-0　(初版 2000.5)

宮本　救著
律令田制と班田図
(日本史学研究叢書)
B５判　306頁　**18,150円**(16,500)

古代の社会経済を解明する上で、きわめて重要な律令制的土地制度を、多角的に追究する。山城国葛野郡班田図に新発見の三断簡を加え、詳しく紹介し考察する。また村落耕地の存在形態と公営田制の問題をとりあげ検討する。
978-4-642-72322-0　(初版 1998.2)

仁藤智子著
平安初期の王権と官僚制
A５判　332頁　**12,650円**(11,500)

王権論の立場から平安初期の史的意義を論ずる。行幸、固関・固関儀の変質と王権の諸段階との関係、平安京を中心とする空間認識の形成・展開を考察し、さらに禄制と官制の検討を通じて平安初期の律令官僚制再編を究明。
978-4-642-72352-7　(初版 2000.9)

米田雄介著
摂関制の成立と展開
A５判　384頁　**13,750円**(12,500)

平安朝の貴族政治を支えた摂関制とは何だったのか。内臣・太政大臣の系譜から摂関制の成立を探り、准摂政制や内覧、一座の宣旨などから摂関の職掌や待遇を解明。貴族文化や史料論にも説き及び、摂関制の全貌に迫る。
978-4-642-72447-0　(初版 2006.2)

山本信吉著
摂関政治史論考
A５判　464頁　**14,850円**(13,500)

平安中期に定着した摂関政治と太政官運営の関係を、政治制度史的観点に立って考察した論文集。「よそ人」と呼ばれた摂政藤原実頼、関白にならなかった藤原道長などを検証し、律令政治が変質してゆく過程を解明する。
978-4-642-72394-7　(初版 2003.6)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

オンデマンド版(古代)

古瀬奈津子著
日本古代王権と儀式
A５判　466頁　**15,400円**(14,000)

日本古代国家を考える上で、従来、形式的で中身がないとされてきた儀式に光をあて、その独自の機能を中国と比較、奈良・平安時代の政治機構と共に位置づける。儀式が表現する秩序を、政治史の観点から捉えた研究。
978-4-642-04227-7　(初版 1998.2)

森　公章著
古代郡司制度の研究
A５判　400頁　**13,750円**(12,500)

郡司を軸に７～12世紀の地方支配を論究。評司、律令制下の国造に新見解を示し、大宝令以来譜第を基準とした郡司任用が行われていたことを明らかにする。さらに10世紀以降の郡司を論じ「雑色人郡司」の用語を提唱。
978-4-642-72346-6　(初版 2000.2)

森　公章著
古代日本の対外認識と通交
A５判　386頁　**13,750円**(12,500)

古代日本の外交を、事大主義と日本中心主義という二重構造の対外観をキーワードに、天皇号の成立や対唐観・在日外国人観を解明。また、未聞拓の耽羅の歴史と外交政策を分析し、白村江会戦前夜の東アジア情勢を描く。
978-4-642-72328-2　(初版 1998.5)

森　公章著
遣唐使と古代日本の対外政策
A５判　352頁　**13,200円**(12,000)

古代日本の外交に重要な役割を果たした遣唐使。外交儀礼はじめ、留学生の活動、唐文化の移入、菅原道真の遣唐使計画など、その全容を解明。渤海や新羅など朝鮮諸国との通交にも及び、日本の対外政策の全体像を描く。
978-4-642-72470-8　(初版 2008.11)

森　公章著
長屋王家木簡の基礎的研究
A５判　408頁　**14,300円**(13,000)

奈良国立文化財研究所で長屋王家木簡の整理・研究を担当した著者が、同木簡を素材に王家の家政機関、御田・御薗経営、具体的生活相等の問題を究明し、二条大路木簡にも論及。長屋王家木簡・王邸関連論文目録を付載。
978-4-642-72347-3　(初版 2000.5)

石井正敏著
日本渤海関係史の研究
A５判　696頁　**19,250円**(17,500)

渤海の領域支配や王の系譜、日渤外交開始前後の事情、外交文書の扱いなどを日本・中国・朝鮮の史料の丹念な読解による実証的手法で解明。日本と渤海の外交関係を古代東アジアの国際情勢を踏まえ、詳細に跡付ける。
978-4-642-72363-3　(初版 2001.4)

山里純一著
古代日本と南島の交流
A５判　256頁　**9,350円**(8,500)

古代律令国家体制の枠組みから除かれていた南島との交流の歴史を、国家側、南島側双方より考察する。文献・考古学資料などを最大限駆使し、古代の南島について、幅広い角度から網羅的に検討した初めての書。
978-4-642-72339-8　(初版 1999.7)

鈴木靖民著
古代対外関係史の研究
A５判　682頁　**19,250円**(17,500)

奈良平安時代の新羅・渤海・唐との外交の推移、対外意識、新羅・渤海の政治・社会・文化の様相、遣唐使停止期の情勢など、さまざまな対外問題を多角的に究明。古代対外関係の史的過程と特質を見通す画期的研究。
978-4-642-04228-4　(初版 1985.12)

廣瀬憲雄著
東アジアの国際秩序と古代日本
A５判　370頁　**13,200円**(12,000)

日本・中国・朝鮮の東アジア地域に、吐蕃・契丹・回鶻など北方・西方の勢力まで視野を広げると、いかなる国際秩序がみえてくるのか。国書と賓礼から日本の対外関係を分析。東アジアの国際秩序に古代日本を位置づける。
978-4-642-72485-2　(初版 2011.11)

吉田　歓著
日中宮城の比較研究
A５判　282頁　**9,900円**(9,000)

日本の宮都研究は、中国都城制の研究が十分に行われないまま比較されてきた。中国都城の全体像を示した上で、日本の大極殿と天皇を中心とする政務運営のあり方を考察。日本の宮都中枢部の独自性を解明する。
978-4-642-04229-1　(初版 2002.2)

オンデマンド版(古代)

井上満郎著
平安時代軍事制度の研究
A５判　388頁　**14,300円**(13,000)

律令軍制の崩壊から武家政権成立に至るまでの間の軍事制度を追究する。平安時代の軍事制度はほとんど明らかにされていないが、本書では健児制、検非違使・押領使・追捕使、検梁などに焦点をすえてその全体像を解明する。
978-4-642-72091-5　(初版 1980.5)

藤森健太郎著
古代天皇の即位儀礼
A５判　338頁　**12,650円**(11,500)

天皇即位儀礼に焦点をあて、その実像を追究する。『儀式』等を素材に、天皇の即位儀などを取り上げ、中国唐礼との比較を通し、構造や展開、変質の実態を解明。８世紀から 12 世紀の即位儀礼のもつ歴史的意義を探る。
978-4-642-72358-9　(初版 2000.12)

安田政彦著
平安時代皇親の研究
A５判　360頁　**13,200円**(12,000)

天皇の血縁である皇親の増加は、平安朝の政治史に大きな影響を与えた。従来の制度的変遷や「皇親勢力」論的理解を越えて、皇親制度を捉え直す。また、皇親をめぐる政策を分析して、その存在意義を実体的に解明する。
978-4-642-72330-5　(初版 1998.7)

橋本義彦著
平安貴族社会の研究
A５判　556頁　**17,050円**(15,500)

平安鎌倉時代の厖大な記録文書を縦横に駆使し、綿密な実証と研ぎすまされた史眼によって、摂関期から院政期の政治権力の成因や実態、さらにその基盤の分析等を通して、平安貴族社会の構造と特質を解明する。
978-4-642-04230-7　(初版 1976.9)

朧谷　寿著
平安貴族と邸第
A５判　370頁　**13,750円**(12,500)

棟を並べ甍を競った貴族たちの邸宅はいかなる盛衰をたどったか。王朝の日記・物語や絵巻に描かれ、政治の舞台と文学のサロンになった邸第を、文献の博捜と発掘体験によって詳述し、歴史と文学に新たな視点を提供する。
978-4-642-04231-4　(初版 2000.11)

福井俊彦編
弘仁格の復原的研究　民部上篇
A５判　330頁　**13,200円**(12,000)

配列にも重要な意味のある弘仁民部格上巻を復原し、一格ごとの関連史料を掲げ、編纂した格のもつ意味を解説し、参考文献を列挙した。また、格の研究史や研究の課題も記し、古代史、中世史、法制史の研究に必携の書とした。
978-4-642-72228-5　(初版 1989.2)

福井俊彦編
弘仁格の復原的研究　民部中篇
A５判　328頁　**13,200円**(12,000)

配列にも重要な意味のある弘仁格を弘仁格抄によって復原し、それぞれの格ごとに関連史料、解説、参考文献を掲げる。民部中篇は、封戸、浮浪、逃亡、官仏塡納、山川藪次、墾田等の重要な格を含む。史料編年案引を付す。
978-4-642-72229-2　(初版 1990.2)

福井俊彦編
弘仁格の復原的研究　民部下篇
A５判　344頁　**13,200円**(12,000)

弘仁民部格の復原ついに完結。本巻は民部下篇のそれぞれの格ごとに関連史料、解説、参考文献を掲げ、弘仁格に関する研究論考４編を収録。また、上・中篇を併せた史料編年索引、語句索引を付し、利用の便をはかった。
978-4-642-72230-8　(初版 1991.2)

佐藤　信著
日本古代の宮都と木簡
(日本史学研究叢書)
A５判　518頁　**15,950円**(14,500)

各地から発見される木簡などの文字資料を用いて、新しい古代史像を構築。古代宮都の構造や、そこに暮らす貴族・民衆の生活、律令国家を支えた財政の中央集権性の実態、木簡から知られる地方社会像などを解明する。
978-4-642-72311-4　(初版 1997.4)

今泉隆雄著
古代宮都の研究
(日本史学研究叢書)
A５判　420頁　**14,300円**(13,000)

大きく進展する都城遺跡の発掘調査の成果を基礎に、文献史学の立場から、７～９世紀の飛鳥、平城京、長岡京、平安京など、宮都に関わる諸問題を克明に解明する。古代史ばかりでなく、考古学研究者にも有益な書。
978-4-642-72271-1　(初版 1993.12)

価格は 10%税込、(　)内は本体価格

オンデマンド版(古代)

今泉隆雄著
古代木簡の研究
(日本史学研究叢書)
A５判　524頁　**16,500円**(15,000)

木簡の活用なくして古代史は叙述できない。木簡の史料的特質と研究方法を明らかにし、木簡によって遺跡を解明するとともに、埋もれていた古代史の事実を発掘する。今後の研究に確かな指針を与え考古学にも必備の書。
978-4-642-72327-5　(初版 1997.12)

山下有美著
正倉院文書と写経所の研究
A５判　542頁　**16,500円**(15,000)

正倉院文書は、皇后宮職系統の写経機構で形成された史料群である。機構の変遷過程をはじめ、内部構造やその運営の実態を、新たな視点より多角的に検討し、併せて奈良時代の国家仏教政策における位置づけを考察する。
978-4-642-72333-6　(初版 1999.1)

湯浅吉美著
暦と天文の古代中世史
A５判　338頁　**12,650円**(11,500)

暦とは何か。暦面の日記や紙背の典籍は、貴重な史・資料である。暦の年次比定を行い、記主を推定。その史料的意義を問う。また暦法の復元的検討や、実際の天体現象と合致しない記事の分析を通じて、人びとの心性を探る。
978-4-642-72474-6　(初版 2009.12)

細井浩志著
古代の天文異変と史書
A５判　384頁　**13,750円**(12,500)

天文異変の記事や暦学を使って国史の年代を復原し、その信憑性と性格を解き明かす。併せて記録保存の実態を追究し、国家にとっての国史編纂の意義を考察。年代学・国史編纂史・文書管理の研究成果を総合した労作。
978-4-642-72462-3　(初版 2007.9)

目崎徳衛著
貴族社会と古典文化
A５判　312頁　**12,650円**(11,500)

平安朝から鎌倉初期にかけて、日本のクラシックともいうべき多彩な宮廷文化が成熟した。その古典文化と担い手たる貴族社会の成立・発展・衰退の様相を、六国史・記録や歌集・物語等の周到な史料批判によって考証した。
978-4-642-72280-3　(初版 1995.2)

荻　美津夫著
日本古代音楽史論
A５判　308頁　**12,100円**(11,000)

「雅楽」とは何か。「雅楽寮」の実態はどのようなものであったか。日本古来の音楽と外来音楽の変遷をたどりながら、「日本古代音楽」の成立時点を追究する本格的な古代音楽史。音楽の歴史に関心を寄せる人々への絶好の指針。
978-4-642-72058-8　(初版 1994.12)

荻　美津夫著
平安朝音楽制度史
A５判　336頁　**12,650円**(11,500)

平安時代の雅楽は、雅楽寮として政治的に統制されたが、次第に一つの芸術・教養として自立し、「楽所」や世襲の地下楽家など新たな歴史的形態を創出した。音楽制度の独自な変遷と、楽人の系譜を解明する。
978-4-642-72277-3　(初版 1997.1)

荻　美津夫著
古代中世音楽史の研究
A５判　344頁　**12,650円**(11,500)

縄文時代から南北朝期まで、日本における音楽とその制度の変遷をたどる。平安時代の殿上人と民衆の音楽、鎌倉幕府と雅楽、宮廷儀式の中の雅楽・舞、楽人の系譜などを追究。広い視点から音楽の歴史を明らかにする。
978-4-642-72455-5　(初版 2007.2)

黒坂周平著
東山道の実証的研究
A５判　238頁　**8,800円**(8,000)

東山道は古代七道の中で最も重要度の高い官道であるが、具体的路線は解明されていない。始発点近江から終着点陸奥・出羽に至る推定経路全線の実地調査を行い、発見された多くの新事実を紹介。東山道の原形に迫る。
978-4-642-72256-8　(初版 1992.5)

中村太一著
日本古代国家と計画道路
A５判　290頁　**9,900円**(9,000)

律令国家交通体系の基礎要素の一つとされる計画道路の形成や変遷の過程を、歴史学・歴史地理学・考古学の方法や成果の活用により解明する。その成立や変化の意義などを国家の形成と展開のなかに位置づける。
978-4-642-72294-0　(初版 1996.7)

オンデマンド版(古代)

金田章裕著
古代日本の景観
—方格プランの生態と認識—
A５判　336頁　**12,650円**(11,500)

古代日本の土地制度は、都市の街路や、耕地の条里地割に見られるように、方格プランを基本としていた。その実態や変遷を詳細に検討し、土地管理システムの実情を探り、古代の景観の基礎的構造を解明しつつ生態に迫る。
978-4-642-72264-3　(初版 1993.3)

本中　眞著
日本古代の庭園と景観
A５判　400頁　**13,750円**(12,500)

日本庭園における眺望は、風景を遠望する行為から発達した。それは平安貴族の別業(別荘)の選定条件となり、浄土庭園では不可欠なものとして展開する。庭園遺跡の発掘をもとに、古代人の景観眺望に対する意識を分析する。
978-4-642-72275-9　(初版 1996.10)

中尾芳治著
難波宮の研究
A５判　392頁　単色口絵4　**13,750円**(12,500)

発掘成果をもとに難波宮の全貌と問題点を解明。 前後に隔絶した規模と構造をもつ前期難波宮が、孝徳朝の難波長柄豊碕宮であることを論じ、「大化改新」論争に一石を投ずる。保存と活用という課題への提言を含む。
978-4-642-72284-1　(初版 1995.3)

早川庄八著
日本古代の文書と典籍
(日本史学研究叢書)
A５判　674頁　**18,700円**(17,000)

「史料のなかに埋没しての考証」を旨とする約40年に及ぶ緻密な研究業績の集大成。口頭の世界と文書の世界から説き起し、古代文書の分析、正倉院文書の個別研究、古代典籍の解明など著者ならではの前人未到の研究書。
978-4-642-72312-1　(初版 1997.5)

義江明子著
日本古代の氏の構造
A５判　480頁　**15,400円**(14,000)

族制と国家と共同体の接点に位置する古代の氏の独自の構造を解明。家族論・所有論と併せて「祖先」観念の成立を論じ、「家」の歴史的相対化をめざす。高群逸枝批判を含む。国宝『和気系図』の忠実な釈文と写真を収載。
978-4-642-72204-9　(初版 1986.3)

溝口睦子著
王権神話の二元構造
—タカミムスヒとアマテラス—
A５判　320頁　**12,650円**(11,500)

〝未開から文明へ〟と日本の歴史が大きく転換したヤマト王権時代、どのような変化が起こったのか。東アジアの歴史と連動するそのダイナミックな転換の過程を記紀神話の分析を通して論証。新たな古代史像を提示する。
978-4-642-72359-6　(初版 2000.12)

井上　薫著
奈良朝仏教史の研究
(日本史学研究叢書)
A５判　696頁　**19,250円**(17,500)

国分寺・写経所・東大寺を奈良朝仏教史上の三位一体としてとらえ、それぞれの創立事情や成立過程、機構や機能、及び三者の関連等を中心に諸問題を論究。律令国家における政治と宗教の関係を考察した稀有の力作。
978-4-642-72078-6　(初版 1966.7)

三宅和朗著
古代国家の神祇と祭祀
A５判　294頁　**9,900円**(9,000)

律令国家を論ずるとき、避けて通れないテーマとして神祇と祭祀がある。本書は伝統文化や天皇の敬神観として扱われてきた祭祀と儀式を、国家支配と関連して追究し、平安王朝への流れの中で古代天皇制や支配の変遷を解明。
978-4-642-72289-6　(初版 1995.9)

下出積與著
日本古代の道教・陰陽道と神祇
A５判　324頁　**13,200円**(12,000)

大陸では独自的立場を確立しながら、日本では軽視された宗教や学問思想を追究し、伝来方法の違う道教、陰陽道を中心に、日本の固有信仰である神祇との関わりを解明。伊勢神宮の式年遷宮立制の歴史的意義も考察する。
978-4-642-72315-2　(初版 1997.9)

佐伯有清著
古代東アジア金石文論考
B５判　198頁　**14,300円**(13,000)

古代の日本・朝鮮・中国にわたる金石文を克明に読み解いた注目の書。稲荷山古墳鉄剣銘から唐代の墓誌銘におよぶ金石文資料を通して、それぞれの歴史の実相に迫る。鮮明な写真や拓本を多数収載し、参考の便に供する。
978-4-642-72285-8　(初版 1995.4)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

オンデマンド版(中世)

三田武繁著

鎌倉幕府体制成立史の研究

A５判　418頁　**14,300円**(13,000)

内乱により荒廃した社会秩序を再建した、鎌倉幕府の権力編成原理とは。京都大番役の勤仕主体から主従関係の特質を探り、戦後処理を担当する地頭制度の問題を検討。中世社会が鎌倉幕府成立を必要とした理由を解明する。
978-4-642-72870-6　(初版 2007.12)

細川重男著

鎌倉政権得宗専制論

A５判　568頁　**17,050円**(15,500)

得宗は北条氏嫡宗の呼称である。幕府要職就任者の家系を調査・分析する独自の方法により得宗専制の実態を解明し、家格秩序の存在を明らかにする。あわせて新式目や寄合などを取り上げ、後期幕府政治体制の変化を究明。
978-4-642-72786-0　(初版 2000.1)

七海雅人著

鎌倉幕府御家人制の展開

A５判　328頁　**12,650円**(11,500)

鎌倉幕府の権力を支えるべく構想された御家人制は、どのような歴史的展開をとげたのか。その過程は幕府の滅亡とどのように関わるのか。御家人が幕府から離反するにいたる理由を探り、御家人制の展開過程を解明する。
978-4-642-72809-6　(初版 2001.12)

奥富敬之著

鎌倉北條氏の基礎的研究

(戊午叢書)

A５判　314頁　**12,650円**(11,500)

初期北條氏小土豪説の展開から、各期における所領増大でその勢力伸張を跡付け、家務機関、被官群など、得宗専制の基本的性格と矛盾を指摘。全国北條氏所領表、一門分流表、被官家名簿、関連諸論考表を末尾に付す。
978-4-642-72556-9　(初版 1980.11)

田中　稔著

鎌倉幕府御家人制度の研究

A５判　494頁　**15,950円**(14,500)

鎌倉幕府の地頭・御家人制度についての論攷を主に、悔環権を通しての公家法と幕府法との関係、侍・凡下を中心にした中世身分制についての諸論攷を集成した。いずれも鎌倉時代史理解の基礎となる、研究者必読の書。
978-4-642-04237-6　(初版 1993.11)

瀬野精一郎著

鎮西御家人の研究

(日本史学研究叢書)

A５判　548頁　**16,500円**(15,000)

鎮西武家統治機関の性格規定、鎮西下向東国御家人の網羅的抽出、松浦党など在地御家人の発展変質、蒙古襲来の社会的影響を豊富な史料を駆使して論じつつも、史料解釈による歴史叙述の限界の打破を試みたユニークな研究書。
978-4-642-72512-5　(初版 1975.2)

瀬野精一郎著

鎌倉幕府と鎮西

A５判　248頁　**9,900円**(9,000)

平氏政権の基盤だった鎮西(九州)は、平氏滅亡後、鎌倉幕府の支配下に服したが、他地域とは異質の支配を受けた。その間の幕府の統治への在地勢力の対応の視点から、鎮西における時代の推移と地域の特質を解明する。
978-4-642-72898-0　(初版 2011.3)

赤澤春彦著

鎌倉期官人陰陽師の研究

A５判　442頁　**14,850円**(13,500)

平安期に重要な役割を果たしていた朝廷陰陽道が、近世に形骸化してしまったのはなぜか。両時期の間にあたる鎌倉期の官人陰陽師に注目し、朝廷陰陽道、博士家の展開、関東陰陽道を再検討。鎌倉期陰陽道を包括的に捉え直す。
978-4-642-72893-5　(初版 2011.1)

瀬野精一郎編

増訂 鎌倉幕府裁許状集　全２巻

A５判　平均456頁

鎌倉幕府の訴訟に対する判決文の集大成であり、中世史研究に不可欠の史料集。幕府法の判例を示す裁許状の内容分析により、中世人の意識、政治社会の様相が浮き彫りにされ、無限の研究テーマを提供している。

(上) 関東裁許状篇　**15,950円**(14,500)　978-4-642-72515-6　(初版1987.11)
(下) 六波羅・鎮西裁許状篇　**13,750円**(12,500)　978-4-642-72516-3　(初版1987.11)

佐々木文昭著

中世公武新制の研究

A５判　332 頁　**13,200円**(12,000)

中世の法形式の一つである新制。朝廷が発布した公家新制と、鎌倉・室町幕府による武家新制を考察する。荘園整理令の意義から過差(奢侈)禁制などを解明。さらに関東新制と幕府訴訟裁決機関の評定制について再検討する。
978-4-642-72877-5　(初版 2008.6)

オンデマンド版(中世)

福田豊彦著
中世成立期の軍制と内乱
A５判　364頁　**13,200円**(12,000)

古代末期の兵乱は、王朝軍事機構の変質を促し、やがて最初の武家政権＝鎌倉幕府を誕生させた。本書は、中世的軍制の形成と内乱との関わりを追究し、鎌倉幕府の権力構造を明らかにして、中世成立期研究に新生面を拓く。
978-4-642-72747-1　(初版 1995.6)

中澤克昭著
中世の武力と城郭
A５判　302頁　**12,100円**(11,000)

中世は武力と宗教の時代であった。武人も信仰を求め、宗教者も武装した。民衆にも武力と宗教は不可欠だった。本書は絵巻や民俗儀礼、城跡の発掘成果等を駆使し、中世を生きた人々の行動様式や心性を鮮やかに描き出す。
978-4-642-72783-9　(初版 1999.9)

河内祥輔著
日本中世の朝廷・幕府体制
A５判　368頁　**13,200円**(12,000)

正中の変は果たして後醍醐天皇の討幕運動なのか。院政、治承３年政変、以仁王事件、承久の乱などの実相を追究し、「朝廷再建運動」をキーワードに、古代の朝廷の支配から中世の朝廷・幕府体制に移行する過程を解明する。
978-4-642-72863-8　(初版 2007.6)

寶月圭吾著
中世日本の売券と徳政
A５判　370頁　**13,200円**(12,000)

古文書学や社会経済史に偉大な業績を残した著者の、著書に収録されなかった論文を集成する。徳政免れのための売券や祠堂銭の研究は注目され、他にも古文書学や荘園の検柱や灌漑に関する論考を収める。　(解説　網野善彦)
978-4-642-72772-3　(初版 1999.3)

高橋慎一朗著
中世の都市と武士
A５判　266頁　**9,350円**(8,500)

武家政権が成立し、武士は生活者・支配者として都市の形成に大きく関わるようになる。近世につながる武家地の構造、寺院・墓地の信仰の場、商人・職人などの他の都市住民との関係を分析し、都市の武士の生態を解明する。
978-4-642-72752-5　(初版 1996.8)

萩原龍夫著
中世祭祀組織の研究　増補版
A５判　858頁　**22,000円**(20,000)

大小の神社や堂庵を中心とした祭祀組織の展開を、中世の社会と文化の発展過程にそって考察した。特に「宮座」の構造と性格、「氏子制」の成立過程に重点をおいた。増補版には「田遊びと中世村落」を収載した。
978-4-642-04238-3　(初版 1962.3)

佐藤健治著
中世権門の成立と家政
A５判　330頁　**12,650円**(11,500)

中世は権門体制の国家といわれる。権門とは、広く権勢のある門地や家系の総称だが、藤原南家や摂関家を中心に、家政と行事や氏寺との相互関係と組織の確立時期を検証、日本の中世は如何にもたらされたのかをも考える。
978-4-642-72789-1　(初版 2000.3)

高橋秀樹著
日本中世の家と親族
A５判　332頁　**13,200円**(12,000)

日本の中世社会の単位とされる「家」の究明は、きわめて重要である。摂関期から室町期までの「家」の実態と、分割相続制が嫡子単独相続制へと変質する過程を検証し、「家」をとりまく社会と国家の関わりを検討する。
978-4-642-04239-0　(初版 1996.6)

海津一朗著
中世の変革と徳政
―神領興行法の研究―
A５判　288頁　**10,450円**(9,500)

蒙古襲来の危機が深刻化する鎌倉後期、寺社領に吹き荒れた神領興行の嵐の背後に、幕府・朝廷が一致して推進した行政改革(リストラ)の動きを読み解き、日本史上の大転換期である鎌倉末・南北朝期をダイナミックに描く。
978-4-642-04240-6　(初版 1994.8)

吉田賢司著
室町幕府軍制の構造と展開
A５判　416 頁　**14,300円**(13,000)

室町幕府軍制を、戦時編制の基本構造と軍事親裁の展開過程という視点から考察。幕府・守護・国人の関係性を整理し、その変質過程を跡づける。室町殿の軍事指揮権を基礎に構築された、「室町殿体制」の実態を解明する。
978-4-642-72889-8　(初版 2010.7)

価格は 10％税込、(　)内は本体価格

オンデマンド版(中世)

小国浩寿著
鎌倉府体制と東国
A５判　320頁　**12,650円**(11,500)

室町期、京の将軍と鎌倉の公方の対立は、時代を貫く流れといえる。室町幕府は、なぜ反発を繰り返す鎌倉公方を代々任じ続けたのか。南北朝内乱の中で、義満でさえ滅ぼし得なかった鎌倉府権力が確立に至る過程を解明する。
978-4-642-72807-2　(初版 2001.9)

漆原　徹著
中世軍忠状とその世界
A５判　296頁　**9,900円**(9,000)

室町幕府は、幕府・守護体制とよばれる権力機構を基本構造とした。軍事指揮権の視点より、軍忠状・着到状など関係文書の機能と役割を明らかにし、権力機構の特質を追究する。あわせて足利一門守護の軍事権限の実態を解明。
978-4-642-72763-1　(初版 1998.7)

鈴木国弘著
日本中世の私戦世界と親族
A５判　366頁　**13,200円**(12,000)

法による保護がほとんど得られなかった中世では、自力救済の一形態として私戦が行われた。情報収集の人的ネットワークなど自力救済世界の歴史的特徴を具体的に解明。私戦が公戦へと変わる道筋と親族組織の実態を探る。
978-4-642-72825-6　(初版 2003.7)

菅原正子著
中世の武家と公家の「家」
A５判　334頁　**12,650円**(11,500)

中世に成立した「家」とは何か。旗や家紋、家業を継いだ女性、所領の運営、年中行事や人生儀礼などを通して、「家」の成立を考察。武家と公家、２つの社会集団・身分階級の「家」の実態を、文化と経済の両面から解き明かす。
978-4-642-72872-0　(初版 2007.12)

菅原正子著
中世公家の経済と文化
A５判　408頁　**13,750円**(12,500)

中世において公家は、最大の転換期を迎えた。重要な経済的基盤である荘園経営の実態と変遷を、家政機構などに焦点をあて、緻密な史料分析により解明。また公家文化である家業などをとりあげ、中世公家と社会の特質を究明。
978-4-642-72762-4　(初版 1998.1)

福田豊彦著
室町幕府と国人一揆
A５判　334頁　**13,200円**(12,000)

室町幕府を支えた奉公衆と封建関係の進展に大きな役割を果たした国人、番帳を徹底調査して奉公衆を解明し、上部権力との関係から国人の歴史的役割を再検討する。室町幕府研究の残された溝を埋め新視点を投げかける。
978-4-642-04241-3　(初版 1995.1)

井上鋭夫著
一向一揆の研究
A５判　896頁　**23,100円**(21,000)

多年にわたる寺院調査と豊富な採取史料を基礎に、民俗学、宗教学などの成果も導入。綿密な検討に支えられながら、透徹した史眼で中世一向宗の社会経済的基盤と一向一揆の本質を追究した、中世史研究の古典的名著。
978-4-642-04242-0　(初版 1968.3)

金龍　静著
一向一揆論
A５判　458頁　**14,850円**(13,500)

命の「助かる道」でなく「救われる道」を信じて戦った一向衆。加賀・長島・天文の各一揆、石山戦争の実態を追究。一向一揆論を仏教史・真宗史の視点で捉え直し、宗教一揆論として位置づける。巻末に貴重な史料編付す。
978-4-642-72835-5　(初版 2004.12)

神田千里著
一向一揆と戦国社会
A５判　366頁　**13,200円**(12,000)

「百姓の持ちたる国」をめざして戦国時代に光芒を放った一向一揆。その紐帯となった信仰の実態、本願寺教団との関わり、織田信長との対決と和解、近世以降の教団の発展など、総体的に解明し、新たな位置付けを与える。
978-4-642-72765-5　(初版 1998.10)

山田康弘著
戦国期室町幕府と将軍
A５判　282頁　**9,900円**(9,000)

戦国期の足利将軍は細川氏の傀儡ではなく、幕府を主導して動乱の時代の中で生き残りの道を独自に模索していた。幕府内の実証的分析を通じて、戦国期「日本」を読み解くために不可欠な幕府・将軍の実像の解明に迫る。
978-4-642-04243-7　(初版 2000.7)

オンデマンド版(中世)

岩元修一著
初期室町幕府訴訟制度の研究
A５判　314頁　**12,650円**(11,500)
14世紀の幕府の訴訟制度を、所領をめぐる訴訟を中心に検討し、将軍による訴訟親裁化の動きを解明。さらに訴訟手続きに関する体系的研究を文書の機能論から見直し、制度面から初期室町幕府の変革のありように迫る。
978-4-642-72868-3　(初版 2007.9)

藤木久志著
戦国大名の権力構造
A５判　390頁　**14,300円**(13,000)
中世末の激動を体現した戦国大名の個別研究を深めることは、統一政権への様々な課題を解き明かす上で、魅力ある主題となる。戦国大名の領国と権力の構造の特質を、戦国期から織田・豊臣期を通じて一貫して追究する。
978-4-642-72616-0　(初版 1987.2)

阿部浩一著
戦国期の徳政と地域社会
A５判　378頁　**13,200円**(12,000)
下剋上と戦乱の時代、新たな権力機構＝戦国大名と自立した社会集団＝村落・都市双方に注目。徳政論、領主の「蔵」と蔵本論、東国の流通と地域社会論の３つの視角から新しい政治・経済・社会秩序のあり方を追究する。
978-4-642-72810-2　(初版 2001.12)

桑山浩然著
室町幕府の政治と経済
A５判　332頁　**12,650円**(11,500)
足利義教期を中心に、政治体制の推移と将軍個人の役割を解明する。奉行人制をめぐる問題や政所の構成、酒屋・土倉役と徳政令の意義づけを通して、室町幕府の権力・財政構造を探り、政治・経済の両面からその実態に迫る。
978-4-642-72852-2　(初版 2006.5)

水野智之著
室町時代公武関係の研究
A５判　400頁　**13,750円**(12,500)
幕府・将軍(武家)と朝廷・天皇(公家)はいかなる関係を持って国家権力を構成していたのか、公家衆への家門安堵などの視点から解明。公家社会の政治的動向に迫り、従来の伝奏中心の公武関係研究に新たな視座を提示。
978-4-642-72847-8　(初版 2005.12)

秋山伸隆著
戦国大名毛利氏の研究
A５判　308頁　**12,650円**(11,500)
戦国大名権力の形成と展開、その構造、近世大名への移行の過程を、西国大名の典型である毛利氏の領国を対象として、具体的・実証的に解明する。厳密な史料批判を通し、従来の理解とは異なる戦国大名のイメージを結ぶ。
978-4-642-04244-4　(初版 1998.12)

有光友學著
戦国大名今川氏の研究
A５判　464頁　**15,400円**(14,000)
16世紀、駿河・遠江・三河の東海三カ国にまたがる広大な領国を構築・支配した戦国大名今川氏。その支配構造・歴史的性格を体系的に論証する。永年にわたる関係史料の蒐集に裏付けられた、多方面の研究を集大成。
978-4-642-04245-1　(初版 1994.2)

久保田昌希著
戦国大名今川氏と領国支配
A５判　418頁　**14,300円**(13,000)
16世紀、氏親に始まり義元の全盛期を経て、氏真で滅んだ戦国大名今川氏。その領国形成と政治的展開、社会経済構造を解明。桶狭間合戦、三河支配と徳川家康との関わりなどを探り、戦国大名今川氏の全体像に鋭く迫る。
978-4-642-72839-3　(初版 2005.2)

垣内和孝著
伊達政宗と南奥の戦国時代
A５判　304頁　**12,650円**(11,500)
陸奥国の南部「南奥」では、強力な戦国大名が存在せず、数郡程度を支配する領主が割拠していた。和戦・境目・城館をキーワードに、伊達政宗による統一過程を文献・考古両面から追究。従来の伊達氏研究に新知見を加える。
978-4-642-72938-3　(初版 2017.10)

佐脇栄智著
後北条氏の基礎研究
A５判　258頁　**9,350円**(8,500)
戦国諸大名のうち、もっとも民政に関心を示した後北条氏の税制(主として農民・漁民に対する課税)・検地・貫高制・貨幣政策・代替りの時期などについての実態を究明。いずれも古文書中心の実証を基調とする。
978-4-642-72539-2　(初版 1976.12)

オンデマンド版(中世)

佐脇栄智著
後北条氏と領国経営
A５判　274頁　**9,350円**(8,500)

戦国の関東に雄飛した後北条氏はいかにして軍事力と経済力を強化したか。文書史料や『小田原衆所領役帳』等により家臣と領国民への課役、郷村支配の実態を究明し、早雲の思想と領国統治に触れ、北条改姓問題に断案を下す。
978-4-642-72754-9　(初版 1997.3)

小和田哲男著
後北条氏研究
A５判　564頁　**17,050円**(15,500)

3000通を越す後北条氏発給文書を縦横に駆使し、後北条氏における大名領国制の全体像を浮き彫りにした貴重な成果。特に家臣の末端としての土豪層に焦点をあて、大名領国制下の村落の実像を明示した戦国史研究の名著。
978-4-642-04246-8　(初版 1983.12)

福島金治著
金沢北条氏と称名寺
A５判　336頁　**12,650円**(11,500)

金沢文庫を創設した金沢北条氏が、本拠地の武蔵国六浦にひらいた称名寺。鎌倉中期成立以降の寺の推移、金沢文庫文書の管理形態を解明し、金沢氏による支配関係や寺院の組織と運営、本寺の極楽寺との関係などを考察する。
978-4-642-72761-7　(初版 1997.9)

遠藤ゆり子著
戦国時代の南奥羽社会
―大崎・伊達・最上氏―
A５判　350頁　**13,200円**(12,000)

戦国期の南奥羽には、大崎・伊達・最上氏ら戦国大名と国衆が割拠していた。大崎氏の権力構造、伊達・蘆名氏の領国支配や大名間外交に加え、伊達政宗の母の動向や伊達氏の「塵芥集」を分析。南奥羽地域社会の実態に迫る。
978-4-642-72930-7　(初版 2016.3)

粟野俊之著
織豊政権と東国大名
A５判　254頁　**9,350円**(8,500)

織田信長と豊臣秀吉、両者の全国統一過程に東国がどのように関係したのか。「関東仕置」や「惣無事」令などを考察し、関東・奥羽の領主の動向を具体的に追究。最新の研究成果を駆使し新たな戦国時代史像を構築する。
978-4-642-72801-0　(初版 2001.2)

古野　貢著
中世後期細川氏の権力構造
A５判　342頁　**12,650円**(11,500)

15世紀中葉の政治構造の機軸である室町幕府―守護体制の変質の意義について、有力守護細川氏の権力構造を段階的に考察して追究。京兆家―内衆体制という細川氏権力の実態を、通説を批判しつつ解き明かした画期的な研究。
978-4-642-72881-2　(初版 2008.12)

岸田裕之著
大名領国の政治と意識
A５判　454頁　**14,850円**(13,500)

西国大名の典型である毛利氏を対象に、その領国「国家」の形成過程と構造、戦争と主従関係などを当事者の意識面から解明し、豊臣政権下における構造的変革を検証。大名領国の意識研究の進展に大きく貢献する注目の書。
978-4-642-72897-3　(初版 2011.3)

佐々木銀弥著
日本中世の都市と法
A５判　320頁　**12,650円**(11,500)

日本経済史に多大な業績を遺した著者の中世市場法・都市法に関わる論考を集成。備前西大寺市、奈良高天市、楽市楽座令、越後上杉氏の都市法など鎌倉から織豊期まで見通した体系的研究は、この分野の礎を成す。
978-4-642-72740-2　(初版 1994.11)

須磨千頴著
荘園の在地構造と経営
A５判　514頁　**15,400円**(14,000)

綿密な現地調査と詳細な復原地図から中世荘園の世界を描く珠玉の大著。上賀茂社領・山城拝師庄・尾張安食庄等の形成・伝領・在地構造を解明。東寺領太良庄「樋指図」や土倉野洲井の年貢収納など、荘園経営の実態に迫る。
978-4-642-72840-9　(初版 2005.3)

宇佐見隆之著
日本中世の流通と商業
A５判　316頁　**12,650円**(11,500)

生活や産業に必要な物資を生産者から消費者に届ける流通の問題は,その社会を知る重要な鍵となる。交通路の関や、港湾の問、貨幣の代用として使われた割符などの分析から、中世社会の実像を解明し、近世への展望を示す。
978-4-642-72780-8　(初版 1999.8)

佐々木銀弥著
日本中世の流通と対外関係
A５判　350頁　**13,200円**(12,000)

対外関係と国内流通に関わる論考を集成。論点は、塩・衣料の流通や経済圏、戦国大名の流通政策など多岐に及ぶ。貿易のみならず、文化的な交流・影響など、国際的視野から実証的に論じた諸編は、極めて高い水準にある。
978-4-642-72741-9　（初版 1994.12）

岩生成一著
新版 朱印船貿易史の研究
A５判　548頁　**17,050円**(15,500)

日欧交渉史研究の第一人者が、対外交渉史上で重要な意義を持つ朱印船貿易について、その発祥から鎖国に至る過程の諸問題を、内外の数多くの史料に基づき検討、分析した実証研究の成果。対外関係史研究に必読の名著。
978-4-642-04247-5　（初版 1985.12）

長　節子著
中世日朝関係と対馬
（戎午叢書）
A５判　320頁　**13,200円**(12,000)

15・6 世紀の日朝関係の展開過程を、日・朝間の要の位置にあった対馬島宗氏の領国支配の形成史との関連において論究。重要な史料を交えての事実関係の解明と、それに基づく従来の諸説の批判・訂正を試みた。
978-4-642-72618-4　（初版 1987.6）

田中健夫著
前近代の国際交流と外交文書
A５判　320頁　**12,650円**(11,500)

漢字文化圏のわが国武家政権下での外交文書は、漢字を駆使する知識集団である五山僧によって作成された。漢文外交文書研究の必要を提唱し、日明・日朝関係の基礎事実を解明する論考と、研究歴回顧の小品を収める。
978-4-642-71299-6　（初版 1977.9）

田中健夫著
東アジア通交圏と国際認識
A５判　304頁　**12,100円**(11,000)

前近代東アジア通交圏の実態と性格を海洋面・境界領域面からの新視点を導入して論じ、中国・朝鮮のわが国に対する認識の様相と推移を文字による文献史料とともに人物図・地図などの絵画史料を積極的に利用している。
978-4-642-71300-9　（初版 1994.12）

柳原敏昭著
中世日本の周縁と東アジア
A５判　370頁　**13,200円**(12,000)

鹿児島県万之瀬川下流域は、中世日本の南の周縁に生まれた一大交易拠点だった。地域の様相を復原し、領主や国家との関係を再検討。東アジア規模で広がる人・物の流れを明らかにする。地域史研究の新たな可能性の提起。
978-4-642-72896-6　（初版 2011.2）

大塚紀弘著
日宋貿易と仏教文化
A５判　350頁　**13,200円**(12,000)

中世前期、民間の唐船による貿易が日本の社会・文化に与えた影響を考察。特に、僧侶が貿易商人とつながることで唐物や中国の知識・情報を手に入れ、仏牙信仰や宝篋印塔などの新しい文化をもたらしたことを解明する。
978-4-642-72940-6　（初版 2017.12）

伊藤幸司著
中世日本の外交と禅宗
A５判　360頁　**13,750円**(12,500)

中世後期、外交使節として実際に渡海し通交貿易を担った禅僧を、「門派」の視角から考証し、その特徴を追究。対外交流の拠点であった博多や堺の動向を視野に入れ、当該期の外交のあり方と禅宗勢力の実態を解き明かす。
978-4-642-72813-3　（初版 2002.2）

本多博之著
戦国織豊期の貨幣と石高制
A５判　372頁　**13,200円**(12,000)

15 世紀末から 16 世紀末、貨幣はいかに流通していたのか。銭貨通用の実態、銀の社会浸透、米の機能などを具体的に考察。貨幣流通の史的展開と石高制成立の歴史的背景を、流通・財政・権力編成の観点から解明する。
978-4-642-72857-7　（初版 2006.11）

寶月圭吾著
中世量制史の研究
（日本史学研究叢書）
A５判　522頁　**16,500円**(15,000)

度量衡のなかでも特に未開拓の枡の歴史を、多数の古文書・古記録を渉猟し、残存する実物をも調査して、その発展過程を実証的に跡づけ体系的に纏めた。日本の社会経済史研究の基礎を確立した学士院賞受賞の不朽の名著。
978-4-642-04236-9　（初版 1961.3）

オンデマンド版（中世）

川戸貴史著

戦国期の貨幣と経済

A５判　284頁　**12,100円**（11,000）

貨幣はさまざまな機能を持ち、国家権力と不可分の関係にある。荘園領主経済、金・銀の流通、悪銭問題、戦国大名権力との関わりなどから中世の経済構造を解明。近年活発な中世貨幣流通史研究に一石を投ずる注目の書。
978-4-642-72880-5　（初版 2008.12）

有馬成甫著

火砲の起原とその伝流

A５判　768頁　**20,900円**（19,000）

火砲の源流、伝播の経路、発展の経過等を、様々な文献史料と著者が生涯をかけて博捜した実物の分析で論証。知られる限りの実物写真を収載するなど、研究資料としても役立つ火砲研究の基礎を築いた前人未踏の業績。
978-4-642-04248-2　（初版 1962.3）

宇田川武久著

東アジア兵器交流史の研究

―15～17世紀における兵器の受容と伝播―

A５判　474頁　**15,400円**（14,000）

現存する火器の実物資料を精査、文献史料を駆使して、外国の武器が日本へ定着し、更に日本の武器が外国へ流出した契機を、外来文化の受容と流出の視点から解明。武器交流の歴史を東アジア世界との交流の中に位置づける。
978-4-642-78137-4　（初版 1993.1）

田中　稔著

中世史料論考

A５判　462頁　**15,400円**（14,000）

奈良国立文化財研究所、国立歴史民俗博物館で、永年、典籍古文書の調査研究を行ってきた著者の論文を集成。数多く原本そのものに接した経験を踏まえた明快な叙述と精緻な考察は、古文書学・書誌学における貴重な成果。
978-4-642-72733-4　（初版 1993.11）

奥野高広著

増訂 織田信長文書の研究　全３巻

菊判　平均704頁

上巻　**20,900円**（19,000）　978-4-642-00907-2　（初版1988.9）
下巻　**20,900円**（19,000）　978-4-642-00908-9　（初版1988.9）

現存する信長文書を悉く網羅・編年した研究者必備の大著、待望の増訂版。全編にわたる改訂と補遺文書の増補は、全３冊の決定版をなす。年代毎の時代展望や各文書に付す読み下し文・内容解説は一般読書人にも好適。

補遺・索引　**13,200円**（12,000）　978-4-642-00909-6（初版1988.9）

蔵持重裕著

中世村落の形成と村社会

A５判　320頁　**12,650円**（11,500）

村同士の同盟と敵対関係、その調停者としての領主が存在し、搾取と供給、保護と信託という関係にあった中世社会の村落。その形成過程を通して特質を解明し、紀伊・和泉・対馬の村の現地調査により村社会を捉え直す。
978-4-642-72862-1　（初版 2007.4）

黒田弘子著

中世惣村史の構造

（戊午叢書）

A５判　370頁　**13,200円**（12,000）

中世村落史ないし惣村史研究は、近年再び盛んになりつつある。本書は、中世後期村落の核心をなす惣村の成立・展開・構造を、農民闘争・灌漑（生産）・宮座（結合）という三つの基本的視点から本格的に論じた意欲作。
978-4-642-72547-7　（初版 1985.4）

新井孝重著

中世悪党の研究

（戊午叢書）

A５判　310頁　**12,650円**（11,500）

荘園に跳梁する悪党や朝憲も恐れぬ悪僧。制度・秩序・権威と向かい合って自己を主張する彼らのダイナミックな行動と性格を、東大寺―黒田荘の構造的な発展と変質の過程を主軸に、民衆との関わりも含めて考察する。
978-4-642-72632-0　（初版 1990.3）

目崎徳衛著

西行の思想史的研究

第１回角川源義賞受賞

A５判　466頁　**15,400円**（14,000）

史料の発掘と旧説の修正によって、西行の伝記上の多くの問題点を歴史的に解明。民衆に浸透した伝説像と近代の歌人像を止揚して、文化の諸領域にひろく関与した、中世的人間の典型として西行の全貌を提示した。
978-4-642-72087-8　（初版 1978.12）

多賀宗隼著

慈圓の研究

A５判　516頁　**16,500円**（15,000）

武家政治草創期に、波瀾の生涯を送った一代の思想家慈円の生涯と思想を解明。ことに思想においては、愚管抄・拾玉集ほかすべての著作物を分析して歴史観・人生観及び天台教学の解釈まで詳細に検討した慈円研究の決定版。
978-4-642-72551-4　（初版 1980.2）

オンデマンド版(中世)

寶月圭吾著

中世灌漑史の研究

A５判　378頁　**13,750円**(12,500)

灌漑の歴史の究明は、社会経済史・農業技術史の上で持つ意味は大きい。本書は、中世におけるこの問題をとりあげ、特に用水の支配･管理権の帰属、河川･池水灌漑の性格、用水の分配と争奪等の諸問題を中心に具体的に叙述した。
978-4-642-71182-1　(初版 1983.3)

小林清治著

奥羽仕置と豊臣政権

A５判　448頁　**14,850円**(13,500)

豊臣秀吉の天下支配の完結となった奥羽仕置と、政権の展開過程における特質を追究。宇都宮・会津の仕置令、伊達政宗の上洛、一揆と再仕置などを通して、奥羽仕置の内実と総過程を解明。巻末に奥羽仕置年表を付載。
978-4-642-72828-7　(初版 2003.9)

小林清治著

奥羽仕置の構造 ―破城･刀狩･検地―

A５判　384頁　**13,750円**(12,500)

豊臣秀吉の天下支配の完結となった奥羽仕置の構造を実証的に究明。城の破却の度合い、藤木久志氏の「刀狩」説の検討、検地の実態、奥羽仕置の政治的特質など、奥羽の変化と奥羽仕置の実態を横断面的分析から解明する。
978-4-642-72831-7　(初版 2003.10)

金子　拓著

中世武家政権と政治秩序

A５判　328頁　**12,650円**(11,500)

武家政権は律令的官位制を取り入れ、主従関係の媒介とした。また官途授与の返礼や慶事の贈与交換は「礼」と呼ばれ、政治権力の形成と維持のための契機となった。この２つの視点から、中世の政治秩序を解明する。
978-4-642-72769-3　(初版 1998.12)

白根靖大著

中世の王朝社会と院政

A５判　306頁　**12,100円**(11,000)

中世前期の王朝社会について、院政を軸に政治制度と秩序体系を追究。院司や院宣などからみた院政の展開、昇段制や家格秩序の実像などを考察し、専制君主たる「治天の君」から制度化された「治天」への変遷を浮彫にする。
978-4-642-72787-7　(初版 2000.2)

二木謙一著

中世武家儀礼の研究

サントリー学芸賞受賞

A５判　512頁　**15,950円**(14,500)

室町期には武家の身分的な格式が形成され、生活全般にわたる慣習が故実として発達した。本書は年中行事、栄典授与、武家故実の発達など、武家儀礼の体系的研究を通して、幕府の権力構造や性格にまで説き及んでいる。
978-4-642-72532-3　(初版 1985.5)

二木謙一著

武家儀礼格式の研究

A５判　480頁　**15,400円**(14,000)

江戸幕府の儀礼および身分格式は、室町幕府の儀礼格式を手本とし、豊臣政権下の武家官位制を合わせて形成された。中世～近世の連続の中に、武家儀礼格式の成立と展開を探る。『中世武家儀礼の研究』と併せ必読の書。
978-4-642-72826-3　(初版 2003.7)

佐多芳彦著

服制と儀式の有職故実

A５判　384頁　**16,500円**(15,000)

有職故実とは何か。先行研究を整理・分析し、絵巻や肖像画を精査。公武服制の展開、儀式と服装の関係、貴族の乗り物や行列などの実態を解明。国文学、美術史、服飾史の成果も取り入れ、新たな有職故実の構築を目指す。
978-4-642-72466-1　(初版 2008.3)

片岡耕平著

日本中世の穢と秩序意識

A５判　306頁　**12,100円**(11,000)

中世日本の穢＝不浄概念は、天皇や神などの清浄なものと、怪異や死、出産などを不浄とするものの二つから意識されていた。「穢(観念)」の現われるさまざまな史料を分析し、中世社会の秩序意識を歴史的に位置づける。
978-4-642-72918-5　(初版 2014.3)

酒井紀美著

日本中世の在地社会

A５判　410頁　**14,300円**(13,000)

中世の在地社会は、村落と村落とが互いに関係しあい複雑にからまりあうなかで固有の世界をつくりあげていた。一揆･相論の際に村落住民が示す行動を追いかけることによって、そこでの対立と結合の実態を明らかにする。
978-4-642-72782-2　(初版 1999.9)

オンデマンド版(中世)

大村拓生著
中世京都首都論
A５判　354頁　**13,200円**(12,000)

中世京都を首都と捉え、成立と展開を考察した画期的研究。王権の行う儀礼の展開と大内裏・里内裏の都市空間に占める位置を検討し、京外の衛星都市の機能を追究。首都支配の展開を都市住民の性格とともに探る、注目の書。
978-4-642-72848-5　(初版 2006.1)

後藤みち子著
中世公家の家と女性
A５判　286頁　**9,900円**(9,000)

「家」が確立する中世後期、女性の生き方も変わった。「家」の家政を家長と役割分担する、公家の妻の地位と役割の変化を解明。さらに、在地領主層の後家・女子の相続がどう変わるか分析し、「家」内における女性の全体像を描く。
978-4-642-72811-9　(初版 2002.1)

田端泰子著
日本中世の社会と女性
A５判　386頁　**13,750円**(12,500)

女性史研究は長足の進歩を遂げ、多くの成果の蓄積をみたが、新たな視角の必要性も絶えず提起されている。室町・戦国期の村落史・政治史をベースとする著者が、ジェンダーの視点から中世社会の諸相を見直す。
978-4-642-72673-3　(初版 1998.12)

荻野三七彦著
日本古文書学と中世文化史
A５判　506頁　**15,950円**(14,500)

日本古文書学の泰斗の遺された論考から、日本古文書学と中世文化史に関する精粋 19 篇を収める。「原本」から得られる情報を駆使する手法は、鋭い史料批判と洞察を生み、今日なお精彩を放っている。
978-4-642-72745-7　(初版 1995.2)

富田正弘著
中世公家政治文書論
B５判　406頁　**20,900円**(19,000)

東寺などの社寺に伝来した、官牒・官宣旨・宣旨・口宣案・院宣・綸旨など、多くの公家政治文書。その様式の体系と系譜、政治機構の変遷を文書機能にも触れ分析。先学を踏まえ、新たな中世公家政治文書体系論を提言する。
978-4-642-72909-3　(初版 2012.6)

松井輝昭著
厳島文書伝来の研究
―中世文書管理史論―
A５判　280頁　**9,900円**(9,000)

瀬戸内海航路の守護神で安芸国一宮の厳島神社に関係する中世文書は 3100 通余りになる。これらは長年どのように管理・保管され、今日まで伝えられたのかを、「文書管理史」の視座から考察。歴史的背景を踏まえ実態に迫る。
978-4-642-72874-4　(初版 2008.3)

市川浩史著
吾妻鏡の思想史 ―北条時頼を読む―
A５判　208頁　**8,250円**(7,500)

鎌倉時代の第一級史料『吾妻鏡』。北条得宗家が政権の正当化を図った執権時頼の時代は、その編纂といかに関わるのか。『吾妻鏡』の歴史叙述に秘められたメッセージを読み解き、背後の政治的、思想的要因を暴く。
978-4-642-72674-0　(初版 2002.4)

松薗　斉著
日記の家 ―中世国家の記録組織―
A５判　370頁　**13,200円**(12,000)

日本史研究の基幹史料である日記は、いかなる社会の中で記録され機能したのか。日記の書継ぎを家職とした「日記の家」の存在と宮司の記録組織を明らかにするとともに、古代中世国家の認識に新たな視点と課題を提示する。
978-4-642-72757-0　(初版 1997.8)

兵藤裕己著
平家物語の歴史と芸能
A５判　336頁　**12,650円**(11,500)

「平家」語りと歴史、中世神話と芸能民、物語芸能のパフォーマンスをテーマに、芸能と権力の関わりをとらえ直した意欲作。『平家物語』を「歴史」の文脈に位置づけ、中世的な物語芸能(語り物)の実態を復元的に再構成する。
978-4-642-78517-4　(初版 2000.1)

豊永聡美著
中世の天皇と音楽
A５判　336頁　**12,650円**(11,500)

古来、天皇と音楽は深く結びついていた。秘曲伝受で権威を高めた後鳥羽天皇、音楽を政治的に利用した後醍醐天皇、天皇に音楽を教えた御師、相伝された名器などについて考察。音楽と政治・国家との関わりを考える。
978-4-642-72860-7　(初版 2006.12)

オンデマンド版(近世)

根岸茂夫著
近世武家社会の形成と構造
A５判　362頁　**13,200円**(12,000)

従来、領主または行政官僚としての面が強調されてきた近世の武家を、軍事的な役割から分析。擬制的な「家」の論理から編成された武家が、主従関係を超えた「家」を持っていたことを解明。近世武家社会の実像に迫る。
978-4-642-73356-4　(初版 2000.2)

笠谷和比古著
近世武家社会の政治構造
A５判　474頁　**15,400円**(14,000)

近世武家社会の形成過程、武士の行動形態などから武士の基本性格を探り、近世大名を類別して外様国持大名の重要性を説く。更に主従制の性格、行政官僚制、知行・封禄の存在形態等を検討、徳川将軍の政治・権力構造を解明。
978-4-642-73310-6　(初版 1993.2)

大友一雄著
日本近世国家の権威と儀礼
A５判　386頁　**13,750円**(12,500)

儀礼行為を権威の構造との関わりで検証し、民衆にとり国家的儀礼とは何かを追究する。産物献上にみる幕藩関係と地域社会、由緒書と文書管理をはじめ、幕府の鷹儀礼をめぐる諸問題を取り上げ、その実態と意義を解明。
978-4-642-73355-7　(初版 1999.12)

曽根原　理著
徳川家康神格化への道
―中世天台思想の展開―　神道宗教学会奨励賞受賞
A５判　288頁　**9,900円**(9,000)

死後東照大権現として祀られた家康神格化の思想史的意義を、それを演出した天海の背景である中世天台思想の展開、独自の神仏習合を遂げた日光山の宗教世界、天海が著した『東照社縁起』の分析を通して解明する。
978-4-642-73330-4　(初版 1996.11)

深井雅海著
徳川将軍政治権力の研究
A５判　530頁　**15,950円**(14,500)

元禄期から田沼期までの百年間に、将軍権力を支えた側用人(御用取次)を中心とする政治体制や、新参幕臣によって形成されていた政治勢力の実態を考察。徳川将軍による政治的権力の特質の解明を試みた力作。
978-4-642-73304-5　(初版 1991.5)

小池　進著
江戸幕府直轄軍団の形成
A５判　364頁　**13,200円**(12,000)

幕藩制国家支配を軍事的に支えた幕府直轄軍団の実態に迫る。家康から家光までの各政権の権力構造や主従関係の特質を視野に入れ、大番・書院番・小姓組番などの構造や形成過程を、その統治機構も含めて具体的に考察。
978-4-642-73370-0　(初版 2001.8)

高野信治著
近世大名家臣団と領主制
A５判　436頁　**14,850円**(13,500)

近世の日本は、国家(将軍・大名)が個別領主権力を通じた支配を行った。本書は、民俗学・法制史・社会学等の学際的知見も摂取した斬新な方法で、家臣団・領主制・知行制の諸問題を解明し、新たな近世領主像を提示する。
978-4-642-73333-5　(初版 1997.2)

大野瑞男著
江戸幕府財政史論
A５判　464頁　**14,850円**(13,500)

江戸幕府存立の基盤である財政の成立からその改革、そして解体に至るまでの解明に取組み、最近の政治史・経済史や地域史の成果も取り入れた総合的な研究である。多年の史料調査と実証的研究による業績がここに結実。
978-4-642-73332-8　(初版 1996.12)

小宮木代良著
江戸幕府の日記と儀礼史料
A５判　418頁　**14,300円**(13,000)

現存する江戸幕府史料のうち、日記など記録類と儀礼史料について史料批判を試みる。『徳川実紀』の引用史料「右筆所日記」の成立・伝来や、書札礼、殿中儀礼に関わる史料を分析。歴史的事実と表記との関係を追究する。
978-4-642-73410-3　(初版 2006.4)

田中暁龍著
近世前期朝幕関係の研究
A５判　282頁　**11,000円**(10,000)

徳川政権に適合するよう構築された朝廷内制度は、霊元・東山天皇の在位期に画期を迎える。天皇の意志を明確化する朝廷に対し、家綱・綱吉政権は統制を強化した。幕府の対朝廷政策を検証し、朝幕関係の実態を究明する。
978-4-642-73448-6　(初版 2011.6)

オンデマンド版(近世)

朴澤直秀著

幕藩権力と寺檀制度

A５判　378頁　**13,750円**(12,500)

江戸時代の仏教は社会の中でいかに存在していたのか。檀家組織の実態など幕藩権力との関わりを探り、寺檀制度や本末制度の構造を分析。近世国家と社会における仏教のあり方の特質に迫り、地域と仏教との関係を解明する。
978-4-642-73392-2　(初版 2004.10)

賀川隆行著

近世大名金融史の研究

A５判　432頁　**14,300円**(13,000)

近世後期の大名財政は、両替商の大名貸によって支えられてきた。最大の都市商人三井家による紀州藩・笠間藩・仙台藩・加賀藩などへの大名貸の緻密な実態分析を通して、その経済史・法制史上の意義を問う。
978-4-642-73327-4　(初版 1996.2)

長谷川成一著

近世国家と東北大名

A５判　322頁　**13,200円**(12,000)

奥羽日の本仕置と元和偃武という、秀吉と徳川氏による二つの「平和」が達成されていく中、東北の戦国大名たちは、どのようにして近世大名として生きるべく領主権を確立していったのか。新たな近世東北像の構築をめざす。
978-4-642-04220-8　(初版 1998.7)

児玉幸多著

近世宿駅制度の研究　増訂版

A５判　648頁　**18,700円**(17,000)

令制の駅伝制から鎌倉幕府、戦国大名の交通制度を踏まえ、近世宿駅に関する諸問題を詳細に解説。追分宿の成立機構・貢租負担・財政・助郷・貨客の争奪などを多くの史料を駆使して説き尽くした近世史研究者必読の書。
978-4-642-04249-9　(初版 1965.4)

上村雅洋著

近世日本海運史の研究

A５判　496頁　**15,400円**(14,000)

近世日本の海運業について、全国の新史料を丹念に発掘し、実際に運送された商品とその量的分析を通じ、新しい商品流通史を提示するとともに、廻船運航のシステムを明らかにし、近代につながる経営形態を検証する。
978-4-642-73314-4　(初版 1994.4)

児玉幸多著

近世農村社会の研究

A５判　566頁　**17,600円**(16,000)

近世農村研究の先駆者が戦前・戦後に発表した論考を収めた初期論文集。近世村落の成立から、家族や財政など農民生活・農業経営に関する諸問題、村落社会を揺るがした明治の町村制・地租改正まで、貴重な 20 篇を収録。
978-4-642-73000-6　(初版 1953.12)

大藤　修著

近世農民と家・村・国家

―生活史・社会史の視座から―

A５判　502 頁　**15,950円**(14,500)

「家」とは農民にとってどのような意味をもっていたのか。近世農民のライフサイクル全体を対象に、生活史・社会史の視座から多面的に迫る。諸種の史料を駆使し、学際的視野から新しい歴史学の方法を実践的に示す。
978-4-642-73328-1　(初版 1996.2)

大藤　修著

近世の村と生活文化

―村落から生まれた知恵と報徳仕法―

A５判　484頁　**15,400円**(14,000)

近世後期の関東と周辺地域では、農村の復興を課題としたさまざまな社会運動が展開した。二宮尊徳の思想形成と報徳仕法を例にとって検討し、近世村落の生活文化の諸相を描く。また日本の近代化と報徳主義の関係も考察。
978-4-642-73366-3　(初版 2001.2)

所　三男著

近世林業史の研究

A５判　882頁　**23,100円**(21,000)

日本林業史研究の基礎を築いた大著。未開拓の林業史を半世紀にわたり追求した著者の業績を集大成。江戸幕府、尾張藩、松本藩、松代藩など在地の文書まで駆使した実証研究は周到な用語解説もあり、近世史研究者必読。
978-4-642-04250-5　(初版 1980.2)

五野井隆史著

徳川初期キリシタン史研究　補訂版

A５判　514頁　**16,500円**(15,000)

徳川初期政権とキリシタン教界の係わりを、家康とイエズス会との関係、家康の禁教政策、禁教令下の宣教活動など通じて究明した労作。特に日本人宣教者の位置づけを試み、補訂版は同宿・小者の消息を大幅に訂正した。
978-4-642-04251-2　(初版 1992.2)

オンデマンド版(近世)

板沢武雄著
日蘭文化交渉史の研究
(日本史学研究叢書)
A５判　780頁　**20,900円**(19,000)

3世紀半にわたり、鎖国時代にもおよぶ日蘭交渉の歴史を、内外の史料を駆使して考証した著者30年の研究成果。蘭学の発達・影響の考察から、『佐賀藩鍋島元侯爵家蘭書目録』等の史料紹介など研究の基礎を築いた大著。
978-4-642-04252-9　(初版 1959.2)

関山直太郎著
近世日本の人口構造
A５判　344頁　**13,200円**(12,000)

近世の人口問題の専門家である著者が、宗門人別帳の分析などを通して、近世日本の人口構造を詳細に検討。人口調査の制度や都市と農村の調査方法と人口状態についても詳述する。いまなお引用されることの多い労作。
978-4-642-04253-6　(初版 1958.1)

金指正三著
近世海難救助制度の研究
A５判　778頁　**20,900円**(19,000)

江戸時代の海難救助は、幕府法を至上命令としながらも、専ら浦村の申合せや慣行によって実施された。永年にわたり全国各地を踏査した著者が、海難救助の実態と制度に関する法とその実施状況を実証的に究明した労作。
978-4-642-04254-3　(初版 1968.9)

賀川隆行著
近世三井経営史の研究
A５判　638頁　**18,700円**(17,000)

近世最大の都市商人三井家の営業組織を創業期から幕末・明治初年まで分析し、近世の為替取引と町人金融の実態、および絹織物、木綿、唐反物、和紙などの流通構造とその矛盾を明らかにした。日本経済史研究に必読の書。
978-4-642-04255-0　(初版 1985.2)

白川部達夫著
江戸地廻り経済と地域市場
A５判　272頁　**9,900円**(9,000)

近世・近代移行期の江戸と関東農村を結ぶ商品流通と地域市場の発展を、緻密な史料解釈にもとづき論究する。常陸国土浦町、龍ヶ崎町、真壁町など三つの地域を対象に分析。斬新な視角から地域市場経済の動向を掘り起こす。
978-4-642-73369-4　(初版 2001.8)

渡辺英夫著
近世利根川水運史の研究
A５判　368頁　**14,300円**(13,000)

利根川水運は、江戸市場に直結し、東廻海運の形成・発展と密接な関係にあった。川船の運航実態や上・下流域から江戸へ至る輸送機構を解明。浅瀬の克服、水戸藩独特の水運機構にも及び、関東水運史研究に新生面を拓く。
978-4-642-73373-1　(初版 2002.1)

落合　功著
江戸内湾塩業史の研究
A５判　442頁　**14,850円**(13,500)

近世において全国市場を瀬戸内の製塩業が掌握するなか、江戸内湾の塩田はその零細さにも拘わらず、需要を満たすために存続した。その要因を販売圏や地域社会等の問題から解明し、近世社会のあり様をも展望する。
978-4-642-73348-9　(初版 1999.1)

紙屋敦之著
大君外交と東アジア
A５判　326頁　**12,650円**(11,500)

徳川将軍は、明の冊封体制から自立した国際秩序を創造し、「日本国大君」と称して朝鮮や琉球と外交を行った。大君外交から公儀の支配や安全保障のしくみを突き止め、東アジアの中の日本と徳川将軍の位置を問いなおす。
978-4-642-73336-6　(初版 1997.12)

石田千尋著
日蘭貿易の史的研究
A５判　460頁　**19,800円**(18,000)

鎖国下、西欧唯一の交易国だったオランダとの取引を日蘭双方の史料の照合により考察。染織品の受用を検討し、オランダ船輸入品と国際的商品流通の関係を解明する。各品目の数量一覧表と輸入品の用語集を付載。
978-4-642-73391-5　(初版 2004.9)

片桐一男著
阿蘭陀通詞(おらんだつうじ)の研究
A５判　664頁　**18,700円**(17,000)

江戸時代、対外交渉・文化交流の第一線で活躍した阿蘭陀通詞に関する初の総合的研究書。通詞の組織、蘭学発達に果たした役割等、日蘭双方の新史料を博捜して解明。また収載した関係史料は、研究者を裨益する所が大きい。
978-4-642-73115-7　(初版 1985.2)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

オンデマンド版(近世)

八百啓介著
近世オランダ貿易と鎖国
A５判　360頁　**13,200円**(12,000)

17世紀から18世紀における平戸・長崎のオランダ商館貿易の実態を、アジア貿易に果たした役割という新たな視点より追究する。小判・銅・砂糖などを取り上げ、日蘭両国の史料を比較検討し、量から質への変化を解明。
978-4-642-73347-2　(初版 1998.12)

石田千尋著
日蘭貿易の構造と展開
A５判　524頁　**19,800円**(18,000)

近世後期、オランダ船がもたらした積荷物は、文化や政治にさまざまな影響を与えた。紺青(化学合成顔料)などの輸入品や将軍らが注文した誂物を、日蘭の取引史料と照合しつつ探り、日本とオランダの関係を明らかにする。
978-4-642-73440-0　(初版 2009.8)

上原兼善著
幕藩制形成期の琉球支配
A５判　372頁　**13,200円**(12,000)

江戸幕府草創期の外交を検討する上で、琉球研究は欠かせない。豊臣政権から徳川「鎖国」体制の確立期まで、幕藩制国家の対外的窓口の一つ、琉球に対する国家支配のあり方を浮き彫りにし、今後の琉球研究に新指針を提示。
978-4-642-73372-4　(初版 2001.11)

横山　學著
琉球国使節渡来の研究
A５判　560頁　**17,050円**(15,500)

琉球国使節の成立から終焉まで、使節渡来の実態と近世日本における「琉球」の位置を実証的に論じた。使節の日程・使者名簿・献上物・拝領物などの詳細な資料を付す。「琉球関係史料目録」には国内外の現存史料を網羅。
978-4-642-73277-2　(初版 1987.2)

麓　慎一著
開国と条約締結
(日本歴史叢書)
四六判　296頁　**3,300円**(3,000)

異国船来航で揺れる江戸幕府。有能で経験に富んだ幕吏たちは、なぜ無能で無責任に見える対外方針〝大号令〟を出すことになったのか。「開国」に至る「鎖国」の崩壊過程を辿り、対外政策決定までのメカニズムを明らかにする。
978-4-642-76669-2　(初版 2014.4)

豊見山和行著
琉球王国の外交と王権
第32回伊波普猷賞受賞
A５判　328頁　**13,200円**(12,000)

薩摩藩による琉球攻略から明治政府による琉球処分まで、王国独自の政治外交と王権の特質に迫る。旧来の曖昧な「日中両属」論を批判的に検証。琉球の歴史「主体性」を機軸に、「従属的二重朝貢国」と位置付けた注目の書。
978-4-642-73387-8　(初版 2004.6)

長野ひろ子著
日本近世ジェンダー論
―「家」経営体・身分・国家―
A５判　290頁　**9,900円**(9,000)

日本近世におけるジェンダーの特質とは何か。農村の「家」経営体の所有と経営に焦点をあて、家族労働をジェンダーの視点から分析。また、幕藩制国家の政治と権力の問題を、領主階級の女性の土地所有などから探り出す。
978-4-642-73380-9　(初版 2003.1)

谷口眞子著
近世社会と法規範
―名誉・身分・実力行使―
A５判　368頁　**13,200円**(12,000)

喧嘩や無礼討ちなど、実力行使の実態はどのようなものだったか。「家」制度・礼秩序などと関連しながら、国家の法と社会の「生ける法」が生み出した法規範を考察。近世武士を支えた名誉の観念と身分制社会の特徴を解明する。
978-4-642-73403-5　(初版 2005.6)

家近良樹著
幕末政治と倒幕運動
A５判　330頁　**13,200円**(12,000)

一橋慶喜とともに公武合体策を推進した、会津藩松平容保。桑名藩松平定敬は、討幕派の真の打倒対象であった。西南雄藩の活躍のみに彩られた幕末史ではなく、会津・桑名勢力を分析し、幕府滅亡のメカニズムを解明する。
978-4-642-04256-7　(初版 1995.11)

江戸遺跡研究会編
江戸文化の考古学
A５判　324頁　**13,200円**(12,000)

江戸遺跡から出土した考古資料は何を語るのか。考古学と各専門分野の研究者が多彩な視点からアプローチした学際的成果。化粧・料理・喫茶・人形など、発掘されたさまざまな遺物から江戸の人々の生活文化を浮彫にする。
978-4-642-73360-1　(初版 2000.8)

オンデマンド版(近世)

江戸遺跡研究会編

江戸の食文化

A５判　326頁　**13,200円**(12,000)

江戸時代のゴミ溜めから掘り出された陶磁器・食物残滓・木製品など「タイムカプセルに残された江戸の食生活」と、文献史学・美術史学・民俗学などが対象とする「伝えられてきた江戸の食生活」の双方から〝江戸の食文化〟に迫る。

978-4-642-73305-2　(初版 1992.1)

江戸遺跡研究会編

墓と埋葬と江戸時代

A５判　260頁　**9,900円**(9,000)

江戸時代、人びとはどのように葬られたのか。土葬と火葬、納棺時の姿勢、墓標、副葬品など、庶民から大名まで多様な墓の発掘から解き明かす。さらに六道銭や鍋被り葬にも触れ、江戸の墓をさまざまな角度から考察する。

978-4-642-73390-8　(初版 2004.7)

江戸遺跡研究会編

江戸の祈り　―信仰と願望―

A５判　314頁　**12,650円**(11,500)

都市江戸の人々は、生活の平安・向上を願い、様々な宗教活動を行っていた。発掘された遺構・遺物をもとに、修験道、地鎮め、マジナイ、墓標、鎮守、富士講など信仰の実態を解明。都市民の行動、精神のあり方を探る。

978-4-642-73394-6　(初版 2004.10)

江戸遺跡研究会編

災害と江戸時代

A５判　242頁　**9,350円**(8,500)

近世遺跡を発掘すると、地震・火事・洪水などの痕跡が数多く検出され、地域史の復原に重要な役割を果たしている。全国の発掘事例から近世都市遺跡の形成と災害との深いつながりを再発見。近世考古学に一石を投じる書。

978-4-642-73434-9　(初版 2009.1)

江戸遺跡研究会編

江戸の開府と土木技術

A５判　278頁　原色口絵4　**9,900円**(9,000)

徳川家康が入国したころの江戸は、どのような姿をしていたのか。いまだ不明な点が多いその様相を、地形環境や遺構群を素材に描き出す。また、土木技術の側面から、江戸が都市としていかに開発されてきたのかを考える。

978-4-642-73466-0　(初版 2014.12)

江戸遺跡研究会編

江戸の上水道と下水道

A５判　226頁　原色口絵4　**8,800円**(8,000)

江戸には、神田上水・玉川上水などの上水網、生活排水・雨水などを処理する下水網が設けられていた。文献や絵画、発掘調査から大規模な江戸の上水・下水を紹介。現代へと繋がっていく江戸時代の土木技術を明らかにする。

978-4-642-73449-3　(初版 2011.10)

江戸遺跡研究会編

江戸時代の名産品と商標

A５判　286頁　原色口絵4　**9,900円**(9,000)

江戸時代の名産品や商標はどう生まれ、普及したのか。様々な品をとりあげ、売る側の戦略と消費する側の満足度、ブランド志向で生まれたコピー商品を検証。モノと名の広がりと評価から「名産品」誕生の実態を解明する。

978-4-642-73446-2　(初版 2011.3)

渡辺浩一著

近世日本の都市と民衆

―住民結合と序列意識―

A５判　364頁　**13,200円**(12,000)

都市と民衆の関わりを、新視点より追究。19世紀の在方町武蔵国粕壁をはじめ、城下町仙台などを取り上げ、「住民結合」の実態とその歴史的位置等を明らかにする。あわせ城下町―在方町―村という「序列意識」を解明する。

978-4-642-73349-6　(初版 1999.2)

高牧　實著

近世の都市と祭礼

A５判　406頁　**13,750円**(12,500)

神事祭礼に焦点をあて、近世都市社会の特質を究明する。城下町久保田(秋田)をはじめ、港町酒田などの祭礼運営の実態や地域差を、緻密な史料分析により解明。江戸の山王・神田両社の祭礼と京都祇園会をも取り上げる。

978-4-642-73361-8　(初版 2000.11)

鈴木章生著

江戸の名所と都市文化

A５判　296頁　**9,900円**(9,000)

江戸時代の名所案内や地誌を克明に分析。江戸という都市空間のなかで、名所がいかに形成・認識され、そこにどのような地域的ひろがりと行動があったのか。江戸の人々の生活と行動の文化的世界を読み解く斬新な都市論。

978-4-642-73367-0　(初版 2000.3)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

オンデマンド版(近世)

塚田　孝著
近世大坂の都市社会
A５判　338頁　**12,650円**(11,500)

さまざまな身分集団が重層的に活動した近世都市・大坂。都市法の整備、茶屋株と都市開発に、社会の特質を解明。また蔵屋敷と牛馬皮の流通の接点を探り、かわた村の商人たちの活動やネットワークを、独自の視点から追究。
978-4-642-73411-0　(初版 2006.6)

菅原征子著
近世の女性と仏教
A５判　314頁　**12,100円**(11,000)

男女差別があった近世社会において、女性は仏教といかに関わったのか。尼僧や寺院開基など、信仰によって社会参加や自己実現を果たした女性たちに着目。その活動を検証し、ジェンダーイコールな仏教の再生をめざす。
978-4-642-73495-0　(初版 2019.7)

海原　亮著
近世医療の社会史
―知識・技術・情報―
A５判　394頁　**13,750円**(12,500)

江戸時代、人びとは病をどのように認識し、克服したのか。地域社会における医療の具体的な様相、社会構造の基盤、制度化・組織化の動向と、医師身分のあり方を考察。身分制社会下での病・医療の特質を明らかにする。
978-4-642-73424-0　(初版 2007.10)

北原糸子著
都市と貧困の社会史
―江戸から東京へ―
A５判　390頁　**13,750円**(12,500)

「貧困」であることが当り前であった時代から、「貧困」を恥として隠蔽する社会へ。変質していく日本社会の構造を、都市社会史の視座から分析した新しい試み。江戸・東京を舞台に、２つの時代の連続と非連続を問い直す。
978-4-642-73323-6　(初版 1995.9)

中川　学著
近世の死と政治文化
―鳴物停止と穢―
A５判　312頁　**12,650円**(11,500)

将軍・天皇など為政者の死は、幕府・朝廷・藩や社会にどのように影響したのか。鳴物停止令・触穢令等を考察し、死をめぐる政治文化の全体構造とその特質を解明。近世の国家史・社会史研究に新たな分析視角を提示する。
978-4-642-73435-6　(初版 2009.1)

井上智勝著
近世の神社と朝廷権威
A５判　338頁　**12,650円**(11,500)

江戸時代、幕藩体制に組み込まれていた天皇・朝廷の「伝統的」権威はどのように上昇・自立してくるのか。神職の本所吉田家をめぐる動向に即して、幕藩の宗教政策や近世思想・公家社会の展開を踏まえながら解明する。
978-4-642-73422-6　(初版 2007.6)

林　　淳著
近世陰陽道の研究
A５判　426頁　**14,300円**(13,000)

江戸幕府に陰陽師支配の許可を与えられた土御門家は、権限を利用して占い師や芸能者などを取り込み、全国的な組織を形成する。修験や舞太夫との争論や、江戸幕府の陰陽道政策を通して、近世陰陽道の実態を解き明かす。
978-4-642-73407-3　(初版 2005.12)

梅田千尋著
近世陰陽道組織の研究
A５判　330頁　**12,650円**(11,500)

江戸時代の陰陽師は、身分制社会をどのように生きたのか？　科学・宗教・呪術が交差した陰陽道の範疇とは？既存の枠組では捉えがたい陰陽師の存在形態や組織構造、土御門家との関係、天文・暦学〈知〉との関係を描く。
978-4-642-73436-3　(初版 2009.2)

西村慎太郎著
近世朝廷社会と地下官人
A５判　338頁　**12,650円**(11,500)

朝廷に仕えた下級官人の集団＝地下官人。組織と構造的展開、身分的特質や堂上公家との関わりなど、地下官人の実態に迫る。近世京都の都市史、文化史、畿内の村落史研究や、天皇・朝廷研究においても新機軸の研究成果。
978-4-642-73433-2　(初版 2008.10)

加藤衛拡著
近世山村史の研究
―江戸地廻り山村の成立と展開―
A５判　318頁　**14,300円**(13,000)

山村は生産力の低い地域とされてきたが、江戸近郊の山間地域は、高い生産力を発揮した。「山」利用の実態、林業の生産を支える村構造を考察。自給的な焼畑農業から商品経済的な林業の成立・展開を中心に特徴を解明する。
978-4-642-73419-6　(初版 2007.2)

オンデマンド版（近世／近・現代）

吉田俊純著

熊沢蕃山 —その生涯と思想—

A５判　216頁　**8,800円**（8,000）

近世を代表する儒者、熊沢蕃山。幕藩体制への批判精神を持ち続けた生涯をたどる。蕃山の著作を読み解き、矛盾に満ちた思想を解明。また、荻生徂徠や水戸学への影響を明らかにし、日本思想史研究に新たな視座を拓く。
978-4-642-73405-9　（初版 2005.10）

鈴木暎一著

国学思想の史的研究

A５判　254頁　**9,350円**（8,500）

国学とは、日本文化の独自性の主張であり、それを支える日本人の心を探求する精神運動として展開した。賀茂真淵・本居宣長・富士谷御杖・平田篤胤などの国学思想を、歴史学の立場から読み解き、その本質を解明する。
978-4-642-73374-8　（初版 2002.2）

服部幸雄著

歌舞伎の原郷 —地芝居と都市の芝居小屋—

A５判　414頁　口絵2　**14,300円**（13,000）

神社の祭礼に上演される土地の人の地芝居や地方の芝居小屋には、現在の歌舞伎が失った役者と観客が一体となった劇空間が存在する。黒森歌舞伎・旧金比羅大芝居などに、江戸歌舞伎の〈時空〉を考察。歌舞伎の原風景を探る。
978-4-642-73421-9　（初版 2007.5）

徳川義宣著

新修 徳川家康文書の研究

※第二輯は「近世」ページをご覧ください

A５判　1018頁　口絵16　**27,500円**（25,000）

中村孝也著『新訂徳川家康文書の研究』全４冊に未収録の家康文書345点、参考文書112点、未勘文書69点を採録し、各々に詳細な解説を加えた。前掲書収録文書でも原本の発見されたものは、本文の校異改訂を示した。　徳川黎明会発行
978-4-642-00906-5　（初版 1983.7）

西山松之助編

江戸町人の研究　全６巻

A５判　※第6巻＝品切

家康入府から明治初年まで、江戸町人の実態を照射したシリーズ。日本の最も社会的変動の激しかった大都江戸で、江戸町人がどのような生活を行い、性格をもち、いかなる役割を演じたか、その実態を克明に分析する。

第1巻 17,600円（16,000）978-4-642-00900-3（初版1972.5）
第2巻 15,400円（14,000）978-4-642-00901-0（初版1973.6）
第3巻 15,400円（14,000）978-4-642-00902-7（初版1974.1）
第4巻 15,400円（14,000）978-4-642-00903-4（初版1975.6）
第5巻 15,400円（14,000）978-4-642-00904-1（初版1978.11）

維新史料編纂会編修

維　新　史　全６巻

A５判　平均838頁

官撰により叙述され、昭和16年12月の全６巻完成以来、いまなお明治維新史研究のためのすぐれた研究書。研究者待望の復刊。

第1巻 19,250円（17,500）978-4-642-73264-2（初版1983.7）
第2巻 25,300円（23,000）978-4-642-73265-9（初版1983.7）
第3巻 19,800円（18,000）978-4-642-73266-6（初版1983.7）
第4巻 21,450円（19,500）978-4-642-73267-3（初版1983.7）
第5巻 23,650円（21,500）978-4-642-73268-0（初版1983.7）
附　録 22,550円（20,500）978-4-642-73269-7（初版1983.7）

田中　彰著

幕末維新史の研究

（日本史学研究叢書）

A５判　386頁　**14,300円**（13,000）

維新変革の政治的主体を追究してきた著者が、その研究の軸足を徳川幕府側において明治維新の政治過程を考察した力作。幕府の統一国家構想を究明しつつ、討幕派の形成に関する再検討も行なう。幕末維新史研究の決定版。
978-4-642-73660-2　（初版 1996.3）

佐々木　克著

幕末政治と薩摩藩

A５判　460頁　**14,850円**（13,500）

幕末維新期に一貫して中央政局の中心にいた薩摩藩。文久３年政変、王政復古政変との関わりを詳述。龍馬が長州藩に届けた「極密書簡」の発見による薩長盟約の新説も紹介。対立・抗争の維新史を書き改めた注目の書。
978-4-642-73393-9　（初版 2004.10）

価格は10％税込、（　）内は本体価格

オンデマンド版(近・現代)

田中　彰著
長州藩と明治維新
A５判　398頁　**14,300円**(13,000)

長州藩、そして奇兵隊研究の歴史は、明治維新の厖大な研究史と重なる。この二重写しの研究史を窓として、明治維新とは何かを鋭く追究し、さらに維新の全体像を世界史の中にいかに位置づけるべきかの試論を展開する。
978-4-642-73680-0　(初版 1998.7)

渡辺隆喜著
明治国家形成と地方自治
A５判　354頁　**13,200円**(12,000)

近代国家において、市民的自由＝私権と政治的自由＝公権を、国家権力に接合する地方自治はいかに生成するのか。地租改正を基礎に、地方民会(地方議会)の成立過程を構造的に考察。明治国家形成の特質を解明する。
978-4-642-73737-1　(初版 2001.5)

有泉貞夫著
明治政治史の基礎過程
―地方政治状況史論―
A５判　432頁　**14,850円**(13,500)

明治政治史の底流である地方政治状況の推移を山梨県を中心に、県会議事録や地方新聞など膨大な史料を基に、教育・産業・土木などの地方利益の生成・膨張・多様化を軸に追及。近代地方史研究に新局面を開いた労作。
978-4-642-04257-4　(初版 1980.2)

松尾正人著
廃藩置県の研究
A５判　544頁　**16,500円**(15,000)

廃藩置県における政治過程はいかなるものだったのか。従来の研究とは異なる視点から、上杉文書、毛利家文庫等の旧藩史料や英国外務省文書を活用して多面的に考察。廃藩置県を契機とした国家的変革の過程を分析する。
978-4-642-73697-8　(初版 2001.1)

青山忠正著
明治維新と国家形成
A５判　322頁　**12,650円**(11,500)

19世紀、日本が迎えた一大変革、明治維新。その様相を〈重層言語〉と〈国家形成〉という新視角に立ち、和親条約期から版籍奉還に至る政治過程に焦点をあて究明。諸大名家の動向分析により王政復古の意義を解明する。
978-4-642-73692-3　(初版 2000.2)

村瀬信一著
明治立憲制と内閣
A５判　328頁　**12,650円**(11,500)

明治政府は、立憲政治の開始後、内閣制度の改革を迫られる。歴代内閣の政権運用を問い、内閣崩壊に際して次第に総辞職が定着していく様を追跡。桂園体制という政権交代方式を実現した明治立憲制の道程を検証する。
978-4-642-73800-2　(初版 2011.1)

勝田政治著
内務省と明治国家形成
A５判　306頁　**12,100円**(11,000)

官僚機構の中枢であった内務省の設立過程を、勧業・警察・地方の三行政を中心に考察し、その設立理念を提示。また内務行政の成立と展開を、大久保政権や地方行政機構との関連で再検討。明治国家形成期の重要問題を抉る。
978-4-642-73739-5　(初版 2002.2)

小林和幸著
明治立憲政治と貴族院
A５判　384頁　**13,750円**(12,500)

貴族院を立憲政治の阻害者とする従来の研究を問い直し、「国家的見地」を代表する存在として貴族院が果たした役割を解明。また内閣・衆議院との関係をめぐる貴族院の動向を、「自立」と「自制」という観点から検討する。
978-4-642-73740-1　(初版 2002.2)

伊藤之雄著
立憲国家の確立と伊藤博文
―内政と外交　一八八九～一八九八―
A５判　354頁　**13,200円**(12,000)

数度に及ぶ憲法停止の危機を乗り越えて立憲国家を定着したのは、伊藤博文と明治天皇、自由党の星亨らの奮闘による。山県有朋、大隈重信―改進党等の動向も含め、1890年代の内政・外交の透徹した枠組みを提示する。
978-4-642-73687-9　(初版 1999.7)

落合弘樹著
明治国家と士族
A５判　338頁　**12,650円**(11,500)

明治政府にとって、士族への対処は重要な課題であった。本書は、財政基盤確立のための秩禄処分、不平士族への対応、政府支持基盤の温存策としての士族授産を分析。明治初期の士族の状況と明治政府の構造を再検討する。
978-4-642-73736-4　(初版 2001.1)

オンデマンド版(近・現代)

小宮一夫著
条約改正と国内政治
A５判　294頁　**9,900円**(9,000)

明治20年代の条約改正問題をめぐる藩閥政府と自由党・対外硬派などの諸集団の政治競合を分析。また伊藤博文・星亨の政治的手腕や、ジャーナリスト徳富蘇峰と政治との関わりに着目し、当該期の政治史像を再構築する。
978-4-642-73735-7　(初版 2001.1)

沼田　哲著
元田永孚と明治国家
―明治保守主義と儒教的理想主義―
A５判　432頁　**14,300円**(13,000)

儒学者として明治天皇の人格形成に影響を与えた元田永孚。その思想形成・国憲論・国教論・対外観を横井小楠の儒学思想との関係とともに解明。儒教的理想主義が近代化に果たした役割を探り、近代保守主義の展開を考える。
978-4-642-73772-2　(初版 2005.6)

荒井明夫著
明治国家と地域教育
―府県管理中学校の研究―
A５判　452頁　**17,600円**(16,000)

明治初期の国家政策であった地域の教育制度と学校造りの営みは、いかに展開したのか。全国のいくつかの府県管理中学校から、国家と地域との関係性のダイナミズムを解明。現代の「地域教育」のあり方に問題提起をする。
978-4-642-73798-2　(初版 2011.1)

小林啓治著
国際秩序の形成と近代日本
A５判　306頁　**12,100円**(11,000)

20世紀に世界へと拡大した「国際社会」の形成や特質・変容を、近代日本の対外行動や対外観を通じて解明。国際社会における日本の位置を考察し、帝国日本を包摂する過程で国際社会がどのように変容するかを分析する。
978-4-642-73748-7　(初版 2002.12)

季武嘉也著
大正期の政治構造
A５判　434頁　**14,300円**(13,000)

第一次世界大戦、中国の分裂など、大正期は「国際的経済戦争」という対外危機意識が高まった時代であった。官僚・軍・政党などの共通認識であった「挙国一致」論をキーワードに、彼らの競合を分析し、構造解明に迫る。
978-4-642-73682-4　(初版 1998.11)

松田好史著
内大臣の研究 ―明治憲法体制と常侍輔弼―
A５判　230頁　**9,900円**(9,000)

首相奏薦・天皇への助言など「常侍輔弼」を任とした内大臣。平田東助・牧野伸顕・木戸幸一ら歴代の内大臣の時代を辿りつつ、変遷する「常侍輔弼」のあり方とその運用を検討。国家意思の形成と宮中の役割を追究する。
978-4-642-73839-2　(初版 2014.11)

茶谷誠一著
昭和戦前期の宮中勢力と政治
A５判　390頁　**13,750円**(12,500)

昭和天皇を支えた宮中勢力の「総意」は、満州事変などの政局にどう影響を与えたのか。輔弼の実態や内閣・軍部との関係を中心に、政治的機能の変化、政策決定過程への影響力を解明。明治憲法下の天皇制の変遷を究明する。
978-4-642-73792-0　(初版 2009.10)

安達宏昭著
戦前期日本と東南アジア
―資源獲得の視点から―
A５判　270頁　**9,350円**(8,500)

1930年代、日本は総力戦体制構築のために戦略物資の確保に力を注いだ。資源供給地である東南アジアへの進出を分析し、「自立と依存」という二面的性格を持った日本帝国主義の特質と、その展開過程を解き明かす。
978-4-642-73749-4　(初版 2002.12)

小池聖一著
満州事変と対中国政策
A５判　314頁　**12,650円**(11,500)

満州事変は、蓄積された矛盾の限界点として起きたのではない。重光葵の対中国経済政策に焦点をあて、その実態を解明する。満州事変を予期されなかった特異点として位置づけ直し、日中外交史研究の新たな方向性を示す。
978-4-642-73760-9　(初版 2003.11)

古川隆久著
昭和戦中期の総合国策機関
A５判　396頁　**14,300円**(13,000)

昭和戦中期、国家政策全般の立案、調査を行った内閣調査局、企画院等の総合国策機関は、政府内で極めて重要な位置を占めた。出現の経緯・改廃・役割・歴史的意義を米内、近衛、東条、鈴木内閣などの動向と合わせ考察する。
978-4-642-04258-1　(初版 1992.12)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

オンデマンド版(近・現代)

森山　優著
日米開戦の政治過程
A５判　290頁　**9,900円**(9,000)

近衛内閣から東条内閣へと続く時期の日本は米英開戦という最悪の選択を行った。御前会議や大本営政府連絡会議などで決定された「国策」と呼ばれる要綱類の策定過程の分析を通し、当時の複雑な政治体制を明らかにする。
978-4-642-73676-3　(初版 1998.2)

後藤致人著
昭和天皇と近現代日本
A５判　306頁　**12,650円**(11,500)

昭和天皇研究は、1990年前後を境にして研究環境を異にしてきた。「宮中グループ」での天皇の役割を検証し、また地域社会と天皇権威の関係や戦後の在位が政治に与えた影響などから、天皇という存在の意味を考える。
978-4-642-04259-8　(初版 2003.6)

武田知己著
重光葵と戦後政治
A５判　364頁　**13,750円**(12,500)

昭和期の政治外交史を再検討する上の重要人物である重光葵。1920年代から戦後に至る重光の対外政策と政治的足跡を、政策過程の時代変化に着目しつつ、外交理念であった「自主独立」をキーワードに分析する。
978-4-642-04260-4　(初版 2002.3)

榎　一江著
近代製糸業の雇用と経営
A５判　344頁　**13,200円**(12,000)

第一次大戦期を通して経営規模拡大を遂げた郡是製糸。その経営手法と、製糸工女に対する労務管理に着目する。雇用関係の変遷を実証的に分析し、労働者意識のありようを解明。近年のジェンダー史研究にも一石を投じる。
978-4-642-73783-8　(初版 2008.3)

伊藤真実子著
明治日本と万国博覧会
A５判　232頁　**9,350円**(8,500)

国々が技術や文化を競った万国博覧会。明治政府が参加した万博の出品方針、展示物、日本紹介の日本史、日本館での宴会、植民地展示に着目。万博を手本とした内国博覧会からも国内外への日本イメージの内容と変容を探る。
978-4-642-73785-2　(初版 2008.6)

渡辺ともみ著
たたら製鉄の近代史
A５判　316頁　**12,650円**(11,500)

吹子を用いた日本独自のたたら製鉄は、世界的な技術近代化の波にどう立ち向かったのか。近世～明治・大正期の諸資料の分析を行なう全貌を解明。東北の製鉄技術や関連用語の整理を行なうなど、新たな研究の地平を拓く。
978-4-642-73775-3　(初版 2006.3)

勝部眞人著
明治農政と技術革新
A５判　344頁　**12,650円**(11,500)

明治初期、欧米農業と接触した政府は日本農業をどう認識し、どう政策論理を導き出していったのか。生産者農民の主体性という視点から、彼らの行動と政策展開とのねじれに論究し、明治期日本農業の新たな歴史像を探る。
978-4-642-73750-0　(初版 2002.12)

森岡清美著
華族社会の「家」戦略
A５判　480頁　**15,400円**(14,000)

華族と改称された公卿・大名らが、明治初期の政治的大変革のなかで、どのように「家」の存続をはかったか。「家」の安泰をめざした伝統貴族諸家の戦略を、制度史と家族史の両面から、人情の機微にもふれつつ解明する。
978-4-642-73738-8　(初版 2002.1)

外池　昇著
幕末・明治期の陵墓
A５判　376頁　**13,200円**(12,000)

幕末・明治期に古墳が陵墓へと決定・管理される過程で、周辺の村々にはどんな影響が及んだかを検証する。また、明治政府の施策の背景にある思想・理念に踏み込んで、陵墓政策を解明。陵墓研究の新たな潮流を示す。
978-4-642-73672-5　(初版 1997.5)

青井哲人著
植民地神社と帝国日本
A５判　384頁　**13,750円**(12,500)

日本の植民地都市に必ず存在した神社が、中心部ではなく市街に面した山の稜線上に据えられたのはなぜか。台湾神社などの造営から、都市の形成を解明。グローバルな植民都市比較研究の出発点となる、「日本植民都市序論」。
978-4-642-73768-5　(初版 2005.2)

オンデマンド版(近・現代／宗教・仏教)

中野　実著
近代日本大学制度の成立
A５判　330頁　**13,200円**(12,000)

帝国大学創設の歴史的意義とは。著者が発見した史料を多用し、大学首脳の諸動向、学位制度創設過程などの検討から解明する。また1910年代の大学制度改革の全貌を究明。現代の大学改革課題に、大きな示唆を与える。
978-4-642-73755-5　(初版 2003.9)

町田祐一著
近代日本と「高等遊民」
―社会問題化する知識青年層―
A５判　368頁　**13,200円**(12,000)

明治末期、高学歴だが一定の職にない「高等遊民」が社会問題化した。その実像と政治社会への影響、各種政策や自助努力による解決策を解明。現代のフリーター問題にも通ずる社会矛盾を考え、近代日本社会を問い直す。
978-4-642-73799-9　(初版 2010.12)

有山輝雄著
徳富蘇峰と国民新聞
A５判　386頁　**13,750円**(12,500)

「独立」の理念を掲げ、新鮮な紙面と華々しい言論活動により、瞬くうちに大きく発展した国民新聞。言論の独立と経営という難問との葛藤の軌跡を辿ることにより、日本ジャーナリズムの一断面を明らかにする。
978-4-642-73631-2　(初版 1992.5)

依田精一著
家族思想と家族法の歴史
A５判　284頁　**9,900円**(9,000)

戦後の家族制度改革は、「家」から人々を本当に解放できたのか。明治の法典論争から大正デモクラシー、戦時下を経て、戦後の新家族観成立に至る歴史を論究。今日、家族と個人と社会の関係が崩壊しつつある原因に鋭く迫る。
978-4-642-73766-1　(初版 2004.8)

永原和子著
近現代女性史論 ―家族・戦争・平和―
A５判　352頁　**13,200円**(12,000)

明治から現代まで、女性たちは家族や家庭といかに向き合い、地域の中で生きたのか。母性の名のもとに戦争協力を余儀なくされていく過程と、戦後の平和と自立へのたゆみない歩みを解明し、女性史の今後への展望を示す。
978-4-642-73812-5　(初版 2012.2)

平瀬礼太著
銅像受難の近代
A５判　362頁　**13,200円**(12,000)

明治以降、続々と建てられた楠木正成・二宮金次郎・西郷隆盛など偉人たちの銅像。その多くは時代に翻弄され、戦時中に鋳潰されたり、戦後に撤去されたりした。銅像たちの数奇な運命を激動の近現代史の中に読み解く。
978-4-642-73803-3　(初版 2011.2)

有山輝雄著
近代日本のメディアと地域社会
A５判　358頁　**13,200円**(12,000)

近代にはメディアの大衆化が階層の平準化をもたらしたとされる。だが、新聞・雑誌購買者名簿を分析すると通説とは異なる実態が浮上する。電話・ラジオ等も取り上げ、普通の人々のメディア受容を描く「下からのメディア史」。
978-4-642-73791-3　(初版 2009.7)

浅井良夫著
戦後改革と民主主義
―経済復興から高度成長へ―
A５判　320頁　**12,650円**(11,500)

占領期の経済改革および戦後の経済再建過程の歴史的特質を、民主化とアメリカニゼーション、西欧諸国の経済社会システム(ケインズ主義的福祉国家体制)の形成と一体になった経済復興という二つの側面から解明する。
978-4-642-73699-2　(初版 2001.1)

平岡定海著
日本寺院史の研究
A５判　700頁　**19,800円**(18,000)

日本仏教の形成過程において仏教寺院の果した役割は大きい。本書は、飛鳥・奈良・平安を通じ、私寺より官大寺、さらに御願寺や六勝寺に及び、仏教寺院成立の事情を考察したものである。従来の研究の空白をうめる画期的労作。
978-4-642-71064-0　(初版 1981.7)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

オンデマンド版(宗教・仏教)

平岡定海著

日本寺院史の研究　中世・近世編

A５判　856頁　**22,000円**(20,000)

鎌倉時代から江戸時代に至る寺院の成立・展開・衰退の過程を、南都復興、地方寺院の成立、豊臣氏の方廣寺、東大寺大仏殿再建など、時代を特徴づける事件の分析を通して明らかにする。著者積年研究の集大成。

978-4-642-71063-3　(初版 1988.11)

竹居明男著

日本古代仏教の文化史

A５判　364頁　**13,200円**(12,000)

寺院と僧侶をめぐる文化史上の諸問題や神祇信仰における仏教の受容を、文献の博捜と遺品・遺構により歴史・宗教・文学・美術の学際的視点から分析。新しい文化史の方法論を模索する著者が長きにわたる成果を集成。

978-4-642-72329-9　(初版 1998.5)

岩城隆利著

元興寺の歴史

A５判　432 頁　**14,300円**(13,000)

元興寺は蘇我馬子の創建した飛鳥寺(法興寺)が平城遷都に伴い奈良に移転した寺で、日本最古の法灯を今に伝えている。元興寺の波乱に満ちた数奇な変転を辿り、寺と歩んだ奈良の人々と日本仏教 1500 年の軌跡を考える。

978-4-642-72343-5　(初版 1999.11)

佐野賢治著

虚空蔵菩薩信仰の研究

―日本的仏教受容と仏教民俗学―

A５判　586頁　**17,600円**(16,000)

広大無辺の功徳を包蔵するという虚空蔵菩薩。その信仰は、修験・寺僧らの仲介により鰻食物禁忌や十三参り・十三仏信仰などの日本的「仏教民俗」を醸成した。仏教が日本化する道筋をたどり、仏教民俗学の新地を切り拓く。

978-4-642-77538-0　(初版 1996.2)

佐伯有清著

伝教大師伝の研究

(日本史学研究叢書)

A５判　630頁　**18,150円**(16,500)

伝教大師最澄は大乗戒壇設立の認可を生前知っていたのではないか、日蓮はどのような系統の最澄伝を見たのかなど興味深い問題にもふれながら、最古の最澄伝を詳細に検討分析した雄編。天台草創期の高僧伝研究の３部作。

978-4-642-04233-8　(初版 1992.10)

武内孝善著

弘法大師空海の研究

A５判　612頁　**17,600円**(16,000)

徹底した先行研究の検討と史料批判による空海伝。讃岐国誕生説を見直して畿内誕生説を提示、最澄との訣別などを空海自身の文章と同時代の史料に基づき立論する。歴史学の最新成果を取り入れ、空海研究の新地平を開く。

978-4-642-72448-7　(初版 2006.2)

佐伯有清著

慈覚大師伝の研究

A５判　404頁　**14,300円**(13,000)

エドウィン・ライシャワーに世界史的偉人と称えられた天台密教の大成者、慈覚大師円仁の古伝記諸本の本格的研究。三代実録の円仁伝や現行本の慈覚大師伝を詳細に検討分析した労作。天台草創期の高僧伝研究の３部作。

978-4-642-04232-1　(初版 1986.5)

佐伯有清著

智証大師伝の研究

A５判　522頁　**16,500円**(15,000)

第５世天台座主、智証大師円珍の詳密な伝記研究。諸本の比較研究と注釈を軸に、藤原良房の動向から円珍の入唐求法の真相を探り、留学僧円載との不和の原因を新たな視点で解明する。天台草創期の高僧伝研究の３部作。

978-4-642-04234-5　(初版 1989.11)

小山田和夫著

智証大師円珍の研究

A５判　280頁　**9,900円**(9,000)

智証大師円珍の幼年・修行時代から入唐求法、延暦寺の基礎を固め、園城寺の再興、天台教団の発展につくす生涯と事績を考証。比叡山における円珍の意識と位置を考察し新見解を提示、また円仁との関係を新視点から分析。

978-4-642-04235-2　(初版 1990.11)

櫛田良洪著

覚鑁の研究

A５判　502頁　**15,950円**(14,500)

平安仏教の偉人、高野山での宗教的体験を貫いた興教大師覚鑁。従来の伝記・学説を批判し、新史料を駆使して描いた決定版。生い立ち、教学、弥陀思想、大伝法院と高野山、根来山経営など平安仏教とその生涯を解明する。

978-4-642-04264-2　(初版 1975.2)

オンデマンド版(宗教・仏教)

佐久間　竜著

日本古代僧伝の研究

A５判　330頁　**13,200円**(12,000)

道昭・慈訓・慶俊・安寛・実忠ら、官僧の活躍のあとを辿ることにより、律令制下の国家仏教の諸相を明らかにすると共に、戒師招請をめぐる問題や、道慈の指摘等によって明白となったわが国仏教の体質、僧尼の実態をも究明。
978-4-642-72117-2　(初版 1983.4)

菅原征子著

日本古代の民間宗教

A５判　344頁　**12,650円**(11,500)

古代において、地方と中央の間では宗教を媒介とした様々な交流があった。最澄や空海の東国地域での伝道の意味や、八幡神や巫覡など憑依託宣の民間宗教を考察。制度史や政治史からは見えない中央と地方の関係を解明する。
978-4-642-72397-8　(初版 2003.9)

勝浦令子著

日本古代の僧尼と社会

A５判　440頁　**14,850円**(13,500)

奈良朝に盛期を迎えた仏教は、多くの僧尼を輩出した。僧尼の存在形態を東アジア諸国との比較やジェンダーの視点から分析し、「家」と僧尼の関係、尼・女性の役割を追究。また、王権と民衆による仏教受容の実態にも迫る。
978-4-642-72353-4　(初版 2000.11)

速水　侑著

平安仏教と末法思想

A５判　374頁　**13,200円**(12,000)

浄土教・密教・末法思想をキーワードに、著者長年の研究成果を集大成。空也と源信、密教修法、霊場参詣勧進と末法思想など14論文を収録。摂関・院政期の時代観・末法観を解明し、平安仏教史研究の指針を示す。
978-4-642-72453-1　(初版 2006.10)

速水　侑著

平安貴族社会と仏教

(日本宗教史研究叢書)

A５判　284頁　**9,900円**(9,000)

浄土教中心の平安仏教研究に対し、平安貴族社会の信仰の根底を形成していたのは密教であるとの認識に立ち、貴族の日記や多くの史料を駆使して、密教修法の展開を基軸に平安貴族社会仏教史を再構成した画期的労作。
978-4-642-04263-5　(初版 1975.12)

曾根正人著

古代仏教界と王朝社会

A５判　304頁　**12,100円**(11,000)

古代仏教界の本源的課題である経典受容、国家仏教体制、戒律の実態を、担い手である僧侶の目線から光を当てる。また周囲に展開した王朝社会の信仰を、歴史物語から復原し、もって古代日本仏教の位相を照らし出す。
978-4-642-72351-0　(初版 2000.9)

平林盛得著

慶滋保胤と浄土思想

A５判　318頁　**12,100円**(11,000)

平安時代中期、藤原氏の権勢下で、官吏として出世する道を閉ざされた中下層貴族たちはどう生きたのか。わが国初の往生伝集を編纂した慶滋保胤の生涯を、源信との関わりを通して、浄土思想の発展過程に位置づける。
978-4-642-72803-4　(初版 2001.8)

今井雅晴著

親鸞と東国門徒

A５判　274頁　**9,900円**(9,000)

関東に在住していた時期の親鸞の活動、地域の門徒集団の形成・発展、信仰のあり方、本願寺との関係を、社会の実態に即した視点から明らかにする。中世関東における浄土真宗の歴史学的解明から、真の親鸞理解をめざす。
978-4-642-04265-9　(初版 1999.3)

今井雅晴著

親鸞と浄土真宗

A５判　284頁　**9,900円**(9,000)

僧侶としては禁止されていた結婚を公認し、家族を持った親鸞。その生活に一生つきあった家族の様々な葛藤によって親鸞の信仰体系が作り上げられたという視点から、家族と子孫の生活を究明し、浄土真宗史を捉え直す。
978-4-642-04266-6　(初版 2003.7)

佐々木　馨著

日蓮の思想構造

A５判　290頁　**9,900円**(9,000)

日蓮は、鎌倉幕府からの排斥・弾圧の中で教えを全国に広めてきた。その過程で「法華経の行者」として、みずからの思想をどのように構築し、いかに後世へ伝えようとしたか、日蓮宗の教学遺産の検討・解釈を軸に描く。
978-4-642-72777-8　(初版 1999.7)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

オンデマンド版(宗教・仏教)

牛山佳幸著
古代中世寺院組織の研究
(戊午叢書)
A５判　328頁　**13,200円**(12,000)

今まで厳密に検討されることがなかった解由制度、僧綱制、尼と尼寺、法親王など寺院の制度・組織の実態について国家の政策との関わりから考察し、併せてわが国における仏教受容の特質やその展開過程を明らかにする。
978-4-642-71296-5　(初版 1990.11)

永村　眞著
中世寺院史料論
第 23 回角川源義賞受賞
A５判　414頁　**14,300円**(13,000)

中世の寺院社会は、世俗社会と不断に関わりつつ存続する過程で、多くの史料を残してきた。寺院史料を寺院社会という本来の場に戻して検討を試み、その組織構造を踏まえた寺院史料の生成・機能を多角的に論ずる。
978-4-642-72798-3　(初版 2000.12)

衣川　仁著
中世寺院勢力論 ―悪僧と大衆の時代―
A５判　336頁　**12,650円**(11,500)

中世寺院はいかにして社会性・政治性をもつに至ったのか。寺院内部の権力構造と、外部に行使された武力や呪力の要因・機能、支えた論理を解明。武力統制と秩序維持、平和機能の一端を担った中世寺院の歴史的意義を探る。
978-4-642-72869-0　(初版 2007.11)

土谷　恵著
中世寺院の社会と芸能
A５判　378頁　**13,750円**(12,500)

醍醐寺・童・芸能をキーワードに、中世寺院社会の多様性と実態を解き明かす。醍醐寺の組織構造の特質を検討し、童の存在形態からその役割と本質を分析。童が担った舞楽(童舞)に、中世寺院の芸能のあり方を探る。
978-4-642-72799-0　(初版 2001.1)

斎藤夏来著
禅宗官寺制度の研究
A５判　242頁　**9,350円**(8,500)

鎌倉後期から江戸初期の政治権力と禅宗との関わりを特徴づける官寺制度に着目しその展開過程を考察。南禅寺を頂点に構成された官寺制度の全体像を究明し、五山制度や紫衣事件にも言及。禅宗史研究の新たな地平を拓く。
978-4-642-72822-5　(初版 2003.4)

誉田慶信著
中世奥羽の民衆と宗教
A５判　340頁　**12,650円**(11,500)

現代人の想像を超えた重厚な宗教的世界に満ち溢れていた中世社会。本書は、国家史の枠組ではとらえきれない宗教と社会との多様な関わりを、北方史における地域社会に発見し、民衆の視座から多角的に考察する。
978-4-642-72794-5　(初版 2000.7)

広瀬良弘著
禅宗地方展開史の研究
A５判　716頁　**19,800円**(18,000)

従来はあまり使用されなかった、禅僧の語録や授戒会の記録等新出の史料を駆使して、禅僧・禅寺が地域社会に果たした役割を分析。曹洞宗をはじめ五山派・法燈派等の地方展開を考察。禅宗史・地方史研究に新分野を開く。
978-4-642-72627-6　(初版 1988.12)

鈴木泰山著
禅宗の地方発展
A５判　524頁　**15,950円**(14,500)

日本曹洞禅の開祖道元は、中国の古風禅を直伝した「道元禅」を呼号し、反世間的ともいえる禅を開立した。本書は、前篇に道元の後継者達の民衆化運動を跡づけ、後篇には済洞両派の禅が如何に全国的伝流を遂げ得たかを論述した。
978-4-642-71185-2　(初版 1983.3)

西尾賢隆著
中世の日中交流と禅宗
A５判　326頁　**12,650円**(11,500)

中世の日中交流は彼我の禅僧の往来を機軸に展開した。五山僧によって起草された四六駢儷体の上表文を分析し、日本の禅僧を中国の士大夫と対比させ、室町武家政権における外交官としての五山僧の役割を明らかにする。
978-4-642-72778-5　(初版 1999.7)

西尾賢隆著
中世禅僧の墨蹟と日中交流
A５判　366 頁　**13,200円**(12,000)

中世の日本と中国の禅僧は、いかに関わっていたのか。無準師範と円爾との書簡、蘭渓道隆の法語・鐘銘など現代語訳を付し平易に解説。著者自ら中国へ赴き渡海僧の足取りも追いながら、墨蹟から日中交流の実態に迫る。
978-4-642-72894-2　(初版 2011.2)

オンデマンド版(宗教・仏教)

松尾剛次著
日本中世の禅と律
A５判　290頁　**9,900円**(9,000)

政治権力と密着しつつ、社会救済活動も行った禅・律僧に注目。官僧・通世僧体制論を提起し、中世仏教史を再構築する。諸国安国寺・利生塔研究や西大寺叡尊像納入文書「授菩薩戒弟子交名」「近住男女交名」翻刻は貴重。
978-4-642-72830-0　(初版 2003.10)

松尾剛次著
中世律宗と死の文化
A５判　286頁　原色口絵3丁　**13,200円**(12,000)

旧仏教の改革運動と捉えられてきた、叡尊・忍性ら中世律宗教団の活動が、近年再評価されつつある。平安京・伊勢・博多など教団の全国的展開に注目。石工集団を組織して五輪塔など死の文化を創造した律宗の実態に迫る。
978-4-642-72892-8　(初版 2010.12)

松尾剛次著
勧進と破戒の中世史
―中世仏教の実相―
A５判　426頁　**14,300円**(13,000)

中世は、勧進聖が寄付を募って行き交う「勧進の世紀」、叡尊ら律僧が戒律護持を主張し注目された「破戒の世紀」であった。勧進と授戒制から時代を読み取り、禅・律僧らの活動を分析して鎌倉新仏教とは何かを問い直す。
978-4-642-72750-1　(初版 1995.8)

追塩千尋著
中世南都仏教の展開
A５判　316頁　**12,100円**(11,000)

奈良時代、唐の仏教を手本に鎮護国家の祈願に奉仕した南都仏教。中世におけるその動向や特質とはいかなるものだったのか。僧侶と寺院の動向を検証することで、南都仏教の実態に迫る。中世南都仏教研究の3部作をなす。
978-4-642-72901-7　(初版 2011.7)

追塩千尋著
中世の南都仏教
A５判　358頁　**13,200円**(12,000)

中世南都仏教において著名な叡尊の宗教活動の意義に関する論考を中心に、その実像に迫る。従来空白であった平安期南都仏教の動向を追究して、叡尊の活動とともに鎌倉期南都仏教の史的意義の鮮明化をめざす。
978-4-642-72744-0　(初版 1995.2)

追塩千尋著
国分寺の中世的展開
A５判　284頁　**9,900円**(9,000)

国分寺は古代律令国家の衰退により歴史的使命を終えたように思われている。しかし実際には、その後も鎮護国家の祈禱など公共性を失っていない。平安時代から近世にいたる国分寺の存在形態・機能を多角的に解明する。
978-4-642-72753-2　(初版 1996.11)

追塩千尋著
中世南都の僧侶と寺院
A５判　358頁　**13,200円**(12,000)

鎌倉期に革新運動を行った南都仏教。その淵源を探り、中世的展開を薬師寺・大安寺・広隆寺の信仰などから追求する。さらに西大寺流の地域的広がりや、叡尊没後の動向を検証。南都仏教の道筋と、信仰の内実を解き明かす。
978-4-642-72856-0　(初版 2006.6)

大橋俊雄著
時宗の成立と展開
(日本宗教史研究叢書)
A５判　336頁　**13,200円**(12,000)

本書はまず、時宗の研究史上の問題点を明らかにしたのち、一遍智真と時衆・初期教団の形成とその構造・教義体系化の試み・それを受け入れた社会的基盤などについて、教義と歴史のかかわりあいの中に論じた、初めての時宗全史。
978-4-642-76703-3　(初版 1973.6)

新行紀一著
一向一揆の基礎構造
―三河一揆と松平氏―(日本宗教史研究叢書)
A５判　370頁　**13,200円**(12,000)

三河一向一揆と松平氏の領国支配を基礎構造の分析の上にたってとらえ、松平氏中心史観に蔽われていた三河の中世史を解明し、三河一向一揆の過程を史料で徹底的に究明した。中世史・近世史研究者必読の労作。
978-4-642-76704-0　(初版 1975.2)

上川通夫著
日本中世仏教史料論
A５判　338頁　**12,650円**(11,500)

日本中世は仏教の時代といわれるが、なぜ仏教が選ばれたのか。宗教関係の文献である聖教、東寺文書、一切経、往生伝などの史料を分析。対外交流と政治世界に連動して国家宗教として成立した日本中世仏教形成史を探る。
978-4-642-72873-7　(初版 2008.1)

オンデマンド版(宗教・仏教)

澤　博勝 著
近世宗教社会論
A５判　376頁　**13,750円**(12,500)

近年、近世宗教史研究が進み、通説は見直しを迫られている。北陸地域の宗教的社会関係を追究し、近世仏教の存立意義を解明。近世宗教史を分野史から全体史へ前進させる方法論を構築し、今後の研究潮流に一石を投じる。
978-4-642-73425-7　(初版 2008.1)

伊藤唯真 著
浄土宗の成立と展開
(日本宗教史研究叢書)
A５判　398頁　**14,300円**(13,000)

開創期の浄土宗教団史を聖研究の立場から見つめ直したユニークな論著。開祖法然とその傘下にあった念仏上人(聖)たちの思想動向、教化の様態、その想念に懸かる念仏聖像、念仏教団の構造的特質など、多面的に追求。
978-4-642-76710-1　(初版 1981.5)

平林盛得 著
聖(ひじり)と説話の史的研究
A５判　450頁　**15,400円**(14,000)

空也に代表される民間布教者、聖の実態の解明を目ざし、日記から文学作品に及ぶ広汎な資料を検討、往生伝・説話類の実証的分析を試みた労作。「叡山中興と聖」「市中の聖」「説話の変貌」「往生伝・説話集の周辺」の４部構成。
978-4-642-72102-8　(初版 1981.7)

千々和　實 著
板碑源流考
A５判　388頁　**14,300円**(13,000)

中世の供養塔、板碑を求め群馬・埼玉を中心に全国を行脚し、中世史の史料、歴史教育の資料とすることに生涯をかけた著者の板碑に関する唯一の研究書。「板碑とは何か」を主題にその発生から消滅までを歴史的に論考する。
978-4-642-04267-3　(初版 1987.9)

加瀬直弥 著
平安時代の神社と神職
A５判　322頁　**12,650円**(11,500)

古来、神社で神まつりを執行した神職だが、神社の祭神に対するのみではなかった。神事などから神社修造を検討し、神社の威厳を高める神階や一宮など「社格」を取り上げて、平安時代の神職が社会に果たした役割を解明。
978-4-642-74621-2　(初版 2015.3)

平　重道 著
吉川神道の基礎的研究
A５判　556頁　**17,050円**(15,500)

度会・垂加両神道と並び近世神道思想の巨峰である吉川神道は、秘伝のために従来ほとんど手が加えられなかった。未公開の秘伝資料を翻刻し、これを基に吉川神道の全貌を解明し、会津藩への教化浸透の歴史も究明する。
978-4-642-04268-0　(初版 1966.6)

森岡清美 著
近代の集落神社と国家統制
―明治末期の神社整理―(日本宗教史研究叢書)
A５判　332頁　**13,200円**(12,000)

明治末期の数年間で、全国の神社数を３分の２に減少させた整理政策の理念と実施過程および結末の諸相を、政府・地元住民・神職の対抗関係の中で克明に分析し、この方面の研究を社会学的視点から集大成した。
978-4-642-76711-8　(初版 1987.5)

岸野　久 著
ザビエルと日本
―キリシタン開教期の研究―
A５判　392頁　**13,750円**(12,500)

キリシタン開教期におけるザビエルの日本布教を新視点から追究。日本開教の準備・構想、鹿児島での活動などを解明し、あわせて日本人布教協力者アンジロー他３名の役割をインド布教との比較により明らかにする注目の書。
978-4-642-72766-2　(初版 1998.11)

高橋昌郎 著
明治のキリスト教
A５判　316頁　**12,650円**(11,500)

キリスト教は、近代の政治・社会・思想にいかなる影響を与えたのか。日本が西洋化を目指した時期の、外来文化としてのキリスト教の実態を時代の流れにそって追究する。巻末に教派ごとの動向を一覧できる詳細な年表付。
978-4-642-73752-4　(初版 2003.2)

坂本太郎著作集　全12巻

A５判　平均454頁

厳密な史料批判に基づく実証研究で日本古代史研究に不滅の巨績を遺した「坂本史学」の全容。六国史、風土記、万葉集や大化改新、律令制度、交通史、歴史教育、文化財保護など多方面の研究成果と興味深い随想を集大成。

(1)古代の日本	14,850円(13,500)	978-4-642-04272-7	(初版1989.6)
(2)古事記と日本書紀	15,400円(14,000)	978-4-642-04273-4	(初版1988.12)
(3)六国史	14,300円(13,000)	978-4-642-04274-1	(初版1989.1)
(4)風土記と万葉集	14,300円(13,000)	978-4-642-04275-8	(初版1988.10)
(5)修史と史学	15,400円(14,000)	978-4-642-04276-5	(初版1989.2)
(6)大化改新	14,850円(13,500)	978-4-642-04277-2	(初版1988.10)
(7)律令制度	14,850円(13,500)	978-4-642-04278-9	(初版1989.3)
(8)古代の駅と道	16,500円(15,000)	978-4-642-04279-6	(初版1989.5)
(9)聖徳太子と菅原道真	15,400円(14,000)	978-4-642-04280-2	(初版1989.4)
(10)歴史教育と文化財	15,950円(14,500)	978-4-642-04281-9	(初版1989.8)
(11)歴史と人物	14,300円(13,000)	978-4-642-04282-6	(初版1989.7)
(12)わが青春	14,300円(13,000)	978-4-642-04283-3	(初版1989.9)

関晃著作集　全5巻

A５判　平均382頁

古代国家の性格に関する畿内貴族政権論、大化改新の研究、帰化人の研究など、厳密な史料批判による堅固な実証性と大きな構想力に基づく諸研究。その全貌は、日本史学に大きく寄与するものである。

(1) 大化改新の研究(上)	13,750円(12,500)	978-4-642-72301-5	(初版1996.10)
(2) 大化改新の研究(下)	13,200円(12,000)	978-4-642-72302-2	(初版1996.11)
(3) 古代の帰化人	14,850円(13,500)	978-4-642-72303-9	(初版1996.12)
(4) 日本古代の国家と社会	14,300円(13,000)	978-4-642-72304-6	(初版1997.2)
(5) 日本古代の政治と文化	12,650円(11,500)	978-4-642-72305-3	(初版1997.1)

末松保和朝鮮史著作集　全6巻

A５判　平均364頁

古代日本と密接に関係した朝鮮半島の歴史を、朝鮮の文献や金石文、中国・日本の史料を駆使して描く。古代日朝関係の重要史料高句麗好太王碑文の研究、古典的名著『新羅史の諸問題』『任那興亡史』等を収録する。

(1) 新羅の政治と社会 上	12,650円(11,500)	978-4-642-78161-9	(初版1995.10)
(2) 新羅の政治と社会 下	12,100円(11,000)	978-4-642-78162-6	(初版1995.12)
(3) 高句麗と朝鮮古代史	13,200円(12,000)	978-4-642-78163-3	(初版1996.4)
(4) 古代の日本と朝鮮	14,300円(13,000)	978-4-642-78164-0	(初版1996.7)
(5) 高麗朝史と朝鮮朝史	13,750円(12,500)	978-4-642-78165-7	(初版1996.10)
(6) 朝鮮史と史料	15,400円(14,000)	978-4-642-78166-4	(初版1997.1)

豊田　武著作集　全8巻

A５判　平均596頁

日本中世史研究に不滅の業績を遺した「豊田史学」の全容。『座の研究』に始まり、商業史、経済史、宗教制度、中世都市や中世武士団さらに東北史、日本の封建制まで中世社会の全領域に及ぶ、多彩な研究成果を集大成。

(1)座の研究	16,500円(15,000)	978-4-642-04284-0	(初版1982.3)
(2)中世日本の商業	18,150円(16,500)	978-4-642-04285-7	(初版1982.10)
(3)中世の商人と交通	17,600円(16,000)	978-4-642-04286-4	(初版1983.1)
(4)封建都市	17,600円(16,000)	978-4-642-04287-1	(初版1983.4)
(5)宗教制度史	17,600円(16,000)	978-4-642-04288-8	(初版1982.11)
(6)中世の武士団	17,050円(15,500)	978-4-642-04289-5	(初版1982.6)
(7)中世の政治と社会	18,150円(16,500)	978-4-642-04290-1	(初版1983.6)
(8)日本の封建制	20,900円(19,000)	978-4-642-04291-8	(初版1983.12)

齋木一馬著作集　全3巻

A５判　平均332頁

東京大学史料編纂所で「大日本古記録」の校訂に従事したのをはじめ、史料纂集ほかかずかずの古記録の校訂に携わるなど、厳密な校訂で知られる。古記録とそれに関連する古文書の研究を中心とした精緻な論考を集大成。

(1)古記録の研究(上)	13,200円(12,000)	978-4-642-71291-0	(初版1989.3)
(2)古記録の研究(下)	12,650円(11,500)	978-4-642-71292-7	(初版1989.3)
(3)古文書の研究	12,100円(11,000)	978-4-642-71293-4	(初版1989.3)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

オンデマンド版（著作集／史料・古典複製）

西山松之助著作集　全8巻

A５判　平均580頁

日本文化史・近世社会史の画期的成果、「西山文化史学」の集大成。家元制度、江戸文化、江戸歌舞伎などの芸能・芸道史に関する実証研究は歴史学・国文学・社会学・宗教学・民俗学の学際的研究にも大きな役割を果たす。

(1)家元の研究	17,600円	(16,000)	978-4-642-04292-5	(初版1982.6)
(2)家元制の展開	17,600円	(16,000)	978-4-642-04293-2	(初版1982.12)
(3)江戸の生活文化	16,500円	(15,000)	978-4-642-04294-9	(初版1983.4)
(4)近世文化の研究	16,500円	(15,000)	978-4-642-04295-6	(初版1983.10)
(5)近世風俗と社会	17,600円	(16,000)	978-4-642-04296-3	(初版1985.3)
(6)芸道と伝統	16,500円	(15,000)	978-4-642-04297-0	(初版1984.6)
(7)江戸歌舞伎研究	19,800円	(18,000)	978-4-642-04298-7	(初版1987.10)
(8)花と日本文化	17,600円	(16,000)	978-4-642-04299-4	(初版1985.6)

大久保利謙歴史著作集　全8巻

A５判　平均498頁

日本近代史研究の泰斗。その研究分野は、文化史・制度史・政治史・洋学史・教育史などきわめて多彩である。実証主義を基に独自の史眼と史風を備えた〝大久保史学〟ともいうべき研究業績を、体系的に集大成する。

(1)明治維新の政治過程	13,200円	(12,000)	978-4-642-04172-0	(初版1986.2)
(2)明治国家の形成	13,200円	(12,000)	978-4-642-04173-7	(初版1986.5)
(3)華族制の創出	17,600円	(16,000)	978-4-642-04174-4	(初版1993.6)
(4)明治維新と教育	15,400円	(14,000)	978-4-642-04175-1	(初版1987.10)
(5)幕末維新の洋学	14,300円	(13,000)	978-4-642-04176-8	(初版1986.8)
(6)明治の思想と文化	14,300円	(13,000)	978-4-642-04177-5	(初版1988.2)
(7)日本近代史学の成立	14,300円	(13,000)	978-4-642-04178-2	(初版1988.10)
(8)明治維新の人物像	15,400円	(14,000)	978-4-642-04179-9	(初版1989.1)

服部敏良著

日本医学史の研究　全5冊

A５判　平均548頁

斯学の権威による畢生の大著。透徹した史眼と鋭敏な医学への観点から、奈良より江戸時代まで厖大な史料を縦横に駆使。日本医学史の綜合研究は、臨床の医学博士である著者の独壇場で、各界絶賛の不朽の名著である。

奈良時代医学史の研究	15,400円	(14,000)	978-4-642-00910-2	(初版1988.5)
平安時代医学史の研究	14,300円	(13,000)	978-4-642-00911-9	(初版1988.5)
鎌倉時代医学史の研究	15,400円	(14,000)	978-4-642-00912-6	(初版1988.5)
室町安土桃山時代医学史の研究	18,700円	(17,000)	978-4-642-00913-3	(初版1988.5)
江戸時代医学史の研究	24,200円	(22,000)	978-4-642-00914-0	(初版1988.5)

日本学士院編

帝室制度史　全6巻

菊判

帝室に関する諸般の制度の本質、起源及び沿革を確実な資料に基づき叙述。第一編天皇のうち、国体・皇位・神器・称号の４章、６冊。周到な学術的配慮をもって編纂された史料集であり、その学術的価値は定評がある。

第1巻	13,200円	(12,000)	978-4-642-71065-7	(初版1979.5)
第2巻	19,800円	(18,000)	978-4-642-71066-4	(初版1979.5)
第3巻	16,500円	(15,000)	978-4-642-71067-1	(初版1979.5)
第4巻	15,400円	(14,000)	978-4-642-71068-8	(初版1979.5)
第5巻	19,800円	(18,000)	978-4-642-71069-5	(初版1979.5)
第6巻	23,100円	(21,000)	978-4-642-71070-1	(初版1979.5)

吉田早苗校訂

大間成文抄　全2巻

菊判　平均362頁

鎌倉時代に摂政九条良経が著した、昌泰元年(898)以降300年間の除目における中央・地方の官人任命の先例を分類した実例集。上巻には本文第１～第５までと解説を、下巻には本文第６～第10までと人名・官職索引を収載。

上巻	13,200円	(12,000)	978-4-642-72263-6	(初版1993.2)
下巻	13,200円	(12,000)	978-4-642-72273-5	(初版1994.2)

オンデマンド版（史料・古典複製）

早稲田大学図書館編

早稲田大学所蔵荻野研究室収集文書 全2巻

菊判　平均430頁

早稲田大学は、古文書の研究と教育の史料にと、戦後の混乱期に放出された旧華族や大名旧家などの襲蔵文書を多数収集した。本書はその方面に識見と経験豊富な荻野博士が、20余年にわたる情熱を傾注して収蔵した貴重文書。

上巻 14,300円（13,000）　978-4-642-71123-4（初版1978.9）

下巻 14,300円（13,000）　978-4-642-71124-1（初版1980.4）

岩城隆利編

増補 元興寺編年史料 全3巻

菊判　平均588頁

わが国最古の寺院であり、仏教史・寺院史・庶民信仰史などに重要な文化遺産と伝統をもつ元興寺に関する史料を、古代から近代まで寺内外から蒐集網羅するとともに、未刊史料多数を加え編年収載した日本史研究の基礎文献。

上巻　17,050円（15,500）978-4-642-71021-3（初版1983.11）
中巻　16,500円（15,000）978-4-642-71022-0（初版1983.11）

下巻　18,700円（17,000）978-4-642-71023-7（初版1983.11）

目崎徳衛校訂・解説

侍中群要

A5判　274頁　**9,900円**（9,000）

『侍中群要』は蔵人所の実態を包括的・具体的に記した唯一の史料である。本書は、中世の孤本・金沢文庫本（蓬左文庫蔵、重要文化財）を忠実に翻刻し、詳細な解説と索引を付した。歴史学・国文学研究に必備の書。
978-4-642-72133-2　（初版 1985.2）

妙法院史研究会編

妙法院史料 全7巻

A5判　平均544頁

創立以来800年以上の古い伝統をもつ京都の天台宗名刹妙法院が所蔵する豊富な史料を集成。この記録の公開により、徳川専制支配下にあった京都上方社会の実体が政治・社会・宗教・文化の諸方面にわたり明らかにされる。

第1巻	**堯恕法親王日記1**	**17,600円**（16,000）	978-4-642-73151-5　（初版1976.3）
第2巻	**堯恕法親王日記2**	**18,150円**（16,500）	978-4-642-73152-2　（初版1977.3）
第3巻	**堯恕法親王日記3・堯恕法親王別記、他**	**17,600円**（16,000）	978-4-642-73153-9　（初版1978.3）
第4巻	**堯恭法親王日記・真仁法親王日記**	**13,750円**（12,500）	978-4-642-73154-6　（初版1979.2）
第5巻	**古記録・古文書1**	**13,750円**（12,500）	978-4-642-73155-3　（初版1980.2）
第6巻	**古記録・古文書2**	**14,300円**（13,000）	978-4-642-73156-0　（初版1981.2）
第7巻	**教仁法親王日記**	**19,250円**（17,500）	978-4-642-73157-7　（初版1982.2）

宮城栄昌編

琉球科律　糺明法条

A5判　230頁　**8,800円**（8,000）

琉球王国最初の法典として18世紀後半に制定公布されたもの。正本は沖縄戦において焼失したが、わが国に伝えられた写本数種によって校訂復原した。特異な性格をもつ藩法の一つとして貴重な文献である。
978-4-642-72998-7　（初版 1965.7）

島津斉彬文書刊行会編

島津斉彬文書 全3巻

A5判　平均900頁

島津斉彬は、教育・産業・民生に関する見識、対人関係、西欧文化の吸収、科学振興等、あらゆる面にすぐれた業績を残し、明治維新の基礎を築いた。幕末政治史の裏面を語る、近代史研究者に不可欠の貴重な史料。

上巻　15,400円（14,000）978-4-642-73020-4（初版1959.8）
中巻　13,200円（12,000）978-4-642-73021-1（初版1963.12）

下巻1　20,900円（19,000）978-4-642-73022-8（初版1969.3）

村山修一編

葛川明王院史料

A5判　1124頁　**26,400円**（24,000）

滋賀県比良山の西麓、安曇川谷の僻地に千数百年の法灯を守る天台宗別院、葛川息障明王院が秘蔵する古文書・古記録、古図類と、国会図書館に分蔵する明王院古文書とは、本書により初めてその全貌を明らかにした。
978-4-642-71089-3　（初版 1964.5）

東北大学東北文化研究会編

蝦夷史料

（東北史史料集）

A5判　170頁　**8,250円**（7,500）

蝦夷関連の史料を、六国史を中心に、その他の史書及び律令格式、大日本古文書等多くの史籍から延喜式まで収集し、編年で掲載した。巻末に詳細な地名・人名及びその他の重要項目の索引を付す。蝦夷研究に必備の史料集。
978-4-642-04211-6　（初版 1961.8）

価格は10%税込、（　）内は本体価格

オンデマンド版（史料・古典複製）

東北大学東北文化研究会編
奥州藤原史料
（東北史史料集）
A５判　256頁　**9,900円**（9,000）

奥州藤原氏関係を中心に延喜以降、源頼朝の奥州平定まで、約３世紀間の古代後期の東北関連史料を網羅し編年で収載。前九年、後三年役両戦乱の意義、平泉に勢力を築いた奥州藤原氏の背景等を知るために必備の史料集。
978-4-642-04212-3　（初版 1959.11）

日蘭学会・法政蘭学研究会編
和蘭風説書集成（おらんだ）　全２冊
A５判　平均488頁

江戸幕府がヨーロッパから入手できた唯一の海外情報、〝オランダ風説書〟の校註。上巻は寛永 18 年～寛延３年まで初公表を含む 150 通を収録。下巻は寛延３年～安政５年の和文史料・1641 年～1858 年の蘭文史料などを付す。

上巻 13,750円（12,500）　978-4-642-73159-1（初版1977.1）

下巻 16,500円（15,000）　978-4-642-73160-7（初版1979.3）

近世交通史料集　全 10 巻

児玉幸多校訂
①五街道取締書物類寄　上
A５判　780頁
20,900円（19,000）

②五街道取締書物類寄　下
A５判　864頁　**22,550円**（20,500）

幕府の道中奉行所において、大名その他の質問に答えて出した指令を分類体系化した貴重な史料。他に道中奉行管轄下の五街道各宿駅間の人馬賃銭も収録されており、宿駅研究に必備不可欠の文献。
978-4-642-04300-7　（初版 1967.4）
978-4-642-04301-4　（初版 1968.3）

児玉幸多校訂
③御伝馬方旧記
A５判　844頁
22,000円（20,000）

御伝馬方旧記の原本は「駅逓志稿」編纂当時の材料の一つで、全 19 冊より成っている。内容は江戸日本橋伝馬町の伝馬方の記録を中心に、江戸府内における運輸についての貴重な史料を含み、従来の研究を前進させる好史料。
978-4-642-04302-1　（初版 1969.3）

児玉幸多校訂
④東海道宿村大概帳
A５判　1040頁
25,300円（23,000）

江戸幕府の道中奉行が、天保～安政間にその管轄下の全宿駅・街道を調査、整理したもので、宿駅の戸口・高札文・人馬・賃銭等の記述は、五街道及びそれに付属する街道については欠くことのできない貴重な史料である。
978-4-642-04303-8　（初版 1970.3）

児玉幸多校訂
⑤中山道宿村大概帳
A５判　824頁
22,000円（20,000）

東海道についで中山道の、各宿の宿高・戸口・地子免許の有無等、その全貌をうかがうことができる。「中山道宿村大概帳」「山崎通宿村大概帳」「佐屋路宿村大概帳」「本坂通宿村大概帳」の四つを収録する。
978-4-642-04304-5　（初版 1971.3）

児玉幸多校訂
⑥日光・奥州・甲州道中宿村大概帳
A５判　1088頁
26,400円（24,000）

日光道中宿村大概帳・奥州道中宿村大概帳・日光御成道宿村大概帳・壬生通宿村大概帳・例幣使道宿村大概帳・甲州道中宿村大概帳・水戸佐倉道宿村大概帳・美濃路宿村大概帳を収録する。
978-4-642-04305-2　（初版 1972.3）

児玉幸多校訂
⑦飛脚関係史料
A５判　632頁
18,700円（17,000）

町飛脚に関する多数の史料を収録。「嶋屋佐右衛門家声録」など江戸の代表的飛脚問屋の記録を中心に、大坂屋茂兵衛の手代の手になる「定飛脚発端旧記」など、いずれも近世交通史研究上不可欠の基本的史料である。
978-4-642-04306-9　（初版 1974.3）

児玉幸多編
⑧幕府法令　上
A５判　462頁
15,400円（14,000）

近世交通史研究の基礎となるべき幕府法令を、類書より検索し各史料に若干の注解を加えたもの。研究者は本書を備えることによって数百冊の書をひもとく必要はなくなるであろう。上巻は吉宗時代まで。
978-4-642-04307-6　（初版 1978.3）

児玉幸多編

⑨幕府法令 下

A５判　418頁
14,300円(13,000)

近世交通史研究の基礎となるべき幕府法令を、類書より検索し各史料に若干の注解を加えたもの。研究者は本書を備えることによって数百冊の書をひもとく必要はなくなるであろう。下巻は家重時代以降。
978-4-642-04308-3　(初版 1979.3)

児玉幸多校訂

⑩道中方秘書・五駅弁覧・御触書付留・他

A５判　330頁
13,200円(12,000)

本巻は、旧幕府の道中奉行所に伝えられたものを筆写したものと考えられ、江戸幕府の陸上交通に関する制度政策等を理解することに役立つとともに諸侯の参勤交代制度等の具体的な状態を明らかにすることができる。
978-4-642-04309-0　(初版 1980.3)

小野武夫編

近世地方経済史料　全10巻

平均 540 頁

第１巻

A５判　606頁　**18,150円**(16,500)

足民論(木村謙)、地利要方、社倉議草、御改作方覚帳、改作雑集録、御改作始末聞書追加(武部敏行)、田法雑話、旧制漆樹取締法(星伝八郎)、古今税務要覧、田法書(船橋亘)、房州万石騒動実録、鳥籠奇談(天外山人)他。
978-4-642-04310-6　(初版 1958.1)

第２巻

A５判　568頁　**17,050円**(15,500)

済急記聞(旦暮庵野巣)、南部藩林政梗概、地方竹馬集、越後国紫雲寺潟開懇書類(竹前新太郎)、座右手鑑(三隅丈八)、耕作噺(中村喜時)、在々御仕置之儀に付御書付、庄野心得書条目、高知藩田制概略(吉村春峯)、天然録他。
978-4-642-04311-3　(初版 1958.1)

第３巻

A５判　574頁　**17,600円**(16,000)

南畝偶語(武元立平)、甘藷申上其外書付(加藤又左衛門)、蕃薯起立(加藤又左衛門)、地方弁要、五人組異同弁、尾州村々証文留、百姓身持之事(板橋善右衛門)、春濃鶯、起請文前書、農業談拾遺雑録(宮永正好)、督農要略他。
978-4-642-04312-0　(初版 1958.1)

第４巻

A５判　420頁　**14,850円**(13,500)

農家実況調書、農業夜咄、仙台藩租税要略(宮崎県)、地方心得留、陸奥国会津郡村々差出書、御世の恵(和泉利愛)、武田源左衛門検地秘書(佐藤弥六)、心持農業記(熊谷権四郎)他。
978-4-642-04313-7　(初版 1958.1)

第５巻

A５判　532頁　**16,500円**(15,000)

農譚藪(鹿峰田理)、山奉行役勤向覚(高井善四郎)、治安策(鈴木雅之)、農間雑誌、農家立教、田畑証文小拾書抜、金沢藩年中行事、民家要術(宮負定雄)、若林農書(若林宗民、若林利朝)、紙楮由来記、豊年瑞相談他。
978-4-642-04314-4　(初版 1958.1)

第６巻

A５判　530頁　**16,500円**(15,000)

鳩民邇言(平山貞)浦河牧一件、西久保村田氏へ遣書翰(衣笠政忠)耕耘培養制度類、農業狂歌、憐民撫育法(西山太郎兵衛)農書類聚、村方取締規定連印写、撫育教導伝(永山盛富)地方袖中録(小林寛利)他。
978-4-642-04315-1　(初版 1958.1)

第７巻

A５判　648頁　**18,700円**(17,000)

国家要伝、御餌指方旧記、地方大意抄、補饑新書(東条耕)庄屋手鏡(梅木忠章) 武蔵国葛飾郡大島村郷約、飛州地方御尋答書(山内小左衛門) 理鹿集、南部藩近代経済梗概、私家農業談(宮永正運) 奥座右秘鑑他。
978-4-642-04316-8　(初版 1958.1)

第８巻

A５判　642頁　**18,700円**(17,000)

憐農民詞(竹村茂雄)、尾藩地方根居、御縄之節申渡書(望月恒隆)、地方問答記、伝法記、田制考証(高倉胤明)、飢歳懐覚録(高橋正作)、正界録(小宮山昌世)、地方問答書(小宮山昌世)、農家日用集(鈴木梁満)、公整旧格録他。
978-4-642-04317-5　(初版 1958.1)

価格は 10%税込、(　)内は本体価格

オンデマンド版(史料・古典複製)

第9巻

A５判　418頁　**14,300円**(13,000)

琉球産業制度資料 前編 土地制度、農業制度の一、農業制度の二、山林制度、農村興発并救済制度。
978-4-642-04318-2　(初版 1958.1)

第10巻

A５判　466頁　**15,400円**(14,000)

琉球産業制度資料 後編 租税制度の一、租税制度の二、租税制度の三、古老集記類の一(中吉朝忠)古老集記類の二(中吉朝忠)。
978-4-642-04319-9　(初版 1958.1)

波田野富信編
中山道交通史料集　全3巻

A５判　平均374頁

旧中山道に出された御触書および旧塩尻宿問屋文書の「御触書留帳」を収録。中山道はもちろん、近世交通史、宿駅の研究にも必備の基礎史料集。

(1)**御触書の部**　**14,300円**(13,000)　978-4-642-04320-5　(初版1982.3)
(2)**御触書の部　御触書留帳塩尻宿**　**13,200円**(12,000)　978-4-642-04321-2　(初版1984.1)
(3)**御触書の部　御触書留帳塩尻宿**　**13,750円**(12,500)　978-4-642-04322-9　(初版1985.1)

近世農政史料集　全3巻

児玉幸多・大石慎三郎編
①江戸幕府法令　上

A５判　268頁
9,900円(9,000)

「徳川禁令考」「御触書集成」等より江戸幕府の農政に関する法令を摘出網羅集成し、編年体に配列した。史料はすべてかえり点を付し、重要なものには注解を加えた。第1冊は慶長8年より延享元年までを収める。
978-4-642-04323-6　(初版 1966.8)

児玉幸多・大石慎三郎編
②江戸幕府法令　下

A５判　294頁
10,450円(9,500)

第2冊は江戸幕府の後半期の農政に関する史料、明治維新に際して出された法令で江戸幕府に関係するものも収載した。史料はすべてかえり点を付し、重要なものには注解を加えた。延享2年より明治8年までを収める。
978-4-642-04324-3　(初版 1968.8)

児玉幸多・川村　優編
③旗本領名主日記

A５判　470頁
15,400円(14,000)

旗本領、房州相浜村名主が明和年代を中心に、約十年間にわたり記した公用の日記「諸色覚日記」(全3冊)を収載。内容は多岐にわたり、精細をきわめている。広く明和・安永期を理解するための基礎史料。
978-4-642-04325-0　(初版 1972.1)

村上　直・荒川秀俊編
江戸幕府代官史料　―県令集覧―

A５判　466頁　**14,850円**(13,500)

江戸幕府の郡代・代官所の機構や役人の構成が一目して明らかな、天保10年以降の「県令集覧」11冊を校訂・翻刻したもので、全国的視野から天領支配の実態を知ることができる、幕政研究における貴重史料である。
978-4-642-73005-1　(初版 1975.2)

村上　直・馬場憲一編
江戸幕府勘定所史料　―会計便覧―

A５判　370頁　**13,200円**(12,000)

江戸幕府の財政について。重要な役割を果たした勘定所の役職名や職員名を記した「会計便覧」8冊を校訂・翻刻したもので天保期以後、安政期に至る勘定所の支配組織の実態を詳細に知ることができる、幕政史研究上の貴重史料。
978-4-642-73262-8　(初版 1986.2)

水戸徳川家編纂
水戸藩史料　全5冊

菊判　平均964頁

明治維新への原動力となった水戸藩の史料集の価値は今日なお極めて高い。幕末明治維新の研究上見逃し得ない貴重史料を復刊。

上編(乾) 24,200円(22,000) 978-4-642-73091-4(初版1970.12)
上編(坤) 24,750円(22,500) 978-4-642-73092-1(初版1970.12)
下編(全) 28,600円(26,000) 978-4-642-73093-8(初版1970.12)
別記(上) 19,800円(18,000) 978-4-642-73094-5(初版1970.12)
別記(下) 23,650円(21,500) 978-4-642-73095-2(初版1970.12)

オンデマンド版（史料・古典複製）

喜田川季荘著
類聚近世風俗志　全2冊
A５判　原名 守貞漫稿　平均642頁

江戸時代風俗の考証的随筆。名辞や事象約 700 項目を、勢、地理、家宅、人事、生業、雑業、貨幣、男扮、女扮、男服、女服、雑服、織染、妓扮、娼家、音曲、雑劇、沐浴、春時、夏冬、遊戯、笠などに分類し、説明を加える。

(上)　19,800円（18,000）　978-4-642-04205-5（初版1908.1）
(下)　20,900円（19,000）　978-4-642-04206-2（初版1908.1）

松平定信編纂
集古十種　全4巻
B５判　平均498頁

江戸時代後期、古書画・古器物・古武具類の実測原寸図に縮尺図を加えた大型袋綴の木版図集。碑銘部、鐘銘部、兵器部（甲冑・旌旗・弓矢・刀劔・馬具）、銅器部、楽器部、文房部、印章部、扁額部、肖像部、古書画部の十種類からなる。

(1)　**16,500円**（15,000）　978-4-642-04207-9　（初版1908.1）
(2)　**15,400円**（14,000）　978-4-642-04208-6　（初版1908.1）
(3)　**15,400円**（14,000）　978-4-642-04209-3　（初版1908.1）
(4)　**18,700円**（17,000）　978-4-642-04210-9　（初版1908.1）

吉田武三校註
三航蝦夷日誌　全2巻
A５判　平均582頁

北海道の命名者・大探検家・地理学者である松浦武四郎が、弘化２年より嘉永２年にわたり、東西蝦夷地・樺太・択捉・国後・歯舞・色丹の全地域を単身踏査、精細に記録した地誌。120 年間非公開のまま伝えられた稀覯書。

上巻 17,600円（16,000）　978-4-642-00925-6（初版1970.3）
下巻 17,600円（16,000）　978-4-642-00926-3（初版1971.1）

池邊　彌著
和名類聚抄郡郷里驛名考證
菊判　**22,000円**（20,000）

『和名類聚抄』所載の郡郷里駅名を、厳密な史料批判に基づいて考証した名著の改訂新版。新たに大東急文庫本により「郡部」を収録、「郷部」は木簡を中心とした新史料を大幅に増補、頭字・第２字索引を付した研究者必備の書。
978-4-642-00924-9　（初版 1981.2）

国書刊行会本

※原本の状態により、一部に読みにくい個所があります。

国書刊行会は未刊の古典籍や江戸時代の著作の翻刻刊行を目的に、明治 38 年（1905）に大隈重信を総裁とし、重野安繹を会長として設立された。編輯所は吉川弘文館に置かれ、印刷と製本についても吉川弘文館があたった。大正 11 年（1922）に全８期、260 冊の一大叢書が完成した。この叢書が学界・読書界に裨益するところ多大なものがあり、その後も様々な形態で復刊がなされてきた。しかし現在では新本で入手することが困難な書目も多く、このたびその一部を「国書刊行会本」オンデマンド版として刊行する。

小山田与清著
松屋筆記　全3冊
菊判　平均 594 頁

江戸時代後期の国学者小山田与清（1783－1847）が、文化末年から弘化２年（1845）頃までの約30年間に、諸書から記事を抄出し、考証と感想・評論を加えた随筆の集成。

第1　13,200円（12,000）　978-4-642-04180-5（初版1908.1）
第2　13,200円（12,000）　978-4-642-04181-2（初版1908.1）
第3　13,200円（12,000）　978-4-642-04182-9（初版1908.1）

鹿持雅澄著
万葉集古義　全10冊
菊判　平均560頁

江戸時代後期、土佐国在住の国学者鹿持雅澄（1791－1858）が著した『万葉集』の注釈、研究書。注釈的研究を主に、書史・作家・地名・動植物・枕詞・語法など近世の万葉学の集大成。

首巻 11,000円（10,000）　978-4-642-04183-6（初版1898.1）
第1　13,200円（12,000）　978-4-642-04184-3（初版1898.1）
第2　13,200円（12,000）　978-4-642-04185-0（初版1898.1）
第3　13,200円（12,000）　978-4-642-04186-7（初版1898.1）
第4　12,100円（11,000）　978-4-642-04187-4（初版1898.1）
第5　13,200円（12,000）　978-4-642-04188-1（初版1898.1）
第6　13,200円（12,000）　978-4-642-04189-8（初版1898.1）
第7　12,100円（11,000）　978-4-642-04190-4（初版1898.1）
第8　11,000円（10,000）　978-4-642-04191-1（初版1898.1）
第9　14,300円（13,000）　978-4-642-04192-8（初版1898.1）

早川純三郎編
吾妻鏡〈吉川本〉　全3冊
菊判　平均478頁

戦国大名大内氏の部将右田弘詮が収集整理した『吾妻鏡』の伝本の一つ。岩国藩主吉川家に伝来したことにより、「吉川本」と称される。「北条本」の欠を埋めるものとして新訂増補国史大系本の『吾妻鏡』で校定に用いられた。

第1　11,000円（10,000）　978-4-642-04196-6（初版1915.1）
第2　11,000円（10,000）　978-4-642-04197-3（初版1915.1）
第3　11,000円（10,000）　978-4-642-04198-0（初版1915.1）

オンデマンド版（史料・古典複製／辞典・事典／索引）

今井弘済・内藤貞顕編
参考太平記　全2冊
菊判　平均636頁

徳川光圀の命により『大日本史』編纂の基礎作業として今井弘済・内藤貞顕がまとめた。諸本を校定して本文を定め、これに博捜した関連史料を注記する。『太平記』研究の基礎を築いたと評される。

第1　13,200円（12,000）978-4-642-04193-5（初版1914.1）

第2　13,200円（12,000）978-4-642-04194-2（初版1914.1）

今井弘済・内藤貞顕編
参考保元平治物語
菊判　332頁　**9,350円**（8,500）

『参考太平記』同様、『大日本史』編纂のために今井弘済・内藤貞顕がまとめた。『保元物語』と『平治物語』について諸本の異同を校定、関連する諸史料を引用・参照して編集された。
978-4-642-04195-9　（初版 1914.1）

安藤正人著
記録史料学と現代
―アーカイブズの科学をめざして―
A５判　384頁　**13,750円**（12,500）

近年における史料学や史料管理学の成果を踏まえ、記録史料の科学的な理解と保存・活用のための新しい科学を提唱する。歴史の証言としての記録史料の重要性、それを未来に伝えることの大切さを思う全ての人々に。
978-4-642-73679-4　（初版 1998.6）

外池　昇著
事典 陵墓参考地
―もうひとつの天皇陵―
菊判　294頁　**9,900円**（9,000）

陵墓参考地とは何か。葬られているのは誰か。明治から昭和までに行われた指定・管理の経緯を詳説した読む事典。宮内庁の内部資料『陵墓参考地一覧』と『臨時陵墓調査委員会書類及資料』を比較検討し、全貌を初めて解明する。
978-4-642-71345-0　（初版 2005.7）

伊藤　隆監修・百瀬　孝著
事典 昭和戦後期の日本
―占領と改革―
菊判　448頁　**14,300円**（13,000）

進駐軍による占領のもと、未曾有の混乱の中で、政治・社会・教育等の旧組織・制度はことごとく破壊、改変された。移行期の諸制度と現在に至る変化を、日本本土のみではなくアメリカ占領下の沖縄にも力点をおき記述。
978-4-642-73658-9　（初版 1995.7）

安田元久編
吾妻鏡人名総覧 ―注釈と考証―
菊判　632頁　**16,500円**（15,000）

『吾妻鏡』に登場する 3800 余の人物を網羅的に収めた注釈編と、有力氏族の系譜を追究した考証編の二部構成で、人物の基本情報を整理。異称や同名異人等について考証を加え、人物の繋がりを重視して編集した座右の書。
978-4-642-04203-1　（初版 1998.2）

関根真隆編
正倉院文書事項索引
菊判　360頁　**13,200円**（12,000）

正倉院文書は奈良時代文物の諸相を網羅する１万数千点に及ぶ基本史料である。正倉院文書を収録、刊行した『大日本古文書』（編年）25 冊に見える物名語その他を、生活・文化に即して分類配列し、古代研究の便に供する。
978-4-642-72364-0　（初版 2001.3）

六国史索引編集部編
六国史索引　全4冊
菊判　平均426頁

新訂増補国史大系本を底本とし、検索には年月日をもってし、全語彙を人名・官職名・件名・地名・社寺陵墓名の5項目に分類。最近の史学の進展に鑑み、新しい観点に立って編纂した六国史の本格的索引。

日本書紀索引	**11,550円**（10,500）	978-4-642-04199-7　（初版1969.7）
日本三代実録索引	**12,650円**（11,500）	978-4-642-04202-4　（初版1963.3）
続日本紀索引	**13,750円**（12,500）	978-4-642-04200-0　（初版1967.9）
日本後紀・続日本後紀・文徳天皇実録索引	**12,100円**（11,000）	978-4-642-04201-7　（初版1954.5）

オンデマンド版（辞典・事典／索引）

徳川実紀研究会編

徳川実紀索引　全2冊

『徳川実紀』は近世史、特に江戸時代の研究にとって不可欠の基本史料である。「人名篇」は旧上・下巻を1冊に合本して使用の便を計り、「幕末篇」とともに（新装版）として復刊する。

人　名　篇　〈合本新装版〉

菊判　564頁
17,050円（15,500）

『徳川実紀』（第一～十篇）、『続徳川実紀』（第一・二篇）に記載の人名を収録。苗字は通例の訓読みの五十音順に、名前は諱を音読みで、通称は通例の音訓読みで排列。見出しの人物の母・妻・子供なども掲げ、称号・篇数・頁数を示す。
978-4-642-70185-3　（初版 2003.6）

幕　末　篇　〈新装版〉

菊判　226頁　**8,800円**（8,000）

『続徳川実紀』（第三・四・五篇）に記載されている人名と事項を収録する。
978-4-642-70186-0　（初版 2003.6）

吉川弘文館編集部編

徳川実紀事項索引　全2巻

菊判

江戸時代の基本史料『徳川実紀』全15冊より、官職・役職・地名・文献名など事項に関する語句約80万語を網羅的に収載。項目は、音読みによる五十音順に配列、検索には篇数・頁数を掲げる。

上巻（あ～し）　17,600円（16,000）　978-4-642-70183-9　（初版2003.4）
下巻（す～を）　17,600円（16,000）　978-4-642-70184-6　（初版2003.4）

御家人制研究会編

吾妻鏡人名索引

菊判　576頁　**17,050円**（15,500）

研究者必備の本格的索引。「吾妻鏡」の人名に関する詳細な考証により、検索の便を考え、第1部人名索引（除女子名）第2部①通称・異称索引②法名索引　第3部女子名索引の3編に分類。第5刷で数多く修訂を行った。
978-4-642-70175-4　（初版 1971.3）

多賀宗隼編著

玉葉索引　―付 藤原兼実の研究―

菊判　606頁　**16,500円**（15,000）

公家日記の珠玉・関白九条兼実の『玉葉』への近道。人名・社寺・典籍が自由に検索できる本格的索引。併せて兼実の活動、九条家の全貌をえがき、日記の特色を解明。平家物語研究に絶好の伴侶、研究者座右必備。
978-4-642-04204-8　（初版 1974.3）

国史大系書目解題　全2巻

菊判

日本書紀以下58書目の成立・構成・諸本・評価等を、最新の研究成果をふまえて総合的に究明した詳細綿密な解題。多数専門史家の執筆になる待望の新編集。国史大系各書目の基礎的理解を深める、日本史研究に必備の書。

〈上巻〉坂本太郎・黒板昌夫編　19,800円（18,000）　978-4-642-70178-5　（初版1971.3）
〈下巻〉皆川完一・山本信吉編　24,200円（22,000）　978-4-642-70179-2　（初版2001.11）

国史大系編修会編

新訂増補 国史大系　月報

―付　異本公卿補任―

菊判　648頁　**15,400円**（14,000）

『新訂増補国史大系』の完成記念版（昭和39～42年）刊行時に添付の「月報」と付載された「異本公卿補任」の合本復刻版。『国史大系』所収の58書目に関する名論文や随筆などを網羅し、今日の研究にも資するところが大きい。
978-4-642-04066-2　（初版 1967.3）

川添昭二監修・重松敏彦編

大宰府古代史年表　―付 官人補任表―

菊判　656頁　**18,150円**（16,500）

536年から1155年まで、諸史料にみえる大宰府関係記事を集成。対外関係、西海道地域との関わり、観世音寺などの歴史に加え、平安後期大宰府官人の動向にも留意した。大宰府関連の人物を集成した官人一覧を付載。
978-4-642-71433-4　（初版 2007.2）

価格は10％税込、（　）内は本体価格

オンデマンド版（考古学／民俗学）

一瀬和夫著
大王墓と前方後円墳
A５判　304頁　**12,100円**（11,000）

前方後円墳は築造当時の文化・技術・経済・政治を知る最大のテキストである。箸墓―仁徳陵―今城塚と続く大王墓の変遷を辿り構造を解明。特異な伝統性を持った前方後円墳から浮かび上る畿内政権の実態に迫る。
978-4-642-79304-9　（初版 2005.7）

岡本東三著
東国の古代寺院と瓦
A５判　296頁　**9,900円**（9,000）

山田寺式・川原寺式・紀寺式など７世紀の畿内系の瓦の緻密な編年を行い、東国の古代寺院の創建された年代・状況を検討する。また、文献史料も活用して、国分寺など８世紀以降の寺院創建や寺院併合令の実態を考える。
978-4-642-72308-4　（初版 1996.10）

笹生　衛著
日本古代の祭祀考古学
A５判　384頁　**13,750円**（12,500）

日本人はいかなる信仰を心の支えとしてきたのか。祭祀遺跡から出土する鉄や亀卜、墨書土器などを分析し、記紀などを駆使。国家・地域の枠組みが形成される上で祭祀・信仰がどう関わってきたのか、歴史的背景を考察。
978-4-642-72493-7　（初版 2012.3）

岩田重則著
墓の民俗学
A５判　354頁　**13,200円**（12,000）

墓とは何か。柳田民俗学や折口学などの学説を検証する。遺体埋葬地点に置かれる枕石、魔除けの墓上鎌、墓上火などの具象化された民俗資料を地域別に整理し、共通項を抽出して分析。新たな民俗学研究の方法を提示する。
978-4-642-04270-3　（初版 2003.12）

中野幡能著
八幡信仰と修験道
A５判　426頁　**14,300円**（13,000）

古来広く信仰されている八幡信仰は、豊前国宇佐神宮に始まる。宇佐八幡宮において宮寺が最初に成立するという新視点から、八幡信仰の源流をはじめ、神仏習合など多角的に追究し、山岳仏教や修験道にも言及する。
978-4-642-77539-7　（初版 1998.2）

宮城栄昌著
沖縄のノロの研究
A５判　534頁　**16,500円**（15,000）

沖縄の宗教・政治・社会等の基底的存在であるノロ・ツカサに関する総合研究。沖縄出身の著者が広く収集した文献史料と、喜界島から沖縄本島、与那国島まで200余人の神女の聞書きを基に、その全貌を解き明かす労作。
978-4-642-04269-7　（初版 1979.10）

児島恭子著
アイヌ民族史の研究
―蝦夷・アイヌ観の歴史的変遷―
A５判　486頁　**15,400円**（14,000）

古代から現代まで蝦夷という名称はなぜ存在してきたのか。史資料の根本にある蝦夷・アイヌ観を徹底的に解明し、歴史的存在意味を追究。先住民族の権利回復とジェンダーの視点からアイヌ民族史の今後の課題を展望する。
978-4-642-04221-5　（初版 2003.2）

諏訪春雄著
日中比較芸能史
A５判　384頁　**13,750円**（12,500）

日本の民間神楽や能・狂言・歌舞伎の源流はどこか。中国各地、特に少数民族の間で今もなお行われている民間芸能を永年に亙って実施踏査し、わが国の伝統芸能の外来性を追求、日中比較芸能史の視点からの分析を提示する。
978-4-642-77346-1　（初版 1994.1）

宮木慧子著
陶磁器ワラ包装技術の文化史
B５判　176頁　**13,200円**（12,000）

ヨーロッパに輸出された景徳鎮や伊万里・有田の陶磁器。その生産や流通過程で展開されたワラ包装に着目し、加工技術の地域性を豊富な図版を交え考察。中国・韓国の事例も検討し、デザイン性や造形的特質を解明する。
978-4-642-78198-5　（初版 2015.4）

オンデマンド版(民俗学／美術史／世界史)

真野俊和著
日本遊行宗教論
(日本歴史民俗叢書)
A５判　320頁　**12,650円**(11,500)

遊行の聖(ヒジリ)たちは、下級の宗教者として歴史の陰に隠れながらも、宗教に活力を与え、新生面を切り開いたパイオニアであった。本書は、遊行の聖と定住生活者との交渉を軸に、民衆の信仰を見つめなおす。
978-4-642-77352-2　(初版 1991.6)

新谷尚紀著
両墓制と他界観
(日本歴史民俗叢書)
A５判　328頁　**13,200円**(12,000)

民俗学では、１人の死者に対して墓が二つあることを両墓制と呼ぶ。民俗資料・文献史料・石造遺物など性格の異なる資料を豊富に活用し、その問題点を総合的に検討。日本人の深層に潜む霊魂観、他界観を探究した待望の書。
978-4-642-77351-5　(初版 1992.2)

宮田　登著
山と里の信仰史
(日本歴史民俗叢書)
A５判　318頁　**12,650円**(11,500)

里に生活を営む人々は、ムラから見える山をどのような信仰対象としてとらえ、その形態はどのように展開していったのか。本書は、庶民の日常的信仰の実態、さらに稲荷信仰、講集団を通して、日本の宗教社会を考える。
978-4-642-77354-6　(初版 1993.8)

蒲池勢至著
真宗と民俗信仰
(日本歴史民俗叢書)
A５判　288頁　**9,900円**(9,000)

真宗は反民俗性が強いと言われてきた宗派だが、近年その基層に民俗信仰が存在すると指摘されている。本書は、位牌や墓制、オソーブツと仏壇、講組織などを取り上げ、真宗と民俗の関係を解明した注目の書。
978-4-642-77355-3　(初版 1993.11)

古家信平著
火と水の民俗文化誌
(日本歴史民俗叢書)
A５判　282頁　**9,900円**(9,000)

沖縄の民俗信仰である火の神祭祀と、水の信仰＝カーメー儀礼を神役の性格・社会的変遷などの観点から分析する。20年間の調査の成果に、個別的把握の方法と著者自ら「話者」の立場で肉薄する、等身大の民俗文化誌。
978-4-642-77356-0　(初版 1994.3)

篠原　徹著
海と山の民俗自然誌
(日本歴史民俗叢書)
A５判　304頁　**12,100円**(11,000)

人が生活のなかで自然に対峙し、そこで得た知識の総体を、著者は自然知と呼ぶ。漁・山村調査と、漁日誌や木地師の伝承をもとに、自然の生態と人間の自然知の関係を、民俗学のなかに位置づけた、はじめての民俗自然誌。
978-4-642-77357-7　(初版 1995.2)

中村羊一郎著
番茶と庶民喫茶史
(日本歴史民俗叢書)　第26回茶道文化学術賞受賞
A５判　366頁　**13,200円**(12,000)

従来の茶の湯文化や歴史に対し、「日常茶飯事」という言葉が表す庶民の茶(番茶)はいかなる製茶法で作られ、利用されてきたのか。日本各地の産地をはじめ、中国やミャンマーなども現地調査。お茶独自の文化を探究する。
978-4-642-77412-3　(初版 2015.3)

山本忠尚著
日中美術考古学研究
B５判　304頁　原色口絵2丁　**18,150円**(16,500)

中国で発掘された壁画や画像石の図像を分析、その意味を探るとともに、日本への伝播を検証。また石製葬具などの変遷、被葬者との関係を分析、日本の古墳への受容実態を論究。藤ノ木古墳の新たな位置づけを提言する。
978-4-642-78147-3　(初版 2008.10)

鈴木　俊著
東洋史要説　新稿版
A５判　292頁　**2,530円**(2,300)

アジアの社会・文化発展の跡を簡潔に叙述しながら主要史実を網羅し、地図・系図・表等の外、文化関係の写真を多数挿入し、参考文献の欄をも設けて本文の理解を助けた。最も充実した東洋史の入門書として定評を博す。
978-4-642-77703-2　(初版 1960.5)

三上次男著
高句麗と渤海(ぼっかい)
A５判　384頁　**13,750円**(12,500)

東北アジアにおける考古学・古代史研究の第一人者による珠玉の論集。注目をあびる高句麗と渤海史に関し、創見あふれる論文と遺跡踏査紀行記などを収録。入手困難な雑誌や未発表の論文をも含む。
978-4-642-78133-6　(初版 1990.12)

オンデマンド版（世界史／国語・国文学史）

赤羽目匡由著

渤海王国の政治と社会

A５判　330頁　**14,300円**（13,000）

高句麗遺民と靺鞨人により建国され、多種族国家であった渤海王国。政治的権威を背景にした国内支配の特質を、政治制度や支配層の統合意識、領域内諸種族の存在・活動様態に着目し、徹底した史料批判により解明する。
978-4-642-78150-3　（初版 2011.10）

濱田耕策著

新羅（しらぎ）国史の研究

―東アジア史の視点から―

A５判　448頁　**14,850円**（13,500）

新羅は、唐・渤海・日本などの周辺諸国の政治・文化と自国の独自性との拮抗の中で、歴史を形成してきた。礼制を根底とする祭祀と外交に支えられた王権の構造や、国家体制の特質を解明し、外交の諸相に潜む問題を考察。
978-4-642-78143-5　（初版 2002.2）

濱田耕策著

朝鮮古代史料研究

A５判　330頁　**12,650円**（11,500）

高句麗広開土王陵碑文・百済七支刀銘文・新羅鐘銘など、現代に残された朝鮮古代史料。その研究史や調査・保存状況に言及し分析、批評を加え解読を試みる。日本、唐を背景に、古代東アジアのなかの朝鮮三国の実像に迫る。
978-4-642-78151-0　（初版 2013.1）

沖森卓也著

日本古代の表記と文体

A５判　352頁　**13,200円**（12,000）

国語学上の精緻な論証を基礎に、木簡等の新たな文字資料の適切な読解を提示する。また、古事記・万葉集などの分析を通じて万葉仮名の詳細な変遷を跡づける。今後発掘される古代資料の位置づけを考える指針となるであろう。
978-4-642-04271-0　（初版 2000.5）

岡田正之著

日本漢文学史　増訂版

A５判　480頁　**15,400円**（14,000）

日本漢文学の本格的研究は、昭和４年における本書の刊行により研究の指針が明示された。広い視野と適確な批評は、格調高い文章と相俟ち総合的研究書の嚆矢としての重みを現在も持ち続けている。不朽の名著。
978-4-642-78516-7　（初版 1954.12）

平安朝漢文学研究会編

平安朝漢文学総合索引

菊判　348頁　**12,650円**（11,500）

４つの勅撰漢詩集や別集・雑書など、平安朝漢文学作品40部を網羅して、人名・官職名・地名・建造物名・書篇名・詩題・年紀の各部門別に作った総合索引。学界の中堅11人の協力の下に完成。研究者必備の書。
978-4-642-78500-6　（初版 1987.6）

増田繁夫著

源氏物語と貴族社会

A５判　352頁　**13,200円**（12,000）

源氏物語は当時の貴族社会の実状に準拠して書かれた。そこに描かれた婚姻制度や住宅から、貴族社会の実像を読み解く。また、物語が生まれた文化史的背景と、女流文学が主張する主体性確保を求めた平安女性の姿を描く。
978-4-642-72383-1　（初版 2002.8）

近藤典彦著

石川啄木と明治の日本

A５判　288頁　**9,900円**（9,000）

啄木のローマ字詩や予見能力に関する新研究、長詩「はてしなき議論の後」「呼子と口笛」口絵等の衝撃的な読みの呈示、〝借金魔〟啄木なる俗説への徹底的批判等、歴史学の手法と結合した斬新かつ画期的な啄木論の集成。
978-4-642-73655-8　（初版 1994.6）

三保忠夫著

古文書の国語学的研究

A５判　318頁　**12,650円**（11,500）

中世以前の古文書を資料とし、先行研究の整理検討をふまえ、文字・用語・表現（待遇表現・引用表現・数量表現）等の言語事象を究明する。古文書の言葉の研究を通して日本語の実相を追究するための貴重な基礎的研究。
978-4-642-78522-8　（初版 2004.6）

金田一春彦著

日本語音韻音調史の研究

A５判　448頁　**15,400円**（14,000）

日本語アクセント史研究の開拓者・推進者である著者が、少壮の頃から近年までに発表した諸論考から基礎的研究を収載。平曲、声明、類聚名義抄、金光明最勝王経音義等の多様な素材を音韻・アクセント史の観点から論究。
978-4-642-78521-1　（初版 2001.1）

日本随筆大成 新装版・全81巻

江戸人の好奇心と探求心が渦巻く〈江戸〉万華鏡。広汎多彩な江戸時代学芸・史料の宝庫！

ここに収める『随筆』とは、現代のエッセイ等とは違い、もっと幅広く内容豊富な、見聞・述懐・紀行・考証など、江戸人の自由な筆にまかせて書かれた多種多様な奇事異聞の集大成である。だから小説よりも面白く、歴史・国文・民俗・風俗の資料の宝庫でもある。

■全81巻セット＝490,050円（445,500）　■分売自由　四六判・平均450頁

第1期〈全23巻〉

各6,050円（5,500）

■第1巻 978-4-642-04067-9（初版93.5）
梅村載筆……林羅山
筆のすさび……菅茶山
羇旅漫録……曲亭馬琴
仙台間語……林笠翁

■第2巻 978-4-642-04068-6（初版93.5）
春波楼筆記……司馬江漢
瓦礫雑考……喜多村信節
紙魚室雑記……城戸千楯
桂林漫録……桂川中良
柳亭記……柳亭種彦
尚古造紙揷……暁鐘成

■第3巻 978-4-642-04069-3（初版93.6）
雲錦随筆……暁鐘成
松屋棟梁集……小山田与清
橿園随筆……中島広足
近世女風俗考……生川春明

■第4巻 978-4-642-04070-9（初版93.6）
羅月庵国書漫抄……尾崎雅嘉
画譚雞肋……中山高陽
煙霞綺談……西村白烏
柳亭筆記……柳亭種彦
磯山千鳥……堀秀成
橘窓自語……橋本経亮

■第5巻 978-4-642-04071-6（初版93.7）
玄同放言……曲亭馬琴
都の手ぶり……石川雅望
織錦舎随筆……村田春海

■第6巻 978-4-642-04072-3（初版93.7）
睡余小録……藤原吉迪
八水随筆……著者未詳
歴世女装考……山東京山
書儈贅筆……著者未詳
檜の落葉物語……伴林光平
金曾木……大田南畝
鋸屑譚……谷川士清

■第7巻 978-4-642-04073-0（初版93.8）
上代衣服考……豊田長敦
雨窓閑話……著者未詳
屋気野随筆……小野高潔
寸錦雑綴……森島中良
泊沼筆話……清水浜臣
弁正衣服考……著者未詳
心の双紙……松平定信

■第8巻 978-4-642-04074-7（初版93.8）
半日閑話……大田南畝

■第9巻 978-4-642-04075-4（初版93.9）
過庭紀談……原雙桂
嚶々筆語……野之口隆正
花街漫録……西村窺庵

■第10巻 978-4-642-04076-1（初版93.9）
遠碧軒記……黒川道祐
風のしがらみ……土肥経平
著作堂一夕話……曲亭馬琴
海人のくゞつ……中島広足
善庵随筆……朝川鼎

■第11巻978-4-642-04077-8（初版93.10）
古老茶話……柏崎永以
秉燭譚……伊藤東涯
四方の硯……畑維竜

■第12巻978-4-642-04078-5（初版93.10）
梅園叢書……三浦安貞
野乃舎随筆……大石千引
おもひくさ……本居宣長
閑窓瑣談……佐々木貞高
還魂紙料……柳亭種彦
擁書漫筆……小山田与清
西洋画談……司馬江漢

■第13巻978-4-642-04079-2（初版93.11）
思ひの儘の記……勢多章甫
用捨箱……柳亭種彦
向岡閑話……大田南畝
撈海一得……鈴木煥卿
松陰随筆……鈴木基之
槻の落葉信濃漫録…荒木田久老

■第14巻978-4-642-04080-8（初版93.11）
蒹葭堂雑録……暁鐘成
文会雑記……湯浅元禎
閑窓瑣談 後編……佐々木貞高
畏庵随筆……若槻敬

■第15巻978-4-642-04081-5（初版93.12）
北辺随筆……富士谷御杖
燕居雑話……日尾荊山
骨薫集……山東京伝

■第16巻978-4-642-04082-2（初版93.12）
かしのしづ枝……中島広足
幽遠随筆……入江昌喜
松屋叢考……小山田与清
宮川舎漫筆……宮川政運
駒谷芻言……松村梅岡

■第17巻 978-4-642-04083-9（初版94.1）
古今沿革考……柏崎永以
異説まちまち……和田烏江
閑際筆記……藤井懶斎
独語……太宰春台
又楽庵示蒙話……栗原信充
南嶺子……多田義俊
南嶺子評……伊勢貞丈

■第18巻 978-4-642-04084-6（初版94.1）
世事百談……山崎美成
閑田耕筆……伴蒿蹊
閑田次筆……伴蒿蹊
天神祭十二時…山含亭意雅栗三

■第19巻 978-4-642-04085-3（初版94.2）
筆の御霊……田沼善一
東牖子……田宮仲宣
嗚呼矣草……田宮仲宣
斉諧俗談……大朏東華

一宵話……秦鼎
■第20巻 978-4-642-04086-0（初版94.2）
昆陽漫録……青木昆陽
続昆陽漫録……青木昆陽
続昆陽漫録補……青木昆陽
南嶺遺稿……多田義俊
南嶺遺稿評……伊勢貞丈
秉穂録……岡田挺之
■第21巻 978-4-642-04087-7（初版94.3）
年々随筆……石原正明
嘉良喜随筆……山口幸充
烹雑の記……曲亭馬琴
■第22巻 978-4-642-04088-4（初版94.3）
三のしるべ……藤井高尚
好古日録……藤貞幹
好古小録……藤貞幹
茅窓漫録……茅原定
■第23巻 978-4-642-04089-1（初版94.4）
遊芸園随筆……川路聖謨
奇遊談……川口好和
庖丁書録……林羅山
こがね草……石川雅望
花街漫録正誤……喜多村信節

第2期〈全24巻〉

各6,050円（5,500）

■第1巻 978-4-642-04090-7（初版94.5）
兎園小説……曲亭馬琴
草廬漫筆……武田信英
■第2巻 978-4-642-04091-4（初版94.5）
松屋叢話……小山田与清
提醒紀談……山崎美成
円珠庵雑記……契沖
一時随筆……岡西惟中
仮名世説……大田南畝
梅の塵……梅の舎主人
当代江都百化物……馬場文耕
■第3巻 978-4-642-04092-1（初版94.6）
筱舎漫筆……西田直養
萍花漫筆……桃華園三千麿
兎園小説外集……曲亭馬琴
■第4巻 978-4-642-04093-8（初版94.6）
兎園小説別集……曲亭馬琴
八十翁疇昔話……財津種莢
牟芸古雅志……瀬川如皐
雲萍雑志……著者未詳
閑なるあまり……松平定信
画証録……喜多村信節
■第5巻 978-4-642-04094-5（初版94.7）
兎園小説余録……曲亭馬琴
兎園小説拾遺……曲亭馬琴
保敬随筆……小泉保敬
梅園拾葉……三浦梅園
新著聞集……神谷養勇軒
■第6巻 978-4-642-04095-2（初版94.7）
雉岡随筆……五十嵐篤好
三養雑記……山崎美成
清風瑣言……上田秋成
尤の草紙……斎藤徳元
近世奇跡考……山東京伝
■第7巻 978-4-642-04096-9（初版94.8）
宕山石初編……松井羅州
筠庭雑録……喜多村信節
勇魚鳥……北村久備
蜘蛛の糸巻……山東京山
橘窓茶話……雨森芳洲
■第8巻 978-4-642-04097-6（初版94.8）
一挙博覧……鈴木忠侯
萍の跡……立綱
筠庭雑考……喜多村信節
目さまし草……清中亭叔親
反古籠……森島中良
閑窓自語……柳原紀光
雑説嚢話……林自見
■第9巻 978-4-642-04098-3（初版94.9）
先進繍像玉石雑誌……栗原信充
二川随筆…山川素石・細川宗春
■第10巻 978-4-642-04099-0（初版94.9）
飛鳥川……柴村盛方
続飛鳥川……著者未詳
江戸雀……菱川師宣
積翠閑話……中村経年
尾崎雅嘉随筆……尾崎雅嘉
閑窓筆記……西村遠里
■第11巻978-4-642-04100-3（初版94.10）
梅翁随筆……著者未詳
桜の林…千家尊澄・岩政信比古
新増補浮世絵類考…竜田舎秋錦
■第12巻978-4-642-04101-0（初版94.10）
笈埃随筆……百井塘雨
玲瓏随筆……沢庵
十八大通……三升屋二三治
本朝世事談綺……菊岡沾凉
■第13巻978-4-642-04102-7（初版94.11）
河社……契沖
多波礼草……雨森芳洲
本朝世事談綺正誤……山崎美成
桑楊庵一夕話……岸誠之
鄰女晤言……慈延
■第14巻978-4-642-04103-4（初版94.11）
蕙菜草子……多田義寛
足薪翁記……柳亭種彦
奴師労之……大田南畝
比古婆衣……伴信友
西山公随筆……徳川光圀
■第15巻978-4-642-04104-1（初版94.12）
南留別志……荻生徂徠
可成三註……篠崎東海他
非なるべし……富士谷成章
南留別志の弁……著者未詳
あるまじ……伊勢貞丈
ざるべし……谷真潮
北窓瑣談……橘春暉
酣中清話……小島成斎
■第16巻978-4-642-04105-8（初版94.12）
三省録……志賀忍
三省録後編……原義胤
火浣布略説……平賀源内
年山紀聞……安藤為章
■第17巻 978-4-642-04106-5（初版95.1）
遊京漫録……清水浜臣
胡蝶庵随筆……聖応
柳庵随筆初編……栗原信充
柳庵随筆……栗原信充
■第18巻 978-4-642-04107-2（初版95.1）
柳庵随筆余編……栗原信充
曲肱漫筆……著者未詳
薫風雑話……渋川時英
立路随筆……林百助
北国奇談巡杖記……鳥翠台北坚
南屏燕語……南山
答問雑稿……清水浜臣
■第19巻 978-4-642-04108-9（初版95.2）
楓軒偶記……小宮山昌秀
諺草小言……小宮山昌秀
燕石雑志……曲亭馬琴
■第20巻 978-4-642-04109-6（初版95.2）

静軒痴談……寺門静軒
閑散余録……南川維遷
於路加於比……笠亭仙果
只今御笑草……瀬川如皐
夏山雑談……平直方
銀鶏一睡南柯乃夢……畑銀鶏
猿著聞集……八島定岡

■第21巻 978-4-642-04110-2(初版95.3)
折々草……建部綾足
難波江……岡本保孝

■第22巻 978-4-642-04111-9(初版95.3)
下馬のおとなひ……堀秀成
松の落葉……藤井高尚
蜑の焼藻の記……森山孝盛
闇の曙……新井白蛾

■第23巻 978-4-642-04112-6(初版95.4)
卯花園漫録……石上宣続
雅遊漫録……大枝流芳

■第24巻 978-4-642-04113-3(初版95.4)
赤穂義士随筆……山崎美成
思斉漫録……中村弘毅
南畝莠言……大田南畝
晤語……名島政方
輶軒小録……伊藤東涯
莘野茗談……平秩東作
なゐの日並……笠亭仙果
諸国里人談……菊岡沾凉

第3期〈全24巻〉

各6,050円(5,500)

■第1巻 978-4-642-04114-0(初版95.5)
傍廂……斎藤彦麻呂
傍廂糾繆……岡本保孝
ねざめのすさび……石川雅望
理斎随筆……志賀忍
花月草紙……松平定信

■第2巻 978-4-642-04115-7(初版95.5)
浪華百事談……著者未詳
異本洞房語園……庄司勝富
洞房語園後集……庄司勝富
洞房語園異本考異……石原徒流
筆のすさび……橘泰
おほうみのはら……富士谷成章

■第3巻 978-4-642-04116-4(初版95.6)
中陵漫録……佐藤成裕
柳庵雑筆……栗原信充

■第4巻 978-4-642-04117-1(初版95.6)
古今雑談思出草紙……東随舎
俗耳鼓吹……大田南畝
消閑雑記……岡西惟中
賤のをだ巻……森山孝盛
醒睡笑……安楽庵策伝
近世商賈尽狂歌合…石塚豊芥子

■第5巻 978-4-642-04118-8(初版95.7)
天朝墨談……五十嵐篤好
蒼梧随筆……大塚嘉樹
梅窓筆記……橋本経亮
閑の秋風……松平定信
浪華の風……久須美祐雋
癇癖談……上田秋成

■第6巻 978-4-642-04119-5(初版95.7)
三余叢談……長谷川宣昭
とはずがたり……中井甃庵
近来見聞噺の苗……暁鐘成希
駿台雑話……室鳩巣
むさしあぶみ……浅井了意
南向茶話・附追考……酒井忠昌

■第7巻 978-4-642-04120-1(初版95.8)
後松日記……松岡行義

■第8巻 978-4-642-04121-8(初版95.8)
見た京物語……木室卯雲
天野政徳随筆……天野政徳
凌雨漫録……著者未詳
莚響録……高橋宗直
訓蒙浅語……大田晴軒
榊巷談苑……榊原篁洲

■第9巻 978-4-642-04122-5(初版95.9)
百草……著者未詳
我宿草……著者未詳
愚雑俎……田宮仲宣
松亭漫筆……中村経年
孝経楼漫筆……山本北山

■第10巻 978-4-642-04123-2(初版95.9)
関秘録……著者未詳
牛馬問……新井白蛾
和漢嘉話宿直文……三宅嘯山
春湊浪話……土肥経平
松竹問答…松岡辰方・竹屋光棣

■第11巻978-4-642-04124-9(初版95.10)
百草露……含弘堂偶斎
麓の花……山崎美成
妙々奇談……周滑平
しりうごと……小説家主人
難後言……遠藤春足
鳥おどし……川崎重恭
金剛談……小林元儁

■第12巻978-4-642-04125-6(初版95.10)
梅園日記……北静廬
瀬田問答…大田南畝・瀬名貞雄
後は昔物語……手柄岡持
白石先生紳書……新井白石
桃岡雑記……八田知紀

■第13巻～16巻(4冊)
塩尻……天野信景
978-4-642-04126-3～04129-4
(初版95.11～12)

■第17巻～18巻(2冊)
塩尻(拾遺)……天野信景
神祇・国学を主とし、儒釈・政治・法制・歴史・詩文・言語・天文・地誌・有職・名物・武術・工芸など百般にわたって記し、その分量・範囲の浩瀚、内容の充実豊富なことは近世随筆中の白眉である。
978-4-642-04130-0～04131-7(初版96.1)

■第19巻～24巻(6冊)
翁草……神沢杜口
諸家の秘書実録を、上は王侯より下は庶民に至るまで高論雑事を集成したもので、随筆というよりも叢書というに近いが、間間それらの書に自己の評語をも付記して、著者その人の見解を述べている。
978-4-642-04132-4～978-4-642-04137-9
(初版96.2～96.4)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

別　巻〈全10巻〉

各6,050円(5,500)

■第１巻～第６巻（６冊）　一話一言……大田南畝
幕臣であり文人でもあった著者の31歳の安永８年前後より、72歳の文政３年に至る40余年間の見聞筆録。古今和漢の書籍の抜書、また人から寄せられた手記の類等をも綴込んだ南畝の一大集成。
978-4-642-04138-6～978-4-642-04143-0(初版96.5～96.7)

■第7巻～第10巻（4冊）　嬉遊笑覧……喜多村信節
本書は居所・容儀・服飾・書画・詩歌・武事・宴会・歌舞・児戯・行遊・祭会・娼妓・言語・飲食・茶・商賈・漁猟など広汎な分類体の事典。江戸時代の庶民生活を知る上で大変貴重な書である。
978-4-642-04144-7～978-4-642-04147-8(初版96.8～96.9)

続日本随筆大成 全12巻

森　銑三
北川博邦　編輯

日本随筆大成は、全81冊の一大叢書として読書界に好評を博している。しかしながら近世期に成った先哲の遺著で、随筆の名を以て呼ばれる名著は、なお甚だ多く、ここに森銑三・北川博邦両先生の編集により、閲読の便なき名随筆を選択して新たに続日本随筆大成（全12巻）を刊行する。収める書目は、既刊の随筆大成より更にすぐれた内容を持ち、資料的価値もまた高い好書を網羅した。随筆大成が新版とは申せ、半世紀前における成書の復刊であるに対し、続大成は、隔世の感ある今日の学問水準をもって厳選した新編集である点、いっそう清新にして魅力ある新随筆叢書として、十分現代の期待に応え得るとともに、更に日本随筆大成補完の役割をも果し得るであろう。
（初版刊行の辞より）

■各 6,050 円(5,500)　■全12巻セット＝ 72,600 円(66,000)　■分売自由
四六判・平均 320 頁

収載書目

■第1巻　978-4-642-04148-5(初版79.6)
講習餘筆……中村蘭林
雲室随筆……釈雲室
坐臥記……桃西河
しがらみ……広瀬蒙斎
消夏雑識……松本愚山

■第2巻　978-4-642-04149-2(初版79.8)
常山楼筆餘……湯浅常山
寝ざめの友……近藤万丈
九柱草堂随筆……広瀬旭荘

■第3巻　978-4-642-04150-8(初版79.10)
見し世の人の記……脇蘭室
拙古先生筆記……奥田尚斎
揖觚……河野鐵兜
寒檠璅綴……浅野梅堂
過庭餘聞……楠本碩水

■第4巻　978-4-642-04151-5(初版49.12)
一字訓……雨森芳洲
諼園雑話……著者未詳
酔迷餘録……中根香亭
零砕雑筆……中根香亭
塵塚……中根香亭

■第5巻　978-4-642-04152-2(初版80.2)
間思随筆……加藤景範
対鷗楼閑話……倉成龍渚
自覚談……村山太白
気吹舎筆叢……平田篤胤
宿直物語……沢田名垂
待問雑記……橘守部

■第6巻　978-4-642-04153-9(初版80.4)
仙語記……村田春海
退閑雑記……松平定信
閑度雑談……中村新斎

■第7巻　978-4-642-04154-6(初版80.6)
一昔話……加藤艮斎
碩鼠漫筆……黒川春村

■第8巻　978-4-642-04155-3(初版80.8)
寓意草……岡村良通
紫のゆかり……山岡浚明
所以者何……大田南畝・問　田宮橘庵・答
松の下草……黒川盛隆
春夢獨談……沢近嶺
ありやなしや……清水礫洲

■第9巻　978-4-642-04156-0(初版80.10)
古今物忘れ……建部綾足
屠龍工随筆……小栗百万
松楼私語……大田南畝
落葉の下草……藤井高尚・問　中村歌右衛門・答
歌舞伎雑談……中村芝翫
かしのくち葉……中島広足
石亭画談……竹本石亭
口嗜小史……西田春耕
市川栢莚舎事録……生須賀散人
太平楽皇国性質……松亭金水

■第10巻978-4-642-04157-7(初版80.12)
醍醐随筆……中山三柳
杏林内省録……緒方惟勝
黄華堂医話……橘南谿
老牛餘喘……小寺清之
貧政……勝田半斎

■第11巻　978-4-642-04158-4(初版81.2)
寐ものがたり……鼠渓
久保之取蛇尾……入江昌熹
犬鶏随筆……間宮永好

■第12巻　978-4-642-04159-1(初版81.4)
強斎先生雑話筆記…山口春水編
しづのおだまき……小冥野夫

続日本随筆大成 別巻・全12巻

森　銑三
北川博邦　監修

■各 6,050 円（5,500）
■全12巻セット＝ 72,600 円（66,000）
四六判・平均 330 頁

慶長より慶応末年に至る約300年間、江戸の地を中心として、京坂及び諸国の風俗並びに巷談風説を記した、資料的価値の高い書を蒐めた「近世風俗見聞集」は、明治の末に国書刊行会より出版されたものであるが、本大成本は新たなる校訂を加え、省略されていた挿画をも復原して全 10 冊に分載した。「民間風俗年中行事」全２冊は同じく国書刊行会本になる民間風俗の行事を記した書を集成したものである。

近世風俗見聞集
全 10 冊

■第1巻　978-4-642-04160-7（初版81.10）
そゞろ物語……三浦浄心
むかしむかし物語……財津種茨
元文世説雑録……編者未詳
■第2巻　978-4-642-04161-4（初版81.12）
月堂見聞集上巻……本島知辰
■第3巻　978-4-642-04162-1（初版81.12）
月堂見聞集中巻……本島知辰
■第4巻　978-4-642-04163-8（初版82.2）
月堂見聞集下巻……本島知辰
■第5巻　978-4-642-04164-5（初版82.6）
久夢日記……編者未詳
元禄宝永珍話……編者未詳
享保世話……編者未詳
■第6巻　978-4-642-04165-2（初版82.8）
宝暦現来集上巻……山田桂翁
■第7巻　978-4-642-04166-9（初版82.10）
宝暦現来集下巻……山田桂翁
■第8巻　978-4-642-04167-6（初版82.12）
寛保延享江府風俗志　……著者未詳
天弘録……著者未詳
花吹雪隈手廼塵……恕堂閑人
■第9巻　978-4-642-04168-3（初版83.2）
巷街贅説上巻……塵哉翁
■第10巻　978-4-642-04169-0（初版83.4）
巷街贅説下巻……塵哉翁
豊芥子日記……石塚豊芥子

民間風俗年中行事
全２冊

■上 巻　978-4-642-04170-6（初版 84.6）
諸国年中行事……操巵子
増補江戸年中行事……著者未詳
石井士彭 東都歳時記 ……石井士彭
山城四季物語……坂内直頼
案内者……中川喜雲
閭里歳時記……川野辺寛
正月揃……白眼居士
■下 巻　978-4-642-04171-3（初版 84.8）
北里年中行事……花楽散人
芝居年中行事……はじゆう
おとしばなし年中行事…林屋正蔵
民間時令……山崎美成
年中故事……玉田永教

価格は 10％税込、（　）内は本体価格

佐藤　信編
律令制と古代国家
A５判　512頁　**14,300円**(13,000)〈僅少〉
律令制と古代王権の展開を、独自の角度から考察する論集。「律令制の成立」「律令法の展開」「王権の展開と貴族社会」「アジアのなかの律令法と史料」をテーマに、最新の論考20編を収め、古代史の新たな視点を示す。
978-4-642-04646-6　(18.3)

坂上康俊著
唐法典と日本律令制
(日本史学研究叢書)
A５判　496頁　**11,000円**(10,000)
唐の律令格式の伝来や日本での編纂過程を、『令集解』や敦煌文書などに基づき解明。さらに日唐間の情報伝播や日本社会と法との関わりを考察する。古代日本における法典編纂の展開と律令国家の成立過程を見通す必備の書。
978-4-642-04678-7　(23.12)

大隅清陽著
律令官制と礼秩序の研究
A５判　424頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉
礼と法の二元構造をもつ中国律令制と違い、日本律令制は、氏族制と官僚制から構成されていた。8世紀以後、中国礼制の受容と共に氏族制が解体し、平安貴族社会が生まれる過程を、官制と礼秩序の変遷から解き明かす。
978-4-642-02479-2　(11.2)

鐘江宏之著
律令制諸国支配の成立と展開
A５判　384頁　**11,000円**(10,000)
国造制による地域区分を刷新した「令制国」の成立過程を、国境画定事業や諸国編成、国府や行政機構の整備に着目し解明。受領の単独支配が浸透する平安期までを見通し、律令制下の地方支配の理念と実態を追究する。
978-4-642-04672-5　(23.2)

三谷芳幸著
律令国家と土地支配
A５判　314頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉
中国の体制を模範とした日本の律令国家。その人民支配の根幹をなす班田制など、律令制について天聖令を用いた日中の比較を行い、日本古代土地制度の構造と展開を考察。土地支配を通じて律令国家の特質を解明する。
978-4-642-04603-9　(13.3)

渡辺直彦著
日本古代官位制度の基礎的研究(新装版)
A５判　646頁　**16,500円**(15,000)〈僅少〉
官職と位階の制度と実態について、関連史料を博捜し緻密に検証した名著。勲位制、家政機関、検非違使、蔵人所など、古代の政治・社会を知るために不可欠な論考を収録。復刊に際し詳細な索引を付し、事典としても有用。
978-4-642-02498-3　(12.7)

川尻秋生著
日本古代の格(きゃく)と資財帳
A５判　340頁　**10,780円**(9,800)〈僅少〉
いかなる法令が格と呼ばれ、いつ頃法として意識されたのか。格の特質、日本と唐の格の相違などから、古代の格の全貌に迫る。さらに、資財帳作成の経緯・目的を寺院制度史の中に位置づけ、その歴史的意義を解明する。
978-4-642-02389-4　(03.2)

木下正史著
古代の漏刻と時刻制度
―東アジアと日本―
A５判　408頁　**12,100円**(11,000)
古代ではいかにして時を計っていたのか。『日本書紀』にみえる漏刻跡である飛鳥水落遺跡を検証し、日本・東アジアの漏刻・時刻制度を論究。飛鳥の歴史や宮都の解明に大きな意義を持つ、日本古代の時刻制度の基礎的研究。
978-4-642-04657-2　(20.3)

服部一隆著
班田収授法の復原的研究
A５判　296頁　**12,100円**(11,000)
古代土地制度の根幹となる班田収授法だが、その条文は現存せず、数多の復原が提起されてきた。近年発見の北宋天聖令との比較検証により、欠失した大宝令文を復原。旧来の説と異なる法継受の実態や班田制の特質に迫る。
978-4-642-02496-9　(12.5)

塩川哲朗著
古代の祭祀構造と伊勢神宮
A５判　380頁　**13,200円**(12,000)
古来、日本人はどのように神を信仰してきたのか。「神祇令」記載の国家祭祀と、伊勢神宮祭祀を中心に実態を追究。国家祭祀と在地に任される各地の祭祀が二重で存在するなど、古代祭祀構造の特徴を明らかにした注目の書。
978-4-642-04651-0　(18.12)

虎尾達哉著
日本古代の参議制
A５判　384頁　**8,800円**(8,000)〈僅少〉
日本古代において、大臣・納言とともに議政の任に与かった参議については、論ずべき点が多い。基礎史料を吟味し、多様な論考を批判・検討。王権と古代政治機構の関わりをも視野にいれて、参議制の実像を学界に問う。
978-4-642-02326-9　(98.3)

神戸航介著
日本古代財務行政の研究
A５判　396頁　**13,200円**(12,000)
古代の租税とはいかなるもので、社会の変革期にどのように継授されたのか。賦役令の日唐律令比較や、租税免除制度、平安時代の財政再編成、受領統制制度などの検討を通じて、財務行政の具体像と歴史的展開を解明する。
978-4-642-04669-5　(22.9)

山下信一郎著
日本古代の国家と給与制
A５判　336頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉
律令国家がその支配層である皇族・貴族、官人に支給したさまざまな給与制の特質と変遷を考察。給与制総体の意義、官僚制的関心に立った歴史的解釈など、政治的な分析から日本古代国家における給与制の意義を描き出す。
978-4-642-04601-5　(12.10)

木本好信著
奈良時代の政争と皇位継承
A５判　254頁　**8,800円**(8,000)〈僅少〉
奈良の都では、藤原氏ら貴族によって皇位継承をめぐる政争が繰り広げられた。橘奈良麻呂の変、光明皇后の政権構想、称徳・道鏡政権、藤原種継暗殺事件など、様々なテーマを検証。奈良時代における政治闘争の実態に迫る。
978-4-642-02494-5　(12.3)

佐々木恵介著
日本古代の官司と政務
A５判　378頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉
古代日本における政務のありかたについて具体的に迫る論考集。奈良～平安時代の任官申請・任官結果伝達の方法とその変遷を考察。古記録類を詳細に検討し、太政官や近衛府・検非違使庁等の政務運営の実態を復原する。
978-4-642-04652-7　(18.11)

松田行彦著
古代日本の国家と土地支配
A５判　344頁　**12,100円**(11,000)
古代の人と土地との関係を、経済面と国家との関係から追い、地域社会の土地慣行を復元。班田収授法の理解に必要な大宝田令条文を、唐の土地制度と比較分析して、土地をめぐる諸問題への律令制国家の関与を追究する。
978-4-642-04656-5　(19.10)

山尾幸久著
日本古代国家と土地所有
(日本史学研究叢書)
A５判　614頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉
律令制下の口分田耕作の史的本質をどう見るか。在地首長制論と氏族制社会論、均田制と班田制、村と家、租、公田と私田などを論究する。国家的土地所有説を批判し、律令国家の特異な非連続性の東アジア史的根源に迫る。
978-4-642-02388-7　(03.2)

山口英男著
日本古代の地域社会と行政機構
A５判　466頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉
古代日本の地域や社会のあり方と行政機構は、いかに歴史的に変容し相互に関係したのか。奈良～平安中期の地方行政、牧と馬、荘園図、正倉院文書と史料学の４部構成により考察。これまでの研究成果を集成した待望の書。
978-4-642-04650-3　(19.2)

鈴木靖民編
日本古代の地域社会と周縁
A５判　378頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉
日本国家の起源から14世紀まで、日本の地域社会はどのように発展していったのか。首長制や特産品・交通路のほか、北海道から琉球まで、周縁を扱った論考15編を収録。新しい知見を提示し、研究に新地平を切り開く。
978-4-642-02491-4　(12.3)

鈴木靖民編
日本古代の王権と東アジア
A５判　410頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉
日本国家の起源から11世紀まで、古代王権は東アジア世界の影響をどのように受けて発展していったのか。都市や権力、交易や文化交流などを扱った珠玉の論考18編を収録。新知見を提示し、研究に新地平を切り開く。
978-4-642-02492-1　(12.3)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

仁藤敦史著
古代王権と東アジア世界
Ａ５判　364頁　**11,000円**(10,000)

古代の中国や朝鮮三国、倭国はどのような世界観のもとで外交を展開したのか。卑弥呼の共立や任那日本府の問題から内政の矛盾や多様な対外交渉のあり方を解明。一国史的な視点を乗り越え、王権の形成過程を追究する。
978-4-642-04680-0　(24.2)

大橋信弥著
古代の地域支配と渡来人
第４回渡来文化研究大賞受賞
Ａ５判　486頁　**13,200円**(12,000)

近江を舞台に、大和政権による地域支配の様相を、有力豪族と王権との関係、渡来人の果たした役割、渡来氏族の氏族形成過程などから考察。既存の資史料だけでなく、新出文字資料を駆使して、古代王権の支配構造に迫る。
978-4-642-04655-8　(19.8)

篠川　賢著
古代国造制と地域社会の研究
Ａ５判　288頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉

近年、７世紀代の木簡発見や宮都の調査によって大化前代の研究が進み、国造制についても新たな成果が発表されている。「国造」の語義、東国国司詔の意味、神賀詞奏上と出雲の特殊性など、最新の国造制研究を論述する。
978-4-642-04653-4　(19.2)

重見　泰編
日本古代都城の形成と王権
Ａ５判　376頁　**12,100円**(11,000)

古代の王宮は天皇の支配体系を示す舞台装置であった。飛鳥の諸宮や難波宮の殿舎の機能、藤原京の造営計画、さらに天皇の正統性を主張する儀礼を考察。天皇が抱いた王権の構想と律令制都城の形成を新たな視点で描く。
978-4-642-04659-6　(20.11)

小笠原好彦著
古代宮都と地方官衙の造営
Ａ５判　400頁　**12,100円**(11,000)

飛鳥時代から奈良時代の宮都と地方官衙は、どのように造営されたか。特に聖武天皇が造った宮都の構造を考古学的に検証し、また宮都の造営に不可欠な木材の調達を解明。さらに国衙・郡衙遺構から地方支配の実像を追う。
978-4-642-04671-8　(22.12)

北村優季著
平城京成立史論
Ａ５判　352頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

古代都市史研究に、都城制の解明は欠かせない。「都市とは何か」という命題のもとに考察した、平城京に関する諸論考を集成する。唐の都城とも比較しつつ、文献史料を精査して、長岡京・平安京へ続く古代都市の実像に迫る。
978-4-642-04610-7　(13.11)

十川陽一著
日本古代の国家と造営事業
Ａ５判　304頁　**8,250円**(7,500)〈僅少〉

古代日本では、なぜ宮都や寺社などの大規模な造営事業が繰り返し行われたのか。宮都造営や、技術労働の実態を検証し、歴史的役割・意義を検討。日唐の比較から、造営事業の位置づけを図り、律令国家の特質を解明する。
978-4-642-04602-2　(13.1)

海野　聡著
奈良時代建築の造営体制と維持管理
Ａ５判　358頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉

奈良時代の中央や地方の建築物はいかに造営、維持管理されてきたのか。文献史料の検討により、建築史に維持管理という新概念を導入。地方独自の技術の存在と中央の技術との接点を指摘して、従来の古代建築史を捉え直す。
978-4-642-04626-8　(15.12)

内田和伸著
平城宮大極殿院の設計思想
平成 24 年度日本造園学会賞受賞
Ｂ５判　368頁　**17,600円**(16,000)〈僅少〉

平城宮の中心であり国家的儀礼の場であった大極殿と大極殿院。その空間構成と背景にある思想を、古代中国の天文学から解明。近代における顕彰や展示にも言及し、平城宮の本来的機能に即した遺跡活用の今後を模索する。
978-4-642-02480-8　(11.4)

馬場　基著

日本古代木簡論

A５判　368頁　**10,450円**(9,500)

木簡は、どのような場面でいかに作成・使用・廃棄されたのか。形態・出土地点や内容・書式・書風・素材を複合的に分析し、古代史研究に活かす方法を提示。律令時代の都城の様相、行政運営の実態、人々の暮らしを描く。

978-4-642-04647-3　(18.6)

平川　南著

古代地方木簡の研究

A５判　696頁　原色口絵4　単色口絵8　**15,400円**(14,000)〈**僅少**〉

地方の古代遺跡出土の木簡を通して、その特色、正倉院文書など紙の文書との関係や、地方における文書行政を考察。さらに出挙、農業、城柵経営、信仰など、古代地方社会に関わる重要テーマについての実態を読み解く。

978-4-642-02380-1　(03.2)

寺崎保広著

古代日本の都城と木簡

A５判　416頁　**11,000円**(10,000)〈**僅少**〉

古代日本の都城はいつ成立し、どう機能していたのか。木簡は何を語るのか。平城京の性格と時代的変遷、長屋王家木簡、飛鳥池遺跡の木簡など発掘成果をもとに考察。現状と課題を示し、新たな日本古代史像を構築する。

978-4-642-02454-9　(06.12)

黛　弘道編

古代国家の政治と外交

A５判　278頁　**9,460円**(8,600)〈**僅少**〉

古代国家の諸問題を、新たな視点より考察する。奇姓「音太部」をはじめ、倭王武の上表文、倭の五王の通宋、不改常典などを取り上げ、その実態を解明し、あわせて『播磨国風土記』等に論及。古代の実像を探る意欲的な論集。

978-4-642-02357-3　(01.1)

大橋泰夫著

古代国府の成立と国郡制

A５判　254頁　**10,450円**(9,500)

古代国家の地域支配の舞台装置として機能した地方官衙は、どのように形成されたのか。発掘調査が進む各地の官衙遺跡を考古学的に分析。国府や郡衙などの造営過程や建物構造から、律令制下の地方統治の実態を読み解く。

978-4-642-04649-7　(18.6)

森田　悌著

王朝政治と在地社会

A５判　292頁　**9,900円**(9,000)〈**僅少**〉

謀略渦巻く古代の政治や東国社会の実態に迫る。長屋王の変、宇佐八幡宮神託事件、廃太子早良親王と菅原道真の怨霊などを解明。交通路、氷川神社をはじめ東国の様子や典籍にも説き及び古代社会の全体像を鮮やかに描く。

978-4-642-02443-3　(05.12)

繁田信一著

陰陽師と貴族社会

A５判　352頁　**9,900円**(9,000)

平安貴族は、神仏や霊鬼の祟りに対して用いた陰陽師や呪術をどのように認識していたのか。古記録を読み解き、安倍晴明など官人陰陽師や法師陰陽師の実像、医療・呪詛などの職能を解明。平安貴族の心性を浮び上がらせる。

978-4-642-02398-6　(04.2)

森　公章著

在庁官人と武士の生成

A５判　304頁　**11,000円**(10,000)〈**僅少**〉

平安期、古代豪族の周辺で地方支配の新たな担い手となった武士たち。国衙機構の成立・変遷を解明し、武芸を体現する「相撲人」と古代豪族の関係を追究。従来の源平両氏中心とは異なる武士成立の道筋を探る注目の書。

978-4-642-04608-4　(13.9)

森　公章著

平安時代の国衙機構と地方政治

A５判　404頁　**13,200円**(12,000)

尾張国郡司百姓等解文・清胤王書状群・高山寺本古往来・吏途指南・半井家本『医心方』紙背文書など、平安時代の国衙の様相を示す史料を読み解き、地方政治を考察。一部史料には訓読文を併載し、研究の基礎を提供する。

978-4-642-04681-7　(24.6)

森　公章著

倭国の政治体制と対外関係

A５判　336頁　**10,450円**(9,500)

乙巳の変の後、中心人物であった中大兄皇子と中臣鎌足はいかなる動向を見せるのか。既存の文献と出土文字資料を総合し、諸制度の運用や地方支配の状況、激動する東アジア情勢への介入など、倭国内外の実態を詳解する。

978-4-642-04677-0　(23.12)

大井晴男著

アイヌ前史の研究

B５判　998頁　原色口絵8　**39,600円**(36,000)〈僅少〉

文字をもたないアイヌの歴史には考古学的方法と資料が欠かせない。本書は先アイヌ文化「擦文文化」の成立と展開を論証。さらに、考古学的視点から蝦夷関係史料を読み直し、日本国家史の中での異族・アイヌの歴史を探る。

978-4-642-07728-6　(04.2)

今泉隆雄著

古代国家の東北辺境支配

(日本史学研究叢書)

A５判　596頁　**15,400円**(14,000)〈僅少〉

考古学・文献史学双方への深い理解をもとに東北の城柵に視座を据え古代国家の東北辺境支配の構造と展開を解明、さらに蝦夷社会の実像にも迫る。著者が心血を注いだ遺稿にもとづき、東北古代史研究の到達点を示す。

978-4-642-04622-0　(15.9)

今泉隆雄著

古代国家の地方支配と東北

A５判　280頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉

文献史学・考古学双方による古代史研究を牽引した著者の業績を、未発表稿を含め集成。按察使や郡司など地方制度の実証的研究とともに、陸奥南部＝南奥に光をあて東北古代史を見直し、古代国家の地方支配の実像に迫る。

978-4-642-04641-1　(18.1)

細井　計編

東北史を読み直す

A５判　316頁　**8,800円**(8,000)〈僅少〉

近年、目覚ましい進展を遂げている東北史研究。その最前線で活躍している研究者10名が、古代から近世にいたる重要な論点を解明した最新の研究成果。斬新な切り口で東北史に関わる課題を追究し、新知見を提示する。

978-4-642-01366-6　(06.2)

直木孝次郎著

日本古代の氏族と国家

A５判　270頁　**6,050円**(5,500)〈僅少〉

日本古代史の重要テーマである氏族と国家の関わりをはじめ、東アジアの国際関係、信濃遷都計画、伊勢神宮の成立、古墳と宮跡、木簡、奈良期の地名など、史料を駆使して解明。様々な切り口で新たな古代史像を提示する。

978-4-642-02442-6　(05.12)

鈴木正信著

日本古代の氏族と系譜伝承

A５判　520頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉

古代氏族の系譜や伝承は、彼らの祖先が王権に奉仕した起源を説いたものであり、氏族の政治的地位の正統性を主張する役割を担った。『円珍俗姓系図』や『海部氏系図』などの分析を通して、古代氏族の実態と諸相に迫る。

978-4-642-04636-7　(17.5)

佐藤雄一著

古代信濃の氏族と信仰

A５判　280頁　**10,450円**(9,500)

馬の産地、東方諸国との交通の要衝として古代王権から重視された信濃。牧を運営し中央とも繋がる有力豪族の動向や、諏訪信仰の対象が変化する社会的背景を分析。氏族と信仰を切り口に新たな古代信濃史像を提示する。

978-4-642-04662-6　(21.8)

河内祥輔著

古代政治史における天皇制の論理〈増訂版〉

四六判　328頁　**3,300円**(3,000)

日本の古代政治史には、独特の論理が貫徹している。その基調にあるものこそ、天皇制の価値観(直系主義)ではなかろうか。古代政治史の諸事件に独自の解釈を加え、新たな全体像を提起する。旧版を全面的に増補改稿。

978-4-642-08260-0　(14.10)

西本昌弘著
平安前期の政変と皇位継承
A５判　296頁　**9,900円**(9,000)

桓武天皇の後、皇子の平城、嵯峨、淳和兄弟が順に皇位を継いだが、先帝の重臣が政変で排除されるなど不安定な状況が続いた。藤原種継暗殺事件や薬子の変、承和の変を詳細に検討し、平安前期政治史の流れを明らかにする。
978-4-642-04667-1　(22.3)

安田政彦著
平安時代の親王と政治秩序
―処遇と婚姻―
B５判　252頁　**15,400円**(14,000)

平安時代の親王について、その処遇、親王・内親王の賜姓と婚姻、正史にみえる親王の序列の記載などに関する論考を集成して実態を追究。親王研究の新たな進展をめざす。皇親・源氏の婚姻関係を一覧できる系図を付載。
978-4-642-04684-8　(24.10)

大橋信弥著
古代豪族と渡来人
A５判　436頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

大陸や朝鮮半島からの人々の渡来や文化の伝播は、古代国家形成に重要な役割を果たした。大和政権とも深くかかわる息長氏などの近江の古代豪族と渡来文化の関係や、志賀漢人・依知秦氏などの渡来氏族の活動を多角的に解明。
978-4-642-02434-1　(04.12)

岡田荘司著
古代天皇と神祇の祭祀体系
A５判　358頁　**10,450円**(9,500)

古代天皇の祭祀制は、伊勢と出雲を東西の横軸、天皇に祟る神の循環型機能を縦軸として展開したが、平安前期から天皇直轄祭祀が機能し変容していく。現代神道にも影響した、律令制形成期の天皇と神祇の祭祀体系を考察。
978-4-642-04668-8　(22.2)

木村大樹著
古代天皇祭祀の研究
A５判　380頁　**12,100円**(11,000)

大嘗祭・神今食（じんこんじき）などの天皇祭祀には、今なお不明瞭な点が多い。古代天皇祭祀の実態を神饌供進儀（しんせんきょうしんぎ）から分析し、御体御卜（みうらのみうら）などの周辺諸祭儀との関連を考察。現代へつながる意義を追究し、国家祭祀との二重構造論を展望する。
978-4-642-04665-7　(22.1)

小林宣彦著
律令国家の祭祀と災異
A５判　348頁　**12,100円**(11,000)

律令国家は災異から共同体を保全するため、豊穣・防疫を祈り収穫を感謝する祭祀を、いかに国家祭祀として制度化していったのか。神仏習合、神郡の成立、神階奉授などを分析し、歴史学と宗教学両面から実態を解明する。
978-4-642-04654-1　(19.2)

三宅和朗著
古代の王権祭祀と自然
A５判　378頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉

自然界に由来する神々を統治の対象とした古代の王権祭祀とはどのようなものだったのか。７世紀頃から平安期まで、文献史料を中心にその特質を考察。自然現象に対する人々の心性も探り、神々や祭りの信仰世界を解明する。
978-4-642-02467-9　(08.6)

榎本淳一著
唐王朝と古代日本
A５判　304頁　**11,000円**(10,000)

古代日本に中国文化はどう流入したのか。対外方針と「渡海制」、唐代の出入国管理制度、漢籍将来などから外交関係を解明。唐代朝貢体制を基軸に日唐外交を捉え直し、文化流入の実態と遣唐使停止後の日本文化の変容を考察。
978-4-642-02469-3　(08.7)

大山誠一著
日本古代の外交と地方行政
A５判　264頁　**6,600円**(6,000)〈僅少〉

古代日朝関係の重要テーマ「任那日本府」の実態を解明するなど、5・6世紀の朝鮮三国や中国との外交について詳細に論究。また、内政では、浜名郡輸租帳や入間郡の神火事件の分析を通し、地方政治の実情をあぶりだす。
978-4-642-02344-3　(99.12)

森　公章著
遣唐使と古代対外関係の行方
—日唐・日宋の交流—
A５判　344頁　**10,450円**(9,500)
古代の対外関係の解明に不可欠な遣唐使。派遣に際し、朝廷や摂関家はどのように判断し、事業はいかなる経過を辿ったのか。遣唐使がもたらした文物や人的関係、廃止後の日宋関係など、古代対外関係史の全体像を究明する。
978-4-642-04670-1　(22.12)

宮川麻紀著
日本古代の交易と社会
A５判　296頁　**10,450円**(9,500)
律令国家は都城を支える流通経済の仕組みをいかにして作り上げたのか。東西市と地方の市に注目し、管理方針の違いを考察。また交易価格の検討から地方経済の実態を究明する。「実物貢納経済」の実像に鋭く迫った注目の書。
978-4-642-04658-9　(20.3)

田中史生著
国際交易と古代日本
A５判　304頁　**10,450円**(9,500)
古代の日本は、周辺海域で活発化する国際交易とどう向き合ったのか。管理交易体制や、支配層と海商・唐物との多様な関係、交易拠点の地域史から、古代日本の国家・社会の展開と国際交易者たちとの関係性を捉え直す。
978-4-642-02495-2　(12.5)

浜田久美子著
日本古代の外交と礼制
A５判　386頁　**11,000円**(10,000)
君主の徳の規範であった中華の礼制は、周辺国間の外交にも影響を及ぼした。外交儀礼や外交文書、新羅や渤海との外交の分析から、法の整備に一元化されてきた律令国家の展開過程に、礼の整備の局面があることを論じる。
978-4-642-04666-4　(22.2)

篠崎敦史著
平安時代の日本外交と東アジア
A５判　328頁　**11,000円**(10,000)
10～12世紀の日本と東アジア諸国との国際関係を考察。渤海・高麗との交流や、渡海巡礼僧の動向からみた宋との関係などを追究。日本朝廷の“外交”と背後の国際的環境に新たな視座を確立し、中世以降への展望を示す。
978-4-642-04675-6　(23.11)

酒寄雅志著
渤海と日本
A５判　268頁　**4,180円**(3,800)
唐を基軸とした古代東アジアの国際秩序の中で、なぜ渤海と日本の友好関係はつづいたのか。王位継承や統治機構の実態、交通路の開拓を多角的な視点で解明。戦争に翻弄された研究史にも着目し、わかりやすく解説する。
978-4-642-04679-4　(24.1)

古瀬奈津子編
東アジアの礼・儀式と支配構造
A５判　328頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉
中国で体系化された礼制は、日本で受容されて儀式に結実した。日中両国において、礼・儀式はいかに発展・変容したのか。周辺諸国との交流も視野に収め、東アジアに通底する支配構造を追究した、日中共同の比較史研究。
978-4-642-04628-2　(16.3)

永田英明著
古代駅伝馬制度の研究
A５判　350頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉
日本古代の交通制度＝駅伝馬制の研究は、律令国家の支配構造の解明に不可欠である。駅伝馬制の機能的展開や経営構造に分析を加え、その政治的・歴史的性格を探る。文献史学の方法論により制度の実態を追究した意欲作。
978-4-642-02399-3　(04.1)

岸本雅敏著
日本古代の塩生産と流通
B５判　248頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉
モノとして遺存しない古代の塩の研究は困難である。製塩土器などの考古資料と木簡・正倉院文書などの文献史料を駆使し、律令国家による生産・流通の掌握、原始・古代における社会的意味、東西日本の差異などを究明。
978-4-642-04664-0　(21.10)

佐藤文子著
日本古代の政治と仏教
—国家仏教論を超えて—
A５判　296頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉

得度と為政者との関係、天皇権の発動契機の分析から、日本古代の権力を追究。中央集権的な律令国家が、仏教を興隆し統制したという従来の理解を乗り越え、あらたな地平に立って、〈国家仏教〉論の成立過程を解明する。
978-4-642-04640-4　(18.1)

藤本　誠著
古代国家仏教と在地社会
—日本霊異記と東大寺諷誦文稿の研究—
A５判　392頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉

『日本霊異記』『東大寺諷誦文稿』の史料論的考察をおこない、地方の「寺」や「堂」と称される仏教施設での説法の様子や階層性を分析。日本古代の在地社会における、多様で重層的な仏教受容のあり方と特質を解明する。
978-4-642-04634-3　(16.12)

須田　勉著
日本古代の寺院・官衙造営
—長屋王政権の国家構想—
A５判　304頁　**11,000円**(10,000)

藤原不比等の後を継いだ長屋王時代地方政策を、考古学の立場から考察する。多賀城・下野薬師寺・大宰府などの造営が、地方反乱を契機とすることを解明。坂東の寺院整備にも注目し、長屋王時代の国家構想を追究する。
978-4-642-04606-0　(13.4)

梶原義実著
古代地方寺院の造営と景観
第７回住田古瓦・考古学研究奨励賞受賞
B５判　232頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉

飛鳥寺の造営以降、全国には数多くの寺院が建立された。大きな労力を伴う寺院造営がなぜ行なわれたのか。造営場所に選ばれた立地(景観)に着目し、各地の事例を詳細に検証。地方社会のなかでの寺院の多様性を探る。
978-4-642-04638-1　(17.11)

木下　良著
日本古代道路の復原的研究
A５判　572頁　**15,400円**(14,000)〈僅少〉

七道の駅・伝路に代表される古代国家の計画道路。駅家、郡家、交通関係の地名や条里遺構、地図、空中写真から古代道を探る方法を提示する。現地調査の必要性と注意を指摘するなど、古代道路の第一人者の研究を集大成。
978-4-642-04605-3　(13.5)

平川　南著
墨書土器の研究
A５判　536頁　原色口絵4　単色口絵12　**13,200円**(12,000)〈僅少〉

各地から大量に出土する墨書土器。古代の文字の始まりをはじめ、膨大な出土例を通して古代社会の実相を追究し、文字と言葉の関連等に言及する。第一人者が広く研究方法確立の必要性を説き古代史研究に新指針を提示。
978-4-642-02354-2　(00.11)

三上喜孝著
日本古代の文字と地方社会
A５判　358頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

日本の古代社会において、どのように文字は受容され文化を形成し、また文書行政が行われたのか。地方で出土した木簡・漆紙文書・墨書土器や韓国出土の文字資料を検討し、古代日本の文字文化の受容と展開の様相を描く。
978-4-642-04607-7　(13.8)

西本昌弘著
日本古代の年中行事書と新史料
A５判　376頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

新史料の存在が明らかになってきた儀式・年中行事書。東山御文庫蔵の藤原行成編纂『新撰年中行事』など新出の書物・逸文を多数紹介し、新たな論点を提示する。史料的制約の多い古代史研究に新地平を拓く労作。
978-4-642-02489-1　(12.2)

米田雄介著
正倉院宝物と東大寺献物帳
A５判　428頁　原色口絵8　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

聖武天皇遺愛の品々であり、東大寺盧舎那仏に献納された正倉院宝物。その目録である『国家珍宝帳』など５通の献物帳を紹介し、多種に及ぶ宝物の性格を捉え直す。また、長い間伝来してきた歴史的意義についても論じる。
978-4-642-04644-2　(18.3)

価格は 10％税込、(　)内は本体価格

柳　雄太郎著
律令制と正倉院の研究
A５判　378頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉
律令制下の公文書制度や駅伝制、正倉院の諸課題を考察した論考を収録する。宣命と詔書、勅符、国史編纂の原史料、また駅伝制の成立及び再編成の過程、正倉院の献物帳や出納関係文書と律令制との関連などに検討を加える。
978-4-642-04617-6　(15.2)

皆川完一著
正倉院文書と古代中世史料の研究
A５判　720頁　**22,000円**(20,000)〈僅少〉
『尊卑分脈』『花押かがみ』の校訂・編纂、正倉院文書の研究など、学界に多大な貢献をなした著者の足跡を集成。正倉院文書を中心とする古代中世の諸史料に関する研究など、主要な業績を収める。史料学研究に必読の一冊。
978-4-642-02500-3　(12.11)

西　洋子著
正倉院文書整理過程の研究
A５判　368頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉
正倉院文書は、幕末から明治にかけて整理、成巻の際に原形が損なわれた。その過程を詳述し、明治期の写本・目録から、いつの時点で現状の形に変えられたかを考察。研究史料とする際に欠かせない原形の把握を試みる。
978-4-642-02370-2　(02.1)

増尾伸一郎著
日本古代の典籍と宗教文化
A５判　336頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉
大陸・朝鮮半島から伝来した儒教・仏教・道教などの宗教文化は、古代社会でいかに醸成されたのか。古代の典籍を総合的に捉え、その思想的背景を探る。東アジア世界のなかで、古代日本の〈知の営み〉を探究した論考を集成。
978-4-642-04623-7　(15.8)

三舟隆之・馬場　基編
古代の食を再現する
―みえてきた食事と生活習慣病―
A５判　316頁　**3,520円**(3,200)
古代の日本人は食べ物をどう加工し、調理していたのか。「正倉院文書」、さらに土器や木簡まで総動員して古代食の再現に挑戦。そこから意外な病気との関係も明らかに。学際的な研究からみえてきた知られざる食生活とは。
978-4-642-04661-9　(21.6)

三舟隆之・馬場　基編
古代寺院の食を再現する
―西大寺では何を食べていたのか―
A５判　232頁　**3,520円**(3,200)
平城京最後の大寺院西大寺。食堂院跡から見つかった巨大な井戸、大型の甕、製塩土器、魚や動物の骨、植物の種などを科学分析も取り入れ徹底調査。魚肉は食べないとされていた定説に再考を提起し、未解明の課題に挑む。
978-4-642-04673-2　(23.4)

三舟隆之・馬場　基編
カツオの古代学
―和食文化の源流をたどる―
A５判　304頁　**3,520円**(3,200)
和食に欠かせないカツオ。古代には税として駿河・伊豆から都に運ばれたが、保存加工法は謎が多い。土器や木簡などを再検証し、最新の科学技術による分析で古代の調理法を再現。今なお続くカツオ文化の基層に迫る。
978-4-642-04683-1　(24.6)

三宅和朗著
古代の人々の心性と環境
―異界・境界・現世―
A５判　378頁　**5,280円**(4,800)〈僅少〉
現代の大都会とは異なる暗い夜、静かな音の風景のなか、古代の人々は研ぎ澄まされた五感を介して何を感じていたのか。生活空間の周囲に広がる異界と人々との関わりから、彼らの心性に迫り、現代の社会や環境を見直す。
978-4-642-04630-5　(16.6)

三宅和朗著
日本古代の環境への心性史
―感性から読み解く環境史―
A５判　384頁　**7,480円**(6,800)
さまざまな自然災害に直面した古代の人々。彼らは身近な人間も含めて、周囲の環境に五感を介して、何を感じ、何を見出していたのだろうか。生物学の主観的な環世界説を出発点に据え、環境への心性史を新たに構築する。
978-4-642-04663-3　(21.8)

義江明子著
日本古代女性史論
A５判　388頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉
日本古代の女性は地域社会のなかでどのように生きたのか。〝家族〟を超えた社会的な役割と、〝女＝聖〟という霊的優位性の観念を批判的に再検討。生活・祭祀・家族を総合する視点から、古代女性の実像を解き明かす。
978-4-642-02456-3　(07.2)

伊集院葉子著
日本古代女官の研究
A５判　342頁　**9,900円**(9,000)

律令制度は女性を官僚機構から〈排除〉する一方、重要政務を課し行政運営のなかに〈包摂〉した。この矛盾した構造下での地位はいかなるものだったのか。令制以前から平安期の女官の実態を追究し、政治的役割に迫る。
978-4-642-04631-2　(16.10)

鈴木理恵編
家と子どもの社会史
―日本における後継者育成の研究―
A５判　320頁　**7,700円**(7,000)

「家」を基礎単位とする前近代日本社会には、独自の育成機能や、それを支えた親族や同職仲間の役割があった。歴史学・文学・教育学・社会学の研究者が一堂に集い、後継者育成がどのように行われたのかを実証的に解明する。
978-4-642-01667-4　(22.3)

服藤早苗著
平安王朝の子どもたち
―王権と家・童―
A５判　336頁　**8,360円**(7,600)

平安王朝の子どもの実態をジェンダーの視点から追究。父親が子を認知する歴史的成立過程、殿上童の役割と童舞の意義、成人式までの生育儀礼を探り、家や親権、身分秩序との関わり、婚姻と居住形態の本質などに迫る。
978-4-642-02431-0　(04.6)

新川登亀男著
創られた「天皇」号
―君主称号の古代史―
四六判　368頁　**3,850円**(3,500)

天皇という称号は、いつから使われるようになったのか。中国に起源をもつ成り立ちや含意をひもとき、天子・皇帝ほかの呼称があったなか天皇が選択された理由に迫る。称号をつうじて、日本国家のかたちを問いかける。
978-4-642-04682-4　(24.6)

東海林亜矢子著
平安時代の后と王権
A５判　276頁　**9,900円**(9,000)

摂関政治の成立・展開において、后(きさき)の権限はどのように変化したのか。内裏後宮という場所と、そこでの儀式を切り口に、立場と役割を明らかにする。王権と密接に関わり権威が上昇した経緯を分析し、社会構造を捉え直す。
978-4-642-04642-8　(18.2)

佐藤　信編
史料・史跡と古代社会
A５判　564頁　**14,300円**(13,000)〈僅少〉

日本各地に残された史料・史跡などを分析し、古代の国家と社会の実態を独自の角度から考察する論集。「古代の史料」「史跡と都城」「地方支配と社会」をテーマに、最新の論考21編を収め、古代史の新知見を提示する。
978-4-642-04645-9　(18.3)

久保常晴著
日本私年号の研究　(新装版)
A５判　556頁　口絵18　**15,400円**(14,000)〈僅少〉

日本には朝廷が定めたものではない「私年号」が存在した。それらが記された史料や金石文を博捜し、その信憑性、使われた地域や年代、込められた人々の思いから、史的背景と本質を解明。非公年号研究の名著、初の復刊。
978-4-642-02906-3　(12.1)

木宮泰彦著
日本古印刷文化史　(新装版)
A５判　824頁　原色口絵4　**13,200円**(12,000)〈僅少〉

奈良時代の創始期から江戸時代の活字版興隆期まで850年の印刷文化を、近隣諸国との文化交流も絡ませて系統的に叙述。古刻書題跋集と古刻書索引を付載する。文化史・書誌学には不可欠の稀覯書、40年振りの復刊。
978-4-642-01653-7　(16.1)

木宮泰彦著
日華文化交流史　(新装版)
A５判　932頁　口絵26　折込1　**24,200円**(22,000)

古代から近世にいたる日中交流を系統的かつ概括的に描いた大著。遣隋使・遣唐使、往来した僧侶や船舶の一覧表、通交年表などを収載し、基礎資料として必備。日中関係史研究の先駆的存在といえる名著、待望の新装復刊。
978-4-642-01671-1　(24.1)

平川　南・沖森卓也・栄原永遠男・山中　章編
流通と文字
(文字と古代日本③)
A５判　348頁　原色口絵4　**6,930円**(6,300)〈僅少〉

文字は古代の経済にどのように関わっていたのか。予算・決算書、租税台帳、借金の証文、品物札、通行証などを通して、文字がコントロールした流通経済の姿を再現。古代の情報管理を支えた文字の実態を具体的に解明する。
978-4-642-07864-1　(05.7)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

モノと技術の発展をテーマごとに解説。〈日本のモノ作り〉をあらためて見直す！

モノと技術の古代史　全4冊

【続刊】漆工編…永嶋正春編

村上恭通編
金　属　編

A５判　312頁　原色口絵4
6,600円(6,000)

青銅や鉄を弥生文化に取り入れて以降、日本の金属器文化はどのように発展したのか。生活に欠かせない利器や祭器・装身具など、金属器の加工技術や製品の使用方法に着目しながら、古代日本人のモノ作りを見直す。
978-4-642-01737-4　(17.3)

小林正史編
陶　芸　編

A５判　286頁　原色口絵4
6,600円(6,000)

貯蔵・調理・食事に使われた壺・甕、鍋釜、鉢・坏などの土器。民族誌の比較に基づいて各器種の使い方を解明し、時期や地域ごとに形・作りが異なる理由、および必要とされる形・作りを得るための製作技術の工夫を描く。
978-4-642-01738-1　(17.10)

宇野隆夫編
木　器　編

A５判　288頁　原色口絵4
6,600円(6,000)

「木の文化」が発達した日本列島では、多種多様な森林資源を様々な道具に作り変え、日常生活で巧みに使い分けてきた。単なる用途論から脱して、木器研究を考古学の技術史研究の立場から検討し、新たな地平を開く。
978-4-642-01739-8　(18.5)

古代の人やモノは、どのように移動し、交流が生まれ、情報が伝わったのか？

日本古代の交通・交流・情報　全3巻

舘野和己・出田和久編
①制度と実態

A５判　336頁
6,050円(5,500)〈僅少〉

交通・交流・情報が、社会の中で果たす役割は大きい。律令制下では、国家により官道と駅伝制が整備され、地方支配や軍事活動に利用された。古代日本の交通制度とその実態を、東アジアの制度も視野に入れ明らかにする。
978-4-642-01728-2　(16.2)

舘野和己・出田和久編
②旅と交易

A５判　334頁
6,050円(5,500)〈僅少〉

古代では、天皇から商人まで様々な人が旅をし、使節や僧侶らが海を渡った。同時に人の移動はモノを運び情報をもたらし、文化が伝わった。文学作品や記録から、多様な旅の実態を再現し、情報の伝達・広がりを考える。
978-4-642-01729-9　(16.6)

舘野和己・出田和久編
③遺跡と技術

A５判　388頁
6,050円(5,500)

近年、道路・駅家などの古代の交通施設の遺構が各地で発見され、考古学や歴史地理学の成果から古代交通のイメージが一新されている。交通施設と交通に関わる技術から古代交通の様相を具体的に描き、その景観を考える。
978-4-642-01730-5　(16.8)

角田文衛の古代学　全4巻

A５判　品切＝①

文献史学と考古学を統合した「古代学」を樹立した角田文衛博士。昭和末に刊行した『著作集』に未収の自叙伝や萌芽的初期論文、ヨーロッパや平安王朝に関する論文などを収録。角田史学の成果を集大成し、全容を明らかにする。　平均400頁

(2)王朝の余薫	**5,500円**(5,000)〈僅少〉	978-4-642-07897-9	(20.12)
(3)ヨーロッパ古代史の再構成	**5,500円**(5,000)〈僅少〉	978-4-642-07898-6	(21.3)
(4)角田文衛自叙伝	**5,500円**(5,000)〈僅少〉	978-4-642-07899-3	(17.10)

栗山圭子著
中世王家の成立と院政
A５判　272頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉
院政の基盤となった「家」の形態とは、いかなるものだったのか。院宮の家政機関の変容、准母立后、天皇生母の政務関与といった要素を検証し、その実態を解明。中世王家の形成過程を明らかにし、院政との連関を論じる。
978-4-642-02910-0　(12.12)

樋口健太郎著
中世王権の形成と摂関家
A５判　300頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉
中世において天皇・王家は本当に摂関家から自立していたのか。天皇の後見・補佐という摂関の職掌に着目し、中世王権論・王家研究を再検討。王権全体の枠組みを通して、摂関家の中世後期に至る展開を論じ新見解を示す。
978-4-642-02948-3　(18.10)

美川　圭著
院政期の都市京都と政治
A５判　336頁　**9,900円**(9,000)
摂関政治から院政へと向かう政治の転換期、京都はいかに変貌してきたのか。鳥羽殿・宇治・六波羅など、権門都市のあり方を追究。院と天皇の関係や貴族政治の実態、関連する冷泉家時雨亭文庫所蔵史料の特質も言及する。
978-4-642-02989-6　(24.8)

元木泰雄著
中世前期政治史研究
A５判　440頁　**9,900円**(9,000)
内乱を招きつつ政治構造が変化した中世前期。天皇家・公家・武家など権門の動向を軸に公武政権の展開を辿り、都市と王権とのかかわりを解き明かす。受領や院近臣をめぐる諸相にも迫り、家格の成立や身分秩序を問い直す。
978-4-642-02988-9　(24.9)

佐々木宗雄著
日本中世国制史論
A５判　336頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉
日本中世の国制の変遷を、初期―前期―後期に分け、その実態を論じる。著者独自の視点をもとに初期中世国家論を再構成し、さらに高麗の国制を検討しつつ、鎌倉・室町期の国制を解明して、その体制の終焉までを見通す。
978-4-642-02946-9　(18.5)

錦織　勤著
中世国衙領の支配構造
A５判　378頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉
中世の国衙領支配とはどのようなものだったのか。通説を再検討し、郡郷と別名が重層的な支配関係にあったことを検証。中世的郡郷の成立や別名の形成、国使の性格などの諸問題にも説き及び、国衙領支配の実態を究明。
978-4-642-02846-2　(05.12)

古澤直人著
中世初期の〈謀叛〉と平治の乱
A５判　400頁　**13,200円**(12,000)
律令では天皇・朝廷への反逆とされた「謀叛」は、中世初期にはいかなる法概念に変わったのか。謀叛の代表的事例だが古記録に欠ける平治の乱を綿密に検証。「謀叛」呼称の意味・思想等を考察し、御成敗式目の法構造に迫る。
978-4-642-02953-7　(19.1)

木村茂光著
日本中世百姓成立史論
A５判　320頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉
中世の「百姓」はいかに成立したのか。解状・申状など上申文書の形式や身分呼称の変遷を分析し、百姓の成立過程に迫る。また、「御成敗式目」42条を読み直し、百姓とイエとの特質を解明して新たな中世史像を展望する。
978-4-642-02919-3　(14.5)

鎌倉佐保・木村茂光・高木徳郎編
荘園研究の論点と展望
―中世史を学ぶ人のために―
B５判　336頁　**4,950円**(4,500)
中世社会を学ぶ上で不可欠な荘園の理解。膨大な先学の研究蓄積と論点をいかにして把握すべきか。列島各地の荘園21ヵ所を取り上げ、研究の現在地と史料状況を整理し、新たな課題を展望。荘園史の奥深い世界へと誘う。
978-4-642-02978-0　(23.1)

前田英之著
平家政権と荘園制
A５判　320頁　**8,800円**(8,000)〈僅少〉

平家政権と荘園制の確立との関係に着目し、平家領の形成過程や領有構造、軍役・一国平均役の徴収方式を精緻に分析。さらに、平家政権の方針が鎌倉期にも継承されたことを論じ、その歴史的役割をとらえ直す注目の書。
978-4-642-02939-1　(17.11)

朝比奈　新著
荘園制的領域支配と中世村落
A５判　346頁　**13,200円**(12,000)

村落と周辺地域を包摂する「領域型荘園」の前史として、文書に示された境界よりも在地の活動実態が反映された支配領域に着目し、「四至型荘園」を新定義。民衆の視点で村落形成を見通し、荘園制の転換過程を解明する。
978-4-642-02986-5　(24.2)

髙橋　傑著
中世荘園の検注と景観
A５判　400頁　**12,100円**(11,000)

荘園領主が荘園現地の人々と向き合った検注。荘園の実像を伝える検注帳の分析や検注の様相から、荘園制の展開に迫る。上野国新田荘などを例にＧＩＳ(地理情報システム)を用いた新たな景観復原の方法を提示する。
978-4-642-02977-3　(22.12)

似鳥雄一著
中世の荘園経営と惣村
A５判　390頁　**12,100円**(11,000)

室町期の荘園制は遠隔地からの支配という課題に直面していた。土地の収益や金銭・物資の出納など、膨大な帳簿データから経営実態に迫る一方、荘園・惣村の地理・領域的な構造を解明。中世の社会構造の変容を究明する。
978-4-642-02945-2　(18.4)

高木純一著
中世後期の京郊荘園村落
A５判　288頁　**8,800円**(8,000)

中近世移行期に村落が自立性を獲得していったとする議論は、実在の村をどこまで反映しているのか。室町期の東寺領山城国上久世荘における年貢収納のありようや武家権力との関係を検討し、移行期村落論に新知見を示す。
978-4-642-02971-1　(21.11)

峰岸純夫著
中世東国の荘園公領と宗教
A５判　384頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉

日本中世史研究を牽引してきた著者の業績を集大成。足利・安達氏らを輩出した荘園・公領の実態と宗教の展開を、文献・考古資料を渉猟し解明。遺跡の保存と地域史研究の重要性を説く。中世東国の全貌を明らかにする。
978-4-642-02854-7　(06.5)

伊藤　毅著
都市の空間史
第９回建築学会賞受賞
A５判　348頁　**9,900円**(9,000)

古代から近世への単なる移行期とされてきた中世都市。多様な構成要素のなかから、宗教都市論を基軸にアプローチを試みる。近世都市のあり方や建築と都市の関係にも論及、重層的な「空間」から新たな都市史を構築する。
978-4-642-03382-4　(03.2)

遠藤珠紀著
中世朝廷の官司制度
A５判　400頁　**14,300円**(13,000)〈僅少〉

朝廷を支える諸官司の運営システムは、時代の推移に伴い合理化が進められてきた。実務役の下級官人層の動向に注目し、近年研究が深化する中世の官司を検討。朝廷制度の特質から「国家」について考察し、実像に迫る。
978-4-642-02900-1　(11.5)

黒川高明著
源頼朝文書の研究　研究編
A５判　284頁　**9,900円**(9,000)

頼朝が発給した400通近く残る文書には、真偽の定まらないものも多い。料紙や筆跡・花押等の原本調査の知見に基づき疑わしき問題を追究。鎌倉殿の権限や草創期の幕府機構など、文書論の観点から究明した待望の論集。
978-4-642-02625-3　(14.7)

佐藤秀成著
鎌倉幕府文書行政論
A５判　344頁　**12,100円**(11,000)

武家政権として出発した鎌倉幕府は、武力行使のみでなく文書によって領域内を統治した。下文・下知状・御教書などを総覧し、幕府の文書行政を考察。地方統治の実態にも触れ、実証的な手法で幕府の全体像を再構築する。
978-4-642-02956-8　(19.2)

義江彰夫著
鎌倉幕府守護職成立史の研究
(日本史学研究叢書)
A５判　694頁　**19,800円**(18,000)〈僅少〉

鎌倉幕府の核をなす組織だった守護職(惣追捕使)の全貌に迫る大著。その先駆形態の生成、頼朝挙兵時代の守護成敗、文治守護勅許、守護職定着の歴史から、幕府の支配の論理を究明。守護成立史と中世成立期研究に必読。
978-4-642-02855-4　(09.9)

高橋典幸著
鎌倉幕府軍制と御家人制
A５判　336頁　**10,450円**(9,500)

中世の国制の中で、幕府は軍事とどのように関わり展開を遂げたのか。京都大番役や「某跡」賦課方式など、御家人制の諸相から幕府の特質を解明。異国警固番役や本所一円地など、室町期荘園制や武士団結合にも説き及ぶ。
978-4-642-02878-3　(08.9)

川合　康著
院政期武士社会と鎌倉幕府
A５判　320頁　**9,350円**(8,500)

鎌倉幕府成立の歴史的前提は何か。院政期の武士の移動などに着目し、治承・寿永内乱期の戦争と地域社会の動向を解明。また幕府成立後の武士社会が変容する過程を検証する。院政期武士社会から鎌倉幕府成立を捉え直す。
978-4-642-02954-4　(19.2)

秋山哲雄著
北条氏権力と都市鎌倉
A５判　362頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉

鎌倉末期を得宗専制とする従来の評価に疑問を呈し、都市鎌倉における北条氏の存在形態、全国の北条氏所領、守護のあり方など、北条氏権力の展開を再検討。考古学との協業も進展させ、鎌倉政治史研究の現状打破をめざす。
978-4-642-02861-5　(06.12)

稲葉伸道著
日本中世の王朝・幕府と寺社
A５判　398頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

中世国家は権門寺社に対してどのような関係を持ち、政策をとったのか。鎌倉期から建武政権期までを中心に、王朝や幕府が発した法令を検討。王朝と幕府の寺社保護・統制政策を追究した、著者長年の研究を集大成する。
978-4-642-02955-1　(19.3)

高橋慎一朗著
日本中世の権力と寺院
A５判　284頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉

武家と寺院は、それぞれ公家など既存権力との協力関係をテコに、社会における影響力を強めた。中世の象徴的な姿が凝縮された六波羅の実態を追究。注目されることが少なかった西山派教団に視点を据え、その動向を描く。
978-4-642-02932-2　(16.9)

齋藤慎一著
中世東国の領域と城館
A５判　338頁　**9,900円**(9,000)

中世後期、領主は支配のためにいかなる本拠と領域を設定したのか。様々な活動の中心的空間である本拠を論究。領域の境界の「境目の城」から、領主と領域の関係を考察し、本拠・領域における中世城館の性格を展望する。
978-4-642-02676-5　(02.5)

島津　毅著
日本古代中世の葬送と社会
A５判　366頁　**9,350円**(8,500)〈僅少〉

古代中世の人々はどのような遺体・遺骨観、霊魂観を持ち、いかに葬送を執り行っていたのか。葬送の時刻や儀礼・習俗、関与した人々と役割、葬送にかかる権益などを解き明かし、当時の死生観に迫る。900年間の日本葬送史。
978-4-642-04637-4　(17.9)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

勝田　至著
日本中世の墓と葬送
A５判　366頁　**8,800円**(8,000)

風葬・遺棄から仏教的葬儀・共同墓地へ。中世の葬墓制はいかなる変遷を遂げたのか。触穢・屋敷墓・京師五三昧など葬墓制の諸相から実態を究明。都の貴族・武士らの葬儀が、地方や庶民へ浸透する様相を明らかにする。
978-4-642-02851-6　(06.4)

松永和浩著
室町期公武関係と南北朝内乱
A５判　364頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

室町期における公武関係はどのように形成されたのか。南北朝内乱や室町殿の公家化が、公武関係や公家社会にいかなる変容をもたらしたのかを解き明かす。幕府の「権限吸収」に替わる新たな公武関係の枠組みを構築する。
978-4-642-02911-7　(13.2)

渡邉　俊著
中世社会の刑罰と法観念
A５判　286頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

古来、執行されてきた刑罰の中世的特徴とは何か。検非違使庁による罪人の拘禁・追放や財産没収の実態分析をもとに中世が成立する様相を追究。また、滅罪と清祓に注目し、神仏を核とする中世固有の法観念を解明する。
978-4-642-02899-8　(11.5)

谷口雄太著
中世足利氏の血統と権威
A５判　350頁　**10,450円**(9,500)

中世後期、足利氏とその一族(足利一門)は、自らを尊貴な存在と権威付けていた。なかでも別格の吉良・石橋・渋川の三氏(御一家)を具体的に検証。足利一門を上位とする武家の儀礼・血統的な秩序形成から崩壊までを描く。
978-4-642-02958-2　(19.11)

小川　信著
足利一門守護発展史の研究　(新装版)
A５判　834頁　**13,200円**(12,000)

中世政治史に新生面を開いた室町幕府・守護体制の実証的研究を新装復刊。足利一門(細川・斯波・畠山)の発展過程を追究し、三管領として政権の中枢を占めた理由を解明する。研究の進展に今なお寄与する労作。解説付。
978-4-642-02959-9　(19.10)

川岡　勉著
室町幕府と守護権力
A５判　376頁　**9,350円**(8,500)

中世後期の室町幕府―守護体制は、中央権門＝幕府と地域権力＝守護が、相互に補完し合い成立していた。室町期から戦国期へと武家権力はいかに変わっていったのか。権力構造と秩序の実態を解明し歴史的意義を探る。
978-4-642-02814-1　(02.7)

髙鳥　廉著
足利将軍家の政治秩序と寺院
A５判　374頁　**9,900円**(9,000)

足利将軍家を頂点とする政治秩序はいかに形成されたのか。公家・寺院社会における将軍家の地位を分析し、室町殿の立場や朝廷政務との関わりを解明。戦国期、蔭凉職の人事も検討して、将軍家の求心性を明らかにする。
978-4-642-02976-6　(22.11)

水野　嶺著
戦国末期の足利将軍権力
A５判　280頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉

従来、看過されがちであった足利義輝・義昭ら戦国期の将軍や幕府。近年多くの論考が発表され深化した研究成果を整理し、義昭と信長の関係を再検討。足利将軍の視点から、戦国・織豊期における将軍権力の実態に迫る。
978-4-642-02962-9　(20.2)

早島大祐著
首都の経済と室町幕府
A５判　364頁　**8,800円**(8,000)〈僅少〉

京都の首都としての性格に着目し、社会の実態を解明する。室町幕府の財政、在地社会の経営構造などを考察し、幕府の権力基盤を検討。さらに、二つの大乱を経た京都の復興過程を探り、中世後期社会像を再構築する。
978-4-642-02858-5　(06.11)

酒匂由紀子著

室町・戦国期の土倉と酒屋

A５判　280頁　**9,350円**(8,500)〈僅少〉

従来、京都「町衆」の代表的存在で、金融業を専らとする商人と位置づけられてきた土倉・酒屋。『蜷川家文書』『八瀬童子会文書』などを読み解き、新たな「土倉・酒屋」像を提起。室町・戦国期の京都の社会構造を再検討する。
978-4-642-02961-2　(20.2)

馬部隆弘著

戦国期細川権力の研究

A５判　808頁　**22,000円**(20,000)

細川京兆家の分裂・抗争は、結果としてその配下たちの成長をもたらす。柳本賢治、木沢長政、そして三好長慶が、なぜ次から次に台頭したのか。発給文書を徹底的に編年化し、細川から三好への権力の質的変容を論じる。
978-4-642-02950-6　(18.10)

則竹雄一著

戦国大名領国の権力構造

A５判　384頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉

戦国大名はいかに社会の展開に対応し公権力として確立したのか。検地一貫高制と年貢の掌握、領国の支配構造と村落との関係、大名領国間の紛争と平和維持の方法など多角的に追究。領国と権力構造の特質を解き明かす。
978-4-642-02838-7　(05.2)

熱田　順著

中世後期の村落自治形成と権力

A５判　360頁　**12,100円**(11,000)

中世後期から近世にかけて、どのように村落の「自治」が形成されたのか。その経緯と背景を、和泉・紀伊・丹波の村落を事例に再検討。領主層をはじめとする上位権力と村落・地域との結び付きに焦点を当て実態に迫る。
978-4-642-02972-8　(21.12)

戸谷穂高著

東国の政治秩序と豊臣政権

A５判　392頁　**9,900円**(9,000)

「惣無事」「𥔎(ごう)」を主題に取り上げ、戦国期東国の政治秩序を詳細に分析し、新たな枠組みを描き出す。さらに、羽柴秀吉の全国統一における東国地域の編成過程と政策の具体像を追究し、豊臣政権の内部構造を解明する。
978-4-642-02980-3　(23.8)

有光友學著

戦国大名今川氏と葛山氏

A５判　208頁　**4,180円**(3,800)〈僅少〉

駿遠地域を領した今川氏と葛山氏の権力編成や支配機構の実態を追究。今川氏や葛山氏発給文書などを探り、両氏の動向やあり様に迫る。花蔵の乱の新説、葛山氏＝今川氏・北条氏の両属説など、通説に一石を投じる。
978-4-642-02912-4　(13.4)

長谷川博史著

戦国大名尼子氏の研究

A５判　304頁　**8,800円**(8,000)

中国地方など11カ国に君臨したとも言われる戦国大名尼子氏。戦国動乱の中に滅亡したため実態は不明であった。残された史料を丹念に収集し、初めてその実像を描き出す。戦国期守護論や大名領国制論にも一石を投ずる。
978-4-642-02793-9　(00.5)

津野倫明著

長宗我部氏の研究

第23回高知出版学術賞受賞

A５判　294頁　**8,250円**(7,500)

戦国から豊臣期に土佐を治めた長宗我部氏の動向を探り、通説に新視点を提示。小牧・長久手の戦い、非有斎と領国支配、元親・盛親の二頭政治、慶長の役、造船政策、南海路、安国寺恵瓊の実像などから、政治と外交を解明する。
978-4-642-02907-0　(12.5)

岡寺　良著

戦国期北部九州の城郭構造

B５判　280頁　**12,100円**(11,000)

中小武士勢力が割拠していた戦国期の北部九州。秋月氏などの城館の縄張り調査、古絵図・地籍図の分析から実態に迫る。織豊系城郭の築城技術による構造上の変化を考察し、北部九州の社会構造、政治体制の解明にも挑む。
978-4-642-02964-3　(20.10)

鹿毛敏夫・坪根伸也編

戦国大名大友氏の館と権力

A５判　344頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉

大分市で大友氏の館跡が発見されてから20年。発掘調査の軌跡と権力構造解明に関する学際的研究の成果と現在までの到達点を、大名居館論、権力論、領国論の三つの論点でまとめた論文集。繁栄を極めたその実像に迫る。
978-4-642-02951-3　(18.11)

中野　等編
中近世九州・西国史研究
A５判　384頁　**13,200円**(12,000)

日本列島・国家史上に特異な地位を占めてきた九州・西国地域。4つの切り口の諸論考で中近世を照射し、歴史的位置づけの再考を試みる。脱領域的な動きにも注目し、異国・異域とつながる「周縁」としての史実を追究。
978-4-642-02984-1　(24.3)

池　　享著
戦国期の地域社会と権力
A５判　348頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

戦国期研究における地域社会論的視角の重要性を早くから主張してきた著者が、土豪などの中間層と活動の場である地域社会に注目。戦国・織豊期の沼津や「郡絵図」、「国」の用法などを追究し、戦国期社会の実像に迫る。
978-4-642-02888-2　(10.4)

銭　静怡著
戦国期の村落と領主権力
A５判　232頁　**9,350円**(8,500)

領域支配を目指す戦国大名と、自立志向を強める村落との関係は重要な課題である。二項対立図式ではなく双方向的回路の視角から、北条氏の郷村支配と浅井氏支配下の菅浦を題材に、大名権力と村落構造の実態に迫る。
978-4-642-02944-5　(18.3)

池　　享編
室町戦国期の社会構造
A５判　352頁　**14,300円**(13,000)〈僅少〉

新たな社会統合・秩序形成が行われた地域社会を解明するべく、第一線の研究者が集い、テーマや対象地域の違いを越えて論じ合う。室町期荘園制論や戦国期守護論、各地域の特殊性、「惣無事」の再検討など15論考を収録。
978-4-642-02891-2　(10.10)

神田千里著
戦国時代の自力と秩序
A５判　324頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉

戦国期、人々の行動を規定した論理とは何だったのか。宗論や寺内法などから自力の観念を追究。また、土一揆の実像を、訴訟や一向一揆などの武装蜂起の実態から迫り、中・近世移行期の政治・社会的秩序を解き明かす。
978-4-642-02914-8　(13.9)

金子　拓著
織田信長権力論
A５判　436頁　**7,150円**(6,500)

新時代を切り拓く「革命児」といわれた織田信長。近年、その人物像は揺らいでいる。信長権力はいかなる仕組みを通じて発揮され、どんな人々が関わったのか。史料を丹念に読むことで明らかになる、新たな信長像とは。
978-4-642-02925-4　(15.5)

吉田政博著
戦国期東国の宗教と社会
A５判　304頁　**11,000円**(10,000)

戦国期東国の宗教者集団の、仏教諸宗派と大名・領主との関係や、地域社会に受容されていった過程、「遊行」の宗教者の性格と活動を解明。各宗派の動向、熊野信仰・高野山信仰などの実態も論究し、近世社会への展開に迫る。
978-4-642-02973-5　(22.3)

黄　霄龍著
日本中世の地方社会と仏教寺院
A５判　266頁　**9,350円**(8,500)

多様な信仰と宗派が密集し競合した北陸の仏教寺院を通して、中世の地方社会の特質を検討。中央権力の影響を受ける一方、自律性を見せた面にも着目。中世地域社会論や仏教史、国外との比較研究にも新たな視座を提示する。
978-4-642-02982-7　(24.1)

藤木久志・伊藤喜良編
奥羽から中世をみる
A５判　342頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉

中世奥羽地域に焦点をあて、その視点から日本中世の政治・社会の問題に挑んだ画期的論文集。平泉政権や安藤氏、南奥羽の国人、戦国大名の様相と伊達氏、奥羽仕置後など17編を収録。日本中世史研究に一石を投じる。
978-4-642-02886-8　(09.7)

小林清治著
伊達政宗の研究　(新装版)
A５判　490頁　**9,900円**(9,000)

奥羽を制覇し大藩を築いた政宗の研究を牽引してきた第一人者による決定版。家督相続、領国の構造、奥羽仕置との関わり、仙台築城の歴史的意義、支倉遣欧使節、政宗文書など、政宗の全体像に迫る不朽の名著を新装復刊。
978-4-642-02937-7　(17.6)

堀越祐一著
豊臣政権の権力構造
A５判　298頁　**9,350円**(8,500)

全国統一を迅速に成し遂げた秀吉は、いかに家臣を自己の権力下に編成し、秩序を形成したのか。官位叙任と氏姓授与に着目し、身分序列のあり方とその意味を問う。また秀次事件や「五大老」「五奉行」の検討から権力構造を解明。
978-4-642-02929-2　(16.3)

中野　等著
秀吉の軍令と大陸侵攻
A５判　408頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉

大陸侵攻において、秀吉は前線の諸大名に決定権を与えず、日本からの軍令で指示を出した。軍令が届くまでの「時差」は、戦局にどのような影響を及ぼしたのか。軍令を分析して戦争の変容を解明、侵攻を体系的に叙述する。
978-4-642-02859-2　(06.12)

宮武正登著
肥前名護屋城の研究
―中近世移行期の築城技法―
B５判　288頁　**13,200円**(12,000)

大陸侵攻の前線基地として豊臣秀吉が築いた肥前名護屋城。長年の発掘調査の成果と文献資料から総合的に分析。秀吉直営の陣城として唯一残る城塞群遺跡の全貌を解明し、中世以降の「陣」や石垣の変遷史を初めて描く。
978-4-642-02960-5　(20.3)

深谷幸治著
中近世の地域と村落・寺社
A５判　352頁　**11,000円**(10,000)

中近世移行期の地域社会を、琵琶湖周辺や摂河泉の村々に残された古文書と景観から分析。地域寺社が宗教面だけでなく、領主と村落の仲介や隣村との争論に影響力を行使した実態に迫り、近世へ続く村落の体制をも解明する。
978-4-642-02963-6　(20.5)

橋本　雄著
中世日本の国際関係
―東アジア通交圏と偽使問題―
A５判　364頁　**9,900円**(9,000)

15～16世紀、朝鮮や明に現れた数多の偽使たち。彼らを派遣した《地域》勢力を突き止め、室町幕府外交体制が崩壊していく過程を解明。中世日本の《国家》と《地域》の関係を軸に、新たな東アジア国際関係像を構築する。
978-4-642-02841-7　(05.6)

岡本　真著
戦国期日本の対明関係
―遣明船と大名・禅僧・商人―
A５判　308頁　**9,350円**(8,500)

戦国期の遣明船の派遣は、多くの問題を抱えながらも数次に及んだ。諸勢力の対立と協調の構図を見直し、禅僧・商人の活動などの論点を未検討・新出史料も駆使して検証する。後代への影響も見据え、日明関係史を追う。
978-4-642-02974-2　(22.3)

関　周一著
中世日朝海域史の研究
A５判　320頁　**8,800円**(8,000)〈僅少〉

中世東アジア海域では、国家・地域権力による交流と民衆レベルの交流が相互に関係していた。三浦・対馬などの地域に重点をおき、倭人の朝鮮居留や被虜人を考察。人・物・情報がどのように循環していたかを解明する。
978-4-642-02815-8　(02.10)

関　周一著
中世の海域交流と倭寇
A５判　348頁　**11,000円**(10,000)

14世紀以降、日本海や東シナ海をとりまく地域空間が国境を越えて生成し、海域交流が転変した。日本・朝鮮・中国の動向もふまえ、倭寇や対馬島海民、海商の実態を考察。海域史研究の成果を、日本中世史の中に位置づける。
978-4-642-02987-2　(24.3)

小峯和明著
予言文学の語る中世
―聖徳太子未来記と野馬台詩―
A５判　372頁　**5,280円**(4,800)

『聖徳太子未来記』『野馬台詩』など、古代から続く中世の予言書の一群は、太子信仰の展開とともに国家の命運を占うものとなっていく。アジア各地の事例にも触れ、時代ごとに姿を変える予言文学、未来記の真髄を語る。
978-4-642-02952-0　(19.6)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

酒井紀美著
中世社会と声のことば
A５判　344頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

中世人の声のやりとりをいかに復元するか。発話をそのまま表記した宣命体、申す・誓うなど発声を示す語、訴訟などの激しい応答の場に注目。今日まで残されてきた文字史料に声の痕跡を探索し、口頭の世界の歴史像に迫る。
978-4-642-02979-7　(23.2)

磯部淳一著
東国の中世石塔
B５判　846頁　**27,500円**(25,000)

畿内で成立し、東北から関東甲信越・静岡にいたる東国に伝播した千基以上の中世石塔を集録。形態や分布から各地域の特徴を明らかにし、中世石塔の全容に迫る。資料として、種類別、成立年代順の東国石塔一覧を付す。
978-4-642-09356-9　(20.7)

鈴木哲雄著
日本中世の村と百姓
A５判　344頁　**12,100円**(11,000)

中世社会における人と土地との関わり方を、土地所有から追究。東国の古文書にみえる「常地」「地本」「下地」に注目し、西国の荘園などとも比較して中世領主と百姓との契約関係、百姓の村や地域社会との結びつきを解明する。
978-4-642-02968-1　(21.2)

白水　智著
中近世山村の生業と社会
A５判　312頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉

近代以前、山村の人々はなぜ山を下りず住み続けたのか。信濃国秋山と甲斐国早川入を中心に、生活文化体系の視座に立って山村の生業や特質、外部社会との交流などを解明。従来の山村＝「後れた農村」観に一石を投じる。
978-4-642-02949-0　(18.11)

佐野静代著
中近世の生業と里湖の環境史
歴史地理学会学術賞受賞
A５判　346頁　**10,450円**(9,500)

国際的に関心が高まる「環境史」と「里湖」としての琵琶湖・淀川水系をフィールドに、「二次的自然」の環境史を展開。絵図・文書の分析、地形復原や生態学的知見との照合から、里湖の生態系の成立と変化のプロセスを論じ、人間と自然との関わりを解明。
978-4-642-02936-0　(17.4)

西川広平著
中近世の資源と災害
A５判　368頁　**9,900円**(9,000)

中近世移行期の日本列島の山野は、豊富な資源をもたらす一方、地震・水害が頻発した。甲斐国の事例を中心に、資源の調達や自然災害への対応を追究。災害史料の成立過程にも着目し、自然環境と人間との関係を再考する。
978-4-642-02981-0　(23.11)

榎原雅治著
地図で考える中世 ―交通と社会―
第47回交通図書賞受賞
A５判　400頁　**5,280円**(4,800)

地形図・絵図・航空写真などから、13～16世紀の陸上交通のあり方を分析。宿町の構造と機能、交通整備に関わる幕府や宗教者の役割を考察して中世日本社会を読み解き、東海道沿道地域の開発と災害の歴史をも見通す。
978-4-642-02969-8　(21.4)

臼井佐知子・H・ジャン・エルキン・岡崎　敦・金　炫栄・渡辺浩一編
契約と紛争の比較史料学
―中近世における社会秩序と文書―
A５判　380頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉

モノを介した人と人との関係が、当事者の属する社会のなかで認知される仕組みを、文書実践の諸側面から比較・検討。日本・韓国・中国・トルコなど、諸外国の契約文書や公文書の機能や有り様を追究した20編を収録する。
978-4-642-02922-3　(14.12)

海老澤　衷・近藤成一・甚野尚志編
朝河貫一と日欧中世史研究
A５判　312頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉

イェール大学で日欧封建制を追究し、日本史研究を世界に発信した朝河貫一。その先駆性と史学史上の意義を現在の中世史研究から再評価する。同大学図書館の資料収集の記録や、歴史家との往復書簡の翻刻なども掲載。
978-4-642-02935-3　(17.3)

海老澤　衷・近藤成一・甚野尚志編
朝河貫一と人文学の形成
A５判　296頁　**9,900円**(9,000)

イェール大学歴史学教授であった朝河貫一の日欧封建制研究の構想、日米両国へ発した戦後構想の提言、大学と図書館での活動、国際社会への問題関心などを考察。彼の多彩な業績に光を当て、人文学のあり方を問い直す。
978-4-642-02957-5　(19.3)

藤野　保著
近世国家史の研究
—幕藩制と領国体制—
A５判　726頁　**22,000円**(20,000)〈僅少〉
日本近世国家発展の諸段階を、幕府・藩・天領・旗本の相関分析を通じて究明し、地域構造の特質を解明。改易・転封・所領替・村替による藩領・天領・旗本領の変遷を、地域別・国別に、全国的規模で総覧する画期的大著。
978-4-642-03379-4　(02.12)

林　大樹著
天皇近臣と近世の朝廷
A５判　386頁　**13,200円**(12,000)
近世の天皇・公家・朝廷研究は、進展が著しい。分析が進んでいなかった天皇側近の蔵人頭・御児・近習などの全貌を、日記や関係資料から追究。天皇の意思と朝廷の最終決定との関係を解明し、近代国家の天皇を展望する。
978-4-642-04333-5　(21.1)

山口和夫著
近世日本政治史と朝廷
第16回徳川賞受賞
A５判　436頁　**10,450円**(9,500)
戦国期に政治的経済的に衰退した朝廷は、どのようにして近世を迎えたのか。院(上皇)をめぐる諸問題、朝幕体制が解体してゆく契機などを追究。天皇・朝廷の存在と機能に視点をあて、近世日本の政治史を解き明かす。
978-4-642-03480-7　(17.11)

田中暁龍著
近世の公家社会と幕府
A５判　352頁　**12,100円**(11,000)
江戸幕府により朝廷政務の中心に置かれた摂家。彼らの支配の実態を、多様な視点から分析。公家処罰、朝廷権威を求める動きから巻き起こる身分秩序の動揺を、変質していく公家社会と関与する幕府の政策から考察する。
978-4-642-04331-1　(20.12)

間瀬久美子著
近世朝廷の権威と寺社・民衆
A５判　456頁　**13,200円**(12,000)
近世国家における朝廷の具体的な宗教的機能とは何か。賀茂社・伊勢神宮の遷宮先後争論、白川・吉田家争論、災害祈禱での朝廷・幕府間の主宰権の変遷、職人の受領名・由緒書、雛祭りなどの分析を通して解き明かす。
978-4-642-04348-9　(22.3)

長坂良宏著
近世の摂家と朝幕関係
A５判　266頁　**8,800円**(8,000)
近世中後期の朝幕関係をいかに捉えるか。幕府の朝廷統制の要とされ、公家社会を統括する立場にあった摂家に着目し、天皇・院・堂上公家・幕府それぞれとの関係を解明。朝廷内部の動向と朝幕交渉を結びつけて追究する。
978-4-642-03485-2　(18.2)

根崎光男著
江戸幕府放鷹制度の研究
A５判　414頁　**14,300円**(13,000)〈僅少〉
権威の象徴として継承された鷹狩。天皇家への「御鷹之鶴」進献をめぐる将軍権力の規定性や、国家の仕組みのなかでの鷹狩権・鷹場支配権・鷹儀礼の構造を追究。江戸幕府放鷹制度の全体像と政治的・社会的意義を解明する。
978-4-642-03426-5　(08.1)

中村孝也著
徳川家康公伝　(新装版)
A５判　1058頁　原色口絵2、口絵52、折込2丁　**27,500円**(25,000)
家康没後350年、日光東照宮の記念事業として編纂された伝記を新装復刊。家康の性格描写に注力し、歴史的環境とともに全生涯を総観する。詳細な年譜と、関連史跡や文書など豊富な図版も収めた、家康研究に必備の書。
978-4-642-73214-7　(19.9)

廣野三郎著
徳川家光公伝　(新装版)
A５判　668頁　原色口絵4、口絵22　**22,000円**(20,000)
徳川家3代将軍として幕府の基礎を強固にした家光。その三百回忌を記念して編纂された初の本格的伝記を新装復刊。誕生から任官までの経歴、将軍の個性を中心に、その治世と鎖国令など事績を余すことなく詳述する。
978-4-642-73215-4　(19.9)

辻　達也著
徳川吉宗公伝　(新装版)
A５判　438頁　原色口絵2、口絵26　**22,000円**(20,000)
享保の改革を主導した中興の名君として知られる徳川8代将軍吉宗。没後200年にあたり編纂された伝記を新装復刊。幕府政治再建に力を注いだ事績を究明するなど、個人の伝記にとどまらず享保時代史ともいうべき名著。
978-4-642-73216-1　(19.9)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

中村孝也著

新訂 徳川家康文書の研究(新装版) 全4巻

Ａ５判　総3338頁

上巻　27,500円(25,000)　978-4-642-73047-1(17.11)

中巻　27,500円(25,000)　978-4-642-73048-8(17.11)

弘治２年～元和２年の徳川家康の文書約 3000 点を採録した基礎史料で、長らく入手困難だった日本学術振興会本の復刻版。各文書に解説を付し、最終巻には補遺文書、索引などを収載。戦国末から近世初期の研究に必備。

下巻之一　27,500円(25,000)　978-4-642-73049-5(17.11)

下巻之二　16,500円(15,000)　978-4-642-73050-1(17.11)

徳川義宣著

新修 徳川家康文書の研究　第二輯

※第一輯は「オンデマンド版」頁をご覧ください

Ａ５判　966頁　口絵4　**27,500円**(25,000)

『新訂徳川家康文書の研究』、『新修徳川家康文書の研究』に未収録の家康文書・参考文書計 506 点を採録、解説を付した。前掲書収録文書でも原本を確認したものは校異改訂を示す。家康、戦国期研究には不可欠の貴重な史料集。

978-4-642-03418-0　(06.11)

深井雅海著

江戸城御殿の構造と儀礼の研究

―空間に示される権威と秩序―

第 20 回徳川賞受賞

Ｂ５判　280頁　**12,100円**(11,000)

将軍が生活を営み、幕閣や諸役人が勤務する巨大な政庁・江戸城御殿。数々の儀式はどこで、いかに行われたのか。絵図や記録を駆使して本丸御殿の構造と機能を再現し、将軍を頂点とする序列から格式社会江戸を究明する。

978-4-642-04343-4　(21.12)

兼平賢治著

近世武家社会の形成と展開

Ａ５判　384頁　**10,450円**(9,500)

江戸幕府の支配体制が整っていく 17 世紀、武家社会はいかに転換したのか。盛岡藩はじめ東北諸藩の藩政を題材に、殉死禁止令やお家騒動、大名の離婚や馬の売買などを分析。武家社会の形成過程と到達点を解き明かす。

978-4-642-03499-9　(20.6)

石田　俊著

近世公武の奥向構造

Ａ５判　280頁　**10,450円**(9,500)

近世の公家・武家社会の奥向は、いかなる役割を果たしたのか。厖大な公家史料の博捜と読解から、世継ぎの出産・養育や朝廷の意思決定への関与、それらを支える組織・制度などを分析。朝幕関係をふまえ奥向運営に迫る。

978-4-642-04344-1　(21.12)

小宮山敏和著

譜代大名の創出と幕藩体制

Ａ５判　302頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

徳川四天王に代表される徳川家臣団は、徳川家康が江戸幕府を成立させていく中で、いわゆる譜代大名として分出されていった。彼らの創出過程や家臣団組織などを丹念に分析し、譜代大名の性格や特質について論じる。

978-4-642-03468-5　(15.2)

本多隆成著

初期徳川氏の農村支配

Ａ５判　326頁　**9,130円**(8,300)〈僅少〉

織豊政権下、徳川家康はどのように独自の支配体制を確立していったのか。権力基盤となる農村に焦点をあて、検地や貢租、奉行人や代官などの問題を通して追究。諸政策と五ヵ国総検地の意義を探り、その支配体制を解明。

978-4-642-02849-3　(06.2)

野本禎司著

近世旗本領主支配と家臣団

Ａ５判　392頁　**12,100円**(11,000)

徳川将軍家の直臣、将軍直轄軍として権力の柱だった旗本家。彼らは幕府官僚職の遂行と知行所支配の両面をいかに成り立たせていたのか。領主支配の構造と家臣団の実態を解明し、江戸周辺にもたらした社会像を提示する。

978-4-642-04332-8　(21.2)

鈴木直樹著

近世関東の土豪と地域社会

Ａ５判　264頁　**9,900円**(9,000)

近世関東には、土豪を先祖に持つ家が広範に存在した。戦国大名北条氏の滅亡後、その子孫は、近世社会をどのように生きたのか。土豪の性格や領主支配構造の変化などから、近世関東の村落社会の形成過程を解き明かす。

978-4-642-03493-7　(19.1)

中野達哉著

近世の検地と地域社会

Ａ５判　414頁　**14,300円**(13,000)〈僅少〉

近世前期の在地支配の基軸となった検地。江戸開幕以前・以後の検地を比較検討し、その連続性・非連続性から在地支配政策としての検地を捉え直す。さらに、検地帳の多角的な分析から、村落構造や景観、地域像を復元。

978-4-642-03397-8　(05.2)

竹内　誠著
寛政改革の研究
A５判　446頁　**14,300円**(13,000)〈僅少〉

寛政改革とはいかなるものだったのか。田沼政治の矛盾、農村の疲弊等、改革以前の状況を検証し、本百姓体制の再建、社会秩序の回復など、様々な政治改革の実態を解明。改革の全貌を明らかにし、その意義を問い直す。
978-4-642-03438-8　(09.7)

山本英貴著
江戸幕府大目付の研究
A５判　360頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉

江戸幕府官僚機構のなかで、きわめて重要な位置にあった大目付。日記や職務記録など原典史料から、その組織や具体的な職務、下役支配の実態を制度的・構造的に解明。江戸幕府職制研究に新たな展開を呼び込む注目の書。
978-4-642-03450-0　(11.12)

野口朋隆著
近世分家大名論
―佐賀藩の政治構造と幕藩関係―
A５判　310頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉

分家大名は、本家を守る藩屏となり、本家当主の継承者にもなった。佐賀藩鍋島家の本分家と幕府との三者関係を、分家の役割、同族結合と主従制、権威の創出など多面的に分析し、幕藩体制の権力構造を総合的に解明する。
978-4-642-03447-0　(11.2)

宮崎ふみ子編
京坂キリシタン一件と大塩平八郎
―史料と考察―
A５判　376頁　口絵8　**13,200円**(12,000)

文政10年(1827)大坂東町奉行所が摘発した事件は、大塩平八郎らの捜査で「キリシタン集団」の発覚に発展した。被疑者や関係者の供述、判決など多数の史料を翻刻。事件全容の解説と論考、年表・地図等を収載する。
978-4-642-04338-0　(21.2)

髙澤裕一著
加賀藩の社会と政治
A５判　468頁　**14,300円**(13,000)〈僅少〉

「加賀百万石」と称され、近世期日本最大の大名であった前田家。藩政史料から加賀藩の村落支配体制や寺院統制の実態を分析、藩祖利家や２代利長の事績、町の救恤などにも触れ、その領国社会と支配の実態を探究する。
978-4-642-03476-0　(17.1)

稲葉継陽著
近世領国社会形成史論
A５判　416頁　**12,100円**(11,000)

戦国期の自治的な村共同体は、近世大名領国の展開をどう決定づけたのか。熊本藩細川家を例に、領国統治の態様から追究。百姓から「御国家」までの重層的な社会構成をひもとき、領国支配の核心に地域社会からせまる。
978-4-642-04360-1　(24.3)

今村直樹・小関悠一郎編
熊本藩からみた日本近世
―比較藩研究の提起―
A５判　326頁　**11,000円**(10,000)

近年、特定の藩を対象とした藩研究が盛んになる中、熊本藩を比較軸に共同研究を行い、得られた知見と論点を提示。「比較藩研究」の手法から今後への展望を示す。2019年に熊本大学で開催されたシンポジウムの成果。
978-4-642-04342-7　(21.9)

森　正人・稲葉継陽編
細川家の歴史資料と書籍
―永青文庫資料論―
A５判　254頁　**11,000円**(10,000)

熊本大学に寄託されている、熊本藩細川家に伝来した永青文庫資料。この史資料群を、細川家伝来の織田信長文書、和漢書の蔵書構成などのテーマから総合的に分析する。日本近世の国制上の基本単位、大名家の実像を探る。
978-4-642-01410-6　(13.3)

大河内千恵著
近世起請文の研究
A５判　334頁　**14,300円**(13,000)〈僅少〉

平安後期に成立し、誓約の文言と罰文から成る起請文。今まで体系的に論じられなかった近世以降の起請文を、徳川将軍の代替り誓詞や大名家中起請文、熊野の牛玉宝印などから検討。近世社会と起請文との関係を解明する。
978-4-642-03462-3　(14.3)

長野　暹著
幕藩制国家の領有制と領民
A５判　440頁　**15,400円**(14,000)〈僅少〉

幕藩制国家の領有形態を、外様旧族大名領、織豊取立大名領、譜代大名領に類型化する。佐賀藩、唐津藩、対馬藩田代領を事例に、領民の生産、流通、生活、意識を規定した領有制の実感を探り、幕藩制国家の特質に迫る。
978-4-642-03389-3　(04.7)

価格は10％税込、(　)内は本体価格

関口博巨著
近世村落の領域と身分
A５判　396頁　**12,100円**(11,000)

近世における社会空間や身分はどのように仕切られ、生活の現場でいかに機能し、受け止められていたのだろうか。全国各地の村々や百姓・従属民らを事例に追究。身分社会の越境者にも光を当て、仕切りの透過性を考える。
978-4-642-04339-7　(21.3)

尾脇秀和著
近世社会と壱人両名
―身分・支配・秩序の特質と構造―
A５判　496頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉

近世日本において一人の人物が異なる二つの名前と身分を同時に保持し使い分けた「壱人両名」。身分の移動や兼帯はなぜ生じたのか。成立から終焉まで、多様な事例を分析。近世社会の建前と実態、本質に迫る意欲的な一書。
978-4-642-03894-2　(20.8)

賀川隆行著
江戸呉服問屋の研究
A５判　372頁　**13,200円**(12,000)

幕藩体制下、各地で商売を起こし江戸店を構えた呉服問屋は、いかなる経営を行い、今日も商売を続ける礎を築いたのか。大丸・柏屋・森屋・西川家などの江戸店に着目し、膨大な史料や帳簿類を分析して経営の実態に迫る。
978-4-642-04350-2　(22.7)

藤本隆士著
近世匁銭の研究
A５判　384頁　**14,300円**(13,000)〈僅少〉

近世では、金・銀・銅貨が公的鋳貨として流通を媒介したが、各地で緡銭、つまり重さの単位「匁」を使用した銭の取引が行われた。九州各地の事例を分析し、鎖国下の日本経済が東アジア経済圏と連動していたことを解明。
978-4-642-03463-0　(14.7)

横山昭男著
近世最上川水運と西廻航路
―幕藩領における廻米輸送の研究―
A５判　334頁　**11,000円**(10,000)

西廻り航路の要衝酒田港は、内陸の村山郡から最上川の舟運で運ばれる米などの物資の集積地として栄えた。幕領の廻米機構の変化や農民負担、藩領の舟運の変化と本間・鈴木家ら豪商との関わりを、流通史から解明する。
978-4-642-03498-2　(20.5)

菅原慶郎著
近世海産物の生産と流通
―北方世界からのコンブ・俵物貿易―
A５判　222頁　**8,800円**(8,000)

江戸中後期、長崎貿易で中国人向けの輸出商品だった北方産コンブやナマコ、アワビ。生産・加工から集荷・輸出までの流通システムや商品的特質を、生産者のアイヌ民族の実態と共に描き、特にコンブの重要性に目を向ける。
978-4-642-04353-3　(22.12)

森下　徹著
近世都市の労働社会
A５判　350頁　**12,650円**(11,500)〈僅少〉

近世の職人や「労働者」のあり方の究明は、賃労働形成史のうえで積極的な意味を持つ。身分的周縁という視角でもって、諸都市における「日用」や技能労働の実態を分析。地域の構成要素としての労働社会を解き明かす。
978-4-642-03465-4　(14.8)

佐竹　昭著
近世瀬戸内の環境史
A５判　244頁　**9,350円**(8,500)〈僅少〉

江戸時代の林野には、どのような樹木がどれくらい茂って、どんな動物が生息していたのか。広島藩領を中心に林野の利用や、シシ(猪鹿)垣・たたら製鉄などを分析し瀬戸内の島々から内陸部にかけ、自然と人々の暮らしを解明。
978-4-642-03451-7　(12.3)

石田千尋著
日蘭貿易の歴史的展開
A５判　592頁　**19,800円**(18,000)

近世後期、長崎に来航したオランダ船の積荷物を軸に、日蘭貿易の構造の変遷を歴史的に解明する。私的貿易品である脇荷物の輸入と取引の実態を明らかにし、幕末期において、取引の形態が変容していく過程を考察する。
978-4-642-04364-9　(24.9)

木崎弘美著
近世外交史料と国際関係
A５判　270頁　**8,800円**(8,000)〈僅少〉

江戸幕府の外交政策の解明に不可欠な外交史料には不明確な問題が多い。『異国日記』や『通航一覧』をはじめ、明治期にまで及ぶ外交史料の成立・伝来、歴史的背景を考察。新視点から近世外交史の実像を浮き彫りにする。
978-4-642-03395-4　(05.1)

古川祐貴著
近世日本の対朝鮮外交
A５判　328頁　**9,900円**(9,000)

江戸幕府が朝鮮王朝と正式な外交関係を結ぶ一方で、対馬宗家も中世以来の外交・貿易関係を継続させていた。徳川将軍書簡・別幅、歴代藩主の朝鮮通交などに着目。対朝鮮外交を軸に江戸幕府―対馬宗家関係を読み解く。
978-4-642-04366-3　(24.10)

酒井雅代著
近世日朝関係と対馬藩
A５判　280頁　**9,350円**(8,500)〈僅少〉

徳川幕府は朝鮮との交渉を対馬藩に委ね、二国は倭館において接触した。日朝間の諸問題はいかに解決されたのか、最前線における通詞たちの活動から考察。日朝の史料を比較検討し、新たな視座から日朝関係史を構築する。
978-4-642-04335-9　(21.2)

渡辺美季著
近世琉球と中日関係
第40回伊波普猷賞受賞／第3回三島海雲学術賞受賞
A５判　328頁　**11,000円**(10,000)

近世の琉球は、日本と中国の〝狭間〟にあって、どちらにも包摂されない特異な地位を維持した。両国を仲介する二方面外交の実態や意識構造を探り、琉球固有の歴史的意義を東アジアの国際環境の中に位置づける意欲作。
978-4-642-03452-4　(12.6)

木村直樹・牧原成征編
十七世紀日本の秩序形成
A５判　294頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉

16世紀末に成立した近世社会は、どのようにして、平和と安定の江戸時代になったのか。新しい秩序の形成と定着の過程を、政治・対外関係・社会史の観点から追究。斬新な史料の活用によって、17世紀史を刷新する。
978-4-642-03486-9　(18.3)

岩崎奈緒子著
近世後期の世界認識と鎖国
A５判　272頁　原色口絵2　**10,450円**(9,500)

工藤平助「加模西葛杜加国風説考」(赤蝦夷風説考)挿入の日本初のロシアの地図は、江戸幕府に衝撃を与えた。これを契機に幕府が展開したロシア外交と蝦夷地政策を、世界認識の転換において捉え直し、「鎖国」を再考する。
978-4-642-04341-0　(21.6)

松本英治著
近世後期の対外政策と軍事・情報
A５判　364頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

寛政期から文化期にかけて、西洋諸国の通商要求とそれに起因する対外紛争が頻発した。近世日本が対外的危機に直面するなか、交渉の窓口である長崎に及ぼした影響を軍事と情報の視点から論じ、幕府の対応を追究する。
978-4-642-03474-6　(16.9)

上白石　実著
十九世紀日本の対外関係
―開国という幻想の克服―
A５判　292頁　**10,450円**(9,500)

近年、明治維新への関心が内外で高まり、19世紀を論じる研究も盛んである。ロシア船が現れ始めた18世紀後半から日清戦争が始まるまでの時期を対象にして、約100年かけた「自己変革の時代」の実情を考察する。
978-4-642-04345-8　(21.11)

江戸遺跡研究会編
江戸の大名屋敷
A５判　272頁　原色口絵4　**7,150円**(6,500)

参勤交代制度に伴い建築され、巨大都市江戸を支えた大名屋敷。多くの遺跡発掘の事例から、豪華絢爛な様相が明暦大火後に変遷する姿を検証。都市の成立・維持に果たした役割や大名の生活をも復元し、その全貌に迫る。
978-4-642-03445-6　(11.2)

江戸遺跡研究会編
江戸築城と伊豆石
A５判　274頁　原色口絵4　**6,600円**(6,000)

江戸城の石垣や城下の建設に用いられた伊豆石。この相模西部や伊豆半島産出の石材が、どのように切り出され江戸まで運ばれたのかなどを追究。石丁場遺跡や石材の刻印から、江戸城普請に関わった人びとの姿にも迫る。
978-4-642-03469-2　(15.5)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

神立孝一著
近世村落の経済構造
A５判　374頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉
近世の社会経済の実態はいかなるものか。新史料を駆使し、「検地と年貢」「情報」「産業と市場・金融」という視点から村落の経済システムを実証的に論究。農民の具体的な生活を浮き彫りにし、新たな近世社会像を描く。
978-4-642-03385-5　(03.10)

藤田和敏著
近世郷村の研究
A５判　264頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉
中世荘園の系譜を引く近世の郷村は、どのような歴史的展開を遂げたのか。国家権力・個別領主支配、郷鎮守における祭祀組織、大工組・郷士集団との関連から郷村を分析し、近世の社会構造を捉え直すことを目指す。
978-4-642-03455-5　(13.3)

佐藤孝之著
近世山村地域史の研究
A５判　360頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉
幕府の山林政策との相互関係や、地域内でのさまざまな利害対立の中で、近世山村はいかなる歴史的展開をみたのか。上州山中領を対象に、その支配の実相を解明し、林野利用の多彩な側面をもつ山村地域像を提示する。
978-4-642-03454-8　(13.2)

佐藤孝之著
近世山村地域史の展開
A５判　304頁　**9,900円**(9,000)
山間の地・上州山中領を舞台に、自然環境に対する人間の営みを問う。焼畑耕地と秣場の循環利用など、山地における林野利用の特性を究明。幕府の御巣鷹山・御林の支配体制などから、近世における山村地域の実像に迫る。
978-4-642-04358-8　(24.2)

萱場真仁著
近世・近代の森林と地域社会
A５判　304頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉
弘前藩を事例に、領主の森林政策と領民の利用動向の実態を明らかにする。藩による林政の展開、森林利用をめぐる藩と領民の関係、近代への継承などから林政史研究に一石を投じ、今後の森林管理や活用に示唆を与える。
978-4-642-04346-5　(22.1)

泉　雅博著
海と山の近世史
A５判　416頁　**18,700円**(17,000)〈僅少〉
近世の海村と山村に生きた人々は、海や山を暮らしにいかに取り入れてきたのか。能登の廻船業、甲斐の林業などから生活の実態を描く。生産流通社会の一角を担った百姓の姿を解読し、近世社会の新たな歴史像を提示する。
978-4-642-03443-2　(10.2)

段木一行著
近世海難史の研究
A５判　344頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉
江戸と上方を結ぶ大動脈だった海運。しかし、遠州灘や房総半島沿岸は海難事故が多発し、漂流船は伊豆諸島に流れ着くことがままあった。島役所へ届けられた記録から物流の実態を描き、海に生きた人の姿を浮き彫りにする。
978-4-642-03471-5　(15.9)

佐竹朋子著
近世公家社会と学問
A５判　412頁　**12,100円**(11,000)
江戸幕府の統制下、先例や伝統を重視する因習的世界に沈滞していた公家は、幕末になぜ浮上しえたのか。儒学や有職研究などの学問を通じて公家が自己形成を実現させ、新しい政治主体を形成させていく過程を解明する。
978-4-642-04357-1　(24.1)

鹿毛敏夫著
近世天文塾「先事館」と麻田剛立
A５判　264頁　**9,900円**(9,000)
迷信的思考が根強い江戸期に、観測と実験を重視した天文学者麻田剛立。高橋至時や伊能忠敬ら弟子筋を生んだ実証に徹した天体研究を私塾「先事館」の活動などから探り、近代天文学の先駆者に迫る。書簡史料も翻刻収録。
978-4-642-04359-5　(24.2)

山田淳平著
近世の楽人集団と雅楽文化
A５判　368頁　**11,000円**(10,000)
宮廷で育まれた雅楽は、近世に至り階級を超えて広く受容されるようになった。幕府庇護のもと楽人集団が組織されると、多くの楽曲が再興し音楽論も深められた。楽人の身分や参勤形態などを検討し、普及の方途を探る。
978-4-642-04363-2　(24.5)

林　玲子著
関東の醤油と織物
—18～19世紀を中心として—
A５判　368頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉
近世・近代の経済は江戸・東京の発達に大きく左右された。庶民生活の向上を背景に、先進地産の大坂下り商品に代って、関東周辺の地域生産物が成長した。その代表である醤油と織物の市場や商人像を具体的に描き出す。
978-4-642-03381-7　(03.2)

渡辺浩一著
近世都市〈江戸〉の水害
—災害史から環境史へ—
A５判　240頁　**3,960円**(3,600)
多くの水害に見舞われた本所・深川などの江戸低地。幕府の対策マニュアルや避難状況、災害復興の中長期的都市政策、埋立・堤防など人為的な自然環境の改変を解明。災害を自然と人間との相互関係として捉える注目書。
978-4-642-04349-6　(22.6)

岩田みゆき著
幕末の情報と社会変革
A５判　360頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉
幕末の豪農は、多くの政治情報や異国船の来航など、重要な機密情報まで入手していた。彼らの日記や情報集・書状を通して、身分を越えた広範な情報伝達の構造を解明。維新へと動き出す幕末社会に与えた影響を考察する。
978-4-642-03365-7　(01.2)

大藤　修著
近世庶民社会論 —生老死・「家」・性差—
A５判　344頁　**10,450円**(9,500)
近世の村と町に暮らした人々を対象に、その生と死をめぐる諸事象と諸問題を考察。多様な視点から近世社会全体と国家についてアプローチを試みる。「ライフサイエンスとしての歴史学」の構築を目指す2部作の第1弾。
978-4-642-04352-6　(22.12)

髙木まどか著
近世の遊廓と客
—遊女評判記にみる作法と慣習—
A５判　310頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉
文化発祥地としての一面を持ち、日常の身分秩序は排され、すべての客は平等に扱われるとされた近世の遊廓。その言説に疑義を唱え、吉原遊廓を中心に実証的に分析。遊女評判記から、遊女や店、客同士の関係性を描き出す。
978-4-642-04334-2　(21.1)

柳谷慶子著
近世の女性相続と介護
第22回女性史青山なを賞受賞
A５判　342頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉
江戸時代、女性は「家」の継承と運営にどう関わったのか。女性の武家相続、大名家の奥向、姉家督に、実情を考察。また介護を支える家族の役割を武士の「看病断」などから探り、近世の女性と家族のあり方を解明する。
978-4-642-03420-3　(07.3)

鈴木則子著
近世感染症の生活史
—医療・情報・ジェンダー—
A５判　254頁　**3,520円**(3,200)
江戸時代の日常生活でつねに脅威であった感染症は、暮らしにどんな影響を与えたのか。さまざまな生活環境の移り変わりによる感染症へのまなざしの変化を描き出し、現代にも通じる社会と感染症との共生する姿を考える。
978-4-642-04347-2　(22.4)

菊池勇夫著
江戸時代の災害・飢饉・疫病
—列島社会と地域社会のなかで—
A５判　256頁　**3,960円**(3,600)
江戸時代を襲ったさまざまな災害。飢饉には流行病が伴い、感染症は列島社会を駆け抜けた。生命の危機に地域社会はどう動いたのか。飢饉、流行病を中心に実態と対応を検証。「災害の時代」に生きる歴史学の役割を問う。
978-4-642-04354-0　(23.3)

菊池勇夫著
近世の気象災害と危機対応
—凶作・飢饉・地域社会—
A５判　334頁　**11,000円**(10,000)
気候変動により、寒冷期には激しい凶作・飢饉に襲われた近世社会。温暖期を含め人々は気象災害といかに格闘し、飢えの教訓から後世に何を伝えたのか。地域の多様な記録史料を紐解き、飢饉史研究に新しい視座を示す。
978-4-642-04356-4　(24.1)

山﨑久登著
江戸鷹場制度の研究
A５判　218頁　**8,800円**(8,000)〈僅少〉
領主が鷹を放って狩猟する特定の場所だけでなく、狩りが行われない村にも規制や負担をかけていた鷹場制度。近世中期以降、江戸及び周辺地域に設定された実態を制度・機能・行政の面から解き明かし、その特質に迫る。
978-4-642-03477-7　(17.4)

田中洋平著
近世地方寺院経営史の研究
A５判　258頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉
近世寺檀制度の枠組外にあった小規模仏寺は、いかに存続しえたのか。関東地域の祈禱寺院・修験寺院・無住寺院を中心に、宗教・金融・土地集積など多様な活動を検討。寺門を取り巻く地域社会と寺院経営との関係に迫る。
978-4-642-03496-8　(19.8)

佐藤孝之著
近世駆込寺と紛争解決
A５判　190頁　**3,850円**(3,500)
江戸時代、日本各地の村人は離婚のための縁切寺以外にも、盛んに寺社へ駆け込んだ。日常的に発生する紛争において、お寺や神社は加害者と被害者を結ぶ巧みな調停役であった。暮らしの古文書から〈駆込〉を読み解く。
978-4-642-03494-4　(19.3)

清水有子著
近世日本の形成とキリシタン
A５判　344頁　**9,900円**(9,000)
中世末期に到来したキリスト教化というグローバル化の波「イベリア・インパクト」。それは天下人にいかなる脅威と影響を与えたのか。キリシタン禁制に焦点を絞り、統一国家形成の過程と要因を日欧の史料を用いて解明する。
978-4-642-04365-6　(24.9)

朴　炳道著
近世日本の災害と宗教
―呪術・終末・慰霊・象徴―
A５判　344頁　**13,200円**(12,000)
近世の人々は、地震・飢饉・大火や疫病などの災害にどのように対処してきたのか。呪術・終末・慰霊・象徴をキーワードに、災害における人々の認識と実践を追究。宗教学の視点から「災害文化」として体系的に捉え直す。
978-4-642-04336-6　(21.3)

神田秀雄著
如来教の成立・展開と史的基盤
―江戸後期の社会と宗教―
A５判　360頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉
19世紀初頭、如来教は尾張国熱田で元奉公人の女性によって創唱された。流行中の金毘羅信仰や仏教的世界観を摂取しつつ、その如来教が、互恵的伝統の再構築を志向した経緯を追究し、民衆宗教の出自を解き明かす。
978-4-642-03481-4　(17.12)

石津裕之著
近世の神社・門跡と朝廷
A５判　376頁　**12,100円**(11,000)
近世における神社・門跡・朝廷の関わりを論究。朝廷との関係という視点から北野社などの神社の動向に迫り、朝廷による門跡統制を検証して、その影響を考察。神社と門跡の関係から、各々の知られざる実態を解明する。
978-4-642-04361-8　(24.3)

木村　涼著
七代目市川團十郎の史的研究
A５判　270頁　**7,700円**(7,000)
江戸歌舞伎の大名跡＝市川團十郎。中でも七代目は「歌舞伎十八番」を制定し、歌舞伎界に大きな功績を残した。七代目と贔屓や成田山との関係、風俗取締政策などに焦点を当て、新たに社会史的アプローチを試みた注目の書。
978-4-642-03460-9　(14.2)

岡田千昭著
本居宣長の研究
A５判　714頁　**24,200円**(22,000)〈僅少〉
国学の大成者、本居宣長。「道の学問」としての宣長学の特質に迫る。国学の権力概念の「御任」論＝国学的大政委任論や、古道説の中核概念である「妙理」の説を、豊富な事例をあげて解明。詳細な「研究文献目録」を付す。
978-4-642-03408-1　(06.1)

大沼宜規著
考証の世紀
―十九世紀日本の国学考証派―
A５判　340頁　**11,000円**(10,000)
19世紀、文献等に基づき歴史的事実の解明に尽くした国学考証派。その登場と学問領域を築き深化させた過程を、考証の方法や実践、集団関係に着目して追究。近代の実証的学問への継承まで論じ、歴史的意義を解き明かす。
978-4-642-04337-3　(21.3)

児玉幸多先生論集刊行委員会編
近世史研究遺文
A５判　430頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉
戦前・戦後を通じて、日本の歴史学界を牽引した博士の研究を、没後10年を機に総括する。戦前発表の入手しがたい論考をはじめ、農村・農民史、珠玉の交通史随想など、不朽の学問体系を集大成し、今後の研究の礎とする。
978-4-642-03478-4　(17.7)

岩下哲典編
江戸無血開城の史料学
A５判　280頁　**6,600円**(6,000)

戊辰戦争さなか、江戸城は無血開城した。真の功労者は誰か。徳川家と新政府の間に立つ尾張・越前両藩、恭順か抗戦かで揺れる旧幕臣など、複眼的に情勢を追究。資料編とシンポジウムも付し、開城の真実・深層に迫る。
978-4-642-03919-2　(22.11)

三宅紹宣著
幕末維新の政治過程
A５判　452頁　**12,100円**(11,000)

多様な勢力が国家のあり方を模索した幕末維新期。民衆の対外的危機の実態と社会のうねり、攘夷運動の世界史的位置づけと幕府との対抗、薩長同盟、討幕運動と幕府の倒壊、廃藩置県まで、近代国家の成立過程を解明する。
978-4-642-03899-7　(21.1)

友田昌宏編
幕末維新期の日本と世界
―外交経験と相互認識―
A５判　262頁　**9,350円**(8,500)

幕末、列強と日本は互いをどのようにとらえていたのか。東アジア情勢を踏まえつつ、相互認識の様相を思想や文化・風俗、条約理解や国内法の整備の視点から考察。明治維新を19世紀の世界史的視野から多面的に描く。
978-4-642-03883-6　(19.3)

吉岡誠也著
幕末対外関係と長崎
A５判　380頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉

江戸幕府直轄の貿易都市長崎は、開国を契機にいかに変容したのか。対外関係業務の変質、長崎奉行の組織改革、港内警衛体制再編など、「現場」レヴェルの視角で追究。開港場の近世的統治の限界と近代への転換を考察する。
978-4-642-03492-0　(18.10)

宮地正人著
歴史のなかの『夜明け前』
―平田国学の幕末維新―
四六判　556頁　**5,280円**(4,800)

島崎藤村が幕末期の人間模様を描いた『夜明け前』。その舞台である東美濃・南信濃地域の豪農商たちの、小説よりも多様な姿や物語の歴史的背景を描く。平田国学を受容した人々を取り上げ、新たな視点でその実態に迫る。
978-4-642-03844-7　(15.3)

中元崇智著
明治期の立憲政治と政党
―自由党系の国家構想と党史編纂―
第１回江村栄一記念学術賞受賞
A５判　308頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

藩閥政府と政党の提携に尽力した自由党系土佐派に着目。非議員の板垣退助を党首に据え、いかに国家構想や経済政策を提起し、またどのような歴史観で党史を編纂したのか。模索期の立憲政治を政党の視点から考察する。
978-4-642-03878-2　(18.10)

伊故海貴則著
明治維新と〈公議〉
―議会・多数決・一致―
A５判　368頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉

明治維新を画期に、政治的合意システムが「全会一致」から「多数決」へ移行していく。「公議」概念はどう変容し、制度として定着したのか。静岡県の事例を調査・検討し〈合意形成のあり方の変容〉を切り口に実態に迫る。
978-4-642-03920-8　(23.1)

内山一幸著
明治期の旧藩主家と社会
―華士族と地方の近代化―
A５判　312頁　**12,100円**(11,000)

明治維新以後、大名華族はどのような歴史的役割を果たしたのか。旧藩領と東京で家政を運営した意義、複雑な機構と人事、旧藩主家と立身出世の補完的な社会構造など、旧柳河藩主立花家から近代社会との関係を解明する。
978-4-642-03848-5　(15.12)

谷口裕信著
近代日本の地方行政と郡制
A５判　326頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉

戦前のうちに唯一廃止された地方制度の単位・郡。成立から改廃への経過に、いかなる要因や思惑が存在したか。内務省・政党の議論や各地の郡制機能の実態を分析。地域における郡の意義をとらえ地方行政の変容に迫る。
978-4-642-03914-7　(22.2)

飯塚一幸著
明治期の地方制度と名望家
A５判　324頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉

明治期の地方制度はいかなる意味を持ったか。名望家層による地域振興、土木事業、政党の浸透などに着目し、地域社会の視点から再検討。行政単位としての府県が人々の共通利害を有する公共空間へ変貌していく過程を描く。
978-4-642-03868-3　(17.10)

今村直樹著
近世の地域行財政と明治維新
A５判　394頁　**12,100円**(11,000)

近世の地域社会統治のため、名主や庄屋の上位に置かれた大庄屋。その一つ、熊本藩の手永・惣庄屋制の行財政機能を詳細に検討。領主制と地域社会の展開を追い、明治維新という社会変革後の地方制度への影響を解明する。
978-4-642-03500-2　(20.8)

大澤博明著
明治日本と日清開戦
―東アジア秩序構想の展開―
A５判　300頁　**9,900円**(9,000)

近代日本の分岐点となった日清戦争。その開戦過程を、国際的要因、日英清提携論の形成、幕末以来の外交上の道義、清との交渉の視角などから詳細に分析。東アジアの地域秩序と明治外交の考察から、日清開戦像を捉え直す。
978-4-642-03909-3　(21.10)

伊藤陽平著
日清・日露戦後経営と議会政治
―官民調和構想の相克―
A５判　336頁　**11,000円**(10,000)

日清・日露戦後は、藩閥と政党の提携が崩れ、二大政党が誕生する。この時期の官民調和体制を、第三勢力としての吏党を重視しつつ、官民「協調」論と「一体」論の二潮流から分析。大正政変までの政界再編過程を捉え直す。
978-4-642-03910-9　(21.11)

天野真志著
幕末の学問・思想と政治運動
―気吹舎の学事と周旋―
A５判　260頁　**9,900円**(9,000)

幕末、国政に関する勢力間の仲介を目的に志士らが展開した国事周旋。私塾気吹舎での学問と政治関与の考察から、活動基盤としての学問・思想、情報・交流を検討。平田国学の政治的意義と議論空間の様相を解き明かす。
978-4-642-04340-3　(21.4)

荒井明夫著
明治前期の国家と地域教育
A５判　384頁　**13,200円**(12,000)

近代国家成立期、新たな公教育を推進したのは地域指導者だった。山形・山口・長崎・鹿児島などの学校設立過程から、その活動や財源を分析。地域と国家との関係を学校設立の観点から追究し、「教育の近代化」の実態を問う。
978-4-642-03935-2　(24.10)

戸田金一著
明治初期の福祉と教育
―慈善学校の歴史―
A５判　340頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉

学制施行期から設けられた貧困子女のための慈善学校。その設立理由・経緯、運営の実態、政府の対応と事業の終了などを詳細に検討する。これまでまったく知られていなかった慈善学校の全貌を明らかにした初めての書。
978-4-642-03787-7　(08.10)

越後純子著
近代教育と『婦女鑑』の研究
A５判　332頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉

昭憲皇后の内意を受け、1887年に刊行した『婦女鑑』。女子用修身書とされたその成立経緯、構成・内容などを検討。編者西村茂樹の思想との関係、下賜や普及の状況、後世への影響などを考察し歴史的意味を探る。
978-4-642-03859-1　(16.11)

西成田　豊著
経営と労働の明治維新
―横須賀製鉄所・造船所を中心に―
A５判　262頁　**5,500円**(5,000)〈僅少〉

幕末に創設された横須賀製鉄所・造船所は、明治新政府に移管され大規模な発展を遂げる。江戸職人の登用、定雇職工・海軍工夫制度、日本的雇用・労働慣行などを分析。経営労働史の視点から明治維新とは何かの命題に迫る。
978-4-642-03763-1　(04.6)

西成田　豊著
日本の近代化と民衆意識の変容
―機械工の情念と行動―
A５判　272頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉

近代化により生まれた機械工たちは、集団労働への適応が求められた。工場規則や労働時間、工場内の人間関係や欠勤などの実態、労働争議、遊興や文化に着目。民衆史と感性史の方法で、民衆意識の変化を究明する注目の書。
978-4-642-03898-0　(21.1)

徳川義崇監修・徳川林政史研究所編
写真集 尾張徳川家の幕末維新
—徳川林政史研究所所蔵写真—
A４判　318頁　**9,900円**(9,000)

写真家大名として知られた、幕末の尾張藩主徳川慶勝。彼の撮影した、古写真300点強を厳選し収録。家族の肖像、名古屋城と城下、江戸藩邸や東京の町並み、庶民の日常空間など、幕末の動乱と近代化する日本の姿が甦る。
978-4-642-03827-0　(14.3)

江川文庫編・東京大学史料編纂所古写真研究プロジェクト編集協力
写真集 日本近代化へのまなざし
—韮山代官江川家コレクション—
A４判　232頁　原色口絵８　**13,200円**(12,000)

江戸時代、伊豆韮山代官をつとめた江川家所蔵の古写真コレクション。日本写真史において貴重なジョン万次郎撮影のガラス原板写真や、下岡蓮杖ら当時の有名写真家による作品、世界遺産の韮山反射炉なども多数掲載する。
978-4-642-03852-2　(16.3)

武部敏夫・中村一紀編
明治の日本 —宮内庁書陵部所蔵写真—
A４判　454頁　**16,500円**(15,000)

宮内庁書陵部には、明治天皇のお手許に上げられた2000枚にものぼる古写真が伝えられる。明治天皇の地方巡幸に関わるものが多く、新時代建設の多様な姿を、明治という〝時〟とともに写し撮っている貴重な写真集である。
978-4-642-03696-2　(00.11)

学習院大学史料館編
写真集 明治の記憶
—学習院大学所蔵写真—
A４判　240頁　原色口絵8　**9,900円**(9,000)〈僅少〉

古写真は歴史の雄弁な証言者であり、語り部である。明治天皇の巡幸経路に沿って収めた各地の風景写真を中心に、千島列島の開拓、八甲田山雪中行軍など、稀少な写真を多数収録。明治の世相を現在に伝える第一級の資料。
978-4-642-03776-1　(06.6)

学習院大学史料館編
写真集 近代皇族の記憶
—山階宮家三代—
A４判　334頁　原色口絵2丁　**13,200円**(12,000)

明治維新の国事に奔走した、伏見宮の王子晃親王が創設した山階宮家。宮家の人々が撮影した、邸内の生活や皇族たち、飛行機などの800点におよぶ写真は、知られざる皇族の社会や日常生活をあざやかに映し出す。
978-4-642-03788-4　(08.12)

研谷紀夫編
皇族元勲と明治人のアルバム
—写真師丸木利陽とその作品—
A５判　200頁　**1,980円**(1,800)

明治から大正期に「御用写真師」として活躍し、独自の技法を確立した丸木利陽。皇室・元勲ほか明治を生きた人々の肖像など143点を収め、激動の時代を振り返る。写真台紙のロゴ一覧や、丸木に関する関連資料などを付す。
978-4-642-08274-7　(15.5)

杉　謙二編
華族画報 （全２冊セット）
〈分売不可〉
菊倍判　総1140頁　原色口絵1丁　原色別刷64丁　**66,000円**(60,000)〈僅少〉

大正２年に刊行された華族の「紳士録」を復刻。各家の肖像や邸宅の写真を、系譜・当主の伝記・家庭と血縁関係・城跡などの関係記事とともに収録する。当時の社会、世相を知るために絶好だが、少部数配布されたのみの稀覯書。
978-4-642-03805-8　(11.10)

川上寿代著
事典 観桜会・観菊会全史
—戦前の〈園遊会〉—
A５判　314頁　**6,600円**(6,000)〈僅少〉

明治政府による条約改正交渉の側面工作として始まった観桜会・観菊会。古より続く花を楽しむ催しは、外交・社交の場として機能し次第に年中行事となる。欧化政策と伝統が融合した戦前の〈園遊会〉の歴史と世界を描く。
978-4-642-03865-2　(17.2)

田中萬逸編
画譜 憲政五十年史
B４横判　678頁　別刷８丁　**46,200円**(42,000)〈僅少〉

1939年、憲法発布後50年を記念して編集された写真資料集。関係人物や事件を象徴する書類・書簡、当時の建物・風景・事件現場などの約2000枚の写真で構成。詳細な憲政年表と写真人名索引が付され活用が期待される。
978-4-642-03826-3　(14.2)

東京日日新聞社・大阪毎日新聞社編
秘録 維新七十年図鑑 （新装版）
菊倍判　286頁　**11,000円**(10,000)

昭和12年に開催された、明治政府発足70年と大日本帝国憲法発布50年を記念する政治博覧会の展示品をまとめた図鑑。政治の発達・変遷を中心に、現在失われた古文書や実物資料を豊富に掲載した稀覯本を新装復刊。
978-4-642-03870-6　(18.1)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

北原糸子編
写真集 関東大震災
A４判　424頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉
1923年、首都を廃墟と化し、死者・不明者10万人に及ぶ未曾有の災害をもたらした巨大地震。航空写真、震災直後の様相、立ち向かう人々の姿、復興する都市など、700枚の貴重な写真でよみがえる大震災と復興の記録。
978-4-642-03794-5　(10.4)

東京鉄道局写真部編
関東大震災 鉄道被害写真集
―惨状と復旧 1923-24―
B５横判　296頁　**19,800円**(18,000)
東京・神奈川など1府6県に甚大な被害を与えた関東大震災。東京鉄道局の写真技師が、各沿線の被災状況や応急工事の様相を撮影した244枚を収めた写真帖を新装復刊。大正末期の社会・世相もよみがえる貴重な記録。
978-4-642-03895-9　(20.9)

大日方純夫著
世界の中の近代日本と東アジア
―対外政策と認識の形成―
A５判　356頁　**11,000円**(10,000)
近代日本は大陸国家への道をいかに目指したのか。日清・日露戦争を経て台湾・朝鮮を植民地化していく過程を、対外政策と認識を中心に解明。エジプトなどの動向も視野におさめて、日本の近代化を世界史的に位置づける。
978-4-642-03904-8　(21.3)

中村尚史著
海をわたる機関車
―近代日本の鉄道発展とグローバル化―
2017年鳥秀雄記念優秀著作賞／2018年度企業家研究フォーラム賞／2018年鉄道史学会住田奨励賞受賞
A５判　264頁　**4,290円**(3,900)〈僅少〉
グローバル経済のもとでの鉄道車輌・鉄道システムの移転は、いかにして行われるのか。イギリスからアメリカ・ドイツへ移る、機関車産業の覇権争いと、明治時代における日本鉄道業の発展の歴史を、統一的な視点で描く。
978-4-642-03851-5　(16.2)

竹内祐介著
帝国日本と鉄道輸送
―変容する帝国内分業と朝鮮経済―
A５判　258頁　**8,800円**(8,000)〈僅少〉
台湾・朝鮮などを植民地化した日本は、鉄道物流網の構築を目指した。朝鮮内の市場がいかなる特質を持って成長し、地域間で分業体制を築いたのか。商品流通の実態を鉄道統計から分析し、日本帝国下の朝鮮経済を究明。
978-4-642-03896-6　(20.12)

酒井一臣著
帝国日本の外交と民主主義
A５判　270頁　**8,250円**(7,500)〈僅少〉
民主主義思潮高まる戦間期日本で外交の民主化が議論された。国際協調や不戦条約、移民問題などの外交課題を題材に、国民外交論の内実と展開、破綻の要因を追究。近代日本の事例から現代の「外交と民意」の関係を問う。
978-4-642-03877-5　(18.6)

熊本史雄著
大戦間期の対中国文化外交
―外務省記録にみる政策決定過程―
A５判　362頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉
第1次大戦後、米国が提唱した平和的な「新外交」へ日本はどう転換したのか。「対支文化事業」への外務省の対応を、史料学的アプローチを用いて分析。対中国文化外交政策の意義と特質を解明し、従来の外交史像を見直す。
978-4-642-03818-8　(13.2)

伊香俊哉著
近代日本と戦争違法化体制
―第一次世界大戦から日中戦争へ―
A５判　352頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉
第1次大戦後に設立された国際連盟により、戦争は違法とされた。常任理事国日本はいつ連盟規約に違反する方針を決定し、対中武力行使の違法性にいかなる認識をもったのかを検証。戦争違法化体制の歴史的意味を考える。
978-4-642-03746-4　(02.7)

久野　洋著
近代日本政治と犬養毅
―一八九〇～一九一五―
A５判　334頁　**10,450円**(9,500)
政治的半生を野党指導者として捧げた犬養毅。与党との差別化や政権参画の実現にむけて、彼の政治指導はどう展開していったのか。「憲政の神様」とされる犬養の実像に迫るとともに、明治大正期の政治変容を捉える。
978-4-642-03915-4　(22.5)

田中宏巳著
小笠原長生と天皇制軍国思想
A５判　502頁　**13,200円**(12,000)

特異な経歴で海軍中将まで昇った小笠原長生(ながなり)。日清・日露戦史の編纂、東宮御学問所での皇室との繋がり、東郷平八郎のブレーンなど、日記を中心に半生を描く。制度の上ではあり得ない秘められた活動にも触れ、実像に迫る。
978-4-642-03906-2　(21.10)

井上敬介著
立憲民政党の地方組織と北海道
―自由民主党への道―
A５判　296頁　**10,450円**(9,500)

昭和戦前期北海道の衆院・道議選の実態を分析。候補者調整や集票などの民政党の地方組織の役割や、組織の変容過程を解明し、戦後、自民党道連がどのように成立するかを展望する。政党政治を地方から論じた貴重な成果。
978-4-642-03913-0　(22.2)

白木沢旭児著
日中戦争と大陸経済建設
A５判　304頁　**9,350円**(8,500)〈僅少〉

日中戦争の目的は、中国占領地における経済開発〈長期建設・経済建設〉であった。戦時期の貿易立国路線から生産重視への転換過程と華北の工業・農業政策に着目。日中戦争の重要な側面である大陸経済建設の実態に迫る。
978-4-642-03861-4　(16.12)

劉　傑著
日中戦争下の外交
大平正芳記念賞受賞
A５判　400頁　**8,800円**(8,000)

日中戦争史研究の重要課題である和平工作について、広い視角から検討。日本の対華工作に中国側が如何なる意図で対応したかを、日中双方の史料を駆使して明らかにする。従来の研究の死角に光を当てた意欲的労作。
978-4-642-03657-3　(95.2)

及川琢英著
帝国日本の大陸政策と満洲国軍
A５判　292頁　**9,900円**(9,000)

満洲国軍とはいかなる存在だったのか。馬賊ら在地勢力の編入過程や、陸士留学生、軍内統制、国兵法の意義、作戦動員と崩壊までを検証。日露戦争以後の日本の大陸政策と中国東北史に位置づけ、歴史的意義を考察する。
978-4-642-03889-8　(19.10)

塚瀬　進著
マンチュリア史研究
―「満洲」六〇〇年の社会変容―
A５判　302頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉

民族名や国号に由来する満洲に対して、地名としての呼称であるマンチュリア。明代から中華人民共和国の成立までの600年間、いかなる要因で社会は変容していったのか。周辺諸国との関連から、マンチュリア史を描く。
978-4-642-03837-9　(14.11)

本島和人著
満洲移民・青少年義勇軍の研究
―長野県下の国策遂行―
A５判　380頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

長野県飯田・下伊那は「全国一」満洲移民(農業移民・満蒙開拓青少年義勇軍)を送り出した。なぜここから多くの人々が海を渡り犠牲になったのか。体験者の聞き取りと新たな史料から地域の特異性に迫り、新知見を提示。
978-4-642-03905-5　(21.9)

満鉄会編
満鉄四十年史
A５判　640頁　口絵8　2色折込袋入1丁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉

20世紀初頭の満洲における壮大な国家的プロジェクト〝満鉄〟。その歴史を鉄道史と近現代史の両面から位置づける。さらに関連年表、全線全駅一覧など当時を知るための貴重な資料を収めた、満鉄を知るために必読の書。
978-4-642-03781-5　(07.11)

加藤圭木著
植民地期朝鮮の地域変容
―日本の大陸進出と咸鏡北道―
A５判　280頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉

朝鮮東北部の咸鏡北道における経済活動・軍事基地や港湾の建設・貿易・地方行政機構・人口の動きを、地域社会の特質や国際情勢、自然環境などから考察。植民地期の朝鮮社会の独自性に迫りつつ、地域変容の実態を描く。
978-4-642-03864-5　(17.2)

李炯植著
朝鮮総督府官僚の統治構想
A５判　280頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉

日本の朝鮮統治において、植民地支配を担った総督府。朝鮮内外の統治環境の変化に直面して、総督府官僚は植民地の現実をいかに認識し、政策構想を模索したのか。朝鮮社会―総督府―日本本国の相関関係の中で究明する。
978-4-642-03821-8　(13.3)

大豆生田　稔著
戦前日本の小麦輸入
—1920～30年代の環太平洋貿易—
A５判　304頁　**11,000円**(10,000)

戦間期から日中戦争期の日本では、食糧問題への対策として、北米や豪州からの小麦輸入が進んだ。国内消費の変化をふまえ、環太平洋の国際情勢と小麦の貿易を考察。また、日系商社の一次資料により取引の実態を探る。
978-4-642-03921-5　(23.2)

金　富子・金　栄著
植民地遊廓 —日本の軍隊と朝鮮半島—
A５判　256頁　**4,180円**(3,800)

近代日本による朝鮮侵略のなか、移植された日本式の公娼制は、植民地社会にいかなる影響を与えたのか。遊廓が浸透した過程を、南北地域に分けて考察。史資料にない娼妓の姿を、オーラルヒストリーなどから掘り起こす。
978-4-642-03880-5　(18.10)

岩間　敏著
アジア・太平洋戦争と石油
—戦備・戦略・対外政策—
A５判　200頁　**3,300円**(3,000)〈僅少〉

日本の資源を総動員したアジア・太平洋戦争。国外との輸入交渉、真珠湾攻撃での洋上給油作戦、石油の需給予測や海上輸送作戦など、総力戦の実態と末路を、艦船・航空機などの戦備も含めた豊富なデータをもとに解明する。
978-4-642-03876-8　(18.6)

古川隆久著
昭和戦中期の議会と行政
A５判　316頁　**8,250円**(7,500)〈僅少〉

昭和戦時下の政局に議会や内務官僚はいかなる役割を果たしたのか。形骸化した存在とされてきた議会の実態を再検討すると共に、議会の対抗勢力としての内務官僚の動向を検証。新たな視座から戦時下の政治構造を読み解く。
978-4-642-03771-6　(05.4)

官田光史著
戦時期日本の翼賛政治
A５判　280頁　**9,900円**(9,000)

戦時期に政党人の参加により成立した「翼賛政治」体制。その政治過程を政党と政府・議会の関係に注目し究明する。戦局の悪化に伴う議員の応召や非常大権統治の構想にも論及。明治憲法をめぐる政党の模索を解き明かす。
978-4-642-03853-9　(16.3)

谷口眞子著
葉隠〈武士道〉の史的研究
A５判　460頁　**13,200円**(12,000)

幕藩体制下で成立した葉隠を近代日本はいかに読み替え、「武士道というは死ぬこととみつけたり」が知られるようになったのか。現代人が無意識のうちに前提としてきた「日本」「武士道」の認識枠組みを問う初めての書。
978-4-642-04351-9　(22.8)

中野　良著
日本陸軍の軍事演習と地域社会
A５判　260頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉

軍隊の維持に不可欠な軍事演習にあたり、陸軍と地域はいかなる関係を有したか。日露戦後から昭和戦前期を対象に、演習地の負担や利益、演習地に対する陸軍の認識を検討。天皇統監の特別大演習に関する論考も収録する。
978-4-642-03888-1　(19.10)

野邑理栄子著
陸軍幼年学校体制の研究
—エリート養成と軍事・教育・政治—
A５判　304頁　**9,350円**(8,500)

昭和戦前期、陸軍首脳部の重要ポストは陸軍幼年学校出身者で占められていた。なぜ陸軍は閉鎖的なエリート養成制度を作り出したのか。教育界の反発に対抗しつつ特権化を図る過程を、新発見の史料を駆使して解き明かす。
978-4-642-03774-7　(06.1)

野村　實著
日本海軍の歴史 〈新装版〉
A５判　264頁　**3,850円**(3,500)

欧米列強の脅威の中で発展した日本海軍は、日清・日露戦争の難局を乗り越え、世界３大海軍国の地位を築く。なぜそれが可能だったのか。東郷平八郎、山本五十六ら提督の戦略に着目し、日本海軍興亡の歴史を解明した名著。
978-4-642-03926-0　(23.3)

海軍史研究会編

日本海軍史の研究

A５判　356頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉

海軍力が国力の象徴だったころ、日本海軍は平和と戦争の間に揺れた世界の最前線にあった。建軍以来、組織や人材、戦略の立案、兵器・燃料の拡充など、海軍の日本的体質はいかに養われたのか、その実態を究明する。
978-4-642-03840-9　(14.12)

兒玉州平・手嶋泰伸編

日本海軍と近代社会

A５判　318頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

日本海軍は近代社会にどのような影響を与え、その社会からいかなる影響を受けたのか。軍事史に限らない多様な専門領域を持つ研究者が結集。国際関係・政治・軍事・経済などから、海軍と社会との双方的な関係を解明する。
978-4-642-03930-7　(23.11)

木村美幸著

日本海軍の志願兵と地域社会

A５判　332頁　**9,900円**(9,000)

アジア・太平洋戦争期に急増した海軍志願兵。なぜ海軍は徴兵ではなく志願兵を必要としたのか。日露戦争後から敗戦まで、海軍の募兵制度の変遷を探り、各地の事例から兵士をいかに確保していったのか、その実態に迫る。
978-4-642-03917-8　(22.11)

太田久元著

戦間期の日本海軍と統帥権

A５判　288頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉

ロンドン海軍軍縮会議以降、日本海軍の編制権は統帥権に包含されていく。この過程での海軍省と軍令部の構造変化、海軍内の人的構造の変遷、またこの構造の海軍政策決定への関与を分析し、戦間期海軍の特質を究明する。
978-4-642-03862-1　(17.1)

海軍有終会編

幕末以降 帝国軍艦写真と史実 (新装版)

B５横判　460頁　**7,480円**(6,800)〈僅少〉

幕末から戦前(昭和10)に日本が保有した軍艦の写真集を復刻。寸法・装備などの要目、艦名の由来、艦歴など、詳細なデータを付す。幕末以降の海戦や年表など、太平洋戦争以前の日本海軍を知る上で貴重な資料を多数掲載。
978-4-642-03882-9　(18.12)

手嶋泰伸著

昭和戦時期の海軍と政治

A５判　284頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉

日中戦争の拡大や対米戦の開始、終戦の決定に、海軍はいかなる役割を果たしたのか。米内光政、高木惣吉ら海軍将校の行動や、海軍内部の対立関係などを探り、組織の特質を解明。昭和戦時期の政治史研究の深化をめざす。
978-4-642-03825-6　(13.10)

一ノ瀬俊也著

近代日本の徴兵制と社会

A５判　360頁　**8,800円**(8,000)

〝普通の人々〟が国家のために殺し殺される徴兵制は、どう受け入れられたのか。徴兵制維持のサブ・システム＝「軍隊教育」と「軍事救護」を分析。戦争自体をも正当化する論理がいかに語られていったのかを解き明かす。
978-4-642-03764-8　(04.6)

本康宏史著

軍都の慰霊空間

―国民統合と戦死者たち―

A５判　384頁　**8,800円**(8,000)

近代軍隊の創設にともない、軍人墓地や護国神社など戦死者を弔う特別の空間が創設された。これら慰霊の場の立地や景観、儀礼・祭祀などを通し、軍事都市を中心に展開した近代国家による民衆統合の様相を明らかにする。
978-4-642-03742-6　(02.3)

布川　弘著

〈近代都市〉広島の形成

A５判　294頁　**11,000円**(10,000)

山陽道の要衝に位置し、浅野家の城下町として栄えた広島は、いかにして〈近代都市〉となったのか。軍都という歴史的現実を受け入れつつ自らの暮らしを創意工夫し、喜怒哀楽を享受していた人々の視線に立って考察する。
978-4-642-03873-7　(18.4)

浜井和史著

戦没者遺骨収集と戦後日本

A５判　314頁　**10,450円**(9,500)

戦後の日本は、海外戦没者の存在に真摯に向き合ってきたのか。「遺骨収集事業」をめぐる外交交渉や政策決定過程を分析し、歴史的に考察。靖国問題にとどまらない戦没者と国家の関係をめぐる研究に新たな視座を示す。
978-4-642-03900-0　(21.1)

中村江里著
戦争とトラウマ
—不可視化された日本兵の戦争神経症—
A５判　330頁　**5,060円**(4,600)
アジア・太平洋戦争期に軍部の注目を集めた戦争神経症は、なぜ戦後長らく忘却されてきたのか。さまざまな医療アーカイブズや医師への聞き取りから忘却されたトラウマを浮かび上がらせ、現代的課題の視座も示す注目作。
978-4-642-03869-0　(18.1)

佐道明広著
戦後日本の防衛と政治　〈増補新版〉
A５判　432頁　**9,900円**(9,000)
戦後日本の防衛政策はいかに形成されたのか。自主防衛中心か安保依存かという議論の経緯を、未公開史料とインタビュー史料を活用して追究。政軍関係の視点から、防衛体制を体系的に分析した名著に補論を付して再刊する。
978-4-642-03933-8　(24.2)

佐道明広著
自衛隊史論　—政・官・軍・民の六〇年—
A５判　240頁　**3,300円**(3,000)
憲法９条が不保持と定めた「戦力」ではない組織として誕生した自衛隊。激変する国際社会に日本の防衛政策はどのように対応し、自衛隊はいかに変貌を遂げてきたのか。創設60年の歴史を辿り、軍事が果たす役割を問う。
978-4-642-03841-6　(15.1)

波多野澄雄著
サンフランシスコ講和と日本外交
A５判　374頁　**8,800円**(8,000)
1951年の講和条約は、領土、賠償、戦争責任などの戦後処理問題に加え、「植民地帝国」の清算という難題にも直面した。米国の思惑を背後にして講和条約体制を築く日本外交の苦闘を軸に、沖縄「密約」の問題にも迫る。
978-4-642-03934-5　(24.4)

濵砂孝弘著
安保改定と政党政治
—岸信介と「独立の完成」—
A５判　312頁　**9,900円**(9,000)
戦後日本の独立とともに締結され、改定を経て現在まで残る日米安保条約。その安定的持続を可能にした国内の政治基盤は、いかに整備されたのか。岸信介を取り巻く政治状況を描き、安保改定を政党政治の側面から捉え直す。
978-4-642-03936-9　(24.10)

豊田祐基子著
日米安保と事前協議制度
—「対等性」の維持装置—
A５判　300頁　**7,700円**(7,000)
日米安保条約改定時に成立した事前協議制度。核持ち込みや軍事行動の際、日本の発言権確保のため設けられたが、発動されることなく相互依存を深める装置となっていく。制度の全体像に迫り、日米安保の秘めた側面を暴く。
978-4-642-03843-0　(15.3)

我部政明・豊田祐基子著
東アジアの米軍再編
—在韓米軍の戦後史—
四六判　272頁　**2,970円**(2,700)
戦後行われてきた東アジアの米軍再編。朝鮮半島情勢は米・韓・日の関係にどんな影響を与えたのか。在韓米軍の削減、韓国軍の作戦統制権をめぐる構図を解明。在日米軍との連動性を俯瞰し、東アジアの安全保障の道筋を探る。
978-4-642-03916-1　(22.8)

矢嶋　光著
芦田均と日本外交
—連盟外交から日米同盟へ—
A５判　334頁　**9,900円**(9,000)
戦後、吉田茂の軽武装論に対立し、再軍備論を唱えた芦田均。外交官時代の経験から得た国際政治観と敗戦までの変化など、政治的足跡から彼の再軍備論を内在的に分析。戦後日本の外交路線の形成と対立の諸相を考察する。
978-4-642-03890-4　(19.12)

山口　航著
冷戦終焉期の日米関係
—分化する総合安全保障—
第９回日本防衛学会猪木正道賞正賞受賞
A５判　390頁　**9,900円**(9,000)
総合安全保障は、たんに経済や食糧を含む安全保障ではなかった。日米政府機密解除文書を多用し、大平正芳・鈴木善幸・中曽根康弘とカーター・レーガン政権の政治外交を再現。多層性と多様性から日米同盟を捉え直す。
978-4-642-03922-2　(23.2)

重光　葵著
巣鴨日記　正·続(合本新装版)
—昭和21年4月29日～25年11月21日—
A５判　670頁　口絵2　**7,150円**(6,500)

戦時中に外相を務め、降伏文書に調印した重光が巣鴨プリズンで書いた日記(正・続)を合本して復刊。逮捕から出所までほぼ毎日記され、東京裁判法廷でのやりとりやA級戦犯の肉声などは史料価値が高い。解題と索引付。
978-4-642-03908-6　(21.11)

金子龍司著
昭和戦時期の娯楽と検閲
A５判　300頁　**9,900円**(9,000)

1945年の敗戦まで続いた映画、音楽、芝居などへの検閲。流行歌やジャズ、大衆喜劇などの取締りに、投書という手段で消費者が与えた影響とは。これまでの通説に見直しを迫り、戦時娯楽政策の実相を解き明かす。
978-4-642-03901-7　(21.2)

中西　聡·二谷智子著
近代日本の消費と生活世界
A５判　424頁　**12,100円**(11,000)

近代日本の家計史料をもとに、人々の消費生活の実相を解明。各家の所得·所在地·職種などの差異に留意し比較検討する。日用品・サービスの購入や贈答の観点から、近代化のなかで変容する生活世界を実証的に描く。
978-4-642-03879-9　(18.12)

石田雅春著
戦後日本の教科書問題
A５判　240頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉

教育課程や検定制、歴史教科書の記述内容などを焦点に進められてきた戦後の教科書問題研究。日教組と文部省の対立や教科書無償化、家永教科書裁判などの諸問題を、従来とは異なる視点で分析して実態に迫る注目の書。
978-4-642-03887-4　(19.11)

加藤　諭著
大学アーカイブズの成立と展開
—公文書管理と国立大学—
A５判　424頁　**12,650円**(11,500)〈僅少〉

教育・研究機関として発展してきた大学には、運営などに関する多くの資料が存在し、日本の文書管理制度の一翼を担ってきた。各国立大学の事例を挙げて、日本における大学アーカイブズの真の意義や可能性を解明する。
978-4-642-03891-1　(19.12)

羽賀祥二編
近代日本の地域と文化
A５判　296頁　**12,100円**(11,000)

幕末維新期に実施された諸改革は、以後の日本社会に大きな社会変動をもたらした。近代日本の地域と文化に関する諸問題を論じた論考11本を「学術と宗教」と「地域社会と都市」の2部に編成。諸相を浮き彫りにする。
978-4-642-03875-1　(18.3)

原田敬一編
近代日本の政治と地域
A５判　326頁　**11,000円**(10,000)

近代日本の政治史·都市史に関わる論考10編を、「政治と権力」「地域と民衆」の2部構成で収録。幕末政治、議員立法、青年団、在日朝鮮人など様々なテーマを取り上げ、そこに現れる歴史像を史料に忠実に描き出す。
978-4-642-03885-0　(19.6)

原田敬一編
近代日本の軍隊と社会
A５判　258頁　**11,000円**(10,000)

軍事史研究の最新状況を反映させた8編の論考を、「軍隊と戦争」「地域と軍隊」の2部構成で収録。戊辰戦争、戦死者慰霊、徴兵制など、さまざまなテーマを取り上げ、実証的な分析のもと〈軍隊〉や〈戦争〉を考察する。
978-4-642-03886-7　(19.6)

林　博史著
帝国主義国の軍隊と性
—売春規制と軍用性的施設—
四六判　486頁　**4,180円**(3,800)

植民地を広げる帝国主義国家は、兵士の管理や性病予防のため軍用性的施設を設置した。英国を中心にフランス·ドイツ·米国などの売春管理政策を比較·分析。世界史的視座から日本軍「慰安婦」制度の位置づけと特徴に迫る。
978-4-642-03912-3　(21.12)

有馬　学編
近代日本の企業家と政治
—安川敬一郎とその時代—
A５判　310頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

「地方財閥」の雄である安川敬一郎の一地方企業家から財閥へのプロセスと政治活動を、膨大な「安川家文書」から分析。また、北九州の都市を対象に、近代日本の都市化·工業化における地方都市の位置と機能を解明する。
978-4-642-03790-7　(09.2)

白鳥圭志著
横浜正金銀行の研究
—外国為替銀行の経営組織構築—
A５判　228頁　**8,800円**(8,000)

1880年に設立され、戦前日本経済を支えた横浜正金銀行。戦争・地震・金融恐慌などに翻弄された歩みを内部史料から検証。本部組織に焦点を絞り、組織管理・経営戦略の特徴を捉え、後発国の多国籍銀行の実態に迫る。
978-4-642-03903-1　(21.2)

飯塚一幸編
近代移行期の酒造業と地域社会
—伊丹の酒造家小西家—
A５判　284頁　**10,450円**(9,500)

現在に至るまで酒造業を営む伊丹の小西家。近世後期から第一次大戦までを対象に、近代化の荒波を乗り越えた経営を分析。金融・鉄道を通した地域への関与や、他の商家との関係など、大規模酒造家の実態に多角的に迫る。
978-4-642-03911-6　(21.11)

牛米　努著
明治の地方ビール
—全国醸造所・銘柄総覧—
A５判　272頁　**4,180円**(3,800)

近代を迎えた日本には、地方ビールの時代があった。黎明期から終焉にいたる歴史を平易に解説。史料を博捜して東京および全国各地の醸造所や銘柄など、詳細な情報を紹介する。明治の地方ビールが蘇るユニークな書。
978-4-642-03929-1　(23.12)

野間万里子著
近代日本牛肉食史 —生産・供給・消費—
A５判　184頁　**8,800円**(8,000)

近代以降に拡大した日本の牛肉食。農耕用の役牛を中心とした既存の生産体制、前近代からの肉食文化、戦争に伴う需要変化など、多元的な背景に光を当て実態を追究。生産・供給との相互関連から、牛肉消費の展開に迫る。
978-4-642-03932-1　(24.3)

「都市の危機と再生」研究会編
危機の都市史
—災害・人口減少と都市・建築—
A５判　406頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉

災害や人口減少など、危機を繰り返してきた都市の歴史を「日常のなかに潜む危機」という視座から捉え直す。建築史分野の研究者による16論考を収録。空間の実態と人々の認識を解明し、その歴史的個性と経験知に迫る。
978-4-642-03884-3　(19.3)

上山和雄・内山京子・中澤恵子編
久邇宮家関係書簡集
—近代皇族と家令の世界—
A５判　430頁　**13,200円**(12,000)

昭和天皇の皇后(香淳皇后)の実父久邇宮邦彦王の教育係、家令だった角田敬三郎宛の國學院大學蔵書簡集。「宮中某重大事件」関連史料も含まれ、邦彦王の心情、宮内省や皇族の在り方を知る上で貴重。論考編と付録収載。
978-4-642-01586-8　(24.3)

森　暢平著
近代皇室の社会史 —側室・育児・恋愛—
A５判　390頁　**9,900円**(9,000)

伝統的な婚姻・子育てを残していた皇室が、なぜ「近代家族」化したのか。一夫一婦制、「御手許」養育、恋愛結婚などの実態を検討。大衆化する社会情勢、メディア報道と連関させ、時代に順応していく皇室に迫る新たな試み。
978-4-642-03892-8　(20.2)

右田裕規著
近現代の皇室観と消費社会
A５判　276頁　**9,900円**(9,000)

皇室を商品とした20世紀のメディア・祝祭記念品の需用のあり方を検討。戦前・戦後の天皇制がいかに大衆の支持を維持し、国民統合の象徴的作用はどう変容してきたか。消費社会化が君主制国家にもたらした影響に迫る。
978-4-642-03897-3　(20.11)

茂木謙之介著
表象としての皇族
—メディアにみる地域社会の皇室像—
2017年度印度学宗教学会賞受賞
A５判　328頁　**9,350円**(8,500)〈僅少〉

戦前戦後にかけ、皇族は人びとに如何なる存在として認識されたのか。中央・地方諸メディアに描き出された昭和天皇の弟宮たちの像を、様々な視角から分析。皇族表象のあり方が天皇制と如何に関係したかを追究する。
978-4-642-03867-6　(17.6)

有山輝雄著
近代日本メディア史 Ⅰ
—1868-1918—
A５判　400頁　**4,950円**(4,500)

明治新政権のメディア政策により、報道新聞がつくられた。新聞言論が活発化し、政府は讒謗律・新聞紙条例を公布して取り締まりを行う。明治国家体制のなかのメディアの役割形成など、第１次世界大戦までの歴史を描く。
978-4-642-03927-7　(23.8)

有山輝雄著
近代日本メディア史 Ⅱ
—1919-2018—
A５判　432頁　**4,950円**(4,500)

関東大震災後、朝日・毎日両新聞社が寡占体制となる。ラジオ放送の開始、国家総動員体制とメディアの協働関係、敗戦からテレビ放送浸透へ…。活版印刷が消えてインターネットが始まった現代までの歴史を明らかにする。
978-4-642-03928-4　(23.9)

中野目　徹著
明治の青年とナショナリズム
—政教社・日本新聞社の群像—
A５判　352頁　**10,450円**(9,500)

明治中期、欧化主義の風潮に対抗した政教社と日本新聞社。その中心で活躍した青年たちの思想と行動を読み解く。国家や民族のために何をなすべきかを模索した彼らの声に耳を傾け、近代日本のナショナリズム像を描く。
978-4-642-03833-1　(14.6)

長　志珠絵著
近代日本と国語ナショナリズム
A５判　296頁　**6,930円**(6,300)

「国語」とは自明の存在ではなく、近代形成期に創られた歴史的構築物である。その実相を、国語国字論争などのさまざまな政治文化的運動・論争から探り、「国語」ナショナリズム形成の場とその過程を明らかにする。
978-4-642-03681-8　(98.11)

小峰和夫著
満洲紳士録の研究
A５判　366頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉

立志の時代であった明治。欧化政策のもと、国民は立身出世を志向していく。満洲移民の立志伝集『満洲紳士録』の人物経歴を徹底的に分析。明治の人びとの緊張と活力に満ちた生き方を描き、時代の相貌を浮き彫りにする。
978-4-642-03795-2　(10.7)

北原糸子著
津波災害と近代日本
A５判　304頁　原色口絵4　**5,280円**(4,800)

幕末の安政東海・南海地震津波や、近代の明治・昭和三陸津波に、人々はいかに立ち向かい、後世へ何を残し伝えたのか。被災から復興までの現実をさまざまな資料をもとに復元し、困難を克服するための道筋を探り出す。
978-4-642-03832-4　(14.6)

近森高明・右田裕規編
夜更かしの社会史
—安眠と不眠の日本近現代—
A５判　266頁　**4,180円**(3,800)

夜間も活動するようになった都市住人は、眠りについてどんな認識や習慣、商品を生み出してきたか。その変遷を追い、夜に眠る／眠らないことの両方を同時に要請する産業社会での人びとの生活と睡眠との関係史に迫る。
978-4-642-03931-4　(24.2)

小野沢あかね著
近代日本社会と公娼制度
—民衆史と国際関係史の視点から—
第６回女性史学会受賞
A５判　336頁　**9,900円**(9,000)

男たちの放蕩や「家」の没落を招いた遊廓。女たちの勤倹貯蓄精神や修養意欲は、どう公娼制度批判へ発展したのか。また、東アジアに拡大した日本の公娼制度政策の特徴を国際関係史的視点から解明。慰安婦問題の歴史的前提にも言及。
978-4-642-03793-8　(10.5)

中山千代著
日本婦人洋装史 (新装版)
江馬務賞受賞
B5判　550頁　別刷原色図版14　別刷単色図版114　**22,000円**(20,000)〈僅少〉

南蛮服の渡来から、江戸の紅毛服、明治のハイカラ、大正のモダニズム、昭和の市民洋装まで、豊富な写真を駆使して詳説。婦人洋装の歴史を、風俗・生活史の視点から、日本の社会の中に位置づけた画期的大著の新装版。
978-4-642-01455-7　(10.7)

価格は 10％税込、(　)内は本体価格

われわれは宗教をどう理解し、いかに向き合うか？

日本宗教史 全6巻

吉田一彦・上島　享編
①日本宗教史を問い直す
A５判　344頁
4,180円(3,800)

古代から近代までの日本宗教史を、神の祭祀や仏法伝来、宗教活動の展開と宗教統制、政治との関係などを柱に概観する。さらに文化交流史、彫刻史、建築史、文学、民俗学の分野から日本の豊かな宗教史像をとらえ直す。
978-4-642-01741-1　(20.9)

上島　享・吉田一彦編
②世界のなかの日本宗教
A５判　358頁
4,180円(3,800)

日本の宗教史は世界においてどのような特色を持つのか。キリスト教やイスラーム教、儒教を信仰する地域と比較。妻帯、葬送、信仰、時空意識などを考察して、アジア史、そして世界史のなかに日本宗教史を位置づける。
978-4-642-01742-8　(21.3)

伊藤　聡・吉田一彦編
③宗教の融合と分離・衝突
A５判　308頁
4,180円(3,800)

仏教・神道・キリスト教をはじめ多様な宗教が併存する日本社会。他の信仰に対する寛容さを持つ一方、排他的な志向や事件も繰り返されている。古代から現代まで、さまざまな宗教・思想・信仰の融合と葛藤の軌跡を辿る。
978-4-642-01743-5　(20.8)

佐藤文子・上島　享編
④宗教の受容と交流
A５判　338頁
4,180円(3,800)

古来、中国やインド、西洋からの影響を波状的に受けて育まれてきた日本の宗教文化。仏教・儒教・道教・キリスト教や様々な民間信仰をとりあげ、伝播の衝撃や受容の実態などを明らかにし、その歴史的意義を考える。
978-4-642-01744-2　(20.11)

伊藤　聡・佐藤文子編
⑤日本宗教の信仰世界
A５判　272頁
4,180円(3,800)

自然災害や疫病、大切な人の死に面したとき、人々は日ごろ忘れている宗教的な体験の記憶を呼び覚まして向かい合おうとする。人が生まれてから死を迎えるまで、社会の営みの基底にいきづく多様な〈信仰〉のかたちを描く。
978-4-642-01745-9　(20.12)

佐藤文子・吉田一彦編
⑥日本宗教史研究の軌跡
A５判　294頁
4,180円(3,800)

日本宗教史の諸学説はいつ、どのようにして成立したのであろうか。明治・大正以来の研究の歩みを振り返り、今後の学問の方向を探る。近代国家の展開に共振する学問史を洞察し、新たな日本宗教史研究の地平をめざす。
978-4-642-01746-6　(20.10)

吉田一彦著
仏教伝来の研究
A５判　368頁　**11,000円**(10,000)

仏教は日本にいつ、またどのように伝来したのか。関係文献の思想や成立年代を読み解いて新見解を提示する。飛鳥寺成立の意義を仏教の国家的伝来という観点から歴史的に位置づけ、アジア史の中で仏教伝来を考究する。
978-4-642-02499-0　(12.9)

武内孝善著
空海伝の研究 ―後半生の軌跡と思想―
A５判　634頁　**14,300円**(13,000)

空海の後半生における諸問題の解明をめざした意欲作。東寺の下賜・安居・東寺長者・綜芸種智院放は圧巻。歴代天皇と灌頂儀礼、東大寺真言院、大檀越藤原三守、最晩年の事績と思想の分析など、空海伝の見直しを迫る。
978-4-642-04616-9　(15.2)

眞田尊光著
鑑真と唐招提寺の研究
A５判　280頁　原色口絵4　**12,100円**(11,000)

日本に戒律を伝えるため、幾多の困難をのり越え唐より渡来した鑑真と弟子たち。彼らが造立した唐招提寺伝存の諸像の意義や目的、弟子たちの活動の様相など、鑑真一行がもたらした授戒と美術の様相に迫る貴重な研究。
978-4-642-04660-2　(21.3)

森　公章 著
成尋と参天台五臺山記の研究
A５判　314頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉
11世紀末の入宋僧成尋とその渡海記『参天台五臺山記』に関する論考を集成。宋代における外交形式や対外認識、日中間を往来した人々の様相、その活動の支援者などについて考察。平安中期以降の対外政策の行方を描く。
978-4-642-04604-6　(13.2)

平松令三 著
親鸞の生涯と思想
A５判　332頁　原色口絵4　**8,250円**(7,500)
親鸞研究の第一人者が、その実像に迫ったライフワークの結晶。妻玉日への疑問、善鸞義絶事件などの家族の問題や、東国教化の足跡を追究し、『三帖和讃』『唯信鈔』や消息に書誌学的分析を加え、親鸞の思想を解き明かす。
978-4-642-02842-4　(05.8)

中尾　堯 著
日蓮真蹟遺文と寺院文書
A５判　308頁　**8,250円**(7,500)〈僅少〉
近年発見の「日蓮筆要文紙背文書」は、それまでの日蓮研究に大きな進展をもたらした。古文書学的調査を駆使し日蓮の思想と心情を読み解き、真蹟遺文の継承や寺院共有文書の実態から、新たな日蓮像と教団の特質に迫る。
978-4-642-02812-7　(02.3)

西尾賢隆 著
中世禅宗史叢説 ―附　禅籍の口語 略解―
A５判　304頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉
独特の用語ゆえに解読が難解な、墨蹟を含む種々の禅籍の文章を読み下し、現代語訳する。また禅僧を中心とする日中仏教の交流を概観。研究に資するため、漱石も用いた唐宋由来の話し言葉の辞典「禅籍の口語 略解」を附載。
978-4-642-02967-4　(21.1)

康　昊 著
中世の禅宗と日元交流
A５判　234頁　**8,800円**(8,000)
14世紀、国家の新しい体制仏教として位置づけられた禅宗の発展過程を、虎関師錬ら禅僧の活動から追究。五山禅林の思想・教学、仏事法会を通しての公武権力や中国宋元仏教との関わりを、対外関係史からも解明する。
978-4-642-02970-4　(21.4)

原田正俊 著
日本中世の禅宗と社会
A５判　398頁　**9,900円**(9,000)
禅宗は日本の中世社会に大きな影響を与えた。放下僧ら民間宗教者の禅宗受容や旧仏教との対立の様相から禅宗像を再検討する。また禅と念仏・神祇信仰の関係、禅宗寺院の組織と仏事法会より中世後期仏教の特質を追究する。
978-4-642-02768-7　(98.12)

今泉淑夫 著
日本中世禅籍の研究
A５判　382頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉
禅林の修道だけではなく、様々な情報を伝える禅僧の著述。応仁の乱前後の一山派の動向がわかる『諸賢雑文』、詩文僧作品を集めた『花上集』、無名僧の読書についての短文などを紹介。禅籍世界の知られざる側面に光をあてる。
978-4-642-02832-5　(04.4)

遠藤廣昭 著
中世曹洞宗の地域展開と輪住制
A５判　488頁　**15,400円**(14,000)
中世後期、在地領主から庶民まで受容された曹洞宗の地域展開を考察する。派祖開山の寺院を交代で護持する輪住制を分析し、仕組みや戦国大名との関わりなどを追究。曹洞禅僧・禅寺が地域社会に果たした役割を解明する。
978-4-642-02975-9　(22.10)

永村　眞 著
中世醍醐寺の仏法と院家
A５判　402頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉
京都山科に広大な寺域を保つ醍醐寺。上醍醐と下醍醐に点在する堂塔のなかに、寺僧が止住し顕密仏法を相承する場として生まれた院家の実態を「醍醐寺文書聖教」から追究。中世仏教史に醍醐寺が果たす役割を解明する。
978-4-642-02965-0　(20.11)

伊藤　聡 著
神道の形成と中世神話
A５判　318頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉
神道史の研究は、歴史学・文学・宗教学の分野で見直されている。中世期に全国へ広まった本地垂迹思想の展開を、天照大神と愛染明王、祝詞や和歌の習合等から検討。中世神話や神道書にも触れ、思想史上の到達点を示す。
978-4-642-02933-9　(16.10)

岸野　久著
ザビエルと東アジア
―パイオニアとしての任務と軌跡―
A５判　312頁　**11,000円**(10,000)〈僅少〉

宣教師ザビエルは単なるイエズス会士ではなく、教皇大使も兼ねていた。この資格に着目し、日本だけでなく中国を含む東アジア全体を見据えた布教構想を発見。異教徒改宗に専念した人物というこれまでの通説を見直す。
978-4-642-02926-1　(15.6)

岸野　久著
中国を目指すザビエル
―上川島での活動と崇敬の端緒―
A５判　278頁　**9,900円**(9,000)

日本布教ののち、ザビエルは中国開教を目指した。その試みについて、発端から上川島で急死により終了に至る経過と周囲の環境、あわせてザビエルの最期の状況を解明。巻末史料に中国人アントニオ書翰2種の全訳を掲載。
978-4-642-02983-4　(24.1)

斎藤夏来著
徳川のまつりごと
―中世百姓の信仰的到達―
A５判　320頁　**11,000円**(10,000)

宗教がもつ影響力の本質はどこにあるのか。中世以来の人々が営んできた信仰のあり方と、徳川氏を権力として戴く近世社会との関係を読み解く。救いと導きを願う人々の自然な欲求に着目し、宗教史の再解釈に挑む意欲作。
978-4-642-04355-7　(23.10)

西海賢二著
近世の遊行聖と木食観正
A５判　496頁　**19,250円**(17,500)〈僅少〉

近世の遊行聖である木食観正上人をはじめ徳本上人ら20余名の民間宗教者の活動を解明。彼らと、村落内部に多数存在した講集団はどのような関係にあったのか。信仰的社会集団である講集団と遊行聖の実態を探り出す。
978-4-642-03423-4　(07.9)

森岡清美著
真宗大谷派の革新運動
―白川党・井上豊忠のライフヒストリー―
A５判　512頁　口絵2　**14,300円**(13,000)〈僅少〉

明治中期、真宗大谷派の学僧清沢満之と井上豊忠らの白川党が宗務改革を志し、一大運動となるが、宗政当局の術策により挫折した。新発掘の井上日誌を中心に全過程を分析し、現代大谷派宗門改革の源流を解明した労作。
978-4-642-03857-7　(16.10)

坪井良平著
日本の梵鐘（新装版）
B５判　552頁　口絵8　**27,500円**(25,000)

寺院の法具で、時や祭礼、非常時を告げる梵鐘。古代～近世の日本および琉球の梵鐘の法量その他のデータを、火災・供出などで失われたものも含めて収集し系統的に叙述する。日本史・仏教史・考古学・金工史研究の基本文献。
978-4-642-01660-5　(19.1)

坪井良平著
日本古鐘銘集成（新装版）
B５判　664頁　口絵8　**33,000円**(30,000)

奈良～大正時代に作られた全国1200もの梵鐘に刻まれる銘文を、豊富な写真と詳細な解説とともに集録。姉妹編『日本の梵鐘(新装版)』とも対照可能で、便利な府県別、国別、社寺・保管者索引や異体文字集も付録。
978-4-642-01669-8　(23.2)

坪井良平著
朝鮮鐘（新装版）
B５判　318頁　口絵164　**27,500円**(25,000)

梵鐘のなかでも特に優美な形と華麗な装飾を誇る朝鮮鐘。和鐘に比べて僅少なこの梵鐘の装飾や銘文、法量などのデータを、豊富な図版とともに解説。『日本の梵鐘』『日本古鐘銘集成』に続く名著を、補論を付して新装復刊。
978-4-642-01673-5　(24.1)

名僧たちの真の姿に、豊かな生き方を学ぶ
日本の名僧　全15巻
四六判

激動の時代の中で思索し行動した名僧たちの内面の襞までさぐり、真の名僧像を描く。その生きかたがなぜ現代人の魂を揺さぶるのか再確認し、現代社会の中での新しい価値観を創造する。平均228頁・原色口絵2　品切＝(2)(3)(5)(6)(8)～(11)(13)～(15)

(1) **和国の教主　聖徳太子**……**本郷真紹編**　**2,860円**(2,600)　978-4-642-07845-0　(04.10)
(4) **密教の聖者　空　海**……**高木訷元・岡村圭真編**　**2,860円**(2,600)　978-4-642-07848-1　(03.11)
(7) **念仏の聖者　法　然**……**中井真孝編**　**2,860円**(2,600)　978-4-642-07851-1　(04.10)
(12) **法華の行者　日　蓮**……**佐々木　馨編**　**2,860円**(2,600)〈僅少〉　978-4-642-07856-6　(04.1)

宮内省臨時帝室編修局編修

明治天皇紀　全13冊

菊判　本文平均896頁・索引588頁

宮内省の臨時帝室編修局が18余年の年月をかけて編纂。天皇の伝記であると同時に、政治を中心とした明治史として確実豊富な内容を備える。明治天皇の事蹟と明治の歴史を理解する上に研究者必備の書である。

第1　**（自嘉永5年～至明治元年）**	**17,600円**(16,000)〈僅少〉	978-4-642-03521-7	(68.10)
第2　**（自明治2年～至明治5年）**	**17,600円**(16,000)	978-4-642-03522-4	(69.3)
第3　**（自明治6年～至明治9年）**	**17,600円**(16,000)	978-4-642-03523-1	(69.12)
第4　**（自明治10年～至明治12年）**	**17,600円**(16,000)	978-4-642-03524-8	(70.8)
第5　**（自明治13年～至明治15年）**	**17,600円**(16,000)	978-4-642-03525-5	(71.3)
第6　**（自明治16年～至明治20年）**	**17,600円**(16,000)	978-4-642-03526-2	(71.11)
第7　**（自明治21年～至明治24年）**	**17,600円**(16,000)	978-4-642-03527-9	(72.7)
第8　**（自明治25年～至明治28年）**	**17,600円**(16,000)	978-4-642-03528-6	(73.4)
第9　**（自明治29年～至明治33年）**	**17,600円**(16,000)	978-4-642-03529-3	(73.12)
第10　**（自明治34年～至明治37年）**	**17,600円**(16,000)	978-4-642-03530-9	(74.7)
第11　**（自明治38年～至明治40年）**	**17,600円**(16,000)	978-4-642-03531-6	(75.3)
第12　**（自明治41年～至明治45年）**	**17,600円**(16,000)	978-4-642-03532-3	(75.12)
索　引	**15,400円**(14,000)	978-4-642-03533-0	(77.3)

明治神宮監修

明治天皇紀附図

81枚　解説：B5判変型112頁
A3判　**88,000円**(80,000)〈僅少〉

明治天皇の生涯と激動の時代を包含した歴史資料『明治天皇紀』。その本文記述の理解を深めるため、二世五姓田芳柳が描いた全81葉の水彩画を、新規撮影のうえ最新の製版・印刷技術を駆使して公刊。別冊解説付き。
978-4-642-03814-0　(12.7)

明治神宮監修・米田雄介編

明治天皇とその時代

―『明治天皇紀附図』を読む―

A4横判　192頁　**3,080円**(2,800)

明治天皇の生涯と激動の時代を包含した『明治天皇紀』。その本文理解を深めるため、二世五姓田芳柳が描いた全81葉の水彩画を、新規撮影のうえ最新技術を駆使して公刊。近代洋画黎明期を理解する資料としても貴重。
978-4-642-08079-8　(12.7)

三笠宮崇仁親王伝記刊行委員会編

三笠宮崇仁親王

菊判　1374頁　原色口絵2丁・口絵16　**11,000円**(10,000)

戦中は軍人、戦後は歴史学者、晩年は皇族の長老として、類い稀な100年の生涯。日々の行動を詳述した実録と百合子妃の談話、研究者・関係者の論考により、公私余すこと無く人間像に迫る。秘蔵写真約400点を収録。
978-4-642-03918-5　(22.12)

宮内庁書陵部編纂

皇室制度史料

A5判　平均400頁

政治・社会の諸制度や文化と深く関わる、皇室の制度を理解するための基本的史料。(品切＝太上天皇1～3／摂政1・2／皇族1～4／后妃1～5／儀制 誕生4／儀制 成年式3／儀制 立太子1／儀制 大嘗祭1／儀制 践祚・即位1)

儀制　誕生1	**12,100円**(11,000)〈僅少〉	978-4-642-01145-7	(01.3)
儀制　誕生2	**12,100円**(11,000)	978-4-642-01147-1	(05.3)
儀制　誕生3	**12,650円**(11,500)〈僅少〉	978-4-642-01149-5	(09.3)
儀制　成年式1	**12,100円**(11,000)	978-4-642-01146-4	(03.3)
儀制　成年式2	**12,650円**(11,500)	978-4-642-01148-8	(07.3)
儀制　立太子2	**12,650円**(11,500)〈僅少〉	978-4-642-01240-9	(17.3)
儀制　践祚・即位2	**12,650円**(11,500)	978-4-642-01243-0	(23.3)

奈良文化財研究所編集・発行

平城京木簡

品切＝(1)(2)

(3) 二条大路木簡　1

184頁　原色口絵1　解説386頁
28,600円(26,000)〈僅少〉　978-4-642-02405-1　(06.12)

平城京跡から出土した7万4千余点にのぼる厖大な「二条大路木簡」。木簡研究の画期をなす最重要史料を、奈良文化財研究所が総力を上げ、高精細印刷を駆使して紙上に再現する待望の正報告書第1冊。詳細な別冊「解説」付。

沖森卓也・佐藤　信・矢嶋　泉著

藤氏家伝　注釈と研究

―鎌足・貞慧・武智麻呂伝―

A５判　528頁　**14,300円**(13,000)〈僅少〉

藤原鎌足の伝記を含む古代の必読文献『家伝』の、初めての本格的注釈書。全巻印影、信頼できる本文・訓読文・注釈のほかに、詳細な索引編を付す。史学・文学・国語学による共同研究の成果として基本資料を提供する。

978-4-642-02336-8　(99.5)

宗教法人光明宗法華寺編

光明皇后御傳　改訂増補版

A５判　300頁　**6,600円**(6,000)

奈良朝の仏教界や政治・社会面で多大な貢献をした光明皇后。その創建となる法華寺は、千三百年法統を継承している。皇后の御心をより深く理解すべく、法華寺がゆかりの史資料を蒐集し編集。奈良時代を知るための史料集。

978-4-642-01584-4　(20.10)

佐藤　信監修・朝野群載研究会編

朝野群載　巻二十二　校訂と註釈

A５判　430頁　**7,700円**(7,000)〈僅少〉

『朝野群載』は平安後期に編まれた古代官人の模範文集で、巻二十二は国司関係の行政文書を収める。その厳密な本文校訂と註釈に加え、歴史的位置づけ・機能を追究して、平安時代の地方支配の実態解明に新地平を拓く。

978-4-642-01408-3　(15.6)

奈良文化財研究所編

俊乗房重源史料集成

A５判　580頁　単色口絵12　**13,200円**(12,000)

平氏に焼かれた東大寺大仏殿復興を担った重源。その生涯と、朝廷・後白河院・源頼朝らの支援を得ての再建に関わる史料を網羅。鎌倉時代の政治史・経済史・彫刻史に不可欠な史料集を、索引を附して 50 年振りに復刊。

978-4-642-01577-6　(15.12)

石上英一編

奄美諸島編年史料

A５判　平均706頁

奄美諸島は日本と琉球の文化・社会の展開に重要な役割を果たした。その歴史を日本・琉球・朝鮮・奄美諸史料から再構成。上巻は 1266 年から 1609 年 3 月まで、下巻は 1609 年 3 月 25 日から 1624 年までを収録する。

古琉球期編上　**19,800円**(18,000)　978-4-642-01417-5　(14.6)
古琉球期編下　**30,800円**(28,000)　978-4-642-01418-2　(18.11)

浅利尚民・内池英樹編

石谷家文書　将軍側近のみた戦国乱世

A５判　176頁　**1,980円**(1,800)〈僅少〉

室町幕府奉公衆だった石谷光政・頼辰親子 2 代にわたる文書群、全 3 巻 47 通の写真と翻刻を掲載し解説を付す。姻戚関係や長宗我部元親に関するもの、本能寺の変前後の書状まで、戦国時代の解明に一石を投じる貴重史料。

978-4-642-08263-1　(15.6)

岡山大学附属図書館・林原美術館編

天下人の書状をよむ

―岡山藩池田家文書―

B５判　160頁　原色口絵2　**2,640円**(2,400)

戦国乱世を乗り切り、近世大名として成長した岡山藩主池田家。信長・秀吉・家康ら天下人より送られた書状類 96 点を一挙公開。史料には現代語訳と解説を付し、天下人の言動や人柄、藩主や家族の生きざまや心性に迫る。

978-4-642-08090-3　(13.8)

名古屋市博物館編

豊臣秀吉文書集　全９巻

菊判　平均350頁

織田信長の武将から出世し、天下統一を成し遂げた豊臣秀吉。日本史上随一の数を誇る 7000 通近くの発給文書を初めて集大成し、厳密な校訂により編年順に掲載する。豊臣政権の究明や古文書研究にも寄与する待望の史料集。

(1)**永禄8年～天正11年**　**8,800円**(8,000)　978-4-642-01421-2　(15.2)
(2)**天正12年～天正13年**　**8,800円**(8,000)　978-4-642-01422-9　(16.2)
(3)**天正14年～天正16年**　**8,800円**(8,000)　978-4-642-01423-6　(17.2)
(4)**天正17年～天正18年**　**8,800円**(8,000)　978-4-642-01424-3　(18.2)
(5)**天正19年～文禄元年**　**8,800円**(8,000)　978-4-642-01425-0　(19.2)
(6)**文禄2年～文禄3年**　**8,800円**(8,000)　978-4-642-01426-7　(20.2)
(7)**文禄4年～慶長3年**　**8,800円**(8,000)　978-4-642-01427-4　(21.2)
(8)**補遺・年未詳**　**8,800円**(8,000)　978-4-642-01428-1　(23.2)
(9)**総目録・索引**　**8,800円**(8,000)　978-4-642-01429-8　(24.3)

熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編

永青文庫叢書

旧熊本藩主細川家に伝来し、熊本大学に寄託される４万3000点を超える貴重な文化財コレクション。　Ａ４判　品切＝近世初期編／絵図・地図・指図編Ⅰ Ⅱ／故実・武芸編　※熊本藩役職編以降は熊本大学永青文庫研究センター編

細川家文書　中世編

第32回熊日出版文化賞受賞
384頁　原色口絵8
17,600円(16,000)　978-4-642-01411-3　(10.5)

足利将軍を支えた細川家一門の動向を今に伝える室町期文書を完全収録。信長の直筆文書や本能寺の変をめぐる光秀・秀吉書状、古今伝授、武家故実などの細川幽斎関係文書を含む貴重な260点を写真入りで一挙公開。

細川家文書　熊本藩役職編

344頁　原色別刷図版16
25,300円(23,000)　978-4-642-01578-3　(19.3)

近世中後期の熊本藩役職に関わる「職制」(職制機構図)および「条目」(服務規程)を図版編と翻刻編に分け収録。巻末に収録史料目録を付す。藩政機構の全体像を図示し、部局や諸役人が果たすべき職務内容を記した史料群。

細川家文書　島原・天草一揆編

340頁　原色別刷図版16
25,300円(23,000)　978-4-642-01579-0　(20.3)

熊本藩は島原・天草一揆に最前線で対応した。蜂起の様子や、対する大名同士の連携、城攻めに向けた人員動員と物資調達、戦後処理、地域復興などがわかる細川家関連史料を、未公開のものも含めて収録した待望の史料集。

細川家文書　地域行政編

456頁　原色口絵8・原色別刷図版8
27,500円(25,000)　978-4-642-01580-6　(21.3)

熊本藩では領国統治のため、重層的な行政組織が設けられた。郡代、惣庄屋、会所役人、村庄屋など、行政関係者それぞれの職掌を明らかにする。徴税、土地管理、窮民救済などの社会の公共的な機能を担った様子を描く。

細川家文書　意見書編

416頁　原色口絵8
27,500円(25,000)　978-4-642-01581-3　(22.3)

代替りや財政難などの非常時に、藩から幕府へ、また家臣から藩主や家老へ、身分を超えて提出された上申書55点を収録。藩政を立て直す策となり、改革の足掛かりとなった。日本近世史・藩政史研究に必須の史料集。

細川家文書　災害史料編

416頁　原色口絵16
27,500円(25,000)　978-4-642-01582-0　(23.3)

大雨・洪水・地震・疫病・飢饉が多発した時代、甚大な被害で日常生活は破壊された。具体的な被災状況を把握し、地域社会の力に依拠しながら復興を模索した熊本藩の危機管理を、災害史料121点から明らかにする。

東叡山寛永寺監修・宇高良哲・中川仁喜編

南光坊天海発給文書集

Ａ４判　472頁　原色口絵１丁　**19,800円**(18,000)

徳川家康のあつい信頼を得た南光坊天海は、江戸幕府初期の宗教政策に深く関与した。現在知られるその発給文書388通をすべて翻刻し、写真も可能な限り集成する。近世の宗教政策や仏教史の研究に不可欠な重要史料集。
978-4-642-01416-8　(14.3)

大野瑞男編

江戸幕府財政史料集成　上・下

菊判　平均456頁
(上巻) 20,900円(19,000)〈僅少〉978-4-642-03427-2(08.2)

編者が半生をかけて調査収集した、江戸幕府財政史料のすべてが通覧できる画期的史料集。原典に忠実に翻刻して校訂を加え、人名註記と史料解題を付す。全国を覆う幕領の記載も多く、地方史研究にも不可欠の書。
(下巻) 20,900円(19,000)〈僅少〉978-4-642-03428-9(08.6)

金井　圓校注

土芥寇讎記（どかいこうしゅうき）　(新装版)

菊判　732頁　**16,500円**(15,000)〈僅少〉

元禄時代、243の大名の家族、系譜、略歴、領地、藩主の行跡・批評などを列挙した大名評判記。作者や目的は不明ながら藩政史料の少ない中小諸藩も論評した貴重な文献。新装復刊にあたり、判型を拡大し解説を付す。
978-4-642-01585-1　(23.1)

風説書研究会編

オランダ別段風説書集成

Ａ５判　728頁　**16,500円**(15,000)

アヘン戦争を契機に、江戸幕府は従来の風説書に加え「別段風説書」の呈上をオランダに要請した。全国の残存写本を厳選し、対外政策や政治判断の材料となった史料の全貌に迫る。『和蘭風説書集成』刊行後の渇望をいやす。
978-4-642-01583-7　(19.3)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

石井寛治・林　玲子編
白木屋文書 問屋株帳
るぼわ書房発行／吉川弘文館発売
A５判　576頁　**19,800円**(18,000)〈僅少〉

呉服商白木屋は屈指の江戸店として繁栄し、近世・近代の都市商人を解明する多くの文書を残している。この内、要望の多い菱垣廻船積問屋仲間の「問屋株帳」を翻刻。江戸の特権化した主要商人の動態を知る基本史料である。
978-4-642-03341-1　(98.3)

林　玲子・谷本雅之編
白木屋文書 諸問屋記録
るぼわ書房発行／吉川弘文館発売
A５判　336頁　**14,300円**(13,000)〈僅少〉

近世期の文書群を対象に、近世前期、中期、後期の三つの時期の重要史料を選択、翻刻した。白木屋の経営内容を示す史料、十組問屋の活動が窺われる文書群、嘉永の問屋再興にまつわる記録など、多様な情報が盛り込まれている。
978-4-642-03342-8　(01.4)

三井文庫編
史料が語る 三井のあゆみ
―越後屋から三井財閥―
B５判　154頁　**1,760円**(1,600)

江戸の豪商・三井高利に始まり、近代の財閥時代に至る日本経済の巨人・三井。幕末明治の動乱などの困難な時代をいかに乗り越え、成長発展を遂げたのか。貴重な史料を読み解きつつ平易に描く、三井350年のあゆみ。
978-4-642-08277-8　(15.4)

三井文庫編集・発行
三井文庫史料叢書
大坂両替店「聞書」 全７巻
A５判　平均340頁

豪商三井が三都の店舗で収集・調査した、寛延年間から明治初年までの情報記録『聞書』。幕府の事件や政策、商況および株仲間の内部情報、火事と自然災害、外国勢力の接近と維新の動乱、文化・風刺など多岐にわたる内容。

(1) **寛延4年～文化4年**　**10,450円**(9,500)〈僅少〉　978-4-642-01708-4　(11.10)
(2) **文化5年～文政11年**　**13,200円**(12,000)　978-4-642-01709-1　(23.2)

永富家文書調査会編
永富家文書目録
A５判　640頁　口絵4　**12,815円**(11,650)〈僅少〉

龍野藩領播磨国揖西郡新在家村の庄屋、永富家所蔵の近世文書２万点余の目録。各文書名は、授受関係を軸とした分類名称に統一し、詳細な解説・解題を付し、本文書の特色、整理・分類の方針を説明。巻末に漢籍目録を付す。
978-4-642-03312-1　(93.12)

森　安彦編
信濃国埴科郡下戸倉村名主
坂井家文書目録
B５判　538頁　原色口絵4丁　**13,420円**(12,200)〈僅少〉

長野県戸倉町の坂井家に伝わる文書の目録。名主・戸長として村政に深く関与した公文書類をはじめ、酒造業、水車稼業、養蚕、醤油造り、金融など、多角経営の実態を探る貴重な文書を、大・中・小項目に編成して公刊する。
978-4-642-03669-6　(95.3)

太宰府天満宮蔵版
大宰府・太宰府天満宮史料
A５判　平均494頁

油印版『大宰府・太宰府天満宮史料』26冊に増訂を加え、太宰府天満宮所蔵文書を中心に、古代・中世の大宰府管内の史料の網羅を期した。　品切＝(4)

(1) **竹内理三・川添昭二編**　**8,800円**(8,000)〈僅少〉　978-4-642-01215-7　(70.3)
(2) **竹内理三・川添昭二編**　**8,800円**(8,000)〈僅少〉　978-4-642-01216-4　(66.2)
(3) **竹内理三・川添昭二編**　**8,800円**(8,000)〈僅少〉　978-4-642-01217-1　(67.8)
(5) **竹内理三・川添昭二編**　**8,800円**(8,000)〈僅少〉　978-4-642-01219-5　(69.9)
(6) **竹内理三・川添昭二編**　**8,800円**(8,000)〈僅少〉　978-4-642-01220-1　(70.5)
(7) **竹内理三・川添昭二編**　**8,800円**(8,000)〈僅少〉　978-4-642-01221-8　(71.10)
(8) **竹内理三・川添昭二編**　**8,800円**(8,000)〈僅少〉　978-4-642-01222-5　(72.12)
(9) **竹内理三・川添昭二編**　**8,800円**(8,000)〈僅少〉　978-4-642-01223-2　(74.10)
(10) **竹内理三・川添昭二編**　**8,800円**(8,000)〈僅少〉　978-4-642-01224-9　(76.5)
(11) **竹内理三・川添昭二編**　**11,000円**(10,000)〈僅少〉　978-4-642-01225-6　(79.8)
(12) **竹内理三・川添昭二編**　**14,300円**(13,000)〈僅少〉　978-4-642-01226-3　(84.3)
(13) **竹内理三・川添昭二編**　**14,300円**(13,000)〈僅少〉　978-4-642-01227-0　(86.12)
(14) **竹内理三・川添昭二編**　**15,400円**(14,000)〈僅少〉　978-4-642-01228-7　(93.11)
(15) **竹内理三・川添昭二編**　**15,715円**(14,286)〈僅少〉　978-4-642-01229-4　(97.3)
(16) **竹内理三・川添昭二編**　**19,800円**(18,000)〈僅少〉　978-4-642-01230-0　(00.3)
(17) **竹内理三・川添昭二編**　**19,800円**(18,000)〈僅少〉　978-4-642-01231-7　(03.3)
(補遺)川添昭二・吉原弘道編　**19,800円**(18,000)〈僅少〉　978-4-642-01232-4　(06.3)
(附録)川添昭二・吉原弘道編　**19,800円**(18,000)〈僅少〉　978-4-642-01233-1　(09.3)

川添昭二・棚町知彌・島津忠夫編著
太宰府天満宮連歌史　資料と研究
A５判　平均518頁

九州文化の淵叢的な役割を果した太宰府天満宮には、日本の連歌史研究に資する中世以降の直接・間接の史料が多数伝存されている。本書は、これらの資料を整理・集成し、史的考察を加えて公刊するものである。

Ⅰ　**10,340円**(9,400)〈僅少〉　978-4-642-01251-5(80.3)
Ⅱ　**10,340円**(9,400)〈僅少〉　978-4-642-01252-2(81.3)
Ⅲ　**10,340円**(9,400)〈僅少〉　978-4-642-01253-9(86.3)
Ⅳ　**10,340円**(9,400)〈僅少〉　978-4-642-01254-6(87.3)

大神神社史料編修委員会編
大神神社史料　全12冊
菊判　平均1200頁

大和の一宮大神神社が、上代史に占める地位は大きい。本史料は、同社に関する古今の史料を博捜集成したもので、上代史研究はもとより、広く文化史・文学史・民俗学の研究に必要な資料である。品切＝(2)・(4)～(7)・(9)・(10)・大神神社史

(1) **史料篇**　**8,800円**(8,000)〈僅少〉　978-4-642-01041-2　(68.12)
(3) **研究論説篇**　**8,800円**(8,000)〈僅少〉　978-4-642-01043-6　(71.11)
(8) **續拾遺篇　坤**　**12,100円**(11,000)〈僅少〉　978-4-642-01030-6　(81.9)
(別巻)索引・年表　全2冊　**10,680円**(9,709)〈僅少〉　978-4-642-01112-9　(91.8)

松尾大社史料集編修委員会編
松尾大社史料集
A５判　平均424頁

洛西松尾大社は、加茂下上社が東の厳神といわれたのに対し、西の猛霊と呼ばれて世に著聞した。遺存する数千点に達する史料を刊行。品切＝文書篇１～３・５・７、記録篇１・２、典籍篇２・３

(文書篇4)　**5,280円**(4,800)〈僅少〉　978-4-642-01095-5　(79.7)
(記録篇3)　**11,000円**(10,000)〈僅少〉　978-4-642-01102-0　(08.11)
(記録篇4)　**22,000円**(20,000)〈僅少〉　978-4-642-01103-7　(19.12)
(典籍篇1)　**5,500円**(5,000)〈僅少〉　978-4-642-01107-5　(80.4)
(典籍篇4)　**7,700円**(7,000)〈僅少〉　978-4-642-01110-5　(84.9)

永平寺史料全書編纂委員会・大本山永平寺史料全書編纂室編著
永平寺史料全書
B５判　大本山永平寺発行／平均1370頁／品切＝禅籍編1・2・4

永平寺所蔵の貴重な禅籍・古文書を集成。国宝・重要文化財指定の史料、新たに発見されたものなど、道元禅師から江戸期までを網羅。写真図版を収載し、釈文・解説と注を加えた。日本仏教と永平寺研究の必備史料。

(禅籍編3)　**30,800円**(28,000)〈僅少〉　978-4-642-01382-6　(08.1)
(文書編1)　**30,800円**(28,000)〈僅少〉　978-4-642-01384-0　(12.10)
(文書編2)　**30,800円**(28,000)〈僅少〉　978-4-642-01385-7　(17.2)
(文書編3)　**30,800円**(28,000)〈僅少〉　978-4-642-01386-4　(18.12)

奈良国立文化財研究所編
唐招提寺史料　第一
(初版 1971.10)
A５判　474頁　口絵8丁　折込3丁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉

律宗の総本山唐招提寺の貴重な史料集を限定復刊。創建以来の各時代の古文書(唐招提寺文書)と、東大寺旧蔵文書や末寺の古文書(唐招提寺所蔵文書)など200点を超える史料を翻刻。口絵・花押集を添え、解題を付す。
978-4-642-01576-9　(15.6)

奈良文化財研究所編
仁和寺史料
A５判　平均396頁

真言宗御室派の総本山で皇族が入寺する門跡寺院である仁和寺は、高い寺格を有し歴史上重要な役割を果たしてきた。古文書学はもちろん寺史や古代・中世の社会経済史の研究に重要な史料、待望の刊行。

(古文書編1)　**13,200円**(12,000)〈僅少〉　978-4-642-08947-0　(13.6)
(古文書編2)　**13,200円**(12,000)　978-4-642-08950-0　(20.6)
(寺誌編1)　**12,100円**(11,000)〈僅少〉　978-4-642-08948-7　(13.8)
(寺誌編2)　**12,100円**(11,000)〈僅少〉　978-4-642-08949-4　(13.8)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

浅草寺日並記研究会編

浅草寺日記

A５判　平均782頁　品切＝(10)(12)(13)(16)(17)

浅草寺の行事・人事・諸施設などの諸相や変遷の実状、幕政との諸関係、上野寛永寺との関係、大名をはじめ江戸住民たちの浅草観音信仰の実体、火災に関する詳細な記録、門前町の実状など、寛保から幕末までの明細記録。

(1)	**6,050円**(5,500)〈僅少〉	978-4-642-03181-3(78.3)	
(2)	**9,900円**(9,000)〈僅少〉	978-4-642-03182-0(78.10)	
(3)	**9,900円**(9,000)〈僅少〉	978-4-642-03183-7(79.6)	
(4)	**9,900円**(9,000)〈僅少〉	978-4-642-03184-4(80.7)	
(5)	**9,350円**(8,500)〈僅少〉	978-4-642-03185-1(81.7)	
(6)	**9,900円**(9,000)〈僅少〉	978-4-642-03186-8(82.10)	
(7)	**9,900円**(9,000)〈僅少〉	978-4-642-03187-5(83.10)	
(8)	**9,900円**(9,000)〈僅少〉	978-4-642-03188-2(84.6)	
(9)	**9,900円**(9,000)〈僅少〉	978-4-642-03189-9(85.4)	
(11)	**9,900円**(9,000)〈僅少〉	978-4-642-03191-2(87.10)	
(14)	**10,680円**(9,709)〈僅少〉	978-4-642-03194-3(91.4)	
(15)	**10,680円**(9,709)〈僅少〉	978-4-642-03195-0(92.6)	
(18)	**11,000円**(10,000)〈僅少〉	978-4-642-03198-1(96.7)	
(19)	**11,000円**(10,000)〈僅少〉	978-4-642-03199-8(98.7)	
(20)	**11,000円**(10,000)〈僅少〉	978-4-642-03200-1(00.4)	
(21)	**11,000円**(10,000)〈僅少〉	978-4-642-03201-8(00.10)	
(22)	**11,000円**(10,000)〈僅少〉	978-4-642-03202-5(02.3)	
(23)	**11,000円**(10,000)〈僅少〉	978-4-642-03203-2(03.3)	
(24)	**11,000円**(10,000)〈僅少〉	978-4-642-03204-9(04.6)	
(25)	**11,000円**(10,000)〈僅少〉	978-4-642-03205-6(05.6)	
(26)	**11,000円**(10,000)〈僅少〉	978-4-642-03206-3(06.6)	
(27)	**11,000円**(10,000)〈僅少〉	978-4-642-03207-0(07.6)	
(28)	**11,000円**(10,000)〈僅少〉	978-4-642-03208-7(08.6)	
(29)	**11,000円**(10,000)	978-4-642-03209-4(09.6)	
(30)	**11,000円**(10,000)	978-4-642-03210-0(10.7)	
(31)	**11,000円**(10,000)	978-4-642-01620-9(11.6)	
(32)	**11,000円**(10,000)	978-4-642-01621-6(12.4)	
(33)	**11,000円**(10,000)	978-4-642-01622-3(13.6)	
(34)	**11,000円**(10,000)	978-4-642-01623-0(14.7)	
(35)	**11,000円**(10,000)	978-4-642-01624-7(15.6)	
(36)	**11,000円**(10,000)	978-4-642-01625-4(16.6)	
(37)	**11,000円**(10,000)	978-4-642-01626-1(17.6)	
(38)	**11,000円**(10,000)	978-4-642-01627-8(18.6)	
(39)	**11,000円**(10,000)	978-4-642-01628-5(19.8)	
(40)	**11,000円**(10,000)	978-4-642-01629-2(20.8)	
(41)	**11,000円**(10,000)	978-4-642-01630-8(21.9)	
(42)	**11,000円**(10,000)	978-4-642-01631-5(22.7)	
(43)	**11,000円**(10,000)	978-4-642-01632-2(23.6)	
(44)	**11,000円**(10,000)	978-4-642-01633-9(24.6)	

神宮司庁蔵版

増補 大神宮叢書　全25巻

菊判　平均800頁　品切＝(1)～(13)・(17)～(22)・(24)

伊勢神宮に関する必須の文献資料を集成した、神宮史研究・神宮考証学の基礎をなす一大叢書。今次の増補版は、既刊の７書目16巻の完全復刻に加え、新たに最重要の４書目８巻を精選増補する全24巻の決定版である。

(14)	**神宮年中行事大成 後篇**	**11,000円**(10,000)〈僅少〉	978-4-642-00394-0　(08.1)
(15)	**神宮随筆大成 前篇**	**11,000円**(10,000)〈僅少〉	978-4-642-00395-7　(08.4)
(16)	**神宮随筆大成 後篇**	**11,000円**(10,000)〈僅少〉	978-4-642-00396-4　(08.7)
(23)	**神宮近世奉賽拾要 前篇**	**17,600円**(16,000)〈僅少〉	978-4-642-00403-9　(15.3)
(25)	**神宮神事図録**	**13,200円**(12,000)〈僅少〉	978-4-642-00405-3　(12.12)

宮内庁書陵部編

新夜鶴抄（1帖）

複製／大型冊子本列帖装（総数30丁）・解題釈文付
Ｂ５変判　**41,800円**(38,000)〈僅少〉

鎌倉初期の琵琶および楽全般の名手、藤原孝道が、安貞２年(1228)三女播磨局に与えた楽の秘伝書。譜の秘伝の他、時代性を窺わせる記事や孝道の祖、孝博の逸話等も多い。伝花園天皇宸筆。きわめて貴重な資料。
978-4-642-02559-1　(82.3)

宮内庁書陵部編

伏見天皇御集　夏部

複製／巻子本仕立・1巻・解題釈文付
38,500円(35,000)〈僅少〉

名筆「広沢切」として著名な伏見天皇の宸筆御集。多くの「広沢切」が断簡または切り継ぎされているのに対し、本巻は夏部197首を具注暦１巻の紙背に書き継がれ、現存唯一の御集稿本の原態を示し、編成過程をも窺わせる。
978-4-642-02550-8　(79.1)

宮内庁書陵部編

伏見天皇宸筆御置文

複製／巻子本仕立・2巻・解題釈文付・コロタイプ印刷
55,000円(50,000)〈僅少〉

第92代伏見天皇が正和元年(1312)と文保元年(1317)の２度執筆された宸筆置文２通と、関白二条道平が代筆し証として天皇御手印(朱)をおされた置文１通。その筆蹟は伏見院流として気品ある流麗なもので、つとに有名である。
978-4-642-02579-9　(84.3)

宮内庁書陵部編

椿葉記

複製／巻子本仕立・1巻・解題釈文付・コロタイプ印刷・桐箱入
165,000円(150,000)〈僅少〉

『看聞日記』で名高い後崇光院(1372～1456)が、我が子後花園天皇に宛て、崇光院流の歴史と自己の希望を記した晩年の著作。単なる史書、あるいは教訓書にとどまらない、「増鏡」に継ぐ歴史物語でもある。
978-4-642-02580-5　(85.3)

古代學研究所編集
仁和寺研究
B５判　平均154頁　品切＝第１輯

現在にまでその法灯を伝える仁和寺の文書群を読み解きその歴史的変遷を中心に考察する綜合的研究誌。

第2輯　**3,300円**(3,000)　978-4-642-08943-2(01.3)
第3輯　**3,300円**(3,000)　978-4-642-08944-9(02.5)
第4輯　**4,400円**(4,000)〈僅少〉　978-4-642-08945-6(04.3)
第5輯　**4,400円**(4,000)　978-4-642-08946-3(05.12)

正倉院文書研究会編集
正倉院文書研究
B５判　平均198頁

正倉院文書は奈良の正倉院に伝来した文書群で、政治法制・社会経済から諸文化におよぶ内容は、奈良時代史研究に不可欠な史料である。　※(1)～(5) (11) (14)は品切です

(6)　**6,050円**(5,500)〈僅少〉　978-4-642-08926-5　(99.11)
(7)　**6,050円**(5,500)〈僅少〉　978-4-642-08927-2　(01.11)
(8)　**6,050円**(5,500)〈僅少〉　978-4-642-08928-9　(02.11)
(9)　**6,050円**(5,500)〈僅少〉　978-4-642-08929-6　(03.11)
(10)　**6,600円**(6,000)〈僅少〉　978-4-642-08930-2　(05.6)
(12)　**6,600円**(6,000)〈僅少〉　978-4-642-08932-6　(11.11)
(13)　**9,350円**(8,500)　978-4-642-08933-3　(13.11)
(15)　**6,600円**(6,000)〈僅少〉　978-4-642-08935-7　(17.11)
(16)　**5,500円**(5,000)〈僅少〉　978-4-642-08936-4　(19.11)
(17)　**4,950円**(4,500)　978-4-642-08937-1　(21.11)
(18)　**4,950円**(4,500)　978-4-642-08938-8　(23.11)

日本歴史学会編
概説 古文書学 古代・中世編
A５判　252頁　**3,190円**(2,900)

古文書学の知識を修得しようとする一般社会人のために、また大学の古文書学のテキストとして編集。古代から中世にかけての様々な文書群を、各専門家が最近の研究成果を盛り込み、具体例に基づいて簡潔・平易に解説。
978-4-642-07191-8　(83.5)

日本歴史学会編
演習 古文書選 全8冊
B５判　平均142頁

大学における古文書学の演習用テキストとして編集。一般社会人が古文書の読解力を養う独習書としても最適。古文書読解の演習に適する基本的文書を厳選収録。
品切＝荘園編 上・下／続近世編／近代編 上・下

古代・中世編　**1,760円**(1,600)　978-4-642-07021-8(71.6)
様式編　**1,430円**(1,300)　978-4-642-07058-4(76.5)
近世編　**1,870円**(1,700)　978-4-642-07022-5(71.12)

飯倉晴武著
古文書入門ハンドブック
四六判　310頁　口絵8　**2,750円**(2,500)

古文書の読解は歴史研究の第一歩であるが、初心者には難解なイメージ故に敬遠されている。その解読法を、読み方、用語・文体の用例を通して分りやすく解説。古文書の基礎知識を含め、独学で習得できる最新の入門書。
978-4-642-07409-4　(93.12)

林　英夫監修・天野清文・実松幸男著
はじめての古文書教室
天野出版工房発行
A５判　226頁　**2,640円**(2,400)

軽妙な語り口で懇切平易に「くずし字」一字一字を解説した最強の古文書入門。興味深い古文書を取り上げ、初めての人でも理解しやすいよう、読み下し文に現代語訳を加える。「くずし字」を覚えるヒントや解読技法も満載。
978-4-642-07946-4　(05.10)

天野清文・実松幸男・宮原一郎著
ステップアップ 古文書の読み解き方
天野出版工房発行
A５判　224頁　**2,640円**(2,400)

古文書を読むために必須となる言葉や用法30例を厳選し、くずし字解読の基礎をわかりやすく、かつ効率的にマスターできる待望の入門書。古文書読解の極意をステップを踏みながら習得できる画期的な編集。独学に最適。
978-4-642-07967-9　(06.10)

佐藤孝之監修・佐藤孝之・実松幸男・宮原一郎著
よくわかる古文書教室
―江戸の暮らしとなりわい―
天野出版工房発行
A５判　240頁　**2,640円**(2,400)

村では堤防の決壊に打ちひしがれる農民、町では祇園祭で大暴れの神輿担ぎなど、江戸時代に生きた人々の生活を、くずし字解読のヒントを手がかりに古文書34点から読み解く。歴史がますます面白くなる古文書入門。
978-4-642-07994-5　(08.10)

日本史史料研究会監修・苅米一志著
日本史を学ぶための 古文書・古記録訓読法
四六判　204頁　**1,870円**(1,700)

古代・中世の史料は「変体漢文」という独特な文章で綴られるが、これを読解する入門書は存在しなかった。史料の品詞や語法を正確に解釈するためのはじめての手引書。豊富な文例に訓読と現代語訳を配置。演習問題も付す。
978-4-642-08273-0　(15.3)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

峰岸　明著

変体漢文（新装版）

A５判　396頁　**6,600円**(6,000)

中国語式表記法に日本語的要素を採り入れて日本語文を書き記した変体漢文は、古記録や古文書において常用された。その方法論や表記・語彙・文法・文体を解説。変体漢文を日本語学の観点から概説した名著待望の復刊。
978-4-642-08636-3　(22.2)

新井敦史著

武士と大名の古文書入門

天野出版工房発行

A５判　200頁　**2,640円**(2,400)

騒乱を伝える届書、将軍の病気見舞い、藩校の校則、家督相続の文書、献納金の受取書…。武士と大名の世界を今に伝える貴重な武家文書をテキストに、くずし字を一字づつ分解し平易に解説。解読力が身に付く待望の入門書。
978-4-642-08028-6　(09.10)

浅井潤子著

暮らしの中の古文書（新装版）

A５判　192頁　**2,090円**(1,900)

出生・学問・奉公・成人・結婚…。江戸時代後期に生きた人々が暮らしの中で綴った古文書を読み解き、その実際の姿と社会状況を描く。収載した古文書は写真とともに翻刻し、平易に解説。初めて古文書を学ぶ人に最適。
978-4-642-08381-2　(20.3)

齋木一馬編著

古記録学概論

A５判　204頁　**2,420円**(2,200)

難解な日記について、その特質や研究上の問題点などを平易に解説し、古代から近世に及ぶ日記の概要を簡潔に説く。併せて主要な記録の箇条を例に引いて読下し文を掲げ、特殊な用語等には注解を付した。古記録学入門書。
978-4-642-07286-1　(90.6)

高橋秀樹著

古記録入門（増補改訂版）

A５判　336頁　**2,860円**(2,600)

難解な中世の古記録を読みとくために必須の基礎知識や時代背景、辞典類を丁寧に解説。『玉葉』『民経記』を例に、読み方を実践的にレクチャーする。巻末の古記録便覧に文献目録を新たに追加。必携の入門書の増補改訂版。
978-4-642-08435-2　(23.7)

川瀬一馬著

増補新訂 足利学校の研究（新装版）

B５判　344頁　口絵64　**22,000円**(20,000)

“日本最古の学問所”足利学校の研究に必備の名著を完全復刻。創設の諸説、上杉憲実の学校建設、歴代庠主(学長)、学徒と蔵書、教学目的と存在意義など、膨大な史資料を精査して詳述。蔵書目録・索引・追補・解説付。
978-4-642-02924-7　(15.4)

東京大学史料編纂所編

花押（かおう）かがみ

品切＝(1)平安時代 (2)鎌倉時代１ (5)南北朝時代１ (6)南北朝時代２

(3) 鎌倉時代２

四六倍判　296頁　**3,300円**(3,000)〈僅少〉

鎌倉時代中期、建長元年(1249)より嘉元３年(1305)までの人物の花押を年代順に配列、略伝を付した花押集。精選された原寸大の図版を掲載しその出所を示した。後深草天皇・北条時宗・蘭渓道隆・日蓮・忍性等々を収録。
978-4-642-01013-9　(84.3)

(4) 鎌倉時代３

四六倍判　250頁　**3,080円**(2,800)〈僅少〉

鎌倉時代後期、徳治元年(1306)より元弘３年(1333)までの人物の花押を年代順に配列、略伝を付した花押集。本冊を以て平安・鎌倉時代の花押集４冊が完成。冊尾に全索引を付収した。花押人名辞典として活用に便利。
978-4-642-01015-3　(85.3)

(7) 南北朝時代３

四六倍判　310頁　**6,380円**(5,800)〈僅少〉

延文４年／正平14年(1359)から応安７年／文中３年(1374)まで、光厳天皇、足利義詮、洞院公賢、頓阿など367名の花押を収録。武士の比率が高まり、峨山韶碩などの禅僧や有力武将奉行人の花押が増える。
978-4-642-01018-4　(06.3)

(8) 南北朝時代４

四六倍判　304頁　**6,820円**(6,200)〈僅少〉

永和元年／天授元年(1375)より明徳３年／元中９年(1392)まで、343名の花押を収録。五山禅僧、有力武将や奉行人、ユニークな変化を示す花押も増える。「南北朝時代」全４巻1427名の人名索引付。
978-4-642-01024-5　(10.3)

斎藤　忠 著

日本考古学概論

A５判　478頁　**4,730円**(4,300)〈僅少〉

複雑多岐な日本考古学を、先土器時代から近世に至るまで、資料を駆使し、豊富な挿図を加えて分かりやすくまとめた。難渋な内容をきわめて平易に説いており、誰にも理解できる日本考古学の大観を知るための入門書。
978-4-642-07626-5　(82.7)

小畑弘己 著

縄文時代の植物利用と家屋害虫

―圧痕法のイノベーション―

第 11 回日本考古学協会賞大賞受賞

B５判　270頁　**8,800円**(8,000)

縄文土器作成時に混入されたタネやムシの痕跡を、X線を用いて検出する新たな研究手法を提唱。発見された資料をもとに植物栽培や害虫発生のプロセスを読み解き、縄文人の暮らしや植物・昆虫に対する意識を探り出す。
978-4-642-09354-5　(19.12)

高瀬克範 著

続縄文文化の資源利用

B５判　232頁　**10,450円**(9,500)

本州島の弥生・古墳文化に並行し北海道島に展開した続縄文文化。縄文文化との質的な違いとその意味とは。土器・石器・動植物などからみた資源利用の実態を探り、社会の様相を追究。続縄文文化の歴史的評価を捉えなおす。
978-4-642-09363-7　(22.5)

藤尾慎一郎 著

弥生文化像の新構築

A５判　292頁　**10,450円**(9,500)

AMS―炭素 14 年代測定が変えた新しい弥生年代観は、教科書とは異なる弥生文化像を提示しつつある。なかなか広まらない水田稲作や鉄器、意外と小規模だった弥生村など、一つの像に収まらない弥生文化像を提示する。
978-4-642-09329-3　(13.5)

長友朋子・石川日出志・深澤芳樹 編

南関東の弥生文化

―東アジアとの交流と農耕化―

B５判　288頁　**4,620円**(4,200)

弥生中期の南関東地方に、大規模な低地農耕集落が突如出現した。この地域で本格的な水稲農耕が開始したのはなぜか。関東地方の水稲農耕受容と東アジアの交易ネットワークの実態を探り、列島弥生社会の変化を解明する。
978-4-642-09364-4　(22.12)

城倉正祥 著

デジタル技術でせまる人物埴輪

―九十九里の古墳と出土遺物―

B５判　208頁　**2,970円**(2,700)

千葉県九十九里の殿塚・姫塚古墳で、大きさと美しさにおいて全国屈指の人物埴輪が大量発掘されて 60 年。壮麗な人物埴輪をデジタル撮影・３D化し、美術的・考古学的価値を再発見。新たな魅力に迫るビジュアルブック。
978-4-642-08310-2　(17.5)

国立歴史民俗博物館・松木武彦・福永伸哉・佐々木憲一 編

日本の古墳はなぜ巨大なのか

―古代モニュメントの比較考古学―

A５判　272頁　原色口絵8　**4,180円**(3,800)

古代日本に造られた膨大な古墳。その傑出した大きさや特異な形は社会のしくみをいかに反映するのか。世界のモニュメントと比較し、謎に迫る。古代の建造物が現代まで持ち続ける意味を問い、過去から未来へと伝える試み。
978-4-642-09355-2　(20.3)

奈良県立橿原考古学研究所 編

飛鳥宮跡出土木簡

A４判　66頁　原色口絵2丁、別刷36　**3,960円**(3,600)

奈良県明日香村の飛鳥宮跡出土木簡は、宮の構造・年代および、政治・行政機構・税制等、飛鳥時代の解明に不可欠である。長年の調査で出土した木簡を集成。初公開資料も収め、図版と釈文を掲げた古代史研究の基礎史料集。
978-4-642-09353-8　(19.6)

高槻市教育委員会 編

邪馬台国と安満宮山古墳

四六判　238頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)〈僅少〉

邪馬台国はどこにあったか。卑弥呼が使者を送った魏国の紀年鏡や三角縁神獣鏡が発見され話題を呼んだ高槻市の安満宮山古墳。その出土鏡や時代背景を多彩な角度で検討し、考古学・歴史学の両面から倭国の実像に迫る。
978-4-642-07761-3　(99.11)

価格は 10％税込、(　)内は本体価格

高槻市教育委員会編

藤原鎌足と阿武山古墳

四六判　262頁　原色口絵4　**3,080円**(2,800)〈僅少〉

大阪府高槻市に位置する阿武山古墳。今回、古墳発見当時のX線写真の新たな解析などから、藤原鎌足墓説が強まった。終末期古墳・遺骸とさまざまな副葬品・乾漆棺などの諸問題を探り、阿武山古墳の真の被葬者に迫る。
978-4-642-08269-3　(15.3)

奈良文化財研究所編集・発行

平城宮兵部省跡　（全２冊セット）

本文編＝304頁／図版編＝292頁　原色口絵２丁〈分売不可〉
Ａ４判　**24,200円**(22,000)〈僅少〉

解明が進む特別史跡平城宮跡。古代律令国家の中枢を担う二官八省のひとつ兵部省跡の全貌を復元。調査研究成果をまとめた本文編と高精細印刷を駆使した図版編からなる。日本考古学・古代史研究に画期をなす正報告書。
978-4-642-09303-3　(05.5)

奈良文化財研究所編集・発行

平城宮第一次大極殿院跡　（全2冊セット）

本文編＝376頁／図版編＝376頁　図版２丁〈分売不可〉
Ａ４判　**30,800円**(28,000)〈僅少〉

朱雀門の真北に位置し、天皇が即位式を行うなど、最も重要な区画であった平城宮大極殿院。永年の発掘調査で解明されたその全容を、高精細印刷による図版を駆使してまとめた正報告書。古代史・考古学・建築史研究に必備。
978-4-642-09381-1　(11.6)

奈良文化財研究所編集・発行

大和 山田寺跡　（全２冊セット）

本文編＝682頁　原色口絵2／図版編＝354頁　原色8　付図4〈分売不可〉
Ａ４判　**66,000円**(60,000)〈僅少〉

蘇我倉山田石川麻呂の発願により造営された山田寺。その東回廊が発掘され、最古の木造建造物例として注目を集めた。特異な平面形式をもつ金堂、開放的な講堂、大量の屋根瓦、鋳造関係遺物など、20年にわたる発掘調査成果を集大成。
978-4-642-07722-4　(02.3)

奈良文化財研究所編集・発行

大和 吉備池廃寺　―百済大寺跡―

Ａ４判　264頁　原色32　単色24　**10,450円**(9,500)〈僅少〉

桜井市で見つかった巨大な金堂と塔の基壇は、そこに飛鳥時代最大の寺院が存在したことを物語る。吉備池廃寺と名づけたこの寺院こそ最初の勅願寺にほかならないことを論証。「百済大寺」の実像に迫る待望の調査研究報告。
978-4-642-07727-9　(03.8)

奈良文化財研究所編集・発行

名勝 旧大乗院庭園　（全２冊セット）

本文編＝496頁／図版・資料編＝372頁〈分売不可〉
Ａ４判　868頁　**35,200円**(32,000)

名勝旧大乗院庭園は南都を代表する名園。発掘調査により、文献で知られた幻の日本庭園の全貌と歴史を解明する。鮮明な図面・写真を多数掲載した中近世・近代史、庭園史、建築史、考古学、寺院史研究に必備の報告書。
978-4-642-09358-3　(20.6)

九州歴史資料館編集・発行

大宰府政庁跡

Ａ４判　712頁　原色8　折込9丁　付図1丁　**30,800円**(28,000)〈僅少〉

「大君の遠の朝廷」と謳われ、古代律令制下の外交と交易の拠点として重要な役割を果した大宰府。永年の発掘調査による政庁跡の膨大かつ最新の成果を集大成。豊富な図版を駆使し全貌を明らかにする待望の調査報告書。
978-4-642-07723-1　(02.5)

九州歴史資料館編集・発行

観世音寺　（全５冊セット）

伽藍編／寺域編／遺物編１／遺物編２／考察編〈分売不可〉
Ａ４判　総1710頁　**77,000円**(70,000)〈僅少〉

天智天皇が母斉明天皇を弔うために発願建立した、観世音寺。かつては日本三戒壇のひとつとして知られ、今日まで法燈が保たれる名刹の発掘調査の正報告書。『伽藍編』、『寺域編』、『遺物編１・２』、『考察編』からなる。
978-4-642-09309-5　(07.10)

戸田有二編

古代祭祀 建鉾山遺跡　（全2冊セット）

本文編＝282頁　原色口絵11　附図2丁／図版編＝ダブルトーン153丁〈分売不可〉
Ａ４判　**27,500円**(25,000)〈僅少〉

福島県表郷村に位置する建鉾山祭祀遺跡。近年行った建鉾山に隣接する古代集落跡＝三森遺跡の発掘調査から、建鉾山祭祀と三森遺跡の関係を解明し、豊富な図版を用いて祭祀集落遺跡としての重要性を提起する。
978-4-642-07715-6　(98.9)

寛永寺谷中徳川家近世墓所調査団編
東叡山寛永寺 徳川将軍家御裏方霊廟(全3冊セット)
本文編／図版編／考察編　DVD付〈分売不可〉
A3判　総1512頁　原色口絵8　**165,000円**(150,000)〈僅少〉
上野寛永寺の徳川将軍家御裏方霊廟の改葬に伴い、正室ほか24人に及ぶ墓所の発掘調査が行われた。副葬品にみる大奥の歴史、葬送の実態、人類学の総合的検証など、多分野からの研究成果の粋を結集した、公式報告書。
978-4-642-09384-2　(12.3)

寺沢　薫著
青銅器のマツリと政治社会
(弥生時代政治史研究)
B5判　532頁　**27,500円**(25,000)〈僅少〉
弥生時代の政治社会を精神面で支えたものは何か。マツリのシンボルであった青銅製祭器の世界を探り、その変質過程や首長と共同体との関わりを解明。青銅器の多量埋納の意味を問い、「国家と王権」の形成史に位置づける。
978-4-642-09319-4　(10.1)

土生田純之著
古墳時代の政治と社会
A5判　400頁　**10,780円**(9,800)〈僅少〉
古墳時代、「国家」は形成されていたのか。弥生王墓から前方後円墳を経て終末期古墳に至る墳墓の展開と、渡来文化の流入および渡来人の動向を分析。古墳時代が古代国家形成期とはほど遠い前段階であることを解明する。
978-4-642-09307-1　(06.12)

土生田純之編
古墳時代の実像
A5判　296頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉
古墳時代を中央集権的、国家段階とみる畿内中心主義に陥らず、「地方」から古墳時代に迫った気鋭の研究者たちの論考を収録。吉備・出雲・若狭・越・東国など、各地域の実相と多様性を描き、古墳時代研究に警鐘を鳴らす。
978-4-642-09315-6　(08.5)

和田晴吾著
古墳時代の王権と集団関係
A5判　404頁　**4,180円**(3,800)
全国各地の古墳はどのように築造されていたのか。編年・時期区分の検証を元に、前方後円墳を頂点とする古墳の秩序の形成と変化を追究。ヤマト王権と地域勢力の関係を論じ、古墳時代の国家と社会の実態に迫る注目作。
978-4-642-09350-7　(18.11)

和田晴吾著
古墳時代の生産と流通
A5判　328頁　**4,180円**(3,800)
古墳時代の漁具・石造物・金属器などの遺物について、その素材や使用方法を製作者・使用者の視点から検討。大陸・朝鮮半島からの技術の伝播と日本での展開を追究し、生産・流通システムと政治権力との関係を論じる。
978-4-642-09344-6　(15.11)

下垣仁志著
古墳時代の国家形成
A5判　302頁　**7,480円**(6,800)
日本列島の古代国家はいかにして誕生したのか。権力資源モデル・威信財論・首長墓系譜論・畿内形成論・保有論・時空観論などの多彩な視点と考古資料を駆使して、古墳時代における国家形成プロセスにせまる意欲作。
978-4-642-09352-1　(18.4)

下垣仁志著
古墳時代の王権構造
B5判　432頁　**20,900円**(19,000)
古墳時代の有力集団構造の実態はいかなるものだったのか。銅鏡・古墳群などの考古資料の多層的な分析を通して、古代国家形成期の社会構造を検討。倭王権構造の特質と、律令国家へといたる変容過程を追究した意欲作。
978-4-642-09321-7　(11.4)

若狭　徹著
古墳時代東国の地域経営
A5判　360頁　**4,180円**(3,800)
後進的とされた東国古墳社会像を、近年の発掘成果や古代石碑の検討から覆し、畿内に連動する社会経営が実践されていた事実を提示。倭王権の一翼を担い、独自の文化構造を成立させた東国豪族の地域経営の実態に迫る。
978-4-642-09361-3　(21.3)

相原嘉之著
飛鳥・藤原京と古代国家形成
A５判　404頁　**11,000円**(10,000)
わが国における古代国家の始まりはいつなのか。王宮・王都のみならず、王宮関連遺跡、古代寺院、古墳墓の構造変化を読み解き、考古学の成果から「日本国誕生」の過程を解明。前著『古代飛鳥の都市構造』に続く論集。
978-4-642-04676-3　(23.12)

近江俊秀著
古代都城の造営と都市計画
A５判　256頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉
平城京遷都にあたり、どのような都市計画が行なわれたのか。河川の制御と水運という視点から、地形にかなった基幹水路網を復元。宅地班給を分析して、その居住者を比定する。また、藤原宮の造瓦組織と瓦工をも論じる。
978-4-642-09341-5　(15.1)

阿部義平著
日本古代都城制と城柵の研究
A５判　326頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉
宮都は藤原京から平城京に遷り、唐に倣った都城へと発展した。その構造をどう理解するのか。また、蝦夷と対峙して東北に築かれた城柵の実態とはどのようなものか。古代国家解明の鍵を握る都城と城柵に考古学から迫る。
978-4-642-04619-0　(15.3)

小澤　毅著
古代宮都と関連遺跡の研究
A５判　336頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉
邪馬台国から藤原京・平城京まで、古代宮都に関わる事項を中心に、考古資料と文献史料から明快に論じる。古代都市と道路・古墳、飛鳥の朝廷と寺院、百済・新羅王京との関係、条里、重閣門など、多彩な問題を追究する。
978-4-642-04643-5　(18.2)

小笠原好彦著
日本の古代宮都と文物
A５判　416頁　**12,100円**(11,000)〈僅少〉
歴代遷宮した飛鳥の宮都から藤原京、平城京へ遷都した宮都の特質を解明する。聖武が志向した中国の複都制と難波京、恭仁京、紫香楽宮の造営を考古学の成果から究明。また、古代人の墓誌や祭祀用の土馬にも言及する。
978-4-642-04624-4　(15.9)

中尾芳治・栄原永遠男編
難波宮と都城制
A５判　368頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉
発掘開始から60年にわたる研究の軌跡と最新の成果を示す、難波宮研究の集大成。考古学を中心に文献史学・建築史学も取り入れ、都城制を考察し、難波宮の姿を今に蘇らせる。史跡の調査・保存略年表などの付録も収載。
978-4-642-04615-2　(14.8)

國下多美樹著
長岡京の歴史考古学研究
A５判　338頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉
桓武朝に造営され、わずか10年足らずの都城でありながら、転換期の重要な都城として注目される長岡京。長年の考古学調査の成果から、唐を手本とした統治理念や専制君主の都としての実像を追究。その都市計画に迫る。
978-4-642-04609-1　(13.11)

須田　勉・佐藤　信編
国分寺の創建 ―組織・技術編―
第１回住田古瓦 - 考古学研究奨励賞受賞
B５判　462頁　**17,600円**(16,000)〈僅少〉
国分寺の研究は、日本古代史を考える上で欠かせない主題である。国分寺の創建期に焦点をあて、造営組織や塔の建築、瓦作成の技術などを解明。古代史学・考古学・建築史学など多分野からの最新研究の到達点を集大成。
978-4-642-02488-4　(13.2)

平田　健編
日本考古学百景
―戦前の絵葉書にみる遺跡と遺物―
A４判　344頁　原色口絵8　**10,450円**(9,500)
明治末年から戦前期にかけて、日本の考古学者たちによって作成された、遺跡や出土品を収めた絵葉書。北海道から九州に及ぶ、約1500点の貴重な絵葉書を都道府県別に収載。絵葉書から見つめ直す日本考古学の歴史。
978-4-642-09340-8　(15.1)

門田誠一著
魏志倭人伝と東アジア考古学
第13回日本考古学協会大賞受賞
B５判　352頁　**13,200円**(12,000)
魏志倭人伝に記された倭と倭人の事物・習俗・社会を、同時代の文献・考古資料から検証。中国と周辺勢力との国際関係、編纂の史的環境、物質文化史の視点から探り、3世紀東アジアにおける相対的な位置づけを試みる。
978-4-642-08154-2　(21.12)

佐藤亜聖著

中世都市奈良の考古学的研究

Ｂ５判　232頁　**13,200円**(12,000)

これまで寺院史料を中心に行われてきた、歴史都市奈良の中世についての研究を、近年の考古的成果をもとにして俯瞰的に再構築し、新たな姿を描き出す。また、あわせて日本中世における宗教都市の実像を明らかにする。

978-4-642-09362-0　(22.3)

富士山考古学研究会編

富士山噴火の考古学

―火山と人類の共生史―

Ａ５判　352頁　**4,950円**(4,500)

世界文化遺産の富士山は、古来、噴火を繰り返し、生活に大きな影響を与えてきた。富士山考古学研究会が、山梨・静岡・神奈川の縄文～近世のテフラ(火山灰)が堆積した噴火罹災遺跡を考古学で詳細に検証し共生を探る。

978-4-642-09357-6　(20.7)

関根達人著

中近世の蝦夷地と北方交易

―アイヌ文化と内国化―

第６回日本考古学協会賞大賞／平成27年度弘前大学学術特別賞受賞

Ｂ５判　412頁　**16,500円**(15,000)

未解明であった中近世の蝦夷地の人々とその社会について、考古学と文献史学の双方から解明する。蝦夷地へ和人はいつどのような形で進出したか、アイヌと和人両者に光を当て、「蝦夷地史」を新たに提唱する画期的な成果。

978-4-642-09339-2　(14.11)

高橋信武著

西南戦争の考古学的研究

第９回日本考古学協会賞奨励賞受賞

Ｂ５判　314頁　**14,300円**(13,000)

これまで文字資料により研究されてきた西南戦争を、考古学的に探究した初めての書。当時の主要小銃・弾薬などの遺物や九州各地の陣地の遺構から両軍の兵力・装備を追究。戦闘の推移などを解明し、研究の新地平を拓く。

978-4-642-09349-1　(17.1)

東　潮著

高句麗考古学研究

Ｂ５判　662頁　口絵4　**35,200円**(32,000)〈僅少〉

古代東アジアの巨大国家高句麗。その王権の特質や政治制度・領域論を、遺跡・遺物など豊富な考古学資料を屈指して追究。また新羅・百済・加耶・三燕をはじめとする周辺諸国との政治・経済・文化的関係についても考察。

978-4-642-08141-2　(97.2)

日本考古学協会編集

日本考古学年報

Ｂ５判　平均390頁　品切＝41～53

1948年の日本考古学協会創立以来、毎年刊行されている本年報は、我が国の考古学的動向を知るうえで、最も基本的かつ信頼度の高い学術的情報源であり、広く海外にも紹介する唯一の書である。41より小社で販売する。

54(2001年4月～02年3月)	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-07694-4	(03.5)
55(2002年4月～03年3月)	**4,400円**(4,000)	978-4-642-07695-1	(04.5)
56(2003年4月～04年3月)	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-07696-8	(05.5)
57(2004年4月～05年3月)	**4,400円**(4,000)	978-4-642-07697-5	(06.5)
58(2005年4月～06年3月)	**4,400円**(4,000)	978-4-642-07698-2	(07.5)
59(2006年4月～07年3月)	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-07699-9	(08.5)
60(2007年4月～08年3月)	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09317-0	(09.5)
61(2008年4月～09年3月)	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-09320-0	(10.5)
62(2009年4月～10年3月)	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-09322-4	(11.5)
63(2010年4月～11年3月)	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-09326-2	(12.5)
64(2011年4月～12年3月)	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09330-9	(13.5)
65(2012年4月～13年3月)	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09336-1	(14.5)
66(2013年4月～14年3月)	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09342-2	(15.5)
67(2014年4月～15年3月)	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09346-0	(16.5)
68(2015年4月～16年3月)	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09388-0	(17.5)
69(2016年4月～17年3月)	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09391-0	(18.5)
70(2017年4月～18年3月)	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09395-8	(19.5)
71(2018年4月～19年3月)	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09399-6	(20.8)
72(2019年4月～20年3月)	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09400-9	(20.11)
73(2020年4月～21年3月)	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09404-7	(21.11)
74(2021年4月～22年3月)	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09407-8	(22.12)
75(2022年4月～23年3月)	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09410-8	(23.12)

日本考古学協会編集
日本考古学

A４判　平均154頁

1948年創立の日本考古学協会による研究論文、研究ノートを主体とする機関誌。日本考古学の成果を発表する場となるものであり、海外の学界との交流にも基本的文献として送付するものである。　※1～22号＝品切

第23号	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-09098-8	(07.5)
第24号	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-09099-5	(07.10)
第25号	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-09100-8	(08.5)
第26号	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-09101-5	(08.11)
第27号	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-09102-2	(09.5)
第28号	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-09103-9	(09.10)
第29号	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-09104-6	(10.5)
第30号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09105-3	(10.10)
第31号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09323-1	(11.5)
第32号	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-09325-5	(11.10)
第33号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09327-9	(12.5)
第34号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09328-6	(12.10)
第35号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09331-6	(13.5)
第36号	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-09332-3	(13.10)
第37号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09337-8	(14.5)
第38号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09338-5	(14.10)
第39号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09343-9	(15.5)
第40号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09345-3	(15.10)
第41号	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-09347-7	(16.5)
第42号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09348-4	(16.10)
第43号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09389-7	(17.5)
第44号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09390-3	(17.10)
第45号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09392-7	(18.5)
第46号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09393-4	(18.10)
第47号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09394-1	(18.10)
第48号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09396-5	(19.5)
第49号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09397-2	(19.10)
第50号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09398-9	(20.5)
第51号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09401-6	(20.11)
第52号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09402-3	(21.5)
第53号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09403-0	(21.10)
第54号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09405-4	(22.5)
第55号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09406-1	(22.10)
第56号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09408-5	(23.5)
第57号	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-09409-2	(23.10)
第58号	**4,400円**(4,000)〈僅少〉	978-4-642-09411-5	(24.5)
第59号	**4,400円**(4,000)	978-4-642-09412-2	(24.10)

暮らしの中に息づくさまざまな民俗から、激変する現代社会に生きる知恵を学ぶ！

日本の民俗 全13巻

【企画編集委員】湯川洋司・古家信平・安室　知

品切＝⑦

安室　知・小島孝夫・野地恒有著

①海　と　里

四六判　272頁　**3,300円**(3,000)

海や里、そして山を舞台に人々はいかにして生活の糧を得ていたのだろうか。海・里・山の生業が重なり、営まれる様子を描き出す。生活や生業の技術をもとに、村の複合的なあり方を捉えなおし、多様な姿を提示する。

978-4-642-07868-9　(08.11)

湯川洋司・福澤昭司・菅　　豊著

②山　と　川

四六判　294頁　**3,300円**(3,000)〈僅少〉

川は、山と里とを結ぶ文化流路であった。山林や河川の開発により、暮らしはどのように作られ変化したのだろうか。自然に寄り添い生きてきた人々の生活とその価値を、暮らしの喜びや楽しみとともに鮮やかに描き出す。

978-4-642-07869-6　(08.12)

川森博司・山本志乃・島村恭則著

③物と人の交流

四六判　304頁　**3,300円**(3,000)

人・物の移動は文化の境界を越え、違いを際だたせると共に文化の融合をもたらす。行商し、あるいは市に出店する人々を追い、異国の地でたくましく暮らす人々のコミュニティを描き、地域社会の多様な姿を浮彫りにする。

978-4-642-07870-2　(08.6)

安室　知・古家晴美・石垣　悟著

④食　と　農

四六判　302頁　**3,300円**(3,000)

現代では、農の機能として、食料の生産だけでなく、自然環境や景観の保持、地域文化の継承なども求められている。都市においては食の問題と直結し、さまざまな農の試みがなされている。食と農の民俗的意味を追究する。

978-4-642-07871-9　(09.1)

古家信平・多田井幸視・徳丸亞木著

⑤家の民俗文化誌

四六判　264頁　**3,300円**(3,000)

建造物として、あるいは家業・家産・家名をもつ経営の主体として、また住まう人々の暮らしの場であり民俗的想像力の源泉として、家は多様な側面をもつ。民家を取り巻く自然・環境・歴史を検討し、暮らしを読み解く。

978-4-642-07872-6　(08.8)

湯川洋司・市川秀之・和田　健著

⑥村の暮らし

四六判　300頁　**3,300円**(3,000)〈僅少〉

村の衰退がいわれて久しい。現代社会の抱える矛盾は地域が「都市」的発展をとげた過程に起因するものも多い。本来「村」という社会が持つ共生のシステムの意味を再考し、併せて近未来の日本の在り方について提言する。

978-4-642-07873-3　(08.7)

飯島吉晴・宮前耕史・関沢まゆみ著

⑧成長と人生

四六判　304頁　**3,300円**(3,000)

人は生まれてから、いかなる過程を経て大人になっていったのか。いのちの誕生から青年期を経て、老いを生きていくまでの一生の階梯を見つめ直す。また、日々の生活のなかで積み重なっていく経験の民俗的意味を問う。

978-4-642-07875-7　(09.3)

古家信平・俵木　悟・菊池健策・松尾恒一著

⑨祭りの快楽

四六判　276頁　**3,300円**(3,000)〈僅少〉

祭りと一口にいっても、そのあり方は地域・時代によってさまざまである。人々をひきつける祭りの魅力とはいったい何なのか。その深層に鋭く迫り、表面上の華やかさに対して、底流に見られる普遍性を明らかにする。

978-4-642-07876-4　(09.9)

内田忠賢・村上忠喜・鵜飼正樹著

⑩都市の生活

四六判　302頁　**3,300円**(3,000)

都市では、新しいものがつねに誕生する。それを受け継ぎ伝統となし、新たなものを付加しながらその活力を形づくる。創造と再生を繰り返している都市が持つ特徴と性格を論じて、変化し続ける現在と伝統を考える。

978-4-642-07877-1　(09.8)

三田村佳子・宮本八恵子・宇田哲雄著

⑪物づくりと技

四六判　300頁　**3,300円**(3,000)

地域を超えたネットワークが技術の伝承を支え、作り手が体で覚え込んだ技は合理的な動作を生み出す。町工場は、技術の最先端と職人の技を併せ持つ。現代社会に生きる職人たちのありようを、伝統とともに深く考察する。
978-4-642-07878-8　(08.10)

古家信平・小熊　誠・萩原左人著

⑫南島の暮らし

四六判　292頁　**3,300円**(3,000)

南島では、本土とは異なった独自の民俗文化が展開していた。奄美・沖縄島・宮古・八重山の豚の飼育、年祝い、祖先祭祀などの習俗を明らかにし、琉球王国から本土復帰後のヤマト化をふまえ、民俗文化とは何かを考える。
978-4-642-07879-5　(09.2)

湯川洋司・古家信平・安室　知編

⑬民俗と民俗学

四六判　320頁　**3,300円**(3,000)

民俗を通して現代社会を理解しようとする民俗学にとって、いま何が課題となるのだろうか。シリーズ編集の過程で見出された問題や、今後の民俗学のゆくえについてさまざまに語り合う。文献解説と民俗学史年表を付載する。
978-4-642-07880-1　(09.12)

福田アジオ・宮田　登編

日本民俗学概論

A５判　308頁　**2,640円**(2,400)

日本民俗学の全体像を意欲的な構成で示した本格的な概説書。旧来の固定的な構成や枠組にとらわれず、民俗の世界を総体として把握できるように再編成した。民俗学への理解を深めようとする人々への格好の入門書。
978-4-642-07194-9　(83.11)

上野和男・高桑守史・福田アジオ・宮田　登編

新版 民俗調査ハンドブック

四六判　344頁　**2,090円**(1,900)

民俗調査なくして民俗学なし。民俗学の研究を志す人はまず民俗調査に習熟しなければならない。近年の著しい進展とフィールドの急激な変化に対応して、旧版を全面改稿して内容を充実させた新版。
978-4-642-07268-7　(87.7)

福田アジオ・古家信平・上野和男・倉石忠彦・高桑守史編

図説 日本民俗学

A５判　288頁　**2,860円**(2,600)

日本の生活文化を体験から問う民俗学。だが高度成長以降の変動の波は地域を変貌させた。民俗を直接経験することが困難になりつつある今日、列島各地にいきづく民俗を多くの図版で再現し、民俗学の全体像を掴む座右の書。
978-4-642-08027-9　(09.11)

福田アジオ・内山大介・小林光一郎・鈴木英恵・萩谷良太・吉村　風編

図解案内 日本の民俗

A５判　352頁　**3,630円**(3,300)

移りゆく社会の中で変貌し、言葉だけではイメージをつかむことが難しい日本の伝統的な生活文化。その具体的な姿を、1800点以上の豊富な図版で再現する。初めて学ぶ人にも最適な、「見て学ぶ」ユニークな民俗学入門。
978-4-642-08061-3　(12.1)

福田アジオ著

日本の民俗学 ―「野」の学問の二〇〇年―

四六判　360頁　**3,630円**(3,300)

民俗学はいかに形成され、発展してきたのか。近世文人の活動や、明治期の人類学にその萌芽を探る。明治末の民俗学の成立から第２次世界大戦後の進展までを社会の動向をふまえて描き、今後の方向性に指針を与える。
978-4-642-08024-8　(09.10)

福田アジオ著

現代日本の民俗学 ―ポスト柳田の五〇年―

四六判　366頁　**3,850円**(3,500)

柳田国男が築いた民俗学は、1960年代以降研究体制を大学に移した。アカデミック民俗学として大きく飛躍し、都市・観光・環境など身近な課題も取り上げるようになる。細分化した学問状況を検証し、今後のあり方を問う。
978-4-642-08098-9　(14.1)

新谷尚紀著
民俗学とは何か
―柳田・折口・渋沢に学び直す―
A５判　222頁　**2,090円**(1,900)
日本民俗学はフォークロアでも文化人類学でもない。柳田國男・折口信夫・渋沢敬三らの原点確認によりそれらの誤解を解き「もう一つの歴史学」として捉え直す。民俗学の新たな出発と豊かな可能性を描く民俗学入門。
978-4-642-08053-8　(11.5)

新谷尚紀編
民俗伝承学の視点と方法
―新しい歴史学への招待―
A５判　320頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉
柳田・折口の民俗学創生の思想を受け継ぎ、それを発展させた「民俗伝承学」を提唱。事例研究や比較研究など、民俗学の研究法を活用した論文を収載する。文献史学にもう一つの視点を提案して、新たな歴史世界をひらく。
978-4-642-08203-7　(18.12)

新谷尚紀・波平恵美子・湯川洋司編
暮らしの中の民俗学　全３巻
四六判
(1) ― 日　**2,860円**(2,600)　978-4-642-07798-9　(03.3)
激しく変貌を遂げる現代社会、私たちの暮らしはどのように変化してきたのか。「一日」「一年」「一生」という時間をテーマに、暮らしと日常のなかに伝えられてきた民俗の知恵を探り、現代社会を捉え直す。　品切＝(2)(3)

櫻井徳太郎著
私説 柳田國男
四六判　268頁　口絵2　**2,860円**(2,600)〈僅少〉
柳田國男とは、どんな人物だったのか。民俗学研究所解散の秘話や、門弟教育のエピソードを晩年の愛弟子が語る。民俗学の体系化に傾けた情熱や先祖の話など、柳田学をわかりやすく解説。これからの民俗学を展望する。
978-4-642-07778-1　(03.8)

福田アジオ著
種明かししない柳田国男
―日本民俗学のために―
四六判　272頁　**3,520円**(3,200)
柳田国男は何を憂い、何を考えて日本民俗学を創出したのか。列島内で暮らす人々の歴史を、生活事象とそれを表す言葉によって解き明かそうとした学問の根本に立ち返り、その問題点を検討。今後のすすむべき道を探る。
978-4-642-08207-5　(23.8)

福田アジオ編
北小浦の民俗　―柳田国男の世界を歩く―
A５判　336頁　口絵2　**8,800円**(8,000)〈僅少〉
柳田国男の著した『北小浦民俗誌』は、北小浦・佐渡とはほとんど無関係に構築されたものであった。現地調査をもとに、北小浦の民俗の全体像を明らかにし、柳田の方法と対置させて検証。新しい北小浦民俗誌を提示する。
978-4-642-07549-7　(02.9)

新谷尚紀著
柳田民俗学の継承と発展
―その視点と方法―
A５判　538頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉
民俗学はどこへ向かうのか。柳田國男の民俗学の再評価、民俗学の方法論、資料論、調査論など多様な視点から総括。また当屋制や両墓制の概念の再検証や、文献史料の民俗学的活用法を提示。民俗学の可能性を展望する。
978-4-642-08187-0　(05.3)

新谷尚紀著
葬式は誰がするのか
―葬儀の変遷史―
A５判　206頁　**3,850円**(3,500)
高齢社会を迎え、死と葬送への関心が高まっている。葬法の歴史を追跡し、各地の葬送事例から、葬儀とその担い手(隣近所と家族親族)の変遷を民俗学の視点から解き明かす。葬祭ホールなど、現代の葬送事情も紹介する。
978-4-642-08199-3　(15.5)

山田慎也・土居　浩編
無縁社会の葬儀と墓
―死者との過去・現在・未来―
A５判　260頁　**4,180円**(3,800)
直葬・墓じまい・孤立死・無縁社会などのニュースが流れ、伝統的な死者儀礼の衰退・崩壊が喧伝される現在。眼前で勃興し、一方で消滅しつつある、これら死者儀礼の実態・制度・観念を取り上げ、歴史的把握を試みる。
978-4-642-08206-8　(22.8)

名久井文明著
伝承された縄紋技術
—木の実・樹皮・木製品—
Ａ５判　240頁　**6,050円**(5,500)

木の実のあく抜きや樹皮利用、籠の作製技術など、縄紋時代から現代まで継承されてきた文化がある。岩手県北上山地をフィールドに、原始の記憶を秘めた、さまざまな技術の存在を「民俗考古学」の手法で明らかにする。
978-4-642-08194-8　(12.10)

名久井文明著
食べ物の民俗考古学
—木の実と調理道具—
Ａ５判　176頁　**4,950円**(4,500)

縄紋時代の人々は、木の実などの食べ物をいかに処理し、利用してきたのか。出土遺物が形成された背景を、従来の考古学では研究対象にしてこなかった民俗事例から追究。食べ物を素材に「民俗考古学」の地平を広げる。
978-4-642-08204-4　(19.10)

名久井文明著
生活道具の民俗考古学
—籠・履物・木割り楔・土器—
Ａ５判　192頁　**4,950円**(4,500)

縄紋時代以降、人々は籠や履物などの生活道具をいかに作り、使ってきたか。出土遺物が形成された背景を、従来の考古学では研究対象にしなかった民俗事例から追究する。生活道具を素材に「民俗考古学」の地平を広げる。
978-4-642-08205-1　(19.10)

小椋裕樹著
手引ろくろの文化史
—その技術と木地屋の系譜—
Ｂ５判　328頁　**13,200円**(12,000)

手引ろくろという独特の道具を使って、お椀などの素材を作っていた木地屋と呼ばれる職人たち。国内各地のろくろの構造分析や地域比較から木地屋の歴史と技術系統、移住の系譜などを解明。ろくろ66点の調査台帳を収録。
978-4-642-01665-0　(21.2)

中村羊一郎著
イルカと日本人
—追い込み漁の歴史と民俗—
四六判　296頁　**2,640円**(2,400)

イルカの追い込み漁—近年、国際的な批判を受けているこの漁法について、漁の実態や日本人のイルカに寄せる心情を、初めて体系的に分析する。伝統食の有りようをも含めて、今後の議論に一石を投じる注目の一冊。
978-4-642-08305-8　(17.2)

常光　徹著
妖怪の通り道 —俗信の想像力—
Ａ５判　352頁　**4,620円**(4,200)

予兆・占い・禁忌・呪いを中心とする俗信は、現代でも私たちの日常生活にさまざまな影響を及ぼしている。妖怪や幽霊への関心も一過性のものではない。多様な民俗の中にひそむ俗信の姿を探り、日本人の心意現象に迫る。
978-4-642-08195-5　(13.7)

新谷尚紀監修・広島県北広島町編集
ユネスコ無形文化遺産 壬生(みぶ)の花田植
—歴史・民俗・未来—
Ａ５判　344頁　ＤＶＤ1枚　原色口絵8　**3,630円**(3,300)〈僅少〉

華麗な飾り牛や早乙女、賑やかな囃子が織りなす「壬生の花田植」。豊穣を田の神に祈る行事の起源と変遷を歴史学・民俗学などから考察。現在行われている行事の進行を付属ＤＶＤで再現し、担う人々の未来への思いを探る。
978-4-642-08196-2　(14.3)

中野　泰著
近代日本の青年宿
—年齢と競争原理の民俗—　（日本歴史民俗叢書）
Ａ５判　276頁　**7,700円**(7,000)〈僅少〉

山口県萩市の、若者を宿泊させて漁業中心の訓練を行う組織＝青年宿。年齢秩序の序列化や、近代青年教育との関わりを解明。組織の競争原理と社会的地位の上昇性・獲得性にも注目し、民俗学研究に新たな課題を提示する。
978-4-642-07365-3　(05.1)

宮内貴久著
家相の民俗学
（日本歴史民俗叢書）
Ａ５判　320頁　**7,700円**(7,000)〈僅少〉

風水の思想は、その一部が日本で「家相」と呼ばれ近世後期より広く普及した。出版物や家相図、聞き取り調査の成果を分析。人々はどんな住居が快適で安寧に暮らせると考えてきたかを探り、日本人の住居観を解き明かす。
978-4-642-07367-7　(06.4)

渡部圭一著
読み書きの民俗学
（日本歴史民俗叢書）
A５判　374頁　**9,350円**(8,500)〈僅少〉

近世～近代の村落では、生活と一体化した読み書き実践が花開いていた。神社由緒書や石造物、真宗聖教の読誦と出版、頭役祭祀の文書や帳簿などを丹念に検討。歴史的な読み書きの特質を、初めて体系的に論じた注目の書。
978-4-642-07413-1　(23.7)

日本人は、何を、何のために、どのように食べてきたか？
日本の食文化　全6巻

小川直之編
①食事と作法
四六判　272頁　**2,970円**(2,700)

食事には作法と決まり事がある。人と人をつなぐ共食や贈答、神仏への供え物、調理の技法と担い手、食具の扱いなど、儀礼と日常の食の社会的な意味を読み解く。ファーストフードや「和食」の国際的な動向にも着目する。
978-4-642-06836-9　(18.12)

関沢まゆみ編
②米と餅
四六判　240頁　**2,970円**(2,700)

米には霊力が宿るとされ、神祭りや人生儀礼で餅や団子、すし、赤飯にも加工し食される。日常では、野菜類と混炊したかて飯、携行食の握り飯など調理の工夫がある。さまざまな米の食と米の力を追究。
978-4-642-06837-6　(19.6)

小川直之編
③麦・雑穀と芋
四六判　272頁　**2,970円**(2,700)

麦・粟・稗などの雑穀と芋類、豆類は日々の食を支え、救荒食ともなった。地方色豊かな雑穀と芋の食べ方、麺類やオヤキなどの粉食から、多様な主食・常食のあり方を示す。大豆の加工品である納豆と豆腐も取り上げる。
978-4-642-06838-3　(19.8)

藤井弘章編
④魚と肉
四六判　254頁　**2,970円**(2,700)

列島に広く浸透した日本の豊かな魚食文化を、海の魚と淡水魚、すしの変化、クジラ・イルカ食などから考察。一方で長く忌避され地域限定的だった肉食文化を、明治以降の急速な拡大も含め概観する。近年話題の昆虫食にも注目。
978-4-642-06839-0　(19.2)

石垣　悟編
⑤酒と調味料、保存食
四六判　248頁　**2,970円**(2,700)

発酵を利用した酒、酢・味噌・醤油、塩蔵や発酵による漬物、ダシの素材となる昆布などの乾物。これら食料保存の技術は独特の味をも生み出した。基本調味料の塩と砂糖、嗜好品の茶も加え、日本の味の文化的背景を探る。
978-4-642-06840-6　(19.4)

関沢まゆみ編
⑥菓子と果物
四六判　254頁　**2,970円**(2,700)

砂糖が普及する以前、甘い食物は貴重だった。古代から食されてきた栗・柿・みかん、年中行事と関わる饅頭・汁粉・粔籹、庶民に親しまれた餡、贈答品の和菓子、文明開化後の洋菓子など、人を惹きつける甘味の文化を描く。
978-4-642-06841-3　(19.11)

価格は 10％税込、(　)内は本体価格

斬新な発想で日本の社会・文化の姿を追い求めた、宮田民俗学のエッセンスを集大成

宮田登 日本を語る 全16巻

品切＝①③⑥⑧⑩⑫～⑯

宮田　登著
②すくいの神とお富士さん
四六判　240頁
〔＊〕

ミロク信仰とは何か。救世主＝弥勒と民間信仰との関わりから、日本人の世界観を探る。また富士山を聖地とする信仰集団＝富士講や、天変地異の鯰信仰にも注目。歴史民俗論、都市民俗論へと展開する宮田民俗学の源流を示す。
978-4-642-07134-5　(06.3)

宮田　登著
④俗信の世界
四六判　246頁
2,860円(2,600)〈僅少〉

人は神仏に何を祈るのか。祈願・禁忌・占い・まじないなどを通して解明。地名や命名の心意、色・音・匂いの民俗的な意味を問い、近世の絵馬・七福神から現代都市の怪異に至るまで、現代における宗教の意味を明らかにする。
978-4-642-07136-9　(06.5)

宮田　登著
⑤暮らしと年中行事
四六判　232頁
2,860円(2,600)〈僅少〉

正月や盆・節供など、四季折々に繰り返される年中行事。農耕儀礼・彼岸などの歳事と芸能とのかかわりを追究。神祭りや夏祭りをキーワードに、行事の意味と生活リズム、季節感を探り、クリスマスなども民俗学的に位置づける。
978-4-642-07137-6　(06.6)

宮田　登著
⑦霊魂と旅のフォークロア
四六判　248頁
2,860円(2,600)〈僅少〉

日本人のカミ観念の原点とは。死に装束や野辺送りなどの葬送儀礼、両墓制や将門伝説から、穢れ観・霊魂観を解明。また観光旅行の原点ともいえる江戸時代の観音霊場巡りや四国遍路を通して、旅のフォークロアを語る。
978-4-642-07139-0　(06.8)

宮田　登著
⑨都市の民俗学
四六判　240頁
2,860円(2,600)〈僅少〉

都市化により失われつつある民俗的世界に対し、新たに語り出される都市伝説。池袋の女・口裂け女などを通して、都市民俗学の可能性を問う。辻の神・境など不思議の空間と、江戸をテーマに都市独自の民俗を解き明かす。
978-4-642-07141-3　(06.10)

宮田　登著
⑪女の民俗学
四六判　234頁
2,860円(2,600)〈僅少〉

女性は民俗社会の中で、どのような役割を果たしたのか。女の霊力や女護島伝説に着目し、性と豊穣の生命力を探る。また血穢や女人禁制の意識と根源を問い、海女の稼ぎ、嫁と姑など、優しいまなざしで「女の力」を語る。
978-4-642-07143-7　(06.12)

日本歴史学会編
遺墨選集 —人と書—
四六倍判　192頁　原色口絵4　**5,060円**(4,600)〈僅少〉

日本歴史上の天皇・僧侶・公家・武家・芸能者・文学者・政治家など90名の遺墨を選んで鮮明な写真を掲げ、伝記と内容を平明簡潔に解説。聖武天皇から吉田茂まで、墨美とその歴史的背景の旅へと誘う愛好家待望の書。
978-4-642-07737-8　(97.10)

正木美術館編
水墨画・墨蹟の魅力
A5判　330頁　原色口絵24　**4,180円**(3,800)

水墨画や墨蹟は中世美術の精髄とされる。内に秘められた気迫までを読み解くことで、より深い鑑賞が得られる。正木美術館の名品は、現代までどのように受け継がれてきたのだろうか。多彩な視点から、その魅力に迫る。
978-4-642-07907-5　(08.10)

加須屋　誠著
記憶の図像学 —亡き人を想う美術の歴史—
四六判　270頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

魅惑的な仏教美術には死者への想いが込められていた。聖徳太子や源頼朝、藤原道長らの供養などをとりあげ、死と向き合うことの意味をさぐる。作品を生者と死者とのつながりとして捉え、果たしてきた社会的役割を描く。
978-4-642-08348-5　(19.3)

冨島義幸著
平等院鳳凰堂 —現世と浄土のあいだ—
A5判　208頁　原色口絵4　**3,300円**(3,000)

藤原頼通により現世と極楽浄土を結ぶ空間として建立された平等院鳳凰堂。これまで個別に論じられてきた鳳凰堂の建築・仏像・絵画・庭園などを総合的に捉え直し、平安仏教の豊かな世界観と人々の祈りの姿を読み解く。
978-4-642-08032-3　(10.2)

髙岸　輝著
室町絵巻の魔力 —再生と創造の中世—
A5判　208頁　原色口絵4　**4,180円**(3,800)

室町時代、歴代の足利将軍が絵巻の制作・収集・鑑賞を繰り返し、その世界に魅入られていく姿を照射する。また、絵巻の制作に台頭したやまと絵師土佐派の筆の冴えにも迫る。将軍と絵師の両者から描く政治と美の交錯。
978-4-642-07906-8　(08.9)

髙岸　輝著
中世やまと絵史論
A5判　428頁　原色口絵16　**11,000円**(10,000)

やまと絵は中世絵画の基盤であり、社会を映し出す鏡であった。絵巻・肖像画・仏画・障屏画など多岐にわたる作例を分析し、視覚による世界把握の変化を探るとともに、絵師や流派による表現の展開を追った注目の書。
978-4-642-01664-3　(20.3)

山本聡美著
中世仏教絵画の図像誌
—経説絵巻・六道絵・九相図—
A5判　488頁　原色口絵16　**9,350円**(8,500)

中世日本では、漢訳仏典を淵源とする図像が世俗の文学や伝承とも結びついて多義的な意味と霊性を獲得した。地獄・鬼・病・六道輪廻・死体など、仏教的罪業観に基づく図像を取り上げ、各々の成立と受容の歴史に迫る。
978-4-642-01663-6　(20.2)

齋藤真麻理著
異類の歌合（うたあわせ） —室町の機智と学芸—
A5判　268頁　原色口絵4　**4,180円**(3,800)〈僅少〉

室町時代、御伽草子など文芸の世界では、動植物など多くの異類たちが活躍していた。なぜ異類はこれほど広く受容されたのか。文学と美術の視座から、人々に共有されていた知識や機智を見出し、室町文化の意義を問う。
978-4-642-08526-7　(14.4)

井戸美里著
戦国期風俗図の文化史
—吉川・毛利氏と「月次（つきなみ）風俗図屏風」—
A5判　368頁　原色口絵4　**11,000円**(10,000)

「月次風俗図屏風」の形態や画面構成、モティーフの選択は異色で、同時代の作品と異なる風景を描き出す。作品成立に関わった安芸・周防の土壌に根づいた文化の諸相を、多様な観点から考察し、作品の実態を解明する。
978-4-642-01658-2　(17.3)

小林健二著
描かれた能楽
—芸能と絵画が織りなす文化史—
第41回観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞
A5判　352頁　原色口絵8　**8,800円**(8,000)〈僅少〉

芸能としての能・狂言と、それを描いた絵画はいかに関係するのか。中近世の絵巻・絵本・屏風・絵鑑などの資料的価値と、その物語絵としての文芸的価値に着目。能楽の絵画的展開と受容を、豊富な図版を交え論じる。
978-4-642-01659-9　(19.2)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

五十嵐公一著
近世京都画壇のネットワーク
—注文主と絵師—
A５判　272頁　原色口絵4　**4,400円**(4,000)〈僅少〉

宗達、探幽、光琳…絵画史上に輝く絵師たちの名品はいかに生まれたか。主な注文主であった醍醐寺三宝院門跡に注目し、歴史に埋れた絵師たちとの関係を復元。絵画制作をめぐるネットワークから作品の新たな魅力に迫る。
978-4-642-07911-2　(10.10)

五十嵐公一著
裁かれた絵師たち
—近世初期京都画壇の裏事情—
A５判　280頁　**2,640円**(2,400)

江戸初期、京都画壇には裁判に巻き込まれた絵師がいた。その詳細を検証し、現在の感覚とは異なる法理念や刑罰の実態に迫る。当時の法が絵師の生涯と画業に与えた影響を発見するとともに、作品理解にも役立つ注目の書。
978-4-642-08404-8　(21.12)

武田恒夫著
狩野派絵画史
芸術選奨文部大臣賞受賞
四六判　496頁　原色口絵4　**5,170円**(4,700)

日本絵画史の狩野派は、400年にわたり強大な勢力を形成し、画壇での枢要な位置を占めてきた。その発端・成立から大成・変容・展開・終焉の史的流れをとらえ、流派活動を後援した支配層を詳述、独創的な狩野派史論を展開。
978-4-642-07475-9　(95.12)

五十嵐公一著
京狩野三代 生き残りの物語
—山楽・山雪・永納と九条幸家—
A５判　248頁　原色口絵4　**4,400円**(4,000)

狩野派一派のうち、山楽・山雪・永納を中心に京都画壇内に確固たる地位を占めていった京狩野家。庇護者九条幸家の人物像や３人との親密な関係に着目しつつ、京狩野家の個性豊かな作品と生き残り戦略の実態を描き出す。
978-4-642-07914-3　(12.12)

大久保純一著
浮世絵出版論
—大量生産・消費される〈美術〉—
A５判　240頁　原色口絵4　**4,180円**(3,800)

日本を代表する美術の浮世絵も、江戸時代には流行に左右される通俗的絵画だった。浮世絵が生み出された背景や、流通の在り方、盛り場や歌舞伎との関連から、大量生産・消費された、商品としての浮世絵の実態を描く。
978-4-642-07915-0　(13.4)

岩切信一郎著
明治版画史
芸術選奨 文部科学大臣新人賞受賞
A５判　392頁　原色口絵8　**6,600円**(6,000)

明治は、わが国伝統の板目木版、西欧の革新的な銅版・石版など、史上稀に見る多種多様な〝版〟の時代であった。双方はどう関係を切り結んできたのか。その変遷を豊富な図版でたどり、明治版画の実態を解き明かす。
978-4-642-07910-5　(09.8)

真鍋俊照編
日本仏像事典
四六判　440頁　原色口絵8　**2,750円**(2,500)

仏像の多種多様な姿をわかりやすく解説した〈仏像事典〉の決定版。如来・菩薩・明王などの種類別に百尊を収録、各部の名称やポーズをイラストで解説する。仏の様々な信仰についても詳説。仏像鑑賞に必携のハンドブック。
978-4-642-07938-9　(04.12)

横須賀美術館・神奈川県立金沢文庫編
運　慶 —鎌倉幕府と三浦一族—
B５判　144頁　**2,200円**(2,000)

平安末期から鎌倉初期の大仏師運慶。奈良での造仏が知られるが、鎌倉幕府と結びついて東国でも活躍した。運慶とその工房作と見られる仏像を多数収め、鎌倉幕府と三浦一族の歴史と文化に迫る。共同特別展の公式図録。
978-4-642-08415-4　(22.7)

神奈川県立金沢文庫・横須賀美術館編
運慶と鎌倉
B５判　128頁　**2,420円**(2,200)

鎌倉幕府と深い関わりをもち、東国での活動を展開した運慶。武士の信心、女性の祈りを軸にかれの活動を捉え直し、鎌倉周辺に残された重要作品から足跡を辿る。運慶とその工房作の仏像を多数収録した特別展解説図録。
978-4-642-08461-1　(24.10)

塩澤寛樹著

鎌倉時代造像論 —幕府と仏師—

Ｂ５判　368頁　口絵16　**33,000円**(30,000)〈僅少〉

鎌倉時代の造像の特質と実態を、王権の造像と比較した「幕府の造像」という観点から探り、幕府政治と造像の関わりが鎌倉時代彫刻史上に果たした役割を考察する。これまでの様式論中心の研究に新たな展望を拓く。

978-4-642-07908-2　(09.2)

山本　勉・武笠　朗著

鎌倉時代仏師列伝

Ａ５判　288頁　原色口絵4　**2,750円**(2,500)

院派・円派・慶派などに分かれ、京都・奈良・鎌倉や地方の寺々に仏像を残した仏師たち39名を収録。事績と作風の特徴を図版とともに解説する。優れた造仏の技量に加え、時代と社会のなかでの個性豊かな生き様に迫る。

978-4-642-08436-9　(23.12)

塩澤寛樹著

仏師たちの南都復興

—鎌倉時代彫刻史を見なおす—

Ａ５判　320頁　**4,180円**(3,800)〈僅少〉

平氏により灰燼に帰した南都はどのようにして復興したのか。朝廷・摂関家・幕府・寺家の活動を解明し、復興造像と仏師たちの関連性を探る。慶派中心で論じる従来の学説に一石を投じ、鎌倉時代彫刻史に新地平を広げる。

978-4-642-01652-0　(16.2)

伊藤和雅著

増訂 古伊万里の誕生

—古九谷論争の再検討—

Ａ５判　412頁　原色口絵16　**17,600円**(16,000)〈僅少〉

大航海時代、日本の磁器は飛躍的に発展した。古九谷焼が肥前有田で製作されたという通説を再検討し、加賀が誕生の地であることを実証する。好評の初版を改訂・増補し、古九谷焼＝有田産論争に一石を投じる注目の書。

978-4-642-07905-1　(06.10)

大橋一章著

天寿国繡帳（てんじゅこくしゅうちょう）の研究 （新装版）

Ａ４判　240頁　原色口絵16　**29,700円**(27,000)

奈良中宮寺所蔵の国宝「天寿国繡帳」。現存する繡帳断片や鎌倉時代の文献から、初めて原形を解明し、推古朝末ごろの制作と推定するなど、飛鳥仏教美術の貴重な遺品の実態に迫った名著を新装復刊。巻末に補論を付す。

978-4-642-01670-4　(23.8)

秋山光和著

平安時代世俗画の研究

日本学士院賞受賞

菊倍判　528頁　折込1丁　別刷図版95丁　**55,000円**(50,000)〈僅少〉

平安貴族の生活感情が表現された世俗画（やまと絵）。その諸問題を文献資料から探り、源氏物語絵巻等の作品を通して絵画史的意義を解明し、やまと絵の形成過程を実証的に追究。美術史研究上不朽の名著。待望の完全復刊。

978-4-642-07903-7　(64.3)

辻　惟雄著

戦国時代狩野派の研究 （新装版）

—狩野元信を中心として—

Ａ４判　384頁　原色口絵4　単色口絵32　**33,000円**(30,000)〈僅少〉

日本絵画史上最大の流派、狩野派の初期形成過程を解き明かした名著を待望の復刊。文献と作品に即し、政治史・社会史などの動向を視野に入れて考察。狩野派作品目録の役割も果たす。初版後の研究を解説した新稿を付載。

978-4-642-07913-6　(11.6)

武田恒夫著

狩野派障屏画の研究

—和様化をめぐって—

菊倍判　358頁　原色口絵8　単色口絵32　**38,500円**(35,000)

狩野派研究に、新たな系統研究を提言。和様という和絵古来の型を展開させた画面形式に、漢画系出自の狩野派は、和絵とは対照的な漢画をいかに適応させたのか。狩野派の障屏画制作が、日本絵画史にもたらした意義を検証。

978-4-642-07902-0　(02.2)

価格は10％税込、(　)内は本体価格

鈴木敬三著
武器と武具の有識故実
A５判　468頁　**15,400円**(14,000)〈僅少〉

朝廷や武家に関する、日本古来のしきたりを今に伝える有識故実。古記録、絵巻物や軍記物語などを駆使し、独自の実証的研究を確立した第一人者の、武具と武器に関する論考を厳選。今なお輝きを失わない17篇を収録。
978-4-642-04611-4　(14.3)

宮崎隆旨著
奈良甲冑師の研究
第23回國華賞受賞
B５判　552頁　原色口絵4丁　別刷単色図版80　〔＊〕

中・近世の最大の甲冑生産地・奈良。当地の甲冑師の実態と生産体制、幕府・大名との関わりを徹底解明。またその前史として、短甲と挂甲に新たな問題を提起する。多数の図版を駆使し、甲冑を史的に捉えた画期的大著。
978-4-642-07912-9　(10.12)

東京国立博物館編
東京国立博物館所蔵 近世やまと絵50選
―江戸絵画の名品―
B５判　112頁　**2,640円**(2,400)

平安時代前期に成立し、千年近く描かれ続けてきたやまと絵。江戸期に制作の担い手となった著名な絵師の代表作など、東京国立博物館所蔵の近世やまと絵50点を精選。洗練された美意識を楽しむことができる公式図録。
978-4-642-08438-3　(23.9)

東京国立博物館編
ミュージアムヒストリー 東京国立博物館
―150年のあゆみ―
B５判　128頁　**1,760円**(1,600)

明治5年、湯島聖堂博覧会開催を機に誕生した東京国立博物館。豊富なテーマと写真で150年のあゆみ、現在の活動の舞台裏や展示施設の特色を紹介。文化財を守り伝えることの大切さを感じつつ博物館の魅力に迫ります。
978-4-642-08421-5　(22.10)

佐藤道信著
明治国家と近代美術 ―美の政治学―
サントリー学芸賞／倫雅美術奨励賞受賞
A５判　352頁　**8,250円**(7,500)

近代世界システムに積極的に参入していった明治日本は、「日本国家としての美術」の構築を目指した。近代日本の美術行政・制度や美術と美術史をめぐる言説などを論じ、近代に構築された美術の意味と認識の構造を問う。
978-4-642-03685-6　(99.4)

政治、宗教、そして造形、天皇の力のありようを美術作品から照らし出す！

天皇の美術史 全6巻

増記隆介・皿井　舞・佐々木守俊著
①古代国家と仏教美術
―奈良・平安時代―
A５判　248頁　原色口絵4　**3,850円**(3,500)

天皇をはじめとする権力者は、造形の受容と再生産を繰り返し、権力や統率力の継承を試みた。7世紀の仏教美術を「古典」と捉えつつ、従来の時代区分を越えて鎌倉時代までを視野に、天皇と古代仏教美術の関係を探る。
978-4-642-01731-2　(18.3)

伊藤大輔・加須屋　誠著
②治天のまなざし、王朝美の再構築
―鎌倉・南北朝時代―
A５判　220頁　原色口絵4　**3,850円**(3,500)

鎌倉～南北朝期の美術史を、視覚の在り方＝「まなざし」の力学から考察し深化させる。絵巻物や肖像画を軸とした院政期美術を再検討、未解明の14世紀美術史を体系的に把握。研究の最前線を切り開く、新たな中世美術論。
978-4-642-01732-9　(17.2)

髙岸　輝・黒田　智著
③乱世の王権と美術戦略
—室町・戦国時代—
A５判　250頁　原色口絵4　**3,850円**(3,500)

南北朝から戦国の動乱期、天皇はいかに美術に関与し続けたのか。室町期天皇の知られざる絵巻享受、天皇と天下人による文化の覇権争い。生き残りをかけた王権の美術戦略は、やがて強力なイメージの磁場を生み出した。
978-4-642-01733-6　(17.5)

野口　剛・五十嵐公一・門脇むつみ著
④雅の近世、花開く宮廷絵画
—江戸時代前期—
A５判　256頁　原色口絵4　**3,850円**(3,500)

江戸前期、天皇は独自の美意識で絵師を選び、美術に関与していた。狩野探幽や俵屋宗達が宮廷に好まれたのはなぜか。宗達に始まる琳派の展開や、自ら絵筆をとる天皇・皇族の姿など、雅やかな17世紀京都画壇の実像を探る。
978-4-642-01734-3　(17.10)

五十嵐公一・武田庸二郎・江口恒明著
⑤朝廷権威の復興と京都画壇
—江戸時代後期—
A５判　240頁　原色口絵4　**3,850円**(3,500)

天明の大火を契機に変化した江戸時代後期の朝廷と絵師の関係を、土佐家・鶴沢家ら京都在住の絵師の活動から明らかにする。史料を博捜し、御所障壁画制作の実態や絵師たちの序列と格付けから京都画壇の実像に迫る。
978-4-642-01735-0　(17.4)

塩谷　純・増野恵子・恵美千鶴子著
⑥近代皇室イメージの創出
—明治・大正時代—
第29回倫雅美術奨励賞受賞
A５判　280頁　原色口絵4　**3,850円**(3,500)

近代国家の中心に据えられた皇室は、どのような視覚イメージを装うことになったのか。西欧文明との接触で変貌を遂げる伝統的天皇像。その可視化を切り口にして、近代における天皇のありようを、美術史から問い直す。
978-4-642-01736-7　(17.7)

近代社会と美術との関係を問い直す。新しい美術史への挑戦！

シリーズ近代美術のゆくえ

玉蟲敏子著
生きつづける光琳
—イメージと言説をはこぶ《乗り物》とその軌跡—
A５判　250頁　原色口絵4　**4,290円**(3,900)

きらびやかな屏風絵で知られる尾形光琳は、死後160年の西欧や200年後の日本で新たに評価され、再生を繰り返した。作品を語る「装飾的」という言葉の由来をもとめ、時空を超えて生きつづける光琳の軌跡を辿る。
978-4-642-03765-5　(04.7)

佐藤道信著
美術のアイデンティティー
—誰のために、何のために—
A５判　240頁　原色口絵4　**4,290円**(3,900)

美術は誰のため、何のためにつくられ、どこに向かうのか。東西の「美術史」展示の比較、戦後の日本美術の社会構造の検証などから、「美術」「美術史」そして「人間」存在の現在と、アイデンティティーを捉え直す注目の書。
978-4-642-03778-5　(07.3)

植田彩芳子著
明治絵画と理想主義
—横山大観と黒田清輝をめぐって—
A５判　240頁　原色口絵4　**4,620円**(4,200)〈僅少〉

明治絵画史における「理想」とは何か。日本画家の横山大観、洋画家の黒田清輝の絵画を中心にその美学的背景を探る。明治後期、西洋の理想主義がどのように受容されたのかを、日本の近代美術の展開と合わせて検討する。
978-4-642-03838-6　(14.11)

太田智己著
社会とつながる美術史学
—近現代のアカデミズムとメディア・娯楽—
A５判　232頁　原色口絵4　**4,620円**(4,200)

1920～50年代、大量発信メディアの成立と拡充、娯楽の大衆化を受け、社会との関係を深めた美術史学。円本美術全集、ラジオ番組、サブカルチャー、古美術観光や展覧会などを事例に、美術と社会のつながりを探究。
978-4-642-03842-3　(15.2)

田島奈都子著
戦前期日本のポスター
—広告宣伝と美術の間で揺れた50年—
A５判　304頁　原色口絵4　**4,950円**(4,500)

19世紀末に登場した日本のポスターは、女性が主題の商業用から戦時期のプロパガンダ用まで多様な展開を見せた。絵画や写真の影響、主題の変化、図案家や画家との関わりなどを解明し、「美術」の枠組みの中に位置づける。
978-4-642-03924-6　(23.4)

価格は10%税込、(　)内は本体価格

林　巳奈夫著

中国古代の神がみ（新装版）

四六判　276頁　原色口絵4　**3,520円**(3,200)

中国古代、豊作の源として太陽が最も崇敬された。天の四方神、青い龍・赤い鳥・白い虎は星座に起源する。北極星は「帝」即ち殷周青銅器の獣面紋として崇められた。豊富な図版を交え知られざる神がみの世界に迫った名著。

978-4-642-08377-5　(20.1)

林　巳奈夫著

中國古玉の研究（新装版）

Ｂ５判　624頁　別刷8　**27,500円**(25,000)

古代中国で神への捧げ物、貴族の身分の証とされ、装身具としても酷愛された半宝石製品を探究。古典中の名称との同定、精霊のよりしろや至高神の象徴としての性格、王朝の統治機構中での役割を解明した名著を新装復刊。

978-4-642-09365-1　(23.9)

林　巳奈夫著

中国古玉器総説（新装版）

Ｂ５判　552頁　原色口絵4　**27,500円**(25,000)

古代中国の新石器時代から漢王朝末期にいたる文化の一面を雄弁に物語る玉器の総説を新装復刊。青銅器・古玉器研究の権威が、玉器の材料や加工技術、名称や用法を余すところなく記述し、各時代の玉器文化を懇切に説く。

978-4-642-09366-8　(23.9)

武田幸男著

広開土王碑墨本の研究

Ｂ５判　416頁　**22,000円**(20,000)〈僅少〉

広開土王碑の墨本は数多く存在する。類型判別の基準を拡大・多様化して紙墨の用法等も加え、墨本制作の変遷過程や作成事情、性格を検証。人為的加工のない原石拓本を摘出し、碑文研究に新たな知見を提示する。

978-4-642-08148-1　(09.4)

木村　誠著

古代朝鮮の国家と社会

Ａ５判　424頁　**10,450円**(9,500)〈僅少〉

古朝鮮から三国（高句麗・百済・新羅）まで、国家の形成過程と社会構造を論究。郡県制、村落構造、官僚制、身分制、外交などを究明。国家機構の制度史的復元を試み、その歴史的特質を分析。新しい朝鮮古代史像を描き出す。

978-4-642-08146-7　(04.5)

橋本　繁著

韓国古代木簡の研究

Ａ５判　288頁　**9,900円**(9,000)〈僅少〉

新史料として注目される、朝鮮半島各地で出土した木簡について、日本との共通点や相違点を検討し、新たな古代朝鮮史像を解明。多くの木簡の釈文を掲載し、研究の基礎とする東アジア文字文化の実像を捉え直す意欲作。

978-4-642-08152-8　(14.11)

矢嶋　泉著
古事記の文字世界
A５判　432頁　**13,200円**(12,000)
〈古事記の文字世界〉は文字と言葉に対する深い洞察と思索の上に成り立つ。現代の論理に完全に重なるわけではない固有の論理と構造の解明を通じて、編纂論・成立論に実証的な光をあて、研究の新たな可能性を示す。
978-4-642-08524-3　(11.3)

和田　萃編
古事記と太安万侶（おおのやすまろ）
四六判　224頁　**2,530円**(2,300)
日本現存最古の歴史書、文学書である『古事記』の編纂に携わった太安万侶。ゆかりの多氏や多神社との関わりなどを取り上げ、安万侶の実像に迫る。『古事記』のヒイラギの八尋矛や、酒楽之歌などについても言及する。
978-4-642-08261-7　(14.11)

大槻　信著
平安時代辞書論考 ―辞書と材料―
第15回立命館白川静記念東洋文字文化賞優秀賞／令和３年度田島毓堂賞受賞
A５判　272頁　**11,000円**(10,000)
平安時代成立の『新撰字鏡』『倭名類聚抄』『類聚名義抄』を軸に、辞書が成立するための、材料との関係性を追究。辞書全体の仕組みと性格を押さえ、変化し続けるその特徴を捉える。古辞書を体系的に把握し、本質に迫る。
978-4-642-08528-1　(19.2)

沖森卓也著
日本古代の文字と表記
A５判　352頁　**11,000円**(10,000)
日本古代において、本来中国語を書き表す文字が、どのように日本語を記述しえたのか。漢字の受容と伝来をはじめ、上代の文字法や万葉仮名・人麻呂歌集などの文字資料を考察し、古代日本語の姿を浮かび上がらせる。
978-4-642-08523-6　(09.7)

三保忠夫著
鷹狩と王朝文学
A５判　592頁　**13,200円**(12,000)〈僅少〉
日本の鷹狩とはいかなるもので、何時、どこで、どのように行なわれたのか。六国史、その他を通じて鷹狩と天皇権力との関係を究明。また、王朝文学作品における鷹狩関連部分の、代表的な注釈書の諸説を批判的に再検討する。
978-4-642-08527-4　(18.3)

久保田　淳著
藤原俊成　中世和歌の先導者
四六判　512頁　**4,180円**(3,800)
新古今時代の代表的歌人。多くの歌合の判者を務め、後白河法皇の信頼を受け千載和歌集（せんざいわかしゅう）を撰進する。古来風躰抄（こらいふうていしょう）を執筆、後継者定家を育て、歌の家御子左家（みこひだりけ）の基礎を築く。歴史の転換期を生き抜いた91年の生涯を辿る。
978-4-642-08529-8　(20.1)

三浦佑之編
古事記を読む
（歴史と古典）
四六判　252頁　原色口絵4　**3,080円**(2,800)
神々の誕生から推古天皇までの「歴史」を記す古事記。出雲神話やヤマトタケルなど多彩な物語を、歴史・文学など多方面から、神話と史実の実態に迫り、その魅力を考える。また国学や教科書に及ぼした影響にも触れる。
978-4-642-07150-5　(08.6)

瀧浪貞子編
源氏物語を読む
（歴史と古典）
四六判　272頁　原色口絵4　**3,080円**(2,800)
王朝社会に生きた源氏一族の壮大な物語は、紫式部が歴史書として描いた「虚構のなかの正史」であった。歴史・文学・考古学・芸術ほか幅広い視点から『源氏物語』の時代と後世への影響をみすえた新しい魅力に迫る。
978-4-642-07151-2　(08.7)

堀　新編
信長公記（しんちょうこうき）を読む
（歴史と古典）
四六判　288頁　原色口絵4　**3,080円**(2,800)
信長・秀吉に仕えた太田牛一の『信長公記』は、文学作品でありながら歴史史料として評価が高い。安土城や宣教師、茶の湯、桶狭間・長篠合戦などをキーワードに、多彩な視点から読み解き、信長・秀吉の新たな魅力に迫る。
978-4-642-07158-1　(09.2)

〈吉川版〉年表・地図

歴史愛好者・一般読書人・家庭に一冊必備の便利な年表・地図

児玉幸多編

日本史年表・地図（2024年版）

B５横判　138頁　**1,650円**（1,500）

年表は政治・外交・文化の外、世界史の事象を縦の帯とし、横に年代を揃えて時代の流れを有機的に把握できる。地図は政治・経済・文化事象の地図化と諸事項の表示に新工夫を施し、毎頁図版説明と時代概観を脚注で示す。
978-4-642-09568-6　（24.4）

亀井高孝・三上次男・林　健太郎・堀米庸三編

世界史年表・地図（2024年版）

B５横判　208頁　**1,760円**（1,600）

年表は収載事項が豊富・詳細で、政治・経済・文化等各般にわたり縦横に理解できる編集で、持って役に立つ。地図は世界史を多方面から一望できるよう独創的な編集を行い、政治史の外、経済史・文化史等の地図を配置した。
978-4-642-09569-3　（24.4）

正確・詳細・豊富な内容を誇る、吉川版サイドブック！
全国の高校・大学の補助教材として採用されている、
歴史年表・地図の決定版

児玉幸多編

標準日本史年表

B５横判　66頁　**825円**（750）

政治・外交・文化の外、世界史の事象を縦の帯とし、横に年代を揃えて時代の流れを有機的に把握できるよう最も斬新な方法をとり、重要事項を太字で国宝を赤で示し使い易くした。一家庭に一冊必備の便利な歴史年表。
978-4-642-09564-8　（24.4）

児玉幸多編

標準日本史地図

B５横判　72頁　**935円**（850）

学界最新の研究成果を縦横にとり入れ、特に政治・経済・文化事象の地図化と諸方面にわたる表示に新工夫が施されている。さらに毎頁図版の説明と時代概観を示す脚注、及び巻末に豊富な付録が付き、最も正確で使い易い。
978-4-642-09565-5　（24.4）

亀井高孝・三上次男・林　健太郎編

標準世界史年表

B５横判　126頁　**935円**（850）

世界史という総合的観点から地域を細分し、収載事項は豊富・詳細で、政治史・経済史・文化史等各般にわたって縦横に理解できるように編集。付録に「世界史対照年表」他を収め、見て楽しい、持って役に立つ定本的年表。
978-4-642-09566-2　（24.4）

亀井高孝・三上次男・堀米庸三編

標準世界史地図

B５横判　82頁　**935円**（850）

世界史を多方面から一望できるような独創的な編集をし、政治史上の地図に経済史・文化史等の地図をも配置すると共に、東西の史的交渉にも重点を置き、現代の激動する世界図を増補した、現在望みうる最高の世界史地図。
978-4-642-09567-9　（24.4）

日本歴史学会編集

日本歴史　月刊雑誌
（毎月23日発売）

Ａ５判・口絵１丁・128頁　**通常号900円**（818）　**新年号1,200円**（1,091）
1年間直接購読料＝9,000円（税・送料共）

◆**割引制度**：下記によりお申込の場合には割引させていただきます。

・前払い	２年（24冊分）	17,000円（税・送料共）
	３年（36冊分）	25,000円（税・送料共）
・学生・院生	１年（12冊分）	5,000円（税・送料共）

『見本誌』送呈

▶『見本誌』を無料送呈致します。ホームページの申し込みフォーム又は葉書でお申込みください。

定期購読のおすすめ

本誌は、日本史専門の月刊雑誌で、研究者から歴史愛好者にまで、幅広く各層のご愛読を頂いております。毎月、古代から近現代までの論文・研究余録等、充実した内容と共に、小社の新刊・重版ご案内のほか、歴史書出版社の多彩な広告も掲載。最も親しみ易い歴史情報誌として好評を博しております。
本会はどなたでも紹介なしに即時入会できます。是非ご購読くださいますよう、お願い申し上げます。

〈内容〉

研究論文……
歴史手帖……
研究余録……
文書館・史料館めぐり
文化財レポート……
書評と紹介……
雑誌論文目録……
新刊寸描……
新刊書案内……
学界消息……
口絵／ほか……

【クレジットカードにて定期購読料金をお支払いいただけます】
クレジットカード決済による、定期購読のお申込ならびに更新が受付可能になりました。下記ホームページからお申込みください。
https://yoshikawa-k.co.jp/nihonrekishi　（右の二次元コードをご利用ください）➡

日本歴史別冊　Ａ５判 464頁 **2,750円**（2,500）〈僅少〉
総目録　１号～700号
（昭和21年６月～平成18年９月）

▶バックナンバーの在庫につきましては、営業部までご照会ください。

価格は 10％税込、（　）内は本体価格

鎌倉遺文研究会編集

鎌倉遺文研究（雑誌）

『鎌倉遺文』収録の35000通の文書は中世史研究の無窮の宝庫であるが、より精度の高い史料集を求めて、補訂に努めることは後進の研究者に課せられた責務である。本誌はその完成的補訂を意図する多くの研究者に発表の場を提供すると共に、「鎌倉遺文」の、「鎌倉遺文」による、「鎌倉遺文」のための研究論文・目録等を掲載する。

年２回刊行
Ａ５判・100頁前後
1,760（1,600）**～2,200円**（2,000）　既刊＝創刊号～第52号（在庫第22～33、35、37、38、40、42号以降）

戦国史研究会編集

戦国史研究（雑誌）

戦国史研究の深化を着実に進めていくことを目的にした機関誌。
内容は、論文のほか、新発見の史料や新事実の確認など、個々の成果を発表する場として「羅針盤」と名付けた研究余録等，毎号充実した編集を図っているユニークな雑誌です。

年２回刊行
Ａ５判・48頁前後
534（485）**～1,047円**（952）　既刊＝第１号～第86号・別冊 戦国大名再考（在庫第10、21、51、53号以降）

交通史学会編

交通史研究（雑誌）

1975年から交通史研究の発展を目的に活動する交通史学会（2011年、交通史研究会より改称）の発行の会報。日本国内だけでなく世界諸地域の交通運輸、通信等の歴史的発展過程を究明し、交通史学の進展に資する論文、全国の交通史研究者、研究団体、博物館等の情報、交通史関連書の書評等を掲載。

年３回刊行
Ａ５判・70頁前後
各2,750円（2,500）　既刊＝第77号～第103号
※77号より吉川弘文館にて発売

創刊70年！　日記と歴史百科が一冊で便利

吉川弘文館編集部編

歴史手帳　2025年版

Ａ６判（文庫判サイズ　縦14.8㎝×横10.5㎝）　クロース装　付録182頁　総頁336頁
1,430円（1,300）　978-4-642-09851-9　（24.11）

★購入者特典「歴史百科 Web」開設！
冊子版の『歴史手帳』をご購入いただいた方に提供するサービスです。改訂で泣く泣く削られ再掲載の要望が多かった過去の資料の一部も Web で復活！豊富な資料をいつでもどこでもご覧いただけます。

★冊子版「歴史百科」に資料を追加！
毎年変わる特設ページ（2025 年版は「蔦屋重三郎関係年譜」）／日本史　あれは何年前？／鎌倉・古河公方／土偶・土面／江戸時代の日本髪／馬具／平安京内裏図／鎌倉地図など

★カバー色を変更してイメージ一新！　ダークグレーから「紫がかったグレー」へ。
★読者プレゼントキャンペーン！　詳しくは『歴史手帳 2025 年版』の帯をご覧ください。

書　名　索　引

この索引には 1949 年(昭和 24)以降に刊行の全出版書(品切書も含む)を収録しました。また品切書目のなかで、本文中に掲載しないものには著編者名と初版発行年(西暦)月を付記しました。

ア

アーネスト・サトウ(人物叢書)…… 102
愛新覚羅溥儀(人物叢書) …… 102
会津鑑 全5冊(会津史料大系)
〔会津史料大系刊行会編〕 …… (81.6)品切
会津諸街道と奥州道中(街道の日本史)
〔安在邦夫・田崎公司編〕…… (02.6)品切
会津塔寺八幡宮長帳〔是沢恭三校訂・解説〕…… (58.4)品切
会津日新館志 全5冊(会津史料大系)
〔会津史料大系刊行会編〕 …… (83.7)品切
会津藩家世実紀 全15巻
〔家世実紀刊本編纂委員会編〕 …… (75.3)品切
会津藩政史の研究(庄司吉之助著作集) …… (85.5)品切
会津風土記・風俗帳(一)〔庄司吉之助編〕 …… (79.1)品切
会津風土記・風俗帳(二)〔庄司吉之助編〕…… (79.12)品切
会津風土記・風俗帳(三)〔庄司吉之助編〕 ……(80.11)品切
アイデンティティ・周縁・媒介
〔脇田晴子・アンヌ ブッシィ編〕 …… (00.8)品切
アイヌ語地名の歴史(歴史文化ライブラリー) …… 81
アイヌ語の世界 (新装普及版) …… 109
アイヌ前史の研究 …… 233
アイヌとことば(歴史文化ライブラリー)…… 83
アイヌの道(街道の日本史)
〔佐々木利和・古原敏弘・児島恭子編〕…… (05.7)品切
アイヌ文化史辞典 …… 167
アイヌ文化誌ノート(歴史文化ライブラリー)…… 36
アイヌ民族史の研究 …… 221
アイヌ民族と日本人(読みなおす日本史) …… 143
青木昆陽(人物叢書) …… 101
赤米のたどった道〔福嶋紀子著〕 …… (16.5)品切
県犬養橘三千代(人物叢書) …… 84
赤松一族の中世(歴史文化ライブラリー) …… 83
赤松円心・満祐(人物叢書) …… 89
秋田県の考古学(郷土考古学叢書)
〔奈良修介・豊島 昂著〕 …… (67.2)品切
商いがむすぶ人びと(身分的周縁と近世社会) …… 129
商いの場と社会(シリーズ近世の身分的周縁)
〔吉田伸之編〕 …… (00.9)品切
安芸毛利一族(読みなおす日本史) …… 148
秋山真之(人物叢書) …… 98
アクセサリーの考古学(歴史文化ライブラリー) …… 73
悪党(読みなおす日本史) …… 145
悪党の世紀(歴史文化ライブラリー) …… 25
悪党召し捕りの中世〔西田友広著〕…… (17.3)品切
明智光秀(人物叢書) …… 90
明智光秀の生涯(歴史文化ライブラリー) …… 70
赤穂事件と四十六士(敗者の日本史)…… 20
赤穂四十六士論(歴史文化セレクション)
〔田原嗣郎著〕 ……(06.11)品切
赤穂浪士と吉良邸討入り(人をあるく) …… 11
赤穂浪士の実像(歴史文化ライブラリー) …… 44
浅井氏三代(人物叢書) …… 90
朝河貫一(人物叢書) …… 102
朝河貫一と人文学の形成 …… 247
朝河貫一と日欧中世史研究 …… 247
朝倉氏と戦国村一乗谷(読みなおす日本史) …… 148
朝倉義景(人物叢書) …… 90
浅野長矩(人物叢書) …… 101
浅野長政(人物叢書) …… 101
浅間山大噴火(歴史文化ライブラリー) …… 40
アジア・太平洋戦争(戦争の日本史) …… 18
アジア・太平洋戦争辞典 …… 164
アジア・太平洋戦争と石油 …… 261
アジアの帝国国家(日本の時代史) …… 15
アジアのなかの戦国大名(歴史文化ライブラリー)
〔鹿毛敏夫著〕 …… (15.9)品切
アジアの中の日本(史跡で読む日本の歴史) …… 23
アジアのなかの琉球王国(歴史文化ライブラリー) …… 28
アジアの歴史と歴史家(ユーラシア文化史選書)
〔増井経夫著〕 …… (66.7)品切
アジアン戦国大名大友氏の研究 …… 172
足利一門守護発展史の研究(日本学士院賞受賞)
〔小川 信著〕…… (80.2)品切
足利一門守護発展史の研究 (新装版) …… 243
足利一門と動乱の東海(東海の中世史)…… 2
足利学校の研究(増補新訂)〈新装版〉 …… 277
足利成氏の生涯 …… 120
足利氏と新田氏(対決の東国史) …… 5
足利将軍家の政治秩序と寺院 …… 243
足利将軍と御三家(歴史文化ライブラリー) …… 76
足利将軍の軍隊(歴史文化ライブラリー) …… 83
足利尊氏(人物叢書) …… 101
足利尊氏再発見 …… 120
足利尊氏と関東(人をあるく) …… 10
足利尊氏と直義(歴史文化ライブラリー) …… 50
足利直冬(人物叢書) …… 89
足利直義(人物叢書) …… 101
足利持氏(人物叢書) …… 101
足利義昭(人物叢書) …… 90
足利義昭と織田信長(歴史文化ライブラリー) …… 83
足利義輝(人物叢書) …… 101
足利義教(人物叢書) …… 101
足利義政(人物叢書) …… 101
足利義政と東山文化(読みなおす日本史) …… 146
足利義満(人物叢書) …… 89
足利義満と京都(人をあるく) …… 11
足利義持(人物叢書) …… 89
芦田均と日本外交 …… 263
飛鳥(歴史文化セレクション)〔直木孝次郎著〕 … (07.5)品切
飛鳥(読みなおす日本史)〔門脇禎二著〕 …… (12.7)品切
飛鳥藤原京木簡〔奈良文化財研究所編集・発行〕 (07.8)品切
飛鳥から藤原京へ(古代の都)
〔木下正史・佐藤 信編〕 ……(10.12)品切
飛鳥宮跡出土木簡 …… 278
飛鳥古京〔門脇禎二著〕 …… (94.12)品切
飛鳥史跡事典 …… 165
飛鳥時代 倭から日本へ〔田村圓澄著〕 …… (10.4)品切
飛鳥寺と法隆寺(直木孝次郎古代を語る)
〔直木孝次郎著〕 …… (09.6)品切
飛鳥と古代国家(日本古代の歴史)…… 110
飛鳥の神がみ〔横田健一著〕 …… (92.8)品切
飛鳥の古墳を語る〔猪熊兼勝著〕 ……(94.11)品切

飛鳥の朝廷と王統譜(歴史文化ライブラリー) …… 36
飛鳥の文明開化(歴史文化ライブラリー) …… 25
飛鳥の都(直木孝次郎古代を語る)
〔直木孝次郎著〕 …… (09.5)品切
飛鳥の宮と藤原京(歴史文化ライブラリー) …… 48
飛鳥・白鳳仏教史(歴史文化セレクション)
〔田村圓澄著〕 ……(10.12)品切
飛鳥藤原京(研究史) …… 114
飛鳥・藤原京と古代国家形成 …… 281
飛鳥・藤原の宮都を語る …… 114
飛鳥・藤原の都を掘る(地中からのメッセージ)
〔木下正史著〕 …… (93.7)品切
アスファルトの下の江戸(歴史文化ライブラリー)…… 42
吾妻鏡(新訂増補 国史大系) …… 178
吾妻鏡〈吉川本〉全3冊 …… 218
吾妻鏡・玉葉データベース CD-ROM 版
〔福田豊彦監修〕 …… (09.6)品切
吾妻鏡人名索引 …… 220
吾妻鏡人名総覧 …… 219
吾妻鏡の思想史 …… 195
吾妻鏡の謎(歴史文化ライブラリー) …… 50
吾妻鏡の方法(増補)(新装版) …… 120
吾妻鏡必携 …… 161
安達泰盛(人物叢書) …… 101
新しい江戸時代が見えてくる …… 127
新しい近現代史研究へ(歴史研究の最前線)
〔安田常雄編〕 …… (04.9)品切
新しい古代史へ 全3巻 …… 112
新しい史料学を求めて(歴博大学院セミナー)
〔国立歴史民俗博物館編〕 …… (97.3)品切
敦成親王誕生(現代語訳 小右記) …… 9
吾妻鏡と鎌倉の仏教 …… 120
安都雄足(人物叢書) …… 101
アニミズムの世界(歴史文化ライブラリー) …… 25
阿仏尼(人物叢書) …… 88
安部磯雄(人物叢書) …… 102
安倍・清原氏の巨大城柵 …… 116
阿部家史料集(一)〔児玉幸多校訂〕 …… (75.3)品切
阿部家史料集(二)〔児玉幸多校訂〕 …… (76.3)品切
安倍貞任・宗任(人物叢書) …… 101
安倍晴明(人物叢書) …… 101
安倍晴明(歴史文化ライブラリー) …… 44
阿倍仲麻呂(人物叢書) …… 85
アヘンと日本軍(歴史文化ライブラリー) …… 83
天草時貞(人物叢書) …… 91
尼子経久(人物叢書) …… 101
アマテラスと天皇(歴史文化ライブラリー) …… 56
奄美諸島編年史料 …… 271
雨森芳洲(人物叢書) …… 101
荒井郁之助(人物叢書) …… 97
新井白石(人物叢書) …… 93
新井白石序論(増訂版)〔宮崎道生著〕 …… (76.9)品切
新井白石と思想家文人〔宮崎道生著〕 …… (75.3)品切
新井白石の研究(増訂版)〔宮崎道生著〕…… (69.1)品切
新井白石の現代的考察〔宮崎道生著〕 …… (75.6)品切
新井白石の史学と地理学〔宮崎道生著〕…… (76.9)品切
新井白石の時代と世界〔宮崎道生著〕 ……(75.11)品切
新井白石の人物と政治〔宮崎道生著〕 …… (77.10)品切
新井白石の洋学と海外知識〔宮崎道生著〕…… (73.3)品切
〈洗う〉文化史 …… 141
荒ぶるスサノヲ、七変化(歴史文化ライブラリー)
〔斎藤英喜著〕 …… (12.6)品切
ありがとうジョット(歴史文化セレクション)
〔石鍋真澄著〕 …… (09.7)品切
有栖川宮熾仁親王(人物叢書) …… 102
有馬四郎助(人物叢書) …… 99
ある「大正」の精神〔天沼 香著〕 …… (82.12)品切
ある文人代官の幕末日記(歴史文化ライブラリー) …… 51
ある文人歴史家の軌跡〔西山松之助著〕 ……(00.11)品切
阿波藍経済史研究〔天野雅敏著〕 …… (86.12)品切
淡路島の民俗(民俗総合調査報告シリーズ)
〔和歌森太郎編〕 ……(64.11)品切
安国寺恵瓊(人物叢書) …… 91
暗黒時代の精神史〔竹内正三著〕 …… (69.3)品切
安政の大獄(日本歴史叢書)〔吉田常吉著〕…… (91.8)品切
安藤昌益(人物叢書) …… 101
安保改定と政党政治 …… 263

イ

井伊家(家からみる江戸大名) …… 4
井伊直弼(人物叢書) …… 95
井伊直弼(幕末維新の個性) …… 129
家・社会・女性〔前近代女性史研究会編〕 …… (97.9)品切
家・親族の生活文化(日本歴史民俗論集)
〔福田アジオ・塚本 学編〕 …… (93.2)品切
イエズス会がみた「日本国王」(歴史文化ライブラリー)… 71
家と子どもの社会史 …… 238
家と女性(日本女性史論集)
〔総合女性史研究会編〕 …… (97.12)品切
家と村の儀礼(日本歴史民俗論集)
〔峰岸純夫・福田アジオ編〕 …… (93.10)品切
家の民俗文化誌(日本の民俗) …… 284
家元制の展開(西山松之助著作集) …… 213
家元の研究(西山松之助著作集) …… 213
【逸話編】 家康をめぐる人々(現代語訳徳川実紀)
〔大石 学・佐藤宏之・小宮山敏和・野口朋隆編〕 (12.2)品切
医学史研究余録〔服部敏良著〕 ……(87.11)品切
伊賀国黒田荘史料(荘園史料叢書)
〔竹内理三編〕 …… (79.3)品切
斑鳩藤ノ木古墳概報〔橿原考古学研究所編〕 … (89.6)品切
壱岐・対馬と松浦半島(街道の日本史)
〔佐伯弘次編〕 …… (06.4)品切
生きつづける光琳(シリーズ近代美術のゆくえ) …… 294
生きつづける民家(歴史文化ライブラリー) …… 75
イギリスの古城 (新装版)(世界の城郭)
〔太田静六著〕 ……(10.12)品切
戦の中の女たち〔西村汎子編〕 …… (04.12)品切
生田 万(人物叢書) …… 102
池田綱政 …… 127
池田光政(人物叢書) …… 92
異国漂流記集(気象史料シリーズ 2)
〔気象研究所監修・荒川秀俊編〕…… (62.7)品切
伊沢修二(人物叢書) …… 98
胆沢城跡〔斎藤 忠他編〕…… (57.3)品切
石井〔徳島県教育委員会編〕 ……(62.11)品切
石谷家文書 将軍側近のみた戦国乱世 …… 271
石川啄木(人物叢書) …… 98
石川啄木と幸徳秋水事件
〔岩城之徳著 近藤典彦編〕 …… (96.10)品切
石川啄木と明治の日本 …… 223
石田梅岩(人物叢書) …… 93
石田三成(人物叢書) …… 91
石田三成伝 …… 123
石に刻まれた江戸時代(歴史文化ライブラリー) …… 70
石の考古学(読みなおす日本史) …… 142
石橋湛山(人物叢書) …… 100
石橋湛山論〔上田美和著〕 …… (12.3)品切

移住漁民の民俗学的研究〔野地恒有著〕 ……(01.12)品切
衣食住の歴史〔河鰭実英・鈴木敬三編〕 …… (52.4)品切
維新史 附録 …… 202
以心崇伝(人物叢書) …… 102
維新政権(日本歴史叢書)〔松尾正人著〕 …… (95.9)品切
維新政権の成立(幕末維新論集)〔松尾正人編〕 (01.4)品切
維新政府の密偵たち(歴史文化ライブラリー)
〔大日方純夫著〕 ……(13.10)品切
維新と開化(日本近代の歴史) …… 130
維新七十年図鑑(秘録) …… 258
維新変革と民衆(幕末維新論集)〔落合延孝編〕 (00.12)品切
伊豆と黒潮の道(街道の日本史)〔仲田正之編〕… (01.5)品切
和泉式部(人物叢書) …… 86
出雲(古代を考える)〔上田正昭編〕 …… (93.8)品切
出雲尼子一族(読みなおす日本史)…… 148
出雲と石見銀山街道(街道の日本史)
〔道重哲男・相良英輔編〕…… (05.10)品切
出雲国誕生(歴史文化ライブラリー) …… 65
出雲の中世(歴史文化ライブラリー)〔佐伯徳哉著〕(17.9)品切
遺跡・遺物と古代史学〔岸 俊男著〕…… (80.12)品切
遺跡と技術(日本古代の交通・交流・情報) …… 239
伊勢国司北畠氏の研究〔藤田達生編〕 …… (04.8)品切
伊勢参宮文化と街道の人びと(歴史文化ライブラリー) 80
伊勢神宮(読みなおす日本史) …… 144
伊勢神宮史の研究(小島鉦作著作集)
〔小島鉦作著〕 …… (85.5)品切
伊勢神宮と古代の神々(直木孝次郎古代を語る)
〔直木孝次郎著〕 …… (09.1)品切
伊勢神宮の成立(歴史文化セレクション) …… 156
伊勢神宮を造った匠たち〔浜島一成著〕 …… (13.9)品切
石上神宮 七支刀銘文図録〔村山正雄編著〕… (96.12)品切
石上神宮の七支刀と菅政友〔藤井 稔著〕 …… (05.5)品切
石上神宮宝物誌〔石上神宮編〕 …… (80.4)品切
板垣退助(人物叢書) …… 102
板碑源流考 …… 211
市川市史 全8冊〔市川市史編纂委員会編〕 …… (71.9)品切
市川市史年表〔市川市年表編集委員会編〕 …… (77.3)品切
市川団十郎(人物叢書) …… 93
一条兼良(人物叢書) …… 89
一条天皇(人物叢書) …… 86
一万年前を掘る(橿原考古学研究所編) ……(94.11)品切
一揆の時代(日本の時代史) …… 14
一休宗純(人物叢書) …… 101
一休とは何か(歴史文化ライブラリー) …… 47
一休・蓮如(日本名僧論集)
〔桜井好朗・福間光超編〕…… (83.4)品切
厳島文書伝来の研究 …… 195
一向一揆と石山合戦(戦争の日本史)…… 17
一向一揆と真宗信仰(中世史研究選書)
〔神田千里著〕 …… (91.8)品切
一向一揆と戦国社会 …… 189
一向一揆の基礎構造(日本宗教史研究叢書) …… 210
一向一揆の研究 …… 189
一向一揆論 …… 189
一山一寧(人物叢書) …… 101
一般問題に関する論考(太田晶二郎著作集)…… (92.3)品切
一遍(人物叢書) …… 88
一遍上人と時宗(日本仏教宗史論集)
〔橘 俊道・今井雅晴編〕 …… (84.12)品切
『一遍聖絵』の世界 …… 124
一遍聖絵を読み解く〔武田佐知子編〕…… (99.1)品切
偽りの外交使節(歴史文化ライブラリー) …… 57
伊藤圭介(人物叢書) …… 97
伊藤仁斎(人物叢書) …… 93
伊藤博文と明治国家形成〔坂本一登著〕 ……(91.12)品切
伊東巳代治(人物叢書) …… 102
伊那・木曾谷と塩の道(街道の日本史)
〔高木俊輔編〕 …… (03.6)品切
犬養 毅(人物叢書)…… 102
イヌと縄文人(歴史文化ライブラリー) …… 74
犬と鷹の江戸時代(歴史文化ライブラリー) …… 64
犬の日本史(読みなおす日本史)…… 154
稲・金属・戦争(古代を考える)〔佐原 真編〕……(01.12)品切
稲の大東亜共栄圏(歴史文化ライブラリー) …… 57
井上 馨(人物叢書) …… 102
井上馨と明治国家建設〔小幡圭祐著〕 …… (18.2)品切
井上 毅(人物叢書)…… 102
井上準之助(人物叢書) …… 102
〈いのち〉をめぐる近代史(歴史文化ライブラリー)…… 50
位牌祭祀と祖先観(日本歴史民俗叢書)
〔中込睦子著〕 ……(05.11)品切
井原西鶴(人物叢書) …… 92
遺墨選集…… 290
今鏡(新訂増補 国史大系) …… 177
今川氏と観泉寺〔観泉寺史編纂刊行委員会編〕 (74.11)品切
今川氏の研究(戦国大名論集)〔有光友学編〕…… (84.2)品切
今川義元(人物叢書) …… 90
今川了俊(人物叢書) …… 89
今に息づく江戸時代 …… 127
鋳物と職人の文化史(歴史文化ライブラリー) …… 82
〈癒す知〉の系譜(ニューヒストリー近代日本) …… 136
伊予松山と宇和島道(街道の日本史)
〔川岡 勉・内田九州男編〕…… (05.2)品切
医療保険の行政と政治〔中静未知著〕 …… (98.1)品切
異類の歌合 …… 290
イルカと日本人 …… 287
慰霊・追悼・顕彰の近代(日本歴史民俗叢書)
〔矢野敬一著〕 …… (06.3)品切
磐井の乱(古代を考える)〔小田富士雄編〕 ……(91.10)品切
岩倉具視(人物叢書) …… 102
岩倉具視(幕末維新の個性)〔佐々木 克著〕 …… (06.2)品切
岩崎弥太郎(人物叢書) …… 102
岩崎弥太郎(人物叢書)〔入交好脩著〕 ……(60.11)品切
岩崎彌太郎〔小林正彬著〕 …… (11.3)品切
イワシとニシンの江戸時代…… 127
隠居大名の江戸暮らし(歴史文化ライブラリー) …… 31
イングランド王国前史(歴史文化ライブラリー)…… 53
イングランド王国と闘った男(歴史文化ライブラリー) … 57
イングランド王国の成立(ユーラシア文化史選書)
〔三好洋子著〕 …… (67.4)品切
院家建築の研究〔杉山信三著〕 …… (81.8)品切
隠元(人物叢書) …… 92
殷周時代青銅器の研究(殷周青銅器綜覧)
〔林 巳奈夫著〕…… (84.3)品切
殷周時代青銅器紋様の研究(殷周青銅器綜覧)
〔林 巳奈夫著〕……(86.11)品切
印章(日本歴史叢書)〔荻野三七彦著〕…… (95.5)品切
院政期の都市京都と政治 …… 240
院政期の仏教〔速水 侑編〕…… (98.2)品切
院政期武士社会と鎌倉幕府 …… 242
院政と武士の登場(日本中世の歴史)…… 117
院政の展開と内乱(日本の時代史)…… 14
インド史への招待(歴史文化ライブラリー) …… 26
インドの神々(歴史文化セレクション)
〔斎藤昭俊著〕 …… (07.7)品切
インドの民俗宗教〔斎藤昭俊著〕 …… (84.2)品切
インド美術史(歴史文化セレクション)
〔宮治 昭著〕…… (09.10)品切

ウ

上杉景勝(人物叢書) …… 102
上杉謙信(人物叢書) …… 90
上杉謙信の本音(歴史文化ライブラリー) …… 81
上杉氏の研究(戦国大名論集)〔阿部洋輔編〕… (84.12)品切
上杉憲実(人物叢書) …… 89
上杉鷹山(人物叢書) …… 94
上杉鷹山と米沢(人をあるく) …… 11
上田秋成(人物叢書) …… 102
飢えと食の日本史(読みなおす日本史) …… 154
上野寛永寺 将軍家の葬儀(歴史文化ライブラリー) …… 47
上野村誌〔上野村郷土誌研究会編〕 ……(54.11)品切
宇垣一成(人物叢書) …… 102
浮世絵出版論 …… 291
宇佐宮(日本歴史叢書)〔中野幡能著〕…… (96.7)品切
宇佐神宮史 史料篇 全16巻
〔竹内理三監修・中野幡能編纂〕 …… (84.3)品切
宇佐一大陸と日本古代史―〔賀川光夫編〕…… (78.9)品切
宇治拾遺物語(新訂増補 国史大系) …… 177
失われた景観〔長谷川成一著〕 …… (96.2)品切
臼杵石仏〔賀川光夫編〕 …… (95.5)品切
右大臣就任(現代語訳 小右記) …… 9
宇多天皇(人物叢書) …… 101
菟田野町史〔菟田野町史編纂委員会編〕 …… (68.4)品切
映し出されたアイヌ文化 …… 141
「うつわ」を食らう(読みなおす日本史) …… 154
采女 なぞの古代女性(歴史文化ライブラリー) …… 81
乳母の力(歴史文化ライブラリー) …… 43
馬駆ける古代日本(歴史文化ライブラリー) …… 83
馬と人の江戸時代(歴史文化ライブラリー) …… 61
海からみた日本の古代(読みなおす日本史) …… 143
海・川・山の生産と信仰(日本歴史民俗論集)
〔網野善彦・木下忠・神野善治編〕 …… (93.12)品切
海と川に生きる(身分的周縁と近世社会)
〔斎藤善之編〕 …… (07.3)品切
海と里(日本の民俗) …… 284
海と山の近世史 …… 253
海と山の民俗(宮田登 日本を語る)〔宮田 登著〕 (07.3)品切
海と山の民俗自然誌(日本歴史民俗叢書) …… 222
海の生活誌(歴史文化ライブラリー) …… 40
海の武士団(読みなおす日本史) …… 145
海のモンゴロイド(歴史文化ライブラリー) …… 37
海辺を行き交うお触れ書き(歴史文化ライブラリー)…… 69
海を渡った陶磁器(歴史文化ライブラリー) …… 41
海をわたる機関車 …… 259
埋もれた江戸(読みなおす日本史)〔藤本 強著〕… (17.9)品切
浦上キリシタン流配事件(歴史文化ライブラリー) …… 27
浦島太郎の日本史(歴史文化ライブラリー) …… 51
卜部兼好(人物叢書) …… 89
漆紙文書の研究〔平川 南著〕 …… (89.7)品切
上井覚兼(人物叢書) …… 102
宇和地帯の民俗(民俗総合調査報告シリーズ)
〔和歌森太郎編〕 …… (61.4)品切
運慶 …… 291
運慶(歴史文化ライブラリー) …… 33
運慶と鎌倉 …… 291

エ

栄花物語(新訂増補 国史大系) …… 177
英国外交官の見た幕末日本〔飯田 鼎著〕 …… (95.9)品切
栄西(人物叢書) …… 87
栄西禅師と臨済宗(日本仏教宗史論集)
〔平野宗浄・加藤正俊編〕 …… (85.3)品切
永青文庫叢書 …… 272
永青文庫の古文書 …… 128
叡尊・忍性(人物叢書) …… 88
永平寺史料全書 …… 274
描かれた戦国の京都〔小島道裕著〕 …… (09.10)品切
描かれた中世城郭 …… 124
描かれた能楽 …… 290
描かれた倭寇 …… 121
江川坦庵(人物叢書) …… 95
疫病の古代史(歴史文化ライブラリー) …… 78
絵図と徳川社会〔倉地克直著〕 …… (18.6)品切
エスニシティ・ジェンダーからみる 日本の歴史 …… 108
蝦夷(日本歴史叢書)〔高橋富雄著〕 …… (95.2)品切
蝦夷島と北方世界(日本の時代史)…… 15
蝦夷史料(東北史史料集) …… 214
蝦夷地から北海道へ(街道の日本史)〔田端 宏編〕 (04.3)品切
蝦夷地と琉球(幕末維新論集)
〔桑原真人・我部政男編〕 …… (01.6)品切
蝦夷と古代国家(古代史研究選書) …… 181
蝦夷と東北古代史 …… 181
江田船山古墳出土国宝銀象嵌銘大刀
〔東京国立博物館編〕 …… (93.8)品切
越後平野・佐渡と北国浜街道(街道の日本史)
〔池 享・原 直史編〕 …… (05.12)品切
越前朝倉氏の研究
〔松原信之著(三秀舎・発行 吉川弘文館・発売)〕(08.5)品切
越前国宗門人別御改帳(一)〔佐久高士編〕…… (67.4)品切
越中・能登と北陸街道(街道の日本史)
〔深井甚三編〕 …… (02.2)品切
江戸(街道の日本史)〔藤田 覚・大岡 聡編〕…… (03.2)品切
江藤新平(人物叢書) …… 96
江戸御留守居役(歴史文化ライブラリー) …… 32
江戸開府(現代語訳徳川実紀)
〔大石 学・佐藤宏之・小宮山敏和・野口朋隆編〕 (11.3)品切
江戸が東京になった日(読みなおす日本史) …… 150
江戸歌舞伎研究(西山松之助著作集) …… 213
江戸・上方の大店と町家女性〔林 玲子著〕……(01.11)品切
江戸国学転生史の研究〔藤井貞文著〕 …… (87.6)品切
江戸呉服問屋の研究 …… 251
江戸歳時記(歴史文化セレクション)〔宮田 登著〕(07.12)品切
江戸時代医学史の研究(日本医学史の研究)…… 213
江戸時代日蘭文化交流資料集 全2冊
〔日蘭学会編〕 ……(80.11)品切
江戸時代の医学 …… 127
江戸時代の医師修業(歴史文化ライブラリー) …… 61
江戸時代の孝行者(歴史文化ライブラリー) …… 31
江戸時代の災害・飢饉・疫病 …… 254
江戸時代の女性たち〔近世女性史研究会編〕 … (90.2)品切
江戸時代の瀬戸内海交通(歴史文化ライブラリー) …… 72
江戸時代の通訳官〔片桐一男著〕 …… (16.3)品切
江戸時代の身分願望(歴史文化ライブラリー) …… 45
江戸時代の名産品と商標 …… 200
江戸時代の遊行聖(歴史文化ライブラリー) …… 56
江戸時代論〔佐々木潤之介著〕 …… (05.9)品切
江戸地廻り経済と地域市場 …… 198
江戸城(読みなおす日本史) …… 149
江戸城御庭番(読みなおす日本史) …… 149
江戸城が消えていく(歴史文化ライブラリー) …… 47
江戸商業と伊勢店〔北島正元編著〕 …… (62.4)品切
江戸城御殿の構造と儀礼の研究 …… 249
江戸上水道の歴史(歴史文化セレクション)

〔伊藤好一著〕……(10.10)品切
江戸城の土木工事(歴史文化ライブラリー)…… 80
江戸庶民の四季(読みなおす日本史)…… 150
江戸大名の本家と分家(歴史文化ライブラリー)…… 55
江戸鷹場制度の研究 …… 254
江戸店の明け暮れ(歴史文化ライブラリー)…… 38
江戸店犯科帳(江戸選書)〔林 玲子著〕……(82.3)品切
江戸たべもの繁昌記(歴史文化ライブラリー)…… 83
江戸築城と伊豆石 …… 252
江戸町人の研究 全6巻…… 202
江戸町人の研究 第6巻〔西山松之助編〕……(06.2)品切
江戸ッ子(歴史文化セレクション)…… 156
江戸東京歳時記(歴史文化ライブラリー)…… 35
江戸と上方(歴史文化ライブラリー)…… 35
江戸内湾塩業史の研究 …… 198
江戸に向かう公家たち(歴史文化ライブラリー)…… 78
江戸の祈り …… 200
江戸の親子(読みなおす日本史)〔太田素子著〕…(17.8)品切
江戸の海外情報ネットワーク(歴史文化ライブラリー)… 44
江戸の怪談事情(歴史文化ライブラリー)…… 83
江戸の開帳(江戸選書)〔比留間 尚著〕……(80.10)品切
江戸の開府と土木技術 …… 200
江戸のキャリアウーマン(歴史文化ライブラリー)…… 77
江戸の禁書(歴史文化セレクション)…… 157
江戸の暮らしの考古学(事典)〔古泉 弘編〕……(13.12)品切
江戸の芸能と文化
〔西山松之助先生古稀記念会編〕……(85.3)品切
江戸の刑罰(読みなおす日本史)〔石井良助著〕…(13.3)品切
江戸の高利貸(歴史文化セレクション)…… 157
江戸の米屋(江戸選書)〔土肥鑑高著〕……(81.12)品切
江戸の寺社めぐり(歴史文化ライブラリー)…… 54
江戸の出版統制(歴史文化ライブラリー)…… 66
江戸の上水道と下水道 …… 200
江戸の職人(歴史文化ライブラリー)…… 24
江戸の食文化 …… 200
江戸の捨て子たち(歴史文化ライブラリー)…… 48
江戸の生活文化(西山松之助著作集)…… 213
江戸の政権交代と武家屋敷(歴史文化ライブラリー)… 56
江戸の蔵書家たち(読みなおす日本史)
〔岡村敬二著〕……(17.4)品切
江戸の大名屋敷 …… 252
江戸の旅人たち(歴史文化ライブラリー)…… 25
江戸の地図屋さん(歴史文化ライブラリー)…… 40
江戸の乳と子ども(歴史文化ライブラリー)
〔沢山美果子著〕……(17.1)品切
江戸の都市と文化(史跡で読む日本の歴史)…… 23
江戸のパスポート(歴史文化ライブラリー)…… 64
江戸の流行り病(歴史文化ライブラリー)…… 56
〈江戸〉の人と身分 全6巻 …… 128
江戸の漂泊聖たち …… 105
江戸の風刺画(歴史文化ライブラリー)…… 26
江戸の武家名鑑(歴史文化ライブラリー)…… 48
江戸の札差(江戸選書)〔北原 進著〕……(85.8)品切
江戸の文人サロン(歴史文化ライブラリー)…… 50
江戸の町奉行(歴史文化ライブラリー)…… 43
江戸の町役人(歴史文化セレクション)
〔吉原健一郎著〕……(07.2)品切
江戸の民衆と社会
〔西山松之助先生古稀記念会編〕……(85.3)品切
江戸の名所と都市文化 …… 200
江戸の夢の島(江戸選書)〔伊藤好一著〕……(82.9)品切
江戸幕府大目付の研究 …… 250
江戸幕府勘定所史料 …… 217
江戸幕府財政史料集成 上・下 …… 272
江戸幕府財政史論 …… 196
江戸幕府財政の研究 …… 173
江戸幕府代官史料 …… 217
江戸幕府大事典 …… 162
江戸幕府直轄軍団の形成 …… 196
江戸幕府と情報管理(読みなおす日本史)…… 149
江戸幕府と東アジア(日本の時代史)…… 14
江戸幕府の日記と儀礼史料 …… 196
江戸幕府の日本地図(歴史文化ライブラリー)
〔川村博忠著〕……(10.1)品切
江戸幕府放鷹制度の研究 …… 248
近世農政史料集 全3巻 …… 217
江戸幕府輸出海産物の研究〔小川国治著〕……(73.1)品切
江戸八百八町に骨が舞う(歴史文化ライブラリー)
〔谷畑美帆著〕……(06.6)品切
江戸武士の日常生活(読みなおす日本史)…… 149
江戸文化の考古学 …… 199
江戸文化をよむ〔倉地克直著〕……(06.6)品切
江戸無血開城(歴史文化ライブラリー)…… 68
江戸無血開城の史料学 …… 256
江戸名所図会の世界〔千葉正樹著〕……(00.3)品切
エトロフ島(歴史文化ライブラリー)…… 31
江戸の穀倉地帯(歴史文化ライブラリー)…… 83
絵巻に中世を読む〔藤原良章・五味文彦編〕… (95.12)品切
絵巻の歴史(日本歴史叢書)〔武者小路 穣著〕…(90.3)品切
エミシ・エゾからアイヌへ(歴史文化ライブラリー)…… 50
蝦夷と城柵の時代(東北の古代史)…… 111
蝦夷と東北戦争(戦争の日本史)…… 16
蝦夷とは誰のことか(歴史文化ライブラリー)…… 83
蝦夷の古代史(読みなおす日本史)…… 144
エリート軍人たちの戦後史(歴史文化ライブラリー)…… 83
役行者と修験道の歴史(歴史文化ライブラリー)…… 33
延喜交替式(新訂増補 国史大系)…… 178
延喜式(新訂増補 国史大系)…… 178
延喜式(日本歴史叢書)…… 103
延喜式(新訂増補 国史大系〔普及版〕)
〔黒板勝美編輯〕……(72.4)品切
延喜天暦時代の研究〔古代学協会編〕……(69.4)品切
演習 古文書選 全8冊 …… 276
演説のすすめ(歴史文化ライブラリー)…… 83
円珍(人物叢書)…… 86
円仁(人物叢書)…… 85
延暦交替式(新訂増補 国史大系)…… 178

オ

お家相続(読みなおす日本史)…… 150
奥羽から中世をみる …… 245
奥羽仕置と豊臣政権 …… 194
奥羽仕置の構造 …… 194
奥羽武士団 …… 121
O脚だったかもしれない縄文人(歴史文化ライブラリー) 52
王宮炎上(歴史文化ライブラリー)…… 32
王権神話の二元構造 …… 186
王権と信仰の古代史〔あたらしい古代史の会編〕(05.10)品切
王権と都市の形成史論(弥生時代政治史研究)
〔寺沢 薫著〕……(11.9)品切
王権と日和見(宮田登 日本を語る)〔宮田 登著〕(06.11)品切
黄金の島 ジパング伝説(歴史文化ライブラリー)…… 45
「王賜」銘鉄剣概報〔滝口 宏監修〕……(88.10)品切
奥州合戦(現代語訳 吾妻鏡)…… 12
奥州藤原氏(歴史文化ライブラリー)…… 83
奥州藤原氏(歴史文化セレクション)〔高橋富雄著〕(09.8)品切
奥州藤原氏と平泉(人をあるく)〔岡本公樹著〕…(14.4)品切

奥州藤原氏と柳之御所跡〔平泉文化研究会編〕 (92.4)品切
奥州藤原氏の時代 …… 180
奥州 藤原氏四代(人物叢書) …… 87
奥州藤原史料(東北史史料集) …… 215
王朝貴族と外交(歴史文化ライブラリー) …… 77
王朝貴族の病状診断 (新装版) …… 116
王朝国家(研究史)〔森田 悌著〕 ……(80.11)品切
王朝国家国政史の研究〔坂本賞三編〕 …… (87.3)品切
王朝国家政務の研究〔曽我良成著〕 …… (12.7)品切
王朝政治と在地社会 …… 232
王朝のみやび(歴史文化セレクション)
〔目崎徳衛著〕 …… (07.1)品切
汪 兆銘(人物叢書) …… 102
王朝歴史物語の世界〔山中 裕編〕 …… (91.6)品切
「王」と呼ばれた皇族 …… 122
応仁・文明の乱(戦争の日本史) …… 17
応仁・文明の乱と明応の政変(列島の戦国史) …… 125
近江(古代を考える)〔水野正好編〕 …… (92.5)品切
近江商人と出世払い(歴史文化ライブラリー) …… 74
近江・若狭と湖の道(街道の日本史)
〔藤井譲治編〕 …… (03.1)品切
大井憲太郎(人物叢書) …… 98
大分県の考古学(郷土考古学叢書)〔賀川光夫著〕 (71.6)品切
大内氏の興亡と西日本社会(列島の戦国史) …… 125
大内義隆(人物叢書) …… 90
大江戸飼い鳥草紙(歴史文化ライブラリー) …… 44
大江戸の成立(江戸選書)〔芳賀 登著〕 …… (80.8)品切
大江戸八百八町と町名主(歴史文化ライブラリー) …… 51
大江広元(人物叢書) …… 88
大江匡衡(人物叢書) …… 86
大江匡房(人物叢書) …… 87
大岡忠相(人物叢書) …… 93
大奥を創った女たち(歴史文化ライブラリー) …… 75
大鏡(新訂増補 国史大系) …… 177
大川周明(人物叢書) …… 102
正親町天皇(人物叢書) …… 101
大久保利通(幕末維新の個性) …… 129
大久保利通関係文書 全5冊
〔立教大学日本史研究会編〕 …… (65.2)品切
大久保利通と東アジア(歴史文化ライブラリー) …… 63
大久保利通と明治維新(歴史文化ライブラリー) …… 28
大久保利謙歴史著作集 全8巻…… 213
大隈重信(人物叢書) …… 98
大蔵永常(人物叢書) …… 102
大坂(街道の日本史)〔今井修平・村田路人編〕 … (06.7)品切
大坂菊屋町宗旨人別帳 全7巻
〔阪本平一郎・宮本又次編〕 …… (71.2)品切
大坂の陣と豊臣秀頼(敗者の日本史) …… 20
三井文庫史料叢書 大坂両替店「聞書」 全7巻 …… 273
大塩平八郎(人物叢書) …… 102
大地震(読みなおす日本史) …… 154
大鈴木家文書(旧信濃国善光寺平豪農)
〔森 安彦編〕 ……(82.11)品切
大相撲行司の世界(歴史文化ライブラリー) …… 55
太田晶二郎著作集 全5巻…… (91.8)品切
太田道灌(人物叢書) …… 101
大田南畝(人物叢書) …… 94
大槻玄沢(人物叢書) …… 102
大友皇子(人物叢書) …… 101
大友宗麟(人物叢書) …… 90
大伴旅人(人物叢書) …… 84
大原幽学(人物叢書) …… 95
大間成文抄 全2巻 …… 213
大神神社史料 全12冊 …… 274
大村純忠(読みなおす日本史) …… 148
大湯町環状列石(埋蔵文化財発掘調査報告)
〔文化財保護委員会編〕 …… (53.9)品切
岡倉天心(人物叢書) …… 98
岡倉天心〔堀岡弥寿子著〕 …… (74.9)品切
岡倉天心考〔堀岡弥寿子著〕 …… (82.2)品切
岡倉天心 思想と行動
〔岡倉登志・岡本佳子・宮瀧交二著〕 …… (13.7)品切
小笠原長生と天皇制軍国思想 …… 260
岡田啓介(人物叢書) …… 102
緒方洪庵(人物叢書) …… 96
緒方竹虎(人物叢書) …… 99
緒方竹虎〔栗田直樹著〕 …… (96.8)品切
岡山県の考古学(郷土考古学叢書)〔近藤義郎編〕 (87.8)品切
岡山藩(日本歴史叢書)〔谷口澄夫著〕 …… (95.4)品切
沖縄からアジアが見える(読みなおす日本史) …… 154
沖縄からの本土爆撃(歴史文化ライブラリー) …… 67
〈沖縄〉基地問題を知る事典 …… 167
沖縄 空白の一年 …… 137
沖縄戦 強制された「集団自決」(歴史文化ライブラリー) 50
沖縄戦と孤児院 …… 137
沖縄戦の子どもたち(歴史文化ライブラリー) …… 73
沖縄 占領下を生き抜く(歴史文化ライブラリー) …… 57
沖縄戦を知る事典 …… 166
沖縄の戦争遺跡 …… 140
沖縄のノロの研究 …… 221
沖縄の名城を歩く …… 140
沖縄の歴史と文化〔金関 恕・高宮廣衛編〕 …… (94.12)品切
沖縄米軍基地全史(歴史文化ライブラリー) …… 71
沖縄返還後の日米安保 …… 137
沖縄返還と通貨パニック〔川平成雄著〕 …… (15.2)品切
沖縄民俗辞典
〔渡邊欣雄・岡野宣勝・佐藤壮広・塩月亮子・宮下克也編〕
(08.7)品切
沖ノ島・続沖ノ島(全2冊)
〔宗像神社復興期成会編〕 …… (86.5)品切
沖ノ島と古代祭祀(古代を考える)〔小田富士雄編〕(88.8)品切
荻生徂徠(人物叢書) …… 102
お米と食の近代史(歴史文化ライブラリー) …… 45
尾崎秀実とゾルゲ事件 …… 133
尾崎行雄(人物叢書) …… 99
オスマン＝トルコ史論(ユーラシア文化史選書)
〔三橋冨治男著〕 …… (66.12)品切
お葬式 …… 105
織田政権の研究(戦国大名論集)〔藤木久志編〕…(85.11)品切
織田政権の登場と戦国社会(列島の戦国史) …… 125
織田信長(人物叢書) …… 90
織田信長家臣人名辞典
〔高木昭作監修／谷口克広著〕 …… (95.1)品切
織田信長家臣人名辞典 第2版 …… 162
織田信長権力論 …… 245
織田信長と戦国の村(歴史文化ライブラリー)
〔深谷幸治著〕 ……(17.12)品切
織田信長文書の研究(増訂) 全3巻 …… 193
小田原合戦と北条氏(敗者の日本史) …… 20
小田原北条氏と越後上杉氏(対決の東国史) ……5
男と女の民俗誌(日本の民俗)
〔八木 透・山崎祐子・服部 誠著〕 …… (08.9)品切
処女墓伝説歌考(古代史研究選書)〔関口裕子著〕 (96.5)品切
踊りの宇宙(歴史文化ライブラリー)〔三隅治雄著〕 (02.7)品切
鬼の復権(歴史文化ライブラリー) …… 40
小野 梓(人物叢書) …… 102
小野 篁(人物叢書) …… 101
小野道風(人物叢書) …… 86

おみくじの歴史(歴史文化ライブラリー) …… 79
雄物川と羽州街道(街道の日本史)〔國安 寛編〕… (01.3)品切
オランダ商館長の見た日本〔横山伊徳編〕 …… (05.2)品切
阿蘭陀通詞の研究 …… 198
和蘭風説書集成 全2冊 …… 215
オランダ別段風説書集成 …… 272
温泉旅行の近現代(歴史文化ライブラリー) …… 79
女と男の大奥(歴史文化ライブラリー) …… 73
女の老いと男の老い〔ひろたまさき著〕 …… (05.7)品切
女の民俗学(宮田登 日本を語る) …… 289
陰陽師と貴族社会 …… 232
陰陽師の平安時代(歴史文化ライブラリー) …… 81

カ

海外観光旅行の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 37
海外戦没者の戦後史(歴史文化ライブラリー) …… 60
絵画・木札・石造物に中世を読む〔水藤 眞著〕 … (94.8)品切
「改革」政治の混迷(現代日本政治史)
〔佐道明広著〕 …… (12.6)品切
海軍将校たちの太平洋戦争(歴史文化ライブラリー) … 60
外交交渉回想 …… 137
開国(幕末維新論集)〔井上勝生編〕 …… (01.7)品切
開国前夜の世界(日本近世の歴史) …… 126
開国と近代化〔中村 賢編〕 …… (97.8)品切
開国と条約締結(日本歴史叢書) …… 199
開国と治外法権 …… 174
開国と幕末の動乱(日本の時代史) …… 15
蚕にみる明治維新 …… 132
会社の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 24
解説・解題等(1・2)(太田晶二郎著作集) …… (92.8)品切
概説 古文書学 近世編〔日本歴史学会編〕…… (89.6)品切
概説 古文書学 古代・中世編 …… 276
概説 西洋歴史 上・下〔亀井高孝・林健太郎著〕… (52.1)品切
概説 東洋歴史〔鈴木俊著〕…… (50.6)品切
概説 日本美術史〔町田甲一著〕 …… (65.5)品切
概説 文語文法〔亀井 孝著〕 …… (55.3)品切
海賊たちの中世(歴史文化ライブラリー) …… 29
海底に眠る蒙古襲来(歴史文化ライブラリー) …… 68
街道の日本史 全56巻 …… 23
甲斐と甲州道中(街道の日本史)〔飯田文弥編〕 (00.12)品切
貝原益軒(人物叢書) …… 93
戒名のはなし(歴史文化ライブラリー) …… 45
外来植物が変えた江戸時代(歴史文化ライブラリー) … 73
概論 日本歴史 …… 106
臥雲辰致(人物叢書) …… 97
花押・印章図典 …… 161
花押かがみ …… 277
顔の考古学(歴史文化ライブラリー) …… 72
加賀・越前と美濃街道(街道の日本史)
〔隼田嘉彦・松浦義則編〕…… (04.5)品切
加賀藩農政史の研究 上・下巻〔若林喜三郎著〕… (70.3)品切
加賀藩の社会と政治 …… 250
鏡と古代王権(歴史文化ライブラリー) …… 83
鏡の古墳時代(歴史文化ライブラリー) …… 75
香川景樹(人物叢書) …… 95
柿本人麻呂(人物叢書) …… 84
家業と役割(日本家族史論集)〔永原和子編〕…… (03.3)品切
核軍縮の現代史 …… 137
覚醒する〈関東〉(古代の東国) …… 111
覚醒する地域意識(〈江戸〉の人と身分) …… 129
学説批判 明治維新論〔石井孝著〕 …… (61.1)品切
学徒出陣(検証) …… 81
学徒出陣(歴史文化ライブラリー) …… 28
覚如(人物叢書) …… 89
覚鑁の研究 …… 207
学問の家 大槻家の人びと …… 134
カクレキリシタンの実像 …… 106
隠れた名君 前田利常(歴史文化ライブラリー) …… 74
駆込寺と村社会〔佐藤孝之著〕 …… (06.5)品切
鹿児島の湊と薩南諸島(街道の日本史)
〔松下志朗・下野敏見編〕……(02.11)品切
河西の歴史地理学的研究〔前田正名著〕 …… (64.6)品切
花山天皇(人物叢書) …… 101
華士族秩禄処分の研究 (新訂)〔深谷博治著〕… (73.3)品切
菓子と果物(日本の食文化) …… 288
橿原考古学研究所論集(第4～第13)
〔橿原考古学研究所編〕 …… (79.9)品切
橿原考古学研究所論集(創立35周年記念)
〔橿原考古学研究所編〕 …… (75.12)品切
華胥国物語(懐徳堂文庫復刻叢書)
〔大阪大懐徳堂文庫復刻刊行会監修〕 …… (90.3)品切
春日大社文書 全6巻〔永島福太郎校訂〕 …… (81.4)品切
春日局(読みなおす日本史)…… 149
和宮(人物叢書) …… 96
風と環境の民俗(日本歴史民俗叢書)
〔中山正典著〕 …… (09.8)品切
家相の民俗学(日本歴史民俗叢書) …… 287
数え方の日本史(歴史文化ライブラリー) …… 44
華族会館誌 上・下
〔霞会館諸家資料調査委員会編〕 …… (86.4)品切
華族画報 (全2冊セット) …… 258
家族観の変遷(日本家族史論集)〔片倉比佐子編〕(02.10)品切
家族思想と家族法の歴史 …… 206
家族史の展望(日本家族史論集)〔大日方純夫編〕 (02.6)品切
家族史の方法(日本家族史論集)
〔佐々木潤之介編〕 …… (02.5)品切
華族社会の「家」戦略 …… 205
〈華族爵位〉請願人名辞典 …… 163
華族制度資料集〔霞会館諸家資料調査委員会編〕(85.8)品切
華族制の創出(大久保利謙歴史著作集) …… 213
家族と国家(日本家族史論集)〔佐々木潤之介編〕 (02.7)品切
家族と社会(日本家族史論集)〔坂田 聡著〕 …… (02.8)品切
家族と住居・地域(日本家族史論集)〔坂田 聡編〕 (03.4)品切
家族と女性の歴史〈古代・中世〉
〔前近代女性史研究会編〕 …… (89.8)品切
家族の古代史(歴史文化ライブラリー) …… 45
家族の諸相(日本家族史論集)〔永原 和子編〕 … (02.9)品切
華族令嬢たちの大正・昭和 …… 134
片桐且元(人物叢書) …… 91
片隅の中世 播磨国鵤荘の日々〔水藤 真著〕 …… (00.5)品切
刀の明治維新(歴史文化ライブラリー) …… 68
荷田春満(人物叢書) …… 102
語りかける文化遺産(歴史文化ライブラリー) …… 27
カツオの古代学 …… 237
勝 海舟(人物叢書)…… 97
勝海舟と江戸東京(人をあるく)〔樋口雄彦著〕 … (14.1)品切
葛飾北斎(歴史文化ライブラリー) …… 33
甲冑写生図集(中村春泥遺稿)
〔中村春泥遺稿・鈴木敬三解説〕 …… (79.6)品切
葛川明王院史料 …… 214
桂 太郎(人物叢書)…… 98
桂別業図〔宮内庁書陵部編〕 …… (83.3)品切
家庭料理の近代(歴史文化ライブラリー) …… 58
加藤清正(人物叢書) …… 102
加藤清正(歴史文化ライブラリー) …… 46
加藤高明(人物叢書) …… 102
加藤友三郎(人物叢書) …… 98

加藤弘之(人物叢書) …… 98
神奈川県夏島における縄文文化初頭の貝塚
〔杉原荘介・芹沢長介著〕…… (57.12)品切
金沢文庫の教育史的研究〔結城陸郎著〕 …… (62.4)品切
仮名手本忠臣蔵を読む(歴史と古典)
〔服部幸雄編〕…… (08.8)品切
金沢貞顕(人物叢書) …… 88
金沢北条氏と称名寺 …… 191
狩野探幽(人物叢書) …… 102
狩野派絵画史 …… 291
狩野派障屏画の研究 …… 292
狩野文庫本 類聚三代格〔関 晃監修〕……(89.11)品切
カバネの成立と天皇(古代史研究選書)
〔山尾幸久著〕…… (98.5)品切
歌舞伎から江戸を読み直す〔田口章子著〕…… (11.6)品切
歌舞伎と人形浄瑠璃(歴史文化ライブラリー) …… 40
歌舞伎の原郷 …… 202
歌舞伎の源流(歴史文化ライブラリー) …… 33
画譜 憲政五十年史 …… 258
火砲の起原とその伝流 …… 193
釜石市史(史料編第１集～４集・年表)
〔釜石市史編纂委員会編〕 …… (65.12)品切
釜石市誌通史〔釜石市史編纂委員会編〕 …… (77.3)品切
鎌倉遺文研究 …… 299
鎌倉期官人陰陽師の研究 …… 187
鎌倉公方と関東管領(対決の東国史) …… 5
鎌倉源氏三代記(歴史文化ライブラリー) …… 52
鎌倉古社寺辞典 …… 165
鎌倉 古寺を歩く(歴史文化ライブラリー) …… 43
鎌倉市史 全７冊〔鎌倉市市史編さん委員会編〕 (86.3)品切
鎌倉時代(歴史文化セレクション)
〔上横手雅敬著〕…… (06.12)品切
鎌倉時代医学史の研究(日本医学史の研究)…… 213
鎌倉時代畿内土地所有の研究〔鈴木鋭彦著〕 (78.10)品切
鎌倉時代政治史研究〔上横手雅敬著〕 …… (91.6)品切
鎌倉時代造像論 …… 292
鎌倉時代の交通(日本歴史叢書)〔新城常三著〕 (67.12)品切
鎌倉時代仏師列伝 …… 292
鎌倉時代文化伝播の研究〔大隅和雄編〕 …… (93.6)品切
鎌倉時代論 …… 120
別巻 鎌倉時代を探る(現代語訳 吾妻鏡) …… 13
鎌倉将軍・執権・連署列伝 …… 120
鎌倉浄土教の先駆者 法然(歴史文化ライブラリー)…… 70
鎌倉新仏教成立論〔大野達之助著〕 …… (82.10)品切
鎌倉新仏教の研究〔今井雅晴著〕 ……(91.12)品切
鎌倉政権得宗専制論 …… 187
鎌倉大仏の謎(歴史文化ライブラリー) …… 52
鎌倉の世界(史跡で読む日本の歴史) …… 22
鎌倉幕府軍制と御家人制 …… 242
鎌倉幕府御家人制度の研究 …… 187
鎌倉幕府御家人制の展開 …… 187
鎌倉幕府裁許状集(増訂) 全２巻 …… 187
鎌倉幕府守護職成立史の研究(日本史学研究叢書)…… 242
鎌倉幕府体制成立史の研究 …… 187
鎌倉幕府と鎮西 …… 187
鎌倉幕府と東北(東北の中世史) …… 118
鎌倉幕府の検断と国制〔西田友広著〕 …… (11.8)品切
鎌倉幕府の転換点(読みなおす日本史)…… 145
鎌倉幕府の滅亡(歴史文化ライブラリー) …… 54
鎌倉幕府はなぜ滅びたのか(歴史文化ライブラリー) … 75
鎌倉幕府滅亡と北条氏一族(敗者の日本史)…… 19
鎌倉幕府文書行政論 …… 242
鎌倉府体制と東国 …… 189
鎌倉仏教の思想と文化〔中尾 堯編〕 …… (02.12)品切
鎌倉仏教の様相〔高木 豊・小松邦彰編〕 …… (99.3)品切
鎌倉府と室町幕府(動乱の東国史) …… 119
鎌倉北條氏の基礎的研究(戊午叢書) …… 187
鎌倉北条氏の興亡(歴史文化ライブラリー) …… 39
鎌倉・横浜と東海道(街道の日本史)
〔神崎彰利・福島金治編〕…… (02.12)品切
神風の武士像(歴史文化ライブラリー) …… 35
神々と肉食の古代史 …… 113
神々と人間のエジプト神話(歴史文化ライブラリー)…… 72
神々の系譜(読みなおす日本史)…… 142
神々の原像(歴史文化ライブラリー) …… 33
紙芝居(歴史文化ライブラリー) …… 34
神と王権のコスモロジー〔山折哲雄著〕 …… (93.2)品切
神と獣の紋様学〔林 巳奈夫著〕 …… (04.7)品切
神と死者の考古学(歴史文化ライブラリー) …… 63
神と仏と日本人(歴史文化セレクション)
〔佐々木宏幹著〕……(10.11)品切
カミとホトケのあいだ(宮田登 日本を語る)
〔宮田 登著〕…… (06.7)品切
神と仏の古代史〔上田正昭著〕 ……(09.11)品切
神と仏の民俗(日本歴史民俗叢書)〔鈴木正崇著〕 (01.2)品切
神になった武士(歴史文化ライブラリー) …… 75
神や仏に出会う時(歴史文化ライブラリー) …… 59
上淀廃寺と彩色壁画概報〔淀江町教育委員会編〕(92.9)品切
亀井孝論文集 全６巻〔亀井 孝著〕 …… (71.6)品切
蒲生氏郷(読みなおす日本史) …… 148
賀茂真淵(人物叢書) …… 93
加耶諸国と任那日本府〔李 永植著〕 …… (93.4)品切
ガラスの来た道(歴史文化ライブラリー) …… 77
樺太アイヌ(歴史文化ライブラリー) …… 83
狩谷棭斎(人物叢書) …… 94
家老の忠義(歴史文化ライブラリー) …… 72
河上 肇(人物叢書) …… 99
川路聖謨(人物叢書) …… 96
河竹黙阿弥(人物叢書) …… 96
河内飛鳥(古代を考える)
〔門脇禎二・水野正好編〕…… (89.10)品切
河内飛鳥と終末期古墳〔羽曳野市教育委員会編〕(98.12)品切
河内古市古墳群峯ヶ塚古墳概報
〔羽曳野市教育委員会編〕 …… (93.7)品切
河内木綿史〔武部善人著〕 …… (81.5)品切
川中島の戦い(検証) …… 79
川は誰のものか(歴史文化ライブラリー)
〔菅 豊著〕…… (06.1)品切
河村瑞賢(人物叢書) …… 93
瓦が語る日本史 …… 125
冠位制の成立と官人組織(古代史研究選書)
〔若月義小著〕…… (98.9)品切
寛永時代(日本歴史叢書)〔山本博文著〕…… (96.5)品切
寛永文化の研究 …… 173
翰苑翰〔竹内理三校訂・解説〕…… (77.4)品切
観桜会・観菊会全史(事典)…… 258
考える江戸の人々 …… 127
官衙と寺院(日本考古学論集)〔斎藤 忠編集〕 … (87.2)品切
環境史研究の課題(歴史研究の最前線)
〔安室 知編〕…… (04.3)品切
環境先進国・江戸(読みなおす日本史)…… 149
環境の日本史 全５巻 …… 21
元興寺の歴史 …… 207
元興寺編年史料(増補) 全３巻 …… 214
環濠集落吉野ケ里遺跡概報
〔佐賀県教育委員会編〕 …… (90.2)品切
韓国絵画史〔安 輝 濬著〕 …… (87.3)品切
韓国古代の歴史〔洪 淳 昶著〕 …… (92.4)品切

韓国古代木簡の研究 …… 295
韓国金銅仏研究〔松原三郎著〕 …… (85.6)品切
看護婦の歴史 …… 135
漢字の社会史(読みなおす日本史)…… 152
鑑真(人物叢書) …… 85
鑑真と唐招提寺の研究 …… 267
勧進と破戒の中世史 …… 210
寛政改革の研究 …… 250
寛政期水戸学の研究 …… 174
観世音寺 (全5冊セット) …… 279
完全踏査 古代の道(新装版)…… 115
完全踏査 続古代の道(新装版)…… 115
関東公方足利氏四代 …… 122
関東大震災 鉄道被害写真集…… 259
関東大震災と戒厳令(歴史文化ライブラリー) …… 39
関東大震災を歩く〔武村雅之著〕 …… (12.3)品切
関東の醤油と織物 …… 254
関東の名城を歩く 全2冊 …… 139
観音・地蔵・不動(読みなおす日本史)…… 153
観音浄土に船出した人びと(歴史文化ライブラリー) … 48
関白秀吉の九州一統 …… 123
「頑張り」の構造〔天沼 香著〕 …… (87.6)品切
漢方(読みなおす日本史)〔石原 明著〕 …… (14.4)品切
漢民族華南発展史研究〔河原正博著〕 …… (84.7)品切
桓武天皇(人物叢書) …… 85
桓武天皇と平安京(人をあるく) …… 10
看聞日記巻五紙背文書〔宮内庁書陵部編〕 …… (87.3)品切
官僚制の思想史 …… 134

キ

紀伊国阿氏河荘史料 全2冊(荘園史料叢書)
〔仲村 研編〕 …… (78.1)品切
記憶すること・記録すること(歴史文化ライブラリー) … 38
記憶の図像学 …… 290
祇園祭(歴史文化ライブラリー) …… 53
帰化人と古代国家(歴史文化セレクション)
〔平野邦雄著〕 …… (07.4)品切
帰化人と古代国家 (新装版) …… 113
飢餓と戦争の戦国を行く(読みなおす日本史) …… 147
記紀神話伝承の研究 …… 171
記紀神話の成立(古代史研究選書)〔三宅和朗著〕(84.3)品切
記紀神話のメタヒストリー〔磯前順一著〕 …… (98.8)品切
記紀と古代伝承〔伊野部重一郎著〕 …… (86.12)品切
危機の都市史 …… 265
飢饉と新制(現代語訳 吾妻鏡) …… 13
菊池氏三代(人物叢書) …… 88
季瓊真蘂(人物叢書) …… 101
気候地名をさぐる(読みなおす日本史) …… 154
気候適応の日本史(歴史文化ライブラリー) …… 75
岸信介と六〇年安保(歴史文化ライブラリー) …… 83
紀州藩主 徳川吉宗(歴史文化ライブラリー)
〔藤本清二郎著〕 …… (16.12)品切
紀州藩農村法の研究〔平山行三著〕 …… (72.1)品切
魏志倭人伝と東アジア考古学 …… 281
魏志倭人伝の世界〔三木太郎著〕 …… (79.10)品切
魏志倭人伝を読む 上・下(歴史文化ライブラリー) …… 34
魏晋南朝の政治と社会〔越智重明著〕 …… (63.5)品切
亀泉集証(人物叢書) …… 89
貴族社会と古典文化 …… 185
木曽義仲(読みなおす日本史) …… 145
北秋田と羽州街道(街道の日本史)
〔佐々木潤之介・佐藤 守・板橋範芳編〕 …… (00.12)品切
北茨城・磐城と相馬街道(街道の日本史)
〔誉田 宏・吉村仁作編〕 …… (03.11)品切
北・九州〔箭内健次編〕 …… (68.11)品切
北小浦の民俗 …… 286
北千島アイヌ語〔村山七郎著〕 …… (71.3)品切
北日本中世史の研究〔羽下徳彦編〕 …… (90.2)品切
北日本中世社会史論 …… 172
北日本の考古学〔日本考古学協会編〕 …… (94.3)品切
北の軍隊と軍都(地域のなかの軍隊)…… 135
北の原始時代(東北の古代史) …… 111
北野天神縁起を読む(歴史と古典)〔竹居明男編〕(08.11)品切
北政所と淀殿(歴史文化ライブラリー) …… 50
基地と聖地の沖縄史 …… 137
貴重典籍・聖教の研究 …… 170
牛車で行こう! …… 116
吉兆 湯木貞一(歴史文化ライブラリー)…… 53
義堂周信(人物叢書) …… 101
木戸孝允(人物叢書) …… 102
畿内河川交通史研究〔日野照正著〕 …… (86.10)品切
畿内庄園の基礎構造(増訂) 上・下〔渡辺澄夫著〕(69.10)品切
畿内・近国の戦国合戦(戦争の日本史) …… 17
畿内と東海道(新修 国分寺の研究)〔角田文衛編〕(91.11)品切
沖縄基地経済史(歴史文化ライブラリー) …… 83
絹と木綿の江戸時代(事典)〔山脇悌二郎著〕…… (02.6)品切
紀家集〔宮内庁書陵部編〕 …… (78.4)品切
木内石亭(人物叢書) …… 94
紀 貫之(人物叢書)…… 86
吉備(古代を考える)
〔門脇禎二・狩野 久・葛原克人編〕 …… (05.3)品切
吉備と山陽道(街道の日本史)
〔土井作治・定兼 学編〕 …… (04.10)品切
吉備真備(人物叢書) …… 85
騎兵と歩兵の中世史(歴史文化ライブラリー) …… 42
機密費の近代史(歴史文化ライブラリー) …… 83
着物になった(戦争)(歴史文化ライブラリー) …… 79
客分と国民のあいだ(ニューヒストリー近代日本)…… 136
Q&Aで読む縄文時代入門 …… 112
Q&Aで読む日本外交入門 …… 132
Q&Aで読む日本軍事入門 …… 137
Q&Aで読む弥生時代入門 …… 113
旧信濃国善光寺平豪農 大鈴木家文書
〔森安彦編〕 …… (82.11)品切
九州考古学論攷〔鏡山猛著〕 …… (72.8)品切
九州戦国城郭史(歴史文化ライブラリー) …… 74
九州大名の研究(戦国大名論集)〔木村忠夫編〕 (83.12)品切
九州地方中世編年文書目録(鎌倉時代篇)
〔瀬野精一郎編〕 …… (74.10)品切
九州地方中世編年文書目録(南北朝時代)
〔瀬野精一郎編〕 …… (74.10)品切
九州中世史の研究〔川添昭二著〕 …… (83.3)品切
九州天領の研究〔杉本勲編〕 …… (76.3)品切
九州と日本社会の形成〔横山浩一・藤野 保編〕… (87.1)品切
九州の名城を歩く 熊本・大分編…… 140
九州の名城を歩く 佐賀・長崎編…… 140
九州の名城を歩く 全4冊 …… 140
九州の名城を歩く 宮崎・鹿児島編 …… 140
宮中のシェフ、鶴をさばく(歴史文化ライブラリー) …… 57
宮都と木簡(歴史文化セレクション)〔岸 俊男著〕 (11.2)品切
宮都発掘(古代を考える)〔坪井清足編〕…… (87.10)品切
旧幕臣の明治維新(歴史文化ライブラリー) …… 43
教育と思想(日本女性史論集)
〔総合女性史研究会編〕 …… (98.5)品切
教育と扶養(日本家族史論集)〔片倉比佐子編〕… (03.2)品切
境界争いと戦国諜報戦(読みなおす日本史) …… 147
経覚(人物叢書) …… 89

京狩野三代 生き残りの物語 …… 291
京・鎌倉の王権(日本の時代史) …… 14
行基(人物叢書) …… 84
行基・鑑真(日本名僧論集)
〔平岡定海・中井真孝編〕…… (83.3)品切
行基と律令国家(古代史研究選書)〔吉田靖雄著〕(87.1)品切
京極為兼(人物叢書) …… 88
強制された健康(歴史文化ライブラリー) …… 33
きょうだいの日本史…… 106
享徳の乱と太田道灌(敗者の日本史)…… 19
享徳の乱と戦国時代(列島の戦国史)…… 125
京都古社寺辞典 …… 165
京都史蹟の研究〔西田直二郎著〕 ……(61.12)品切
京都と京街道(街道の日本史)〔水本邦彦編〕… (02.10)品切
京都都市史の研究〔山田邦和著〕 …… (09.6)品切
京都に残った公家たち(歴史文化ライブラリー) …… 60
京都の寺社と室町幕府〔細川武稔著〕 …… (10.3)品切
京都の中世史 全7巻…… 5
京のオランダ人(歴史文化ライブラリー) …… 28
享保改革と社会変容(日本の時代史)…… 15
享保改革の商業政策〔大石慎三郎著〕 …… (98.2)品切
享保改革の地域政策〔大石 学著〕 …… (96.2)品切
玉葉索引…… 220
玉露童女追悼集 全5冊
〔玉露童女追悼集刊行会編〕 …… (88.12)品切
虚構の日本史〔昭史会編〕 …… (53.4)品切
清沢満之(人物叢書) …… 97
清洲城と名古屋城〔中村栄孝著〕 ……(71.11)品切
巨大古墳と古代国家〔丸山竜平著〕 …… (04.3)品切
清原宣賢(人物叢書) …… 101
吉良上野介(人物叢書) …… 102
ギリシア世界の黎明(ユーラシア文化史選書)
〔太田秀通著〕……(65.11)品切
キリシタン研究〔キリシタン文化研究会編〕 …… (59.4)品切
キリシタン時代対外関係の研究〔高瀬弘一郎著〕(94.10)品切
キリシタン信仰史の研究〔五野井隆史著〕…… (17.7)品切
キリシタン人物の研究〔H・チースリク著〕…… (63.12)品切
キリシタン大名(読みなおす日本史) …… 148
キリシタンの文化(日本歴史叢書) …… 104
キリシタン版天草本 平家物語〔亀井高孝編〕 (69.12)品切
キリスト教美術図典〔柳 宗玄・中森義宗編〕 …… (90.9)品切
儀礼国家の解体〔桜井好朗著〕 …… (96.6)品切
儀礼を読みとく(歴史研究の最前線)
〔松尾恒一編〕…… (06.10)品切
記録史料学と現代 …… 219
岐路に立つ日本(日本の時代史)…… 16
金印(研究史)〔大谷光男著〕 …… (74.7)品切
近畿古文化論攷〔橿原考古学研究所編〕 …… (63.2)品切
近畿大名の研究(戦国大名論集)〔村田修三編〕… (86.9)品切
近畿地方の荘園Ⅱ・Ⅲ(講座 日本荘園史)
〔網野善彦・石井進・稲垣泰彦・永原慶二編〕 … (95.3)品切
近畿の古墳と古代史(読みなおす日本史) …… 143
近畿の名城を歩く 全2冊 …… 140
近現代女性史論 …… 206
近現代日本社会の歴史 全2冊 …… 134
近現代日本人物史料情報辞典 全4巻 …… 163
近現代日本の新視点〔中村政則編〕 …… (00.12)品切
近現代日本の農村(歴史文化ライブラリー) …… 39
近現代の皇室観と消費社会 …… 265
金字宝塔曼陀羅〔宮 次男著〕…… (76.3)品切
近世医療の社会史 …… 201
近世大坂の都市社会 …… 201
近世大坂の町と人(読みなおす日本史)
〔脇田 修著〕…… (15.4)品切
近世大地主制の成立と展開〔中山 清著〕 …… (98.2)品切
近世オランダ貿易と鎖国 …… 199
近世おんな旅日記(歴史文化ライブラリー) …… 25
近世陰陽道組織の研究 …… 201
近世陰陽道の研究 …… 201
近世外交史料と国際関係 …… 251
近世海産物の生産と流通 …… 251
近世海産物貿易史の研究〔荒居英次著〕 …… (75.3)品切
近世海村の構造〔山口 徹著〕…… (98.10)品切
近世海難救助制度の研究 …… 198
近世海難史の研究 …… 253
近世駆込寺と紛争解決 …… 255
近世河川水運史の研究〔横山昭男著〕 …… (80.2)品切
近世感染症の生活史 …… 254
近世関東の土豪と地域社会 …… 249
近世起請文の研究 …… 250
近世義民年表〔保坂 智編〕…… (04.12)品切
近世九州産業史の研究〔野口喜久雄著〕 …… (87.3)品切
近世京都画壇のネットワーク …… 291
近世漁民の生業と生活〔山口 徹著〕 …… (99.2)品切
近世銀座の研究〔田谷博吉著〕 …… (63.3)品切
近世近代史論集〔九州大学国史学研究室編〕 … (90.8)品切
近世・近代の森林と地域社会 …… 253
近世・近代の水産資源と生業 …… 173
近世公家社会と学問 …… 253
近世公家社会の研究〔橋本 政宣著〕…… (02.12)品切
近世経済思想の研究〔藤田貞一郎著〕 …… (66.5)品切
近世公害史の研究〔安藤精一著〕 …… (92.2)品切
近世後期代官江川氏の研究〔仲田正之著〕 …… (05.5)品切
近世後期の世界認識と鎖国 …… 252
近世後期の対外政策と軍事・情報 …… 252
近世皇室の結婚事情(歴史文化ライブラリー) …… 83
近世郷村の研究 …… 253
近世交通運輸史の研究〔丹治健蔵著〕 …… (96.2)品切
近世交通制度の研究〔渡辺和敏著〕 …… (91.5)品切
近代交通の成立過程〈上・下・続〉〔高橋善七著〕… (70.3)品切
近世公武の奥向構造 …… 249
近世国家解体過程の研究 全2冊〔藤野 保著〕… (06.7)品切
近世国家史の研究 …… 248
近世国家と東北大名 …… 197
近世古文書用語辞典 …… 168
近世在方商業の研究〔安藤精一著〕 ……(58.11)品切
近世山村地域史の研究 …… 253
近世山村史の研究 …… 201
近世山村地域史の展開 …… 253
近世史学思想史研究〔小沢栄一著〕 ……(74.11)品切
近世地方経済史料 全10巻 …… 216
近世史から考える(日本近世史を見通す) ……3
近世史研究遺文 …… 255
近世寺社名目金の史的研究〔三浦俊明著〕…… (83.2)品切
近世実学史の研究〔杉本 勲著〕 …… (62.3)品切
近世漆器工業の研究〔半田市太郎著〕 …… (70.2)品切
近世史の群像〔北島正元著〕 …… (77.2)品切
近世社会経済史論集
〔福尾教授退官記念事業会編〕 …… (72.7)品切
近世社会と壱人両名 …… 251
近世社会と法規範 …… 199
近世社会の成立と崩壊〔大阪歴史学会編〕 … (75.12)品切
近世宗教社会論 …… 211
近世宿駅制度の研究 増訂版…… 197
近世宿駅の基礎的研究(一・二)〔丸山雍成著〕 … (75.1)品切
近世宿駅の歴史地理学的研究〔土田良一著〕 … (94.5)品切
近世出土漆器の研究〔北野信彦著〕 …… (05.9)品切
近世初期社会の基礎構造〔本多隆成著〕 …… (89.3)品切

近世初期障屏画の研究〔武田恒夫著〕 …… (83.3)品切
近世女性史(論集)〔近世女性史研究会編〕 …… (86.4)品切
近世書籍文化論 …… 174
近世庶民社会論 …… 254
近世史を学ぶための 古文書「候文」入門 …… 128
近世真宗の展開過程(日本宗教史研究叢書)
〔児玉 識著〕…… (76.10)品切
近世政治史と天皇〔藤田 覚著〕 …… (99.9)品切
近世瀬戸内の環境史 …… 251
近世前期朝幕関係の研究 …… 196
近世村落形成の基礎構造〔安澤秀一著〕 …… (72.2)品切
近世村落構造の研究〔平沢清人著〕 …… (65.4)品切
近世村落と現代民俗(日本歴史民俗叢書) …… 176
近世村落の経済構造 …… 253
近世村落の領域と身分 …… 251
近世対外関係史の研究〔中田易直著〕 …… (84.2)品切
近世対外交渉史論 …… 173
近世大名家臣団と領主制 …… 196
近世大名金融史の研究 …… 197
近世大名の家存続の願い(歴史文化ライブラリー) …… 83
近世大名の権力編成と家意識 …… 173
近世地域史フォーラム近世地域史フォーラム 全3巻
〔藪田 貫・奥村 弘編〕 …… (06.12)品切
近世地方寺院経営史の研究 …… 255
近世朝廷社会と地下官人 …… 201
近世朝廷の権威と寺社・民衆 …… 248
近世町人思想史研究〔布川清司著〕 ……(83.11)品切
近世的世界の成熟(日本の対外関係) …… 22
近世天文塾「先事館」と麻田剛立 …… 253
近世都市〈江戸〉の水害 …… 254
近世都市空間の関係構造 …… 174
近世都市騒擾の研究〔岩田浩太郎著〕 …… (04.8)品切
近世都市の労働社会 …… 251
近世利根川水運史の研究 …… 198
近世長崎貿易史の研究〔中村 質著〕 …… (88.2)品切
近世日中貿易史の研究〔山脇悌二郎著〕…… (60.10)品切
近世日朝関係と対馬藩 …… 252
近世日本海運史の研究 …… 197
近世日本思想史研究〔平 重道著〕 …… (69.10)品切
近世日本政治史と朝廷 …… 248
近世日本の形成とキリシタン …… 255
近世日本の災害と宗教 …… 255
近世日本の支配構造と藩地域〔野尻泰弘著〕…… (14.7)品切
近世日本の宗教社会史〔有元正雄著〕 …… (02.10)品切
近世日本の勝者と敗者(敗者の日本史)…… 20
近世日本の人口構造 …… 198
近世日本の対朝鮮外交 …… 252
近世日本の統治と改革〔大石 学著〕 …… (13.7)品切
近世日本の都市と民衆 …… 200
近世のアイヌと和人(歴史文化ライブラリー) …… 83
近世農村社会史論〔遠藤進之助著〕 …… (56.4)品切
近世農村社会の研究 …… 197
近世農村の数的研究〔佐久高士著〕 ……(75.11)品切
近世農民生活史 新版(歴史文化セレクション)
〔児玉幸多著〕…… (06.9)品切
近世農民と家・村・国家 …… 197
近世の楽人集団と雅楽文化 …… 253
近世の飢饉(日本歴史叢書)〔菊池勇夫著〕…… (97.9)品切
近世の気象災害と危機対応 …… 254
近世の漁村(日本歴史叢書)〔荒居英次著〕…… (96.2)品切
近世の巨大地震(歴史文化ライブラリー) …… 67
近世の公家社会と幕府 …… 248
近世の検地と地域社会 …… 249
近世の在村文化と書物出版〔杉 仁 著〕…… (09.4)品切
近世の市場構造と流通〔林 玲子著〕 …… (00.12)品切
近世の死と政治文化 …… 201
近世の支配体制と社会構造〔北島正元編〕 …… (83.9)品切
近世の宗教組織と地域社会〔澤 博勝著〕 ……(99.11)品切
近世の女性相続と介護 …… 254
近世の女性と仏教 …… 201
近世の神社と朝廷権威 …… 201
近世の神社・門跡と朝廷 …… 255
近世の新田村(日本歴史叢書)〔木村 礎著〕 ……(95.11)品切
近世の摂家と朝幕関係 …… 248
近世の専売制度(日本歴史叢書)〔吉永 昭著〕 … (96.9)品切
近世の地域行財政と明治維新 …… 257
近世の地域と在村文化〔杉 仁著〕 …… (01.2)品切
近世の地方都市と町人〔深井甚三著〕 …… (95.9)品切
近世の朝廷と宗教〔高埜利彦著〕 …… (14.2)品切
近世の朝廷と女官制度〔高橋 博著〕 …… (09.7)品切
近世の都市と祭礼 …… 200
近世の念仏聖無能と民衆〔長谷川匡俊著〕…… (03.9)品切
近世の百姓世界(歴史文化ライブラリー) …… 30
近世の仏教(歴史文化ライブラリー) …… 52
近世の村と生活文化 …… 197
近世の村と地域情報 …… 173
近世の村と町〔川村優先生還暦記念会編〕 …… (88.1)品切
近世の遊廓と客 …… 254
近世の遊行聖と木食観正 …… 269
近世旗本領主支配と家臣団 …… 249
近世藩校に於ける学統学派の研究(上・下)
〔笠井助治著〕…… (69.3)品切
近世藩校に於ける出版書の研究〔笠井助治著〕… (62.3)品切
近世藩校の研究 全4冊〔笠井助治著〕…… 品切
近世藩校の総合的研究〔笠井助治著〕 …… (60.5)品切
近世藩制・藩校大事典 …… 163
近世風俗見聞集 全10冊(続日本随筆大成別巻)…… 228
近世風俗と社会(西山松之助著作集) …… 213
近世武家社会の奥向構造〔福田千鶴著〕 …… (18.6)品切
近世武家社会の形成と構造 …… 196
近世武家社会の形成と展開 …… 249
近世武家社会の政治構造 …… 196
近世仏教の制度と情報 …… 176
近世文化の研究(西山松之助著作集) …… 213
近世分家大名論 …… 250
近世北奥社会と民衆 …… 173
近世三井経営史の研究 …… 198
近世宮座の史的研究〔安藤精一著〕 …… (60.10)品切
近世宮座の史的展開〔安藤精一著〕 …… (05.5)品切
近世最上川水運と西廻航路 …… 251
近世匁銭の研究 …… 251
近世琉球と中日関係 …… 252
近世領国社会形成史論 …… 250
近世領主権力と農民〔伊藤忠士著〕 …… (96.12)品切
近世林業史の研究 …… 197
金属が語る日本史(歴史文化ライブラリー) …… 57
近代移行期の酒造業と地域社会 …… 265
近代インドの宗教運動〔斎藤昭俊著〕…… (82.12)品切
近代大阪の歴史的展開〔大阪歴史学会編〕 … (75.12)品切
〈近代沖縄〉の知識人(歴史文化ライブラリー) …… 52
近代化する日本(日本の対外関係)
〔荒野泰典・石井正敏・村井章介編〕 …… (12.4)品切
近代家族と子育て …… 134
近代教育と『婦女鑑』の研究 …… 257
近代皇室イメージの創出(天皇の美術史) …… 294
近代皇室の社会史 …… 265
近代国家と家族モデル〔西川祐子著〕 …… (00.10)品切
近代史学史 全2巻

〔G．P．グーチ著・林健太郎・林孝子訳〕 … (55.10)品切
近代史史料〔大久保利謙編〕 ……(65.11)品切
近代史必携〔吉川弘文館編集部編〕 …… (07.5)品切
近代社会を生きる(近現代日本社会の歴史)
〔大門正克・安田常雄・天野正子編〕…… (03.12)品切
近代酒造業の地域的展開〔青木隆浩著〕 …… (03.12)品切
近代諸家の死因〔服部敏良著〕 …… (86.7)品切
近代史を視る眼〔石井 孝著〕 …… (96.4)品切
近代製糸業の雇用と経営 …… 205
近代中欧の自由と民族(ユーラシア文化史選書)
〔矢田俊隆著〕 …… (66.4)品切
近代中国の日本居留民と阿片〔小林元裕著〕…… (12.1)品切
近代天皇制への道程(歴史文化セレクション)
〔田中 彰著〕…… (07.3)品切
近代東京の地政学 …… 132
〈近代都市〉広島の形成 …… 262
近代日中交渉史の研究〔佐藤三郎著〕 …… (84.3)品切
近代日本牛肉食史 …… 265
近代日本経済の歩み〔佐々木寛司著〕…… (95.9)品切
近代日本最初の彫刻家〔田中修二著〕 …… (94.3)品切
近代日本史学史の研究〈幕末編・明治編〉
〔小沢栄一著〕…… (66.2)品切
近代日本社会と公娼制度 …… 266
近代日本社会と思想〔後藤 靖編〕 ……(92.11)品切
近代日本政治と犬養毅 …… 259
近代日本大学制度の成立 …… 206
近代日本と「高等遊民」 …… 206
近代日本と国語ナショナリズム …… 266
近代日本と戦争違法化体制 …… 259
近代日本と満鉄〔小林英夫編〕 …… (00.4)品切
近代日本内閣史論〔藤井貞文著〕 …… (88.6)品切
近代日本における東アジア問題
〔古屋哲夫・山室信一編〕…… (01.1)品切
近代日本のアナーキズム思想〔板垣哲夫著〕…… (96.3)品切
近代日本の内と外〔田中 彰編〕 ……(99.11)品切
近代日本の外交と軍事〔佐藤元英著〕 …… (00.2)品切
近代日本の外交と宣教師 …… 174
近代日本の企業家と政治 …… 264
近代日本の軍隊と社会 …… 264
近代日本の思想をさぐる …… 133
近代日本の就職難物語(歴史文化ライブラリー) …… 64
近代日本の消費と生活世界 …… 264
近代日本の政局と西園寺公望〔中川小十郎著〕… (87.1)品切
近代日本の政治構造〔有馬 学・三谷 博編〕 …… (93.4)品切
近代日本の政治と地域 …… 264
近代日本の青年宿(日本歴史民俗叢書)…… 287
近代日本の戦争指導 …… 174
近代日本の地域と文化 …… 264
近代日本の地方行政と郡制 …… 256
近代日本の徴兵制と社会 …… 262
近代日本の転機 全2冊〔鳥海 靖編〕…… (07.6)品切
近代日本のメディアと階層認識〔石堂彰彦著〕…(12.11)品切
近代日本のメディアと地域社会…… 206
近代日本の歴史意識〔羽賀祥二編〕 …… (18.3)品切
近代日本メディア史 Ⅱ …… 266
近代日本メディア史 Ⅰ …… 266
近代日本を語る〔ひろたまさき著〕 …… (01.8)品切
近代の漁撈技術と民俗(日本歴史民俗叢書)
〔池田哲夫著〕…… (04.6)品切
近代の史跡(史跡で読む日本の歴史)〔鈴木 淳編〕(10.3)品切
近代の集落神社と国家統制(日本宗教史研究叢書) …… 211
近代の胎動(日本の時代史) …… 15
近代の天皇(近代日本の軌跡)〔鈴木正幸編〕… (93.10)品切
近代福島県農業史(庄司吉之助著作集) ……(81.10)品切
近代福島県養蚕製糸業史(庄司吉之助著作集) (86.4)品切
金融(鼎軒田口卯吉全集) …… (90.1)品切

ク

空海(人物叢書) …… 101
空海(歴史文化セレクション)〔高木訷元著〕 …… (09.4)品切
空海(日本名僧論集)〔和多秀乗・高木訷元編〕 (82.12)品切
空海伝の研究 …… 267
空海と密教(読みなおす日本史)…… 152
空海の文字とことば(歴史文化ライブラリー)
〔岸田知子著〕 ……(15.11)品切
空也(人物叢書)〔堀 一郎著〕 …… (63.6)品切
陸 羯南(人物叢書)…… 97
愚管抄(新訂増補 国史大系) …… 177
公卿補任 全6冊(新訂増補 国史大系)…… 178
公卿補任 全6冊(新訂増補 国史大系〔普及版〕)
〔黒板勝美編輯〕 …… (34.10)品切
公卿補任索引(新訂増補国史大系本) …… (71.9)品切
公家事典〔橋本政宣編〕 …… (10.3)品切
久坂玄瑞(人物叢書) …… 102
草の根の女性解放運動史 …… 175
草の根の婦人参政権運動史 …… 175
九条政基(人物叢書) …… 101
九条道家(人物叢書) …… 101
鯨を生きる(歴史文化ライブラリー) …… 65
楠木正成〔新井孝重著〕 ……(11.10)品切
薬と日本人(歴史文化ライブラリー) …… 30
具体例による歴史研究法
〔寶月圭吾・所三男・児玉幸多編〕…… (60.10)品切
百済遺跡の研究〔軽部慈恩著〕 ……(71.11)品切
百済文化と飛鳥文化〔田村圓澄・黄壽永編〕 … (78.10)品切
国絵図(日本歴史叢書)〔川村博忠著〕…… (90.12)品切
くにさき(民俗総合調査報告シリーズ)
〔和歌森太郎編〕 …… (60.4)品切
国東・日田と豊前道(街道の日本史)〔外園豊基編〕 (02.1)品切
国造(研究史)〔新野直吉著〕 …… (74.8)品切
久邇宮家関係書簡集 …… 265
苦悩の覇者 天武天皇(歴史文化ライブラリー)…… 81
熊谷直実(歴史文化ライブラリー)〔高橋 修著〕… (14.9)品切
熊沢蕃山 …… 202
熊襲・隼人の原像〔北郷泰道著〕 …… (94.8)品切
熊野修験(日本歴史叢書)〔宮家 準著〕 …… (92.9)品切
熊野信仰(歴史文化ライブラリー) …… 83
熊本藩からみた日本近世 …… 250
久米邦武の研究(久米邦武歴史著作集)
〔大久保利謙編〕 ……(91.11)品切
久米邦武文書 全4巻〔久米美術館編〕 …… (99.2)品切
久米邦武歴史著作集 全5巻〔久米邦武著〕 …… (88.3)品切
暮らしと年中行事(宮田登 日本を語る)…… 289
暮らしの中の古文書 (新装版) …… 277
暮らしの中の民俗学 全3巻 …… 286
黒板勝美先生遺文
〔黒板勝美先生生誕百年記念会編〕 …… (74.12)品切
黒板勝美(人物叢書) …… 102
黒板勝美の思い出と私たちの歴史探究
〔黒板伸夫・永井路子編〕…… (15.5)品切
グローバル時代の世界史の読み方(歴史文化ライブラリー)
…… 42
黒住宗忠(人物叢書) …… 95
黒田清隆(人物叢書) …… 97
黒田孝高(人物叢書) …… 91
黒船がやってきた(歴史文化ライブラリー) …… 42
黒船来航と音楽(歴史文化ライブラリー) …… 35

軍記と武士の世界〔栃木孝惟著〕 …… (01.3)品切
軍港都市の一五〇年(歴史文化ライブラリー) …… 74
〈軍港都市〉横須賀(歴史文化ライブラリー) …… 74
軍国の女たち(戦争・暴力と女性)〔早川紀代編〕 (05.1)品切
郡司及び采女制度の研究 …… 180
郡司制の成立(古代史研究選書)〔渡部育子著〕… (89.8)品切
郡司と天皇(歴史文化ライブラリー) …… 76
軍需物資から見た戦国合戦(読みなおす日本史) …… 147
軍隊と地域社会を問う(地域のなかの軍隊) …… 136
軍隊を誘致せよ(歴史文化ライブラリー) …… 59
軍都としての帝都(地域のなかの軍隊) …… 135
軍都の慰霊空間 …… 262
軍備拡張の近代史(歴史文化ライブラリー) …… 26
群馬県岩宿発見の石器文化〔杉原荘介著〕 …… (56.9)品切
軍用機の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 65

ケ

経営と労働の明治維新 …… 257
景観史と歴史地理学〔金田章裕編〕 …… (18.4)品切
経済 上・下(鼎軒田口卯吉全集)…… (90.1)品切
経済政策〔半沢耕貫著〕 …… (54.4)品切
形成期の明治国家(幕末維新論集)〔田村貞雄編〕 (01.5)品切
継体・欽明朝と仏教伝来(古代を考える)
〔吉村武彦編〕 …… (99.12)品切
継体天皇(人物叢書) …… 84
継体天皇と今城塚古墳〔高槻市教育委員会編〕 (97.8)品切
継体天皇と即位の謎 (新装版) …… 113
継体天皇の時代〔高槻市教育委員会編〕 …… (08.7)品切
契沖(人物叢書) …… 93
慶長遣欧使節(歴史文化ライブラリー) …… 74
芸道と伝統(西山松之助著作集) …… 213
芸能史叢説〔岩橋小弥太著〕 …… (75.7)品切
芸能の中世〔五味文彦編〕 …… (00.3)品切
シリーズ近世の身分的周縁 全6巻〔横田冬彦編〕(00.7)品切
京坂キリシタン一件と大塩平八郎…… 250
芸備キリシタン史料〔H. チースリク編著〕 …… (68.6)品切
契約と紛争の比較史料学 …… 247
激動昭和と浜口雄幸(歴史文化ライブラリー) …… 41
消されたマッカーサーの戦い…… 137
化粧の日本史(歴史文化ライブラリー) …… 64
月刊雑誌 日本歴史(復刻版)合本全17冊
〔日本歴史学会編集〕 …… (90.4)品切
決死の世代と遺書 補訂版〔森岡清美著〕 …… (93.8)品切
月照(人物叢書) …… 95
権威と上昇願望(〈江戸〉の人と身分)
〔堀 新・深谷克己編〕 ……(10.11)品切
研究史 飛鳥藤原京 …… 114
研究史 王朝国家〔森田 悌著〕 ……(80.11)品切
研究史 金印〔大谷光男著〕……(74.7)品切
研究史 国造〔新野直吉著〕……(74.8)品切
研究史 広開土王碑〔佐伯有清著〕 ……(74.8)品切
研究史 古代の姓〔前之園亮一著〕 ……(76.3)品切
研究史 地頭〔関 幸彦著〕 ……(83.9)品切
研究史 壬申の乱 増補版〔星野良作著〕……(78.1)品切
研究史 神武天皇〔星野良作著〕 ……(80.11)品切
研究史 戦後の邪馬台国〔佐伯有清著〕 …… (72.10)品切
研究史 大化改新 増補版〔野村忠夫著〕 …… (78.1)品切
研究史 日本人種論〔工藤雅樹著〕 …… (79.12)品切
研究史 班田収授〔村山光一著〕 ……(78.4)品切
研究史 平安京〔井上満郎著〕 ……(78.8)品切
研究史 部民制〔武光 誠著〕 ……(81.12)品切
研究史 将門の乱
〔佐伯有清・坂口 勉・関口 明・追塩千尋著〕…… (76.9)品切
研究史 邪馬台国〔佐伯有清著〕 …… (71.5)品切
研究史 倭の五王〔笠井倭人著〕 …… (73.1)品切
元亨釈書(新訂増補 国史大系) …… 178
元寇と南北朝の動乱(日本中世の歴史) …… 117
言語 諸言語 倭族語(亀井孝論文集)
〔亀井 孝著〕 ……(92.11)品切
言語文化くさぐさ(亀井孝論文集)〔亀井 孝著〕… (86.8)品切
源氏長者 …… 121
源氏と坂東武士(歴史文化ライブラリー) …… 46
源氏物語と貴族社会 …… 223
源氏物語の風景(歴史文化ライブラリー) …… 31
源氏物語の舞台装置(歴史文化ライブラリー) …… 80
源氏物語への道〔川口久雄著〕 …… (91.1)品切
源氏物語を楽しむための王朝貴族入門
(歴史文化ライブラリー)…… 78
源氏物語を読む(歴史と古典) …… 296
源氏物語を読む〔山中 裕編〕 …… (93.3)品切
建春門院(人物叢書) …… 101
検証 学徒出陣(歴史文化ライブラリー) …… 81
検証 川中島の戦い(歴史文化ライブラリー)…… 79
検証 島原天草一揆(歴史文化ライブラリー)…… 49
検証 太平洋戦争開戦の謎(歴史文化ライブラリー)…… 83
検証 長篠合戦(歴史文化ライブラリー) …… 60
検証 奈良の古代遺跡 …… 113
検証 奈良の古代仏教遺跡…… 114
検証 本能寺の変(歴史文化ライブラリー)…… 46
源信(人物叢書)…… 86
源信(日本名僧論集)〔大隅和雄・速水 侑編〕 …… (83.6)品切
謙信と信玄(読みなおす日本史)…… 146
現代語訳 吾妻鏡 全16巻・別巻1冊 …… 12
現代語訳 小右記 全16巻 ……8
現代語訳徳川実紀 家康公伝 全5巻
〔大石 学・佐藤宏之・小宮山敏和・野口朋隆編〕(10.12)品切
現代史を学ぶ〔中村政則著〕 …… (97.5)品切
現代日本政治史 全5巻〔池田慎太郎著〕 …… (12.1)品切
現代日本の葬送と墓制〔鈴木岩弓・森 謙二編〕… (18.7)品切
現代日本の民俗学 …… 285
現代の流行神(歴史文化ライブラリー) …… 83
現代民俗学入門
〔佐野賢治・谷口 貢・中込睦子・古家信平編〕… (96.3)品切
現代民俗学のフィールド〔古家信平編〕…… (18.3)品切
遣唐使と古代対外関係の行方 …… 235
遣唐使と古代日本の対外政策 …… 183
遣唐使の見た中国(歴史文化ライブラリー) …… 39
原爆ドーム(歴史文化ライブラリー) …… 64
源平合戦事典 …… 161
源平の争乱(戦争の日本史) …… 17
源平の内乱と公武政権(日本中世の歴史) …… 117
玄昉(人物叢書) …… 101
元明時代窯業史研究〔佐々木達夫著〕 …… (85.12)品切
元明・元正天皇(人物叢書) …… 101
元禄人間模様(読みなおす日本史) …… 150
元禄の社会と文化(日本の時代史)…… 15

コ

小石元俊(人物叢書) …… 94
恋する日本史 …… 106
後一条天皇即位(現代語訳 小右記) …… 9
古伊万里の誕生(増訂) …… 292
古印の美〔山口平八著〕 …… (60.4)品切
皇位継承と藤原氏(歴史文化ライブラリー) …… 76
皇位継承の古代史〔亀田隆之著〕 …… (96.2)品切
皇位継承の中世史(歴史文化ライブラリー) …… 69

光悦と乾山(歴史文化ライブラリー) …… 83
公園の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 39
広開土王碑(研究史)〔佐伯有清著〕 …… (74.8)品切
広開土王碑研究の軌跡〔星野良作著〕 …… (91.1)品切
広開土王碑と参謀本部〔佐伯有清著〕 …… (76.4)品切
広開土王碑文の研究〔白崎昭一郎著〕 …… (93.6)品切
広開土王碑墨本の研究 …… 295
広開土王陵碑の研究 増訂版〔李進熙著〕…… (72.10)品切
光学的方法による古美術品の研究 増補版
〔東京国立文化財研究所 光学研究班著〕…… (55.3)品切
光格天皇(人物叢書) …… 102
〈甲賀忍者〉の実像(歴史文化ライブラリー)
〔藤田和敏著〕 …… (12.1)品切
後期摂関時代史の研究〔古代学協会編〕 …… (90.3)品切
皇紀・万博・オリンピック(読みなおす日本史)…… 151
後宮と女性(角田文衛の古代学)
〔公益財団法人古代学協会編〕 …… (18.9)品切
恒久の都 平安京(古代の都)
〔西山良平・鈴木久男編〕……(10.10)品切
皇居の近現代史(歴史文化ライブラリー) …… 63
高句麗考古学研究 …… 282
高句麗と朝鮮古代史(末松保和朝鮮史著作集) …… 212
高句麗と渤海 …… 222
皇軍慰安所とおんなたち(歴史文化ライブラリー) …… 32
皇軍兵士とインドネシア独立戦争〔林 英一著〕…(11.12)品切
工芸とナショナリズムの近代〔木田拓也著〕 …… (14.8)品切
孝謙天皇(人物叢書) …… 101
皇后四代の歴史〔森 暢平・河西秀哉編〕…… (18.6)品切
考古学叢考(上・中・下)
〔斎藤忠先生頌寿記念論文集刊行会編〕 … (88.10)品切
考古学の基本的問題(日本考古学論集)
〔斎藤 忠編集〕…… (86.10)品切
考古学の研究法〔斎藤 忠著〕…… (59.12)品切
好古家たちの 19 世紀(シリーズ近代美術のゆくえ)
〔鈴木廣之著〕 …… (03.10)品切
考古資料と歴史学(歴博大学院セミナー)
〔国立歴史民俗博物館編〕 …… (99.2)品切
講座 日本荘園史 全 10 巻
〔網野善彦・石井 進・稲垣泰彦・永原慶二編〕 (89.7)品切
高山寺の美術 …… 124
甲子園野球と日本人(歴史文化ライブラリー) …… 25
皇室制度史 全 6 冊〔日本学士院編〕 …… (79.5)品切
皇室制度史料 …… 270
講集団成立過程の研究〔櫻井徳太郎著〕 …… (62.3)品切
考証 東京裁判(歴史文化ライブラリー) …… 68
考証の世紀 …… 255
甲信越の名城を歩く 長野編 …… 139
甲信越の名城を歩く 新潟編 …… 139
甲信越の名城を歩く 全 3 冊 …… 139
皇族元勲と明治人のアルバム …… 258
皇族世表・皇族考證 全 7 冊〔清水正健編〕……(11.11)品切
高台院(人物叢書) …… 91
交替式(新訂増補 国史大系〔普及版〕) …… (72.4)品切
交替式の研究〔福井俊彦著〕 …… (78.3)品切
光太夫の悲恋〔亀井高孝著〕 …… (67.3)品切
高知県の考古学(郷土考古学叢書)〔岡本健児著〕(66.3)品切
交通史研究 …… 299
交通・情報となりわい(新しい古代史へ) …… 112
香道の文化史(歴史文化ライブラリー) …… 70
幸徳秋水(人物叢書) …… 97
孝徳天皇(人物叢書) …… 101
高度経済成長と生活革命(歴博フォーラム)
〔国立歴史民俗博物館編〕 …… (10.7)品切
高度成長と沖縄返還(現代日本政治史)
〔中島琢磨著〕 …… (12.3)品切
高度成長と企業社会(日本の時代史)〔渡辺治編〕 (04.8)品切
弘仁格抄(新訂増補 国史大系) …… 178
弘仁格の復原的研究 民部上・中・下篇 …… 184
弘仁式(新訂増補 国史大系) …… 178
弘仁式(新訂増補 国史大系〔普及版〕) …… (72.4)品切
光仁天皇(人物叢書) …… 101
鴻池善右衛門(人物叢書) …… 93
河野広中(人物叢書) …… 98
高 師直(歴史文化ライブラリー) …… 62
興福寺(日本歴史叢書)〔泉谷康夫著〕 …… (97.11)品切
公武政権の競合と協調(京都の中世史) …… 6
弘法大師空海の研究 …… 207
弘法大師と真言宗(日本仏教宗史論集)
〔和多秀乗・高木訷元編〕…… (84.12)品切
弘法大師研究〔中野義照編〕 …… (78.2)品切
校本 拾玉集〔多賀宗隼編著〕…… (71.4)品切
光明皇后(人物叢書) …… 85
光明皇后御傳 改訂増補版…… 271
孝明天皇(人物叢書) …… 102
孝明天皇紀 全 5 冊〔宮内省編纂〕…… (67.1)品切
孝明天皇紀(綱文)〔平安神宮編〕 …… (71.8)品切
孝明天皇紀附図〔宮内省編纂(平安神宮復刊)〕… (81.4)品切
高麗朝史と朝鮮朝史(末松保和朝鮮史著作集) …… 212
交流する弥生人(歴史文化ライブラリー) …… 36
声と顔の中世史(歴史文化ライブラリー) …… 46
近世交通史料集 全 10 巻 …… 215
古河公方と伊勢宗瑞(動乱の東国史) …… 119
古河公方と小田原北条氏(対決の東国史)…… 5
古瓦図鑑 (新装版)〔石田茂作編〕 …… (19.9)品切
「故郷」という物語(ニューヒストリー近代日本)…… 136
古記録学概論…… 277
古記録入門 (増補改訂版) …… 277
古記録の研究 上・下(齋木一馬著作集)…… 212
虚空蔵菩薩信仰の研究 …… 207
国衙機構の研究〔関 幸彦著〕 …… (84.12)品切
国学史上の人々〔丸山季夫著〕 …… (79.7)品切
国学思想の史的研究 …… 202
国学者雑攷〔丸山季夫著〕 …… (82.9)品切
国学と洋学(近世史の研究)〔伊東多三郎著〕…… (82.7)品切
国語学入門〔金田一京助著〕 …… (53.8)品切
「国語」という呪縛(歴史文化ライブラリー) …… 52
国際化時代「大正日本」(日本近代の歴史) …… 130
国際交易と古代日本 …… 235
国際秩序の形成と近代日本 …… 204
国産航空機の歴史(歴史文化ライブラリー) …… 77
国史大系 全 60 巻(新訂増補) …… 177
国史大系 月報(新訂増補) …… 220
国史大系書目解題 下巻…… 220
国史大系書目解題 全 2 巻…… 220
国史大辞典 全 15 巻 …… 158
国書刊行会本 …… 218
国姓爺(人物叢書) …… 92
国造制の成立と展開(古代史研究選書)
〔篠川 賢著〕…… (85.5)品切
国府(日本歴史叢書)〔藤岡謙二郎著〕…… (95.7)品切
「国風文化」の時代(読みなおす日本史) …… 144
国風文化の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 83
国分寺の研究(新修) 全 7 巻・8 冊〔角田文衛編〕 (97.11)品切
国分寺の創建―組織・技術編―…… 281
国分寺の創建―思想・制度編―
〔須田 勉・佐藤 信編〕……(11.12)品切
国分寺の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 64
国分寺の中世的展開 …… 210

書名索引

国民学校〔歴史文化ライブラリー〕…… 25
「国民歌」を唱和した時代〔歴史文化ライブラリー〕…… 53
国民軍の神話〔ニューヒストリー近代日本〕
〔原田敬一著〕…… (01.9)品切
国民生活史研究 全5冊〔伊東多三郎編〕…… (57.5)品切
国民〈喪失〉の近代〔小路田泰直著〕…… (98.12)品切
御家人制の研究〔御家人制研究会編〕…… (81.7)品切
古建築修復に生きる〔歴史文化ライブラリー〕…… 42
古建築を復元する〔歴史文化ライブラリー〕…… 65
孤高の禅師 道元〔日本の名僧〕〔中尾良信編〕 (03.12)品切
ここが変わる！日本の考古学 …… 112
ここだけは見ておきたい 東京の近代建築 全2冊
〔小林一郎著〕…… (14.7)品切
ここまで変わった日本史教科書…… 106
ここまでわかった飛鳥・藤原京 …… 114
古今著聞集〔新訂増補 国史大系〕…… 177
後三条天皇〔人物叢書〕…… 101
古事記〔新訂増補 国史大系〕…… 177
古事記〔標注訓読〕〔丸山二郎著〕…… (65.12)品切
古事記と太安万侶 …… 296
古事記と日本書紀〔坂本太郎著作集〕…… 212
古事記と日本書紀の検証〔梅沢伊勢三著〕…… (88.7)品切
古事記と日本書紀の成立〔梅沢伊勢三著〕…… (88.2)品切
古事記の世界観〔歴史文化セレクション〕…… 155
古事記のひみつ〔歴史文化ライブラリー〕…… 46
古事記の文字世界 …… 296
古事記の歴史意識〔歴史文化ライブラリー〕…… 49
古事記はいかに読まれてきたか〔斎藤英喜著〕…(12.11)品切
古事記を読む〔歴史と古典〕…… 296
古寺順礼 宝印集〔石田茂作解説・立岩不二編〕… (72.6)品切
古事談〔新訂増補 国史大系〕…… 177
児島惟謙〔人物叢書〕…… 97
小島鉦作著作集 全3巻〔小島鉦作著〕…… (95.6)品切
後白河院 動乱期の天皇〔古代学協会編〕…… (93.3)品切
後白河院政の研究〔下郡 剛著〕…… (99.8)品切
後白河上皇〔人物叢書〕…… 87
古事類苑新仮名索引 …… 169
古事類苑 全51冊〔神宮司庁蔵版〕…… (67.1)品切
御成敗式目〔現代語訳 吾妻鏡〕…… 13
御成敗式目ハンドブック…… 120
戸籍が語る古代の家族〔歴史文化ライブラリー〕…… 69
古代飛鳥の都市構造 …… 176
古代出雲〔歴史文化ライブラリー〕…… 45
古代インド文明の謎〔歴史文化ライブラリー〕…… 48
古代駅伝馬制度の研究 …… 235
古代蝦夷の考古学 …… 180
古代蝦夷を考える〔歴史文化セレクション〕
〔高橋富雄著〕…… (10.7)品切
古代蝦夷〔歴史文化セレクション〕…… 156
古代蝦夷からアイヌへ〔天野哲也・小野裕子編〕 (07.3)品切
古代王権と県・県主制の研究 …… 180
古代王権と祭儀〔黛 弘道編〕…… (90.11)品切
古代王権と支配構造〔仁藤敦史著〕…… (12.3)品切
古代王権と女性たち〔横田健一著〕…… (94.1)品切
古代王権と都城〔仁藤敦史著〕…… (98.2)品切
古代王権と東アジア世界 …… 231
古代王朝交替説批判〔前之園亮一著〕…… (86.12)品切
古代から中世へ〈上・下〉〔竹内理三著〕…… (78.2)品切
古代貴族と地方豪族〔野村忠夫著〕…… (89.10)品切
古代宮都と関連遺跡の研究 …… 281
古代宮都と地方官衙の造営 …… 231
古代宮都の研究〔日本史学研究叢書〕…… 184
古代宮都の内裏構造〔橋本義則著〕…… (11.7)品切
古代ギリシア植民都市巡礼〔川島清吉著〕…… (89.5)品切
古代郡司制度の研究 …… 183
古代景観史の探究 …… 171
古代ゲノムから見たサピエンス史〔歴史文化ライブラリー〕
…… 77
古代豪族葛城氏と大古墳 …… 113
古代豪族と渡来人 …… 234
古代豪族と武士の誕生〔歴史文化ライブラリー〕…… 58
古代国造制と地域社会の研究 …… 231
古代国府の成立と国郡制 …… 232
古代国家と王権〔長山泰孝著〕…… (92.10)品切
古代国家と宗教文化〔重松明久著〕…… (86.12)品切
古代国家と瀬戸内海交通〔松原弘宣著〕…… (04.12)品切
古代国家と大化改新〔古代史研究選書〕
〔大山誠一著〕…… (88.9)品切
古代国家と道教〔重松明久著〕…… (85.12)品切
古代国家と東北 …… 181
古代国家と年中行事〔大日方克己著〕…… (93.9)品切
古代国家と仏教経典〔田村圓澄著〕…… (02.6)品切
古代国家と仏教美術〔天皇の美術史〕…… 293
古代国家と北方社会 …… 170
古代国家の形成〔史跡で読む日本の歴史〕…… 22
古代国家の形成〔直木孝次郎古代を語る〕
〔直木孝次郎著〕…… (09.3)品切
古代国家の形成と衣服制〔戊午叢書〕
〔武田佐知子著〕…… (84.6)品切
古代国家の形成と展開〔大阪歴史学会編〕…… (75.12)品切
古代国家の神祇と祭祀 …… 186
古代国家の政治と外交 …… 232
古代国家の地方支配と東北 …… 233
古代国家の東北辺境支配〔日本史学研究叢書〕…… 233
古代国家の土地計画 …… 115
古代国家の歴史と伝承〔黛 弘道編〕…… (92.3)品切
古代国家仏教と在地社会 …… 236
後醍醐天皇と建武政権〔読みなおす日本史〕…… 146
古代祭祀 建鉾山遺跡（全2冊セット）…… 279
古代祭祀論〔古代史研究選書〕〔中村英重著〕… (99.8)品切
古代寺院〔古代を考える〕〔狩野 久編〕…… (99.9)品切
古代寺院の食を再現する …… 237
古代寺院の成立と展開〔日本宗教史研究叢書〕
〔鶴岡静夫著〕……(75.11)品切
古代史演習 七支刀と広開土王碑〔佐伯有清著〕 (77.4)品切
古代史演習 部民制〔武光 誠著〕…… (82.5)品切
古代史演習 木簡〔横田拓実・鬼頭清明著〕…… (79.8)品切
古代史研究の世界〔井上光貞著〕…… (75.9)品切
古代史籍の研究 上・中・下〔飯田瑞穂著作集〕
〔飯田瑞穂著〕…… (00.5)品切
古代氏族と宗教祭祀〔中村英重著〕…… (04.9)品切
古代氏族の系図を読み解く〔歴史文化ライブラリー〕… 75
古代氏族の系譜〔古代史研究選書〕〔溝口睦子著〕(87.12)品切
古代史と考古学〔斎藤 忠著〕…… (76.4)品切
古代信濃の氏族と信仰 …… 233
古代史の人びと〔直木孝次郎著〕…… (76.6)品切
古代史への道〔佐伯有清著〕…… (75.10)品切
古代住居のはなし〔歴史文化セレクション〕…… 155
古代女性史への招待〔義江明子著〕…… (04.10)品切
古代史論叢 上・中・下巻
〔井上光貞博士還暦記念会編〕…… (78.9)品切
古代神社史論攷〔池邊 彌著〕…… (89.6)品切
古代神仙思想の研究〔下出積與著〕…… (86.6)品切
古代政治史における天皇制の論理〔古代史研究選書〕
〔河内祥輔著〕…… (86.4)品切
古代政治史における天皇制の論理〈増訂版〉…… 233
古代対外関係史の研究 …… 183
古代玉作形成史の研究〔寺村光晴著〕…… (80.12)品切

古代玉作の研究〔寺村光晴著〕 …… (66.9)品切
古代地方寺院の造営と景観 …… 236
古代地方制度形成過程の研究〔須原祥二著〕 … (11.2)品切
古代地方木簡の研究 …… 232
古代・中世遺跡と歴史地理学 …… 171
古代中世音楽史の研究 …… 185
古代・中世国家と領主支配〔小川弘和著〕 …… (97.6)品切
古代中世寺院組織の研究(戊午叢書) …… 209
古代中世史料学研究 上・下〔皆川完一編〕…… (98.10)品切
古代中世史論集〔九州大学国史学研究室編〕 … (90.8)品切
古代・中世の家族と女性〔西村汎子著〕 …… (02.2)品切
古代中世の社会変動と宗教〔義江彰夫編〕 …… (06.1)品切
古代中世の史料と文学〔義江彰夫編〕 …… (05.12)品切
古代中世の政治と権力〔義江彰夫編〕 …… (06.2)品切
古代朝鮮・日本金石文資料集成〔斎藤 忠編著〕… (83.7)品切
古代朝鮮の国家体制と考古学〔山本孝文著〕……(17.11)品切
古代朝鮮の国家と社会 …… 295
古代朝鮮仏教と日本仏教〔田村圓澄著〕…… (80.6)品切
古代典籍文書論考〔虎尾俊哉著〕 …… (82.3)品切
古代天皇家の婚姻戦略(歴史文化ライブラリー) …… 58
古代天皇祭祀の研究 …… 234
古代天皇と神祇の祭祀体系 …… 234
古代天皇の即位儀礼 …… 184
古代天皇への旅 …… 113
古代東国の風景〔原島礼二著〕 …… (93.3)品切
古代東北アジア史研究〔三上次男著〕 …… (66.8)品切
古代東北史の人々(歴史文化セレクション) …… 156
古代東北と柵戸 …… 181
古代東北と律令法 …… 115
古代東北の蝦夷と北海道 …… 180
古代東北の支配構造 …… 181
古代東北の支配構造〔鈴木拓也著〕 …… (98.3)品切
古代東北の兵乱(日本歴史叢書)〔新野直吉著〕…(89.11)品切
古代道路(古代を考える)〔木下 良編〕 …… (96.4)品切
古代都城の造営と都市計画 …… 281
五代友厚(人物叢書) …… 102
古代難波とその周辺(直木孝次郎古代を語る)
〔直木孝次郎著〕 …… (09.7)品切
古代日本語発掘(読みなおす日本史) …… 152
古代日本人の時間意識〔田中 元著〕 …… (75.12)品切
古代日本人の世界〔田中 元著〕 …… (72.9)品切
古代日本と北の海みち(読みなおす日本史) …… 144
古代日本と南島の交流 …… 183
古代日本の王権空間〔千田 稔著〕 …… (04.11)品切
古代日本の京職と京戸〔市川理恵著〕…… (09.5)品切
古代日本の景観 …… 186
古代日本の国家と土地支配 …… 230
古代日本の国家と仏教〔田村圓澄著〕…… (99.5)品切
古代日本の勝者と敗者(敗者の日本史)…… 19
古代日本の対外認識と通交 …… 183
古代日本の都城と木簡 …… 232
古代の出雲(日本歴史叢書)〔水野 祐著〕 …… (72.5)品切
古代の駅と道(坂本太郎著作集) …… 212
古代の蝦夷と城柵(歴史文化ライブラリー) …… 41
古代の王権祭祀と自然 …… 234
古代の暮らしと祈り(環境の日本史) …… 21
古代の皇位継承(歴史文化ライブラリー) …… 47
古代の交通(日本歴史叢書)〔田名網 宏著〕 …… (95.7)品切
古代の祭祀構造と伊勢神宮 …… 229
古代の食生活(歴史文化ライブラリー) …… 71
古代の食を再現する …… 237
古代の女性官僚(歴史文化ライブラリー) …… 61
古代の神社と神職(歴史文化ライブラリー) …… 67
古代の神社と祭り(歴史文化ライブラリー) …… 34
古代の姓(研究史)〔前之園亮一著〕 …… (76.3)品切
古代の大宰府(古代史研究選書)〔倉住靖彦著〕 (85.5)品切
古代の地域支配と渡来人 …… 231
古代の地方豪族〔松原弘宣著〕 …… (88.10)品切
古代の天皇祭祀と神宮祭祀〔藤森 馨著〕 ……(17.12)品切
古代の天文異変と史書 …… 185
古代の刀剣(歴史文化ライブラリー) …… 77
古代の東国 全3巻 …… 111
古代の動乱(直木孝次郎古代を語る)
〔直木孝次郎著〕 …… (09.4)品切
古代の道路事情(歴史文化ライブラリー) …… 34
古代の都市と条里 …… 115
古代の日朝関係と日本書紀〔笠井倭人著〕 …… (00.1)品切
古代の日本(坂本太郎著作集) …… 212
古代の日本と朝鮮(末松保和朝鮮史著作集)…… 212
古代の日本の国家と仏教〔田村圓澄著〕 …… (99.5)品切
古代の人々の心性と環境 …… 237
古代の人・ひと・ヒト(歴史文化ライブラリー) …… 76
古代の都 全3巻〔田辺征夫・佐藤 信編〕 …… (10.7)品切
古代の都と神々(歴史文化ライブラリー)
〔榎村寛之著〕 …… (08.2)品切
古代の都はどうつくられたか(歴史文化ライブラリー) … 54
古代の武蔵〔森田 悌著〕 …… (88.4)品切
古代の武蔵を読む〔土田直鎮著〕 …… (94.11)品切
古代の琉球弧と東アジア(歴史文化ライブラリー) …… 56
古代の恋愛生活(読みなおす日本史) …… 143
古代の漏刻と時刻制度 …… 229
古代の技〔勝部明生・鈴木 勉著〕 …… (98.6)品切
古代東アジアの日本と朝鮮〔坂元義種著〕…… (78.12)品切
古代東アジア金石文論考 …… 186
古代東アジア史論集〈上・下〉
〔末松保和博士古稀記念会編〕 …… (78.3)品切
古代東アジアの国家と仏教〔田村圓澄著〕 ……(02.11)品切
古代仏教界と王朝社会 …… 208
古代仏教をよみなおす …… 105
古代文献の基礎的研究(日本史学研究叢書)
〔吉岡眞之著〕 ……(94.11)品切
古代壁画の世界(歴史文化ライブラリー)
〔百橋明穂著〕 …… (10.6)品切
古代への道(直木孝次郎 古代を語る)
〔直木孝次郎著〕 ……(09.11)品切
古代木簡の研究(日本史学研究叢書) …… 185
古代文書の機能論的研究〔鈴木茂男著〕 …… (97.12)品切
古代をあゆむ …… 113
古代を考える 飛鳥〔井上光貞・門脇禎二編〕 …… (87.1)品切
古代を考える 出雲〔上田正昭編〕 …… (93.8)品切
古代を考える 稲・金属・戦争〔佐原 真編〕 ……(01.12)品切
古代を考える 磐井の乱〔小田富士雄編〕 ……(91.10)品切
古代を考える 近江〔水野正好編〕 …… (92.5)品切
古代を考える 沖ノ島と古代祭祀〔小田富士雄編〕(88.8)品切
古代を考える 河内飛鳥〔門脇禎二・水野正好編〕(89.10)品切
古代を考える 吉備
〔門脇禎二・狩野 久・葛原克人編〕 …… (05.3)品切
古代を考える 宮都発掘〔坪井清足編〕 …… (87.10)品切
古代を考える 継体・欽明朝と仏教伝来
〔吉村武彦編〕 …… (99.12)品切
古代を考える 古代寺院〔狩野 久編〕 …… (99.9)品切
古代を考える 古代道路〔木下 良編〕 …… (96.4)品切
古代を考える 古墳〔白石太一郎編〕 …… (89.3)品切
古代を考える 終末期古墳と古代国家
〔白石太一郎編〕 …… (05.4)品切
古代を考える 蘇我氏と古代国家(歴史文化セレクション)
…… 155
古代を考える 多賀城と古代東北

〔青木和夫・岡田茂弘編〕…… (06.9)品切
古代を考える 大宰府〔田村圓澄編〕 …… (87.5)品切
古代を考える 東国と大和王権
〔原島礼二・金井塚良一編〕…… (94.1)品切
古代を考える 唐と日本〔池田 温編〕 …… (92.6)品切
古代を考える 難波〔直木孝次郎編〕 …… (92.12)品切
古代を考える 奈良〔直木孝次郎編〕 …… (85.5)品切
古代を考える 日本と朝鮮〔武田幸男編〕 …… (05.1)品切
古代を考える 平安の都〔笹山晴生編〕 …… (91.2)品切
古代を考える 邪馬台国〔平野邦雄編〕 …… (98.7)品切
古代を考える 山辺の道〔和田 萃編〕 …… (99.3)品切
古代を考える 雄略天皇とその時代〔佐伯有清著〕(88.2)品切
古地図からみた古代日本(読みなおす日本史) …… 143
国家権力と宗教(近世の宗教と社会)
〔井上智勝・高埜利彦編〕…… (08.7)品切
国家神道と民衆宗教(歴史文化セレクション)
〔村上重良著〕…… (06.7)品切
古典と歴史〔坂本太郎著〕 …… (72.6)品切
後藤象二郎(人物叢書) …… 102
後藤新平(人物叢書) …… 102
古都・商都の軍隊(地域のなかの軍隊) …… 135
ことばの森〔かめいたかし著〕…… (95.7)品切
子どもたちの近代(歴史文化ライブラリー) …… 38
子供たちの明治(歴史文化ライブラリー) …… 83
子どもの中世史(歴史文化セレクション)
〔斉藤研一著〕…… (12.1)品切
子ども・老人と性(宮田登 日本を語る)〔宮田 登著〕(07.1)品切
小西行長(人物叢書) …… 102
近衛家熙(人物叢書) …… 102
近衛文麿(人物叢書) …… 99
近衛前久(人物叢書) …… 102
「この世をば」(現代語訳 小右記) …… 9
小林一三(人物叢書) …… 94, 102
古墳(歴史文化ライブラリー)…… 54
古墳(古代を考える)〔白石太一郎編〕…… (89.3)品切
古文化の保存と研究〔黒板博士記念会編〕 …… (53.4)品切
古墳時代東国の地域経営 …… 280
古墳時代の王権構造 …… 280
古墳時代の王権と集団関係 …… 280
古墳時代の海民(歴史文化ライブラリー) …… 83
古墳時代の国家形成 …… 280
古墳時代の実像 …… 280
古墳時代の生産と流通 …… 280
古墳時代の政治と社会 …… 280
古墳時代の葬制と他界観〔和田晴吾著〕 …… (14.4)品切
古墳時代の日朝関係〔高田貫太著〕 …… (14.3)品切
古墳の時代(史跡で読む日本の歴史)
〔岸本直文編〕…… (10.7)品切
古墳の力学(歴史文化ライブラリー) …… 83
古墳文化基礎資料 日本横穴地名表
〔斎藤 忠・杉山博久編〕…… (83.4)品切
古墳を築く(歴史文化ライブラリー) …… 78
後北条氏研究 …… 191
後北条氏と領国経営 …… 191
後北条氏の基礎研究 …… 190
後北条氏の研究(戦国大名論集)〔佐脇栄智編〕… (83.7)品切
小堀遠州(人物叢書) …… 92
小堀遠州の作事〔森 蘊著〕…… (66.7)品切
小松帯刀(人物叢書) …… 96
高麗福信(人物叢書) …… 101
後水尾天皇(人物叢書) …… 102
米と餅(日本の食文化) …… 288
古文書学 近世編(概説)〔日本歴史学会編〕 …… (89.6)品切
古文書学 古代・中世編(概説) …… 276
古文書研究 第41～83号
〔日本古文書学会編集〕…… (95.12)品切
古文書選(演習) 全8冊…… 276
古文書調査ハンドブック〔児玉幸多編〕…… (83.3)品切
古文書入門ハンドブック …… 276
古文書の語る地方史〔佐藤孝之編〕 …… (10.8)品切
(3)古文書の研究(齋木一馬著作集)…… 212
古文書の国語学的研究 …… 223
暦と天文の古代中世史 …… 185
暦の語る日本の歴史(読みなおす日本史) …… 152
五稜郭の戦い(歴史文化ライブラリー) …… 63
婚姻と家族・親族(日本家族史論集)
〔義江 明子編〕…… (02.12)品切
婚姻と家族の民俗的構造(日本歴史民俗叢書)…… 176
婚姻と女性(日本女性史論集)
〔総合女性史研究会編〕…… (98.1)品切
婚姻の民俗(歴史文化ライブラリー) …… 28
今昔物語集(新訂増補 国史大系) …… 177
今昔物語集を読む(歴史と古典)〔小峯和明編〕 (08.12)品切
金春禅竹(人物叢書) …… 101

サ

西域の虎〔川口久雄著〕…… (74.4)品切
西園寺公望(人物叢書) …… 102
災害と生きる中世 …… 122
西海道(新修 国分寺の研究)〔角田文衛編〕 …… (87.3)品切
災害と江戸時代 …… 200
災害都市江戸と地下室(歴史文化ライブラリー) …… 27
災害復興の日本史(歴史文化ライブラリー) …… 58
齋木一馬著作集 全3巻…… 212
祭儀と呪術(日本歴史民俗論集)
〔山折哲雄・宮本袈裟雄編〕…… (94.5)品切
祭儀と注釈〔桜井好朗著〕 …… (93.9)品切
西行(人物叢書) …… 87
西行・慈円と日本の仏教 …… 105
西行の思想史的研究 …… 193
再考！ 縄文と弥生 …… 112
西郷隆盛(人物叢書) …… 96
西郷隆盛と薩摩(人をあるく)〔松尾千歳著〕 …… (14.3)品切
西郷隆盛と士族(幕末維新の個性) …… 129
西国の戦国合戦(戦争の日本史) …… 17
最後の女帝 孝謙天皇(歴史文化ライブラリー)…… 28
財政(鼎軒田口卯吉全集) …… (90.1)品切
再生する延暦寺の建築 …… 122
最澄(人物叢書) …… 85
最澄(日本名僧論集)〔塩入良道・木内堯央編〕 (82.12)品切
在庁官人と武士の生成 …… 232
最澄と空海〔佐伯有清著〕 …… (98.1)品切
最澄とその門流〔佐伯有清著〕 …… (93.10)品切
斎藤隆夫(人物叢書) …… 102
斎藤 実(人物叢書) …… 102
斉明天皇(人物叢書) …… 101
ザヴィエル(人物叢書) …… 90
佐伯今毛人(人物叢書) …… 85
坂井家文書目録(信濃国埴科郡下戸倉村名主) …… 273
酒井忠清(人物叢書) …… 92
堺 利彦(人物叢書)…… 102
佐賀・島原と長崎街道(街道の日本史) …… 23
酒田市史 史料篇1～6〔酒田市史編纂委員会編〕(63.4)品切
阪谷芳郎(人物叢書) …… 99
嵯峨天皇(人物叢書) …… 101
魚と肉(日本の食文化) …… 288
坂上田村麻呂 (新稿版)(人物叢書) …… 85

佐賀藩(日本歴史叢書)〔藤野 保著〕 …… (10.9)品切
佐賀藩の総合研究〔藤野 保編〕 …… (81.2)品切
相模武士団 …… 121
坂本太郎著作集 全12巻 …… 212
坂本太郎博士頌寿記念 日本史学論集〈上・下〉
〔國學院大學文学部史学科編〕 …… (83.12)品切
坂本龍馬と京都(人をあるく) …… 11
坂本龍馬とその時代(読みなおす日本史) …… 150
佐久間象山(人物叢書) …… 96
佐久間象山(読みなおす日本史) …… 150
櫻井徳太郎著作集 全10巻・別巻1 …… (87.4)品切
櫻井徳太郎著作集総索引(櫻井徳太郎著作集)
〔櫻井徳太郎著作集刊行会編〕 …… (91.10)品切
佐倉惣五郎(人物叢書) …… 92
酒と調味料、保存食(日本の食文化) …… 288
鎖国と国際関係〔中村 質編〕 …… (97.8)品切
鎖国日本と国際交流〈上・下〉〔箭内健次編〕 …… (88.2)品切
佐々木導誉(人物叢書) …… 89
貞成親王(人物叢書) …… 101
雑穀の社会史(歴史文化セレクション) …… 157
雑穀を旅する(歴史文化ライブラリー) …… 46
佐々友房(人物叢書) …… 102
薩摩と出水街道(街道の日本史) …… 23
里修験の研究〔宮本袈裟雄著〕 …… (84.10)品切
里見義堯(人物叢書) …… 90
里山の成立〔水野章二著〕 …… (15.10)品切
真田氏三代と信濃・大坂の合戦(人をあるく) …… 11
真田昌幸(人物叢書) …… 91
真田松代藩の財政改革(読みなおす日本史)
〔笠谷和比古著〕 …… (17.10)品切
讃岐と金毘羅道(街道の日本史)
〔木原溥幸・和田仁編〕 …… (01.4)品切
座の研究(豊田武著作集) …… 212
裁かれた絵師たち …… 291
佐幕派論議〔大久保利謙著〕 …… (86.5)品切
ザビエルと日本 …… 211
ザビエルと東アジア …… 269
ザビエルの同伴者 アンジロー(歴史文化ライブラリー) 36
差別の視線〔ひろたまさき著〕 …… (98.12)品切
早良親王(人物叢書) …… 85
山陰道と山陽道(新修 国分寺の研究)
〔角田文衛編〕 …… (91.5)品切
三角縁神獣鏡研究事典 …… 161
三角縁神獣鏡の時代(歴史文化ライブラリー) …… 30
産業革命(近代日本の軌跡)〔高村直助編〕 …… (94.6)品切
参勤交代(日本歴史叢書)〔丸山雍成著〕 …… (07.7)品切
山家の大師 最澄(日本の名僧)〔大久保良峻編〕 (04.6)品切
三航蝦夷日誌 全2巻 …… 218
参考太平記 全2冊 …… 219
参考保元平治物語 …… 219
三十八年戦争と蝦夷政策の転換(東北の古代史) …… 111
三条実美 …… 131
三条実美(人物叢書) …… 102
三条天皇の信任(現代語訳 小右記) …… 9
三条西実枝(人物叢書) …… 101
三条西実隆(人物叢書) …… 90
三川雑記〔山田三川著・富村登校訂〕 …… (72.7)品切
三代の蔵人頭(現代語訳 小右記) …… 8
山東京伝(人物叢書) …… 94
サン・ピエトロが立つかぎり〔石鍋 真澄著〕 …… (91.4)品切
サン・ピエトロ大聖堂〔石鍋真澄著〕 …… (00.12)品切
サンフランシスコ講和と日本外交 …… 263
三宝絵を読む
〔小島孝之・小林真由美・小峯和明編〕 …… (08.2)品切
三昧塚古墳〔茨城県教育委員会編〕 …… (60.9)品切
三遊亭円朝と江戸落語(人をあるく) …… 11
三陸海岸と浜街道(街道の日本史)
〔瀧本壽史・名須川溢男編〕 …… (04.12)品切

シ

シーボルト(人物叢書) …… 96
シーボルトの日本研究〔石山禎一編著〕 …… (97.11)品切
自衛隊史論 …… 263
慈円(人物叢書) …… 88
ジェンダー史を学ぶ〔長野ひろ子著〕 …… (06.11)品切
慈圓の研究 …… 193
持戒の聖者 叡尊・忍性(日本の名僧)
〔松尾剛次編〕 …… (04.11)品切
史学・史学方法論(久米邦武歴史著作集)
〔久米邦武著〕 …… (90.12)品切
慈覚大師伝の研究 …… 207
時間の古代史(歴史文化ライブラリー) …… 53
史記雛題〈上・中・下〉(懐徳堂文庫復刻叢書)
〔大阪大懐徳堂文庫復刻刊行会監修〕 …… (91.3)品切
重光 葵(人物叢書) …… 102
重光葵と戦後政治 …… 205
四国・九州地方の荘園 付絵索引(講座 日本荘園史)
〔網野善彦・石井 進・稲垣泰彦・永原慶二編〕 … (05.2)品切
地獄と極楽(歴史文化ライブラリー) …… 29
四国の名城を歩く 全2冊 …… 140
四国の名城を歩く 徳島・香川編 …… 140
四国遍路(歴史文化ライブラリー) …… 54
地獄を二度も見た天皇 光厳院(歴史文化ライブラリー) 38
死者たちの中世 …… 123
死者のはたらきと江戸時代(歴史文化ライブラリー) …… 59
寺社をささえる人びと(身分的周縁と近世社会)
〔吉田伸之編〕 …… (07.5)品切
時宗成立史の研究〔今井雅晴著〕 …… (85.11)品切
時宗の成立と展開(日本宗教史研究叢書) …… 210
治承・寿永の内乱と平氏(敗者の日本史) …… 19
詩序集 下〔宮内庁書陵部編〕 …… (75.4)品切
史書を読む(読みなおす日本史) …… 143
地震の社会史(読みなおす日本史)〔北原糸子著〕 (13.4)品切
史跡で読む日本の歴史 全10巻 …… 22
史跡保存の軌跡〔平野邦雄著〕 …… (04.11)品切
史跡名勝天然記念物調査報告(1)
〔文化財保護委員会編〕 …… (57.4)品切
私説 柳田國男 …… 286
自然利用と破壊(環境の日本史) …… 21
自然を生きる技術(歴史文化ライブラリー) …… 43
「時代映画」の誕生 …… 137
時代劇と風俗考証(歴史文化ライブラリー) …… 43
時代劇の見方・楽しみ方〔大石 学著〕 …… (13.8)品切
七支刀と広開土王碑(古代史演習)〔佐伯有清著〕 (77.4)品切
七代目市川團十郎の史的研究 …… 255
侍中群要 …… 214
詩雛題(懐徳堂文庫復刻叢書)
〔大阪大懐徳堂文庫復刻刊行会監修〕 …… (95.5)品切
志筑忠雄(人物叢書) …… 102
失業と救済の近代史(歴史文化ライブラリー) …… 55
十訓抄(新訂増補 国史大系) …… 177
執権政治(現代語訳 吾妻鏡) …… 12
執権時頼と廻国伝説(歴史文化ライブラリー) …… 27
知っておきたい 日本史の名場面事典 …… 168
知っておきたい 日本の年中行事事典
〔福田アジオ・菊池健策・山崎祐子・常光 徹・福原敏男著〕
(12.2)品切

書名索引

知っておきたい 日本の名言・格言事典 …… 168
知っておきたい 名僧のことば事典 …… 168
幣原喜重郎(人物叢書) …… 99
事典 江戸の暮らしの考古学〔古泉 弘編〕 ……(13.12)品切
事典 観桜会・観菊会全史 …… 258
事典 絹と木綿の江戸時代〔山脇悌二郎著〕 …… (02.6)品切
事典 古代の祭祀と年中行事 …… 165
史伝 後鳥羽院 (新装版) …… 119
事典 昭和戦後期の日本 …… 219
事典 昭和戦前期の日本 …… 164
事典 神社の歴史と祭り …… 165
事典 太平洋戦争と子どもたち …… 167
事典 日本古代の道と駅 …… 166
事典 日本の年号 …… 159
事典 日本の仏教〔萎輪顕量編〕 …… (14.2)品切
事典 日本の名僧〔今泉淑夫編〕 …… (05.1)品切
四天王寺(埋蔵文化財発掘調査報告)
〔文化財保護委員会編〕 …… (67.5)品切
事典 墓の考古学 …… 166
事典 人と動物の考古学 …… 166
事典 有名人の死亡診断 近代編〔服部敏良著〕… (10.5)品切
事典 陵墓参考地 …… 219
地頭(研究史)〔関 幸彦著〕 …… (83.9)品切
持統女帝と皇位継承(歴史文化ライブラリー) …… 49
持統天皇(人物叢書) …… 84
児童福祉の戦後史 …… 138
志登支石墓群(埋蔵文化財発掘調査報告)
〔文化財保護委員会編〕 …… (56.7)品切
死と豊穣の民俗文化(日本歴史民俗叢書)
〔藤森裕治著〕 …… (00.1)品切
品川弥二郎(人物叢書) …… 102
信濃国分寺(本編)〔上田市教育委員会編〕 …… (74.5)品切
信濃国分寺跡
〔内藤政恒・大川清・稲垣晋也・坂詰秀一執筆〕 (65.3)品切
信濃中世史考〔小林計一郎著〕 …… (82.5)品切
信濃国の南北朝内乱(歴史文化ライブラリー) …… 74
信濃国埴科郡下戸倉村名主 坂井家文書目録 …… 273
次男坊たちの江戸時代(歴史文化ライブラリー) …… 47
老舗の伝統と〈近代〉〔塚原伸治著〕 ……(14.10)品切
支配と文字(文字と古代日本)
〔平川 南・沖森卓也・栄原永遠男・山中 章編〕 (04.12)品切
支配をささえる人々(シリーズ近世の身分的周縁)
〔久留島浩編〕 …… (00.10)品切
柴 五郎(人物叢書) …… 102
斯波義将(人物叢書) …… 101
ジパングと日本〔的場節子著〕 …… (07.8)品切
渋沢栄一(人物叢書) …… 99
しぶらの里〔西山松之助著〕 …… (82.6)品切
紙幣肖像の近現代史〔植村 峻著〕 …… (15.6)品切
島井宗室(人物叢書) …… 91
島国の原像(読みなおす日本史) …… 143
島地黙雷(人物叢書) …… 102
島津家(家からみる江戸大名) …… 4
島津重豪(人物叢書) …… 94
島津氏と薩摩藩の歴史 …… 128
島津氏の研究(戦国大名論集)〔福島金治編〕……(83.11)品切
島津斉彬(人物叢書) …… 95
島津斉彬文書 全3巻 …… 214
島津久光(人物叢書) …… 102
志摩の民俗(民俗総合調査報告シリーズ)
〔和歌森太郎編〕 …… (65.3)品切
島原の乱とキリシタン(敗者の日本史) …… 20
清水市史 全9冊〔清水市市史編さん委員会編〕 (70.11)品切
市民のなかの博物館 …… 141
下北・渡島と津軽海峡(街道の日本史)
〔浪川健治編〕 …… (01.7)品切
下田歌子(人物叢書) …… 102
写経所文書の基礎的研究〔山本幸男著〕 …… (02.2)品切
釈日本紀(新訂増補 国史大系) …… 177
釈日本紀 全30冊〔尊経閣文庫編刊〕 …… (75.3)品切
写真集 尾張徳川家の幕末維新 …… 258
写真集 関東大震災 …… 259
写真集 近代皇族の記憶 …… 258
写真集 大正の記憶〔学習院大学史料館編〕 …… (11.9)品切
写真集 日本近代化へのまなざし …… 258
写真集 明治の記憶 …… 258
写真と解説 史跡名勝天然記念物 西日本の部
〔平間・黒板・斎藤・吉川編〕 …… (57.6)品切
写真と解説 史跡名勝天然記念物 東日本の部
〔平間・黒板・斎藤・吉川編〕 …… (57.4)品切
朱印船(日本歴史叢書)〔永積洋子著〕 ……(01.10)品切
朱印船貿易史の研究(新版) …… 192
周易雛題(懐徳堂文庫復刻叢書)
〔大阪大懐徳堂文庫復刻刊行会監修〕 …… (97.3)品切
祝儀・吉書・呪符(中世史研究選書)〔中野豈任著〕 (88.4)品切
十九世紀日本の対外関係 …… 252
宗教・思想・文化(日本近世史を見通す) …… 3
宗教社会史の構想(歴史文化ライブラリー) …… 27
宗教制度史(豊田武著作集) …… 212
宗教の受容と交流(日本宗教史) …… 267
宗教の融合と分離・衝突(日本宗教史) …… 267
集古十種 全4巻 …… 218
銃後の社会史(歴史文化ライブラリー) …… 43
修史と史学(坂本太郎著作集) …… 212
自由主義は戦争を止められるのか(歴史文化ライブラリー)
〔上田美和著〕 …… (16.6)品切
十七世紀日本の秩序形成 …… 252
「自由の国」の報道統制(歴史文化ライブラリー) …… 60
18 – 19 世紀東トルキスタン社会史研究
〔佐口 透著〕 …… (63.3)品切
終末期古墳と古代国家(古代を考える)
〔白石太一郎編〕 …… (05.4)品切
終末期古墳と横口式石槨〔山本 彰著〕 …… (07.1)品切
自由民権運動の系譜(歴史文化ライブラリー) …… 51
自由民権と近代社会(日本の時代史) …… 15
自由民権と明治憲法(近代日本の軌跡)
〔江村栄一編〕 …… (95.5)品切
重要文化財 赤間神宮文書〔赤間神宮編〕 …… (90.12)品切
集落と衣食住(日本考古学論集)〔斎藤 忠編集〕 (86.10)品切
宿場の日本史(歴史文化ライブラリー) …… 43
宿命の将軍 徳川慶喜〔藤井貞文著〕 …… (83.6)品切
修験がつくる民俗史(日本歴史民俗叢書) …… 176
「主権国家」成立の内と外(日本近代の歴史) …… 130
守護領国体制の研究〔畑井 弘著〕 …… (75.10)品切
朱舜水(人物叢書) …… 92
首相になれなかった男たち〔村瀬信一著〕 …… (14.9)品切
出土文字資料の新展開(歴史研究の最前線)
〔永嶋正春編〕 …… (05.3)品切
首都改造(歴史文化ライブラリー) …… 71
首都京都と室町幕府(京都の中世史) …… 6
首都東京の近代化と市民社会〔中嶋久人著〕……(10.12)品切
首都の経済と室町幕府 …… 243
首都防空網と〈空都〉多摩(歴史文化ライブラリー) …… 58
樹皮の文化史(歴史文化セレクション)
〔名久井文明著〕 …… (11.1)品切
〈主婦〉の誕生 …… 135
呪法と祭祀・信仰(日本考古学論集)
〔斎藤 忠編集〕 …… (86.10)品切

樹木と暮らす古代人(歴史文化ライブラリー) …… 65
春記〔宮内庁書陵部編〕 …… (76.3)品切
春秋戦国時代青銅器の研究(殷周青銅器綜覧)
〔林 巳奈夫著〕 …… (89.1)品切
俊乗房重源史料集成 …… 271
俊乗房重源史料集成〔小林 剛編〕 …… (65.6)品切
松陰の木棚(歴史文化ライブラリー) …… 65
荘園(日本歴史叢書) …… 103
荘園研究の論点と展望 …… 240
荘園史研究ハンドブック(増補新版) …… 121
荘園支配構造の研究〔仲村 研著〕 …… (78.6)品切
荘園 荘園制と中世村落(永原慶二著作選集)
〔永原慶二著〕 …… (07.10)品切
荘園史料叢書 全7冊〔竹内理三編〕 …… (75.3)品切
荘園制的領域支配と中世村落 …… 241
荘園制と中世村落〔島田次郎著〕 …… (01.8)品切
荘園制と武家社会〔竹内理三博士還暦記念会編〕(69.6)品切
荘園入門(講座 日本荘園史)
〔網野善彦・石井進・稲垣泰彦・永原慶二編〕 … (89.7)品切
荘園の構造(講座 日本荘園史)
〔網野・石井・稲垣・永原編〕 …… (03.5)品切
荘園の在地構造と経営 …… 191
荘園の商業(日本歴史叢書)〔佐々木銀弥著〕 …… (96.1)品切
荘園の成立と領有(講座 日本荘園史)
〔網野善彦・石井進・稲垣泰彦・永原慶二編〕 … (91.2)品切
荘園分布図〈上・下〉〔竹内理三編〕 …… (75.5)品切
唱歌「蛍の光」と帝国日本(歴史文化ライブラリー) …… 76
城下町(日本歴史叢書)〔松本四郎著〕 …… (13.1)品切
城下町の歴史地理学的研究 増訂版
〔松本豊寿著〕 …… (67.6)品切
貞観交替式(新訂増補 国史大系) …… 178
貞観政要の研究〔原田種成著〕 …… (65.3)品切
将棋の日本史(歴史文化ライブラリー) …… 83
承久の乱(現代語訳 吾妻鏡) …… 12
承久の乱と後鳥羽院(敗者の日本史) …… 19
上宮聖徳太子伝補闕記の研究(戊午叢書) …… 179
上宮聖徳法王帝説 注釈と研究
〔沖森卓也・佐藤 信・矢嶋 泉著〕 …… (05.3)品切
将軍権力の確立(日本近世の歴史) …… 126
将軍・執権・連署 …… 120
将軍追放(現代語訳 吾妻鏡) …… 13
将軍と執権(現代語訳 吾妻鏡) …… 13
昭憲皇太后実録 全3冊〔明治神宮監修〕 …… (14.4)品切
庄司吉之助著作集 全5巻 …… (81.10)品切
尚氏と首里城(人をあるく) …… 11
成尋(人物叢書) …… 87
成尋と参天台五臺山記の研究 …… 268
成尋の入宋とその生涯〔伊井春樹著〕 …… (96.6)品切
正倉院案内〔和田軍一著〕 …… (96.2)品切
正倉院と日本文化(歴史文化ライブラリー) …… 28
正倉院の歴史〔橋本義彦著〕 …… (97.11)品切
正倉院への道〔関根真隆著〕 …… (91.4)品切
正倉院宝物と東大寺献物帳 …… 236
正倉院宝物の歴史と保存〔米田雄介著〕 …… (98.9)品切
正倉院宝物銘文集成〈史料・図録〉〔松嶋順正編〕 (78.6)品切
正倉院宝物を10倍楽しむ …… 114
正倉院文書研究 …… 276
正倉院文書事項索引 …… 219
正倉院文書整理過程の研究 …… 237
正倉院文書と古代中世史料の研究 …… 237
正倉院文書と写経所の研究 …… 185
肖像画(日本歴史叢書)〔宮島新一著〕 …… (94.11)品切
肖像画の視線(歴史文化セレクション) …… 156
肖像選集〔日本歴史学会編〕 …… (62.11)品切
肖像彫刻(日本歴史叢書)〔小林 剛著〕 …… (95.10)品切
上代学制の研究〔桃 裕行著〕 …… (83.2)品切
上代官職制度の研究〔岩橋小弥太著〕 …… (62.9)品切
上代官吏制度の研究〔岩橋小弥太著〕 …… (64.6)品切
上代史籍の研究(増補) 上・下〔岩橋小弥太著〕… (56.1)品切
上代食貨制度の研究 第1・2集〔岩橋小弥太著〕 (68.5)品切
上代政治社会の研究〔林 陸朗著〕 …… (69.9)品切
上代彫刻史の研究〔町田甲一著〕 …… (77.5)品切
上代日本対外関係の研究〔栗原朋信著〕 …… (78.9)品切
上代の浄土教(日本歴史叢書)〔大野達之助著〕… (96.6)品切
高野山正智院経蔵史料集成 全3巻〔山本信吉編〕(04.9)品切
聖徳太子(人物叢書) …… 84
聖徳太子信仰の成立(古代史研究選書)
〔田中嗣人著〕 …… (83.12)品切
聖徳太子伝の研究(飯田瑞穂著作集)
〔飯田瑞穂著〕 …… (00.1)品切
聖徳太子と飛鳥仏教(歴史文化ライブラリー) …… 46
聖徳太子と飛鳥仏教(日本仏教宗史論集)
〔田村圓澄・川岸宏教編〕 …… (85.1)品切
聖徳太子と斑鳩三寺(人をあるく)〔千田 稔著〕… (16.7)品切
聖徳太子と菅原道真(坂本太郎著作集) …… 212
聖徳太子と東アジア世界〔川勝 守著〕 …… (02.12)品切
聖徳太子の研究〔大野達之助著〕 …… (70.5)品切
聖徳太子の研究(久米邦武歴史著作集)
〔久米邦武著〕 …… (88.3)品切
〈聖徳太子〉の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 30
聖徳太子の伝承〔藤井由紀子著〕 …… (99.8)品切
浄土宗の成立と展開(日本宗教史研究叢書) …… 211
浄土の聖者 空也(日本の名僧)〔伊藤唯真編〕 (04.12)品切
庄内藩(日本歴史叢書)〔斎藤正一著〕 …… (90.10)品切
証如・顕如(人物叢書) …… 102
娼婦と近世社会〈新装版〉 …… 127
聖宝(人物叢書) …… 86
情報覇権と帝国日本 全3冊 …… 131
勝鬘経義疏〔花山信勝校訳〕 …… (77.4)品切
聖武天皇(人物叢書) …… 101
聖武天皇が造った都(歴史文化ライブラリー) …… 56
将門記を読む(歴史と古典)〔川尻秋生編〕 …… (09.3)品切
縄文時代(歴博フォーラム)
〔山田康弘・国立歴史民俗博物館編〕 …… (17.3)品切
縄文時代の植物利用と家屋害虫 …… 278
縄文の暮らしを支えた植物たち(歴史文化ライブラリー) 83
縄文の実像を求めて(歴史文化ライブラリー) …… 31
縄文文明の環境(歴史文化ライブラリー)
〔安田喜憲著〕 …… (97.10)品切
条約改正と国内政治 …… 204
『小右記』と王朝時代 …… 116
醤油醸造業史の研究〔林 玲子編〕 …… (90.2)品切
条里制(日本歴史叢書)〔落合重信著〕 …… (67.11)品切
昭和期の内閣と戦争指導体制 …… 175
昭和史をさぐる(読みなおす日本史)〔伊藤 隆著〕 (14.1)品切
昭和新修華族家系大成 上・下
〔霞会館諸家資料調査委員会編〕 …… (82.2)品切
昭和戦時期の海軍と政治 …… 262
昭和戦時期の娯楽と検閲 …… 264
昭和戦前期の宮中勢力と政治 …… 204
昭和戦前期の日本(事典) …… 164
昭和戦前期の農村と満州移民〔高橋泰隆著〕… (97.12)品切
昭和戦争期の国民学校〔戸田金一著〕 …… (93.7)品切
昭和戦中期の議会と行政 …… 261
昭和戦中期の総合国策機関 …… 204
「昭和天皇実録」講義 …… 136
昭和天皇側近たちの戦争(歴史文化ライブラリー) …… 52
昭和天皇退位論のゆくえ(歴史文化ライブラリー) …… 60

書名索引

昭和天皇と近現代日本 …… 205
昭和天皇とスポーツ(歴史文化ライブラリー) …… 64
昭和天皇の帝王学(歴史文化ライブラリー) …… 83
昭和の代議士(読みなおす日本史)…… 151
昭和陸軍と政治(歴史文化ライブラリー) …… 72
昭和を騒がせた漢字たち(歴史文化ライブラリー) …… 47
初期絵巻物の風俗史の研究 (新装版)
〔鈴木敬三著〕…… (09.10)品切
初期社会主義資料 牟婁新報抄録
〔関山直太郎著〕……(59.11)品切
初期徳川氏の農村支配 …… 249
初期封建制の研究〔安田元久編〕 …… (64.3)品切
初期室町幕府訴訟制度の研究 …… 190
食事と作法(日本の食文化) …… 288
食と農(日本の民俗) …… 284
続日本紀(新訂増補 国史大系) …… 177
続日本紀 前・後篇(新訂増補 国史大系〔普及版〕)…… 169
続日本紀索引(六国史索引) …… 219
続日本紀宣命 校本・総索引〔北川和秀編〕…… (82.10)品切
続日本紀と奈良朝の政変〔中西康裕著〕…… (02.7)品切
続日本後紀(新訂増補 国史大系) …… 177
続日本後紀(新訂増補 国史大系〔普及版〕)
〔黒板勝美編輯〕…… (71.4)品切
職人・親方・仲間(シリーズ近世の身分的周縁)
〔塚田 孝編〕…… (00.8)品切
食の文化史(読みなおす日本史) …… 154
織豊期の政治構造〔三鬼清一郎編〕 …… (00.6)品切
織豊政権と東国社会〔竹井英文著〕 …… (12.5)品切
織豊政権と東国大名 …… 191
植民地期朝鮮の地域変容 …… 260
植民地建築紀行(歴史文化ライブラリー) …… 55
植民地神社と帝国日本 …… 205
植民地と戦争責任(戦争・暴力と女性) …… 110
植民地遊廓 …… 261
書誌学序説〔長沢規矩也著〕 …… (60.6)品切
女性官僚の歴史 …… 108
女性史と出会う(歴史文化ライブラリー) …… 35
女性史の視座(日本女性史論集)
〔総合女性史研究会編〕 …… (97.10)品切
女性と運動(日本女性史論集)
〔総合女性史研究会編〕 …… (98.7)品切
女性と宗教(日本女性史論集)
〔総合女性史研究会編〕 …… (98.2)品切
女性の暮らしと労働(日本女性史論集)
〔総合女性史研究会編〕 …… (98.3)品切
ジョセフ=ヒコ(人物叢書) …… 97
女帝・皇后と平城京の時代(読みなおす日本史) …… 143
書と古代日本(歴史文化ライブラリー) …… 83
書物と権力(歴史文化ライブラリー) …… 68
書物に魅せられた英国人(歴史文化ライブラリー) …… 40
白河天皇(人物叢書) …… 101
新羅国史の研究 …… 223
新羅と飛鳥・白鳳の仏教文化
〔田村圓澄・洪淳昶編〕…… (75.8)品切
新羅と日本古代文化〔田村圓澄・秦 弘燮編〕 ……(81.10)品切
新羅の政治と社会 上・下(末松保和朝鮮史著作集) …… 212
末松保和朝鮮史著作集 全6巻…… 212
新羅文化論攷〔斎藤 忠著〕…… (73.7)品切
シリーズ近代美術のゆくえ …… 294
シリーズ 遊廓社会 全2巻〔佐賀 朝・吉田伸之編〕(13.8)品切
史料が語る日本の近世〔大野 瑞男編〕 …… (02.9)品切
史料が語る 三井のあゆみ …… 273
史料館・文書館学への道〔安澤 秀一著〕…… (85.10)品切
史料・史跡と古代社会…… 238
寺領荘園の研究〔竹内理三著〕 …… (83.3)品切
史料にみる日本女性のあゆみ …… 108
史料による日本の歩み 近代編
〔児玉幸多・大久保利謙・箭内健次編〕 …… (51.9)品切
史料による日本の歩み 古代編
〔児玉幸多・関 晃・井上光貞編〕 …… (60.1)品切
史料による日本の歩み 中世編 …… 109
史料による日本の歩み 近世編
〔児玉幸多・箭内健次編〕…… (55.5)品切
史料の新しい可能性を探る(歴史研究の最前線)
〔高橋一樹編〕 …… (07.3)品切
史料による日本の歩み 近世編(新版) …… 109
史料保存と文書館学〔大藤 修・安藤正人著〕…… (86.9)品切
シルクロードに仏跡を訪ねて〔本多隆成著〕 ……(16.10)品切
シルクロード美術論集〔田辺勝美・堀 晄編〕 …… (87.2)品切
白木屋文書 諸問屋記録…… 273
白木屋文書 問屋株帳…… 273
城と城下 近江戦国誌(読みなおす日本史) …… 146
城破りの考古学〔藤木久志・伊藤正義編〕 …… (01.9)品切
城割の作法 …… 127
史論及史伝(鼎軒田口卯吉全集) …… (90.1)品切
心意と信仰の民俗〔筑波大学民俗学研究室編〕 (01.12)品切
秦漢史の研究〔栗原朋信著〕 …… (60.5)品切
神祇信仰の展開と仏教(中世史研究選書)
〔今堀太逸著〕 …… (90.10)品切
神祇制度史の基礎的研究〔梅田義彦著〕 …… (64.4)品切
新彊民族史研究〔佐口透著〕 …… (64.4)品切
新彊ムスリム研究〔佐口 透著〕 …… (95.2)品切
神宮教院大成(増補大神宮叢書)〔神宮司庁蔵版〕(12.7)品切
神宮近世奉賽拾要 前・後篇(増補大神宮叢書)…… 275
神宮参拝記大成(増補大神宮叢書)
〔神宮司庁蔵版〕 …… (07.7)品切
神宮神事考證 前・中・後篇(増補大神宮叢書)
〔神宮司庁蔵版〕 …… (06.10)品切
神宮神事考證 補遺 上・下(増補大神宮叢書)
〔神宮司庁蔵版〕 …… (10.8)品切
神宮神事図録(増補大神宮叢書) …… 275
神宮随筆大成 前・後篇(増補大神宮叢書)…… 275
神宮典略 前・中篇(増補 大神宮叢書)
〔神宮司庁蔵版〕 …… (05.4)品切
神宮典略 別冊(増補大神宮叢書)〔神宮司庁蔵版〕(06.1)品切
神宮年中行事大成 前・後篇(増補大神宮叢書)
〔神宮司庁蔵版〕 …… (07.10)品切
神宮年中行事大成 後篇(増補大神宮叢書) …… 275
神君家康の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 48
人権の思想史(歴史文化ライブラリー) …… 30
神功皇后(人物叢書)〔岡本堅次著〕 …… (59.7)品切
信仰と思想の統制(近世史の研究)
〔伊東多三郎著〕……(81.11)品切
新稿 日本史概論〔寶月圭吾・児玉幸多編〕…… (69.3)品切
新稿 日本女性史〔宮城栄昌・大井ミノブ編著〕 … (59.5)品切
新稿 日本仏教思想史〔大野達之助著〕 …… (73.5)品切
信仰のなかの動物たち(人と動物の日本史)
〔中村生雄・三浦佑之編〕 …… (09.4)品切
神社の起源と歴史 …… 108
神社の社会経済史的研究(小島鉦作著作集)
〔小島鉦作著〕 …… (87.2)品切
神社の本殿(歴史文化ライブラリー) …… 58
神社の歴史と祭り(事典) …… 165
神社領知制の研究(小島鉦作著作集)
〔小島鉦作著〕 …… (95.6)品切
真宗大谷派の革新運動 …… 269
新修 国分寺の研究 全7巻・8冊〔角田文衛編〕…(97.11)品切
新修 徳川家康文書の研究…… 202

真宗と民俗信仰(日本歴史民俗叢書) …… 222
真宗の宗教社会史〔有元正雄著〕 ……(95.11)品切
新抄格勒符抄(新訂増補 国史大系) …… 178
壬申の乱(戦争の日本史) …… 16
壬申の乱研究の展開〔星野良作著〕 …… (97.10)品切
壬申の乱 増補版(研究史)〔星野良作著〕 …… (78.1)品切
壬申の乱を読み解く(歴史文化ライブラリー) …… 51
新西洋史学史〔黒羽 茂著〕 …… (72.1)品切
神仙思想(日本歴史叢書)〔下出積與著〕…… (95.5)品切
新撰姓氏録の研究 全10冊 …… 181
親族と祖先(日本家族史論集)〔義江明子編〕……(02.11)品切
尋尊(人物叢書) …… 90
新耽奇会図録〔小出昌洋監修・加賀翠渓編集〕 (98.10)品切
信長公記を読む(歴史と古典) …… 296
新訂 華士族秩禄処分の研究〔深谷博治著〕 …… (73.3)品切
新訂増補 国史大系 全60巻 …… 177
新訂増補 国史大系〔普及版〕 …… 169
新訂増補 国史大系 月報 …… 220
新訂 徳川家康文書の研究(新装版) 全4巻 …… 249
新訂 日本考古学図鑑〔斉藤 忠著〕……(65.11)品切
新訂 幕藩体制史の研究〔藤野 保著〕…… (75.12)品切
寝殿造の研究(新装版)〔太田静六著〕 …… (10.7)品切
神道五部書(新訂増補 国史大系) …… 177
神道史叢説〔岩橋小弥太著〕 …… (71.9)品切
神道史大辞典 …… 165
神道の形成と中世神話 …… 268
神都物語(歴史文化ライブラリー) …… 62
真如親王伝研究(高丘親王伝考)〔杉本直治郎著〕(65.8)品切
親王将軍(現代語訳 吾妻鏡) …… 13
神皇正統記論考〔我妻建治著〕 ……(81.10)品切
秦の始皇帝(歴史文化ライブラリー) …… 37
信の念仏者 親鸞(日本の名僧)〔草野顕之編〕 … (04.2)品切
新版 鎌倉新仏教の成立(中世史研究選書)
〔松尾剛次著〕 …… (98.10)品切
新版 朱印船貿易史の研究 …… 192
新版 史料による日本の歩み 近世編 …… 109
新版 日本史史料〔日本史教育研究会編〕 …… (96.12)品切
新版 民俗調査ハンドブック …… 285
神仏交渉史研究〔櫻井徳太郎著〕 …… (68.2)品切
神仏交渉史の研究(櫻井徳太郎著作集)
〔櫻井徳太郎著〕 …… (87.8)品切
人物叢書(新装版) …… 84
人物で学ぶ日本古代史 全3巻 …… 116
人物で読む近代日本外交史
〔佐道明広・小宮一夫・服部龍二編〕 …… (09.1)品切
人物で読む現代日本外交史 …… 131
神仏と中世人(歴史文化ライブラリー) …… 70
神仏と文字(文字と古代日本)
〔平川 南・沖森卓也・栄原永遠男・山中 章編〕 (05.10)品切
神仏分離の地方的展開〔村田安穂著〕 …… (99.10)品切
人文地理の研究〔山崎光夫著〕 …… (52.4)品切
新編 日本史年表
〔阿部真琴・今井林太郎・井上薫編〕 …… (58.4)品切
神武天皇(研究史)〔星野良作著〕 ……(80.11)品切
新・桃太郎の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 32
新夜鶴抄(1帖) …… 275
〈新〉弥生時代(歴史文化ライブラリー) …… 55
親鸞(人物叢書) …… 88
親鸞(読みなおす日本史) …… 152
親鸞(歴史文化ライブラリー) …… 27
親鸞(日本名僧論集)〔千葉乗隆・細川行信編〕 … (83.5)品切
親鸞〔新保 哲著〕…… (85.1)品切
親鸞聖人と真宗(日本仏教宗史論集)
〔千葉乗隆・幡谷 明編〕 …… (85.4)品切
親鸞と浄土真宗 …… 208
親鸞と歎異抄(歴史文化ライブラリー) …… 61
親鸞と東国(人をあるく) …… 10
親鸞と東国門徒 …… 208
親鸞の思想構造序説(中世史研究選書)
〔市川浩史著〕 …… (87.2)品切
親鸞の生涯と思想 …… 268
親鸞の信仰と呪術 …… 175
人類学的文化像〔西村朝日太郎著〕 …… (60.4)品切
神話と古事記・日本書紀(直木孝次郎 古代を語る)
〔直木孝次郎著〕 …… (08.12)品切
神話と歴史(歴史文化セレクション)
〔直木孝次郎著〕 …… (06.5)品切
神話と歴史教育〔吉村徳蔵著〕 …… (73.6)品切

ス

推古天皇(人物叢書) …… 101
水洗トイレは古代にもあった(新装版) …… 114
随筆及感想(鼎軒田口卯吉全集) …… (90.1)品切
水墨画にあそぶ(歴史文化ライブラリー)
〔高橋範子著〕 …… (05.9)品切
水墨画・墨蹟の魅力 …… 290
数奇と無常〔目崎徳衛著〕 …… (88.12)品切
枢密院の研究〔由井正臣編〕 …… (03.1)品切
図解案内 日本の民俗 …… 285
菅江真澄(人物叢書) …… 94
巣鴨日記 正・続(合本新装版) …… 264
スガモプリズン(歴史文化ライブラリー) …… 41
スカルノ(歴史文化ライブラリー) …… 35
菅原道真(人物叢書) …… 86
菅原道真と大宰府天満宮 上・下
〔太宰府天満宮文化研究所編〕 …… (75.2)品切
杉田玄白(人物叢書) …… 94
すくいの神とお富士さん(宮田登 日本を語る) …… 289
調所広郷(人物叢書) …… 95
鈴木貫太郎(人物叢書) …… 102
図説 元興寺の歴史と文化財 …… 114
図説 人文地理〔木内信蔵著〕 …… (54.7)品切
図説 日本民俗学 …… 285
ステップアップ 古文書の読み解き方 …… 276
捨聖 一遍(歴史文化ライブラリー) …… 30
スペイン・ポルトガルの古城(新装版)(世界の城郭)
〔太田静六著〕 ……(10.10)品切
すべての道は平城京へ(歴史文化ライブラリー) …… 54
スポーツの日本史(歴史文化ライブラリー) …… 79
角倉素庵(読みなおす日本史) …… 149
図録古代出雲文化集成〔島根県教育委員会編〕 (98.9)品切
図録東西文化交流史跡〔斎藤 忠著〕 …… (78.7)品切
図録東寺百合文書(正・続)
〔京都府立総合資料館編〕 …… (70.12)品切
図録東洋仏教遺跡〔斎藤 忠著〕 …… (75.7)品切

セ

世阿弥(人物叢書) …… 89
征夷大将軍(現代語訳 吾妻鏡) …… 12
西欧人の日本発見〔岸野 久著〕 …… (89.10)品切
政界の導者 天海・崇伝(日本の名僧)
〔圭室文雄編〕 …… (04.7)品切
生活道具の民俗考古学 …… 287
生業から見る日本史(歴博フォーラム) …… 141
生業・生産と技術(日本考古学論集)
〔斎藤 忠編集〕…… (86.12)品切

生産技術と物質文化(日本歴史民俗論集)
〔木下 忠・網野善彦・神野善治編〕 …… (93.4)品切
政治(鼎軒田口卯吉全集) …… (90.1)品切
姓氏・家紋・花押(読みなおす日本史) …… 151
政治と女性(日本女性史論集)
〔総合女性史研究会編〕 ……(97.11)品切
清少納言(人物叢書) …… 86
政事要略(新訂増補 国史大系) …… 178
政事要略(新訂増補 国史大系〔普及版〕)
〔黒板勝美編輯〕 …… (64.9)品切
精選 日本民俗辞典 …… 167
成長と人生(日本の民俗) …… 284
青銅器が変えた弥生社会(歴史文化ライブラリー) …… 81
青銅器のマツリと政治社会(弥生時代政治史研究) …… 280
性と身体(日本女性史論集)
〔総合女性史研究会編〕 …… (98.6)品切
制度と実態(日本古代の交通・交流・情報) …… 239
姓と日本古代国家〔湊 敏郎著〕 …… (89.10)品切
西南戦争(歴史文化ライブラリー) …… 48
西南戦争と西郷隆盛(敗者の日本史) …… 20
西南戦争の考古学的研究 …… 282
西南の役薩軍口供書〔小寺鉄之助著〕 …… (67.5)品切
聖母の都市シエナ〔石鍋真澄著〕 …… (88.4)品切
西洋史学史概説〔小木曽公著〕 …… (62.9)品切
西洋史学思想史〔黒羽 茂著〕 …… (70.10)品切
西洋史潮〔山中謙二著〕 …… (70.5)品切
西洋史要説 新稿版(今来陸郎著) …… (58.4)品切
西洋史夜話〔亀井高孝著〕 …… (53.4)品切
西洋美術史要説〔嘉門安雄編〕 ……(58.11)品切
西洋歴史(概説) 上・下〔亀井高孝・林健太郎著〕 (52.1)品切
清和天皇(人物叢書) …… 85
世界遺産 宗像・沖ノ島 …… 114
世界史掛図(標準) 全 24 軸〔亀井高孝・三上次男編〕 品切
世界史辞典(標準)〔三上次男・秀村欣二編〕 …… (68.2)品切
世界史辞典(標準)〔三上次男・秀村欣二編〕 …… (68.2)品切
世界史新地図(年表索引付)
〔亀井高孝・三上次男・堀米庸三編〕 …… (68.3)品切
世界史地図(索引付)
〔亀井高孝・三上次男・堀米庸三編〕 …… (53.3)品切
世界史年表
〔亀井高孝・三上次男・林健太郎・堀米庸三編〕 (53.3)品切
世界史年表・地図(2024 年版) …… 297
世界史の教室 上・下
〔前嶋信次・三上次男・吉岡力編〕 …… (65.6)品切
世界史の再建〔酒井三郎著〕 …… (58.5)品切
世界史のなかの沖縄返還(歴史文化ライブラリー) …… 80
世界史のなかの天正遣欧使節 …… 121
世界史の中の日露戦争(戦争の日本史) …… 18
世界史の認識と民衆〔土井正興著〕 …… (76.5)品切
世界史の変革〔謝 世輝著〕 …… (88.7)品切
世界の中の近代日本と東アジア …… 259
世界のなかの日本宗教(日本宗教史) …… 267
世界の中の明治維新(幕末維新論集)
〔田中 彰編〕 ……(01.12)品切
世界の文字の図典〔普及版〕 …… 168
世界文化遺産 法隆寺(歴史文化ライブラリー) …… 24
関晃先生還暦記念 日本古代史研究
〔関晃教授還暦記念会編〕 …… (80.9)品切
関晃著作集 全 5 巻 …… 212
関ヶ原合戦と石田三成(敗者の日本史) …… 20
関ヶ原合戦と大坂の陣(戦争の日本史) …… 18
【逸話編】 関ヶ原と家康の死(現代語訳徳川実紀)
〔大石 学・佐藤宏之・小宮山敏和・野口朋隆編〕 (11.10)品切
関ヶ原の勝利(現代語訳徳川実紀 家康公伝)
〔大石 学・佐藤宏之・小宮山敏和・野口朋隆編〕 (10.12)品切
摂関家の中世(歴史文化ライブラリー) …… 73
摂関時代史の研究〔古代学協会編〕 …… (65.6)品切
摂関時代史論集〔黒板伸夫著〕 …… (80.9)品切
摂関時代と古記録〔山中 裕編〕 …… (91.6)品切
摂関政治から院政へ(京都の中世史) …… 5
摂関政治史論考 …… 182
摂関政治と王朝貴族 …… 170
摂関政治と王朝文化(日本の時代史) …… 14
摂関政治と菅原道真(敗者の日本史) …… 19
摂関政治と地方社会(日本古代の歴史) …… 110
摂関制の成立と展開 …… 182
雪舟(人物叢書) …… 101
殺生と往生のあいだ(歴史文化ライブラリー) …… 63
摂政頼通(現代語訳 小右記) …… 9
瀬戸内諸島と海の道(街道の日本史)〔山口 徹編〕 (01.9)品切
銭の考古学(歴史文化ライブラリー) …… 37
戦間期の日本海軍と統帥権 …… 262
選挙違反の歴史(歴史文化ライブラリー) …… 46
前近代日本の交通と社会(日本交通史への道 1)
〔丸山雍成著〕 ……(18.11)品切
前近代の国際交流と外交文書 …… 192
前近代の日本と東アジア〔田中健夫編〕 …… (95.1)品切
前九年・後三年合戦と奥州藤原氏(歴史文化ライブラリー) 83
前九年・後三年合戦と兵の時代(東北の古代史) …… 111
戦後沖縄生活史事典 …… 167
戦後改革と逆コース(日本の時代史) …… 16
戦後改革と民主主義 …… 206
戦後教育のなかの〈国民〉〔小国喜弘著〕 …… (07.9)品切
戦国期小田原城の正体(歴史文化ライブラリー) …… 79
戦国期権力と地域社会〔有光友學編〕 …… (86.1)品切
戦国期社会の形成と展開(中世史研究選書)
〔宮島敬一著〕 ……(96.11)品切
戦国貴族の生き残り戦略(歴史文化ライブラリー) …… 62
戦国期東国社会論〔戦国史研究会編〕 …… (90.12)品切
戦国期東国の宗教と社会 …… 245
戦国期日本の対明関係 …… 246
戦国期の貨幣と経済 …… 193
戦国期の真宗と一向一揆〔新行紀一編〕 ……(10.11)品切
戦国期の政治経済構造 戦国大名と都市
(永原慶二著作選集)〔永原慶二著〕 …… (07.12)品切
戦国期の村落と領主権力 …… 245
戦国期の地域社会と権力 …… 245
戦国期の徳政と地域社会 …… 190
戦国期風俗図の文化史 …… 290
戦国期北部九州の城郭構造 …… 244
戦国期細川権力の研究 …… 244
戦国期室町幕府と将軍 …… 189
戦国史研究 …… 299
戦国時代
〔永原慶二・ジョンホール・コーゾーヤマムラ編〕(78.11)品切
戦国時代狩野派の研究 (新装版) …… 292
戦国時代の足利将軍(歴史文化ライブラリー) …… 55
戦国時代の終焉(読みなおす日本史) …… 147
戦国時代の自力と秩序 …… 245
戦国時代の南奥羽社会 …… 191
戦国織豊期の貨幣と石高制 …… 192
戦国・織豊期の権力と社会〔本多隆成編〕 …… (99.9)品切
戦国織豊期の社会と儀礼〔二木謙一編〕 …… (06.4)品切
戦国・織豊期の社会と文化〔下村 效著〕 …… (82.9)品切
戦国・織豊期の徳政(中世史研究選書)
〔下村信博著〕 …… (96.8)品切
戦国人名辞典 …… 162
戦国人名辞典〔高柳光寿・松平年一著〕 …… (62.12)品切

戦国争乱と東海の大名(東海の中世史)…… 2
戦国大名 朝倉氏(歴史文化ライブラリー)…… 83
戦国大名尼子氏の研究 …… 244
戦国大名今川氏と葛山氏 …… 244
戦国大名今川氏と領国支配 …… 190
戦国大名今川氏の研究 …… 190
戦国大名大友氏の館と権力 …… 244
戦国大名から将軍権力へ〔所 理喜夫編〕 …… (00.3)品切
豊臣大名 小早川隆景(歴史文化ライブラリー)…… 83
戦国大名佐竹氏(歴史文化ライブラリー) …… 83
戦国大名島津氏の領国形成(中世史研究選書)
〔福島金治著〕 …… (88.12)品切
戦国大名と一揆(日本中世の歴史)…… 117
戦国大名と職人(中世史研究選書)〔笹本正治著〕 (88.7)品切
戦国大名の危機管理(歴史文化ライブラリー)
〔黒田基樹著〕 …… (05.10)品切
戦国大名の教養(歴史文化ライブラリー) …… 83
戦国大名の研究(戦国大名論集)〔永原慶二編〕… (83.7)品切
戦国大名の権力構造 …… 190
戦国大名の兵粮事情(歴史文化ライブラリー) …… 63
戦国大名北条氏の歴史 …… 124
戦国大名毛利家の英才教育(歴史文化ライブラリー) … 70
戦国大名毛利氏の研究 …… 190
戦国大名領国の権力構造 …… 244
戦国大名論集 全18巻〔永原慶二監修〕 …… (83.7)品切
戦国の金山(歴史文化ライブラリー) …… 83
戦国のコミュニケーション (新装版) …… 124
戦国の時代(史跡で読む日本の歴史)…… 22
戦国の城攻めと忍び …… 123
戦国の城の一生(歴史文化ライブラリー) …… 68
戦国の地域国家(日本の時代史) …… 14
戦国武将・合戦事典〔峰岸純夫・片桐昭彦編〕…… (05.2)品切
戦国武将と茶の湯(読みなおす日本史)
〔米原正義著〕 …… (14.7)品切
戦国武将のこころ〔笹川祥生著〕…… (04.8)品切
戦国仏教(読みなおす日本史) …… 153
戦国末期の足利将軍権力 …… 243
戦国乱世の都(京都の中世史) …… 6
戦国を生きた公家の妻たち(歴史文化ライブラリー) … 50
戦後経験を生きる(近現代日本社会の歴史) …… 134
戦後政治と自衛隊(歴史文化ライブラリー) …… 44
戦後日米関係と安全保障 …… 175
戦後日本の教科書問題 …… 264
戦後日本の防衛と政治〈増補新版〉 …… 263
戦後の邪馬台国(研究史)〔佐伯有清著〕…… (72.10)品切
戦後文学のみた〈高度成長〉(歴史文化ライブラリー) … 72
戦時下の日本映画〈新装版〉 …… 133
戦時議会(日本歴史叢書)〔古川隆久著〕…… (01.2)品切
戦時期日本の翼賛政治 …… 261
戦死者たちの源平合戦(歴史文化ライブラリー) …… 78
戦死者霊魂のゆくえ〔岩田重則著〕…… (03.4)品切
禅宗官寺制度の研究 …… 209
禅宗地方展開史の研究 …… 209
禅宗と室町文化(歴史文化ライブラリー) …… 83
禅宗の地方発展 …… 209
禅宗の歴史(読みなおす日本史) …… 153
禅定寺文書〔古代学協会編〕 …… (79.2)品切
〈染織の都〉京都の挑戦(歴史文化ライブラリー) …… 83
戦前期日本と東南アジア …… 204
戦前期日本のポスター(シリーズ近代美術のゆくえ)…… 294
戦前日本の小麦輸入 …… 261
戦争孤児たちの戦後史 全3巻 …… 138
浅草寺誌(全)〔浅草寺編〕 …… (92.12)品切
浅草寺日記 …… 275
禅僧たちの室町時代〔今泉淑夫著〕 ……(10.10)品切
戦争とトラウマ …… 263
戦争とハンセン病(歴史文化ライブラリー) …… 51
戦争とファシズムの時代へ(日本近代の歴史) …… 130
戦争と放送(読みなおす日本史)…… 151
戦争に隠された「震度7」(新装版) …… 133
戦争の日本史 全23巻 …… 16
戦争・暴力と女性 全3巻 …… 110
先代旧事本紀(新訂増補 国史大系) …… 177
先代旧事本紀の研究 研究の部 …… 179
先代旧事本紀の研究 校本の部 …… 179
仙台藩の名産品(歴史文化ライブラリー) …… 83
仙台・松島と陸前諸街道(街道の日本史)
〔難波信雄・大石直正編〕……(04.11)品切
禅と地域社会〔広瀬良弘編〕 …… (09.3)品切
禅と天神〔今泉淑夫・島尾 新編〕……(00.11)品切
千 宗旦(人物叢書)…… 102
千 利休(人物叢書)…… 90
前方後円墳(歴史文化ライブラリー) …… 83
前方後円墳と東国社会(古代の東国) …… 111
戦没者遺骨収集と戦後日本 …… 262
戦没者合祀と靖国神社 …… 133
戦乱と人物〔高柳光寿博士頌寿記念会編〕 …… (68.2)品切
戦乱の中の情報伝達(歴史文化ライブラリー) …… 59
占領から独立へ(現代日本政治史)〔楠 綾子著〕 (13.9)品切
占領と戦後改革(近代日本の軌跡)〔中村政則編〕 (94.2)品切

ソ

宗祇(人物叢書) …… 89
葬儀と墓の現在〔国立歴史民俗博物館編〕 … (02.12)品切
〈総合資料学〉の挑戦〔国立歴史民俗博物館編〕 (17.3)品切
葬式と檀家(歴史文化ライブラリー) …… 30
葬式は誰がするのか …… 286
總持寺の歴史〈増補新版〉 …… 105
荘子雕題(懐徳堂文庫復刻叢書)
〔大阪大懐徳堂文庫復刻刊行会監修〕 …… (98.4)品切
装飾古墳が語るもの〔国立歴史民俗博物館編〕… (95.7)品切
装飾古墳の研究〔斎藤 忠著〕 …… (52.4)品切
相続と家産(日本家族史論集)
〔永原和子・義江明子編〕…… (03.1)品切
宋代塩業史の基礎研究〔河上光一著〕 …… (92.5)品切
宋代政経史の研究〔曽我部静雄著〕 …… (74.3)品切
宋代の経済生活(ユーラシア文化史選書)
〔河上光一著〕 …… (66.10)品切
増訂 織田信長文書の研究 全3巻 …… 193
増訂 鎌倉幕府裁許状集 全2巻 …… 187
増訂 畿内庄園の基礎構造〈上・下〉〔渡辺澄夫著〕(69.10)品切
増訂 古伊万里の誕生…… 292
増訂 中国仏教彫刻史研究〔松原三郎著〕 …… (61.1)品切
増訂 明治維新の国際的環境〔石井 孝著〕 ……(66.11)品切
増訂 律令太政官制の研究〔武光 誠著〕…… (07.7)品切
贈答と宴会の中世(歴史文化ライブラリー) …… 48
僧兵盛衰記(読みなおす日本史) …… 144
増補 吾妻鏡の方法 (新装版) …… 120
増補 元興寺編年史料 全3巻 …… 214
増補新訂 足利学校の研究 (新装版)…… 277
増補大神宮叢書 …… 275
相馬一族の中世(歴史文化ライブラリー) …… 81
宗 義智(人物叢書) …… 102
総力戦体制下の満洲農業移民〔玉 真之介著〕 …(16.8)品切
総力戦とデモクラシー(戦争の日本史) …… 18
総力戦のなかの日本政治(日本近代の歴史) …… 130
副島種臣(人物叢書) …… 97

蘇我氏と飛鳥(人をあるく)…… 10
蘇我氏と古代国家(古代を考える)…… 155
蘇我氏と大和王権(古代史研究選書)
〔加藤謙吉著〕…… (83.12)品切
蘇我氏の興隆と聖徳太子(歴史文化ライブラリー) …… 83
蘇我馬子(人物叢書) …… 101
蘇我蝦夷・入鹿(人物叢書)…… 84
曽我物語の史実と虚構(歴史文化ライブラリー) …… 34
曽我物語の史的研究 …… 173
続・沖縄戦を知る事典…… 166
続佐賀藩の総合研究〔藤野 保編〕…… (87.2)品切
続左丞抄(新訂増補 国史大系) …… 178
続史愚抄 全3冊(新訂増補 国史大系)…… 177
続荘園制と武家社会
〔竹内理三博士古稀記念会編〕…… (78.1)品切
続縄文文化の資源利用 …… 278
俗信の世界(宮田登 日本を語る) …… 289
続・東北の名城を歩く 全2冊…… 139
続徳川実紀 全5冊(新訂増補 国史大系)…… 178
続日本古代史論集 上・中・下
〔坂本太郎博士古稀記念会編〕…… (72.6)品切
続日本随筆大成 全12巻 …… 227
続日本随筆大成 別巻・全12巻 …… 228
続律令国家と貴族社会
〔竹内理三博士古稀記念会編〕…… (78.1)品切
祖先崇拝の比較民俗学〔竹田 旦著〕…… (95.1)品切
その後の東国武士団(歴史文化ライブラリー) …… 55
徂徠学の基礎的研究〔今中寛司著〕…… (66.9)品切
それぞれの明治維新〔佐々木 克編〕…… (00.8)品切
それでも江戸は鎖国だったのか(歴史文化ライブラリー) 49
尊卑分脈 全5冊(新訂増補 国史大系)…… 178
尊卑分脈 全5冊(新訂増補 国史大系〔普及版〕)
〔黒板勝美編輯〕…… (57.5)品切
尊卑分脈索引(新訂増補 国史大系) …… 178
尊卑分脈索引(新訂増補国史大系本) …… (67.3)品切
村落同族祭祀の研究〔竹田聴洲著〕 …… (77.10)品切

タ

第一次世界大戦と日本参戦(歴史文化ライブラリー) … 78
大王墓と前方後円墳 …… 221
対外関係史研究のあゆみ〔田中健夫著〕…… (03.6)品切
対外関係史辞典 …… 168
対外関係史総合年表 …… 169
対外関係と政治文化 全3冊
〔森克己博士古稀記念会編〕…… (74.2)品切
大学アーカイブズの成立と展開…… 264
大学で学ぶ 沖縄の歴史…… 106
大学で学ぶ 東北の歴史…… 106
大学でまなぶ日本の歴史 …… 106
大学日本史 全6冊
〔阿部真琴・今井林太郎・井上薫編〕 …… (58.4)品切
大化前代社会組織の研究(日本史学研究叢書) …… 179
大化前代政治過程の研究(日本史学研究叢書) …… 179
大化改新(坂本太郎著作集) …… 212
大化改新 増補版(研究史)〔野村忠夫著〕…… (78.1)品切
大化改新と蘇我氏(敗者の日本史) …… 19
大化改新の基礎的研究〔北村文治著〕 …… (90.5)品切
大化改新の研究 上・下(関晃著作集)…… 212
大加耶連盟の興亡と「任那」〔田中俊明著〕…… (92.8)品切
大飢饉、室町社会を襲う!(歴史文化ライブラリー)…… 48
大工道具の日本史(歴史文化ライブラリー) …… 41
大工道具の文明史(歴史文化ライブラリー) …… 59
大君外交と東アジア …… 198
大元帥と皇族軍人 大正・昭和編(歴史文化ライブラリー)
〔小田部雄次著〕…… (16.7)品切
大元帥と皇族軍人 明治編(歴史文化ライブラリー)
〔小田部雄次著〕…… (16.5)品切
大航海時代の東アジア〔伊川健二著〕 …… (07.12)品切
大極殿の研究〔福山敏男編〕…… (57.3)品切
大極殿の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 77
大国日本の政治指導(現代日本政治史)…… 136
大黒屋光太夫(人物叢書) …… 94
醍醐寺五重塔の壁画〔高田 修編〕…… (59.5)品切
醍醐天皇(人物叢書) …… 101
太古の日本語とシナ語〔亀井 孝著〕 …… 品切
太子信仰の研究 …… 179
太子傳玉林抄 全3冊(法隆寺蔵尊英本)
〔法隆寺編〕…… (78.5)品切
大正期の政治構造 …… 204
大嘗祭と古代の祭祀 …… 105
大正社会と改造の潮流(日本の時代史)…… 15
大正デモクラシー(近代日本の軌跡)〔金原左門編〕(94.8)品切
大正天皇(人物叢書) …… 98
大神宮儀式解 前篇(増補大神宮叢書)
〔神宮司庁蔵版〕…… (06.4)品切
大臣闕員騒動(現代語訳 小右記)…… 9
大震災と歴史資料保存〔奥村 弘著〕…… (12.2)品切
体制危機の到来(日本近世史を見通す)…… 3
大戦間期の対中国文化外交 …… 259
大地の古代史(歴史文化ライブラリー) …… 70
大地を拓く人びと(身分的周縁と近世社会) …… 129
「大東亜共栄圏」の経済構想 …… 175
大道 鎌倉時代の幹線道路(歴史文化ライブラリー)…… 69
第二次世界大戦(歴史文化ライブラリー) …… 35
対日宣伝ビラが語る太平洋戦争〔土屋礼子著〕…(11.12)品切
大日本帝国の崩壊(日本の時代史)…… 16
駘馬の道草〔安田元久著〕 …… (89.4)品切
大佛勧進ものがたり(読みなおす日本史)
〔平岡定海著〕…… (14.8)品切
太平記の世界(読みなおす日本史) …… 146
太平記を読む(歴史と古典)〔市沢 哲編〕……(08.11)品切
太平洋戦争(近代日本の軌跡)〔由井正臣編〕…… (95.1)品切
太平洋戦争と考古学(歴史文化ライブラリー) …… 25
太平洋戦争と子どもたち(事典)…… 167
太平洋戦争と歴史学(歴史文化ライブラリー) …… 31
大本営(読みなおす日本史) …… 151
当麻石光寺と弥勒仏概報
〔奈良県立橿原考古学研究所編〕…… (92.8)品切
大名行列を解剖する(歴史文化ライブラリー) …… 51
大名領国制 中世後期の社会と経済(永原慶二著作選集)
〔永原慶二著〕……(07.11)品切
大名領国の構成的展開〔岸田裕之著〕 …… (83.9)品切
大名領国の政治と意識 …… 191
大名領国を歩く〔永原慶二編〕 …… (93.4)品切
平 清盛(人物叢書)…… 87
平 貞盛(人物叢書)…… 101
平 重盛(人物叢書)…… 101
平 将門(人物叢書)…… 101
平将門と東国武士団(動乱の東国史)…… 118
平将門の乱(戦争の日本史) …… 16
平将門の乱を読み解く(歴史文化ライブラリー) …… 69
大陸・南方膨張の拠点(地域のなかの軍隊) …… 136
高丘親王入唐記〔佐伯有清著〕 ……(02.11)品切
高雄曼荼羅〔東京国立文化財研究所編〕 …… (68.3)品切
鷹狩と王朝文学 …… 296
高楠順次郎 …… 134
高島秋帆(人物叢書) …… 96

多賀城跡調査報告(1)
〔宮城県教育委員会・多賀城町編〕…… (70.10)品切
多賀城と古代東北(古代を考える)
〔青木和夫・岡田茂弘編〕…… (06.9)品切
高杉晋作(人物叢書) …… 96
高杉晋作と奇兵隊(幕末維新の個性) …… 129
高杉晋作と長州(人をあるく)〔一坂太郎著〕…… (14.7)品切
高千穂と日向街道(街道の日本史)…… 23
鷹と将軍(読みなおす日本史)…… 149
高松塚・キトラ古墳の謎(歴史文化ライブラリー) …… 53
鷹見泉石日記 全8巻〔古河歴史博物館編〕…… (01.3)品切
高柳光寿史学論文集 全2巻〔高柳光寿著〕……(70.11)品切
高山右近(人物叢書) …… 91
高山樗牛(人物叢書) …… 102
宝塚戦略(読みなおす日本史) …… 153
滝沢馬琴(人物叢書) …… 95
滝 廉太郎(人物叢書)…… 97
田口卯吉(人物叢書) …… 97
啄木短歌に時代を読む(歴史文化ライブラリー) …… 32
武田一族の中世(歴史文化ライブラリー) …… 78
武田勝頼(人物叢書) …… 101
武田氏の研究(戦国大名論集)〔柴辻俊六編〕…… (84.3)品切
武田信玄(人物叢書) …… 90
武田信玄(歴史文化ライブラリー) …… 45
武田信玄像の謎(歴史文化ライブラリー) …… 44
竹取・伊勢物語の世界〔田中 元著〕…… (82.10)品切
多胡碑が語る 古代日本と渡来人 …… 115
太宰春台(人物叢書) …… 93
大宰府古代史年表 …… 220
大宰府古文化論叢 上・下〔九州歴史資料館編〕 (83.12)品切
大宰府政庁跡 …… 279
大宰府・太宰府天満宮史料…… 273
大宰府探求〔田村圓澄著〕 …… (90.1)品切
太宰府天満宮連歌史 資料と研究 …… 274
闘いを記憶する百姓たち(歴史文化ライブラリー) …… 66
闘う女性の20世紀(歴史文化ライブラリー)…… 28
たたかう神仏の図像学 …… 124
只野真葛(人物叢書) …… 94
たたら製鉄の近代史 …… 205
たたら製鉄の歴史(歴史文化ライブラリー) …… 69
橘嘉智子(人物叢書) …… 85
橘 奈良麻呂(人物叢書) …… 101
橘 諸兄(人物叢書)…… 85
立花宗茂(人物叢書) …… 92
橘 守部(人物叢書)…… 95
伊達一族の中世(歴史文化ライブラリー) …… 72
伊達家(家からみる江戸大名) …… 4
伊達氏と戦国争乱(東北の中世史) …… 118
伊達騒動と原田甲斐(読みなおす日本史) …… 150
〈伊達騒動〉の真相(歴史文化ライブラリー) …… 77
建鉾山〔亀井正道著〕 …… (66.10)品切
伊達政宗(人物叢書) …… 91
伊達政宗と南奥の戦国時代 …… 190
伊達政宗の研究 (新装版)…… 245
伊達政宗の素顔(読みなおす日本史)…… 148
建物が語る日本の歴史 …… 141
田中正造(人物叢書) …… 102
谷 干城(人物叢書)…… 102
田沼時代(日本近世の歴史) …… 126
種明かしします柳田国男 …… 286
タネをまく縄文人(歴史文化ライブラリー) …… 63
田の神まつりの歴史と民俗〔森田 悌・金田久璋著〕(96.3)品切
旅と交易(日本古代の交通・交流・情報) …… 239
旅と交易の古代史(歴史文化ライブラリー) …… 83
旅の勧進聖 重源(日本の名僧)〔中尾 堯編〕 …… (04.8)品切
食べ物の民俗考古学 …… 287
多摩と甲州道中(街道の日本史)
〔新井勝紘・松本三喜夫編〕…… (03.5)品切
玉虫厨子〔上原 和著〕……(91.12)品切
田村麻呂と阿弖流為(歴史文化セレクション) …… 156
為兼・為相等書状並案(複製)〔宮内庁書陵部編〕 (88.3)品切
誰でも読める 日本史年表 ―ふりがな付き― 全5冊 … 169
団塊世代の同時代史(歴史文化ライブラリー) …… 47
耽奇漫録 上・下 …… (93.12)品切
誕生と死の民俗学〔板橋春夫著〕 …… (07.8)品切

チ

地域からみる近世社会(日本近世史を見通す) ……3
地域史の視点(近世地域史フォーラム)
〔藪田 貫・奥村 弘編〕…… (06.12)品切
地域社会とリーダーたち(近世地域史フォーラム)
〔平川 新・谷山正道編〕 …… (06.12)品切
地域史を学ぶということ〔佐々木潤之介著〕 …… (96.4)品切
地域に生きる人びと(新しい古代史へ) …… 112
地域のなかの軍隊 全9巻 …… 135
地域のひろがりと宗教(近世の宗教と社会)
〔青柳周一・高埜利彦・西田かほる編〕…… (08.5)品切
小さな歴史と大きな歴史〔塚本 学著〕 ……(93.11)品切
近松門左衛門(人物叢書) …… 93
地球的世界の成立(日本の対外関係) …… 22
畜生・餓鬼・地獄の中世仏教史(歴史文化ライブラリー) 67
築何年？(歴博フォーラム)…… 140
知国秘鈔 上・下〔宮内庁書陵部編〕…… (80.1)品切
知識と学問をになう人びと(身分的周縁と近世社会)
〔横田冬彦編〕…… (07.4)品切
智証大師円珍の研究 …… 207
智証大師伝の研究 …… 207
地図から消えた島々(歴史文化ライブラリー) …… 54
地図で考える中世 …… 247
地租改正(日本歴史叢書)〔福島正夫著〕…… (95.8)品切
地租改正と資本主義論争〔田村貞雄著〕 …… (81.3)品切
治天のまなざし、王朝美の再構築(天皇の美術史) …… 293
千葉常胤(人物叢書) …… 87
地方官人たちの古代史(歴史文化ライブラリー) …… 60
地方史研究の現状 全3冊〔日本歴史学会編〕 … (69.8)品切
茶の湯の文化史(歴史文化ライブラリー) …… 32
中世の儒学(日本歴史叢書)〔和島芳男著〕 …… (96.7)品切
中学歴史地図〔亀井高孝・三上次男・児多幸多編〕 (57.4)品切
中近世九州・西国史研究…… 245
中近世京都の祭礼と空間構造〔本多健一著〕……(13.10)品切
中近世山村の生業と社会 …… 247
中近世の蝦夷地と北方交易 …… 282
中近世の資源と災害 …… 247
中近世の生業と里湖の環境史 …… 247
中近世の村落と水辺の環境史 …… 172
中近世の地域と村落・寺社 …… 246
中国及び古代日本における郷村形態の変遷
〔曽我部静雄著〕…… (63.3)品切
中国絵画史 新装版全4冊〔鈴木 敬著〕 …… (11.8)品切
中国絵画史論集〔鈴木敬先生還暦記録会編〕 …(81.11)品切
中国古玉器総説〔林 巳奈夫著〕 …… (99.2)品切
中国古玉器総説 (新装版)…… 295
中国古玉の研究〔林 巳奈夫著〕 …… (91.2)品切
中國古玉の研究 (新装版)…… 295
中国古代工業史の研究〔佐藤武敏著〕 …… (62.6)品切
中国古代史研究 全3冊〔中国古代史研究会編〕 (60.11)品切
中国古代の貨幣(歴史文化ライブラリー) …… 61

中国古代の神がみ（新装版）…… 295
中国古代の生活史(歴史文化セレクション)
〔林 巳奈夫著〕…… (09.12)品切
中国思想からみた日本思想史研究〔加地伸行著〕(85.10)品切
中国社会経済史の研究〔曽我部静雄著〕…… (76.8)品切
中国女性史(論集)〔中国女性史研究会編〕…… (99.10)品切
中国史を学ぶということ〔西嶋定生著〕…… (95.1)品切
中国人の南方見聞録〔小川 博編〕…… (98.9)品切
中国大名の研究(戦国大名論集)〔岸田裕之編〕… (84.6)品切
中国地方の荘園(講座 日本荘園史)
〔網野善彦・石井進・稲垣泰彦・永原慶二編〕… (99.3)品切
中国の信仰世界と道教(歴史文化ライブラリー）…… 80
中国の歴史と民衆〔増井経夫著〕…… (72.2)品切
中国仏教彫刻史研究(増訂)〔松原三郎著〕…… (61.1)品切
中国仏教彫刻史論(全4冊)〔松原三郎著〕……(95.11)品切
中国文明の誕生〔林 巳奈夫著〕…… (95.3)品切
中国民衆と秘密結社(ユーラシア文化史選書)
〔酒井忠夫著〕…… (92.2)品切
中国律令史の研究〔曽我部静雄著〕……(71.12)品切
中国を目指すザビエル …… 269
中世悪党の研究(戊午叢書）…… 193
中世足利氏の血統と権威 …… 243
中世伊勢神宮史の研究 …… 172
中世奥羽の世界（新装版）…… 121
中世奥羽の民衆と宗教 …… 209
中世王家の成立と院政 …… 240
中世王権と支配構造〔中原俊章著〕…… (05.10)品切
中世王権の形成と摂関家 …… 240
中世鎌倉のまちづくり …… 120
中世かわらけ物語(歴史文化ライブラリー）…… 75
中世灌漑史の研究 …… 194
中世貴族社会と仏教 …… 176
中世九州社会史の研究〔外山幹夫著〕…… (86.4)品切
中世九州の政治社会構造〔山口隼正著〕…… (83.5)品切
中世京都首都論 …… 195
中世京都と祇園祭(読みなおす日本史)…… 149
中世京都の軍事指揮権(歴史文化ライブラリー）…… 83
中世公家政治文書論 …… 195
中世公家と地下官人(中世史研究選書)
〔中原俊章著〕…… (87.2)品切
中世公家の家と女性 …… 195
中世公家の経済と文化 …… 189
中世軍忠状とその世界 …… 189
中世権門の成立と家政 …… 188
中世後期の京郊荘園村落 …… 241
中世後期の村落(中世史研究選書)〔伊藤正敏著〕(91.3)品切
中世後期の村落自治形成と権力 …… 244
中世後期の地域と在地領主〔湯浅治久著〕…… (02.8)品切
中世後期細川氏の権力構造 …… 191
中世公武関係と承久の乱〔長村祥知著〕……(15.12)品切
中世公武権力の構造と展開〔上横手雅敬編〕…… (01.8)品切
中世公武新制の研究 …… 187
中世国衙領の支配構造 …… 240
中世国家の宗教構造(中世史研究選書)
〔佐々木 馨著〕…… (88.6)品切
中世 国境海域の倭と朝鮮〔長 節子著〕…… (02.2)品切
中世古文書の世界〔小川 信編〕…… (91.7)品切
中世古文書を読み解く〔工藤敬一著〕…… (00.6)品切
中世 災害・戦乱の社会史(歴史文化セレクション）…… 156
中世祭祀組織の研究 増補版 …… 188
中世寺院史料論 …… 209
中世寺院勢力論 …… 209
中世寺院の社会と芸能 …… 209
中世社会と一向一揆〔北西弘先生還暦記念会編〕(85.12)品切
中世社会と声のことば …… 247
中世社会と時宗の研究〔今井雅晴著〕……(85.11)品切
中世社会の成立と展開〔大阪歴史学会編〕…… (75.12)品切
中世社会の成り立ち(日本中世の歴史）…… 117
中世社会の刑罰と法観念 …… 243
中世荘園村落の環境歴史学〔海老澤 衷編〕…… (18.7)品切
中世荘園と検注(中世史研究選書)〔富澤清人著〕(96.9)品切
中世荘園の検注と景観 …… 241
中世城郭の縄張と空間(城を極める)…… 124
中世初期政治史研究〔北爪真佐夫著〕…… (98.9)品切
中世初期の〈謀叛〉と平治の乱 …… 240
中世史料との対話〔村井章介著〕…… (14.6)品切
中世史料論考 …… 193
中世真宗思想の研究〔重松明久著〕…… (73.3)品切
中世須恵器の研究〔吉岡康暢著〕…… (94.2)品切
中世成立期の軍制と内乱 …… 188
中世成立期の社会と思想〔永原慶二著〕…… (77.4)品切
中世 瀬戸内海の旅人たち(歴史文化ライブラリー）…… 40
中世前期政治史研究 …… 240
中世禅宗史叢説 …… 268
中世禅僧の墨蹟と日中交流 …… 209
中世禅林成立史の研究〔葉貫磨哉著〕…… (93.2)品切
中世惣村史の構造(戊午叢書）…… 193
中世曹洞宗の地域展開と輪住制 …… 268
中世村落構造の研究〔段木一行著〕……(86.11)品切
中世村落の形成と村社会 …… 193
中世醍醐寺の仏法と院家 …… 268
中世朝廷の官司制度 …… 241
中世庭園文化史〔森 蘊著〕…… (59.2)品切
中世的思惟とその社会〔藤原良章著〕…… (97.5)品切
中世的武具の成立と武士〔近藤好和著〕…… (00.3)品切
中世東海の黎明と鎌倉幕府(東海の中世史)……2
中世東国の荘園公領と宗教 …… 241
中世東国の領域と城館 …… 242
中世動乱期に生きる(読みなおす日本史）…… 147
中世都市鎌倉の風景 …… 120
中世都市奈良の考古学的研究 …… 282
中世都市の空間構造 …… 172
中世内乱期の社会と民衆〔永原慶二著〕…… (77.4)品切
中世南都の僧侶と寺院 …… 210
中世南都仏教の展開 …… 210
中世日朝海域史の研究 …… 246
中世日朝関係と対馬(戊午叢書)…… 192
中世 日本と西欧
〔近藤成一・小路田泰直、ローベルト・ホレス、デトレフ・タランチェフスキ編〕…… (09.8)品切
中世日本の外交と禅宗 …… 192
中世日本の国際関係 …… 246
中世日本の周縁と東アジア …… 192
中世日本の商業(豊田武著作集）…… 212
中世日本の勝者と敗者(敗者の日本史)…… 20
中世日本の諸相 上・下
〔安田元久先生退任記念論集刊行委員会編〕 (89.4)品切
中世日本の信用経済と徳政令 …… 172
中世日本の政治と史料〔羽下徳彦著〕…… (95.5)品切
中世日本の売券と徳政 …… 188
中世日本を生きる …… 122
中世のうわさ（新装版）…… 123
中世の蝦夷地(中世史研究選書)〔海保嶺夫著〕… (87.4)品切
中世の王朝社会と院政 …… 194
中世の海域交流と倭寇 …… 246
中世の唐物と伝来技術〔関 周一著〕…… (15.1)品切
中世の環境と開発・生業(環境の日本史）…… 21
中世の勧進聖と舎利信仰〔中尾 堯著〕…… (01.3)品切

中世の喫茶文化(歴史文化ライブラリー) …… 67
中世の巨大地震(歴史文化ライブラリー) …… 49
中世の空間を読む〔五味文彦編〕 …… (95.7)品切
中世の災害予兆(歴史文化ライブラリー) …… 24
中世の裁判を読み解く(読みなおす日本史) …… 146
中世の寺院体制と社会〔中尾 堯編〕 …… (02.12)品切
中世の寺社勢力と境内都市〔伊藤正敏著〕…… (99.5)品切
中世の寺社と社領〔杉本尚雄著〕 …… (59.9)品切
中世の寺社と信仰〔上横手雅敬編〕 …… (01.8)品切
中世の社会と史料〔羽下徳彦編〕 …… (05.1)品切
中世の社会と武力〔福田豊彦編〕 …… (94.8)品切
中世の社寺と芸術〔森末義彰著〕 …… (83.2)品切
中世の借金事情(歴史文化ライブラリー) …… 49
中世の儒学(日本歴史叢書)〔和島芳男著〕…… (65.3)品切
中世の荘園経営と惣村 …… 241
中世の荘園と社会〔水上一久著〕 …… (69.9)品切
中世の商人と交通(豊田武著作集) …… 212
中世の神仏と古道(歴史文化セレクション)
〔戸田芳実著〕 …… (10.8)品切
中世の政治と社会(豊田武著作集) …… 212
中世の政治と宗教〔羽下徳彦編〕 …… (94.8)品切
中世の関所〔相田二郎著〕 …… (83.2)品切
中世の禅宗と日元交流 …… 268
中世の葬送・墓制(歴史文化セレクション)…… 156
中世の村落と現代〔石井 進編〕 …… (91.9)品切
中世の地域社会と交流〔羽下徳彦編〕 …… (94.8)品切
中世の地域と宗教〔羽下徳彦編〕 …… (04.12)品切
中世の天皇と音楽 …… 195
中世の東海道をゆく(読みなおす日本史) …… 146
中世の都市と武士 …… 188
中世の富と権力(歴史文化ライブラリー) …… 70
中世のなかに生まれた近世(中世史研究選書)
〔山室恭子著〕 …… (91.6)品切
中世の奈良(歴史文化ライブラリー) …… 29
中世の南都仏教 …… 210
中世の日中交流と禅宗 …… 209
中世の農業と気候〔磯貝富士男著〕 …… (02.1)品切
中世の発見〔永原慶二編〕 …… (93.4)品切
中世の人と自然の関係史 …… 172
中世の人と政治〔石井 進編〕 …… (88.7)品切
中世の武家と公家の「家」 …… 189
中世の武士団(豊田武著作集) …… 212
中世の仏教と社会〔大隅和雄編〕 …… (00.7)品切
中世の武力と城郭 …… 188
中世の変革と徳政 …… 188
中世の法と政治〔石井 進編〕 …… (92.7)品切
中世の窓(論集)〔「中世の窓」同人編〕 …… (77.12)品切
中世の村と流通〔石井 進編〕 …… (92.12)品切
中世の律宗寺院と民衆(中世史研究選書)
〔細川涼一著〕 …… (87.12)品切
中世は核家族だったのか(歴史文化ライブラリー) …… 73
中世武家官位の研究〔木下 聡著〕 …… (11.11)品切
中世武家儀礼の研究 …… 194
中世武家社会の研究(日本史学研究叢書)
〔河合正治著〕 …… (73.5)品切
中世武家政権と政治秩序 …… 194
中世武家の作法(日本歴史叢書) …… 103
中世武家服飾変遷史〔山岸裕美子著〕 …… (18.1)品切
中世武士の城(歴史文化ライブラリー) …… 45
中世武士 畠山重忠(歴史文化ライブラリー) …… 68
中世仏教絵画の図像誌 …… 290
中世仏教と鎌倉幕府 …… 172
中世仏教と真宗〔北西弘先生還暦記念会編〕 (85.12)品切
中世仏教の原形と展開 …… 175
中世房総の政治と文化〔小笠原長和著〕 ……(85.11)品切
中世 村の歴史語り〔蔵持 重裕著〕 …… (02.9)品切
中世やまと絵史論 …… 290
中世律宗と死の文化 …… 210
中世量制史の研究(日本史学研究叢書) …… 192
中世歴史叙述の展開〔加地宏江著〕 …… (99.7)品切
中世 歴史と文学のあいだ(歴史文化セレクション)
〔大隅和雄著〕 …… (11.8)品切
中世を考える いくさ〔福田豊彦編〕…… (93.8)品切
中世を考える 家族と女性〔峰岸純夫編〕 …… (92.4)品切
中世を考える 職人と芸能〔網野善彦編〕 …… (94.12)品切
中世を考える 都市の中世〔五味 文彦編〕……(92.11)品切
中世を考える 法と訴訟〔笠松宏至編〕 …… (92.3)品切
中世を考える 仏と女〔西口順子編〕 ……(97.11)品切
中世をひろげる〔石井 進編〕 ……(91.11)品切
中尊寺の仏教美術(平泉の文化史) ……8
中部山村社会の真宗〔千葉乗隆著〕 …… (71.5)品切
中部大名の研究(戦国大名論集)〔勝俣鎮夫編〕… (83.8)品切
中庸雛題(懐徳堂文庫復刻叢書)
〔大阪大懐徳堂文庫復刻刊行会監修〕 …… (94.3)品切
重源(人物叢書) …… 101
重源・叡尊・忍性(日本名僧論集)
〔中尾 堯・今井雅晴編〕 …… (83.2)品切
彫刻と戦争の近代(歴史文化ライブラリー) …… 58
長州と萩街道(街道の日本史)〔小川國治編〕……(01.12)品切
長州藩と明治維新 …… 203
朝鮮〔中村栄孝著〕 ……(71.10)品切
朝鮮鐘 …… 269
朝鮮古代史料研究 …… 223
朝鮮史と史料(末松保和朝鮮史著作集) …… 212
朝鮮人のみた中世日本(歴史文化ライブラリー) …… 59
朝鮮総督府官僚の統治構想 …… 260
朝鮮塔婆の研究〔高裕燮著〕 …… (78.9)品切
長宗我部氏の研究 …… 244
長宗我部氏の研究(戦国大名論集)〔秋沢 繁編〕 (86.9)品切
長宗我部元親(人物叢書) …… 91
長宗我部元親と四国(人をあるく) …… 11
朝廷権威の復興と京都画壇(天皇の美術史) …… 294
朝廷の戦国時代 …… 123
朝廷をとりまく人びと(身分的周縁と近世社会)
〔高埜利彦編〕 …… (07.7)品切
長徳の変(現代語訳 小右記) ……9
脩然(人物叢書) …… 101
徴兵制と近代日本 …… 132
徴兵・戦争と民衆〔喜多村理子著〕 …… (99.6)品切
朝野群載(新訂増補 国史大系) …… 178
朝野群載 巻二十二 校訂と註釈 …… 271
苧麻・絹・木綿の社会史 …… 122
地理から見た信長・秀吉・家康の戦略(読みなおす日本史)147
地理発見時代史〔山中謙二著〕 …… (69.2)品切
賃金の日本史(歴史文化ライブラリー) …… 78
鎮西御家人の研究(日本史学研究叢書) …… 187
椿葉記 …… 275

ツ

通交・通商圏の拡大(日本の対外関係) …… 22
「通商国家」日本の情報戦略(読みなおす日本史) …… 150
〈通訳〉たちの幕末維新 …… 131
津軽の民俗(民俗総合調査報告シリーズ)
〔和歌森太郎編〕 …… (70.2)品切
津軽・松前と海の道(街道の日本史)
〔長谷川成一編〕 …… (01.1)品切
「つきあい」の戦後史〔天野正子著〕…… (05.4)品切

創られた「天皇」号 …… 238
対馬宗氏の中世史 …… 123
津田梅子(人物叢書) …… 99
土一揆の時代(歴史文化ライブラリー) …… 41
津波災害と近代日本 …… 266
綱吉と吉宗(日本近世の歴史) …… 126
ヨーロッパ古代史の再構成 …… 239
王朝の余薫(角田文衛の古代学) …… 239
角田文衛の古代学 全4巻 …… 239
角田文衛自叙伝 …… 239
角田文衛の古代学 全4巻
〔公益財団法人古代学協会編〕 …… (18.9)品切
津藩(日本歴史叢書) …… 103
坪内逍遙(人物叢書) …… 99
強い内閣と近代日本 …… 132
鶴屋南北(人物叢書) …… 94
徒然草を解く〔山極圭司著〕 ……(92.11)品切

テ

庭園の中世史(歴史文化ライブラリー) …… 44
帝王編年記(新訂増補 国史大系) …… 177
鼎軒田口卯吉全集(全8冊)〔田口卯吉著〕 …… (90.1)品切
帝国議会改革論(日本歴史叢書) …… 104
帝国支配の最前線(地域のなかの軍隊)…… 136
帝国主義国の軍隊と性 …… 264
帝国主義とパンデミック(歴史文化ライブラリー)…… 77
「帝国」日本とアジア(近代日本の軌跡)
〔浅田喬二編〕 …… (94.12)品切
帝国日本と植民地都市(歴史文化ライブラリー) …… 41
帝国日本と総力戦体制〔小林英夫著〕 …… (04.10)品切
帝国日本と鉄道輸送 …… 259
帝国日本の外交と民主主義 …… 259
帝国日本の技術者たち(歴史文化ライブラリー) …… 62
帝国日本の大陸政策と満洲国軍 …… 260
「帝国」の映画監督 坂根田鶴子〔池川玲子著〕 … (11.3)品切
帝国の視線 …… 175
帝室制度史 全6巻 …… 213
帝政ロシアの農民戦争(ユーラシア文化史選書)
〔阿部重雄著〕 …… (69.6)品切
帝都防衛(歴史文化ライブラリー) …… 66
定本 世界史地図〔亀井高孝・三上次男編〕…… (50.2)品切
定本 徳川家康 …… 127
貞明皇后(人物叢書) …… 102
テーマで学ぶ日本古代史 社会・史料編 …… 116
テーマで学ぶ日本古代史 政治・外交編 …… 116
敵国人抑留(歴史文化ライブラリー) …… 49
デジタル技術でせまる人物埴輪 …… 278
徹底検証 長篠・設楽原の戦い
〔小和田哲男監修・小林芳春編〕 …… (03.8)品切
鉄道忌避伝説の謎(歴史文化ライブラリー) …… 45
鉄道と近代化(歴史文化ライブラリー) …… 27
鉄砲伝来の日本史(歴博フォーラム)
〔宇田川武久編〕 …… (07.10)品切
鉄砲と戦国合戦(歴史文化ライブラリー) …… 38
鉄砲とその時代(読みなおす日本史) …… 147
手引ろくろの文化史 …… 287
寺内正毅(人物叢書) …… 102
寺島宗則(人物叢書) …… 96
天英院(人物叢書) …… 102
天海(人物叢書) …… 102
田楽史の研究〔伊藤磯十郎著〕 …… (86.5)品切
天下統一から鎖国へ(日本中世の歴史) …… 118
天下統一とシルバーラッシュ(歴史文化ライブラリー) … 62
天下統一と朝鮮侵略(日本の時代史)…… 14
天下人たちの文化戦略(歴史文化ライブラリー) …… 77
天下人の時代(日本近世の歴史) …… 126
天下人の書状をよむ …… 271
天下人の誕生と戦国の終焉(列島の戦国史) …… 126
伝記の魅力〔日本歴史学会編〕 ……(86.11)品切
伝教大師伝の研究(日本史学研究叢書) …… 207
伝教大師と天台宗(日本仏教宗史論集)
〔塩入良道・木内堯央編〕…… (85.5)品切
天狗と魔道(歴史文化ライブラリー) …… 83
点景の中世〔羽下徳彦著〕 …… (97.6)品切
天才たちの宇宙像(歴史文化ライブラリー) …… 33
天智天皇(人物叢書) …… 84
天守…… 128
天寿国繡帳の研究〔大橋一章著〕 …… (95.2)品切
天寿国繡帳の研究 (新装版) …… 292
伝承された縄紋技術 …… 287
伝承と慣習の論理(日本歴史民俗叢書)
〔平山和彦著〕 …… (92.1)品切
伝承の相貌〔櫻井徳太郎著〕 …… (87.4)品切
天神様の正体(歴史文化ライブラリー) …… 71
典籍に関する論考(太田晶二郎著作集)…… (91.8)品切
伝説の将軍 藤原秀郷 (新装版) …… 116
伝説のなかの神〔平川 新著〕 …… (93.12)品切
天台仏教と平安朝文人(歴史文化ライブラリー) …… 37
伝統工芸の創生〔大石 勇著〕 …… (94.8)品切
伝統と改革の時代(日本近世史を見通す) …… 3
天皇近臣と近世の朝廷 …… 248
天皇家と源氏(読みなおす日本史)…… 146
天皇側近たちの奈良時代(歴史文化ライブラリー)
〔十川陽一著〕 …… (17.5)品切
天皇・天皇制・百姓・沖縄(歴史文化セレクション) …… 157
天皇と中世文化 …… 122
天皇の音楽史(歴史文化ライブラリー) …… 65
天皇の政治史(読みなおす日本史)…… 150
天皇の即位儀礼と神仏〔松本郁代著〕 …… (17.8)品切
天皇の美術史 全6巻 …… 293
天皇陵の近代史(歴史文化ライブラリー) …… 32
天平美術への招待〔関根真隆著〕 …… (89.12)品切
天保の改革(日本歴史叢書)〔藤田 覚著〕 …… (96.9)品切
天満宮(日本歴史叢書)〔竹内秀雄著〕…… (96.5)品切
天武天皇(人物叢書) …… 101

ト

ドイツの都市と農村(ユーラシア文化史選書)
〔橡川一朗著〕 …… (89.8)品切
ドイツ・北欧・東欧の古城 (新装版)(世界の城郭)
〔太田静六著〕 ……(10.11)品切
東亜古文化論考〔原田淑人著〕 …… (62.4)品切
東叡山寛永寺 徳川将軍家御裏方霊廟 (全3冊セット) 280
唐王朝と古代日本 …… 234
東海道と伊勢湾(街道の日本史) …… 23
東海道箱根宿関所史料集 全3巻
〔箱根関所研究会編〕 …… (72.3)品切
東海の中世史 全5巻……2
東海の名城を歩く 愛知・三重編 …… 140
東海の名城を歩く 全3冊 …… 140
東海の名城を歩く 静岡編 …… 140
東海風土記〔中村栄孝著〕 ……(71.12)品切
道果本 古事記〔貴重図書複製会版〕 …… (69.12)品切
道鏡(人物叢書) …… 85
〈東京オリンピック〉の誕生 …… 134
東京国立博物館所蔵 近世やまと絵50選…… 293

東京大学物語(歴史文化ライブラリー) …… 31
東京町名沿革史〔重藤 魯編〕 …… (67.9)品切
東京都の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 37
東京の古墳を探る(歴史文化ライブラリー) …… 76
東京の歴史(みる・よむ・あるく) …… 6
東京の歴史(みる・よむ・あるく) …… 6
道具と暮らしの江戸時代(歴史文化ライブラリー) …… 30
道元 (新稿版)(人物叢書) …… 88
道元(読みなおす日本史) …… 152
道元 その思想と教育〔加藤健一著〕 …… (83.4)品切
道元(日本名僧論集)〔河村孝道・石川力山編〕 … (83.7)品切
道元禅師と曹洞宗(日本仏教宗史論集)
〔河村孝道・石川力山編〕 …… (85.6)品切
道元思想のあゆみ 全3冊〔曹洞宗宗学研究所編〕(93.7)品切
刀剣と格付け …… 127
東郷平八郎(読みなおす日本史) …… 151
東国石文の古代史
〔平野邦雄監修 あたらしい古代史の会編〕 … (99.7)品切
東国から読み解く古墳時代(歴史文化ライブラリー) … 61
東国大名の研究(戦国大名論集)〔佐藤博信編〕… (83.9)品切
東国と大和王権(古代を考える)
〔原島礼二・金井塚良一編〕 …… (94.1)品切
東国の古代寺院と瓦 …… 221
東国の古墳と古代史(読みなおす日本史) …… 143
東国の古墳と大和政権〔大塚初重著〕 …… (02.8)品切
東国の政治秩序と豊臣政権 …… 244
東国の戦国合戦(戦争の日本史) …… 17
東国の戦国争乱と織豊権力(動乱の東国史) …… 119
東国の中世石塔 …… 247
東国の南北朝動乱(歴史文化ライブラリー) …… 36
東国の兵乱ともののふたち〔福田豊彦著〕 …… (95.2)品切
東国武士団と鎌倉幕府(動乱の東国史) …… 118
東語西話〔今泉淑夫著〕 …… (94.10)品切
東山道と北陸道(新修 国分寺の研究)
〔角田文衛編〕 …… (91.8)品切
東山道の実証的研究 …… 185
道慈(人物叢書) …… 84
藤氏家伝 注釈と研究 …… 271
藤氏家伝を読む〔篠川 賢・増尾伸一郎編〕 …… (11.1)品切
陶磁器ワラ包装技術の文化史 …… 221
道者と地下人(中世史研究選書)〔西山 克著〕 … (87.5)品切
東寺百合文書目録 全5冊
〔京都府立総合資料館編〕 …… (76.3)品切
唐招提寺史料 第一 …… 274
東条英機(歴史文化ライブラリー) …… 83
唐宋時代の交通と地誌地図の研究〔青山定雄著〕(63.4)品切
銅像受難の近代 …… 206
東大寺と法華寺(新修 国分寺の研究)
〔角田文衛編〕 …… (86.7)品切
東大寺の瓦工(読みなおす日本史) …… 153
東大寺の考古学(歴史文化ライブラリー) …… 72
東大寺法華堂の研究〔近畿日本鉄道編纂室編〕 (84.7)品切
唐と日本(古代を考える)〔池田 温編〕…… (92.6)品切
動物と現代社会(人と動物の日本史)〔菅 豊編〕… (09.3)品切
動物と人間の文化誌〔国立歴史民俗博物館編〕… (97.8)品切
動物の考古学(人と動物の日本史)〔西本豊弘編〕(08.12)品切
唐法典と日本律令制(日本史学研究叢書) …… 229
東北・関東・東海地方の荘園(講座 日本荘園史)
〔網野善彦・石井進・稲垣泰彦・永原慶二編〕 … (90.5)品切
東北近世の胎動(東北の中世史) …… 118
東北考古学・古代史学史 …… 181
東北古代史の研究〔高橋富雄編〕 …… (86.10)品切
東北史を読み直す …… 233
東北大名の研究(戦国大名論集)〔小林清治編〕… (84.4)品切
東北の古代史 全5巻 …… 111
東北の争乱と奥州合戦(戦争の日本史) …… 17
東北の中世史 全5巻 …… 118
東北の幕末維新 …… 131
東北の名城を歩く 全2冊 …… 139
東北の歴史 上・中・下〔豊田 武編〕 …… (67.9)品切
東洋史要説 新稿版 …… 222
東洋美術史要説 上巻〔町田甲一・深井晋司著〕 (55.10)品切
東洋美術史要説 下巻〔鈴木敬・松原三郎著〕……(57.11)品切
東洋歴史(概説)〔鈴木俊著〕 …… (50.6)品切
動乱の東国史 全7巻 …… 118, 125
遠野物語と柳田國男(歴史文化ライブラリー) …… 76
遠山景晋(人物叢書) …… 94
土芥寇讎記 (新装版) …… 272
読経の世界(歴史文化ライブラリー) …… 35
徳川家綱(人物叢書) …… 102
徳川家斉(人物叢書) …… 102
徳川家光(人物叢書) …… 92
徳川家光公伝 (新装版) …… 248
徳川家康(人物叢書) …… 91
徳川家康公伝 (新装版) …… 248
徳川家康神格化への道 …… 196
徳川家康と関ヶ原の戦い(人をあるく)
〔本多隆成著〕 ……(13.12)品切
徳川家康と武田氏(歴史文化ライブラリー) …… 69
徳川家康文書の研究(新修) …… 202
徳川時代の社会史(大口勇次郎著〕 …… (01.4)品切
徳川実紀 全15冊(新訂増補 国史大系) …… 178
徳川実紀索引〔幕末篇〕〔徳川実紀研究会編〕…… (77.3)品切
徳川実紀索引 全2冊 …… 220
徳川実紀事項索引 全2巻 …… 220
徳川氏の研究(戦国大名論集)〔小和田哲男編〕 (83.10)品切
徳川将軍家(家からみる江戸大名) …… 4
徳川将軍権力の構造〔所 理喜夫著〕 …… (84.5)品切
徳川将軍政治権力の研究 …… 196
徳川初期キリシタン史研究 補訂版 …… 197
徳川政権論〔藤野 保著〕……(91.12)品切
徳川忠長(歴史文化ライブラリー) …… 73
徳川綱吉(人物叢書) …… 93
徳川の四天王(歴史文化ライブラリー) …… 83
徳川のまつりごと …… 269
徳川幕閣(読みなおす日本史) …… 149
徳川秀忠(人物叢書) …… 91
徳川和子(人物叢書) …… 92
徳川光圀(人物叢書) …… 93
徳川光圀関係史料 水戸義公伝記逸話集
〔常磐神社・水戸史学会編〕 …… (78.6)品切
徳川慶喜(人物叢書) …… 98
徳川慶喜(幕末維新の個性)〔家近良樹著〕 … (04.10)品切
徳川吉宗(人物叢書) …… 93
徳川吉宗公伝 (新装版) …… 248
徳川吉宗と江戸城(人をあるく)〔岡崎寛徳著〕 … (14.5)品切
徳川歴代将軍事典 …… 162
徳島・淡路と鳴門海峡(街道の日本史)
〔石躍胤央編〕 …… (06.9)品切
得宗時頼(現代語訳 吾妻鏡) …… 13
徳富蘇峰(人物叢書) …… 102
徳富蘇峰と国民新聞 …… 206
特別な場所の特別な時間〔正木美術館編〕…… (08.10)品切
特務機関の謀略(歴史文化ライブラリー) …… 29
独立完成への苦闘(現代日本政治史)
〔池田慎太郎著〕 …… (12.1)品切
時計の社会史(読みなおす日本史)…… 155
土佐と南海道(街道の日本史)

〔秋澤 繁・荻 慎一郎編〕…… (06.12)品切
土佐藩(日本歴史叢書)〔平尾道雄著〕 …… (95.8)品切
土佐光信(人物叢書) …… 101
都市鎌倉の中世史(歴史文化ライブラリー) …… 52
都市図の系譜と江戸(歴史文化ライブラリー) …… 37
都市と境界の民俗〔筑波大学民俗学研究室編〕 (01.12)品切
都市と地租改正〔滝島 功著〕 …… (03.12)品切
都市と貧困の社会史 …… 201
都市とふるさと(都市の暮らしの民俗学)
〔新谷尚紀・岩本通弥編〕…… (06.10)品切
都市の暮らしの民俗学〔新谷尚紀・岩本通弥編〕 (06.10)品切
都市と民衆(近代日本の軌跡)〔成田龍一編〕… (93.12)品切
都市の空間史 …… 241
都市の周縁に生きる(身分的周縁と近世社会) …… 129
都市の生活(日本の民俗) …… 284
都市の生活文化(日本歴史民俗論集)
〔塚本 学・宮田 登編〕…… (93.8)品切
都市の生活リズム(都市の暮らしの民俗学)
〔新谷尚紀・岩本通弥編〕…… (06.12)品切
都市の光と闇(都市の暮らしの民俗学)
〔新谷尚紀・岩本通弥編〕……(06.11)品切
都市の身分願望(〈江戸〉の人と身分)…… 128
都市の民俗学(宮田登 日本を語る) …… 289
都市民権派の形成〔澤 大洋著〕…… (98.2)品切
土砂留め奉行(歴史文化ライブラリー) …… 76
栃木県の考古学(郷土考古学叢書)
〔大和久震平・塙 静夫著〕 …… (72.6)品切
栃倉〔栃尾市教育委員会編〕 …… (61.3)品切
特攻隊の〈故郷〉(歴史文化ライブラリー) …… 69
鳥取・米子と隠岐(街道の日本史)
〔錦織 勤・池内 敏編〕 …… (05.8)品切
ドナウの考古学(歴史文化ライブラリー) …… 79
鳥羽・志摩の海女 …… 109
鳥羽天皇(人物叢書) …… 101
土木技術の古代史(歴史文化ライブラリー) …… 66
富岡鉄斎(人物叢書) …… 98
伴 善男(人物叢書)…… 85
豊田佐吉(人物叢書) …… 99
豊田武著作集 全8巻…… 212
豊田武博士古稀記念 日本近世の政治と社会
〔豊田武先生古稀記念会編〕 …… (80.6)品切
豊田武博士古稀記念 日本中世の政治と文化
〔豊田武先生古稀記念会編〕 …… (80.6)品切
豊臣氏九州蔵入地の研究(戊午叢書)
〔森山恒雄著〕 …… (83.3)品切
豊臣水軍興亡史 …… 123
豊臣政権の研究(戦国大名論集)〔三鬼清一郎編〕(84.5)品切
豊臣政権の権力構造 …… 246
豊臣政権の支配秩序と朝廷〔矢部健太郎著〕 …(11.12)品切
豊臣秀次(人物叢書) …… 90
豊臣秀長(人物叢書) …… 102
豊臣秀吉(人物叢書) …… 102
豊臣秀吉と大坂城(人をあるく)〔跡部 信著〕…… (14.8)品切
豊臣秀吉の朝鮮侵略(日本歴史叢書)
〔北島万次著〕 …… (95.9)品切
豊臣秀吉文書集 全9巻…… 271
豊臣秀頼(歴史文化ライブラリー) …… 60
渡来人と古墳時代(歴史文化ライブラリー) …… 83
トルコ・ギリシアの古代文明(ユーラシア文化史選書)
〔川島清吉著〕 …… (83.7)品切

ナ

内海産業と水運の史的研究〔福尾猛市郎編〕…… (66.8)品切
内大臣の研究 …… 204
内務省と明治国家形成 …… 203
内乱のなかの貴族(読みなおす日本史)
〔林屋辰三郎著〕 …… (15.7)品切
内陸アジア遊牧民社会の研究〔後藤冨男著〕…… (68.3)品切
直木孝次郎古代を語る 全14巻 …… 110
直木孝次郎と奈良・万葉を歩く(私の歴史散歩)全2冊
〔直木孝次郎著〕 …… (09.3)品切
私の歴史散歩 直木孝次郎と奈良・万葉を歩く 全2冊
〔直木孝次郎著〕 …… (09.3)品切
直木孝次郎 歴史を語り継ぐ〔直木孝次郎著〕 … (13.4)品切
直良信夫と考古学研究〔杉山博久著〕 …… (90.10)品切
中江兆民(人物叢書) …… 97
長岡外史関係文書(回顧録篇)
〔長岡外史文書研究会編〕 …… (89.5)品切
長岡外史関係文書(書簡書類篇)
〔長岡外史文書研究会編〕 …… (89.10)品切
長岡京の歴史考古学研究 …… 281
長岡半太郎(人物叢書) …… 102
長崎県史 全8冊〔長崎県史編集委員会編〕 …… (76.2)品切
長崎唐通事〔林 陸朗著〕…… (00.6)品切
長崎の唐人貿易(日本歴史叢書)〔山脇悌二郎著〕 (95.6)品切
長崎奉行のお献立〔江後迪子著〕 …… (11.2)品切
長篠合戦と武田勝頼(敗者の日本史)…… 19
中山道(街道の日本史)〔山田忠雄編〕……(01.11)品切
中山道交通史料集 全3巻…… 217
中田 薫(人物叢書) …… 100
永富家文書目録 …… 273
長野市史考〔小林計一郎著〕 …… (69.4)品切
中野正剛(人物叢書) …… 99
永原慶二の歴史学 …… 122
中原康富(人物叢書) …… 101
中村敬宇(人物叢書) …… 96
長屋王(人物叢書) …… 84
長屋王家・二条大路木簡を読む
〔奈良国立文化財研究所編〕 …… (01.6)品切
平城京木簡〔奈良国立文化財研究所編集・発行〕 (95.6)品切
長屋王家木簡と金石文〔大山誠一著〕 …… (98.3)品切
長屋王家木簡と奈良朝政治史(古代史研究選書)
〔大山誠一著〕…… (93.1)品切
長屋王家木簡の基礎的研究 …… 183
中山法華経寺史料〔中尾 堯編〕 …… (68.10)品切
奴国の首都 須玖岡本遺跡〔春日市教育委員会編〕(94.5)品切
名古屋・岐阜と中山道(街道の日本史)
〔松田之利編〕 …… (04.4)品切
名古屋大学日本史論集 上・下
〔名古屋大学文学部国史学研究室編〕 …… (75.7)品切
那須駒形大塚〔三木文雄編著〕 …… (86.12)品切
那須国造碑・侍塚古墳の研究
〔斎藤 忠・大和久震平著〕 …… (86.3)品切
那須八幡塚〔三木文雄・村井雄著〕 …… (57.8)品切
ナチス・ドイツと〈帝国〉日本美術(シリーズ近代美術のゆくえ)
〔安松みゆき著〕 …… (16.2)品切
夏が来なかった時代(歴史文化ライブラリー) …… 39
名づけの民俗学(歴史文化ライブラリー) …… 59
難波(古代を考える)〔直木孝次郎編〕…… (92.12)品切
難波宮の歴史と保存(直木孝次郎古代を語る)
〔直木孝次郎著〕 …… (09.8)品切
難波宮と都城制 …… 281
難波宮と難波津の研究〔直木孝次郎著〕 …… (94.2)品切
難波宮の研究 …… 186
名前と権力の中世史(歴史文化ライブラリー) …… 61
奈良(日本歴史叢書)〔永島福太郎著〕 ……(63.11)品切

奈良甲冑師の研究 …… 293
奈良県史跡名勝天然記念物調査報告 全5冊
〔奈良県教育委員会編〕 ……(89.11)品切
奈良県の考古学(郷土考古学叢書)〔小島俊次著〕(65.12)品切
奈良古社寺辞典 …… 165
奈良市史 全13冊〔奈良市史編集審議会編〕 … (91.4)品切
奈良時代医学史の研究(日本医学史の研究)…… 213
日本医学史の研究 全5冊 …… 213
奈良時代建築の造営体制と維持管理 …… 231
奈良時代諸氏族の研究〔高島正人著〕 …… (83.2)品切
奈良時代の政治と制度 …… 182
奈良時代の政争と皇位継承 …… 230
奈良時代の藤原氏と朝政〔高島正人著〕…… (99.7)品切
奈良朝食生活の研究(日本史学研究叢書)
〔関根真隆著〕 …… (69.7)品切
奈良朝の政治と藤原氏 …… 182
奈良朝の政変劇(歴史文化ライブラリー) …… 29
奈良朝の政変と道鏡(敗者の日本史)…… 19
奈良朝服飾の研究 本文・図録編(日本史学研究叢書)
〔関根真隆著〕 …… (74.3)品切
奈良朝仏教史の研究(日本史学研究叢書) …… 186
奈良と伊勢街道(街道の日本史)
〔木村茂光・吉井敏幸編〕…… (05.7)品切
奈良の寺々(読みなおす日本史)…… 153
奈良の都(直木孝次郎古代を語る)
〔直木孝次郎著〕 …… (09.10)品切
奈良の都(歴史文化セレクション)〔笹山晴生著〕 (10.1)品切
奈良の都と地方社会(史跡で読む日本の歴史)
〔佐藤 信編〕 …… (10.4)品切
奈良の都と天平文化(日本古代の歴史)…… 110
奈良平安期の日本とアジア〔山内晋次著〕 …… (03.8)品切
奈良平安時代史研究(日本史学研究叢書) …… 179
奈良平安時代史論集 上・下
〔土田直鎮先生還暦記念会編〕 …… (84.9)品切
奈良・平安時代の宮都と文化〔戸田秀典著〕 …… (88.2)品切
奈良・平安仏教の展開〔速水 侑編〕 …… (06.8)品切
成川遺跡(埋蔵文化財発掘調査報告)〔文化庁〕 (74.8)品切
成瀬仁蔵(人物叢書) …… 98
南海道(新修 国分寺の研究)〔角田文衛編〕 …… (87.5)品切
南紀と熊野古道(街道の日本史)
〔小山靖憲・笠原正夫編〕…… (03.10)品切
南光坊天海発給文書集 …… 272
南朝の真実(歴史文化ライブラリー) …… 60
南島の暮らし(日本の民俗)…… 285
南都六宗(日本仏教宗史論集)
〔平岡定海・山崎慶輝編〕…… (85.1)品切
南部家(家からみる江戸大名) …… 4
南部と奥州道中(街道の日本史)〔細井 計編〕…… (02.5)品切
南北朝内乱と京都(京都の中世史) …… 6
南北朝内乱と東国(動乱の東国史) …… 119
南北朝の宮廷誌(読みなおす日本史)…… 146
南北朝の動乱(戦争の日本史) …… 17
南北朝の動乱(日本の時代史) …… 14
南北朝編年史 上・下〔由良哲次著〕…… (64.9)品切
難民たちの日中戦争(歴史文化ライブラリー) …… 71

ニ

新座〔坂詰秀一著〕 …… (65.6)品切
新島襄(人物叢書)〔渡辺実著〕 …… (59.10)品切
新嘗の研究(第2輯)〔にいなめ研究会編〕…… (55.5)品切
二宮叢典 前・中・後篇(増補大神宮叢書)
〔神宮司庁蔵版〕 …… (13.5)品切
荷車と立ちん坊 …… 132
西周(人物叢書) …… 102
西石見の民俗(民俗総合調査報告シリーズ)
〔和歌森太郎編〕 …… (62.3)品切
西尾末広(人物叢書) …… 102
錦絵の世相史(歴史文化ライブラリー) …… 83
西の軍隊と軍港都市(地域のなかの軍隊) …… 135
西村茂樹(人物叢書) …… 97
西山松之助著作集 全8巻…… 213
二〇世紀日本の天皇と君主制
〔伊藤之雄・川田 稔編〕 …… (04.3)品切
20世紀日本の歴史学 …… 135
二〇世紀満洲歴史事典 …… 164
二条良基(人物叢書) …… 89
日米安保と事前協議制度 …… 263
日米開戦の政治過程 …… 205
日米決戦下の格差と平等(歴史文化ライブラリー) …… 47
日米秘密交渉(歴史文化ライブラリー) …… 83
日明関係史の研究〔佐久間重男著〕 …… (92.2)品切
日蘭文化交渉史の研究(日本史学研究叢書)…… 198
日蘭貿易の構造と展開 …… 199
日蘭貿易の史的研究 …… 198
日蘭貿易の歴史的展開 …… 251
日蓮(人物叢書) …… 88
日蓮(読みなおす日本史) …… 153
日蓮(歴史文化ライブラリー) …… 36
日蓮(日本名僧論集)〔中尾 堯・渡辺宝陽編〕 … (82.10)品切
日蓮宗の成立と展開(日本宗教史研究叢書)
〔中尾 堯著〕…… (73.2)品切
日蓮聖人と日蓮宗(日本仏教宗史論集)
〔中尾 堯・渡辺宝陽編〕 …… (84.10)品切
日蓮信仰の系譜と儀礼〔中尾 堯著〕 …… (99.12)品切
日蓮真蹟遺文と寺院文書 …… 268
日蓮と鎌倉(人をあるく)〔市川浩史著〕 …… (14.2)品切
日蓮とその教団〔高木 豊・冠 賢一編〕…… (99.3)品切
日蓮の思想構造 …… 208
日露関係史〔真鍋重忠著〕 …… (78.4)品切
日露戦争の時代(歴史文化ライブラリー) …… 28
日露旅順海戦史〔真鍋重忠著〕 …… (85.12)品切
日華文化交流史 (新装版) …… 238
日韓古代瓦の研究〔亀田修一著〕 …… (06.2)品切
日韓併合(日本歴史叢書) …… 104
日記に中世を読む〔五味文彦編〕……(98.11)品切
日記に読む近代日本 全5巻 …… (12.5)品切
日記の家 …… 195
日記をつづるということ(ニューヒストリー近代日本)
〔西川祐子著〕 …… (09.6)品切
日光道中と那須野ヶ原(街道の日本史)
〔阿部 昭編〕…… (02.4)品切
日産の創業者 鮎川義介〔宇田川 勝著〕 …… (17.3)品切
日清戦争(戦争の日本史) …… 18
日清戦争への道程〔崔 碩 莞著〕…… (97.2)品切
日清・日露戦後経営と議会政治 …… 257
日清・日露戦争(近代日本の軌跡)〔井口和起編〕 (94.10)品切
日清・日露戦争と写真報道(歴史文化ライブラリー) … 57
日清・日露戦争と帝国日本(日本近代の歴史)…… 130
日赤の創始者 佐野常民(歴史文化ライブラリー) …… 35
日鮮関係史の研究 上・中・下〔中村栄孝著〕…… (65.8)品切
日宋貿易と仏教文化 …… 192
新田一族の中世(歴史文化ライブラリー) …… 62
新田義貞(人物叢書) …… 89
日中外交史研究 …… 175
日中間海底ケーブルの戦後史 …… 137
日中宮城の比較研究 …… 183
日中戦争下の外交 …… 260

書名索引

日中戦争史研究〔古屋哲夫編〕 …… (84.12)品切
日中戦争と汪兆銘(歴史文化ライブラリー) …… 39
日中戦争と大陸経済建設 …… 260
日中比較芸能史 …… 221
日中美術考古学研究 …… 222
日中律令論(日本歴史叢書)〔曽我部静雄著〕…… (95.9)品切
日中和平工作 …… 132
日朝関係史 …… 109
二·二六事件 …… 132
二·二六事件と青年将校(敗者の日本史) …… 20
二宮尊徳(人物叢書) …… 95
日本医学史の研究 全5冊 …… 213
日本逸史(新訂増補 国史大系) …… 177
日本稲作の展開と構造〔佐藤常雄著〕…… (87.9)品切
日本衣服史 …… 107
日本医療史 …… 107
日本海海戦の真実(読みなおす日本史)…… 151
日本絵画史の研究〔山根有三先生古稀記念会編〕(89.9)品切
日本海軍史(読みなおす日本史)…… 151
日本海軍史の研究 …… 262
日本海軍と近代社会 …… 262
日本海軍に志願せよ(歴史文化ライブラリー) …… 83
日本海軍の志願兵と地域社会 …… 262
日本海軍の歴史〈新装版〉…… 261
日本開国史(歴史文化セレクション)〔石井 孝著〕 (10.4)品切
日本海事慣習史〔金指正三著〕 …… (67.3)品切
日本家族制度史概説〔福尾猛市郎著〕 …… (72.2)品切
日本漢籍史を中心とする論考(太田晶二郎著作集)
…… (91.8)品切
日本漢文学史 増訂版…… 223
日本キリシタン史の研究〔五野井隆史著〕……(02.11)品切
日本キリスト教史 …… 106
日本紀略(新訂増補 国史大系) …… 177
日本近現代人名辞典 …… 163
日本近世教育思想の研究〔中泉哲俊著〕 ……(66.11)品切
日本近世交通史の研究〔丸山雍成著〕 …… (89.2)品切
日本近世交通史論集
〔児玉幸多監修·交通史研究会編〕…… (86.12)品切
日本近世国家の権威と儀礼 …… 196
日本近世ジェンダー論 …… 199
日本近世史の地方的展開
〔豊田武教授還暦記念会編〕……(73.11)品切
日本近世史論叢 上·下
〔尾藤正英先生還暦記念会編〕 …… (84.7)品切
日本近世史を見通す 全7巻 …… 3
日本近世人名辞典 …… 162
日本近世と東アジア世界〔川勝 守著〕 …… (00.6)品切
日本近世の領国地域社会〔稲葉継陽·今村直樹編〕(15.2)品切
日本近世の歴史 全6巻…… 126
日本近代国家の形成と展開〔山本四郎編〕…… (96.10)品切
日本近代史学の成立(大久保利謙歴史著作集)…… 213
日本近代史を学ぶための 文語文入門 …… 134
日本近代の歴史 全6巻…… 130
日本近代仏教史研究〔吉田久一著〕 …… (59.4)品切
日本近代仏教社会史研究〔吉田久一著〕 …… (64.3)品切
日本軍事史 …… 107
日本軍事史年表 —昭和・平成— …… 169
日本経済史 苧麻·絹·木綿の社会史(永原慶二著作選集)
〔永原慶二著〕…… (08.2)品切
日本原史(論集)〔論集日本原史刊行会編〕…… (85.5)品切
日本原始·古代住居の研究〔石野博信著〕 …… (90.3)品切
日本建築を作った職人たち …… 142
日本古印刷文化史 (新装版) …… 238
日本後紀(新訂増補 国史大系) …… 177
日本後紀(新訂増補 国史大系〔普及版〕)
〔黒板勝美編輯〕…… (75.6)品切
日本後紀·続日本後紀·文徳天皇実録索引(六国史索引) 219
日本〈工芸〉の近代(シリーズ 近代美術のゆくえ)
〔森 仁史著〕 …… (09.1)品切
日本考古学概論 …… 278
日本考古学·古代史論集
〔伊東信雄教授還暦記念会編〕 …… (74.1)品切
日本考古学史(日本歴史叢書)〔斎藤 忠著〕 … (95.10)品切
日本考古学史資料集成 全3冊〔斎藤 忠編著〕…(79.11)品切
日本考古学 …… 283
日本考古学入門〔原田淑人編〕 …… (65.12)品切
日本考古学年報 …… 282
日本考古学の現状と課題〔日本歴史学会編〕…… (74.4)品切
日本考古学百景 …… 281
日本高僧伝要文抄(新訂増補 国史大系) …… 178
日本交通史〔児玉幸多編〕 …… (92.12)品切
日本交通史概論〔大島延次郎著〕 …… (64.5)品切
日本交通史辞典
〔丸山雍成·小風秀雅·中村尚史編〕…… (03.9)品切
日本交通史 (新装版)…… 107
日本交通史論叢〈続編〉〔大島延次郎著〕 …… (57.5)品切
日本語音韻音調史の研究 …… 223
日本語学のために(亀井孝論文集)〔亀井 孝著〕 (71.6)品切
日本古玉器雑攷〔梅原末治著〕 ……(71.10)品切
日本国号の歴史(歴史文化ライブラリー) …… 53
日本獄制史の研究〔重松一義著〕 ……(05.11)品切
日本語系統論のみち(亀井孝論文集)
〔亀井 孝著〕 …… (73.10)品切
日本古鐘銘集成 (新装版) …… 269
日本古代遺跡事典
〔大塚初重·桜井清彦·鈴木公雄編〕 …… (95.3)品切
日本古代遺跡の研究 全4冊〔斎藤 忠著〕……(68.11)品切
日本古代王権と唐物交易 …… 171
日本古代王権と儀式 …… 183
日本古代王権の研究〔荒木敏夫著〕 …… (06.6)品切
日本古代王権の構造と展開 …… 180
日本古代王朝の思想と文化〔川副武胤著〕…… (80.9)品切
日本古代音楽史論 …… 185
日本古代官位制度の基礎的研究 (新装版) …… 229
日本古代系譜様式論 …… 182
日本古代国制史論〔佐々木宗雄著〕 …… (11.6)品切
日本古代国造制の研究 …… 180
日本古代穀物史の研究〔鋳方貞亮著〕 …… (77.4)品切
日本古代戸籍の研究 …… 181
日本古代国家成立期の政権構造 …… 170
日本古代国家と計画道路 …… 185
日本古代国家と土地所有(日本史学研究叢書) …… 230
日本古代国家と律令制〔武光 誠著〕 …… (84.4)品切
日本古代国家の形成〔小林敏男著〕 …… (07.8)品切
日本古代国家の成立と息長氏(古代史研究選書)
〔大橋信弥著〕…… (84.3)品切
日本古代国家の地方支配〔北條秀樹著〕 …… (00.8)品切
日本古代財政組織の研究〔梅村 喬著〕……(89.11)品切
日本古代財務行政の研究 …… 230
日本古代史叢考〔坂本太郎著〕 …… (83.12)品切
日本古代史叢説(飯田瑞穂著作集)〔飯田瑞穂著〕(01.5)品切
日本古代氏族人名辞典 普及版 …… 160
日本古代氏族の研究〔佐伯有清著〕 …… (85.4)品切
日本古代史の風貌〔佐伯有清著〕 …… (77.9)品切
日本古代社会と仏教〔吉田一彦著〕 ……(95.11)品切
日本古代女性史論 …… 237
日本古代史論考〔佐伯有清編〕 ……(80.11)品切
日本古代史論集 上·下巻

〔坂本太郎博士還暦記念会編〕 …… (62.9)品切
日本古代史論叢〔古代学協会編〕 …… (60.12)品切
日本古代史を学ぶための 漢文入門〔池田 温編〕 (06.1)品切
日本古代人名辞典 全7巻
〔竹内理三・山田英雄・平野邦雄編〕…… (58.5)品切
日本古代水上交通史の研究〔松原弘宣著〕 …… (85.8)品切
日本古代政治史論考〔佐伯有清編〕 …… (83.9)品切
日本古代制度史論 …… 182
日本古代籍帳制度論〔平田耿二著〕 …… (86.5)品切
日本古代僧伝の研究 …… 208
日本古代治水史の研究(日本史学研究叢書)…… 182
日本古代地方寺院の成立 …… 171
日本古代地方制度の研究〔新野直吉著〕 ……(74.11)品切
日本古代中世史の研究(久米邦武歴史著作集)
〔久米邦武著〕 …… (89.12)品切
日本古代・中世史の地方的展開
〔豊田武還暦記念会編〕 ……(73.11)品切
日本古代中世史論考〔佐伯有清編〕 …… (87.3)品切
日本古代中世人名辞典 …… 160
日本古代・中世都市論〔仁木 宏編〕…… (16.5)品切
日本古代中世の政治と宗教〔佐伯有清編〕…… (02.5)品切
日本古代中世の政治と文化〔佐伯有清編〕…… (97.12)品切
日本古代中世の葬送と社会 …… 242
日本古代朝政の研究〔井上 亘著〕 …… (98.10)品切
日本古代道路の復原的研究 …… 236
日本古代都城制と城柵の研究 …… 281
日本古代都城制の研究〔井上和人著〕 …… (08.4)品切
日本古代都城の形成と王権 …… 231
日本古代土地法史論〔虎尾俊哉著〕 ……(81.10)品切
日本古代女官の研究 …… 238
日本古代の氏の構造 …… 186
日本古代の王権と王統〔篠川 賢著〕 …… (01.6)品切
日本古代の王権と山野河海〔森田喜久男著〕…… (09.2)品切
日本古代の王権と氏族〔大橋信弥著〕 …… (96.1)品切
日本古代の王権と東アジア …… 230
日本古代の外交と地方行政 …… 234
日本古代の外交と礼制 …… 235
日本古代の家族と村落〔宮本 救著〕 …… (06.9)品切
日本古代の貨幣と社会〔三上喜孝著〕…… (05.7)品切
日本古代の環境への心性史 …… 237
日本古代の官司と政務 …… 230
日本古代の格と資財帳 …… 229
日本古代の宮都と木簡(日本史学研究叢書) …… 184
日本古代の儀礼と表現〔新川登亀男著〕…… (99.7)品切
日本古代の郡司と天皇 …… 171
日本古代の軍事武装と系譜 …… 176
日本古代の交易と社会 …… 235
日本古代の皇太子(古代史研究選書)
〔荒木敏夫著〕 …… (85.10)品切
日本古代の交通・交流・情報 全3巻 …… 239
日本古代の国家と給与制 …… 230
日本古代の国家と宗教 上・下
〔井上薫教授退官記念会編〕 …… (80.5)品切
日本古代の国家と造営事業 …… 231
日本古代の祭祀考古学 …… 221
日本古代の祭祀と女性(古代史研究選書)
〔義江明子著〕 ……(96.11)品切
日本古代の祭祀と仏教
〔佐伯有清先生古希記念会編〕 …… (95.3)品切
日本古代の参議制 …… 230
日本古代の寺院・官衙造営 …… 236
日本古代の寺院と史料〔水野柳太郎著〕…… (93.2)品切
日本古代の塩生産と流通 …… 235
日本古代の食封と出挙〔水野柳太郎著〕…… (02.8)品切
日本古代の氏族と系譜伝承 …… 233
日本古代の氏族と国家 …… 233
日本古代の氏族と祭祀〔阿部武彦著〕…… (84.5)品切
日本古代の社会と経済 上・下
〔彌永貞三先生還暦記念会編〕 …… (78.5)品切
日本古代の社会と政治
〔佐伯有清先生古希記念会編〕 …… (95.3)品切
日本古代の神祇と道教(日本宗教史研究叢書)
〔下出積與著〕 ……(72.11)品切
日本古代の親族構造(戊午叢書) …… 180
日本古代の神話と歴史〔米沢 康著〕 …… (92.5)品切
日本古代の政治と経済〔角林文雄著〕…… (89.6)品切
日本古代の政治と社会〔佐伯有清著〕 …… (70.5)品切
日本古代の政治と宗教〔井上 薫著〕 …… (61.7)品切
日本古代の政治と人物〔青木和夫著〕…… (77.2)品切
日本古代の政治と仏教 …… 236
日本古代の政治と文化(関晃著作集)…… 212
日本古代の政治と文化
〔青木和夫先生還暦記念会編〕 …… (87.2)品切
日本古代の喪葬儀礼と律令制〔稲田奈津子著〕… (15.9)品切
日本古代の僧尼と社会 …… 208
日本古代の対外交渉と仏教〔新川登亀男著〕…… (99.9)品切
日本古代の地域社会と行政機構 …… 230
日本古代の地域社会と周縁 …… 230
日本古代の地域と社会統合 …… 170
日本古代の庭園と景観 …… 186
日本古代の伝承と東アジア
〔佐伯有清先生古希記念会編〕 …… (95.3)品切
日本古代の典籍と宗教文化 …… 237
日本古代の天皇と祭儀〔井上 亘著〕 ……(98.11)品切
日本古代の道教・陰陽道と神祇 …… 186
日本古代の年中行事書と新史料 …… 236
日本古代の年齢集団と地域社会 …… 171
日本古代の表記と文体 …… 223
日本古代の武器・武具と軍事 …… 176
日本古代の仏教と神祇〔下出積與著〕…… (97.8)品切
日本古代の法と社会〔虎尾俊哉編〕 …… (95.7)品切
日本古代の菩薩と民衆〔吉田靖雄著〕…… (88.7)品切
日本古代の道と駅(事典) …… 166
日本古代の道と衢〔前田晴人著〕 …… (96.2)品切
日本古代の民間宗教 …… 208
日本古代の文字と地方社会 …… 236
日本古代の文字と表記 …… 296
日本古代の文書と典籍(日本史学研究叢書) …… 186
日本古代の陵墓〔堀田啓一著〕 …… (01.8)品切
日本古代の歴史 全6巻…… 110
日本古代仏教の展開〔井上光貞著〕 …… (75.12)品切
日本古代仏教の文化史 …… 207
日本古代仏師の研究〔田中嗣人著〕 …… (83.8)品切
日本古代兵制史の研究〔直木孝次郎著〕 …… (68.9)品切
日本古代木簡論 …… 232
日本古代文書の研究(日本史学研究叢書)
〔杉本一樹著〕 …… (01.2)品切
日本古代用水史の研究(日本史学研究叢書)…… 182
日本国家の形成と東アジア世界〔川勝 守著〕 … (08.4)品切
日本古典の研究〔川副武胤著〕 …… (83.12)品切
日本古刀研究五部書〔末永雅雄編〕 …… (69.2)品切
日本語のすがたとこころ 1・2(亀井孝論文集)
〔亀井 孝著〕 …… (84.12)品切
日本語の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 38
日本語はだれのものか(歴史文化ライブラリー) …… 42
日本古文化研究所報告(全9冊)
〔日本古文化研究所編〕 …… (74.12)品切
日本古文化論攷〔橿原考古学研究所編〕 …… (70.5)品切

日本古墳の研究〔斎藤忠著〕 …… (61.7)品切
日本古墳文化資料綜覧 全3冊〔斎藤忠著〕 …… (52.1)品切
日本古文書学と中世文化史 …… 195
日本古文書学論集 全13冊〔日本古文書学会編〕(86.11)品切
日本災害史 …… 108
日本最古の石仏と白鳳寺院 当麻石光寺と弥勒仏 概報〔橿原考古学研究所編〕 …… (92.8)品切
日本最古の仏教壁画と白鳳寺院 上淀廃寺と彩色壁画 概報〔淀江町教育委員会編〕 …… (92.9)品切
日本三代実録(新訂増補 国史大系) …… 177
日本三代実録 前・後篇(新訂増補 国史大系〔普及版〕)〔黒板勝美編輯〕 …… (71.4)品切
日本三代実録索引(六国史索引) …… 219
日本寺院史の研究 …… 206
日本寺院史の研究 中世・近世編…… 207
日本史掛図(標準) 全18軸〔児玉幸多編〕 …… 品切
日本詩紀〔市河寛斎編　後藤昭雄解説〕 …… (00.3)品切
日本詩紀拾遺〔後藤昭雄編〕 …… (00.2)品切
日本史「今日は何の日」事典 …… 159
日本史研究者辞典 …… 163
日本史研究の新視点〔日本歴史学会編〕……(86.11)品切
日本史〈50年周期〉逆引き年表〔吉川弘文館編集部編〕 …… (06.1)品切
日本史色彩事典 …… 164
日本史辞典(標準)〔児玉幸多編〕 …… (73.1)品切
日本史辞典(標準)〔児玉幸多編〕 …… (73.1)品切
日本史史料〔児玉幸多・菱刈隆永編〕 …… (69.2)品切
日本史史料(新版)〔日本史教育研究会編〕…… (96.12)品切
日本史人物(あの時、何歳?)事典 …… 159
日本史図録 全4冊〔児玉幸多・久野健編〕…… (60.2)品切
日本史籍論集 上・下〔岩橋小弥太博士頌寿記念会編〕 …… (69.10)品切
日本史総合年表 第三版 …… 168
日本思想史概論〔石田一良編〕 …… (63.10)品切
日本史地図(索引付)〔児玉幸多編〕…… (52.5)品切
日本史と環境(環境の日本史)…… 21
日本私年号の研究 (新装版) …… 238
日本史史年表(増補版)〔児玉幸多編〕 ……(51.11)品切
日本史年表・地図(2024年版)…… 297
日本史の環境(日本の時代史) …… 16
日本史の教室〔藤木邦彦・芳賀幸四郎編〕 …… (65.6)品切
日本史の中の柳之御所跡〔平泉文化研究会編〕… (93.7)品切
日本史の名著(吉川弘文館編集部編〕 …… (90.9)品切
日本史の問題点〔日本歴史学会編〕…… (65.10)品切
日本史必携 …… 160
日本史文献解題辞典〔加藤友康・由井正臣編〕 … (00.5)品切
日本資本主義成立史研究〔石塚裕道著〕 …… (73.9)品切
日本社会経済史研究 古代・中世・近世編〔宝月圭吾先生還暦記念会編〕 …… (67.9)品切
日本社会史の研究〔児玉幸多編〕 …… (55.5)品切
日本社会における仏と神〔速水 侑編〕 …… (06.9)品切
日本シャマニズムの研究 上・下(櫻井德太郎著作集)〔櫻井德太郎著〕 …… (88.1)品切
日本宗教史研究の軌跡(日本宗教史) …… 267
日本宗教史論集 上・下〔笠原一男博士還暦記念会編〕 …… (76.12)品切
日本宗教史を問い直す(日本宗教史)…… 267
日本宗教史 全6巻…… 267
日本宗教の信仰世界(日本宗教史) …… 267
日本住居史 …… 107
日本酒の近現代史(歴史文化ライブラリー) …… 62
日本荘園史概説〔安田元久著〕 …… (57.1)品切
日本荘園史大辞典 …… 161
日本荘園資料 全2冊〔国立歴史民俗博物館編〕 (98.7)品切
日本荘園データベース(CD-ROM版)〔国立歴史民俗博物館編〕 …… (95.12)品切
日本城郭史 …… 108
日本史要説〔丸山二郎・大野達之助著〕 …… (53.5)品切
日本書紀 前・後篇(新訂増補 国史大系) …… 169, 177
日本書紀索引(六国史索引) …… 219
日本書紀私記(新訂増補 国史大系) …… 177
日本書紀朝鮮関係記事考證 上巻〔三品彰英著〕 (62.11)品切
日本書紀の研究〔丸山二郎著〕 …… (55.1)品切
日本食生活史(歴史文化セレクション) …… 157
日本食物史 …… 107
日本女性史 …… 108
日本女性史大辞典 …… 160
日本史論文の書きかた〔中尾堯・村上直・三上昭美編〕 …… (92.6)品切
日本史を学ぶための〈古代の暦〉入門 …… 113
日本史を学ぶための 古文書・古記録訓読法 …… 276
日本史を学ぶための図書館活用術 …… 142
日本人種論(研究史)〔工藤雅樹著〕 …… (79.12)品切
日本神道史 (増補新版) …… 107
日本人と国際化〔天沼 香著〕 ……(89.11)品切
日本人の地獄と極楽(読みなおす日本史)〔五来 重著〕…… (13.5)品切
日本人の宗教と庶民信仰〔圭室文雄編〕…… (06.4)品切
日本人の宗教と動物観〔中村生雄著〕…… (10.9)品切
日本人の心性を探る(歴史研究の最前線)〔広瀬和雄編〕 …… (06.3)品切
日本人の生活文化 …… 109
日本人の姓・苗字・名前(歴史文化ライブラリー) …… 57
日本人の他界観(歴史文化ライブラリー) …… 24
日本人の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 24
日本人の名前の歴史(読みなおす日本史) …… 151
日本人のひるめし(読みなおす日本史) …… 154
日本人物在世年表〔上園政雄編〕 …… (84.6)品切
日本神話を語ろう(歴史文化ライブラリー) …… 55
日本随筆大成 新装版・全81巻 …… 224
日本生活史辞典 …… 166
日本政党史 …… 107
日本西洋史学発達史〔酒井三郎著〕 …… (69.5)品切
日本赤十字社と皇室(歴史文化ライブラリー) …… 71
日本石造物辞典 …… 166
日本前近代の国家と対外関係〔田中健夫編〕 …… (87.4)品切
日本禅宗の成立(中世史研究選書)〔船岡 誠著〕 (87.3)品切
日本禅宗の伝説と歴史(歴史文化ライブラリー) …… 42
日本宋学史の研究(増補版)〔和島芳男著〕…… (88.5)品切
日本葬制史 …… 107
日本高潮史料(気象史料シリーズ1)〔気象研究所監修・荒川秀俊編〕……(61.12)品切
日本玉作大観〔寺村光晴編〕 …… (04.8)品切
日本地図史 …… 108
日本中世国制史論 …… 240
日本中世思想の基調 …… 172
日本中世史の再発見〔峰岸純夫編〕 …… (03.5)品切
日本中世社会構造の研究(永原慶二著作選集)〔永原慶二著〕 …… (07.9)品切
日本中世社会と禅林文芸〔芳澤 元著〕 ……(17.12)品切
日本中世史論集〔福尾教授退官記念事業会編〕 (72.7)品切
日本中世禅籍の研究 …… 268
日本中世村落史の研究〔島田次郎編〕…… (66.6)品切
日本中世の家と親族 …… 188
日本中世の王朝・幕府と寺社 …… 242
日本中世の穢と秩序意識 …… 194
日本中世の権力と寺院 …… 242
日本中世の権力と地域社会〔木村茂光編〕…… (07.8)品切

日本中世の国家と仏教(歴史文化セレクション) …… 156
日本中世の在地社会 …… 194
日本中世の私戦世界と親族 …… 189
日本中世の社会と国家 中世史の争点(永原慶二著作選集)
〔永原慶二著〕 …… (08.1)品切
日本中世の社会と女性 …… 195
日本中世の女性(中世史研究選書)〔田端泰子著〕(87.10)品切
日本中世の政治と社会〔中野栄夫編〕 …… (03.10)品切
日本中世の政治と史料〔飯倉晴武著〕 …… (03.6)品切
日本中世の政治と制度〔元木泰雄編〕 …… (20.12)品切
日本中世の禅宗と社会 …… 268
日本中世の禅と律 …… 210
日本中世の村落・女性・社会〔田端泰子著〕 …… (11.2)品切
日本中世の地方社会と仏教寺院 …… 245
日本中世の朝廷・幕府体制 …… 188
日本中世の都市と法 …… 191
日本中世の墓と葬送 …… 243
日本中世の村と百姓 …… 247
日本中世の流通と商業 …… 191
日本中世の流通と対外関係 …… 192
日本中世の領主制と村落 上・下〔島田次郎著〕 …(85.11)品切
日本中世の歴史 全7巻 …… 117
日本中世百姓成立史論 …… 240
日本中世仏教史料論 …… 210
日本庭園の歴史と文化 …… 142
日本と国際連合(日本歴史叢書)〔塩崎弘明著〕 … (05.9)品切
日本と大陸の古文化(日本考古学論集)
〔斎藤 忠編集〕 …… (87.5)品切
日本と朝鮮(古代を考える)〔武田幸男編〕 …… (05.1)品切
日本における社会と宗教〔笠原一男編〕 …… (69.12)品切
日本における書籍蒐蔵の歴史(読みなおす日本史) …… 155
日本における政治と宗教〔笠原一男編〕 …… (69.10)品切
日本における倫理思想の展開
〔日本思想史研究会編〕 …… (65.12)品切
日本における倫理と宗教〔下出積與編〕 …… (80.5)品切
日本における歴史思想の展開
〔日本思想史研究会〕 …… (66.1)品切
日本の味 醤油の歴史(歴史文化ライブラリー) …… 42
日本農業史 …… 107
日本農耕社会の形成(日本史学研究叢書)
〔杉原荘介著〕 …… (77.11)品切
日本の開国と多摩(歴史文化ライブラリー) …… 71
日本の貨幣の歴史(日本歴史叢書)…… 104
日本の紙(日本歴史叢書)〔寿岳文章著〕 …… (67.4)品切
日本の奇僧・快僧(読みなおす日本史) …… 153
日本の近代化と民衆意識の変容 …… 257
日本の軍隊を知る(地域のなかの軍隊) …… 136
日本の工芸〔中川千咲編〕 …… (63.10)品切
日本の国号 (新装版)〔岩橋小弥太著〕 …… (97.12)品切
日本の古代宮都と文物 …… 281
日本の古代国家形成と東アジア …… 171
日本の古典籍と古代史〔丸山二郎著〕 …… (84.10)品切
日本の古墳はなぜ巨大なのか …… 278
日本の参謀本部(読みなおす日本史)
〔大江志乃夫著〕 …… (18.3)品切
日本の時代史 全30巻 …… 13
日本のシャマニズム 上・下巻〔櫻井徳太郎著〕 … (74.2)品切
日本の宗教(読みなおす日本史)…… 152
日本の食文化 全6巻…… 288
日本の食文化史年表 …… 169
日本の神話を考える(読みなおす日本史) …… 143
日本の対外関係 全7巻 …… 21
日本の中世寺院(歴史文化ライブラリー) …… 32
日本の彫刻〔久野健編〕 …… (59.10)品切
日本の庭園〔森 蘊編〕 …… (64.11)品切
日本の鉄道(日本歴史叢書)〔原田勝正著〕 …… (91.3)品切
日本の美術〔田中日佐夫著〕 …… (95.10)品切
日本の翡翠〔寺村光晴著〕 …… (95.12)品切
日本の服装(上)〔歴世服装美術研究会編〕…… (64.12)品切
日本の仏教(事典)〔蓑輪顕量編〕 …… (14.2)品切
日本の仏舎利塔〔光地英学著〕 …… (86.11)品切
日本の文化をよみなおす〔大隅和雄著〕 …… (98.7)品切
日本の封建制(豊田武著作集) …… 212
日本の封建制社会〔豊田 武著〕 …… (80.6)品切
日本の梵鐘 (新装版) …… 269
日本の祭と芸能〔新井恒易著〕 …… (56.4)品切
日本の祭りと芸能〔諏訪春雄著〕…… (98.7)品切
日本の祭りを読み解く(歴史文化ライブラリー)…… 36
日本の民俗 全13巻 …… 284
日本の民俗学 …… 285
日本の名僧 全15巻 …… 269
日本の名僧(事典)〔今泉淑夫編〕 …… (05.1)品切
日本馬具大鑑 全4巻
〔日本馬具大鑑編集委員会編〕 …… (92.2)品切
日本美術史(概説)〔町田甲一著〕…… (65.5)品切
日本美術史要説 増補新版
〔久野 健・持丸一夫著〕 …… (63.10)品切
〈日本美術〉の発見(歴史文化ライブラリー)
〔吉田千鶴子著〕 …… (11.4)品切
日本美の心象風景〔田中日佐夫著〕…… (95.6)品切
日本ファッションの一五〇年(歴史文化ライブラリー) … 82
日本婦人洋装史 (新装版) …… 266
日本仏教史 近世〔圭室文雄著〕 …… (87.1)品切
日本仏教史 近代〔柏原祐泉著〕 …… (90.6)品切
日本仏教史 古代〔速水 侑著 〕 …… (86.2)品切
日本仏教史辞典 …… 165
日本仏教史 中世〔大隅和雄・中尾 堯編〕 …… (98.7)品切
日本仏教はじまりの寺 元興寺 …… 114
日本仏像事典 …… 291
日本仏像彫刻史の研究〔久野 健著〕 …… (74.10)品切
日本仏塔の研究 (全2冊)〔石田茂作著〕 ……(16.11)品切
日本文学史 …… 108
日本文化史概論〔石田一良編〕 …… (68.7)品切
日本文化史講義 …… 109
日本文化史の研究(久米邦武歴史著作集)
〔久米邦武著〕 …… (91.6)品切
日本文化史論考〔西田直二郎著〕 …… (63.12)品切
日本文化のあけぼの(日本歴史叢書)…… 104
日本方言学〔東条 操編〕 …… (57.5)品切
日本封建社会論 日本の中世社会(永原慶二著作選集)
〔永原慶二著〕 …… (07.7)品切
日本封建制成立過程の研究(永原慶二著作選集)
〔永原慶二著〕 …… (07.8)品切
日本封建制成立の諸前提〔安田元久編〕 …… (60.5)品切
日本封建制度史〔伊東多三郎著〕 …… (51.9)品切
日本封建制成立の研究〔竹内理三編〕 …… (55.2)品切
日本方言地図〔東条操先生古稀記念会編〕 ……(56.11)品切
日本渤海関係史の研究 …… 183
日本民俗学概論 …… 285
日本民俗学原論〔真野俊和著〕 …… (09.10)品切
日本民俗大辞典 上・下(全2冊) …… 167
日本メディア史年表〔土屋礼子編〕…… (18.1)品切
日本木綿史の研究〔武部善人著〕 …… (85.6)品切
日本文徳天皇実録(新訂増補 国史大系) …… 177
日本文徳天皇実録(新訂増補 国史大系[普及版])
〔黒板勝美編輯〕 …… (71.4)品切
日本郵便切手・はがき図録〔郵政省編〕 …… (71.5)品切
日本遊行宗教論(日本歴史民俗叢書) …… 222

日本幼児史〔柴田 純著〕……(13.1)品切
日本横穴地名表(古墳文化基礎資料)
〔斎藤 忠・杉山博久編〕……(83.4)品切
日本陸軍の軍事演習と地域社会 …… 261
日本陸軍の対ソ謀略 …… 132
日本立憲政治の形成と変質
〔鳥海 靖・三谷 博・西川 誠・矢野信幸編〕……(05.2)品切
日本律令制の構造〔笹山晴生編〕……(03.5)品切
日本律令制の展開〔笹山晴生編〕……(03.5)品切
日本律令制論集 上・下
〔笹山晴生先生還暦記念会編〕……(93.9)品切
日本霊異記を読む〔小峯和明・篠川 賢編〕……(04.1)品切
日本料理の歴史(歴史文化ライブラリー)…… 47
日本歴史(概論)…… 106
日本歴史(月刊雑誌)…… 298
日本歴史考古学論叢〔日本歴史考古学会編〕……(66.11)品切
日本歴史災害事典 …… 166
日本歴史叢書〈新装版〉…… 103
日本歴史地理総説 全5冊〔藤岡謙二郎編〕……(75.6)品切
日本歴史〈復刻版〉合本全17冊
〔日本歴史学会編集〕……(90.4)品切
日本歴史(別冊)総目録 …… 298
日本列島の比較民俗学〔下野敏見著〕……(94.5)品切
入道殿下の物語 大鏡(読みなおす日本史)
〔益田 宗著〕……(16.6)品切
入門 史料を読む〔小山田和夫著〕……(97.11)品切
入門日本史 上・下巻
〔阿部真琴・永島福太郎・井上薫編〕……(64.5)品切
女人往生思想の系譜(日本宗教史研究叢書)
〔笠原一男著〕……(75.8)品切
女人禁制(歴史文化ライブラリー)…… 37
女人政治の中世(読みなおす日本史)…… 145
如来教の成立・展開と史的基盤 …… 255
韮山代官江川氏の研究〔仲田正之著〕……(98.11)品切
仁和寺研究…… 276
仁和寺史料…… 274
仁明天皇(人物叢書)…… 85

ヌ

額田王(人物叢書)…… 84
沼津兵学校の研究〔樋口雄彦著〕……(07.10)品切

ネ

猫絵の殿様〔落合延孝著〕……(96.5)品切
猫が歩いた近現代 …… 134
涅槃と弥勒の図像学〔宮治 昭著〕……(92.2)品切
年中行事大辞典 …… 160
念仏の聖者 法然(日本の名僧)…… 269
年輪が語る歴史(歴史文化ライブラリー)…… 83

ノ

農耕の起源を探る(歴史文化ライブラリー)…… 50
乃木希典(人物叢書)…… 98
後鑑 全3冊(新訂増補 国史大系)…… 178
野中兼山(人物叢書)…… 92
信長・家康と激動の東海(東海の中世史)…… 2
信長軍の合戦史 …… 123
信長と家康の軍事同盟(読みなおす日本史)…… 147
信長と石山合戦(歴史文化セレクション)…… 156
信長のおもてなし(歴史文化ライブラリー)…… 47
信長の天下布武への道(戦争の日本史)…… 17
呪いの都 平安京(読みなおす日本史)…… 144

ハ

バイオロジー事始(歴史文化ライブラリー)…… 42
敗者たちの中世争乱(歴史文化ライブラリー)…… 70
敗者の日本史 全20巻 …… 19
排除する社会・受容する社会
〔関根康正・新谷尚紀編〕……(07.5)品切
廃藩置県の研究 …… 203
墓石が語る江戸時代(歴史文化ライブラリー)…… 67
葉隠〈武士道〉の史的研究 …… 261
博多・福岡と西街道(街道の日本史)
〔丸山雍成・長 洋一編〕……(04.2)品切
墓と石塔の中世(歴史文化ライブラリー)…… 83
墓と葬送の社会史(読みなおす日本史)…… 153
墓と葬送のゆくえ(歴史文化ライブラリー)…… 61
墓と埋葬と江戸時代 …… 200
墓の考古学(事典)…… 166
墓の民俗学 …… 221
秤座(日本歴史叢書)〔林 英夫著〕……(95.12)品切
馬歓 瀛涯勝覧〔小川博訳注〕……(69.3)品切
白隠(読みなおす日本史)〔古田紹欽著〕……(15.2)品切
白山平泉寺 …… 105
幕政改革(幕末維新論集)〔家近良樹編〕……(01.2)品切
幕政と藩政〔藤野 保著〕……(79.9)品切
白村江の真実 新羅王・金春秋の策略
(歴史文化ライブラリー)〔中村修也著〕……(10.3)品切
幕長戦争(日本歴史叢書)…… 103
白鳥になった皇子 古事記(読みなおす日本史)
〔直木孝次郎著〕……(16.4)品切
幕藩権力と寺檀制度 …… 197
幕藩権力と明治維新(明治維新史研究)
〔明治維新史学会編〕……(92.4)品切
幕藩制確立期の村落〔高牧 實著〕……(73.3)品切
幕藩制下陸上交通の研究〔深井甚三著〕……(94.2)品切
幕藩制形成期の琉球支配 …… 199
幕藩制国家解体過程の研究〔北島正元編〕…(77.12)品切
幕藩制国家成立過程の研究〔北島正元編〕…(77.12)品切
幕藩制国家と東アジア世界 …… 173
幕藩制国家の基礎構造〔森安彦著〕……(81.2)品切
幕藩制国家の経済構造〔長野ひろ子著〕……(87.6)品切
幕藩制国家の政治構造〔藤田 覚編〕……(16.11)品切
幕藩制国家の領有制と領民 …… 250
幕藩制社会の展開と関東〔村上 直著〕……(86.12)品切
幕藩制成立史の基礎的研究〔小村 弋著〕……(83.2)品切
幕藩体制解体の史的研究〔長倉 保著〕……(97.8)品切
幕藩体制確立期の諸問題〔大阪歴史学会編〕…(63.9)品切
幕府制度史の研究
〔児玉幸多先生古稀記念会編〕……(83.10)品切
博物館文化史講座(第1集)
〔東京国立博物館監修〕……(58.10)品切
幕府と諸藩(近世史の研究)〔伊東多三郎著〕……(84.3)品切
幕府と朝廷(現代語訳 吾妻鏡)…… 12
幕府のふみくら …… 142
白鳳・天平の時代〔青木和夫著〕……(03.5)品切
幕末以降 帝国軍艦写真と史実(新装版)…… 262
幕末維新期の研究〔石井 孝著〕……(78.11)品切
幕末維新期の社会変革と群像〔田中正弘著〕……(08.7)品切
幕末維新期の日本と世界 …… 256
幕末維新史の研究(日本史学研究叢書)…… 202
幕末維新と外交(幕末維新論集)〔横山伊徳編〕…(01.8)品切
幕末維新と情報(幕末維新論集)〔保谷 徹編〕…(01.3)品切
幕末維新と松平春嶽〔三上一夫著〕……(04.5)品切

幕末維新の個性 全8巻 …… 129
幕末維新の社会と思想〔田中 彰編〕 ……(99.11)品切
幕末維新の政治過程 …… 256
幕末維新の政治と天皇〔高橋秀直著〕 …… (07.2)品切
幕末維新の風刺画(歴史文化ライブラリー) …… 30
幕末維新の文化(幕末維新論集)〔羽賀祥二編〕…(01.11)品切
幕末維新の洋学(大久保利謙歴史著作集) …… 213
幕末維新のリアル …… 131
幕末維新論集 全12巻〔田中 彰編〕 ……(01.12)品切
幕末江戸社会の研究〔南 和男著〕 …… (78.10)品切
幕末期対外関係の研究 …… 174
幕末教育史の研究 全3冊〔倉沢 剛著〕…… (83.2)品切
幕末政治と薩摩藩 …… 202
幕末政治と倒幕運動 …… 199
幕末対外関係と長崎 …… 256
幕末日本と対外戦争の危機(歴史文化ライブラリー) … 51
幕末の海軍(歴史文化ライブラリー) …… 67
幕末の海防戦略(歴史文化ライブラリー) …… 54
幕末の学問・思想と政治運動 …… 257
幕末の公家社会〔李 元 雨著〕 …… (05.8)品切
幕末の情報と社会変革 …… 254
幕末の変動と諸藩(幕末維新論集)〔三宅紹宣編〕 (01.1)品切
幕末の世直し 万人の戦争状態(歴史文化ライブラリー) 53
幕末民衆文化異聞(歴史文化ライブラリー) …… 31
幕末・明治期の陵墓…… 205
幕末・明治の写真術(歴史文化ライブラリー)…… 83
幕末明治見世物事典〔倉田喜弘編〕 …… (12.3)品切
幕末明治 横浜写真館物語(歴史文化ライブラリー)…… 41
幕末 乱世の群像〔吉田常吉著〕 …… (96.1)品切
博覧会と明治の日本(歴史文化ライブラリー) …… 52
幕僚たちの真珠湾(読みなおす日本史)
〔波多野澄雄著〕 …… (13.6)品切
箱館戦争と榎本武揚(敗者の日本史) …… 20
箱根の開発と渋沢栄一 …… 132
はじめての古文書教室 …… 276
橋本左内(人物叢書) …… 95
長谷川如是閑の思想〔板垣哲夫著〕 …… (00.2)品切
支倉常長(人物叢書) …… 91
畠山重忠(人物叢書) …… 87
秦 河勝(人物叢書)…… 84
旗本(日本歴史叢書)〔新見吉治著〕 …… (67.10)品切
旗本・御家人の就職事情(歴史文化ライブラリー)…… 63
旗本知行所の支配構造〔川村 優著〕 …… (91.3)品切
旗本領の研究〔若林淳之著〕 …… (87.5)品切
八条院(人物叢書) …… 101
八代目市川團十郎 …… 128
八幡信仰と修験道 …… 221
馬冑が来た道〔金井塚良一著〕 …… (08.8)品切
発掘文字が語る 古代王権と列島社会
〔狩野 久著〕……(10.10)品切
跋扈する怨霊(歴史文化ライブラリー) …… 46
話し言葉の日本史(歴史文化ライブラリー) …… 53
花園天皇(人物叢書) …… 89
花園天皇宸翰集〔宮内庁書陵部編〕 …… (77.4)品切
花と日本文化(西山松之助著作集) …… 213
花の宴〔川口久雄著〕 …… (80.3)品切
塙 保己一(人物叢書)…… 94
浜口雄幸(人物叢書) …… 102
林 羅山(人物叢書)…… 92
隼人の古代史(読みなおす日本史)…… 144
はやり神と民衆宗教(宮田登 日本を語る)
〔宮田 登著〕…… (06.4)品切
原敬(人物叢書) …… 102
ハリス(人物叢書) …… 96
半跏思惟像の研究〔田村圓澄・黄 寿永編〕…… (85.4)品切
反骨の導師 日親・日奥(日本の名僧)
〔寺尾英智他編〕 …… (04.9)品切
はんこと日本人(読みなおす日本史) …… 155
ハンコの文化史(読みなおす日本史) …… 155
「蛮社の獄」のすべて …… 128
播州と山陽道(街道の日本史)
〔三浦俊明・馬田綾子編〕 ……(01.10)品切
藩制成立期の研究〔金井 圓著〕 …… (75.8)品切
藩制成立史の綜合研究(米沢藩)
〔藩政史研究会編〕 …… (63.3)品切
磐梯山噴火(ニューヒストリー近代日本)
〔北原 糸子著〕…… (98.12)品切
半田銀山史(庄司吉之助著作集) …… (82.6)品切
番茶と庶民喫茶史(日本歴史民俗叢書) …… 222
番茶と日本人(歴史文化ライブラリー) …… 28
班田収授(研究史)〔村山光一著〕 …… (78.4)品切
班田収授法の復原的研究 …… 229
班田収授法の研究(日本史学研究叢書) …… 170
坂東の成立(古代の東国) …… 111
番と衆(歴史文化ライブラリー) …… 26
藩閥政府と立憲政治〔佐々木 隆著〕 …… (92.8)品切
万里集九(人物叢書) …… 90

ヒ

悲運の遣唐僧(歴史文化ライブラリー) …… 30
比叡山延暦寺(歴史文化ライブラリー) …… 29
比叡山と高野山(読みなおす日本史) …… 152
東アジア海域と日中交流〔榎本 渉著〕 …… (07.6)品切
東アジアからみた「大化改新」(歴史文化ライブラリー) 76
東アジア世界の成立(日本の対外関係)…… 21
東アジア通交圏と国際認識 …… 192
東アジアと日本 全3冊
〔田村圓澄先生古稀記念会編〕 …… (87.12)品切
東アジアにおける民俗と宗教
〔元興寺文化財研究所編〕 …… (81.7)品切
東アジアの国際秩序と古代日本 …… 183
東アジアの古代都城
〔奈良文化財研究所編集・発行〕…… (03.6)品切
東アジアの初期鉄器文化〔潮見 浩著〕 …… (82.8)品切
東アジアの中世城郭(城を極める)…… 124
東アジアの動乱と倭国(戦争の日本史) …… 16
東アジアのなかの日本古代史〔田村圓澄著〕…… (06.5)品切
東アジアの日本書紀(歴史文化ライブラリー) …… 57
東アジアの文化交流史〔池田 温著〕 …… (02.3)品切
東アジアの兵器革命〔久芳 崇著〕 ……(10.12)品切
東アジアの米軍再編 …… 263
東アジアの民俗宗教(櫻井徳太郎著作集)
〔櫻井徳太郎著〕 …… (87.4)品切
東アジアの礼・儀式と支配構造 …… 235
東アジア兵器交流史の研究 …… 193
東アラビアの歴史と石油〔川崎寅雄著〕…… (67.10)品切
東と西の醤油史〔林 玲子・天野雅敏編〕…… (99.6)品切
東トルキスタン社会史研究(18 – 19 世紀)
〔佐口 透著〕…… (63.4)品切
東日本の統合と織豊政権(列島の戦国史)…… 125
東日本の動乱と戦国大名の発展(列島の戦国史) …… 125
光源氏に迫る …… 115
樋口一葉(人物叢書) …… 97
彦根藩世田谷代官勤事録
〔大場弥十郎著・渡辺一郎校訂〕…… (61.4)品切
被災地の博物館に聞く …… 141
毘沙門天像の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 32

ビジュアル再現 平安京 …… 115
美術研究〔東京国立文化財研究所編集〕 …… 品切
美術研究(合本復刻版) 全23冊
〔東京国立文化財研究所編集〕 …… (72.4)品切
美術研究総目録〔美術研究所編〕 …… (65.5)品切
美術のアイデンティティー(シリーズ 近代美術のゆくえ) 294
聖と説話の史的研究 …… 211
卑賤観の系譜(歴史文化ライブラリー) …… 25
肥前名護屋城の研究 …… 246
肥前国神崎荘史料(荘園史料叢書)
〔瀬野精一郎著〕 …… (75.10)品切
備前国孝子伝〔菅野則子編〕 …… (05.5)品切
常陸と水戸街道(街道の日本史) …… 23
常陸国分僧寺の堂塔跡と寺域の研究
〔斎藤考古学研究所〕 …… (80.12)品切
微地形と中世村落(中世史研究選書)
〔金田章裕著〕 …… (93.8)品切
非徴(懐徳堂文庫復刻叢書)
〔大阪大懐徳堂文庫復刻刊行会監修〕 …… (88.2)品切
秀吉の軍令と大陸侵攻 …… 246
秀吉の接待(読みなおす日本史) …… 148
秀吉の手紙を読む(読みなおす日本史) …… 148
秀吉の天下統一戦争(戦争の日本史) …… 18
人とことば(人物叢書) …… 100
人と動物の考古学(事典) …… 166
人と動物の日本史 全4巻〔菅 豊編〕 …… (09.3)品切
ヒトとミミズの生活誌(歴史文化ライブラリー) …… 27
人のつながりと平安京(歴史文化ライブラリー) …… 83
人々の営みと近世の自然(環境の日本史) …… 21
火と水の民俗文化誌(日本歴史民俗叢書) …… 222
ヒトラーのニュルンベルク(歴史文化ライブラリー) …… 32
人をあるく …… 10
火縄銃の伝来と技術〔佐々木 稔編〕 …… (03.4)品切
火の国と不知火海(街道の日本史) …… 23
日野富子(人物叢書) …… 101
美福門院(人物叢書) …… 101
非物篇(懐徳堂文庫復刻叢書)
〔大阪大懐徳堂文庫復刻刊行会監修〕 …… (89.2)品切
卑弥呼と女性首長 (新装版) …… 113
卑弥呼の時代(読みなおす日本史) …… 142
卑弥呼の食卓
〔金関 恕監修・大阪府立弥生文化博物館編〕… (99.8)品切
百姓一揆と義民の研究〔保坂 智著〕 …… (06.7)品切
百姓一揆とその作法(歴史文化ライブラリー) …… 37
百人一首の歴史学(読みなおす日本史) …… 155
百錬抄(新訂増補 国史大系) …… 177
百貨店で〈趣味〉を買う〔神野由紀著〕 …… (15.5)品切
兵庫県の考古学(郷土考古学叢書)〔村川行弘編〕(96.6)品切
標注訓読 古事記〔丸山二郎著〕 …… (65.12)品切
標準 世界史掛図 全24軸〔亀井高孝・三上次男編〕… 品切
標準 世界史辞典〔三上次男・秀村欣二編〕…… (68.2)品切
標準 世界史地図 …… 297
標準 世界史年表 …… 297
標準 日本史掛図 全18軸〔児玉幸多編〕 …… 品切
標準 日本史辞典〔児玉幸多編〕 …… (73.1)品切
標準 日本史地図…… 297
標準 日本史年表…… 297
表象としての皇族 …… 265
平等院鳳凰堂 …… 290
漂泊の民俗文化(日本歴史民俗論集)
〔山折哲雄・宮田 登編〕 …… (94.2)品切
漂流民の言語〔村山七郎著〕 …… (65.4)品切
平泉建築文化研究〔藤島亥治郎編著〕 …… (95.10)品切
平泉中尊寺(歴史文化ライブラリー) …… 29
平泉と奥州道中(街道の日本史)…… 23
東北の中世史 全5巻…… 118
平泉の仏教史(平泉の文化史) …… 8
平泉の文化史 全3巻 …… 8
平泉を掘る(平泉の文化史) …… 8
平賀源内(人物叢書) …… 93
平田篤胤(人物叢書) …… 95
平塚らいてう〔米田佐代子著〕 …… (02.2)品切
ビルマにおける日本軍政史の研究〔太田常蔵著〕 (67.8)品切
秘録 維新七十年図鑑 (新装版) …… 258
弘前藩(日本歴史叢書)〔長谷川成一著〕…… (04.3)品切
広島県の考古学(郷土考古学叢書)〔松崎寿和著〕(81.6)品切
広島藩(日本歴史叢書) …… 103
広島・福山と山陽道(街道の日本史)〔頼 祺一編〕 (06.8)品切
広瀬淡窓(人物叢書) …… 95
広田弘毅(人物叢書) …… 102
備後国大田荘史料1(荘園史料叢書)
〔瀬野精一郎編〕 …… (86.1)品切

フ

フィールドワークの戦後史 …… 138
風水と家相の歴史(歴史文化ライブラリー) …… 50
武器と武具の有識故実 …… 293
武器・馬具と城柵(日本考古学論集)
〔斎藤 忠編集〕…… (87.3)品切
福沢諭吉(人物叢書) …… 97
福沢諭吉と福住正兄(歴史文化ライブラリー) …… 26
福沢諭吉論考〔伊藤政雄著〕 …… (69.10)品切
福島の民俗と伝承(庄司吉之助著作集) …… (83.9)品切
福島正則(人物叢書) …… 102
服制と儀式の有職故実 …… 194
福地桜痴(人物叢書) …… 97
武家儀礼格式の研究 …… 194
武家政権成立史 …… 121
武家に嫁いだ女性の手紙〔妻鹿淳子著〕 …… (11.9)品切
〈武家の王〉足利氏(歴史文化ライブラリー) …… 73
富士山噴火の考古学 …… 282
富士山宝永大爆発(読みなおす日本史)…… 150
武士神格化の研究 全2冊〔高野信治著〕 …… (18.1)品切
武士世界形成の群像〔安田元久著〕 …… (86.3)品切
武士世界の序幕〔安田元久著〕 …… (73.10)品切
藤田東湖(人物叢書) …… 95
武士団としての江戸大名(歴史文化ライブラリー) …… 83
武士団と村落(日本歴史叢書)〔豊田 武著〕 … (94.12)品切
武士という身分(歴史文化ライブラリー) …… 57
武士と大名の古文書入門 …… 277
武士と山伏(歴史文化ライブラリー) …… 83
武士の衣服から歴史を読む …… 122
武士の掟(読みなおす日本史) …… 147
武士の原像(読みなおす日本史) …… 144
武士の周縁に生きる(身分的周縁と近世社会)
〔森下 徹編〕 …… (07.2)品切
武士の成立(日本歴史叢書) …… 103
武士の奉公 本音と建前(歴史文化ライブラリー) …… 61
富士の巻狩(現代語訳 吾妻鏡) …… 12
伏見天皇御集 夏部 …… 275
伏見天皇宸筆御置文 …… 275
伏見宮本 文机談(複製)〔宮内庁書陵部編〕 ……(71.12)品切
藤原氏の氏寺とその院家〔杉山信三著〕…… (68.8)品切
藤原惺窩(人物叢書) …… 91
藤原摂関家の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 37
藤原忠通(人物叢書) …… 101
藤原定家明月記の研究〔辻 彦三郎著〕 …… (77.4)品切

藤原兼家(人物叢書) …… 101
藤原鎌足(人物叢書) …… 101
藤原鎌足、時空をかける(歴史文化ライブラリー) …… 54
藤原鎌足と阿武山古墳 …… 279
藤原鎌足とその時代〔青木和夫・田辺昭三編〕 … (97.3)品切
藤原実資(人物叢書) …… 101
藤原俊成(人物叢書) …… 87
藤原俊成 中世和歌の先導者 …… 296
藤原彰子(人物叢書) …… 86
藤原佐理(人物叢書) …… 86
藤原純友(人物叢書) …… 86
藤原忠実(人物叢書) …… 87
藤原忠平(人物叢書) …… 101
藤原種継(人物叢書) …… 101
藤原定家(人物叢書) …… 88
藤原定子(人物叢書) …… 101
藤原時平(人物叢書) …… 101
藤原仲麻呂(人物叢書) …… 85
藤原仲麻呂と道鏡(歴史文化ライブラリー) …… 71
藤原広嗣(人物叢書) …… 84
藤原不比等(人物叢書) …… 84
藤原冬嗣(人物叢書) …… 85
藤原麻呂(人物叢書) …… 101
藤原道長(人物叢書) …… 86
藤原宗忠(人物叢書) …… 101
藤原基経(人物叢書) …… 101
藤原保則(人物叢書) …… 101
藤原行成(人物叢書) …… 86
藤原頼経(人物叢書) …… 101
藤原頼長(人物叢書) …… 87
藤原頼通(人物叢書) …… 101
武人儒学者 新井白石(歴史文化ライブラリー) …… 81
扶桑略記(新訂増補 国史大系) …… 177
譜代大名の創出と幕藩体制 …… 249
ふたつの憲法と日本人(歴史文化ライブラリー) …… 66
仏画入門〔真鍋俊照著〕 …… (05.6)品切
仏画の造形(泉 武夫著) …… (95.8)品切
仏画の見かた(歴史文化ライブラリー) …… 34
仏教伝来の研究 …… 267
仏教と女の精神史〔野村育世著〕 …… (04.9)品切
仏教美術のイコノロジー〔宮治 昭著〕 …… (99.2)品切
仏師快慶論 増補版〔毛利 久著〕 …… (87.11)品切
仏師たちの南都復興 …… 292
仏像図典 増補版〔佐和隆研編〕 …… (90.12)品切
仏像の再発見(歴史文化セレクション) …… 157
仏塔伝来(歴史文化ライブラリー) …… 83
仏都鎌倉の一五〇年(歴史文化ライブラリー) …… 72
仏法の文化史〔大隅 和雄編〕 …… (03.1)品切
武道の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 41
不動明王(読みなおす日本史) …… 153
風土記と万葉集(坂本太郎著作集) …… 212
風土記の世界観(歴史文化ライブラリー) …… 83
船の古代史(歴史文化ライブラリー) …… 83
踏絵を踏んだキリシタン(歴史文化ライブラリー) …… 68
フランスの中世社会(歴史文化ライブラリー) …… 44
部類記作成開始(現代語訳 小右記) …… 10
ふるさと資源化と民俗学〔岩本通弥編〕 …… (07.3)品切
文化遺産と〈復元学〉 …… 141
文学から見る「満洲」(歴史文化ライブラリー) …… 29
文学にみる日本女性の歴史
〔西村汎子・関口裕子・菅野則子・江刺昭子編〕 (00.2)品切
文化財学の新地平〔奈良文化財研究所編〕 …… (13.5)品切
文化財と歴史学〔奈良文化財研究所編集・発行〕 (03.3)品切
文化財報道と新聞記者(歴史文化ライブラリー) …… 41
文化史の構想〔大隅和雄編〕 …… (03.3)品切
文化史の諸相〔大隅和雄編〕 …… (03.2)品切
文化史論叢〔奈良国立文化財研究所編〕 …… (60.2)品切
文化と女性(日本女性史論集)
〔総合女性史研究会編〕 …… (98.4)品切
文化論・生活論・学問論・史学論(近世史の研究)
〔伊東多三郎著〕 …… (83.6)品切
豊後国大野荘史料(荘園史料叢書)〔渡辺澄夫編〕 (79.9)品切
文語文法(概説)〔亀井 孝著〕 …… (55.3)品切
文人貴族の系譜(中世史研究選書)〔小原 仁著〕 (87.11)品切
文房具の考古学(歴史文化ライブラリー) …… 80
墳墓と経塚(日本考古学論集)〔斎藤 忠編集〕 … (87.1)品切
文明開化 失われた風俗(歴史文化ライブラリー) …… 49
文明開化と差別(歴史文化ライブラリー) …… 36
文明史及社会論(鼎軒田口卯吉全集) …… (90.1)品切
文明に抗した弥生の人びと(歴史文化ライブラリー) … 66
文室宮田麻呂(人物叢書) …… 101
文室綿麻呂(人物叢書) …… 101
文禄・慶長の役(戦争の日本史) …… 18
文禄慶長の役(全2冊)
〔池内 宏著・北島万次解説〕 ……(87.11)品切

へ

平安王朝の宮廷社会〔黒板伸夫著〕 …… (95.1)品切
平安王朝の子どもたち …… 238
平安王朝の政治と制度〔藤木邦彦著〕 …… (91.3)品切
平安貴族社会と仏教(日本宗教史研究叢書)
〔速水 侑著〕 …… (75.12)品切
平安貴族社会と仏教(日本宗教史研究叢書) …… 208
平安貴族社会の研究 …… 184
平安貴族と陰陽師 …… 115
平安貴族と邸第 …… 184
平安貴族の仕事と昇進(歴史文化ライブラリー) …… 78
平安貴族の住まい(歴史文化ライブラリー) …… 73
平安貴族の夢分析〔倉本一宏著〕 …… (08.3)品切
平安宮廷の儀礼文化〔末松 剛著〕 …… (10.6)品切
平安京(研究史)〔井上満郎著〕 …… (78.8)品切
平安京(古代史研究選書)〔北村優季著〕 …… (95.12)品切
平安京(日本の時代史) …… 14
平安京と中世仏教 …… 105
平安京の空間と文学〔西村さとみ著〕 …… (05.9)品切
平安京の災害史(歴史文化ライブラリー)
〔北村優季著〕 …… (12.6)品切
平安京の時代(日本古代の歴史) …… 110
平安京の生と死(歴史文化ライブラリー) …… 80
平安京の都市生活と郊外(歴史文化ライブラリー) …… 27
平安京のニオイ(歴史文化ライブラリー)
〔安田政彦著〕 …… (07.2)品切
平安京はいらなかった(歴史文化ライブラリー) …… 65
平安京への道しるべ〔土田直鎮著〕 …… (94.2)品切
平安時代医学史の研究(日本医学史の研究) …… 213
平安時代記録語集成 上・下 …… 161
平安時代軍事制度の研究 …… 184
平安時代皇親の研究 …… 184
平安時代辞書論考 …… 296
平安時代政治史研究〔森田 悌著〕 …… (78.12)品切
平安時代世俗画の研究 …… 292
平安時代の后と王権 …… 238
平安時代の国衙機構と地方政治 …… 232
平安時代の死刑(歴史文化ライブラリー)
〔戸川 点著〕 …… (15.3)品切
平安時代の神社と神職 …… 211
平安時代の親王と政治秩序 …… 234

平安時代の日本外交と東アジア …… 235
平安時代の歴史と文学(歴史編・文学編)
〔山中 裕編〕……(81.11)品切
平安初期政治史研究〔大塚徳郎著〕 …… (69.3)品切
平安初期彫刻史の研究〔久野 健著〕 …… (74.10)品切
平安初期の王権と官僚制 …… 182
平安初期の王権と文化 …… 171
平安前期の政変と皇位継承 …… 234
平安朝音楽制度史 …… 185
平安朝漢文学総合索引 …… 223
平安朝漢文学の開花〔川口久雄著〕 …… (91.1)品切
平安朝漢文文献の研究〔後藤昭雄著〕 …… (93.6)品切
平安朝 女性のライフサイクル(歴史文化ライブラリー) 29
平安朝の漢文学(日本歴史叢書)〔川口久雄著〕… (96.3)品切
平安朝文学の史的研究〔山中 裕編〕 …… (74.4)品切
平安朝文人志〔後藤昭雄著〕 …… (93.11)品切
平安の宮廷と貴族〔橋本義彦著〕 …… (96.12)品切
平安の朝廷〔笹山晴生著〕 …… (93.4)品切
平安の都市と文化(史跡で読む日本の歴史) …… 22
平安の都(古代を考える)〔笹山晴生編〕 …… (91.2)品切
平安仏教と末法思想 …… 208
平安密教の研究〔松崎惠水著〕 …… (02.3)品切
米軍基地の歴史(歴史文化ライブラリー) …… 56
平家政権と荘園制 …… 241
平家物語の女たち(読みなおす日本史) …… 145
平家物語の歴史と芸能 …… 195
平家物語(ハビヤン抄キリシタン版)
〔亀井高孝・阪田雪子翻字〕 …… (66.10)品切
平家物語を読む(歴史と古典)〔川合 康編〕 …… (09.1)品切
平家物語を読む(読みなおす日本史) …… 145
平氏が語る源平争乱(歴史文化ライブラリー)
〔永井 晋著〕 …… (19.1)品切
平氏政権と源平争乱(京都の中世史) …… 6
平氏滅亡(現代語訳 吾妻鏡) …… 12
平城宮跡(埋蔵文化財発掘調査報告)
〔文化財保護委員会編〕 …… (57.9)品切
平城宮第一次大極殿院跡 (全2冊セット) …… 279
平城宮大極殿院の設計思想 …… 231
平城宮兵部省跡 (全2冊セット) …… 279
平城京(歴史文化ライブラリー) …… 83
平城京成立史論 …… 231
平城京長屋王邸跡(全2冊)
〔奈良国立文化財研究所編集・発行〕 …… (96.3)品切
平城京長屋王邸宅と木簡
〔奈良国立文化財研究所編〕 …… (91.1)品切
平城京に暮らす(歴史文化ライブラリー) …… 51
平城京の時代(古代の都)〔田辺征夫・佐藤 信編〕 (10.7)品切
平城京の住宅事情(歴史文化ライブラリー) …… 61
平城京の役人たちと暮らし …… 114
平城京を掘る(地中からのメッセージ)
〔田辺征夫著〕 …… (92.5)品切
平城時代史論考〔角田文衛著〕 …… (07.6)品切
平成新修旧華族家系大成 上・下
〔霞会館華族家系大成編輯委員会編〕 …… (96.9)品切
平城天皇(人物叢書) …… 85
別聚符宣抄(新訂増補 国史大系) …… 178
ベトナム戦争(歴史文化セレクション)〔吉澤 南著〕(09.5)品切
ヘボン(人物叢書) …… 98
部民制(研究史)〔武光 誠著〕 ……(81.12)品切
部民制(古代史演習)〔武光 誠著〕 …… (82.5)品切
ペリー来航(日本歴史叢書) …… 103
ペルシア古美術研究(ガラス器・金属器)
〔深井晋司著〕 …… (68.2)品切
ペルシア古美術研究 第2巻〔深井晋司著〕 …… (80.3)品切
ペルシア美術史〔深井晋司・田辺勝美著〕 …… (83.12)品切
ベルニーニ(歴史文化セレクション)〔石鍋真澄著〕(10.6)品切
変革期の商人資本〔丁吟史研究会編〕 ……(84.11)品切
変革期の人間像〔永井路子著〕 …… (90.12)品切
変体漢文 (新装版) …… 277
変貌する清盛(歴史文化ライブラリー) …… 54
変貌する中世都市京都(京都の中世史)…… 6
遍歴の武家〔坂井誠一著〕 …… (63.12)品切

ホ

帆足万里(人物叢書) …… 95
封建社会の村と町〔大阪歴史学会編〕 …… (60.10)品切
封建制下の社会と交通〔丸山雍成著〕 …… (01.6)品切
封建都市(豊田武著作集) …… 212
宝治合戦(現代語訳 吾妻鏡) …… 13
方丈記に人と栖の無常を読む …… 122
北条貞時(人物叢書) …… 101
北条重時(人物叢書) …… 88
北条氏権力と都市鎌倉 …… 242
北条氏五代と小田原城(人をあるく) …… 11
北条氏と三浦氏(対決の東国史) …… 5
法成寺の興隆(現代語訳 小右記) …… 9
北条高時(人物叢書) …… 101
北条時政(人物叢書) …… 101
北条時宗(人物叢書) …… 88
北条時頼(人物叢書) …… 88
北条政子(人物叢書) …… 88
北条政子(歴史文化ライブラリー) …… 33
北条泰時(人物叢書) …… 88
北条義時(人物叢書) …… 88
房総と江戸湾(街道の日本史)〔川名 登編〕 …… (03.3)品切
法曹類林(新訂増補 国史大系) …… 178
〈報道写真〉と戦争 …… 133
法然(日本名僧論集)〔伊藤唯真・玉山成元編〕 (82.10)品切
法然(人物叢書) …… 87
法然上人と浄土宗(日本仏教宗史論集)
〔伊藤唯真・玉山成元編〕 …… (85.2)品切
放鷹 (新装版)〔宮内省式部職編纂〕 …… (10.6)品切
法隆寺献納宝物銘文集成〔東京国立博物館編〕 (99.2)品切
北斎の謎を解く(歴史文化ライブラリー) …… 36
北槎聞略〔桂川甫周編著・亀井高孝校訂〕 …… (36.12)品切
墨書土器の研究 …… 236
墨水別墅雑録〔依田学海著・今井源衛校訂〕 …… (87.4)品切
北陸地方の荘園／近畿地方の荘園Ⅰ(講座 日本荘園史)
〔網野善彦・石井進・稲垣泰彦・永原慶二編〕 … (93.2)品切
北陸の名城を歩く 石川編 …… 139
北陸の名城を歩く 富山編 …… 139
北陸の名城を歩く 全3冊 …… 139
法華経と古代国家〔田村圓澄著〕 …… (05.4)品切
保元の乱・平治の乱 …… 119
星占い星祭り (新装版) …… 142
星亨(人物叢書) …… 97
保科正之(人物叢書) …… 92
戊辰戦後の仙台藩(家老)一族 …… 134
戊辰戦争(戦争の日本史) …… 18
戊辰戦争と草莽の志士 …… 131
戊辰戦争の新視点 上・下 …… 130
戊辰戦争論(歴史文化セレクション) …… 157
細川家の歴史資料と書籍 …… 250
細川家文書(永青文庫叢書) …… 272
細川忠利(歴史文化ライブラリー) …… 68
細川政元(人物叢書) …… 101
細川幽斎(人物叢書) …… 102

細川頼之(人物叢書) …… 89
渤海王国の政治と社会 …… 223
渤海国興亡史(歴史文化ライブラリー) …… 34
渤海国とは何か(歴史文化ライブラリー) …… 66
北海道開拓と移民〔田中彰・桑原真人著〕 …… (96.2)品切
渤海と日本 …… 235
法華義疏(御物)(複製) 全4巻
〔聖徳太子奉讃会編〕 …… (71.4)品切
法華の行者 日蓮(日本の名僧) …… 269
北国街道(街道の日本史)
〔古川貞雄・花ヶ前盛明編〕 …… (03.4)品切
ポツダム宣言と軍国日本(敗者の日本史) …… 21
北方探検記〔H. チースリク編〕 …… (62.4)品切
北方伝説の誕生 …… 109
北方文化と南島文化(日本考古学論集)
〔斎藤 忠編集〕 …… (87.4)品切
〈ほとけ〉と力〔佐々木宏幹著〕 …… (02.2)品切
仏の世界観〔西村公朝著〕 …… (79.12)品切
ほとけを造った人びと(歴史文化ライブラリー) …… 59
骨が語る古代の家族(歴史文化ライブラリー) …… 48
堀河天皇(人物叢書) …… 101
本願寺-一向一揆の研究(戦国大名論集)
〔峰岸純夫編〕 …… (84.7)品切
盆行事と葬送墓制(歴博フォーラム) …… 141
本陣の研究〔大島延次郎著〕 …… (55.5)品切
本地垂迹(日本歴史叢書)〔村山修一著〕 …… (95.2)品切
本朝世紀(新訂増補 国史大系) …… 177
本朝続文粋(新訂増補 国史大系) …… 178
本朝文集(新訂増補 国史大系) …… 178
本朝文粋(新訂増補 国史大系) …… 178
本能寺の変の首謀者はだれか(読みなおす日本史) …… 147
本納町史〔本納町社会教育委員会編〕 …… (55.10)品切

マ

埋葬からみた古墳時代(歴史文化ライブラリー) …… 67
埋蔵文化財要覧 1・2〔文化財保護委員会編〕 …… (59.4)品切
前島 密(人物叢書) …… 98
前田家(家からみる江戸大名) …… 4
前田綱紀(人物叢書) …… 93
前田利家(人物叢書) …… 91
前田利長(人物叢書) …… 91
前田正名(人物叢書) …… 98
真木和泉(人物叢書) …… 96
牧野伸顕(人物叢書) …… 99
孫の孫が語る藤原道長 …… 116
マザーグースと日本人(歴史文化ライブラリー) …… 36
正岡子規(人物叢書) …… 97
将門伝説の歴史(歴史文化ライブラリー) …… 62
将門の乱(研究史)
〔佐伯有清・坂口 勉・関口 明・追塩千尋著〕 …… (76.9)品切
真崎甚三郎(人物叢書) …… 102
魔女裁判(歴史文化ライブラリー) …… 34
増鏡(新訂増補 国史大系) …… 177
町火消たちの近代(歴史文化ライブラリー) …… 31
松井友閑(人物叢書) …… 90
松浦武四郎(人物叢書)〔吉田武三著〕 …… (67.6)品切
松岡洋右(人物叢書) …… 102
松岡洋右と日米開戦(歴史文化ライブラリー) …… 70
松尾芭蕉(人物叢書) …… 92
松尾芭蕉と奥の細道(人をあるく) …… 11
松方正義(人物叢書) …… 102
松平定信(人物叢書) …… 94
松平春嶽(人物叢書) …… 96
松平信綱(人物叢書) …… 92
松尾大社史料集 …… 274
松屋筆記 全3冊 …… 218
まつりと神々の古代 …… 105
祭りの快楽(日本の民俗) …… 284
祀りを乞う神々〔田中宣一著〕 …… (05.5)品切
間部詮房(人物叢書) …… 102
まぼろしの古代尺〔新井 宏著〕 …… (92.6)品切
間宮林蔵(人物叢書) …… 95
丸山真男の思想史学(歴史文化ライブラリー) …… 38
マンガ誕生(歴史文化ライブラリー) …… 31
漫画にみる1945年〔清水 勲著〕 …… (95.7)品切
満済(人物叢書) …… 101
満洲移民・青少年義勇軍の研究 …… 260
満洲国 …… 133
満洲国と国際連盟〔臼井勝美著〕 …… (95.5)品切
満洲国のビジュアル・メディア …… 133
満州事変から日中全面戦争へ(戦争の日本史) …… 18
満州事変と対中国政策 …… 204
満洲出版史〔岡村敬二著〕 …… (12.12)品切
満洲紳士録の研究 …… 266
満洲の日本人〈新装版〉 …… 133
満鮮原始墳墓の研究〔三上次男著〕 …… (61.2)品切
満鮮史研究 全5冊〔池内 宏著〕 …… (79.5)品切
マンチュリア史研究 …… 260
満鉄〔小林英夫著〕 …… (96.9)品切
満鉄四十年史 …… 260
満鉄を知るための十二章〔天野博之著〕 …… (09.3)品切
万葉歌人と中国思想〔増尾伸一郎著〕 …… (97.4)品切
万葉集古義 全10冊 …… 218
万葉集と歌人たち(直木孝次郎古代を語る)
〔直木孝次郎著〕 …… (09.9)品切
万葉集と古代史(歴史文化ライブラリー)
〔直木孝次郎著〕 …… (00.6)品切
万葉集を読む(歴史と古典)〔古橋信孝編〕 …… (08.9)品切

ミ

三浦一族の研究 …… 121
三浦一族の中世(歴史文化ライブラリー) …… 62
三浦梅園(人物叢書) …… 93
三浦梅園の教育思想研究〔橋尾四郎著〕 …… (83.2)品切
三浦義村(人物叢書) …… 88
〈身売り〉の日本史(歴史文化ライブラリー) …… 56
未解放部落史の研究〔渡辺 実著〕 …… (65.5)品切
未解放部落の形成と展開〔渡辺 広著〕 …… (77.12)品切
未解放部落の史的研究〔渡辺 広著〕 …… (63.3)品切
三笠宮崇仁親王 …… 270
【逸話編】三河から関東の覇者へ(現代語訳徳川実紀)
〔大石 学・佐藤宏之・小宮山敏和・野口朋隆編〕 (11.6)品切
御本本幸吉(人物叢書) …… 99
三くだり半と縁切寺(読みなおす日本史)
〔高木 侃著〕 …… (14.12)品切
巫女と仏教史〔萩原龍夫著〕 …… (83.6)品切
三島通庸(人物叢書) …… 102
水鏡(新訂増補 国史大系) …… 177
水と人の列島史 …… 141
水野忠邦(人物叢書) …… 95
道と駅(読みなおす日本史) …… 144
道長薨去(現代語訳 小右記) …… 10
道長政権の成立(現代語訳 小右記) …… 8
みちのく歴史講座 古文書が語る東北の江戸時代 …… 128
三井財閥の研究〔松元 宏著〕 …… (79.2)品切
三井高利(人物叢書) …… 92

密教の思想(歴史文化ライブラリー) …… 29
密教の聖者 空海(日本の名僧) …… 269
光田健輔(人物叢書)〔内田 守著〕 …… (71.6)品切
水戸学と明治維新(歴史文化ライブラリー) …… 38
水戸藩学問・教育史の研究〔鈴木暎一著〕 …… (87.3)品切
水戸藩史料 全5冊 …… 217
南方熊楠(人物叢書) …… 99
南方熊楠外伝〔笠井 清著〕 …… (86.10)品切
南方熊楠 親しき人々〔笠井 清著〕 …… (82.5)品切
南方熊楠書簡抄〔笠井 清編〕 …… (88.1)品切
南方熊楠 人と学問〔笠井 清著〕 …… (80.5)品切
南関東の弥生文化 …… 278
源 高明(人物叢書) …… 101
源 順(人物叢書) …… 101
源 通親(人物叢書) …… 87
源 義家(人物叢書) …… 87
源 義経(人物叢書) …… 87
源 義経(歴史文化ライブラリー) …… 45
源義経と壇ノ浦(人をあるく)〔前川佳代著〕 …… (15.6)品切
源 義朝(人物叢書) …… 101
源頼家とその時代(歴史文化ライブラリー) …… 78
源 頼朝(人物叢書) …… 101
源頼朝と鎌倉(人をあるく) …… 10
源頼朝と鎌倉幕府(読みなおす日本史) …… 144
源頼朝と木曾義仲(対決の東国史) …… 5
源頼朝文書の研究 研究編 …… 241
源頼朝文書の研究 史料編〔黒川高明編著〕 …… (88.7)品切
源 頼信(人物叢書) …… 101
源 頼政(人物叢書) …… 87
源頼政と『平家物語』 …… 116
源 頼光(人物叢書) …… 86
源 頼義(人物叢書) …… 87
源 頼朝〔安田元久著〕 …… (86.10)品切
美濃斎藤氏四代(歴史文化ライブラリー) …… 83
身分社会の生き方(日本近世史を見通す) …… 3
身分的周縁と近世社会 全9巻 …… 129
身分的周縁を考える(身分的周縁と近世社会)
〔高埜利彦他編〕 …… (08.3)品切
身分のなかの女性(〈江戸〉の人と身分)
〔藪田 貫・柳谷慶子編〕 …… (10.8)品切
身分論をひろげる(〈江戸〉の人と身分)
〔大橋幸泰・深谷克己編〕 …… (11.1)品切
身分を問い直す(シリーズ近世の身分的周縁)
〔久留島浩・高埜利彦・塚田孝・横田冬彦・吉田伸之編〕 …
(00.11)品切
美作の民俗(民俗総合調査報告シリーズ)
〔和歌森太郎編〕 …… (63.3)品切
任那興亡史〔末松保和著〕 …… (49.2)品切
ミミヲキリ ハナヲソギ(中世史研究選書)
〔黒田弘子著〕 …… (95.3)品切
三宅雪嶺(人物叢書) …… 99
都と鄙の中世史〔石井 進編〕 …… (92.3)品切
木簡が語る古代史 全2冊 …… 112
都はなぜ移るのか(歴史文化ライブラリー) …… 56
京を支配する山法師たち …… 124
宮崎県の考古学(郷土考古学叢書)
〔石川恒太郎著〕 …… (68.4)品切
宮座と村落の史的研究〔高牧 實著〕 …… (86.11)品切
宮座と墓制の歴史民俗〔関沢まゆみ著〕 …… (05.2)品切
宮座と老人の民俗(日本歴史民俗叢書)
〔関沢まゆみ著〕 …… (00.2)品切
宮武外骨(歴史文化ライブラリー) …… 33
宮田登 日本を語る 全16巻 …… 289
雅の近世、花開く宮廷絵画(天皇の美術史) …… 294
宮本武蔵(人物叢書) …… 92
宮本武蔵〔小澤正夫著〕 …… (86.11)品切
宮本武蔵の読まれ方(歴史文化ライブラリー) …… 38
ミュージアムヒストリー 東京国立博物館 …… 293
明恵(人物叢書) …… 88
苗字と名前の歴史(歴史文化ライブラリー) …… 44
苗字の歴史(読みなおす日本史) …… 151
妙法院史料 全7巻 …… 214
三善清行(人物叢書) …… 86
三好長慶(人物叢書) …… 90
みる・よむ・あるく 東京の歴史 全10巻 …… 6
弥勒信仰(読みなおす日本史) …… 152
民間信仰と民衆宗教(日本歴史民俗論集)
〔宮田 登・塚本 学編〕 …… (94.6)品切
民間信仰の研究 上・下(櫻井徳太郎著作集)
〔櫻井徳太郎著〕 …… (88.6)品切
民間信仰の比較研究〔直江廣治著〕 …… (87.8)品切
民間に生きる宗教者(シリーズ近世の身分的周縁)
〔高埜利彦編〕 …… (00.6)品切
民間風俗年中行事 全2冊(続日本随筆大成別巻) …… 228
民衆史を学ぶということ〔佐々木潤之介著〕 …… (06.4)品切
民衆の〈知〉と宗教(近世の宗教と社会)
〔澤 博勝・高埜利彦編〕 …… (08.9)品切
民衆の導者 行基(日本の名僧)〔速水 侑編〕 …… (04.4)品切
民衆の導師 蓮如(日本の名僧)〔神田千里編〕 … (04.5)品切
民俗学から原日本を見る〔下野敏見著〕 …… (99.1)品切
民俗学とは何か …… 286
民俗学の資料論(歴博大学院セミナー)
〔国立歴史民俗博物館編〕 …… (99.10)品切
民俗学の方法(宮田登 日本を語る)〔宮田 登著〕 (07.5)品切
民俗学への道(宮田登日本を語る)〔宮田 登著〕… (06.2)品切
民俗学を支えた人びと(宮田登 日本を語る)
〔宮田 登著〕 …… (07.4)品切
民俗儀礼の研究(櫻井徳太郎著作集)
〔櫻井徳太郎著〕 …… (87.11)品切
民俗研究ハンドブック
〔上野和男・高桑守史・野村純一・福田アジオ・宮田 登編〕
(78.8)品切
民俗小事典 死と葬送 …… 167
民俗小事典 食〔新谷尚紀・関沢まゆみ編〕 …… (13.8)品切
民俗小事典 神事と芸能〔神田より子・俵木 悟編〕(10.10)品切
民族・戦争と家族(日本家族史論集)
〔大日方純夫編〕 …… (03.5)品切
民俗調査ハンドブック(新版) …… 285
民俗伝承学の視点と方法 …… 286
民俗都市の人びと(歴史文化ライブラリー) …… 25
民俗と民俗学(日本の民俗) …… 285

ム

無縁社会の葬儀と墓 …… 286
ムガル帝国(ユーラシア文化史選書)
〔石田保昭著〕 …… (65.12)品切
麦・雑穀と芋(日本の食文化) …… 288
武蔵の武士団(読みなおす日本史) …… 145
武蔵武士団 …… 121
武者から武士へ …… 119
武者の世 …… 119
陸奥伊達一族(読みなおす日本史) …… 148
武藤山治(人物叢書) …… 99
宗像 沖ノ島〔第3次沖ノ島学術調査隊編〕 …… (58.3)品切
宗像神社史 全3冊〔宗像神社復興期成会編纂〕(87.12)品切
宗像大社文書 全3巻
〔宗像大社文書編纂刊行委員会編〕 …… (93.2)品切

宗尊親王(人物叢書) …… 101
〈謀反〉の古代史(歴史文化ライブラリー) …… 69
村井吉兵衛(人物叢書) …… 102
村上天皇(人物叢書) …… 101
紫式部(人物叢書) …… 86
紫式部との交流(現代語訳 小右記) …… 9
紫式部と平安の都(人をあるく)〔倉本一宏著〕…(14.10)品切
村田清風(人物叢書) …… 102
村の暮らし(日本の民俗) …… 284
村の生活文化(日本歴史民俗論集)
〔塚本学・福田アジオ編〕 …… (93.6)品切
村の身分と由緒(〈江戸〉の人と身分) …… 128
無量光院跡(埋蔵文化財発掘調査報告)
〔文化財保護委員会編〕 …… (54.6)品切
室町安土桃山時代医学史の研究(日本医学史の研究) … 213
室町絵巻の魔力 …… 290
室町期顕密寺院の研究 …… 172
室町期公武関係と南北朝内乱 …… 243
室町時代公武関係の研究 …… 190
室町時代―その社会と文化―
〔豊田 武・ジョンホール編〕 …… (76.9)品切
室町時代の田租(玉泉大梁著) …… (69.9)品切
室町社会の騒擾と秩序〔清水克行著〕 …… (04.8)品切
室町将軍の御台所(歴史文化ライブラリー) …… 68
室町戦国期の社会構造 …… 245
室町・戦国期の土倉と酒屋 …… 244
室町・戦国時代の法の世界 …… 123
室町戦国の社会(歴史文化セレクション)
〔永原慶二著〕 …… (06.6)品切
室町の平和(日本中世の歴史) …… 117
室町幕府軍制の構造と展開 …… 188
室町幕府と国人一揆 …… 189
室町幕府と守護権力 …… 243
室町幕府と地域権力〔大薮 海著〕 ……(13.12)品切
室町幕府と東海の守護(東海の中世史)…… 2
室町幕府と東北の国人(東北の中世史)…… 118
室町幕府の政治と経済 …… 190
室町幕府分裂と畿内近国の胎動(列島の戦国史) …… 125

メ

〈明君〉の近世〔小関悠一郎著〕 …… (12.7)品切
名言・失言の近現代史(上・下)〈歴史文化ライブラリー〉 80
明治維新(近代日本の軌跡)〔田中 彰編〕 …… (94.4)品切
明治維新(日本近世の歴史) …… 126
明治維新政治外交史研究〔毛利 敏彦著〕 …… (02.9)品切
明治維新教育史〔井上久雄編〕 …… (87.3)品切
明治維新人名辞典〔日本歴史学会編〕 …… (81.9)品切
明治維新対外関係史研究〔犬塚孝明著〕 …… (87.7)品切
明治維新とアジア(明治維新史研究)
〔明治維新史学会編〕 ……(01.12)品切
明治維新と外圧〔石井 孝著〕 …… (93.7)品切
明治維新と教育(大久保利謙歴史著作集) …… 213
明治維新と〈公議〉 …… 256
明治維新と豪農(歴史文化ライブラリー) …… 55
明治維新と国家形成 …… 203
明治維新と史料学(明治維新史研究)
〔明治維新史学会編〕 …… (10.2)品切
明治維新と西洋国際社会(明治維新史研究)
〔明治維新史学会編〕 …… (99.2)品切
明治維新と天皇制〔田中 彰著〕 …… (92.4)品切
明治維新と文化(明治維新史研究)
〔明治維新史学会編〕 …… (05.8)品切
明治維新と文明開化(日本の時代史)…… 15
明治維新と横浜居留地〔石塚裕道著〕 …… (11.3)品切
明治維新と歴史意識(明治維新史研究)
〔明治維新史学会編〕 …… (05.4)品切
明治維新の国際的環境(増訂)〔石井 孝著〕 ……(66.11)品切
明治維新の再発見(歴史文化セレクション)
〔毛利敏彦著〕 …… (10.5)品切
明治維新の人物像(幕末維新論集)〔宮地正人編〕(00.11)品切
明治維新の人物像(大久保利謙歴史著作集) …… 213
明治維新の人物と思想(明治維新史研究)
〔明治維新史学会編〕 …… (95.8)品切
明治維新の政局と鉄道建設〔田中時彦著〕…… (63.4)品切
明治維新の政治過程(大久保利謙歴史著作集) …… 213
明治維新の政治と権力(明治維新史研究)
〔明治維新史学会編〕 …… (92.9)品切
明治維新の地域と民衆(明治維新史研究)
〔明治維新史学会編〕 …… (96.12)品切
明治外交官物語(歴史文化ライブラリー) …… 51
明治期のイタリア留学〔石井元章著〕 …… (17.1)品切
明治期の旧藩主家と社会 …… 256
明治期の地方制度と名望家 …… 256
明治期の立憲政治と政党 …… 256
明治キリスト教会史の研究〔大濱徹也著〕 …… (79.7)品切
明治国学発生史の研究〔藤井貞文著〕 …… (77.3)品切
明治国家形成と華族〔久保正明著〕 ……(15.12)品切
明治国家形成と地方自治 …… 203
明治国家と近代美術 …… 293
明治国家と士族 …… 203
明治国家と地域教育 …… 204
明治国家の形成(大久保利謙歴史著作集) …… 213
明治国家の権力と思想〔小西四郎・遠山茂樹編〕 (79.10)品切
明治国家の政策と思想〔犬塚孝明編〕 …… (05.10)品切
明治国家の服制と華族 …… 174
明治財政史 全15巻〔明治財政史編纂会編纂〕… (71.6)品切
明治時代史大辞典 全4巻…… 163
明治時代の歴史学界〔三上参次・述〕 …… (91.2)品切
明治初期の国際関係〔石井 孝著〕 …… (77.6)品切
明治初期の福祉と教育 …… 257
明治初年条約改正史の研究〔下村冨士男著〕 … (62.1)品切
明治神宮の出現(歴史文化ライブラリー) …… 42
明治新政権の権力構造〔福地 惇著〕 …… (96.8)品切
明治政治史の基礎過程 …… 203
明治前期の国家と地域教育 …… 257
明治・大正の広告メディア〔熊倉一紗著〕 …… (15.3)品切
明治天皇紀 全13冊 …… 270
明治天皇紀附図 …… 270
明治天皇と政治家群像〔沼田 哲編〕 …… (02.6)品切
明治天皇とその時代(明治天皇百年祭記念)…… 270
明治日本と日清開戦 …… 257
明治日本と万国博覧会 …… 205
明治日本の国粋主義思想とアジア〔中川未来著〕 (16.2)品切
明治日本の政治家群像〔福地 惇・佐々木 隆編〕… (93.4)品切
明治農政と技術革新 …… 205
明治のキリスト教 …… 211
明治の皇室建築(歴史文化ライブラリー) …… 49
明治の思想と文化(大久保利謙歴史著作集)…… 213
明治の新仏教運動(日本宗教史研究叢書)
〔池田英俊著〕 …… (76.12)品切
明治の政治家と信仰(歴史文化ライブラリー) …… 58
明治の青年とナショナリズム …… 266
明治の地方ビール …… 265
明治の日本 …… 258
明治版画史 …… 291
名勝 旧大乗院庭園(全2冊セット) …… 279
明治立憲政治と貴族院 …… 203

明治立憲制と内閣 …… 203
明治をつくった人びと〔刑部芳則編〕 …… (17.5)品切
鳴動する中世(読みなおす日本史) …… 145
名物裂の成立〔守田公夫著〕 …… (70.7)品切
名物刀剣(歴史文化ライブラリー) …… 80
明暦の大火(歴史文化ライブラリー) …… 74

モ

蒙古合戦と鎌倉幕府の滅亡(動乱の東国史) …… 119
蒙古襲来(歴史文化ライブラリー)〔海津一朗著〕 (98.2)品切
蒙古襲来(戦争の日本史) …… 17
蒙古襲来の研究(増補版)〔相田二郎著〕 …… (82.9)品切
孟子雛題(懐徳堂文庫復刊叢書十二)
〔大阪大懐徳堂文庫復刻刊行会監修〕 …… (99.4)品切
もう一つの平泉(歴史文化ライブラリー) …… 76
毛利家(家からみる江戸大名) …… 4
毛利重就(人物叢書) …… 93
毛利氏の研究(戦国大名論集)〔藤木久志編〕 …… (84.1)品切
毛利輝元(人物叢書) …… 102
毛利領国の拡大と尼子・大友氏(列島の戦国史) …… 125
最上川と羽州浜街道(街道の日本史)
〔横山昭男編〕 …… (01.6)品切
最上徳内(人物叢書) …… 94
最上義光(人物叢書) …… 91
文字と古代日本 …… 238
文字による交流(文字と古代日本)
〔平川 南・沖森卓也・栄原永遠男・山中 章編〕 … (05.3)品切
文字表現の獲得(文字と古代日本)
〔平川 南・沖森卓也・栄原永遠男・山中 章編〕 … (06.2)品切
文字文化のひろがり(新しい古代史へ) …… 112
モダン都市の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 39
モダン・ライフと戦争(歴史文化ライブラリー) …… 58
餅と日本人(読みなおす日本史) …… 154
木簡(古代史演習)〔横田拓実・鬼頭清明著〕 …… (79.8)品切
本居宣長(読みなおす日本史)〔芳賀 登著〕 …… (17.3)品切
本居宣長(人物叢書) …… 94
本居宣長の研究 …… 255
元田永孚(人物叢書) …… 102
元田永孚と明治国家 …… 204
モニュメントの２０世紀(シリーズ近代美術のゆくえ)
〔坂口英伸著〕 …… (15.12)品切
ものがたる近世琉球(歴史文化ライブラリー) …… 72
モノから見たアイヌ文化史 …… 109
物づくりと技(日本の民俗) …… 285
モノと男の戦後史 …… 138
モノと技術の古代史 全４冊 …… 239
モノと子どもの戦後史
〔天野正子・石谷二郎・木村涼子著〕 …… (07.3)品切
物と人の交流(日本の民俗) …… 284
モノのはじまりを知る事典 …… 167
物部氏(歴史文化ライブラリー) …… 75
物部氏の伝承〔畑井弘著〕 …… (77.10)品切
物部・蘇我氏と古代王権(歴史文化セレクション) …… 155
物部の民俗といざなぎ流(日本歴史民俗叢書)
〔松尾恒一著〕 …… (11.6)品切
〈ものまね〉の歴史(歴史文化ライブラリー) …… 66
桃山時代の女性(日本歴史叢書)〔桑田忠親著〕 … (96.8)品切
森 有礼(人物叢書) …… 96
森 鷗外(歴史文化ライブラリー) …… 27
森戸辰男(人物叢書) …… 100
文覚(人物叢書) …… 87
モンゴルの襲来(日本の時代史) …… 14
文書館のしごと …… 141
文武天皇(人物叢書) …… 101

ヤ

八木秀次(人物叢書) …… 100
屋敷神の研究〔直江廣治著〕 …… (66.4)品切
安川敬一郎(人物叢書) …… 102
靖国神社と幕末維新の祭神たち …… 133
雍仁親王実紀〔秩父宮家編〕 …… (72.11)品切
柳沢吉保(人物叢書) …… 102
柳田国男(歴史文化ライブラリー) …… 26
柳田国男と海の道〔松本三喜夫著〕 …… (03.6)品切
柳田国男と古代史〔佐伯有清著〕 …… (88.8)品切
柳田国男と民俗学の近代〔菊地 暁著〕 …… (01.10)品切
柳田国男と民俗の旅〔松本三喜夫著〕 …… (92.9)品切
柳田国男の世界〔福田アジオ編〕 …… (01.10)品切
柳田国男の民俗学(歴史文化セレクション)
〔福田アジオ著〕 …… (07.9)品切
柳田国男の民俗誌〔松本三喜夫著〕 …… (98.12)品切
柳田民俗学と天皇制〔岩本由輝著〕 …… (92.12)品切
柳田民俗学の継承と発展 …… 286
柳宗悦と民藝の現在(歴史文化ライブラリー) …… 43
敗れし者への共感〔田中 元著〕 …… (79.10)品切
山内容堂(人物叢書) …… 96
山鹿素行(人物叢書) …… 92
山県有朋(人物叢書) …… 98
山県有朋と近代日本〔伊藤 隆編〕 …… (08.3)品切
山川登美子と明治歌壇〔白崎昭一郎著〕 …… (96.11)品切
山口県の考古学(郷土考古学叢書)〔小野忠熙著〕(85.12)品切
山崎闇斎(人物叢書) …… 102
山路愛山(人物叢書) …… 98
山科言継(人物叢書) …… 101
山城国一揆と戦国社会(歴史文化ライブラリー) …… 58
邪馬台国(研究史)〔佐伯有清著〕 …… (71.5)品切
邪馬台国(古代を考える)〔平野邦雄編〕 …… (98.7)品切
邪馬台国 魏使が歩いた道(歴史文化ライブラリー) …… 49
邪馬台国と安満宮山古墳 …… 278
邪馬台国と地域王国〔門脇禎二著〕 …… (08.6)品切
邪馬台国と卑弥呼(直木孝次郎古代を語る)
〔直木孝次郎著〕 …… (08.11)品切
邪馬台国と倭国(歴史文化セレクション)
〔西嶋定生著〕 …… (11.9)品切
邪馬台国の考古学(歴史文化ライブラリー) …… 35
邪馬台国の滅亡(歴史文化ライブラリー) …… 52
邪馬台国をとらえなおす(読みなおす日本史) …… 142
山寺立石寺(歴史文化ライブラリー) …… 73
大和王権と河内王権(直木孝次郎古代を語る)
〔直木孝次郎著〕 …… (09.2)品切
山と川(日本の民俗) …… 284
大和 吉備池廃寺 …… 279
大和古代遺跡案内(泉森 皎著) …… (01.11)品切
山と里の信仰史(日本歴史民俗叢書) …… 222
大和志 合本９冊〔大和国史会編集〕 …… (82.10)品切
大和政権と古代氏族 …… 179
大和政権とフミヒト制 …… 179
大和政権の対外関係研究〔金 鉉球著〕 …… (85.4)品切
日本武尊(人物叢書) …… 84
大和朝廷と東アジア〔鬼頭 清明著〕 …… (94.5)品切
大和国条里復原図(橿原考古学研究所編) …… (81.6)品切
大和国若槻庄史料 全４冊
〔渡辺澄夫・喜多芳之編〕 …… (73.3)品切
大和の豪族と渡来人(歴史文化ライブラリー) …… 38
大和 山田寺跡（全２冊セット） …… 279
山梨県の考古学(郷土考古学叢書)

〔山本寿々雄著〕…… (68.8)品切
山名宗全(人物叢書) …… 89
山名宗全と細川勝元(読みなおす日本史) …… 146
山上憶良(人物叢書) …… 84
山内上杉氏と扇谷上杉氏(対決の東国史)…… 5
山辺の道(古代を考える)〔和田 萃編〕 …… (99.3)品切
山の民俗誌(歴史文化ライブラリー) …… 26
山村才助(人物叢書) …… 94
山室軍平(人物叢書) …… 99
山本五十六(人物叢書) …… 99
山本五十六(歴史文化ライブラリー) …… 83
山本権兵衛(人物叢書) …… 102
弥生時代国家形成史論(弥生時代政治史研究)
〔寺沢 薫著〕 …… (18.1)品切
弥生時代の年代と交流(弥生時代政治史研究)
〔寺沢 薫著〕 …… (14.3)品切
弥生人はどこから来たのか(歴史文化ライブラリー)…… 79
弥生の稲作を再現する(歴史文化ライブラリー) …… 83
弥生文化像の新構築 …… 278

ユ

由比正雪(人物叢書) …… 92
維摩講師研学堅義次第〔宮内庁書陵部編〕 …… (73.8)品切
遊芸文化と伝統〔熊倉功夫編〕 …… (03.3)品切
有識故実図典 …… 164
有識故実大辞典 …… 164
郵政百年史〔郵政省編〕 …… (71.3)品切
郵政百年史資料 全30冊〔郵政省編〕 …… (68.3)品切
郵政百年史年表〔郵政省編〕 …… (72.3)品切
ユートピアとウマレキヨマリ(宮田登 日本を語る)
〔宮田 登著〕…… (06.9)品切
遊牧という文化(歴史文化ライブラリー) …… 34
有名人の死亡診断 近代編(事典)〔服部敏良著〕 (10.5)品切
雄略天皇(人物叢書) …… 101
雄略天皇とその時代(古代を考える)
〔佐伯有清著〕 …… (88.2)品切
幽霊 近世都市が生み出した化物(歴史文化ライブラリー) 64
雪と暮らす古代の人々(歴史文化ライブラリー) …… 79
遊行の捨聖 一遍(日本の名僧)〔今井雅晴編〕 … (04.3)品切
雪を駆ける戦国武将(歴史文化ライブラリー) …… 83
ユネスコ無形文化遺産 壬生の花田植 …… 287
弓矢と刀剣(歴史文化ライブラリー) …… 26
夢語り・夢解きの中世(読みなおす日本史)…… 145
揺らぐ考古学の常識(歴史研究の最前線)
〔設楽博己編〕 …… (04.1)品切

ヨ

妖怪と伝説(宮田登 日本を語る)〔宮田 登著〕 … (07.2)品切
妖怪の通り道 …… 287
妖怪を名づける(歴史文化ライブラリー) …… 81
洋学(日本歴史叢書)〔沼田次郎著〕…… (96.10)品切
容器・道具と宝器(日本考古学論集)
〔斎藤 忠編集〕……(86.11)品切
陽明文庫 近衛家伝来の至宝 …… 109
ヨーロッパの古城 (新装版)(世界の城郭)
〔太田静六著〕 …… (11.1)品切
よくわかる古文書教室 …… 276
予言文学の語る中世 …… 246
横穴式古墳の研究〔尾崎喜左雄著〕 …… (65.12)品切
横井小楠(人物叢書) …… 96
横井小楠(歴史文化ライブラリー)〔三上一夫著〕 (99.3)品切
横井小楠と松平春嶽(幕末維新の個性)
〔高木不二著〕 …… (05.2)品切
横浜正金銀行の研究 …… 265
与謝蕪村(人物叢書) …… 93
吉岡弥生(人物叢書) …… 102
吉川神道の基礎的研究 …… 211
吉胡貝塚(埋蔵文化財発掘調査報告)
〔文化財保護委員会編〕 …… (52.6)品切
慶滋保胤(人物叢書) …… 86
慶滋保胤と浄土思想 …… 208
吉田兼見(人物叢書) …… 102
吉田 茂(人物叢書) …… 102
吉田茂と戦後政治(歴史文化ライブラリー) …… 83
吉田松陰の生涯(歴史文化ライブラリー) …… 79
吉田東洋(人物叢書) …… 95
吉野ケ里 全2冊〔佐賀県教育委員会編集・発行〕(94.5)品切
吉野ケ里遺跡(歴史文化ライブラリー) …… 26
吉野ヶ里遺跡と古代国家〔佐賀県教育委員会編〕 (95.1)品切
吉野の霧 太平記(読みなおす日本史)
〔桜井好朗著〕 …… (16.8)品切
淀君(人物叢書) …… 91
夜更かしの社会史 …… 266
よみがえる安土城(歴史文化ライブラリー) …… 40
よみがえる古代山城(歴史文化ライブラリー) …… 65
よみがえる古代の港(歴史文化ライブラリー) …… 66
読み書きの民俗学(日本歴史民俗叢書)…… 288
読みなおす日本史 …… 142
読みにくい名前はなぜ増えたか(歴史文化ライブラリー) 46
頼家と実朝(現代語訳 吾妻鏡) …… 12
頼朝と街道(歴史文化ライブラリー) …… 65
頼朝の挙兵(現代語訳 吾妻鏡) …… 12
鎧をまとう人びと〔藤本正行著〕 …… (00.3)品切

ラ

楽園の図像(歴史文化ライブラリー) …… 33
落書きに歴史をよむ(歴史文化ライブラリー) …… 59
落語の博物誌(歴史文化ライブラリー) …… 40
落日の豊臣政権(歴史文化ライブラリー) …… 63
落日の室町幕府〔水藤 真著〕 …… (06.1)品切
洛中絵図〔宮内庁編〕 …… (69.12)品切
洛中洛外図屏風(歴史文化ライブラリー) …… 64
乱世の王権と美術戦略(天皇の美術史) …… 294
乱舞の中世(歴史文化ライブラリー) …… 63

リ

リーダーたちの日清戦争(歴史文化ライブラリー)…… 75
陸軍参謀 川上操六(歴史文化ライブラリー)…… 69
陸軍中野学校と沖縄戦(歴史文化ライブラリー) …… 67
陸軍登戸研究所と謀略戦(歴史文化ライブラリー) …… 56
陸軍幼年学校体制の研究 …… 261
陸前北部の民俗(民俗総合調査報告シリーズ)
〔和歌森太郎編〕 …… (69.3)品切
律〔養老律〕(新訂増補 国史大系[普及版])
〔黒板勝美編輯〕 …… (71.4)品切
律(新訂増補 国史大系)…… 177
立憲国家の確立と伊藤博文 …… 203
立憲民政党の地方組織と北海道 …… 260
六国史(坂本太郎著作集) …… 212
六国史(日本歴史叢書) …… 103
六国史以前(歴史文化ライブラリー) …… 71
六国史索引 全4冊…… 219
律令官人給与制の研究(日本史学研究叢書)
〔高橋 崇著〕…… (70.9)品切

律令官人制と地域社会 …… 170
律令官人制の研究(日本史学研究叢書)
〔野村忠夫著〕…… (70.12)品切
律令官人制の研究 増訂版(日本史学研究叢書) …… 180
律令官制と礼秩序の研究 …… 229
律令軍団制の研究 増補版〔橋本 裕著〕…… (90.10)品切
律令国郡里制の実像 上・下〔平川 南著〕 …… (14.5)品切
律令国家官制の研究 …… 179
律令国家成立史の研究(日本史学研究叢書)
〔黛 弘道著〕…… (82.12)品切
律令国家東北史の研究 …… 181
律令国家と貴族社会
〔竹内理三博士還暦記念会編〕 …… (69.6)品切
律令国家と賤民(古代史研究選書)〔神野清一著〕(86.2)品切
律令国家と天平文化(日本の時代史)…… 13
律令国家と土地支配 …… 229
律令国家と東アジア(日本の対外関係)…… 21
律令国家の基礎構造〔大阪歴史学会編〕 …… (60.10)品切
律令国家の軍事制(古代史研究選書)
〔野田嶺志著〕…… (84.4)品切
律令国家の構造〔関晃先生古稀記念会編〕 …… (89.1)品切
律令国家の祭祀と災異 …… 234
律令国家の政務と儀礼〔虎尾俊哉編〕 …… (95.7)品切
律令国家の地方支配〔虎尾俊哉編〕 …… (95.7)品切
律令財政史の研究 増訂版(日本史学研究叢書)
〔村尾次郎著〕…… (61.3)品切
律令・荘園体制と農民の研究〔畑井 弘著〕…… (81.2)品切
律令政治と官人制 …… 180
律令制社会の成立と展開
〔亀井隆之先生還暦記念会編〕 …… (89.12)品切
律令制諸国支配の成立と展開 …… 229
律令制度(坂本太郎著作集) …… 212
律令制と古代国家 …… 229
律令制と正倉院の研究 …… 237
律令叢説〔岩橋小弥太著〕…… (72.8)品切
律令太政官制の研究(増訂)〔武光 誠著〕…… (07.7)品切
律令地方財政史の研究(山里純一著〕 …… (91.2)品切
律令田制と班田図(日本史学研究叢書)…… 182
律令封禄制度史の研究(日本史学研究叢書)
〔時野谷滋著〕…… (77.8)品切
律令を中心とした日中関係史の研究
〔曽我部静雄著〕…… (67.12)品切
琉球王国と戦国大名(歴史文化ライブラリー) …… 64
琉球王国の外交と王権 …… 199
琉球王国の構造(中世史研究選書)〔高良倉吉著〕(87.10)品切
琉球王国の南海交易(歴史文化ライブラリー) …… 83
琉球・沖縄史の世界(日本の時代史) …… 15
琉球・沖縄と海上の道(街道の日本史)
〔豊見山和行・高良倉吉編〕…… (05.4)品切
琉球科律 糺明法条 …… 214
琉球国使節渡来の研究 …… 199
琉球国の滅亡とハワイ移民(歴史文化ライブラリー) … 59
琉球諸島における倭寇史跡の研究〔稲村賢敷著〕(57.9)品切
琉球と中国(歴史文化ライブラリー) …… 39
琉球の歴史(日本歴史叢書)〔宮城栄昌著〕…… (96.2)品切
流行歌の誕生(歴史文化ライブラリー) …… 53
流水文銅鐸の研究〔三木文雄著〕 …… (74.4)品切
龍造寺隆信(人物叢書) …… 101
流通と文字(文字と古代日本)…… 238
柳亭種彦(人物叢書) …… 95
良源(人物叢書) …… 86
領国・鉱山・貨幣(近世史の研究)〔伊東多三郎著〕 (84.8)品切
梁塵秘抄口伝集巻十〔宮内庁書陵部編〕 …… (88.3)品切
令義解(新訂増補 国史大系) …… 177
令義解(新訂増補 国史大系〔普及版〕) …… 169
令集解 全4冊(新訂増補 国史大系〔普及版〕)
〔黒板勝美編輯〕…… (72.4)品切
令集解(新訂増補 国史大系) …… 177
両墓制と他界観(日本歴史民俗叢書) …… 222
龍馬暗殺(歴史文化ライブラリー) …… 67
両毛と上州諸街道(街道の日本史)
〔峰岸純夫・田中康雄・能登 健編〕 …… (02.3)品切
料理の起源(読みなおす日本史) …… 154

ル

類聚 近世風俗志 全2冊 …… 218
類聚国史(新訂増補 国史大系) …… 177
類聚三代格(新訂増補 国史大系) …… 178
類聚符宣抄(新訂増補 国史大系) …… 178
類聚三代格 前篇(新訂増補 国史大系〔普及版〕)
〔黒板勝美編輯〕…… (72.5)品切
類聚三代格 後篇／弘仁格抄(新訂増補 国史大系〔普及版〕)
〔黒板勝美編輯〕…… (72.5)品切
ルイス・フロイス(人物叢書) …… 90
ルネサンス期イタリア社会(ユーラシア文化史選書)
〔森田鉄郎著〕…… (67.2)品切

レ

霊元天皇(人物叢書) …… 102
霊魂と旅のフォークロア(宮田登 日本を語る) …… 289
霊山と信仰の世界(中世史研究選書)
〔伊藤清郎著〕…… (97.3)品切
霊場の思想(歴史文化ライブラリー) …… 40
冷戦終焉期の日米関係 …… 263
黎明期を生きた女性たち
〔阪谷芳直著／阪谷綾子編〕 …… (12.2)品切
令和新修 歴代天皇・年号事典 …… 159
歴史家が語る戦後史と私〔永原慶二・中村政則編〕(96.5)品切
歴史学叙説 20世紀日本の歴史学(永原慶二著作選集)
〔永原慶二著〕…… (08.3)品切
歴史学と民俗学(日本歴史民俗論集)
〔網野善彦・宮田登・福田アジオ編〕…… (92.12)品切
歴史学のあり方〔丸山二郎・石橋英夫著〕 …… (52.4)品切
歴史学の研究法〔丸山二郎・児玉幸多著〕 …… (52.9)品切
歴史家の読書案内〔石井 進編〕 …… (98.4)品切
歴史教育と文化財(坂本太郎著作集) …… 212
歴史教育と民衆〔宮原武夫著〕 …… (74.5)品切
歴史教育と歴史観(永原慶二著作選集)
〔永原慶二著〕…… (08.4)品切
歴史研究と〈総合資料学〉
〔国立歴史民俗博物館編〕 …… (18.3)品切
歴史考古学大辞典 …… 159
歴史地震(歴史文化ライブラリー) …… 83
歴史人口学で読む江戸日本(歴史文化ライブラリー) … 55
歴史探訪武田信玄〔吉川弘文館編集〕 ……(87.11)品切
歴史地理〔日本歴史地理学会編集〕 ……(77.11)品切
歴史的仮名遣い(読みなおす日本史)…… 152
歴史手帳…… 299
歴史と宗教の考古学〔坂詰秀一著〕 …… (00.10)品切
歴史と人物〔日本歴史学会編〕 ……(64.11)品切
歴史と人物(坂本太郎著作集) …… 212
歴史と素材(日本の時代史) …… 16
歴史と日本民俗学 …… 176
歴史と美術の旅〔持丸一夫・久野健編〕 ……(51.10)品切
歴史と文学のあいだ(歴史研究の最前線)
〔仁藤敦史編〕…… (06.3)品切

歴史と民俗のあいだ(歴史文化ライブラリー) …… 24
歴史の陥穽〔瀬野精一郎著〕 …… (85.6)品切
歴史の残像〔瀬野精一郎著〕 …… (08.10)品切
歴史の旅 熊野古道を歩く〔高木徳郎著〕 …… (14.3)品切
歴史の旅 甲州街道を歩く …… 139
歴史の旅 古代大和を歩く …… 138
歴史の旅 壬申の乱を歩く〔倉本一宏著〕 …… (07.7)品切
歴史の旅 戦国時代の京都を歩く …… 139
歴史の旅 太平記の里 新田・足利を歩く …… 138
歴史の旅 武田信玄を歩く(歴史文化ライブラリー) …… 39
歴史の旅 中世の高野山を歩く〔山陰加春夫著〕…(14.12)品切
歴史の旅 東海道を歩く …… 139
歴史の知恵と現代〔笠原一男著〕 …… (76.12)品切
歴史のなかの石造物 …… 124
歴史のなかの動物たち(人と動物の日本史)
〔中澤克昭編〕 …… (09.1)品切
歴史のなかの『夜明け前』 …… 256
歴史の花かご〈上・下〉〔吉川弘文館編集部編〕 (98.10)品切
歴史の余燼〔瀬野精一郎著〕 …… (15.7)品切
歴史文化セレクション …… 155
歴史文化ライブラリー …… 24
歴史民俗学の構想(櫻井徳太郎著作集)
〔櫻井徳太郎著〕 …… (89.10)品切
歴代天皇・年号事典(令和新修) …… 159
歴代内閣・首相事典 増補版 …… 164
れきはく日本の歴史(わくわく！探検)…… 7, 8
列島史の南と北(近世地域史フォーラム)
〔菊池勇夫・真栄平房昭編〕 ……(06.11)品切
列島中央の軍事拠点(地域のなかの軍隊)…… 135
列島の古代(日本古代の歴史) …… 110
列島の戦国史 全9巻…… 4, 5
列島の平和と統合(日本近世史を見通す) …… 3
列島文化のはじまり(史跡で読む日本の歴史) …… 22
列島を駆けめぐる名産品(歴史文化ライブラリー) …… 83
列島を翔ける平安武士(歴史文化ライブラリー) …… 66
連歌の世界(日本歴史叢書)〔伊地知鉄男著〕…… (67.8)品切
蓮如(人物叢書) …… 89
蓮如(歴史文化ライブラリー)…… 26

ロ

ロイヤルスタイル 英国王室ファッション史 …… 135
老人と子供の考古学(歴史文化ライブラリー) …… 60
ローマ帝国論(歴史文化セレクション)〔弓削 達著〕(10.2)品切
ローマ文明の跡を訪ねて〔浅香 正著〕 …… (75.1)品切
六波羅探題(歴史文化ライブラリー)…… 74
ロシア人の見た幕末日本〔伊藤一哉著〕…… (09.4)品切
ロシアとアジア草原(ユーラシア文化史選書)
〔佐口 透著〕…… (66.3)品切
魯西亜文字集〔亀井高孝・村山七郎編著〕 …… (67.9)品切
論語雛題(懐徳堂文庫復刻叢書)
〔大阪大懐徳堂文庫復刻刊行会監修〕 …… (96.6)品切
論集 近世女性史〔近世女性史研究会編〕 …… (86.4)品切
論集 中国女性史〔中国女性史研究会編〕 …… (99.10)品切
論集 中世の窓〔『中世の窓』同人編〕 …… (77.12)品切
論集 日本原史〔論集日本原史刊行会編〕 …… (85.5)品切
論叢 仏教美術史〔町田甲一先生古稀記念会編〕 (86.6)品切

ワ

若い人に語る奈良時代の歴史 …… 115
若き特攻隊員と太平洋戦争(歴史文化セレクション)
〔森岡清美著〕 …… (11.7)品切
若き日の最澄とその時代〔佐伯有清著〕 …… (94.6)品切
若狭の民俗(民俗総合調査報告シリーズ)
〔和歌森太郎編〕 …… (66.3)品切
和菓子と江戸文化(歴史文化ライブラリー) …… 83
わが青春(坂本太郎著作集) …… 212
若槻礼次郎(人物叢書) …… 102
和歌山・高野山と紀ノ川(街道の日本史)
〔藤本清二郎・山陰加春夫編〕 …… (03.12)品切
わかりやすい 日本史の年表〔岡田章雄編〕…… 品切
和漢書の印刷とその歴史〔長沢規矩也著〕…… (56.4)品切
わくわく！探検 れきはく日本の歴史 全5巻 ……7
和気清麻呂(人物叢書) …… 85
倭寇(日本歴史叢書)〔石原道博著〕 …… (64.4)品切
倭寇と「日本国王」(日本の対外関係) …… 22
倭国から日本へ(日本の時代史)〔森 公章編〕…… (02.8)品切
倭国誕生(日本の時代史)〔白石太一郎編〕 …… (02.6)品切
倭国と朝鮮(歴史文化ライブラリー) …… 83
倭国と渡来人(歴史文化ライブラリー) …… 43
倭国と東アジア(日本の時代史)〔鈴木靖民編〕 … (02.7)品切
和国の教主 聖徳太子(日本の名僧) …… 269
倭国の形成と東北(東北の古代史) …… 111
倭国の政治体制と対外関係 …… 233
倭国のなりたち(日本古代の歴史) …… 110
倭国を掘る(地中からのメッセージ)
〔小田富士雄著〕 …… (93.6)品切
倭城 朝鮮出兵の拠点(歴史文化ライブラリー)…… 83
和親条約と日蘭関係 …… 174
倭人への道(歴史文化ライブラリー) …… 62
早稲田大学所蔵荻野研究室収集文書 全2巻 …… 214
わたしの歴史遍歴〔直木孝次郎著〕 …… (99.7)品切
渡辺崋山(人物叢書) …… 94
度会神道大成 前・後篇(増補大神宮叢書)
〔神宮司庁蔵版〕 …… (08.10)品切
倭と加耶の国際環境〔東 潮著〕 …… (06.8)品切
倭の五王(研究史)〔笠井倭人著〕 …… (73.1)品切
倭の五王と東アジア世界(歴史文化ライブラリー) …… 83
倭の女王〔志田不動麿著〕 ……(56.11)品切
和名類聚抄郡郷里驛名考證 …… 218
和名類聚抄郷名考證〔池辺 彌著〕 …… (66.10)品切
和与の研究〔平山行三著〕 ……(64.11)品切
蕨市の歴史 1・2
〔蕨市史編纂委員会編・豊田武監修〕 …… (67.1)品切

著編者名索引

この索引には、書名索引の(品切)の著編者は含まれていません。

ア

相澤　央…… 79
会田　倉吉…… 97
相原　嘉之… 114, 176, 281
青井　哲人…… 205
青木　栄一…… 45
青木　敬…… 66
青木　歳幸…… 127
青木　直己…… 83
青山　忠正…126, 129, 203
青山　幹哉…… 101
赤坂　恒明…… 122
赤澤　史朗…… 133
赤澤　春彦…… 187
明石　一紀…… 180
赤羽目匡由…… 223
赤松　俊秀…… 88
赤嶺　淳…… 65
秋山　敬…… 39
秋山　哲雄……19, 52, 242
秋山　光和…… 292
秋山　伸隆…… 190
秋山　道宏…… 83, 106
阿子島　香……111
浅井　和春…… 8
浅井　潤子…… 277
浅井　春夫…137, 138, 167
浅井　良夫…… 206
浅川　泰宏…… 54
朝比奈　新…… 241
浅利　尚民…… 271
浅利　英克……116
足利　健亮…… 147
飛鳥井雅道…… 97
東　潮…… 282
麻生　磯次…… 95
安達　宏昭……175, 204
阿辻　哲次…… 152
熱田　順…… 244
跡部　信…… 102
阿部　義平…… 281
阿部喜三男…… 92
阿部　浩一…… 190
阿部　猛…… 31
天沼　香…… 47
天野　清文…128, 168, 276
天野　忠幸…… 125
天野　正子……134, 138
天野　真志…… 257
天野　雅敏…… 42
網野　善彦…… 146
雨宮　昭一…… 174
鮎沢信太郎…… 94
荒井　明夫…… 204, 257
新井　敦史…… 277
新井　勝紘…… 15
新井　孝重 17, 25, 122, 193
荒井　秀規… 83, 101, 111
新井　浩文…… 141
荒川　章二……135, 136
荒川　秀俊…… 217
荒川　正明…… 83
荒木　和憲……102, 123
新木　順子…… 167
荒木　敏夫……19, 58, 101
荒木　裕行…… 3, 102
安良城盛昭…… 157
荒武賢一朗…… 83, 128
荒野　泰典 14, 21, 22, 101
有泉　貞夫…… 203
有富　純也…… 101
有馬　成甫…… 96, 193
有馬　学……102, 264
有光　友學 14, 90, 190, 244
有元　正雄…… 27
有山　輝雄
25, 37, 97, 131, 206, 266
栗野　俊之……191
安藤　更生…… 85
安藤　保…… 23
安藤　正人…… 219

イ

飯倉　章…… 78
飯倉　晴武…… 38, 276
飯島　滋明…… 137
飯島　千秋…… 173
飯島　吉晴…… 284
飯塚　一幸…130, 256, 265
飯村　均…… 139
家近　良樹……27, 98, 199
家永　遵嗣…… 101
猪飼　隆明…… 48
五十嵐公一……291, 294
伊狩　章…… 95
伊川　健二…… 121
井口　和起…… 28
井黒弥太郎…… 97
池　享
… 6, 14, 81, 117, 119, 125, 245
池上　裕子…… 90
池田　尚隆…… 101
池田　勇太…… 102
池田　榮史…… 68
池邊　彌…… 218
伊香　俊哉… 18, 164, 259
生駒　孝臣…… 2
生駒　哲郎…… 67
伊故海貴則…… 256
伊佐　秀雄…… 99
諫早　直人…… 83
石井　寛治…… 273
石井　公成…… 66
石井　孝…… 97, 157
石井　伸夫…… 140
石井　正敏 21, 22, 168, 183
石井　龍太…… 72
石垣　悟…… 284, 288
石上　英一… 16, 101, 271
石川　尚子…… 107
石川日出志…… 278
石川　美咲…… 83
石田　一良…… 93
石田　俊…… 249
石田　千尋…198, 199, 251
石田　晴男…… 17
石田　雅春…… 264
石谷　二郎…… 138
石津　裕之…… 255
石野　博信…… 35, 155
石橋　一展…… 5
石原　道博…… 92
石村　智…… 66, 83
伊集院葉子……61, 81, 238
石渡　美江…… 33
維新史料編纂会…… 202
泉　雅博…… 253
泉谷　康夫…… 171
磯貝富士男…… 121
磯貝　正義…… 180
磯部　淳一…… 247
板垣　邦子…… 47
板垣　哲夫…… 38
板沢　武雄…… 96, 198
市　大樹…… 54, 101
市川　秀之…… 284
市川　浩史…… 195
一瀬　和夫…… 78, 221
一ノ瀬俊也… 43, 107, 262
一関市博物館…… 134
市村　高男…… 17, 120
出田　和久…… 239
井戸　美里…… 290
伊藤　和雅…… 292
伊藤　清郎…… 91
伊藤　喜良
…… 36, 72, 89, 146, 245
伊藤　幸司…… 192
伊藤　聡…… 83, 267, 268
伊藤　純郎…… 69
伊藤　大輔…… 293
伊藤　隆……163, 164, 219
伊藤　毅…… 241
伊藤　寿朗…… 141
伊藤　信博…… 83
伊藤　正敏…… 32
伊藤　正直…… 72
伊藤真実子…… 205
伊藤　康子…… 28, 175
伊藤　唯真…… 211
伊藤　之雄…… 203
伊藤　陽平…… 257
稲岡　耕二…… 84
稲田奈津子…… 101
稲田　雅洋…… 51
稲葉　継陽… 68, 102, 250
稲葉　伸道…… 242
乾　宏巳…… 24
乾　淑子…… 79
犬塚　孝明…… 51, 96
井上　勲……15, 16
井上　薫…… 84, 186
井上　敬介……102, 260
井上　幸治…… 78
井上　俊…… 41
井上　忠…… 93
井上　鋭夫……146, 189
井上　智勝…… 201
井上　満郎……10, 84, 184
井上　宗雄…… 88
井上　祐子…… 57
井上　義巳…… 95
猪俣敬太郎…… 99
井原今朝男……21, 49, 172
揖斐　高…… 50
李炯植…… 260
今井　源衛…… 86
今井　弘済…… 219
今井　雅晴
…10, 30, 61, 72, 153, 168, 208
今井林太郎…… 91
今泉　隆雄…184, 185, 233
今泉　淑夫 47, 89, 165, 268
今枝　愛真……152, 153
今津　勝紀…… 69
今西　一…… 36
今村　啓爾…… 31
今村　直樹…… 250, 257
今村　義孝…… 148
入交　好脩…… 99
入間田宣夫…… 172
岩生　成一…… 192
岩城　隆利……207, 214
岩城　之徳…… 98
岩切信一郎…… 291
岩﨑奈緒子…… 252
岩崎　均史…… 40
岩沢　愿彦…… 91
岩下　哲典……44, 68, 256
磐下　徹…… 76, 171
岩田　重則…… 50, 221
岩田みゆき…… 42, 254
岩橋小弥太…… 89
岩淵　令治…… 3, 23
岩間　敏…… 261
岩本　馨……56, 74, 174
岩本　憲児…… 137
岩元　修一…… 190

ウ

上里　隆史…… 11, 140
上島　享…… 267
上杉　和彦……17, 88, 144
上杉　和央…… 74, 108

植田彩芳子…… 294
上田　純子……131
植田　真平…… 5
上田　正昭…… 84, 143
上野　和男…… 285
上野　大輔…… 3
上野　祥史…… 83
上原　兼善…… 199
上村　雅洋…… 197
上山　和雄…… 265
鵜飼　正樹…… 284
宇佐見隆之……191
宇佐美龍夫…… 154
宇佐美英機…… 74, 128
宇佐美ミサ子 …… 43
牛米　努…… 265
宇治市源氏物語ミュージアム……115
牛山　佳幸…… 209
臼井　勝美……163, 175
臼井佐知子…… 247
臼井　信義…… 89
臼杵　勲…… 124
宇田　哲雄…… 285
宇高　良哲…… 272
宇田川幸大…… 68
宇田川武久…… 38, 193
内池　英樹…… 271
内田　和伸…… 231
内田九州男…… 102
内田　順子…… 141
内田　忠賢…… 284
内田　正男…… 152
内堀　信雄…… 140
内山　一幸…… 256
内山　京子…… 265
内山　大介…… 285
内海　愛子…… 41, 102
内海　孝…… 102
宇野　俊一…… 98
海原　亮…… 61, 201
梅田　千尋…… 201
梅溪　昇…… 96
梅谷　文夫…… 94
梅村　恵子…… 45
浦井　直幸…… 140
浦井　正明…… 47
漆原　徹…… 189
上横手雅敬…… 88
海野　聡　65, 122, 141, 231

エ

永平寺史料全書編纂委員会……274
江川文庫…… 258
江口　恒明…… 294
江後　迪子…… 31, 47
江田　郁夫……101, 120
枝村　純郎…… 137
越後　純子…… 257
江戸遺跡研究会……199, 200, 252
榎　　一江…… 205
榎本　淳一… 83, 101, 234
榎本　涉…… 101
江原　絢子… 58, 107, 169
頴原　澄子…… 64
榎原　雅治……14, 101, 146, 247
海老沢有道…… 91
海老澤　衷…… 247
恵美千鶴子…… 294
江守　五夫…… 28
遠藤　慶太…… 57, 85
遠藤　珠紀… 13, 102, 241
遠藤　廣昭…… 268
遠藤ゆり子… 83, 118, 191
円満字二郎…… 47

オ

及川　琢英…… 260
及川　司…… 8
追塩　千尋…… 210
近江　俊秀…… 61, 281
大井　晴男…… 233
大石慎三郎…… 217
大石　直正… 23, 121, 180
大石　学
15, 20, 93, 127, 162, 163
大江　洋代…… 102
大賀　郁夫…… 23
大門　正克…… 134
大久保純一…… 291
大久保利謙…… 213
大久保純一…… 83
大倉　隆二…… 92
大河内千恵…… 250
大河内智之…… 83
大阪毎日新聞社 …… 258
大澤　博明…… 69, 257
大島　明秀…… 102
大城　道則…… 72
大隅　和雄……105, 109, 122, 168
大隅　清陽……101, 229
太田　青丘…… 91
大田壮一郎…… 6
太田　智己…… 294
太田　尚樹…… 133
太田　久元…… 262
太田　秀春…… 83
太田　博樹…… 77
太田博太郎…… 153
太田　善麿…… 94
大津　透…… 101
大塚　滋…… 154
大塚　紀弘…… 192
大塚　初重…… 142
大槻　信…… 296
大藤　修…57, 95, 197, 254
大友　一雄……149, 196
大沼　宜規…… 255
大野達之助…… 88, 109
大野　瑞男… 92, 196, 272
大橋　一章…… 25, 292
大橋　俊雄…… 88, 210
大橋　信弥…113, 231, 234
大橋　泰夫…… 65, 232
大橋　康二…… 41
大橋　幸泰…… 49
大林日出雄 …… 99
大平喜間多…… 96
大豆生田　稔…… 45, 261
碧海　寿広…… 134
大神神社史料編修委員会……274
大村　拓生…… 195
大村　弘毅…… 99
大森　映子……101, 150
大藪　海…… 125
大山　誠一…… 30, 234
岡　陽一郎…… 69
岡崎　敦…… 247
岡崎　寛徳…… 149
小笠原好彦
… 56, 113, 114, 231, 281
岡田　章雄…… 91, 148
岡田　莊司……105, 107, 165, 234
岡田　清一…… 81
岡田　千昭…… 255
岡田　正之…… 223
岡寺　良…… 74, 140, 244
岡野　友彦…… 62, 121
岡村　秀典…… 30
岡本　拓司…… 102
岡本　東三…… 221
岡本　真…… 246
岡山大学附属図書館　271
小川　國治…… 93
小川　剛生… 89, 101, 146
小川　直之…… 288
小川　信…… 89, 146, 243
小川原正道…… 58
荻　美津夫…… 185
荻野三七彦……151, 195
沖本　幸子…… 63
沖森　卓也
… 38, 223, 238, 271, 296
奥田　勲…… 89
奥田　晴樹…… 130
奥田　尚…… 142
小口　雅史…… 101
奥富　敬之
…… 39, 50, 146, 151, 187
小国　浩寿……119, 189
奥野　高広…… 90, 193
小熊　誠…… 285
小倉　慈司… 101, 116, 159
小椋　裕樹…… 287
長　志珠絵…… 266
長　節子…… 192
刑部　芳則… 60, 131, 174
尾崎　正善…… 105
小沢　朝江…… 49, 107
小沢詠美子…… 27
小澤　毅…… 281
小澤　弘…… 37
尾下　成敏…… 6, 102
小高根太郎…… 98
小田原城総合管理事務所……124
落合　功…… 198
落合　弘樹… 20, 129, 203
小野　昭…… 79
小野　健吉…… 142
小野　将…… 3
小野　武夫…… 216
小野　正敏…… 159
小野　良平…… 39
小野沢あかね …… 266
小畑　弘己…… 63, 278
小原　仁…… 86, 176
大日方純夫 … 76, 130, 259
朧谷　寿……31, 86, 184
小山田和夫…… 207
小山田与清…… 218
尾脇　秀和…… 68, 251
小和田哲男
…… 18, 50, 124, 149, 191

カ

海軍史研究会…… 262
海軍有終会…… 262
海津　一朗…… 188
花王株式会社…… 141
賀川　隆行…197, 198, 251
香川　雅信…… 81
垣内　和孝…… 190
柿沼　陽平…… 61
学習院大学史料館 … 258
角田　徳幸…… 69
鹿毛　敏夫…172, 244, 253
景山　春樹…… 152
籠橋　俊光…… 83
河西　克造…… 139
笠井　清…… 99
笠井　雅直…… 77
笠原　一男…… 89, 152
笠原　潔…… 35
笠原　英彦…… 129
笠松　宏至…… 146
笠谷和比古……18, 32, 196
梶川　敏夫……115
梶田　明宏…… 102
楫西　光速…… 99
梶原　良則…… 102
梶原　義実…… 236
加須屋　誠…… 290, 293
加瀬　和俊…… 55
加瀬　直弥…… 67, 211
華族史料研究会…… 134
片岡　耕平…… 194
片桐　一男　28, 49, 94, 198
片倉比佐子…… 51
片山　一道…… 37
片山　慶隆…… 132
勝浦　令子…… 85
勝浦　令子…… 208
香月洋一郎…… 38
勝田　至……107, 123, 243
勝田　政治…… 203
勝田　政治…… 63

著編者名索引

勝部　眞人…… 205
勝山市…… 105
桂島　宣弘…… 102
加藤　圭木…… 260
加藤　謙吉…… 38, 179
加藤　諭…… 264
加藤　友康
…… 14, 116, 160, 168
加藤　理文…… 140
加藤　衛拡…… 201
加藤　陽子…… 132
門脇　禎二…… 84
門脇むつみ ……102, 294
金井　圓…… 272
神奈川県立金沢文庫　291
金指　正三……142, 198
金谷　匡人…… 29
兼岡　理恵…… 83
鐘江　宏之……101, 229
兼清　正徳…… 95
金子　幸子…… 160
金子　拓……101, 194, 245
金子　龍司…… 264
兼平　賢治…… 4, 61, 249
川平　成雄… 57, 137, 167
我部　政明
…… 83, 167, 175, 263
蒲池　勢至…… 222
鎌倉　佐保…… 240
鎌倉遺文研究会 …… 299
鎌田　純一…… 179
上川　通夫……105, 210
上白石　実… 54, 174, 252
上沼　八郎…… 98, 102
神谷　大介…… 67
紙屋　敦之…… 198
神谷　正昌…… 76, 85
神山　恒雄…… 102
亀井　高孝…… 94, 297
亀田　隆之…… 182
亀田　俊和…… 60, 62
鹿持　雅澄…… 218
萱場　真仁…… 253
苅米　一志…… 63, 276
河合　正治… 91, 146, 148
川合　康……117, 242
河内　将芳…… 63, 139
川岡　勉……58, 89, 243
川上　寿代…… 258
川口　暁弘…… 66
川口　久雄…… 87
川口　良…… 42, 52
川越　美穂…… 102
河島　真…… 130
川嶋　将生…… 53
川尻　秋生16, 101, 111, 229
川瀬　一馬……155, 277
川添　昭二 88, 89, 220, 274
川田　貞夫…… 96
川田　稔…… 26, 41
河竹　繁俊…… 93, 96
川戸　貴史…… 193
河西　英通……135, 136
河西　秀哉…… 63
川端　太平…… 96
川満　彰
…… 67, 73, 138, 166, 167
川村　湊…… 29
川本　慎自…… 101
川森　博司…… 284
寛永寺谷中徳川家
近世墓所調査団 … 280
元興寺…… 114
元興寺文化財研究所　114
神崎　宣武…… 154
官田　光史…… 261
神田　千里
17, 41, 156, 168, 189, 245
神田　秀雄…… 255
神田　裕理…… 123
神田より子…… 167
神立　孝一…… 253
菅野　成寛…… 8
芳　即正…… 94, 95
神戸　航介…… 230
神部四郎次 …… 27

キ

菊池　勇夫
… 15, 31, 63, 94, 129, 143, 154, 167, 254
菊池　健策…… 284
菊地　大樹… 101, 120, 175
木越　祐馨…… 102
木越　隆三…… 74
木崎　弘美…… 251
岸　俊男…… 85
貴志　俊彦… 133, 137, 164
岸上　慎二…… 86
岸田　裕之……191
岸野　久…… 36, 211, 269
岸本　雅敏…… 235
北　啓太…… 84
北　康宏……100, 101
鍛代　敏雄…… 20
喜田川季荘…… 218
北川　博邦…… 227
北島　正元…… 95
北島　万次…… 46
北野　信彦…… 77
北野　裕子…… 83
北原　糸子
… 108, 166, 201, 259, 266
北原　進…… 157
北原モコットゥナシ… 167
北村　優季…… 231
木戸　雅寿…… 40
鬼頭　宏…… 149
衣川　仁…… 70, 209
木野　主計…… 102
宜野座菜央見 …… 58
木下　聡…… 5
木下　正史
…… 110, 114, 165, 229
木下　良 115, 144, 166, 236
木畑　洋一…… 35
木宮　泰彦…… 238
金　炫栄…… 247
金　富子…… 261
金　栄…… 261
木村　茂光
65, 69, 106, 107, 117, 144, 166, 167, 240
木村　大樹…… 234
木村　直樹
…… 102, 131, 173, 252
木村　誠…… 83, 295
木村　美幸…… 83, 262
木村　涼……128, 255
木村　涼子…… 135
木村　玲欧……133, 166
木本　雅康…… 34
木本　好信…… 230
九州歴史資料館 …… 279
京樂真帆子 …… 83, 116
桐野　作人…… 67, 147
桐原　健真…… 65
金田　章裕
… 108, 115, 143, 171, 186
金田一春彦…… 223
金原　左門…… 26
金龍　静…… 26, 189

ク

櫛田　良洪…… 207
楠　精一郎……151
工藤　雅樹
…… 144, 156, 180, 181
宮内省臨時帝室編修局 270
宮内庁書陵部 … 270, 275
國　雄行…… 52
國下多美樹 …… 281
久野　昭…… 24
久保健一郎…… 63, 125
久保　貴子…… 83, 92
久保　常晴…… 238
久保田　淳…… 87, 296
久保田昌希 …… 190
久保田正文…… 97
熊谷　公男…… 41, 111
熊倉　功夫…… 47, 173
熊田　亮介…… 181
熊田　亮介…… 101
熊本　史雄……102, 259
熊本大学
永青文庫研究センター
…… 128
熊本大学文学部附属
永青文庫研究センター
…… 272
倉石　忠彦…… 25, 285
倉地　克直…… 72, 127
蔵持　重裕…… 46, 193
倉本　一宏
… 8, 9, 10, 16, 29, 49, 86, 116, 169, 170
栗田　直樹…… 99
栗本賀世子…… 80
栗山　圭子……101, 240
黒板　勝美…… 169
黒板　伸夫…… 86
黒板　昌夫…… 220
黒川　高明…… 241
黒坂　周平…… 185
黒崎　直…… 114
黒沢　文貴…… 83, 102
黒嶋　敏…… 64, 145
黒田　智…… 54, 124, 294
黒田　弘子… 108, 160, 193
黒田　基樹…… 20
桑田　忠親…… 91
桑山　浩然…… 190

コ

小池　進……73, 92, 196
小池　聖一… 100, 102, 204
小池藤五郎…… 94
小池　伸彦…… 77
小泉　和子…… 30
小泉　宜右…… 145
康　昊…… 268
黄　霄龍…… 245
公益財団法人永青文庫 128
公益財団法人僧月性顕彰会
……131
高坂　好…… 89
高山寺…… 124
河内　祥輔… 119, 188, 233
交通史学会…… 299
神野志隆光…… 155
古賀　徳子…… 166
小風　秀雅…… 15, 102
国史大系編修会 …… 220
国文学研究資料館 146, 149
国立歴史民俗博物館
…… 7, 112, 140, 141, 278
御家人制研究会 …… 220
児島　恭子……50, 81, 221
五島　邦治…… 80
小島　孝夫…… 284
小島　道裕……22, 64, 146
五條小枝子…… 70
小菅　信子…… 71
小関悠一郎…… 11, 250
古代學研究所…… 276
古田島洋介…… 134
児玉　幸多
… 92, 107, 109, 197, 215, 217, 297
児玉　州平…… 262
児玉幸多先生論集
刊行委員会…… 255
小長　久子…… 97
小寺智津子…… 77
後藤　昭雄…… 37, 86
後藤　新…… 83
後藤　乾一…… 35
後藤　宏樹…… 80
後藤　雅知…… 129
後藤　道夫…… 16
後藤みち子 …… 50, 195
後藤　致人…… 205
五野井隆史

20, 90, 91, 104, 106, 197
小林　一岳…… 117
小林　和幸……102, 203
小林計一郎…… 94
小林　健二…… 290
小林光一郎…… 285
小林　准士…… 3
小林　清治
… 91, 121, 150, 194, 245
小林　敏男…… 53, 180
小林　延人…… 102
小林　宣彦……107, 234
小林　英夫…… 39
小林　啓治…… 18, 204
小林　元裕…… 83
五味　文彦
…12, 13, 14, 87, 120, 124, 128
小峯　和明……108, 246
小峰　和夫…… 266
小宮　一夫…102, 131, 204
小宮木代良…… 196
小宮　孟…… 74
小宮　京…… 83
小宮まゆみ…… 49
小宮山敏和…… 83, 249
小山　聡子…… 175
小山　静子…… 38
小山　俊樹… 83, 102, 106
今　　正秀…… 19, 101
今田　洋三…… 157
近藤　成一… 14, 101, 247
近藤　典彦…… 32, 223
近藤　祐介…… 83
近藤　好和…… 26, 42

サ

齋木　一馬……212, 277
埼玉県立嵐山史跡の
博物館…… 123
齋藤　慎一
… 45, 108, 139, 147, 242
斎藤　聖二…… 102
斎藤多喜夫…… 41
斎藤　忠…… 94, 278
齋藤　努…… 57
斎藤　夏来…… 209, 269
齋藤真麻理…… 290
斎藤　隆三…… 98
佐伯　有清
…30, 34, 85, 86, 181, 186, 207
佐伯　哲也…… 139
佐伯　智広…… 6, 69, 101
三枝　康高…… 93
酒井　一臣…… 259
酒井　紀美
59, 89, 123, 145, 194, 247
坂井　孝一……10, 34, 173
酒井　伸雄…… 154
酒井　一…… 23
酒井　雅代…… 252
酒井　元樹…… 80
坂上　康俊……110, 229
坂上　康博…… 64
栄原永遠男……238, 281
坂口　太郎…… 6
坂田　聡…… 44
坂田　精一…… 96
坂田美奈子…… 83
坂詰　秀一…… 25
坂根　嘉弘……135, 136
坂野　徹…… 138
坂本多加雄…… 98
坂本　太郎
84, 86, 103, 143, 160, 212, 220
坂本　稔…… 140
坂本　悠一…… 136
酒寄　雅志…… 235
狭川　真一…… 83
酒匂由紀子…… 244
鷺森　浩幸…… 71
佐久間　竜…… 208
桜井　邦朋…… 33, 39
櫻井徳太郎…… 286
桜井　俊彰…… 53, 57
櫻井　彦…… 74, 101, 119
櫻井　良樹 6, 38, 130, 163
佐古　愛己…… 5
佐々木　馨
…… 27, 109, 172, 208
佐々木銀弥……191, 192
佐々木恵介…101, 110, 230
佐々木憲一…… 278
佐々木健策…… 79
佐々木潤之介……106, 109
佐々木　克 11, 28, 150, 202
佐々木　隆…… 102
佐々木　徹…… 74
佐々木利和…… 36
佐々木倫明…… 83
佐々木文昭…… 187
佐々木邦世…… 29
佐々木宗雄…… 240
佐々木守俊…… 293
佐々木雄一…… 75
佐々木由香…… 83
笹本　正治…… 24
笹本　正治…… 145
笹山　晴生……113, 171
佐島　顕子……101, 102
笹生　衛 63, 105, 165, 221
佐多　芳彦……122, 194
佐竹　昭…… 251
佐竹　朋子…… 253
佐々　博雄…… 102
佐道　明広… 44, 131, 263
佐藤　亜聖…… 282
佐藤　和彦…… 146
佐藤　勝明…… 11
佐藤　憲一…… 148
佐藤　健治…… 188
佐藤　昌介…… 94
佐藤　孝之
…128, 168, 253, 255, 276
佐藤　道信…… 293, 294
佐藤　長門…… 180
佐藤　秀成…… 242
佐藤　弘夫…… 40, 156
佐藤　宏之…… 4, 83, 173
佐藤　文子…… 236, 267
佐藤　信
13, 101, 106, 110, 114, 116, 159, 184, 229, 238, 271, 281
佐藤　全敏…… 101
佐藤　道生…… 101
佐藤　稔…… 46
佐藤　元英…… 102
佐藤　雄一…… 233
佐藤　雄基…… 120
佐藤　雄介…… 102
佐藤　至子…… 66
佐藤　能丸……102, 163
佐藤和賀子…… 134
眞田　尊光…… 267
実松　幸男…… 276
佐野　賢治…… 207
佐野　静代… 73, 172, 247
皿井　舞…… 293
澤　　博勝…… 211
沢井　実…… 62, 100
佐脇　栄智……190, 191
沢山美果子…… 48, 134
三田　武繁…… 187

シ

塩川　哲朗…… 229
塩澤　寛樹…… 52, 292
塩田　良平…… 97
塩谷　純…… 294
繁田　信一
44, 78, 115, 116, 144, 232
重松　明久…… 89
重松　敏彦…… 220
重見　泰…… 77, 231
重光　葵…… 264
設楽　博己… 72, 112, 113
篠川　賢
36, 75, 84, 110, 180, 231
篠崎　敦史…… 235
篠原　和夫…… 83
篠原　徹…… 43, 222
柴　　桂子…… 25
芝　　健介…… 32
柴田　純…… 64, 127, 149
柴田　紳一…… 102
柴田　実…… 93
柴辻　俊六…… 91
島尾　新…… 101
島薗　進…… 136
島田　祐悦……116
島津　毅…… 242
島津　忠夫…… 274
島津斉彬文書刊行会 214
島村　恭則…… 284
島谷　良吉…… 94
清水　勲…… 31
清水　克行……10, 48, 101
清水　眞澄…… 35
清水　みき…… 101
清水　有子…… 255
清水　亮…… 68
志村　洋…… 3
下垣　仁志 75, 83, 161, 280
下坂　守…… 124
下重　清…… 56
下出　積與……145, 186
下向井龍彦…… 101
姜　　克實…… 100
宗教法人光明宗法華寺 271
荘園史研究会…… 121
城倉　正祥…… 278
東海林亜矢子…… 238
庄司　俊作…… 39
正倉院文書研究会… 276
城福　勇…… 93, 94
条里制・古代都市研究会
……115
白石太一郎…… 143
白川部達夫
… 30, 128, 166, 167, 198
白木沢旭児…… 260
白崎昭一郎…… 27
白鳥　圭志…… 265
白根　孝胤…… 83
白根　靖大……118, 194
白山　眞理…… 133
白水　智…… 247
新川登亀男……179, 238
新行　紀一…… 210
神宮司庁…… 275
新郷　英弘…… 82
新古代史の会……116
進士　慶幹…… 92
新谷　尚紀
33, 76, 105, 108, 167, 222, 286, 287
陣内　秀信…… 6
神野　清一…… 25
神野　潔…… 120
甚野　尚志……102, 247
真野　俊和…… 36, 222
新村　拓…… 107
新谷　和之…… 124

ス

水藤　真…… 90, 156
末柄　豊…… 101
末木文美士…… 52
季武　嘉也
15, 46, 107, 163, 164, 168, 204
末廣　幸代…… 53
末松　保和…… 212
菅　　豊……176, 284
菅野　則子…… 31, 160
菅原　征子……201, 208
菅原　光…… 102
菅原　正子…101, 109, 189
菅原　慶郎…… 251
杉　　謙二…… 258

著編者名索引

杉谷　昭…… 96
杉本　勲…… 97
杉本　一樹…… 83
杉本　尚雄…… 88
杉山　巖…… 13
杉山　一弥…… 2
須崎　愼一…… 132
鈴木　岩弓…… 83
鈴木　暁一……93, 95, 202
鈴木　公雄…… 37
鈴木　国弘…… 189
鈴木　敬三……164, 293
鈴木　俊…… 222
鈴木　淳…… 31, 102
鈴木　章生…… 200
鈴木　善次…… 42
鈴木　泰山…… 209
鈴木　拓也16, 101, 111, 181
鈴木　多聞…… 102
鈴木　哲雄……118, 247
鈴木　直樹…… 249
鈴木　則子…… 56, 254
鈴木　英恵…… 285
鈴木　正貴…… 140
鈴木　正崇…… 37
鈴木　正信…… 75, 233
鈴木　靖民
…… 112, 171, 183, 230
鈴木　芳行……58, 62, 132
鈴木　理恵…… 238
須田　努……11, 53
須田　勉…… 64, 236, 281
須磨　千頴……191
住谷　悦治…… 99
諏訪　春雄……33, 36, 221
諏訪　勝則…… 70

セ

清家　章……67, 83, 113
世界の文字研究会 … 168
瀬川　高央…… 137
関　晃…… 212
関　周一… 59, 109, 246
関　民子…… 94
関　幸彦
… 17, 19, 35, 55, 70, 121, 144, 155, 161
関口　明……180, 181
関口　哲矢……132, 175
関口　博巨…… 251
関沢まゆみ
…… 141, 167, 284, 288
関根　淳…… 71
関根　真隆…… 219
関根　達人
…… 67, 70, 109, 167, 282
関山直太郎…… 198
瀬戸　薫…… 101
瀬野精一郎
… 89, 160, 161, 168, 187
銭　静怡…… 245
戦国史研究会…… 299
戦国人名辞典編集委員会
…… 162
戦国の忍びを考える
実行委員会…… 123
浅草寺日並記研究会 275
千田　稔……143, 144

ソ

総合女性史学会…… 108
総合女性史研究会 35, 108
副島　弘道…… 33
曽我　良成…… 101
十川　陽一…… 231
祖田　修…… 98
外山　三郎……151
曽根ひろみ…… 127
曾根　正人……46, 84, 208
曽根　勇二…… 20, 91
曽根原　理… 48, 102, 196
薗田　稔…… 165
杣田　善雄…… 126
染谷　光廣…… 148

タ

対外関係史総合年表
編集委員会…… 169
大喜　直彦…… 59
大本山永平寺史料全書
編纂室…… 274
平　重道…… 211
田浦　雅徳…… 102
多賀　宗隼 87, 88, 193, 220
高岡　裕之…… 164
高岡　弘幸…… 64
高木　純一…… 241
高木　俊輔…… 55
高木　俊輔……131
高木　徳郎…… 240
高木まどか…… 254
高岸　輝……101, 290, 294
高倉　洋彰…… 36
高桑　守史…… 285
高崎市……115
高澤　憲治…… 94
高澤　裕一…… 250
高島　正人…… 84
高島　正憲…… 78
高杉　洋平…… 72
高瀬　克範…… 278
高田　貫太…… 73
高田　良信…… 24
高槻市教育委員会 278, 279
高鳥　廉…… 243
高埜　利彦… 15, 102, 160
高野　信治……61, 75, 196
高橋　一樹…… 118
高橋慎一朗
22, 88, 120, 147, 188, 242
高橋　傑…… 241
高橋　崇…… 85, 181
高橋　富雄…… 87, 148
高橋　信武…… 282
高橋　典幸…101, 107, 242
高橋　秀樹
…5, 62, 88, 106, 121, 188, 277
高橋　昌郎……96, 97, 211
高橋　充…… 118
高橋　美貴…… 173
高牧　實…… 200
高村　聰史…… 74
高村　直助……24, 96, 163
高谷　道男…… 98
高柳　友彦…… 79
高柳　光寿…… 90
高良　倉吉…… 28
滝川　恒昭…… 90
滝沢　武雄…… 104
滝沢　誠…… 102
瀧浪　貞子……19, 28, 296
田口　章子…… 40
田口　親…… 97
田口　正治…… 93
詫間　直樹…… 101
竹居　明男…… 207
武井　弘一…… 127
竹井　英文… 68, 124, 125
武内　孝善…101, 207, 267
竹内　誠……150, 162, 250
竹内　道雄…… 88, 105
竹内　祐介…… 259
竹田　憲治…… 140
武田　恒夫……291, 292
武田　知己……107, 205
武田　尚子…… 132
武田　幸男…… 295
武田庸二郎…… 294
竹中　克繁…… 140
武部　健一……115
武部　敏夫…… 96, 258
武部　善人…… 93
竹本　千鶴…… 90
竹山　昭子……151
太宰府天満宮…… 273
田島　公…… 109
田島奈都子…… 294
田嶋　信雄…… 132
多田　一臣…… 84
多田　文夫…… 83
多田井幸視…… 284
立川　武蔵…… 29
舘野　和己
…… 83, 101, 159, 239
田中　彰…… 202, 203
田中　宣一…… 59
田中惣五郎…… 96
田中　健夫… 91, 168, 192
田中　俊明…… 83
田中　暁龍… 78, 196, 248
田中　久夫…… 88
田中　大喜…… 5, 62
田中　宏巳
…… 98, 99, 137, 151, 260
田中　弘之…… 128
田中　史生…… 43, 235
田中　萬逸…… 258
田中　稔……187, 193
田中　洋平…… 255
田中　禎昭…… 171
田中　善信…… 93
田中　良之…… 48
田辺　征夫…… 159
田辺　勝美…… 32
田辺　旬…… 78
田辺　久子…… 89, 122
棚町　知彌…… 274
谷　徹也…… 6
谷釜　尋徳…… 79
谷口　克広 17, 46, 147, 162
谷口　研語…… 154
谷口　眞子 11, 44, 199, 261
谷口　澄夫…… 92
谷口　裕信…… 256
谷口　雄太…2, 73, 76, 243
谷端　昭夫…… 32
谷畑　美帆…… 52
谷本　晃久…… 83
谷本　雅之…… 273
種稲　秀司…… 99
田畑　忍…… 97, 98
田端　泰子 43, 68, 145, 195
田原　嗣郎…… 95
田渕句美子…… 88
玉田　芳英…… 22
玉蟲　敏子…… 294
圭室　諦成…… 96
圭室　文雄…… 30, 56
田村　圓澄…… 87, 156
田村　晃祐…… 85
田村すゞ子…… 109
田村　将人…… 83
田村　芳朗…… 153
多和田雅保…… 3
俵　元昭…… 40
段木　一行…… 253

チ

近森　高明…… 266
近盛　晴嘉…… 97
千々和　實…… 211
千葉　慶…… 56
千葉　正樹…… 47
千葉　芳広…… 77
茶谷　誠一 52, 99, 136, 204
朝野群載研究会…… 271

ツ

塚瀬　進……133, 260
塚田　孝……129, 201
津金澤聰廣…… 153
塚本　明…… 80, 109
塚本　学…… 93
築島　裕…… 152
辻　達也…… 93, 248
辻　惟雄…… 292
辻　浩和…… 5
土田　直鎮…… 179
土田　宏成…… 66
土屋　喬雄…… 99

土屋　貴裕…… 124
土谷　恵…… 209
筒井　清忠…… 20
筒井　紘一…… 102
堤　邦彦…… 83
常光　徹…… 287
津野　仁…… 176
津野　倫明…… 11, 244
角田　史幸…… 42, 52
角田　文衛…… 85
角山　榮……150, 155
坪井　良平…… 269
坪根　伸也…… 244
鶴間　和幸…… 37
鶴見　泰寿…… 72

テ

出口　雄大…… 102
手嶋　泰伸…… 60, 262
手塚　薫…… 167
鉄野　昌弘…… 84
寺内　浩…… 101
寺尾　美保…… 102
寺崎　保広… 84, 115, 232
寺沢　薫…… 280
寺島　孝一…… 42
寺前　直人…… 66, 113
照沼　康孝…… 102

ト

土井　作治…… 103
土居　浩…… 286
外池　昇…… 32, 205, 219
東叡山寛永寺…… 272
東京国立博物館…… 293
東京大学史料編纂所
……121, 277
東京大学史料編纂所古写真研究プロジェクト
…… 258
東京鉄道局写真部… 259
東京日日新聞社…… 258
東野　治之…… 101
東北学院大学文学部歴史学科…… 106
東北大学東北文化研究会
……214, 215
遠山美都男…… 10, 19, 47
時任　英人…… 102
研谷　紀夫…… 258
徳川　義崇…… 258
徳川　義宣…… 202
徳川実紀研究会…… 220
徳川林政史研究所… 258
徳丸　亞木…… 284
所　功…… 86
所　三男…… 197
「都市の危機と再生」研究会
…… 265
戸田　金一…… 25, 257
戸田　有二…… 279
栃木　孝惟……116
戸ノ下達也…… 53
戸部　良一…102, 106, 132
冨倉徳次郎…… 89
冨島　義幸…… 290
富田　正弘…… 195
冨永　望…… 60
豊見山和行…… 15, 199
友田　昌宏……131, 256
友松　圓諦…… 95
戸谷　穂高…… 244
外山　幹夫…… 90, 148
豊島　直博…… 114
豊田　武……151, 212
豊田祐基子…… 263
豊永　聡美…… 65, 195
虎尾　達哉……81, 85, 230
虎尾　俊哉…103, 115, 170
鳥海　靖……163, 164, 168
鳥越　皓之…… 21, 59

ナ

内藤　貞顕…… 219
直木孝次郎… 84, 110, 233
中井　淳史…… 75
長井　純市…… 98
中井　真孝…… 70
永井　晋… 52, 75, 88, 145
中井　信彦…… 95
中井　均…… 140
長江　正一…… 90
中尾　佐助…… 154
中尾　堯…… 36, 168, 268
中尾　七重…… 140
長尾　宗典…… 102
中尾　芳治……186, 281
中尾　良信…… 42
長岡　龍作…… 8
中川　仁喜…… 272
中川徳之助…… 90
中川　学…… 201
中久保　辰夫…… 83
中込　睦子…… 167
中込　律子…… 101
長坂　良宏…… 248
中澤　克昭11, 124, 139, 188
中澤　惠子…… 265
長澤　孝三…… 142
長沢　利明…… 35, 160
中島　楽章…… 83
中嶌　邦…… 98
中島　耕二…… 174
中島　琢磨…… 137
長島　弘明…… 102
永島福太郎…… 89
永嶋　正春…… 239
中島三千男…… 106
中島和歌子…… 81
永田　生慈…… 33
永田　英明…… 235
仲田　正之…… 95
中田　易直…… 92
中塚　武…… 75
永積　安明…… 145
永富家文書調査会… 273
長友　朋子…… 278
中西　聡…… 264
中野　香織…… 135
長野　暹…… 23, 250
中野　達哉…… 249
中野　照男…… 34
中野　幡能…… 221
中野　等
18, 91, 92, 123, 245, 246
長野ひろ子……108, 199
中野　実…… 31, 206
中野　泰…… 287
中野　良…… 261
中野目　徹99, 133, 134, 266
中橋　孝博…… 62
永原　和子……108, 206
永原　慶二
… 103, 122, 135, 147, 150
永原慶二追悼文集刊行会
…… 122
永嶺　重敏…… 53
中村　明蔵…… 144
中村　江里…… 263
中村　一紀…… 258
中村　菊男…… 97
中村　孝也…… 248, 249
中村　修也…… 55
中村　俊介…… 41
中村　大介…… 81
中村　太一…… 185
中村　琢巳…… 75
中村　質…… 173
中村　尚史……102, 259
中村　尚美…… 98
中村　平治…… 26
永村　眞……101, 209, 268
中村　方子…… 27
中村羊一郎… 28, 222, 287
長村　祥知…… 5, 6, 83
中村　順昭……60, 85, 170
中元　崇智…… 256
中山　圭…… 140
中山　千代…… 266
名久井文明…… 287
奈倉　哲三…… 31
奈倉　哲三…… 130
名古屋市博物館…… 271
七海　雅人… 83, 118, 187
浪川　健治…… 173
波平恵美子…… 286
奈良県立橿原考古学研究所…… 278
奈良国立文化財研究所 274
奈良文化財研究所
……271, 274, 279
成田賢太郎…… 102
成田　千尋…… 80
成田　龍一……102, 136
難波　信雄…… 23
南部　昇…… 181

ニ

新関　欽哉…… 155
新名　一仁…… 102
新野　直吉……144, 156
新美　倫子…… 166
二階堂善弘…… 80
仁木　宏…… 140
西　洋子…… 237
西尾　賢隆…… 209, 268
西尾　知己…… 172
西尾陽太郎…… 97
西尾林太郎…… 98, 99
西岡　達哉…… 140
西海　賢二……105, 269
西川　広平…… 78, 247
西川　誠…… 102
錦織　勤…… 240
西澤美穂子…… 174
西澤　泰彦…… 55
西島　太郎…… 83
西田　友広……12, 13
西田　友広…… 101
西谷　正浩…… 73
西成田　豊…… 257
西宮　秀紀…… 110
西村　公朝…… 157
西村慎太郎…… 57, 201
西本　豊弘…… 166
西本　昌弘… 85, 234, 236
西山　伸…… 81
西山松之助
… 93, 150, 156, 202, 213
似鳥　雄一…… 241
日蘭学会…… 215
新田　均…… 102
仁藤　敦史 56, 76, 101, 231
仁藤　智子……101, 182
蜷川　壽惠…… 28
日本学士院…… 213
日本考古学協会　282, 283
日本史史料研究会
…… 120, 122, 123, 276
日本石造物辞典編集委員会…… 166
日本歴史学会
… 84, 100, 103, 163, 276, 290, 298
『日本歴史』編集委員会 106

ヌ

貫　達人…… 87
布川　弘…… 262
沼田　哲…… 204

ネ

根井　浄…… 48
根岸　茂夫…… 51, 196
根崎　光男…… 64, 248
根立　研介…… 59
根間　弘海…… 55

著編者名索引

根本みなみ …… 4

ノ

納富　敏雄 …… 26
野口　剛 …… 294
野口　朋隆 …4, 55, 83, 250
野口　華世 …… 101
野口　実 6, 46, 66, 116, 161
野地　恒有 …… 284
野添　文彬 … 71, 106, 137
野田　浩子 …… 4
昇　亜美子 …… 137
野間万里子 …… 265
野村　育世 …… 33
野村　純一 …… 32
野村　剛史 …… 53
野村　忠夫 ……180, 182
野村　實 ……151, 261
野邑理栄子 …… 261
野本　禎司 ……128, 249
則竹　雄一 ……119, 244

ハ

芳賀幸四郎 …… 90
羽賀　祥二 …… 264
萩原　左人 …… 285
萩谷　良太 …… 285
萩原秀三郎 …… 40
萩原　龍夫 …… 188
朴　炳道 …… 255
箱石　大 ……102, 130
橋爪　紳也 …… 39
羽柴　直人 …… 76
橋本　繁 …… 295
橋本　政宣 ……102, 165
橋本　素子 …… 67
橋本　雄 …… 57, 246
橋本　義彦 …… 87, 184
橋谷　弘 …… 41
長谷川成一 …… 197
長谷川博史 … 101, 125, 244
長谷川裕子 …… 83
長谷川亮一 …… 54
波多野　澄雄 …… 102
波多野澄雄 …… 263
波田野富信 …… 217
服部　一隆 …… 229
服部　聡 …… 70
服部　敏良 ……116, 213
服部　英雄 …… 23
服部　幸雄 …… 202
服部　龍二 ……131
埴原　和郎 …… 24
馬場　憲一 …… 217
馬場　基 51, 101, 232, 237
土生田純之
…… 54, 115, 166, 280
馬部　隆弘 …… 6, 244
浜井　和史 …… 60, 262
浜島　一成 …… 142
濱砂　孝弘 …… 83, 263
浜田義一郎 …… 94
浜田久美子 ……142, 235
濱田　耕策 …… 34, 223
浜田　幸絵 …… 134
浜野　潔 …… 55
浜林　正夫 …… 30
早川純三郎 …… 218
早川　庄八 …… 186
早川　紀代 …… 110
早川　万年 …… 51
林　晃弘 …… 102
林　健太郎 …… 297
林　大樹 …… 248
林　隆広 …… 140
林　千寿 …… 72
林　英夫 …… 276
林　博史
50, 56, 67, 136, 166, 167, 264
林　淳 …… 201
林　幹彌 …… 179
林　巳奈夫 …… 295
林　玲子
35, 38, 42, 108, 254, 273
林　陸朗 …… 85
林原美術館 …… 271
林部　均 …… 48
早島　大祐 …… 6, 11, 243
林屋辰三郎 …… 149
速水　侑
…… 29, 86, 152, 153, 208
原　敬吾 …… 95
原　淳一郎 …… 54
原　直史 …… 129
原田　朗 …… 97
原田　勝正 …… 27
原田　敬一
…… 18, 135, 136, 264
原田多加司 …… 42
原田　禹雄 …… 39
原田　正俊 …… 83, 268
播磨　良紀 …… 102
春名　宏昭 ……69, 85, 179
春名　好重 …… 86
伴瀬　明美 …… 101

ヒ

比嘉　政夫 …… 154
東　昇 …… 173
東四柳祥子 ……107, 169
樋上　昇 …… 65
樋口　州男 …… 62
樋口健太郎 … 73, 101, 240
樋口　大祐 …… 54
樋口　雄彦 …… 20, 43
樋口　知志 83, 101, 111, 116
樋口　秀実 …… 102
久野　洋 …… 259
久松　潜一 …… 93
飛田　範夫 …… 44
俵木　悟 …… 284
兵藤　裕己 …… 195
平井　上総 …… 125
平井　誠二 …… 102
平井美津子 …… 167
平井　義人 …… 102
平石　直昭 …… 102
平泉　隆房 …… 172
平尾　道雄 …… 95, 96
平岡　定海 …… 206, 207
平川　新 …… 77
平川　南
… 21, 112, 232, 236, 238
平久保　章 …… 92
平瀬　礼太 …… 58, 206
平田　健 …… 281
平野　邦雄
… 85, 112, 113, 160, 179
平野　多恵 …… 79
平野義太郎 …… 98
平林　章仁 ……113
平林　盛得 … 86, 208, 211
平松　令三 …… 27, 268
平山　優 … 19, 45, 60, 139
平芳　裕子 …… 82
広島県北広島町 …… 287
廣瀬　憲雄 …… 183
広瀬　良弘 …… 209
廣田　浩治 …… 101
廣野　三郎 …… 248
日和佐宣正 …… 140

フ

風説書研究会 …… 272
深井　甚三 …… 25
深井　雅海
… 102, 126, 127, 149, 162, 196, 249
深澤　秋人 …… 106
深澤　芳樹 …… 278
深谷　克己 ……45, 59, 103
深谷　幸治 ……106, 246
福井　純子 …… 83
福井　俊彦 …… 184
福尾猛市郎 …… 90
福澤　昭司 …… 284
福島　克彦 …… 17, 140
福島　金治 ……191
福島　正樹 …… 117
福田アジオ
… 26, 167, 176, 285, 286
福田以久生 ……119
福田　千鶴
… 60, 73, 75, 91, 92, 127
福田　豊彦
…… 87, 161, 188, 189
福地　惇 …… 102
服藤　早苗 ……29, 86, 238
福留　真紀 …… 102
福永　伸哉 …… 278
福原　圭一 …… 139
藤井　譲治 ……91, 92, 126
藤井　弘章 …… 288
藤井　正雄 …… 45
藤井　雅子 …… 101
藤尾慎一郎 55, 79, 112, 278
藤方　博之 …… 128
藤木　久志 …147, 190, 245
藤實久美子 …… 48, 174
藤沢　敦 …… 83, 111
富士山考古学研究会　282
藤田　和敏 …… 253
藤田　覚
… 15, 71, 81, 94, 106, 126
藤田　恒春 …… 90
藤田　勝也 …… 73
藤野　敦 …… 37
藤野　保 ……149, 248
藤野　豊 …… 33, 51
藤原　辰史 …… 57
伏見　岳人 …… 102
藤村　道生 …… 98
藤本　隆士 …… 251
藤本　誠 …… 236
藤本　正行 …… 44
藤本　頼人 …… 78
藤森健太郎 …… 184
H・ジャン・エルキン … 247
二木　謙一
…… 43, 103, 148, 194
二谷　智子 …… 264
渕ノ上　隆介 …… 140
船岡　誠 …… 101
麓　慎一 …… 199
古家　信平 …222, 284, 285
古家　晴美 …… 284
古市　晃 …… 83, 101
古井戸秀夫 …… 94
古尾谷知浩 …… 101
古川　隆久
21, 98, 99, 133, 136, 151, 204, 261
古川　祐貴 …… 252
古澤　直人 ……101, 240
古瀬奈津子
…… 39, 101, 183, 235
古田　良一 …… 93
古野　貢 ……191
古橋　信孝 …… 27, 143
古畑　徹 …… 66

ヘ

平安朝漢文学研究会　223

ホ

帆足図南次 …… 95
寶月　圭吾 …188, 192, 194
朴澤　直秀 ……176, 197
法政蘭学研究会 …… 215
保谷　徹 … 18, 51, 107, 130
外園　豊基 …… 106
保坂　智 …… 37
星野　英紀 …… 54
星野　安治 …… 83
細井　計 …… 233
細井　浩志 … 101, 113, 185
細川　重男
…… 54, 101, 120, 187
細川　博昭 …… 44

細川　涼一…… 145
洞　富雄…… 95
堀　晄…… 48
堀　勇雄…… 92
堀　新……118, 296
堀内　亨…… 101
堀越　祐一……101, 246
堀米　庸三…… 297
堀本　一繁…… 101
本郷　和人……12, 13, 101
本郷　恵子…… 101
本郷　真紹…… 101
本庄　総子…… 78
本庄　豊……138, 167
本多　隆成
……23, 69, 127, 139, 249
本多　博之 62, 83, 102, 192
誉田　慶信…… 209
本間　洋子…… 70

マ

前田　勉…… 102
前田　哲男……137, 167
前田　徹…… 83
前田　晴人…… 45
前田　英之…… 241
前田　雅之…… 68
牧原　成征…… 3, 252
牧原　憲夫…… 136
正木美術館…… 290
増野　恵子…… 294
増尾伸一郎…… 237
増記　隆介…… 293
増田　繁夫…… 223
増田　昭子…… 46, 157
増田　美子…… 107
増渕　徹…… 22
間瀬久美子…… 248
町田　祐一…… 64, 206
松井　和幸…… 82
松井　健…… 34, 43
松井　輝昭…… 195
松浦　律子…… 83, 166
松尾　剛次… 43, 120, 210
松尾　恒一…… 284
松尾　章一…… 39
松尾　正人…… 15, 203
松尾美恵子…… 102
松岡　心平…… 101
松岡　進…… 124
松尾大社史料集
編修委員会…… 274
松木　武彦…112, 141, 278
松崎　元樹…… 76
松澤　克行…… 102
松重　充浩…… 164
松下　孝昭…… 59
松下　芳男…… 98
松園潤一朗…… 123
松薗　斉…… 195
松田　京子…… 175
松田　忍…… 102
松田　敬之… 47, 102, 163
松田　直則…… 140
松田　行彦…… 230
松田　賀孝…… 167
松田　好史…… 204
松平　定信…… 218
松永　和浩…… 6, 243
松原　信之…… 148
松原　弘宣…… 86
松前　健…… 142
松村　史紀…… 164
松本　英治……102, 252
松本　和也…… 71
松本寿三郎…… 23
松本　久史…… 102
真鍋　俊照…… 291
真鍋　淳哉…… 83
真辺　将之……102, 134
黛　弘道……155, 232
丸島　和洋…… 125
丸山　伸彦…… 164
丸山　雍成…… 49, 168
満鉄会…… 260

ミ

三浦　顕一郎…… 102
三浦　佑之…… 46, 296
三浦　正幸…… 58, 128
三笠宮崇仁親王伝記
刊行委員会…… 270
三上　次男…… 222, 297
三上　喜孝…… 59, 236
美川　圭…… 5, 240
三鬼清一郎…… 147
三木　靖…… 23
右田　裕規…… 265, 266
水口　幹記…… 87
水澤　幸一…… 139
水沢　光…… 65
水沼　淑子…… 107
水野喜代志…… 167
水野　章二……122, 172
水野　剛也…… 60
水野　智之…… 2, 61, 190
水野　正好…… 143
水野　嶺…… 83, 243
水本　邦彦…… 21, 69, 76
見瀬　和雄…… 91
溝口　孝司…… 114
溝口　睦子…… 186
溝口　優樹…… 170
三谷　博…… 103
三谷　芳幸… 70, 106, 229
三田村佳子…… 285
三井文庫…… 273
光成　準治…… 126
水戸徳川家…… 217
緑川　明憲…… 102
皆川　完一…… 220, 237
皆川　雅樹…… 171
源川　真希…… 71, 130
南　和男…… 26, 30, 43
源　了圓…… 150
峰岸　明……161, 277
峯岸賢太郎…… 32
峰岸　純夫
50, 89, 120, 138, 139, 156, 241
蓑島　栄紀…… 170
三舟　隆之… 51, 171, 237
三保　忠夫… 44, 223, 296
宮内　貴久…… 50, 287
宮川　麻紀…… 235
宮城　栄昌……214, 221
宮木　慧子…… 221
宮城　弘樹…… 106
三宅　和朗
…21, 34, 53, 76, 186, 234, 237
三宅　紹宣……103, 256
宮家　準…… 33
宮崎賢太郎…… 106
宮崎　隆旨…… 293
宮崎ふみ子…… 250
宮崎　正勝…… 42, 45
宮崎　道生…… 93
宮下　和幸…… 4
宮島　敬一…… 90
宮島　新一…… 156
宮田　俊彦…… 85
宮田　登 24, 222, 285, 289
宮瀧　交二… 101, 166, 167
宮武　正登…… 246
宮地　正人……163, 256
宮原　一郎……128, 276
宮前　耕史…… 284
宮本　一夫…… 50
宮本　救…… 182
宮本　又次…… 93
宮本八惠子…… 285
妙法院史研究会…… 214
三吉　明…… 99
三輪　宗弘…… 83

ム

向井　一雄…… 65, 108
向井　裕知…… 139
向井　佑介…… 83
向山　勝貞…… 23
武笠　朗…… 292
牟田　和男…… 34
村　和明…… 3
村井　章介 14, 21, 22, 101
村井　益男…… 149
村井　康彦…… 101
村石　正行…… 79
村尾　次郎…… 85
村上　重良…… 152
村上　直…… 217
村上　忠喜…… 284
村上　恭通…… 239
村瀬　信一
… 80, 102, 104, 106, 203
村瀬　正章…… 97
村武　精一…… 25
村山　修一…… 88, 214
室野　秀文…… 139

メ

明治神宮…… 270
目崎　徳衛
86, 87, 119, 185, 193, 214

モ

茂木謙之介…… 265
元木　泰雄
6, 14, 19, 45, 87, 103, 240
本島　和人…… 260
本中　眞…… 186
本康　宏史…… 262
桃崎有一郎…… 65
百瀬　孝……164, 219
百瀬　響…… 49
森　郁夫…… 153
森　蘊…… 92
森　公章
…… 16, 22, 58, 71, 84, 85, 119, 168, 183, 232, 233, 235, 268
森　謙二…… 61, 153
森　茂暁…… 17, 89
森　茂樹…… 18
森　銑三…… 92, 227
森　武麿…… 164
森　正人…… 250
森　安彦…… 273
森　幸夫…… 74, 88
森　暢平……136, 265
母利　美和……102, 129
森岡　清美…205, 211, 269
森下　徹…… 57, 251
J・F・モリス…… 4
森田　貴子…… 83, 102
森田　悌…… 232
森田　朋子…… 174
森谷　公俊…… 32
森松　俊夫……151
盛本　昌広…… 48, 147
森山　優…… 83, 102, 205
森山　茂徳…… 104
門田　誠一…143, 155, 281

ヤ

八百　啓介…… 199
屋嘉比　収…… 52
八木　充…… 114
八木　透…… 176
八鍬　友広…… 66
矢嶋　光…… 263
矢嶋　泉…… 49, 271, 296
安岡　昭男…… 97
安田　次郎…… 29, 90
安田　常雄…134, 166, 167
保田　晴男…… 51
安田　浩…… 150
安田　政彦… 58, 184, 234
安田　元久
…… 87, 88, 109, 145, 219

著編者名索引

安高　啓明…… 68
安室　知……154, 284, 285
矢田　俊文…… 49, 67
柳　雄太郎…… 237
柳田　泉…… 97
柳原　敏昭……118, 192
柳谷　慶子…… 77, 254
簗瀬　大輔…… 5, 83
藪田　貫……102, 128
矢部健太郎…… 20
山泉　進…… 102
山内　健治…… 137
山内　譲…… 40, 123
山尾　幸久…… 230
山縣　大樹…… 83
山川　均…… 124
山口　修…… 98
山口　和夫…… 248
山口　徹…… 40, 139
山口　輝臣…… 42, 102
山口　英男……101, 230
山口　博…… 11
山口　博之…… 73
山口　充…… 139
山口　宗之…… 95, 96
山口　航……132, 263
山崎　功…… 35
山崎　信二…… 125
山崎　孝子…… 99
山崎　久登…… 254
山崎　幹夫…… 30
山里　純一…… 56, 183
山下信一郎…… 230
山下　孝司…… 139
山下　麻衣…… 135
山下　有美…… 185
山田　朗…… 18, 26
山田　邦明
… 2, 19, 90, 101, 107, 117, 124, 160
山田　邦和…… 6
山田　淳平…… 253
山田　昭全…… 87
山田　慎也…… 286
山田　徹…… 6
山田康弘(中世史)　55, 189
山田康弘(考古学)　60, 112
山田　雄司…… 46
山中　章…… 238
山中　裕…… 86
山村　亜希…… 172
山村　博美…… 64
山室　建徳…… 16
山本　英二…… 128
山本　和重……135, 136
山本　聡美…… 290
山本　志乃…… 284
山本　四郎…… 94
山本　崇…… 101
山本　孝文…… 80
山本　大…… 91
山本　武利…… 29, 34
山本　忠尚… 53, 114, 222
山本　勉…… 292
山本　信吉
…… 86, 170, 182, 220
山本　英貴…… 63, 250
山本　浩樹…… 17
山本　博文……20, 91, 168
山本　正昭…… 140
八幡　一郎…… 104
山家　浩樹…… 101

ユ

湯浅　治久… 70, 119, 153
湯浅　吉美…… 185
由井　正臣…… 163
湯川　洋司
… 26, 167, 284, 285, 286

ヨ

横内　裕人…… 6
横川　末吉…… 92
横須賀美術館…… 291
横田　健一…… 85
横山　昭男…… 94, 251
横山　學…… 40, 199
横山　伊徳…… 126
芳井　研一…… 71
義江　彰夫……168, 242
義江　明子
… 84, 160, 182, 186, 237
吉岡　誠也…… 256
吉川　真司…… 14, 101
吉川　由紀…… 166
吉川　龍子…… 35
吉川弘文館編集部
… 159, 160, 161, 165, 169, 220, 299
芳澤　元…… 101
吉田　晶…… 142
吉田　厚子…… 101
吉田　一彦……105, 267
吉田　歓…… 54, 183
吉田　久一…… 97
吉田　賢司……6, 101, 188
吉田小五郎…… 90
吉田　早苗……101, 213
吉田　武三…… 218
吉田　常吉…… 95
吉田　俊純 23, 38, 174, 202
吉田　伸之…… 6
吉田　政博…… 245
吉田　裕… 16, 18, 83, 164
吉野　秋二…… 71
吉野　孝雄…… 33
吉野　正敏…… 154
吉浜　忍……140, 166
吉原　康和…… 133
吉村　風…… 285
吉村　武彦…… 101
吉村　豊雄…… 23
吉村　雅美…… 3
吉本　明弘…… 140
依田　精一…… 206
米田　雄介
28, 37, 159, 182, 236, 270
米原　謙…… 79
米原　正義…… 148
頼富　本宏…… 152

リ

六国史索引編集部 … 219
劉　傑……102, 260

ワ

若井　敏明…… 52
若尾　政希……101, 129
若狭　徹…… 61, 111, 280
若月　秀和…… 136
若林喜三郎…… 93
脇田　晴子…108, 122, 149
鷲津名都江…… 36
和島　芳男…… 88
早稲田大学図書館 … 214
和田　萃……113, 138, 296
和田　晴吾…… 83, 280
和田　健…… 284
渡辺　晃宏…… 101
渡邉　晶…… 41, 59
渡部　圭一…… 288
渡辺　賢二…… 56
渡辺　浩一…200, 247, 254
渡辺　守順…… 144
渡辺　照宏…… 153
渡邉　俊…… 243
渡辺　節夫…… 44
渡邊　大門…… 123
渡辺　隆喜……106, 203
渡辺　保…… 87, 88
渡邉　剛…… 102
渡辺ともみ …… 205
渡辺　直彦…… 229
渡辺　尚志…… 40
渡辺　英夫…… 198
渡邊　誠…… 77, 101
渡辺　美季…… 252
渡辺　実…… 157
渡邊　守順…… 29
渡邊　洋子…… 102
渡邊　欣雄…… 167

特別協力常備書店

下記書店の特別なご協力により、目録収載の図書をはじめ新刊・重版とも常時とり揃え、多数展示・販売しております。

紀伊國屋書店　札幌本店
札幌・中央区北５条西５丁目　☎(011)231―2131

MARUZEN&ジュンク堂書店　札幌店
札幌・南1条西1丁目高桑ビルB2～4F　☎(011)223―1911

丸善　仙台アエル店
仙台・仙台駅前AER１F　☎(022)264―0151

岩瀬書店　富久山店
郡山・富久山町大森新田36―1　☎(024)936―2220

煥乎堂　前橋本店
前橋・本町１丁目　☎(027)235―8111

須原屋　本店
浦和・仲町銀座通り　☎(048)822―5321

三省堂書店 神保町本店(小川町仮店舗)
東京・神田小川町2―5　☎(03)3233―3312

東京堂書店　神田神保町店
東京・神田神保町１―17　すずらん通　☎(03)3291―5181

丸善　丸の内本店
東京・東京駅丸の内北口OAZO内　☎(03)5288―8881

紀伊國屋書店　新宿本店
東京・新宿３丁目17　☎(03)3354―0131

ジュンク堂書店　池袋本店
東京・南池袋２丁目池袋西武前　☎(03)5956―6111

三省堂書店　池袋本店
東京・西武池袋本店 別館・書籍館　☎(03)6864―8900

ジュンク堂書店　吉祥寺店
吉祥寺・コピス吉祥寺B館6F・７F　☎(0422)―28―5333

オリオン書房　ノルテ店
立川・パークアベニュービル３F　☎(042)522―1231

有隣堂　伊勢佐木町本店
横浜・伊勢佐木町　☎(045)261―1231

ジュンク堂書店　藤沢店
藤沢・ビックカメラ７～８F　☎(046))652―1211

ジュンク堂書店　新潟店
新潟・駅南口プラーカ１　☎(025)374―4411

平安堂　長野店
長野・ながの東急百貨店　別館　☎(026)224―4545

三省堂書店　名古屋本店
名古屋・タカシマヤゲートタワーモール8F　☎(052)566―6801

ジュンク堂書店　名古屋店
名古屋・中村区名駅３丁目堀内ビル１F ☎(052)589―6321

ＭＡＲＵＺＥＮ　名古屋本店
名古屋・中区栄３丁目 伊勢町通り　☎(052)238―0320

精文館書店　豊橋本店
豊橋・広小路１丁目　JR豊橋駅前　☎(0532)54―2345

うつのみや　金沢香林坊店
金沢・香林坊2―1―1 香林坊東急ｽｸｴｱ　☎(076)234―8111

BOOKSなかだ　掛尾本店
富山・掛尾町180―１　☎(076)492―1192

ＭＡＲＵＺＥＮ　京都本店
京都・三条河原町　京都ＢＡＬ内　☎(075)253―1599

MARUZEN&ジュンク堂書店　梅田店
大阪・チャスカ茶屋町Ｂ１Ｆ～７Ｆ　☎(06)6292―7383

紀伊國屋書店　梅田本店
大阪・阪急三番街　☎(06)6372―5821

ジュンク堂書店　大阪本店
大阪・堂島１丁目堂島アバンザ　☎(06)4799―1090

ジュンク堂書店　三宮店
神戸・三宮センター街ニューセンター　☎(078)392―1001

フタバ図書　ＴＥＲＡ広島府中店
広島・イオンモール広島府中３Ｆ　☎(082)561―0770

ＭＡＲＵＺＥＮ　広島店
広島・天満屋広島八丁堀ビル７～８Ｆ　☎(082)504―6210

紀伊國屋書店　福岡本店
福岡・福岡交通センタービル6F　☎(092)434―3100

ジュンク堂書店　福岡店
福岡・天神西通りスクエア　☎(092)738―3322

ジュンク堂書店　那覇店
那覇・D-NAHA地下1Ｆ～3Ｆ　☎(098)860―7175

主要常備書店一覧

小社の刊行図書は、下記の書店で展示・販売しております。ご希望の図書が店頭に見当らない場合は、至急取寄せるよう書店にお申し付け下さい。

【北海道】

〈札幌市〉 011
紀伊國屋書店札幌本店 (231)2131
コーチャンフォー美しが丘店 (889)2000
コーチャンフォー新川通り店 (769)4000
コーチャンフォーミュンヘン大橋店 (817)4000
三省堂書店札幌店 (209)5600
MARUZEN&ジュンク堂書店札幌店 (223)1911
北海道大学生協クラーク店 (736)0916

〈函館市〉 0138
函館蔦屋書店 (47)3771

〈旭川市〉 0166
コーチャンフォー旭川店 (76)4000
ジュンク堂書店旭川店 (26)1120

〈小樽市〉 0134
喜久屋書店小樽店 (31)7077

〈北見市〉 0157
コーチャンフォー北見店 (26)1122

【青森県】

〈青森市〉 017
成田本店しんまち店 (723)2431
ブックスモア青森中央店 (718)7839

〈弘前市〉 0172
弘前大学生協 (33)3742

〈八戸市〉 0178
NET21伊吉書院西店 (28)8211

【岩手県】

〈盛岡市〉 019
さわや書店 (653)4411
ジュンク堂書店盛岡店 (601)6161
東山堂 (623)7121
MORIOKA TSUTAYA (613)2588
岩手大学生協 (652)2028

〈北上市〉 0197
東山堂北上店 (61)0666

〈一関市〉 0191
北上書房 (23)4088

【宮城県】

〈仙台市〉 022
あゆみBooks仙台一番町店 (211)6961
紀伊國屋書店仙台店 (308)9211
くまざわ書店エスパル仙台店 (217)1027
仙台八文字屋書店 (371)1988
丸善仙台アエル店 (264)0151
ヤマト屋書店仙台三越店 (393)8541
東北学院大学生協土樋店 (264)6325
東北大学生協文系書籍店 (262)7463

【秋田県】

〈秋田市〉 018
ジュンク堂書店秋田店 (884)1370
宮脇書店秋田本店 (825)5515
秋田大学生協手形店 (833)5865

〈由利本荘市〉 0184
ブックスモア本荘店 (28)1177

〈北秋田市〉 0186
ブックスモア鷹巣店 (69)7501

〈大仙市〉 0187
ブックスモア大曲店 (66)0787

【山形県】

〈山形市〉 023
こまつ書店寿町本店 (641)0641
八文字屋本店 (622)2150
山形大学生協小白川店 (641)4365

〈天童市〉 023
TENDO八文字屋 (658)8811

【福島県】

〈郡山市〉 024
岩瀬書店富久山店 (936)2220
ジュンク堂書店郡山店 (927)0440

〈いわき市〉 0246
鹿島ブックセンター (28)2222
ヤマニ書房本店 (23)3481

【茨城県】

〈水戸市〉 029
川又書店県庁店 (301)1811
丸善水戸京成店 (302)5071
未来屋書店水戸内原店 (259)9151
茨城大学生協 (227)1865

〈つくば市〉 029
ACADEMIAイーアスつくば店 (868)7407
丸善筑波大学大学会館店 (858)0409

【栃木県】

〈宇都宮市〉 028
落合書店宝木店 (650)2211
八重洲ブックセンター宇都宮店 (627)8588

〈足利市〉 0284
岩下書店 (40)1184

【群馬県】

〈前橋市〉 027
煥乎堂前橋本店 (235)8111
紀伊國屋書店前橋店 (220)1830
蔦屋書店前橋みなみモール店 (210)0886
ブックマンズアカデミー前橋店 (280)3322

〈高崎市〉 027
くまざわ書店高崎店 (310)3021

戸田書店高崎店 (363)5110
ブックマンズアカデミー高崎店 (370)6166
丸善スマーク伊勢崎店 (75)4590
〈太田市〉0276
喜久屋書店太田店 (47)8723
ナカムラヤ (22)2001
ブックマンズアカデミー太田店 (40)1900
〈吉岡町〉0279
丸善ジョイホンパーク吉岡店 (26)9534

【埼玉県】

〈さいたま市〉048
紀伊國屋書店浦和パルコ店 (871)2760
紀伊國屋書店さいたま新都心店 (600)0830
三省堂書店大宮店 (646)2600
ジュンク堂書店大宮高島屋店 (640)3111
須原屋コルソ店 (824)5321
須原屋本店 (822)5321
ブックデポ書楽 (852)6581
埼玉大学生協 (854)9342
〈新座市〉048
旭屋書店志木店 (487)6165
〈川越市〉049
紀伊國屋書店川越店 (224)2573
ブックファーストルミネ川越店 (240)6212
〈所沢市〉04
ジュンク堂書店エミテラス所沢店 (2969)0603
〈桶川市〉048
丸善桶川店 (789)0011
〈久喜市〉0480
蔦屋書店フォレオ菖蒲店 (87)0800
〈飯能市〉042
丸善丸広百貨店飯能店 (973)1653

【千葉県】

〈千葉市〉043
くまざわ書店ペリエ千葉本店 (202)2900
三省堂書店そごう千葉店 (245)8331
千葉大学生協 (254)1825
くまざわ書店シャポー本八幡店 (336)3514
〈船橋市〉047
旭屋書店船橋店 (424)7331
ジュンク堂書店南船橋店 (401)0330
〈習志野市〉047
丸善津田沼店 (470)8311
〈市原市〉0436
丸善ユニモちはら台店 (26)7620
〈流山市〉04
紀伊國屋書店流山おおたかの森店 (7156)6111

【東京都】

〈千代田区〉03
三省堂書店神保町本店(小川町仮店舗) (3233)3312
書泉グランデ (3295)0011
東京堂書店神田神保町店 (3291)5181
丸善お茶の水店 (3295)5581
丸善丸の内本店 (5288)8881
三省堂書店有楽町店 (5222)1200
紀伊國屋書店上智大学店 (3238)3092
法政大学生協市ヶ谷店 (3265)4952
明治大学三省堂書店 (5282)3480
〈中央区〉03
教文館 (3561)8446
誠品生活日本橋 (6225)2871
丸善日本橋店 (6214)2001
八重洲ブックセンターグランスタ八重洲店 (6259)1167
〈港区〉03
大垣書店麻布台ヒルズ店 (5570)1700
虎ノ門書房 (3502)3461
慶応大学生協三田店 (3455)6631
〈渋谷区〉03
代官山蔦屋書店 (3770)2525
有隣堂アトレ恵比寿店 (5475)8384
國學院大學生協 (5466)0166
〈文京区〉03
山喜房仏書林 (3811)5361
東大生協本郷書籍部 (3811)5481
〈墨田区〉03
くまざわ書店錦糸町店 (5610)3034
〈台東区〉03
リブロ浅草店 (3836)7800
〈品川区〉03
有隣堂アトレ目黒店 (3442)1231
〈大田区〉03
くまざわ書店グランデュオ蒲田店 (3737)5351
有隣堂グランデュオ蒲田店 (5703)1921
〈目黒区〉03
恭文堂書店 (3712)4049
東大生協駒場書籍部 (3469)7145
〈世田谷区〉03
紀伊國屋書店玉川高島屋店 (3709)2091
国士舘大学成文堂 (3414)1941
〈新宿区〉03
紀伊國屋書店新宿本店 (3354)0131
博文堂書店本店 (3359)5301
ブックファースト新宿店 (5339)7611
書泉芳林堂書店高田馬場店 (3208)0241
早稲田大学生協ブックセンター (3202)4010
早稲田大学生協戸山店 (3202)4204
〈中野区〉03
ブックファースト中野店 (3319)5161
明屋書店中野ブロードウェイ店 (3387)8451
〈杉並区〉03
八重洲ブックセンター阿佐ヶ谷店 (6915)1951
八重洲ブックセンタールミネ荻窪店 (3392)8886
〈豊島区〉03
旭屋書店池袋店 (3986)0311
三省堂書店池袋本店 (6864)8900
ジュンク堂書店池袋本店 (5956)6111
〈北区〉03
文教堂赤羽店 (5249)2601
〈練馬区〉03
ジュンク堂書店大泉学園店 (5947)3955
〈武蔵野市〉0422
啓文堂書店吉祥寺店 (79)5070
ジュンク堂書店吉祥寺店 (28)5333
ブックファーストアトレ吉祥寺店 (23)7671

〈三鷹市〉0422
啓文堂書店三鷹店 (79)5840
〈調布市〉042
真光書店本店 (487)2222
パルコブックセンター調布店 (489)5111
〈府中市〉042
啓文堂書店府中本店 (366)3151
〈国分寺市〉042
紀伊國屋書店国分寺店 (325)3991
〈国立市〉042
増田書店 (572)0262
一橋大学生協国立店 (575)4184
〈立川市〉042
オリオン書房ノルテ店 (522)1231
ジュンク堂書店立川高島屋店 (512)9910
〈八王子市〉042
くまざわ書店八王子店 (625)1201
有隣堂セレオ八王子店 (655)2311
東京都立大学生協 (677)1413
中央大学生協多摩店 (674)3031
〈町田市〉042
法政大学生協多摩店 (783)2236
〈多摩市〉042
くまざわ書店桜ケ丘店 (337)2531
MARUZEN多摩センター店 (355)3220

【神奈川県】

〈横浜市〉045
ACADEMIA港北店 (914)3320
紀伊國屋書店横浜店 (450)5901
ブックファースト青葉台店 (989)1781
丸善日吉東急アベニュー店 (594)8960
丸善横浜みなとみらい店 (323)9660
八重洲ブックセンター京急上大岡店 (848)7383
有隣堂伊勢佐木町本店 (261)1231
有隣堂戸塚モディ店 (881)2661
有隣堂横浜駅西口ジョイナス店 (311)6265
有隣堂たまプラーザテラス店 (903)2191
有隣堂キュービックプラザ新横浜店 (577)9470
神奈川大学生協 (481)4012
慶応大学生協日吉店 (563)8487
横浜市立大学生協八景店 (701)6054
横浜国立大学生協大学会館店 (335)1126
〈川崎市〉044
文教堂書店溝ノ口本店 (812)0063
丸善ラゾーナ川崎店 (520)1869
有隣堂アトレ川崎店 (200)6831
有隣堂新百合ヶ丘店 (965)3075
〈藤沢市〉0466
ジュンク堂書店藤沢店 (52)1211
有隣堂テラスモール湘南店 (38)2121
有隣堂藤沢店 (26)1411
〈鎌倉市〉0467
大里書店 (22)8778
島森書店 (22)0266
たらば書房 (22)2492
〈横須賀市〉046
くまざわ書店横須賀店 (821)2403
文教堂横須賀MORE'S店 (822)2655
〈茅ヶ崎市〉0467
長谷川書店ネスパ店 (88)0008
〈平塚市〉0463
東海大学ブックセンター (50)1250
〈小田原市〉0465
伊勢治書店ダイナシティ店 (49)8167
有隣堂小田原ラスカ店 (24)7739
〈厚木市〉046
有隣堂厚木店 (223)4111
〈相模原市〉042
くまざわ書店相模大野店 (767)1285
中村書店本店 (750)2285

【新潟県】

〈新潟市〉025
紀伊國屋書店新潟店 (241)5281
ジュンク堂書店新潟店 (374)4411
萬松堂 (229)2221
新潟大学生協 (262)6095
〈長岡市〉0258
くまざわ書店CoCoLo長岡店 (33)7001
戸田書店長岡店 (22)5911
〈三条市〉0256
知遊堂三条店 (36)7171

【富山県】

〈富山市〉076
紀伊國屋書店富山店 (491)7031
BOOKSなかだ掛尾本店 (492)1192
文苑堂書店富山豊田店 (433)8150
文苑堂書店藤の木店 (422)0155
富山大学生協五福店 (433)3080
〈高岡市〉0766
文苑堂書店福田本店 (27)7800

【石川県】

〈金沢市〉076
うつのみや金沢香林坊店 (234)8111
金沢ビーンズ明文堂 (239)4400
金沢大学生協角間店 (224)0905

【福井県】

〈福井市〉0776
紀伊國屋書店福井店 (28)9851
SuperKaBoS二の宮本店 (27)4678
福井大学生協 (21)3688

【山梨県】

〈甲府市〉055
くまざわ書店セレオ甲府店 (221)1015
徴古堂書店 (232)2230
柳正堂書店イオンタウン山梨中央店 (236)9766
朗月堂本店 (228)7356

【長野県】

〈長野市〉026
平安堂長野店 (224)4545
〈松本市〉0263
MARUZEN松本店 (31)8171
信州大学生協松本店 (37)2983

【岐阜県】

〈岐阜市〉058
カルコス本店 (294)7500
丸善岐阜店 (297)7008
岐阜大学生協中央店 (230)1166

〈大垣市〉0584
ACADEMIA大垣店 (77)6450

【静岡県】

〈静岡市〉054
MARUZEN&ジュンク堂書店新静岡店 (275)2777
谷島屋パルシェ店 (204)5505
静岡大学生協 (237)1427
〈浜松市〉053
谷島屋浜松本店 (457)4165
谷島屋連尺店 (453)9121

【愛知県】

〈名古屋市〉052
ウニタ書店 (731)1380
紀伊國屋書店mozoワンダーシティ店 (506)7671
きむら書房 (523)3501
三省堂書店名古屋本店 (566)6801
三洋堂書店本店 (832)8202
ジュンク堂書店名古屋店 (589)6321
ジュンク堂書店名古屋栄店 (212)5360
丸善イオンタウン千種店 (715)7911
MARUZEN名古屋本店 (238)0320
名古屋大学生協南部店 (781)5031
〈豊橋市〉0532
精文館書店本店 (54)2345
愛知大学生協豊橋ブックセンター (47)5935
〈豊川市〉0533
豊川堂イオンモール豊川店 (56)2250
〈日進市〉052
紀伊國屋書店プライムツリー赤池店 (800)0125

【三重県】

〈津市〉059
別所書店修成店 (246)8824
三重大学生協 (232)5007
〈四日市市〉059
丸善四日市店 (354)7407
宮脇書店四日市本店 (359)5910
〈伊勢市〉0596
丸善皇學館大学伊勢売店 (27)8669
〈松阪市〉0598
小濱書店 (67)5943

【滋賀県】

〈大津市〉077
大垣書店フォレオ大津一里山店 (547)1020
〈草津市〉077
喜久屋書店草津店 (516)1118
ジュンク堂書店滋賀草津店 (569)5553

【京都府】

〈京都市〉075
大垣書店京都本店 (746)2211
大垣書店烏丸三条店 (212)5050
大垣書店イオンモール京都桂川店 (925)1717
大垣書店イオンモールKYOTO店 (692)3331
大垣書店京都ヨドバシ店 (371)1700
法藏館書店 (343)0458
MARUZEN京都本店 (253)1599
大垣書店佛教大学店 (491)2141
京都大学生協ルネ店 (771)7336
同志社大学生協良心館 (251)4427
立命館生協ブックセンター (465)8288
龍谷大学生協大宮店 (352)3981
〈精華町〉0774
ACADEMIAけいはんな店 (98)4053

【大阪府】

〈大阪市〉06
旭屋書店なんばCITY店 (6644)2551
梅田蔦屋書店 (4799)1800
喜久屋書店阿倍野店 (6634)8606
紀伊國屋書店梅田本店 (6372)5821
紀伊國屋書店京橋店 (4801)9255
紀伊國屋書店グランフロント大阪店 (7730)8451
ジュンク堂書店近鉄あべのハルカス店 (6626)2151
ジュンク堂書店大阪本店 (4799)1090
MARUZEN&ジュンク堂書店梅田店 (6292)7383
ジュンク堂書店難波店 (4396)4771
ジュンク堂書店天満橋店 (6920)3730
大阪公立大学生協 (6605)3014
〈豊中市〉06
大阪大学生協豊中店 (6841)4949
田村書店千里中央店 (6831)5657
〈吹田市〉06
関西大学生協 (6368)7548

〈堺市〉072
丸善高島屋堺店 (225)0930
〈高槻市〉072
ジュンク堂書店松坂屋高槻店 (686)5300

【兵庫県】

〈神戸市〉078
ジュンク堂書店三宮店 (392)1001
ジュンク堂書店三宮駅前店 (252)0777
神戸大学生協学館店 (881)8847
〈明石市〉078
ジュンク堂書店明石店 (918)6670
〈西宮市〉0798
ジュンク堂書店西宮店 (68)6300
ブックファースト阪急西宮ガーデンズ店 (62)6103
関西学院大学生協 (53)5233
〈姫路市〉079
ジュンク堂書店姫路店 (221)8280

【奈良県】

〈奈良市〉0742
啓林堂書店奈良店 (20)8001
ジュンク堂書店奈良店 (36)0801
奈良大学丸善売店 (48)8754
〈大和郡山市〉0743
喜久屋書店大和郡山店 (55)2200
〈橿原市〉0744
喜久屋書店橿原店 (20)3151

【和歌山県】

〈和歌山市〉073
宇治書店 (423)0353
WAYガーデンパーク和歌山店 (480)5900

【鳥取県】

〈鳥取市〉0857
今井書店吉成店 (51)7020

〈米子市〉0859
本の学校今井ブックセンター (31)5000

【島根県】

〈松江市〉0852
今井書店グループセンター店 (20)8811
〈出雲市〉0853
今井書店出雲店 (22)8181

【岡山県】

〈岡山市〉086
紀伊國屋書店クレド岡山店 (212)2551
丸善岡山シンフォニービル店 (233)4640
岡山大学生協 (256)4100
〈倉敷市〉086
喜久屋書店倉敷店 (430)5450

【広島県】

〈広島市〉082
紀伊國屋書店広島店 (225)3232
アルパークブックガーデン廣文館 (501)1065
ジュンク堂書店広島駅前店 (568)3000
フタバ図書MEGA祇園中筋店 (830)0600
MARUZEN広島店 (504)6210
〈福山市〉084
フタバ図書アルティ福山本店 (973)8780
〈東広島市〉0824
広島大学生協北1店 (23)8285
〈府中町〉082
フタバ図書TERA広島府中店 (561)0770

【山口県】

〈下関市〉083
くまざわ書店下関店 (228)0401

【徳島県】

〈徳島市〉088
紀伊國屋書店徳島店 (602)1611
小山助学館本店 (654)2135
宮脇書店徳島本店 (623)6621

【香川県】

〈高松市〉087
ジュンク堂書店高松店 (832)0170
宮脇書店本店 (851)3733
宮脇書店総本店 (823)3152
宮脇書店南本店 (869)9361

【愛媛県】

〈松山市〉089
愛媛県官報販売所 (941)7879
紀伊國屋書店いよてつ高島屋店 (932)0005
ジュンク堂書店松山三越店 (915)0075
新丸三書店本店 (955)7381
愛媛大学生協 (924)2503

【高知県】

〈高知市〉088
金高堂書店本店 (822)0161
金高堂朝倉ブックセンター (840)1363
高知大学生協 (840)1661

【福岡県】

〈福岡市〉092
紀伊國屋書店福岡本店 (434)3100
紀伊國屋書店ゆめタウン博多店 (643)6721
ジュンク堂書店福岡店 (738)3322
MARUZEN博多店 (413)5401
九州大学生協中央図書館店 (707)6532
〈北九州市〉093
喜久屋書店小倉店 (514)1400
ブックセンタークエスト小倉本店 (522)3912
丸善リバーウォーク北九州店 (953)6790
〈久留米市〉0942
紀伊國屋書店久留米店 (45)7170
〈粕屋町〉092
フタバ図書TERA福岡東店 (939)7200

【佐賀県】

〈佐賀市〉0952
紀伊國屋書店佐賀店 (36)8171
くまざわ書店佐賀店 (62)7325

【長崎県】

〈長崎市〉095
紀伊國屋書店長崎店 (811)4919
メトロ書店本店 (821)5400
長崎大学生協本部店 (845)5887

【熊本県】

〈熊本市〉096
紀伊國屋書店熊本光の森店 (233)1700
蔦屋書店熊本三年坂 (212)9101
メトロ書店熊本本店 (351)4646
熊本大学生協学生会館店 (343)6515

【大分県】

〈大分市〉097
紀伊國屋書店アミュプラザおおいた店 (515)5150
明林堂書店大分本店 (573)3400
リブロ大分トキハ店 (573)3033

【宮崎県】

〈宮崎市〉0985
紀伊國屋書店アミュプラザみやざき店 (61)1280

【鹿児島県】

〈鹿児島市〉099
紀伊國屋書店鹿児島店 (812)7000
ジュンク堂書店鹿児島店 (216)8838
ブックスミスミオプシア店 (813)7012
鹿児島大学生協中央店 (255)0131

【沖縄県】

〈那覇市〉098
ジュンク堂書店那覇店 (860)7175
〈西原町〉098
琉球大学生協 (895)6085

小社の新刊広告は、下記の新聞（随時）
雑誌（定期）に掲載されます。

【新聞】
朝日新聞
毎日新聞
読売新聞
日本経済新聞
北海道新聞
河北新報
中日新聞
京都新聞
中国新聞
西日本新聞
週刊読書人
ほか

【雑誌】
図　書
ちくま
U　P
歴史街道
一冊の本
歴史研究

日本歴史
史学雑誌
歴史学研究
日本史研究
歴史地理教育
歴史評論
史　林
地方史研究
ほか

小社の出版物をコピーされる場合のお願い

著作権法は、違法なコピーを禁じています。すなわち、個人または家庭内などで使うために自ら複写する場合、図書館において調査研究のため一部を複写する場合（著作権法　第30、第31条）などのごく限られた範囲以外は、すべて著作権者の許諾を得なければなりません。小社の出版図書に関わる、各著作権者の方々が持つ著作権のうち、「出版物の複写にかかる複製、上映、譲渡、公衆送信の各権利」は、全て㈳出版者著作権管理機構に委託しております。コピーされる場合は出版物の奥付をご覧の上、㈳出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、e-mail: info@jcopy.or.jp）に条件をお問い合わせ下さいまして、その都度許諾を得てからコピーされるよう、お願い致します。

本の豊かな世界と知の広がりを伝える

吉川弘文館の PR 誌

本郷

定期購読のおすすめ

◆『本郷』(年 6 冊刊行)は、定期購読を申し込んで頂いた方にのみ、直接郵送でお届けしております。この機会にぜひ定期のご購読をお願い申し上げます。ご希望の方は、**購読開始の号数**を明記のうえ、添付の振替用紙でお申し込み下さい。

◆お知り合い・ご友人にも本誌のご購読をおすすめ頂ければ幸いです。ご連絡を頂き次第、見本誌をお送りいたします。

●購読料●　(送料共・税込)

1年(6冊分)	1,000円	2年(12冊分)	2,000円
3年(18冊分)	2,800円	4年(24冊分)	3,600円

ご送金は 4 年分までとさせて頂きます。
※お客様のご都合で解約される場合は、ご返金いたしかねます。ご了承下さい。

【クレジットカードにて定期購読料金をお支払いいただけます】

クレジットカード決済による、定期購読のお申込ならびに更新が受付可能になりました。下記ホームページからお申込みください。
https://www.yoshikawa-k.co.jp/pr_hongou
(右の二次元コードをご利用ください)➡

見本誌送呈

見本誌を無料でお送りいたします。ご希望の方は、メールか葉書で営業部宛ご請求下さい。